

5号住居(第521・522図、PL.275)

グリッド 3 D20

主軸方位 N80° E

重複 10号住居、10号溝を切る。

形状と規模 北西～南東方向に長軸を有し、歪んだ隅丸長方形を呈する竪穴住居である。長辺は3.03m、短辺は2.46m、深さは0.31m、面積は5.62㎡である。

埋土 ニツ岳の白色軽石を含む暗褐色土からなる。

床面 暗褐色土を0.08mほど貼って、平坦な床面を構築している。北壁際の中央から長径0.96m、短径0.68m、深さ0.17mの歪んだ楕円形の土坑1を検出した。

掘方 XII・XIII層の黄褐色砂質土を掘り込んで平坦な掘方を構築している。カマド周辺や北壁際から不定形の浅い窪みを検出した。

カマド 東壁の南東隅寄りに位置する。カマドの燃烧部は壁から奥を掘り込んで壁の外側に構築している。燃烧部底は水平で、緩やかな勾配で立ち上がる。燃烧部底から炭化物の広がりを検出した。カマド埋土は褐～にぶい黄褐色土からなる。カマドの長さは0.95m、カマドの幅0.61m、深さ0.13mである。

貯蔵穴 北西隅の床面から長径0.74m、短径0.64m、深さ0.38mの楕円形の土坑を検出した。土坑は竪穴のカマドと対角線上の隅に位置するが、規模や形状から貯蔵穴と考えられる。

柱穴 柱穴は検出されなかった。床面に主柱穴を持たない構造の竪穴住居と想定される。

遺物 埋土から完形の鉄製品(1)が出土した。

時代 埋土から古墳時代後期から平安時代と想定され、9世紀第4四半期に帰属する10号住居よりも新しいので、平安時代10・11世紀と想定される。

6号住居(第523・524図、PL.276・432)

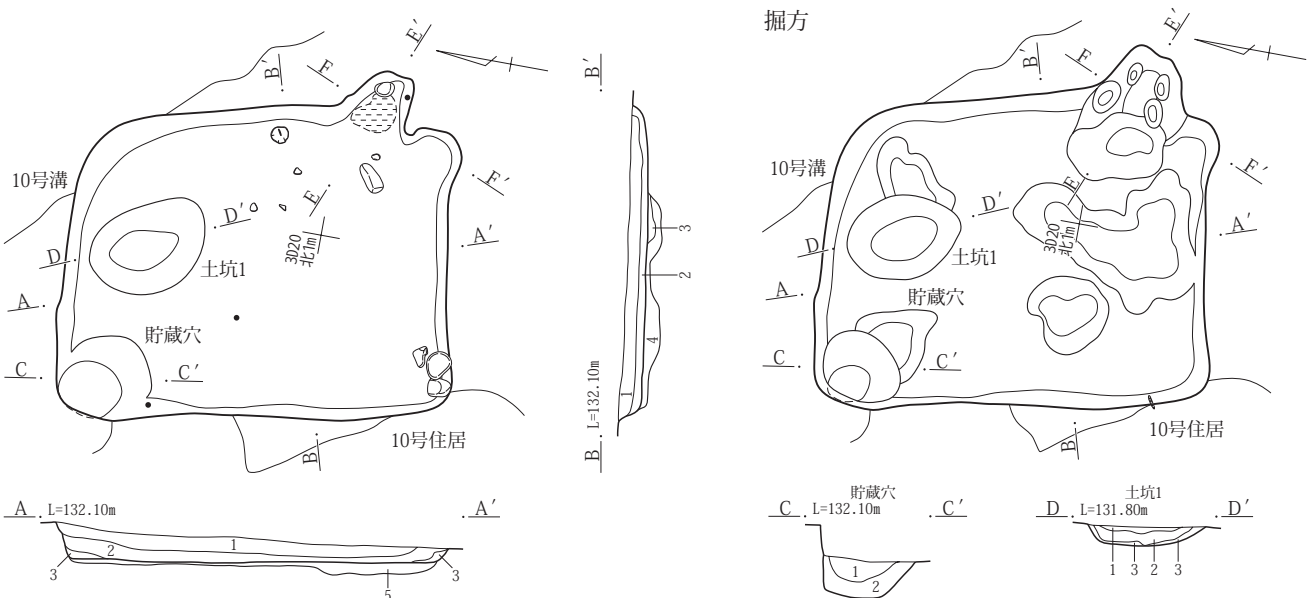
グリッド 13 B 1

主軸方位 N51° E

重複 7号溝に切られる。

形状と規模 北西～南東方向に長軸を有し、隅丸長方形を呈する竪穴住居である。長辺は3.16m、短辺は2.26m、深さは0.15m、面積は5.58㎡である。

埋土 ニツ岳の白色軽石を多く含む黄褐～暗褐色土からなる。



- 1 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 榛名ニツ岳白色軽石を含む。少量のシルト質土を混入する。締り強。
- 2 暗褐色土(10YR3/4) 少量の榛名ニツ岳白色軽石を含む。締りやや強。粘性やや有。
- 3 褐色土 少量の榛名ニツ岳白色軽石を含む。やや硬い。粘性有。
- 4 暗褐色土 やや硬く締る。粘性有。

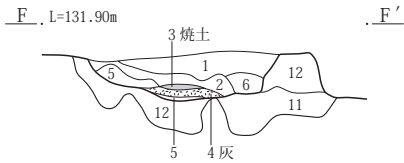
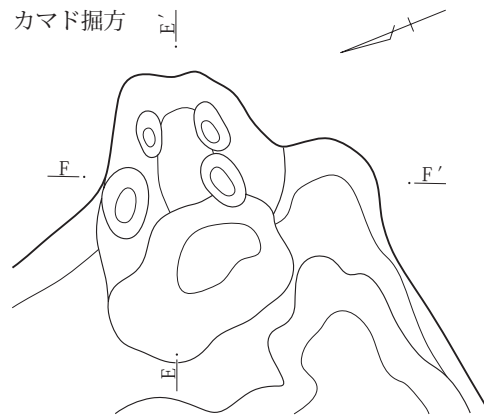
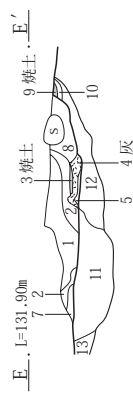
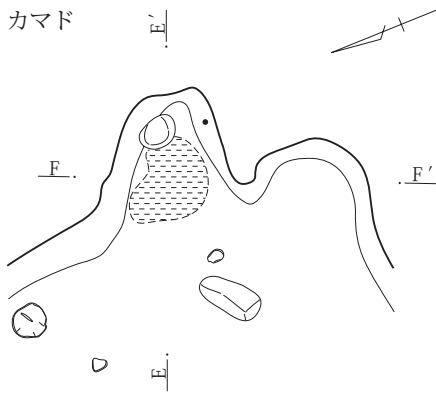
貯蔵穴 C-C'

- 1 暗褐色土 少量の榛名ニツ岳白色軽石・炭化物粒子を含む。やや硬く締る。
- 2 暗褐色土 少量の榛名ニツ岳白色軽石を含む。硬く締り良。粘性有。

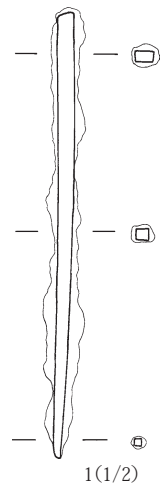
土坑1 D-D'

- 1 暗褐色土 少量の榛名ニツ岳白色軽石・炭化物粒子を含む。やや硬く締る。
- 2 黄褐色砂質土 榛名ニツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。
- 3 黄褐色砂質土 硬く締り良。

第521図 X区5号住居



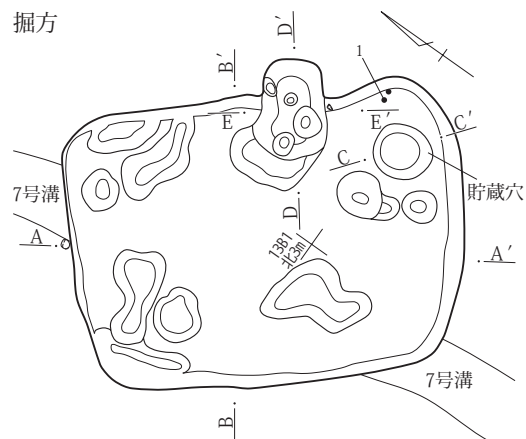
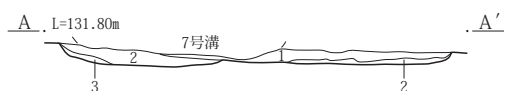
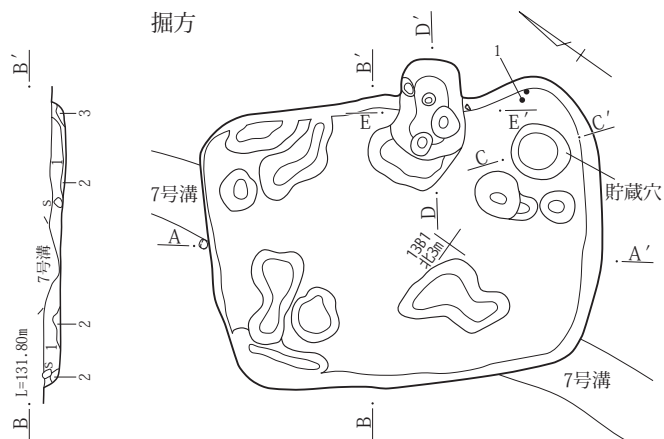
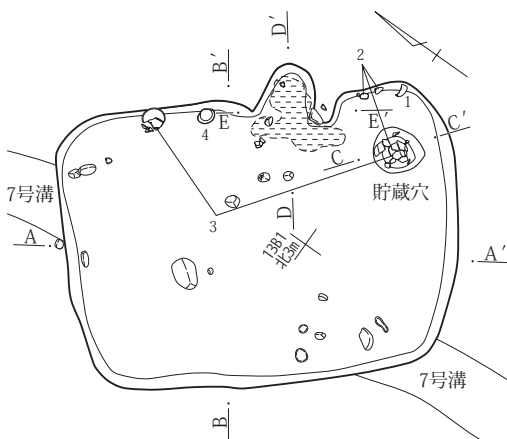
- 1 褐色土(10YR4/4) 少量のローム粒・白色軽石を含む。硬く縮り強。
- 2 にぶい黄褐色土(10YR5/4) くすんだシルト質土を混入する。縮り強。
- 3 橙色土(2.5YR6/6) 焼土中心層。硬く縮り強。
- 4 黒褐色土(10YR2/3) 灰層。少量のローム土を混入する。縮り弱。
- 5 褐色土(10YR4/4) 土質均一。ややシルト質。縮りやや弱。
- 6 暗褐色土(10YR3/3) 微量のローム粒・焼土粒を含む。縮りやや弱。
- 7 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 土質ほぼ均一。硬く縮り強。
- 8 暗褐色土 炭化物を含む。やや硬く縮る。
- 9 赤褐色土 焼土主体。やや硬く縮る。
- 10 暗褐色土 少量の焼土粒子を含む。やや硬く縮る。
- 11 暗褐色土 少量の榛名二ツ岳白色軽石・黄褐色土ブロックを含む。硬く縮り良。粘性有。
- 12 黄褐色土 硬く縮り良。粘性有。
- 13 黄褐色土 やや硬く縮る。粘性有。



0 1:30 1m

0 1:2 5cm

第522図 X区5号住居と出土遺物



- 1 暗褐色土 榛名二ツ岳白色軽石・炭化物を含む。やや硬く縮る。
- 2 黄褐色土 榛名二ツ岳白色軽石を含む。やや硬く縮る。
- 3 暗褐色土 硬く縮り良。

- 貯蔵穴 C-C'
- 1 暗褐色土 少量の榛名二ツ岳白色軽石・炭化物粒子を含む。やや硬く縮る。
 - 2 黄褐色土 炭化物を含む。やや硬く縮る。
 - 3 暗褐色土 少量の黄褐色土ブロックを含む。やや硬く縮る。粘性有。

0 1:60 2m

第523図 X区6号住居

床面 暗褐色土を0.05mほど薄く貼って、床面を構築している。

掘方 XII・XIII層の黄褐色砂質土を掘り込んで構築している。北壁の隅寄りから不定形の浅い窪みを多く検出した。

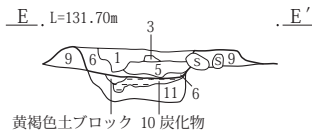
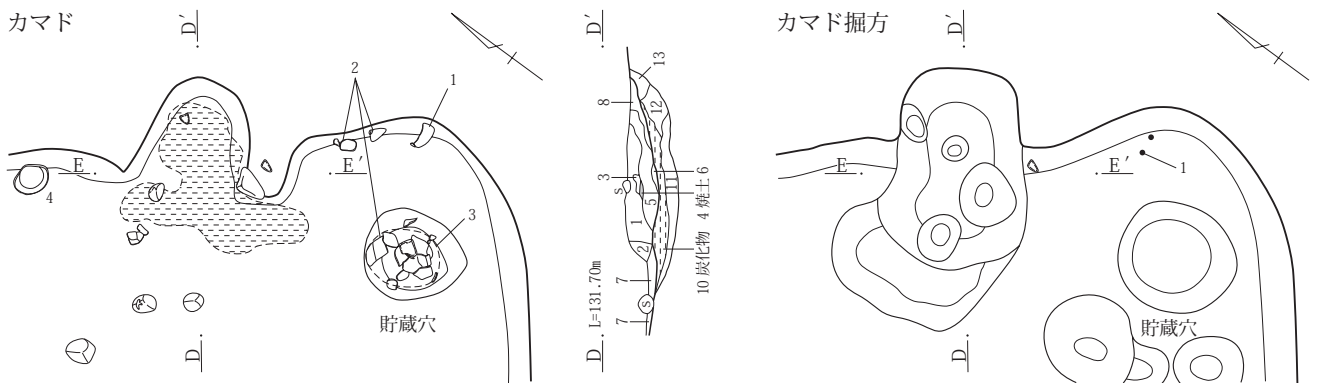
カマド 東壁中央の南東隅寄りに位置する。カマドの燃烧部は東壁から奥を掘り込んで壁の外側に構築している。燃烧部底はほぼ水平で緩やかな勾配で立ち上がる。カマド埋土は焼土ブロックを含む褐色土からなる。燃烧部底から焚口で炭化物の広がりを検出した。カマドの長さは0.90m、幅0.63m、深さ0.16mである。

貯蔵穴 南東隅の壁際から長径0.39m、短径0.35m、深さ0.13mの土坑を検出した。土坑底から出土した破片は床面の土器(2・3)に接合した。土坑は位置や形状から貯蔵穴と考えられる。

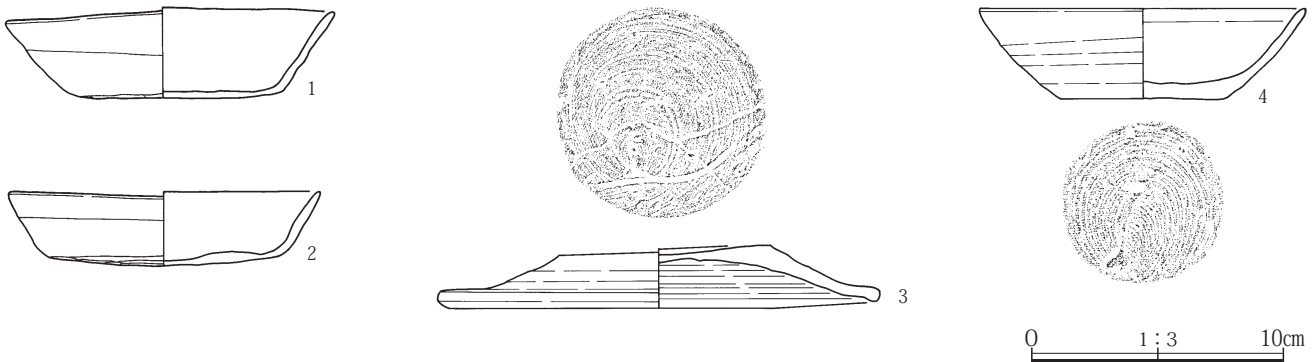
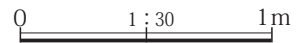
柱穴 柱穴は検出されなかった。床面に支柱穴を持たない構造の竪穴住居と想定される。

遺物 床面から土師器の杯(1・2)、須恵器の杯(4)、蓋(3)が出土した。

時代 平安時代10世紀第3四半期。



- 1 灰褐色土 少量の炭化物粒子を含む。やや硬く締る。
- 2 暗褐色土 少量の黄褐色土ブロックを含む。やや硬く締る。
- 3 暗褐色土 灰を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 4 焼土
- 5 赤褐色土 焼土粒子・灰を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 6 暗褐色土 灰・炭化物を含む。柔らかい。粘性有。
- 7 灰褐色土 焼土粒子・炭化物を含む。硬く締り良。
- 8 灰褐色土 灰・焼土ブロックを含む。硬く締り良。
- 9 暗褐色土 少量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。
- 10 炭化物層
- 11 黄褐色土 やや硬く締る。粘性有。
- 12 暗褐色土 少量の焼土粒子・灰を含む。やや硬く締る。
- 13 黄褐色土 やや硬く締る。粘性有。



第524図 X区6号住居と出土遺物

7号住居(第525図、PL.277・433)

グリッド 13F 3

主軸方位 N88°W

重複 なし。自然の谷に削られており、谷の形成の後に構築された6・9・16号住居よりも古い。

形状と規模 東西方向に長軸を有し、隅丸長方形を呈する竪穴で西部は攪乱により、南東隅は試掘溝で、東北部は自然の谷によって失われている。長辺は3.45m+、短辺は3.20m+、深さは0.26m、検出された最大の面積は6.66㎡である。

埋土 ニツ岳の白色軽石を多く含む暗褐色土からなる。

床面 暗褐色土を0.05mほど貼って、床面を構築している。

掘方 XII・XIII層の黄褐色砂質土を掘り込んで構築している。南壁際から不定形の浅い溝状の窪みを検出した。

カマドと貯蔵穴 検出されなかった。カマドは調査区外に存在する可能性がある。

柱穴 柱穴は検出されなかった。床面に支柱穴を持たない構造の竪穴住居と想定される。

遺物 埋土から土師器の杯(1)、掘方から灰釉陶器の椀(3)、土師器の杯(2)が出土した。

時代 飛鳥時代7世紀第4半期。

8号住居(第526・527図、PL.278)

グリッド 13H 4

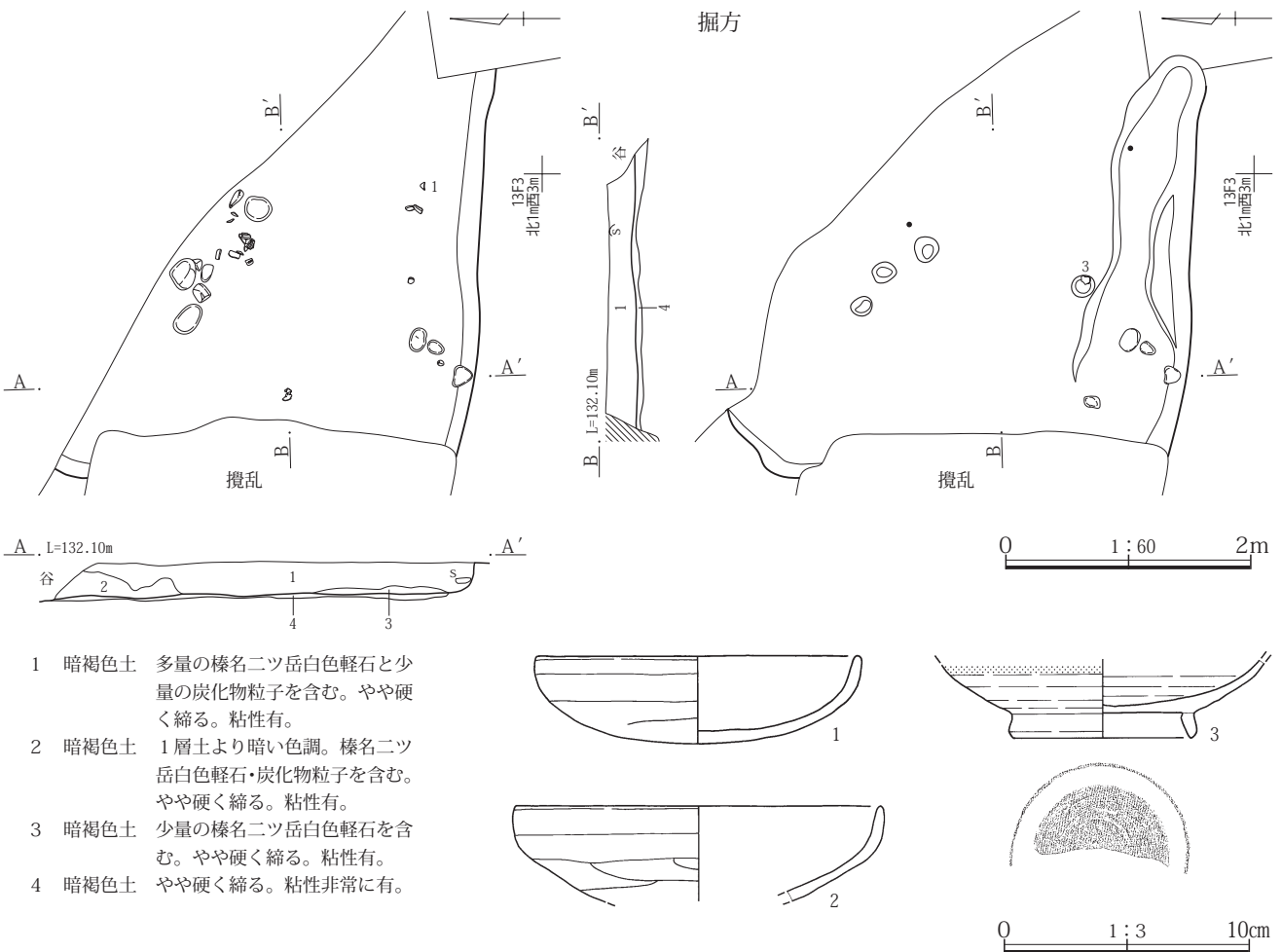
主軸方位 N73°W

重複 24号住居を切る。

形状と規模 北東～南西方向に長軸を有し、隅丸長方形を呈する竪穴で西部は調査区外に存在する。長辺は3.28m、短辺は3.23m+、深さは0.21m、検出された最大の面積は5.11㎡である。

埋土 ニツ岳の白色軽石を含む暗褐色土からなる。

床面 XII・XIII層の黄褐色砂質土を削り出し、一部に暗褐色土を薄く貼って床面を構築している。



- 1 暗褐色土 多量の榛名ニツ岳白色軽石と少量の炭化物粒子を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 2 暗褐色土 1層土より暗い色調。榛名ニツ岳白色軽石・炭化物粒子を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 3 暗褐色土 少量の榛名ニツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 4 暗褐色土 やや硬く締る。粘性非常に有。

第525図 X区7号住居と出土遺物

掘方 北東壁際から円形の浅い窪みを検出した。

カマドと貯蔵穴 カマドと貯蔵穴は検出されなかった。

遺物 なし。

時代 埋土から古墳時代後期から平安時代と想定され、8世紀後半に帰属する24号住居よりも新しいので8世紀後半以降である。

24号住居(第526～528図、PL.291・433)

グリッド 13G 3

主軸方位 N86°W

重複 8・20・29号住居、26・30号土坑に切られる。57号土坑を切る。

形状と規模 南北方向に長軸を有し、隅丸長方形を呈する竪穴住居である。長辺は4.26m、短辺は1.88m、深さは0.43m、面積は4.79㎡である。

埋土 ニツ岳の白色軽石を含む暗褐色土からなる。

床面 暗褐色土を薄く貼って、平坦な床面を構築している。

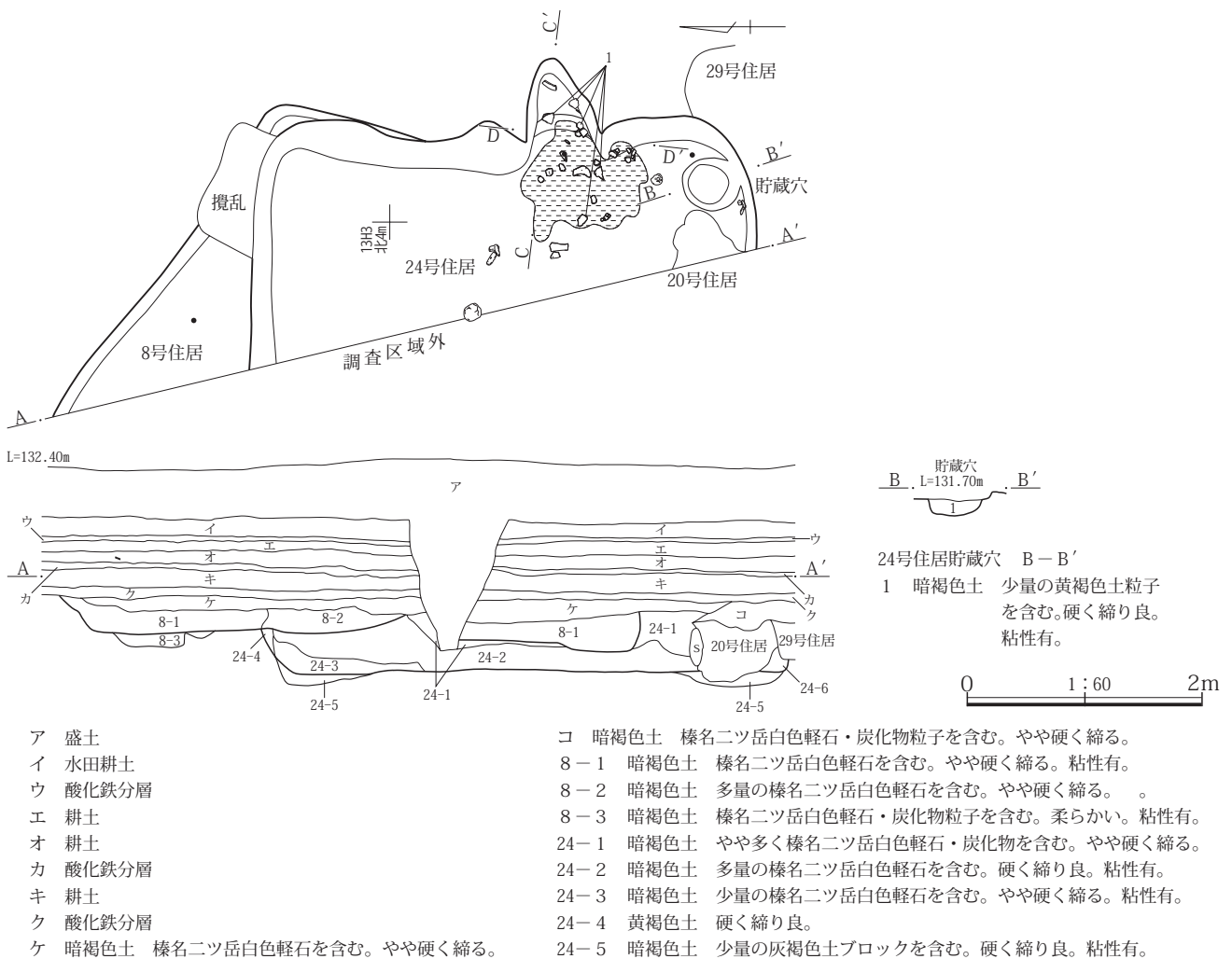
掘方 XII・XIII層の黄褐色砂質土を掘り込んで構築している。南東隅の壁際から不定形の浅い窪みを検出した。

カマド 東壁の南東隅寄りに位置する。カマドの燃烧部は東壁から奥を掘り込んで壁の外側に構築している。燃烧部底は緩やかに傾斜して、約45°の勾配で立ち上がる。燃烧部底から焚口で炭化物の広がりを検出した。カマド埋土は焼土ブロックを含む暗褐色土からなる。カマドの長さは1.35m、幅0.75m、深さ0.37mである。

貯蔵穴 南東隅の壁際から直径0.45m、深さ0.16mの円形の土坑を検出した。土坑は位置や形状から貯蔵穴と考えられる。

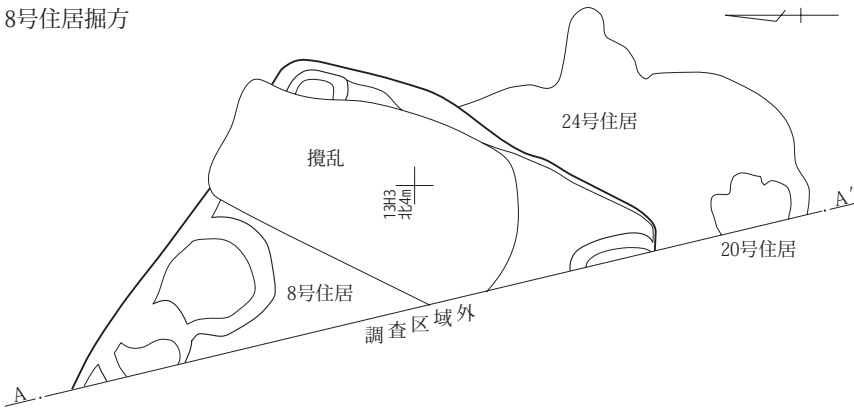
柱穴 柱穴は検出されなかった。床面に支柱穴を持たない構造の竪穴住居と想定される。

遺物 カマド使用面からは土師器の甕(1)、埋土から鉄

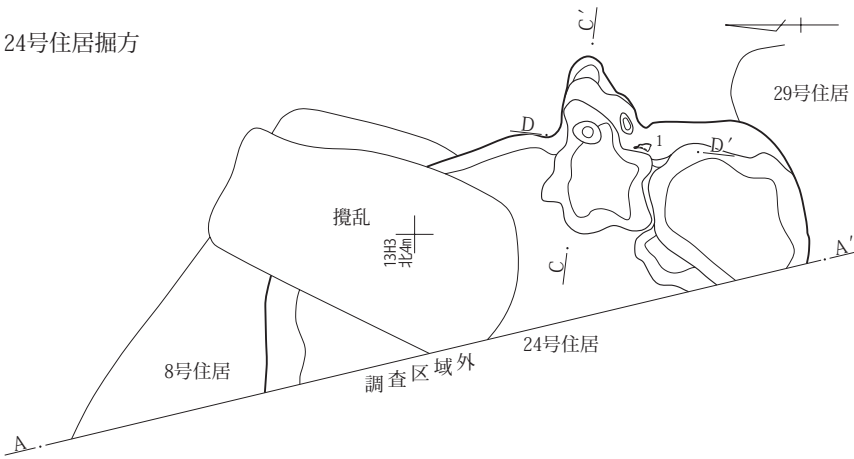


第526図 X区8・24号住居(1)

8号住居掘方

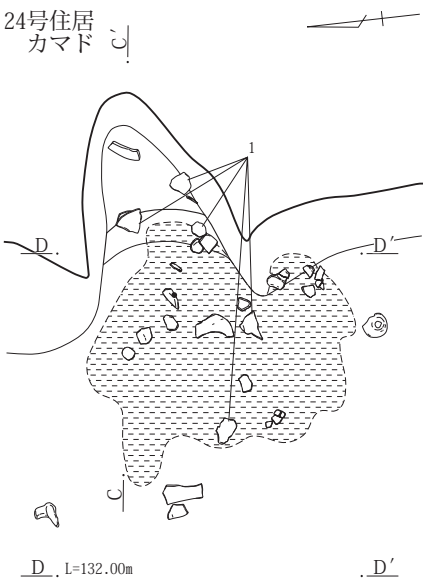


24号住居掘方

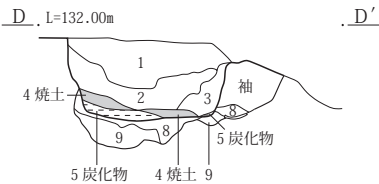
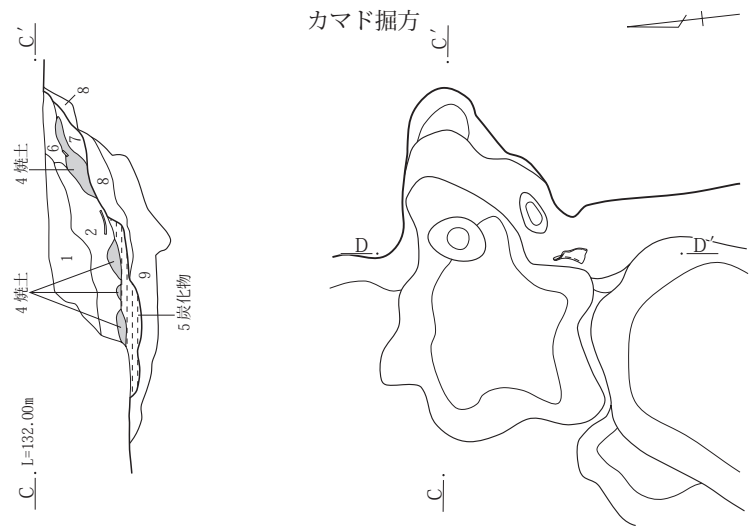


0 1:60 2m

24号住居



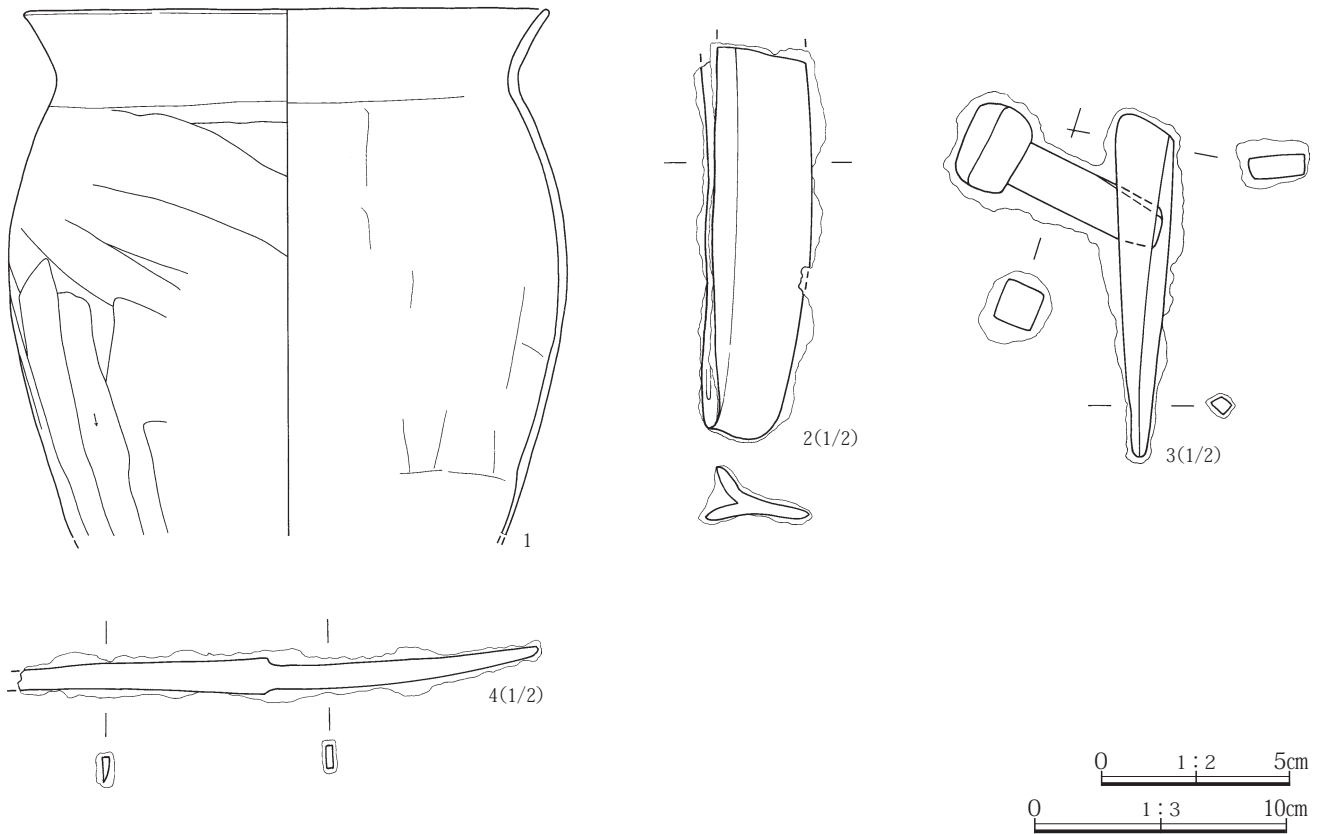
カマド掘方



- 1 暗褐色土 やや多く榛名二ツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 2 暗褐色土 少量の榛名二ツ岳白色軽石・炭化物粒子を含む。やや硬く締る。粘性非常に有。
- 3 褐色土 少量の焼土ブロックを含む。やや硬く締る。粘性非常に有。
- 4 赤褐色土 焼土主体の層。硬く締り良。粘性非常に有。
- 5 黒色土 炭化物主体。焼土ブロックを含む。硬く締り良。粘性非常に有。
- 6 褐色土 やや多く焼土ブロックを含む。やや硬く締る。粘性有。
- 7 黄褐色土 少量の焼土粒子を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 8 赤褐色土 多量の焼土・炭化物を含む。柔らかい。粘性有。
- 9 黄褐色土 微量の焼土ブロック・炭化物を含む。やや硬く締る。粘性有。

0 1:30 1m

第527図 X区8・24号住居(2)



第528図 X区24号住居の出土遺物

製の鋤・鍬先(2)、刀子(4)が出土した。

時代 奈良時代8世紀第3四半期。

9号住居(第529図、PL.279・433)

グリッド 13C 2

主軸方位 N50° E

重複 19号土坑に切られる。

形状と規模 北西～南東方向に長軸を有し、長方形を呈する竪穴住居で床面は失われ、掘方のみを検出した。長辺は2.90m、短辺は2.16m、面積は4.73㎡である。

掘方 VII層の二ツ岳の白色軽石を含む黄褐色砂質土を掘り込んで、平坦な掘方を構築している。中央から南西隅の壁際で浅い歪んだ楕円形の窪みを多く検出した。

カマド 東壁の中央に位置する。カマドの燃烧部は東壁の奥を掘り込んで壁の外側に構築している。カマドの掘方埋土は炭化物の薄層や灰褐色土からなる。カマドは長さ0.88m、幅0.75m、深さ0.06mである。

貯蔵穴 南東隅の壁際から長径0.66m、短径0.50m、深さ0.19mの楕円形の土坑を検出した。土坑は二ツ岳の白色軽石を含む灰褐色土の埋土からなり、位置や形状から

貯蔵穴と考えられる。

柱穴 柱穴は検出されなかった。床面に支柱穴を持たない構造の竪穴住居と想定される。

遺物 埋土から土師器の杯(1)、須恵器の皿(2)や杯(3)が出土した。

時代 平安時代9世紀第3・4四半期。

10号住居(第530～533図、PL.279・280・433)

グリッド 3D19

主軸方位 N60° E

重複 5・13号住居に切られる。

形状と規模 北東～南西方向に長軸を有し、隅丸長方形を呈する竪穴住居で北部は13号住居により失われている。長辺は4.13m、短辺は3.16m+、深さは0.28m、面積は9.21㎡である。

埋土 二ツ岳の白色軽石を含む暗褐色土からなる。

床面 にぶい黄褐色土を0.12mほど貼り、平坦な床面を構築している。

掘方 XII・XIII層の黄褐色砂質土を掘り込んで平坦な掘方を構築している。北西から南東方向に階段状に窪んでい

る。

カマド 東壁に位置し、カマドの大部分は5・13号住居により失われている。カマドの燃烧部は東壁から奥を掘り込んで壁の外側に構築している。燃烧部底はほぼ水平で緩やかな勾配で立ち上がる。燃烧部右壁には長径0.25～0.45m、短径0.15m、厚さ0.15～0.18mの垂円礫2点が据えられており、これらはカマド構築材である。カマド埋土は暗褐～褐色土からなる。カマドの長さは1.17m、幅1.07m、深さ0.34mである。

貯蔵穴 南東隅の壁際から長径0.75m、短径0.70m、深さ0.23mの土坑を検出した。土坑は位置や形状から貯蔵穴と考えられる。

柱穴 柱穴は検出されなかった。床面に支柱穴を持たない構造の竪穴住居と想定される。

遺物 床面から土師器の杯(2)、小型甕(7)、須恵器の

杯(5)、椀(6)、皿(4)、床面付近から土師器の杯(1)、須恵器の皿(3)が出土した。

時代 平安時代9世紀第4半期。

13号住居 (第530～535図、PL.281・433・434)

グリッド 3 D20

主軸方位 N60°E

重複 39号土坑に切られる。10号住居を切る。

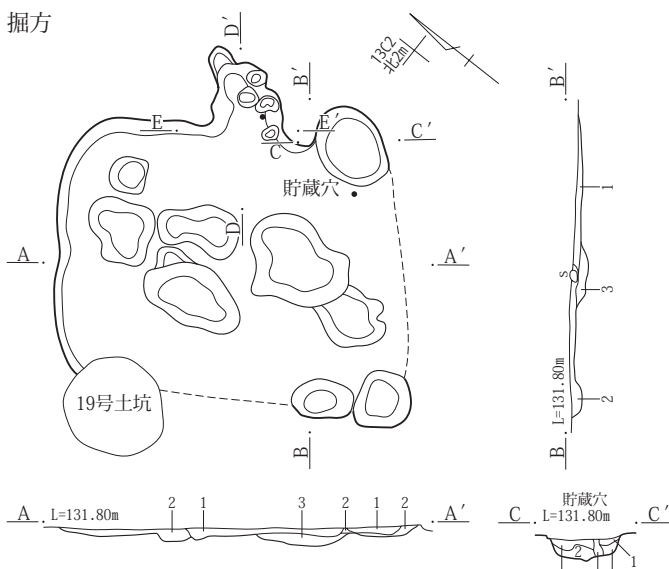
形状と規模 北東～南西方向に長軸を有し、隅丸長方形を呈する竪穴住居である。長辺は4.36m、短辺は3.54m、深さは0.34m、面積は13.32㎡である。

埋土 ニツ岳の白色軽石を含む暗褐色土からなる。

床面 にぶい黄褐色土を0.12mほど貼り、平坦な床面を構築している。

掘方 XII・XIII層の黄褐色砂質土を掘り込んで平坦な掘方

掘方

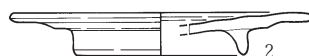


- 1 灰褐色土 榛名ニツ岳白色軽石・炭化物粒子を含む。やや硬く締る。
- 2 黄褐色土 少量の榛名ニツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。
- 3 暗褐色土 硬く締り良。粘性少し有。

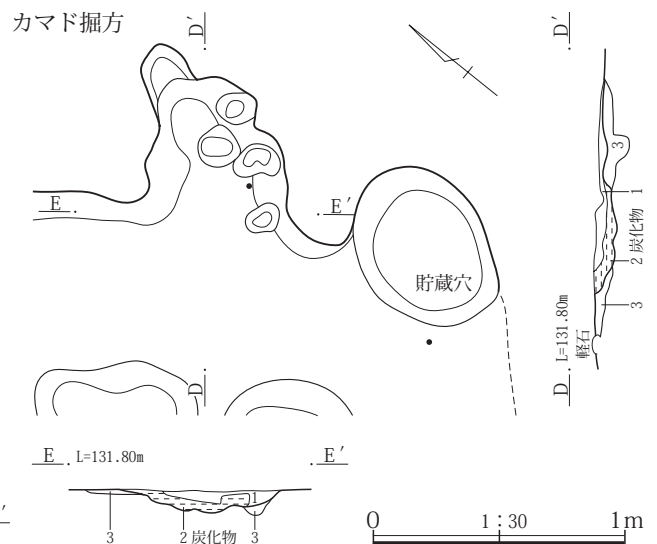
貯蔵穴 C-C'

- 1 灰褐色土 黄褐色土ブロックを含む。やや硬く締る。粘性有。
- 2 暗褐色土 硬く締る。
- 3 灰褐色土 少量の白色軽石を含む。やや硬く締る。粘性有。

0 1:60 2m

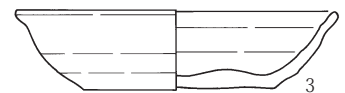


カマド掘方



カマド

- 1 灰褐色土 少量の炭化物粒子・焼土粒子を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 2 炭化物層
- 3 灰褐色土 少量の炭化物粒子を含む。やや硬く締る。粘性有。



0 1:3 10cm

第529図 X区9号住居と出土遺物

を構築している。北東と北西隅の壁際は隅に沿って溝状に窪む。

カマドと貯蔵穴 東壁の南東隅寄りに位置する。カマドの燃烧部は東壁から奥を掘り込んで壁の外側に構築している。燃烧部底はほぼ水平で、奥壁は約45°の勾配で立ち上がり、煙道は緩やかに傾きながら立ち上がる。燃烧部左右の壁にはS1～S7の垂円礫7点が据えられている。これらはカマド構築材である。

S1は長径0.14m、短径0.09mの垂円礫である。

S2は長径0.11m、短径0.09mの垂円礫である。

S3は長径0.10m、短径0.06mの垂円礫である。

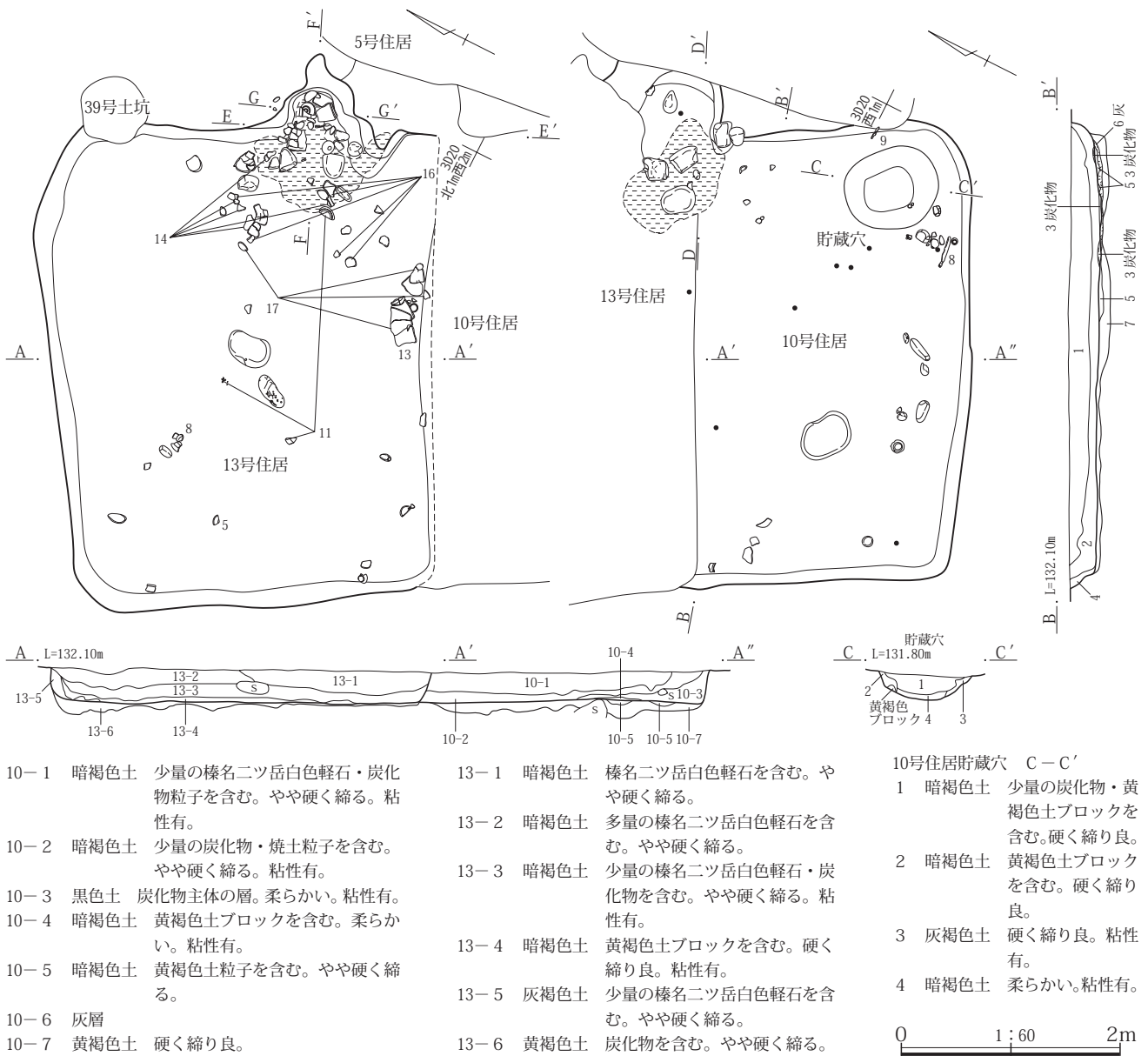
S4は長径0.13m、短径0.11mの垂円礫である。

S5は長径0.22m、短径0.19mの垂円礫で打割されている。

S6は長径0.22m、短径0.15mの垂円礫で打割されている。

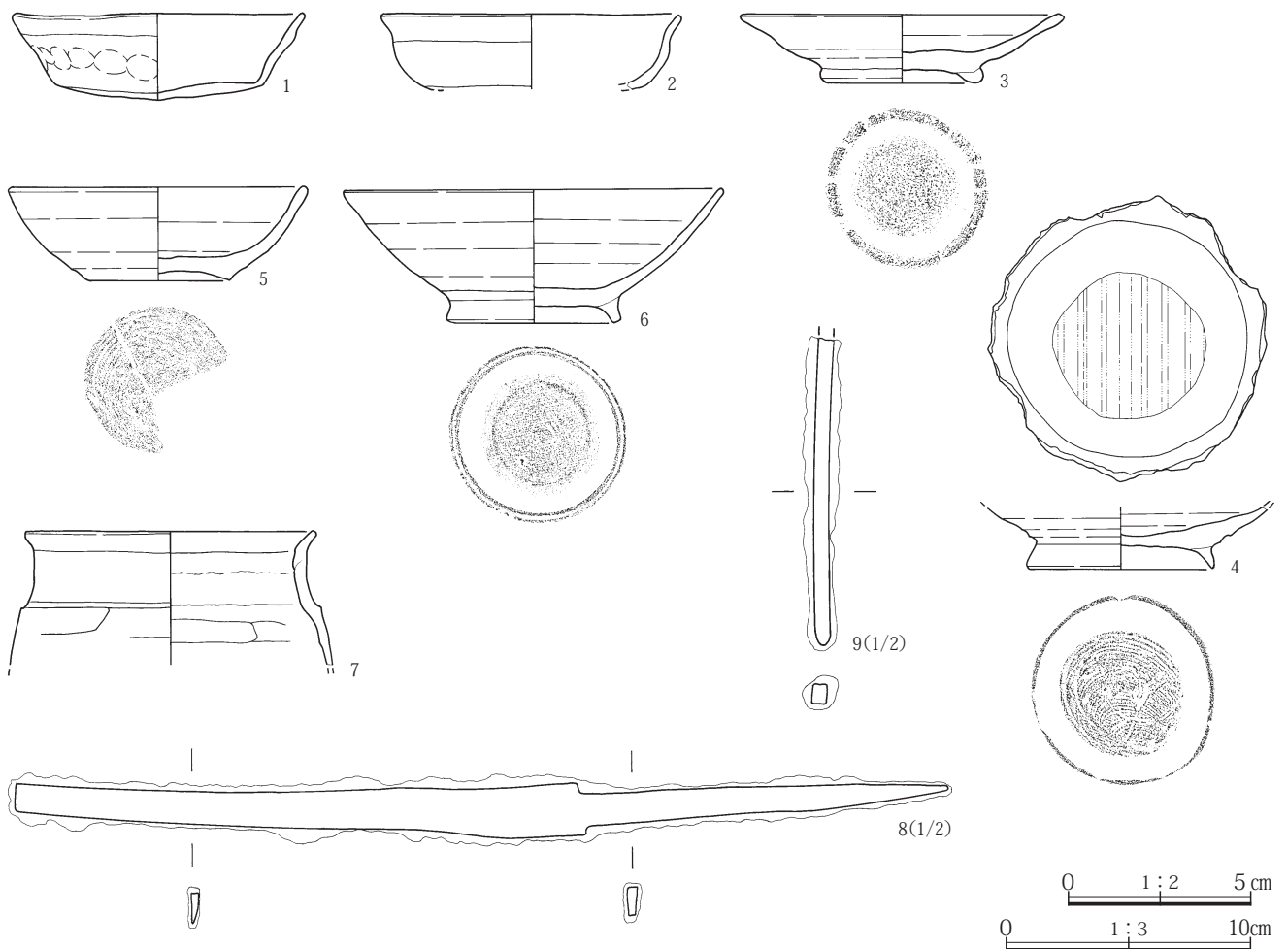
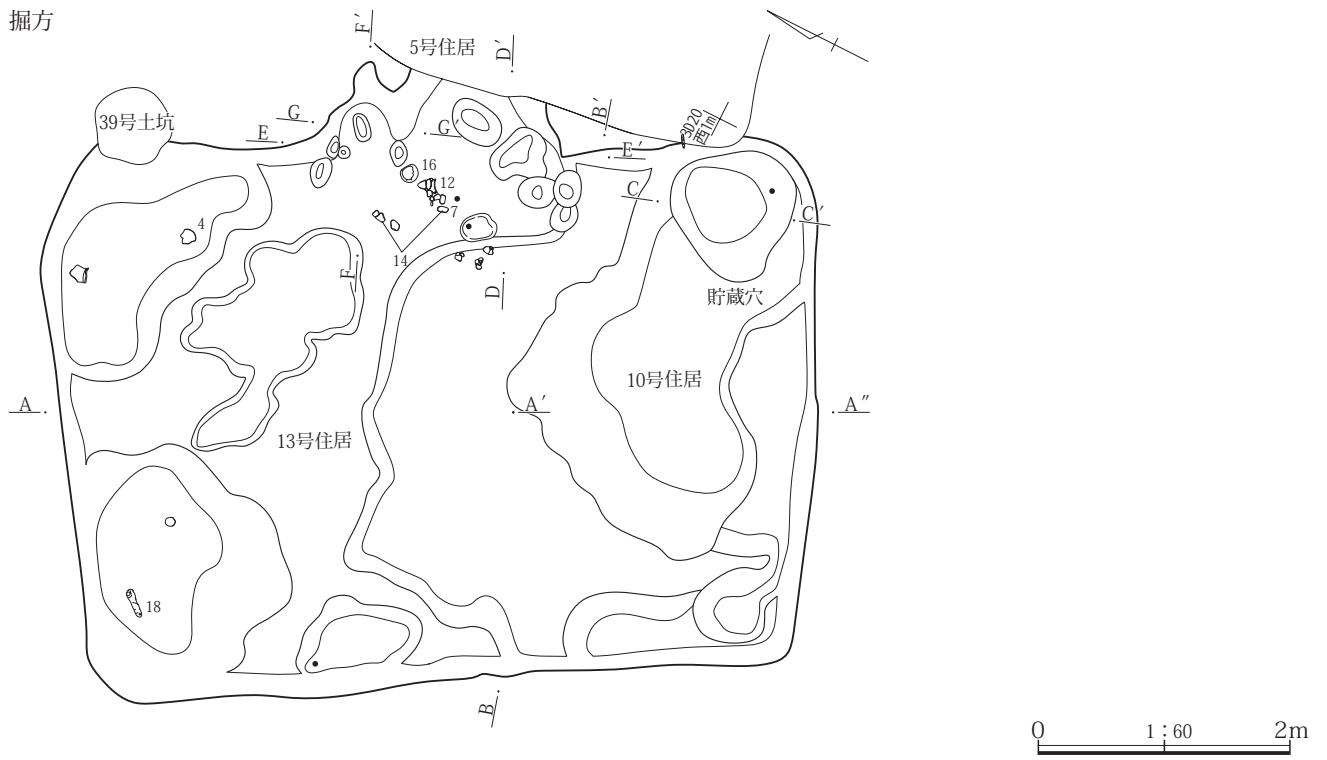
S7は長径0.12m、短径0.10mの垂円礫である。

燃烧部底奥の中央には長径0.16m、短径0.16m、厚さ0.08mの円礫が0.10m埋め込まれている。これは支脚と考えられる。燃烧部から焚口周辺では炭化物の広がりを見出した。カマド埋土は暗褐～褐色土からなる。カマドの煙道を含む長さは0.63m、煙道長0.30m、煙道の幅0.18m、カマド幅0.59m、深さ0.32mである。貯蔵穴は検出されなかった。



第530図 X区10・13号住居(1)

掘方



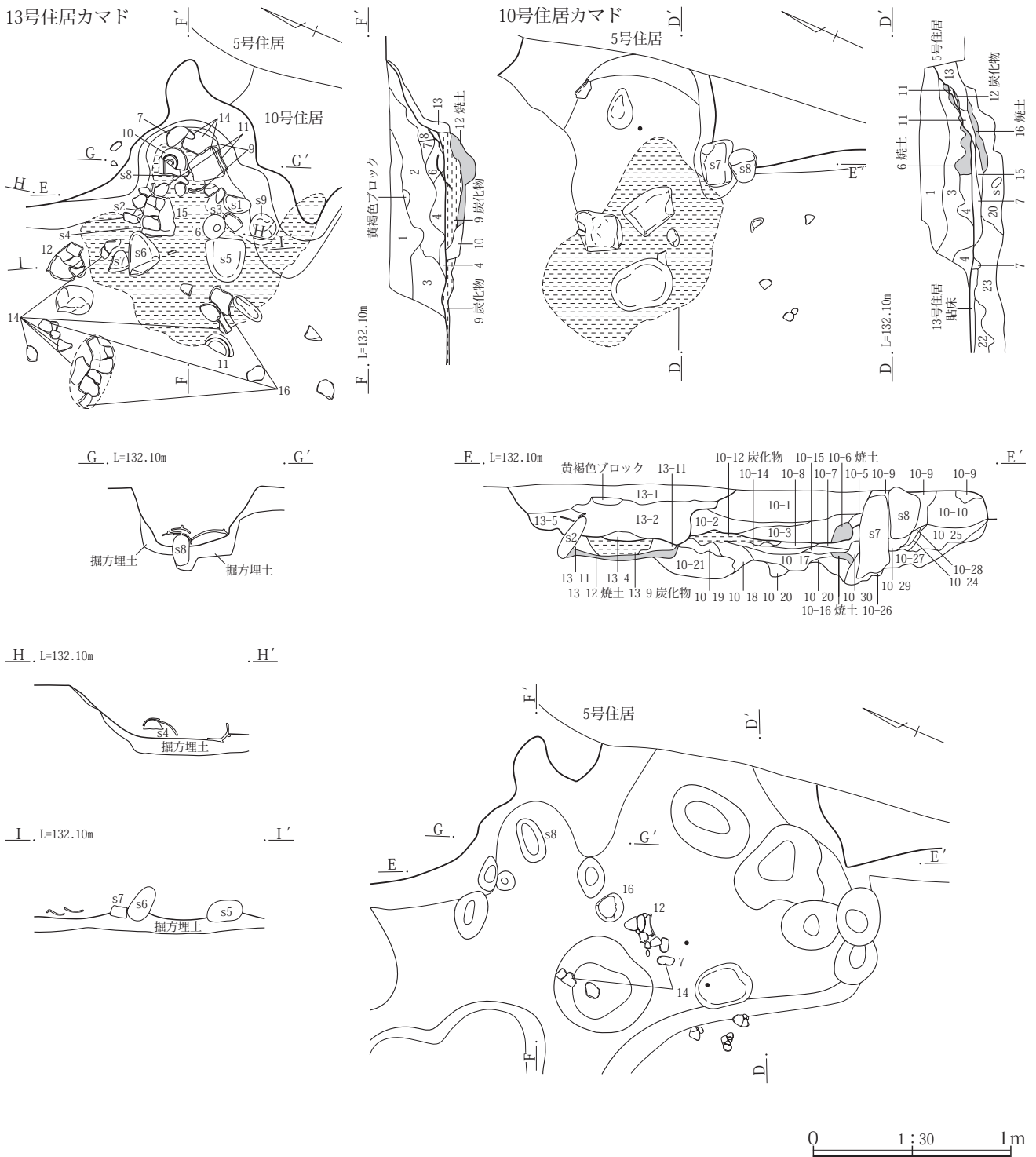
第531図 X区10・13号住居と10号住居の出土遺物

柱穴 柱穴は検出されなかった。床面に支柱穴を持たない構造の竪穴住居と想定される。

遺物 床面やカマド使用面から多くの遺物が出土した。床面から須恵器の杯(5)、土師器の甕(13)、墨書「西」の黒色土器耳皿(3)、床面付近から須恵器の椀(8)、カマド使用面から須恵器の椀(6・7・9)、羽釜(14~16)、

甕(17)、灰釉陶器の椀(10)、長頸壺(11)、土師器の小型壺(12)、掘方から須恵器の皿(4)、完形の鉄製鎌(18)が出土した。出土遺物は9世紀後半から10世紀初頭の年代幅を有する。

時代 平安時代9世紀後半~10世紀第1四半期。



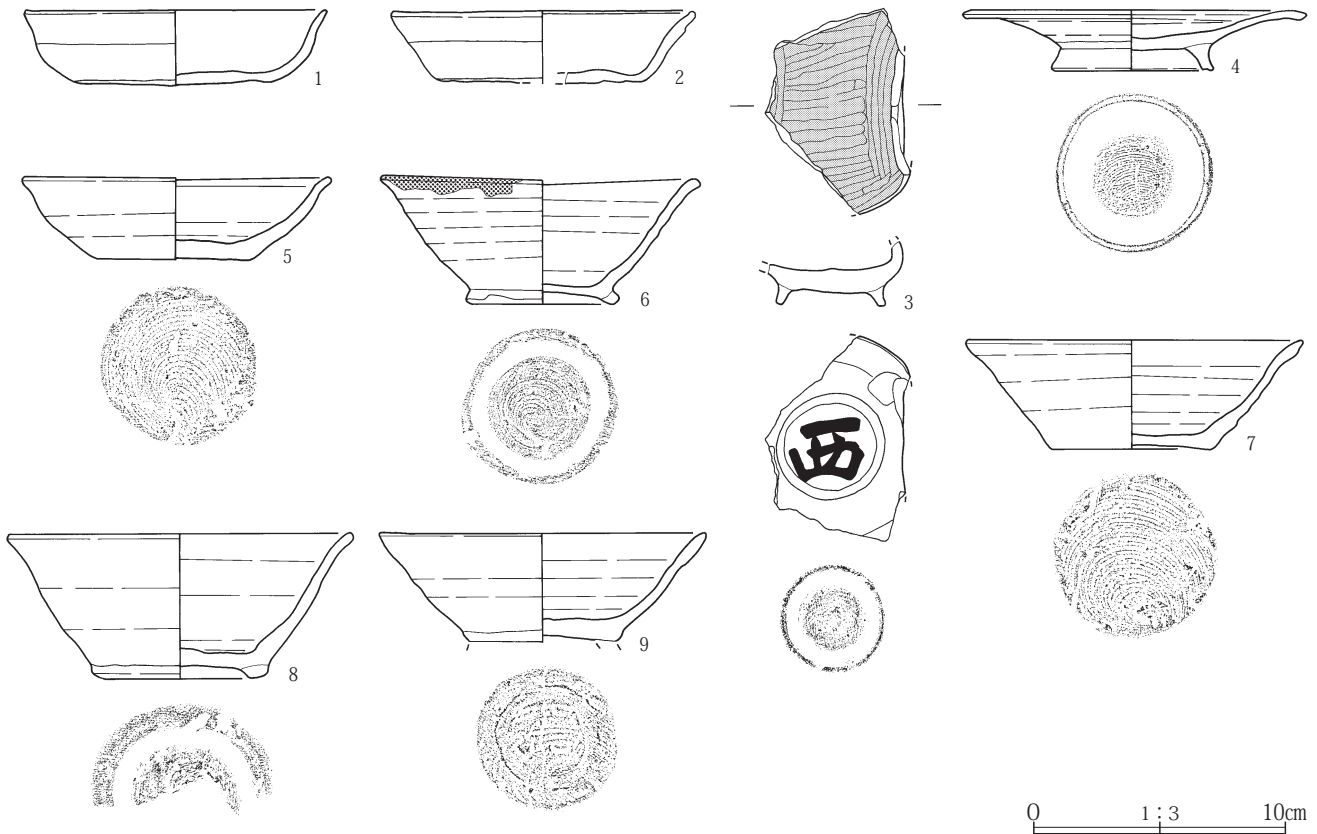
第532図 X区10・13号住居(2)

10号住居カマド

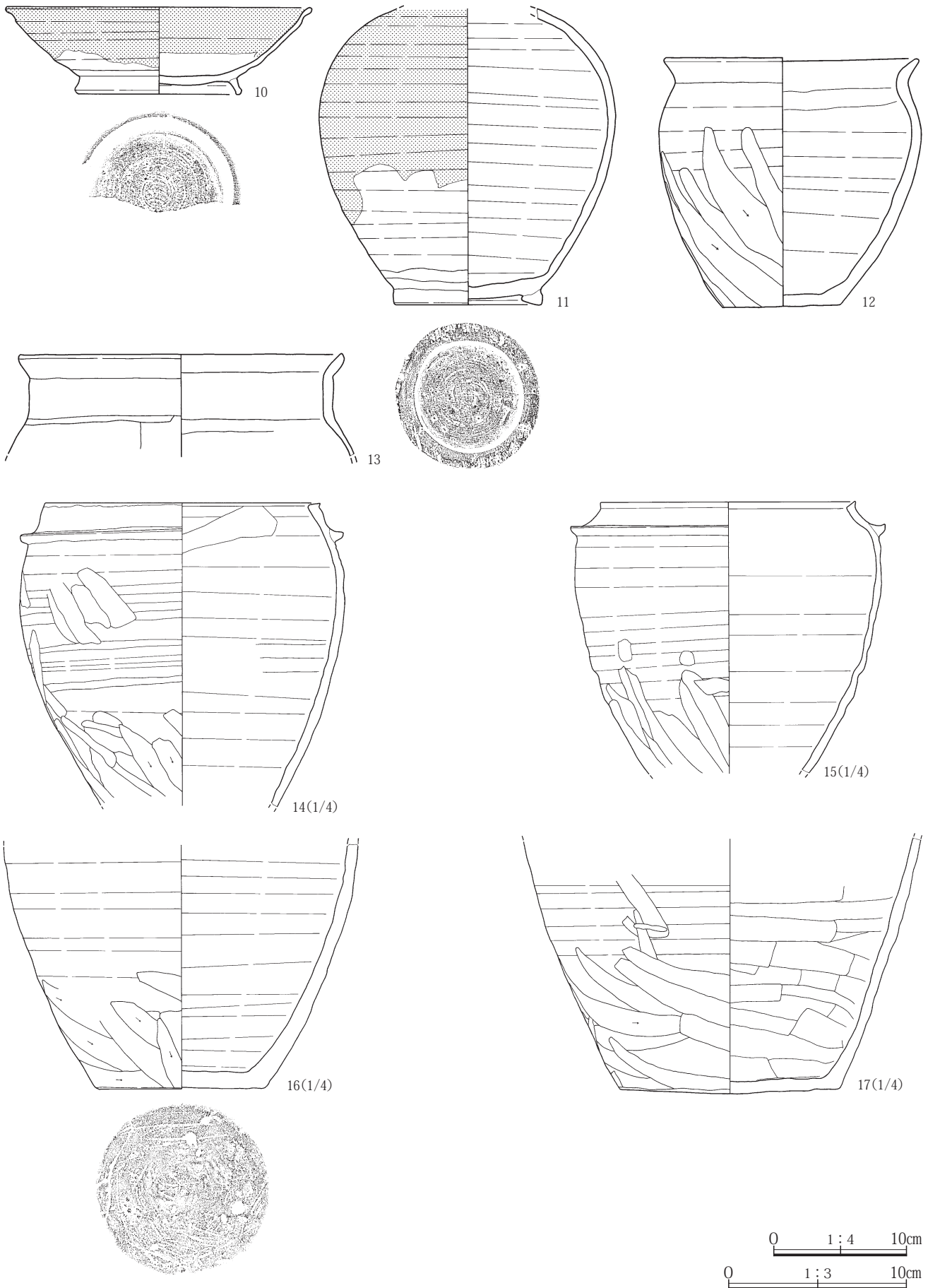
- 10-1 暗褐色土 少量の榛名二ツ岳白色軽石・炭化物粒子・焼土粒子を含む。やや硬く締る。粘性有。(13住カマド1・2層土より明るい色調。)
- 10-2 暗褐色土 少量の榛名二ツ岳白色軽石と炭化物を含む。硬く締り良。粘性有。
- 10-3 褐色土 炭化物粒子・焼土粒子・焼土ブロックを含む。硬く締り良。粘性非常に有。
- 10-4 暗褐色土 やや多い炭化物と焼土ブロックを含む。柔らかい。粘性非常に有。
- 10-5 褐色土 多量の焼土ブロックを含む。柔らかい。粘性非常に有。
- 10-6 焼土
- 10-7 暗褐色土 焼土ブロック・炭化物を含む。柔らかい。粘性非常に有。
- 10-8 暗褐色土 10-3層土より暗い色調。少量の焼土ブロックを含む。柔らかい。粘性非常に有。
- 10-9 灰褐色土 焼土粒子を含む。硬く締り粘性有。
- 10-10 暗褐色土 少量の榛名二ツ岳白色軽石・黄褐色土粒子を含む。硬く締り粘性有。
- 10-11 褐色土 焼土ブロック・灰を含む。硬く締り良。粘性有。
- 10-12 黒色土 炭化物主体。柔らかい。粘性有。
- 10-13 暗褐色土 少量の焼土粒子・黄褐色土粒子を含む。硬く締り良。
- 10-14 黄褐色土 少量の焼土粒子・炭化物粒子を含む。硬く締り良。
- 10-15 暗褐色土 焼土ブロック・炭化物粒子を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 10-16 赤褐色土 焼土主体。硬く締り良。
- 10-17 暗褐色土 炭化物粒子・黄褐色土ブロックを含む。硬く締り良。粘性有。
- 10-18 暗褐色土 やや多く焼土ブロックを含む。硬く締り良。粘性有。
- 10-19 暗褐色土 少量の焼土ブロック・炭化物粒子を含む。やや硬く締る。
- 10-20 暗褐色土 焼土ブロック・炭化物粒子・黄褐色土ブロックを含む。硬く締り良。粘性有。
- 10-21 暗褐色土 少量の黄褐色土粒子を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 10-22 黄褐色土 少量の炭化物粒子・黄褐色土粒子を含む。硬く締り良。
- 10-23 暗褐色土 炭化物粒子・焼土粒子・黄褐色土ブロックを含む。硬く締り良。粘性有。
- 10-24 暗褐色土 少量の炭化物粒子を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 10-25 暗褐色土 榛名二ツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。
- 10-26 暗褐色土 少量の焼土粒子を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 10-27 黄褐色土 硬く締り良。
- 10-28 灰褐色土 多量の灰を含む。硬く締り良。粘性有。
- 10-29 暗褐色土 少量の炭化物粒子・黄褐色土粒子を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 10-30 褐色土 多量の焼土ブロックを含む。柔らかい。粘性非常に有。

13号住居カマド

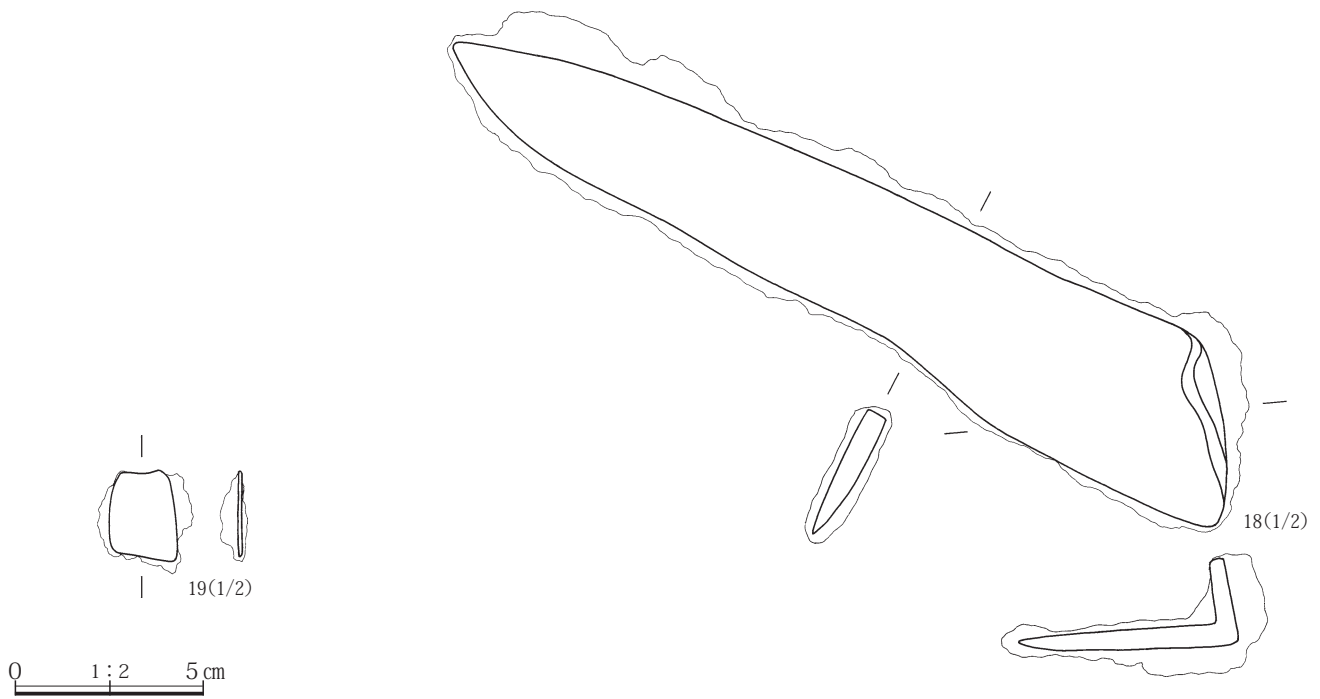
- 13-1 暗褐色土 榛名二ツ岳白色軽石・炭化物粒子を含む。やや硬く締る。
- 13-2 暗褐色土 少量の榛名二ツ岳白色軽石と炭化物粒子・焼土粒子を含む。やや硬く締る。
- 13-3 暗褐色土 少量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。硬く締り良。粘性有。
- 13-4 暗褐色土 やや多く炭化物を含む。硬く締り良。粘性非常に有。
- 13-5 黄褐色土 少量の炭化物ブロックを含む。やや硬く締る。粘性有。
- 13-6 暗褐色土 少量の炭化物粒子を含む。硬く締り良。粘性有。
- 13-7 暗褐色土 明るい色調。柔らかい。粘性有。
- 13-8 赤褐色土 多量の焼土を含む。やや硬い。
- 13-9 黒褐色土 炭化物主体の層。硬く締り良。粘性有。
- 13-10 黄白色土 柔らかい。
- 13-11 暗褐色土 焼土ブロック・炭化物を含む。硬く締り良。粘性有。
- 13-12 赤褐色土 焼土主体の層。炭化物を含む。
- 13-13 黄褐色土 少量の焼土粒子・炭化物を含む。やや硬く締る。



第533図 X区10・13号住居と13号住居の出土遺物



第534図 X区13号住居の出土遺物(1)



第535図 X区13号住居の出土遺物(2)

14号住居(第536～540図、PL.283・284・435)

グリッド 13E 1

主軸方位 N87°W

重複 56号土坑に切られる。26号住居を切る。2・17・18号住居に近接し、同時存在の可能性はない。

形状と規模 南北方向に長軸を有し、隅丸正方形を呈する竪穴住居である。長辺は5.45m、短辺は5.16m、深さは0.47m、面積は19.54㎡である。北壁の東部から東壁及び西壁と南壁のカマド付近には、壁面に中段が認められ、これは竪穴住居の建て替えの痕跡と考えられる。

埋土 ニツ岳の白色軽石を含む灰褐～暗褐色土が緩やかに竪穴中央に向かって傾きながら成層する。

床面 暗褐色土を0.05mほど薄く貼って、平坦な床面を構築している。

掘方 XII・XIII層の黄褐色砂礫層を掘り込んで平坦な掘方を構築している。南部から長径は0.69m、短径は0.58m、深さは0.47mの土坑1を検出した。また南壁際と北壁際に長辺0.88～1.18mの歪んだ長方形の浅い窪みを検出した。

カマドの概要 東壁の南東隅寄りに位置する。更に南東隅と南壁の南東隅寄りに旧いカマドの痕跡が検出された。このことから住居廃絶時のカマドをカマド3、旧いカマドをカマド1・2とする。カマド1～3の燃烧部は

東壁や南壁から奥を掘り込んで壁の外側に構築している。

カマド3 カマドの燃烧部は東壁から奥を掘り込んで壁の外側に構築している。燃烧部底はほぼ水平で、奥壁は約45°の勾配で立ち上がる。燃烧部左右の壁にはS3～S9の垂円礫7点が据えられている。これらはカマド構築材である。

S3は長径0.29m、短径0.07m、厚さ0.26mの垂円礫である。

S4は長径0.36m、短径0.13m、厚さ0.15mの垂円礫である。

S5は長径0.20m、短径0.03m、厚さ0.16mの垂円礫である。

S6は長径0.41m、短径0.11m、厚さ0.23mの垂円礫である。

S7は長径0.28m、短径0.14m、厚さ0.14mの垂円礫である。

S8は長径0.33m、短径0.10m、厚さ0.18mの垂円礫である。

S9は長径0.39m、短径0.08m、厚さ0.15mの垂円礫である。

S3・4の上には割れた棒状垂円礫のS2が置かれており、並んでS1がほぼ水平に据えられている。これらは

天井高架材である。

S 1は長径0.35m、短径0.18m、厚さ0.12mの垂円礫である。

S 2は長径0.42m、短径0.31m、厚さ0.11mの垂円礫である。

燃焼部から焚口周辺では炭化物の広がりを検出した。カマド埋土は暗褐色土が成層する。カマド3の長さは1.65m、カマド幅0.75m、深さ0.42mである。

カマド2 燃焼部底はほぼ水平で、約45°の勾配で立ち上がる。燃焼部底の掘方は、使用面に沿ってほぼ水平で

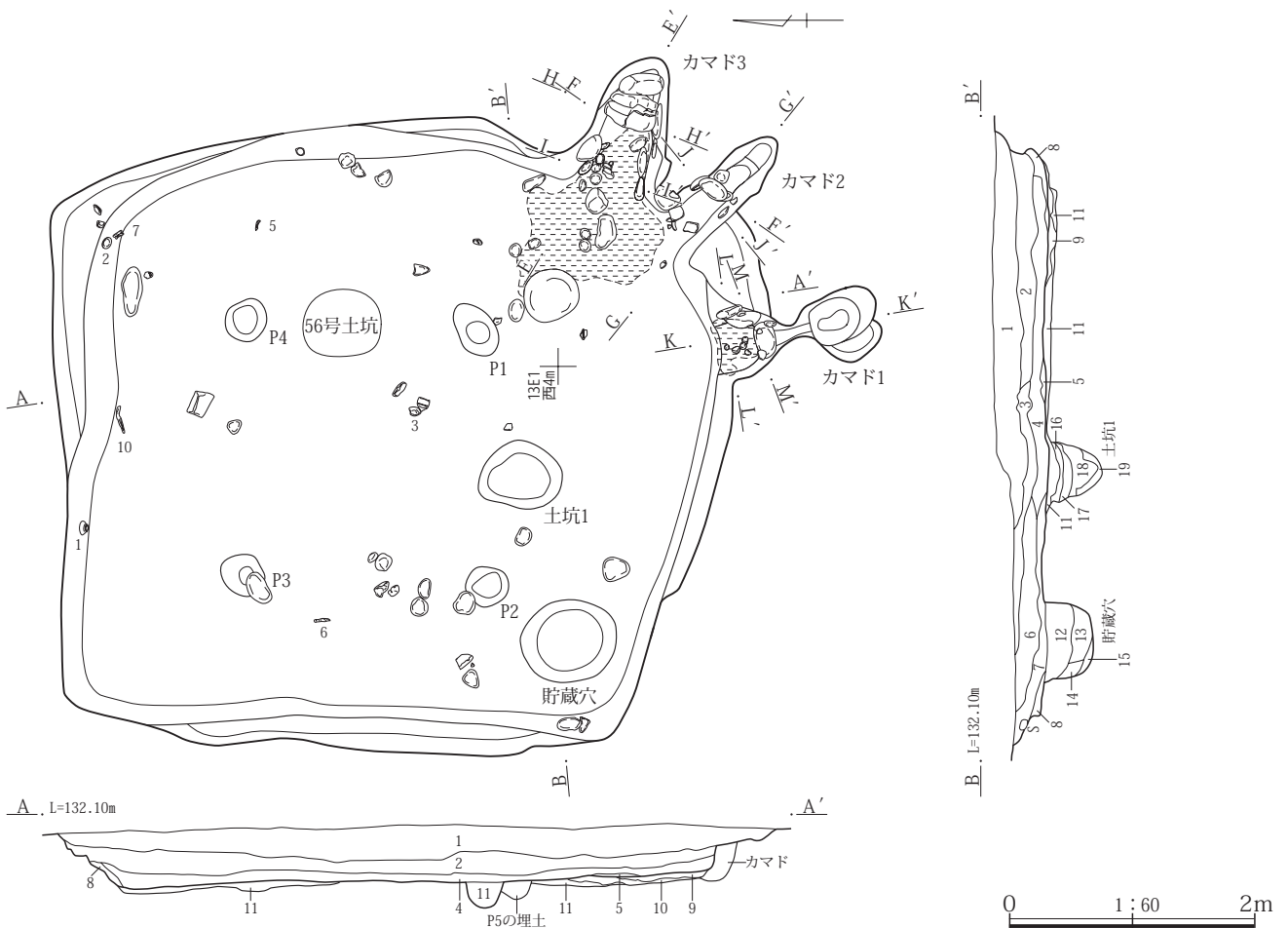
あるが、煙道に接続する斜面の掘方は垂直に近い勾配で立ち上がる。燃焼部左右の壁にはS 10~13の垂円礫4点が据えられている。これらはカマド構築材である。

S 10は長径0.22m、短径0.17mの打割された垂円礫で、カマド2の左袖とカマド3の右袖の芯材である。

S 11は長径0.13m、短径0.11mの垂円礫である。

S 12は長径0.35m、短径0.10m、厚さ0.12mの垂円礫である。

S 13は長径0.31m、短径0.08m、厚さ0.18mの垂円礫である。



- | | |
|--|--|
| <p>1 暗褐色土 少量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。硬く締り良。粘性非常に有。</p> <p>2 暗褐色土 多量の黄褐色土・灰褐色土ブロックを含む。硬く締り良。粘性非常に有。</p> <p>3 暗褐色土 炭化物・黄褐色土ブロックを含む。硬く締り良。粘性非常に有。</p> <p>4 暗褐色土 多量の炭化物を含む。柔らかい。粘性非常に有。</p> <p>5 暗褐色土 黄褐色土ブロックを含む。やや硬く締る。粘性非常に有。</p> <p>6 灰褐色土 やや硬く締る。粘性有。</p> <p>7 暗褐色土 黄褐色土粒子を含む。硬く締り良。粘性有。</p> <p>8 黄褐色土 硬く締り良。粘性非常に有。</p> <p>9 黄褐色土 やや硬く締る。</p> | <p>10 暗褐色土 少量の炭化物粒子を含む。やや硬く締る。粘性有。</p> <p>11 暗褐色土 炭化物を含む。硬く締り良。粘性有。</p> <p>12 暗褐色土 少量の黄褐色土粒子・炭化物粒子を含む。硬く締り良。粘性有。=貯蔵穴</p> <p>13 暗褐色土 炭化物を含む。柔らかい。粘性非常に有。=貯蔵穴</p> <p>14 暗褐色土 硬く締り良。粘性非常に有。=貯蔵穴</p> <p>15 暗褐色土 14層土よりも明るい色調。硬く締り良。粘性非常に有。=貯蔵穴</p> <p>16 暗褐色土 やや多く炭化物を含む。硬く締り良。粘性有。=土坑1</p> <p>17 黄褐色土 少量の暗褐色土を含む。硬く締り良。=土坑1</p> <p>18 暗褐色土 硬く締り良。粘性有。=土坑1</p> <p>19 黒褐色土 多量の炭化物を含む。硬く締り良。粘性有。=土坑1</p> |
|--|--|

第536図 X区14号住居(1)

S 13の上に垂円礫のS 14が立てかけられたように埋土中から出土した。これは天井高架材で、S 12・13上に置かれていたものと考えられる。燃焼部から焚口周辺で炭化物や焼土の広がり認められない。カマド埋土は暗褐色土が成層している。カマド2の長さは1.40m、幅0.58m、深さ0.47mである。

カマド1 燃焼部底は緩やかに傾き煙出しの底と考えられる土坑状の窪みに接続する。燃焼部左の壁にはS 16・17の垂円礫2点が据えられている。これらはカマド構築材である。

S 16は長径0.37m、短径0.09m、厚さ0.29mの打割された垂円礫である。

S 17は長径0.22m、短径0.08m、厚さ0.17mの垂円礫である。

燃焼部底直上の埋土中から出土したS 18は長径0.31m、

短径0.17m、厚さ0.09mの扁平垂円礫で、これはカマドの崩落によって移動した天井高架材である。燃焼部底から焚口周辺で炭化物の広がりを検出した。カマド埋土は暗褐色土が成層している。カマド1の長さは1.39m、カマドの幅0.59m、深さ0.40mである。

貯蔵穴 南西隅の壁際から長径0.80m、短径0.67m、深さ0.47mの円形の土坑を検出した。土坑は位置と形状から貯蔵穴と考えられる。

柱穴 床面の精査では見つからず、掘方の調査で支柱穴のP 1～P 4と建て替えに伴う古い支柱穴のP 5・6を検出した。

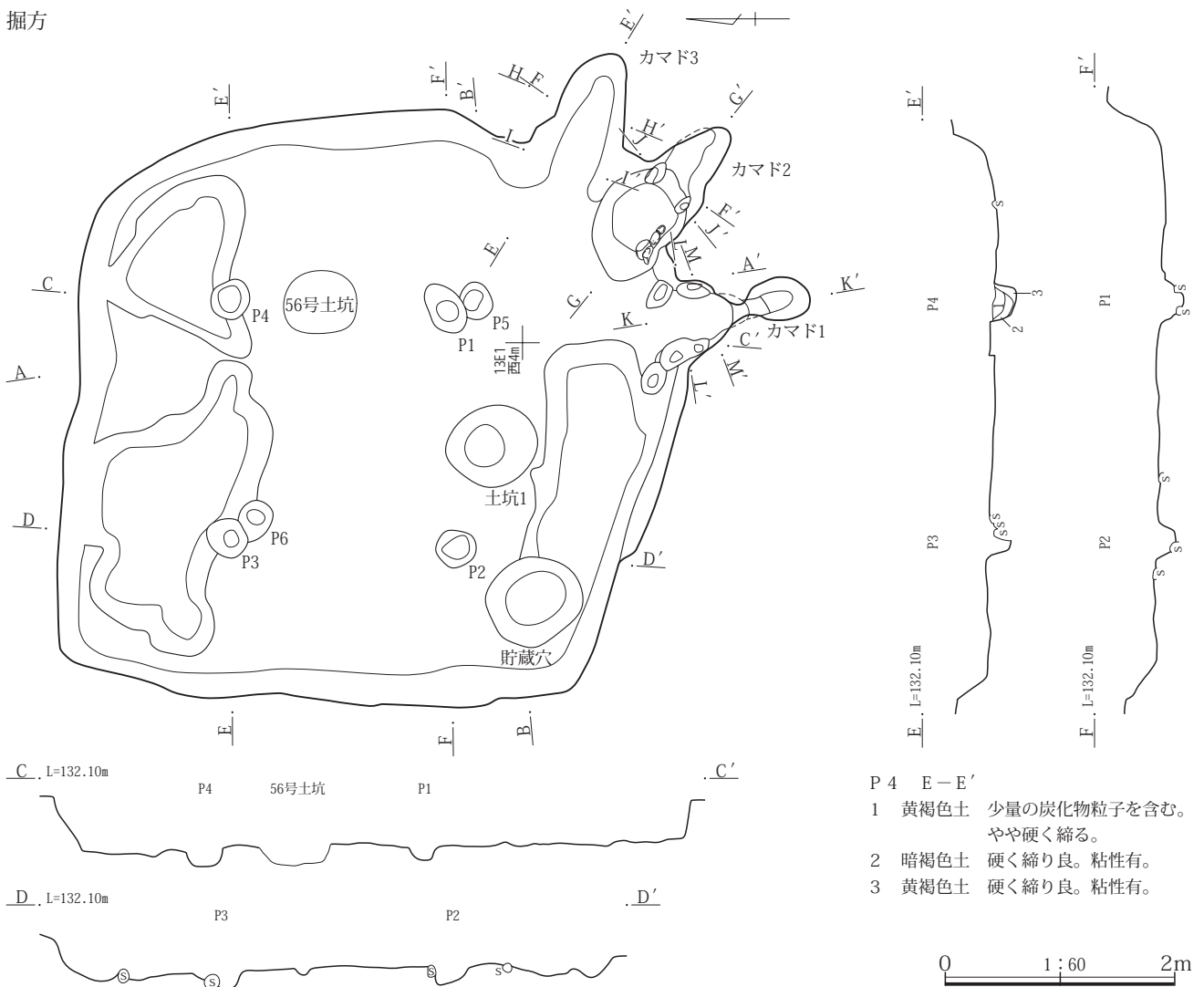
P 1は長径0.47m、短径0.31m、深さ0.19m。

P 2は直径0.35m、深さ0.14m。

P 3は長径0.35m、短径0.32m、深さ0.18m。

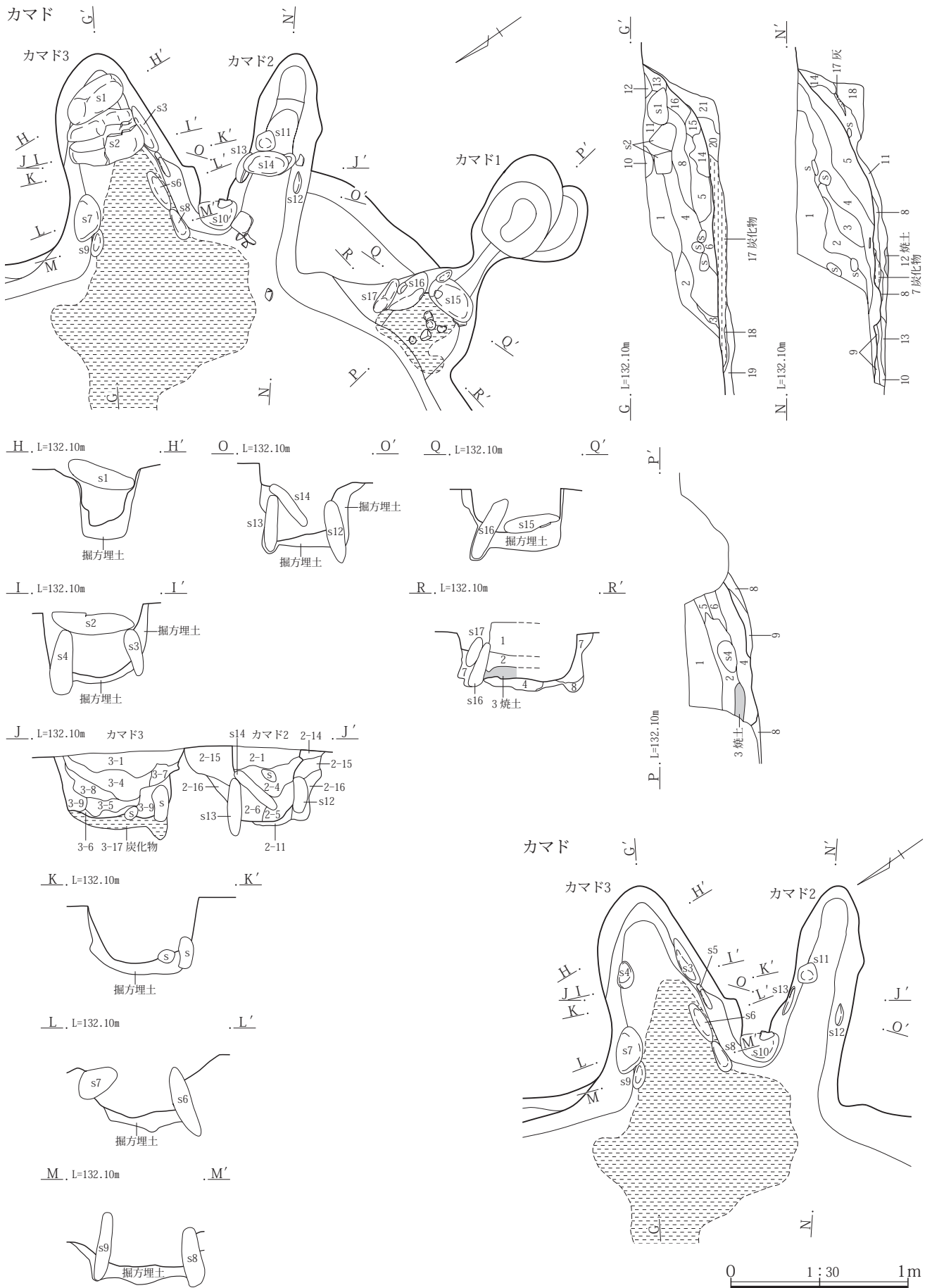
P 4は直径0.32m、深さ0.21m。

掘方

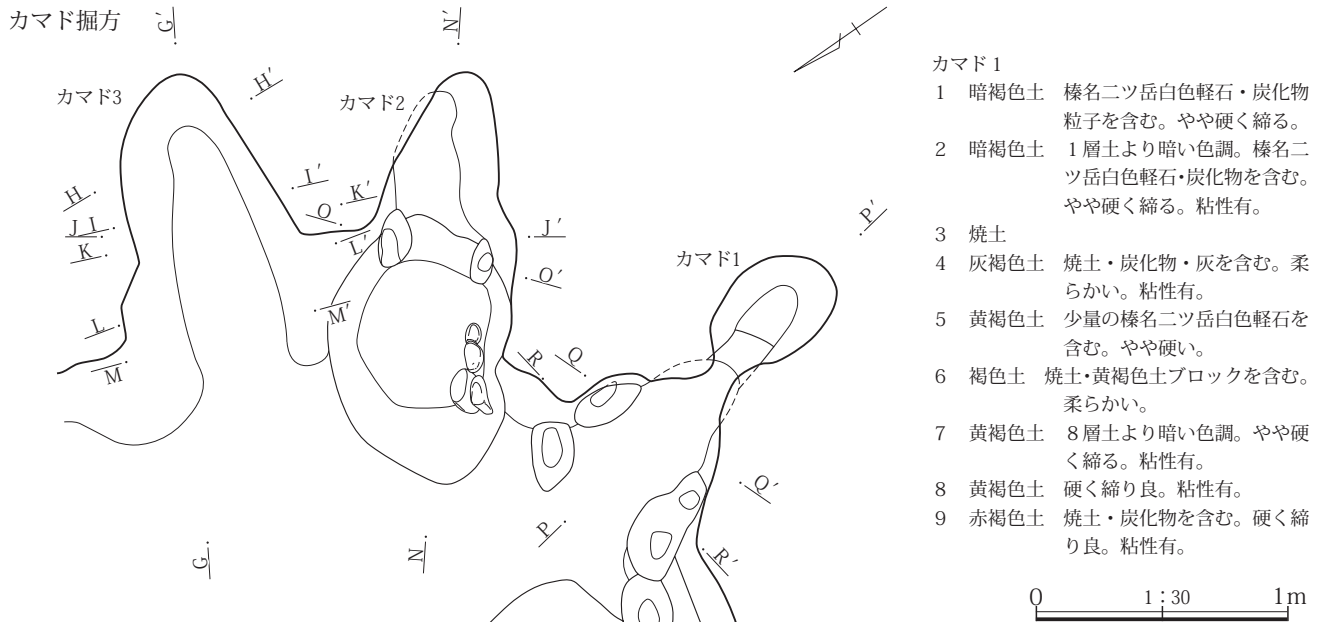


第537図 X区14号住居(2)

第4章 第2面の遺構と出土遺物

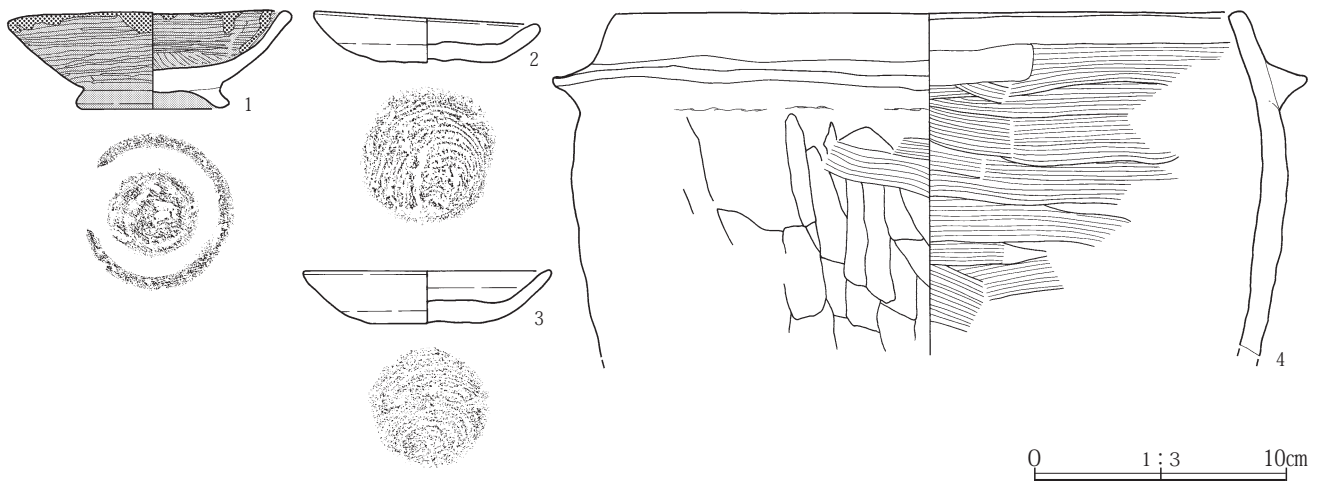


第538図 X区14号住居(3)

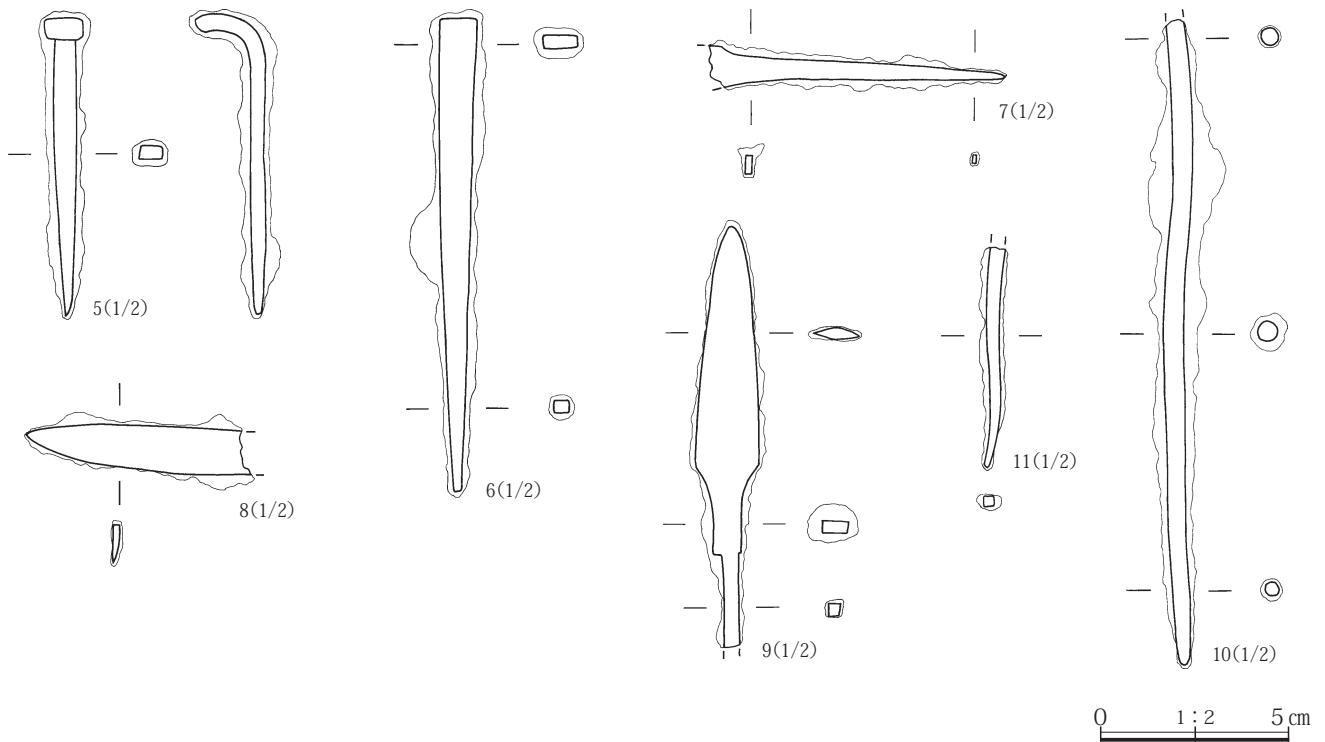


- カマド2
- 1 灰褐色土 榛名二ツ岳白色軽石・炭化物粒子を含む。やや硬く締る。
 - 2 黄褐色土 少量の炭化物粒子を含む。硬く締り良。
 - 3 暗褐色土 硬く締り良。粘性非常に有。
 - 4 褐色土 硬く締り良。粘性非常に有。
 - 5 灰褐色土 硬く締り粘性有。
 - 6 褐色土 多量の焼土ブロックと炭化物を含む。硬く締り良。粘性有。
 - 7 炭化物層
 - 8 褐色土 焼土・炭化物を含む。硬く締り良。
 - 9 黄白色土 やや硬く締る。
 - 10 暗褐色土 焼土を含む。やや硬く締る。
 - 11 灰褐色土 焼土・灰を含む。硬く締り良。
 - 12 赤褐色土 焼土主体。硬く締り良。
 - 13 黒褐色土 焼土ブロック・灰を含む。やや硬く締る。
 - 14 黄白色土 榛名二ツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。
 - 15 灰褐色土 少量の榛名二ツ岳白色軽石・炭化物粒子を含む。やや硬く締る。
 - 16 暗褐色土 少量の榛名二ツ岳白色軽石・炭化物粒子・焼土粒子を含む。やや硬く締る。
 - 17 灰層
 - 18 暗褐色土 黄白色土ブロックを含む。やや硬く締る。粘性有。

- カマド3
- 1 暗褐色土 榛名二ツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。粘性有。
 - 2 暗褐色土 炭化物を含む。やや硬く締る。粘性有。
 - 3 暗褐色土 多量の炭化物を含む。硬く締り良。粘性非常に有。
 - 4 暗褐色土 少量の焼土粒子を含む。柔らかい。粘性非常に有。
 - 5 暗褐色土 少量の炭化物粒子・焼土ブロックを含む。硬く締り良。粘性非常に有。
 - 6 暗褐色土 多量の炭化物を含む。硬く締り良。粘性非常に有。
 - 7 暗褐色土 少量のローム粒子・焼土粒子を含む。やや硬く締る。
 - 8 暗褐色土 少量の焼土ブロックを含む。やや硬く締る。粘性有。
 - 9 赤褐色土 多量の焼土粒子を含む。柔らかい。粘性有。
 - 10 灰褐色土 焼土を含む。硬く締る。
 - 11 灰褐色土 多量の焼土と榛名二ツ岳白色軽石を含む。硬く締る。
 - 12 暗褐色土 焼土粒子を含む。やや硬く締る。粘性有。
 - 13 暗褐色土 少量の焼土粒子を含む。やや硬く締る。粘性有。
 - 14 赤褐色土 多量の焼土・灰を含む。柔らかい。粘性有。
 - 15 暗褐色土 焼土・灰を含む。柔らかい。粘性有。
 - 16 暗褐色土 柔らかい。粘性有。
 - 17 黒色土 炭化物を主体に焼土を含む。硬く締り良。粘性有。
 - 18 黄色土 硬く締り良。
 - 19 暗褐色土 黄褐色土ブロックを含む。やや硬く締る。粘性有。
 - 20 暗褐色土 少量の焼土粒子・炭化物粒子を含む。硬く締り良。粘性有。
 - 21 暗褐色土 20層土より暗い色調。焼土ブロックを含む。硬く締り良。粘性有。



第539図 X区14号住居と出土遺物



第540図 X区14号住居の出土遺物

P 5は長径0.34m、短径0.29m、深さ0.14m。

P 6は長径0.37m、短径0.27m、深さ0.15m。

柱間は桁行のP 1・P 2が2.08m、建て替え前のP 5・P 2が2.18m。P 3・P 4が2.14m。建て替え前のP 6・P 4が1.92m。梁行のP 1・P 4が1.90m、建て替え前のP 5・P 4が2.10m。P 2・P 3が1.96m、建て替え前のP 6・P 2が1.77mである。なお柱穴には柱痕は認められなかったが、掘方はしっかりしている。

遺物 床面付近から須恵器の杯(3)、鉄釘(6)、埋土から須恵器の杯(2)、黒色土器の椀(1)、鉄釘(5)や刀子(7・8)、鉄鏝(9)、カマド掘方から土師器の羽釜(4)が出土した。

時代 平安時代10世紀第4四半期。

15号住居(第541～544図、PL.285・435)

グリッド 3 G 20

主軸方位 N81° E

重複 4号住居に切られる。17号住居を切る。2・3号住居に隣接し、同時存在の可能性はない。

形状と規模 南北方向に長軸を有し、隅丸長方形を呈する。長辺は3.28m、短辺は2.84m、深さは0.35m、面積は7.61㎡である。

埋土 ニツ岳の白色軽石を含む暗褐色土からなる。

床面 暗褐色土を0.05mほど薄く貼って、平坦な床面を構築している。

掘方 XII・XIII層の黄褐色砂質土を掘り込んで平坦な構築している。

カマドと貯蔵穴 東壁中央の南東隅寄りに位置する。カマドの燃烧部は東壁から奥を掘り込んで壁の外側に構築している。燃烧部底は水平で、緩やかに傾斜して立ち上がり、煙道へ接続する。燃烧部左右の壁にはS 1～S 8の垂円礫7点が据えられている。これらはカマド構築材である。

S 1は長径0.14m、短径0.04mの垂円礫である。

S 2は長径0.22m、短径0.08m、厚さ0.08mの垂円礫である。

S 3は長径0.28m、短径0.08m、厚さ0.14mの安山岩の垂円礫である。

S 4は長径0.18m、短径0.08m、厚さ0.14mの垂円礫である。

S 5は長径0.30m、短径0.14m、厚さ0.12mの安山岩の垂円礫である。

S 6は長径0.14m、短径0.10m、厚さ0.05mの安山岩の垂円礫である。

S 7は長径0.40m、短径0.18m、厚さ0.22mの二ツ岳軽石の円礫である。

S 8は長径0.34m、短径0.13m、厚さ0.23mの安山岩の亜角礫である。

燃烧部底から焚口周辺で炭化物の広がりを検出した。煙道を含むカマドは長さ1.80m、煙道長0.73m、煙道幅0.45m、カマドの幅0.90m、深さ0.43mである。貯蔵穴は検出されなかった。

柱穴 柱穴は検出されなかった。床面に支柱穴を持たない構造の竪穴住居と想定される。

遺物 床面から須恵器の杯(2)、椀(4・5)、カマド使用面から須恵器の羽釜(7)、埋土から灰釉陶器の皿(6)、刀子(8)、カマド埋土から黒色土器の杯(1)や須恵器の

杯(3)が出土した。

時代 平安時代10世紀第3・4半期。

17号住居(第541・542・544図、PL.286・435)

グリッド 3 F 20

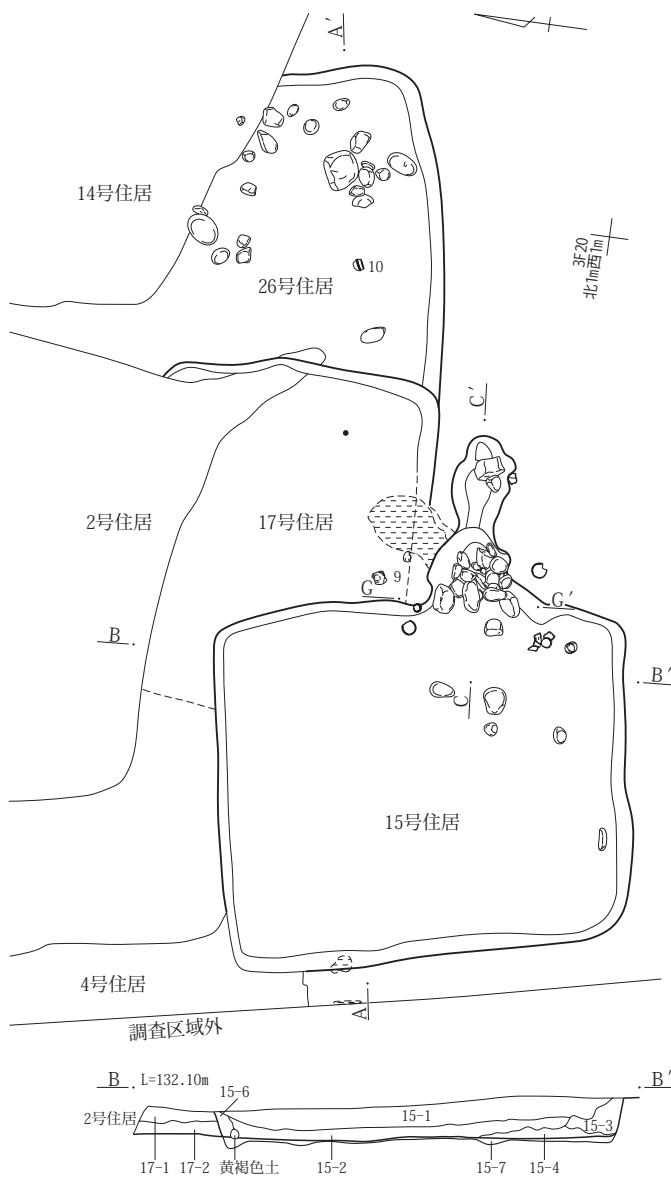
主軸方位 N S

重複 2・15号住居に切られる。26号住居を切る。

形状と規模 東西方向に長軸を有し、隅丸長方形を呈する竪穴で南西部は15号住居、北部は2号住居により失われている。長辺は3.28m、短辺は2.84m、深さは0.35m、検出された最大の面積は7.61㎡である。

埋土 暗褐色土が東から西側に傾いて成層する。

床面 暗褐色土を0.05mほど薄く貼って、平坦な床面を



15-1	暗褐色土	榛名二ツ岳白色軽石・炭化物粒子・黄褐色土粒子を含む。やや硬く締る。粘性有。
15-2	暗褐色土	少量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。硬く締り良。粘性非常に有。
15-3	暗褐色土	多量の黄褐色土・灰褐色土ブロックを含む。硬く締り良。粘性非常に有。
15-4	暗褐色土	炭化物・黄褐色土ブロックを含む。硬く締り良。粘性非常に有。
15-5	暗褐色土	多量の炭化物を含む。柔らかい。粘性非常に有。
15-6	暗褐色土	黄褐色土ブロックを含む。やや硬く締る。粘性非常に有。
15-7	暗褐色土	炭化物を含む。硬く締り良。粘性有。
17-1	灰褐色土	やや硬く締る。粘性有。
17-2	暗褐色土	黄褐色土粒子を含む。硬く締り良。粘性有。
17-3	黄褐色土	硬く締り良。粘性非常に有。
17-4	暗褐色土	黄褐色土ブロックを含む。硬く締り良。粘性有。
17-5	黄褐色土	やや硬く締る。
17-6	暗褐色土	少量の炭化物粒子を含む。やや硬く締る。粘性有。
17-7	暗褐色土	炭化物を含む。硬く締り良。粘性有。
26-1	暗褐色土	榛名二ツ岳白色軽石・炭化物を含む。やや硬く締る。
26-2	黄褐色土	微量の炭化物粒子を含む。硬く締り良。
26-3	黄褐色土	硬く締り良。粘性有。
26-4	暗褐色土	硬く締り良。粘性有。

第541図 X区15・17・26号住居(1)

構築している。

掘方 XII・XIII層の黄褐色砂質土を掘り込んで構築している。カマドの存在する南壁側が段状に窪む。

カマドと貯蔵穴 南壁の南東隅寄りに位置し、掘方のみを検出した。燃烧部周辺で炭化物の広がりを検出した。カマド掘方埋土は暗褐色土からなる。カマドは長さ1.12m、幅0.70m、深さ0.02mである。貯蔵穴は検出されなかった。

柱穴 柱穴は検出されなかった。床面に支柱穴を持たない構造の竪穴住居と想定される。

遺物 床面から須恵器の椀(9)が出土した。

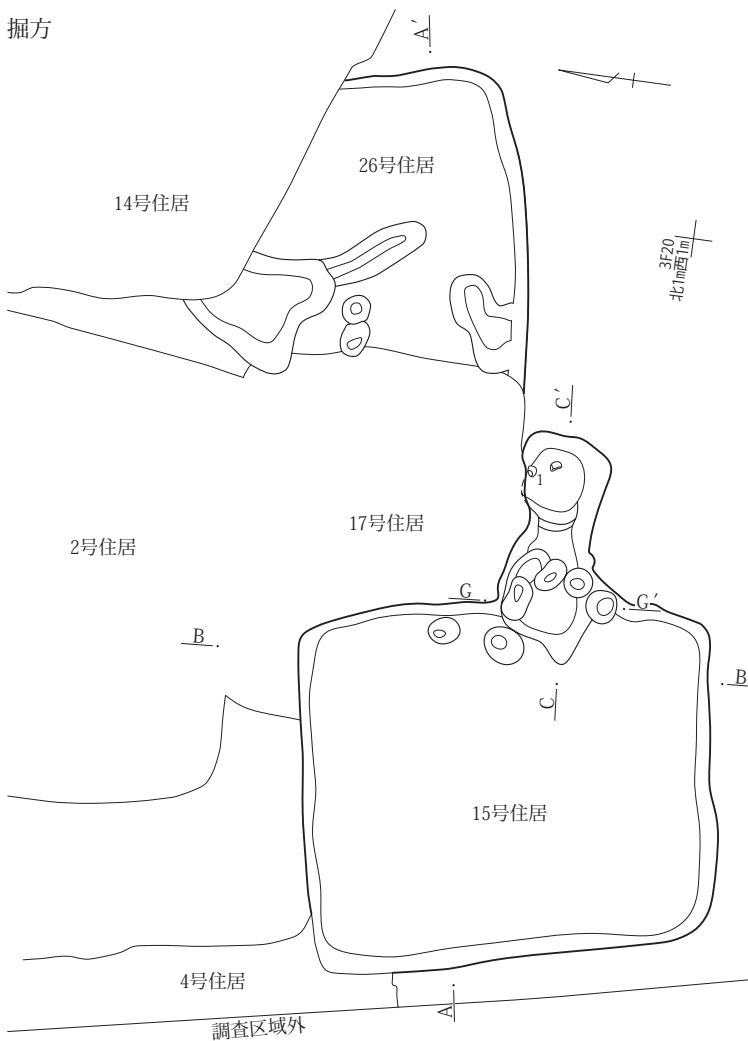
時代 平安時代10世紀第1四半期。

26号住居(第541・542・544図、PL.286)

グリッド 3 F 20

主軸方位 N80°E

掘方



重複 2・14・17号住居に切られる。

形状と規模 南北方向に長軸を有し、隅丸長方形を呈する竪穴で、西部は2・17号住居、北東部は14号住居により失われている。長辺は4.13m、短辺は2.38m+、深さは0.20m、検出された最大の面積は4.32㎡である。

埋土 ニツ岳の白色軽石を含む黄褐～暗褐色土からなる。

床面 黄褐色土を0.10mほど貼って、平坦な床面を構築している。

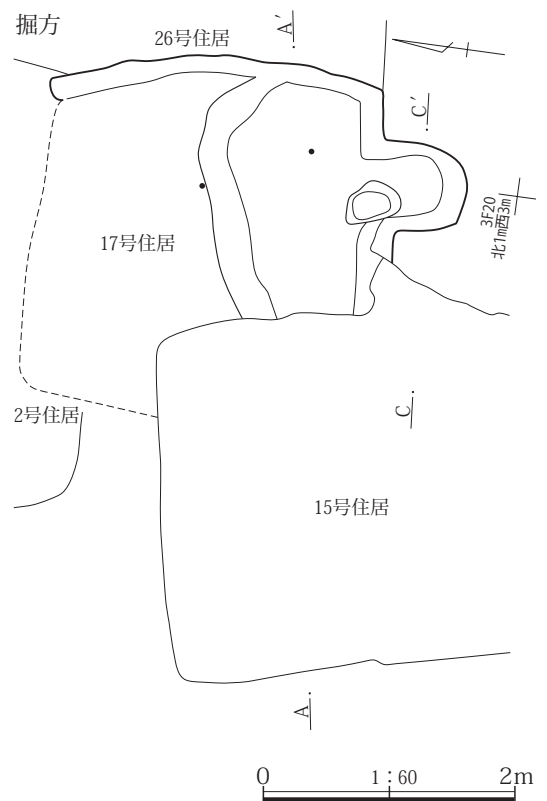
掘方 XII・XIII層の黄褐色砂質土を掘り込んで構築している。中央に不定形の溝状の浅い窪みを検出した。

カマドと貯蔵穴 カマドと貯蔵穴は検出されなかった。

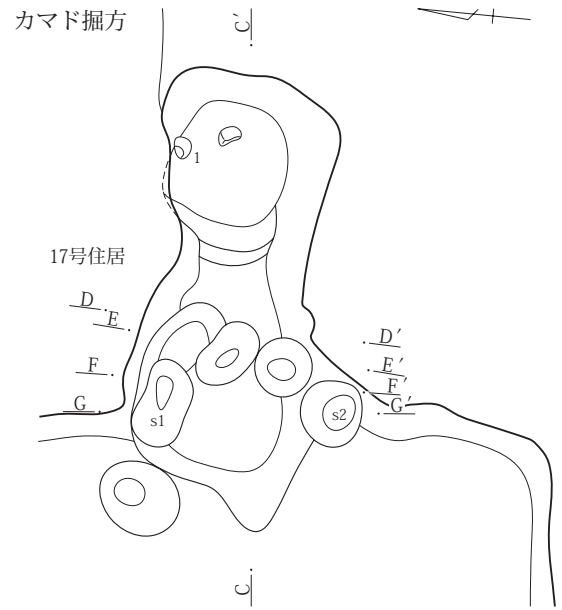
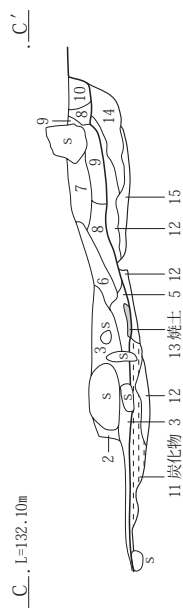
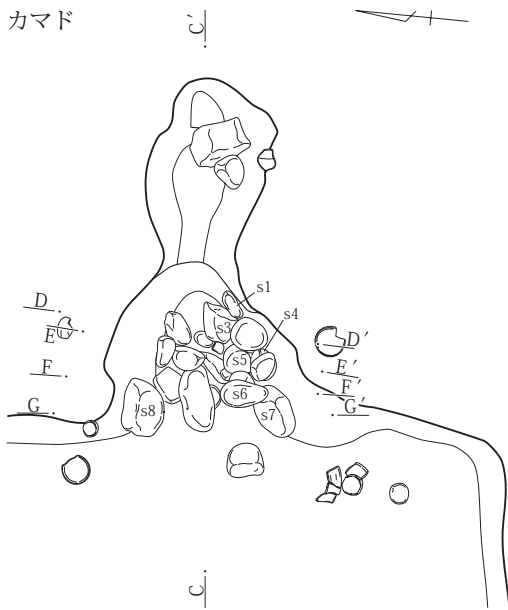
柱穴 柱穴は検出されなかった。床面に支柱穴を持たない構造の竪穴住居と想定される。

遺物 床面から須恵器の羽釜(10)が出土した。

時代 平安時代10世紀前半。



第542図 X区15・17・26号住居(2)



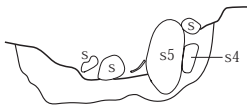
D, L=132.10m

D'



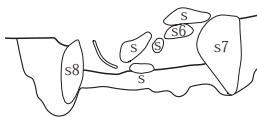
E, L=132.10m

E'



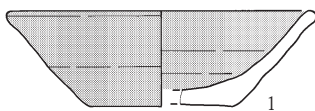
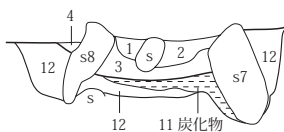
F, L=132.10m

F'



G, L=132.10m

G'



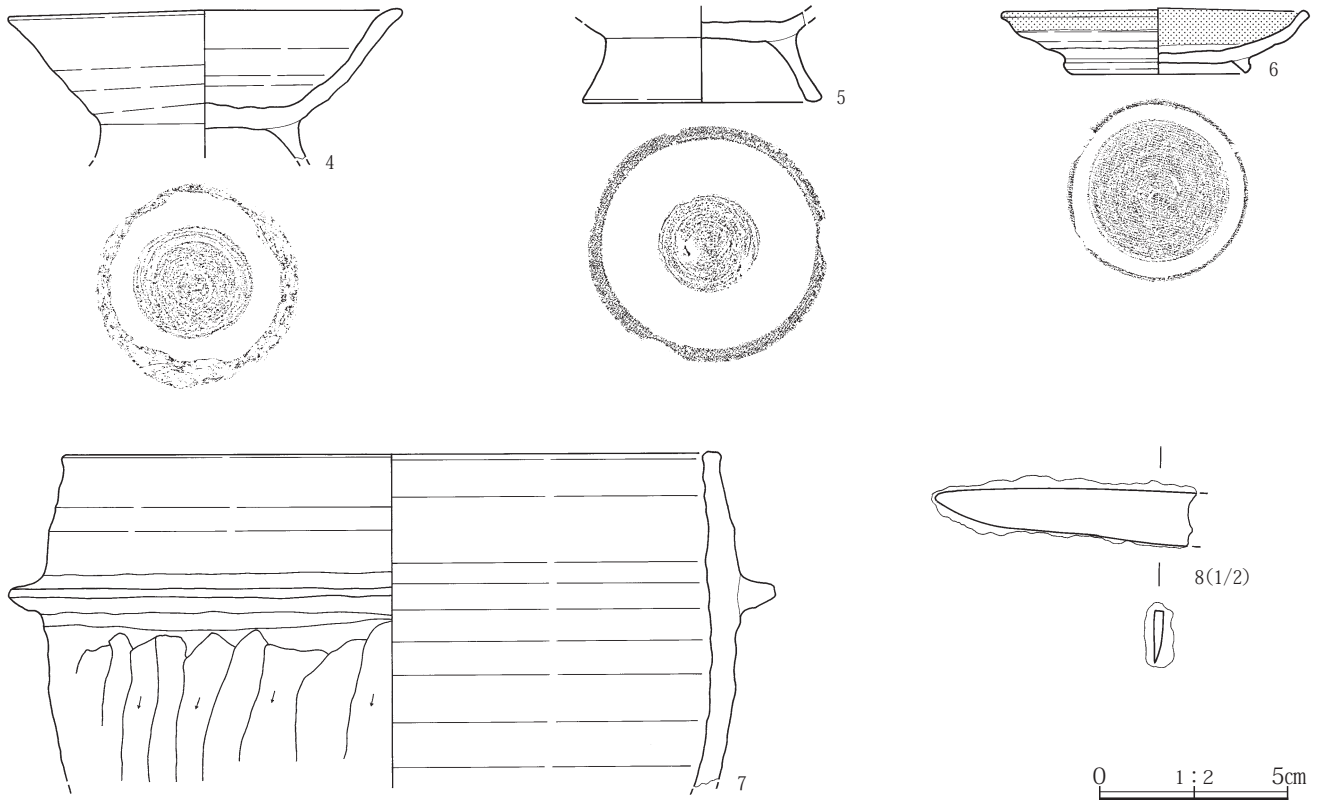
- 1 褐色土 やや多く焼土を含む。硬く締り良。粘性有。
- 2 暗褐色土 硬く締り良。粘性有。
- 3 暗褐色土 多量の炭化物を含む。硬く締り良。粘性非常に有。
- 4 黄褐色土 石の押さえ土か。やや硬く締る。
- 5 暗褐色土 炭化物粒子を含む。やや硬く締る。
- 6 暗褐色土 少量の炭化物粒子を含む。硬く締り良。粘性有。
- 7 灰褐色土 榛名二ツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。
- 8 暗褐色土 黄褐色土ブロックを含む。やや硬く締る。粘性有。
- 9 暗褐色土 少量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 10 灰褐色土 やや硬く締る。粘性有。
- 11 黒色土 炭化物主体の層。硬く締り良。粘性有。
- 12 暗褐色土 少量の炭化物粒子を含む。硬く締り良。粘性有。
- 13 焼土
- 14 黄褐色土 硬く締り良。粘性有。
- 15 暗褐色土 硬く締り良。粘性有。

0 1:30 1m

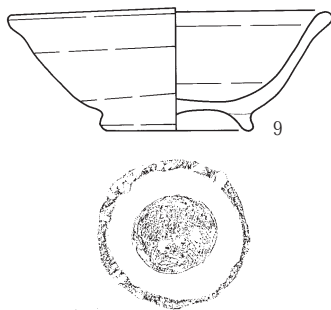
0 1:3 10cm

第543図 X区15号住居と出土遺物

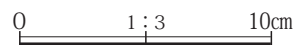
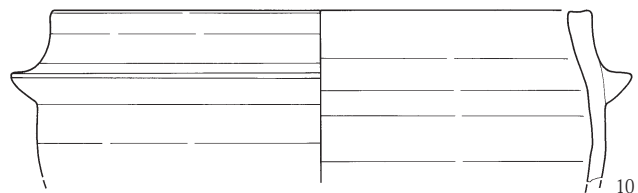
15号住居



17号住居



26号住居



第544図 X区15・17・26号住居の出土遺物

16号住居(第545・546図、PL.435・436)

グリッド 13C 1

主軸方位 N47°W

重複 20号土坑に切られる。11号溝、64号土坑を切る。

形状と規模 北西～南東方向に長軸を有し、長方形を呈する竪穴である。長辺は3.71m、短辺は2.71m、深さは0.43m、面積は7.54㎡である。

埋土 ニツ岳の白色軽石を含む暗褐～灰褐色土からなる。

床面 灰褐色土を0.02mほど薄く貼って、平坦な床面を

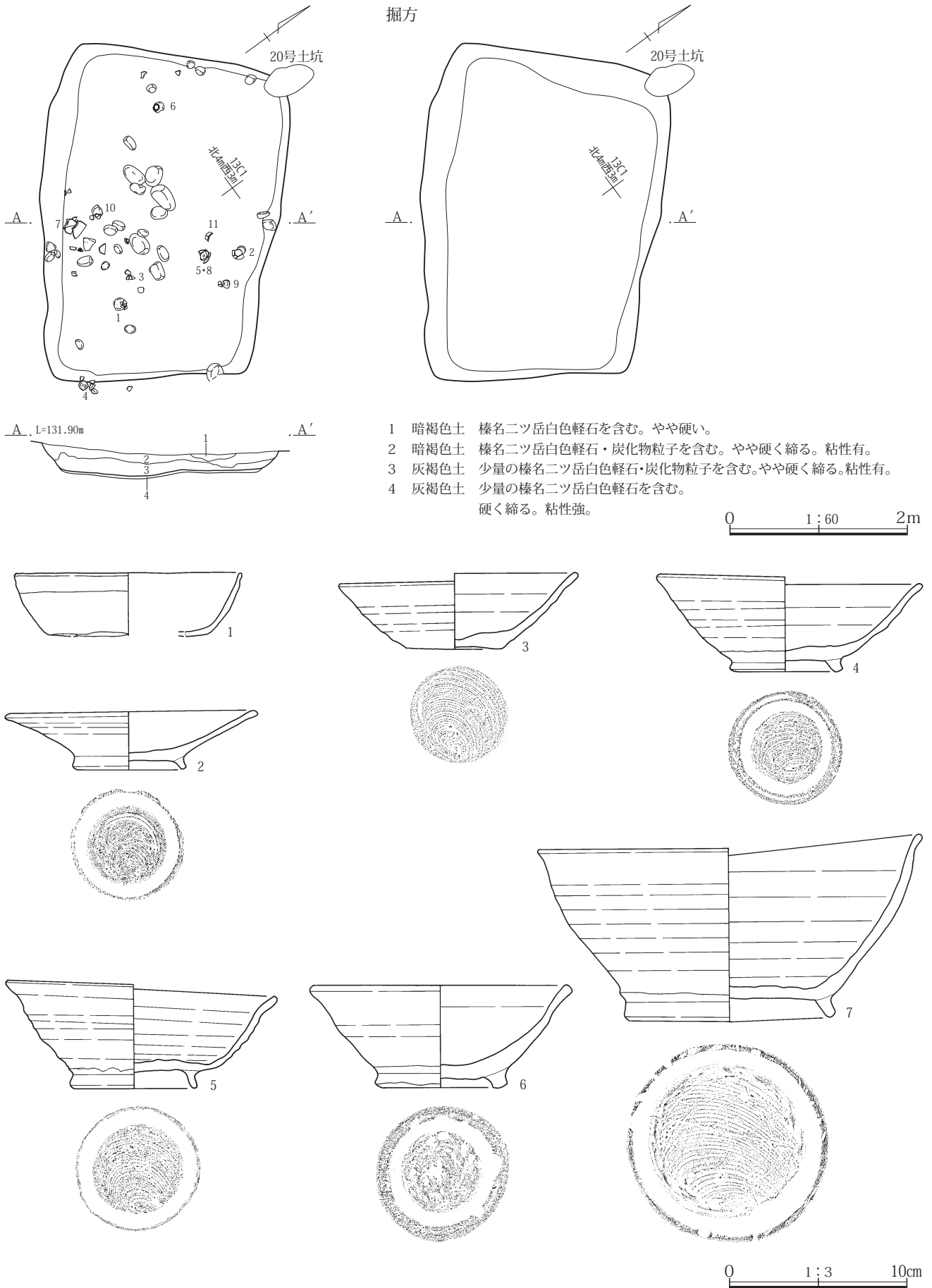
構築している。

掘方 XII・XIII層の黄褐色砂礫層を掘り込んで平坦な掘方を構築している。

カマドと貯蔵穴 カマドと貯蔵穴は検出されなかった。

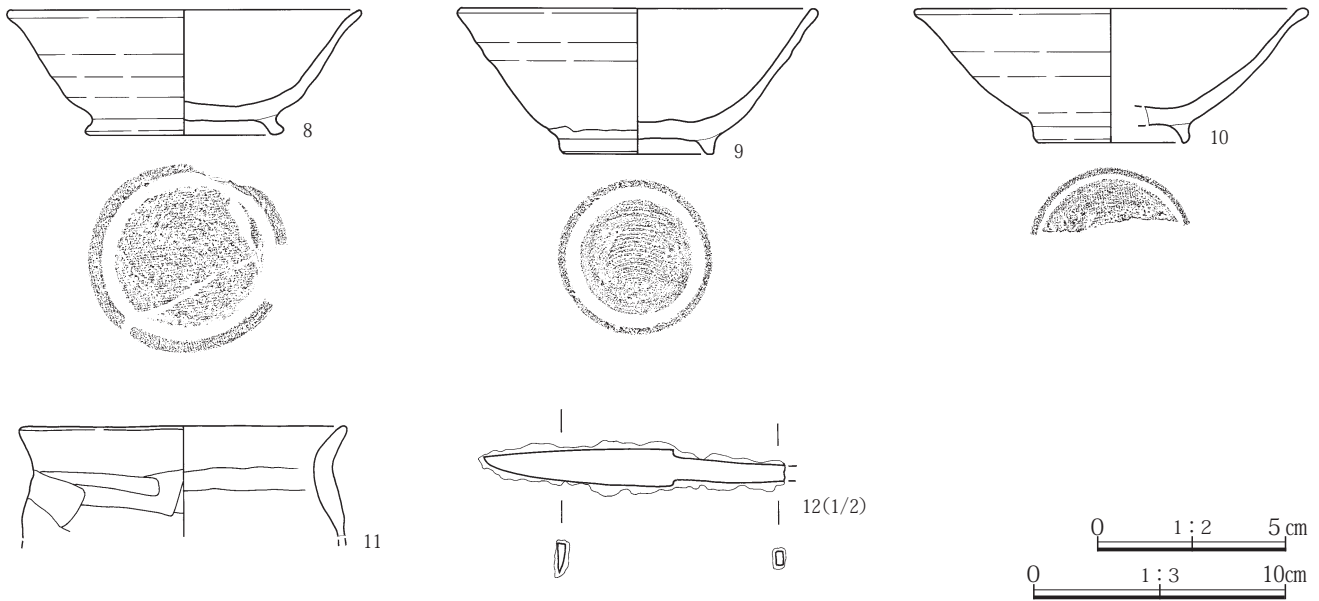
遺物 床面から多くの遺物が出土した。床面から須恵器の椀(5・7・8)、床面付近から土師器の杯(1)、須恵器の椀(6・9)、埋土から土師器の小型甕(11)、刀子(12)が出土した。

時代 平安時代10世紀第1四半期。



- 1 暗褐色土 榛名二ツ岳白色軽石を含む。やや硬い。
- 2 暗褐色土 榛名二ツ岳白色軽石・炭化物粒子を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 3 灰褐色土 少量の榛名二ツ岳白色軽石・炭化物粒子を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 4 灰褐色土 少量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。硬く締る。粘性強。

第545図 X区16号住居と出土遺物



第546図 X区16号住居の出土遺物

18号住居(第547～549図、PL.287・436)

グリッド 13F 2

主軸方位 N83° E

重複 1・21・27・30号住居に切られる。23号住居を切る。
形状と規模 東西方向に長軸を有し、隅丸長方形を呈する竪穴住居で、西部は1・21・30号住居により失われている。長辺は3.56m、短辺は2.95m+、検出された最大の面積は8.26㎡である。

埋土 ニツ岳の白色軽石を含む暗褐色土からなる。

床面 暗褐～黄褐色土を0.08mほど貼って、平坦な床面を構築している。

掘方 XII・XIII層の黄褐色砂質土を掘り込んで、掘方を構築している。南西隅寄りの壁際から長径1.78m、短径1.37m、深さ0.05mの浅い歪んだ円形の土坑1を検出した。

カマド 東壁の南東隅寄りに位置する。カマドの燃焼部は東壁の奥を掘り込んで壁の外側に構築している。燃焼部底は水平で、緩やかに傾きながら立ち上がる。燃焼部から焚口付近で炭化物の広がりを検出した。カマドの埋土は焼土ブロックを含む暗褐色土からなる。カマドは長さ1.13m、幅0.70m、深さ0.29mである。

貯蔵穴 南東隅の壁際から長径0.61m、短径0.44m、深さ0.29mの楕円形の土坑を検出した。土坑は位置や形状から貯蔵穴と考えられる。

柱穴 柱穴は検出されなかった。床面に支柱穴を持たな

い構造の竪穴住居と想定される。

遺物 カマド使用面から須恵器の羽釜(7)、掘方から須恵器の椀(3～6)、皿(1)、埋土から須恵器の杯(2)が出土した。

時代 平安時代10世紀前半。

22号住居(第547・548・550図、PL.289・290)

グリッド 13F 2

主軸方位 N74° E

重複 1号住居に切られる。23号住居を切る。

形状と規模 北西～南東方向に長軸を有し、隅丸長方形を呈する竪穴で西から南部の大部分は1号住居と攪乱により失われている。長辺は1.80m+、短辺は1.48m+、深さは0.44m、検出された最大の面積は4.44㎡である。

埋土 ニツ岳の白色軽石を含む暗褐色土が水平に成層する。

床面 暗褐色土を0.24mほど厚く貼って、平坦な床面を構築している。

掘方 XII・XIII層の黄褐色砂質土を掘り込んで構築している。壁際から長径0.68～1.78mの歪んだ楕円形の窪みを検出した。

カマドと貯蔵穴 カマドと貯蔵穴は検出されなかった。

遺物 床面から土師器の杯(9)、掘方から須恵器の皿(10)が出土した。

時代 平安時代9世紀後半。

23号住居(第547~550図、PL.290・291)

グリッド 13F 2

主軸方位 N53° E

重複 1・18・22・30号住居、31号土坑に切られる。

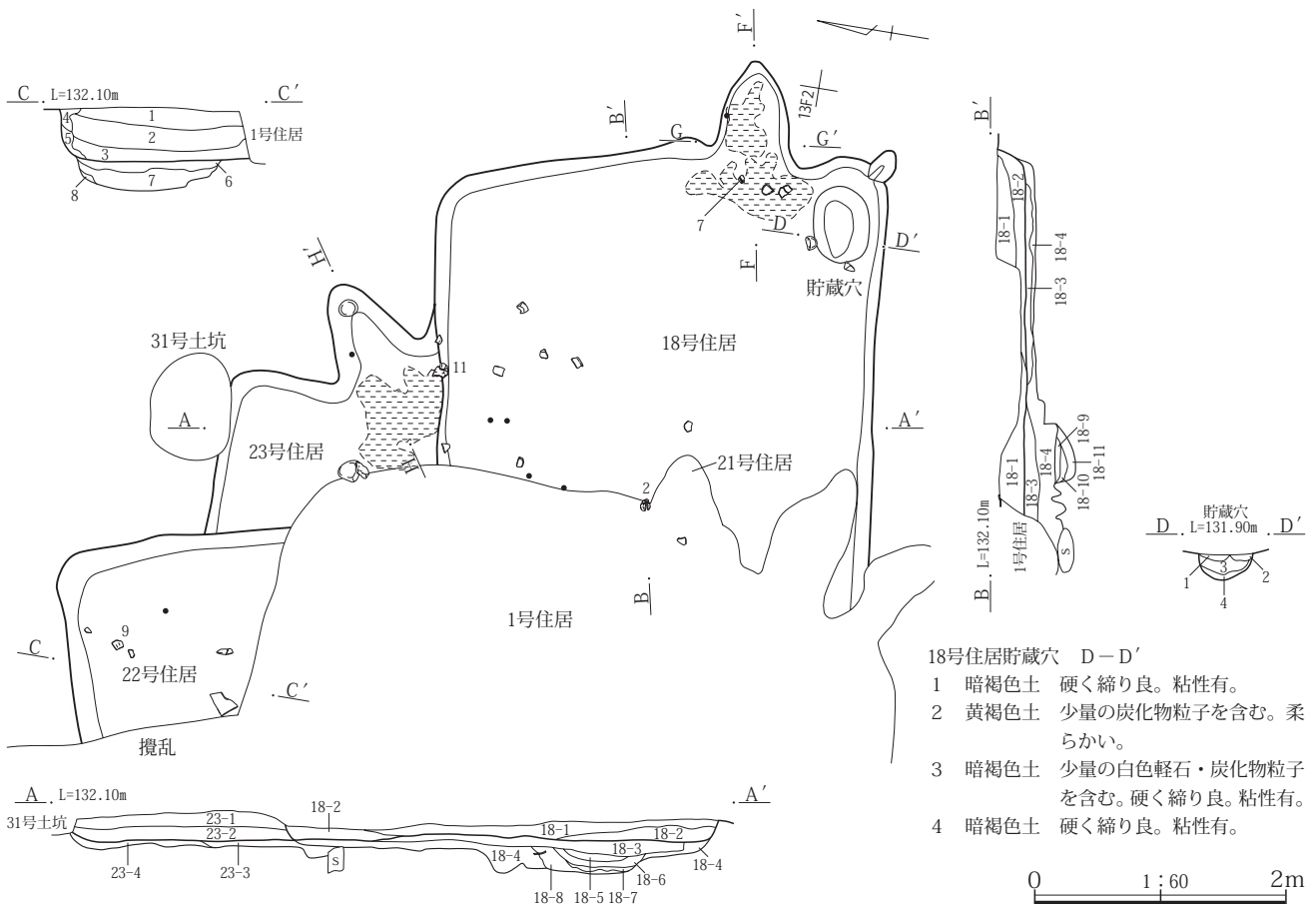
形状と規模 東西方向にカマドの長軸を有する竪穴住居と想定される。カマド周辺と竪穴の北東隅のみが検出され、それ以外は1・18・23号住居により失われている。長辺は2.71m+、短辺は1.22m+、深さは0.25m、検出された最大の面積は3.68㎡である。

埋土 ニツ岳の白色軽石を含む暗褐色土からなる。

床面 黒褐~黄褐色土を0.05mほど貼って、平坦な床面を構築している。

掘方 XII・XIII層の灰黄褐色砂質土を掘り込んで、掘方を構築している。

カマド 東壁に位置する。カマドの燃焼部は東壁の奥を掘り込んで壁の外側に構築している。燃焼部底は水平で、約45°の勾配で立ち上がる。焚口付近で炭化物の広がりを出した。カマドの埋土は黒褐~暗褐色土からなる。



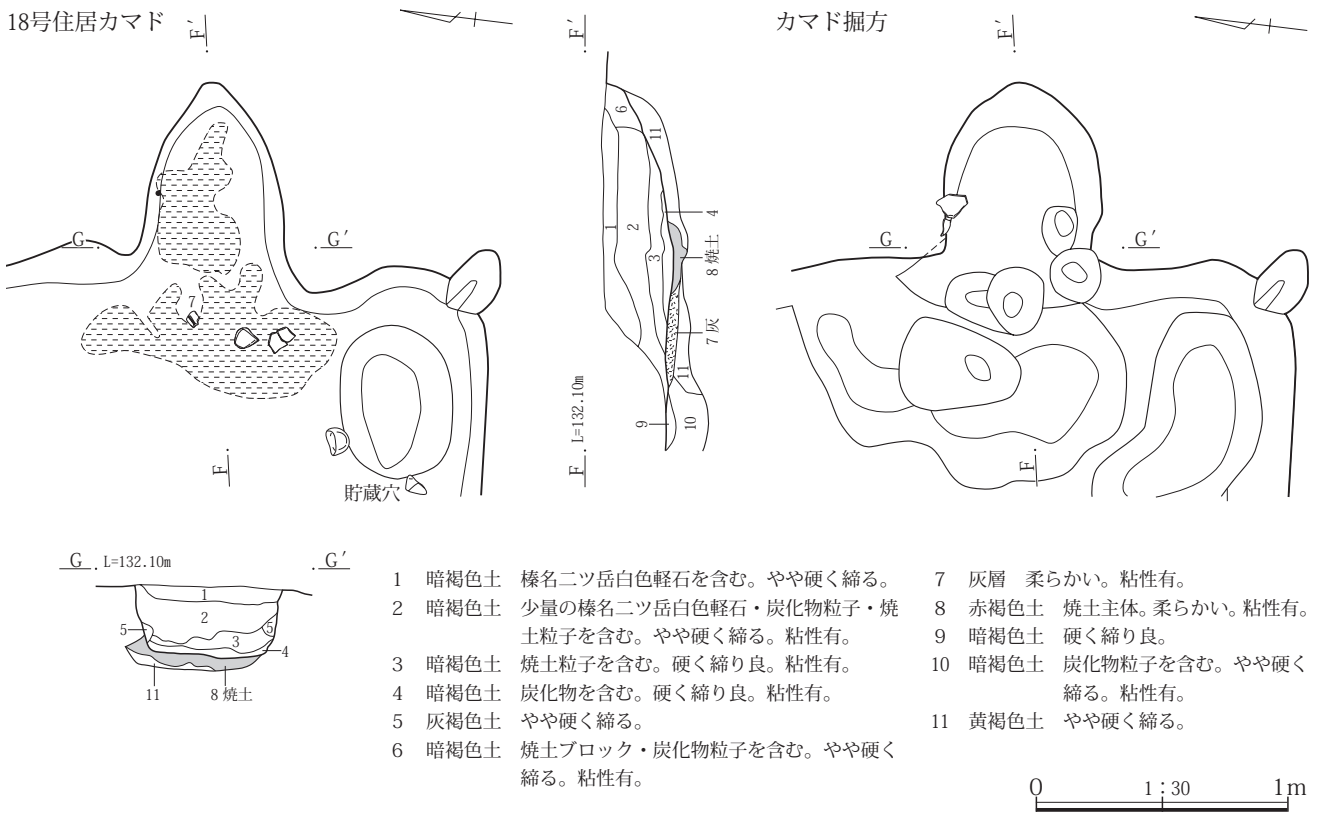
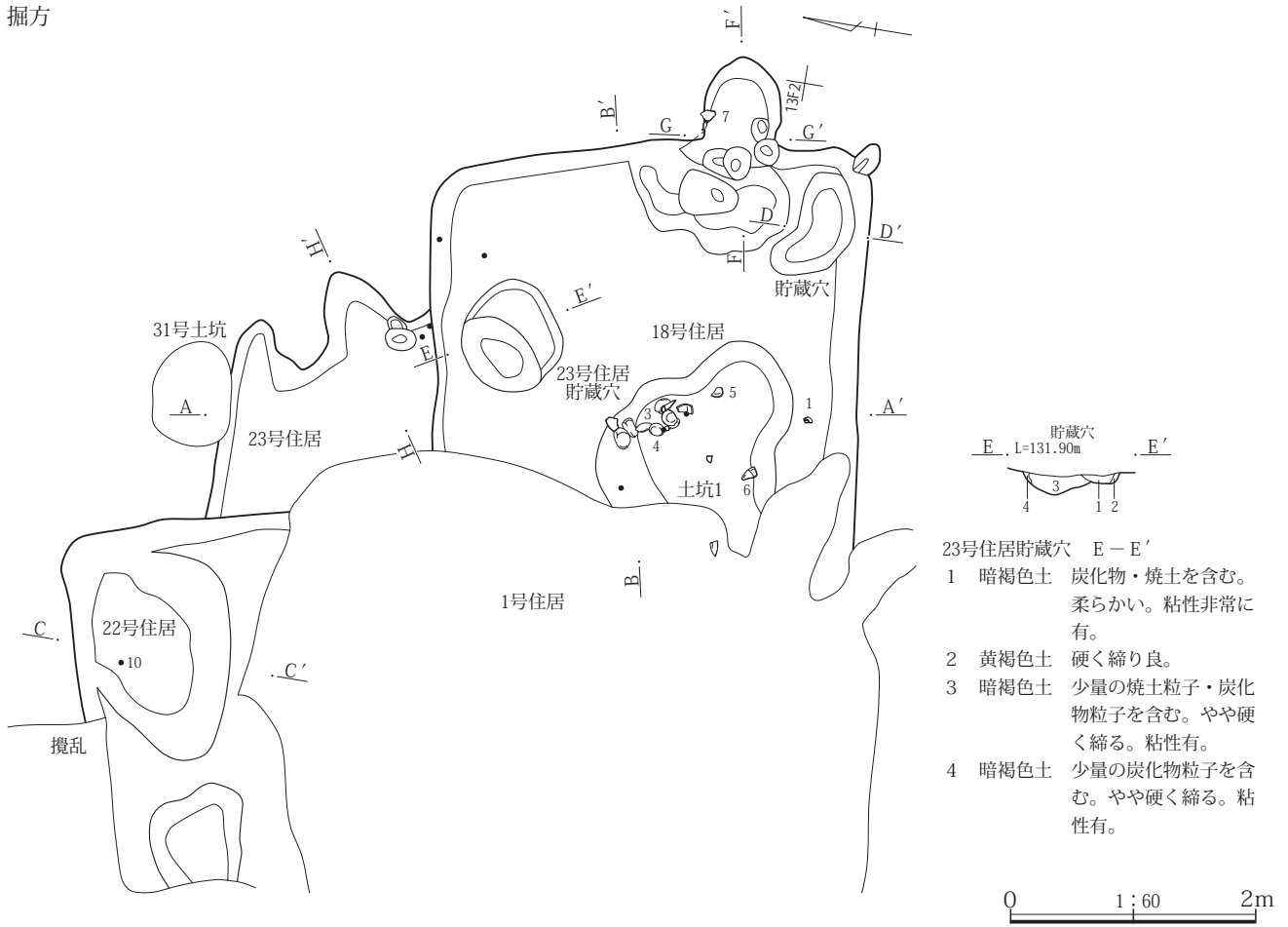
- 18号住居貯藏穴 D-D'
- 1 暗褐色土 硬く締り良。粘性有。
 - 2 黄褐色土 少量の炭化物粒子を含む。柔らかい。
 - 3 暗褐色土 少量の白色軽石・炭化物粒子を含む。硬く締り良。粘性有。
 - 4 暗褐色土 硬く締り良。粘性有。

- 18-1 暗褐色土 やや多く榛名ニツ岳白色軽石、少量の炭化物粒子を含む。やや硬く締る。
- 18-2 暗褐色土 少量の榛名ニツ岳白色軽石・黄褐色土ブロックを含む。やや硬く締る。粘性有。
- 18-3 暗褐色土 榛名ニツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 18-4 黄褐色土 硬く締り良。
- 18-5 暗褐色土 少量の榛名ニツ岳白色軽石・炭化物粒子を含む。硬く締り良。粘性有。
- 18-6 暗褐色土 18-5層土より明るい色調。硬く締り良。粘性有。
- 18-7 暗褐色土 18-6層土より暗い色調。やや硬く締る。粘性有。
- 18-8 黄褐色土 硬く締り良。粘性有。
- 18-9 灰褐色土 焼土ブロック・炭化物を含む。硬く締り良。粘性有。
- 18-10 灰褐色土 柔らかい。
- 18-11 灰褐色土 硬く締り良。
- 23-1 暗褐色土 榛名ニツ岳白色軽石・炭化物粒子を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 23-2 暗褐色土 炭化物を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 23-3 黒褐色土 多量の炭化物を含む。硬く締り良。粘性有。
- 23-4 黄褐色土 硬く締り良。

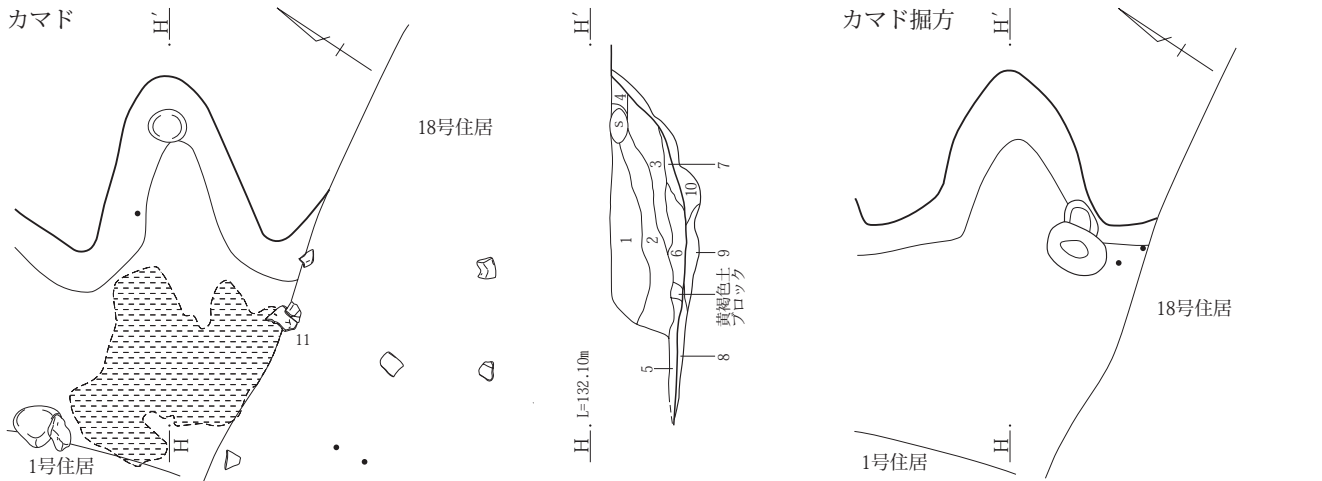
- 22号住居 C-C'
- 1 暗褐色土 やや多く榛名ニツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。
 - 2 暗褐色土 榛名ニツ岳白色軽石・炭化物粒子を含む。やや硬く締る。粘性有。
 - 3 暗褐色土 少量の榛名ニツ岳白色軽石・炭化物粒子を含む。やや硬く締る。粘性有。
 - 4 灰褐色土 少量の榛名ニツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。
 - 5 暗褐色土 少量の榛名ニツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。
 - 6 褐色土 榛名ニツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。粘性有。
 - 7 暗褐色土 榛名ニツ岳白色軽石・黄褐色土粒子を含む。やや硬く締る。粘性有。
 - 8 黄褐色土 硬く締り良。

第547図 X区18・22・23号住居(1)

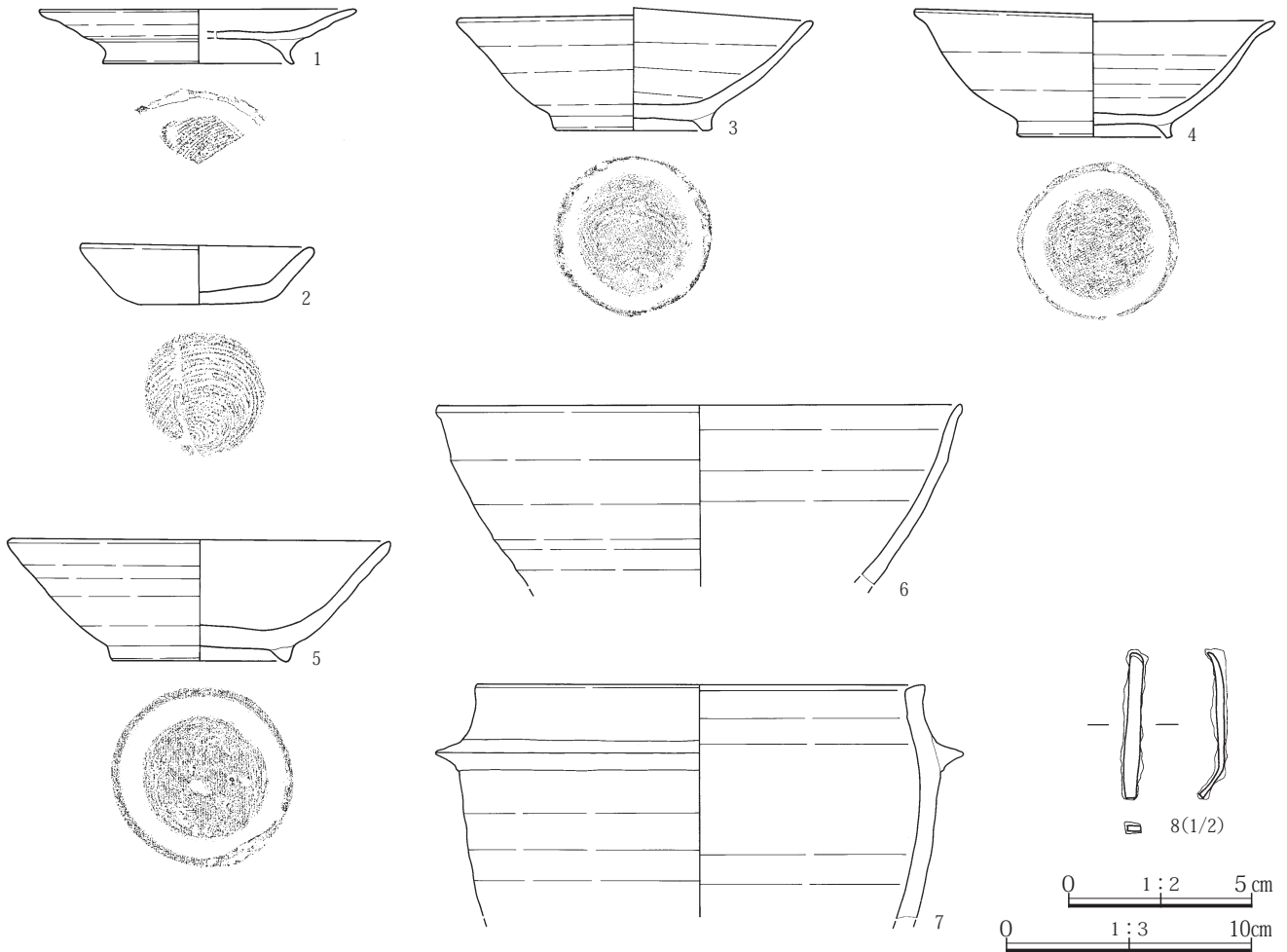
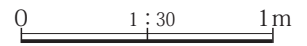
掘方



第548図 X区18・22・23号住居(2)

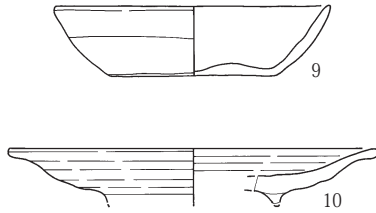


- 1 暗褐色土 榛名二ツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 2 暗褐色土 少量の焼土粒子・炭化物粒子を含む。硬く締り良。粘性有。
- 3 暗褐色土 焼土ブロック・炭化物を含む。硬く締り良。粘性有。
- 4 暗褐色土 少量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 5 黒褐色土 多量の炭化物を含む。硬く締り良。粘性有。
- 6 暗褐色土 やや多く焼土・炭化物を含む。硬く締り良。粘性非常に有。
- 7 褐色土 焼土粒子・炭化物粒子を含む。硬く締り良。粘性非常に有。
- 8 黒褐色土 多量の炭化物を含む。柔らかい。粘性有。
- 9 黄褐色土 硬く締り良。
- 10 暗褐色土 焼土粒子・炭化物粒子を含む。硬く締り良。

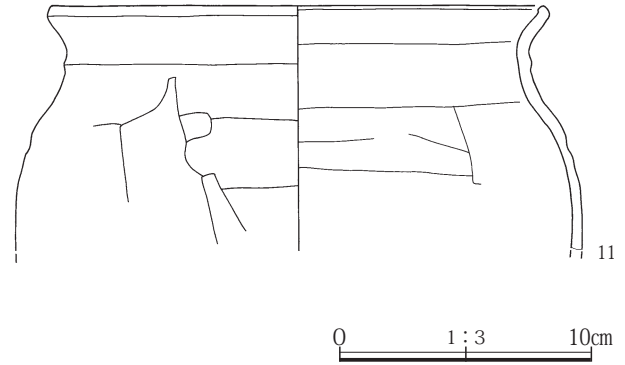


第549図 X区23号住居と18号住居の出土遺物

22号住居



23号住居



第550図 X区22・23号住居の出土遺物

カマドは長さ1.22m、幅0.63m、深さ0.35mである。
貯蔵穴 カマドの南側にあたる18号住居の掘方から長径0.87m、短径0.82m、深さ0.25m楕円形の土坑を検出した。土坑は位置や形状から23号住居に帰属し、貯蔵穴と考えられる。
遺物 カマド使用面から土師器の甕(11)が出土した。
時代 平安時代9世紀第4四半期。

覆われる。これは崩落したカマドの天井と考えられる。
カマドは長さ1.39m、幅0.46m、深さ0.41mである。貯蔵穴は検出されなかった。
柱穴 柱穴は検出されなかった。床面に支柱穴を持たない構造の竪穴住居と想定される。
遺物 埋土から須恵器の羽釜(1)が出土した。
時代 平安時代10世紀前半。

19号住居(第551・552図、PL.288・436)

グリッド 13H5
主軸方位 N63°E

重複 55号土坑に切られる。31号住居、44号土坑を切る。
形状と規模 北東～南西方向に長軸を有し、隅丸長方形を呈する竪穴住居で、南部の一部は55号土坑により失われ、北部は調査区外に存在する。長辺は3.80m+、短辺は3.20m+、深さ0.23m、検出された最大の面積は5.33㎡である。

埋土 ニツ岳の白色軽石を含む暗褐色土からなる。
床面 暗褐～黄褐色土を0.10mほど貼って、ほぼ平坦な床面を構築している。

掘方 XII・XIII層の黄褐色砂質土を掘り込んで、掘方を構築している。壁際から浅い方形の窪みを検出した。

カマドと貯蔵穴 東壁の南東隅寄りに位置する。カマドの燃烧部は東壁の奥を掘り込んで壁の外側に構築している。燃烧部底は水平で、緩やかに傾きながら煙道に続くが、その境界は不明瞭である。煙道は奥壁で垂直に立ち上がる。燃烧部から焼土ブロック、焚口付近で炭化物の広がりを検出した。カマドの埋土は焼土ブロックを含む暗褐色土からなり、燃烧部底は焼土からなる赤褐色土に

31号住居(第551・552図、PL.293)

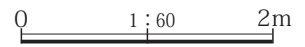
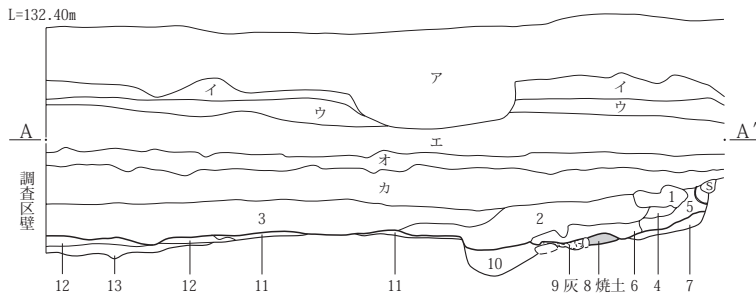
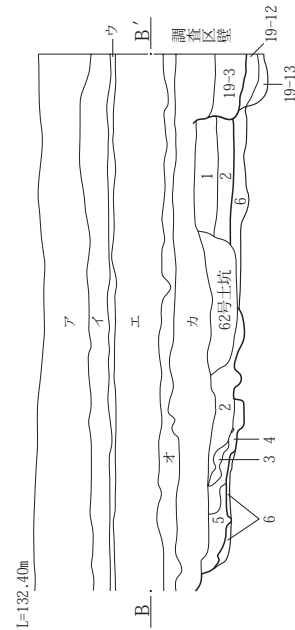
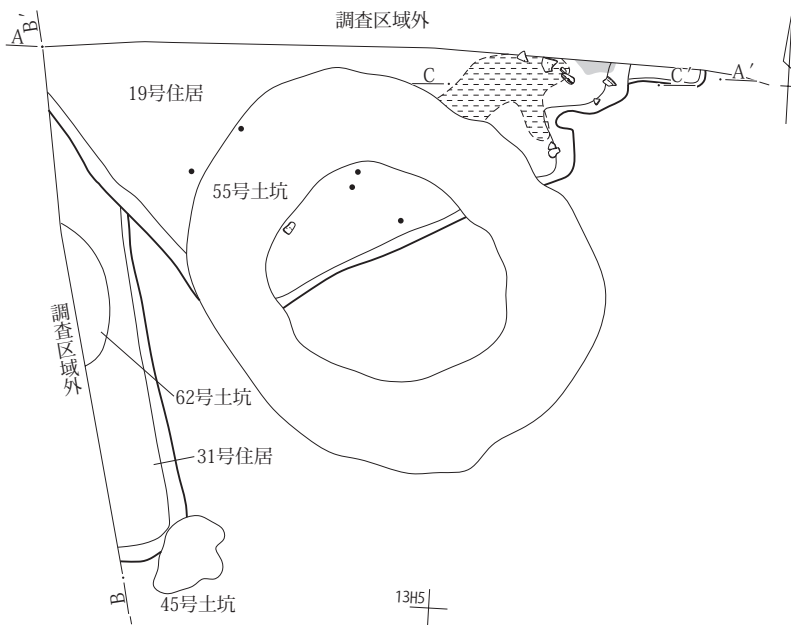
グリッド 3H5
主軸方位 N78°E

重複 19号住居、45・62号土坑に切られる。
形状と規模 南北方向に長軸を有し、隅丸方形を呈する竪穴で東壁と南東隅のみを検出した。竪穴の北部は19号住居により失われ、西部の大部分は調査区外に存在する。長辺は3.60m+、短辺は0.53m+、深さは0.14m、検出された最大の面積は1.44㎡である。

埋土 ニツ岳の白色軽石を含む暗褐色土からなる。
床面 灰黄褐色土を0.14mほど厚く貼って、床面を構築している。

掘方 XII・XIII層の黄褐色砂質土を掘り込んで掘方を構築している。

カマドと貯蔵穴 カマドと貯蔵穴は検出されなかった。
遺物 埋土から土師器の杯(2)が出土した。
時代 平安時代9世紀後半。



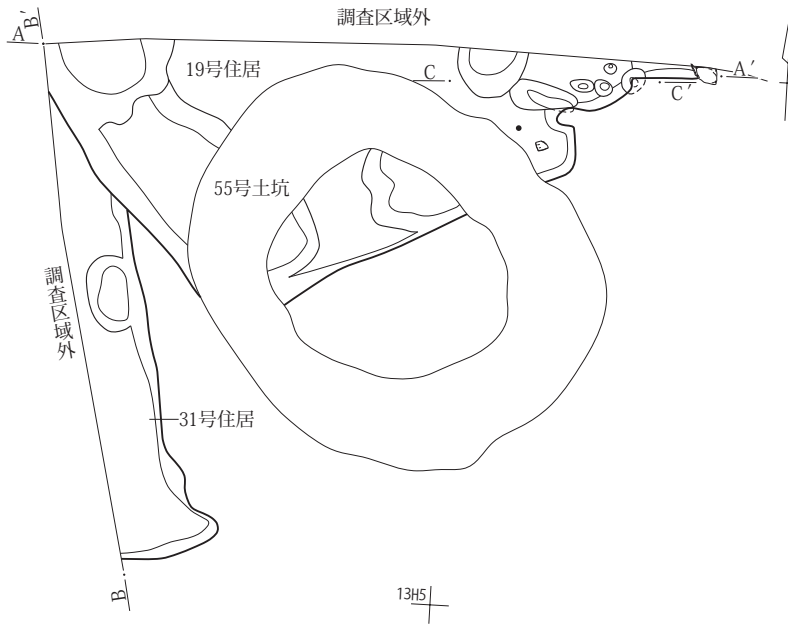
19号住居

- ア 盛土
- イ 水田耕土
- ウ 酸化鉄分層
- エ 暗褐色土 榛名二ツ岳白色軽石を含む。硬く締る。
- オ 酸化鉄分層 砂利層を含む。
- カ 暗褐色土 多量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。
- 1 黄白色土 やや硬く締る。=カマド天井部
- 2 暗褐色土 榛名二ツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 3 暗褐色土 榛名二ツ岳白色軽石・炭化物粒子を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 4 黄褐色土 やや硬く締る。=カマド天井部の崩落部
- 5 暗褐色土 少量の榛名二ツ岳白色軽石・焼土・炭化物を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 6 暗褐色土 焼土ブロック・炭化物を含む。硬く締り良。粘性有。
- 7 暗褐色土 黄褐色土ブロックを含む。やや硬く締る。粘性有。
- 8 赤褐色土 焼土主体。炭化物を含む。硬く締り良。粘性有。
- 9 灰 非常に柔らかい。粘性有。
- 10 黒褐色土 多量の炭化物を含む。硬く締り良。粘性有。
- 11 暗褐色土 炭化物粒子を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 12 黄褐色土 少量の炭化物を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 13 暗褐色土 少量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。硬く締り良。粘性有。

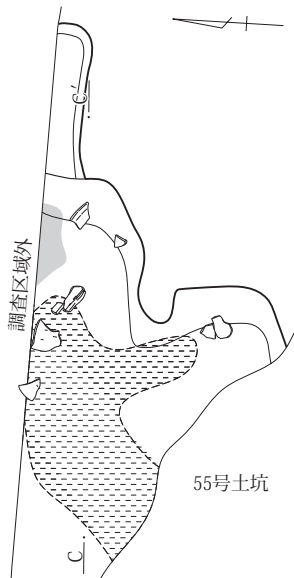
31号住居

- ア 盛土
- イ 水田耕土
- ウ 酸化鉄分層
- エ 暗褐色土 榛名二ツ岳白色軽石を含む。硬く締る。
- オ 酸化鉄分層 榛名二ツ岳白色軽石を含む。
- カ 暗褐色土 多量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。
- 1 暗褐色土 榛名二ツ岳白色軽石・炭化物を含む。やや硬く締る。
- 2 暗褐色土 少量の炭化物粒子を含む。硬く締り良。粘性有。
- 3 黄褐色土 硬く締り良。
- 4 暗褐色土 多量の炭化物を含む。硬く締り良。
- 5 暗褐色土 少量の榛名二ツ岳白色軽石・炭化物粒子を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 6 灰褐色土 硬く締り良。粘性有。

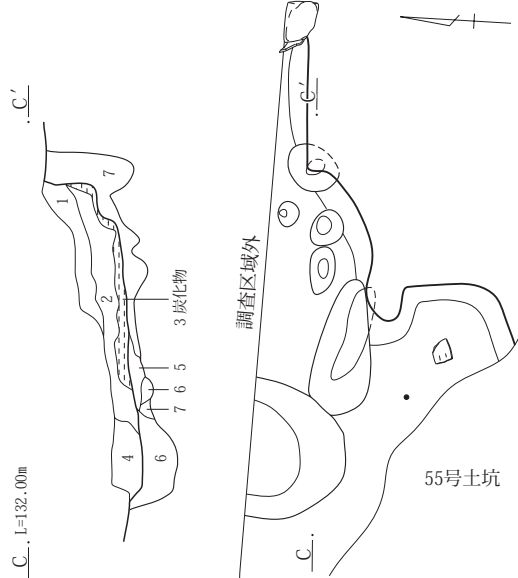
掘方



19号住居カマド

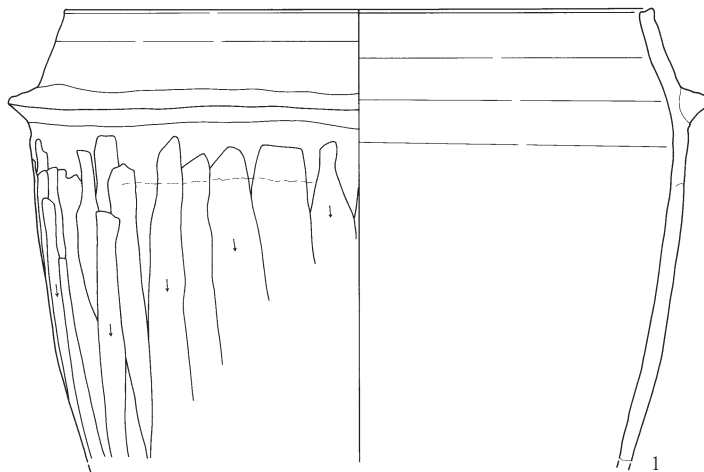


カマド掘方



- 1 暗褐色土 榛名二ツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。
- 2 暗褐色土 少量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 3 赤褐色土 多量の焼土・炭化物を含む。硬く締り良。粘性有。
- 4 暗褐色土 微量の焼土粒子・炭化物粒子を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 5 褐色土 硬く締り良。粘性有。
- 6 暗褐色土 炭化物・焼土粒子を含む。硬く締り良。粘性有。
- 7 黒褐色土 多量の炭化物を含む。硬く締り良。粘性有。
- 8 黄褐色土 柔らかい。粘性有。

19号住居



31号住居



第552図 X区19・31号住居と出土遺物

20号住居(第553図、PL.289)

グリッド 13H 3

主軸方位 N76° E

重複 26号土坑に切られる。24号住居を切る。

形状と規模 東西方向にカマドの長軸を有する竪穴住居と想定される。カマドのみ検出され、それ以外は調査区域外に存在する。

カマド埋土 ニツ岳の白色軽石を含む暗褐色土からなる。

カマド掘方 24号住居埋土を掘り込んでニツ岳の白色軽石を含む暗褐色土を貼って構築している。

カマド 竪穴住居内のカマドの位置は不明である。カマドの燃烧部は壁から奥を掘り込んで壁の外側に構築していると想定される。燃烧部水平で、奥壁は急な勾配で立ち上がる。燃烧部の左右の壁には長径0.20~0.32mの垂円礫3点が垂直に据えられており、これらはカマドの構築材である。燃烧部底には灰や炭化物の薄層を検出した。カマドは長さ0.44m、幅0.47m、深さ0.39mである。

遺物 なし。

時代 8世紀後半に帰属する24号住居よりも新しいので、8世紀後半以降の奈良・平安時代である。

21号住居(第554図、PL.289)

グリッド 13F 2

主軸方位 N80° E

重複 1号住居に切られる。18号住居を切る。

形状と規模 東西方向にカマドの長軸を有する竪穴住居と想定される。カマドのみ検出され、それ以外は1号住居により失われている。

カマド埋土 ニツ岳の白色軽石を含む暗褐色土からなる。

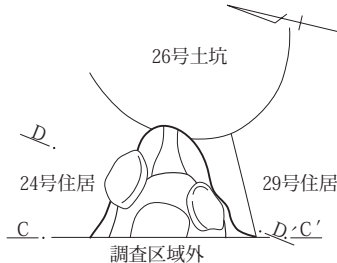
カマド掘方 18号住居埋土を掘り込んで暗褐色土が成層する。

カマド 竪穴住居内のカマドの位置は不明である。カマドの燃烧部は壁から奥を掘り込んで壁の外側に構築していると想定される。燃烧部底は水平である。燃烧部の左右の壁には長径0.20~0.28m、短径0.20mの垂円礫2点が据えられており、これらはカマドの構築材である。カマドは長さ0.46m、幅0.53m、深さ0.15mである。

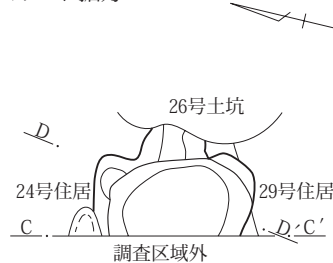
遺物 カマド使用面から須恵器の羽釜(1)が出土した。

時代 平安時代10世紀後半。

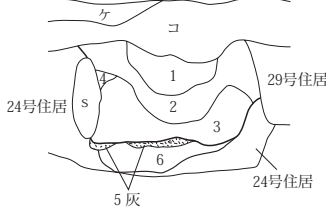
カマド



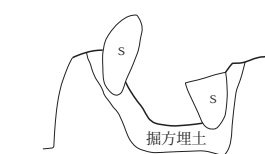
カマド掘方



L=132.20m
C C'



D, L=132.20m D'

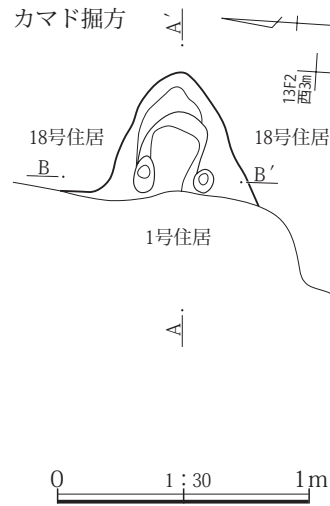
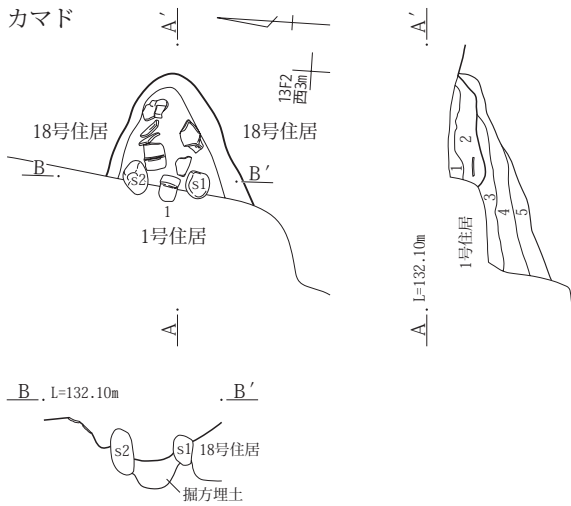


0 1:30 1m

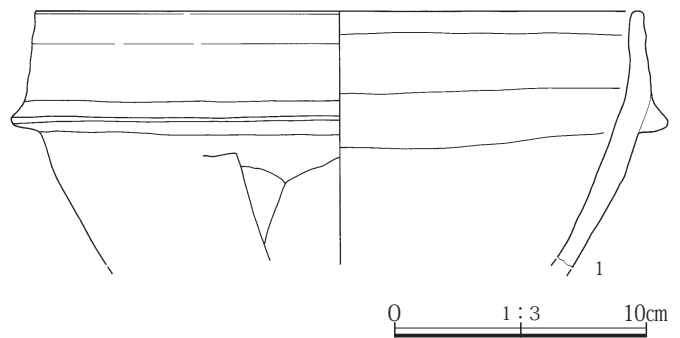
- ク 酸化鉄分層
- ケ 暗褐色土 榛名ニツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。
- コ 暗褐色土 榛名ニツ岳白色軽石・炭化物粒子を含む。やや硬く締る。
- 1 暗褐色土 炭化物粒子を含む。硬く締り良。粘性有。
- 2 暗褐色土 少量の榛名ニツ岳白色軽石・炭化物粒子を含む。硬く締り良。粘性非常に有。
- 3 暗褐色土 焼土粒子・炭化物粒子を含む。硬く締り良。粘性非常に有。
- 4 茶褐色土 やや硬く締る。
- 5 黒褐色土 多量の灰を含む。硬く締り良。粘性有。
- 6 暗褐色土 灰褐色土ブロックを含む。硬く締り良。粘性有。

第553図 X区20号住居

第4章 第2面の遺構と出土遺物



- 1 暗褐色土 少量の白色軽石・炭化物粒子を含む。やや硬く締る。
- 2 暗褐色土 炭化物粒子・焼土粒子を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 3 暗褐色土 少量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 4 暗褐色土 少量の榛名二ツ岳白色軽石・黄褐色土ブロックを含む。やや硬く締る。粘性有。
- 5 暗褐色土 少量の榛名二ツ岳白色軽石・炭化物粒子を含む。やや硬く締る。粘性有。



第554図 X区21号住居の出土遺物

27号住居(第555・556図、PL.292・436)

グリッド 13G 1

主軸方位 E W

重複 1・2・4号住居に切られる。18号住居、41・60号土坑を切る。発掘調査時に27・28号住居として調査したが、資料整理で27号住居に統合した。

形状と規模 東西方向に長軸を有し、方形を呈する竪穴で、掘方のみが検出された。北部は1号住居、南東部は2号住居により失われている。長辺は4.51m、短辺は4.14m、深さ0.38m、検出された最大の面積は10.54㎡である。

埋土 ニツ岳の白色軽石を含む暗褐色土からなる。

掘方 XII・XIII層の黄褐色砂質土を掘り込んで、掘方を構築している。南東隅の壁際から長径0.59m、短径0.50m、深さ0.15mの土坑1を検出した。

カマドと貯蔵穴 東壁の南東隅寄りに2基の溝状の窪みが位置し、カマドの痕跡と考えられる。カマドの燃焼部は東壁の奥を掘り込んで壁の外側に構築している。埋土は焼土や炭化物を含む暗褐色土からなるが、燃焼部底は失われている。カマドは長さ0.90m、幅0.57~0.68m、

深さ0.06~0.07mである。貯蔵穴は検出されなかった。柱穴 柱穴は検出されなかった。床面に主柱穴を持たない構造の竪穴住居と想定される。

遺物 床面から土師器の甕(1)、埋土から角棒状鉄製品(2)が出土した。

時代 平安時代10世紀後半。

30号住居(第557図、PL.291・293)

グリッド 13F 2

主軸方位 N84° E

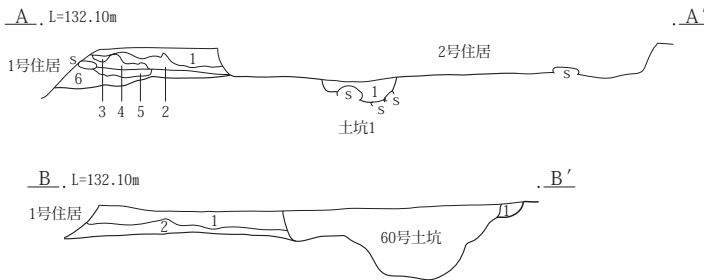
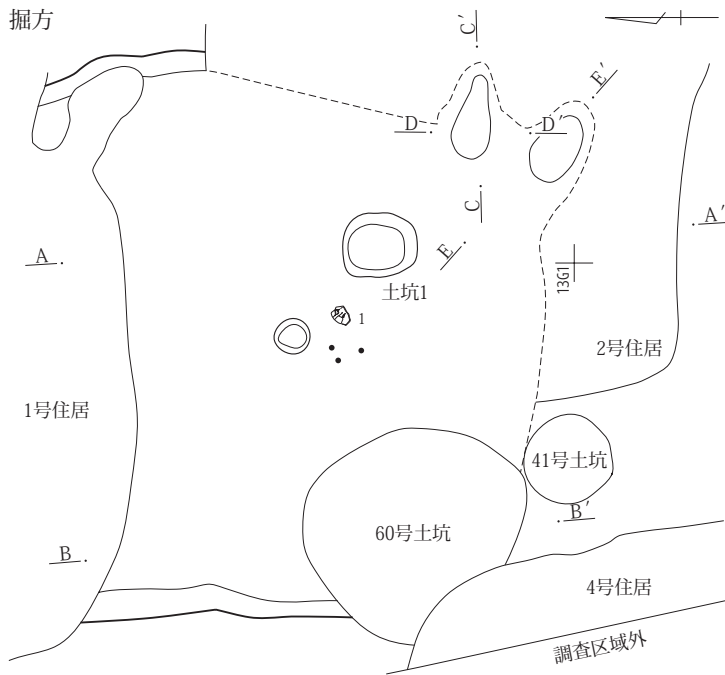
重複 1号住居に切られる。18・23号住居を切る。

形状と規模 東西方向にカマドの長軸を有する竪穴住居と想定される。カマドのみ検出され、それ以外は1号住居により失われている。

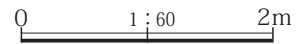
カマド埋土 暗褐~黒色土からなる。

カマド掘方 暗褐~黄褐色土が成層する。

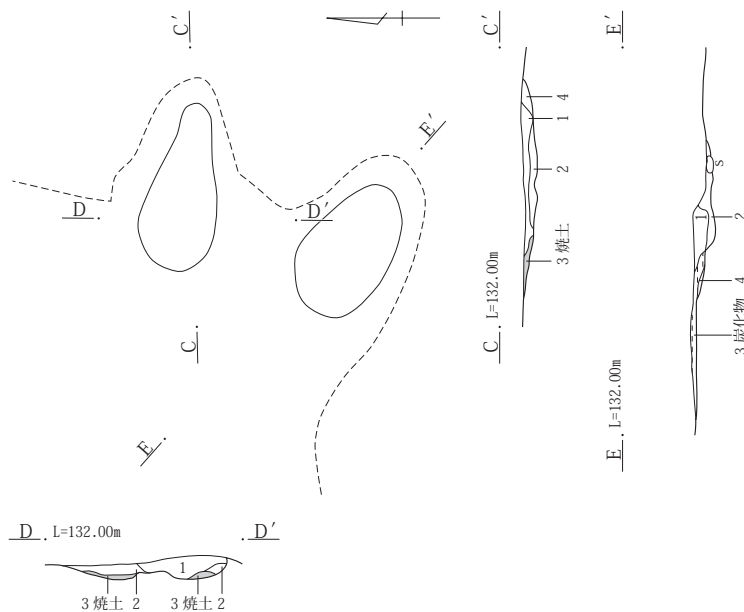
カマド 竪穴住居内のカマドの位置は不明である。カマドの燃焼部は壁から奥を掘り込んで壁の外側に構築していると想定される。燃焼部底は水平で、緩やかに立ち上



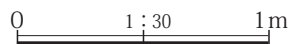
- 1 暗褐色土 少量の榛名ニツ岳白色軽石を含む。灰褐色土ブロックを含む。硬く締り良。
- 2 暗褐色土 少量の炭化物粒子を含む。硬く締り良。粘性有。
- 3 黄褐色土 硬く締り良。
- 4 暗褐色土 炭化物粒子を含む。硬く締り良。粘性有。
- 5 暗褐色土 少量の炭化物粒子を含む。硬く締り良。粘性有。
- 6 暗褐色土 炭化物粒子を含む。硬く締り良。粘性有。



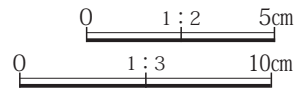
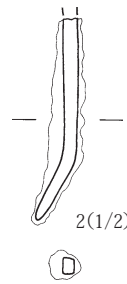
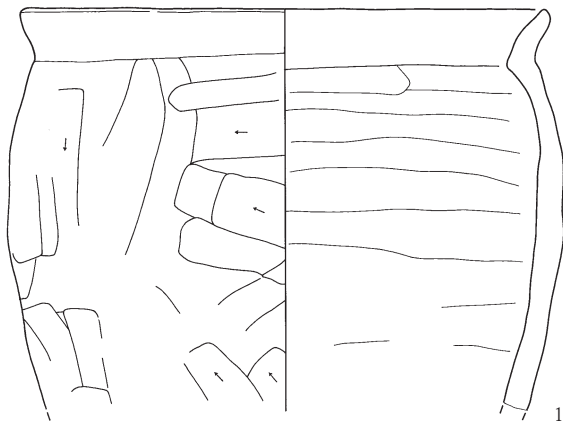
カマド掘方



- C-C'・D-D'
- 1 暗褐色土 少量の焼土粒子・炭化物粒子を含む。やや硬く締る。粘性有。
 - 2 黒褐色土 多量の炭化物を含む。硬く締り良。粘性有。
 - 3 褐色土 やや多く焼土を含む。硬く締り良。粘性有。
 - 4 暗褐色土 少量の焼土粒子・炭化物粒子を含む。硬く締り良。粘性有。
- E-E'
- 1 茶褐色土 焼土ブロック・炭化物を含む。硬く締り良。粘性有。
 - 2 暗褐色土 炭化物・焼土ブロックを含む。硬く締り良。
 - 3 黒色土 炭化物主体の層。硬く締り良。粘性有。
 - 4 黄褐色土 焼土粒子を含む。硬く締り良。



第555図 X区27号住居



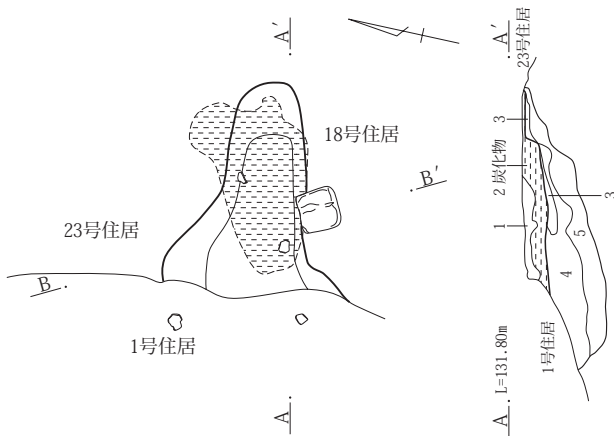
第556図 X区27号住居の出土遺物

がる。燃烧部の右壁には直径0.32mの垂角礫が据えられており、これはカマドの構築材である。カマドの南側の壁際から長径0.95m、短径0.55m、深さ0.07mの浅い歪んだ楕円形の窪みを検出した。カマドは長さ1.12m、幅0.94m、深さ0.34mである。

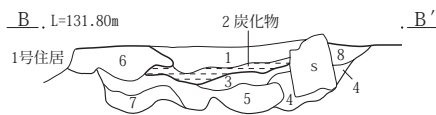
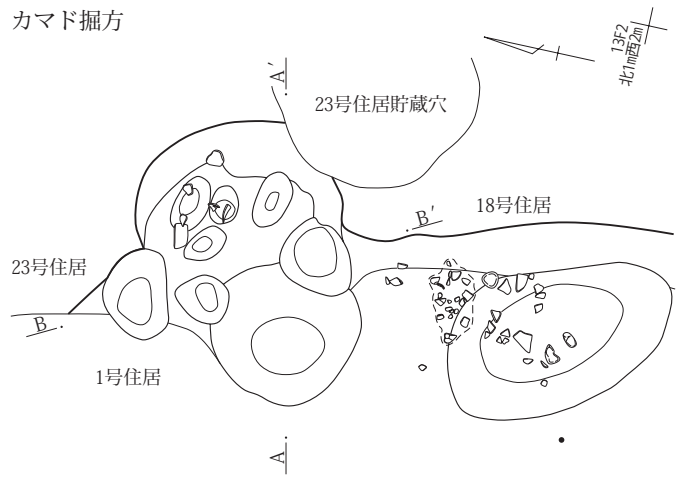
遺物 なし。

時代 10世紀第4四半期に帰属する1号住居よりも旧く、10世紀前半に帰属する18号住居よりも新しいことから平安時代10世紀第3四半期と想定される。

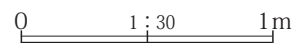
カマド



カマド掘方



- 1 褐色土 少量の焼土粒子・炭化物粒子を含む。硬く締り良。
- 2 黒色土 多量の炭化物と焼土ブロックを含む。硬く締り良。粘性有。
- 3 灰褐色土 硬く締り良。
- 4 暗褐色土 少量の炭化物を含む。硬く締り良。粘性有。
- 5 茶褐色土 少量の炭化物・焼土粒子を含む。硬く締り良。粘性非常に有。
- 6 黄褐色土 少量の炭化物粒子・焼土粒子を含む。硬く締り良。粘性非常に有。
- 7 黄褐色土 少量の焼土粒子を含む。硬く締り良。粘性非常に有。
- 8 暗褐色土 少量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。粘性有。



第557図 X区30号住居

7. XI区

XI区で検出された住居は1棟のみで、平安時代10世紀の住居である。

4号住居(第558図、PL.294)

グリッド 2 K 4

主軸方位 N78° E

重複 なし。

形状と規模 幅が狭い調査区で東西方向の竪穴の壁と床を検出した。長辺は3.58m+、短辺は1.10m+、深さは0.22m、検出された最大の面積は3.15㎡である。

埋土 ニツ岳の白色軽石を含むにぶい黄褐～灰黄褐色シ

ルト質土が成層する。

床面 にぶい黄褐色シルト質土を0.10mほど貼って、平坦な床面を構築している。南壁際から炭化物の広がりを検出した。

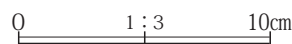
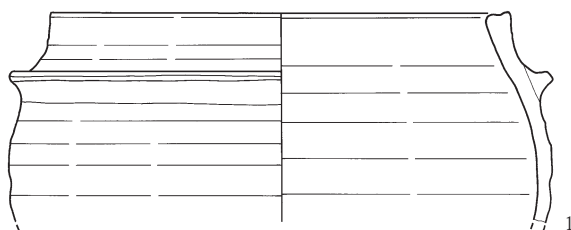
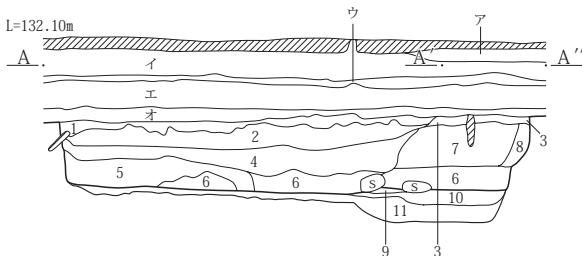
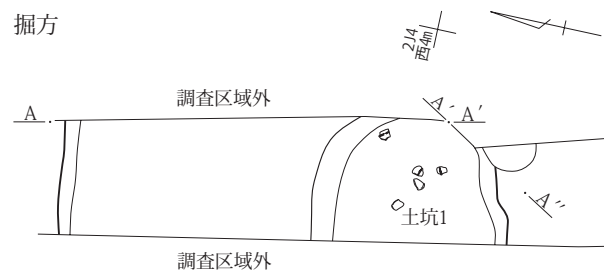
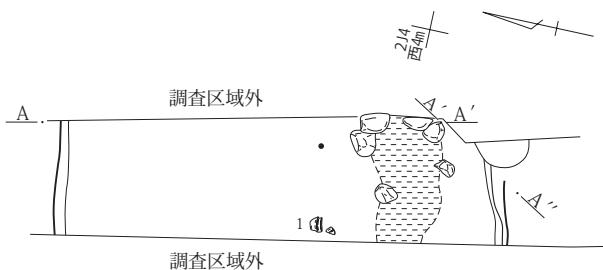
掘方 XII・XIII層の黄褐色砂質土を掘り込んで掘方を構築している。南壁際には長径1.49m、幅1.00m+、深さ0.23mの土坑1を検出した。

カマド カマドは検出されなかった。床面から炭化物の広がりが検出されており、カマドは調査区外に存在する可能性がある。

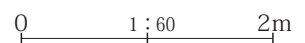
貯蔵穴と柱穴 貯蔵穴と柱穴は検出されなかった。

遺物 床面から須恵器の羽釜(1)が出土。

時代 平安時代10世紀前半。



- ア 暗褐色土(10YR3/3) 現代盛土。榛名ニツ岳白色軽石を含む。縮り強。
- イ 灰色土(5Y4/1) 水田耕作土。微量の榛名ニツ岳白色軽石を含む。縮り強。
- ウ 明褐色土(7.5YR5/6) 水田底土。鉄分沈着でイ層土が変色。縮り強。
- エ 褐灰色土(10YR4/1) 泥流層。微量の榛名ニツ岳白色軽石を含む。細砂混じり。縮り強。
- オ 灰褐色土(7.5YR5/2) 泥流層。微量の榛名ニツ岳白色軽石を含む。細砂混じり。
- 1 黒褐色土(10YR3/1) 土質やや粗い。鉄分沈着有り。少量の榛名ニツ岳白色軽石を含む。縮り強。
- 2 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 榛名ニツ岳白色軽石を含む。縮り強。
- 3 黒褐色土(10YR3/1) 少量の榛名ニツ岳白色軽石を含む。縮り強。粘性やや有。
- 4 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 2層土よりも軽石少ない。
- 5 にぶい黄褐色シルト質土(10YR4/3) ローム土混じり。縮り強。
- 6 黒褐色土(10YR3/2) 土質ほぼ均一。
- 7 暗褐色シルト質土(10YR3/3) 少量の榛名ニツ岳白色軽石大粒を含む。縮り強。
- 8 灰黄褐色土(10YR4/2) 少量の榛名ニツ岳白色軽石を含む。
- 9 にぶい黄褐色シルト質土(10YR5/4) 土質均一。
- 10 黒褐色土(10YR3/1) 灰層。焼土を混入する。
- 11 にぶい黄褐色シルト質土(10YR5/4) 土質均一。



第558図 XI区4号住居と出土遺物

8. XII区

XII区では平安時代他の竪穴住居が20棟検出された。時代別の遺構数では、平安時代が14棟、年代未詳の住居は6棟である。平安時代の住居は9世紀が1棟、10世紀が12棟、11世紀が1棟である。

1号住居(第559図、PL.295)

グリッド 201

主軸方位 N61°W

重複 17号ピットに切られる。

形状と規模 北東～南西方向に長軸を有し、方形を呈する竪穴で、東部以外は調査区外に存在する。長辺は2.76m+、短辺は2.38m+、深さは0.56m、検出された最大の面積は3.73㎡である。

埋土 ニツ岳の白色軽石を含む黒褐～にぶい黄褐色ブロック土からなる上層と黒褐色シルト質土からなる下層からなる。

床面 にぶい黄褐色土を0.05mほど薄く貼って、ほぼ平坦な床面を構築している。

掘方 XII・XIII層の黄褐色砂質土を掘り込んで構築しており、北壁際から溝状の窪みを検出した。

カマドと貯蔵穴 カマドと貯蔵穴は検出されなかった。

遺物 埋土から須恵器の椀(1)、甕(2)が出土した。

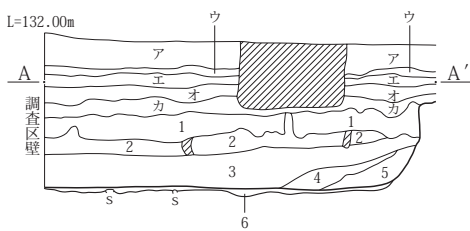
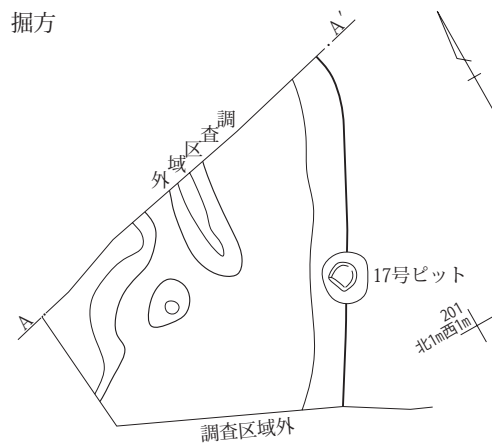
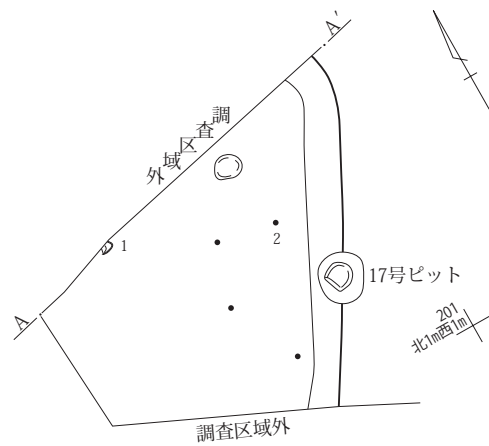
時代 平安時代10世紀後半。

2号住居(第560図、PL.296・436)

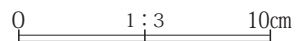
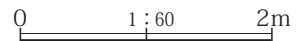
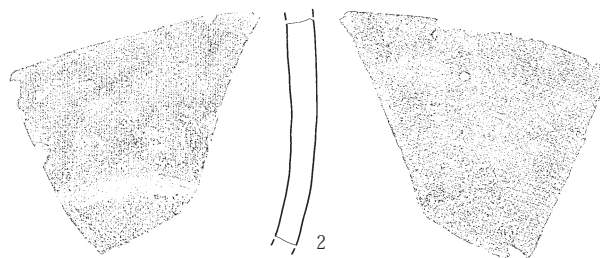
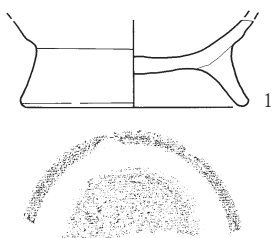
グリッド 2N1

主軸方位 N81°E

重複 4・10号土坑、16(1号掘立柱建物P6)・37号ピット



- ア 暗褐色土 現代耕作土。
- ウ 明褐色土 水田下部層。
- エ 褐灰色土
- オ 暗褐色土(10YR3/3)
- カ 暗褐色土(7.5YR3/4) 粗い砂質土。鉄分沈着有り。
- 1 黒褐色土(10YR3/2) 少量の榛名ニツ岳白色軽石を含む。締り強。
- 2 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム土混じり。微量の榛名ニツ岳白色軽石を含む。締り強。
- 3 黒褐色粘質土(10YR2/2) 土質均一。締り強。
- 4 黒褐色土(10YR3/2) 3層土に黄褐色砂質土を混入する。締りやや強。粘性有。
- 5 暗褐色砂質土(10YR3/3) 少量の4層土を混入する。締りやや弱。
- 6 にぶい黄褐色土(10YR5/4) 3層土に黄褐色砂粒を含む。粘性有。



第559図 XII区1号住居と出土遺物

ト(4号掘立柱建物P6)に切られる。

形状と規模 東西方向に長軸を有し、隅丸方形を呈する竪穴住居で北部は調査区外に存在する。長辺は2.48m、短辺は1.05m、深さは0.38m、検出された最大の面積は3.74㎡である。

埋土 ニツ岳の白色軽石を含む暗褐色土からなる。

床面 にぶい黄褐色シルト質土を0.10mほど貼って、平坦な床面を構築している。

掘方 Ⅶ・Ⅷ層の黄褐色砂質土を掘り込んで平坦な掘方を構築している。

カマドと貯蔵穴 東壁の南東隅寄りに位置し、カマドの燃焼部は東壁から奥を掘り込んで壁の外側に構築してい

る。燃焼部底は水平で、約45°の勾配で立ち上がる。燃焼部の左右壁には垂円礫のS1・2が据えられている。

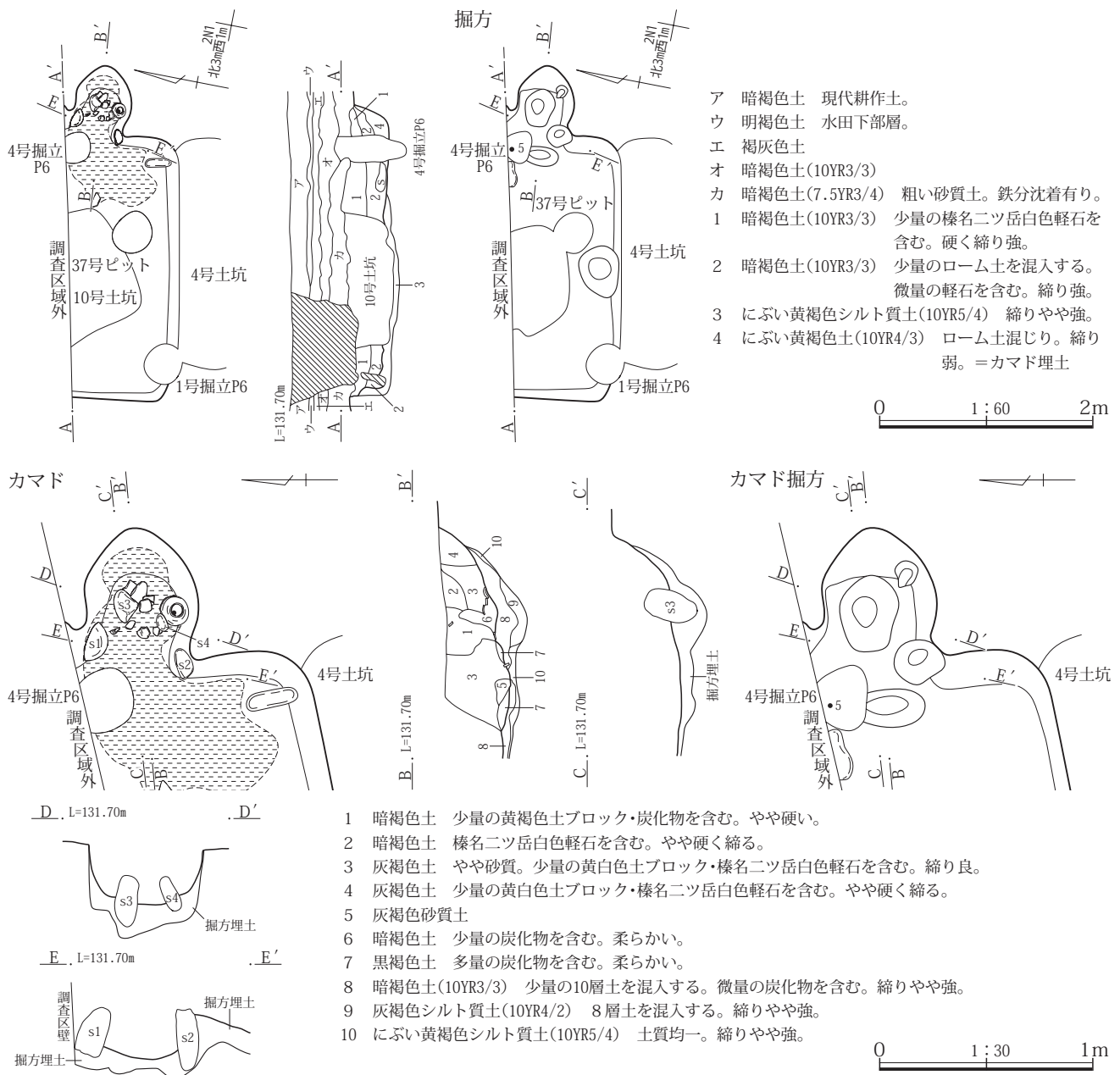
S1は長径0.39m、短径0.14m、厚さ0.23mで0.07m埋め込まれている。

S2は長径0.28m、短径0.10m、厚さ0.28mで0.12m埋め込まれている。

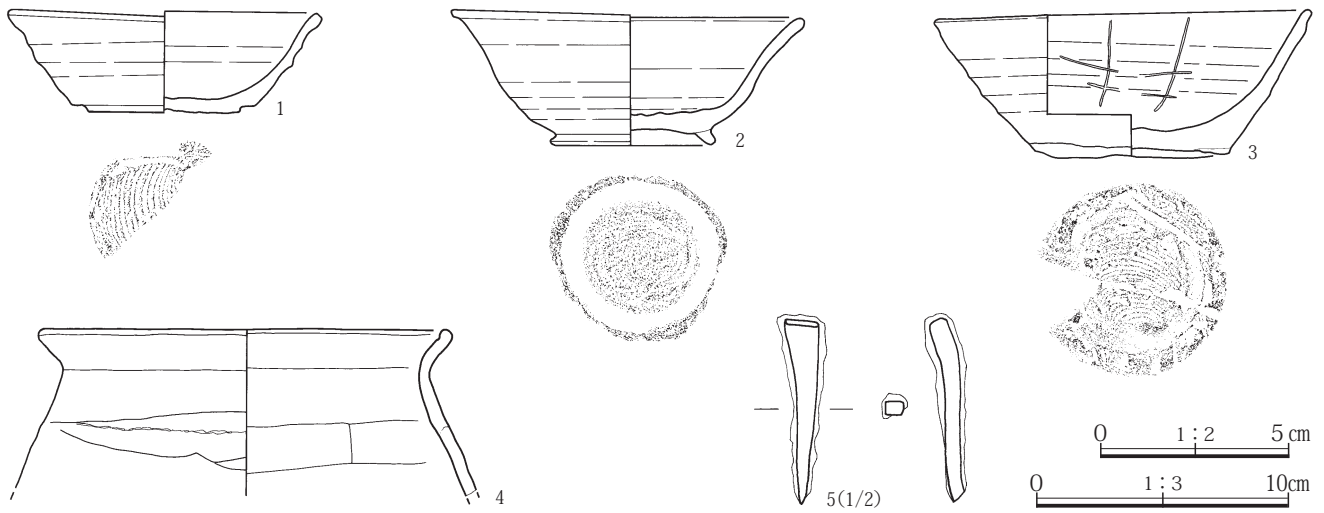
これらの礫はカマド構築材と考えられる。燃焼部の中央には小ぶりの垂円礫のS3・4が埋め込まれている。

S3は長径0.24m、短径0.14m、厚さ0.22mで0.13m埋め込まれている。

S4は長径0.17m、短径0.07m、厚さ0.16mで0.06m埋め込まれている。



第560図 XIII区2号住居



第561図 XII区2号住居の出土遺物

これらの礫は支脚と考えられる。燃烧部から焚口周辺で炭化物の広がりを検出した。カマドは長さ0.68m、幅0.45m、深さ0.29mである。貯蔵穴は検出されなかった。柱穴 床面で支柱穴と思われる柱穴は検出されなかった。支柱穴を持たない構造の竪穴住居と想定される。
遺物 カマド使用面から須恵器の杯(1)、カマド埋土から須恵器の碗(2・3)、土師器の甕(4)、掘方から鉄釘

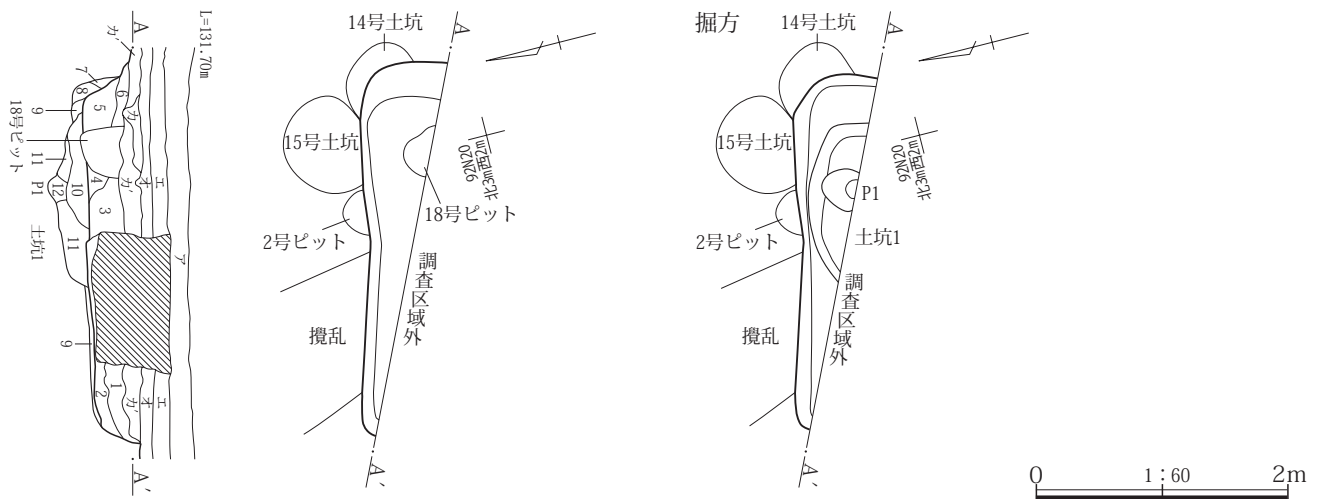
(5)が出土した。
時代 平安時代10世紀第1四半期。

3号住居(第562図、PL.297)

グリッド 92N20

主軸方位 N76°W

重複 14・15号土坑、2・18号ピットに切られる。



- ア 暗褐色土 現代耕作土。
- エ 褐灰色土
- オ 暗褐色土(10YR3/3)
- カ 暗褐色土(7.5YR3/4) 粗い砂質土。鉄分沈着有り。
- カ' カより鉄分沈着少ない。
- 1 黒褐色土(10YR3/2) 粗い砂を混入しザラザラ。少量のロームブロックを含む。締り強。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) ローム土との混土。少量の粗い砂混じり。
- 3 灰黄褐色土(10YR4/2) 土質均一。微量の榛名ニツ岳白色軽石を含む。
- 4 にぶい黄褐色シルト質土(10YR5/3) 微量の白色軽石を含む。

- 5 暗褐色土(10YR3/4) くすんだローム土混じり。締りやや強。
- 6 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 微量の鉄分沈着有り。
- 7 褐色土(10YR4/4) ローム土主体。
- 8 暗褐色土(10YR3/3) 土質均一。締り弱。
- 9 にぶい黄褐色シルト質土(10YR4/3) 少量の暗褐色土を混入する。
- 10 暗褐色土(10YR3/4) 少量のにぶい黄褐色土を混入する。締りやや強。=土坑1
- 11 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 10層土との混土。=土坑1
- 12 灰黄褐色土(10YR4/2) くすんだローム土混じり。=P1

第562図 XII区3号住居

形状と規模 東西方向に長軸を有し、隅丸方形を呈する竪穴で、南部の大部分は調査区外に存在する。長辺は2.95m、短辺は0.06m+、深さは0.23m、検出された最大の面積は0.74㎡である。

埋土 ニツ岳の白色軽石を含む暗褐～にぶい黄褐色土からなる。

床面 にぶい黄褐色シルト質土を0.04mほど薄く貼って、平坦な床面を構築している。

掘方 XII・XIII層の黄褐色砂質土を掘り込んで構築している。南壁際から長径0.30m、短径0.26m、深さ0.11mのP1を検出した。

カマドと貯蔵穴 カマドと貯蔵穴は検出されなかった。

遺物 なし。

時代 埋土から古墳時代後期から平安時代と想定される。

4号住居(第563・564図、PL.297・298・436)

グリッド 2M1

主軸方位 N87°W

重複 5・7・8号住居、33号土坑、1号鍛冶を切る。

形状と規模 東西方向に長軸を有し、隅丸長方形を呈する竪穴住居である。長辺は3.18m、短辺は2.96m+、深さは0.35m、検出された最大の面積は7.66㎡である。

埋土 ニツ岳の白色軽石を含む暗褐色土からなる。

床面 黒褐色土を0.10mほど貼り、平坦な床面を構築している。

掘方 XII・XIII層の黄褐色砂質土や7号住居埋土を掘り込んで平坦な掘方を構築している。

カマド 東壁の南東隅に位置する。カマドの燃焼部は東壁から奥を掘り込んで壁の外側に構築している。燃焼部底はほぼ水平で、奥壁は急な勾配で立ち上がる。燃焼部の左壁には長径0.23m、短径0.14m、厚さ0.22mの亜円礫が据えられており、これはカマド構築材である。燃焼部の奥壁は焼土帯が広がり、燃焼部から焚口付近は炭化物の広がりを検出し、炭化材の一部は樹種同定を実施した(第5章第3節参照)。カマド埋土は暗褐色土が成層し、燃焼部底を黒褐色の灰層が覆う。カマドは長さ1.14m、幅0.80m、深さ0.37mである。

貯蔵穴 南西隅の壁際で直径0.78m、深さ0.37mの円形の土坑を検出した。土坑は規模やカマドとの位置関係から貯蔵穴と考えられる。

柱穴 柱穴は検出されなかった。床面に支柱穴を持たない構造の竪穴住居と想定される。

遺物 床面付近とカマド使用面付近から土師器の甕(1)が出土した。

時代 平安時代10世紀後半。

5号住居(第563図、PL.298)

グリッド 2M1

主軸方位 N85°E

重複 4号住居、39(4号掘立柱建物P10)・46号ピットに切られる。

形状と規模 東西方向に長軸を有し、方形を呈する竪穴で、東部の大部分は4号住居により失われ、北部は調査区外に存在する。長辺は1.62m+、短辺は0.95m+、深さは0.19m、検出された最大の面積は1.35㎡である。

埋土 ニツ岳の白色軽石を含む暗褐色土からなる。

床面 黄褐色土を0.08mほど貼って、床面を構築している。南壁際から直径0.33m、深さ0.23mの小ピットであるP1を検出した。

掘方 XII・XIII層の黄褐色砂質土を掘り込んで平坦な掘方を構築している。

カマドと貯蔵穴 カマドと貯蔵穴は検出されなかった。

柱穴 支柱穴と思しき柱穴は検出されなかった。

遺物 なし。

時代 埋土から古墳時代後期から平安時代と想定され、10世紀後半に帰属する4号住居よりも旧いので10世紀以前である。

7号住居(第565～567図、PL.299・300・437)

グリッド 2M1

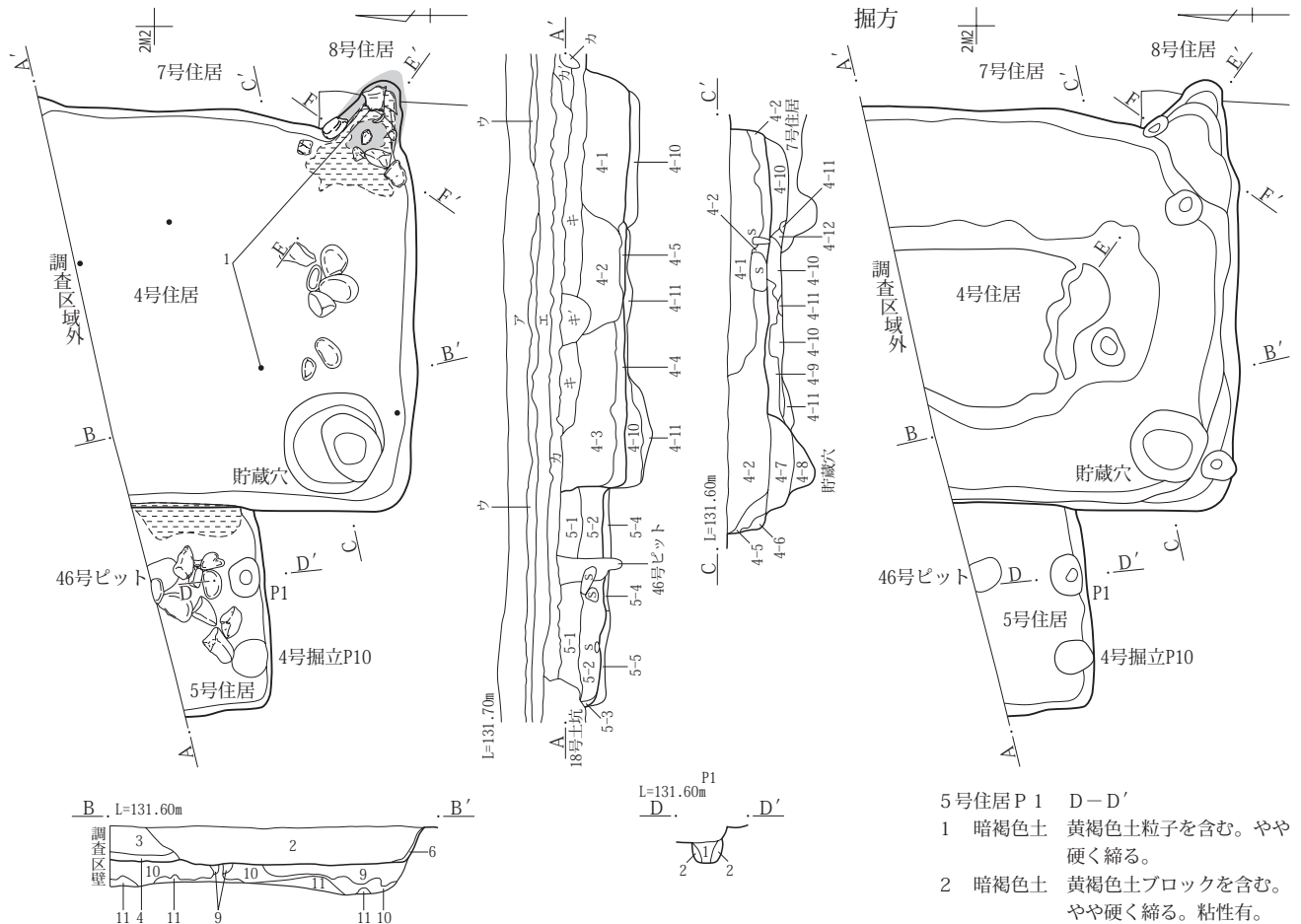
主軸方位 N87°W

重複 4号住居、1号鍛冶に切られる。8号住居、33号土坑を切る。

形状と規模 東西方向に長軸を有し、隅丸長方形を呈する竪穴住居である。北部は調査区外に存在する。長辺は3.00m、短辺は2.54m+、深さは0.48m、検出された最大の面積は5.68㎡である。

埋土 ニツ岳の白色軽石を含む暗褐～褐色シルト質土からなる。

床面 にぶい黄褐色土を0.05mほど薄く貼って、平坦な



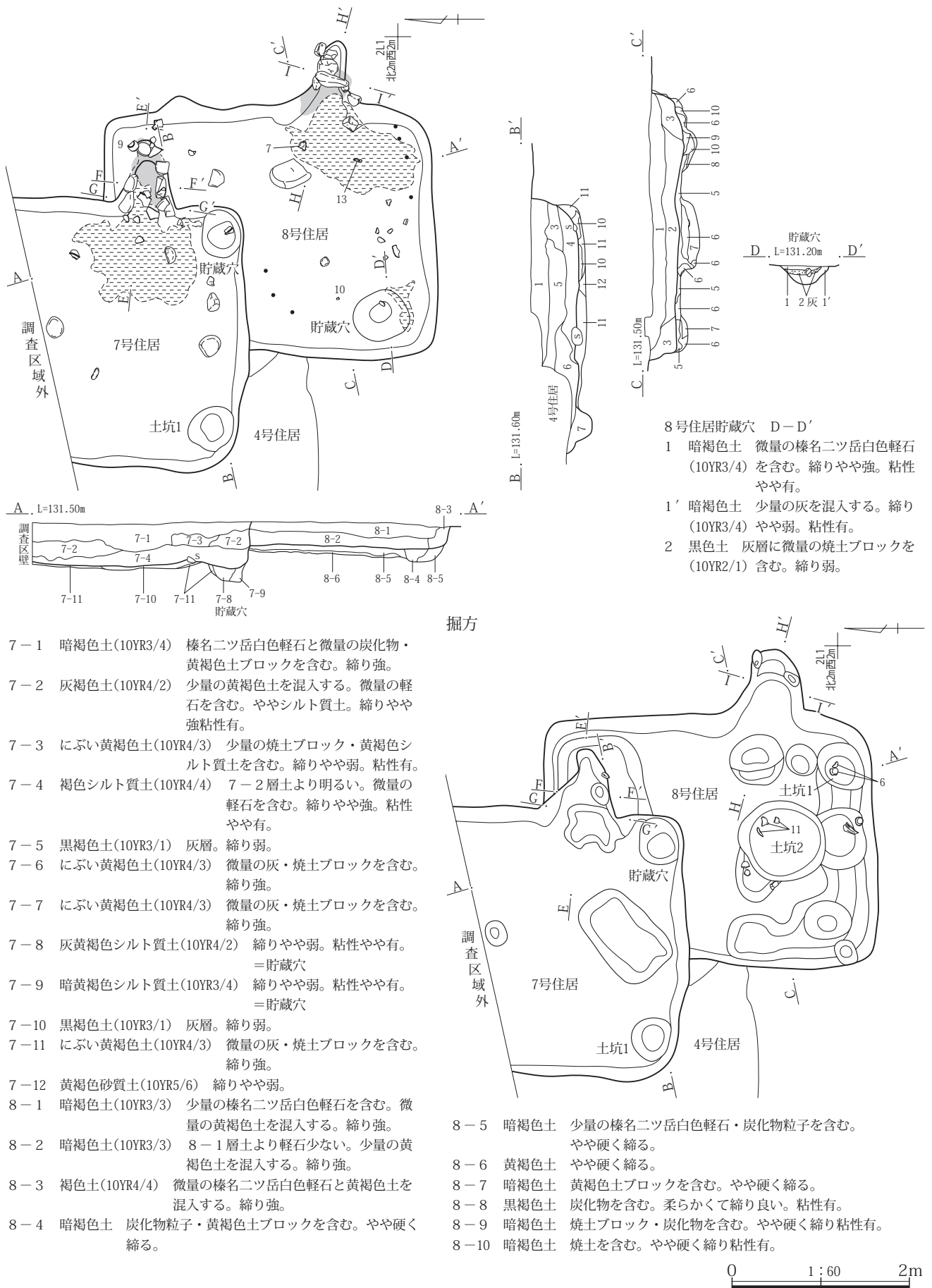
5号住居 P1 D-D'
 1 暗褐色土 黄褐色土粒子を含む。やや硬く締る。
 2 暗褐色土 黄褐色土ブロックを含む。やや硬く締る。粘性有。

- ア 暗褐色土 現代耕作土。
- ウ 明褐色土 水田下部層。
- エ 褐灰色土
- カ 暗褐色土(7.5YR3/4) 粗い砂質土。鉄分沈着有り。
- カ' カより鉄分沈着少ない。
- キ 暗褐色土(10YR3/4) 酸化鉄分沈着少し有り。
- キ' キより暗い。やや多く榛名二ツ岳白色軽石を含む。締り強。
- 4-1 暗褐色土 やや多く榛名二ツ岳白色軽・炭化物を含む。やや硬い。
- 4-2 暗褐色土 榛名二ツ岳白色軽石・炭化物を含む。やや硬い。粘性有。
- 4-3 暗褐色土 少量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 4-4 暗褐色土 炭化物を含む。硬く締り良。粘性有。
- 4-5 暗褐色土 少量の榛名二ツ岳白色軽石・炭化物粒子を含む。やや硬く締る。
- 4-6 黄褐色土 壁の崩落土。
- 4-7 暗褐色土 榛名二ツ岳白色軽石・炭化物粒子を含む。やや硬い。粘性有。=貯蔵穴
- 4-8 暗褐色土 黄褐色土ブロックを含む。やや硬く締る。粘性有。=貯蔵穴
- 4-9 暗褐色土(10YR3/3) 微量の黄褐色シルト質土ブロックを含む。締り強。
- 4-10 にぶい黄褐色シルト質土(10YR4/3) 少量の4-11層土を混入する。締りやや強。粘性やや有。
- 4-11 にぶい黄褐色シルト質土(10YR5/4) 締りやや強。粘性やや有。
- 4-12 暗褐色土(10YR3/4) 締りやや弱。粘性有。
- 5-1 暗褐色土(10YR3/4) 少量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。やや鉄分沈着有り。締り強。
- 5-2 暗褐色土(10YR3/3) 微量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。締りやや強。
- 5-3 にぶい黄褐色土(10YR5/4) ローム土主体。粘性有。
- 5-4 黄褐色土(2.5YR5/4) 多量の浅黄色シルト質土を含む。粘性有。
- 5-5 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 微量の浅黄色シルト質土を含む。柔らかい。粘性有。

第563図 XII区4・5号住居

床面を構築している。南西隅の壁際から直径0.50m、深さ0.17mの円形の土坑1を検出した。
掘方 XII・XIII層の黄褐色砂質土を掘り込んで掘方を構築している。南壁際で長辺1.10m、短辺0.68m、深さ0.04mの浅い方形の窪みを検出した。
カマド 東壁の南東隅寄りに位置する。カマドの燃烧部は東壁の奥に掘り込んで構築している。燃烧部は緩やか

に傾いて煙道につながり、煙道は緩やかな勾配で立ち上がり、奥壁は垂直に立ち上がって煙出しに接続する。煙道から煙出しの接続部は削り抜かれた天井が残されており、長さは0.10mにおよぶ。燃烧部の左右壁にはS3～7の亜円～亜角礫5点が据えられている。S3は長径0.26m、短径0.13m、厚さ0.10mの安山岩の亜円礫である。



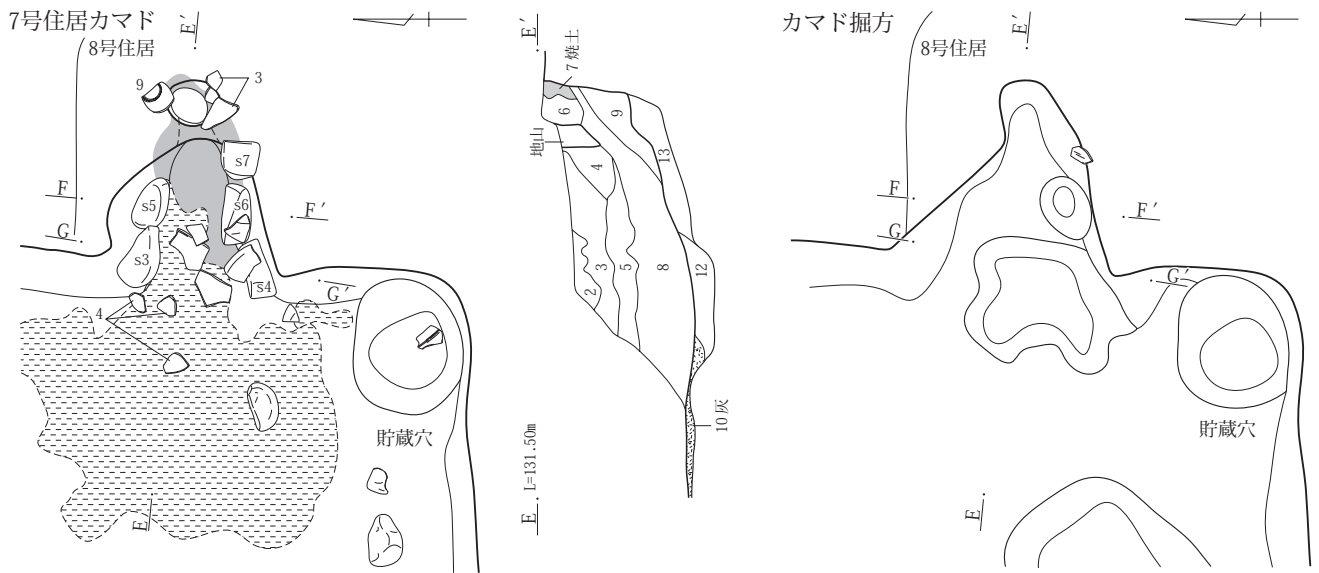
掘方

- 7-1 暗褐色土(10YR3/4) 榛名ニツ岳白色軽石と微量の炭化物・黄褐色土ブロックを含む。締り強。
- 7-2 灰褐色土(10YR4/2) 少量の黄褐色土を混入する。微量の軽石を含む。ややシルト質土。締りやや強粘性有。
- 7-3 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 少量の焼土ブロック・黄褐色シルト質土を含む。締りやや弱。粘性有。
- 7-4 褐色シルト質土(10YR4/4) 7-2層より明るい。微量の軽石を含む。締りやや強。粘性やや有。
- 7-5 黒褐色土(10YR3/1) 灰層。締り弱。
- 7-6 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 微量の灰・焼土ブロックを含む。締り強。
- 7-7 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 微量の灰・焼土ブロックを含む。締り強。
- 7-8 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 締りやや弱。粘性やや有。
=貯蔵穴
- 7-9 暗黄褐色シルト質土(10YR3/4) 締りやや弱。粘性やや有。
=貯蔵穴
- 7-10 黒褐色土(10YR3/1) 灰層。締り弱。
- 7-11 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 微量の灰・焼土ブロックを含む。締り強。
- 7-12 黄褐色砂質土(10YR5/6) 締りやや弱。
- 8-1 暗褐色土(10YR3/3) 少量の榛名ニツ岳白色軽石を含む。微量の黄褐色土を混入する。締り強。
- 8-2 暗褐色土(10YR3/3) 8-1層より軽石少ない。少量の黄褐色土を混入する。締り強。
- 8-3 褐色土(10YR4/4) 微量の榛名ニツ岳白色軽石と黄褐色土を混入する。締り強。
- 8-4 暗褐色土 炭化物粒子・黄褐色土ブロックを含む。やや硬く締る。

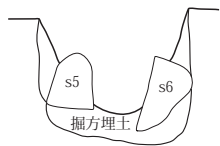
- 8-5 暗褐色土 少量の榛名ニツ岳白色軽石・炭化物粒子を含む。やや硬く締る。
- 8-6 黄褐色土 やや硬く締る。
- 8-7 暗褐色土 黄褐色土ブロックを含む。やや硬く締る。
- 8-8 黒褐色土 炭化物を含む。柔らかくて締り良い。粘性有。
- 8-9 暗褐色土 焼土ブロック・炭化物を含む。やや硬く締り粘性有。
- 8-10 暗褐色土 焼土を含む。やや硬く締り粘性有。

0 1:60 2m

第565図 XII区7・8号住居(1)

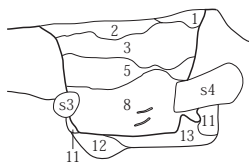


F. L=131.50m F'

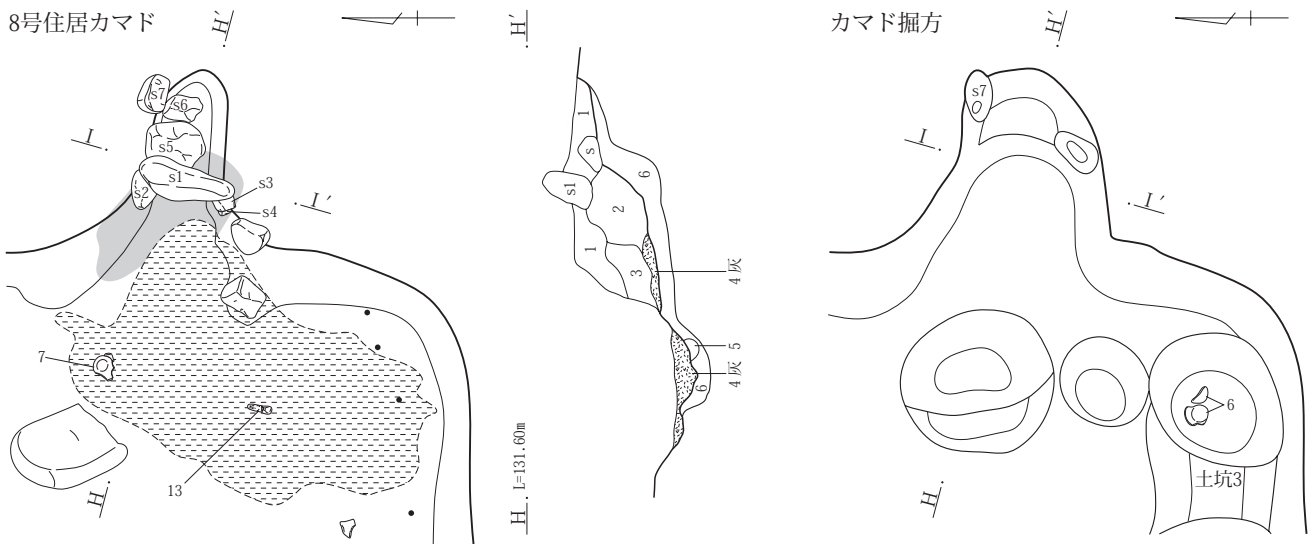


掘方埋土

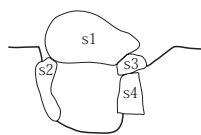
G. L=131.50m G'



- 1 暗褐色土(10YR3/3) 土質ほぼ均一。硬く締り強。
- 2 暗褐色土(10YR3/4) 黄褐色シルト質土を含む。締り強。
- 3 にぶい黄褐色シルト質土(10YR5/3) 微量の榛名ニツ岳白色軽石を含む。少量の焼土を混入する。締り強。
- 4 にぶい黄褐色土(10YR5/4) 微量の炭化物・焼土ブロックを含む。締り強。
- 5 暗褐色土(10YR3/4) 微量の榛名ニツ岳白色軽石・黄褐色土粒子を含む。
- 6 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 微量の榛名ニツ岳白色軽石を含む。硬く締り強。粘性有。
- 7 明赤褐色土(5YR5/6) 焼土主体。硬く締り強。
- 8 灰黄褐色土(10YR4/2) 微量の榛名ニツ岳白色軽石・炭化物を含む。締りやや強。粘性やや有。
- 9 暗赤褐色土(5YR3/3) 焼土ブロックを含む。やや硬く締る。粘性有。
- 10 黒褐色土(10YR2/2) 灰層。微量の黄褐色シルト質土・焼土ブロックを含む。締り弱。
- 11 にぶい黄褐色シルト質土(10YR5/3) 締りやや強。粘性有。
- 12 黒褐色土(10YR3/2) 灰・焼土ブロックを含む。締り弱。
- 13 暗褐色土(7.5YR3/4) 焼土と灰褐色シルト質土の混土。締りやや弱。粘性有。



I. L=131.60m I'

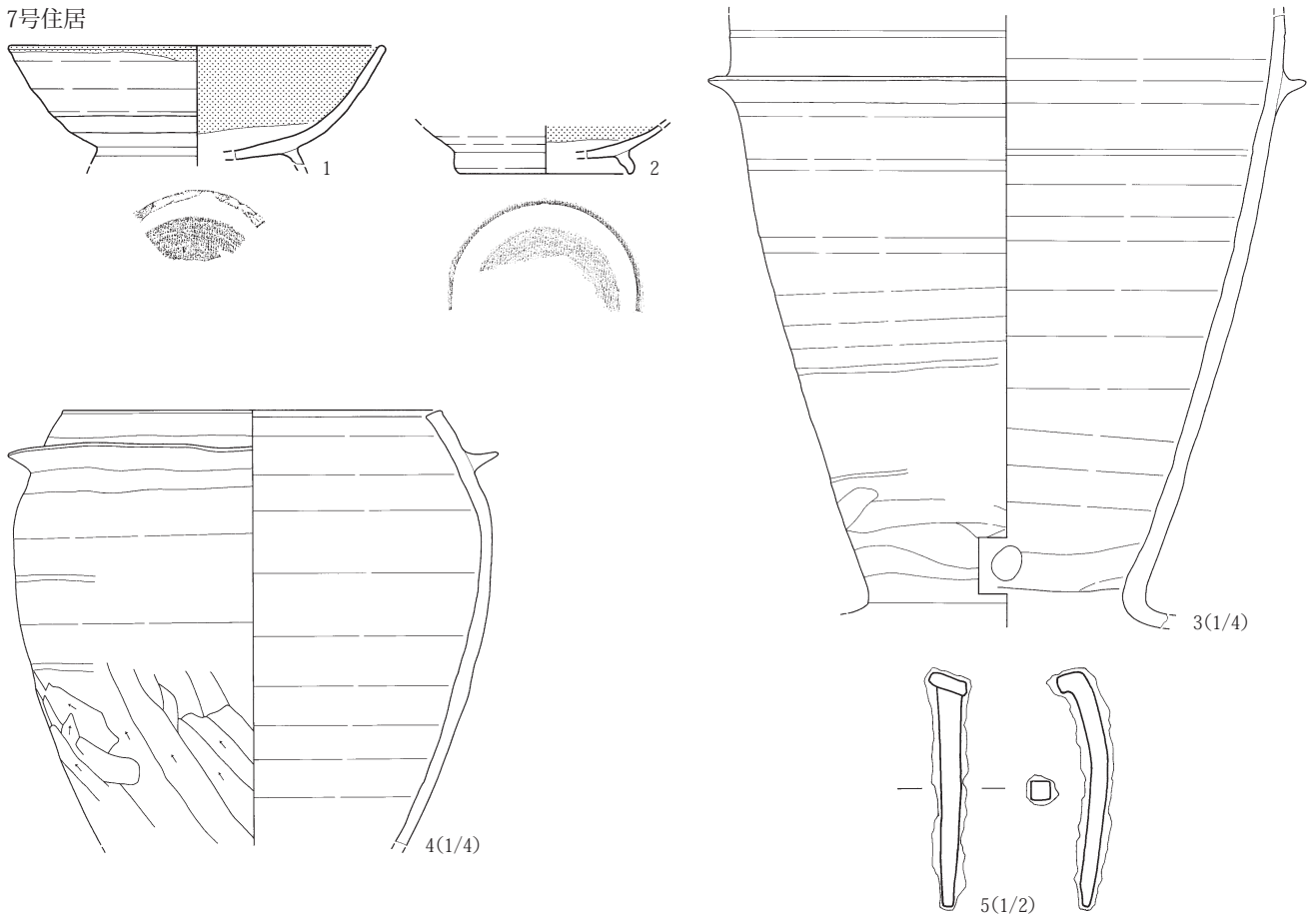


- 1 暗褐色土(10YR3/4) 微量の榛名ニツ岳白色軽石を含む。硬く締り強。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) 微量の焼土ブロック・黄褐色土ブロックを含む。締り強。粘性やや有。
- 3 黒褐色土(10YR3/2) 微量の榛名ニツ岳白色軽石と少量の焼土ブロックを含む。締りやや弱。粘性有。
- 4 黒褐色土(10YR2/2) 灰層主体。少量の焼土ブロックを混入する。締り強。
- 5 暗褐色土 焼土ブロックを含む。硬く締り良。粘性有。
- 6 黄褐色土 少量の炭化物粒子を含む。硬く締り良。

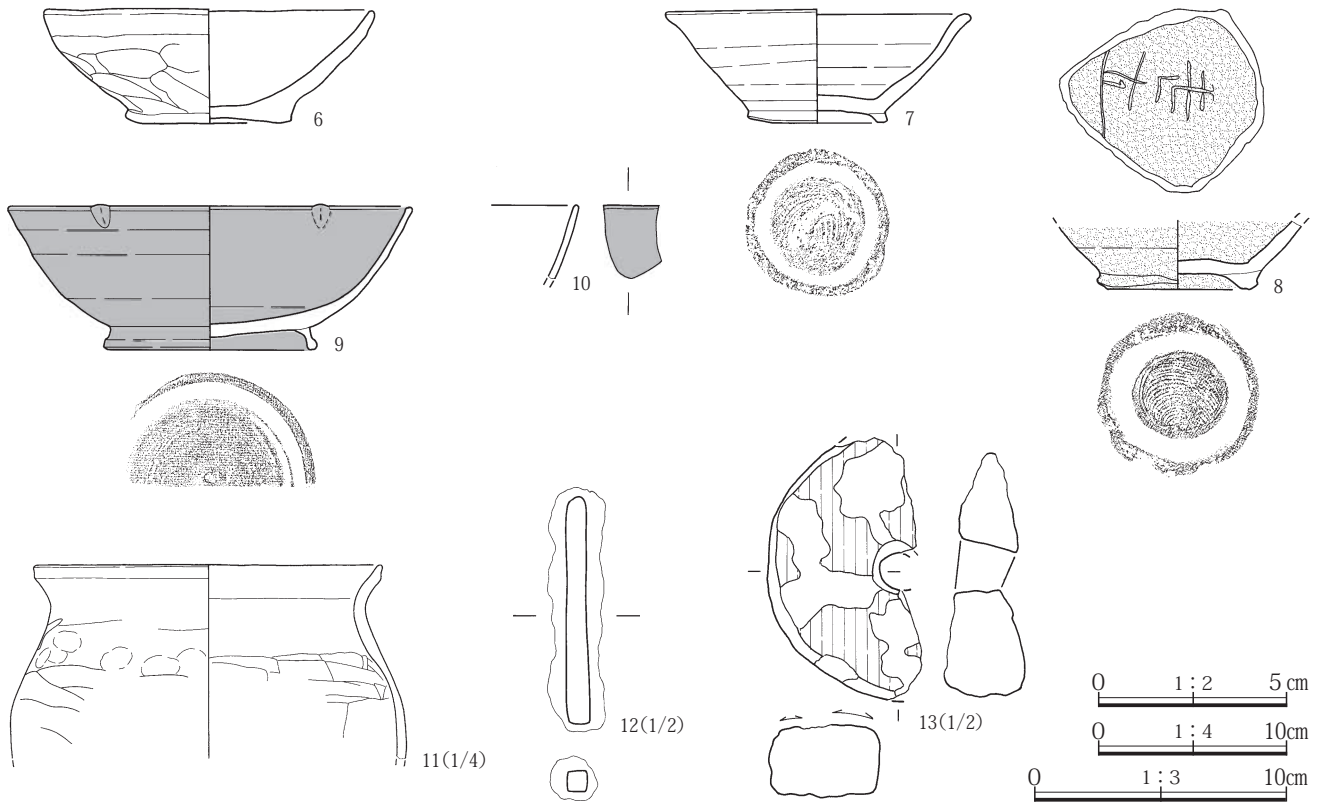
0 1:30 1m

第566図 XII区7・8号住居(2)

7号住居



8号住居



第567図 XIII区7・8号住居の出土遺物

柱穴 柱穴は検出されなかった。床面に支柱穴を持たない構造の竪穴住居と想定される。

遺物 カマド使用面から灰釉陶器の椀(1)、須恵器の羽釜(4)、甕(3)、埋土から灰釉陶器の椀(2)が出土した。

時代 平安時代10世紀前半。

8号住居(第565～567図、PL.300・301・437)

グリッド 2 L 1

主軸方位 N87°W

重複 4・7号住居、19号土坑に切られる。

形状と規模 南北方向に長軸を有し、隅丸長方形を呈する竪穴住居で、北西部は7号住居により失われている。長辺は3.68m、短辺は2.86m、深さは0.38m、検出された最大の面積は5.65㎡である。

埋土 ニツ岳の白色軽石を含む暗褐色土からなる。

床面 暗褐色土を0.10mほど貼って、平坦な床面を構築している。

掘方 XII・XIII層の黄褐色砂質土を掘り込んで構築し、南壁際で長径0.54m、短径0.44m、深さ0.08mの楕円形の土坑1や直径0.90m、深さ0.19mの円形の土坑2を検出した。土坑1・2の底直上から土師器の杯(6)、甕(11)が出土した。

カマド 東壁の南東隅寄りに位置する。カマドの燃烧部は東壁の奥を掘り込んで壁の外に構築している。燃烧部底は水平で緩やかに傾きながら立ち上がり、煙道へ接続する。燃烧部の左右壁にはS2～4の垂円～垂角礫3点が据えられている。

S2は長径0.26m、短径0.11m、厚さ0.16mの垂円礫である。

S3は長径0.09m、短径0.08m、厚さ0.08mの垂角礫である。

S4は長径0.16m、短径0.10mの垂角礫である。

これらの礫はカマド構築材と考えられる。S2～4の上には長径0.39m、短径0.15m、厚さ0.21mの垂円礫が置かれており、これは天井高架材である。燃烧部から煙道上の埋土上部にはS5～7の垂円礫が出土しており、これらも移動した天井高架材の可能性が高い。燃烧部の奥壁で焼土ブロックを燃烧部から焚口で炭化物の広がりを出した。煙道を含むカマドは長さ1.77m、煙道長0.33m、カマドの幅0.82m、深さ0.37mである。貯蔵穴

は調査範囲からは検出されなかった。

貯蔵穴 南西隅の壁際から長径0.62m、短径0.54m、深さ0.21mの土坑を検出した。土坑は位置や形状から貯蔵穴と考えられる。

柱穴 柱穴は検出されなかった。床面に支柱穴を持たない構造の竪穴住居と想定される。

遺物 床面から須恵器の椀(7)が出土し、床面付近から緑釉陶器の椀(10)、埋土から緑釉陶器の輪花椀(9)、ニツ岳軽石製の石製品(13)が出土した。出土遺物は9世紀末から10世紀前半の年代幅を有する。

時代 平安時代9世紀第4四半期。

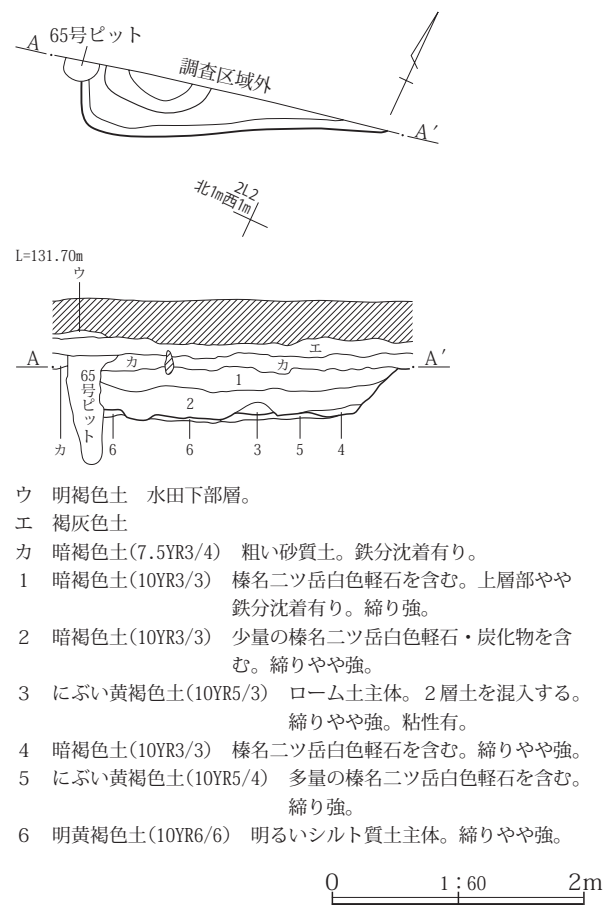
9号住居(第568図、PL.302)

グリッド 2 L 2

主軸方位 N64°E

重複 1号集石、65号ピットに切られる。

形状と規模 竪穴住居の隅周辺のみを検出した。竪穴住居の大部分は調査区外に存在する。長辺は2.40m+、短辺は0.53m+、深さは0.10m、検出された最大の面積は



- ウ 明褐色土 水田下部層。
- エ 褐灰色土
- カ 暗褐色土(7.5YR3/4) 粗い砂質土。鉄分沈着有り。
- 1 暗褐色土(10YR3/3) 榛名ニツ岳白色軽石を含む。上層部やや鉄分沈着有り。縮り強。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) 少量の榛名ニツ岳白色軽石・炭化物を含む。縮りやや強。
- 3 にぶい黄褐色土(10YR5/3) ローム土主体。2層土を混入する。縮りやや強。粘性有。
- 4 暗褐色土(10YR3/3) 榛名ニツ岳白色軽石を含む。縮りやや強。
- 5 にぶい黄褐色土(10YR5/4) 多量の榛名ニツ岳白色軽石を含む。縮り強。
- 6 明黄褐色土(10YR6/6) 明るいシルト質土主体。縮りやや強。

第568図 XII区9号住居

0.33㎡である。

埋土 暗褐色土が成層する。

床面 明黄褐色土を0.05mほど薄く貼って床面を構築している。調査区境界から浅い窪みを検出した。

遺物 なし。

時代 埋土から古墳時代後期から平安時代と想定される。

10号住居(第569・570図、PL.303・437)

グリッド 2 L 1

主軸方位 N83°W

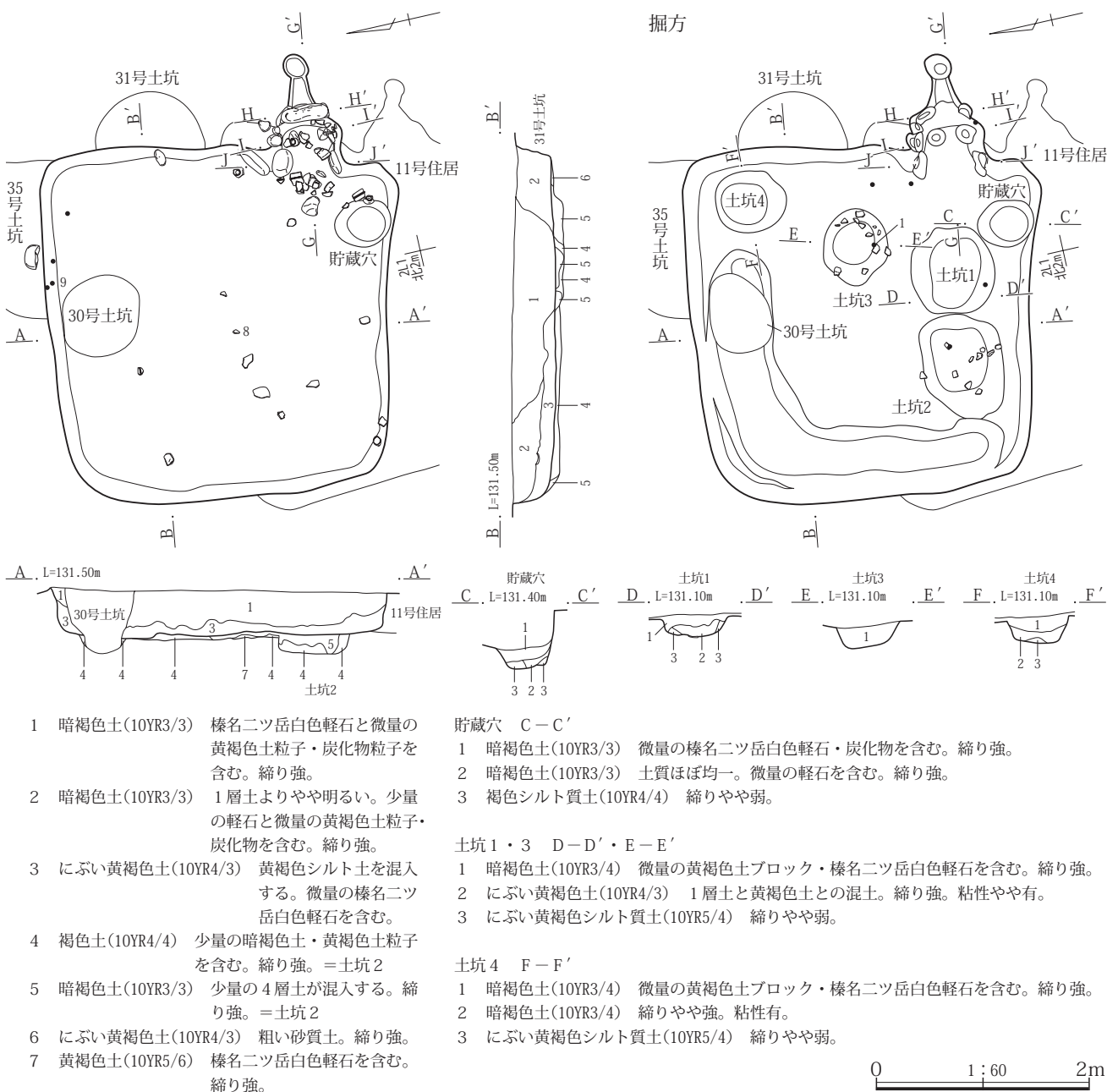
重複 1号集石、30号土坑に切られる。11号住居、31・35号土坑を切る。

形状と規模 東西方向に長軸を有し、隅丸正方形を呈する竪穴住居である。長辺は3.28m、短辺は3.22m、深さは0.48m、面積は8.10㎡である。

埋土 ニツ岳の白色軽石を含む暗褐色土が竪穴を埋め、西部の床面付近はにぶい黄褐色土が覆っている。

床面 褐色土を0.07mほど薄く貼って、平坦な床面を構築している。

掘方 XII・XIII層の黄褐色砂質土を掘り込んで平坦な掘方を構築している。北壁から西壁際を幅0.44~0.70m、深



第569図 XII区10号住居

さ0.05mの浅い溝状の窪みが周回する。東～南壁際で歪んだ円～方形の土坑1～4を検出した。

土坑1は直径0.79m、深さ0.13mである。

土坑2は長径0.97m、短径0.75m、深さ0.17mである。

土坑3は長径0.73m、短径0.60m、深さ0.16mである。

底直上から須恵器の杯(1)が出土した。

土坑4は長径0.77m、短径0.58m、深さ0.20mである。

カマド 東壁の南東隅寄りに位置する。カマドの燃烧部は東壁の奥を掘り込んで壁の外に構築している。燃烧部底は緩やかに浅く窪み、奥壁は緩やかに立ち上がり、煙道へ接続する。燃烧部の形状はやや横に膨らんだ「鍵穴」様の逆凹形を呈する。また、煙道は奥で窄まって煙出しの底に接続している。カマドは燃烧部、煙道、煙出しの残存が良好で、その構造が明瞭である。燃烧部の左右壁にはS2・3、S6・7、S9～11の垂円～垂角礫7点が据えられている。

S2は長径0.40m、短径0.16m、厚さ0.27mの安山岩の垂円礫で31°内斜し、頂部の表面は被熱の痕跡が認められる。

S3は長径0.34m、短径0.10m、厚さ0.23mの安山岩の垂角礫で11°内斜し、袖側の表面は被熱の痕跡が認められる。

S2・3は焚口の左右を構成している。

S6は長径0.22m、短径0.09m、厚さ0.19mの安山岩の垂角礫で頂部が打割されている。

S7は長径0.20m、短径0.14m、厚さ0.12mの安山岩の垂角礫で頂部が打割されている。

S6・7は煙道の入り口を構成し、ほぼ垂直に埋め込まれている。燃烧部の左壁にはS9～11が置かれている。

S9は長径0.14m、短径0.11mである。

S10は長径0.12m、短径0.10mである。

S11は長径0.08m、短径0.07mである。

これらの礫はカマド構築材と考えられる。燃烧部底の中央には左右にS4・5の垂円礫が埋め込まれている。

S4は長径0.23m、短径0.09m、厚さ0.14mの安山岩の垂円礫で0.09m埋め込まれている。

S5は長径0.22m、短径0.09m、厚さ0.11mの安山岩の垂円礫で0.11m埋め込まれている。

S4・5は頂部の表面に被熱痕跡が認められ、下半部は表面に炭化物が付着している。これらの礫はカマドの支

脚と考えられ、両者は横方向に0.18m離れていることから左右に2基の羽釜を備えたカマドであったと考えられる。

S6・7の上には長径0.44m、短径0.15m、厚さ0.19mの安山岩の垂円礫が置かれており、これは煙道の入口を構成する天井高架材である。

また、カマド西側の床面から長径0.36m、短径0.12mの安山岩の垂円礫が出土しており、これらはカマドの崩落に伴って移動した焚口の天井高架材の可能性が極めて高い。燃烧部から焚口で炭化物の広がりを検出した。カマドの埋土は、暗褐～黒褐色土で燃烧部底に近いほど黒味が強く、炭化物が多い。カマドの掘方や袖は、二ツ岳の白色軽石を含む暗褐色土からなる。煙道を含むカマドは長さ1.57m、煙道長0.42m、煙道幅0.15～0.25m、煙出しの底径0.16m、カマドの幅0.65m、燃烧部底の内径0.49m、深さ0.28mである。

貯蔵穴 掘方の調査で南東隅の南壁際から長径0.53m、短径0.45m、深さ0.20mの円形の土坑を検出した。土坑は位置や形状から貯蔵穴と考えられる。

柱穴 柱穴は検出されなかった。床面に支柱穴を持たない構造の竪穴住居と想定される。

遺物 床面から須恵器の椀(3)や羽釜(5)、鉄製の鉸具(8)、カマド使用面から須恵器の羽釜(6)、床面付近から須恵器の杯(2)、埋土から刀子(7)が出土した。

時代 平安時代10世紀第2四半期。

11号住居(第571・572図、PL.304・438)

グリッド 2L1

主軸方位 N87°E

重複 10号住居、37・39号土坑に切られる。

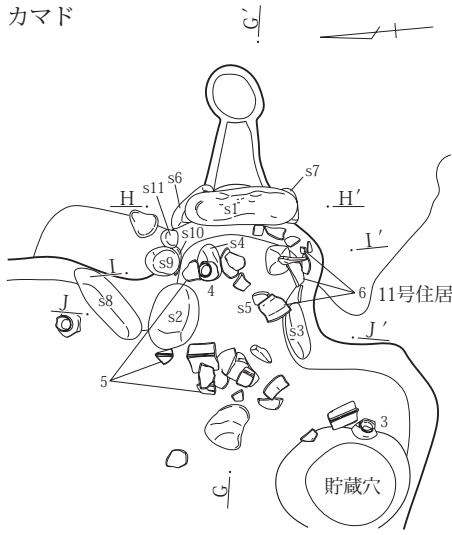
形状と規模 南北方向に長軸を有する歪んだ長方形の竪穴住居で、北部は10号住居により失われている。長辺は3.66m、短辺は2.75m+、深さは0.29m、検出された最大の面積は7.02㎡である。

埋土 二ツ岳の白色軽石を含む黒褐～にぶい黄褐色土からなる。

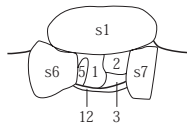
床面 暗褐色土を0.13mほど厚く貼って、床面を構築している。

掘方 XII・XIII層の黄褐色砂質土を掘り込んで、ほぼ平坦な掘方を構築している。南西隅の壁際から長径0.92m、

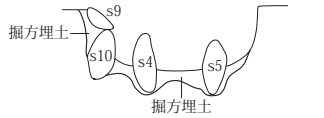
カマド



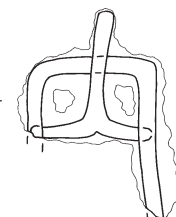
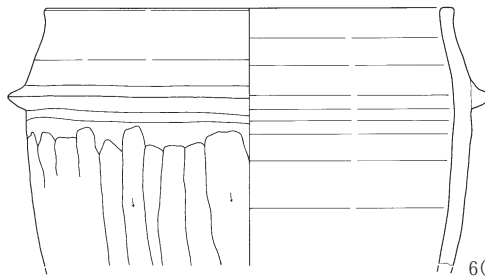
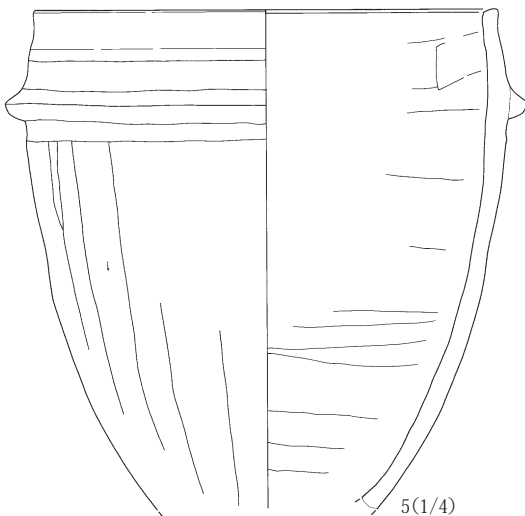
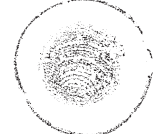
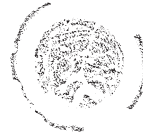
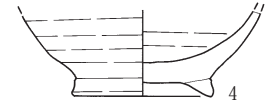
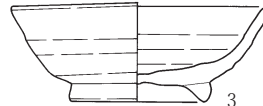
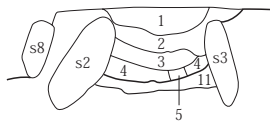
H, L=131.60m



I, L=131.40m



J, L=131.60m

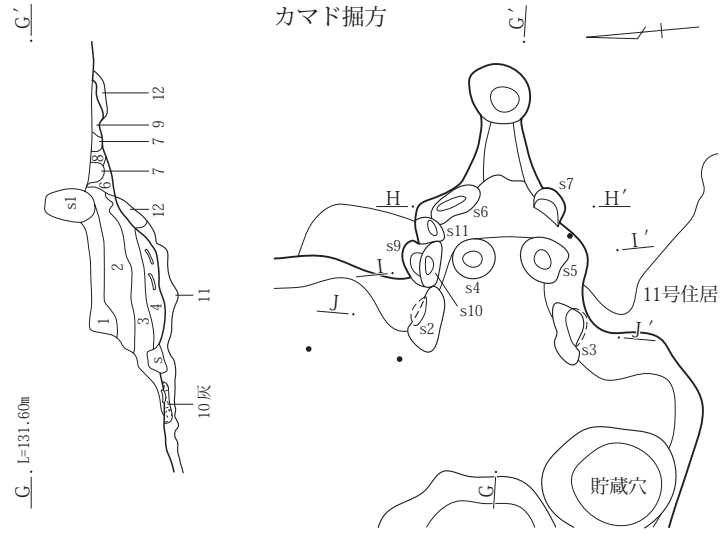


0 1:2 5cm

0 1:4 10cm

0 1:3 10cm

カマド掘方



G, L=131.60m

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 微量の榛名二ツ岳白色軽石・ロームブロックを含む。締り強。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) 黄褐色土との混土。微量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。締り強。
- 3 黒褐色土(10YR3/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。締りやや強。粘性有。
- 4 黒褐色土(10YR3/2) 4層土に灰が混入する。締りやや強。粘性有。
- 5 黄褐色シルト質土(10YR4/6) 締りやや強。粘性有。
- 6 褐色土(10YR4/4) 硬く締り強。
- 7 暗褐色土(10YR3/3) 少量の焼土ブロックを含む。締り強。
- 8 黒褐色土(7.5YR3/2) 少量の灰を混入する。締りやや弱。
- 9 にぶい黄褐色土(10YR5/4) 土質均一。締りやや弱。粘性やや有。
- 10 黒色土(10YR2/1) 灰主体。締り弱。
- 11 暗褐色土(10YR3/3) 灰・黄褐色土との混土。締りやや強。
- 12 にぶい黄褐色土(10YR5/3) 明黄褐色シルト質土を含む。締りやや弱。

0 1:30 1m

第570図 XII区10号住居と出土遺物

短径0.68m、深さ0.46mの楕円形の土坑1を検出した。
カマド 東壁の南東隅寄りに位置する。カマドの燃烧部は東壁を掘り込んで壁の外に構築している。燃烧部底は水平で約45°の勾配で立ち上がり煙道へ接続する。焚口の一部で炭化物の広がりを検出した。カマド埋土は灰黄褐～にぶい黄褐色土からなる。煙道を含むカマドは長さ1.25m、煙道長0.37m、煙道幅0.19m、カマド幅0.70m、深さ0.38mである。

貯蔵穴 貯蔵穴は検出されなかった。掘方で検出した土坑1は貯蔵穴の可能性はある。

柱穴 柱穴は検出されなかった。床面に支柱穴を持たない構造の竪穴住居と想定される。

遺物 床面から須恵器の杯(3)、カマド使用面から須恵器の杯(2)、椀(4)、埋土から黒色土器の椀(1)が出土した。

時代 平安時代10世紀後半。

12号住居(第573・574図、PL.305・306・438)

グリッド 2 J 1

主軸方位 N85° E

重複 36・38号土坑に切られる。18・19号住居、63号土坑を切る。

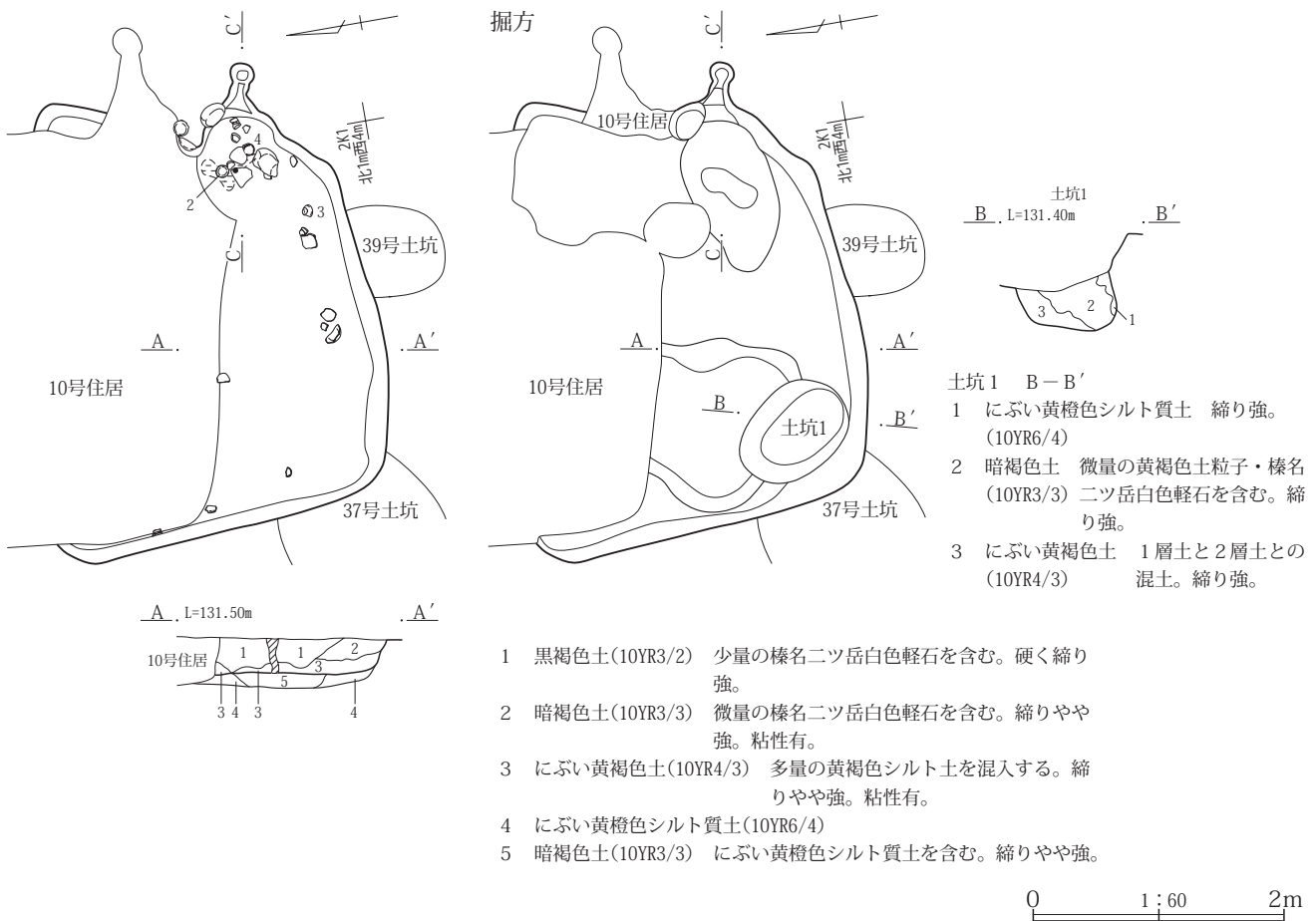
形状と規模 南北方向に長軸を有し、隅丸長方形を呈する竪穴住居である。長辺は4.62m、短辺は3.02m、深さは0.32m、面積は11.52㎡である。

埋土 ニツ岳の白色軽石を含む暗褐～黒褐色土からなる。

床面 黒褐色土を0.07mほど薄く貼って、平坦な床面を構築している。

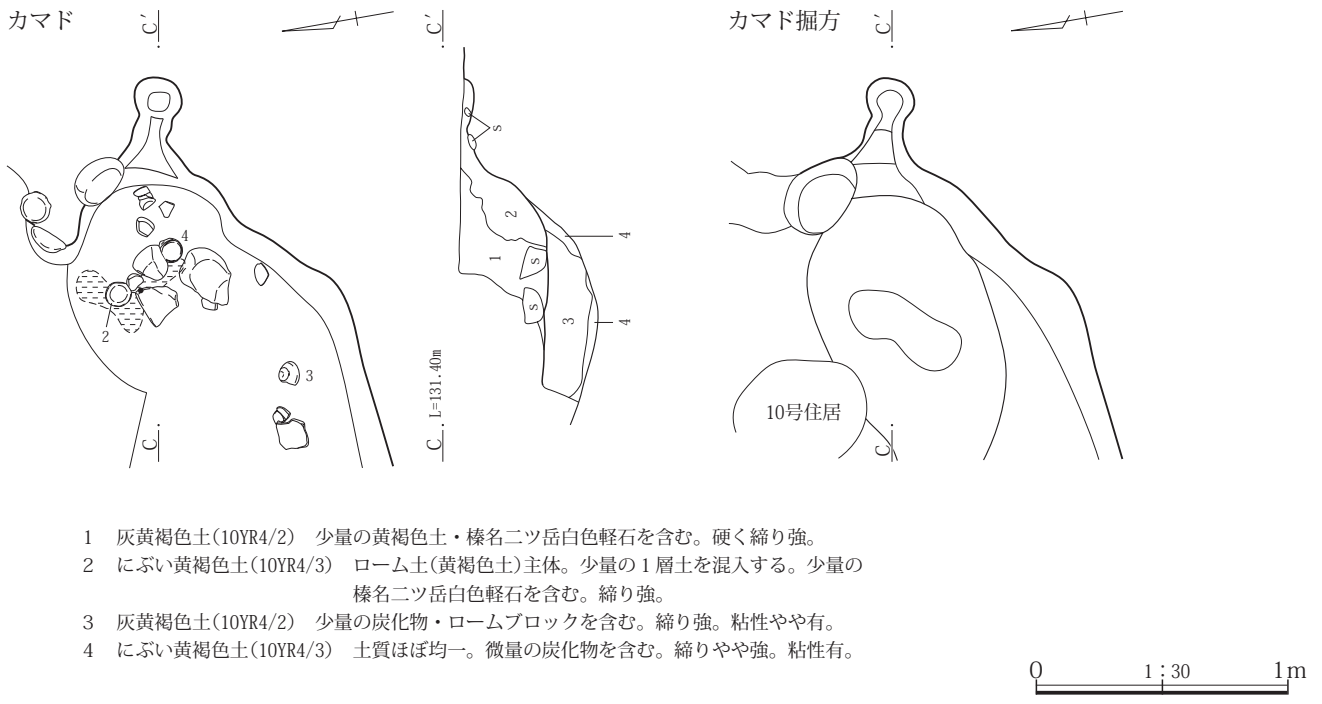
掘方 XII・XIII層の黄褐色砂質土を掘り込んで構築している。南西隅の壁際から歪んだ楕円形の浅い窪みを検出した。

カマド 東壁の南東隅寄りに位置する。カマドの燃烧部は東壁を掘り込んで壁の外に構築している。燃烧部底は水平で緩やかに立ち上がる。燃烧部底から焚口周辺で炭化物の広がりを検出した。カマド埋土は黒褐～暗褐色土

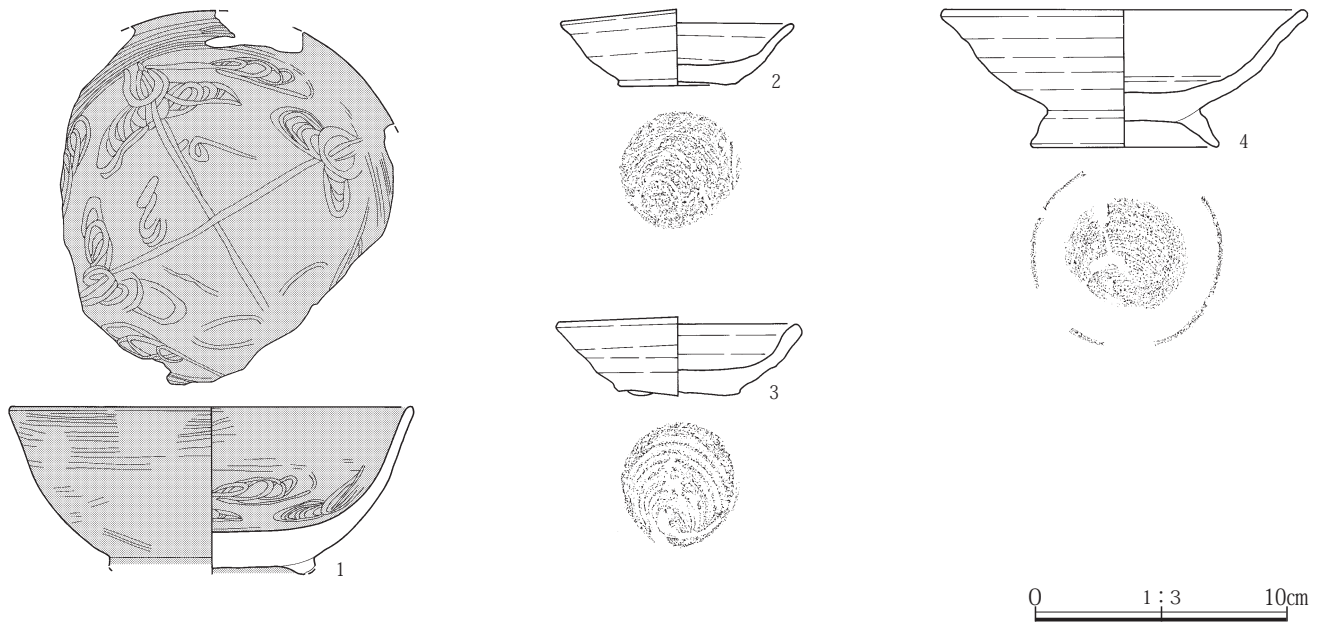


第571図 XII区11号住居

第4章 第2面の遺構と出土遺物



- 1 灰黄褐色土(10YR4/2) 少量の黄褐色土・榛名二ツ岳白色軽石を含む。硬く締り強。
- 2 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム土(黄褐色土)主体。少量の1層土を混入する。少量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。締り強。
- 3 灰黄褐色土(10YR4/2) 少量の炭化物・ロームブロックを含む。締り強。粘性やや有。
- 4 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 土質ほぼ均一。微量の炭化物を含む。締りやや強。粘性有。



第572図 XII区11号住居と出土遺物

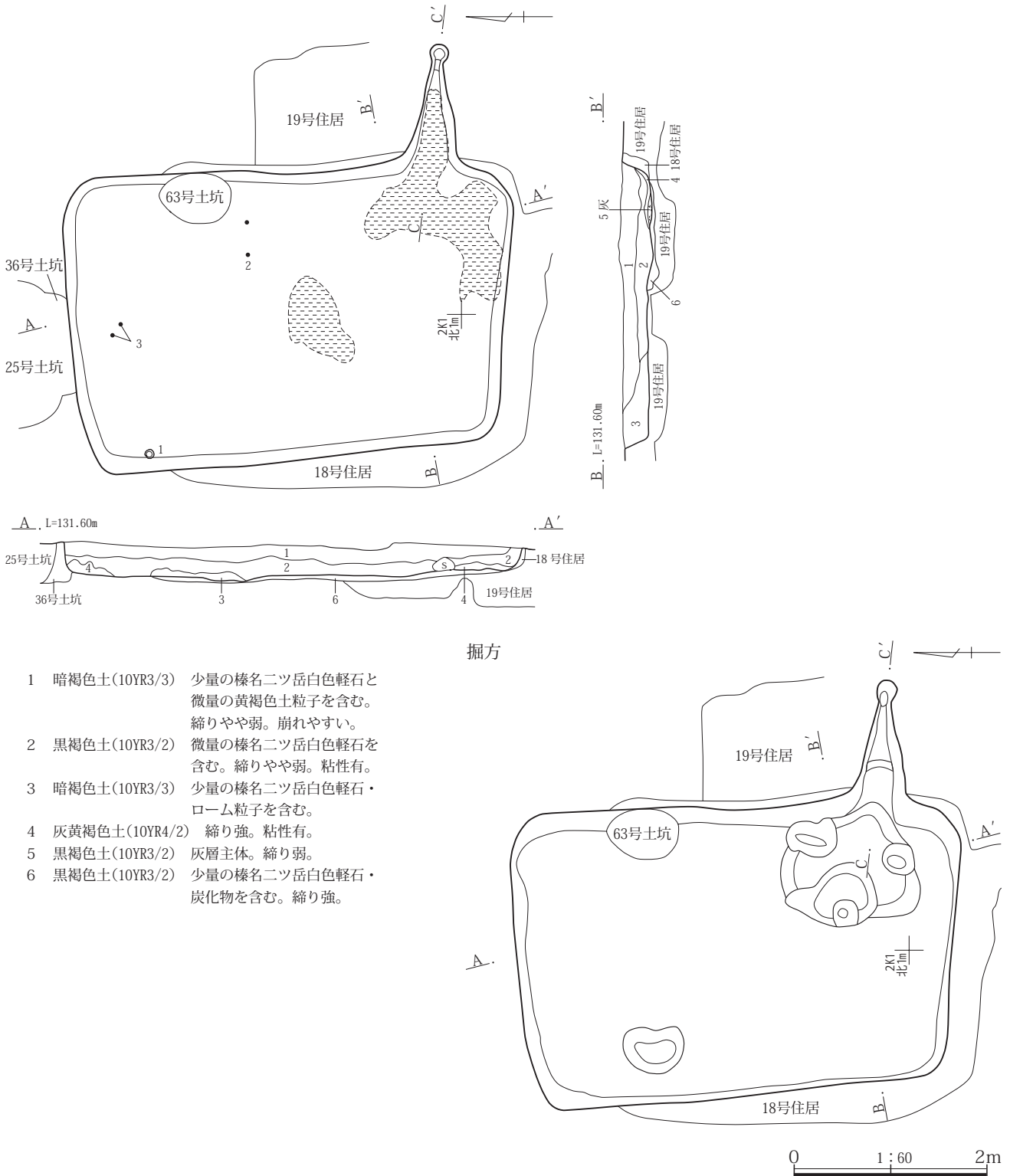
からなる。煙道を含むカマドの長さは1.68m、幅1.77m、深さ0.30mである。

貯蔵穴 貯蔵穴は検出されなかった。

柱穴 柱穴は検出されなかった。床面に支柱穴を持たない構造の竪穴住居と想定される。

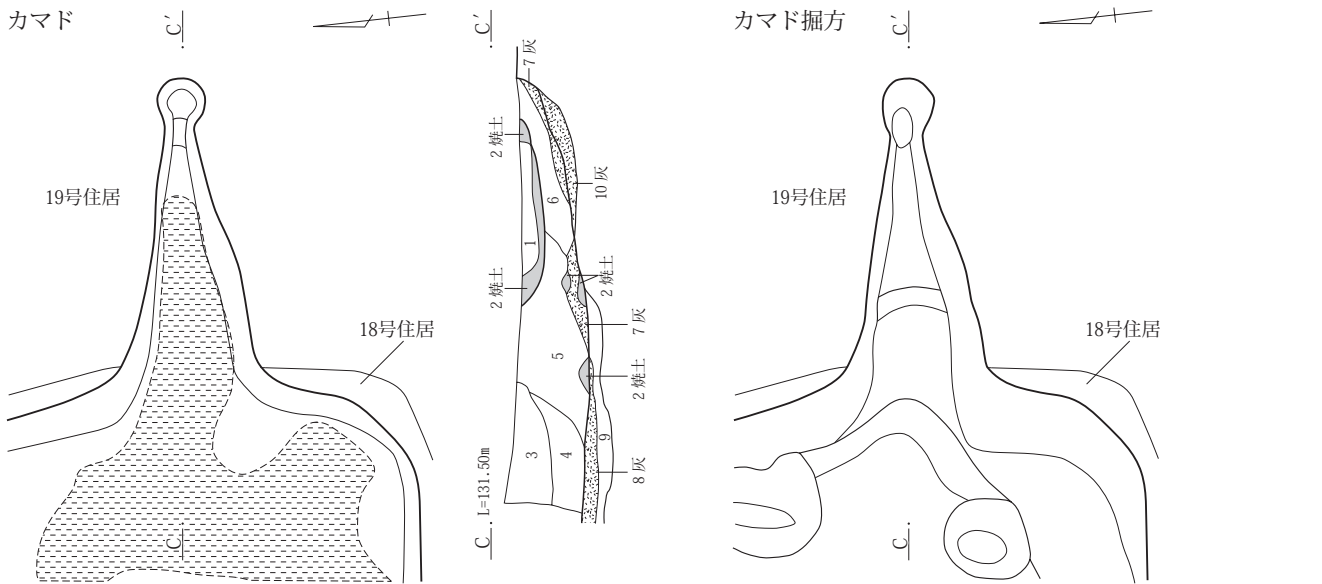
遺物 床面から須恵器の杯(1・2)、羽釜(3)が出土した。

時代 10世紀後半に帰属する18・19号住居との調査での新旧関係は矛盾する。遺構は出土遺物から平安時代10世紀第1四半期と想定される。



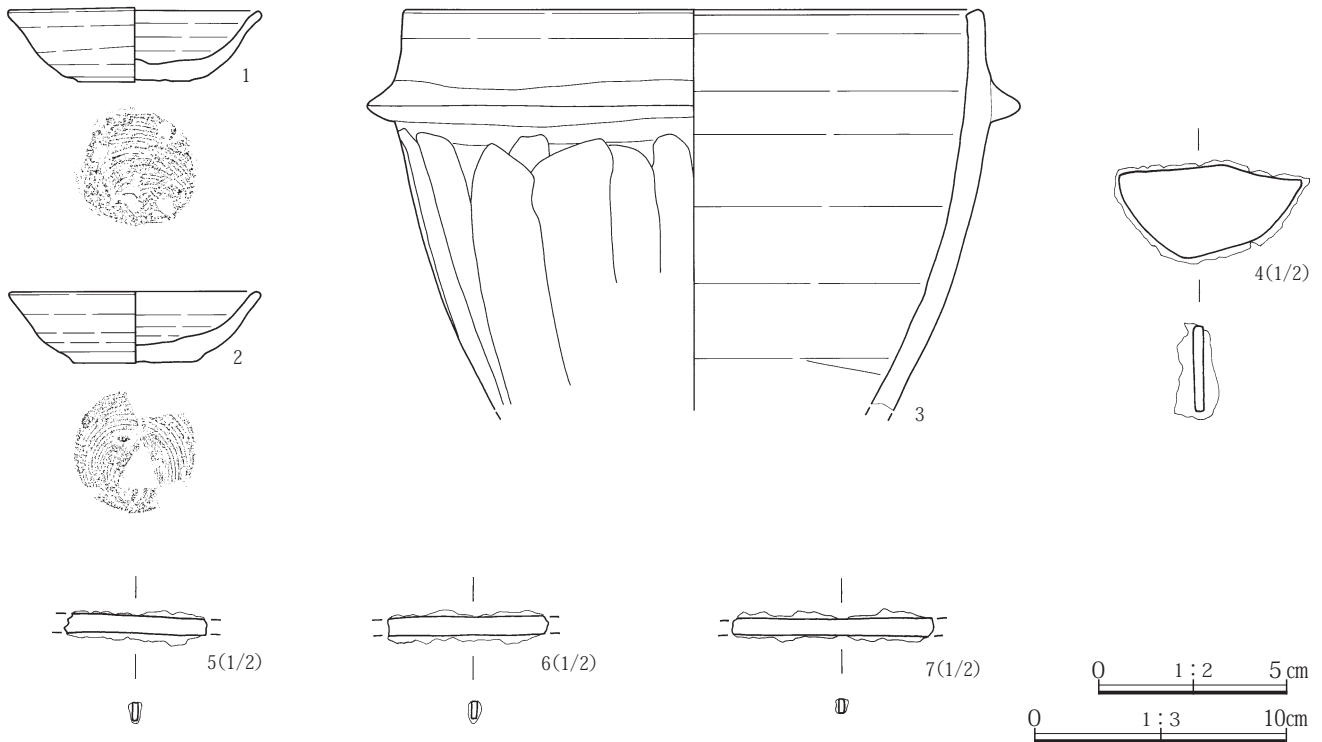
第573図 XII区12号住居

第4章 第2面の遺構と出土遺物



- 1 暗褐色土(10YR3/3) 少量の榛名二ツ岳白色軽石粒を含む。締りやや弱。
- 2 橙色土(5YR6/6) 焼土主体。締りやや弱。
- 3 暗褐色土(10YR3/3) 少量の榛名二ツ岳白色軽石と微量の黄褐色土粒子を含む。締りやや弱。崩れやすい。
- 4 黒褐色土(10YR3/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。締りやや弱。粘性有。
- 5 暗褐色土(10YR3/3) 少量の炭化物・焼土ブロックを含む。締りやや強。
- 6 暗褐色土(10YR3/4) 少量の榛名二ツ岳白色軽石粒を含む。締りやや強。
- 7 黒褐色土(10YR2/2) 灰層主体。少量の焼土を含む。締り弱。
- 8 黒褐色土(10YR2/1) 灰層。締り弱。
- 9 灰黄褐色土(10YR4/2) 少量の黄褐色土粒子を含む。締り強。
- 10 黒褐色土(10YR2/3) 灰層主体。少量の9層土を混入する。締り弱。

0 1:30 1m



第574図 XII区12号住居と出土遺物

14号住居(第575・576図、PL.307・438)

グリッド 92K19

主軸方位 N88°W

重複 15・16号住居を切る。

形状と規模 東西方向に長軸を有し、隅丸長方形を呈する竪穴住居で南部は調査区外に存在する。長辺は3.59m、短辺は2.95m+、深さは0.43m、検出された最大の面積は8.18㎡である。

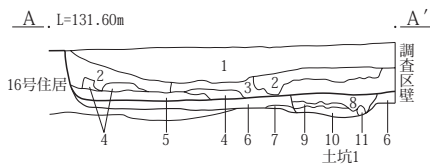
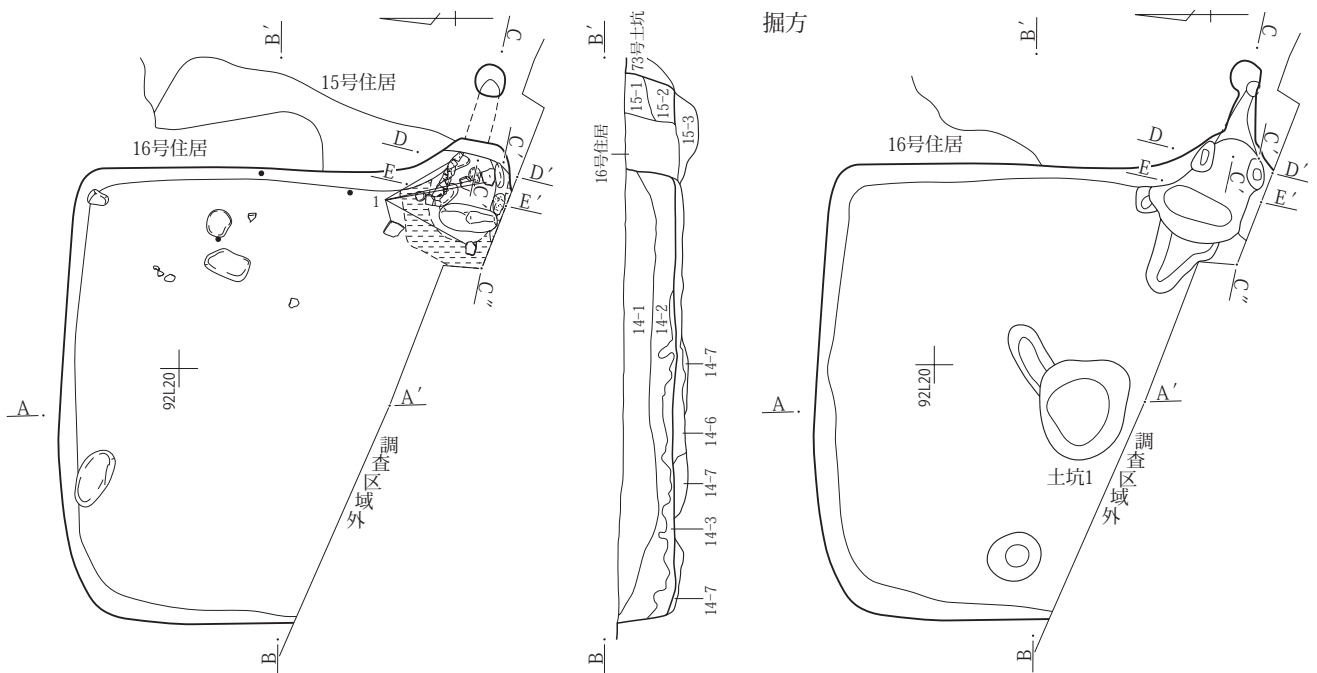
埋土 ニツ岳の白色軽石を含む暗褐色土が成層して竪穴を埋め、床面をにぶい黄褐～黒褐色土が覆う。

床面 暗褐～黄褐色シルト質土を0.10mほど貼って、平

坦な床面を構築している。

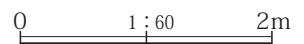
掘方 XII・XIII層の黄褐色砂質土や16号住居埋土を掘り込んで構築している。調査区境から長径0.84m、短径0.75m、深さ0.10mの浅い円形の土坑1を検出した。

カマドと貯蔵穴 東壁の南東隅寄りに位置すると想定される。カマドの燃烧部は東壁を掘り込んで壁の外に構築している。燃烧部底は緩やかに傾斜して、煙道に接続する。煙道には削り抜かれた天井が残されており、長さは0.49mにおよぶ。煙道は65°の勾配で立ち上がり煙出しに接続する。燃烧部の左右壁にはS4～8の垂円～垂角礫5点が据えられている。

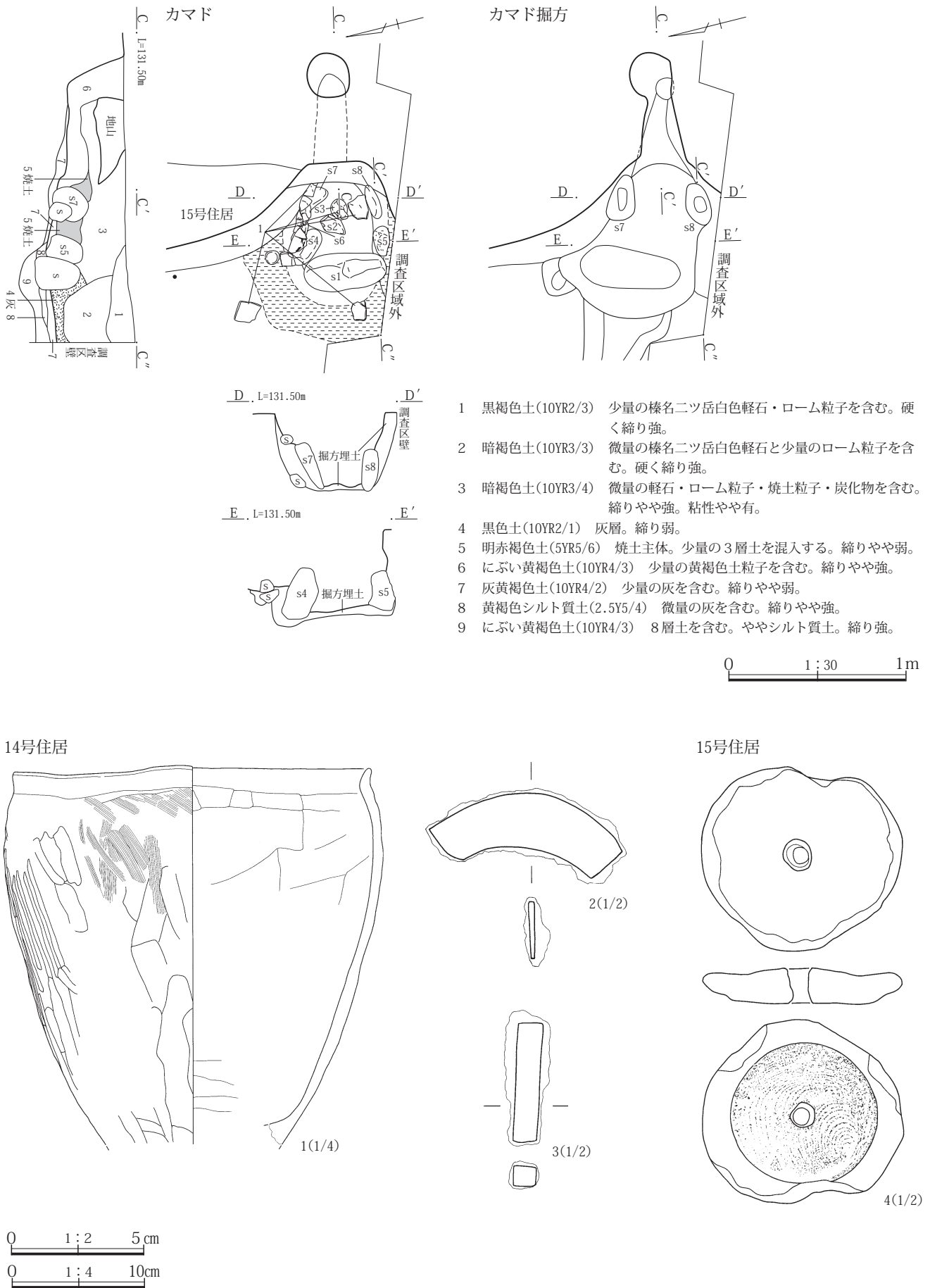


- 14-1 暗褐色土(10YR3/3) 少量の榛名ニツ岳白色軽石と微量の炭化物・黄褐色土粒子を含む。縮り強。
- 14-2 暗褐色土(10YR3/3) 微量の榛名ニツ岳白色軽石と少量の炭化物・黄褐色土粒子を含む。縮り強。
- 14-3 にぶい黄褐色土(10YR5/4) 14-2層土と黄褐色シルト質土との混土。縮りやや弱。
- 14-4 黒褐色土(10YR2/3) 灰・焼土を含む。縮りやや強。
- 14-5 灰黄褐色土(10YR4/2) 少量の黄褐色土粒子を含む。縮りやや強。
- 14-6 暗褐色土(10YR3/3) 黄褐色シルトブロックを含む。縮り強。
- 14-7 黄褐色シルト質土(2.5Y5/4) 縮り強。
- 14-8 暗褐色土(10YR3/3) 少量の炭化物・黄褐色土粒子を含む。縮り強。=土坑1
- 14-9 にぶい赤褐色土(5YR4/4) 多量の焼土ブロックを含む。縮り強。=土坑1

- 14-10 黒褐色土(10YR2/3) 少量の黄褐色シルトブロックを含む。柔らかい。縮りやや弱。=土坑1
- 14-11 黄褐色シルト質土(2.5Y5/3)=土坑1
- 15-1 黒褐色土(10YR3/2) 少量の黄褐色土粒子を含む。縮りやや強。粘性やや有。
- 15-2 暗褐色土(10YR3/3) 少量の黄褐色土粒子と微量の炭化物を含む。縮りやや強。
- 15-3 褐色土(10YR4/4) 少量の黄褐色シルト質土ブロックを含む。縮り強。



第575図 XII区14・15号住居



- 1 黒褐色土(10YR2/3) 少量の榛名ニツ岳白色軽石・ローム粒子を含む。硬く縮り強。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) 微量の榛名ニツ岳白色軽石と少量のローム粒子を含む。硬く縮り強。
- 3 暗褐色土(10YR3/4) 微量の軽石・ローム粒子・焼土粒子・炭化物を含む。縮りやや強。粘性やや有。
- 4 黒色土(10YR2/1) 灰層。縮り弱。
- 5 明赤褐色土(5YR5/6) 焼土主体。少量の3層土を混入する。縮りやや弱。
- 6 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 少量の黄褐色土粒子を含む。縮りやや強。
- 7 灰黄褐色土(10YR4/2) 少量の灰を含む。縮りやや弱。
- 8 黄褐色シルト質土(2.5Y5/4) 微量の灰を含む。縮りやや強。
- 9 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 8層土を含む。ややシルト質土。縮り強。

第576図 Ⅷ区14号住居と14・15号住居の出土遺物

S 4は長径0.30m、短径0.17m、厚さ0.23mの垂円礫である。

S 5は長径0.22m、短径0.14m、厚さ0.16mの垂角礫である。

S 4・5は焚口の左右を構成している。

S 6は長径0.13m、短径0.08mの垂円礫である。

S 7は長径0.24m、短径0.09m、厚さ0.14mの垂円礫である。

S 8は長径0.28m、短径0.08mの垂円礫である。

S 7・8は煙道の入口を構成している。燃烧部底の中央にはS 2・3の垂円礫が据えられている。

S 2は長径0.16m、短径0.09mの垂円礫である。

S 3は長径0.12m、短径0.09mの垂円礫である。

S 4・5は表面に被熱痕跡が認められ、これらの礫はカマドの支脚と考えられS 4・5の焚口側の燃烧部底からは長径0.47m、短径0.21mの垂円礫が出土しており、これらはカマドの崩落に伴って移動した焚口の天井高架材の可能性が極めて高い。燃烧部底から焚口周辺では炭化物の広がりを検出した。カマド埋土は暗褐色土である。煙道を含むカマドは長さ1.42m、煙道長は0.52m、煙道幅0.14、煙出しの幅0.23m、カマドの幅0.60m、深さ0.44mである。貯蔵穴は検出されなかった。

柱穴 柱穴は検出されなかった。床面に支柱穴を持たない構造の竪穴住居と想定される。

遺物 カマド使用面付近から土師器の甕(1)、埋土から鉄製品(2・3)が出土した。

時代 平安時代11世紀前半。

15号住居(第575・576図、PL.308・438)

グリッド 92K19

主軸方位 N72°W

重複 14・16号住居に切られる。73号土坑を切る。

形状と規模 北東～南西方向に長軸を有し、隅丸長方形を呈する竪穴住居の北東隅周辺のみを検出した。西部の大部分は14・16号住居により失われている。長辺は2.15m+、短辺は0.66m+、深さは0.27m、検出された最大の面積は0.73㎡である。

埋土 ニツ岳の白色軽石を含む黒褐～暗褐色土からなる。

床面 XII・XIII層の黄褐色砂質土を削り出して、平坦な床面を構築している。

カマドと貯蔵穴 カマドと貯蔵穴は検出されなかった。

遺物 埋土から土製紡輪(4)が出土した。

時代 埋土から古墳時代後期から平安時代と想定され、10世紀に帰属する16号住居よりも旧いので10世紀以前である。

16号住居(第577・578図、PL.309・438)

グリッド 92K20

主軸方位 N88°W

重複 14号住居、53・80号土坑に切られる。15号住居、66号土坑を切る。

形状と規模 南北方向に長軸を有し、隅丸長方形を呈する竪穴住居で、南西部は14号住居により失われている。長辺は4.33m、短辺は3.54m、深さは0.45m、面積は11.56㎡である。

埋土 ニツ岳の白色軽石を含む暗褐～黒褐色土からなり、床面をにぶい黄褐色土が覆う。

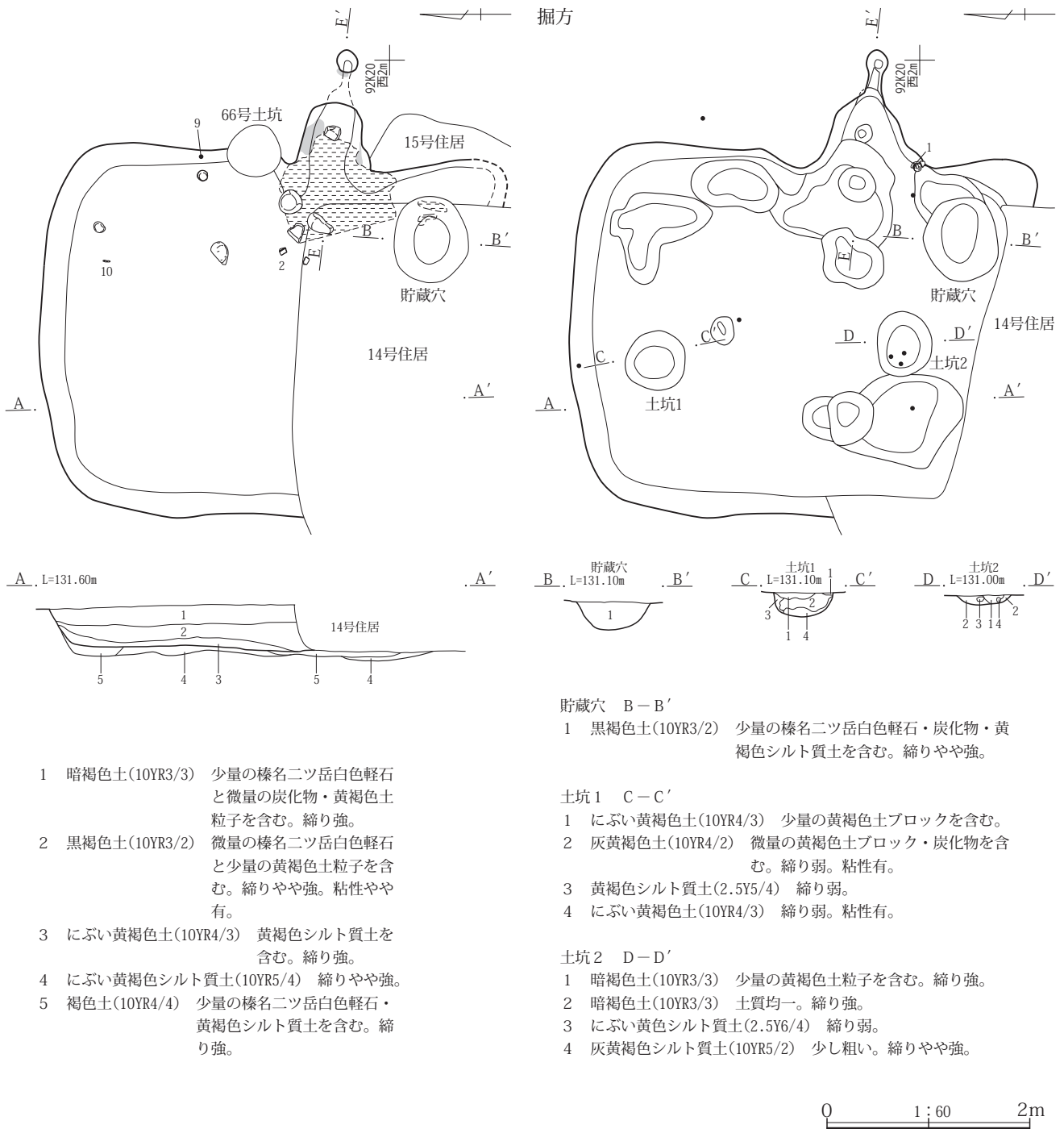
床面 にぶい黄褐色シルト質土を0.09mほど貼って、平坦な床面を構築している。

掘方 XII・XIII層の黄褐色砂質土を掘り込んで構築し、北壁際から長径0.60m、短径0.58m、深さ0.29mの楕円形の土坑1、南壁際から長径0.64m、短径0.53m、深さ0.13mの楕円形の土坑2を検出した。

カマド 東壁中央の南東隅寄りに位置する。カマドの燃烧部は東壁を掘り込んで壁の外に構築している。燃烧部底は水平で、煙道は緩やかな勾配で立ち上がり、上から掘り込まれた煙出しに接続する。煙道から煙出しにかけて削り抜かれた天井が残されており、長さは0.35mにおよぶ。燃烧部の中央には長径0.17m、短径0.12m、厚さ0.16mの垂角礫が垂直に据えられており、支脚と考えられる。燃烧部壁から焼土ブロックを燃烧部底から焚口では炭化物の広がりを検出した。カマド埋土は黒褐～黄褐色土である。煙道を含むカマドは長さ1.95m、煙道長0.47m、煙道幅0.14m、煙出しの底径0.06m、煙出しの深さ0.26m、カマドの幅0.73m、深さ0.38mである。

貯蔵穴 南東隅の南壁際から長径0.85m、短径0.73m、深さ0.33mの円形の土坑を検出した。土坑は位置や形状から貯蔵穴と考えられる。

柱穴 柱穴は検出されなかった。床面に支柱穴を持たない構造の竪穴住居と想定される。



第577図 XII区16号住居

遺物 埋土から須恵器の杯(1・2)、椀(3)、羽釜(7)や土師器の甕(6)が出土し、緑釉陶器素地の皿(4・5)が出土したことが特筆される。出土遺物は10世紀内に年代幅を有する。

時代 平安時代10世紀。

17号住居(第579図、PL.310)

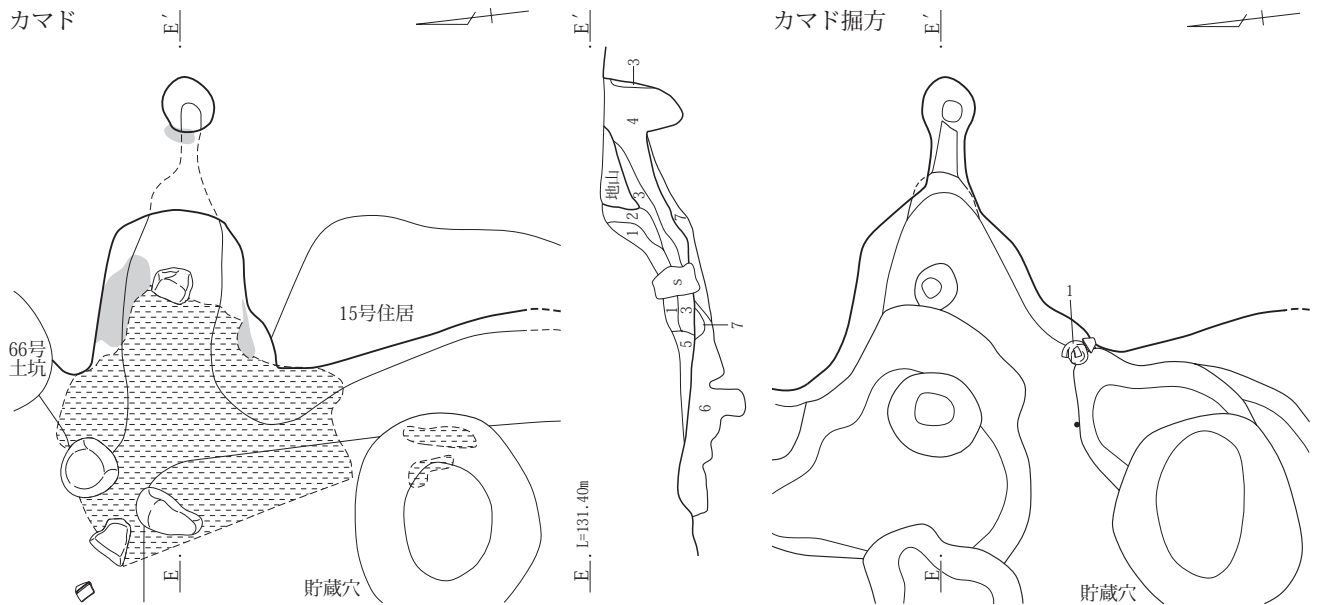
グリッド 92J 20

主軸方位 N83° E

重複 44号土坑に切られる。82号土坑を切る。

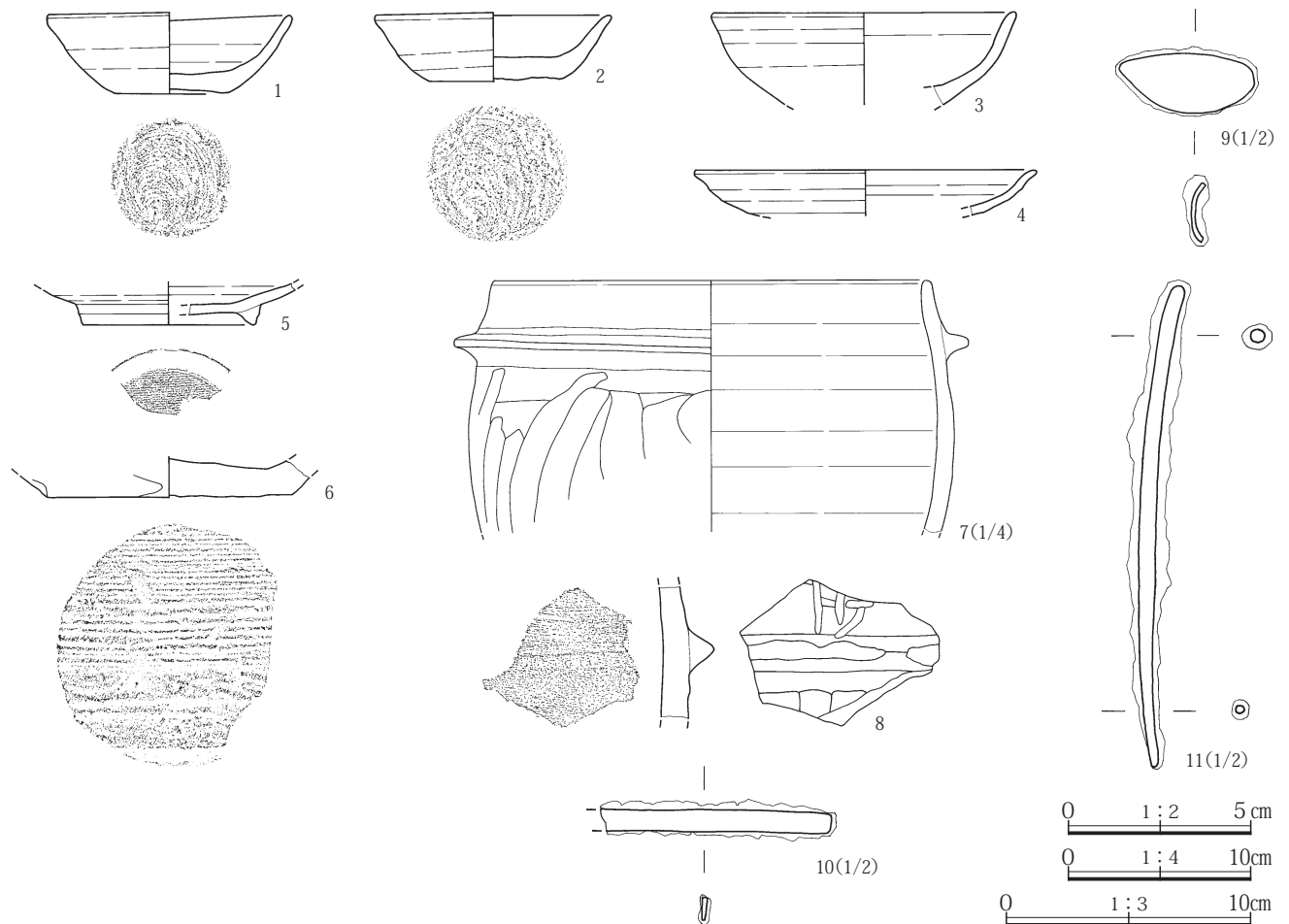
形状と規模 方形を呈すると想定される竪穴の西壁周辺のみを検出した。東部の大部分は調査区外に存在する。長辺は2.53m、短辺は0.43m+、深さは0.20mで、検出された最大の面積は0.55㎡である。

埋土 ニツ岳の白色軽石を含む黒褐～暗褐色土からなる。

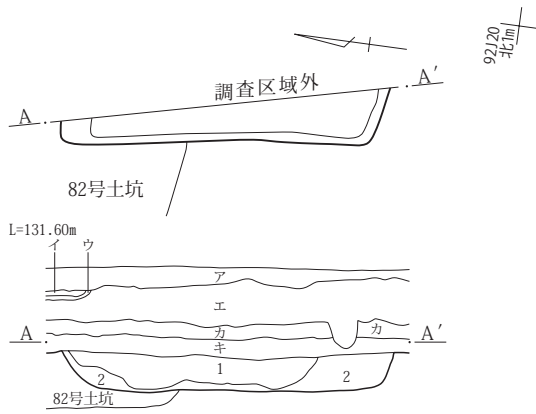


- 1 黒褐色土(10YR3/2) 微量の炭化物粒子・焼土粒子を含む。締り強。
- 2 にぶい赤褐色土(10YR4/4) 焼土を含む。締りやや強。
- 3 黒褐色土(10YR3/2) 黄褐色土ブロック・焼土ブロックを含む。
- 4 黄褐色土(10YR5/6) 多量のロームブロックと微量の灰・焼土を含む。締り強。
- 5 黒褐色土(10YR3/2) 灰を含む。締りやや弱。
- 6 黒色土(10YR2/1) 灰層が何層も堆積。灰黄褐色土・焼土を含む。締りやや強。
- 7 明黄褐色シルト質土(2.5Y6/8) 微量の焼土を含む。締りやや強。

0 1:30 1m



第578図 XII区16号住居と出土遺物



- ア 暗褐色土 現代耕作土。
- イ 灰色土 水田耕作土。
- ウ 明褐色土 水田下部層。
- エ 褐灰色土
- カ 暗褐色土(7.5YR3/4) 粗い砂質土。鉄分沈着有り。
- キ 暗褐色土(10YR3/4) 酸化鉄分沈着少し有り。
- 1 黒褐色土(10YR3/2) 少量の榛名二ツ岳白色軽石・ローム粒子を含む。締り強。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) 微量の榛名二ツ岳白色軽石・ロームブロックを含む。締り強。

第579図 XII区17号住居

床面 VII層の灰黄褐色砂質土を削り出して平坦な床面を構築している。

遺物 なし。

時代 埋土から古墳時代後期から平安時代と想定される。

18号住居(第580～583図、PL.305・310・311・438)

グリッド 2 J 1

主軸方位 N 2° W

重複 12号住居、60・67・68号土坑に切られる。19号住居を切る。

形状と規模 南北方向に長軸を有し、隅丸長方形を呈する竪穴住居で東から南及び西壁周辺のみを検出した。竪穴住居の大部分は重複した12号住居により失われている。長辺は4.08m+、短辺は3.48m、深さは0.28m、検出された最大の面積は0.88㎡である。

埋土 二ツ岳の白色軽石を含む暗褐色土からなる。

床面 暗褐色土を薄く貼って床面を構築している。

掘方 XII・XIII層の黄褐色砂質土を掘り込んで構築している。中央に直径0.28m、深さ0.08mのP 1を検出した。

カマド 南壁の南東隅寄りに位置する。カマドの燃焼部は南壁を掘り込んで壁の外に構築している。燃焼部底は水平で、煙道は緩やかな勾配で立ち上がる。燃焼部の左壁には長径0.20m、短径0.08mの垂円礫が据えられている。また燃焼部底の中央には長径0.12m、短径0.10mの垂円礫が垂直に据えられている。これらは前者がカマド構築材、後者は支脚と考えられる。焚口付近は長径0.65m、短径0.58m、深さ0.18mの円形の穴が構築されており、これはカマドの廃絶時に開けられたものと考えられる。燃焼部底から焚口では炭化物の広がりを検出した。カマ

ド埋土は黒褐～暗褐色土である。カマドは長さ1.47m、幅0.65m、深さ0.29mである。

貯蔵穴 掘方の調査で南東隅の壁際から直径0.62m、深さ0.18mの円形の土坑を検出した。土坑は位置や形状から貯蔵穴と考えられる。

柱穴 柱穴は検出されなかった。掘方から検出された小ピットは支柱穴ではなく、補助的な柱穴となる可能性がある。

遺物 床面から須恵器の杯(1)、床面付近から砥石(5)、埋土から灰釉陶器の瓶(2)や壺(3)、土師器の甕(4)が出土した。

時代 10世紀前半に帰属する12号住居との調査での新旧関係は矛盾する。遺構は出土遺物から平安時代10世紀第4四半期と想定される。

19号住居(第580～583図、PL.305・312・439)

グリッド 2 J 1

主軸方位 N 80° E

重複 12・18号住居、81・82・85号土坑に切られる。

形状と規模 東西方向に長軸を有し、隅丸長方形を呈する竪穴住居で南東部は81・82号土坑に、北西部は12・18号住居により失われている。長辺は4.45m、短辺は3.82m、深さは0.34m、検出された最大の面積は6.62㎡である。

埋土 二ツ岳の白色軽石を含む暗褐～黄褐色シルト質土からなる。

床面 黄褐色粘質土を0.15mほど厚く貼って、平坦な床面を構築している。

掘方 VII層の黄褐色砂質土を掘り込んで構築している南西隅の壁際から長径1.00m、短径0.76m、深さ0.29m

の円形の土坑1、中央の南壁寄りから長辺1.52m、短辺1.14m、深さ0.12mの歪んだ長方形の土坑2、土坑2の北から直径1.25m、深さ0.20mの歪んだ円形の土坑3を検出した。土坑2の埋土は灰黄褐色砂質土～暗褐色土、土坑3の埋土は暗褐色土～黄褐色シルト質土からなり、それぞれ成層している。

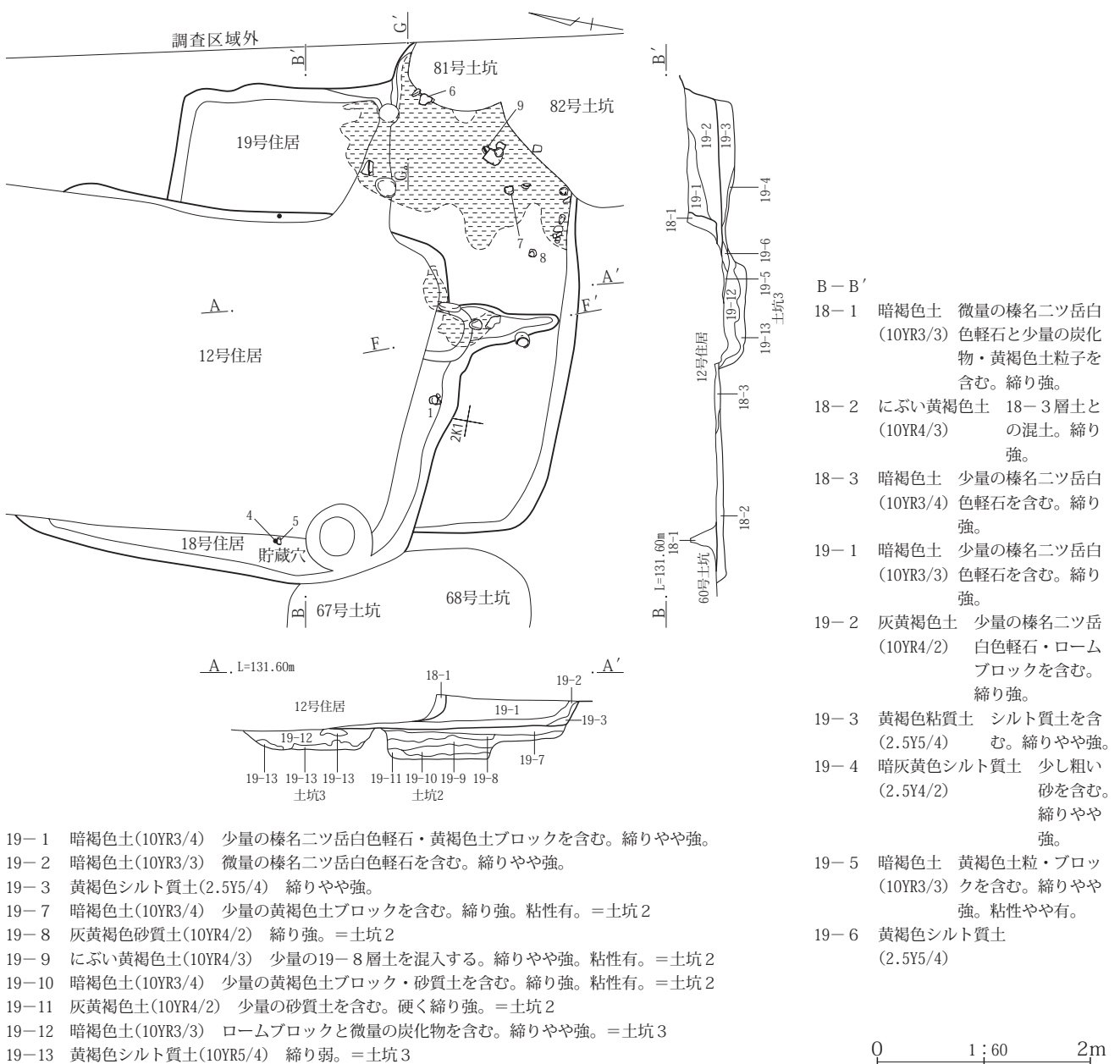
カマドと貯蔵穴 東壁中央の南寄りに位置する。カマドの燃烧部は東壁を奥に掘り込んで壁の外に構築している。燃烧部底は81号土坑により失われ、掘方のみが検出された。焚口周辺で炭化物の広がりを検出した。カマド

は長さ1.48m、幅0.65m、深さ0.27mである。貯蔵穴は検出されなかったが、南西隅の壁際から検出した土坑1は貯蔵穴に相当する可能性がある。

柱穴 柱穴は検出されなかった。床面に支柱穴を持たない構造の竪穴住居と想定される。

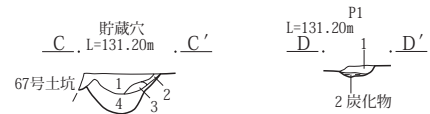
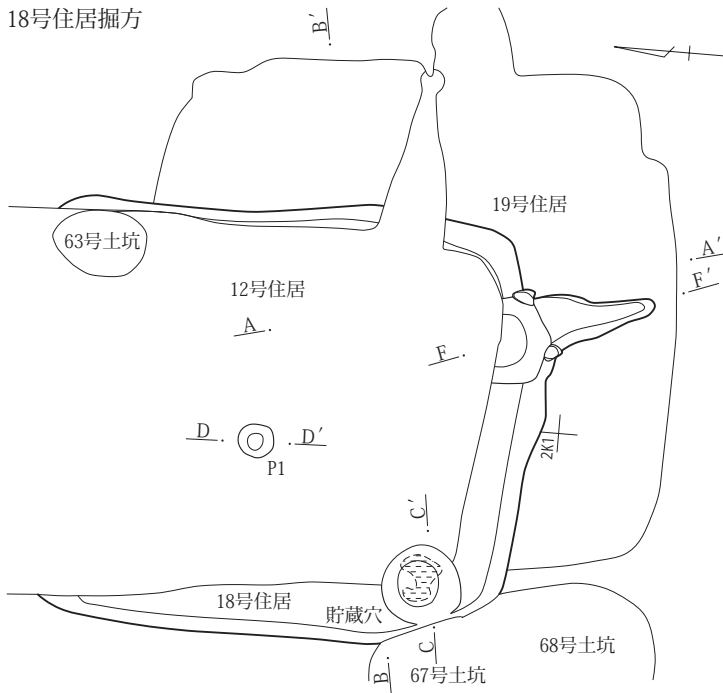
遺物 床面から須恵器の杯(7・8)、羽釜(9)、黒色土器の椀(6)、輝石安山岩製の石製品(10)が出土した。

時代 10世紀前半に帰属する12号住居との調査での新旧関係は矛盾する。遺構は出土遺物から平安時代10世紀第4四半期と想定される。



第580図 XII区18・19号住居(1)

18号住居掘方



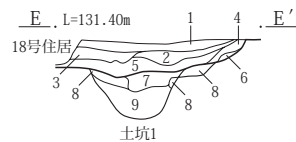
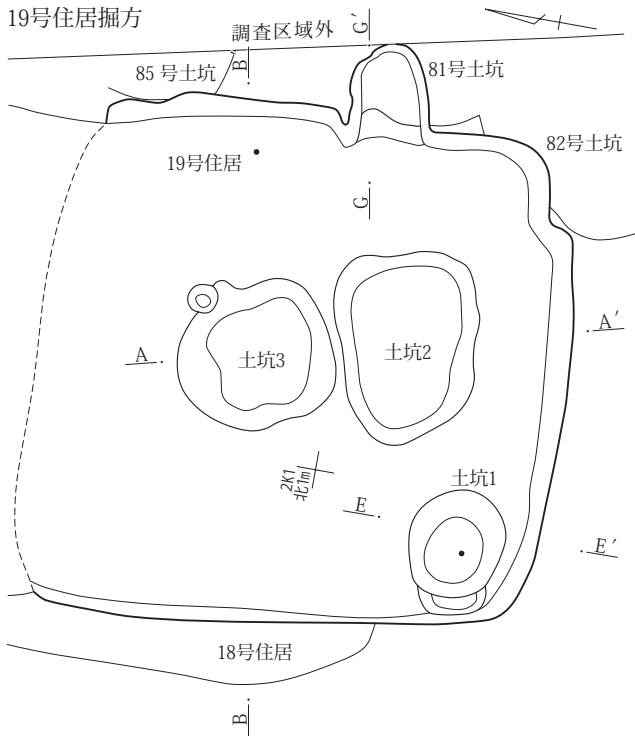
18号住居貯蔵穴 C-C'

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 少量の黄褐色土・炭化物を含む。縮りやや強。
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2) 微量の灰を含む。縮りやや弱。
- 3 黒褐色土(10YR2/3) 少量の灰と微量の焼土を含む。縮り弱。
- 4 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 少量の灰を含む。縮りやや強。粘性有。

18号住居P1 D-D'

- 1 灰黄褐色土(10YR4/2) 少量の榛名二ツ岳白色軽石・炭化物・黄褐色土ブロックを含む。縮り強。
- 2 黒褐色土(10YR2/1) 灰・炭化物層。縮り弱。

19号住居掘方



E-E'

- 1 暗褐色土(10YR3/4) 榛名二ツ岳白色軽石と少量の炭化物・黄褐色土粒子を含む。縮り強。
- 2 黒褐色土(10YR3/2) 少量の榛名二ツ岳白色軽石・炭化物・黄褐色土粒子を含む。縮り強。
- 3 暗褐色土(10YR3/3) 少量の榛名二ツ岳白色軽石と微量の黄褐色土粒子・炭化物を含む。縮り強。
- 4 黒褐色土(10YR3/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石・黄褐色土粒子を含む。縮りやや強。
- 5 暗褐色土(10YR3/3) 黄褐色土粒・ブロックを含む。縮りやや強。粘性やや有。
- 6 黄褐色シルト質土(2.5Y5/4)
- 7 黒褐色土(10YR3/2) 少量の黄褐色土ブロックと微量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。縮り強。=土坑1
- 8 黄褐色シルト質土(2.5Y5/4)=土坑1・掘り方埋土
- 9 灰黄褐色土(10YR4/2) 黄褐色シルト質土を含む。縮り弱。=土坑1



第581図 XII区18・19号住居(2)

20号住居(第584・585図、PL.312・313・439)

グリッド 92J20

主軸方位 EW

重複 59・62・64号土坑に切られる。21号住居、47・69・70号土坑を切る。

形状と規模 南北方向に長軸を有し、隅丸長方形を呈する竪穴住居である。長辺は3.89m、短辺は3.03m、深さ

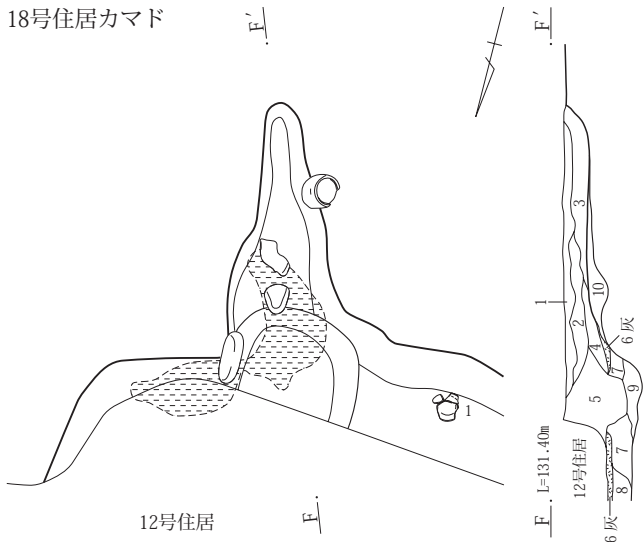
は0.19m、面積は7.80㎡である。

埋土 ニツ岳の白色軽石を含む黒褐色土からなる。

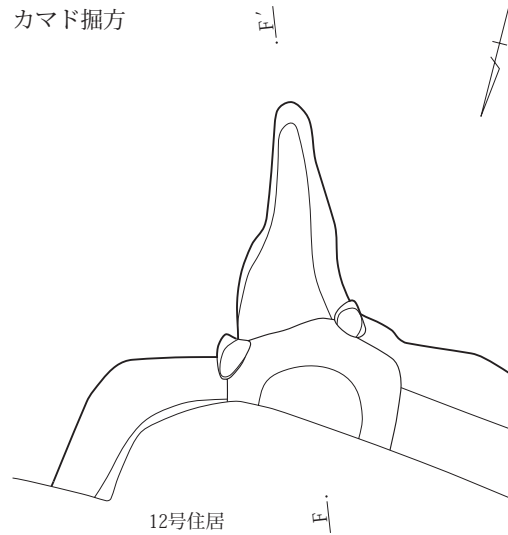
床面 暗灰色土を0.10mほど貼って、平坦な床面を構築している。

掘方 XII・XIII層の黄褐色砂質土を掘り込んで構築している。カマド前の中央から長径1.68mの浅い窪みを検出した。

18号住居カマド



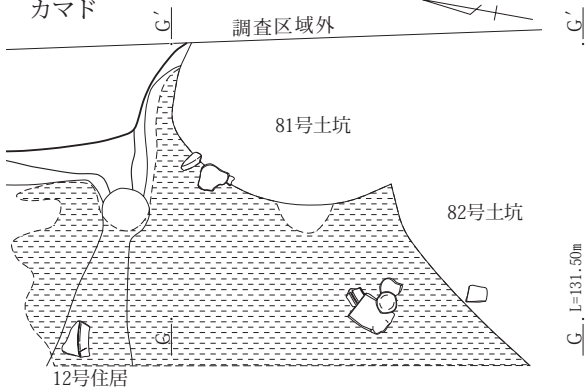
カマド掘方



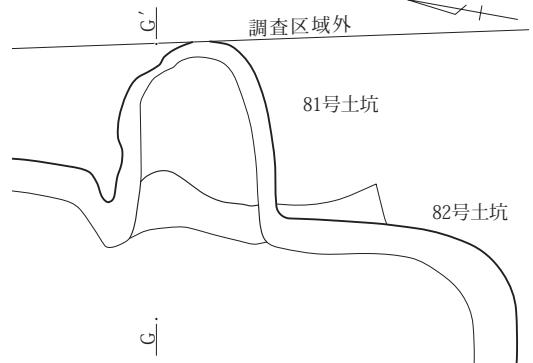
- 1 黒褐色土(10YR2/2) 微量の炭化物・焼土粒子を含む。縮り強。
- 2 褐色土(10YR4/6) 微量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。縮りやや強。粘性やや有。
- 3 黒褐色土(10YR2/3) 灰・焼土を含む。縮りやや強。
- 4 暗褐色土(10YR3/3) 焼土ブロックを含む。縮りやや強。
- 5 暗褐色土(10YR3/3) 微量の榛名二ツ岳白色軽石・焼土粒子・炭化物を含む。縮り強。

- 6 黒色土(10YR2/1) 灰層。縮り弱。
- 7 暗褐色土(10YR3/3) 微量の炭化物・黄褐色土粒子・榛名二ツ岳白色軽石を含む。縮り強。
- 8 黒褐色土(10YR3/1) 少量の灰を含む。縮りやや弱。
- 9 黒褐色土(10YR3/1) 8層土よりやや明るい。縮り強。
- 10 黒褐色土(10YR2/3) 少量の黄褐色土粒子と微量の灰を含む。縮りやや強。

19号住居カマド



カマド掘方



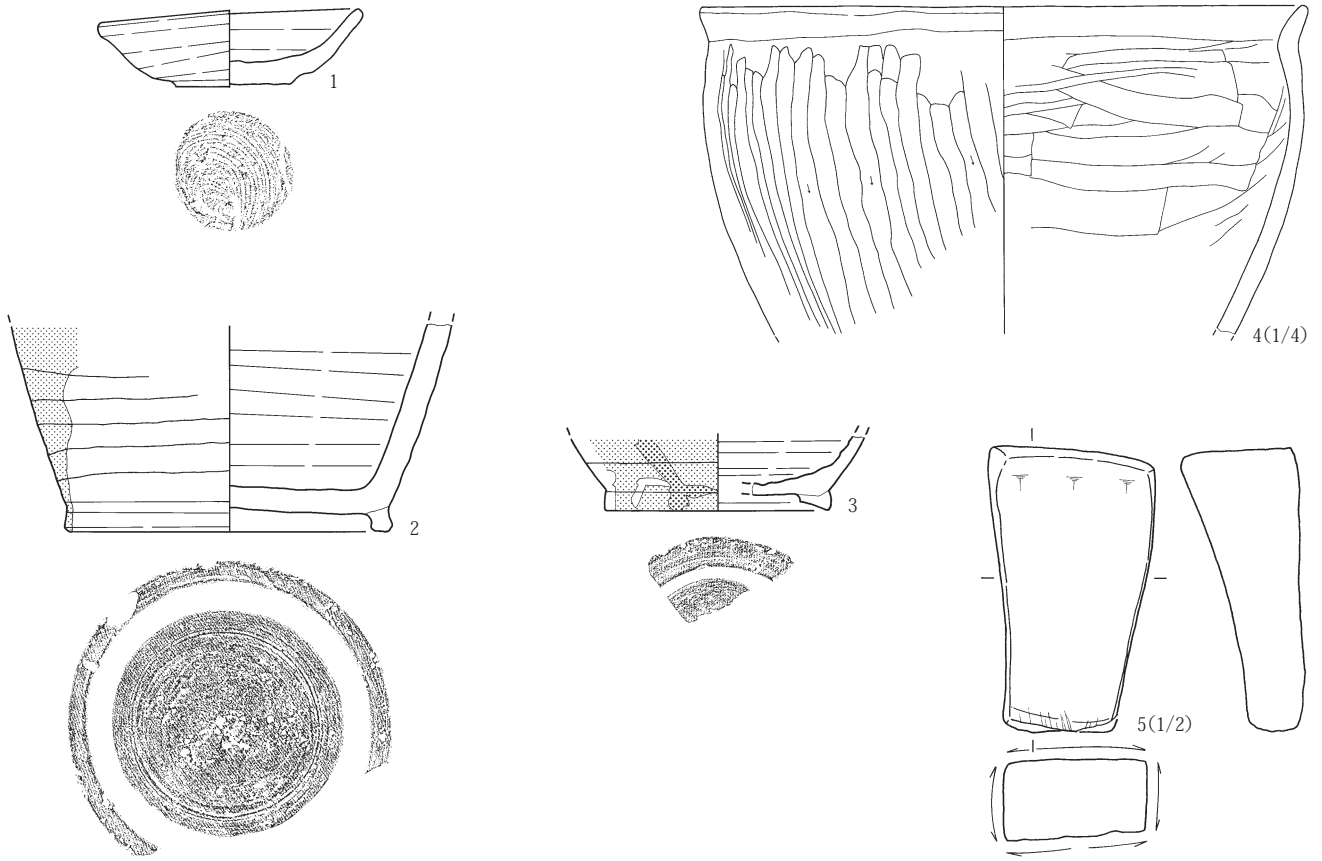
- 1 灰黄褐色土(10YR4/2) 少量の榛名二ツ岳白色軽石と微量の炭化物を含む。縮り強。
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2) 微量の炭化物・黄褐色土粒子を含む。縮り強。
- 3 黄褐色土(2.5Y5/3) 微量の榛名二ツ岳白色軽石・炭化物を含む。
- 4 黄褐色土(2.5Y5/4) 少量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。縮り強。
- 5 黒褐色土(10YR3/1) 灰主体。3層土と少量の焼土を混入する。縮りやや弱。
- 6 黒色土(10YR2/1) 灰層。
- 7 灰黄褐色土(10YR4/2) 少量の灰を混入する。縮りやや弱。

- 8 にぶい赤褐色土(5Y3/4) 焼土主体。少量の9層土を混入する。縮りやや弱。
- 9 褐色土(10YR4/4) 少量の榛名二ツ岳白色軽石・黄褐色土ブロックを含む。縮り強。
- 10 褐色土(10YR4/4) 微量の榛名二ツ岳白色軽石・黄褐色土ブロックを含む。縮り強。
- 11 暗褐色土(10YR3/4) 少量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。縮り強。

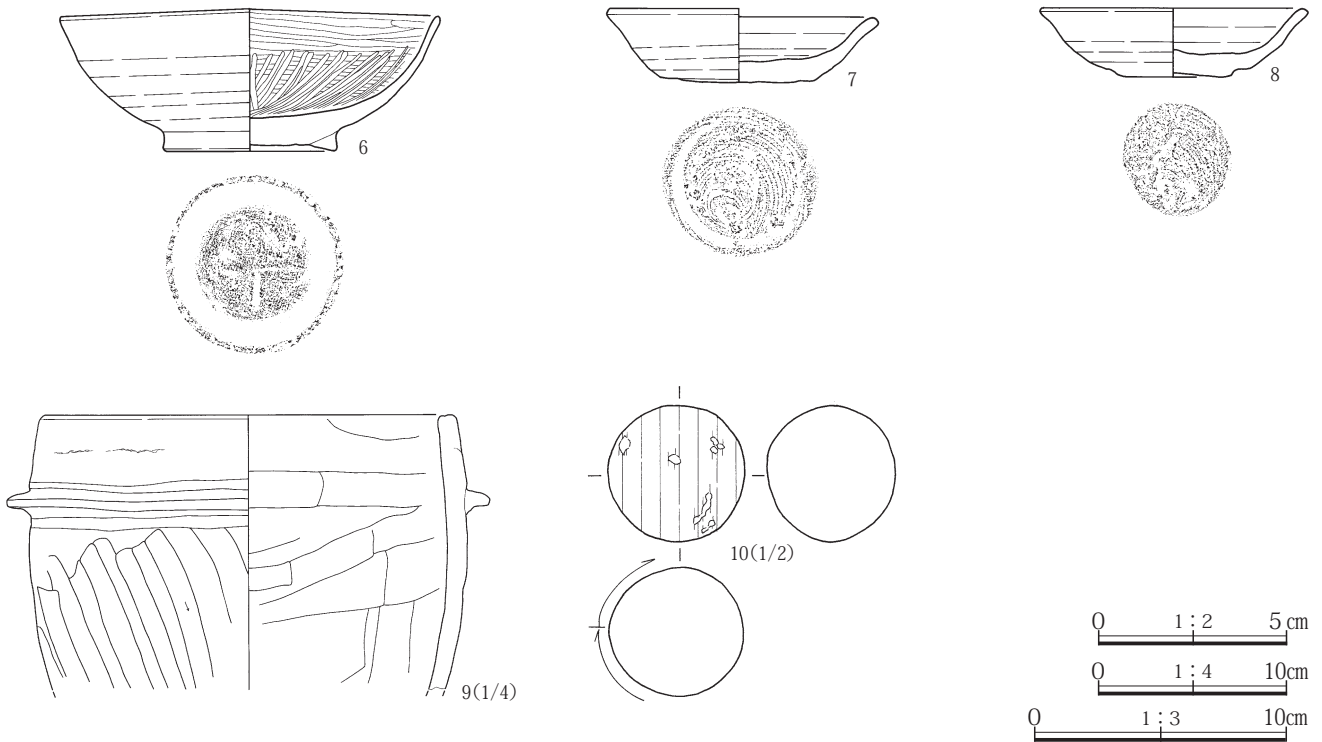
0 1:30 1m

第582図 XIII区18・19号住居(3)

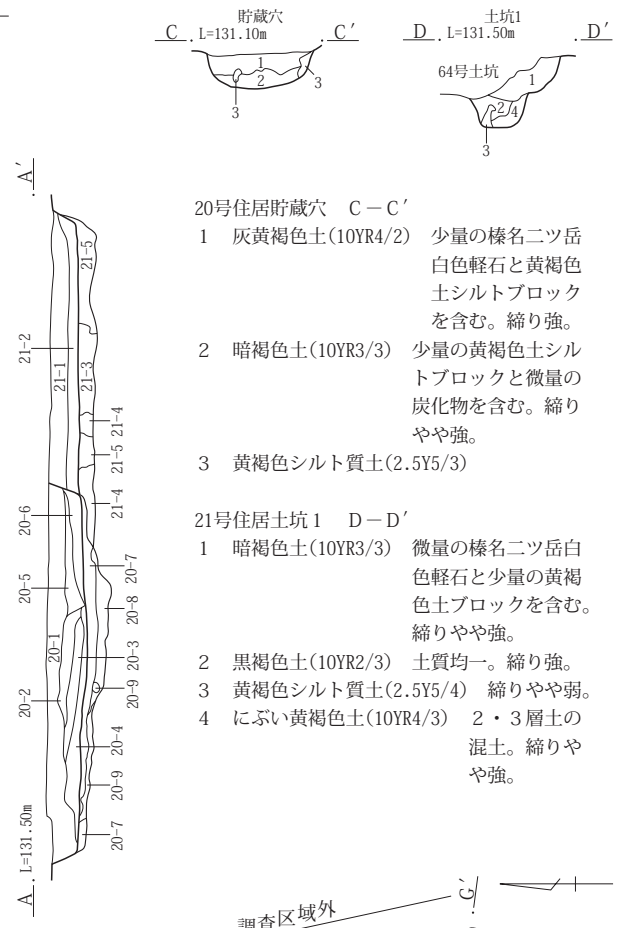
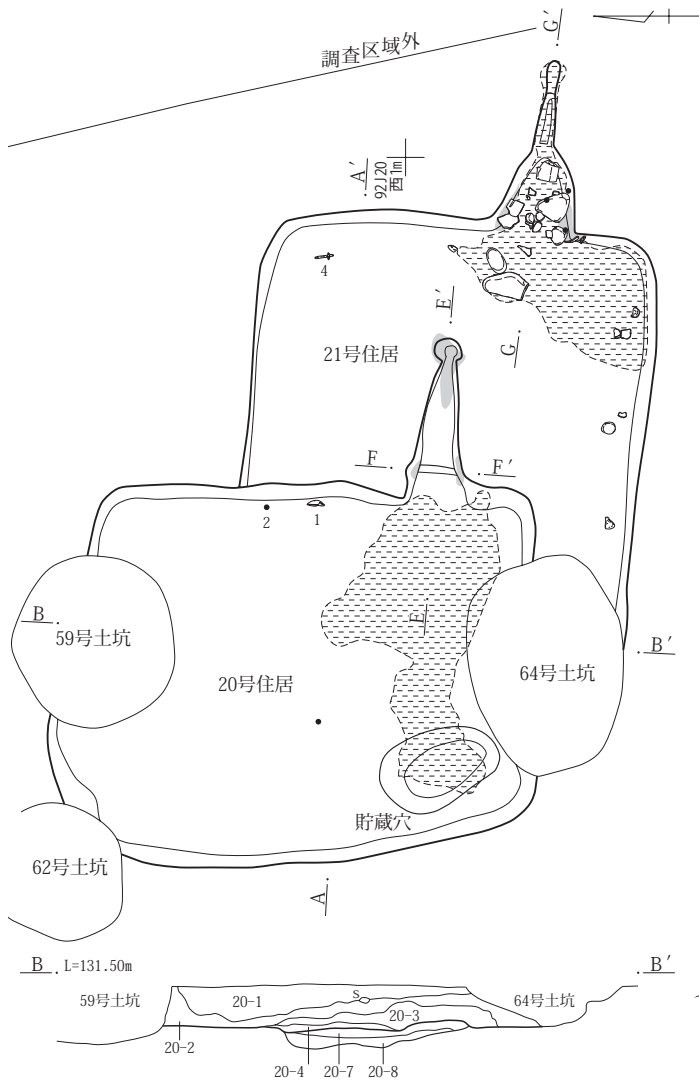
18号住居



19号住居



第583図 XII区18・19号住居の出土遺物



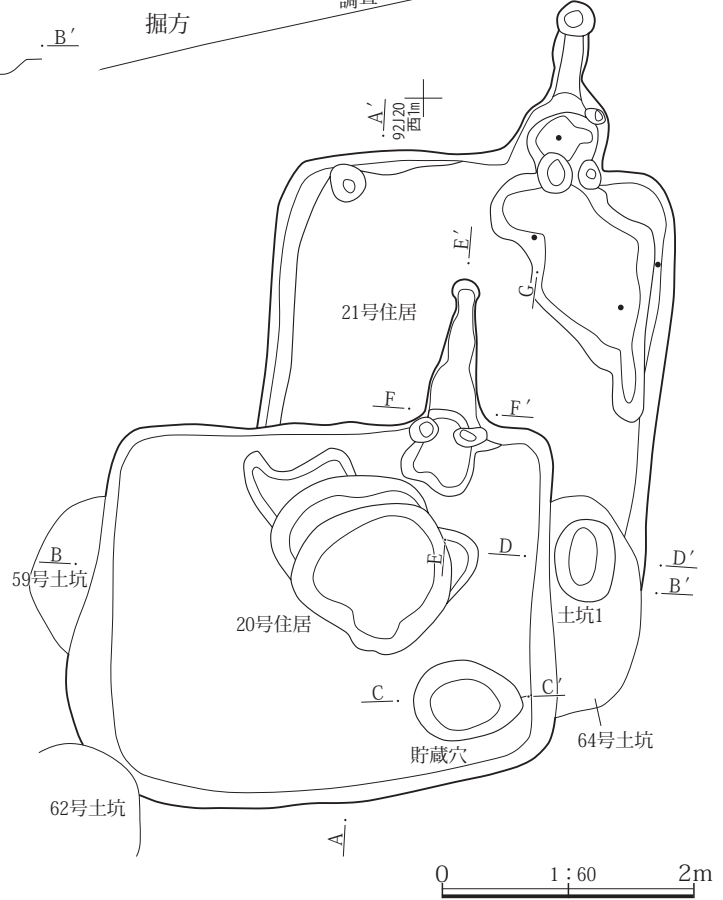
20号住居貯蔵穴 C-C'

- 1 灰黄褐色土(10YR4/2) 少量の榛名ニツ岳白色軽石と黄褐色土シルトブロックを含む。縮り強。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) 少量の黄褐色土シルトブロックと微量の炭化物を含む。縮りやや強。
- 3 黄褐色シルト質土(2.5Y5/3)

21号住居土坑1 D-D'

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 微量の榛名ニツ岳白色軽石と少量の黄褐色土ブロックを含む。縮りやや強。
- 2 黒褐色土(10YR2/3) 土質均一。縮り強。
- 3 黄褐色シルト質土(2.5Y5/4) 縮りやや弱。
- 4 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 2・3層土の混土。縮りやや強。

- 20-1 黒褐色土(10YR3/2) 少量の榛名ニツ岳白色軽石を含む。硬く縮り強。
- 20-2 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 20-1層土と黄褐色土の混土。縮りやや強。粘性やや有。
- 20-3 黒褐色土(10YR2/3) 少量の榛名ニツ岳白色軽石を含む。縮りやや強。粘性非常に有。
- 20-4 褐色土(10YR4/6) 粘性非常に有る黄褐色土主体。縮りやや強。
- 20-5 黒褐色土(10YR3/2) 微量の榛名ニツ岳白色軽石を含む。縮りやや強。
- 20-6 黒褐色土(10YR3/2) 20-5層土よりやや暗い。少量の炭化物を含む。縮り強。
- 20-7 暗褐色土(10YR3/4) 榛名ニツ岳白色軽石と少量の黄褐色土ブロックを含む。縮り強。
- 20-8 暗褐色土(10YR3/3) 少量の榛名ニツ岳白色軽石と微量の黄褐色土ブロックを含む。縮り強。
- 20-9 黄褐色シルト質土(2.5Y5/4) 微量の榛名ニツ岳白色軽石を含む。縮り強。
- 21-1 暗褐色土(10YR3/3) 少量の榛名ニツ岳白色軽石と微量の炭化物を含む。縮り強。
- 21-2 暗褐色土(10YR3/3) 微量の榛名ニツ岳白色軽石を含む。縮り強。
- 21-3 暗褐色土(10YR3/3) 黄褐色土を含む。硬く縮り強。
- 21-4 黄褐色シルト質土(2.5Y5/4) 縮りやや弱。
- 21-5 灰黄褐色土(10YR4/2) 21-3・4層土との混土。縮りやや弱。粘性有。



第584図 XII区20・21号住居

カマド 東壁の南東隅寄りに位置する。カマドの燃焼部は東壁を奥に掘り込んで壁の外に構築している。燃焼部底は水平で、煙道は緩く傾きながら急勾配で立ち上がり、煙出しに接続する。煙道壁からは焼土ブロックを燃焼部から焚口及南壁際の床面から炭化物の広がりを検出した。煙道を含むカマドは長さ1.63m、煙道長0.86m、煙道幅0.28m、煙出しの底径0.10m、カマドの幅0.52m、深さ0.26mである。

貯蔵穴 南西隅の壁際から長径0.96m、短径0.59m、深

さ0.08mの歪んだ楕円形の土坑を検出した。土坑は位置や規模から貯蔵穴と考えられる。

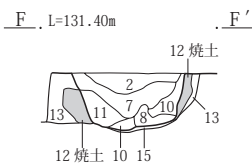
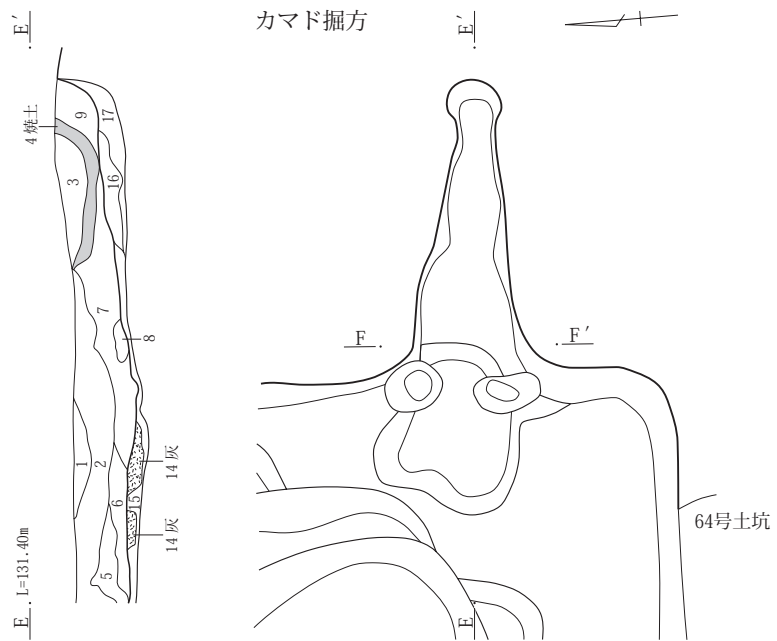
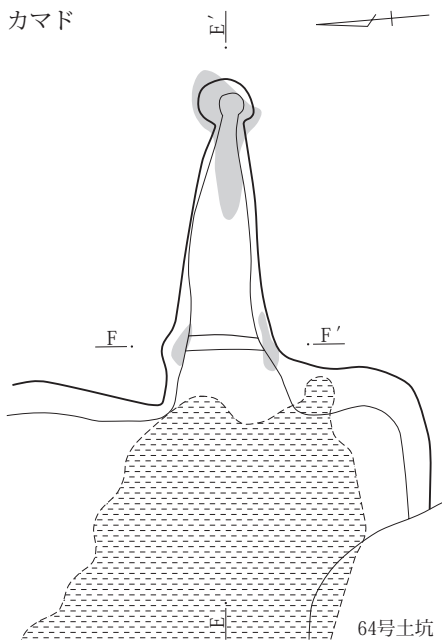
遺物 床面付近から須恵器の杯(1)、刀子(2)が出土した。

時代 平安時代10世紀第2四半期。

21号住居(第584・586図、PL.314・439)

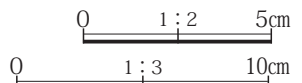
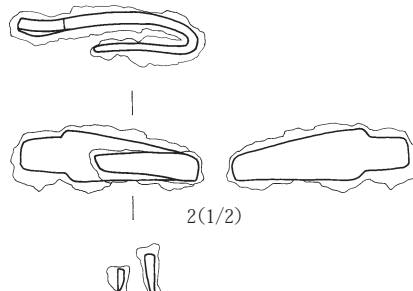
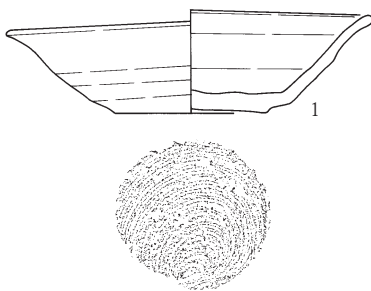
グリッド 92 J 19

主軸方位 N85°W



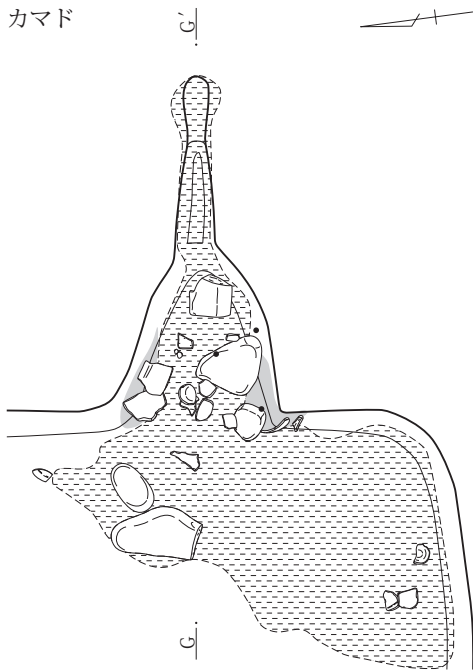
- 1 暗褐色土(10YR3/4) 微量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。締り強。
- 2 暗褐色土(10YR3/4) 少量の黄褐色土ブロックを含む。締り強。
- 3 暗褐色土(10YR3/3) 微量の焼土粒子を含む。締り強。
- 4 橙色土(5YR6/8) 焼土主体。少量の暗褐色土を混入する。締り強。
- 5 褐色土(10YR4/4) 硬く締り強。
- 6 黒褐色土(10YR3/2) 少量の灰を含む。締りやや強。

- 7 黒褐色土(10YR3/2) 少量の灰・焼土ブロックを含む。締りやや弱。
- 8 にぶい黄褐色シルト質土(10YR5/4) 締りやや弱。
- 9 暗褐色土(7.5YR3/4) 少量の焼土粒ブロックを含む。締り強。
- 10 黒褐色土(10YR3/2) 多量の焼土を含む。締りやや強。
- 11 暗褐色土(10YR3/3) 焼土ブロックを含む。締り強。
- 12 明赤褐色土(5YR5/8) 焼土主体。締りやや弱。
- 13 暗褐色土(10YR3/4) 微量の焼土粒を含む。締りやや強。
- 14 黒色土(10YR2/1) 灰層。少量の焼土を混入する。
- 15 灰黄褐色土(10YR4/2) 少量の灰を含む。締りやや弱。
- 16 暗褐色土(7.5YR3/4) 焼土を含む。
- 17 暗褐色土(7.5YR3/4) 土質均一。締りやや弱。

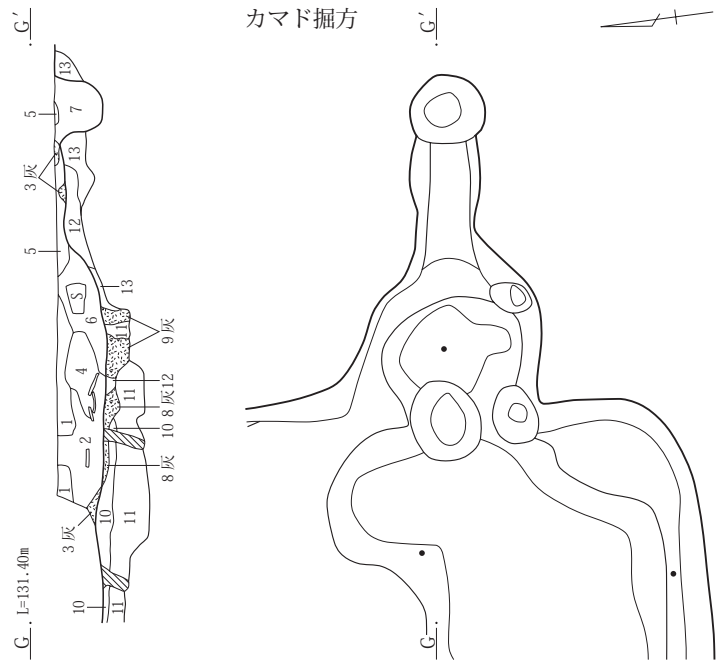


第585図 XII区20号住居と出土遺物

カマド

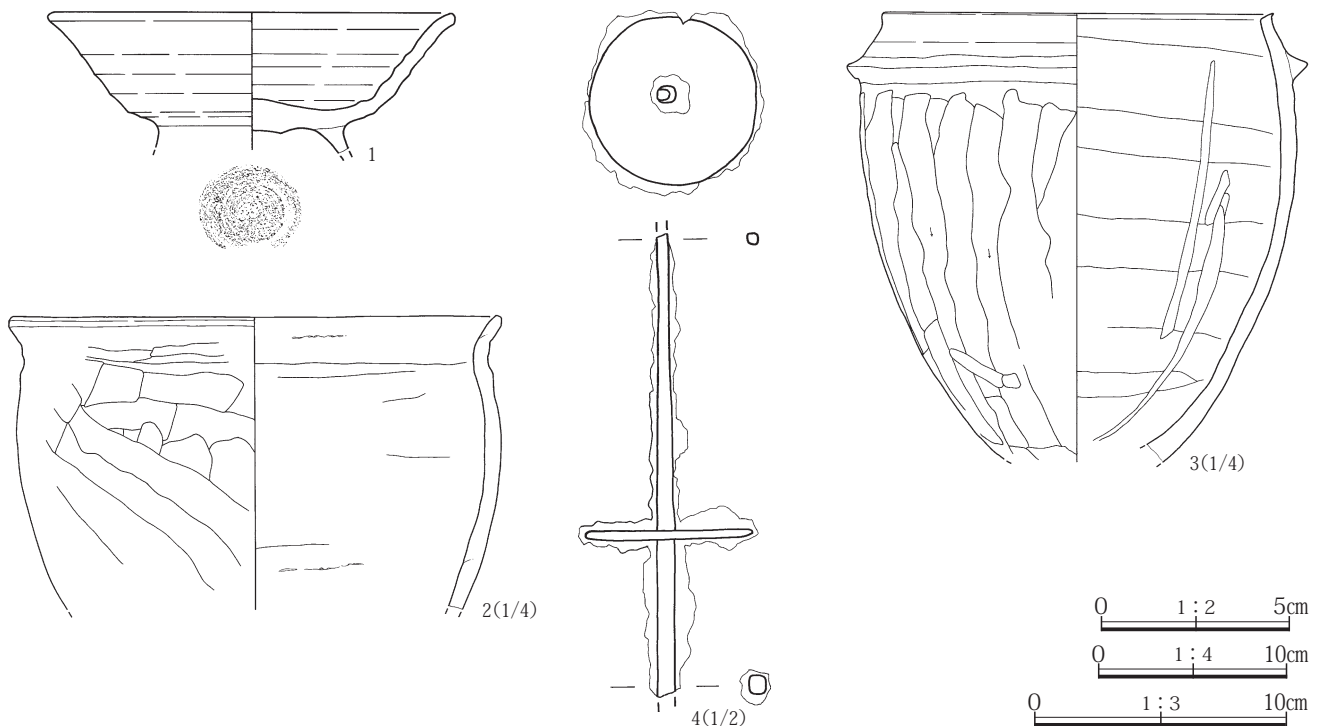


カマド掘方



- 1 暗褐色土(10YR3/3) 少量の黄褐色土粒子と微量の炭化物を含む。縮り強。
- 2 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 1層土に黄褐色土ブロックを含む。縮り強。
- 3 黒色土(10YR2/1) 灰主体。少量の焼土を混入する。縮り弱。
- 4 黒褐色土(10YR3/2) 少量の灰を含む。縮り弱。
- 5 灰黄褐色土(10YR4/2) 微量の焼土を含む。縮り強。
- 6 暗褐色土(10YR3/4) 縮りやや弱。粘性やや有。
- 7 暗褐色土(10YR3/3) 土質均一。硬く縮り強。
- 8 黒褐色土(10YR2/2) 灰主体。10・12層土を含む。縮り弱。
- 9 黒褐色土(10YR2/2) 灰主体。少量の焼土ブロックを含む。縮り弱。
=カマド掘り方埋土
- 10 灰黄褐色土(10YR4/2) 黄褐色土ブロックを含む。縮り強。=カマド掘り方埋土
- 11 灰黄褐色土(10YR4/2) 10層土よりやや暗い。やや少量の黄褐色土ブロックを含む。縮り強。
- 12 褐色土(10YR4/4) 少量の灰・焼土を含む。縮りやや強。
- 13 にぶい黄褐色シルト質土(10YR4/3) 微量の灰を含む。縮り強。

0 1:30 1m



第586図 XII区21号住居と出土遺物

重複 20号住居、64号土坑に切られる。

形状と規模 東西方向に長軸を有し、長方形を呈する竪穴住居で西部は20号住居、64号土坑によって失われている。長辺は3.26m+、短辺は3.18m、深さは0.25m、検出された最大の面積は6.41㎡である。

埋土 ニツ岳の白色軽石を含む暗褐色土からなる。

床面 暗褐色土を厚く0.13mほど貼って、平坦な床面を構築している。

掘方 XII・XIII層の黄褐色砂質土を掘り込んで構築している。カマド前から南東隅の壁際に浅い不定形の窪みを検出した。また、南西隅の壁際から長径0.65m、短径0.48m、深さ0.22mの土坑1を検出した。

カマド 東壁の南東隅寄りに位置する。カマドの燃烧部は東壁を奥に掘り込んで壁の外に構築している。燃烧部底は水平で、煙道は緩く傾きながら水平の底を呈し、煙出しの窪みに接続する。燃烧部の埋土中には長径0.12～0.23mの垂円～垂角礫3点が出土した。燃烧部壁からは焼土ブロック、燃烧部から焚口周辺からは炭化物の広がりを検出した。煙道を含むカマドは長さ1.65m、煙道長0.48m、煙道幅0.14m、煙出しの底径0.15m、カマドの幅0.75m、深さ0.20mである。

貯蔵穴 検出されなかった。南西隅の壁際から検出した

土坑1は、位置や規模から貯蔵穴の可能性はある。

遺物 床面から鉄製紡錘車(4)、カマド使用面から須恵器の椀(1)、羽釜(3)、土師器の甕(2)が出土した。

時代 平安時代10世紀第2四半期。

22号住居(第587図、PL.315)

グリッド 92M20

主軸方位 N87°E

重複 9号土坑、112号ピットに切られる。

形状と規模 東西方向に長軸を有し、方形を呈する竪穴で、南部の大部分は調査区外にある。長辺は2.50m+、短辺は1.15m+、深さは0.33m、検出された最大の面積は1.02㎡である。

埋土 ニツ岳の白色軽石を含む黒褐～暗褐色土からなる。

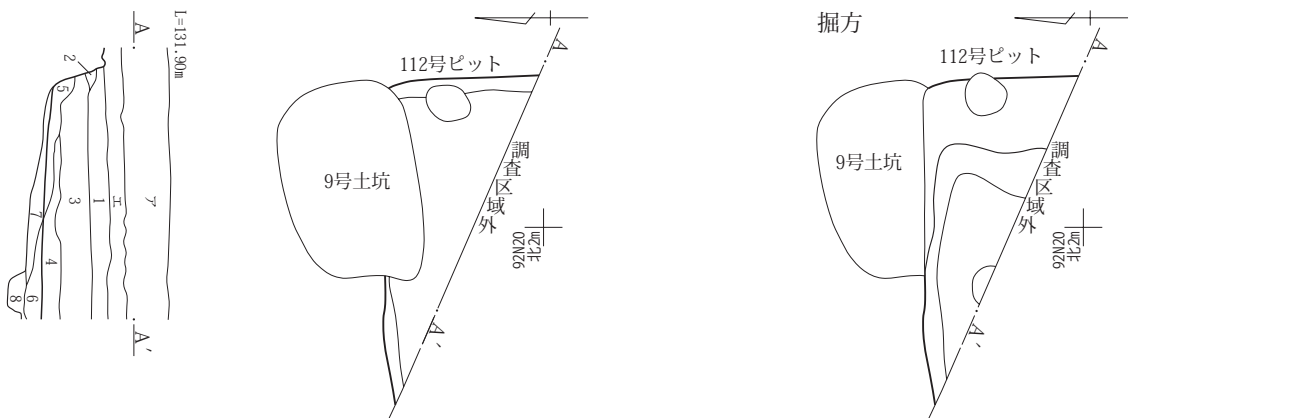
床面 灰黄褐～暗褐色土を0.12mほど貼って、平坦な床面を構築している。

掘方 XII・XIII層の黄褐色砂質土を掘り込んで構築している。

カマドと貯蔵穴 カマドと貯蔵穴は検出されなかった。

遺物 なし。

時代 埋土から古墳時代後期から平安時代と想定される。



ア 暗褐色土 現代耕作土。

エ 褐灰色土

1 黒褐色土(10YR3/2) 少量の榛名ニツ岳白色軽石と微量の炭化物・黄褐色土粒子を含む。締り強。

2 黄褐色土(2.5Y5/4) 粗い砂とシルトの混土。地山崩落土。

3 暗褐色土(10YR3/3) 微量の榛名ニツ岳白色軽石・炭化物を含む。締りやや強。粘性やや有。

4 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 黄褐色シルト質土。少量の炭化物を含む。締りやや強。粘性有。

5 灰黄褐色土(10YR4/2) 少量の黄褐色土ブロックを含む。締りやや強。

6 暗褐色土(10YR3/3) 微量の榛名ニツ岳白色軽石・炭化物を含む。締りやや弱。粘性やや有。

7 黄褐色シルト質土(2.5YR5/4) 締りやや弱。

8 黒褐色土(10YR3/2) 炭化物を含む。締りやや強。

0 1:60 2m

第587図 XII区22号住居

第3節 掘立柱建物

1. V区

1号掘立柱建物(第588図、PL.316)

グリッド 13-3区L19

形状と規模 桁・梁1間の長方形の建物と想定される。
長辺は2.33m、短辺は1.60mである。

主軸方位 N82°E

重複 なし。62号住居に近接し、同時存在はない。

柱穴 柱穴は3基検出し、断面形状はU字形を呈する。
柱穴に柱痕は認められない。

P1は長径0.27m、短径0.22m、深さ0.34mである。

P2は長径0.25m、短径0.22m、深さ0.19mである。

P3は長径0.18m、短径0.17m、深さ0.05mである。

遺物 なし。

所見 V区の竪穴住居の主軸方位と調和的であることから、奈良～平安時代の建物である可能性がある。

2. X区

1号掘立柱建物(第589図・PL.316)

グリッド 13-12区R1

形状と規模 桁2間・梁1間の長方形の建物と想定され

る。長辺は3.38m、短辺は1.70mである。桁行きの柱間は1.59~1.76m、梁行きは1.70mである。

主軸方位 N84°E

重複 32号土坑に内区が重複する。

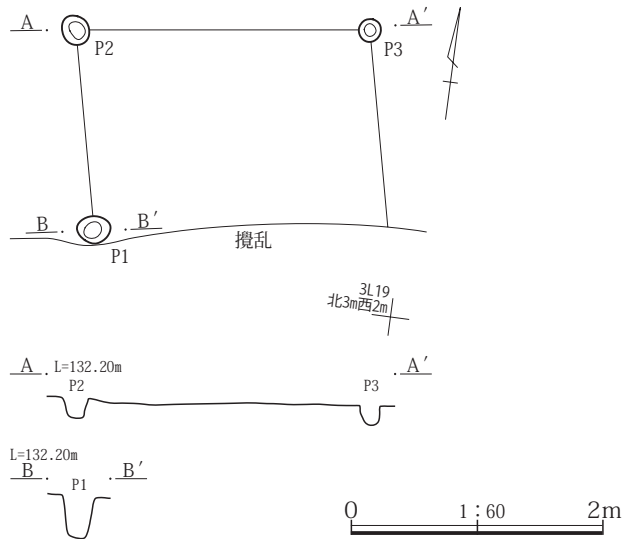
柱穴 柱穴は5基検出し、断面形状はU字形を呈する。
柱穴に柱痕は認められない。

P1は長径0.27m、短径0.24m、深さ0.52mである。

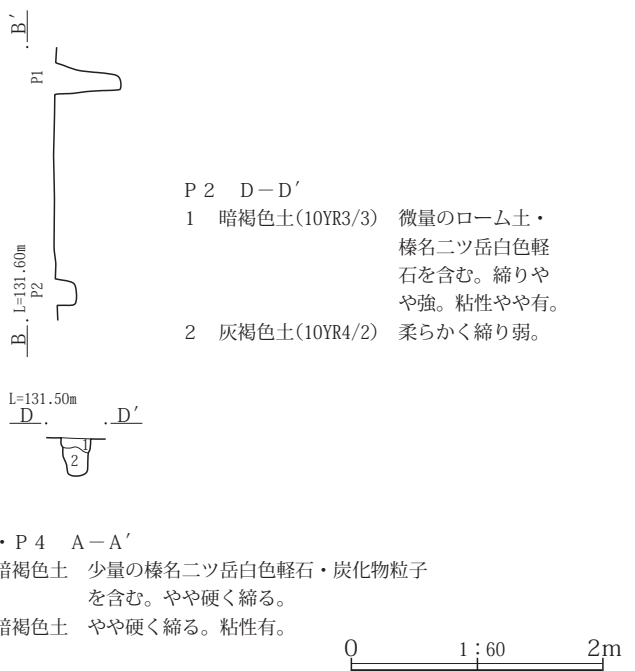
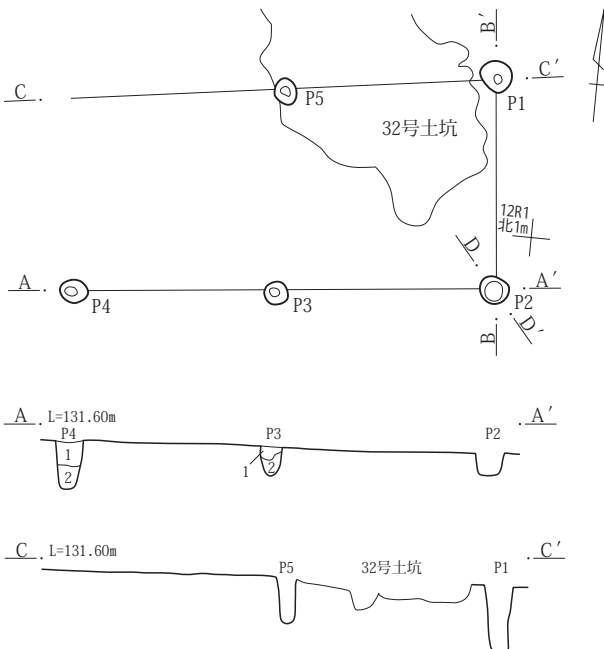
P2は長径0.24m、短径0.21m、深さ0.16mである。

P3は長径0.19m、短径0.18m、深さ0.30mである。

P4は長径0.23m、短径0.18m、深さ0.42mである。



第588図 V区1号掘立柱建物



第589図 X区1号掘立柱建物

P5は長径0.21m、短径0.17m、深さ0.40mである。

埋土 ニツ岳の白色軽石を含む暗褐～灰褐～黄褐色土からなる。

遺物 なし。

所見 柱穴の埋土はⅦ層起源の灰褐色系土からなり、浅間Bテフラを含まない。このことから奈良～平安時代の建物である可能性がある。

形状と規模 桁2間・梁2間の長方形の建物と想定され、北西部は調査区外に存在する。長辺は4.50m、短辺は3.28mである。桁行きの柱間は2.25～2.36m、梁行きの柱間は1.61～1.70mである。

主軸方位 N47°W

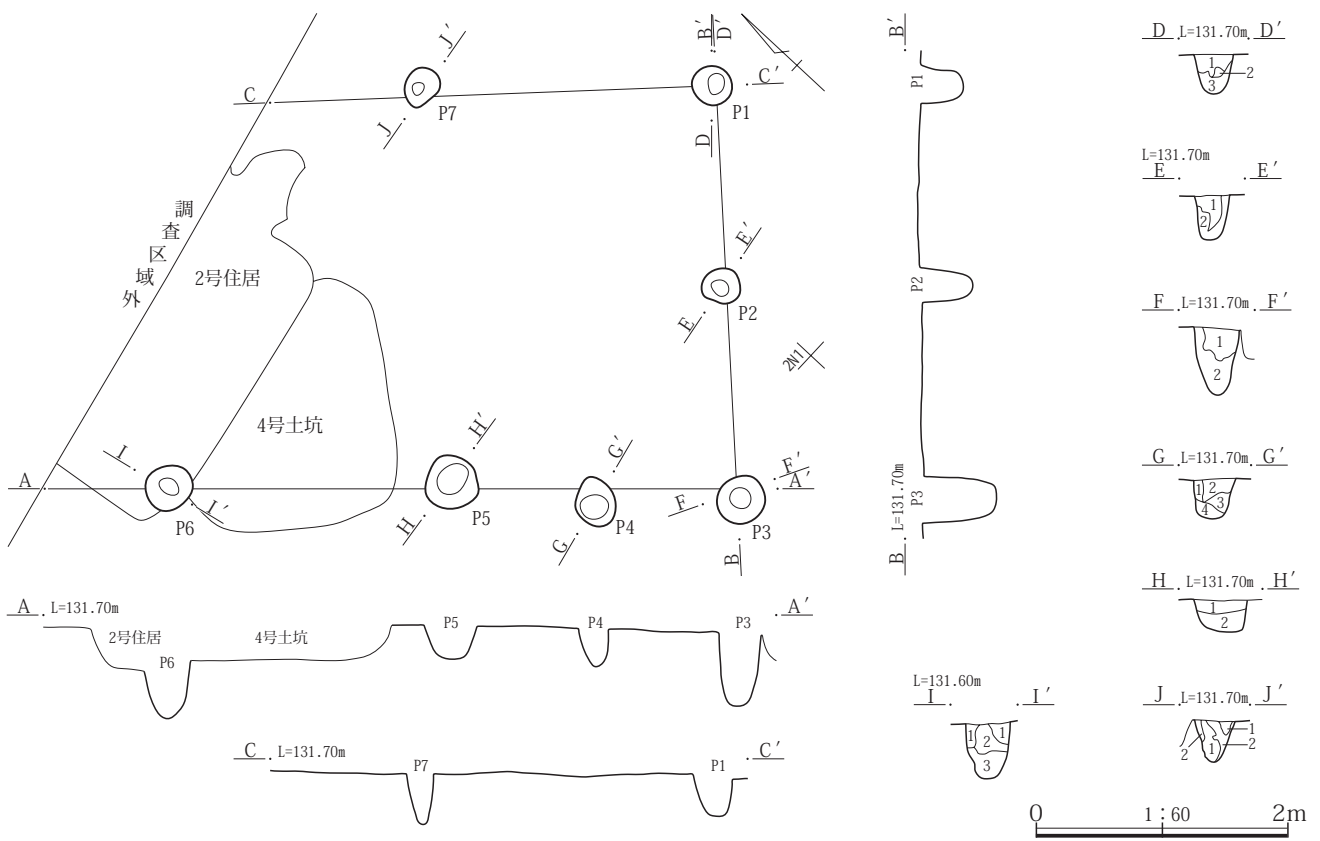
重複 P5が7号土坑を切る。P6が2号住居、4号土坑を切る。5・6・10・11・12・16号土坑に内区が重複する。

柱穴 柱穴は7基検出し、断面形状はU～V字形を呈する。柱穴に柱痕は認められない。P4はP3とP5の間に位置する補助的な柱穴の可能性はある。

3. XII区

1号掘立柱建物(第590図、PL.317)

グリッド 12-92区N20 2M・N1



P1 D-D'

- 1 暗褐色土 灰褐色土ブロック・炭化物粒子を含む。やや硬い。
- 2 灰褐色土 柔らかい。粘性有。
- 3 暗褐色土 灰褐色土ブロックを含む。締り悪い。

P2 E-E'・P7 J-J'

- 1 黒褐色土(10YR3/2) 少量のロームブロックを含む。締りやや弱。
- 2 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム土主体。少量の1層土を混入する。締りやや弱。

P4 G-G'

- 1 褐色土(10YR4/4) 少量のローム粒を含む。締り強。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) 微量の榛名ニツ岳白色軽石を含む。締り強。
- 3 黒褐色土(10YR3/2) 微量の榛名ニツ岳白色軽石を含む。締りやや強。
- 4 暗褐色土(10YR3/3) 土質均一。締りやや弱。

P3 F-F'

- 1 黒褐色土(10YR3/2) 少量のローム粒を含む。締り強。
- 2 暗灰黄色土(2.5Y5/2) ローム土と1層土との混土。締りやや弱。

P5 H-H'

- 1 黒褐色土(10YR3/2) 微量の榛名ニツ岳白色軽石を含む。締りやや弱。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) 少量のローム土を混入する。締りやや弱。

P6 I-I'

- 1 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム土と2層土との混土。少量の榛名ニツ岳白色軽石粒を含む。締り強。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) 少量の1層土を混入する。締りやや弱。
- 3 暗褐色土(10YR3/3) 土質ほぼ均一。微量のローム土を混入する。締りやや弱。

第590図 XII区1号掘立柱建物

- P 1は長径0.33m、短径0.31m、深さ0.34mである。
- P 2は長径0.30m、短径0.28m、深さ0.42mである。
- P 3は長径0.39m、短径0.36m、深さ0.59mである。
- P 4は長径0.41m、短径0.33m、深さ0.33mである。
- P 5は長径0.43m、短径0.43m、深さ0.29mである。
- P 6は長径0.38m、短径0.34m、深さ0.46mである。
- P 7は長径0.32m、短径0.27m、深さ0.43mである。

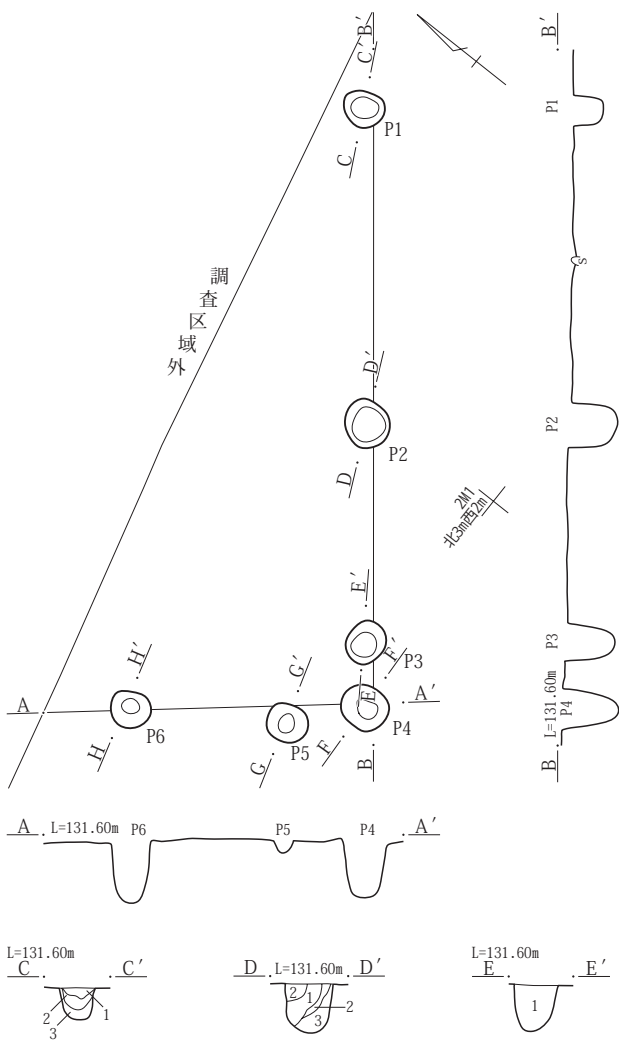
埋土 灰黄褐色土からなる。

遺物 なし。

所見 柱穴の埋土はⅦ層起源の灰褐色系土からなり、浅間Bテフラを含まない。このことから奈良～平安時代の建物である可能性がある。

2号掘立柱建物(第591図、PL.317)

グリッド 13-2区M1・2



形状と規模 桁2間・梁1間以上の長方形の建物と想定され、北部は調査区外に存在する。長辺は4.80m、短辺は2.58m+である。桁行きの柱間は2.28~2.50m、梁行きの柱間は1.89mである。

主軸方位 N53° E

重複 3号掘立柱建物、18・33号土坑と内区が重複する。

柱穴 柱穴は6基検出し、断面形状はU字形を呈する。柱穴に柱痕は認められない。P 4の周辺にP 3とP 5の補助的な柱穴が存在する。

P 1は長径0.34m、短径0.28m、深さ0.29mである。

P 2は長径0.38m、短径0.36m、深さ0.40mである。

P 3は長径0.34m、短径0.28m、深さ0.43mである。

P 4は長径0.38m、短径0.33m、深さ0.46mである。

P 5は長径0.33m、短径0.29m、深さ0.36mである。

P 6は長径0.32m、短径0.29m、深さ0.23mである。

P 1 C-C'

- 1 灰褐色土 榛名二ツ岳白色軽石・炭化物粒子を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 2 暗褐色土 柔らかい。粘性有。
- 3 暗褐色土 やや硬く締る。粘性有。

P 2 D-D'

- 1 黒褐色土(10YR3/2) 微量の黒色土ブロック・ローム粒を含む。締りやや弱。
- 2 暗褐色土(10YR3/4) 1層土にローム土が混じる。締りやや強。
- 3 黒褐色土(10YR3/2) 土質均一。柔らかくて締り弱。

P 3 E-E'

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 黒褐色土との混土。締り弱。粘性やや有。

P 4 F-F'

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 微量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。締りやや強。
- 2 褐色土(10YR4/4) ローム土主体。締りやや弱。
- 3 黒褐色土(10YR3/2) 土質均一。締りやや弱。

P 5 G-G'

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 明るいローム土が不規則に混じる。締りやや弱。
- 2 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 1層土よりローム土の割合高い。締りやや弱。

P 6 H-H'

- 1 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム土混じり。微量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。締りやや強。
- 1' にぶい黄褐色土(10YR4/3) 1層土より締り弱。軽石を含まない。
- 2 黒褐色土(10YR3/2) 少量のローム土を混入する。微量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。締りやや弱。
- 2' 黒褐色土(10YR3/2) 2層土より土質均一。軽石を含まない。

第591図 XII区2号掘立柱建物

埋土 灰黄褐色土からなる。

遺物 なし。

所見 柱穴の埋土はⅦ層起源の灰褐色系土からなり、浅間Bテフラを含まない。このことから奈良～平安時代の建物である可能性がある。

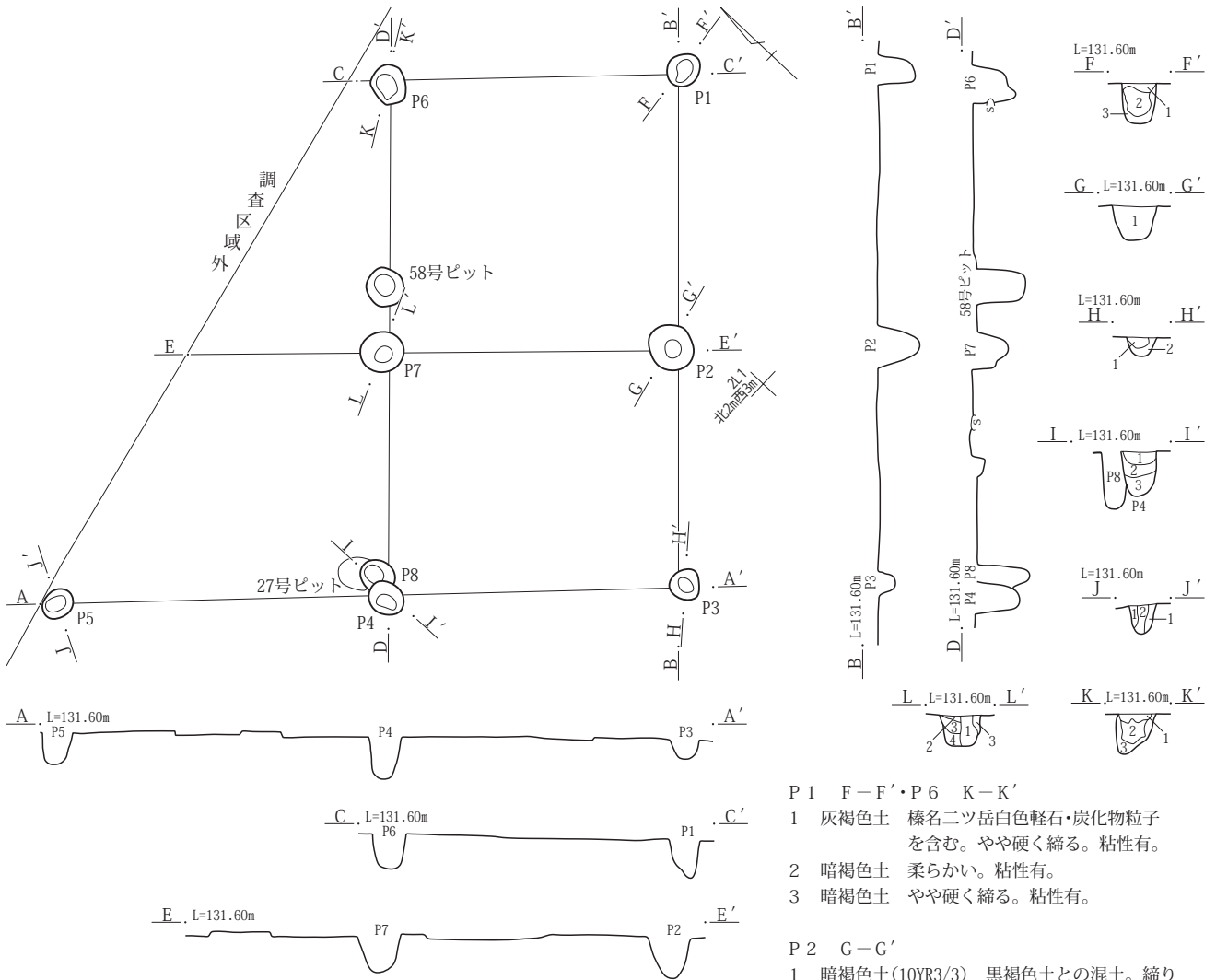
3号掘立柱建物(第592図、PL.318)

グリッド 13-2区L1 M1・2

形状と規模 桁2間・梁2間の長方形の総柱建物と想定され、北部は調査区外に存在する。長辺は5.46m、短辺は4.42mである。桁行きの柱間は2.58~2.84m、梁行きの柱間は2.04~2.40mである。

主軸方位 N45°W

重複 2号掘立柱建物、19・33号土坑、1号鍛冶遺構と



- P1 F-F'・P6 K-K'
- 1 灰褐色土 榛名二ツ岳白色軽石・炭化物粒子を含む。やや硬く締る。粘性有。
 - 2 暗褐色土 柔らかい。粘性有。
 - 3 暗褐色土 やや硬く締る。粘性有。

- P2 G-G'
- 1 暗褐色土(10YR3/3) 黒褐色土との混土。締り弱。粘性やや有。

- P4 I-I'
- 1 暗褐色土 榛名二ツ岳白色軽石を含む。やや硬い。
 - 2 暗褐色土 炭化物粒子を含む。やや硬い。粘性有。
 - 3 灰褐色土 やや硬い。粘性有。

- P3 H-H'
- 1 黒褐色土 灰褐色土ブロックを含む。やや硬い。粘性有。
 - 2 灰黄褐色土 多量の灰褐色土ブロックを含む。やや硬い。粘性有。

- P5 J-J'
- 1 灰褐色土(10YR4/2) 土質ほぼ均一。締りやや強。
 - 2 黒褐色土(10YR3/2) 少量の1層土を混入する。微量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。締りやや弱。

- P7 L-L'
- 1 暗褐色土 黄褐色土粒子・炭化物粒子を含む。硬くて締り良い。
 - 2 黒褐色土 黄褐色土粒子を含む。やや硬く締る。
 - 3 暗褐色土 灰褐色土ブロック・炭化物粒子を含む。やや硬く締る。粘性有。
 - 4 灰褐色土 硬く締る。粘性有。

0 1:60 2m

第592図 XII区3号掘立柱建物

内区が重複する。

柱穴 柱穴は8基検出し、断面形状はU～V字形を呈する。柱穴に柱痕は認められない。P4の周辺にP8の補助的な柱穴が存在する。

P1は長径0.31m、短径0.27m、深さ0.36mである。

P2は長径0.40m、短径0.36m、深さ0.43mである。

P3は長径0.26m、短径0.26m、深さ0.17mである。

P4は長径0.31m、短径0.28m、深さ0.42mである。

P5は長径0.28m、短径0.23m、深さ0.25mである。

P6は長径0.34m、短径0.28m、深さ0.37mである。

P7は長径0.38m、短径0.34m、深さ0.33mである。

P8は長径0.33m、短径0.29m、深さ0.33mである。

埋土 灰黄褐色土からなる。

遺物 なし。

所見 柱穴の埋土はⅦ層起源の灰褐色系土からなり、浅間Bテフラを含まない。このことから奈良～平安時代の建物である可能性がある。

4号掘立柱建物(第593図、PL.318)

グリッド 12-92区M20 2M1

形状と規模 桁2間・梁2間の長方形の総柱建物と想定され、北西部は調査区外に存在する。長辺は4.90m、短辺は4.00mである。桁行きの柱間は2.45～2.50m、梁行きの柱間は1.90～2.14mである。

主軸方位 N29°W

重複 P2が27号土坑を切る。P5が11号土坑、P6が2号住居、P7が4号住居、P10が5号住居に切られる。5・6・12・18号土坑が内区に重複する。

柱穴 柱穴は10基検出し、断面形状はU～V字形を呈する。柱穴に柱痕は認められない。P1・P3の柱間にP2、P3・P9の柱列にP8・P10の補助的な柱穴が存在する。

P1は長径0.40m、短径0.35m、深さ0.38mである。

P2は長径0.34m、短径0.29m、深さ0.25mである。

P3は長径0.34m、短径0.30m、深さ0.34mである。

P4は長径0.45m、短径0.39m、深さ0.39mである。

P5は長径0.28m、短径0.24m、深さ0.16mである。

P6は長径0.32m、短径0.28m、深さ0.47mである。

P7は長径0.29m、短径0.27m、深さ0.45mである。

P8は長径0.33m、短径0.31m、深さ0.34mである。

埋土 灰黄褐色土からなる。

遺物 なし。

所見 柱穴の埋土はⅦ層起源の灰褐色系土からなり、浅間Bテフラを含まない。このことから奈良～平安時代の建物である可能性がある。

第4節 竪穴

1. V区

1号竪穴(第594図、PL.319・320)

グリッド 13-3区P20

主軸方位 N3°E

重複 なし。

形状と規模 南北方向に長辺を有する隅丸長方形の竪穴遺構である。長辺は3.62m、短辺2.99m、深さは0.09m、面積は9.08㎡である。

埋土 にぶい黄褐色砂質土からなる。

床面 Ⅷ層の黄褐色砂質土を削り出して平坦な床面を構築している。南西部と北部に浅い窪みを検出した。

柱穴 柱穴は検出されなかった。主柱穴を持たない構造の竪穴と想定される。

遺物 なし。

所見 年代未詳の竪穴である。

2号竪穴(第595図、PL.319・320)

グリッド 13-13区P4

主軸方位 N57°E

重複 3号竪穴を切る。

形状と規模 北東～南西方向に長辺を有する歪んだ隅丸長方形の竪穴遺構である。長辺は3.51m、短辺3.36m、深さは0.67m、面積は9.45㎡である。

埋土 二ツ岳の白色軽石を含む灰黄褐～褐色砂～シルト質土が成層する。

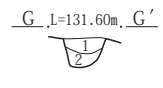
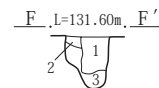
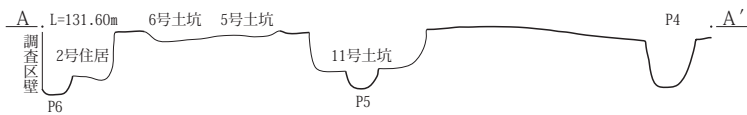
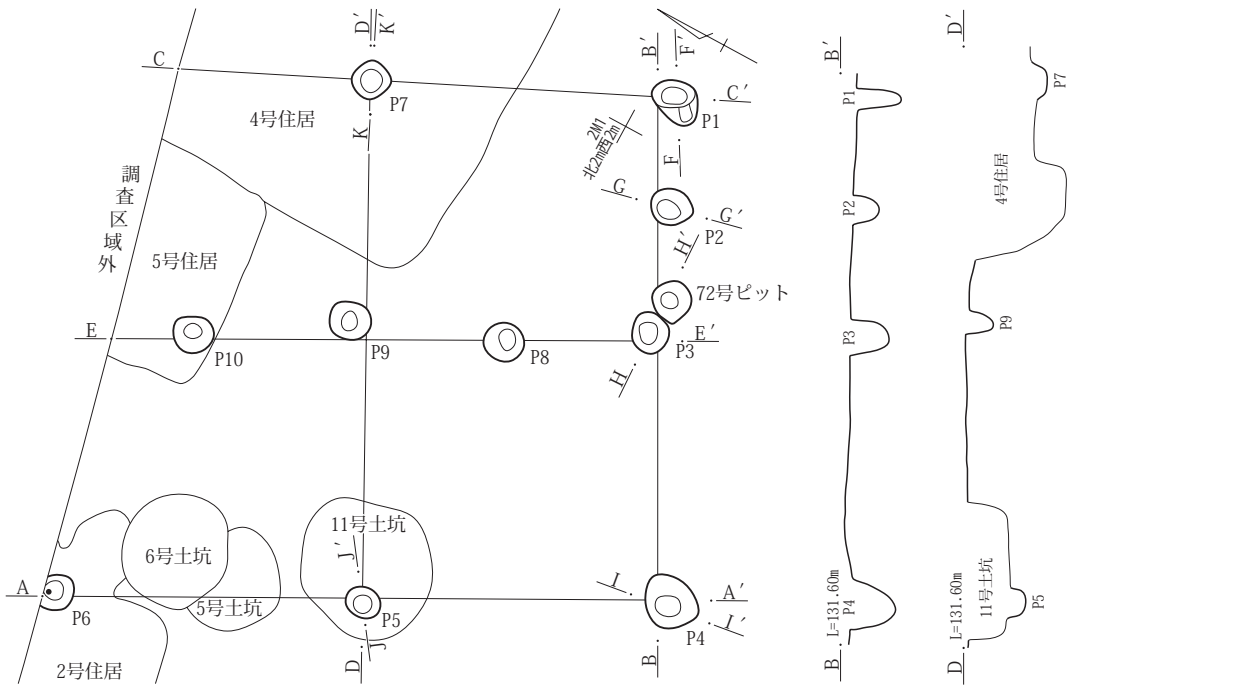
床面 Ⅷ層の黄褐色砂質土を削り出して平坦な床面を構築している。炭化物の広がりや浅い窪みを検出した。

柱穴 柱穴は検出されなかった。主柱穴を持たない構造の竪穴と想定される。

遺物 なし。

所見 埋土から古墳時代後期から平安時代と想定される。

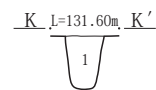
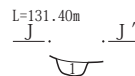
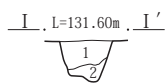
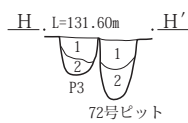
第4章 第2面の遺構と出土遺物



- P 1 F-F'
- 1 黒褐色土 灰褐色土ブロック・炭化物粒子を含む。やや硬い。粘性有。
 - 2 暗褐色土 灰褐色土ブロックを含む。硬い。
 - 3 暗褐色土 多量の灰褐色土ブロックを含む。やや硬い。



- P 2 G-G'
- 1 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 少量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。縮り強。
 - 2 褐色土(10YR4/4) にぶい黄褐色シルト質土を含む。縮り強。

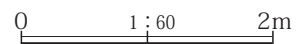


- P 3 H-H'
- 1 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 少量の榛名二ツ岳白色軽石・黄褐色土粒子を含む。硬く縮り強。
 - 2 にぶい黄褐色シルト質土(10YR5/4) 1層土より少量の軽石を含む。縮りやや強。

- P 5 J-J'
- 1 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 少量のくすんだローム土を混入する。縮りやや強。

- P 4 I-I'
- 1 暗褐色土(10YR3/3) 微量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。縮り強。
 - 2 暗褐色土(10YR3/3) 少量のローム土を混入する。縮りやや弱。

- P 7 K-K'
- 1 黒褐色土(10YR3/2) 微量の黒色土ブロック・ローム粒を含む。縮りやや弱。



第593図 XII区4号掘立柱建物

3号竪穴(第595図、PL.320)

グリッド 13-13区P 4

主軸方位 N74° E

重複 2号竪穴に切られる。

形状と規模 東西方向に長辺を有する歪んだ隅丸長方形の竪穴遺構で北部は2号竪穴、南東部は攪乱によって失われている。長辺は3.41m、短辺3.14m+、深さは0.65m、検出された最大の面積は5.02㎡である。

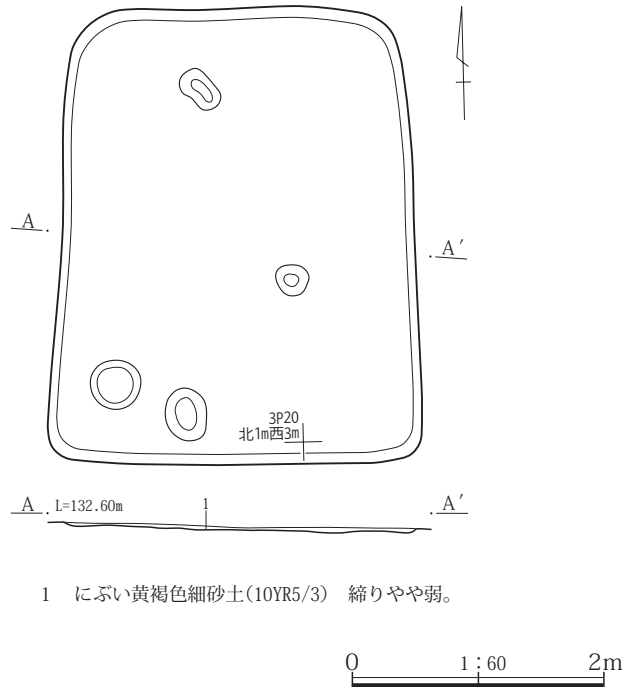
埋土 ニツ岳の白色軽石を含む灰黄褐～褐色砂～シルト質土が成層する。

床面 Ⅱ層の黄褐色砂質土を削り出して平坦な床面を構築している。浅い窪みを検出した。

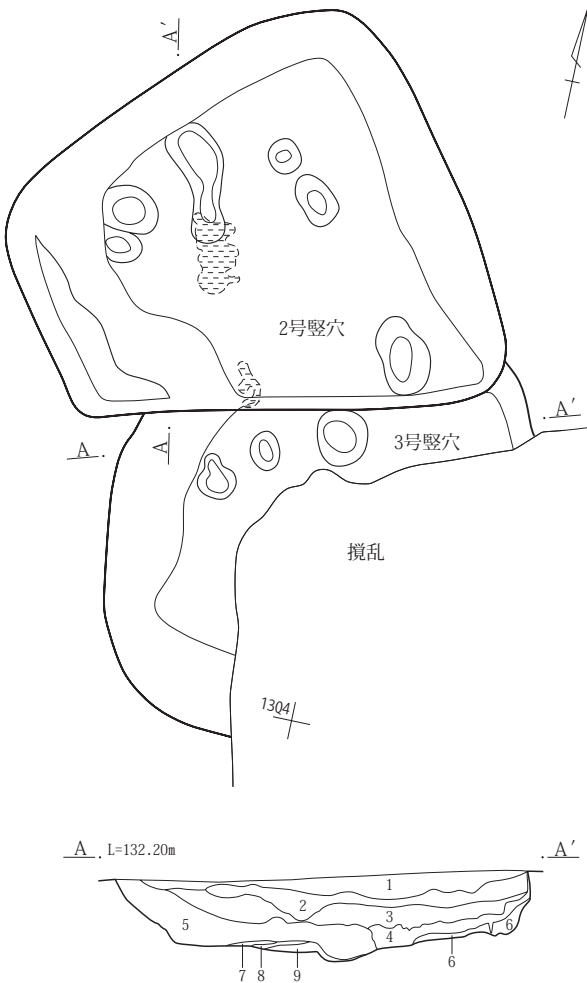
柱穴 柱穴は検出されなかった。主柱穴を持たない構造の竪穴と想定される。

遺物 なし。

所見 埋土から古墳時代後期から平安時代と想定される。



第594図 V区1号竪穴



- 2号竪穴
- 1 黄灰色砂質土(2.5Y6/1) 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1～3mm大)と多量の灰色粗砂と灰黄褐色砂質土を含む。
 - 2 黄灰色砂質土(2.5Y6/1) 砂質土中心層。一部粘性味のある褐灰色シルト質土を混入する。
 - 3 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1～5mm大)を含む。
 - 4 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1～2mm大)を含む。
 - 5 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 粘性やや有。
 - 6 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) にぶい黄褐色シルト質土ブロックを含む。
- 3号竪穴
- 1 黄灰色砂質土(2.5Y6/1) 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1～3mm大)と多量の灰色粗砂と灰黄褐色砂質土を含む。
 - 2 褐灰色シルト質土(10YR5/1) 灰色の砂質土を層状に含む。粘性やや有。
 - 3 黄灰色砂質土(2.5Y6/1) 砂質土中心層。
 - 4 褐灰色シルト質土(10YR5/1) 2層土に近い層。粘性やや有。
 - 5 黄灰色砂質土(2.5Y6/1) 砂質土中心層。一部粘性味のある褐灰色シルト質土を混入する。
 - 6 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1～2mm大)を含む。
 - 7 灰黄褐色砂質土(10YR4/2)
 - 8 にぶい黄褐色シルト質土(10YR6/4)
 - 9 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) にぶい黄褐色シルトブロックを含む。
- 0 1:60 2m

第595図 V区2・3号竪穴

4号竪穴(第596図、PL.321)

グリッド 13-13区P 2

主軸方位 N10° E

重複 1号溝に切られる。

形状と規模 南北方向に長辺を有する隅丸長方形の竪穴遺構で、西部は1号溝により失われている。長辺は2.28m、短辺1.46m+、深さは0.19m、検出された最大の面積は3.12㎡である。

埋土 浅間Cテフラやニツ岳の白色軽石を含むにぶい黄褐～灰黄褐色砂質土からなる。

床面 Ⅱ層の黄褐色砂質土を削り出して平坦な床面を構築している。

柱穴 柱穴は検出されなかった。主柱穴を持たない構造の竪穴と想定される。

遺物 なし。

所見 埋土から古墳時代後期から平安時代と想定される。

5号竪穴(第596図、PL.320・321・439)

グリッド 13-13区H 2

主軸方位 N59° W

重複 67・69号住居を切る。

形状と規模 北西～南東方向に長辺を有する隅丸長方形の竪穴遺構で、南東部は調査区外に存在する。長辺は3.14m+、短辺2.49m、深さは0.22m、検出された最大の面積は4.64㎡である。

埋土 上層に浅間Bテフラを含む黒褐色土とニツ岳の白色軽石を含む灰黄褐色砂質土の下層からなる。

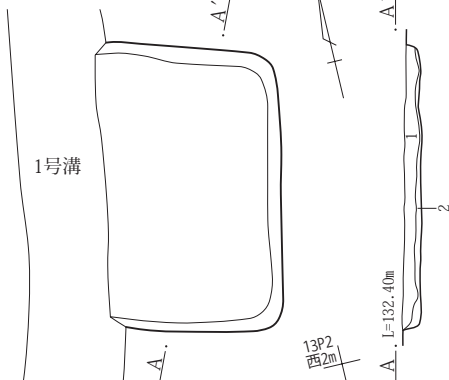
床面 67・69号住居埋土を削り出して平坦な床面を構築している。

柱穴 柱穴は検出されなかった。主柱穴を持たない構造の竪穴と想定される。

遺物 底面直上から9世紀前半の土師器の杯(1)が出土した。

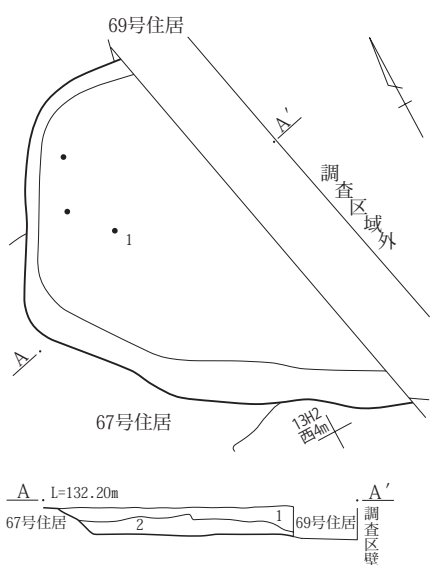
所見 10世紀後半に帰属する69号住居よりも新しく、埋土上層に浅間Bテフラの軽石粒を含むことから10世紀以降の竪穴と考えられる。

4号竪穴

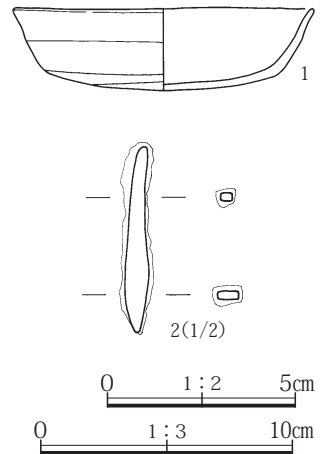


- 1 にぶい黄褐色砂質土 微量の浅間C軽石粒(φ 1～7mm (10YR5/3) 大)・榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1～20mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色砂質土 微量の浅間C軽石粒(φ 1～2mm大)を含む。

5号竪穴



- 1 黒褐色砂質土 少量の浅間B軽石、微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1～10mm大)・炭化粒子(φ 1～3mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色砂質土 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒・炭化粒子(φ 1～2mm大)を含む。



第596図 V区4・5号竪穴と5号竪穴の出土遺物

6号竪穴(第597図、PL.439)

グリッド 13-3区N20

主軸方位 N4°W

重複 70・71号土坑に切られる。

形状と規模 南北方向に長辺を有する隅丸長方形の竪穴遺構である。長辺は2.80m、短辺1.76m、深さは0.49m、面積は4.39㎡である。

埋土 浅間Cテフラや二ツ岳の白色軽石を含むにぶい黄橙～灰黄褐色砂質土からなる。

床面 XII層の黄褐色砂質土を削り出して平坦な床面を構築している。

柱穴 柱穴は検出されなかった。主柱穴を持たない構造の竪穴と想定される。

遺物 底面から0.11～0.23m上から完形の須恵器の椀(1・2)が出土した。

所見 平安時代10世紀第2四半期。

の竪穴遺構である。長辺は3.86m、短辺3.43m、深さは0.38m、面積は6.98㎡である。

埋土 二ツ岳の白色軽石を含む灰黄褐色砂質土が成層する。

床面 XII層の黄褐色砂質土を削り出して平坦な床面を構築している。

柱穴 柱穴は検出されなかった。主柱穴を持たない構造の竪穴と想定される。

遺物 なし。

所見 9世紀後半に帰属する21号住居よりも新しい。

2号竪穴(第598図、PL.322・323)

グリッド 13-3区I9

主軸方位 N72°E

重複 15号溝に切られる。21号住居を切る。

形状と規模 北東～南西方向に長辺を有する隅丸長方形の竪穴遺構で、南部は15号溝により失われ、南西部は調査区外に存在する。長辺は4.51m+、短辺2.16m+、深さは0.19m、検出された最大の面積は5.93㎡である。

埋土 二ツ岳の白色軽石を含む褐灰～灰黄褐色砂質土が成層する。

床面 XII層の黄褐色砂質土を削り出して平坦な床面を構築している。

2. VI区

1号竪穴(第598図)

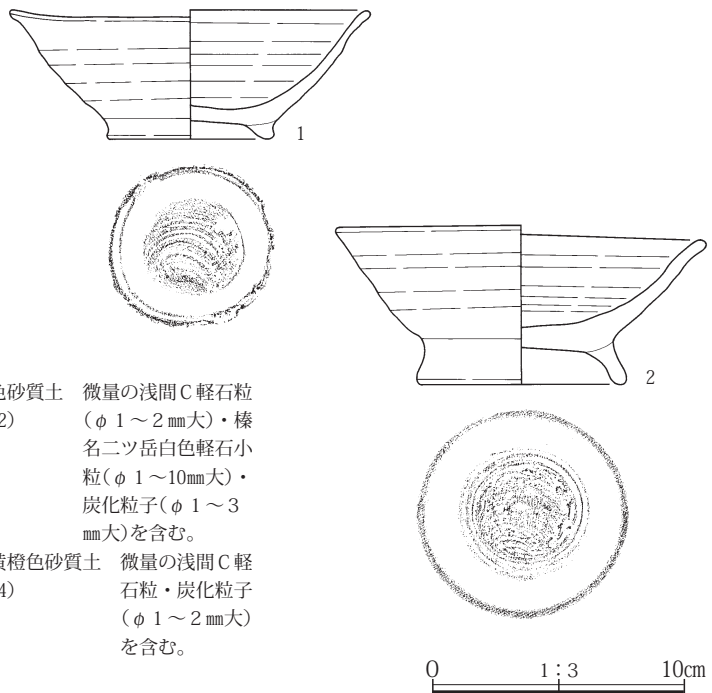
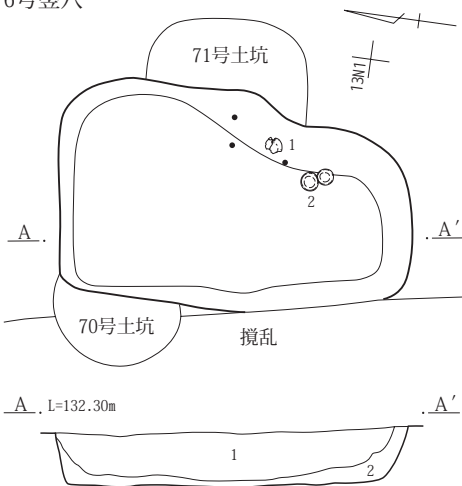
グリッド 13-3区I10

主軸方位 N49°E

重複 21号住居を切る。

形状と規模 北東～南西方向に長辺を有する隅丸長方形

6号竪穴



- 1 灰黄褐色砂質土 (10YR4/2) 微量の浅間C軽石粒(φ1～2mm大)・榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ1～10mm大)・炭化粒子(φ1～3mm大)を含む。
- 2 にぶい黄橙色砂質土 (10YR6/4) 微量の浅間C軽石粒・炭化粒子(φ1～2mm大)を含む。

第597図 V区6号竪穴と出土遺物

柱穴 柱穴は検出されなかった。支柱穴を持たない構造の竪穴と想定される。

遺物 なし。

所見 9世紀後半に帰属する21号住居よりも新しい。

3号竪穴(第599図、PL.323・439)

グリッド 13-3区E9

主軸方位 N35°E

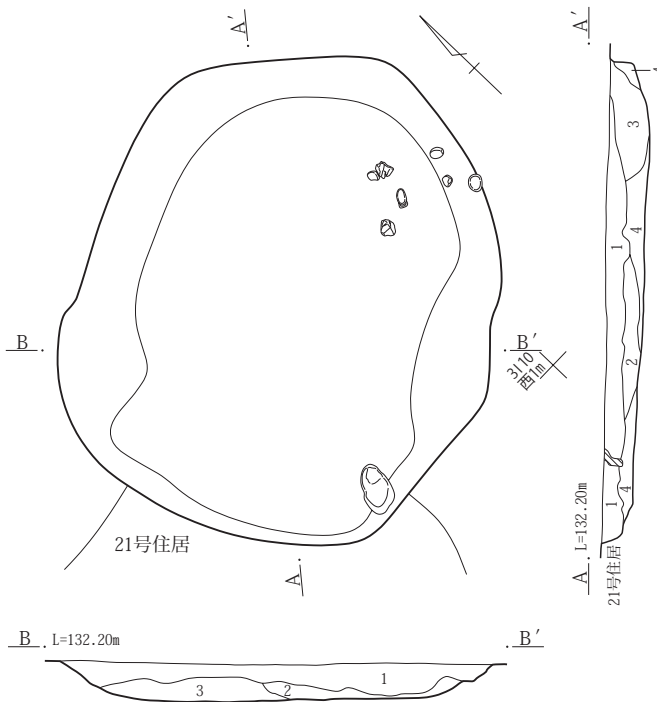
重複 28号住居に切られる。

形状と規模 北東～南西方向に長辺を有する隅丸長方形の竪穴遺構で、東部は調査区外に存在する。長辺は6.18m+、短辺5.53m+、深さは0.42m、検出された最大の面積は21.19㎡である。

埋土 ニツ岳の白色軽石を含む灰黄褐色砂質土からなる。

床面 XII層の黄褐色砂質土を削り出して凹凸のある床面を構築している。調査区境際から不定形の窪みを検出した。

1号竪穴



- 1 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 少量の榛名ニツ岳白色軽石小粒・にぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ5~10mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 少量の榛名ニツ岳白色軽石小粒・にぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ5~10mm大)を含む。
- 3 灰黄褐色砂質土(10YR6/2) 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒と少量のにぶい黄褐色砂質土シルトブロック(φ10~30mm大)を含む。

柱穴 柱穴は検出されなかった。支柱穴を持たない構造の竪穴と想定される。

遺物 底面直上から須恵器の杯(1)、土師器の甕(3)、埋土から土師器の壺(2)が出土した。

所見 10世紀後半に帰属する28号住居よりも旧く、出土遺物から平安時代9世紀第4四半期と考えられる。

4号竪穴(第600図、PL.324)

グリッド 13-3区H7

主軸方位 N74°W

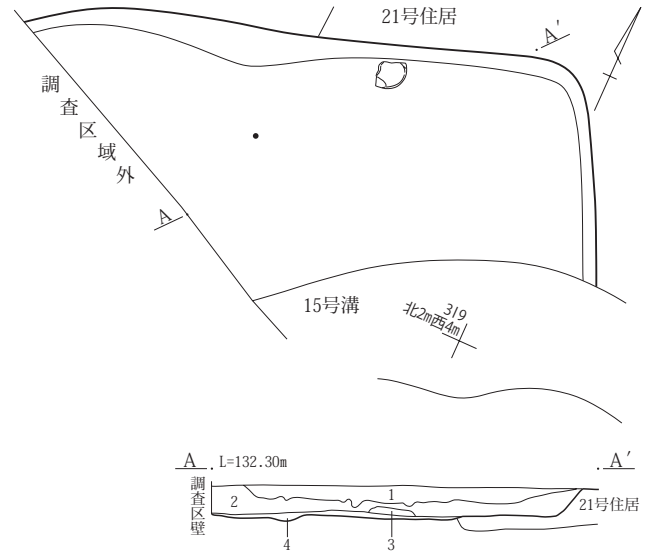
重複 なし。6号竪穴に近接する。

形状と規模 南北方向に長辺を有する隅丸長方形の竪穴遺構で、西部は調査区外に存在する。長辺は2.69m+、短辺1.83m+、深さは0.10m、検出された最大の面積は2.86㎡である。

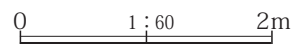
埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

床面 XII層の黄褐色砂質土を削り出して平坦な床面を構

2号竪穴



- 1 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 少量の榛名ニツ岳白色軽石小粒とにぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ5~10mm大)を含む。
- 2 褐灰色砂質土(10YR5/1) 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒と少量のにぶい黄褐色砂質土シルトブロック(φ10~30mm大)を含む。
- 3 褐灰色砂質土(10YR5/1) 多量のにぶい黄褐色砂質土シルトブロック(φ5~30mm大)を含む。
- 4 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の榛名ニツ岳白色軽石と多量のにぶい黄褐色砂質土シルトブロック(φ10~30mm大)を含む。



第598図 VI区1・2号竪穴

築している。床面から長径0.20m大の円礫が出土した。
 柱穴 柱穴は検出されなかった。主柱穴を持たない構造の竪穴と想定される。
 遺物 なし。
 所見 年代未詳の竪穴である。

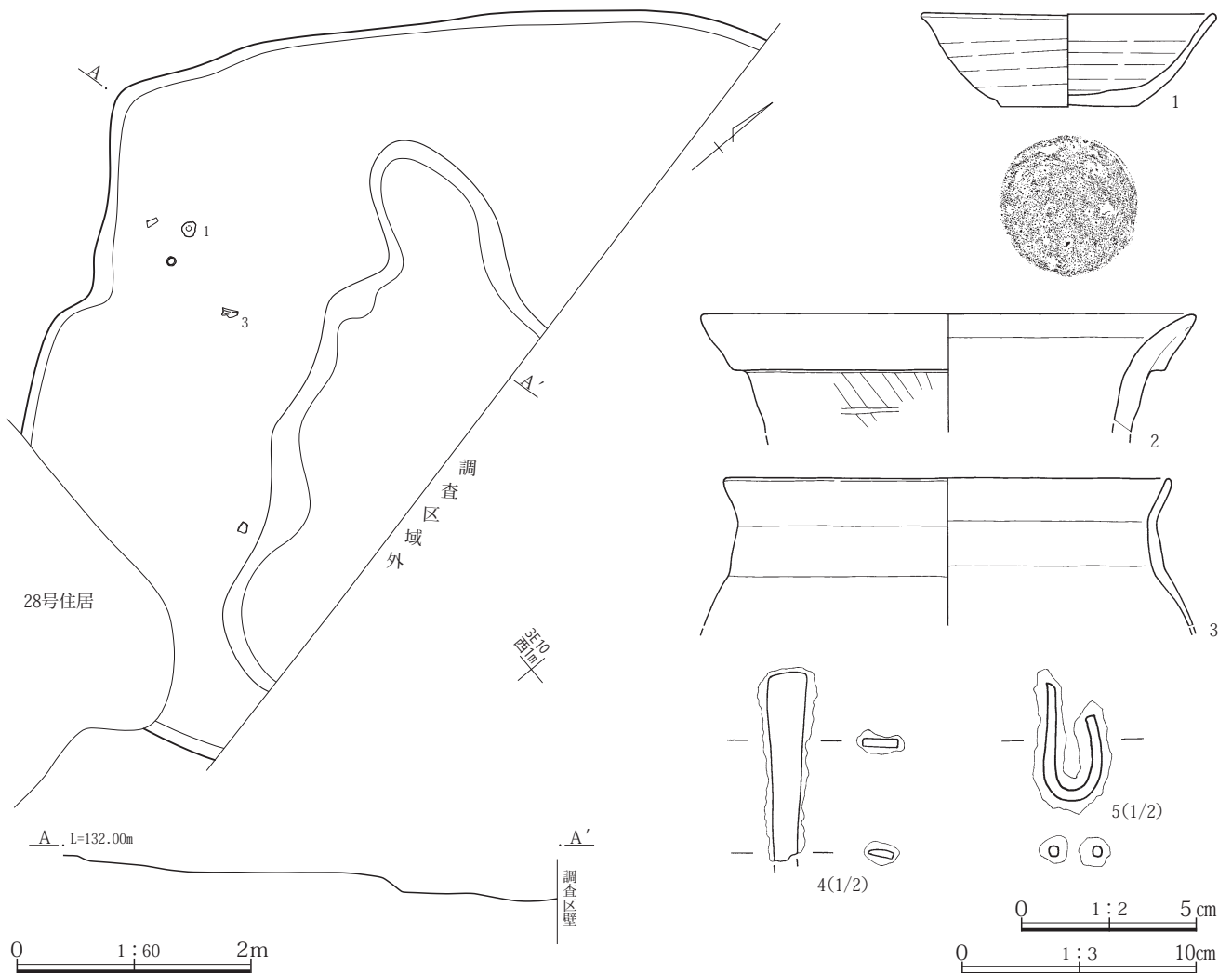
5号竪穴(第600図)

グリッド 13-3区G7
 主軸方位 N24°W
 重複 17・19号溝に切られる。27号住居に近接し、同時存在はない。
 形状と規模 北西～南東方向に長辺を有する隅丸長方形の竪穴遺構で、西部は17号溝により失われている。長辺は3.07m、短辺1.52m+、深さは0.16m、検出された最大の面積は4.08㎡である。
 床面 XII層の黄褐色砂質土を削り出して平坦な床面を構

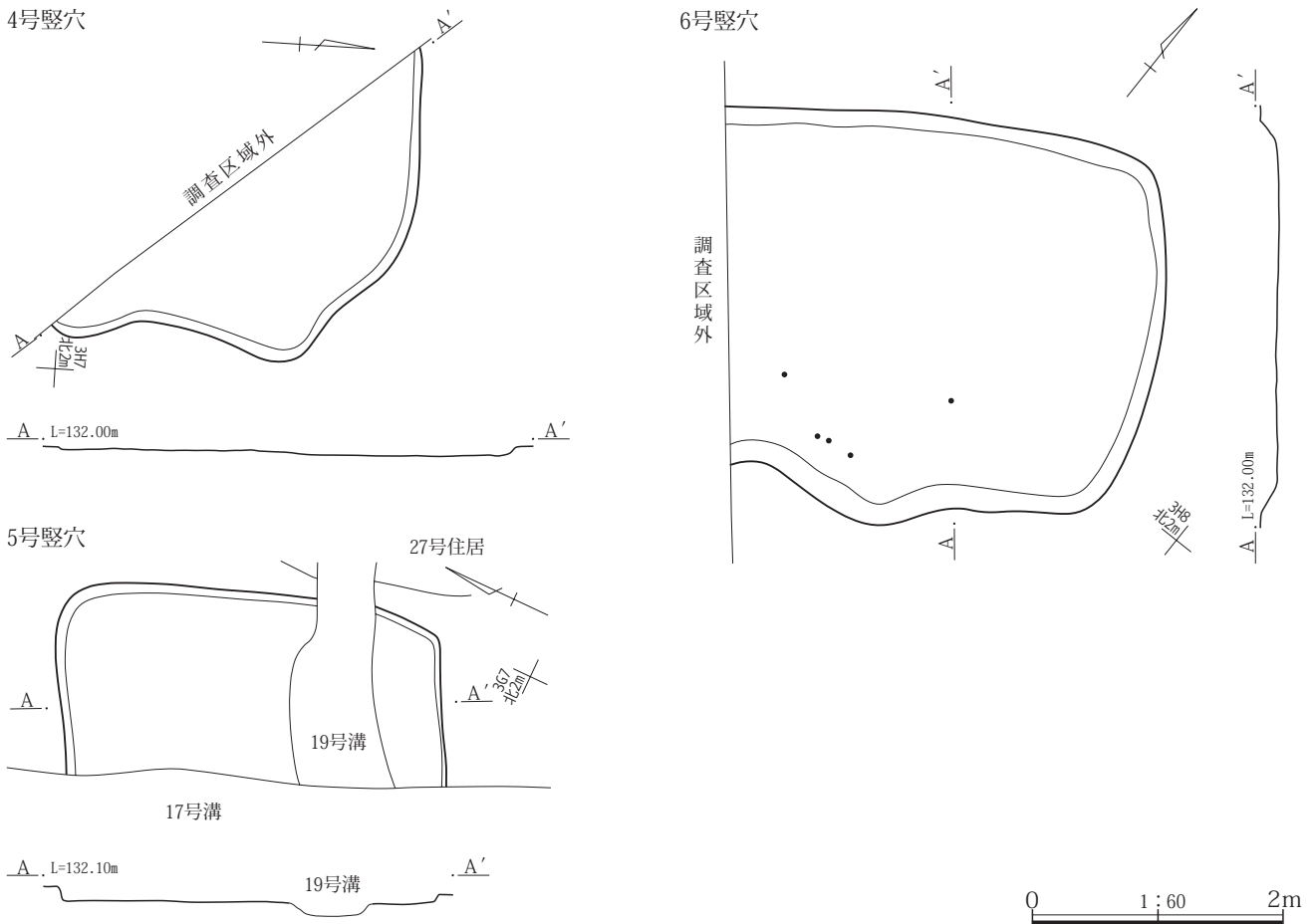
築している。
 柱穴 柱穴は検出されなかった。主柱穴を持たない構造の竪穴と想定される。
 遺物 なし。
 所見 年代未詳の竪穴である。

6号竪穴(第600図、PL.324)

グリッド 13-3区H8
 主軸方位 N57°E
 重複 なし。4号竪穴に近接する。
 形状と規模 北東～南西方向に長辺を有する隅丸長方形の竪穴遺構で、南西部は調査区外に存在する。長辺は3.52m+、短辺3.31m、深さは0.22m、検出された最大の面積は8.92㎡である。
 埋土 灰黄褐色砂質土からなる。
 床面 XII層の黄褐色砂質土を削り出して平坦な床面を構



第599図 VI区3号竪穴と出土遺物



第600図 VI区4～6号竖穴

築している。

柱穴 柱穴は検出されなかった。主柱穴を持たない構造の竖穴と想定される。

遺物 なし。

所見 年代未詳の竖穴である。

柱穴 柱穴は検出されなかった。主柱穴を持たない構造の竖穴と想定される。

遺物 なし。

所見 埋土から古墳時代後期から平安時代と想定される。

3. VII区

1号竖穴(第601図、PL.325)

グリッド 13-2区T14

主軸方位 N23°W

重複 なし。

形状と規模 北西～南東方向に長辺を有する歪んだ隅丸長方形の竖穴遺構である。長辺は3.53m、短辺2.66m、深さは0.23m、面積は7.78㎡である。

埋土 ニツ岳の白色軽石を含むにぶい黄橙～灰黄褐色砂質土が成層する。

床面 Ⅷ層の黄褐色砂礫層を削り出して、礫の上面が凹凸している床面を構築している。

2号竖穴(第601図、PL.326)

グリッド 13-2区R12

主軸方位 N3°W

重複 142号土坑に切られる。55号住居を切る。

形状と規模 南北方向に長辺を有する隅丸長方形の竖穴遺構である。長辺は2.16m、短辺1.26m、深さは0.08m、面積は2.55㎡である。

埋土 ニツ岳の白色軽石を含むにぶい灰黄褐色シルト質土からなる。

床面 Ⅷ層の黄褐色砂質土を削り出して、平坦な床面を構築している。床面には炭化物や焼土の広がりを検出した。

柱穴 柱穴は検出されなかった。主柱穴を持たない構造

の竪穴と想定される。

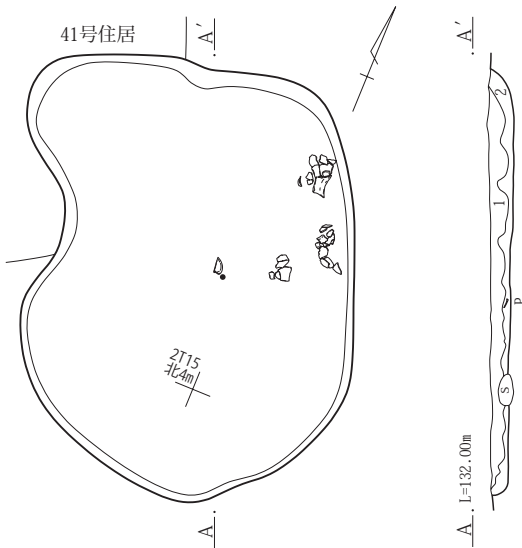
遺物 なし。

所見 規模からして方形の土坑に分類される遺構であるが、調査時の所見を踏襲して竪穴とした。10世紀前半に帰属する55号住居よりも新しい。

3号竪穴(第601図、PL.326・439)

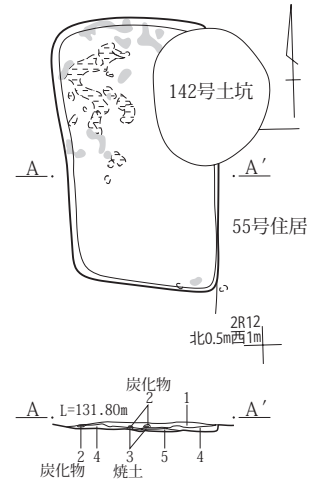
グリッド 13-2区S10

1号竪穴



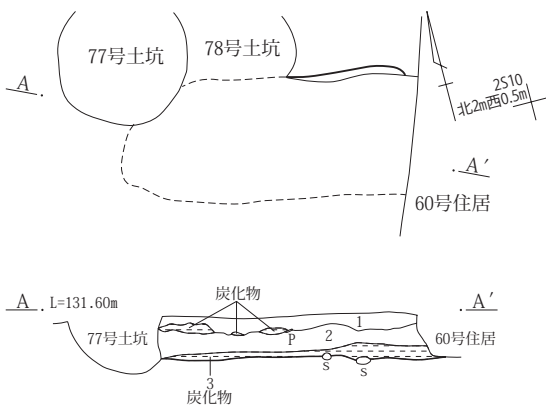
- 1 灰黄褐色砂質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石と少量のにぶい黄橙色砂質土シルト小ブロック(φ 5~10mm大)を含む。
- 2 にぶい黄橙色砂質土 多量のにぶい黄橙色砂質土シルト小ブロック(φ 5~20mm大)を含む。

2号竪穴

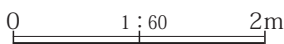


- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 2~3mm大)、炭化粒子・焼土粒子(φ 1~2mm大)、灰を含む。
- 2 炭化物層ブロック・灰層ブロック。
- 3 焼土ブロック
- 4 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒・炭化粒子(φ 1~3mm大)を含む。
- 5 にぶい黄橙色シルト質土 (10YR6/4)

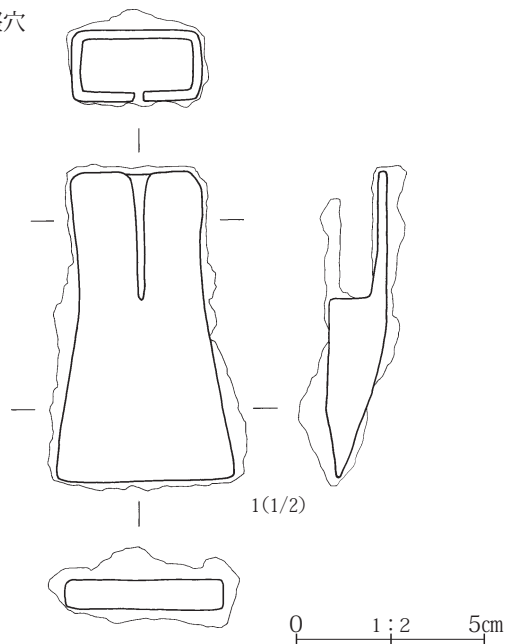
3号竪穴



- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 3~10mm)・炭化粒子(φ 1~3mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色シルト質土 1層土よりやや黒味あり。微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~10mm)・炭化粒子(φ 1~3mm大)・焼土粒子(φ 1mm大)を含む。
- 3 炭化物層ブロック・灰層ブロック。



3号竪穴



第601図 VII区1~3号竪穴と3号竪穴の出土遺物

構築している。床面には炭化物の広がりを検出した。

柱穴 柱穴は検出されなかった。主柱穴を持たない構造の竪穴と想定される。

遺物 埋土から鉄斧(1)が出土した。

所見 規模からして方形の土坑に分類される遺構であるが、調査時の所見を踏襲して竪穴とした。11世紀に帰属する60号住居よりも古い。

第5節 溝

1. V区

1号溝(第602図)

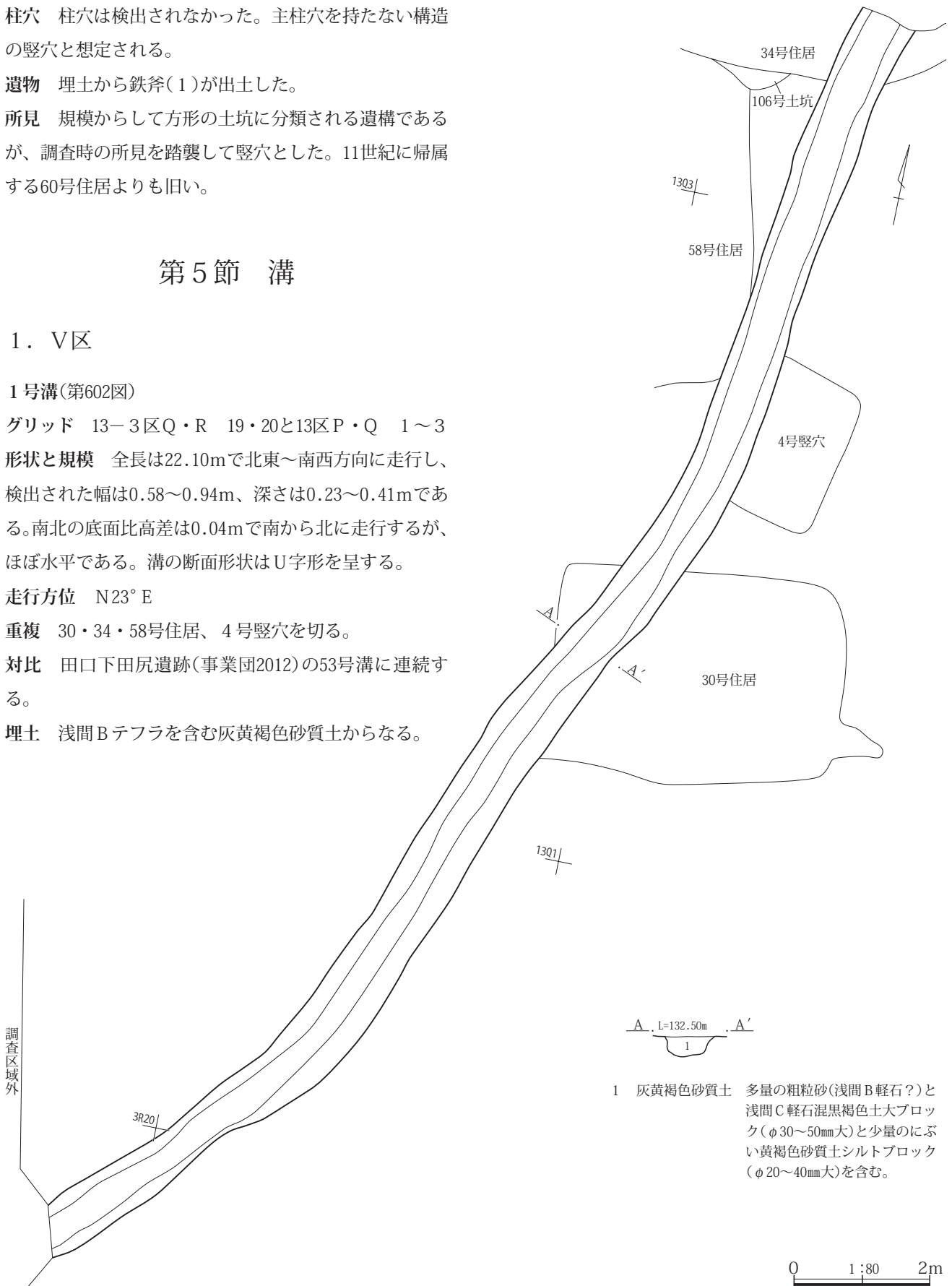
グリッド 13-3区Q・R 19・20と13区P・Q 1~3
形状と規模 全長は22.10mで北東~南西方向に走行し、検出された幅は0.58~0.94m、深さは0.23~0.41mである。南北の底面比高差は0.04mで南から北に走行するが、ほぼ水平である。溝の断面形状はU字形を呈する。

走行方位 N23°E

重複 30・34・58号住居、4号竪穴を切る。

対比 田口下田尻遺跡(事業団2012)の53号溝に連続する。

埋土 浅間Bテフラを含む灰黄褐色砂質土からなる。



- 1 灰黄褐色砂質土 多量の粗粒砂(浅間B軽石?)と浅間C軽石混黒褐色土大ブロック(φ30~50mm大)と少量のにぶい黄褐色砂質土シルトブロック(φ20~40mm大)を含む。

第602図 V区2面1号溝

遺物 なし。

所見 10世紀後半に帰属する30号住居よりも新しく、埋土に含まれるテフラから中世以降であることは確実である。埋土には水流の影響を示す堆積相は認められない。溝は走行方位が微高地上の傾斜方向に概ね一致するため、排水などを目的とした水路である可能性がある。

6号溝(第603図、PL.327)

グリッド 13-3区M・N 17~20と13区O 2・3

形状と規模 発掘調査で6号溝と13号溝として検出したものを統合した。全長は31.60mで南北方向に走行し、検出された幅は0.37~0.77m、深さは0.06~0.12mである。南北の底面比高差は0.04mで南から北に走行するが、ほぼ水平である。溝の断面形状は浅い皿形を呈する。

走行方位 N20°W

重複 33号住居、11号溝を切る。

対比 VI区の7号溝に連続する。

埋土 下底は二ツ岳の白色軽石を含む灰黄褐色砂質土からなり、降下した浅間Bテフラで埋没している。

遺物 なし。

所見 10世紀前半に帰属する33号住居よりも新しく、溝を浅間Bテフラが埋めることから、平安時代後半の溝で12世紀初頭に埋没・廃絶したものと考えられる。埋土には水流の影響を示す堆積相は認められない。溝は走行方位が微高地上の傾斜方向に概ね一致するため、排水などを目的とした水路である可能性がある。

7号溝(第604図、PL.440)

グリッド 13-13区N・O 1~7

形状と規模 全長は30.50mで南北方向に走行し、検出された幅は0.80~1.50m、深さは0.10~0.43mである。南北の底面比高差は0.17mで南から北に走行する。溝の断面形状はU字形を呈する。

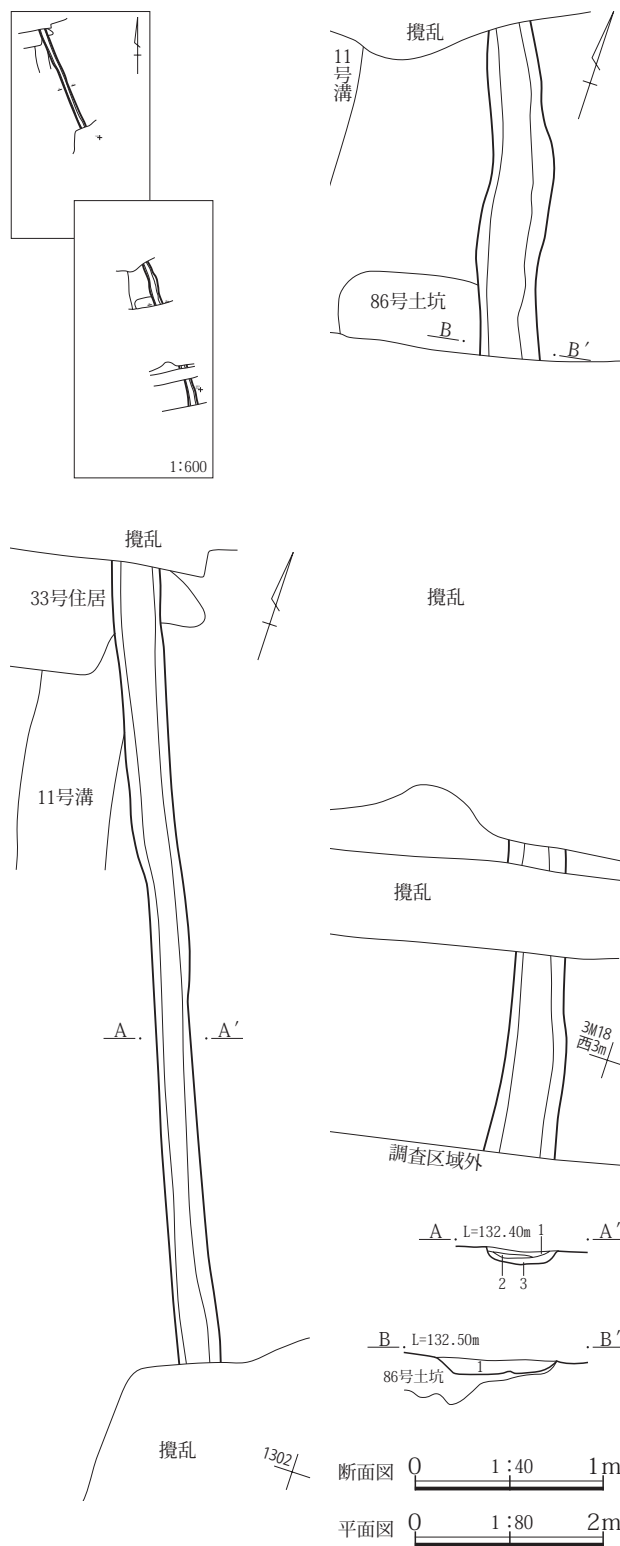
走行方位 N7°W

重複 44号住居、11号土坑に切られる。隣接する8号溝の一部に沿うように分布する。

埋土 二ツ岳の白色軽石を含む灰黄褐色砂質土からなる。

遺物 7・8号溝の埋土から須恵器の椀(1)、灰釉陶器の椀(2)や瓶(3)が出土した。

所見 9世紀の44号住居よりも旧く、9~10世紀の遺物



- A-A'
- 1 浅間山B軽石=純層堆積
 - 2 浅間山B軽石に伴うアッシュ(薄紫色火山灰)=純層堆積
 - 3 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 少量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。
- B-B'
- 1 黒褐色土(10YR3/2) 少量の浅間B軽石・砂礫土(礫φ10~20mm大)と微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ1~10mm大)を含む。

第603図 V区2面6号溝

が出土したことから奈良・平安時代の溝である。溝は走行方位が微高地上の傾斜方向に概ね一致するため、排水などを目的とした水路である可能性がある。

8号溝(第604図、PL.440)

グリッド 13-3区M20と13区M~O 1~7

形状と規模 全長は52.10mで南北方向に走行し、検出された幅は0.65~2.35m、深さは0.12~1.38mである。南北の底面比高差は0.26mで南から北に走行する。溝の断面形状はU字形を呈する。

走行方位 N7~40°W

重複 9・44・46・59・71号住居、11・109号土坑に切られる。隣接する7号溝の一部に沿うように分布する。

対比 VI区の18号溝に連続する。

埋土 二ツ岳の白色軽石を含む灰黄褐色砂質土からなる。

所見 9世紀の44・46号住居よりも旧く、9世紀の遺物が出土したことから9世紀以前の奈良~平安時代の溝である。溝は走行方位が微高地上の傾斜方向に概ね一致するため、7号溝と同様に排水などを目的とした水路である可能性がある。

9号溝(第605図)

グリッド 13-13区O・P 5~7

形状と規模 全長は12.20mで南北方向に走行し、検出された幅は0.65~2.35m、深さは0.08mである。南北の底面比高差は0.08mで北から南に走行する。溝の断面形状は浅い皿形を呈する。

走行方位 N14°E

重複 23号住居、11号溝を切る。

遺物 なし。

10号溝(第605図、PL.327)

グリッド 13-3区O~Q 18・19

形状と規模 全長は14.94mで東西方向に走行し、11号溝に接続する。検出された幅は2.30m、深さは0.25mである。東西の底面比高差は0.03mで西から東に走行するが、ほぼ水平である。溝の断面形状は箱形を呈する。

走行方位 N87°E

重複 18・19号住居を切る。11号溝と同時期である。

埋土 浅間Cテフラの灰色軽石や二ツ岳の白色軽石を含

む灰黄褐色砂質土からなる。

所見 11号溝に直交して連続する逆L字形の平面形状を呈する。区画を示す目的とした堀である可能性がある。

11号溝(第606図、PL.327)

グリッド 13-3区N19と13区O・P 1~7

形状と規模 全長は44.28mで南北方向に走行し、10号溝に直交して接続する。検出された幅は0.80~1.50m、深さは0.05~0.40mである。南北の底面比高差は0.46mで南から北に走行する。溝の断面形状は箱形を呈する。

走行方位 N87°E

重複 22・31・33号住居、15~17・45号土坑に切られる。6・10号溝と同時期である。

埋土 二ツ岳の白色軽石を含む灰黄褐色砂質土からなる。
遺物 なし。

所見 10号溝と連続して逆L字形の平面形状を呈する。区画を示す目的とした堀である可能性があるが、同時に走行方位が微高地上の傾斜方向に概ね一致するため、排水などを目的とした水路である可能性がある。10世紀前半の住居よりも旧く、10・11号溝は奈良~平安時代前半に帰属する可能性が高い。

12号溝(第607図、PL.327・440)

グリッド 13-13区K・L 2・3

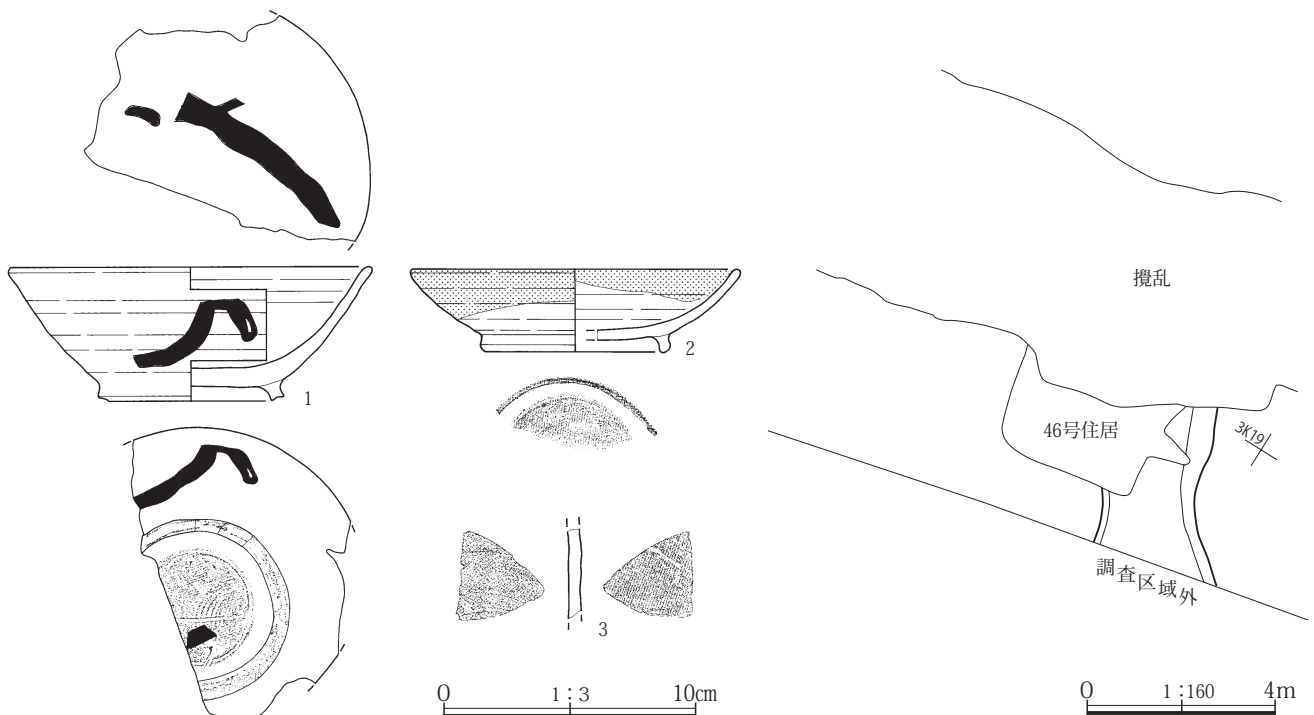
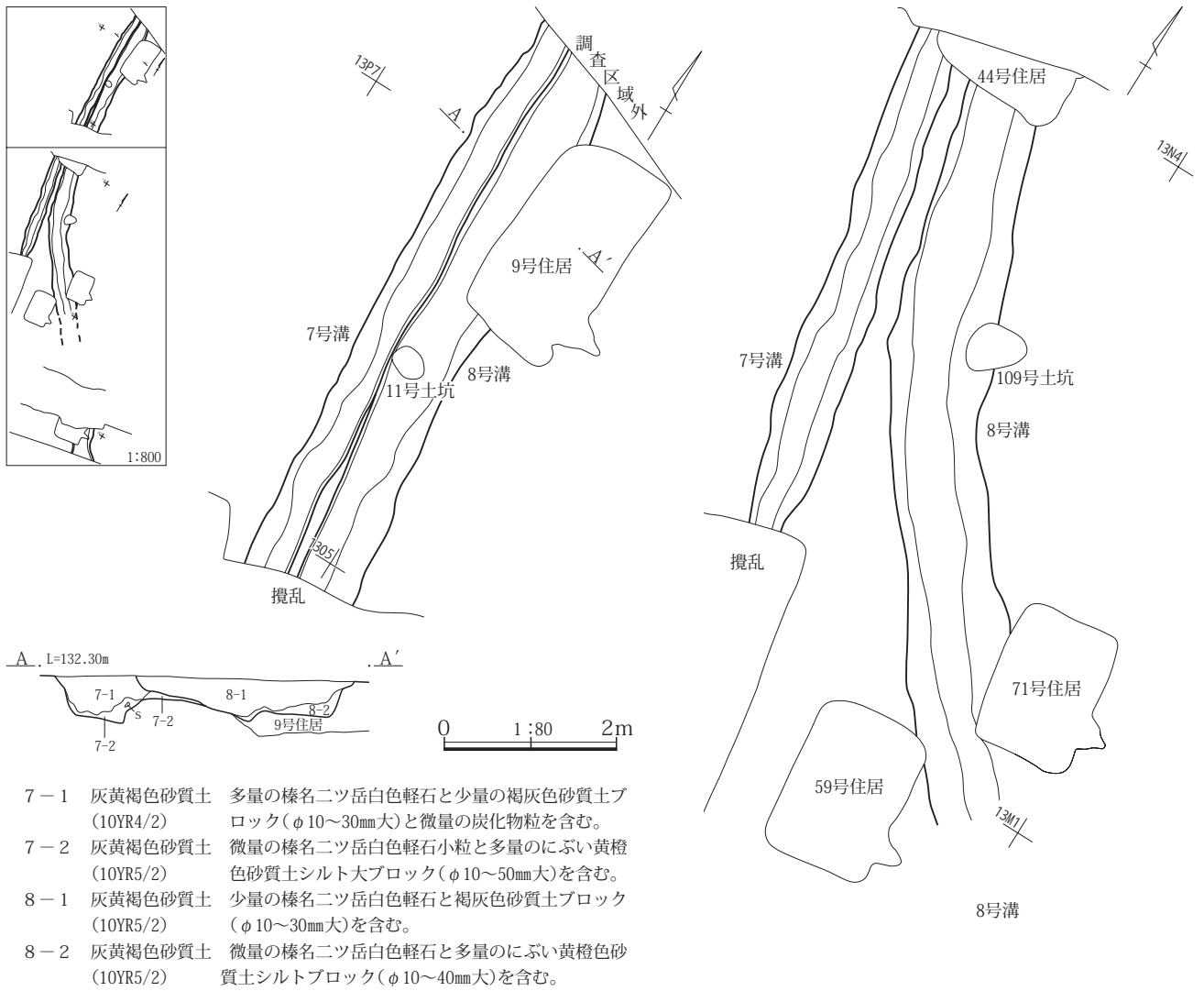
形状と規模 全長は13.60mで北西~南東及び東西方向にL字形に走行する。検出された幅は0.45~0.75m、深さは0.05~0.16mである。底面の比高差は0.19mである。溝の断面形状は浅い皿形を呈する。

重複 40・56号住居を切る。60号土坑に切られる。

埋土 浅間Bテフラと二ツ岳の白色軽石を含む灰黄褐色砂質土からなる。

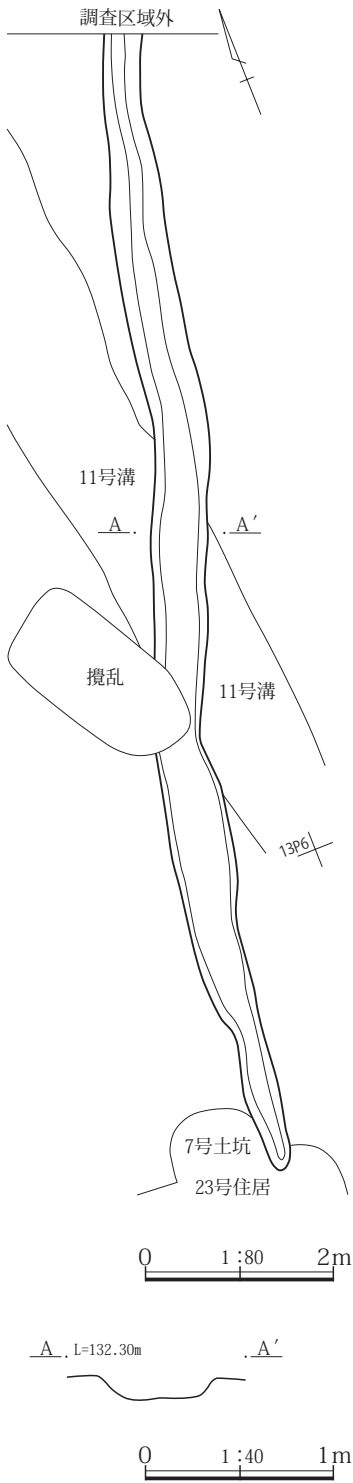
遺物 埋土から完形の鉄鎌(1)が出土した。

所見 L字形の平面形状を呈し建物などの周溝(排水溝)である可能性があるが、9世紀後半の50号住居よりも新しく、埋土に浅間Bテフラが認められるので12世紀前後の時期に帰属する可能性がある。

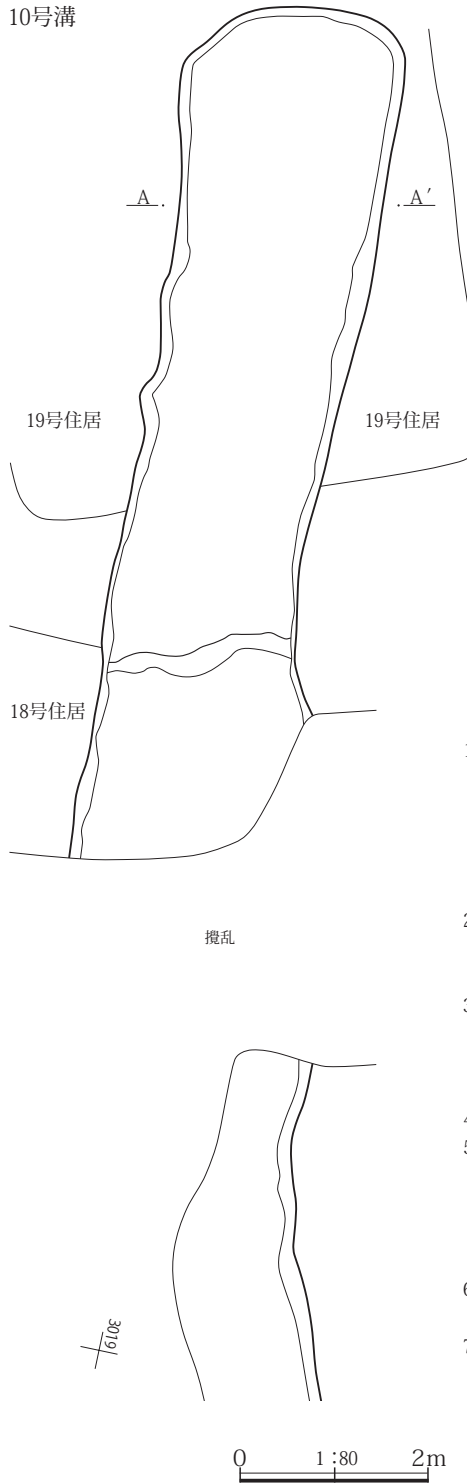


第604図 V区2面7・8号溝と出土遺物

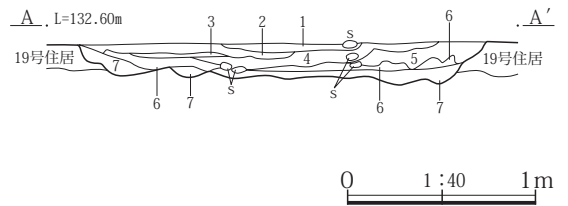
9号溝



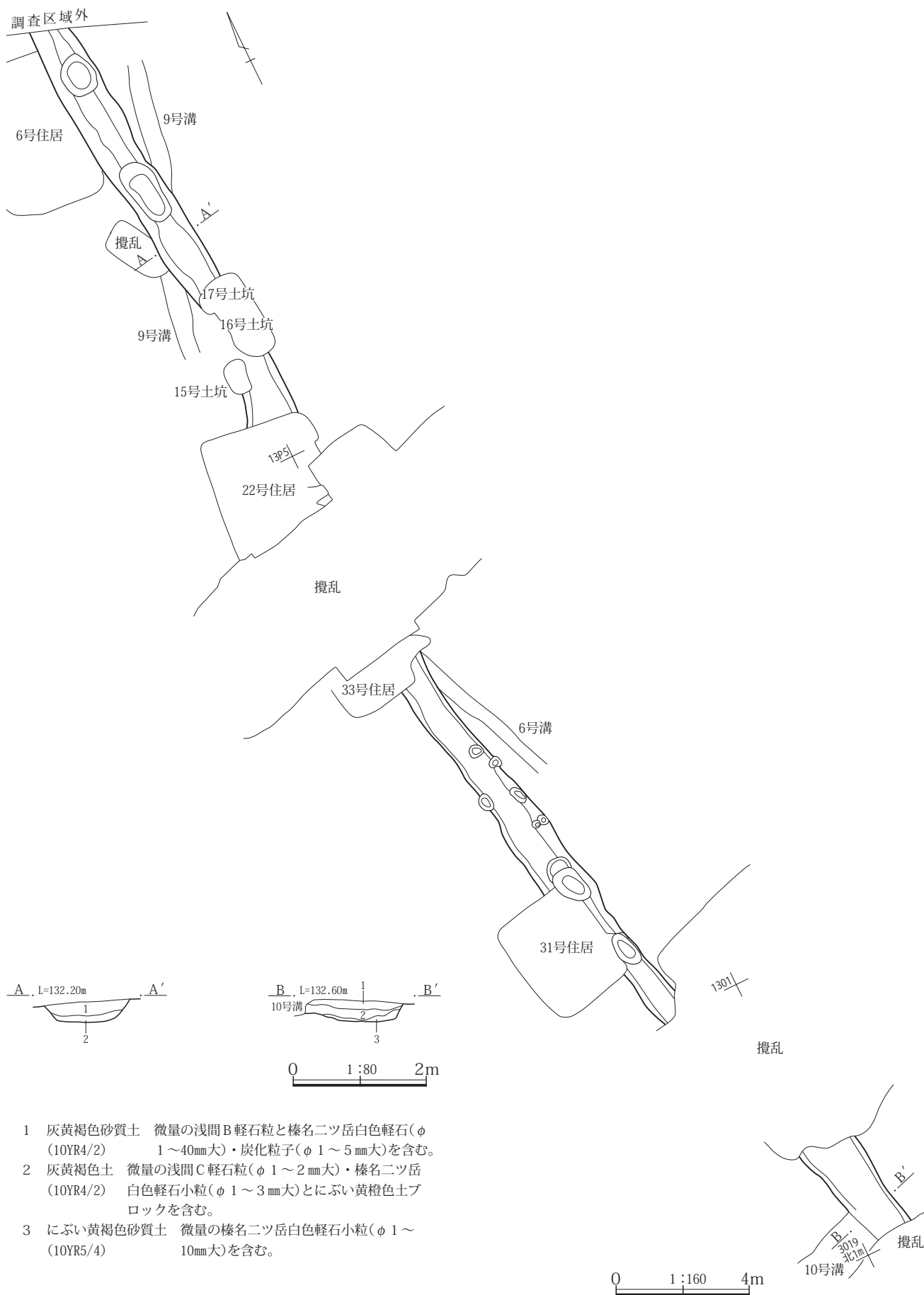
10号溝



- 1 灰黄褐色砂質土 (10YR4/2) 微量の浅間C軽石粒 (φ 1~2mm大)・榛名二ツ岳白色軽石小粒 (φ 1~3mm大)・小円礫 (φ 40mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色砂質土 (10YR4/2) 微量の浅間C軽石粒 (φ 1~3mm大)を含む。
- 3 にぶい黄橙色砂質土 (10YR6/4) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒 (φ 1~2mm大)を含む。
- 4 暗灰黄色砂質土 (2.5Y5/2)
- 5 灰黄褐色砂質土 (10YR4/2) 微量の浅間C軽石粒 (φ 1~2mm大)・榛名二ツ岳白色軽石小粒 (φ 1~2mm大)を含む。
- 6 褐灰色砂質土 (10YR4/1) 微量の小円礫 (φ 40~50mm大)を含む。
- 7 褐灰色砂質土 (10YR4/1) 灰黄色砂質土ブロックを混入する。

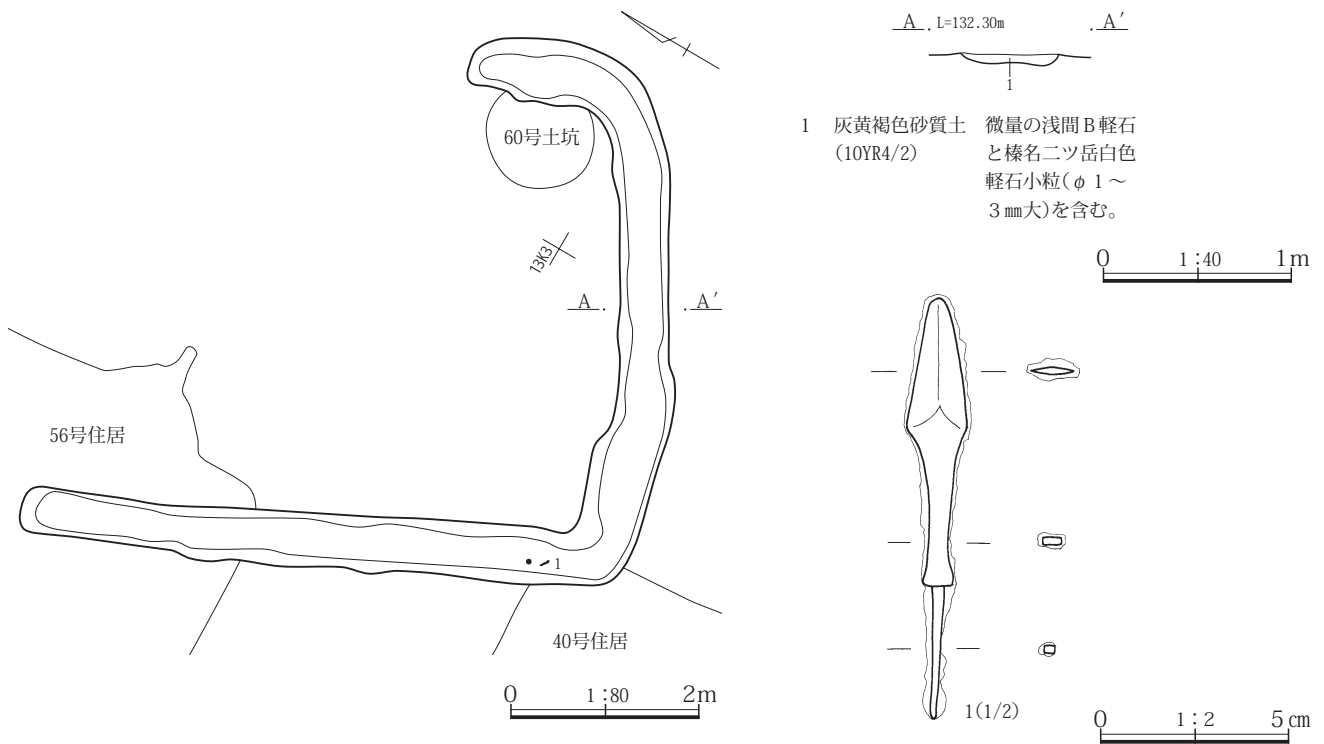


第605図 V区2面9・10号溝



- 1 灰黄褐色砂質土 微量の浅間B軽石粒と榛名二ツ岳白色軽石(φ 10YR4/2) 1~40mm大)・炭化粒子(φ 1~5mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色土 微量の浅間C軽石粒(φ 1~2mm大)・榛名二ツ岳(10YR4/2) 白色軽石小粒(φ 1~3mm大)とにぶい黄橙色土ブロックを含む。
- 3 にぶい黄褐色砂質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~10mm大)を含む。

第606図 V区2面11号溝



第607図 V区2面12号溝と出土遺物

2. VI区

1号溝(Ⅶ区1号溝) (第608～610図、PL.328・440)

グリッド 13-3区G～Q 14～17

形状と規模 全長は52.35mで東西方向に走行し、検出された幅は0.64～2.45m、深さは0.08～0.37mである。東西の底面比高差は0.26mで西から東に走行する。溝の断面形状は浅い皿形～箱形を呈する。

走行方位 N79°WとN67°E。

重複 1・11・33号住居、2・3・6・13号溝を切る。

対比 Ⅶ区の1号溝に連続する。

埋土 ニツ岳の白色軽石を含む灰黄褐色砂質土からなる。Ⅷ層起源の安山岩の亜円礫を上層に含む。

遺物 埋土から須恵器の椀(1)、瓶(2)、中世の常滑窯の陶器甕(3・4)が出土した。Ⅶ区1号溝からは埋土から須恵器の椀(1～3)が出土した。

所見 6～7世紀、9世紀、中世の遺物が出土し、10世紀前半に帰属する1号住居よりも新しい。溝を埋めた埋土に浅間Bテフラが認められないので古代後半に帰属する溝である。埋土には水流の影響を示す堆積相は認められないが、広瀬川低地の微高地と低地の境界に平行し、排水などを目的とした水路である可能性がある。

2号溝(第611図、PL.328・440)

グリッド 13-3区N 10～14

形状と規模 全長は19.50mで南北方向に走行し、検出された幅は0.83～2.48m、深さは0.08～0.29mである。南北の底面比高差は0.48mで北から南に走行する。溝の断面形状は浅い皿形～U字形を呈する。

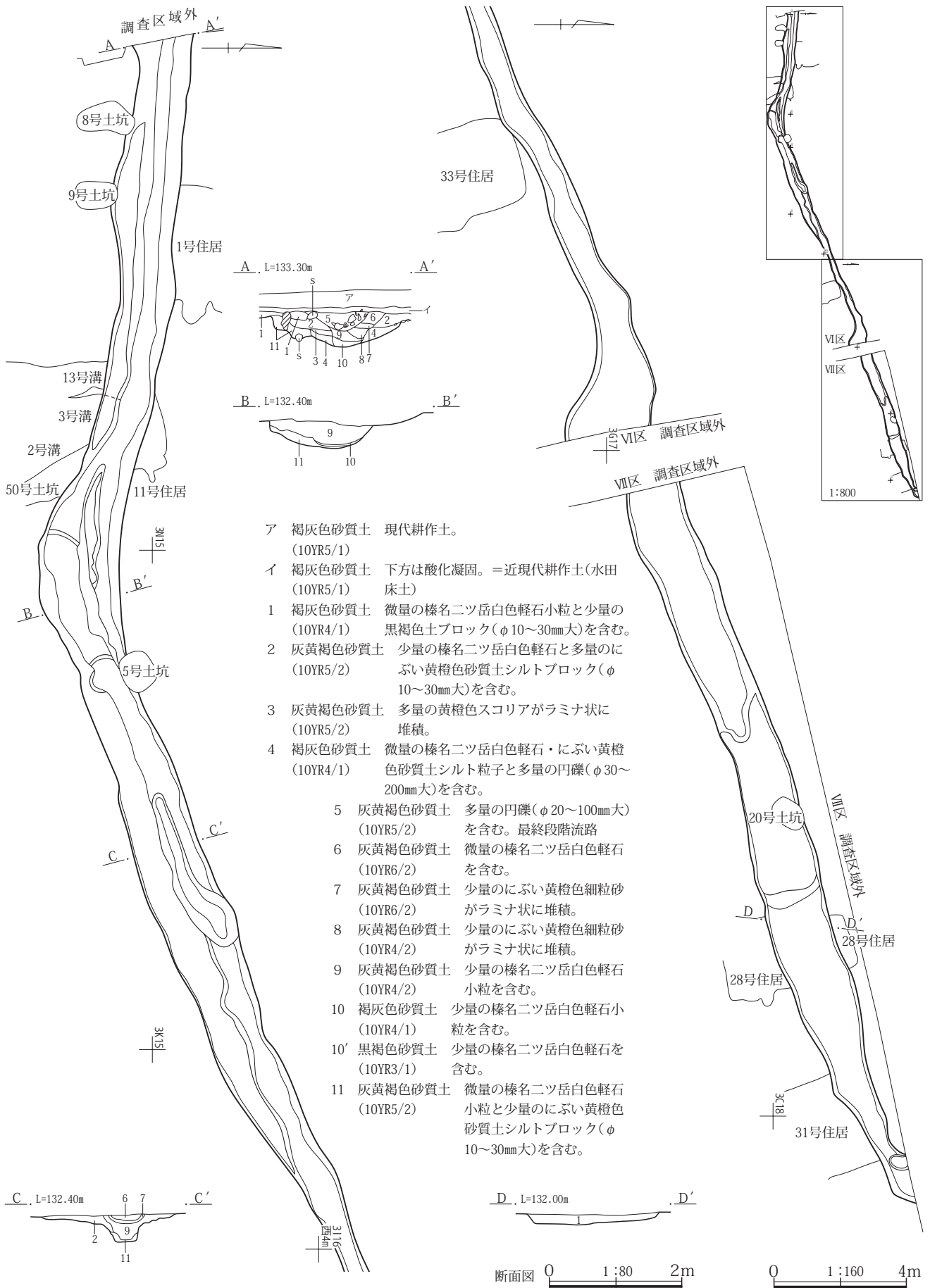
走行方位 N2°W

重複 3・9号溝を切る。1・10号溝、18・31・32号土坑に切られる。1号溝で北側が途切れるため1号溝に連続していた可能性がある。

埋土 ニツ岳の白色軽石を含む灰黄褐色砂質土からなる。

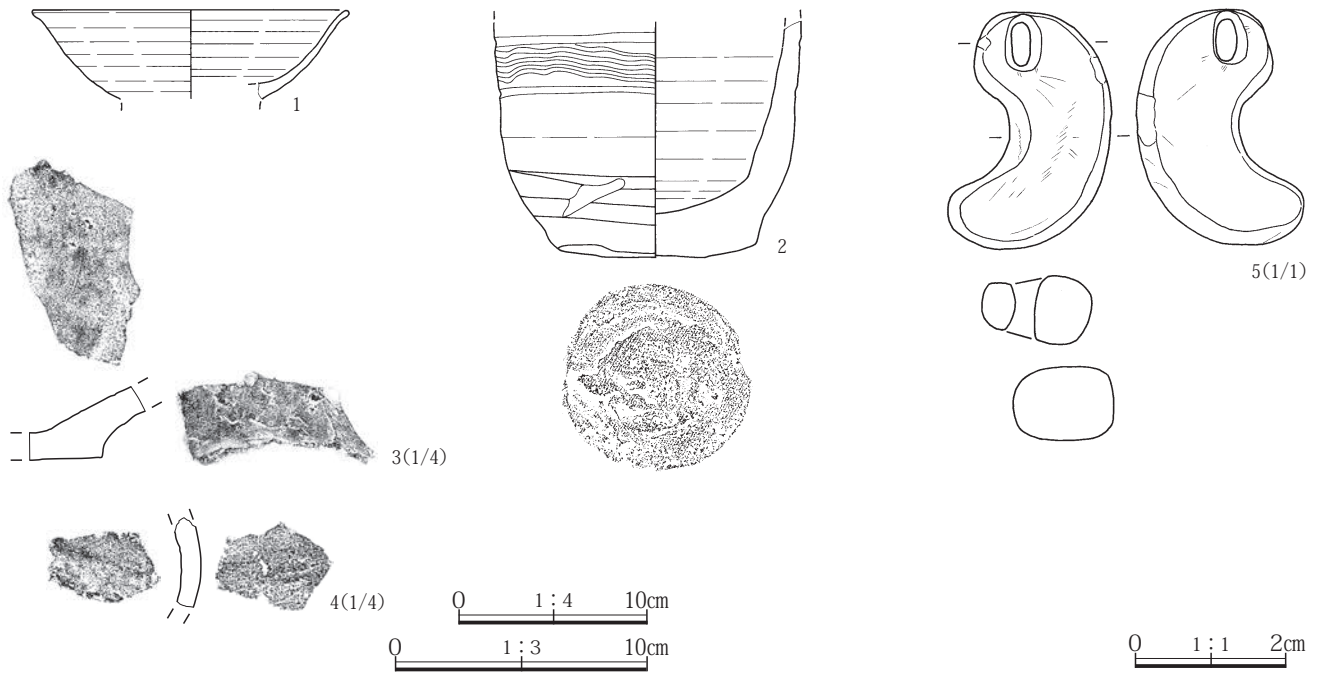
遺物 埋土から須恵器の蓋(1)、甕(2)が出土した。中近世の遺物(3・4)は混入遺物と考えられる。

所見 9世紀の遺物が出土した。埋土には水流の影響を示す堆積相は認められないが、南北の比高差が大きいので低地側から微高地側に用水などを目的とした水路である可能性がある。12号住居よりも新しく、埋土に浅間Bテフラを含まないため平安時代に帰属する。

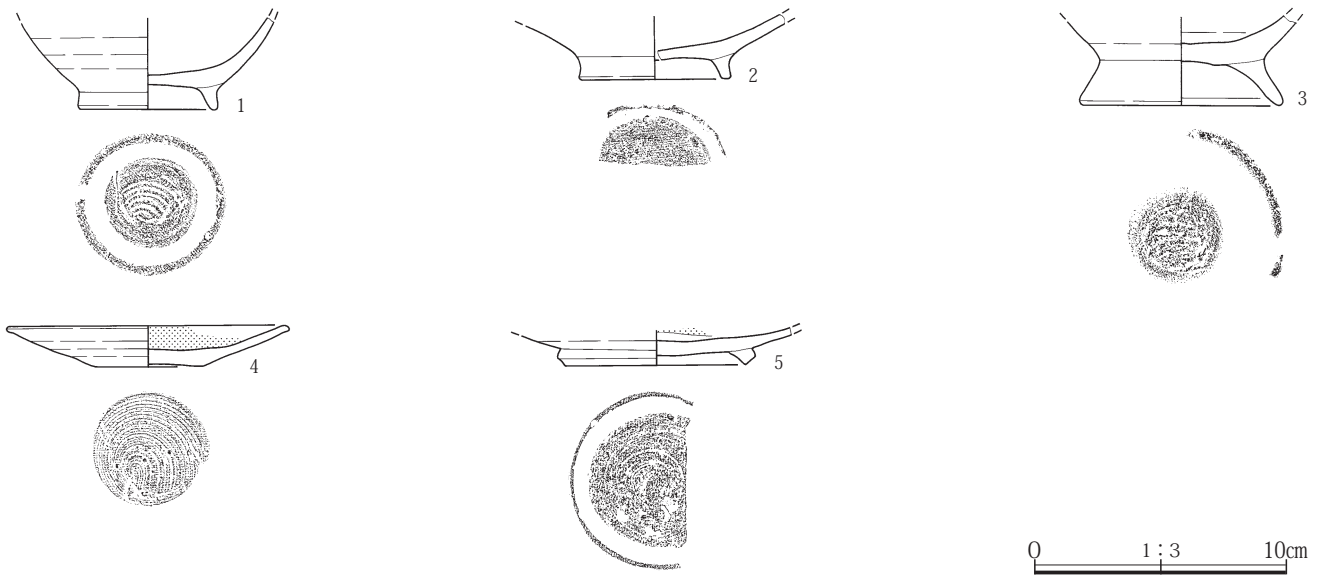


- ア 褐灰色砂質土 現代耕作土。
(10YR5/1)
- イ 褐灰色砂質土 下方は酸化凝固。=近現代耕作土(水田)
(10YR5/1) 床土)
- 1 褐灰色砂質土 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒と少量の
(10YR4/1) 黒褐色土ブロック(φ10~30mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色砂質土 少量の榛名ニツ岳白色軽石と多量のに
(10YR5/2) ぶい黄橙色砂質土シルトブロック(φ
10~30mm大)を含む。
- 3 灰黄褐色砂質土 多量の黄橙色スコリアがラミナ状に
(10YR5/2) 堆積。
- 4 褐灰色砂質土 微量の榛名ニツ岳白色軽石・にぶい黄橙
(10YR4/1) 色砂質土シルト粒子と多量の円礫(φ30~
200mm大)を含む。
- 5 灰黄褐色砂質土 多量の円礫(φ20~100mm大)
(10YR5/2) を含む。最終段階流路
- 6 灰黄褐色砂質土 微量の榛名ニツ岳白色軽石
(10YR6/2) を含む。
- 7 灰黄褐色砂質土 少量のにぶい黄橙色細粒砂
(10YR6/2) がラミナ状に堆積。
- 8 灰黄褐色砂質土 少量のにぶい黄橙色細粒砂
(10YR4/2) がラミナ状に堆積。
- 9 灰黄褐色砂質土 少量の榛名ニツ岳白色軽石
(10YR4/2) 小粒を含む。
- 10 褐灰色砂質土 少量の榛名ニツ岳白色軽石小
(10YR4/1) 粒を含む。
- 10' 黒褐色砂質土 少量の榛名ニツ岳白色軽石を
(10YR3/1) 含む。
- 11 灰黄褐色砂質土 微量の榛名ニツ岳白色軽石
(10YR5/2) 小粒と少量のにぶい黄橙色
砂質土シルトブロック(φ
10~30mm大)を含む。

第608図 VI・VII区2面1号溝



第609図 VI区2面1号溝の出土遺物



第610図 VII区2面1号溝の出土遺物

3号溝(第612図)

グリッド 13-3区N 13・14

形状と規模 全長は8.02mで南北方向に走行し、検出された幅は0.44~0.75m、深さは0.07~0.22mである。南北の底面比高差は0.31mで北から南に走行する。溝の断面形状は浅い皿形を呈する。

走行方位 N13°W

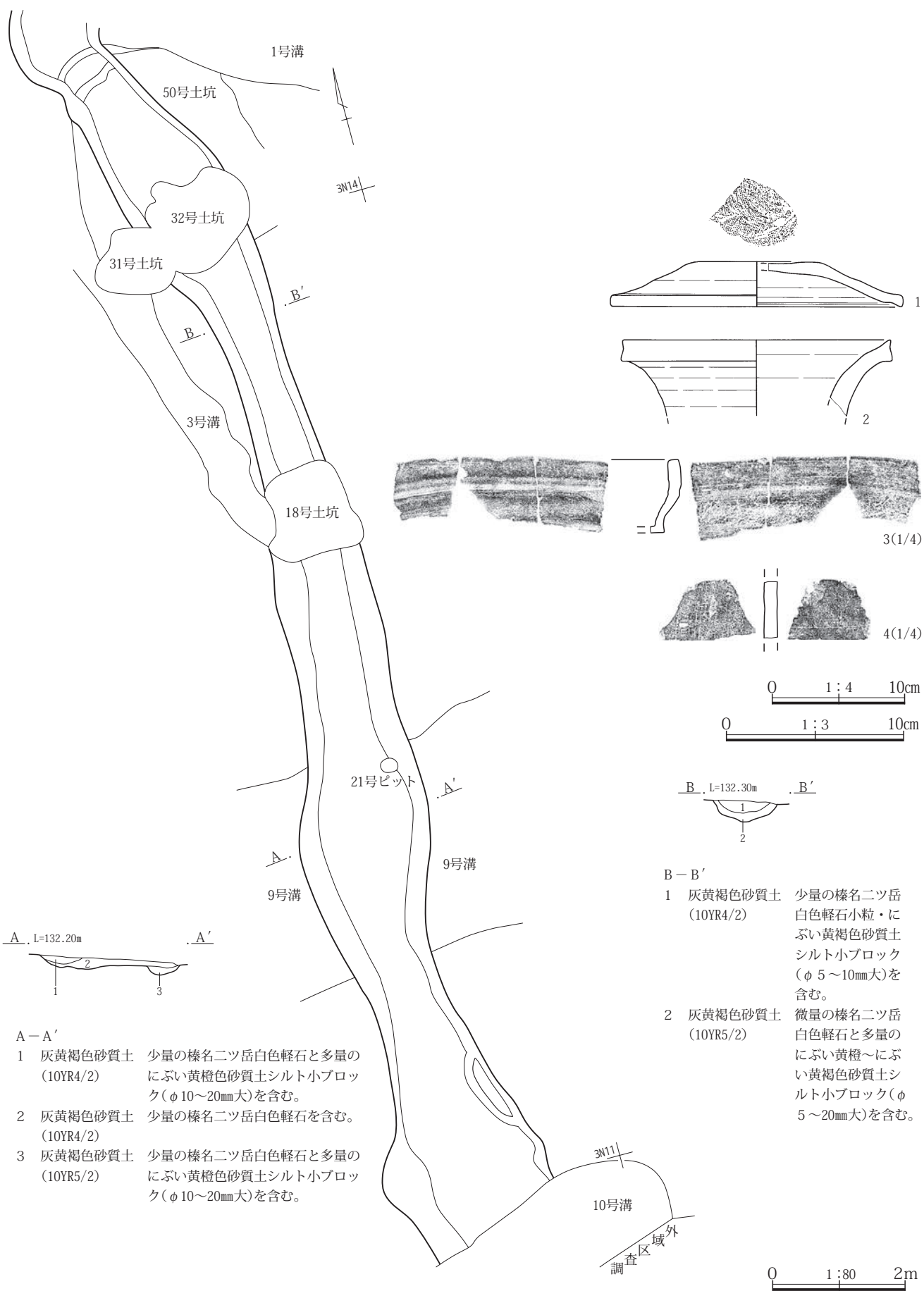
重複 2号溝、18・31号土坑に切られ、13号溝を切る。

バイパス状に2号溝に連続していた可能性がある。

埋土 ニツ岳の白色軽石を含む灰黄褐色砂質土からなる。

遺物 なし。

所見 埋土には水流の影響を示す堆積相は認められないが、南北の比高差が大きいため2号溝と同様に低地側から微高地側に用水などを目的とした水路である可能性がある。



- A-A'
- 1 灰黄褐色砂質土 少量の榛名二ツ岳白色軽石と多量のにぶい黄橙色砂質土シルト小ブロック(φ10~20mm大)を含む。(10YR4/2)
 - 2 灰黄褐色砂質土 少量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。(10YR4/2)
 - 3 灰黄褐色砂質土 少量の榛名二ツ岳白色軽石と多量のにぶい黄橙色砂質土シルト小ブロック(φ10~20mm大)を含む。(10YR5/2)

- B-B'
- 1 灰黄褐色砂質土 少量の榛名二ツ岳白色軽石小粒・にぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ5~10mm大)を含む。(10YR4/2)
 - 2 灰黄褐色砂質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石と多量のにぶい黄橙~にぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ5~20mm大)を含む。(10YR5/2)

第611図 VI区2面2号溝と出土遺物

4号溝(第612図)

グリッド 13-3区N・O 14

形状と規模 全長は4.90mで北西～南東方向に屈曲しながら走行し、検出された幅は0.23～0.33m、深さは0.26mである。北西～南東の底面比高差は0.13mで北から南に走行する。溝の断面形状は浅い皿形を呈する。

走行方位 N40°W

重複 1・3号溝に切られ、バイパス状にこれらの溝に連続していた可能性がある。8号住居、13号溝を切る。

埋土 ニツ岳の白色軽石を含むにぶい黄橙色細粒砂からなる。

遺物 なし。

所見 埋土には水流の影響を示す堆積相は認められない。7世紀後半に帰属する8号住居よりも新しいので奈良・平安時代に帰属する遺構と考えられる。

5号溝(第612図)

グリッド 13-3 O・P 14

形状と規模 全長は6.45mで東西方向に走行し、検出された幅は0.37～0.53m、深さは0.09～0.14mである。東西の底面比高差は0.11mで西から東に走行する。溝の断面形状は皿形を呈する。

走行方位 N88°W

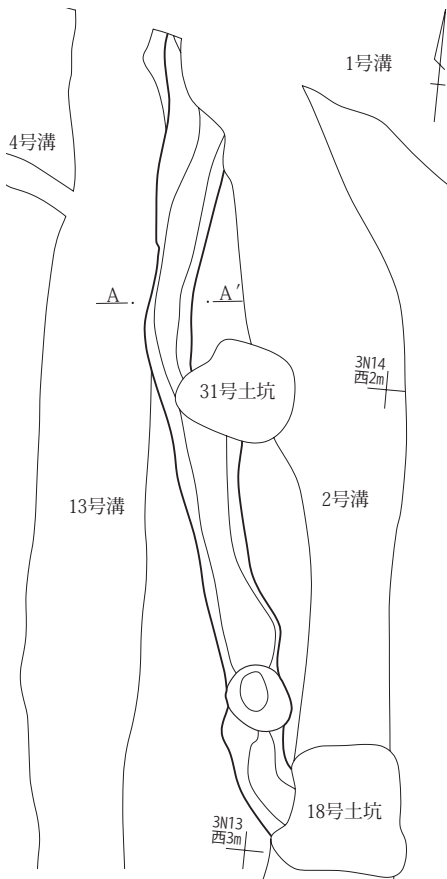
重複 8号住居を切る。1号溝の北西部に平行する。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

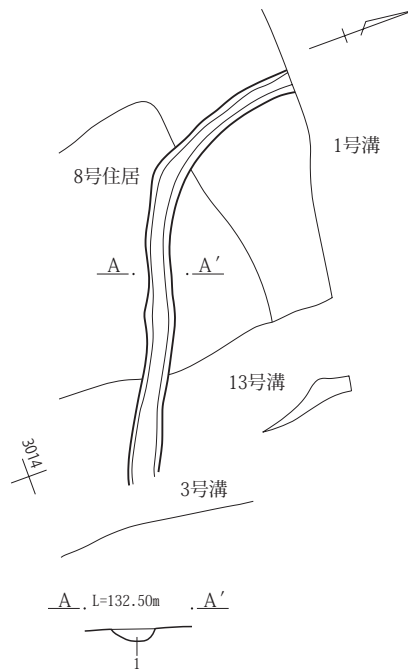
遺物 なし。

所見 7世紀後半に帰属する8号住居よりも新しく、奈良・平安時代に帰属する可能性が高い。

3号溝

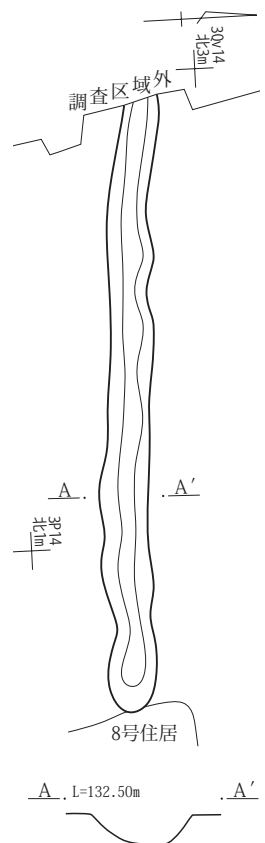


4号溝

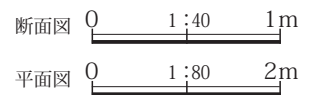


1 にぶい黄橙色細粒砂 (10YR6/4) 少量の榛名ニツ岳白色軽石小粒を含む。

5号溝



1 灰黄褐色砂質土 多量のにぶい黄橙色砂質土 (10YR6/2) シルトブロック(φ 5~40 mm大)を含む。



第612図 VI区2面3～5号溝

6号溝(第613・614図、PL.328・440)

グリッド 13-3区H~N 15~17

形状と規模 全長は29.35mで東西方向に走行し、検出された幅は0.70~2.57m、深さは0.12~0.44mである。東西の底面比高差は0.53mで西から東に走行する。溝の断面形状は皿形を呈する。

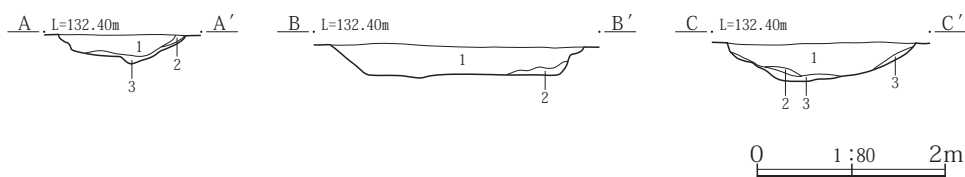
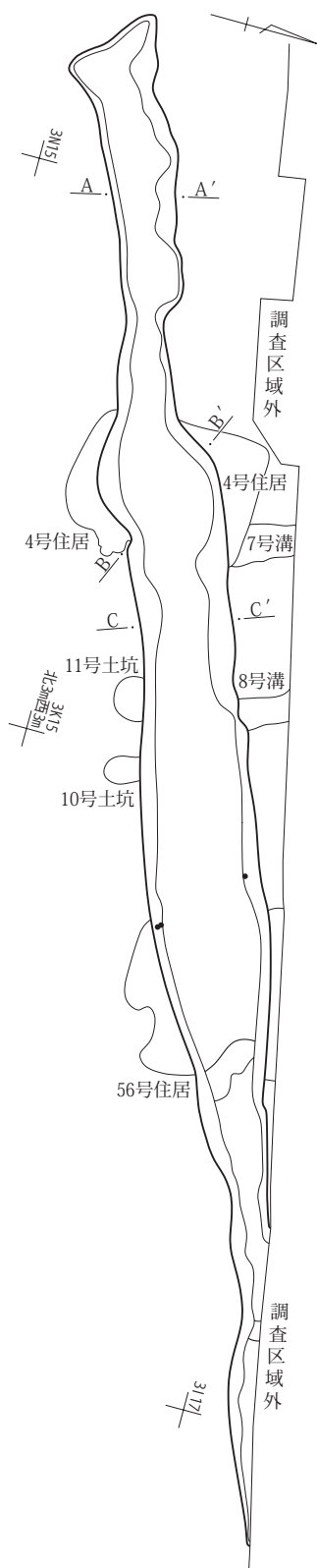
走行方位 N68°E

重複 2・4・56号住居、7・8号溝を切る。1号溝で西側が途切れるため、1号溝に切られるが、これに連続していた可能性がある。6号溝は1号溝の北側を平行に走行する。

埋土 ニツ岳の白色軽石を含む灰黄褐色砂質土からなり、下底に径0.10m大の円礫を含む。

遺物 埋土から須恵器の小椀(4)、杯(3)、皿(2)、手捏ね土器の椀形(1)、鉄鎌(5)、鉄釘(8・9)が出土した。

所見 埋土には水流の影響を示す堆積相は認められないが、南北の比高差が大きいので微高地から低地側に排水などを目的とした水路である可能性がある。溝からは9・10世紀の遺物が出土した。6号溝は9世紀後半に帰属する56号住居よりも新しく、平安時代9世紀後半~10世紀後半に帰属する。



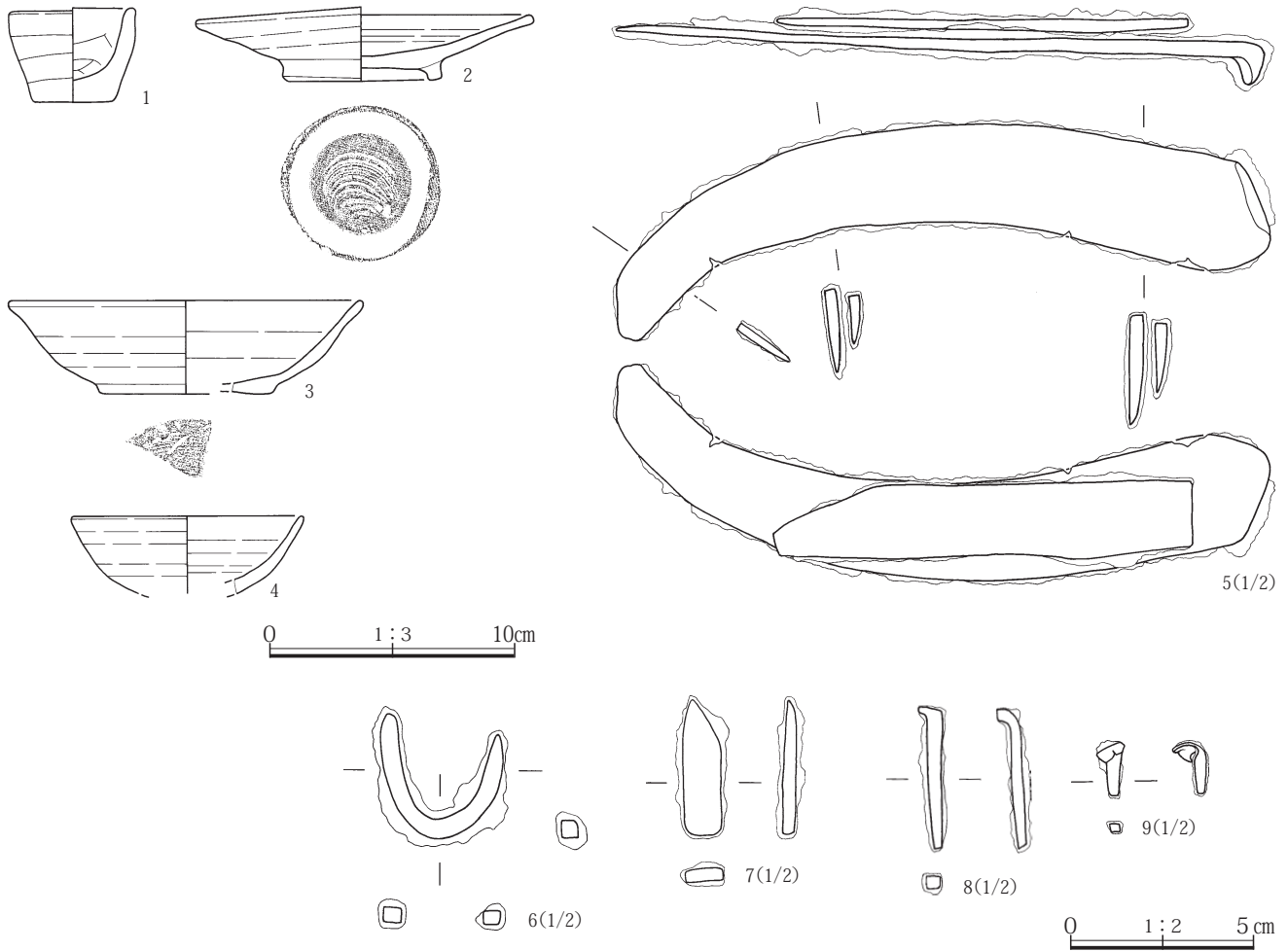
A-A'

- 1 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 少量の榛名ニツ岳白色軽石小粒・にぶい黄橙色砂質土シルト極小ブロック(φ5mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2) 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒を含む。
- 3 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 多量のにぶい黄橙色砂質土シルト小ブロック(φ5~15mm大)・黒褐色土小ブロック(φ10~20mm大)を含む。

B-B'・C-C'

- 1 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 多量の榛名ニツ岳白色軽石小粒と少量の褐灰色砂質土シルト小ブロック(φ10~20mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 多量の榛名ニツ岳白色軽石小粒と少量の褐灰色砂質土シルト小ブロック(φ10~20mm大)を含む。
- 3 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 微量の榛名ニツ岳白色軽石と多量のにぶい黄橙色砂質土シルトブロック(φ10~30mm大)を含む。

第613図 VI区2面6号溝



第614図 VI区2面6号溝の出土遺物

7号溝(第615図、PL.328)

グリッド 13-3区L 17

形状と規模 全長は1.46mで南北方向に走行し、検出された幅は0.65~0.87m、深さは0.16mである。南北の底面比高差は0.01mで、ほぼ水平である。溝の断面形状はU字形を呈する。

走行方位 N16°W

重複 4号住居に切られる。6号溝に切られるが、6号溝の南に分布しないため6号溝に連続していた可能性がある。

対比 V区の6号溝に連続する。

埋土 ニツ岳の白色軽石を含む灰黄褐色砂質土からなり、下底には径0.05~0.10mの黄褐色砂ブロックを含む。

遺物 なし。

所見 埋土には水流の影響を示す堆積相は認められない。8世紀前半に帰属する4号住居よりも古いので飛鳥・奈良時代に帰属する可能性がある。

8号溝(第615図、PL.328)

グリッド 13-3区K・L 16

形状と規模 全長は1.22mで南北方向に走行し、検出された幅は0.60m、深さは0.22mである。南北の底面比高差は0.01mで、ほぼ水平である。溝の断面形状はU字形を呈する。

走行方位 N17°W

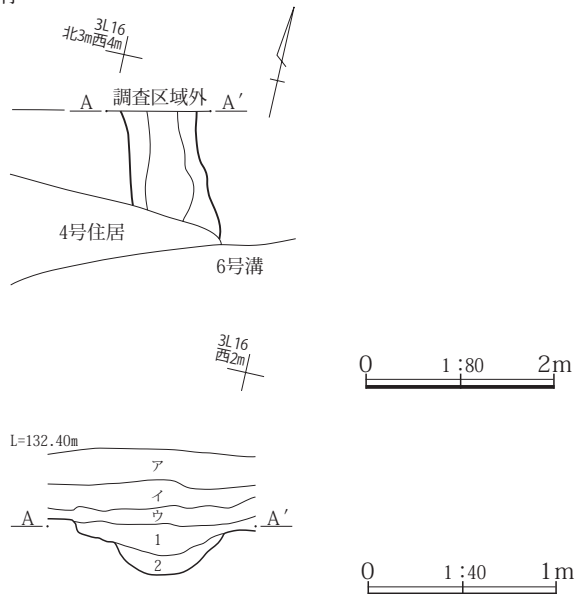
重複 6号溝に切られるが、6号溝の南に分布しないため6号溝に連続していた可能性がある。隣接する7号溝と平行する。

埋土 ニツ岳の白色軽石を含むにぶい黄褐色砂質土からなり、下底には径0.05m大の黄褐色砂ブロックを含む。

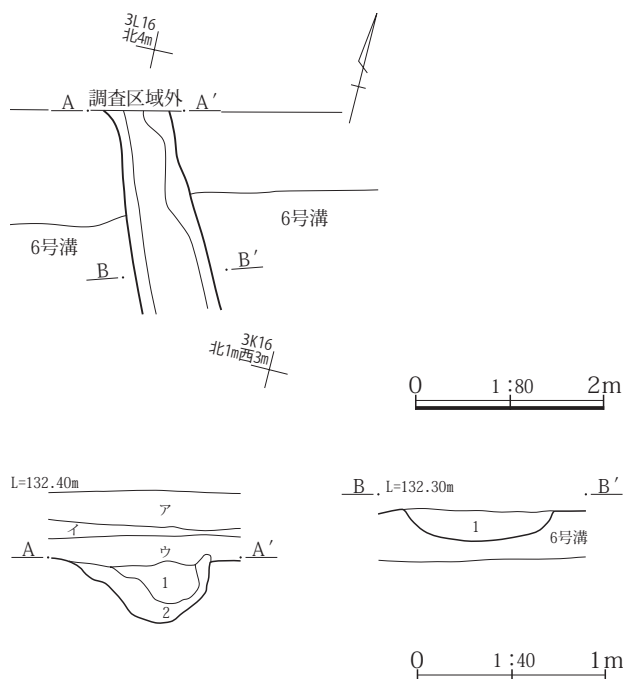
遺物 なし。

所見 埋土には水流の影響を示す堆積相は認められない。6号溝と同様に平安時代後半に帰属する可能性がある。

7号溝



8号溝



7・8号溝 A-A'

- ア 褐灰色砂質土(10YR5/1) 現代耕作土(隣接畑地耕作土)。
- イ 褐灰色砂質土(10YR5/1) 近・現代耕作土。一部上面酸化変色凝固。
- ウ 暗赤褐色土(10YR3/2) 中・近世耕作土。少量の白色軽石小粒を含む。
- 1 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 少量の榛名二ツ岳白色軽石小粒とにぶい黄褐～にぶい黄橙色砂質土シルト粒子を含む。
- 2 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒と多量のにぶい黄橙色砂質土シルト小ブロック(φ5～20mm大)を含む。

8号溝 B-B'

- 1 にぶい黄褐色砂質土(10YR4/3) 少量の榛名二ツ岳白色軽石小粒と褐灰色砂質土シルト小ブロック(φ10～20mm大)を含む。

第615図 VI区2面7・8号溝

9号溝(第616～618図、PL.328・329・441)

グリッド 13-3区L～P 10～12

形状と規模 全長は24.28mで東西か南北方向に直交しながら屈曲して走行する。検出された幅は3.05～3.65m、深さは0.84～1.22mである。溝の北西～南東の底面比高差は0.14mで北西から南東に走行するが、溝の規模からしてほぼ水平である。溝の断面形状は薬研堀の形状を呈する。

重複 9号住居、2・13号溝を切る。

埋土 二ツ岳の白色軽石を含むにぶい灰黄褐色土～砂質土からなる。中位に0.02～0.15mの円礫を多く含むが基質に礫を水流で運ぶ砂の堆積相は認められない。これらの礫はⅧ層を起源として埋土とともに地表面から移動したものと考えられる。

遺物 埋土から中近世の陶磁器類(1～8)、土錘(9)、石製品(10～13)が出土した。

所見 埋土には水流の影響を示す堆積相は認められない。9世紀中頃に帰属する9号住居よりも新しい。遺物には近世に属するものも含まれ、中世の館の堀等の遺構と考えられる。

10号溝(第616図、PL.329)

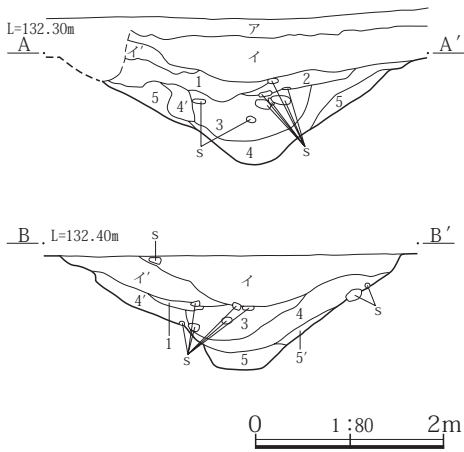
グリッド 13-3区M～O 10

形状と規模 全長は6.20mで東西方向に走行する。検出された幅は2.15m、深さは0.48mである。溝の東西の底面比高差は0.30mで西から東に走行する。溝の断面形状は底面の凹凸が著しい浅い皿形を呈する。

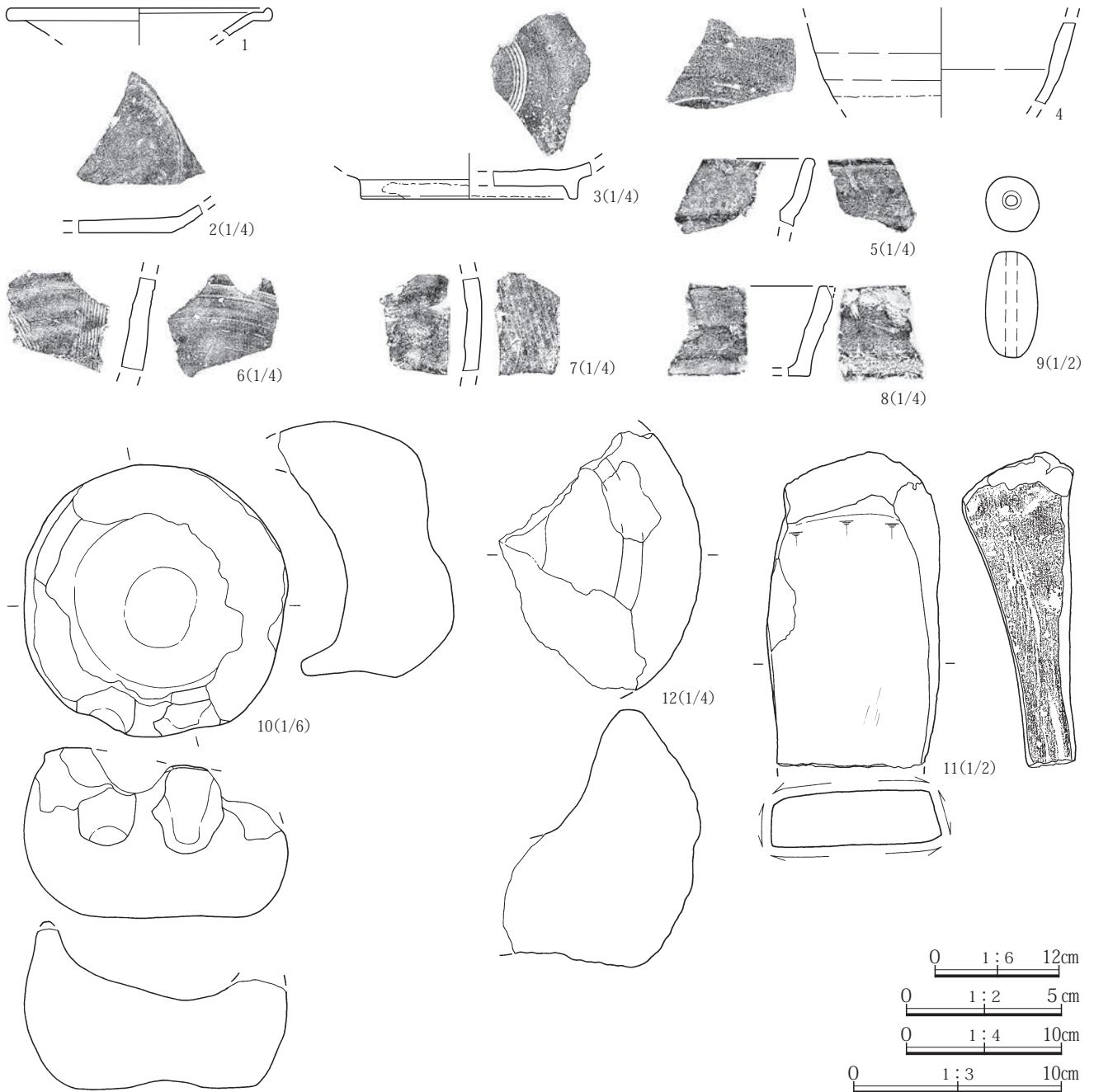
重複 2号溝を切る。9号溝の東西方向の溝にほぼ平行する。

埋土 二ツ岳の白色軽石を含むにぶい灰黄褐色砂質土からなる。

遺物 なし。



- ア 灰黄褐色砂質土(10YR6/2) 現代耕作土。底面は鉄分酸化凝固。
- イ 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 少量の榛名二ツ岳白色軽石・小円礫・にぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ10~20mm大)を含む。
- イ' 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 少量の榛名二ツ岳白色軽石・にぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ10~20mm大)を含む。
- 1 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石と多量のにぶい黄褐色砂質土シルトブロック(φ10~40mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石と少量の円礫を含む。
- 3 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 多量の円礫(φ20~150mm大)を含む。
- 4 灰黄褐色土(10YR5/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。粘性弱。
- 4' 灰黄褐色土(10YR5/2) 4層土+少量のにぶい黄褐色砂質土シルトブロック(φ10~30mm大)を含む。
- 5 灰黄褐色土(10YR4/2) 微量のにぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ10~20mm大)を含む。粘性弱。
- 5' 灰黄褐色土(10YR4/2) 少量のにぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ10~20mm大)を含む。粘性弱。



第617図 VI区2面9号溝と出土遺物

所見 9号溝に規模や形状が類似するため、中世の時期に帰属する館の堀等の遺構と考えられる。

11号溝(第619図、PL.329)

グリッド 13-3区M・N 15

形状と規模 全長は2.50mで東西方向に走行し、検出された幅は0.40~0.62m、深さは0.10~0.13mである。東西の底面比高差は0.06mで西から東に走行する。溝の断

面形状はU字形を呈する。

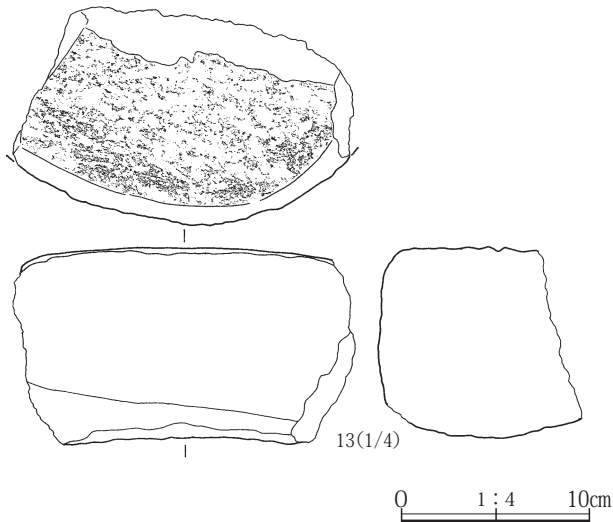
走行方位 N55°E

重複 4号土坑に切られ、隣接する6号溝と平行する。

埋土 ニツ岳の白色軽石を含むにぶい黄褐色砂質土からなる。

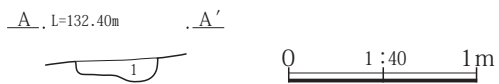
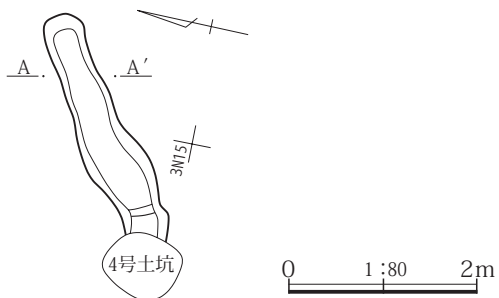
遺物 埋土から製鉄炉の炉壁(1)が出土した。

所見 埋土には水流の影響を示す堆積相は認められない。小規模な溝状遺構である。

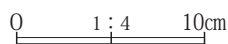


第618図 VI区2面9号溝の出土遺物

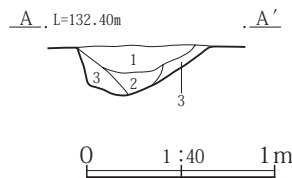
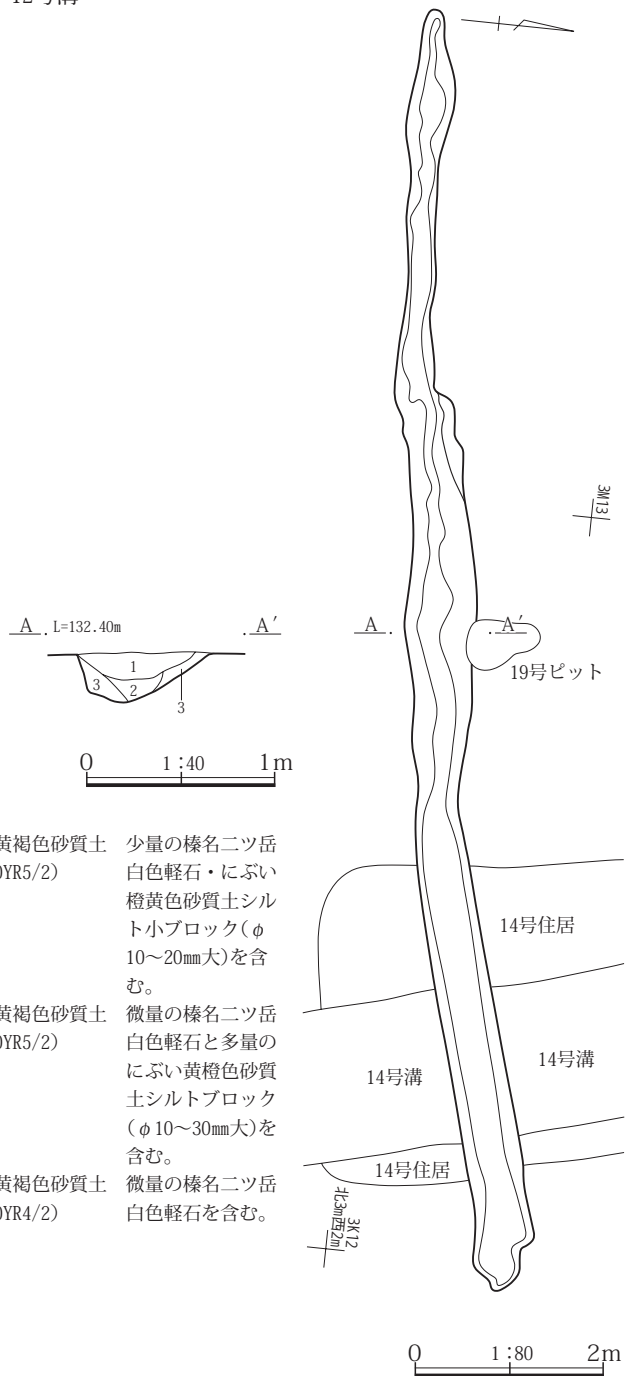
11号溝



- 1 灰黄褐色砂質土 (10YR4/2) 少量の榛名ニツ岳白色軽石と少量のにぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ5~15mm大)を含む。



12号溝



- 1 灰黄褐色砂質土 (10YR5/2) 少量の榛名ニツ岳白色軽石・にぶい橙黄色砂質土シルト小ブロック(φ10~20mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色砂質土 (10YR5/2) 微量の榛名ニツ岳白色軽石と多量のにぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ10~30mm大)を含む。
- 3 灰黄褐色砂質土 (10YR4/2) 微量の榛名ニツ岳白色軽石を含む。

第619図 VI区2面11・12号溝

12号溝(第619図、PL.329)

グリッド 13-3区K~N 12・13

形状と規模 全長は13.55mで東西方向に走行し、検出された幅は0.28~0.75m、深さは0.10mである。東西の底面比高差は0.28mで東から西に走行する。溝の断面形状はU字形を呈する。

走行方位 N84° E

重複 14号住居、14号溝を切る。

埋土 ニツ岳の白色軽石を含むにぶい黄褐色砂質土からなり、底部に径0.05m大の黄褐色砂ブロックを含む。

遺物 なし。

所見 埋土には水流の影響を示す堆積相は認められない。1号溝に平行する小規模な溝である。

13号溝(第620図、PL.329)

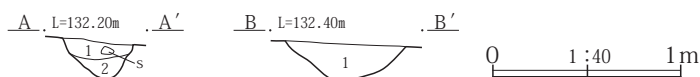
グリッド 13-3区N~O 11~14

形状と規模 全長は18.96mで南北方向に走行し、検出された幅は0.70~1.25m、深さは0.20~0.40mである。南北の底面比高差は0.41mで北から南に走行する。溝の断面形状はU字形を呈する。

走行方位 N S

重複 8号住居、3・9号溝を切る。1・4号溝に切られる。北端は1号溝で途切れるため、溝は1号溝に連続していた可能性がある。

埋土 ニツ岳の白色軽石を含む灰黄褐色砂質土からなる。

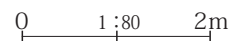
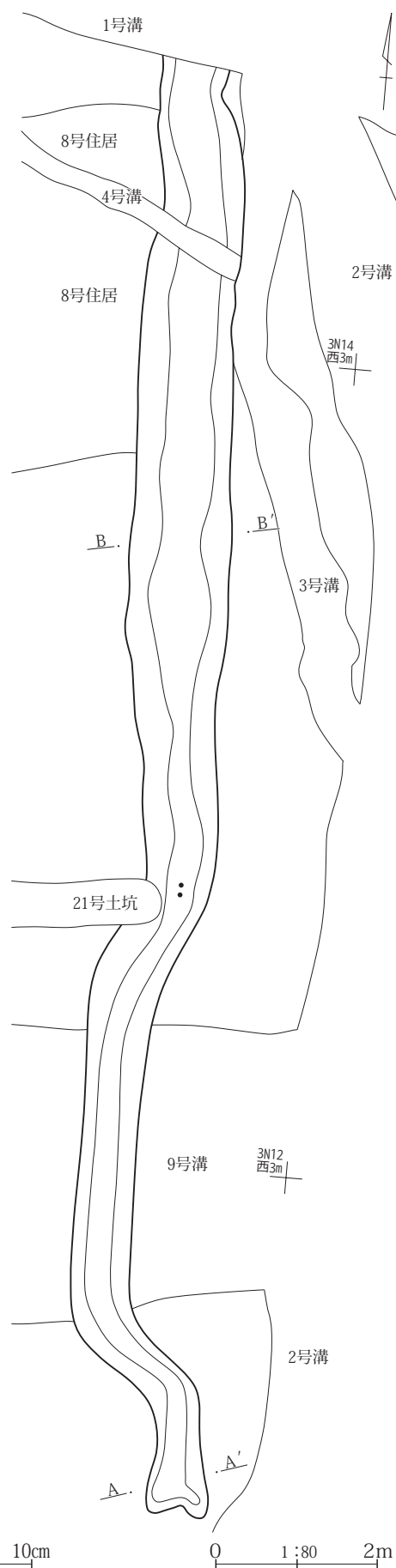
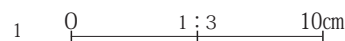
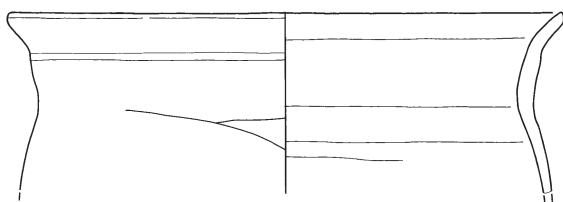


A-A'

- 1 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 少量の榛名ニツ岳白色軽石とにぶい黄橙色砂質土シルト小ブロック(φ 5~15mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の榛名ニツ岳白色軽石と多量のにぶい黄橙色砂質土シルト小ブロック(φ 5~15mm大)を含む。

B-B'

- 1 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 少量の榛名ニツ岳白色軽石小粒とにぶい黄褐色~にぶい黄橙色砂質土シルト大ブロック(φ 30~60mm大)を含む。



第620図 VI区2面13号溝と出土遺物

遺物 埋土から土師器の甕(1)が出土した。

所見 埋土には水流の影響を示す堆積相は認められないが、南北の比高差が大きいので低地側から微高地側に用水などを目的とした水路である可能性がある。9世紀の遺物が出土した。7世紀後半に帰属する8号住居よりも新しく、埋土に浅間Bテフラを含まないため平安時代9世紀に帰属する。

14号溝(第621図)

グリッド 13-3区J~L 9~14

形状と規模 全長は23.13mで南北方向に走行し、検出された幅は1.02~1.78m、深さは0.59~0.86mである。南北の底面比高差は0.04mで北から南に走行するが、溝の規模からしてほぼ水平である。溝の断面形状は皿形を

呈する。

走行方位 N17°W

重複 14・15・18号住居、12号溝を切る。

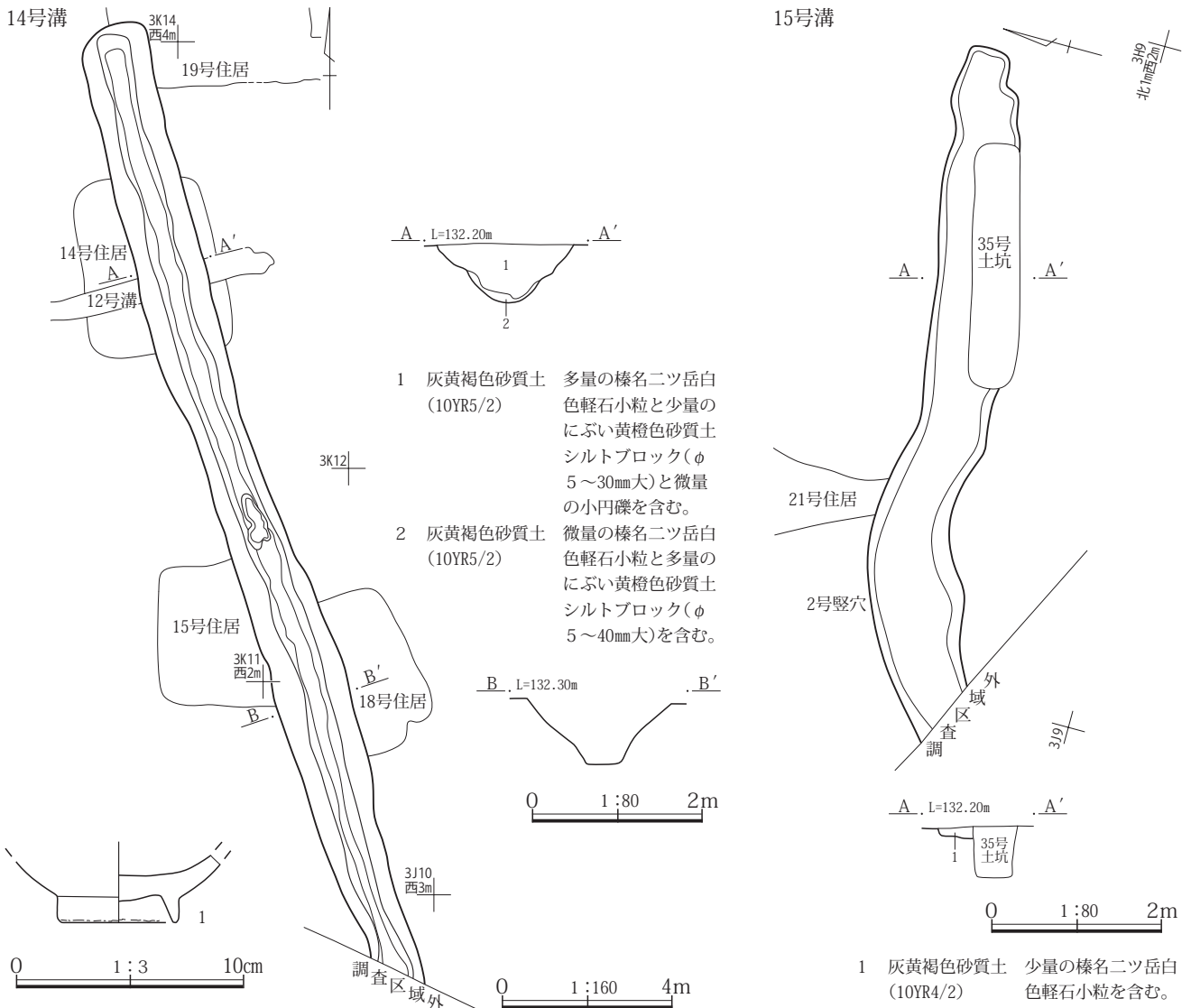
埋土 ニツ岳の白色軽石を含む灰黄褐色砂質土からなり、下底に径0.05m大の黄褐色砂ブロックを含む。

遺物 埋土から肥前陶器の呉器手碗(1)が出土した。

所見 埋土には水流の影響を示す堆積相は認められない。9号溝の南東部に平行し、規模や形状も類似するため区画を示す溝の可能性が高い。9世紀後半に帰属する15号住居よりも新しく、平安時代後半~中世に帰属する可能性が高い。

15号溝(第621図)

グリッド 13-3区H~J 9



第621図 VI区2面14・15号溝と14号溝の出土遺物

形状と規模 全長は7.91mで東西方向に走行し、検出された幅は0.80～1.10m、深さは0.06～0.11mである。東西の底面比高差は0.13mで西から東に走行する。溝の断面形状はU字形を呈する。

走行方位 N75°E

重複 35号土坑に切られる。21号住居、2号竪穴を切る。

埋土 二ツ岳の白色軽石を含むにぶい黄褐色砂質土からなり、径0.04m大の黄褐色砂ブロックを含む。

遺物 なし。

所見 埋土には水流の影響を示す堆積相は認められない。12号溝に平行し14・17号溝に直交する小規模な溝である。9世紀後半に帰属する21号住居よりも新しいことから平安時代後半の溝と考えられる。

16号溝(第622図、PL.329)

グリッド 13-3区G・H 7～9

形状と規模 全長は11.97mで南北方向に走行し、検出された幅は0.38～0.73m、深さは0.10～0.27mである。南北の底面比高差は0.07mで北から南に走行するが、ほぼ水平である。溝の断面形状はU字形を呈する。

走行方位 N22°W

重複 19号溝を切り、17号溝に切られる。

埋土 二ツ岳の白色軽石を含む灰黄褐色砂質土からなり、径0.10m大の円礫を含む。

遺物 なし。

所見 埋土には水流の影響を示す堆積相は認められない。後述する17号溝に平行して切られていることから同時期の溝である可能性がある。

17号溝(第622図、PL.329)

グリッド 13-3区F～I 6～14

形状と規模 全長は41.61mで南北方向に走行し、検出された幅は0.62～1.73m、深さは0.06～0.29mである。南北の底面比高差は0.33mで北から南に走行する。溝の断面形状はU字形を呈する。

走行方位 N19°W

重複 23・24・25・34・35・41号住居、5号竪穴を切り、36号土坑に切られる。

埋土 二ツ岳の白色軽石を含む灰黄褐色砂質土からなる。

遺物 埋土から須恵器の椀(1)、土師器の羽釜(2)が出

土した。

所見 埋土には水流の影響を示す堆積相は認められない。隣接する16号溝に平行し、14号溝と規模や形状が類似する。これらは土地の区画を示す目的で掘られた同時期の溝である可能性がある。9・10世紀の遺物が出土した。10世紀末～11世紀前半に帰属する41号住居よりも新しいことから、平安時代後半～中世に帰属する溝と考えられる。

19号溝(第623図)

グリッド 13-3区E～G 6～8

形状と規模 全長は15.03mで東西方向に走行し、検出された幅は0.25～0.73m、深さは0.02～0.17mである。東西の底面比高差は0.04mで東から西に走行するが、ほぼ水平である。溝の断面形状はU字形を呈する。

走行方位 N23°EとN72°E。

重複 27号住居、5号竪穴を切る。16・17号溝に切られる。

埋土 二ツ岳の白色軽石を含む黒褐色砂質土からなる。

遺物 なし。

所見 埋土には水流の影響を示す堆積相は認められない。10世紀に帰属する27号住居よりも新しい。溝は平安時代後半に帰属すると考えられる。

3. VII区

9号溝(第624～626図、PL.332・441)

グリッド 13-2区O・P 8～12

形状と規模 全長は19.57mで南北方向に走行し、検出された幅は1.00～2.50m、深さは0.11～0.27mである。南北の底面比高差は0.11mで北から南に走行する。溝の断面形状は皿形を呈する。

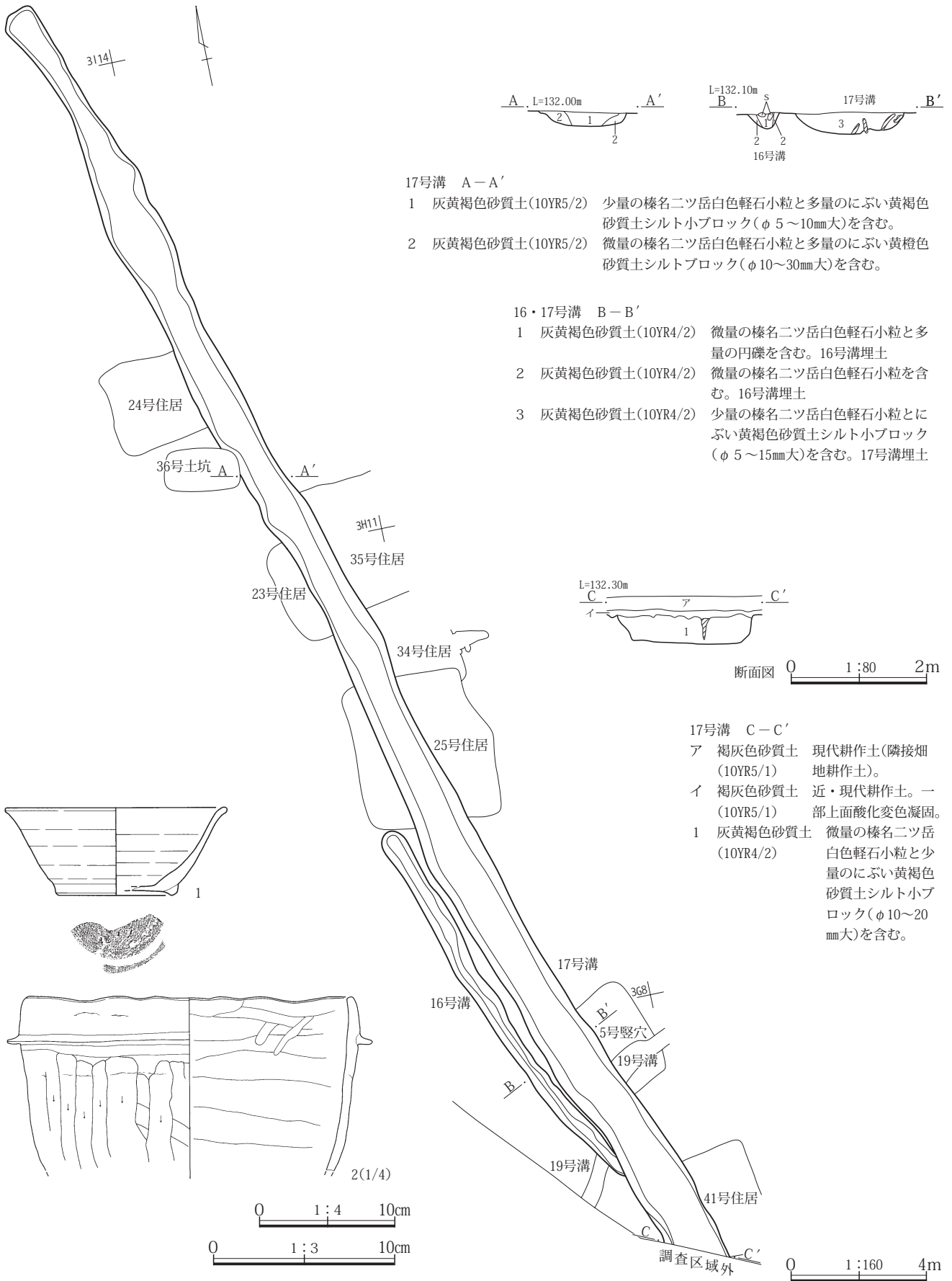
走行方位 N4°E

重複 11号溝を切る。

埋土 二ツ岳の白色軽石を含む黒褐～にぶい黄橙色砂質土からなる。

遺物 埋土から須恵器の杯(1～3)、椀(4・5)、甕(7・8)、土師器の甕(6)が出土した。

所見 埋土には水流の影響を示す堆積相は認められない。隣接する11号溝と同様に奈良～平安時代の集落を走行し、住居との切合いが認められない。これは古代の集落が9・11号溝の存在を意識して立地したためと想定さ



17号溝 A-A'

- 1 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 少量の榛名ニツ岳白色軽石小粒と多量のにぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ 5~10mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒と多量のにぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ 10~30mm大)を含む。

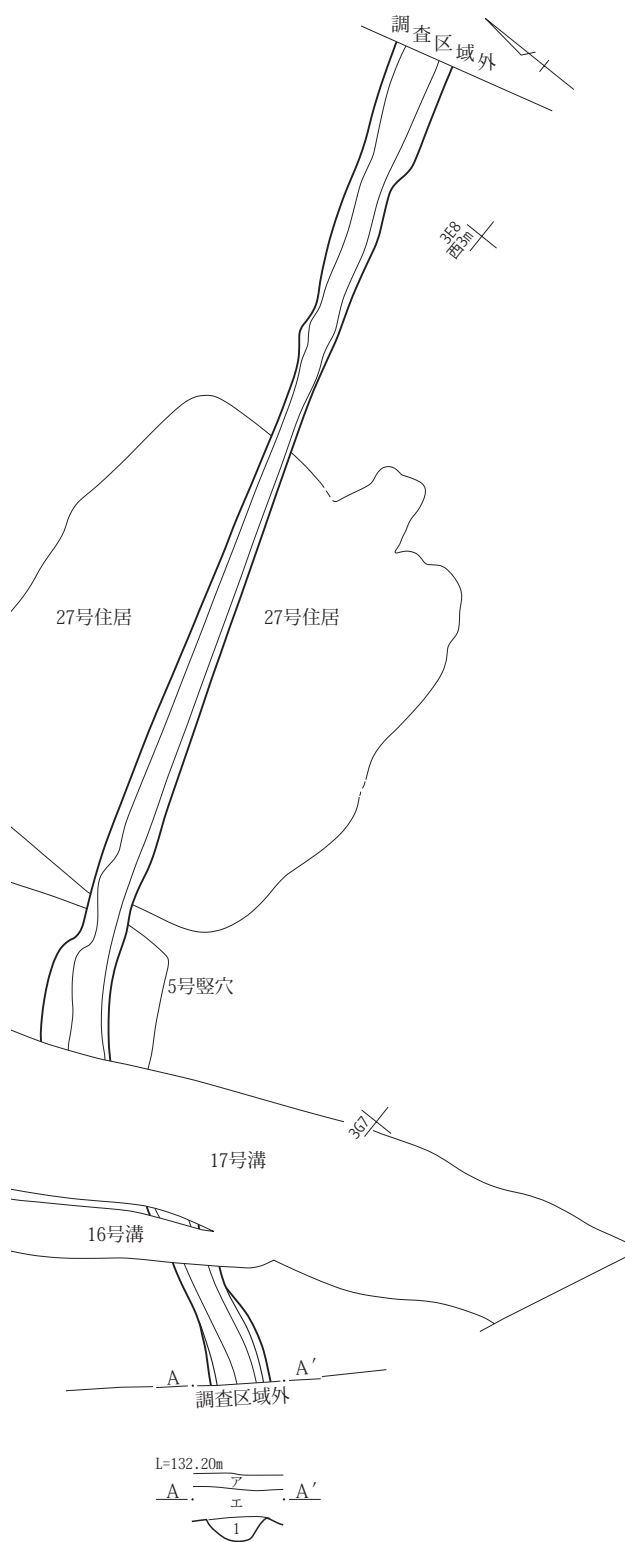
16・17号溝 B-B'

- 1 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒と多量の円礫を含む。16号溝埋土
- 2 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒を含む。16号溝埋土
- 3 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 少量の榛名ニツ岳白色軽石小粒とにぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ 5~15mm大)を含む。17号溝埋土

17号溝 C-C'

- ア 褐灰色砂質土 現代耕作土(隣接畑地耕作土)。(10YR5/1)
- イ 褐灰色砂質土 近・現代耕作土。一部上面酸化変色凝固。(10YR5/1)
- 1 灰黄褐色砂質土 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒と少量のにぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ 10~20mm大)を含む。(10YR4/2)

第622図 VI区2面16・17号溝と17号溝の出土遺物



- ア 褐灰色砂質土(10YR5/1) 現代耕作土(隣接畑地耕作土)。
- エ 灰黄褐色砂質土(10YR4/2~5/2) 平安~中世堆積土。
- 1 黒褐色砂質土(10YR3/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒とにぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ5~10mm大)を含む。

0 1.80 2m

第623図 VI区2面19号溝

れる。埋土から9世紀前半~11世紀前半の年代幅を有する遺物が出土した。このことから溝の時代は平安時代の集落存続期と想定される。

11号溝(第624・625・627図、PL.333・441)

グリッド 13-2区O~T 9~18と3区A 18

形状と規模 全長は60.18mで北西~南東方向から南北方向に屈曲しながら走行し、検出された幅は2.13~5.00m、深さは0.22~0.72mであり、調査区内で最大規模の溝である。南北の底面比高差は0.28mで北から南に走行する。溝の断面形状は箱形を呈する。

走行方位 N40°WとN9°E。

重複 9号溝に切られる。12号溝を切る。

対比 X区10号溝に連続する。

埋土 二ツ岳の白色軽石を含む褐灰~灰黄褐色砂質土からなり、下底は径0.05m大の円礫を多く含み、基質は極粗粒~粗粒砂からなる。

遺物 埋土から須恵器の椀(1・2)、灰釉陶器の皿(3)、椀(4)が出土した。

所見 埋土の底部に水流の影響を示す堆積相が認められる。隣接する9号溝と同様に奈良~平安時代の集落を走行し、住居との切合いが認められない。これは古代の集落が9・11号溝の存在を意識して立地したためと想定される。埋土からは9・10世紀の遺物が出土し、このことから溝の時代は平安時代の集落存続期と想定される。溝の底にはⅢ層を起源とする円礫が水流の影響を受けて堆積しており、溝は水路として機能した用排水路と考えられる。

10号溝(第628・629図、PL.333・441)

グリッド 13-2区M~T 15~19

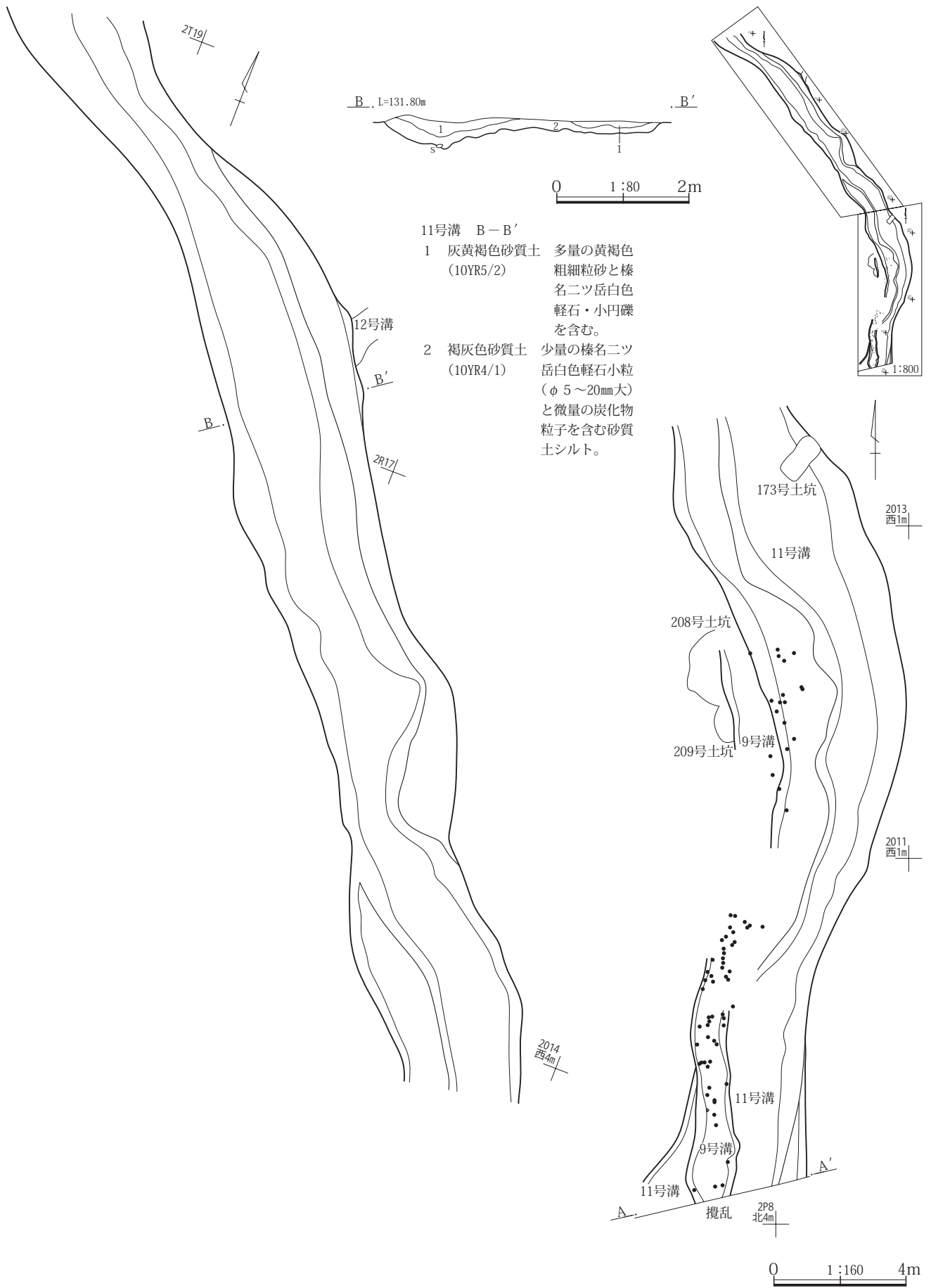
形状と規模 全長は37.97mで北西~南東方向に走行し、検出された幅は0.72~3.13m、深さは0.22~0.75mである。南北の底面比高差は0.51mで北から南に走行する。溝の断面形状はU字形を呈する。

走行方位 N60°W

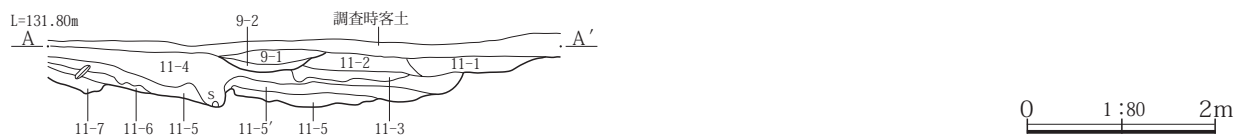
重複 62・66号住居、分岐した12号溝を切る。12号溝に平行して走行する。

対比 VIII区3号溝、X区11号溝に連続する。

埋土 二ツ岳の白色軽石を含む暗褐~灰黄褐色砂質土か

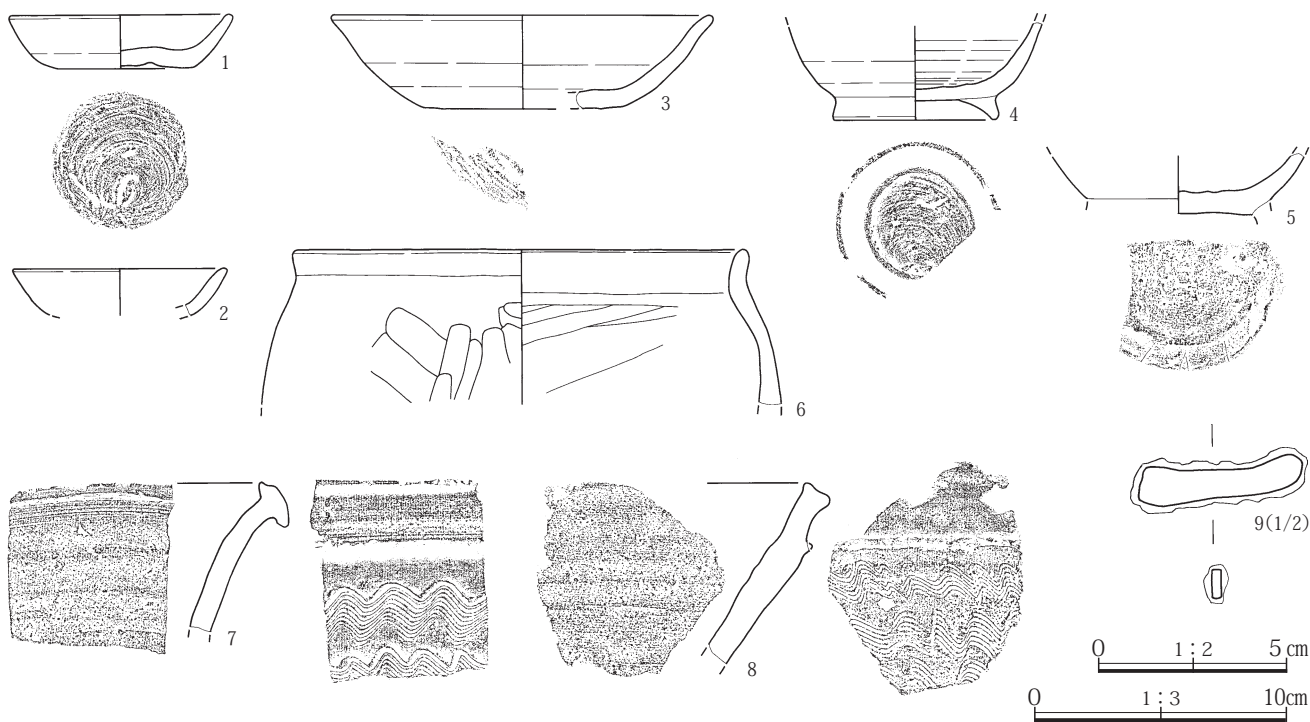


第624図 VII区2面9・11号溝(1)

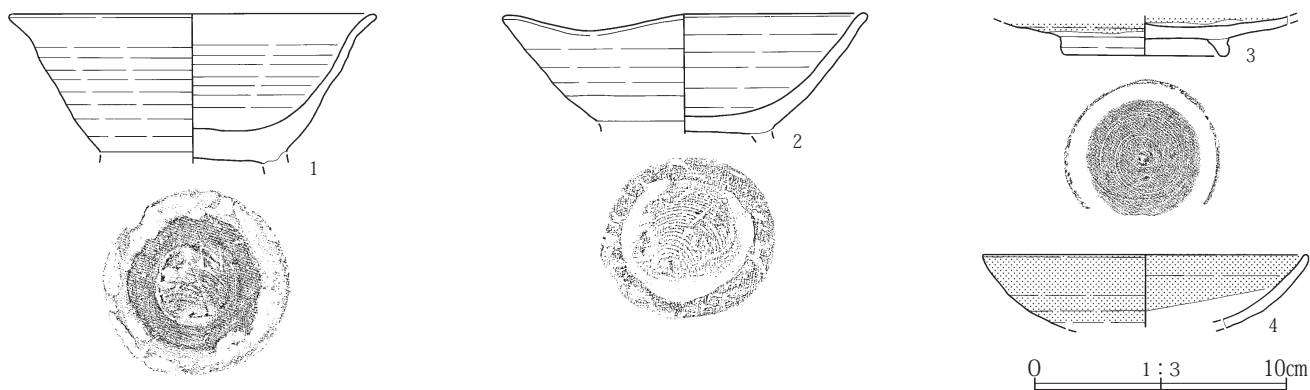


- 9-1 黒褐色土(10YR3/2) 少量の榛名二ツ岳白色軽石とにぶい黄橙色砂質土シルト小ブロック(φ5~10mm大)を含む。
- 9-2 にぶい黄橙色砂質土(10YR7/4) 多量の榛名二ツ岳白色軽石小粒を含む。水性堆積土。(混入する白色軽石の起源は、付近地山に堆積するFP泥流層)
- 11-1 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 多量の黄褐色粗細粒砂と榛名二ツ岳白色軽石と小円礫を含む。
- 11-2 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 少量の榛名二ツ岳白色軽石と小円礫を含む。
- 11-3 灰黄褐色細粒砂(10YR5/2) 少量のにぶい黄橙色砂質土シルト小ブロック(φ10~20mm大)を含む。
- 11-4 褐灰色砂質土(10YR4/1) 少量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ5~20mm大)と微量の炭化物粒子を含む砂質土シルト土。
- 11-5 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ3~5mm大)と炭化物粒子を含む砂質土シルト土。
- 11-5' 5層土に酷似、色調やや明るい。
- 11-6 灰黄褐色砂質土(10YR6/2) 多量のにぶい黄橙色砂質土シルト大ブロック(φ30~50mm大)と微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒を含む砂質土シルト。
- 11-7 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 少量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。=樹根痕

第625図 VII区2面9・11号溝(2)



第626図 VII区2面9号溝の出土遺物



第627図 VII区2面11号溝の出土遺物

らなり、灰黄褐色砂のブロックを含む。

遺物 埋土から須恵器の椀(3・4)、杯(1・2)、羽釜(6)、灰釉陶器の椀(5)が出土した。

所見 埋土には水流の影響を示す堆積相は認められない。埋土からは8～10世紀の年代幅を有する遺物が出土した。溝は11世紀前半に帰属する62号住居よりも新しく、埋土に浅間Bテフラを含まないことから平安時代後半の溝と考えられる。10号溝は古代の集落が立地する微高地と北東部に広がる低地の境界に位置し、微高地縁を走行する水路である。

12号溝(第628・630図、PL.333・441)

グリッド 13-2区M～R 16～19

形状と規模 全長は27.24mで北西～南東方向に走行し、一部は分岐して11号溝に切られる。検出された幅は0.50～3.22m、深さは0.07～0.32mである。南北の底面比高差は0.20mで北から南に走行する。溝の断面形状はU字形を呈する。

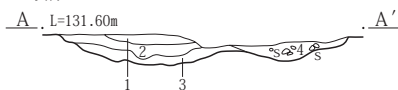
走行方位 N60°W

重複 分岐した溝が10・11号溝に切られる。10号溝に平行して走行する。

対比 Ⅷ区3号溝、X区6号溝に連続する。

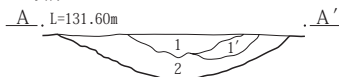
埋土 ニツ岳の白色軽石を含む黒褐～灰黄褐色砂質土からなり、黄褐色砂ブロックを含む。埋土にはニツ岳の白

12号溝

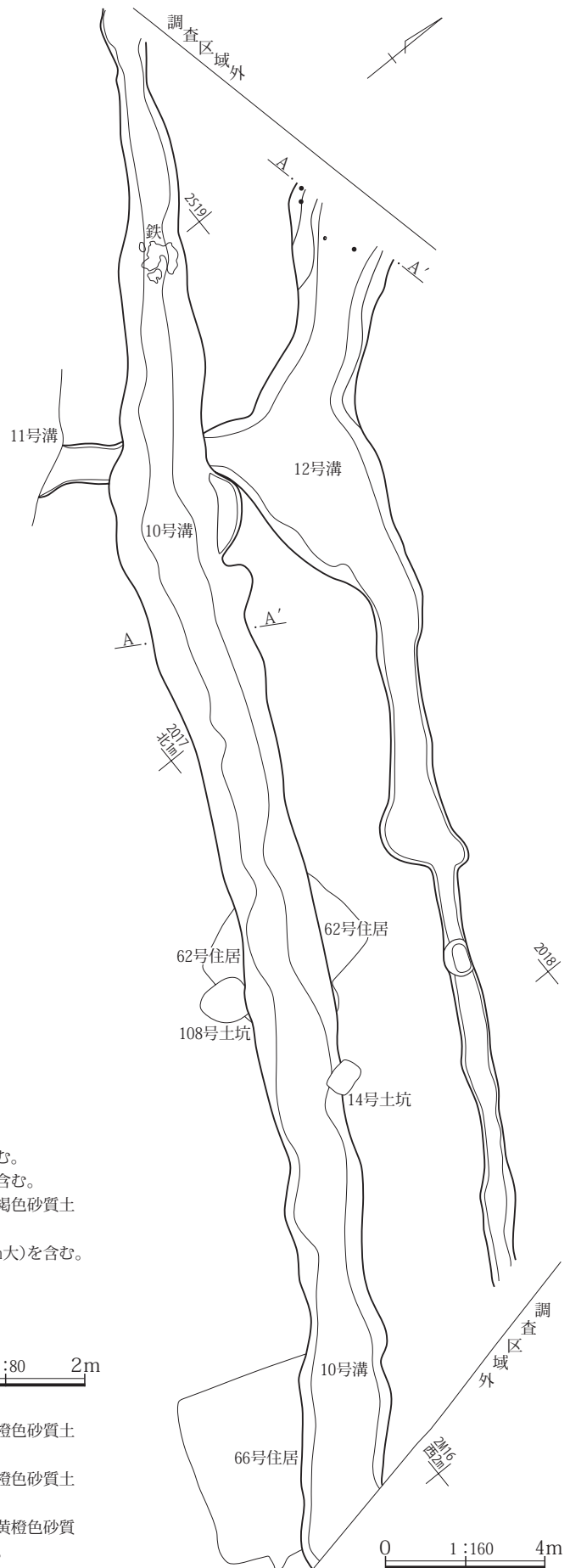


- 1 黒褐色砂質土(10YR3/2) 少量の榛名ニツ岳白色軽石と炭化物を含む。
- 2 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 少量の榛名ニツ岳白色軽石と炭化物を含む。
- 3 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 少量の榛名ニツ岳白色軽石と多量の黒褐色砂質土を含む。
- 4 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 多量の榛名ニツ岳白色軽石大粒(φ20～60mm大)を含む。

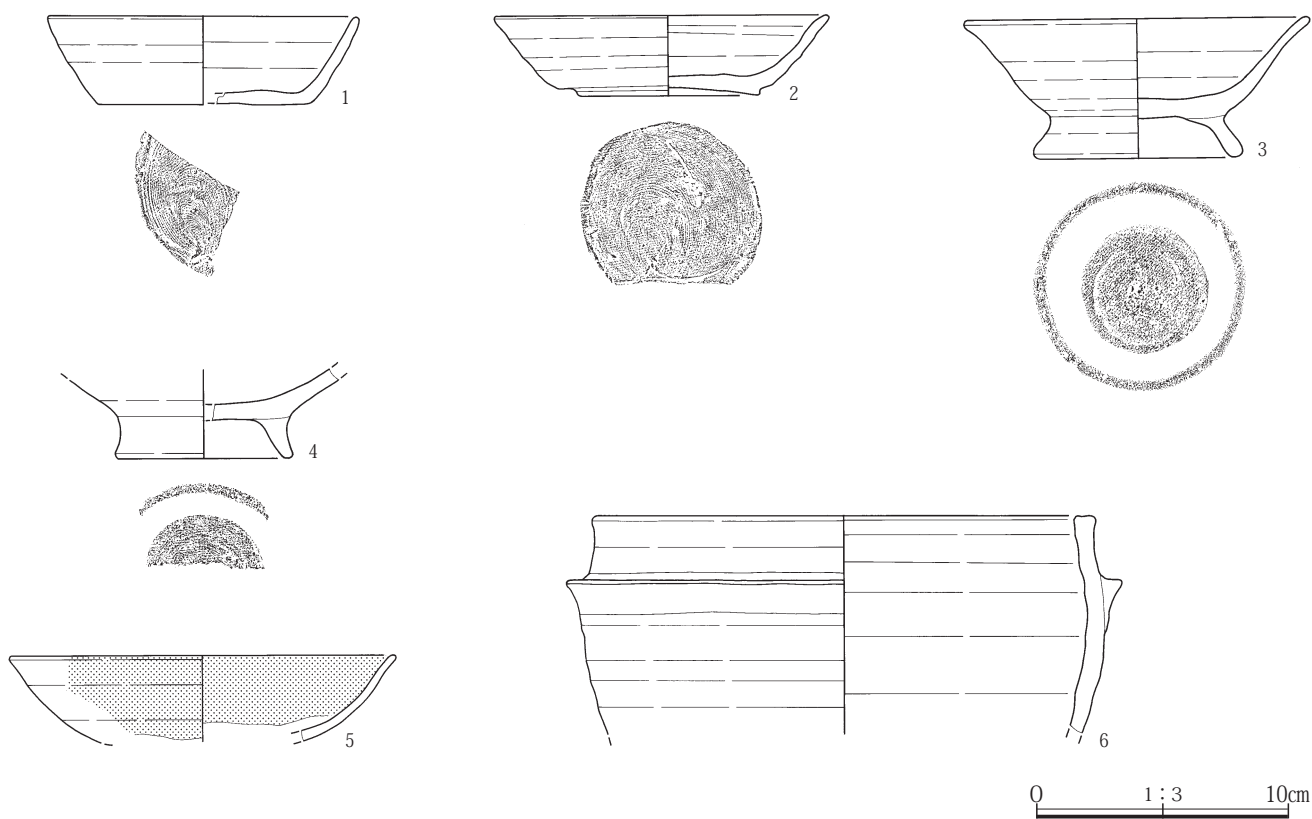
10号溝



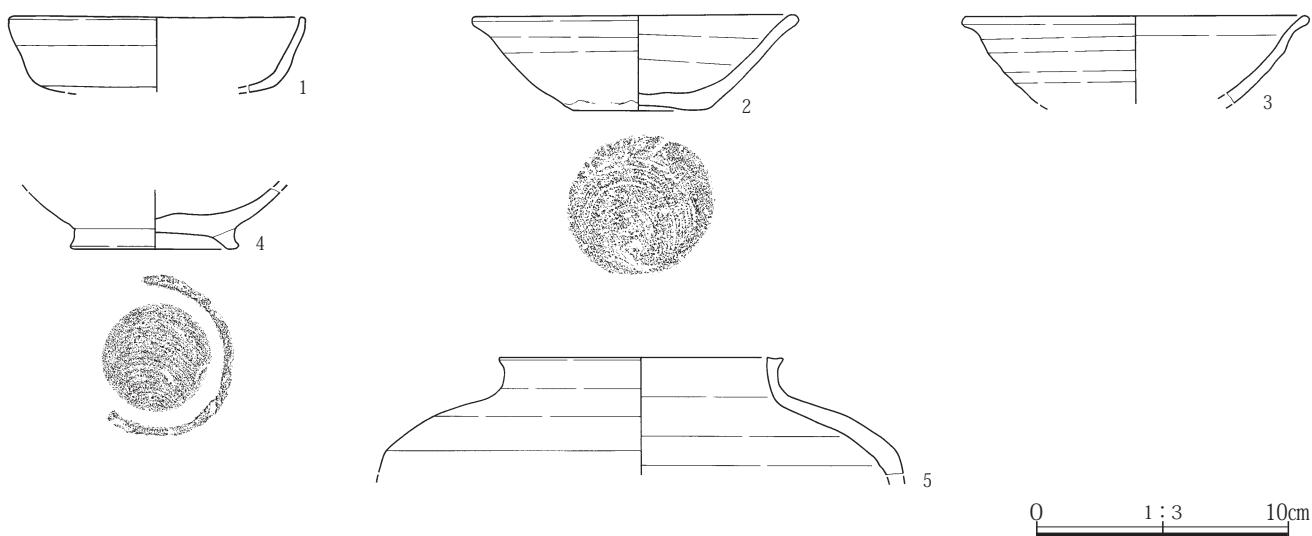
- 1 暗褐色砂質土(10YR3/3) 少量の榛名ニツ岳白色軽石と微量のにぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ5～20mm大)を含む。
- 1' 暗褐色砂質土(10YR3/3) 少量の榛名ニツ岳白色軽石と少量のにぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ5～20mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 少量の榛名ニツ岳白色軽石と多量のにぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ5～20mm大)を含む。



第628図 Ⅶ区2面10・12号溝



第629図 VII区2面10号溝の出土遺物



第630図 VII区2面12号溝の出土遺物

色軽石を多く含み火山灰質砂からなるラハール堆積物を挟在する。

遺物 埋土から須恵器の杯(2)、椀(3・4)、短頸壺(5)、土師器の杯(1)が出土した。

所見 埋土には水流の影響を示す堆積相は認められないが、氾濫堆積物と考えられる軽石からなるラハールが溝

を覆っている。12号溝は古代の集落が立地する微高地と北東部に広がる低地の境界に位置し、微高地縁を走行する水路である。埋土からは9世紀後半から10世紀前半の遺物が出土した。このことから溝は平安時代に帰属するものと考えられる。

4. VIII区

2号溝(第631・632図、PL.334・441)

グリッド 13-2区I~L 15~17

形状と規模 全長は14.75mで北西~南東方向に走行し、検出された幅は3.65~4.90m、深さは1.32mである。南北の底面比高差は0.12mで北から南に走行する。溝の断面形状はU字形を呈する。

走行方位 N68°W

重複 なし。3・4号溝に少し離れて、平行して走行する。

対比 溝の規模から考えてVII・X区に連続していたと想定されるが未検出である。

埋土 下位より層厚25cmの二ツ岳の白色軽石礫を含む灰黄褐色砂礫、層厚25cmの浅間Bテフラ、それらを覆う層厚65cmの浅間Bテフラまじりの暗灰~灰黄褐色砂互層からなる。

遺物 埋土から灰釉陶器の皿(1)、瓶(3)、須恵器の埴塙(2)が出土したことが特筆される。

所見 埋土には下底に水流の影響を示す堆積相が認められる。溝の埋没は浅間Bテフラ以降と考えられるので平安時代前半まで機能していた溝と考えられる。埋土からは9世紀後半の遺物が出土した。2号溝は古代の集落が立地する微高地と北東部に広がる低地の境界に位置し、微高地縁を走行する規模の大きな水路である。

3号溝(第633図、PL.335)

グリッド 13-2区J~L 14~16

形状と規模 全長は10.50mで北西~南東方向に走行する。検出された幅は0.40~1.05m、深さは0.02~0.25mである。南北の底面比高差は0.18mで北から南に走行する。溝の断面形状は皿形を呈する。

走行方位 N47°W

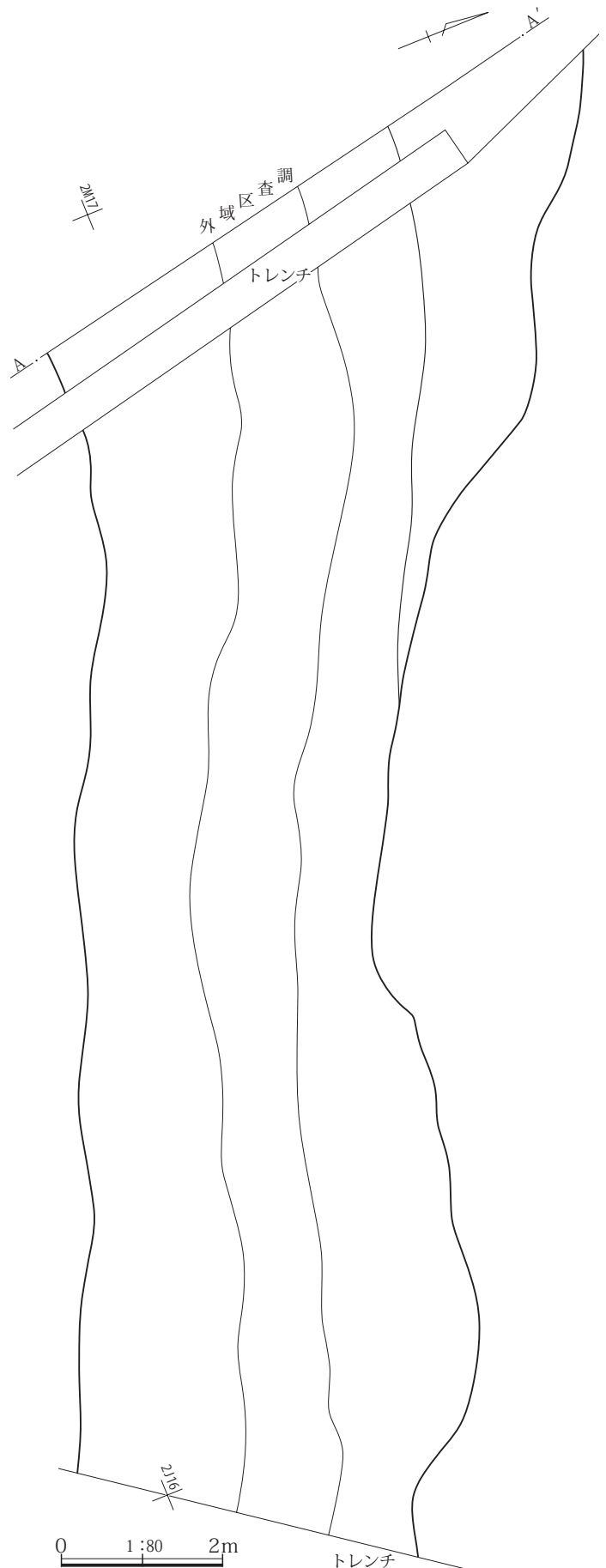
重複 なし。4号溝に平行して走行する。

対比 VII区12号溝、X区6号溝に連続する。

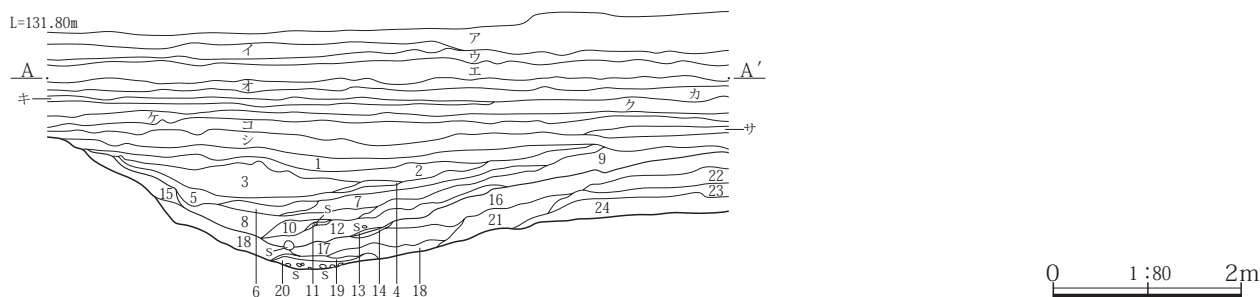
埋土 二ツ岳の白色軽石を含むにぶい黄橙~灰黄褐色砂質土からなる。

遺物 なし。

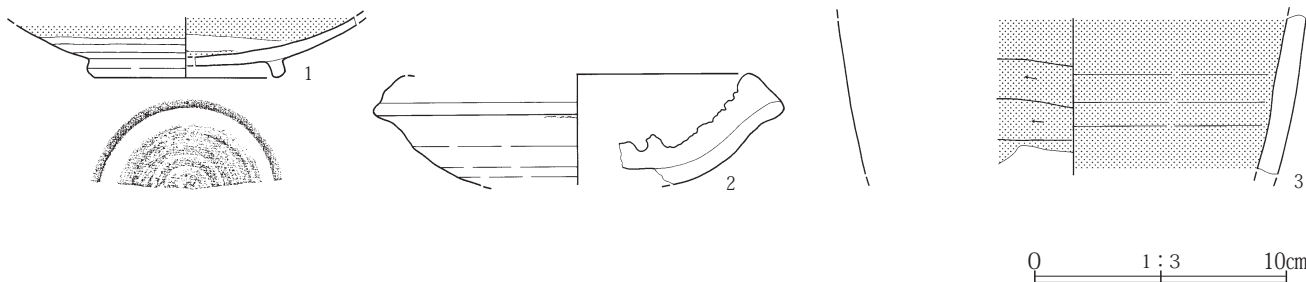
所見 埋土には水流の影響を示す堆積相は認められない。3号溝は古代の集落が立地する微高地と北東部に広がる低地の境界に位置し、微高地縁を走行する水路である。



第631図 VIII区2面2号溝



- ア 褐灰色土(10YR5/1) 現耕土。微量の榛名二ツ岳白色軽石(φ 5~40mm大)を含む。クラックを混入する。締りやや良。
- イ 褐灰色シルト質土(10YR5/1) 微量の榛名二ツ岳白色軽石(φ 5~40mm大)を含む。上部の一部に鉄分沈着層(5~20mm程)有り。締りやや良。
- ウ にぶい黄褐色シルト質土(10YR5/4) 鉄分沈着層。微量の榛名二ツ岳白色軽石大粒(φ 2~70mm大)を含む。締りやや良。
- エ 褐灰色シルト質土(10YR5/1) 近世以降の耕土。微量の榛名二ツ岳白色軽石大粒(φ 2~50mm大)を含む。中央部の一部に鉄分沈着層(10mm程)有り。締りやや良。
- オ にぶい黄褐色シルト質土(10YR5/4) 鉄分沈着層。3層土より酸化少ない。微量の榛名二ツ岳白色軽石(φ 2~30mm大)を含む。締りやや良。
- カ 褐灰色シルト質土(10YR5/1) 微量の榛名二ツ岳白色軽石(φ 2~30mm大)を含む。締りやや良。
- キ にぶい黄褐色シルト質土(10YR5/3) 弱い鉄分沈着層(浅間泥流復旧溝の下)。微量の榛名二ツ岳白色軽石(φ 2~30mm大)を含む。締りやや良。
- ク 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石大粒(φ 2~60mm大)を含む。締りやや良。
- ケ にぶい黄褐色シルト質土(10YR5/4) 鉄分沈着層。締りやや良。
- コ 褐灰色シルト質土(10YR5/1) 微量の浅間B軽石小粒(φ 1~2mm大)・榛名二ツ岳白色軽石(φ 2~40mm大)を含む。締りやや良。
- サ 灰黄褐色シルト質土(10YR5/2) 微量の浅間B軽石小粒(φ 1~2mm大)・榛名二ツ岳白色軽石(φ 2~30mm大)を含む。締りやや良。
- シ にぶい黄褐色シルト質土(10YR5/4) 微量の浅間B軽石小粒(φ 1~2mm大)・榛名二ツ岳白色軽石(φ 2~40mm大)を含む。締りやや良。
- 1 灰黄褐色細砂土(10YR4/2) 微量の浅間B軽石小粒(φ 1~2mm大)・榛名二ツ岳白色軽石(φ 2~30mm大)を含む。締りやや良。
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2) 微量の浅間B軽石小粒(φ 1~2mm大)・榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 2~20mm大)を含む。締りやや良。
- 3 暗灰黄色細砂土(2.5Y5/2) 中部に粗砂、下部にシルト質土沈殿。締りやや弱。
- 4 にぶい黄褐色シルト質土(10YR5/3)と灰黄褐色土(10YR4/2)の互層。締りやや弱。
- 5 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の浅間B軽石小粒(φ 1~2mm大)を含む。粘性やや有。締りやや弱。
- 6 灰黄色土(2.5Y6/2) 細砂土と粗砂土の互層。微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 2~3mm大)を含む。締りやや弱。
- 7 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 一部細砂質土を含む。粘性やや有。締りやや弱。
- 8 灰黄色土(2.5Y6/2) 細砂と粗砂の互層堆積。一部にやや粘りのあるシルト質土を混入する。微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 2~5mm大)を含む。締りやや弱。
- 9 灰黄褐色土(10YR4/2) 少量の浅間B軽石二次堆積土・軽石小粒(φ 1~2mm大)、灰オーリーブ土と微量の青灰色土を含む。締りやや弱。
- 10 緑黒色細砂土(7.5GY2/1) 細砂~粗砂。締りやや弱。
- 11 青黒色土(5BG2/1) 浅間B軽石の灰一次堆積土または粕川テフラと考えられる。締りやや弱。
- 12 灰オーリーブ色土(5Y6/2) 少量の浅間B軽石小粒(φ 1~2mm大)、一部に青灰色アッシュ・灰褐色灰(浅間B軽石アッシュ)を含む。二次堆積か?締りやや弱。
- 13 緑灰色土(7.5GY5/1) 浅間B軽石灰と考えられる。一次堆積か?締りやや弱。
- 14 褐灰色細砂質土(10YR4/1) 一部に黒褐色シルト質土を含む。締りやや弱。
- 15 灰黄褐色土(10YR5/2) 微量のにぶい黄橙色地山土ブロック・榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 2~5mm大)を含む。締りやや弱。
- 16 灰黄褐色土(10YR4/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 2~15mm大)を含む。粘性やや有。締りやや弱。
- 17 灰色細砂質土(7.5Y5/1) 一部に灰黄褐色シルト質土を混入する。締りやや弱。
- 18 灰色土(5Y4/1) 細砂・粗砂中心。少量の円礫(φ 5~100mm大)を含む。締りやや弱。
- 19 黒褐色土(10YR3/1) 微量の粘性土を含む。締りやや弱。
- 20 灰色土(5Y4/1) 細砂~粗砂。少量の円礫(φ 2~700mm大)を含む。締りやや弱。
- 21 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 2~10mm大)を含む。浅間C軽石の可能性のある火山灰を混入する。締りやや弱。
- 22 灰黄褐色シルト質土(10YR5/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 2~5mm大)・炭化粒子(φ 7mm大)を含む。締りやや弱。
- 23 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 酸化している箇所有り。締りやや弱。
- 24 黄灰色砂質土(2.5Y5/1) 一部に粗砂混入。微量の榛名二ツ岳白色軽石(φ 2~30mm大)を含む。締りやや弱。



第632図 VIII区2面2号溝と出土遺物

4号溝(第633図、PL.335)

グリッド 13-2区K・L 14・15

形状と規模 全長は7.85mで北西～南東方向に走行する。検出された幅は1.15～2.15m、深さは0.12～0.26mである。南北の底面比高差は0.10mで北から南に走行する。溝の断面形状は皿形を呈する。

走行方位 N42°W

重複 なし。3号溝に平行して走行する。

対比 VII区10号溝、X区11号溝に連続する。

埋土 ニツ岳の白色軽石を含むにぶい灰黄褐色土～黒褐色シルト質土からなる。

遺物 なし。

所見 埋土には水流の影響を示す堆積相は認められない。4号溝は、3号溝と同様に古代の集落が立地する微

高地と北東部に広がる低地の境界に位置し、微高地縁を走行する水路である。

5号溝(第634図、PL.335)

グリッド 12-91区M・N 12・13

形状と規模 全長は6.60mで北西～南東方向に走行し、検出された幅は0.45～0.75m、深さは0.07～0.10mである。南北の底面比高差は0.03mで北から南に走行するが、ほぼ水平である。溝の断面形状は浅い皿形を呈する。

走行方位 N49°W

重複 6号溝に切られる。

埋土 ニツ岳の白色軽石を含む灰黄褐色砂質土からなる。

遺物 なし。

所見 隣接するIX区に連続しない規模の小さな溝である。

6号溝(第634図、PL.336)

グリッド 12-91区M 12・13

形状と規模 全長は1.35mで南北方向に走行し、検出された幅は0.58m、深さは0.08mである。南北の底面比高差は水平である。溝の断面形状は浅い皿形を呈する。

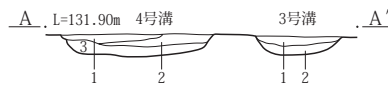
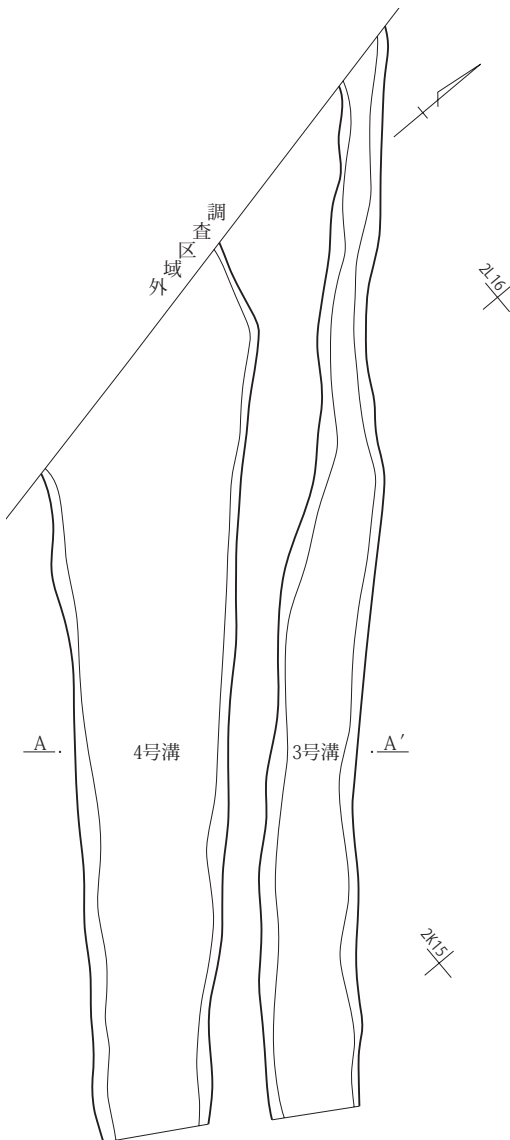
走行方位 N1°W

重複 5号溝を切る。

埋土 ニツ岳の白色軽石を含むにぶい黄褐色砂質土からなる。

遺物 なし。

所見 隣接するIX区に連続しない規模の小さな溝である。

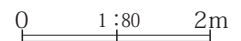


3号溝

- 1 灰黄褐色シルト質土(10YR5/2) 榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ1～10mm大)を含む。
- 2 にぶい黄褐色シルト質土(10YR6/4) 榛名ニツ岳白色軽石(φ1～30mm大)・炭化粒子(φ2～5mm大)を含む。マンガ斑下層に混入する。

4号溝

- 1 黒褐色シルト質土(10YR3/2) 微量の榛名ニツ岳白色軽石(φ2～30mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2) 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ1～3mm大)を含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/2) 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ1～10mm大)を含む。締りやや弱。



第633図 VIII区2面3・4号溝

7号溝(第634図、PL.336)

グリッド 12-91区L・M 12

形状と規模 全長は1.30mで北東～南西方向に走行し、検出された幅は0.65m、深さは0.10mである。南北の底面比高差は水平である。溝の断面形状は浅い皿形を呈する。

走行方位 N72° E

重複 なし。

埋土 ニツ岳の白色軽石を含むにぶい黄褐色砂～シルト質土が成層する。

遺物 なし。

所見 隣接するIX区に連続しない規模の小さな溝である。

検出された幅は2.23～4.35m、深さは0.58～0.62mである。南北の底面比高差は0.19mで南から北に走行する。溝の断面形状は皿形を呈する。

走行方位 N34° E

重複 なし。

埋土 下位より層厚50cmのニツ岳の白色軽石礫を含む黒褐～灰黄褐色砂質土、層厚6cmの浅間Bテフラ、それらを覆う層厚20cmの浅間Bテフラまじりのにぶい灰黄褐色砂質土からなる。

遺物 なし。

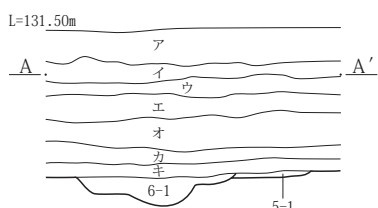
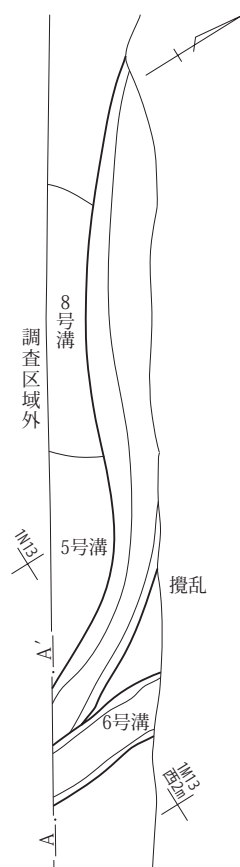
所見 埋土には水流の影響を示す堆積相が認められない。溝の埋没は浅間Bテフラ以前と考えられるので、12世紀以前の奈良～平安時代に機能していた溝と考えられる。溝は規模が大きく、微高地から低地に向けて走行する排水などを目的とした水路の可能性はある。

8号溝(第635図、PL.336・337)

グリッド 12-91区N 13

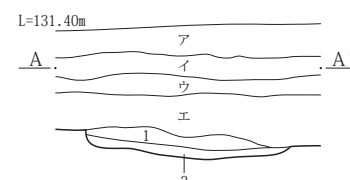
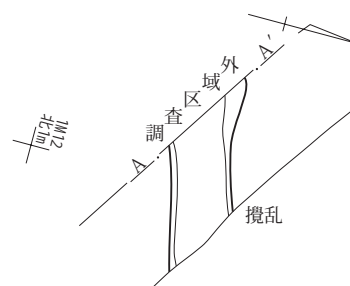
形状と規模 全長は5.00mで北東～南西方向に走行し、

5・6号溝

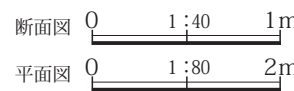


- ア 褐灰色砂質土 現耕土、ビニール混入。(10YR4/1)
- イ にぶい黄褐色砂質土 やや床土化した層。
- ウ 灰黄褐色土 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1～3mm大)・炭化粒子(φ 1～2mm大)を含む。
- エ にぶい黄褐色砂質土 床土化した層。微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1～8mm大)を含む。
- オ 灰黄褐色砂質土 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1～10mm大)を含む。
- カ にぶい黄褐色砂質土 床土化した層。微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1～2mm大)を含む。
- キ 灰黄褐色土 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 10YR5/2) 1～3mm大)を含む。
- 5-1 灰黄褐色砂質土 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1～5mm大)を含む。
- 6-1 にぶい黄褐色砂質土 床土化した層。微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1～20mm大)を含む。

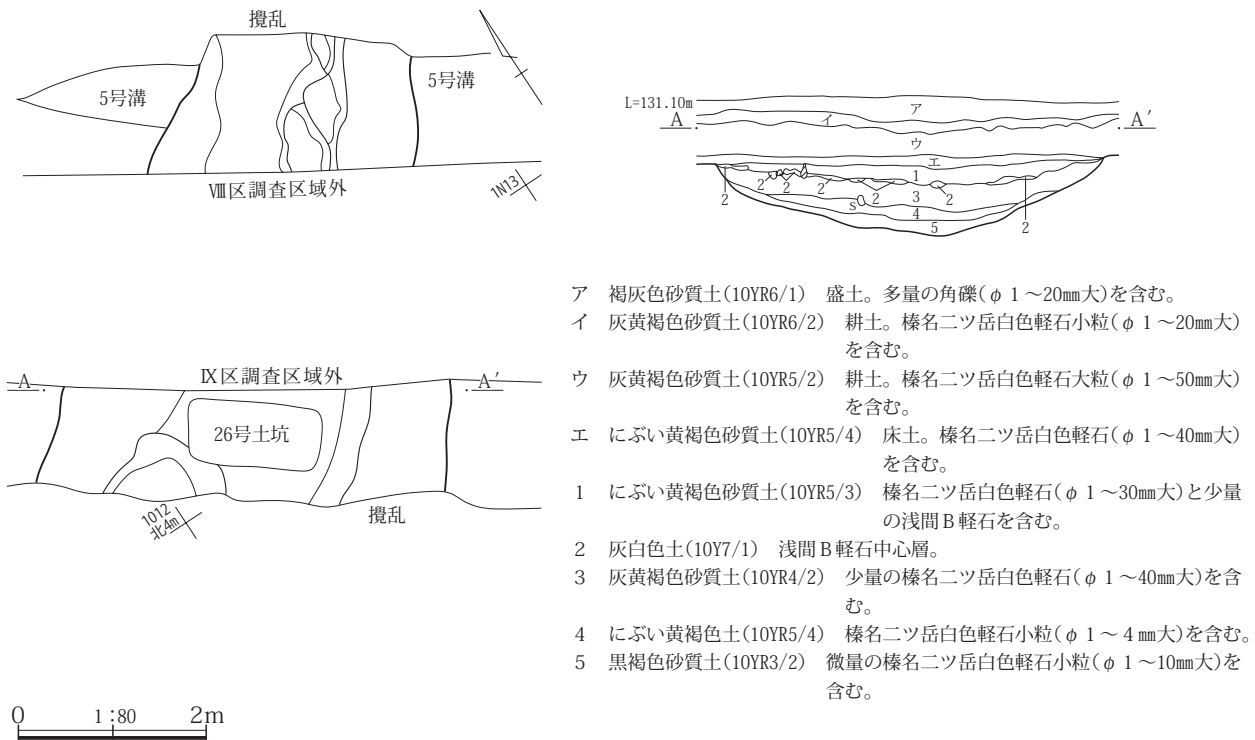
7号溝



- ア にぶい黄褐色砂質土 やや床土化した層。(10YR5/3)
- イ 灰黄褐色土 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1～3mm大)・炭化粒子(φ 1～2mm大)を含む。
- ウ にぶい黄褐色砂質土 床土化した層。微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1～8mm大)を含む。
- エ 灰黄褐色砂質土 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1～10mm大)を含む。
- 1 灰黄褐色砂質土 微量の榛名ニツ岳白色軽石(φ 1～30mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1～2mm大)・円礫(φ 20～50mm大)を含む。粘性やや有。



第634図 VIII区2面5～7号溝



第635図 VIII区2面8号溝

5. X区

6号溝(第636・637図、PL.339・442)

グリッド 13-2区R・S 20と12区S・T 1・2と
13区A~F 2~5

形状と規模 全長は39.34mで北西~南東方向に走行し、検出された幅は0.95~4.08m、深さは0.19~1.17mである。南北の底面比高差は0.11mで北から南に走行する。溝の断面形状はU字形を呈する。

走行方位 N56°W

重複 8号溝を切る。

対比 VII区12号溝に連続する。

埋土 二ツ岳の白色軽石を含む暗褐色土が成層する。

遺物 埋土から土師器の杯(1~5)、鉢(6)、須恵器の椀(11・12)、杯(7~9)、緑釉陶器の皿(13)、椀(14)が出土した。

所見 10・11号溝に平行して走行する溝で、微高地と低地の境界に沿って微高地縁を走行する。微高地から低地に向けて走行する排水などを目的とした水路の可能性はある。埋土から9・10世紀の遺物が出土した。このことから溝は平安時代に帰属する溝と考えられる。

7号溝(第638図、PL.339)

グリッド 13-3区A 20と13区A・B 1・2

形状と規模 全長は8.44mで南北方向に走行し、検出された幅は0.38~0.81m、深さは0.03~0.11mである。南北の底面比高差は0.02mで南から北に走行するが、ほぼ水平である。溝の断面形状はU字形を呈する。

走行方位 N2°W

重複 6号住居、11号溝に切られる。

埋土 砂礫層からなる。

遺物 なし。

所見 南北方向の小規模な溝で、10世紀後半に帰属する6号住居よりも新しい。溝は奈良・平安時代の遺構と考えられる。

8号溝(第638図、PL.339)

グリッド 13-12区T 1

形状と規模 全長は3.95mで北東~南西方向に走行し、検出された幅は0.33~0.90m、深さは0.10mである。南北の底面比高差は0.02mで北から南に走行するが、ほぼ水平である。溝の断面形状は浅い皿形を呈する。

走行方位 N40°E

重複 6号溝に切られる。

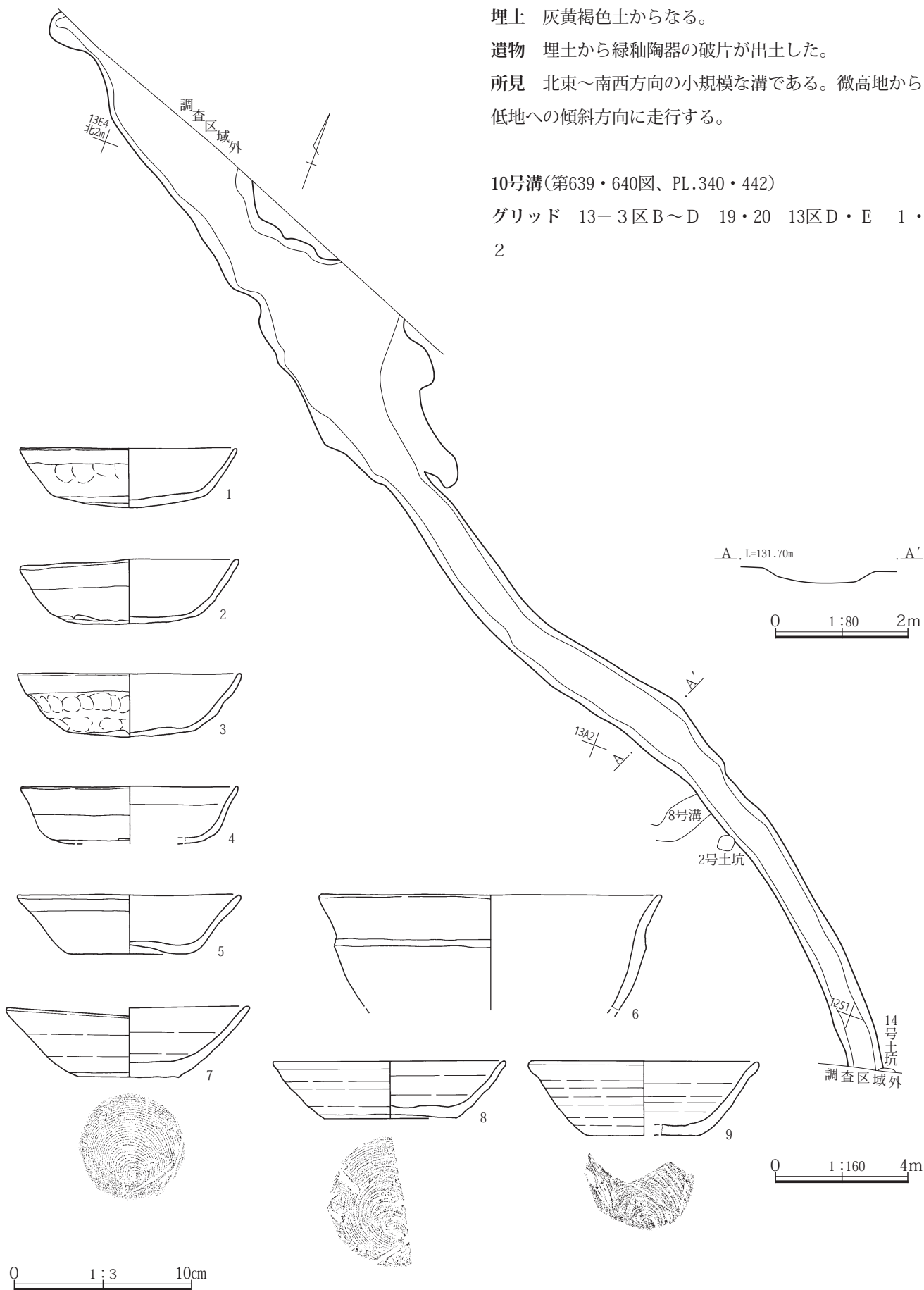
埋土 灰黄褐色土からなる。

遺物 埋土から緑釉陶器の破片が出土した。

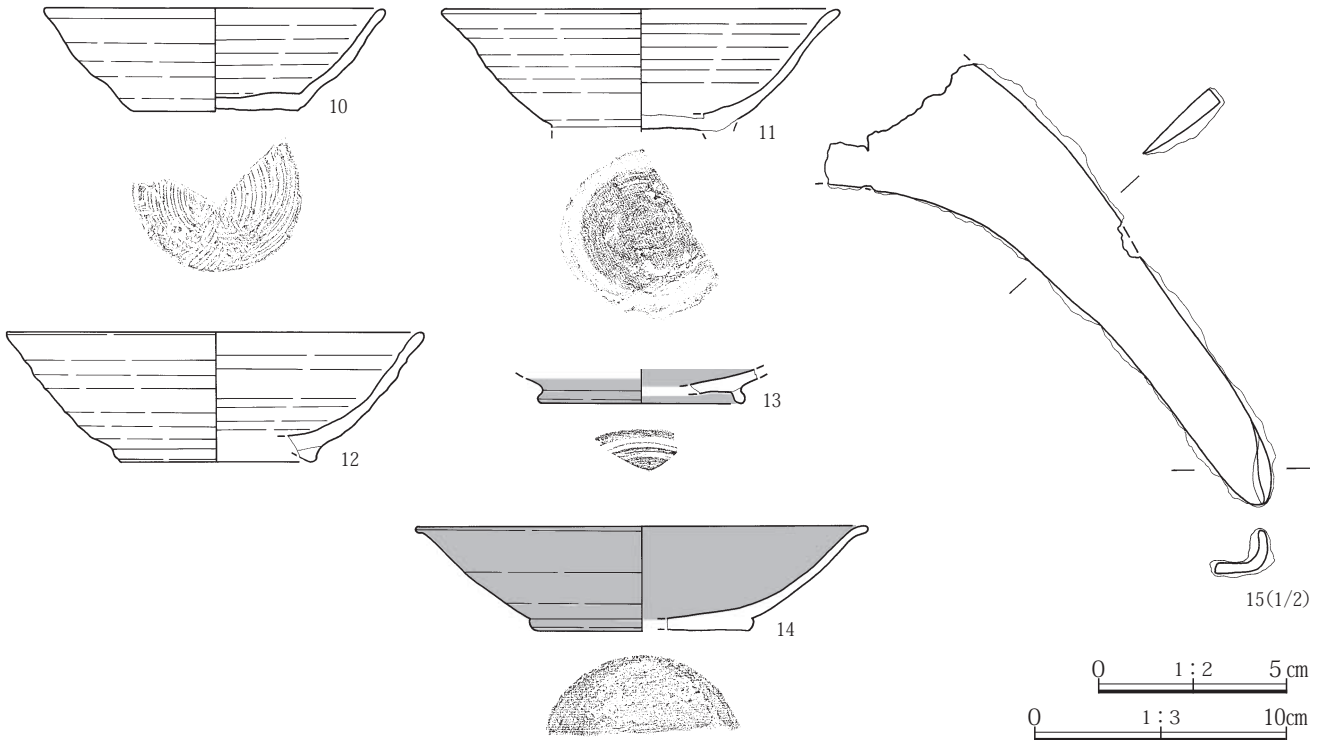
所見 北東～南西方向の小規模な溝である。微高地から低地への傾斜方向に走行する。

10号溝(第639・640図、PL.340・442)

グリッド 13-3区B~D 19・20 13区D・E 1・2



第636図 X区2面6号溝と出土遺物

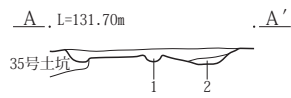
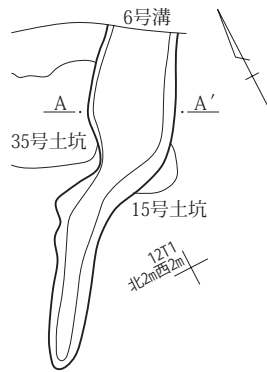


第637図 X区2面6号溝の出土遺物

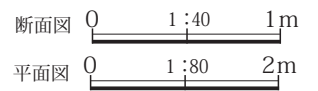
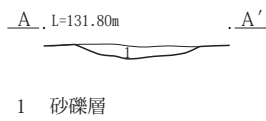
7号溝



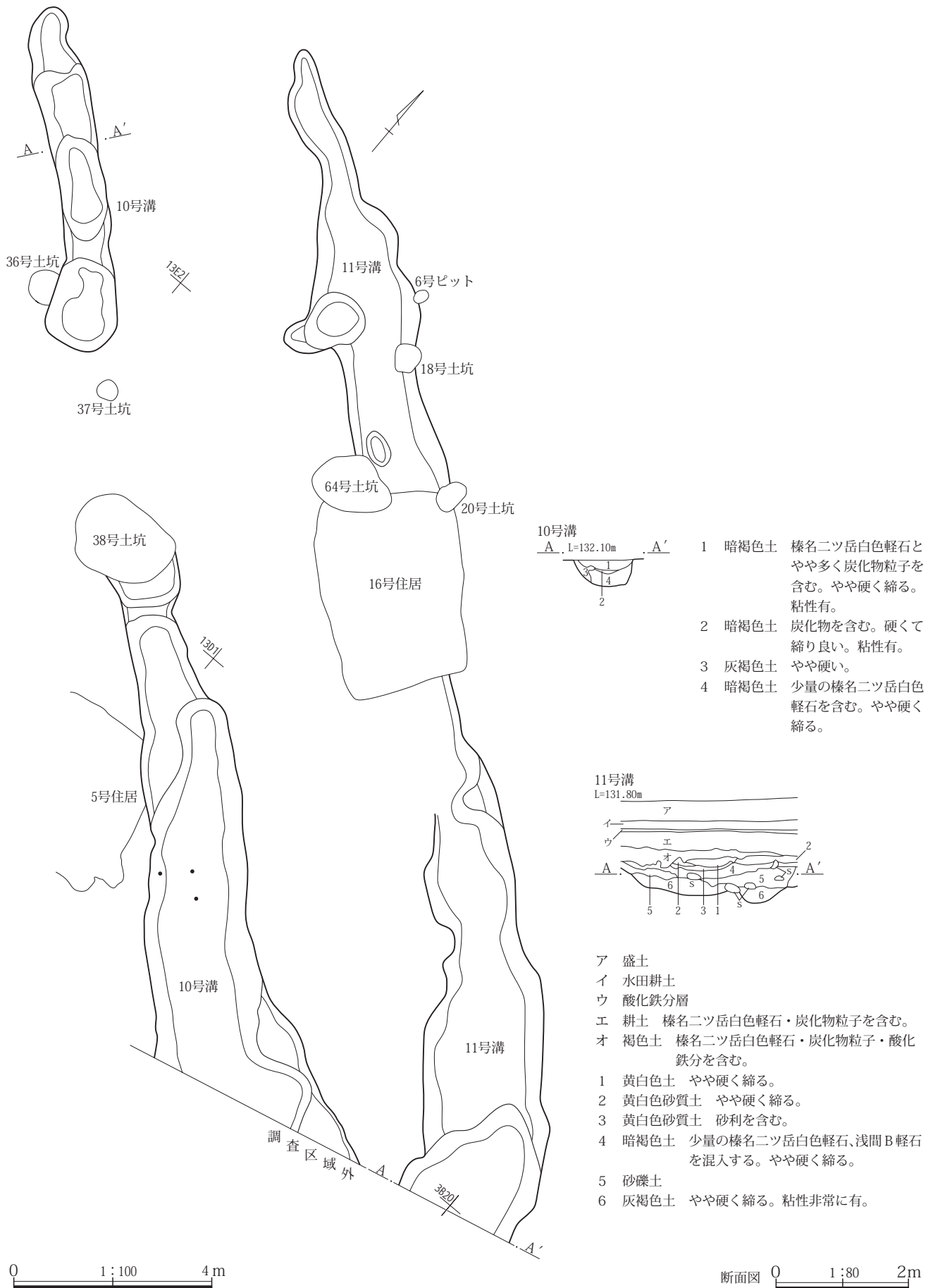
8号溝



- 1 暗褐色土 榛名二ツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。
- 2 暗褐色土 浅間B軽石を含む。硬く締る。



第638図 X区2面7・8号溝



第639図 X区2面10・11号溝

形状と規模 全長は20.33mで、途中は3mほど分布が途切れる。溝は北西～南東方向に走行し、検出された幅は0.47～1.35m、深さは0.03～0.54mである。南北の底面比高差は0.26mで北から南に走行する。溝の断面形状はU字形を呈する。

走行方位 N49°W

重複 5号住居、36・38号土坑に切られる。

対比 VII区11号溝、VIII区4号溝に連続する。

埋土 ニツ岳の白色軽石を含む暗褐～灰褐色土からなる。

遺物 埋土から須恵器の椀(1・2)が出土した。

所見 11号溝に平行して走行する溝で、微高地と低地の境界に沿って微高地内を走行する。微高地から低地に向けて走行する排水などを目的とした水路の可能性ある。埋土からは9世紀後半の遺物が出土し、平安時代後半に帰属する5号住居よりも古いことから、溝は奈良・平安時代に帰属すると考えられる。

11号溝(第639・640図、PL.340・442)

グリッド 13-3区A・B 19・20 13区B～E 1・2

形状と規模 全長は20.61mで、北西～南東方向に走行し、検出された幅は0.43～2.23m、深さは0.02～0.30mである。南北の底面比高差は0.08mで北から南に走行する。溝の断面形状はU字形を呈する。

走行方位 N48°W

重複 16号住居、18・20・64号土坑に切られる。

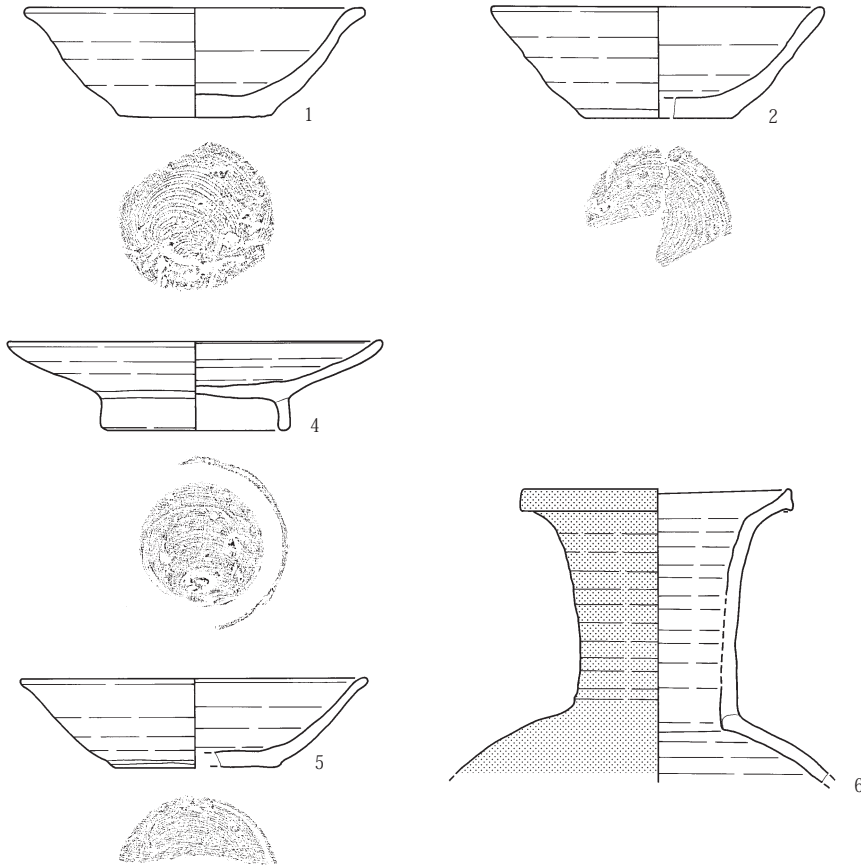
対比 VII区10号溝、VIII区3号溝に連続する。

埋土 ニツ岳の白色軽石や浅間Bテフラを含む暗褐色土からなる。

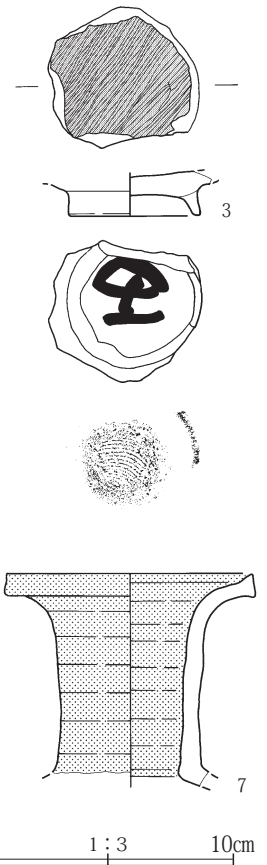
遺物 埋土から黒色土器の椀(3)、須恵器の皿(4)、杯(5)、灰釉陶器の壺(6・7)が出土した。

所見 10号溝に平行して走行する溝で、微高地と低地の境界に沿って微高地内を走行する。埋土から9・10世紀の遺物が出土し、埋土に浅間Bテフラを含むことから中世以降の時期に帰属する遺構と考えられる。微高地から低地に向けて走行する排水などを目的とした水路の可能性ある。

10号溝



11号溝



0 1:3 10cm

第640図 X区2面10・11号溝の出土遺物

第6節 土坑

1. 調査の概要

本節で述べるのは第2面から検出した古墳時代～中世の時代に帰属する土坑である。土坑の年代は出土遺物があるものは遺物から推定し、重複関係のある遺構は新旧関係から推定した。それ以外の土坑は埋土に含まれるテフラから推定し、榛名二ツ岳渋川テフラ(Hr-FA)や同伊香保テフラ(Hr-FP)などの二ツ岳の白色軽石を含むものは古墳時代以降、浅間Bテフラを含むものは12世紀初頭以降とした。

土坑の形状は、円形、楕円形、長方形、正方形、不定形など様々に短冊形の長方形の土坑や円形で柱穴の形状を呈するものなどが認められた。また、土坑の中で墓と考えられる土坑は、除外して墓坑として報告した。

土坑は調査区全体で592基が検出され、V区からは100基、VI区からは41基、VII区からは182基、VIII区からは67基、IX区からは52基、X区からは66基、XI区からは2基、XII区からは82基の土坑が検出された。

2. V区

1号土坑(第641図、PL.342)

グリッド 13-13区T9

長軸方位 N53°W

新旧関係 13号住居が旧。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は0.92m、短辺は0.85m、深さは0.20mである。

埋土 浅間Bテフラを多く含む黒褐色砂質土からなる。下底に礫を含む。

時代 12世紀初頭以降である。

2号土坑(第641図、PL.342)

グリッド 13-13区Q6

長軸方位 N53°E

新旧関係 1号住居が新。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は0.91m、短径は0.88m、深さは0.48mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀第2四半期より旧。

3号土坑(第641図、PL.342・442)

グリッド 13-13区Q6

長軸方位 N15°W

新旧関係 3号復旧痕が新。

形状と規模 長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は3.18m、短辺は2.02m、深さは0.58mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

遺物 埋土から鉄釘(1)が出土した。

時代 江戸時代天明期より旧。

4号土坑(第641図、PL.342)

グリッド 13-13区P7

長軸方位 N5°E

新旧関係 6・7号住居が旧。

形状と規模 長方形を呈し、断面形状は袋状を呈する。長辺は2.12m、短辺は1.20m、深さは0.23mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀前半より新。

6号土坑(第641図、PL.342)

グリッド 13-13区Q6

長軸方位 N73°W

新旧関係 3号復旧痕が新。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は半月形を呈する。長径は0.63m、短径は0.59m、深さは0.29mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 江戸時代天明期より旧。

7号土坑(第641図、PL.342)

グリッド 13-13区P5

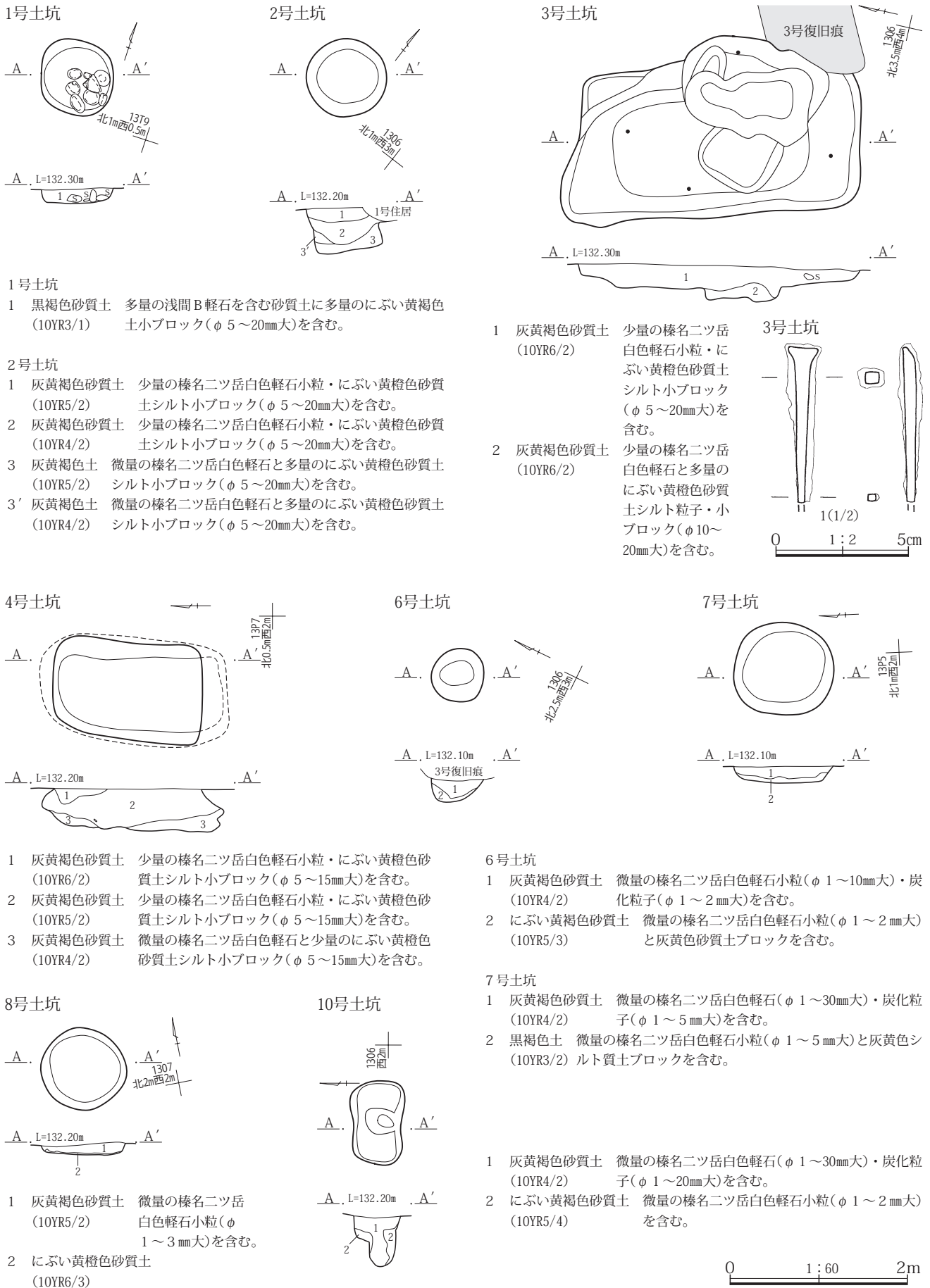
長軸方位 N23°W

新旧関係 23号住居が旧。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.12m、短辺は1.10m、深さは0.19mである。

埋土 灰黄褐色砂質土と黒褐色土からなる。

時代 古墳時代以降である。



第641図 V区1~4・6~8・10号土坑と3号土坑の出土遺物

8号土坑(第641図、PL.342)

グリッド 13-13区O7

長軸方位 N63°W

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。

長径は0.96m、短径は0.91m、深さは0.13mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

10号土坑(第641図、PL.342)

グリッド 13-13区O5

長軸方位 N88°W

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状はU字形を呈

する。長辺は0.94m、短辺は0.60m、深さは0.65mで、柱穴の形状を有する。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

5号土坑(第642図、PL.342・442)

グリッド 13-13区R1

長軸方位 N9°E

新旧関係 25・26・28号土坑が旧。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。

長辺は2.64m、短辺は2.23m、深さは0.77mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

遺物 埋土から須恵器の杯(1・2)が出土した。

時代 平安時代10世紀前半。

25号土坑(第642図、PL.343)

グリッド 13-13区R1

長軸方位 N27°W

新旧関係 5・26号土坑が新。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は箱形?を呈する。

長径は1.98m+、短径は1.12m+、深さは0.39mである。

埋土 暗灰~灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀前半以前で、古墳時代以降である。

26号土坑(第642図、PL.343)

グリッド 13-13区R1

長軸方位 N10°W

新旧関係 5号土坑が新。25号土坑が旧。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は箱形?を呈する。

長径は1.39m+、短径は0.68m+、深さは0.51mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀前半以前で、古墳時代以降である。

28号土坑(第642図、PL.342)

グリッド 13-13区R1

長軸方位 N17°W

新旧関係 5号土坑が新。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は半月形?を呈す

る。長径は1.46m+、短径は0.92m+、深さは0.44mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀前半以前で、古墳時代以降である。

11号土坑(第642図、PL.342)

グリッド 13-13区O5

長軸方位 N75°W

新旧関係 8号溝が旧。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は半月形を呈

する。長辺は0.81m、短辺は0.62m、深さは0.34mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

12号土坑(第642図、PL.342)

グリッド 13-13区M5

長軸方位 N3°E

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。

長径は1.11m、短径は1.03m、深さは0.14mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

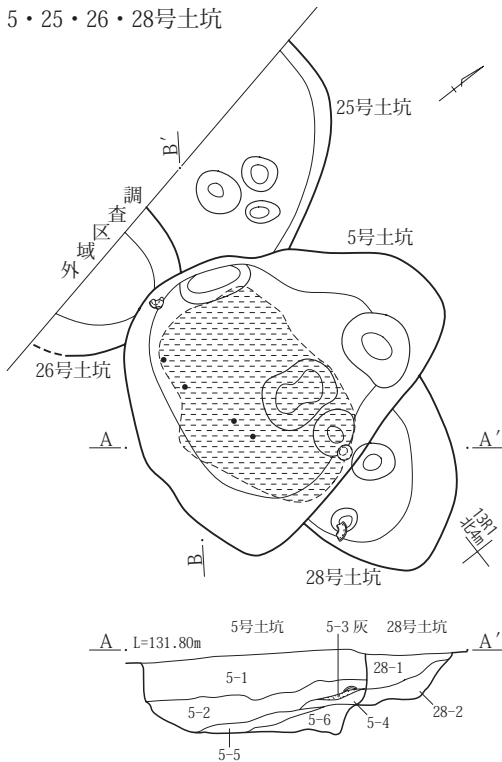
13号土坑(第642図、PL.342)

グリッド 13-13区M6

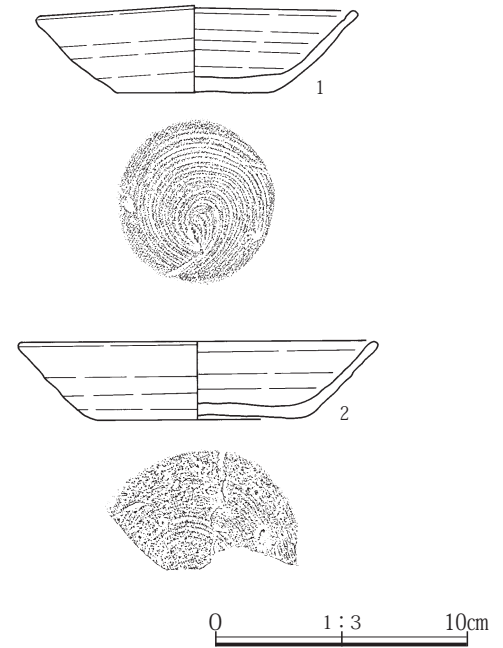
長軸方位 N76°W

新旧関係 なし。

5・25・26・28号土坑

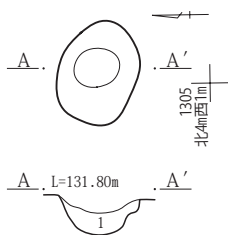


5号土坑



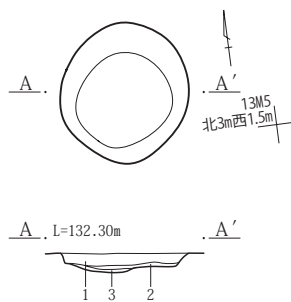
- 5-1 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~10mm大)・炭化粒子(φ 1~15mm大)を含む。
- 5-2 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~20mm大)・炭化粒子(φ 1~20mm大)を含む。
- 5-3 褐灰色土(10YR4/1) 灰中心層。
- 5-4 にぶい黄褐色シルト質土(10YR5/4) ブロック状に混入する。
- 5-5 黒褐色土(10YR3/2) 多量の炭化物と灰が混入する。
- 5-6 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~5mm大)を含む。
- 5-7 にぶい黄褐色シルト質土(10YR7/4) 微量の炭化粒子(φ 1~3mm大)を含む。粘性やや有。
- 25-1 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の炭化物・炭化粒子(φ 1~5mm大)、焼土を含む。
- 25-2 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の浅間C軽石粒・榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~2mm大)を含む。
- 25-3 黒褐色砂質土(10YR3/2) 微量の浅間C軽石粒・榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~2mm大)を含む。粘性やや有。
- 28-1 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の炭化物・炭化粒子(φ 1~5mm大)、焼土を含む。
- 28-2 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~5mm大)を含む。

11号土坑



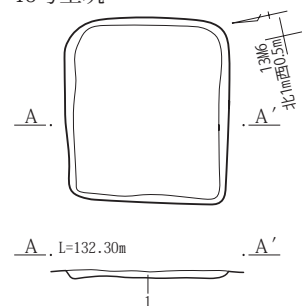
- 1 灰黄褐色細砂質土 (10YR5/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石大粒(φ 1~50mm大)を含む。

12号土坑

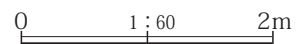


- 1 にぶい黄褐色砂質土 (10YR5/3) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~10mm大)と明黄褐色シルト質土ブロックを含む。
- 2 黒褐色砂質土 (10YR3/2) やや黒味がかかった色調。微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~2mm大)を含む。
- 3 灰黄褐色砂質土 (10YR4/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石(φ 1~15mm大)を含む。

13号土坑



- 1 にぶい黄褐色砂質土 (10YR4/3) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~5mm大)を含む。



第642図 V区5・11~13・25・26・28号土坑と5号土坑の出土遺物

形状と規模 方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.47m、短辺は1.30m、深さは0.08mである。
埋土 灰黄褐色砂質土からなる。
時代 古墳時代以降である。

14号土坑(第643図、PL.342)

グリッド 13-13区K 5

長軸方位 N18°E

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.04m、短辺は0.85m、深さは0.17mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

15号土坑(第643図、PL.342)

グリッド 13-13区P 5

長軸方位 N4°W

新旧関係 11号溝が新。

形状と規模 長方形を呈し、断面形状は浅い箱形を呈する。長辺は1.01m、短辺は0.69m、深さは0.38mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降から古代。

16号土坑(第643図、PL.343・443)

グリッド 13-13区O 5

長軸方位 N7°W

新旧関係 11号溝、17号土坑が旧。

形状と規模 長軸が南北方向の長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は2.70m、短辺は1.18m、深さは0.40mである。土坑底に長径0.35~0.50mの礫が14点敷き詰められており、礫と一緒に二ツ岳の角閃石安山岩製の石製品(10)が出土した。

埋土 灰黄褐色砂質土が成層する。

遺物 9点の鉄釘(1~9)が底から0.05~0.29m上で出土した。

時代 埋土に二ツ岳の白色軽石を含み古墳時代以降と考えられる。17号土坑とともに長方形の方形土坑を呈しており、古代の木棺墓とみられる墓坑である可能性が極めて高い。

17号土坑(第644図、PL.343)

グリッド 13-13区O 5

長軸方位 N67°E

新旧関係 11号溝が旧、16号土坑が新。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は半月形を呈する。長辺は0.85m、短辺は0.68m、深さは0.56mである。16号土坑の一部とみてよい。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

18号土坑(第644図、PL.343)

グリッド 13-13区Q 7

長軸方位 N75°E

新旧関係 3号復旧痕が新。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は0.70m、短径は0.59m、深さは0.55mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 江戸時代天明期より旧。

19号土坑(第644図、PL.343)

グリッド 13-13区R 7

長軸方位 N67°E

新旧関係 4号住居が新。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は深いU字形を呈する。長径は0.82m、短径は0.70m、深さは0.80mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀第1四半期より旧。

20号土坑(第644図)

グリッド 13-13区R 7

長軸方位 N76°W

新旧関係 16号住居が旧。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は半月形を呈する。長径は1.05m+、短径は0.94m、深さは0.26mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

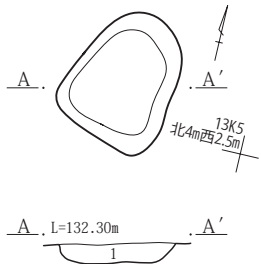
時代 古墳時代以降である。

21号土坑(第644図、PL.343)

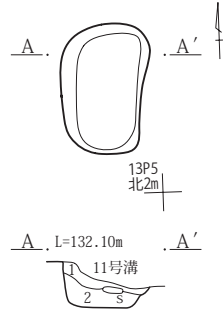
グリッド 13-13区Q 7

長軸方位 N44°W

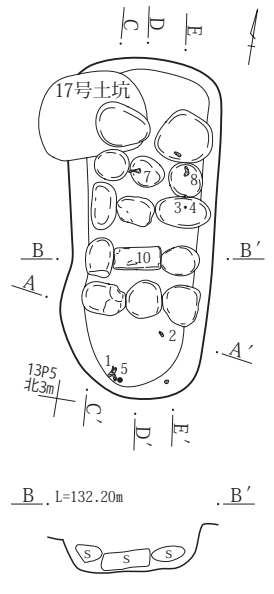
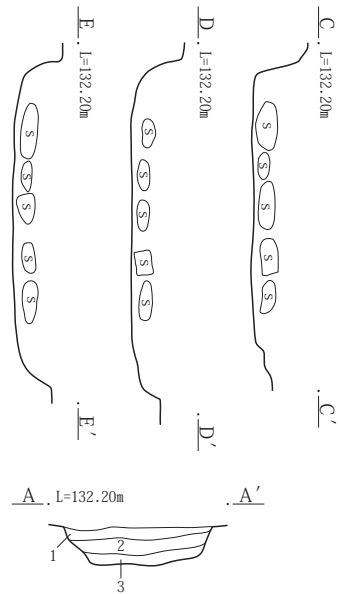
14号土坑



15号土坑



16号土坑

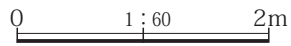


14号土坑

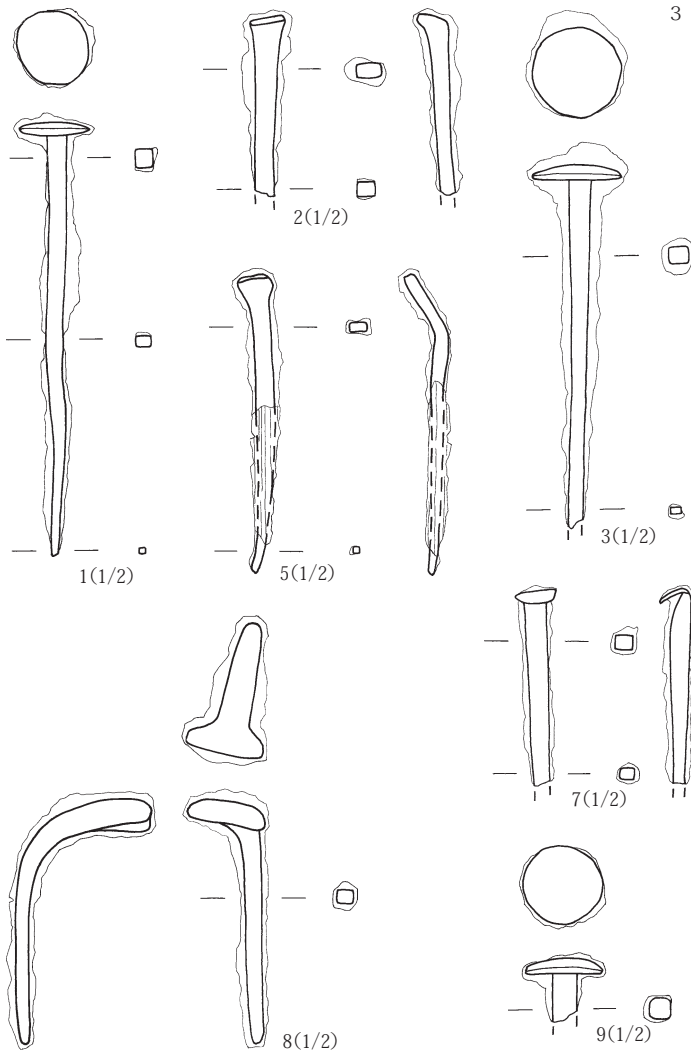
1 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~20mm大)を含む。

15号土坑

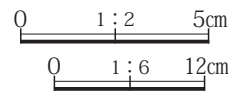
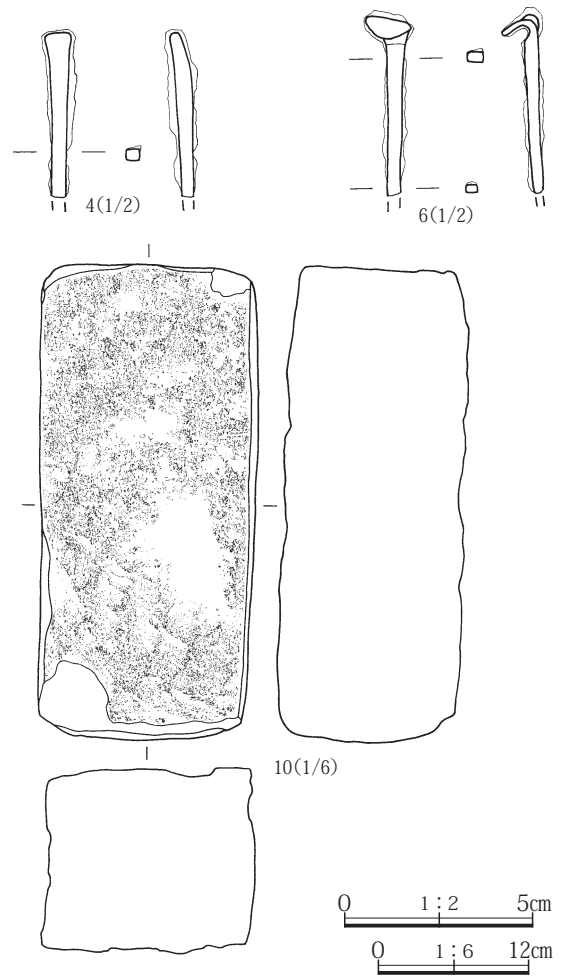
1 にぶい黄褐色砂質土(10YR4/3) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~2mm大)・焼土粒子(φ 1~5mm大)を含む。
2 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒・炭化粒子(φ 1~2mm大)を含む。



16号土坑

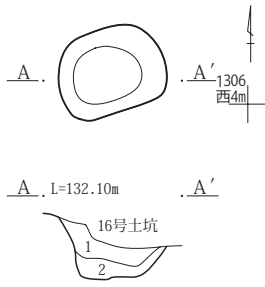


1 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~7mm大)・炭化粒子(φ 1~2mm大)を含む。
2 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~5mm大)・炭化粒子(φ 1~2mm大)を含む。
3 にぶい黄褐色砂質土(10YR5/3) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~5mm大)・炭化粒子を含む。



第643図 V区14~16号土坑と16号土坑の出土遺物

17号土坑

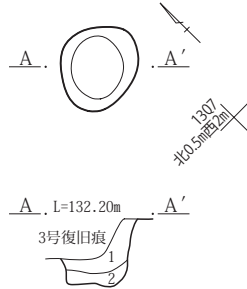


17号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~10mm大)・炭化粒子(φ 1~5mm大)を含む。(10YR4/2)
- 2 にぶい黄褐色砂質土 (10YR5/3)

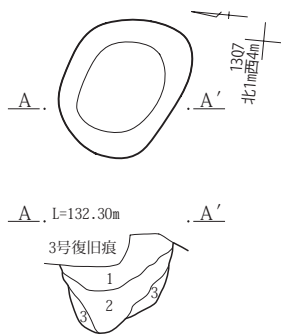
18号土坑

18号土坑



- 1 灰黄褐色砂質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石(φ 1~30mm大)・炭化粒子(φ 1~3mm大)を含む。(10YR4/2)
- 2 にぶい黄褐色砂質土 微量のにぶい黄褐色シルト質土を含む。(10YR5/3)

21号土坑



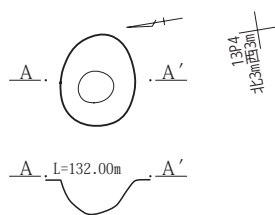
21号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土 微量の浅間C軽石粒・炭化粒子(φ 1~2mm大)、榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~20mm大)を含む。(10YR4/2)
- 2 灰黄褐色砂質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~10mm大)と灰黄色シルト質土ブロックを含む。(10YR4/2)
- 3 にぶい黄褐色砂質土 少量の灰黄色シルト質土を含む。(10YR4/3)

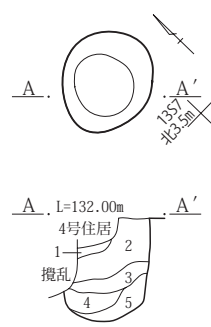
22号土坑

- 1 にぶい黄褐色土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~15mm大)を含む。(10YR5/3)
- 2 にぶい黄褐色土 少量の灰黄色シルト質土ブロックと微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~20mm大)を含む。(10YR5/3)
- 3 灰黄褐色土 微量の浅間C軽石粒(φ 1~2mm大)・榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~3mm大)を含む。(10YR4/2)

24号土坑



19号土坑



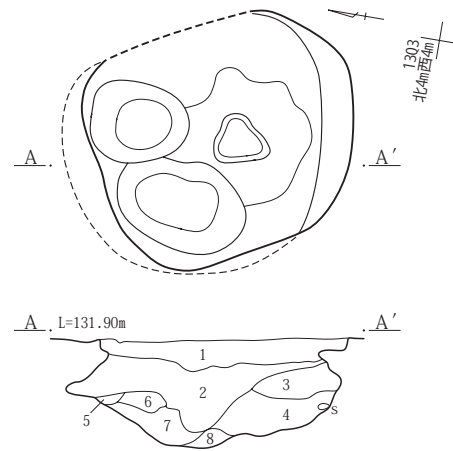
19号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土 少量のにぶい黄褐色砂質土と微量の榛名二ツ岳白色軽石(φ 1~30mm大)・炭化粒子(φ 1~3mm大)を含む。(10YR5/2)
- 2 灰黄褐色砂質土 微量のにぶい黄褐色土ブロックと榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~20mm大)を含む。(10YR4/2)
- 3 にぶい黄褐色砂質土 微量の黄褐色土・榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~10mm大)を含む。(10YR5/3)
- 4 暗灰黄色砂質土 微量の黄褐色土・榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~5mm大)を含む。(2.5Y4/2)
- 5 灰黄褐色砂質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~10mm大)を含む。(10YR4/2)

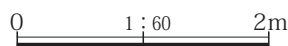
20号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土 微量の浅間C軽石粒(φ 1~2mm大)・榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~10mm大)・炭化粒子(φ 1~5mm大)を含む。(10YR4/2)

23号土坑



- 1 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石(φ 1~30mm大)・炭化粒子(φ 1~2mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石(φ 1~40mm大)・炭化粒子(φ 1~5mm大)を含む。
- 3 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~20mm大)・炭化粒子(φ 1~2mm大)を含む。
- 4 黒褐色砂質土(10YR3/2) 微量の炭化粒子(φ 1~10mm大)・焼土粒子(φ 1mm大)を含む。
- 5 にぶい黄褐色シルト質土(10YR7/3)のブロック。
- 6 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~20mm大)を含む。
- 7 黒褐色砂質土(10YR3/2) 微量のにぶい黄褐色シルト質土ブロックを混入する。榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~10mm大)を含む。
- 8 にぶい黄褐色シルト質土(10YR7/3) 地山の可能性有り。



第644図 V区17~24号土坑

新旧関係 3号復旧痕が新。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状はU字形を呈する。長辺は1.17m、短辺は0.81m、深さは0.83mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 江戸時代天明期より旧。

22号土坑(第644図)

グリッド 13-13区S7

長軸方位 N65°E

新旧関係 なし。

形状と規模 長方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。

長辺は1.12m、短辺は0.94m、深さは0.55mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

23号土坑(第644図、PL.343)

グリッド 13-13区Q3

長軸方位 N38°W

新旧関係 58号住居が旧。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は袋状を呈する。長辺は2.37m、短辺は1.83m、深さは0.96mである。

埋土 灰黄褐色砂質土が成層する。

時代 4世紀より新。

24号土坑(第644図、PL.343)

グリッド 13-13区P4

長軸方位 N70°W

新旧関係 23号住居が旧。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は半月形を呈する。長辺は0.72m、短辺は0.57m、深さは0.25mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

27号土坑(第645図、PL.343)

グリッド 13-3区R20

長軸方位 N16°E

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は半月形を呈する。長径は1.36m+、短径は1.30m+、深さは0.32mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

29号土坑(第645図、PL.343・443)

グリッド 13-3区O20

長軸方位 N32°W

新旧関係 11号溝が旧。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は皿形を呈する。

長辺は4.53m、短辺は3.79m、深さは1.52mである。土坑底に焼土ブロックが見られる。

埋土 灰黄褐色砂質土が成層して坑を埋める。

遺物 埋土から土師器の杯(1~4)、黒色土器の杯(5)、灰釉陶器の椀(6)が出土し、墨書土器「庄」の杯(3)が出土したことは特筆される。

時代 平安時代9世紀後半。

31号土坑(第645図、PL.344)

グリッド 13-13区S7

長軸方位 N63°W

新旧関係 5号住居が新。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は2.56m+、短辺は1.22m、深さは0.26mである。

埋土 焼土帯を挟む灰黄褐色砂質土からなる。

時代 9世紀第4四半期より旧。

33号土坑(第646図、PL.344)

グリッド 13-3区L18

長軸方位 N80°E

新旧関係 45号住居が旧。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は箱形を呈する。

長径は0.96m、短径は0.68m+、深さは0.28mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀後半より新。

34号土坑(第646図、PL.344・443)

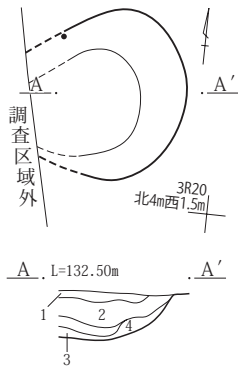
グリッド 13-13区I4

長軸方位 N75°W

新旧関係 74・76号住居が新。

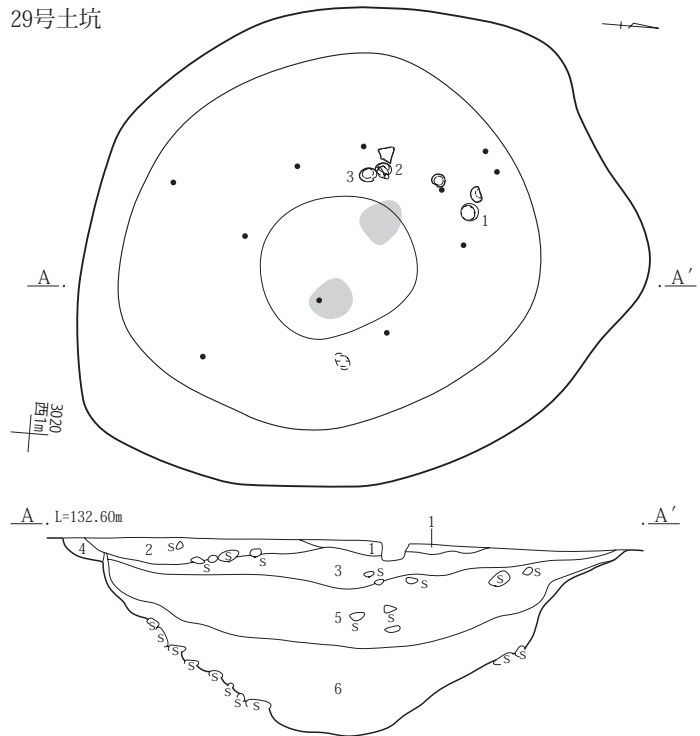
形状と規模 円形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長

27号土坑



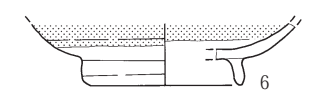
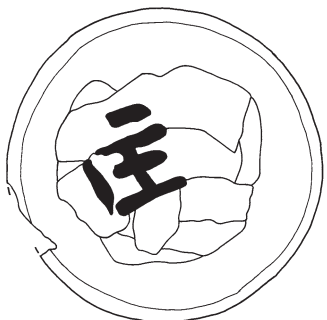
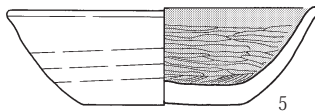
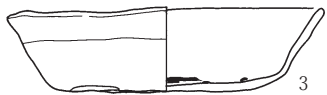
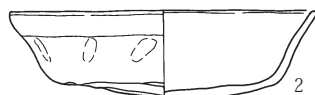
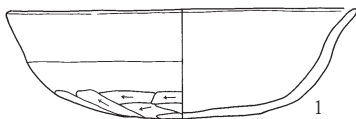
- 1 灰黄褐色粘性土 微量の浅間C軽石粒(φ 1~2mm大)・
(10YR5/2) 榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~5mm
大)を含む。粘性弱。
- 2 灰黄褐色粘性土 少量の浅間C軽石粒(φ 1~2mm大)と
(10YR4/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ
1~2mm大)を含む。粘性弱。
- 3 黒褐色粘性土 微量の浅間C軽石粒(φ 1~2mm大)・榛
(10YR3/2) 名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~4mm大)を
含む。粘性弱。
- 4 にぶい黄褐色粘性土 ローム土混じりの土。粘性やや弱。
(10YR6/4)

29号土坑



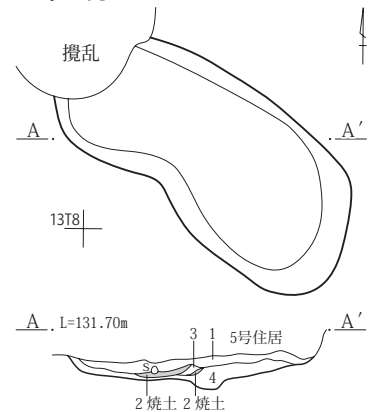
- 1 にぶい黄褐色砂質土(10YR5/3) 微量の浅間C軽石粒・炭化粒子(φ 1~2mm大)、
榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~3mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 微量の浅間C軽石粒(φ 1~5mm大)・榛名二ツ岳白
色軽石小粒(φ 1~2mm大)を含む。
- 3 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の浅間C軽石粒(φ 1~2mm大)・榛名二ツ岳白
色軽石小粒(φ 1~10mm大)・円礫(φ 30~300mm大)を
含む。
- 4 にぶい黄褐色砂質土(10YR6/4) 微量の浅間C軽石粒(φ 1~2mm大)を含む。
- 5 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 少量の円礫(φ 30~100mm大)を含む。
- 6 灰黄色砂質土(2.5Y6/2) にぶい黄褐色シルト質土ブロックを含む。

29号土坑



0 1:3 10cm

31号土坑



- 1 灰黄色砂質土(2.5Y6/2) 微量の浅間C軽石粒・炭化粒子(φ
1~2mm大)、榛名二ツ岳白色軽石
小粒(φ 1~10mm大)を含む。
- 2 黒褐色土(10YR5/2) 炭化物層。
- 3 灰黄褐色砂質土(10YR3/1) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒・
炭化粒子(φ 1~2mm大)を含む。
- 4 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 微量の浅間C軽石粒・榛名二ツ
岳白色軽石小粒(φ 1~2mm大)、
炭化物を含む。

0 1:60 2m

第645図 V区27・29・31号土坑と29号土坑の出土遺物

径は1.05m、短径は1.03m、深さは0.29mで、礫を含む。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

遺物 埋土から土師器の椀(1)が出土した。

時代 平安時代10世紀前半。

35号土坑(第646図、PL.344)

グリッド 13-13区K 5

長軸方位 N27°E

新旧関係 36号住居が新。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は半月形を呈する。

長径は1.33m、短径は1.23m、深さは0.45mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 9世紀第4四半期より旧。

36号土坑(第646図、PL.344)

グリッド 13-13区J 3

長軸方位 N18°E

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は半月形を呈する。長辺は1.25m、短辺は1.14m、深さは0.28mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

37号土坑(第646図、PL.344)

グリッド 13-13区I 3

長軸方位 N42°W

新旧関係 48号住居が旧。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は0.70m、短辺は0.62m、深さは0.20mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀前半より新。

39号土坑(第646図、PL.344)

グリッド 13-13区N 6

長軸方位 N44°E

新旧関係 9・10号住居が新。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は2.75m、短辺は2.64m、深さは0.41mである。

埋土 灰黄褐色砂質土が成層する。

時代 9世紀第2四半期より旧。

40号土坑(第646図、PL.344)

グリッド 13-13区J 1

長軸方位 N35°E

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。

長径は0.93m、短径は0.85m、深さは0.23mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

41号土坑(第646図、PL.344)

グリッド 13-13区J 1

長軸方位 N22°E

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。

長径は1.05m、短径は1.00m、深さは0.17mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

43号土坑(第646図、PL.344)

グリッド 13-13区R 2

長軸方位 N72°W

新旧関係 29号住居が旧。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は皿形を呈する。

長辺は0.96m、短辺は0.78m、深さは0.27mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

遺物 埋土から須恵器の椀(2)が出土した。

時代 平安時代10世紀前半。

44号土坑(第647図、PL.344)

グリッド 13-13区I 1

長軸方位 N76°W

新旧関係 66号住居が旧。

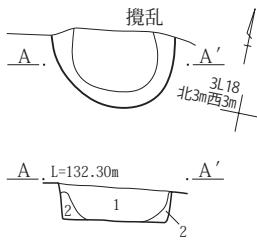
形状と規模 円形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長

径は0.85m、短径は0.80m、深さは0.33mである。

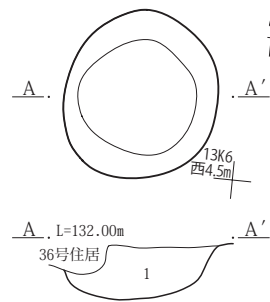
埋土 黒褐色砂質土からなる。

時代 8世紀前半より新。

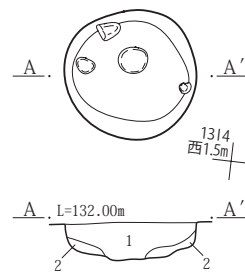
33号土坑



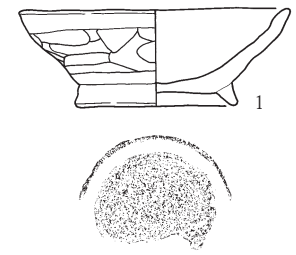
35号土坑



34号土坑



34号土坑



33号土坑

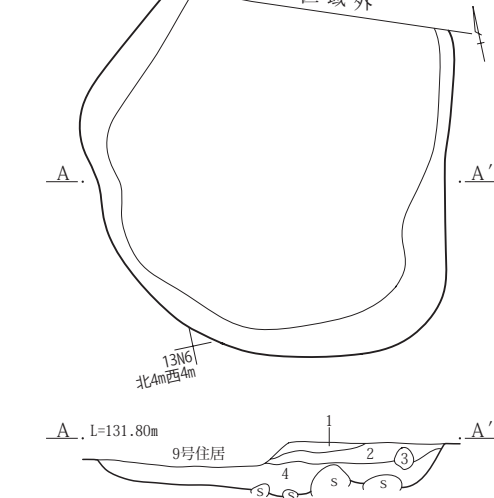
- 1 灰黄褐色砂質土 微量の浅間C軽石粒・榛名ニツ岳白色軽石(φ 1~2mm大)、炭化粒子(φ 1~3mm大)を含む。(10YR4/2)
- 2 暗灰黄色シルト質土 微量の炭化粒子(φ 1~2mm大)を含む。(2.5Y5/2)

- 1 灰黄褐色砂質土 微量の浅間C軽石粒(φ 1~2mm大)・榛名ニツ岳白色軽石(φ 1~30mm大)・炭化粒子(φ 1~4mm大)を含む。(10YR4/2)
- 2 にぶい黄褐色砂質土 微量の炭化物を含む。(10YR5/3)

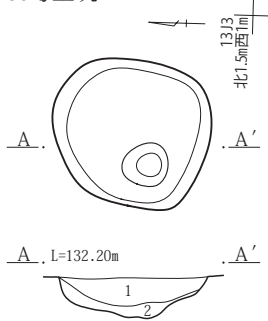
35号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土 微量の浅間C軽石粒(φ 1~2mm大)・榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1~20mm大)、炭化粒子・焼土粒子(φ 1~2mm大)、小円礫(φ 30mm大)を含む。(10YR4/2)

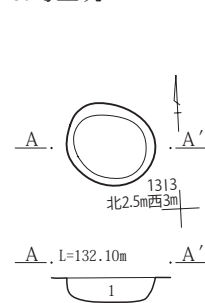
39号土坑



36号土坑



37号土坑



36号土坑

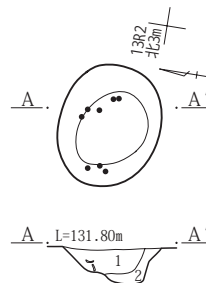
- 1 灰黄褐色砂質土 微量の浅間C軽石粒(φ 1~2mm大)・榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1~10mm大)を含む。(10YR4/2)
- 2 灰黄褐色砂質土 微量の浅間C軽石粒(φ 1~2mm大)・榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1~3mm大)・炭化粒子(φ 1~10mm大)を含む。(10YR4/2)

- 1 にぶい黄褐色砂質土(10YR5/3) にぶい黄褐色シルト質土。
- 2 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 微量の炭化粒子・焼土粒子(φ 1~2mm大)を含む。
- 3 暗灰黄色細砂質土(2.5Y4/2) ブロック状に混入する。
- 4 暗灰黄色細砂質土(2.5Y4/2) 微量の浅間C軽石粒・炭化粒子(φ 1~2mm大)、榛名ニツ岳白色軽石(φ 1~40mm大)を含む。下部は礫層となる。

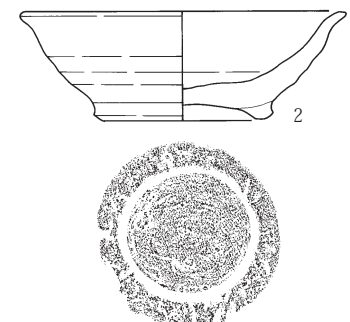
37号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土 微量の浅間C軽石粒・炭化粒子(φ 1~2mm大)、榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1~3mm大)を含む。(10YR4/2)

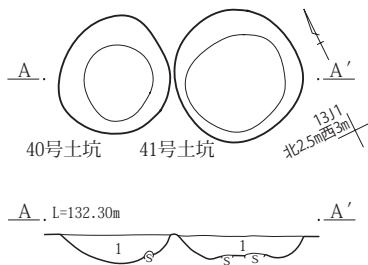
43号土坑



43号土坑

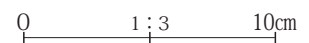
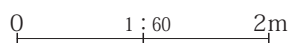


40・41号土坑



- 1 灰黄褐色砂質土 微量の浅間B・C軽石粒(φ 1mm大)・榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1~5mm大)・炭化粒子(φ 1~2mm大)・焼土粒子(φ 1~3mm大)を含む。(10YR4/2)

- 1 灰黄褐色砂質土 微量の焼土粒子(φ 1~3mm大)・炭化粒子(φ 1~2mm大)を含む。粘性やや有。
- 2 灰黄褐色砂質土 微量の浅間C軽石粒・榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1~2mm大)を含む。粘性やや有。(10YR4/2)



第646図 V区33~37・39~41・43号土坑と34・43号土坑の出土遺物

46号土坑(第647図、PL.344・345)

グリッド 13-13区R 7

長軸方位 N89°W

新旧関係 47号土坑が新。

形状と規模 長方形を呈し、断面形状は半月形を呈する。
長辺は1.00m、短辺は0.85m、深さは0.26mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

47号土坑(第647図、PL.345)

グリッド 13-13区R 7

長軸方位 N71°W

新旧関係 46号土坑が旧。

形状と規模 長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。
長辺は1.96m、短辺は1.10m、深さは0.48mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

48号土坑(第647図、PL.345)

グリッド 13-13区R 4

長軸方位 N36°W

新旧関係 11号住居が新。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長
径は0.69m、短径は0.65m、深さは0.35mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀第1四半期より旧。

49号土坑(第647図、PL.345)

グリッド 13-13区R 3

長軸方位 N1°E

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は皿形を呈す
る。長辺は1.45m、短辺は0.82m、深さは0.29mである。

埋土 炭化物を挟む灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

54号土坑(第647図、PL.345)

グリッド 13-13区R 3

長軸方位 N16°E

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は皿形を呈す
る。長辺は1.25m、短辺は0.46m+、深さは0.17mであ
る。

埋土 底に炭化物を含む灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

50号土坑(第647図、PL.345)

グリッド 13-13区R 3

長軸方位 N87°W

新旧関係 87・88号土坑が旧。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。
長辺は1.21m、短辺は1.01m、深さは0.46mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

87号土坑(第647図)

グリッド 13-13区R 3

長軸方位 N9°W

新旧関係 50号土坑が新。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状はU字形を呈
する。長辺は0.68m+、短辺は0.55m+、深さは0.33m
である。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

51号土坑(第647図、PL.345)

グリッド 13-13区R 3

長軸方位 N29°E

新旧関係 28・29号住居と同時。58号土坑、19号ピット
が新。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は半月形を呈する。
長径は2.21m、短径は1.17m、深さは0.34mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 9世紀第4四半期～10世紀中頃。

58号土坑(第647図)

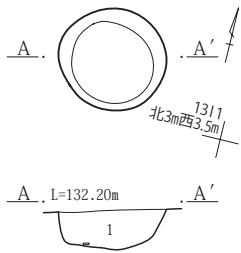
グリッド 13-13区R 3

長軸方位 N75°W

新旧関係 28・29号住居と同時、51号土坑が旧。

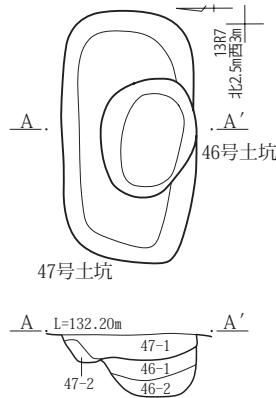
形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈

44号土坑



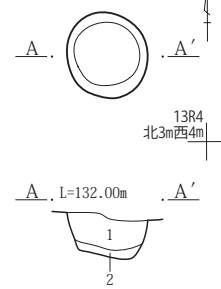
- 1 黒褐色砂質土 少量の浅間B軽石と微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒・炭化粒子(φ 1~3mm大)、焼土粒子(φ 1~2mm大)を含む。

46・47号土坑



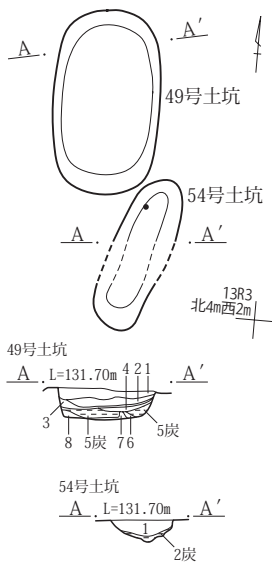
- 47-1 灰黄褐色砂質土 微量の浅間C軽石粒(φ 1~2mm大)・榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~10mm大)・炭化粒子(φ 1~5mm大)を含む。
 47-2 にぶい黄褐色シルト質土 微量の炭化粒子(φ 1~2mm大)とにぶい黄褐色土ブロックを含む。
 46-1 にぶい黄褐色砂質土 微量の浅間C軽石粒(φ 1~2mm大)・榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~5mm大)・炭化粒子(φ 1~20mm大)を含む。
 46-2 にぶい黄褐色砂質土 微量の浅間C軽石粒(φ 1~2mm大)・榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~20mm大)とにぶい黄褐色土ブロックを含む。

48号土坑



- 1 灰黄褐色砂質土 微量の浅間C軽石粒(φ 1~5mm大)・炭化粒子(φ 1~3mm大)を含む。
 2 にぶい黄褐色砂質土 少量のにぶい黄褐色シルト質土を含む。

49・54号土坑



- 49号土坑
 1 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の浅間C軽石粒・焼土粒子(φ 1~2mm大)、炭化粒子(φ 1~5mm大)を含む。
 2 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の浅間C軽石粒・焼土粒子(φ 1~2mm大)、炭化粒子(φ 1~10mm大)を含む。
 3 黒褐色砂質土(10YR3/2) 少量の炭化物を含む。
 4 にぶい黄褐色土(10YR5/3) 少量の炭化粒子(φ 1~2mm大)を含む。
 5 黒褐色土(10YR3/1) 炭化物中心層。
 6 にぶい黄褐色土(10YR5/3) 炭化物・炭化粒子(φ 1~5mm大)を含む。
 7 にぶい黄褐色土(10YR5/3) 微量の浅間C軽石粒(φ 1~2mm大)、榛名二ツ岳白色軽石小粒・炭化粒子(φ 1~3mm大)を含む。
 8 にぶい黄褐色土(10YR5/3) 微量の浅間C軽石粒・焼土粒子(φ 1~3mm大)を含む。

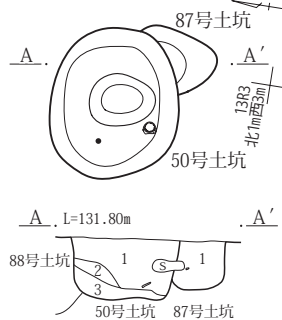
54号土坑

- 1 にぶい黄褐色土(10YR5/3) 微量の焼土粒子・炭化粒子(φ 1~3mm大)を含む。
 2 黒褐色土(10YR3/1) 炭化物中心層。

51号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土 微量の浅間C軽石粒(φ 1~4mm大)・榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~2mm大)・炭化粒子(φ 1~5mm大)を含む。
 2 にぶい黄褐色砂質土 微量の浅間C軽石粒(φ 1~2mm大)・榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~10mm大)を含む。

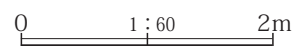
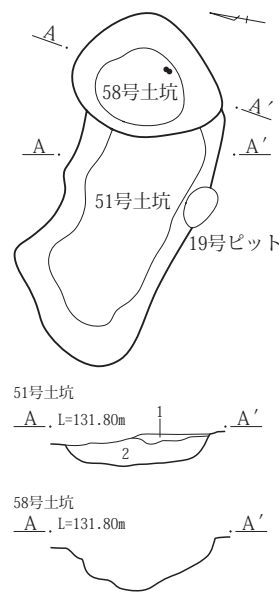
50・87号土坑



50・87号土坑

- 1 にぶい黄褐色砂質土 微量の浅間C軽石粒・焼土粒子(φ 1~5mm大)、榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~15mm大)・炭化粒子(φ 1~3mm大)、円礫(φ 200mm大)1個を含む。
 2 にぶい黄褐色砂質土 微量の炭化粒子・焼土粒子(φ 1~2mm大)を含む。
 3 暗灰黄色細砂質土(2.5Y5/2) 微量の炭化粒子(φ 1~3mm大)を含む。灰黄色シルト質土ブロックを混入する。

51・58号土坑



第647図 V区44・46~51・54・58・87号土坑

する。長辺は1.16m、短辺は0.96m、深さは0.39mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 9世紀第4四半期～10世紀中頃。

52号土坑(第648図、PL.345)

グリッド 13-3区L20

長軸方位 N50°E

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長辺は1.55m、短辺は1.35m、深さは0.56mである。

埋土 灰黄褐色砂質土が成層する。

時代 古墳時代以降である。

55号土坑(第648図、PL.345)

グリッド 13-13区J2

長軸方位 N42°W

新旧関係 56号土坑が新。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は1.25m、短径は1.10m、深さは0.28mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

56号土坑(第648図)

グリッド 13-13区J2

長軸方位 N28°E

新旧関係 55号土坑が旧。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.21m、短辺は0.88m、深さは0.28mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

59号土坑(第648図、PL.345・443)

グリッド 13-13区J3

長軸方位 N46°E

新旧関係 72号住居が旧。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は1.21m、短径は1.09m、深さは0.37mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

遺物 埋土から鉄釘(1)が出土した。

時代 8世紀第4四半期よりも新。

60号土坑(第648図、PL.345)

グリッド 13-13区J3

長軸方位 N63°E

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長径は1.16m、短径は1.13m、深さは0.40mである。

埋土 灰黄褐色砂質土が成層して坑を埋める。

時代 古墳時代以降である。

61号土坑(第648図、PL.345)

グリッド 13-13区K3

長軸方位 N55°W

新旧関係 62号土坑が旧。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.93m、短辺は1.56m、深さは0.23mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

62号土坑(第648図、PL.345)

グリッド 13-13区K3

長軸方位 N27°E

新旧関係 61号土坑が新。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.00m、短辺は0.68m+、深さは0.20mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

63号土坑(第648図、PL.345)

グリッド 13-13区J2

長軸方位 N63°E

新旧関係 なし。

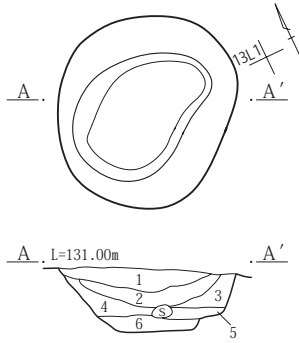
形状と規模 円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。

長径は0.68m、短径は0.64m、深さは0.10mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

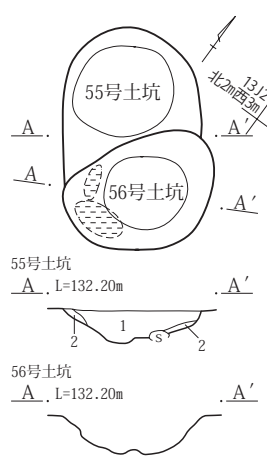
時代 古墳時代以降である。

52号土坑



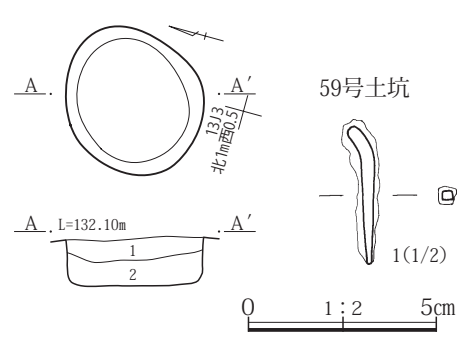
- 1 灰黄褐色砂質土 微量の浅間C軽石粒(φ 1~2mm大)・榛名二ツ岳白色軽石(φ 1~30mm大)・炭化粒子(φ 1~3mm大)を含む。
- 2 にぶい黄褐色砂質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~10mm大)・炭化粒子(φ 1~2mm大)を含む。
- 3 褐灰色砂質土 微量の炭化粒子(φ 1~2mm大)を含む。
- 4 にぶい黄褐色砂質土 微量の浅間C軽石粒・榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~3mm大)を含む。
- 5 黒褐色砂質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~10mm大)・炭化粒子(φ 1~2mm大)を含む。
- 6 にぶい黄褐色砂質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~10mm大)・炭化粒子(φ 1~2mm大)・小円礫(φ 10~20mm大)を含む。

55・56号土坑



- 1 灰黄褐色砂質土 微量の浅間C軽石粒・炭化粒子(φ 1~2mm大)、榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~5mm大)を含む。
- 2 にぶい黄褐色シルト質土 微量の炭化粒子(φ 1mm大)を含む。(10YR5/3)

59号土坑



- 1 灰黄褐色砂質土 微量の浅間C軽石粒・炭化粒子(φ 1~2mm大)・榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~5mm大)を含む。
- 2 にぶい黄褐色シルト質土 微量の炭化粒子(φ 1mm大)を含む。(10YR5/3)

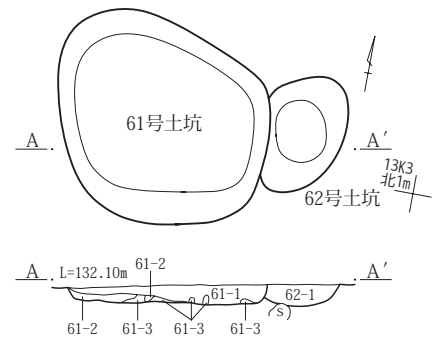
55号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土 微量の浅間C軽石粒(φ 1~2mm大)・榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~5mm大)・炭化粒子(φ 1~3mm大)を含む。
- 2 にぶい黄褐色砂質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石(φ 1~30mm大)・炭化粒子(φ 1~5mm大)を含む。

59号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土 微量の浅間C軽石粒(φ 1~2mm大)・榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~5mm大)・炭化粒子(φ 1~3mm大)を含む。
- 2 にぶい黄褐色砂質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石(φ 1~30mm大)・炭化粒子(φ 1~5mm大)を含む。

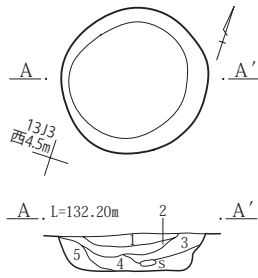
61・62号土坑



- 1 黒褐色土 微量の浅間C軽石粒・焼土粒子(φ 1mm大)、(10YR3/2) 榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~5mm大)・炭化粒子(φ 1~2mm大)を含む。

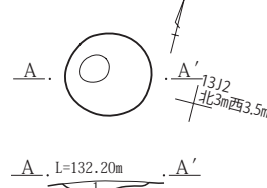
- 61-1 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の炭化粒子(φ 1~2mm大)を含む。
- 61-2 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~2mm大)を含む。
- 61-3 黄褐色砂質土(2.5Y5/3)
- 62-1 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~10mm大)・炭化粒子(φ 1~2mm大)を含む。

60号土坑



- 1 灰黄褐色砂質土(10YR4/2)
- 2 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~2mm大)を含む。
- 3 暗灰黄色砂質土(2.5Y5/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~2mm大)を含む。
- 4 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 微量の炭化粒子(φ 1~3mm大)・円礫(φ 20~150mm大)を含む。
- 5 にぶい黄褐色土(10YR5/3)

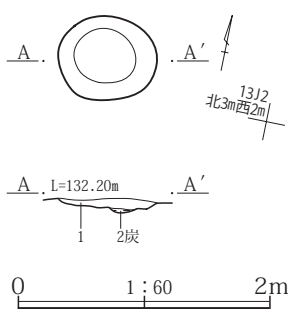
63号土坑



- 1 黒褐色土 微量の浅間C軽石粒・焼土粒子(φ 1mm大)、(10YR3/2) 榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~5mm大)・炭化粒子(φ 1~2mm大)を含む。

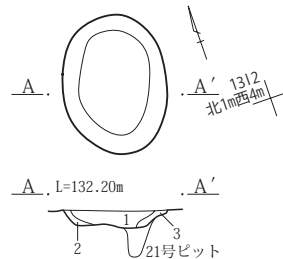
- 61-1 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の炭化粒子(φ 1~2mm大)を含む。
- 61-2 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~2mm大)を含む。
- 61-3 黄褐色砂質土(2.5Y5/3)
- 62-1 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~10mm大)・炭化粒子(φ 1~2mm大)を含む。

64号土坑



- 1 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の浅間C軽石粒・榛名二ツ岳白色軽石小粒・炭化粒子(φ 1~2mm大)を含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/1) 炭化物中心層。

65号土坑



64号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の浅間C軽石粒・榛名二ツ岳白色軽石小粒・炭化粒子(φ 1~2mm大)を含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/1) 炭化物中心層。

65号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~2mm大)・炭化粒子(φ 1~5mm大)を含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/2) 微量の炭化物を含む。
- 3 にぶい黄褐色土(10YR5/3) 微量の黒褐色土を含む。

第648図 V区52・55・56・59~65号土坑

64号土坑(第648図、PL.345)

グリッド 13-13区J 2

長軸方位 N80° E

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。

長径は0.78m、短径は0.65m、深さは0.06mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

65号土坑(第648図、PL.346)

グリッド 13-13区I 2

長軸方位 N11° E

新旧関係 21号ピットが旧。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.10m、短辺は0.81m、深さは0.14mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

66号土坑(第649図、PL.346)

グリッド 13-13区I 1

長軸方位 N85° E

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。

長径は0.94m、短径は0.77m、深さは0.14mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

67号土坑(第649図、PL.346)

グリッド 13-13区I 1

長軸方位 N68° W

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は半月形を呈する。

長径は0.42m、短径は0.38m、深さは0.14mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

68号土坑(第649図、PL.346)

グリッド 13-13区I 1

長軸方位 N6° E

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。

長径は0.73m、短径は0.69m、深さは0.10mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

69号土坑(第649図、PL.346)

グリッド 13-13区H 1

長軸方位 N54° E

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は1.02m、短径は0.91m、深さは0.38mである。

埋土 西から東に傾斜した灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

70号土坑(第649図、PL.346)

グリッド 13-13区N 1

長軸方位 N9° E

新旧関係 6号竪穴が新。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は1.02m、短径は0.94m、深さは0.31mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

71号土坑(第649図、PL.346)

グリッド 13-13区M 1

長軸方位 N9° E

新旧関係 6号竪穴が新。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は皿形を呈する。

長径は1.30m、短径は1.12m、深さは0.27mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

72号土坑(第649図、PL.346)

グリッド 13-3区M19

長軸方位 N53° E

新旧関係 なし。

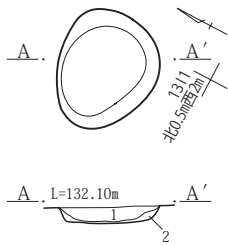
形状と規模 円形を呈し、断面形状は半月形を呈する。

長径は1.26m、短径は1.14m、深さは0.50mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

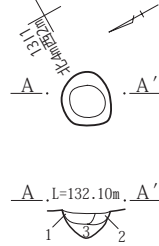
66号土坑



66号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の炭化粒子(φ 1~2mm大)・にぶい黄褐色砂質土を含む。
- 2 暗灰黄色砂質土(2.5Y5/2) 微量の灰黄褐色砂質土を含む。

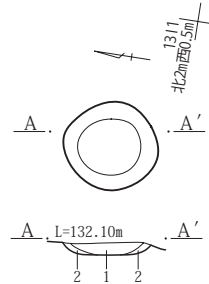
67号土坑



67号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の炭化粒子(φ 1~5mm大)・小円礫(φ 20~50mm大)を含む。
- 2 灰黄色細砂質土(2.5Y6/2) 微量の炭化粒子(φ 1~3mm大)を含む。
- 3 暗灰黄色土(2.5Y4/2) 微量の炭化粒子(φ 1~2mm大)を含む。

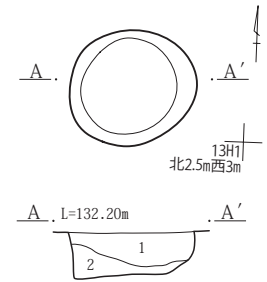
68号土坑



68号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 微量の炭化粒子(φ 1~3mm大)を含む。
- 2 灰黄色細砂質土(2.5Y6/2) 壁の崩落土。

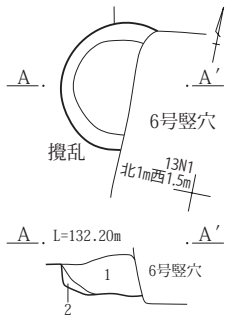
69号土坑



69号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 微量の浅間C軽石粒(φ 1~2mm大)・炭化粒子(φ 1~4mm大)を含む。
- 2 暗灰黄色細砂質土(2.5Y4/2) 微量の炭化粒子(φ 1~2mm大)を含む。

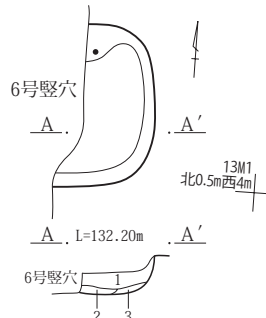
70号土坑



70号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 微量の浅間C軽石粒(φ 1mm大)・榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~3mm大)・炭化粒子(φ 1~5mm大)を含む。
- 2 褐灰色砂質土(10YR4/1) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~2mm大)を含む。

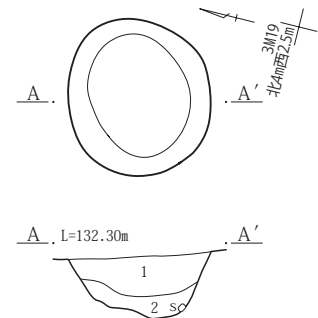
71号土坑



71号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 微量の浅間C軽石粒(φ 1mm大)を含む。
- 2 にぶい黄褐色細砂質土(10YR4/3)
- 3 にぶい黄褐色細砂質土(10YR4/3) 微量の浅間C軽石粒(φ 1mm大)を含む。

72号土坑



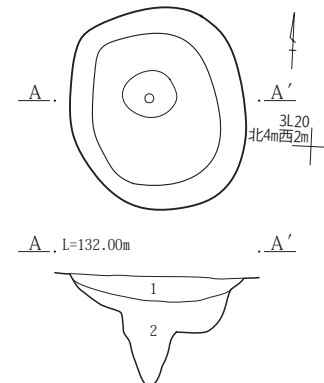
72号土坑

- 1 にぶい黄褐色砂質土 微量の浅間C軽石粒・炭化粒子(φ 1~3mm大)、榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~5mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色砂質土 少量の灰黄色細砂質土と微量の浅間C軽石粒(φ 1~2mm大)・炭化粒子(φ 1~3mm大)・小円礫(φ 50mm大)を含む。

73号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 微量の浅間C軽石粒(φ 1mm大)を含む。
- 2 にぶい黄褐色細砂質土(10YR4/3)
- 3 にぶい黄褐色細砂質土(10YR4/3) 微量の浅間C軽石粒(φ 1mm大)を含む。

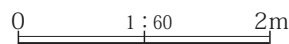
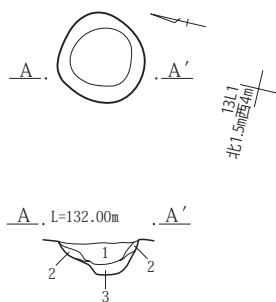
73号土坑



73号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土 微量の炭化粒子(φ 1~2mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色土 微量の浅間C軽石粒・炭化粒子(φ 1~3mm大)、榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~20mm大)を含む。

74号土坑



73号土坑(第649図、PL.346)

グリッド 13-3区L20

長軸方位 N11°W

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状はT字形を呈する。長辺は1.59m、短辺は1.37m、深さは0.46mで、中央に柱痕がある柱穴である。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

74号土坑(第649図、PL.346)

グリッド 13-13区L1

長軸方位 N62°E

新旧関係 71号住居が旧。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は半月形を呈する。長径は0.70m、短径は0.69m、深さは0.19mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀前半よりも新。

75号土坑(第650図、PL.346)

グリッド 13-13区L1

長軸方位 N11°W

新旧関係 113・114号土坑が新。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長辺は2.27m、短辺は0.93m、深さは0.34mである。

埋土 灰黄褐色砂質土が成層する。

時代 古墳時代以降である。

76号土坑(第650図)

グリッド 13-3区J20

長軸方位 N66°E

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.49m、短辺は0.91m、深さは0.13mである。

埋土 浅間Bテフラを含む黒褐色土からなる。

時代 12世紀初頭以降である。

77号土坑(第650図、PL.346)

グリッド 13-13区K1

長軸方位 N82°E

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は0.93m、短径は0.82m、深さは0.23mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

78号土坑(第650図、PL.346)

グリッド 13-13区K1

長軸方位 N4°W

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長径は0.69m、短径は0.58m、深さは0.34mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

79号土坑(第650図、PL.443)

グリッド 13-13区I1

長軸方位 N19°E

新旧関係 67号住居が旧。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長辺は1.01m、短辺は0.78m、深さは0.37mである。

埋土 暗灰色砂質土からなる。

遺物 埋土から鉄製品(1)が出土した。

時代 9世紀第2四半期より新。

80号土坑(第650図、PL.346)

グリッド 13-13区K4

長軸方位 N79°W

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長辺は1.58m、短辺は0.90m、深さは0.27mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

81号土坑(第650図、PL.346)

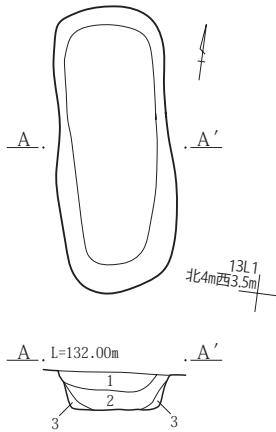
グリッド 13-13区K3

長軸方位 N31°W

新旧関係 なし。

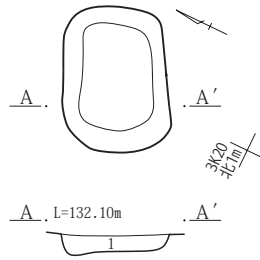
形状と規模 円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。

75号土坑



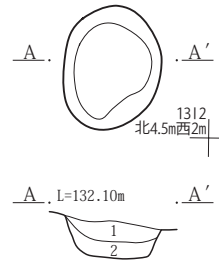
- 1 にぶい黄褐色砂質土(10YR5/3) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~10mm大)・炭化粒子(φ 1~3mm大)・FPシルト質土を含む。
- 2 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の浅間C軽石粒(φ 1~2mm大)・榛名二ツ岳白色軽石(φ 1~40mm大)・炭化粒子(φ 1~4mm大)を含む。
- 3 暗灰黄色細砂質土(2.5Y4/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~4mm大)を含む。地山が崩れた土。

76号土坑



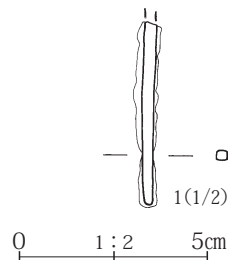
- 1 黒褐色土(10YR3/1) 少量の浅間B軽石を含む。

79号土坑

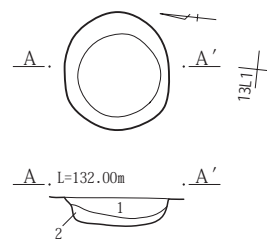


- 1 暗灰黄色細砂質土(2.5Y4/2) 微量の炭化物を含む。
- 2 暗灰黄色細砂質土(2.5Y4/2) 微量の小円礫(φ 20~50mm大)・炭化粒子(φ 1~2mm大)を含む。

79号土坑



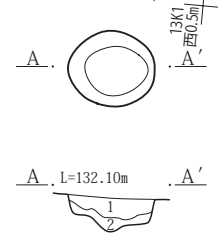
77号土坑



77号土坑

- 1 にぶい黄褐色砂質土(10YR5/3) 微量の浅間C軽石粒(φ 1mm大)・炭化粒子(φ 1~2mm大)を含む。
- 2 黄褐色砂質土(2.5Y5/3) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~5mm大)を含む。

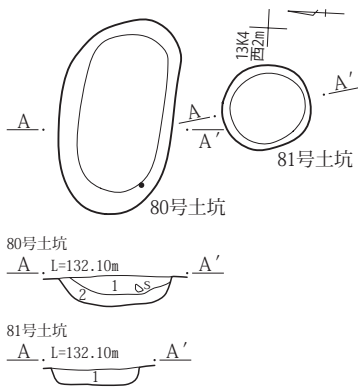
78号土坑



78号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 微量の浅間C軽石粒・炭化粒子(φ 1~2mm大)、榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 2~4mm大)・小円礫(φ 10~50mm大)を含む。
- 2 灰黄橙色土(10YR5/2) 微量の小円礫(φ 3~50mm大)・炭化粒子(φ 1~2mm大)を含む。

80・81号土坑



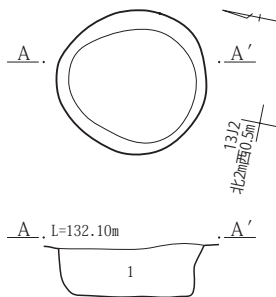
80号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の浅間C軽石粒・炭化粒子(φ 1~2mm大)、榛名二ツ岳白色軽石大粒(φ 1~100mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の浅間C軽石粒・炭化粒子(φ 1mm大)、榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~2mm大)を含む。

81号土坑

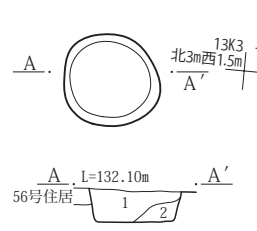
- 1 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石大粒(φ 1~50mm大)・炭化粒子(φ 1mm大)を含む。

84号土坑



- 1 にぶい黄褐色砂質土(10YR5/3) 微量の炭化粒子(φ 1~5mm大)・小円礫(φ 20~50mm大)を含む。

82号土坑

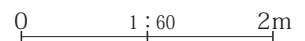


82号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の浅間C軽石粒(φ 1~2mm大)・榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~10mm大)を含む。
- 2 にぶい黄褐色砂質土(10YR5/3) にぶい黄橙色土ブロックを含む。

83号土坑

- 1 にぶい黄褐色砂質土(10YR5/3) 微量の浅間C軽石粒(φ 1~2mm大)・榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~20mm大)・炭化粒子(φ 1~4mm大)を含む。



第650図 V区75~84号土坑と79号土坑の出土遺物

長径は0.70m、短径は0.67m、深さは0.14mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

82号土坑(第650図、PL.347)

グリッド 13-13区K 3

長軸方位 N66°W

新旧関係 56号住居が旧。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は0.80m、短径は0.72m、深さは0.27mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 9世紀後半よりも新。

83号土坑(第650図)

グリッド 13-13区J 2

長軸方位 N83°W

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長辺は1.35m、短辺は0.93m、深さは0.19mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

84号土坑(第650図、PL.347)

グリッド 13-13区I 2

長軸方位 N1°W

新旧関係 72号住居が旧。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は1.18m、短径は1.13m、深さは0.40mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 8世紀第4四半期よりも新。

85号土坑(第651図)

グリッド 13-3区M19

長軸方位 N9°E

新旧関係 なし。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は半月形を呈する。長径は0.77m+、短径は0.73m、深さは0.46mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

86号土坑(第651図、PL.347)

グリッド 13-3区N19

長軸方位 N79°E

新旧関係 6号溝が新。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は底面が凹凸する浅い皿形を呈する。長径は1.66m+、短径は0.93m+、深さは0.25mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

88号土坑(第651図、PL.347)

グリッド 13-13区R 3

長軸方位 N77°W

新旧関係 50号土坑が新。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状はU字形を呈する。長辺は0.77m、短辺は0.55m、深さは0.66mで柱穴の形状を呈する。

埋土 灰黄橙色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

89号土坑(第651図)

グリッド 13-13区R 1

長軸方位 N25°E

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長辺は0.92m、短辺は0.68m、深さは0.25mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

94号土坑(第651図、PL.347・443)

グリッド 13-13区H 2

長軸方位 N14°W

新旧関係 なし。

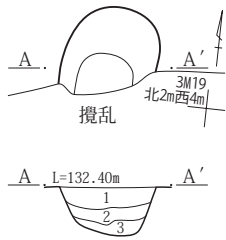
形状と規模 円形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は1.22m、短径は1.03m、深さは0.31mである。

埋土 灰黄褐色砂質土が成層する。

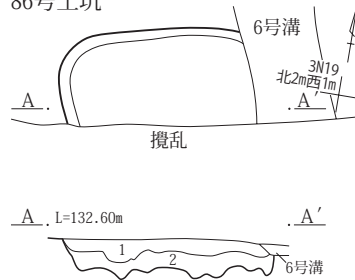
遺物 埋土から轡の引手の可能性がある鉄製品(1)が出土した。

時代 古墳時代以降である。

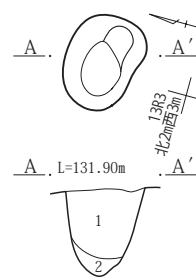
85号土坑



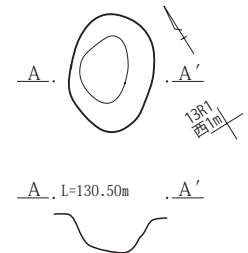
86号土坑



88号土坑



89号土坑



85号土坑

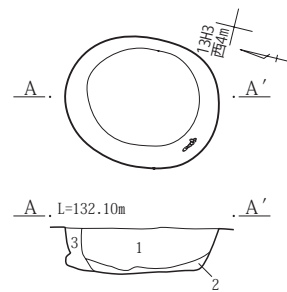
- 1 灰黄褐色砂質土 微量の浅間C軽石粒(φ1~2mm大)・榛名二ツ岳白(10YR5/2)色軽石小粒(φ1~3mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色砂質土 微量の浅間C軽石粒(φ1mm大)・榛名二ツ岳白色軽(10YR4/2)石小粒(φ1~10mm大)を含む。
- 3 にぶい黄褐色砂質土 少量のにぶい黄褐色細砂質土。微量の浅間C軽(10YR5/3)石粒(φ1mm大)・榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ1~2mm大)を含む。

- 1 にぶい黄橙色砂質土 微量の浅間C軽石粒(φ1~2mm大)・榛名二ツ(10YR6/4)岳白色軽石小粒(φ1~5mm大)を含む。
- 2 にぶい黄褐色砂質土 微量の浅間C軽石粒(φ1mm大)・榛名二ツ岳白(10YR5/3)色軽石小粒(φ1~2mm大)を含む。

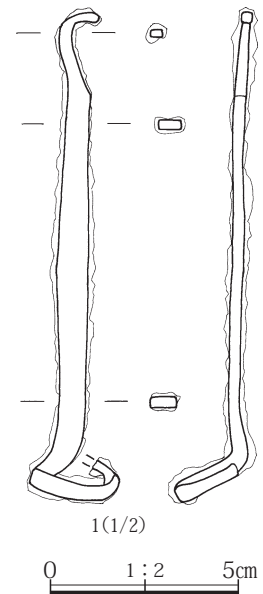
86号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土 少量の浅間B軽石と微量の浅間C軽石粒(φ1~2mm(10YR4/2)大)・榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ1~3mm大)を含む。
- 2 にぶい黄褐色砂質土 少量のにぶい黄橙色土ブロックと微量の浅間C(10YR5/3)軽石粒(φ1~3mm大)・榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ1~10mm大)を含む。

94号土坑

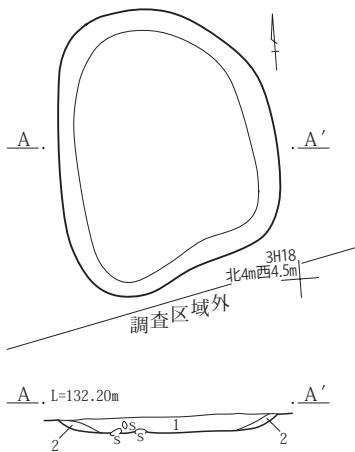


94号土坑



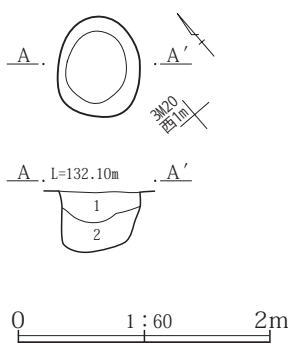
- 1 黒褐色砂質土 少量の浅間B軽石と微量の榛名二ツ岳(10YR3/2)白色軽石小粒(φ1~10mm大)・炭化粒子(φ1~3mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色砂質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒・炭(10YR4/2)化粒子(φ1~2mm大)を含む。
- 3 褐灰色砂質土 微量の小円礫(φ1~50mm大)を含む。(10YR4/1)

96号土坑

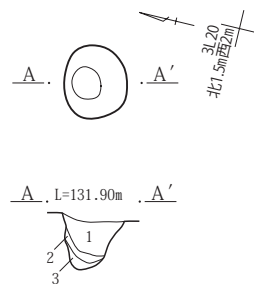


- 1 灰黄褐色砂質土 微量の浅間C軽石粒(φ1mm大)・榛名二ツ岳白色軽(10YR4/2)石小粒(φ1~2mm大)・炭化粒子(φ1~5mm大)を含む。
- 2 にぶい黄褐色細砂質土 微量の浅間C軽石粒・榛名二ツ岳白色軽石小(10YR5/3)粒(φ1mm大)を含む。

98号土坑



99号土坑



98号土坑

- 1 にぶい黄褐色砂質土 微量の浅間C軽石粒・炭化粒子(φ1~2mm大)(10YR5/3)を含む。
- 2 灰黄褐色砂質土 微量の浅間C軽石粒(φ1~2mm大)を含む。(10YR4/2)

99号土坑

- 1 にぶい黄褐色砂質土 微量の浅間C軽石粒・炭化粒子(φ1~2mm大)、(10YR5/3)榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ1~3mm大)を含む。
- 2 にぶい黄褐色砂質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒・炭化粒子(φ(10YR5/3)1~2mm大)を含む。
- 3 灰黄色細砂質土 微量の浅間C軽石粒(φ1~2mm大)を含む。(2.5Y6/2)

第651図 V区85・86・88・89・94・96・98・99号土坑と94号土坑の出土遺物

96号土坑(第651図、PL.347)

グリッド 13-3区H18

長軸方位 N20°W

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は2.10m、短辺は1.74m、深さは0.17mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

98号土坑(第651図、PL.347)

グリッド 13-3区M20

長軸方位 N37°E

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長辺は0.79m、短辺は0.66m、深さは0.31mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

99号土坑(第651図、PL.347)

グリッド 13-3区L20

長軸方位 N55°E

新旧関係 8号溝が旧。

形状と規模 円形を呈し、断面形状はU字形を呈する。長径は0.56m、短径は0.52m、深さは0.46mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

100号土坑(第652図、PL.347)

グリッド 13-13区L1

長軸方位 N10°W

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長辺は1.29m、短辺は1.23m、深さは0.68mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

101号土坑(第652図、PL.347)

グリッド 13-13区I3

長軸方位 N48°W

新旧関係 48号住居が新。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は1.10m、短径は1.00m、深さは0.34mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀前半より旧。

102号土坑(第652図、PL.347)

グリッド 13-3区H18

長軸方位 N62°E

新旧関係 なし。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長径は1.43m+、短径は1.12m+、深さは0.40mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

103号土坑(第652図、PL.347)

グリッド 13-13区S6

長軸方位 N70°E

新旧関係 なし。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は半月形を呈する。長径は0.84m+、短径は0.71m、深さは0.46mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

104号土坑(第652図、PL.443)

グリッド 13-13区S5

長軸方位 N11°W

新旧関係 24・27号住居が新。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.52m、短辺は1.04m、深さは0.34mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

遺物 埋土から須恵器の杯(1)、砥石(2)が出土した。

時代 10世紀前半。

106号土坑(第652図)

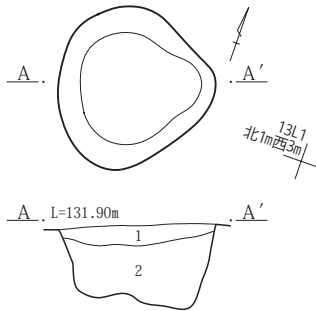
グリッド 13-13区P3

長軸方位 N66°W

新旧関係 34号住居が新。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈す

100号土坑



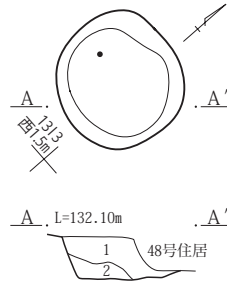
100号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土 微量の浅間C軽石粒・炭化粒子(φ 1~2mm大)、榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1~20mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色砂質土 微量の浅間C軽石粒(φ 1~3mm大)・榛名ニツ岳白色軽石(φ 1~30mm大)とにぶい黄橙色砂質土ブロックを含む。

101号土坑

- 1 にぶい黄褐色土 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒・炭化粒子(φ 1~3mm大)、焼土粒子(φ 1~2mm大)を含む。
- 2 にぶい黄褐色土 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1~5mm大)を含む。

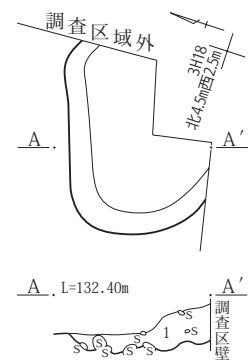
101号土坑



101号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土 微量の炭化粒子(φ 1~3mm大)と少量の円礫(φ 10~300mm大)を含む。特に下層に多い。

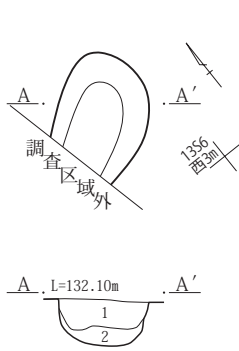
102号土坑



102号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土 微量の炭化粒子(φ 1~3mm大)と少量の円礫(φ 10~300mm大)を含む。特に下層に多い。

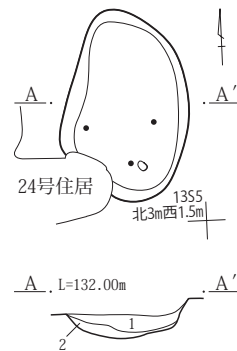
103号土坑



103号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土 微量の浅間C軽石粒(φ 1~2mm大)、榛名ニツ岳白色軽石小粒・炭化粒子(φ 1~10mm大)、焼土粒子(φ 2mm大)とにぶい黄橙色シルト質土ブロックを含む。
- 2 にぶい黄褐色砂質土 微量の浅間C軽石粒(φ 1mm大)・榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 2mm大)・炭化粒子(φ 1~5mm大)と明黄褐色シルト質土ブロックを含む。

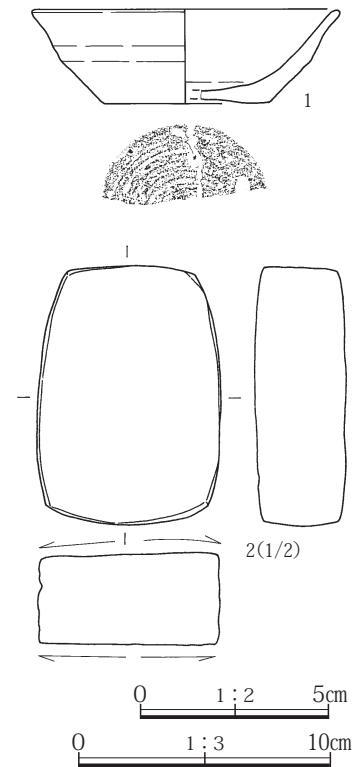
104号土坑



104号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土 微量の炭化粒子(φ 1~10mm大)とにぶい黄橙色シルト質土ブロックを含む。
- 2 にぶい黄褐色砂質土 微量の浅間C軽石粒(φ 1~2mm大)・炭化粒子(φ 1~10mm大)とにぶい黄橙色土ブロックを含む。

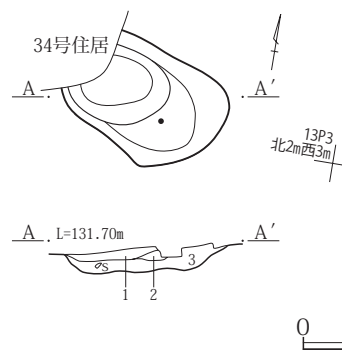
104号土坑



104号土坑

- 1 にぶい黄褐色砂質土 微量の炭化粒子(φ 1~10mm大)とにぶい黄橙色シルト質土ブロックを含む。
- 2 にぶい黄褐色砂質土 微量の浅間C軽石粒(φ 1~2mm大)・炭化粒子(φ 1~10mm大)とにぶい黄橙色土ブロックを含む。

106号土坑



106号土坑



- 1 灰黄褐色砂質土 微量の浅間C軽石粒(φ 1~3mm大)と榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1~2mm大)を含む。
- 2 にぶい黄褐色砂質土 微量の浅間C軽石粒(φ 1~3mm大)を含む。
- 3 灰黄褐色砂質土 微量の浅間C軽石粒(φ 1~3mm大)・炭化粒子(φ 1~2mm大)を含む。

第652図 V区100~104・106号土坑と104号土坑の出土遺物

る。長径は1.18m+、短径は0.89m、深さは0.64mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀第3四半期より新。

107号土坑(第653図、PL.347)

グリッド 13-13区K 1

長軸方位 N52°E

新旧関係 63号住居が新。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長辺は1.55m、短辺は1.40m、深さは0.78mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀第3四半期より旧。

109号土坑(第653図、PL.347)

グリッド 13-13区N 2

長軸方位 N69°E

新旧関係 8号溝が新。110号土坑が旧。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.37m、短辺は1.07m、深さは0.17mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。鉄滓を含む。

時代 古墳時代以降である。

110号土坑(第653図、PL.347)

グリッド 13-13区N 2

長軸方位 N15°E

新旧関係 109号土坑が新。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長辺は0.95m、短辺は0.84m、深さは0.29mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなり、多量の鉄滓を含む。

時代 古墳時代以降である。

111号土坑(第653図)

グリッド 13-13区L 1

長軸方位 N40°E

新旧関係 71号住居が新。114号土坑が旧。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長辺は0.85m、短辺は0.79m、深さは0.67mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀第3四半期より旧。

113号土坑(第653図)

グリッド 13-13区L 1

長軸方位 N3°E

新旧関係 114号土坑が旧。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状はU字形を呈する。長辺は0.55m、短辺は0.40m、深さは0.54mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

114号土坑(第653図)

グリッド 13-13区L 1

長軸方位 N15°W

新旧関係 111・113号土坑が新。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長径は0.73m+、短径は0.67m、深さは0.56mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

112号土坑(第653図)

グリッド 13-13区J 5

長軸方位 N25°W

新旧関係 なし。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は不明である。長径は0.96m、短径は0.64m+、深さは0.34mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

115号土坑(第653図)

グリッド 13-13区I 4

長軸方位 N23°W

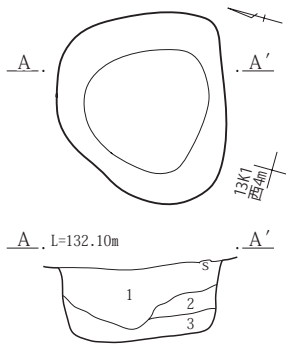
新旧関係 49号住居が新。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長辺は2.20m、短辺は0.95m、深さは0.44mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 9世紀後半より旧。

107号土坑



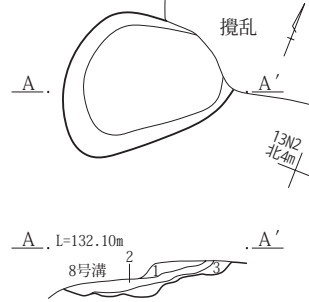
107号土坑

- 1 にぶい黄褐色土(10YR5/3) にぶい黄褐色土ブロック、微量の浅間C軽石粒(φ 1~2mm大)・榛名ツ岳白色軽石小粒(φ 1~20mm大)、焼土粒・炭化粒(φ 1mm大)、小円礫(φ 10~50mm)を含む。
- 2 灰黄褐色土(10YR6/2) 1層土よりやや黒めの層。内容物は1層土と同じ。
- 3 暗灰黄色細砂質土(2.5Y5/2) 灰黄褐色砂質土ブロックを含む。

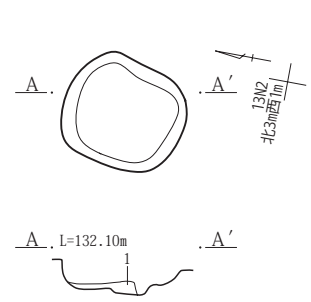
109号土坑

- 1 灰黄褐色土(10YR4/2) 微量の榛名ツ岳白色軽石小粒(φ 1~3mm大)・鉄滓を含む。
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2) 微量の鉄滓を含む。
- 3 灰黄褐色土(10YR4/2) 微量の榛名ツ岳白色軽石小粒(φ 1~10mm大)を含む。

109号土坑

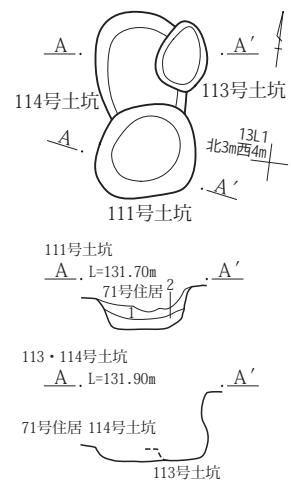


110号土坑



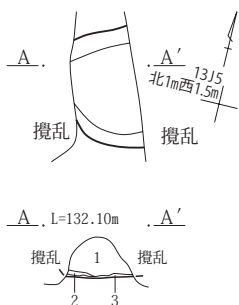
- 1 灰黄褐色土 直下に榛名ツ岳白色軽石(10YR4/2) 層有り。大量の鉄滓出土。

111・113・114号土坑

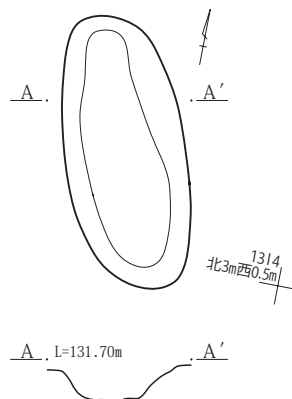


- 1 にぶい黄褐色土 微量の榛名ツ岳白色軽石小粒(10YR5/3) (φ 1~3mm大)を含む。
- 2 にぶい黄褐色土 微量の榛名ツ岳白色軽石小粒(10YR5/3) (φ 1~5mm大)を含む。

112号土坑

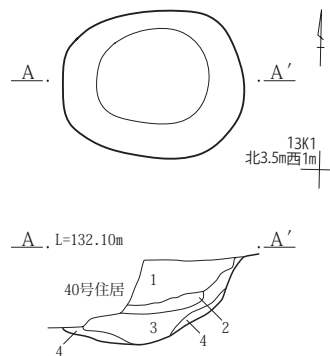


115号土坑

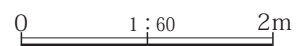


- 1 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の榛名ツ岳白色軽石小粒(φ 1~20mm大)・炭化粒子(φ 1~3mm大)を含む。
- 2 にぶい黄褐色砂質土(10YR5/4) 微量の榛名ツ岳白色軽石小粒(φ 1~3mm大)を含む。
- 3 褐灰色砂質土(10YR4/1) 少量の炭化物を含む。

116号土坑



- 1 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 榛名ツ岳白色軽石小粒(φ 1~5mm大)・焼土粒子(φ 1~2mm大)を含む。
- 2 にぶい黄褐色砂質土(10YR5/3) 炭化物・小円礫(φ 10~50mm大)を含む。
- 3 黒褐色砂質土(10YR3/2) 榛名ツ岳白色軽石小粒(φ 1~5mm大)を含む。
- 4 暗灰黄色細砂質土(2.5Y5/2) 円礫(φ 50~100mm大)を含む。



第653図 V区107・109~116号土坑

116号土坑(第653図)

グリッド 13-13区K 1

長軸方位 N84°W

新旧関係 40号住居が新。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は半月形を呈する。長辺は1.43m、短辺は1.15m、深さは0.69mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 11世紀前半より旧。

3. VI区

1号土坑(第654図、PL.348)

グリッド 13-3区P 15

長軸方位 N61°W

新旧関係 10号住居、6号ピットが旧。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長径は1.20m、短径は0.92m、深さは0.35mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 9世紀より新。

2号土坑(第654図、PL.348)

グリッド 13-3区N15

長軸方位 N58°E

新旧関係 3号土坑が旧。

形状と規模 長方形を呈し、断面形状はT字形を呈する。長辺は0.72m、短辺は0.46m、深さは0.40mで、柱痕が残る柱穴である。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

3号土坑(第654図、PL.348)

グリッド 13-3区N15

長軸方位 N63°E

新旧関係 2号土坑が新。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は0.95m、短辺は0.82m、深さは0.16mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

4号土坑(第654図、PL.348)

グリッド 13-3区N14

長軸方位 N1°W

新旧関係 11号溝が旧。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は半月形を呈する。長辺は0.82m、短辺は0.72m、深さは0.34mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

5号土坑(第654図)

グリッド 13-3区M14

長軸方位 N58°E

新旧関係 1号溝が旧。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.17m、短辺は1.00m+、深さは0.27mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

6号土坑(第654図、PL.348)

グリッド 13-3区M15

長軸方位 N13°W

新旧関係 11号ピットが新。

形状と規模 長方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長辺は0.89m、短辺は0.47m、深さは0.53mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

7号土坑(第654図、PL.348)

グリッド 13-3区J 15

長軸方位 N41°W

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は0.85m、短辺は0.78m、深さは0.16mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

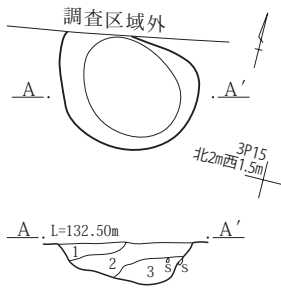
時代 古墳時代以降である。

8号土坑(第654図、PL.348)

グリッド 13-3区P 14

長軸方位 N4°W

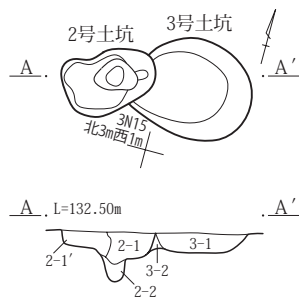
1号土坑



1号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土 少量の榛名二ツ岳白色軽石と多量のにぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ 5~20mm大)を含む。(10YR5/2)
- 2 灰黄褐色砂質土 少量の榛名二ツ岳白色軽石小粒・にぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ 5~20mm大)を含む。(10YR4/2)
- 3 黒褐色砂質土 少量の榛名二ツ岳白色軽石小粒・にぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ 5~20mm大)を含む。(10YR3/2)

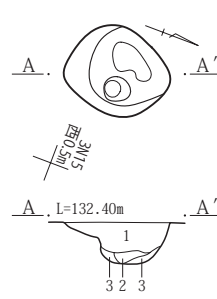
2・3号土坑



2・3号土坑

- 2-1 灰黄褐色砂質土 少量の榛名二ツ岳白色軽石・にぶい黄褐色砂質土シルトブロック(φ 5~30mm大)を含む。(10YR4/2)
- 2-1' 灰黄褐色砂質土 2-1層土に類似。色調やや明るい。(10YR4/2)
- 2-2 にぶい黄褐色砂質土 多量のにぶい黄褐色砂質土シルト粒子を含む。(10YR5/3)
- 3-1 黒褐色砂質土 多量の榛名二ツ岳白色軽石と少量のにぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ 5~10mm大)と微量の炭化物を含む。(10YR3/2)
- 3-2 灰黄褐色砂質土 少量の榛名二ツ岳白色軽石・にぶい黄褐色砂質土シルトブロック(φ 5~30mm大)を含む。(10YR4/2)

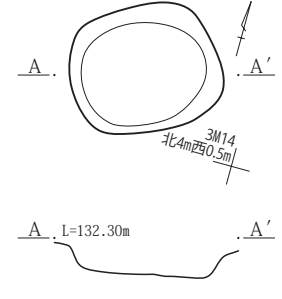
4号土坑



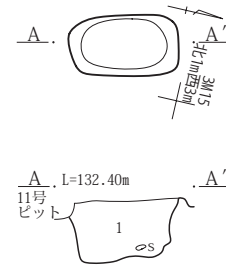
4号土坑

- 1 暗褐色砂質土(10YR3/3) 多量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) 微量のにぶい黄褐色砂質土シルト粒子を含む。粘性やや有。
- 3 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 多量のにぶい黄褐色砂質土シルトブロック(φ 10~30mm大)を含む。

5号土坑



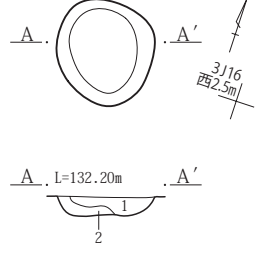
6号土坑



6号土坑

- 1 褐灰色土 少量の榛名二ツ岳白色軽石と褐灰色土(30~50mm程)を含む。(10YR5/1) 灰黄褐色砂質土の互層堆積土。ムロ跡か。

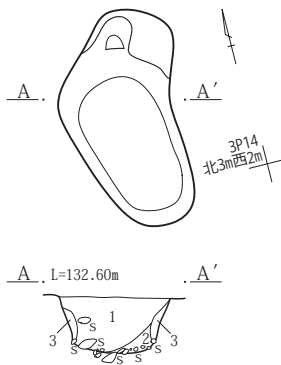
7号土坑



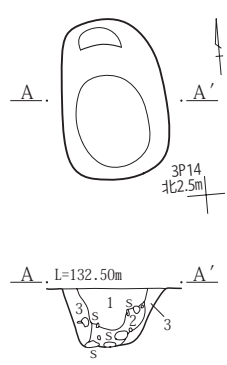
7号土坑

- 1 暗褐色砂質土 多量の榛名二ツ岳白色軽石とにぶい黄褐色砂質土シルト粒子を含む。(10YR3/3)
- 2 暗褐色砂質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石と多量のにぶい黄褐色砂質土シルトブロック(φ 10~30mm大)を含む。(10YR3/3)

8号土坑



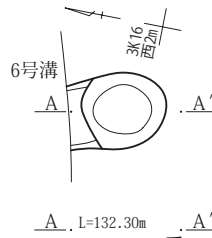
9号土坑



8・9号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土 少量の榛名二ツ岳白色軽石小粒・にぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ 10~20mm大)を含む。(10YR4/2)
- 2 灰黄褐色砂質土 1層土に類似。色調やや明るい。(10YR5/2)
- 3 灰黄褐色砂質土 少量の榛名二ツ岳白色軽石と多量のにぶい黄褐色砂質土シルト大ブロック(φ 10~50mm大)を含む。(10YR5/2)

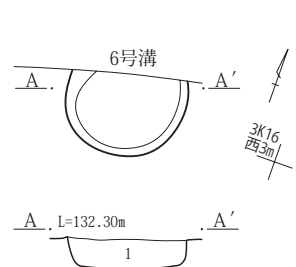
10号土坑



10号土坑

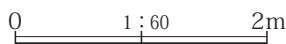
- 1 にぶい黄褐色砂質土 多量の炭化物と少量のにぶい黄褐色砂質土シルトブロック(φ 10~30mm大)を含む。(10YR5/3)

11号土坑



11号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石とにぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ 5~10mm大)を含む。(10YR5/2)



第654図 VI区 1~11号土坑

新旧関係 1号溝が旧。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は箱形を呈する。
長径は1.74m、短径は0.90m、深さは0.56mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

9号土坑(第654図、PL.348)

グリッド 13-3区P14

長軸方位 N4°W

新旧関係 1号溝が旧。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。
長辺は1.26m、短辺は0.83m、深さは0.47mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

10号土坑(第654図、PL.348)

グリッド 13-3区K15

長軸方位 N24°W

新旧関係 6号溝が新。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。
長径は0.67m、短径は0.58m、深さは0.17mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

11号土坑(第654図)

グリッド 13-3区K15

長軸方位 N35°W

新旧関係 6号溝が新。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は浅い箱形を呈する。
長径は1.00m+、短径は0.97m、深さは0.25mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

13号土坑(第655図、PL.348)

グリッド 13-3区M13

長軸方位 N12°E

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。
長辺は2.06m、短辺は1.42m、深さは0.37mで

ある。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

14号土坑(第655図、PL.348)

グリッド 13-3区M13

長軸方位 N82°E

新旧関係 なし。

形状と規模 長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。
長辺は1.03m、短辺は0.84m、深さは0.29mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

15号土坑(第655図、PL.348)

グリッド 13-3区M13

長軸方位 N43°E

新旧関係 なし。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状はうねった箱形を呈する。
長径は2.60m、短径は2.04m、深さは0.54mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

16号土坑(第655図、PL.348・443)

グリッド 13-3区L12

長軸方位 N82°E

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。
長辺は2.48m、短辺は1.53m、深さは0.70mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

遺物 埋土から古瀬戸陶器(1)が出土した。

時代 中世。

17号土坑(第655図、PL.348)

グリッド 13-3区L12

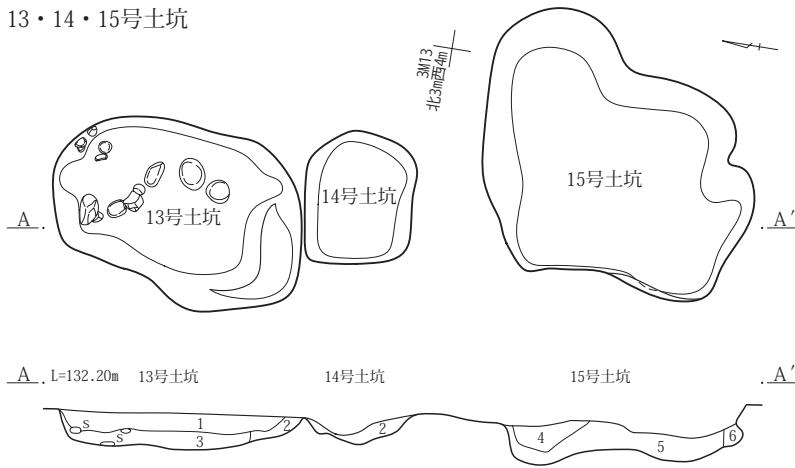
長軸方位 N14°W

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は半月形を呈する。
長辺は0.96m、短辺は0.70m、深さは0.46mである。

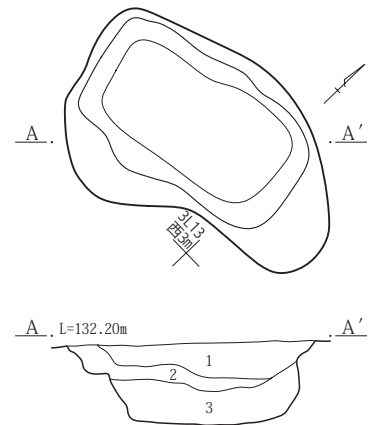
埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

13・14・15号土坑



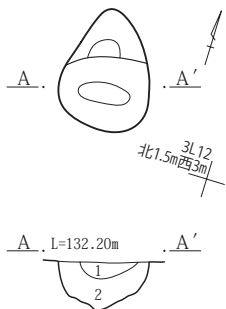
- 1 灰黄褐色砂質土 (10YR5/2) 少量の榛名ニツ岳白色軽石と微量のにぶい黄橙色砂質土シルト小ブロック(φ 5~15mm程)を含む。
- 2 灰黄褐色砂質土 (10YR5/2) 少量の榛名ニツ岳白色軽石・にぶい黄橙色砂質土シルト大ブロック(φ 30~50mm大)を含む。
- 3 灰黄褐色砂質土 (10YR4/2) 微量の榛名ニツ岳白色軽石と多量のにぶい黄橙色砂質土シルト大ブロック(φ 30~50mm大)を含む。
- 4 灰黄褐色砂質土 (10YR4/2) 少量の榛名ニツ岳白色軽石・にぶい黄橙色砂質土シルト大ブロック(φ 30~50mm大)を含む。
- 5 灰黄褐色砂質土 (10YR4/2) 微量の榛名ニツ岳白色軽石と少量のにぶい黄橙色砂質土シルト小ブロック(φ 10~20mm大)を含む。
- 6 灰黄褐色砂質土 (10YR4/2) 微量の榛名ニツ岳白色軽石・にぶい黄橙色砂質土シルト小ブロック(φ 5~15mm大)を含む。

16号土坑



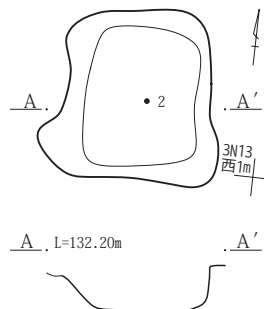
- 1 灰黄褐色砂質土 (10YR5/2) 少量の榛名ニツ岳白色軽石小粒・にぶい黄橙色砂質土シルト小ブロック(φ 5~15mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色砂質土 (10YR5/2) 少量の榛名ニツ岳白色軽石と多量のにぶい黄橙色砂質土シルト大ブロック(φ 10~50mm大)を含む。
- 3 灰黄褐色砂質土 (10YR4/2) 少量の榛名ニツ岳白色軽石・にぶい黄橙色砂質土シルト大ブロック(φ 10~50mm大)を含む。

17号土坑

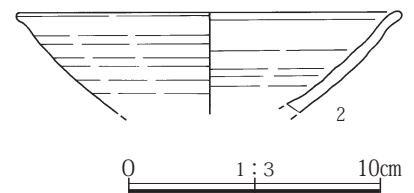


- 1 灰黄褐色砂質土 (10YR5/2) 微量の榛名ニツ岳白色軽石と少量のにぶい黄橙色砂質土シルト粒子を含む。
- 2 灰黄褐色砂質土 (10YR6/2) 微量の榛名ニツ岳白色軽石と多量のにぶい黄橙色砂質土シルト粒子を含む。

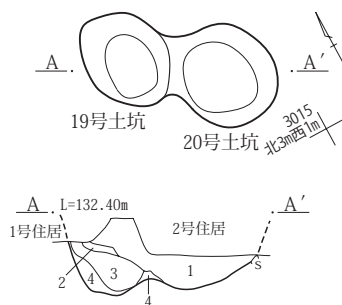
18号土坑



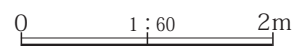
18号土坑



19・20号土坑



- 1 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 少量の榛名ニツ岳白色軽石を含む。
- 2 黒褐色砂質土 少量の榛名ニツ岳白色軽石を含む。
- 3 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 微量の榛名ニツ岳白色軽石とにぶい黄橙色砂質土シルト小ブロック(φ 5~10mm大)を含む。
- 4 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 多量のにぶい黄橙色砂質土シルトブロック(φ 10~30mm大)を含む。締りなし。



第655図 VI区13~20号土坑と16・18号土坑の出土遺物

時代 古墳時代以降である。

18号土坑(第655図、PL.349)

グリッド 13-3区N12

長軸方位 N45°W

新旧関係 2・3号溝が旧。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。

長辺は1.62m、短辺は1.61m、深さは0.47mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

遺物 底直上から須恵器の椀(2)が出土した。

時代 平安時代9世紀後半。

19号土坑(第655図、PL.349)

グリッド 13-3区O15

長軸方位 N20°W

新旧関係 1号住居、20号土坑が新。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は半月形を呈する。長辺は0.85m、短辺は0.65m、深さは0.62mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀前半より旧。

20号土坑(第655図、PL.349)

グリッド 13-3区O15

長軸方位 N48°W

新旧関係 1・2号住居が新。19号土坑が旧。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は0.88m、短径は0.79m、深さは0.54mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀前半より新。

21号土坑(第656図、PL.349)

グリッド 13-3区N12

長軸方位 N84°E

新旧関係 13号溝が旧。

形状と規模 隅丸長方形の短冊形状を呈し、断面形状は箱形を呈する。長辺は2.80m、短辺は0.67m、深さは0.44mである。

埋土 灰黄褐色砂質土が成層する。

時代 古墳時代以降である。

25号土坑(第656図、PL.349・443)

グリッド 13-3区J12

長軸方位 N70°E

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.37m、短辺は1.05m、深さは0.37mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

遺物 底直上から土師器の杯(1)が出土した。

時代 平安時代11世紀。

26号土坑(第656図)

グリッド 13-3区J12

長軸方位 N8°E

新旧関係 16号住居が旧。27号土坑が新。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長辺は1.48m、短辺は1.32m、深さは0.50mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 9世紀第4四半期より新。

27号土坑(第656図)

グリッド 13-3区J12

長軸方位 N50°W

新旧関係 26号土坑が旧。

形状と規模 歪んだ隅丸方形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長辺は0.75m、短辺は0.75m、深さは0.20mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

28号土坑(第656図)

グリッド 13-3区I12

長軸方位 N43°E

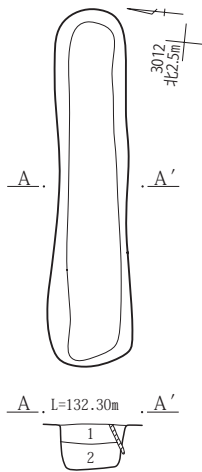
新旧関係 16号住居が旧。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長辺は1.37m、短辺は1.25m、深さは0.40mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 9世紀第4四半期より新。

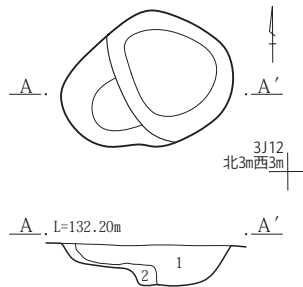
21号土坑



21号土坑

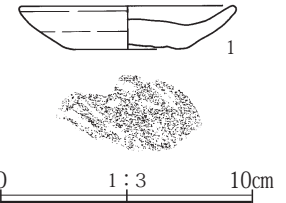
- 1 灰黄褐色砂質土 (10YR6/2) 少量の榛名ニツ岳白色軽石小粒と多量のにぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ 5~15mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色砂質土 (10YR5/2) 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒と少量のにぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ 5~10mm大)を含む。

25号土坑

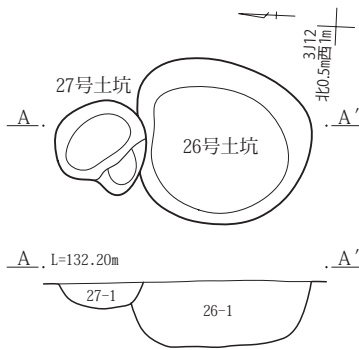


- 1 灰黄褐色砂質土 (10YR5/2) 少量の榛名ニツ岳白色軽石小粒・にぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ 5~10mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色砂質土 (10YR5/2) 微量の榛名ニツ岳白色軽石と多量のにぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ 5~40mm大)を含む。

25号土坑

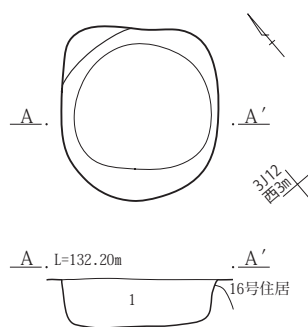


26・27号土坑



- 26-1 灰黄褐色砂質土 (10YR5/2) 少量の榛名ニツ岳白色軽石小粒と微量のにぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ 10~20mm大)を含む。
- 27-1 灰黄褐色砂質土 (10YR4/2) 少量の榛名ニツ岳白色軽石小粒・にぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ 5~15mm大)を含む。

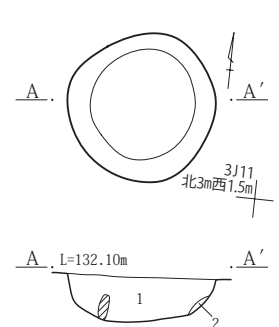
28号土坑



28号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土 (10YR5/2) 微量の榛名ニツ岳白色軽石と少量のにぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ 5~15mm大)を含む。

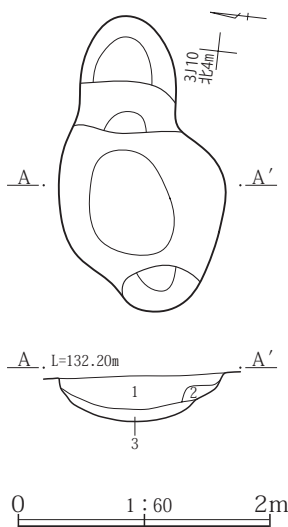
29号土坑



29号土坑

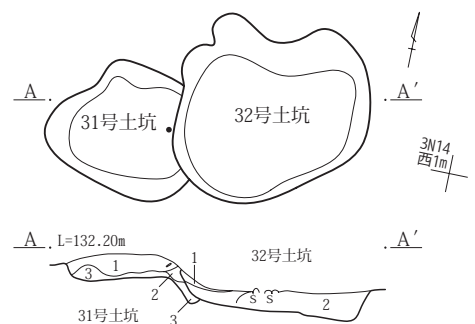
- 1 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 少量の榛名ニツ岳白色軽石小粒を含む。
- 2 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 少量のにぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ 10~20mm大)を含む。

30号土坑



- 1 黒褐色砂質土 (10YR3/2) 多量の榛名ニツ岳白色軽石と少量のにぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ 10~20mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色砂質土 (10YR5/2) 微量の榛名ニツ岳白色軽石と多量のにぶい黄褐色砂質土シルト大ブロック(φ 30~50mm大)を含む。
- 3 灰黄褐色砂質土 (10YR4/2) 少量の榛名ニツ岳白色軽石とにぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ 10~30mm大)を含む。

31・32号土坑



- 1 灰黄褐色砂質土 (10YR4/2) 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒と少量のにぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ 5mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色砂質土 (10YR5/2) 微量の榛名ニツ岳白色軽石と多量のにぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ 5~10mm大)を含む。
- 3 灰黄褐色砂質土 (10YR5/2) 微量の榛名ニツ岳白色軽石と多量のにぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ 10~40mm大)を含む。

第656図 VI区21・25~32号土坑と25号土坑の出土遺物

29号土坑(第656図)

グリッド 13-3区J11

新旧関係 16・17号住居が旧。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は半月形を呈する。
直径は1.16m、深さは0.35mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀第3四半期より新。

30号土坑(第656図、PL.349)

グリッド 13-3区I10

長軸方位 N77°E

新旧関係 なし。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は半月形を呈する。
長径は2.35m、短径は1.32m、深さは0.41mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

31号土坑(第656図、PL.349)

グリッド 13-3区N13

長軸方位 N80°E

新旧関係 3号溝が旧。32号土坑が新。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。
長辺は1.27m+、短辺は1.06m、深さは0.27mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

32号土坑(第656図、PL.349)

グリッド 13-3区N13

長軸方位 N57°E

新旧関係 2号溝、31号土坑が旧。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。
長辺は1.64m、短辺は1.49m、深さは0.46mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

34号土坑(第657図、PL.349)

グリッド 13-3区K13

長軸方位 N64°W

新旧関係 19号住居が旧。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は半月形を呈する。
長径は0.80m、短径は0.75m、深さは0.35mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 7世紀後半より新。

35号土坑(第657図、PL.349)

グリッド 13-3区H9

長軸方位 N76°E

新旧関係 15号溝が旧。

形状と規模 長方形の短冊形状を呈し、断面形状は箱形を呈する。
長辺は2.87m、短辺は0.56m、深さは0.65mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

36号土坑(第657図、PL.349)

グリッド 13-3区H11

長軸方位 N81°W

新旧関係 17号溝が旧。

形状と規模 長方形を呈し、断面形状は袋状を呈する。
長辺は2.12m+、短辺は1.27m+、深さは0.47mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

37号土坑(第657図、PL.349)

グリッド 13-3区I12

長軸方位 N1°E

新旧関係 24・59号住居が旧。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。
長辺は1.58m、短辺は1.25m、深さは0.59mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀より新。

39号土坑(第657図、PL.349)

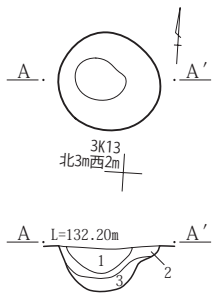
グリッド 13-3区G11

長軸方位 N67°E

新旧関係 47号住居が旧。

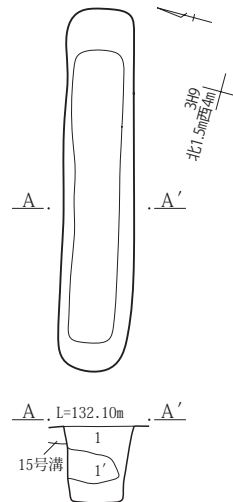
形状と規模 長方形の短冊形状を呈し、断面形状は箱形を呈する。
長辺は2.71m、短辺は1.16m、深さは0.34m

34号土坑



- 1 灰黄褐色砂質土 (10YR5/2) 少量の榛名ニツ岳白色軽石を含む。
- 2 灰黄褐色砂質土 (10YR5/2) 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒とにぶい黄褐色砂質土シルトブロック(φ10~30mm大)を含む。
- 3 灰黄褐色砂質土 (10YR5/2) 微量の榛名ニツ岳白色軽石と少量のにぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ5~15mm大)を含む。

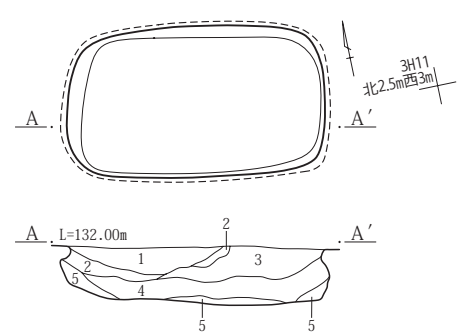
35号土坑



35号土坑

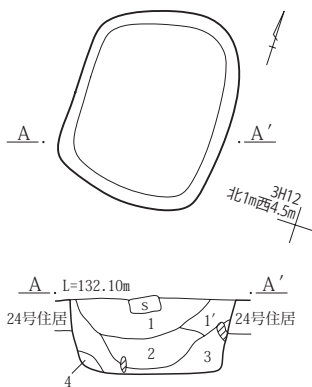
- 1 少量の榛名ニツ岳白色軽石小粒と多量のにぶい黄褐~にぶい黄褐色砂質土シルト小ブロックを含む。
- 1' 1層土より砂質土シルトブロックの混入少ない。

36号土坑



- 1 灰黄褐色砂質土 (10YR4/2) 少量の榛名ニツ岳白色軽石小粒・にぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ5mm大程)と微量の炭化物を含む。
- 2 灰黄褐色砂質土 (10YR5/2) 少量の榛名ニツ岳白色軽石小粒と多量のにぶい黄褐~にぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ5mm大程)を含む。
- 3 灰黄褐色砂質土 (10YR5/2) 少量の榛名ニツ岳白色軽石小粒・にぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ5mm大程)と微量の炭化物を含む。
- 4 灰黄褐色砂質土 (10YR4/2) 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒・炭化物と多量のにぶい黄褐~にぶい黄褐色砂質土シルトブロック(φ5~30mm大)を含む。
- 5 灰黄褐色砂質土 (10YR6/2) 微量の炭化物と多量のにぶい黄褐色砂質土シルトブロック(φ5~30mm大)を含む。

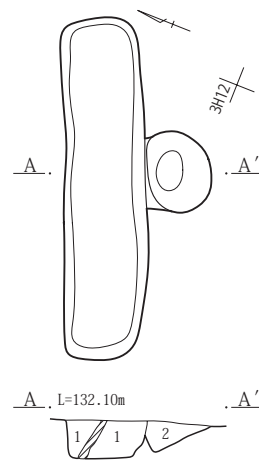
37号土坑



37号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土 (10YR5/2) 多量の榛名ニツ岳白色軽石小粒と少量のにぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ10~15mm大)と微量の炭化物を含む。
- 1' 灰黄褐色砂質土 (10YR5/2) 少量の榛名ニツ岳白色軽石小粒と微量の炭化物を含む。
- 2 にぶい黄褐色弱粘質土 (10YR5/3) 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒と多量のにぶい黄褐色砂質土シルトブロック(φ10~30mm大)を含む。
- 3 にぶい黄褐色弱粘質土 (10YR5/3) 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒と少量のにぶい黄褐色砂質土シルトブロック(φ10~30mm大)を含む。
- 4 灰黄褐色弱粘質土 (10YR4/2) 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒を含む。

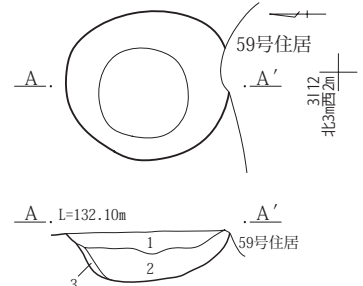
39号土坑



39号土坑

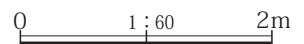
- 1 褐灰色砂質土 (10YR5/1) 少量の榛名ニツ岳白色軽石小粒と微量のにぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ5~10mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色砂質土 (10YR4/2) 多量の榛名ニツ岳白色軽石を含む。=39号土坑に切られた小土坑跡。

40号土坑



40号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土 (10YR4/2) 少量の榛名ニツ岳白色軽石小粒・にぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ5~10mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色砂質土 (10YR4/2) 少量の榛名ニツ岳白色軽石小粒を含む。
- 3 灰黄褐色砂質土 (10YR5/2) 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒と多量のにぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ5~10mm大)を含む。



第657図 VI区34~37・39・40号土坑

である。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀第4四半期より新。

40号土坑(第657図、PL.349)

グリッド 13-3区I12

長軸方位 N3°W

新旧関係 59号住居が新。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。

長径は1.30m、短径は1.17m、深さは0.46mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀以前である。

41号土坑(第658図)

グリッド 13-3区G9

長軸方位 N3°W

新旧関係 25号住居が旧。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.59m、短辺は1.28m、深さは0.40mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀後半より新。

42号土坑(第658図)

グリッド 13-3区G9

長軸方位 N18°W

新旧関係 25号住居が旧。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.62m、短辺は1.20m、深さは0.45mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀後半より新。

45号土坑(第658図)

グリッド 13-3区H13

長軸方位 N12°W

新旧関係 48号住居が旧。

形状と規模 隅丸長方形の短冊形状を呈し、断面形状は箱形を呈する。長辺は4.08m、短辺は0.88m、深さは

0.42mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀後半より新。

46号土坑(第658図)

グリッド 13-3区F6

長軸方位 N6°W

新旧関係 44号住居が旧。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長辺は1.90m、短辺は1.07m、深さは0.38mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀後半より新。

47号土坑(第658図)

グリッド 13-3区E6

長軸方位 N14°W

新旧関係 44号住居が旧。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長辺は1.31m、短辺は0.78m、深さは0.44mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀後半より新。

48号土坑(第658図)

グリッド 13-3区H13

長軸方位 N38°E

新旧関係 48号住居、18号溝が旧。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は歪んだT字形を呈する。長径は1.13m、短径は0.93m、深さは0.65mで、柱穴の可能性はある。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀後半より新。

49号土坑(第658図、PL.349)

グリッド 13-3区F11

長軸方位 N37°W

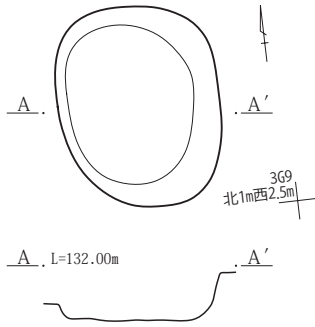
新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状はV字形を呈する。長辺は0.96m、短辺は0.89m、深さは0.85mである。

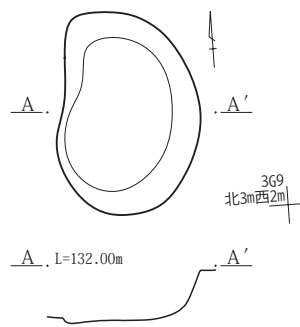
埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

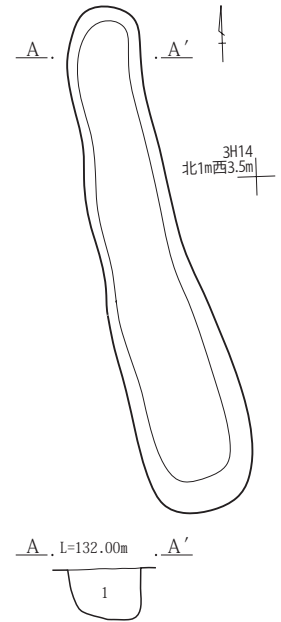
41号土坑



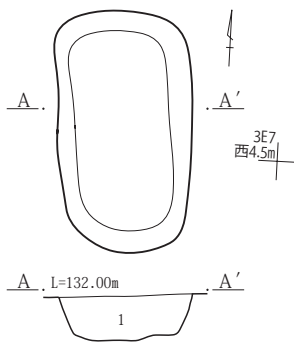
42号土坑



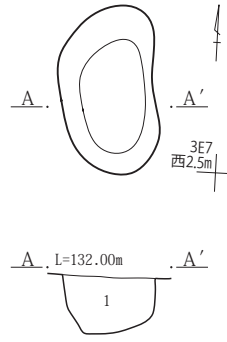
45号土坑



46号土坑



47号土坑

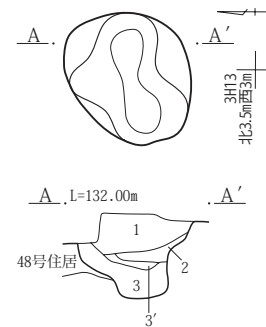


- 1 灰黄褐色砂質土 少量の榛名二ツ岳白色軽石小粒 (10YR5/2) とにぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ 5~15mm大)を含む。

46・47号土坑

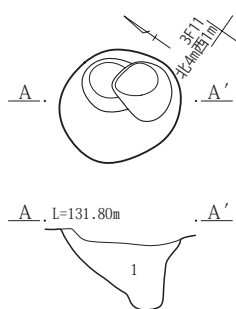
- 1 灰黄褐色砂質土 少量の榛名二ツ岳白色軽石とにぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ 10~20mm大)を含む。

48号土坑

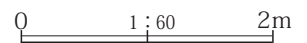


- 1 灰黄褐色砂質土 少量の榛名二ツ岳白色軽石小粒とにぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ 5mm大)を含む。
 2 灰黄褐色砂質土 少量の榛名二ツ岳白色軽石小粒と多量のにぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ 5~10mm大)を含む。
 3 灰黄褐色砂質土 少量の榛名二ツ岳白色軽石小粒とにぶい黄褐色にぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ 10~20mm大)を含む。
 3' 3層土+多量の焼土粒子

49号土坑



- 1 灰黄褐色砂質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒と少量のにぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ 5~15mm大)を含む。



第658図 VI区41・42・45~49号土坑

4. VII区

19号土坑(第659図、PL.350)

グリッド 13-3区D15

長軸方位 N61°E

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.70m、短辺は1.24m、深さは0.20mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

20号土坑(第659図、PL.350)

グリッド 13-3区D18

長軸方位 N38°E

新旧関係 1号溝が旧。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は0.97m、短辺は0.75m、深さは0.23mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

遺物 埋土から須恵器の椀(1)が出土した。

時代 平安時代9世紀前半。

21号土坑(第659図、PL.351)

グリッド 13-2区Q12

長軸方位 N28°E

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は1.29m、短径は1.12m、深さは0.46mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

22号土坑(第659図、PL.351)

グリッド 13-2区Q12

長軸方位 N58°E

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は0.93m、短径は0.85m、深さは0.28mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

23号土坑(第659図、PL.351)

グリッド 13-2区Q11

長軸方位 N39°E

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は1.14m、短径は1.12m、深さは0.54mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

24号土坑(第659図、PL.352)

グリッド 13-3区F17

長軸方位 N40°E

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状はU字形を呈する。長辺は1.31m、短辺は0.87m、深さは0.92mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

25号土坑(第659図、PL.352)

グリッド 13-3区A10

長軸方位 N12°E

新旧関係 70号土坑が旧。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は0.97m、短辺は0.68m、深さは0.20mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

70号土坑(第659図、PL.355・443)

グリッド 13-3区A9

長軸方位 N9°E

新旧関係 25号土坑が新。

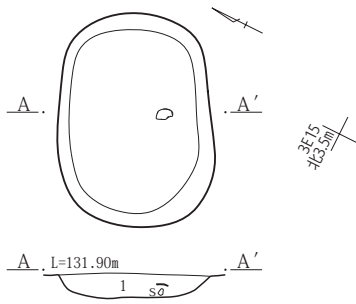
形状と規模 楕円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は1.98m、短径は1.81m、深さは0.32mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

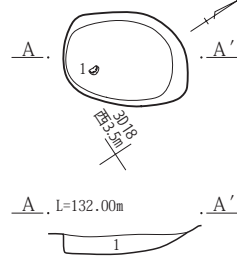
遺物 埋土から須恵器の椀(2)が出土した。

時代 平安時代9世紀後半。

19号土坑



20号土坑



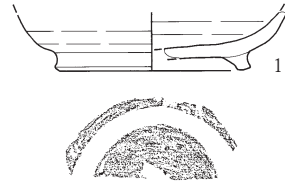
19号土坑

1 にぶい黄褐色砂質土+シルト質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石・にぶい黄褐色砂質土シルト粒子を含む。(10YR4/3)

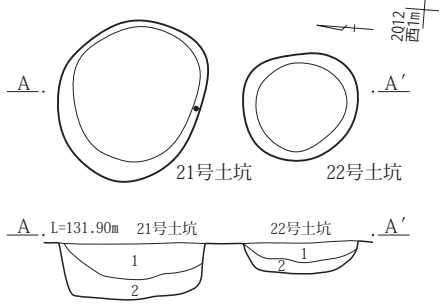
20号土坑

1 にぶい黄褐色砂質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石と少量のにぶい黄褐色砂質土シルトブロック(φ10~30mm大)を含む。(10YR5/3)

20号土坑



21・22号土坑



21号土坑

1 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石大粒(φ5~50mm大)・鉄滓(φ20mm大)を含む。(10YR4/2)

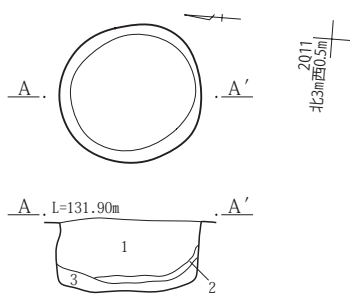
2 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ5~10mm大)・円礫(φ5~30mm大)を含む。(10YR4/2)

22号土坑

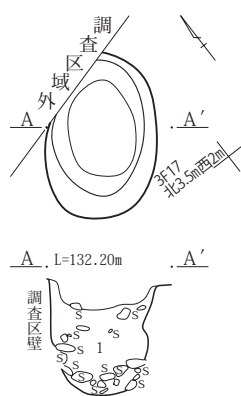
1 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石大粒(φ5~50mm大)・鉄滓(φ20mm大)を含む。(10YR4/2)

2 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ5~10mm大)・円礫(φ5~30mm大)を含む。(10YR4/2)

23号土坑



24号土坑



23号土坑

1 にぶい黄褐色砂質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石と少量のにぶい黄褐色砂質土シルトブロック(φ10~30mm大)を含む。(10YR5/3)

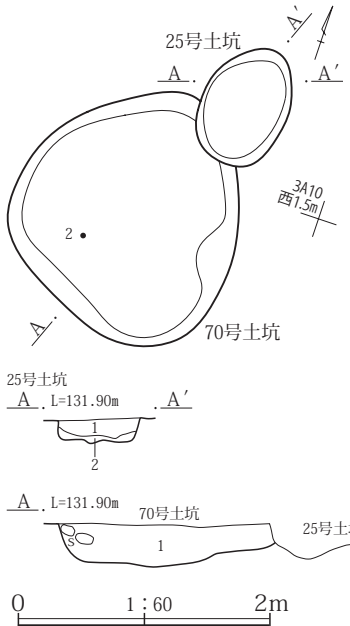
2 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ2~20mm大)を含む。締りやや弱。(10YR4/2)

3 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ2~15mm大)・円礫(φ5~50mm大)を含む。(10YR4/2)

24号土坑

1 灰黄褐色砂質土 少量のにぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ5~10mm大)を含む。(10YR5/2)

25・70号土坑



25号土坑

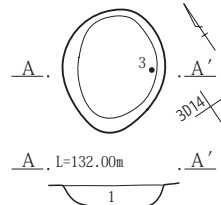
1 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ2~10mm大)を含む。

2 灰黄褐色シルト質土(10YR5/2) 微量の小礫(φ10~20mm大)を含む。

70号土坑

1 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ2~5mm大)・円礫(φ5~100mm大)を含む。(10YR4/2)

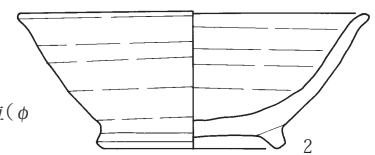
26号土坑



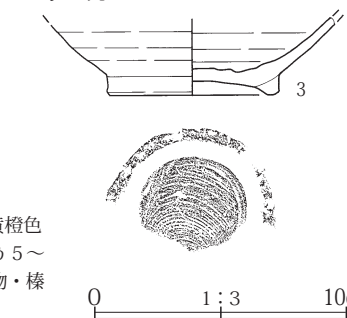
26号土坑

1 にぶい黄褐色砂質土 極細粒砂。少量のにぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ5~15mm大)と焼土粒子・炭化物・榛名二ツ岳白色軽石を含む。(10YR4/3)

70号土坑



26号土坑



第659図 VII区19~26・70号土坑と20・26・70号土坑の出土遺物

26号土坑(第659図、PL.352)

グリッド 13-3区D14

長軸方位 N39°E

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は0.98m、短辺は0.81m、深さは0.25mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

遺物 埋土から須恵器の椀(3)が出土した。

時代 平安時代10世紀前半。

27号土坑(第660図、PL.352)

グリッド 13-3区C13

長軸方位 N12°W

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長径は1.41m、短径は1.37m、深さは0.40mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

遺物 埋土から土師器の甕(1)が出土した。

時代 平安時代10世紀後半。

28号土坑(第660図、PL.352・444)

グリッド 13-3区C14

長軸方位 N23°W

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長径は1.31m、短径は1.16m、深さは0.26mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

遺物 埋土から鉄製品(2)が出土した。

時代 古墳時代以降である。

29号土坑(第660図、PL.352)

グリッド 13-3区C13

長軸方位 N76°W

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長径は0.94m、短径は0.82m、深さは0.22mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

30号土坑(第660図、PL.352)

グリッド 13-3区C10

長軸方位 N12°E

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.61m、短辺は1.36m、深さは0.26mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

31号土坑(第660図、PL.352)

グリッド 13-3区E12

長軸方位 N29°E

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は0.82m、短辺は0.79m、深さは0.13mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

32号土坑(第660図、PL.352)

グリッド 13-2区R11

長軸方位 N10°W

新旧関係 90号土坑が旧。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.01m、短辺は0.94m、深さは0.22mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

遺物 埋土から須恵器の甕(3)が出土した。

時代 古墳時代以降である。

90号土坑(第660図、PL.357)

グリッド 13-2区R11

長軸方位 N25°E

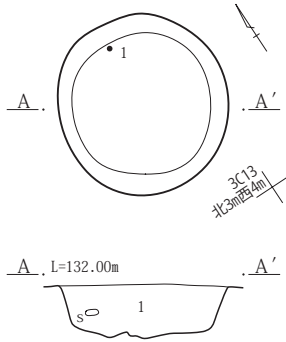
新旧関係 32号土坑が新。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.06m+、短辺は0.73m、深さは0.14mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

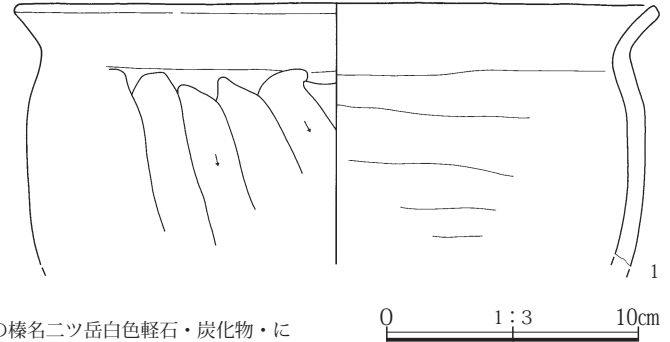
時代 古墳時代以降である。

27号土坑

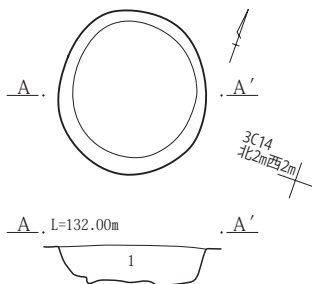


1 灰黄褐色砂質土 極細砂質。少量の榛名ニツ岳白色軽石・炭化物・に
(10YR4/2) ぶい黄褐色砂質土シルト粒子を含む。

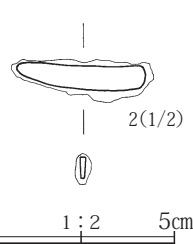
27号土坑



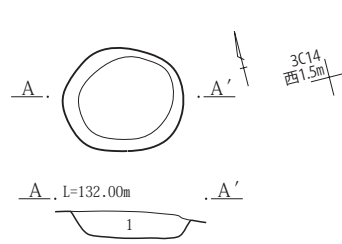
28号土坑



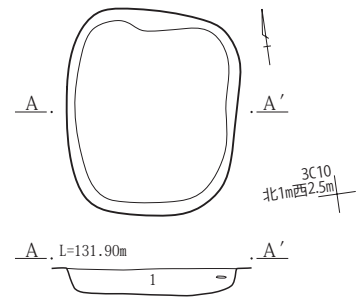
28号土坑



29号土坑



30号土坑



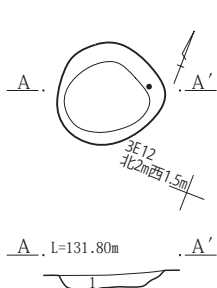
28・29号土坑

1 にぶい黄褐色砂質土 極細粒砂。少量のにぶい黄褐色砂質土シルト小
(10YR4/3) ブロック(φ 5~15mm大)と焼土粒子・炭化物・
榛名ニツ岳白色軽石を含む。

30号土坑

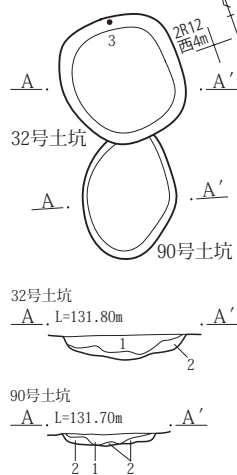
1 黒褐色砂質土 粗粒砂。多量の浅間山B軽石と少量の榛名ニツ岳白色
(10YR4/2) 軽石・炭化物、にぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック
(φ 5~20mm大)粒子を含む。

31号土坑

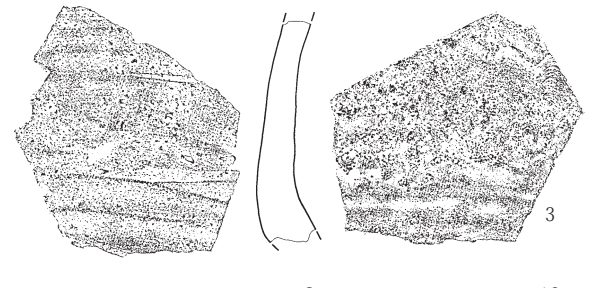


1 にぶい黄褐色土 多量の炭化物・
(10YR5/3)材 (φ 10~50mm大)
を含む。

32・90号土坑



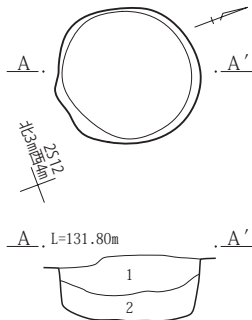
32号土坑



32号土坑

1 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 2~10mm大)・
(10YR4/2) 炭化物(φ 10~30mm大)を含む。
2 にぶい黄褐色土 少量の灰黄褐色土混じり。微量の炭化粒子(φ 2~
(10YR5/3) 5mm大)を含む。

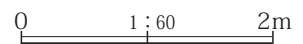
33号土坑



1 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 2~15mm大)・
(10YR4/2) 小円礫(φ 2~20mm大)を含む。
2 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 5~10mm大)・
(10YR4/2) 小円礫(φ 2~50mm大)を含む。1層土に比べ色調
やや明るめ。

90号土坑

1 灰黄褐色土 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 2~3mm大)・炭化粒
(10YR4/2) 子(φ 3~10mm大)を含む。
2 にぶい黄褐色土 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 2~4mm大)と少
(10YR5/3) 量のにぶい黄褐色シルト質土ブロックを含む。



第660図 VII区27~33・90号土坑と27・28・32号土坑の出土遺物

33号土坑(第660図、PL.353)

グリッド 13-2区S12

長軸方位 N9°E

新旧関係 54号住居が旧。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は1.14m、短径は1.08m、深さは0.54mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 10世紀前半より新。

34号土坑(第661図、PL.353)

グリッド 13-2区T12

長軸方位 N23°E

新旧関係 なし

形状と規模 楕円形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は1.26m、短径は0.91m、深さは0.35mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

35号土坑(第661図、PL.353)

グリッド 13-2区T12

長軸方位 N4°W

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は0.81m、短径は0.78m、深さは0.33mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

36号土坑(第661図、PL.353)

グリッド 13-2区T13

長軸方位 N40°W

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は半月形を呈する。長辺は0.91m、短辺は0.89m、深さは0.25mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

37号土坑(第661図、PL.353)

グリッド 13-2区Q12

長軸方位 N15°W

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。

長径は1.32m、短径は1.22m、深さは0.23mである。

埋土 灰黄褐色土からなる。

時代 古墳時代以降である。

38号土坑(第661図、PL.353)

グリッド 13-2区R13

長軸方位 N11°W

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.17m、短辺は0.94m、深さは0.13mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

39号土坑(第661図、PL.353)

グリッド 13-2区R13

長軸方位 N37°E

新旧関係 49号住居が旧。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.26m、短辺は0.98m、深さは0.14mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

遺物 埋土から須恵器の羽釜(1)が出土した。

時代 平安時代10世紀前半。

40号土坑(第661図、PL.353・444)

グリッド 13-3区S14

長軸方位 N6°E

新旧関係 52号住居が旧。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.74m、短辺は0.82m、深さは0.19mで墓坑の可能性はある。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

遺物 埋土から須恵器の椀(2)が出土した。

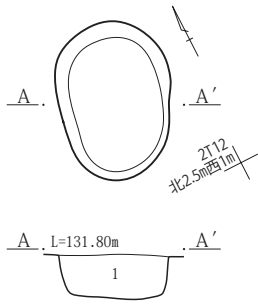
時代 平安時代10世紀前半。

41号土坑(第661図、PL.353)

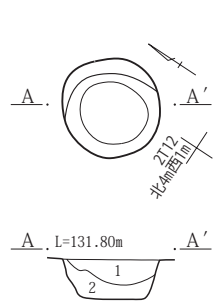
グリッド 13-2区T14

長軸方位 N5°E

34号土坑



35号土坑



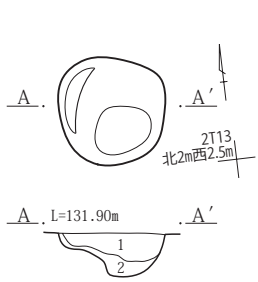
34号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石大粒(φ 2~50mm大)・焼土粒子・炭化粒子・にぶい黄橙色シルト質土ブロックを含む。

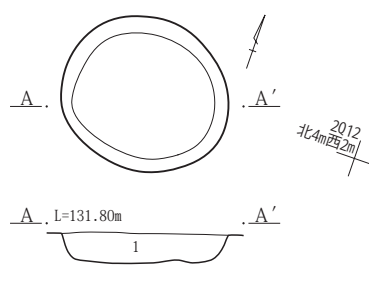
35号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 2~7mm大)・焼土粒子・炭化粒子・にぶい黄橙色シルト質土ブロックを含む。
- 2 灰黄褐色土 微量の黄橙色シルト質土ブロック・小礫(φ 2~5mm大)を含む。

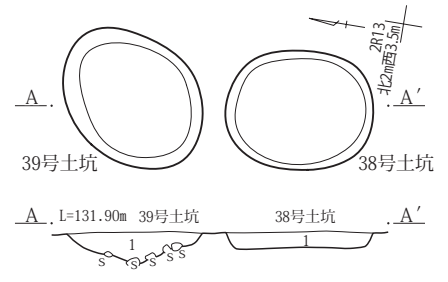
36号土坑



37号土坑



39・38号土坑



36号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土 浅黄色シルト質土ブロックを混入する。(10YR4/2)
- 2 灰黄褐色土 少量の浅黄色シルト質土と微量の小礫(φ 5~50mm大)を含む。(10YR6/2)

38号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 2~20mm大)・炭化粒子(φ 2~3mm大)を含む。(10YR4/2)

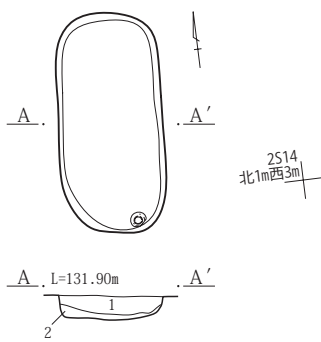
37号土坑

- 1 灰黄褐色土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 2~10mm大)・炭化粒子と小円礫(φ 5~20mm大)を含む。縮りやや良。(10YR4/2)

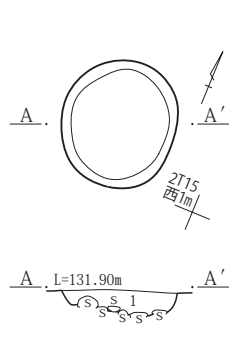
39号土坑

- 1 灰黄褐色土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 2~5mm大)・炭化粒子(φ 1~5mm大)を含む。(10YR4/2)

40号土坑



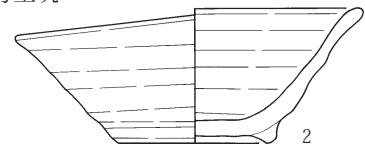
41号土坑



39号土坑

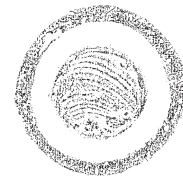


40号土坑



40号土坑

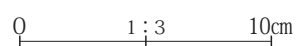
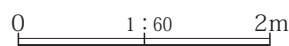
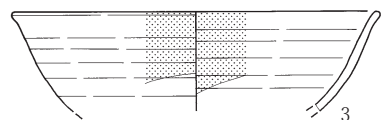
- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 2~5mm大)・焼土粒子・炭化粒子を含む。(10YR5/2)
- 2 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 2~20mm大)を含む。(10YR5/2)



41号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の円礫(φ 20~200mm大)を含む。他の層は円礫層(φ 30~200mm大)。(10YR4/2)

41号土坑



第661図 VII区34~41号土坑と39~41号土坑の出土遺物

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。

長径は1.03m、短径は0.91m、深さは0.23mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

遺物 埋土から灰釉陶器の椀(3)が出土した。

時代 平安時代10世紀前半。

42号土坑(第662図、PL.353)

グリッド 13-3区A15

長軸方位 N67°E

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長

径は0.92m、短径は0.90m、深さは0.34mである。

埋土 浅間Bテフラを含む黒褐色土からなる。

時代 12世紀初頭以降である。

43号土坑(第662図、PL.353)

グリッド 13-2区T15

長軸方位 N65°W

新旧関係 81号土坑が新。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は底が平らなV字形

を呈する。長径は1.09m、短径は0.90m、深さは0.55m

である。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

44号土坑(第662図、PL.353)

グリッド 13-2区T16

長軸方位 N68°E

新旧関係 40号住居、166号土坑が旧。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を

呈する。長辺は1.22m、短辺は0.92m、深さは0.13mで

ある。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 10世紀より新。

45号土坑(第662図、PL.353)

グリッド 13-2区T16

長軸方位 N28°W

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は皿形を呈す

る。長辺は1.05m、短辺は0.87m、深さは0.22mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

46号土坑(第662図、PL.353)

グリッド 13-3区A16

長軸方位 N7°W

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は半月形を呈する。

長径は0.66m、短径は0.56m、深さは0.20mである。

埋土 黄褐色土からなる。

時代 古墳時代以降である。

47号土坑(第662図、PL.354)

グリッド 13-3区A16

長軸方位 N67°E

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を

呈する。長辺は1.66m、短辺は1.15m、深さは0.26mで

ある。

埋土 黄褐色土からなる。

時代 古墳時代以降である。

48号土坑(第662図、PL.354)

グリッド 13-3区B16

長軸方位 N22°W

新旧関係 29・34・94・101号住居が旧。

形状と規模 長方形の短冊形状を呈し、断面形状は浅い

皿形を呈する。長辺は2.85m、短辺は0.59m、深さは

0.08mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 11世紀前半より新。

49号土坑(第662図、PL.354)

グリッド 13-3区A12

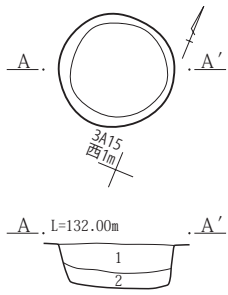
長軸方位 N82°E

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は皿形を呈する。

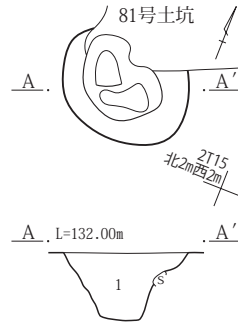
長辺は1.78m、短辺は1.45m、深さは0.34mである。

42号土坑



- 1 黒褐色土(10YR3/2) 少量の浅間B軽石と微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 2~20mm大)を含む。締りやや弱。
- 2 黒褐色土(10YR3/1) 微量の浅間B軽石・榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 2~10mm大)、小円礫(φ 20~30mm)とにぶい黄色シルト質土ブロックを含む。締りやや弱。

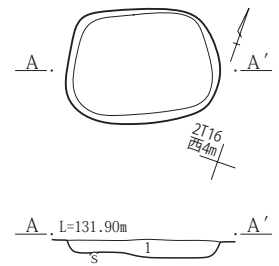
43号土坑



43号土坑

- 1 灰黄褐色土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 2~5mm大)・円礫(φ 10YR4/2) 30~150mmを含む。

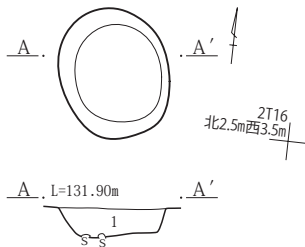
44号土坑



44号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 2~10mm大)・炭化粒子(φ 2~4mm大)を含む。

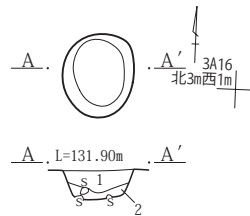
45号土坑



45号土坑

- 1 にぶい黄褐色シルト質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 2~5mm大)を含む。

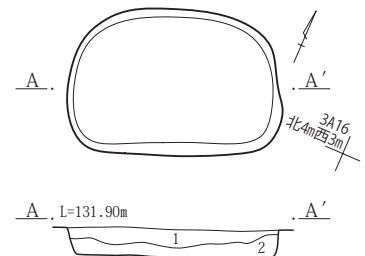
46号土坑



46号土坑

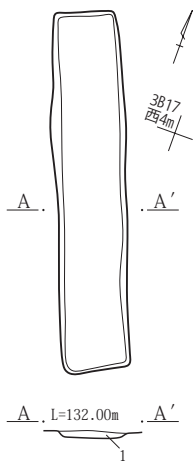
- 1 にぶい黄褐色土(10YR5/4) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 2~7mm大)・炭化粒子を含む。
- 2 にぶい黄褐色土(10YR5/4) 微量の小円礫(φ 5~20mm大)を含む。

47号土坑



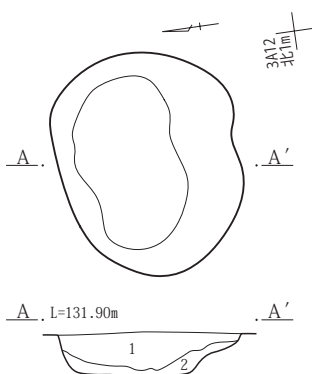
- 1 にぶい黄褐色土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 2~10mm大)・炭化粒子(φ 2~4mm大)を含む。
- 2 にぶい黄褐色土 微量の榛名二ツ岳白色軽石大粒(φ 2~100mm大)・炭化粒子(φ 1~2mm大)を含む。

48号土坑

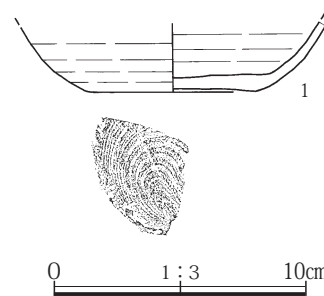


- 1 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) イモ穴の可能性あり。

49号土坑



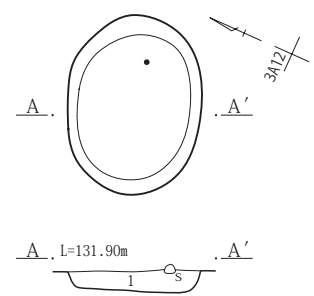
49号土坑



49号土坑

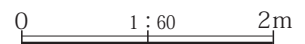
- 1 黒褐色シルト質土(10YR3/1) 微量の榛名二ツ岳白色軽石(φ 4~40mm大)とにぶい黄褐色シルト質土を含む。
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2) 微量のにぶい黄褐色シルト質土を含む。

50号土坑



50号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 2~10mm大)・焼土粒子(φ 2~3mm大)・円礫(φ 5~80mm大)を含む。



第662図 VII区42~50号土坑と49号土坑の出土遺物

埋土 灰黄褐色土からなる。

遺物 埋土から須恵器の杯(1)が出土した。

時代 平安時代9世紀後半。

50号土坑(第662図、PL.354)

グリッド 13-3区A12

長軸方位 N68°E

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.41m、短辺は1.06m、深さは0.19mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

51号土坑(第663図、PL.354)

グリッド 13-3区A11

長軸方位 N38°E

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は1.02m、短径は0.94m、深さは0.59mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

遺物 埋土から須恵器の甕(1)が出土した。

時代 古墳時代以降である。

52号土坑(第663図、PL.354)

グリッド 13-3区A12

長軸方位 N64°E

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は半月形を呈する。長辺は0.98m、短辺は0.46m、深さは0.17mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

53号土坑(第663図、PL.354)

グリッド 13-3区A11

長軸方位 N23°W

新旧関係 なし。

形状と規模 楕円形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は1.06m、短径は0.89m、深さは0.64mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

54号土坑(第663図、PL.354)

グリッド 13-3区S12

長軸方位 N8°E

新旧関係 なし

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.09m、短辺は0.70m、深さは0.14mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

55号土坑(第663図、PL.354)

グリッド 13-2区S10

長軸方位 N2°E

新旧関係 なし。

形状と規模 楕円形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は1.85m、短径は1.40m、深さは0.47mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

遺物 埋土から須恵器の甕(2)や椀(3)が出土した。

時代 平安時代10世紀中頃。

56号土坑(第664図、PL.354)

グリッド 13-2区S9

長軸方位 N73°W

新旧関係 96・97号住居が旧。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は1.27m、短径は1.12m、深さは0.45mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

遺物 埋土から須恵器の杯(1)が出土した。

時代 平安時代9世紀。

57号土坑(第664図、PL.354)

グリッド 13-2区S9

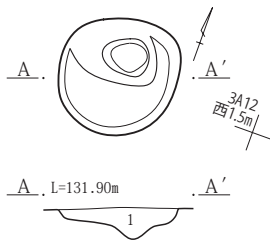
長軸方位 N72°W

新旧関係 84号土坑が旧。

形状と規模 楕円形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は1.33m、短径は1.08m、深さは0.77mである。

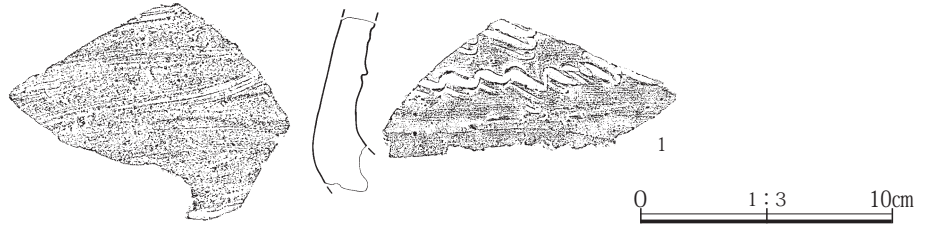
埋土 灰黄褐色シルト質土からなり、ウマの歯が出土した。

51号土坑

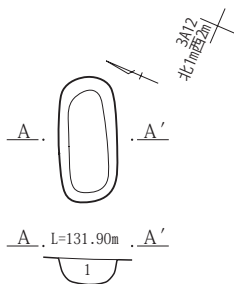


- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名ニツ岳白色軽石大粒(φ 4~50mm大)、炭化粒子・物(φ 2~10mm大)とにぶい黄橙色シルト質土ブロックを含む。

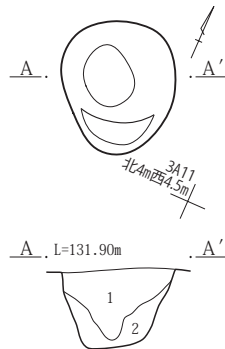
51号土坑



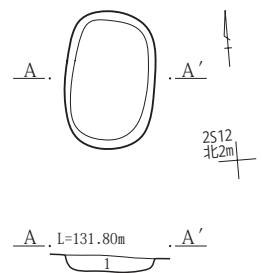
52号土坑



53号土坑



54号土坑



- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 2~4mm大)・小礫(φ 3~20mm大)を含む。縮りやや弱。

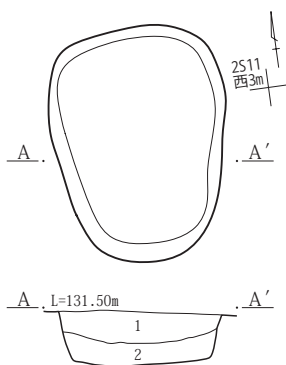
52号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 2~8mm大)・焼土粒子(φ 2~3mm大)を含む。

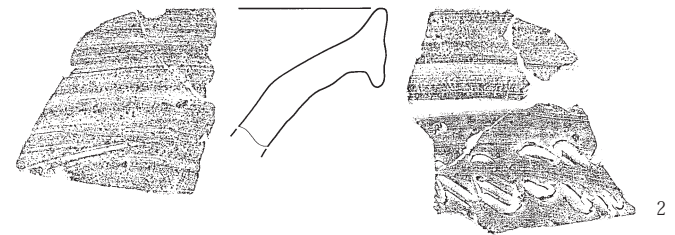
53号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 2~20mm大)・小円礫(φ 3~30mm大)を含む。
 2 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 2~15mm大)・浅黄色土ブロックを混入する。

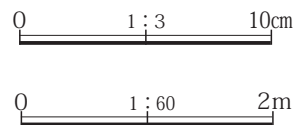
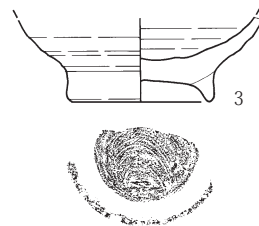
55号土坑



55号土坑



- 1 灰黄褐色シルト質土 榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 2~20mm大)・炭化粒子(φ 2~4mm大)・小礫(φ 5~10mm大)を含む。
 2 灰黄褐色シルト質土 榛名ニツ岳白色軽石(φ 2~30mm大)・炭化粒子(φ 2~5mm大)・小礫(φ 5~20mm大)と少量のにぶい黄橙色シルト質土ブロック粒を含む。



第663図 VII区51~55号土坑と51・55号土坑の出土遺物

時代 古墳時代以降である。

58号土坑(第664図、PL.354)

グリッド 13-2区T10

長軸方位 N72°W

新旧関係 84号住居が旧。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は1.12m、短径は1.10m、深さは0.46mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

遺物 埋土から須恵器の甕(2)が出土した。

時代 10世紀より新。

59号土坑(第664図、PL.354)

グリッド 13-2区S9

長軸方位 N42°E

新旧関係 71号土坑が旧。

形状と規模 楕円形を呈し、断面形状は半月形を呈する。長径は0.93m、短径は0.88m、深さは0.29mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

71号土坑(第664図、PL.354)

グリッド 13-2区S9

長軸方位 N20°W

新旧関係 59・72土坑が新。

形状と規模 楕円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は0.97m、短径は0.92m、深さは0.17mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

60号土坑(第664図、PL.354)

グリッド 13-2区T8

長軸方位 N46°W

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状はV字形を呈する。長径は0.81m、短径は0.72m、深さは0.44mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

61号土坑(第664図、PL.355)

グリッド 13-2区T8

長軸方位 N36°E

新旧関係 なし。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は半月形を呈する。長径は1.17m、短径は0.98m、深さは0.28mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

62号土坑(第665図、PL.355)

グリッド 13-2区S8

長軸方位 N77°W

新旧関係 なし。

形状と規模 楕円形を呈し、断面形状は半月形を呈する。長径は0.84m、短径は0.63m、深さは0.23mである。

埋土 黒褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

63号土坑(第665図、PL.355・444)

グリッド 13-2区S8

長軸方位 N86°E

新旧関係 なし。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長径は0.89m、短径は0.62m、深さは0.23mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

遺物 埋土から刀子(1)が出土した。

時代 古墳時代以降である。

64号土坑(第665図、PL.355)

グリッド 13-2区T8

長軸方位 N44°W

新旧関係 なし。

形状と規模 楕円形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長径は1.87m、短径は1.41m、深さは0.33mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

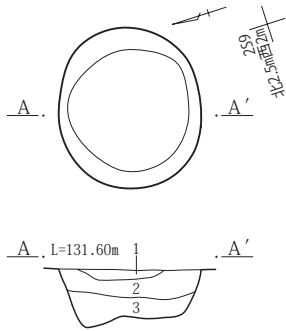
時代 古墳時代以降である。

65号土坑(第665図、PL.355)

グリッド 13-3区A10

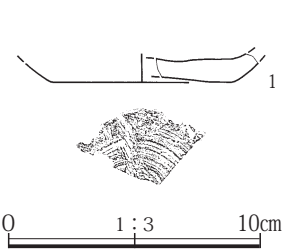
長軸方位 N18°W

56号土坑

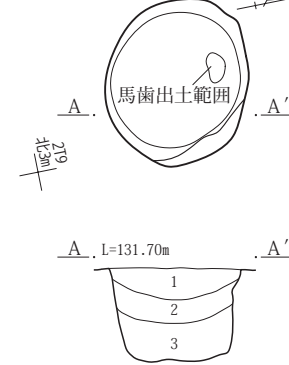


- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 2~5mm大)・炭化粒子(φ 1~3mm大)を含む。(10YR4/2)
- 2 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 2~10mm大)・炭化粒子(φ 1~3mm大)を含む。(10YR4/2)
- 3 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 2~5mm大)・炭化粒子(φ 1~4mm大)を含む。(10YR4/2)

56号土坑

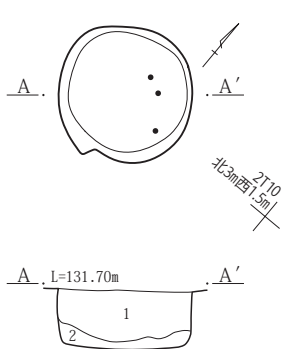


57号土坑



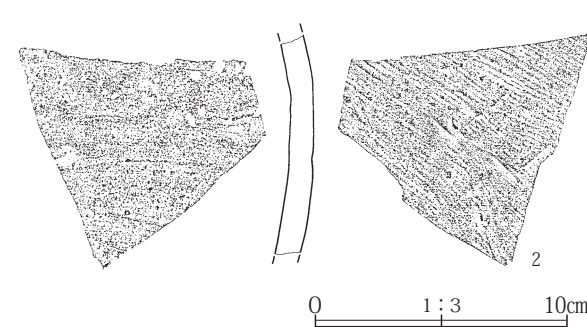
- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒・炭化粒子(φ 2~5mm大)を含む。締りやや弱。(10YR4/2)
- 2 灰黄褐色シルト質土 微量のにぶい黄褐色シルト質土ブロックを混入し、微量の馬の歯出土層位・炭化粒子(φ 2~4mm大)を含む。締りやや弱。(10YR4/2)
- 3 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 2~10mm大)・炭化粒子(φ 2~4mm大)を含む。締りやや弱。(10YR4/2)

58号土坑

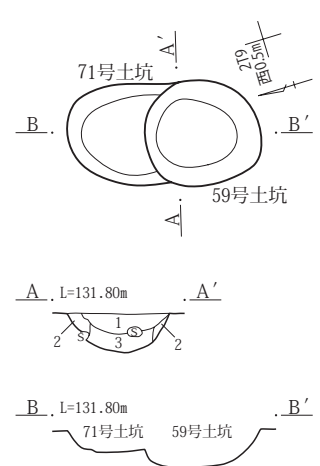


- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 2~10mm大)・炭化粒子(φ 2~40mm大)を含む。締りやや良。(10YR4/2)
- 2 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 2~5mm大)と少量のにぶい黄褐色シルト質土ブロックを含む。締りやや良。(10YR4/2)

58号土坑

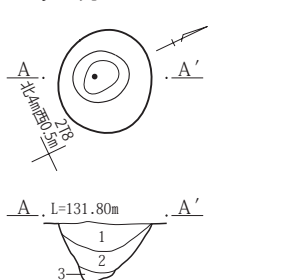


59・71号土坑



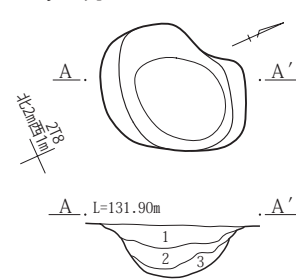
- 59号土坑
- 1 褐灰色シルト質土 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 2~20mm大)・小礫(φ 2~80mm大)を含む。(10YR4/1)
- 2 灰黄褐色シルト質土 にぶい黄褐色シルト質土ブロックを混入する。(10YR5/2)
- 3 灰黄褐色シルト質土 微量の炭化粒子(φ 3~7mm大)を含む。(10YR4/2)

60号土坑



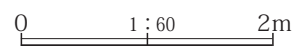
- 60号土坑
- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 2~4mm大)・炭化粒子(φ 2~10mm大)を含む。(10YR4/2)
- 2 灰黄褐色シルト質土 榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 2~10mm大)・にぶい黄褐色土ブロックを含む。締りやや弱。(10YR4/2)
- 3 灰黄褐色シルト質土 少量の砂質土混じり。締りやや弱。(10YR4/2)

61号土坑



61号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 2~4mm大)・炭化粒子(φ 2~8mm大)・小礫(φ 2~10mm大)とにぶい黄褐色土ブロックを含む。(10YR4/2)
- 2 褐灰色シルト質土 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 2~12mm大)を含む。(10YR4/1)
- 3 灰黄褐色シルト質土 少量の砂質土混じり。(10YR4/2)



第664図 VII区56~61・71号土坑と56・58号土坑の出土遺物

新旧関係 97号土坑が旧。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長径は1.18m、短径は1.13m、深さは0.45mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

遺物 埋土から須恵器の甕(2)が出土した。

時代 古墳時代以降である。

97号土坑(第665図、PL.357)

グリッド 13-2区T10

長軸方位 N6°E

新旧関係 65号土坑が新。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長辺は1.45m、短辺は0.83m、深さは0.23mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

66号土坑(第666図、PL.355)

グリッド 13-3区A10

長軸方位 N45°E

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は1.27m、短径は1.21m、深さは0.34mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

67号土坑(第666図、PL.355・444)

グリッド 13-3区A10

長軸方位 N72°W

新旧関係 なし。

形状と規模 楕円形を呈し、断面形状は歪んだV字形を呈する。長径は2.18m、短径は1.86m、深さは0.60mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

遺物 埋土から土錘(1)や土師器の杯(2)が出土した。

時代 平安時代9世紀後半。

68号土坑(第666図、PL.355・444)

グリッド 13-3区A10

長軸方位 N26°E

新旧関係 なし。

形状と規模 楕円形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長径は1.42m、短径は1.16m、深さは0.34mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

遺物 埋土から須恵器の杯(3)や鉄鏃(4)が出土した。

時代 平安時代10世紀後半。

69号土坑(第666図、PL.355)

グリッド 13-3区A9

長軸方位 N62°E

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長径は0.93m、短径は0.81m、深さは0.44mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

遺物 埋土から須恵器の甗(5)が出土した。

時代 平安時代10世紀前半。

72号土坑(第666図、PL.355)

グリッド 13-2区T9

長軸方位 N87°E

新旧関係 59号住居、71号土坑が旧。112号土坑、12号ピットが新。

形状と規模 楕円形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は1.97m、短径は1.68m、深さは0.78mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 10世紀後半より新。

73号土坑(第667図、PL.355)

グリッド 13-2区T10

長軸方位 N27°W

新旧関係 84号住居が旧。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長辺は1.58m、短辺は0.82m、深さは0.45mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 10世紀より新。

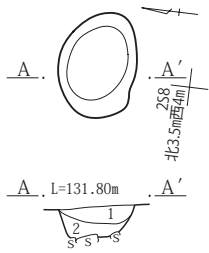
74号土坑(第667図、PL.355・356・444)

グリッド 13-2区S10

長軸方位 N50°W

新旧関係 189号土坑が旧。

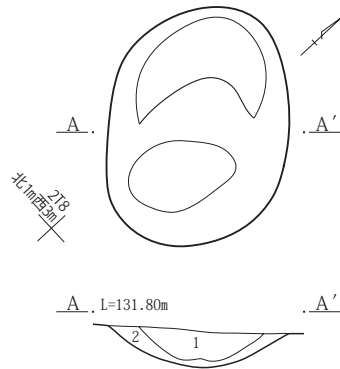
62号土坑



62号土坑

- 1 黒褐色シルト質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 2~10mm大)・炭化粒子(φ 5mm大)・小礫(φ 2~15mm大)とにぶい黄橙色土ブロックを混入する。縮りやや弱。
- 2 灰黄褐色土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 2~3mm大)とにぶい黄橙色土ブロックを混入する。縮りやや弱。

64号土坑



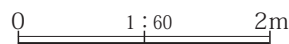
- 1 黒褐色シルト質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 2~10mm大)・炭化粒子(φ 1~3mm大)・礫(φ 2~70mm大)とにぶい黄橙色シルト質土ブロック混じりを含む。縮りやや弱。
- 2 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 2~5mm大)・炭化粒子(φ 1~2mm大)・小礫(φ 2~30mm大)とにぶい黄橙色シルト質土ブロックを含む。縮りやや弱。

65号土坑

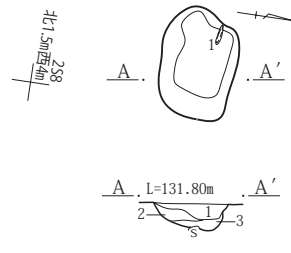
- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 2~5mm大)・炭化粒子(φ 2~3mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 2~10mm大)・炭化粒子(φ 1~3mm大)を含む。縮りやや弱。

97号土坑

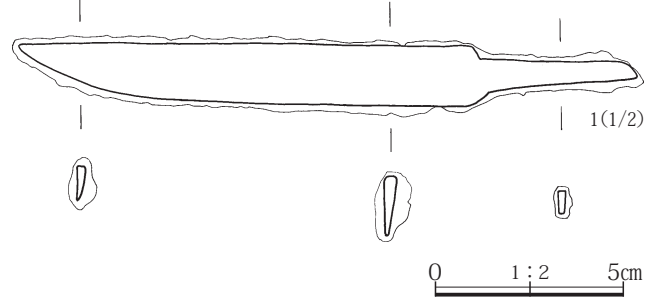
- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 2~3mm大)・焼土粒子(φ 1~2mm大)・炭化粒子(φ 2~4mm大)を含む。縮りやや弱。
- 2 灰黄褐色シルト質土 榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 2~10mm大)とにぶい黄橙色シルト質土ブロックを含む。縮りやや弱。



63号土坑



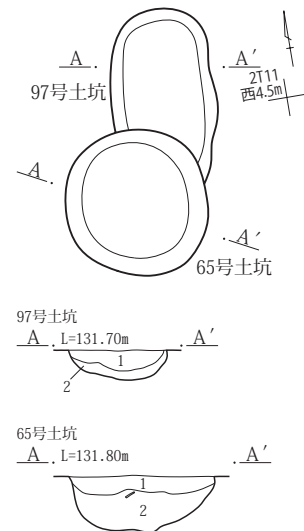
63号土坑



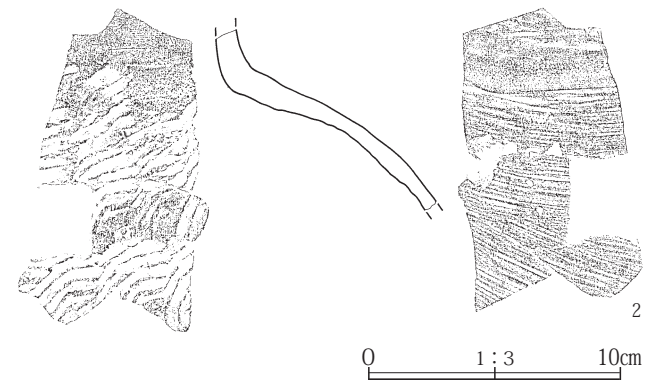
63号土坑

- 1 褐灰色シルト質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 2~7mm大)と炭化粒子・焼土粒子(φ 2~3mm大)を含む。
- 2 にぶい黄橙色シルト質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 2~4mm大)を含む。
- 3 灰黄褐色シルト質土 榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 2~5mm大)を含む。にぶい黄橙色土ブロックを混入する。

65・97号土坑



65号土坑



第665図 VII区62~65・97号土坑と63・65号土坑の出土遺物

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は歪んだ箱形を呈する。長辺は1.76m＋、短辺は1.25m、深さは0.46mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

遺物 埋土から須恵器の椀(1)や刀子(2)、底面付近から羽口(3・4)が出土した。

時代 平安時代10世紀前半。

75号土坑(第667図、PL.356)

グリッド 13－2区R11

長軸方位 N13°W

新旧関係 76号土坑が旧。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。

長辺は1.22m、短辺は1.10m、深さは0.48mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

遺物 埋土から須恵器の羽釜(5)が出土した。

時代 平安時代10世紀前半。

76号土坑(第667図、PL.356)

グリッド 13－2区R11

長軸方位 N27°W

新旧関係 56・57号住居が旧。75号土坑が新。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。

長辺は1.72m、短辺は1.32m、深さは0.58mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 10世紀後半より新。

77号土坑(第668図、PL.356)

グリッド 13－2区S10

長軸方位 N9°E

新旧関係 3号竪穴、78号土坑が新。

形状と規模 楕円形を呈し、断面形状は皿形を呈する。

長径は1.28m、短径は1.05m、深さは0.56mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

78号土坑(第668図、PL.356)

グリッド 13－2区S10

長軸方位 N54°W

新旧関係 57号住居、77号土坑が旧。3号竪穴が新。

形状と規模 楕円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は1.09m、短径は0.90m＋、深さは0.13mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

79号土坑(第668図、PL.356)

グリッド 13－2区T10

長軸方位 N10°W

新旧関係 84号住居が新。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.23m、短辺は1.12m、深さは0.25mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 9世紀前半より旧。

88号土坑(第668図、PL.356)

グリッド 13－2区S11

長軸方位 N10°W

新旧関係 84号住居が新。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は0.83m、短辺は0.80m、深さは0.19mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 9世紀前半より旧。

80号土坑(第668図)

グリッド 13－3区A13

長軸方位 N8°E

新旧関係 44号住居が新。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.24m、短辺は1.11m＋、深さは0.20mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 9世紀第3四半期より旧。

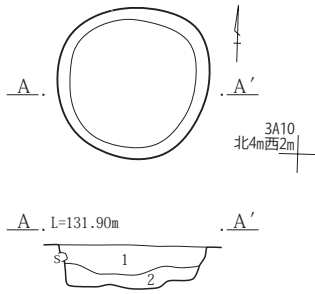
81号土坑(第668図、PL.356)

グリッド 13－2区T15

長軸方位 N27°W

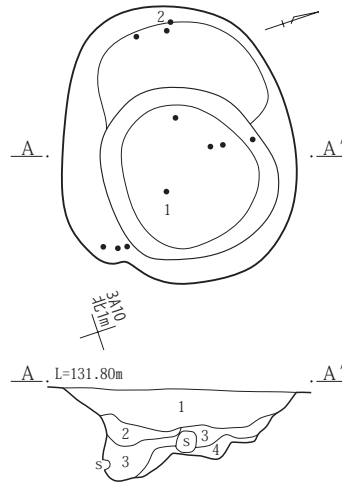
新旧関係 43号土坑が旧。

66号土坑

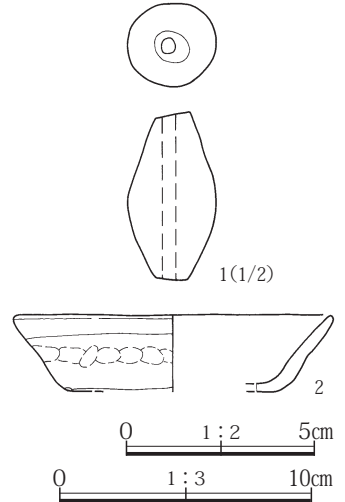


- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(10YR4/2) (φ 2~20mm大)・炭化粒子(φ 1~2mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色土 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 2~20mm大)とにぶい黄橙色シルト質土ブロックを含む。

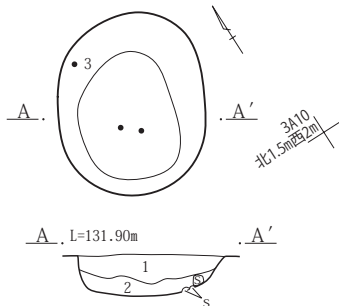
67号土坑



67号土坑

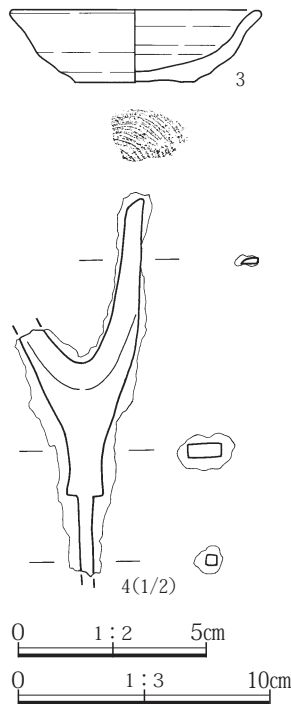


68号土坑

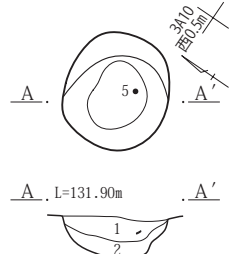


- 1 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の榛名ニツ岳白色軽石(φ 2~40mm大)を含む。
 - 2 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の小礫(φ 5~50mm大)を含む。
 - 3 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の円礫(φ 5~70mm大)を含む。
 - 4 褐灰色砂質土(10YR4/1)+シルト質土 微量の小礫(φ 2~20mm大)を含む。
- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 2~10mm大)・炭化粒子(φ 1~3mm大)を含む。
 - 2 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 2~5mm大)・円礫(φ 5~70mm大)を含む。

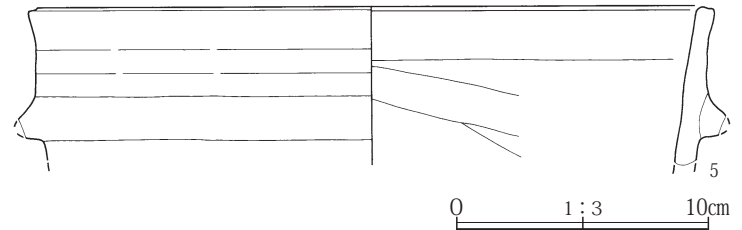
68号土坑



69号土坑



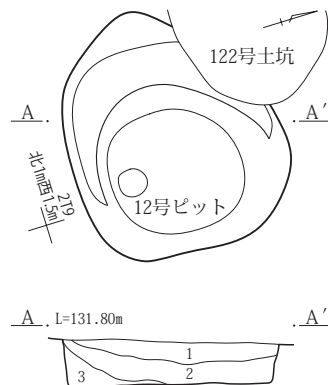
69号土坑



69号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の炭化粒子(φ 2~5mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の円礫(φ 5~70mm大)を含む。

72号土坑

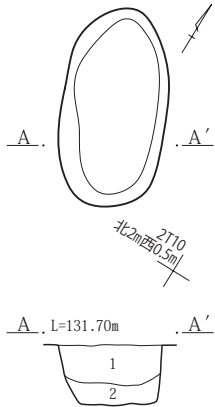


72号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土 シルト質土混じり。微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(10YR4/2) (φ 2~10mm大)、炭化物・粒(φ 2~20mm大)、円礫(φ 2~50mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色砂質土 シルト質土混じり。微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(10YR3/2) (φ 2~3mm大)・炭化粒子(φ 2~4mm大)・円礫(φ 5~40mm大)を含む。
- 3 灰黄褐色砂質土中心層 微量の炭化粒子(φ 2~3mm大)・小円礫(φ 2~5mm大)を含む。

第666図 VII区66~69・72号土坑と67~69号土坑の出土遺物

73号土坑

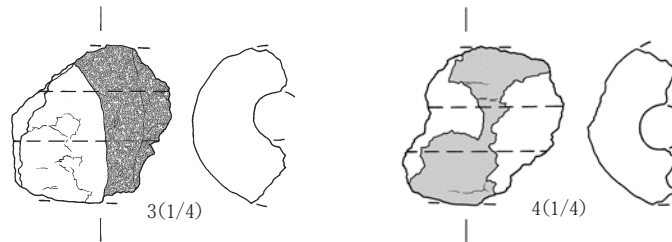


73号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 2~4mm大)・炭化粒子(φ 1~2mm大)を含む。締りやや弱。(10YR4/2)
- 2 にぶい黄橙色シルト質土 にぶい黄橙色シルト質土ブロックを含む。(10YR6/3)

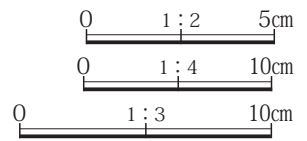
74号土坑

- 1 灰黄褐色土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 2~7mm大)・炭化粒子(φ 2~4mm大)・小円礫(φ 2~50mm大)を含む。(10YR5/2)
- 2 灰黄褐色土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 2~20mm大)・炭化粒子(φ 2~4mm大)を含む。羽口出土。(10YR4/2)
- 3 灰黄褐色土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 2~3mm大)とにぶい黄橙色土ブロックを含む。(10YR4/2)

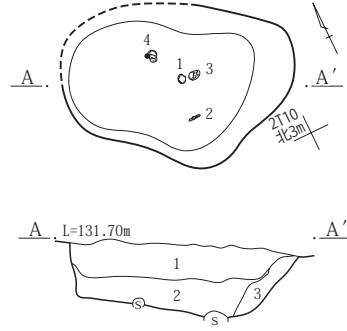


3(1/4)

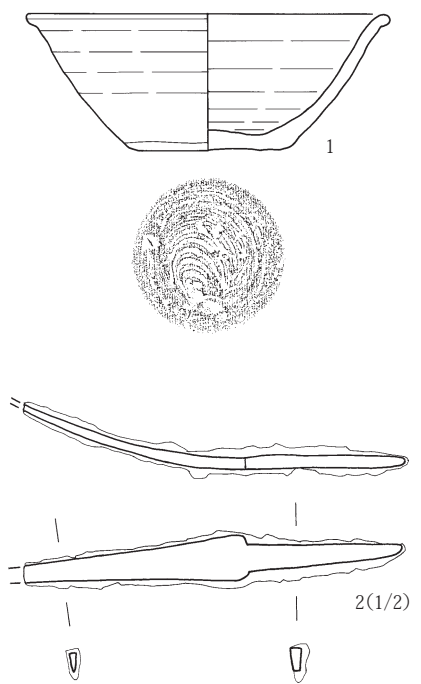
4(1/4)



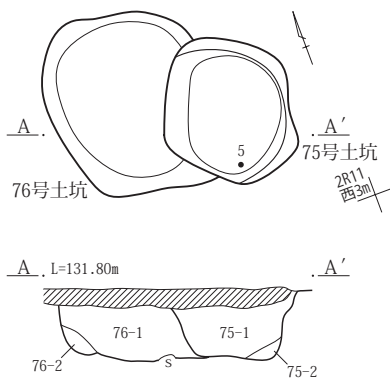
74号土坑



74号土坑

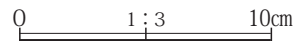
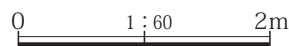
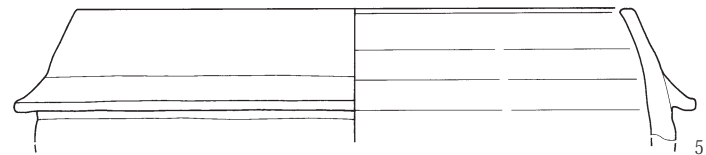


75・76号土坑



- 75-1 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石(φ 2~40mm大)・炭化粒子(φ 2~3mm大)を含む。(10YR4/2)
- 75-2 灰黄褐色シルト質土 にぶい黄橙色シルト質土ブロックを含む。(10YR5/2)
- 76-1 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石大粒(φ 2~50mm大)・炭化粒子(φ 1~3mm大)を含む。(10YR4/2)
- 76-2 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 2~5mm大)と少量のにぶい黄橙色シルト質土を含む。(10YR5/2)

75号土坑



第667図 VII区73~76号土坑と74・75号土坑の出土遺物

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は2.22m、短辺は1.87m、深さは0.19mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

遺物 埋土から灰釉陶器の椀(1)や須恵器の椀(2)が出土した。

時代 平安時代10世紀前半。

82号土坑(第668図、PL.356)

グリッド 13-2区S9

長軸方位 N40°E

新旧関係 83号土坑が新。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は1.04m、短径は1.01m+、深さは0.52mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

83号土坑(第668図、PL.356)

グリッド 13-2区S9

長軸方位 N27°W

新旧関係 82号土坑が旧。

形状と規模 楕円形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は1.18m、短径は1.05m、深さは0.68mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

84号土坑(第669図、PL.356)

グリッド 13-2区S9

長軸方位 N30°E

新旧関係 57号土坑が新。87号土坑が旧。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は1.60m、短径は1.40m、深さは0.57mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

遺物 埋土から須恵器の壺(1)が出土した。

時代 古墳時代以降である。

87号土坑(第669図、PL.356)

グリッド 13-2区S9

長軸方位 N53°W

新旧関係 84号土坑が新。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.25m+、短辺は1.01m+、深さは0.48mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

遺物 埋土から須恵器の獣脚付壺(1)が出土した。

時代 奈良~平安時代。

85号土坑(第669図、PL.356)

グリッド 13-2区T9

長軸方位 N13°W

新旧関係 59号住居が旧。14号ピットが新。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は不明である。長径は0.96m+、短径は0.58m+、深さは0.28mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

86号土坑(第669図)

グリッド 13-3区C16

長軸方位 N33°W

新旧関係 94号住居が旧。

形状と規模 楕円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は1.14m、短径は0.94m+、深さは0.25mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 10世紀より新。

89号土坑(第669図、PL.357・444)

グリッド 13-2区S8

長軸方位 N84°E

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長辺は0.88m、短辺は0.66m、深さは0.17mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

遺物 埋土から土師器の杯(2)が出土した。

時代 平安時代9世紀後半。

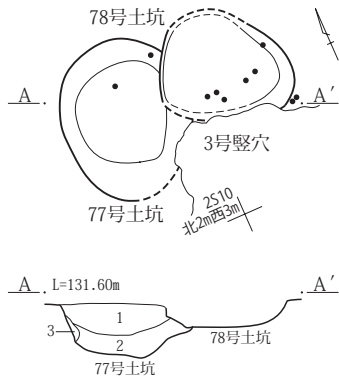
91号土坑(第669図、PL.357)

グリッド 13-2区S11

長軸方位 N16°E

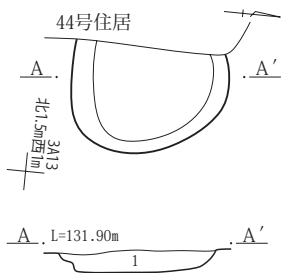
新旧関係 なし。

77・78号土坑



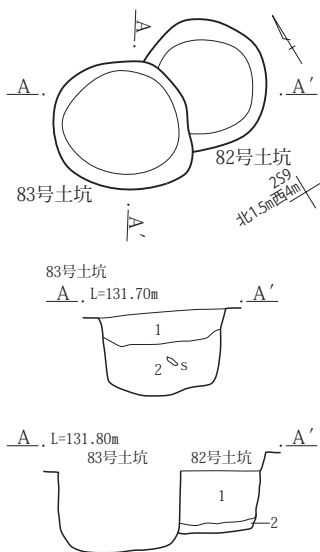
- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒・炭化粒子・焼土粒子(φ 1~2mm大)を含む。締りやや弱。(10YR4/2)
- 2 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1~5mm大)・炭化粒子(φ 1~2mm大)を含む。締りやや弱。(10YR4/2)
- 3 灰黄褐色土 微量のにぶい黄褐色土ブロックを含む。締りやや弱。(10YR4/2)

80号土坑



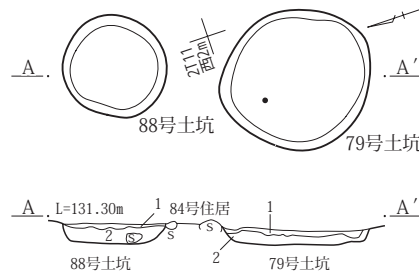
- 1 灰黄褐色砂質土 少量の榛名ニツ岳白色軽石小粒・にぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ 5~10mm大)を含む。(10YR5/2)

82・83号土坑



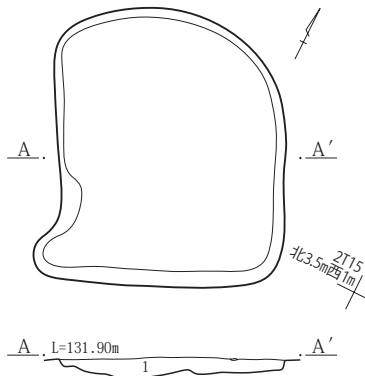
- 81号土坑
- 1 灰黄褐色砂質土 微量の榛名ニツ岳白色軽石と多量のにぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ 10~20mm大)を含む。(10YR4/2)
- 82号土坑
- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 2~20mm大)、炭化物・粒、小円礫(φ 2~10mm大)を含む。(10YR4/2)
 - 2 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 2~5mm大)と少量のにぶい黄褐色シルト質土を含む。(10YR4/2)
- 83号土坑
- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 2~20mm大)・炭化粒子(φ 2~3mm大)・小円礫(φ 2~5mm大)を含む。(10YR4/2)
 - 2 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 2~10mm大)・炭化粒子(φ 1~2mm大)・円礫(φ 5~50mm大)を含む。締りやや弱。(10YR4/2)

79・88号土坑

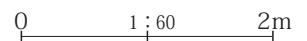
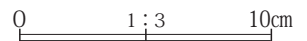
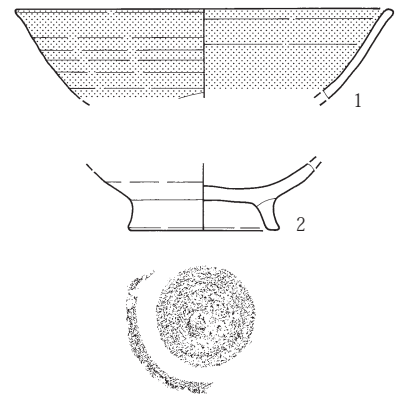


- 79号土坑
- 1 にぶい黄褐色シルト質土 微量のにぶい黄褐色シルト質土混じりを含む。(10YR6/3) 締りやや良。
 - 2 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒、炭化物・粒(φ 2~10mm大)と小円礫(φ 5~50mm大)と少量のにぶい黄褐色シルト質土を含む。(10YR4/2)
- 88号土坑
- 1 灰黄褐色シルト質土(10YR6/2) 少量のにぶい黄褐色土を含む。
 - 2 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 2~4mm大)・炭化粒子(φ 2~5mm大)・円礫(φ 5~100mm大)を含む。

81号土坑



81号土坑



第668図 VII区77~83・88号土坑と81号土坑の出土遺物

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.39m、短辺は0.70m、深さは0.20mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

92号土坑(第669図、PL.357・444)

グリッド 13-2区T9

長軸方位 N15°W

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。

長辺は1.49m、短辺は1.25m、深さは0.68mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

遺物 埋土から鉄製品(3)が出土した。

時代 古墳時代以降である。

93号土坑(第669図、PL.357)

グリッド 13-2区R10

長軸方位 N3°W

新旧関係 56号住居が新。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.53m、短辺は0.83m、深さは0.10mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 10世紀後半より旧。

94号土坑(第670図、PL.357)

グリッド 13-2区R11

長軸方位 N33°W

新旧関係 98号住居が旧。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は皿形を呈する。

長辺は1.25m、短辺は1.23m、深さは0.34mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 10世紀より新。

95号土坑(第670図、PL.357)

グリッド 13-2区S8

長軸方位 N14°W

新旧関係 82号住居が新。98号土坑が旧。

形状と規模 楕円形を呈し、断面形状は箱形を呈する。

長径は1.26m、短径は1.12m、深さは0.73mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 10世紀中頃より旧。

98号土坑(第670図、PL.357)

グリッド 13-2区S8

長軸方位 N85°E

新旧関係 95号土坑が新。

形状と規模 楕円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は1.25m、短径は1.15m、深さは0.23mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

96号土坑(第670図、PL.357)

グリッド 13-2区S9

長軸方位 N81°W

新旧関係 19・20号ピットが新。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長辺は0.82m、短辺は0.53m、深さは0.20mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

99号土坑(第670図、PL.357)

グリッド 13-2区S10

長軸方位 N13°W

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長辺は0.93m、短辺は0.65m、深さは0.25mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

100号土坑(第670図、PL.357)

グリッド 13-2区S11

長軸方位 N54°E

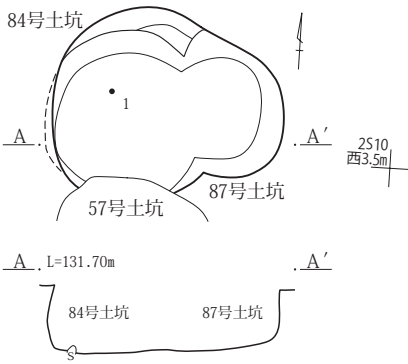
新旧関係 54号住居、101・118号土坑が旧。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長辺は1.03m、短辺は0.93m、深さは0.42mである。

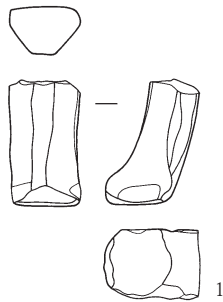
埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 10世紀前半より新。

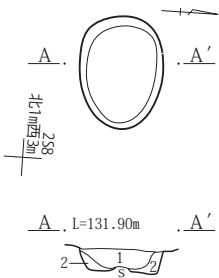
84・87号土坑



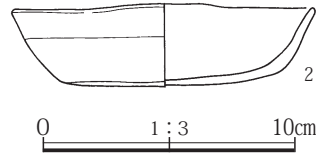
84号土坑



89号土坑

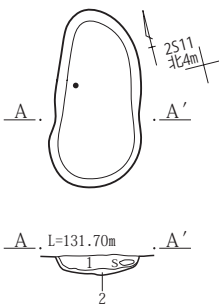


89号土坑



- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 2~5mm大)・炭化粒子(φ 1~3mm大)を含む。(10YR4/2)
- 2 にぶい黄褐色シルト質土 少量のにぶい黄橙色土を含む。(10YR5/2)

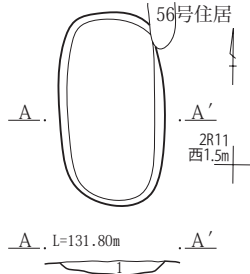
91号土坑



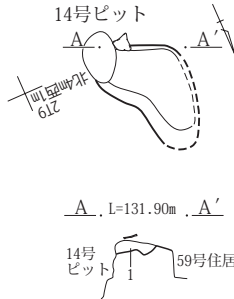
91号土坑

- 1 灰黄褐色土 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1~4mm大)・炭化粒子(φ 1~3mm大)を含む。(10YR4/2)
- 2 にぶい黄褐色シルト質土 榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 2~3mm大)とにぶい黄褐色シルト質土ブロックを含む。(10YR5/3)

93号土坑



85号土坑



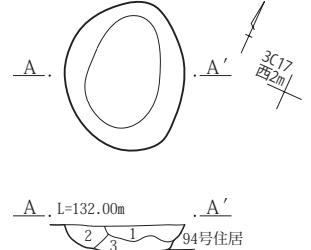
85号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 2~4mm大)・小円礫(φ 5~30mm大)を含む。(10YR4/2)

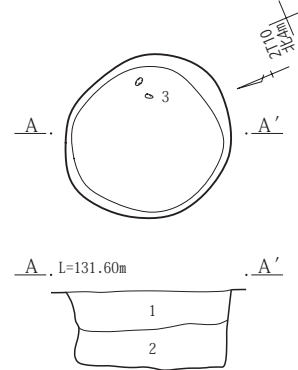
86号土坑

- 1 黄褐色砂質土 少量の榛名ニツ岳白色軽石小粒・にぶい黄褐色砂質土(10YR4/2)シルト小ブロック(φ 5~15mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色砂質土 少量の榛名ニツ岳白色軽石と多量のにぶい黄褐色砂質土(10YR4/2)質土シルト小ブロック(φ 5~15mm大)を含む。
- 3 黒褐色土砂質土 少量の榛名ニツ岳白色軽石とにぶい黄褐色砂質土(10YR3/2)シルト小ブロック(φ 5~15mm大)を含む。

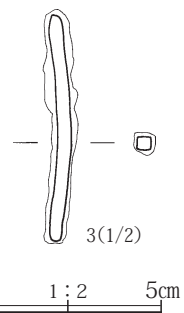
86号土坑



92号土坑



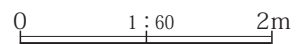
92号土坑



- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名ニツ岳白色軽石(φ 2~30mm大)・焼土粒子(φ 1~3mm大)・炭化粒子(φ 1~5mm大)とにぶい黄褐色シルト質土粒(φ 2~5mm大)を含む。(10YR5/2)
- 2 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒・炭化粒子(φ 2~7mm大)・焼土粒子(φ 2~10mm大)・円礫(φ 50~100mm大)を含む。(10YR4/2)

93号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1~5mm大)・焼土粒子(φ 2~3mm大)と榛名ニツ岳火山灰ブロックを含む。締りやや弱。



第669図 VII区84~87・89・91~93号土坑と84・89・92号土坑の出土遺物

101号土坑(第670図、PL.357)

グリッド 13-2区S11

長軸方位 N43°E

新旧関係 57号住居、100号土坑が新。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長辺は1.31m+、短辺は1.01m+、深さは0.33mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 10世紀後半より新。

118号土坑(第670図、PL.359)

グリッド 13-2区S11

長軸方位 N46°W

新旧関係 54号住居が旧。100号土坑が新。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は不明である。長径は0.83m、短径は0.78m+、深さは0.19mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 10世紀後半より新。

102号土坑(第671図、PL.358)

グリッド 13-2区T12

長軸方位 N68°E

新旧関係 95号住居、103号土坑が旧。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は1.17m、短径は1.08m、深さは0.31mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 9世紀第1四半期より新。

103号土坑(第671図、PL.358)

グリッド 13-2区T12

長軸方位 N16°W

新旧関係 95号住居が旧。102号土坑が新。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.67m、短辺は1.16m+、深さは0.33mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 9世紀第1四半期より新。

104号土坑(第671図、PL.358)

グリッド 13-2区T12

長軸方位 N52°W

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。

長径は0.93m、短径は0.83m、深さは0.32mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

遺物 埋土から須恵器の椀(1)が出土した。

時代 平安時代9世紀後半。

105号土坑(第671図、PL.358)

グリッド 13-2区S11

長軸方位 N62°W

新旧関係 24号ピットが旧。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.49m、短辺は1.03m、深さは0.10mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

106号土坑(第671図、PL.358)

グリッド 13-2区S11

新旧関係 54・95号住居、107号土坑が旧。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は浅い箱形を呈する。

直径は1.30m、深さは0.39mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 10世紀前半より新。

107号土坑(第671図、PL.358)

グリッド 13-2区S11

長軸方位 N21°W

新旧関係 106号土坑が新。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い箱形を呈する。長辺は1.09m、短辺は0.94m、深さは0.23mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

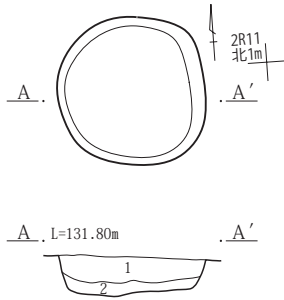
108号土坑(第671図)

グリッド 13-2区O16

長軸方位 N16°E

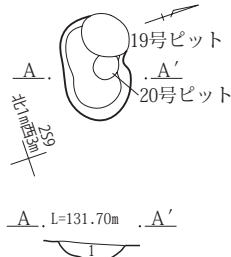
新旧関係 62・63号住居が新。10号溝が旧。

94号土坑



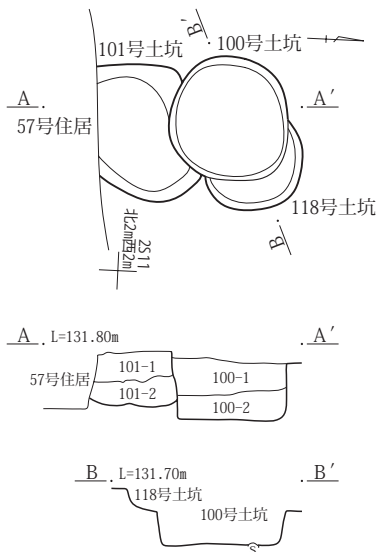
- 1 灰黄褐色土(10YR3/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 2~3mm大)・炭化粒子(φ 2~10mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2) 榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 2~5mm大)・小円礫(φ 3~10mm大)を含む。

96号土坑



- 1 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) にぶい黄橙色FAシルト質土ブロックを含む。

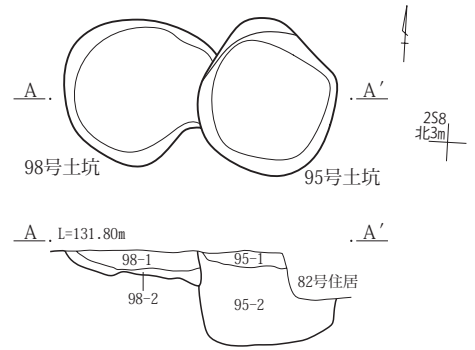
100・101・118号土坑



100・101号土坑

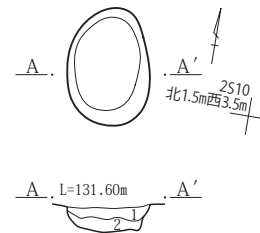
- 100-1 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 2~20mm大)・炭化粒子(φ 2~3mm大)・小円礫(φ 10~50mm大)を含む。
- 100-2 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 2~20mm大)・炭化粒子(φ 1~3mm大)を含む。
- 101-1 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 2~10mm大)・炭化粒子(φ 1~2mm大)を含む。
- 101-2 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 2~10mm大)・炭化粒子(φ 1~2mm大)とにぶい黄橙色シルト質土を含む。

95・98号土坑

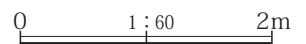


- 95-1 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 2~3mm大)・炭化粒子(φ 2~5mm大)を含む。
- 95-2 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒・炭化粒子(φ 2~10mm大)、円礫(φ 5~70mm大)を含む。締りやや弱。
- 98-1 灰黄褐色土 微量の榛名二ツ岳白色軽石(φ 2~30mm大)・炭化粒子(φ 2~3mm大)、にぶい黄橙色シルト質土ブロックを混入する。
- 98-2 灰黄褐色土 榛名二ツ岳白色軽石(φ 2~5mm大)・炭化粒子(φ 1~3mm大)を含む。にぶい黄橙色シルト質土ブロックを混入する。締りやや弱。

99号土坑



- 1 灰黄褐色土(10YR4/2) 少量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 2~3mm大)・榛名二ツ岳火山灰を含む。
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2) 微量の榛名二ツ岳火山灰を含む。



第670図 VII区94~96・98~101・118号土坑

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は歪んだV字形を呈する。長辺は1.23m＋、短辺は1.07m＋、深さは0.17mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 10世紀後半より旧。

109号土坑(第671図)

グリッド 13－2区N15

新旧関係 なし。

形状と規模 歪んだ円形を呈し、断面形状は箱形を呈する。直径は1.12m、深さは0.41mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

110号土坑(第671図)

グリッド 13－2区N15

長軸方位 N68°W

新旧関係 65号住居が旧。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は歪んだ箱形を呈する。長辺は1.37m、短辺は0.79m、深さは0.33mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 10世紀第1四半期より新。

111号土坑(第672図、PL.358)

グリッド 13－2区T11

長軸方位 N33°W

新旧関係 54・95号住居が旧。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は1.10m、短径は1.03m、深さは0.60mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀前半より新。

112号土坑(第672図、PL.358)

グリッド 13－2区T9

長軸方位 N66°E

新旧関係 59号住居、72号土坑が旧。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長辺は1.42m、短辺は1.09m、深さは0.77mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 10世紀後半より新。

114号土坑(第672図、PL.358)

グリッド 13－2区S12

長軸方位 N74°E

新旧関係 54号住居が旧。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。

長辺は1.27m、短辺は1.08m、深さは0.69mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 10世紀前半より新。

115号土坑(第672図、PL.358)

グリッド 13－2区T10

長軸方位 N39°W

新旧関係 116号土坑が新。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。

長辺は0.89m＋、短辺は0.84m、深さは0.46mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

116号土坑(第672図、PL.358)

グリッド 13－2区T10

長軸方位 N24°W

新旧関係 59号住居、115号土坑が旧。

形状と規模 楕円形を呈し、断面形状は箱形を呈する。

長径は1.48m、短径は1.22m、深さは0.72mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 10世紀後半より新。

117号土坑(第672図、PL.359)

グリッド 13－2区S11

長軸方位 N65°W

新旧関係 57号住居が新。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。

長辺は1.04m、短辺は0.92m、深さは0.60mである。

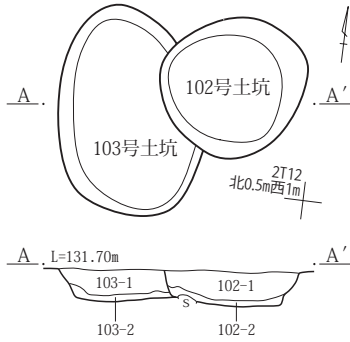
埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 10世紀後半より旧。

119号土坑(第672図、PL.359)

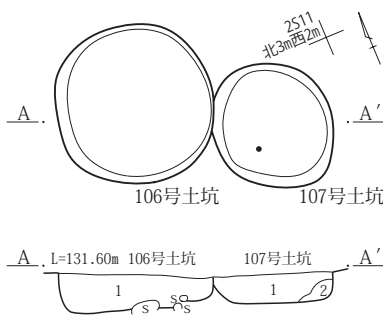
グリッド 13－2区S8

102・103号土坑



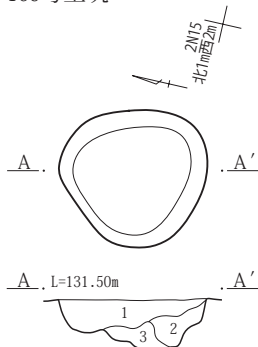
- 102-1 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 2～3mm大)・炭化粒子(φ 1～3mm大)を含む。(10YR4/2)
- 102-2 灰黄褐色土 少量のにぶい黄橙色シルト質土を含む。(10YR5/2)
- 103-1 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 2～10mm大)・炭化粒子(φ 1～2mm大)・焼土粒子(φ 2～4mm大)を含む。(10YR4/2)
- 103-2 灰黄褐色土 少量のにぶい黄橙色シルト質土を含む。(10YR4/2)

106・107号土坑

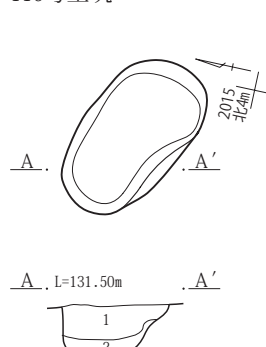


- 106号土坑
1 灰黄褐色土砂質土 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 2～5mm大)・円礫(φ 10～200mm大)を含む。(10YR4/2)
- 107号土坑
1 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 2～15mm大)・炭化粒子(φ 2～5mm大)を含む。(10YR4/2)
2 灰黄褐色シルト質土 にぶい黄橙色シルト質土ブロックを含む。(10YR4/2)

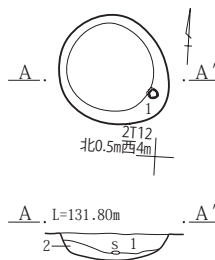
109号土坑



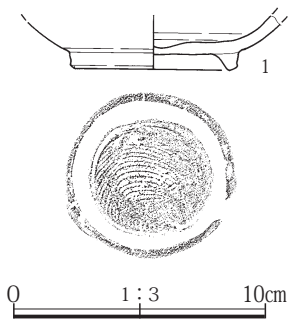
110号土坑



104号土坑

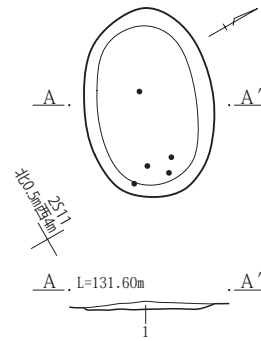


104号土坑



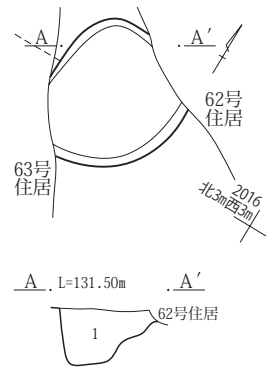
- 1 灰黄褐色土 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒・炭化粒子(φ 2～3mm大)を含む。(10YR4/2)
- 2 灰黄褐色土 微量のにぶい黄褐色土・小礫(φ 10～40mm大)を含む。(10YR4/2)

105号土坑



- 105号土坑
1 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 2～10mm大)・炭化粒子(φ 2～3mm大)・焼土粒子(φ 1～2mm大)を含む。(10YR4/2)

108号土坑



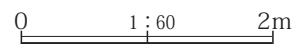
- 108号土坑
1 灰黄褐色砂質土 少量の榛名ニツ岳白色軽石と多量のにぶい黄橙色砂質土シルト小ブロック(φ 5～20mm大)を含む。(10YR5/2)

109号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土 多量の榛名ニツ岳白色軽石とにぶい黄橙色砂質土シルト小ブロック(φ 5mm大)を含む。(10YR5/2)
- 2 灰黄褐色砂質土 微量の榛名ニツ岳白色軽石と少量のにぶい黄橙色砂質土シルト小ブロック(φ 5～10mm大)を含む。(10YR4/2)
- 3 灰黄褐色砂質土 微量の榛名ニツ岳白色軽石と多量のにぶい黄橙色砂質土シルト小ブロック(φ 5～30mm大)を含む。(10YR6/2)

110号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土 少量の榛名ニツ岳白色軽石・にぶい黄橙色砂質土シルトブロック(φ 10～30mm大)を含む。(10YR6/2)
- 2 にぶい黄橙色砂質土 微量の榛名ニツ岳白色軽石を含む。(10YR6/4)



第671図 VII区102～110号土坑と104号土坑の出土遺物

長軸方位 N79° E

新旧関係 82号住居が旧。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は半月形を呈する。

長径は1.45m、短径は0.73m+、深さは0.63mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 10世紀中頃より新。

120号土坑(第672図)

グリッド 13-2区T13

長軸方位 N86° W

新旧関係 53号住居が旧。

形状と規模 長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.78m、短辺は0.93m、深さは0.28mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀前半より新。

121号土坑(第673図)

グリッド 13-2区S13

長軸方位 N83° E

新旧関係 52号住居、197・198号土坑が旧。

形状と規模 長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は2.10m、短辺は1.39m、深さは0.14mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 10世紀初頭より新。

195号土坑(第673図)

グリッド 13-2区S14

長軸方位 N74° E

新旧関係 52号住居が旧。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.55m、短辺は1.34m、深さは0.10mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 10世紀初頭より新。

196号土坑(第673図)

グリッド 13-2区S13

長軸方位 N5° E

新旧関係 52号住居が旧。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.35m、短辺は0.95m、深さは0.12mで

ある。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 10世紀初頭より新。

197号土坑(第673図)

グリッド 13-2区S13

長軸方位 N48° E

新旧関係 121号土坑が新。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は0.85m、短辺は0.82m+、深さは0.10mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

122号土坑(第673図、PL.359)

グリッド 13-3区A11

長軸方位 N78° W

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は半月形を呈する。長辺は0.81m、短辺は0.65m、深さは0.28mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなり、礫を多く含む。

時代 古墳時代以降である。

123号土坑(第673図、PL.359)

グリッド 13-2区R9

長軸方位 N10° E

新旧関係 60号住居が新。147号土坑が旧。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長径は1.12m、短径は1.01m、深さは0.37mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 11世紀より旧。

147号土坑(第673図、PL.360)

グリッド 13-2区R9

長軸方位 N19° E

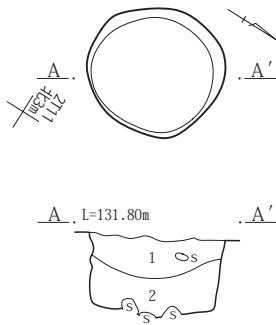
新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長辺は1.15m+、短辺は1.03m+、深さは0.54mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

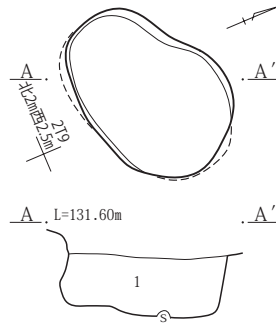
111号土坑



111号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 2~10mm大)・炭化粒子(φ 1~4mm大)・小円礫(φ 10~50mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色砂質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~5mm大)・炭化粒子(φ 1~3mm大)・円礫(φ 20~200mm大)を含む。

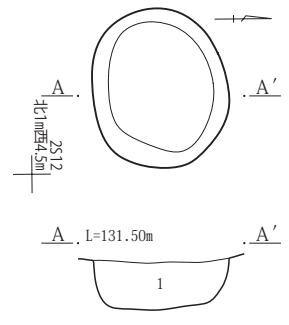
112号土坑



112号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 2~5mm大)・炭化粒子(φ 2~4mm大)・小円礫(φ 10~50mm大)と砂質土の混土

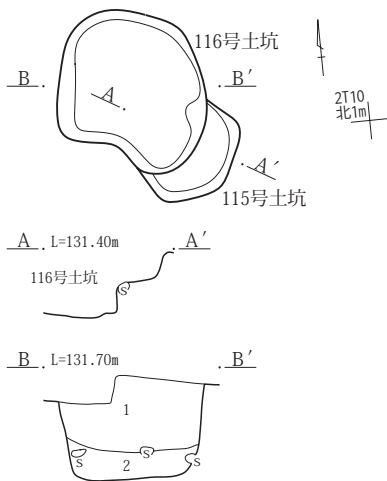
114号土坑



114号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 2~15mm大)、炭化粒子・焼土粒子(φ 1mm大)、小円礫(φ 10~50mm大)を含む。縮りやや弱。

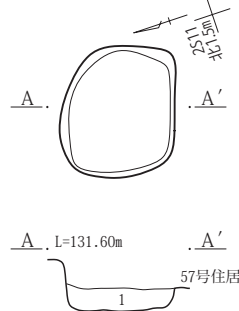
115・116号土坑



116号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 2~5mm大)・炭化粒子(φ 1~3mm大)・小円礫(φ 5~70mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色砂質土 微量の円礫(φ 30~200mm大)・炭化粒子(φ 2~5mm大)を含む。

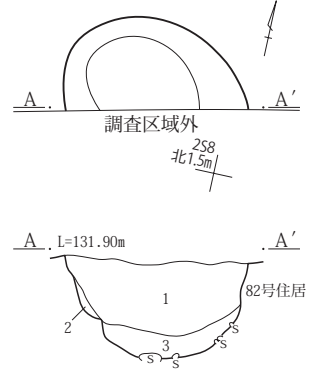
117号土坑



117号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~20mm大)・炭化粒子(φ 1~2mm大)・小円礫(φ 5~20mm大)を含む。

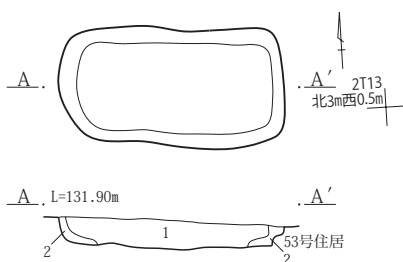
119号土坑



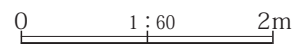
119号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土 榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 2~10mm大)・炭化粒子(φ 1~3mm大)・小円礫(φ 30~70mm大)を含む。
- 2 にぶい黄褐色土 にぶい黄褐色シルト質土ブロックを含む。(10YR5/3)
- 3 黒褐色砂質土 少量の粗砂を混入する。微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~4mm大)・円礫(φ 40~100mm大)を含む。縮りやや弱。

120号土坑



- 1 灰黄褐色砂質土 少量の榛名二ツ岳白色軽石とにぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ 5~10mm大)を含む。(10YR4/2)
- 2 灰黄褐色砂質土 少量の榛名二ツ岳白色軽石と多量のにぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ 5~10mm大)を含む。(10YR5/2)



第672図 VII区111・112・114~117・119・120号土坑

126号土坑(第673図、PL.359)

グリッド 13-3区A11

長軸方位 N47°W

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状はV字形を呈する。長辺は0.69m、短辺は0.56m、深さは0.40mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

127号土坑(第673図、PL.359)

グリッド 13-2区Q11

長軸方位 N5°E

新旧関係 98号住居が旧。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は半月形を呈する。長径は1.42m、短径は1.25m、深さは0.65mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 10世紀より新。

128号土坑(第673図、PL.359)

グリッド 13-2区Q12

長軸方位 N88°E

新旧関係 129号土坑が新。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は1.06m、短径は0.88m、深さは0.17mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

129号土坑(第673図、PL.359)

グリッド 13-2区Q12

長軸方位 N72°E

新旧関係 55号住居、128・138号土坑が旧。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は1.05m、短径は1.00m、深さは0.20mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 10世紀前半より新。

130号土坑(第673図、PL.359)

グリッド 13-2区R12

長軸方位 N8°E

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は0.91m、短辺は0.85m、深さは0.14mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

131号土坑(第673図、PL.359)

グリッド 13-2区Q12

長軸方位 N86°E

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.22m、短辺は0.95m、深さは0.16mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

132号土坑(第673図、PL.359)

グリッド 13-2区R11

長軸方位 N4°W

新旧関係 98号住居が旧。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.06m、短辺は0.84m、深さは0.14mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 10世紀より新。

133号土坑(第674図、PL.359)

グリッド 13-2区R10

長軸方位 N39°W

新旧関係 60・107号住居、146・158号土坑が旧。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.42m、短辺は0.90m、深さは0.44mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 11世紀より新。

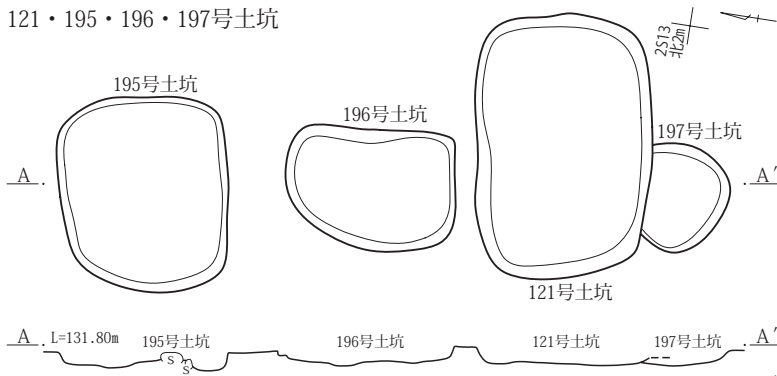
158号土坑(第674図、PL.361)

グリッド 13-2区R10

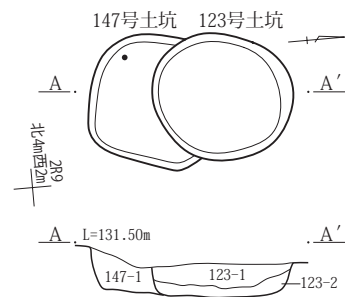
長軸方位 N19°E

第4章 第2面の遺構と出土遺物

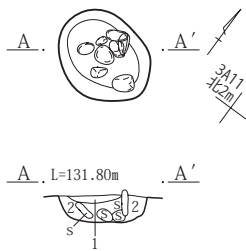
121・195・196・197号土坑



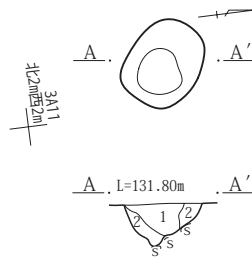
123・147号土坑



122号土坑



126号土坑



122号土坑

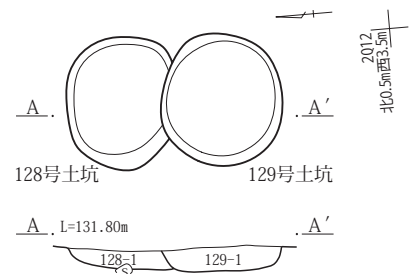
- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の炭化粒子(φ 1 mm大)、にぶい黄橙色FA?シルト質土を含む。(10YR4/2)
- 2 灰黄褐色シルト質土 微量のにぶい黄橙色シルト質土・炭化粒子(φ 1~2 mm大)と少量の円礫(φ 50~150mm大)を含む。FAのシルト質土の可能性あり。(10YR5/2)

126号土坑

- 1 灰黄褐色土(10YR3/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 2~8 mm大)・炭化粒子(φ 2~10mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2) 微量のにぶい黄橙色土・炭化粒子(φ 1~2 mm大)を含む。

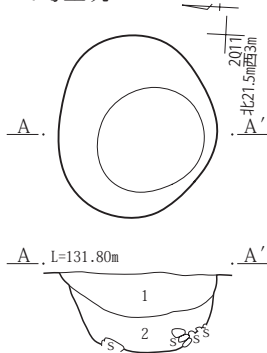
- 123-1 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 2~10mm大)とにぶい黄橙色シルト質土を含む。(10YR4/2)
- 123-2 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 2~20mm大)とにぶい黄橙色シルト質土を含む。(10YR6/2)
- 147-1 灰黄褐色土 微量の榛名二ツ岳白色軽石(φ 1~30mm大)・炭化粒子(φ 1~3 mm大)を含む。(10YR4/2)

128・129号土坑



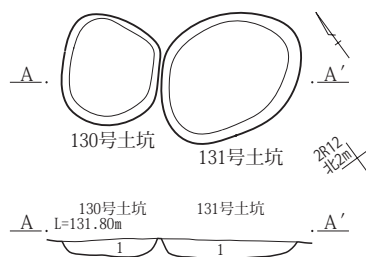
- 128-1 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~3 mm大)・炭化粒子(φ 1~4 mm大)を含む。締りやや弱。(10YR5/2)
- 129-1 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~3 mm大)・炭化粒子(φ 1~4 mm大)を含む。締りやや弱。(10YR4/2)

127号土坑



- 1 灰黄褐色シルト質 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 2~5 mm大)・炭化粒子(φ 1~4 mm大)・円礫(φ 20~70mm大)を+砂質土 含む。締りやや弱。(10YR4/2)
- 2 褐灰色砂質土 少量の円礫(φ 10~100mm大)を含む。締りやや弱。(10YR4/1)

130・131号土坑

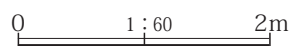
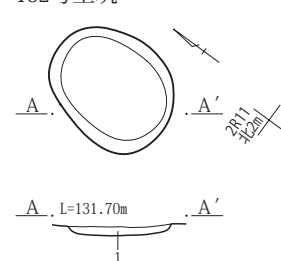


- 130号土坑
- 1 灰黄褐色土 微量の榛名二ツ岳白色軽石大粒(φ 10~50mm大)・炭化粒子(φ 1~2 mm大)を含む。締りやや弱。(10YR4/2)

- 131号土坑
- 1 灰黄褐色土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~3 mm大)・炭化粒子(φ 1~2 mm大)・小円礫(φ 10~30mm大)を含む。締りやや弱。(10YR5/2)

- 132号土坑
- 1 灰黄褐色シルト質土 榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 2~5 mm大)とにぶい黄橙色シルト質土を含む。(10YR5/2)

132号土坑



第673図 VII区121~123・126~132・195~197号土坑

新旧関係 133号土坑が新。148号土坑が旧。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は1.08m、短径は0.97m、深さは0.34mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

134号土坑(第674図、PL.360・444)

グリッド 13-2区R10

長軸方位 N72°W

新旧関係 60・97号住居、145号土坑が旧。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.32m、短辺は0.93m、深さは0.23mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

遺物 底直上から鉄釘(1)が出土した。

時代 11世紀より新。

135号土坑(第674図、PL.360)

グリッド 13-2区R10

長軸方位 N69°W

新旧関係 60号住居が旧。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は0.65m、短辺は0.53m、深さは0.08mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 11世紀より新。

137号土坑(第674図、PL.360)

グリッド 13-2区Q12

長軸方位 N30°W

新旧関係 138号土坑が旧。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は0.90m、短径は0.88m、深さは0.20mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

138号土坑(第674図、PL.360)

グリッド 13-2区Q12

長軸方位 N81°W

新旧関係 129・137土坑が新。139号土坑が旧。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は0.92m+、短辺は0.63m+、深さは0.27mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

139号土坑(第674図、PL.360)

グリッド 13-2区Q12

長軸方位 N58°W

新旧関係 128・138号土坑が新。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は1.02m+、短径は0.93m+、深さは0.31mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

141号土坑(第674図、PL.360)

グリッド 13-2区Q11

長軸方位 N6°E

新旧関係 55号住居が旧。163号土坑が新。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は1.04m、短径は0.91m、深さは0.32mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

遺物 埋土から須恵器の羽釜(2)が出土した。

時代 平安時代10世紀前半。

163号土坑(第674図、PL.361)

グリッド 13-2区Q11

長軸方位 N37°E

新旧関係 55号住居、141号土坑が旧。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は1.01m、短径は0.98m、深さは0.60mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

遺物 埋土から鉄滓(3)や須恵器の杯(4)が出土した。

時代 10世紀前半より新。

142号土坑(第675図、PL.360)

グリッド 13-2区R12

長軸方位 N7°W

新旧関係 55号住居、2号竪穴が旧。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。

長径は1.09m、短径は0.92m、深さは0.17mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

遺物 埋土から須恵器の杯(1)が出土した。

時代 10世紀前半。

143号土坑(第675図、PL.360)

グリッド 13-2区S9

長軸方位 N17°W

新旧関係 82・96号住居が新。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は0.90m+、短径は0.62m+、深さは0.20mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 10世紀より旧。

144号土坑(第675図、PL.360)

グリッド 13-2区R9

長軸方位 N70°E

新旧関係 60・96号住居、171号土坑が旧。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.06m、短辺は0.98m、深さは0.14mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 11世紀より新。

145号土坑(第675図、PL.360)

グリッド 13-2区R10

長軸方位 N31°E

新旧関係 134号土坑が新。146号土坑が旧。

形状と規模 楕円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は1.45m+、短径は1.23m、深さは0.25mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

146号土坑(第675図、PL.360)

グリッド 13-2区R10

長軸方位 N80°W

新旧関係 133・145号土坑が新。

形状と規模 楕円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は1.51m+、短径は1.05m、深さは0.14mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

148号土坑(第675図、PL.360)

グリッド 13-2区R10

長軸方位 N9°W

新旧関係 153号土坑が新。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.53m+、短辺は1.16m、深さは0.22mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

153号土坑(第675図、PL.361)

グリッド 13-2区R10

長軸方位 N30°W

新旧関係 87号住居が新。148号土坑が旧。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長径は1.00m+、短径は0.94m+、深さは0.20mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

150号土坑(第675図、PL.361)

グリッド 13-2区R9

長軸方位 N37°W

新旧関係 136号土坑が新。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は0.67m、短辺は0.57m+、深さは0.08mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

154号土坑(第675図、PL.361)

グリッド 13-2区R9

長軸方位 N76°W

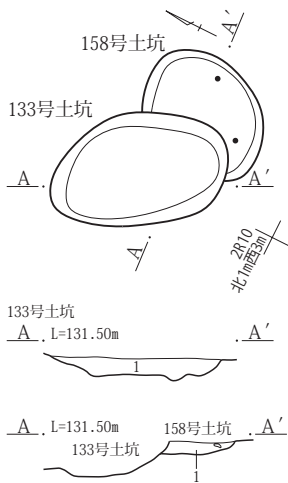
新旧関係 86号住居が新。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長辺は1.60m、短辺は0.92m+、深さは0.31mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 10世紀第4四半期より旧。

133・158号土坑



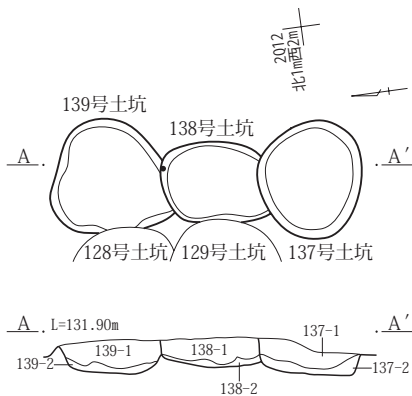
133号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 2~5mm大)・炭化粒子(φ 1~3mm大)・小礫φ 10~30mm大を含む。

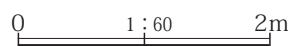
158号土坑

- 1 灰黄褐色土 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒・炭化粒子(φ 2~5mm大)・焼土粒子(φ 1mm大)を含む。

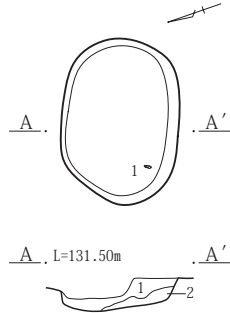
137・138・139号土坑



- 137-1 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1~20mm大)・炭化粒子(φ 1~3mm大)を含む。
- 137-2 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1~5mm大)を含む。
- 138-1 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名ニツ岳白色軽石(φ 1~30mm大)を含む。
- 138-2 灰黄褐色土 榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1~3mm大)を含む。
- 139-1 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1~20mm大)を含む。
- 139-2 にぶい黄褐色シルト質土 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1~10mm大)を含む。

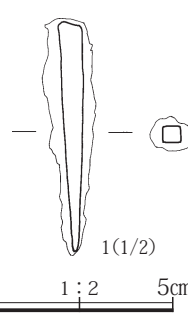


134号土坑

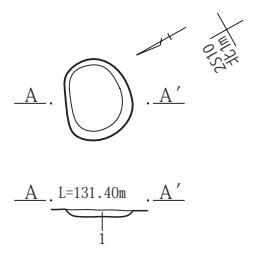


- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名ニツ岳白色軽石(φ 2~30mm大)・炭化粒子(φ 1~3mm大)を含む。締りやや弱。
- 2 にぶい黄褐色シルト質土 締りやや弱。下部は礫層、鉄釘出土。(10YR7/2)

134号土坑

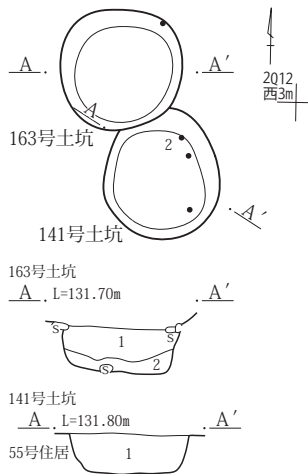


135号土坑

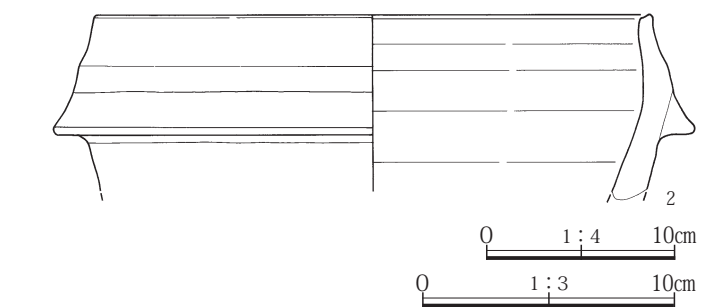


- 1 灰黄褐色土 微量のにぶい黄褐色シルト質土を含む。締りやや弱。白磁出土。

141・163号土坑



141号土坑

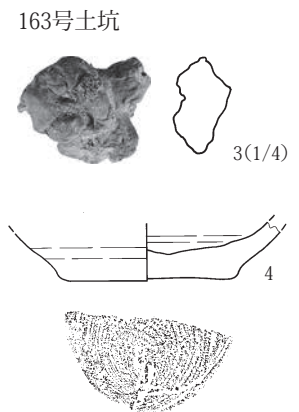


141号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名ニツ岳白色軽石大粒(φ 1~50mm大)・炭化粒子(φ 1~3mm大)を含む。締りやや弱。

163号土坑

- 1 灰黄褐色シルト・砂質土(10YR5/2) 微量の小円礫(φ 10~50mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色土(10YR5/2) 砂質土中心層。



第674図 VII区133~135・137~139・141・158・163号土坑と134・141・163号土坑の出土遺物

155号土坑(第675図、PL.361・444)

グリッド 13-2区R11

長軸方位 N47°W

新旧関係 56号住居が新。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は皿形を呈する。

長辺は0.93m、短辺は0.91m、深さは0.28mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

遺物 埋土から須恵器の杯(2)が出土した。

時代 平安時代10世紀後半。

156号土坑(第676図、PL.361)

グリッド 13-2区O9

長軸方位 N49°E

新旧関係 60・96号住居が旧。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は皿形を呈する。

長辺は1.07m、短辺は1.01m、深さは0.17mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 11世紀より新。

157号土坑(第676図、PL.361)

グリッド 13-2区Q11

長軸方位 N12°E

新旧関係 98号住居が旧。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い箱形を呈する。

長辺は0.97m、短辺は0.84m、深さは0.25mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 10世紀より新。

159号土坑(第676図、PL.361)

グリッド 13-2区K11

長軸方位 N87°W

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。

長辺は1.02m、短辺は0.93m、深さは0.56mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

162号土坑(第676図、PL.361・444)

グリッド 13-2区Q10

長軸方位 N58°E

新旧関係 98号住居が新。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.09m、短辺は0.80m、深さは0.44mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

遺物 埋土から須恵器の椀(1)が出土した。

時代 平安時代10世紀後半。

164号土坑(第676図、PL.361)

グリッド 13-2区R18

長軸方位 N40°E

新旧関係 55号住居が新。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は1.04m、短径は0.89m、深さは0.44mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀前半より旧。

165号土坑(第676図)

グリッド 13-3区A15

長軸方位 N18°W

新旧関係 39号住居が新。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は1.53m、短径は1.00m、深さは0.13mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 9世紀第3四半期より旧。

166号土坑(第676図)

グリッド 13-2区T15

長軸方位 N63°E

新旧関係 40号住居が旧。44号土坑が新。

形状と規模 長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.48m、短辺は1.23m、深さは0.17mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

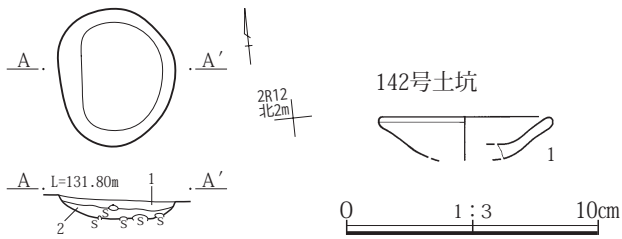
時代 10世紀より新。

167号土坑(第676図、PL.361)

グリッド 13-2区R9

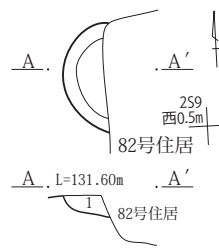
長軸方位 N3°W

142号土坑



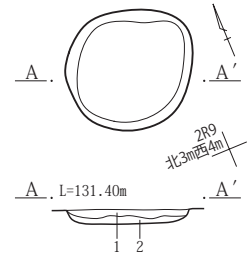
- 1 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~3mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色シルト質土(10YR5/2) 微量の小円礫(φ 40~50mm大)を含む。

143号土坑



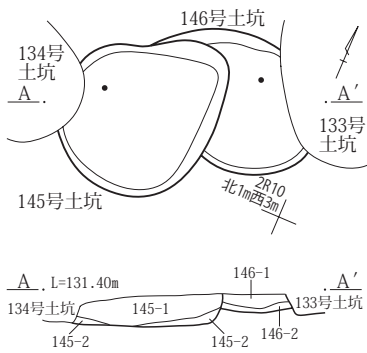
- 1 灰黄褐色土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~20mm大)・炭化粒子(φ 1~3mm大)を含む。

144号土坑



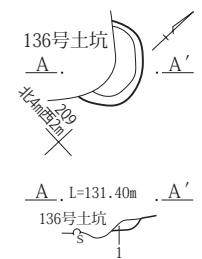
- 1 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の炭化粒子(φ 1~2mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色シルト質土(10YR5/2)

145・146号土坑



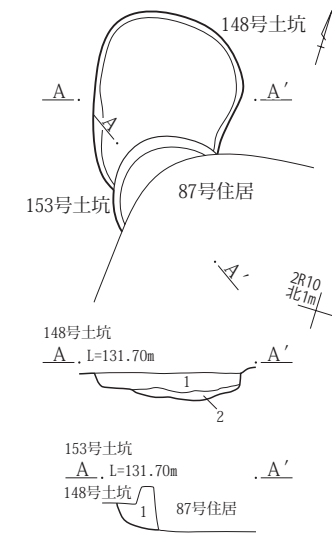
- 145-1 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~10mm大)・焼土粒子(φ 1~2mm大)を含む。締りやや弱。
- 145-2 灰黄褐色シルト質土(10YR5/2) 締りやや弱。
- 146-1 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石大粒(φ 10~100mm大)を含む。締りやや弱。
- 146-2 にぶい黄褐色シルト質土 締りやや弱。(10YR6/4)

150号土坑

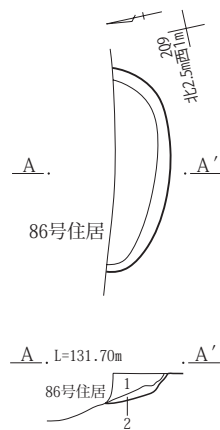


- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 3~20mm大)・炭化粒子(φ 1~3mm大)を含む。

148・153号土坑

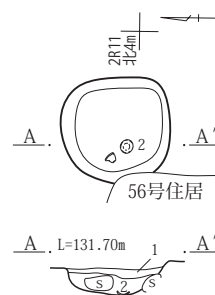


154号土坑

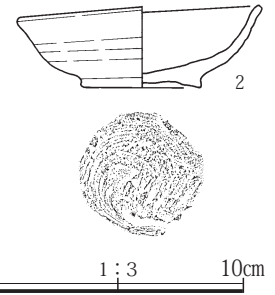


- 148号土坑
- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 2~10mm大)、焼土粒子・炭化粒子(φ 1~3mm大)を含む。
- 2 にぶい黄褐色シルト質土 微量の焼土粒子・炭化粒子(φ 1~2mm大)を含む。(10YR6/4)
- 153号土坑
- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~10mm大)・炭化粒子(φ 1~2mm大)を含む。締りやや弱。(10YR5/2)

155号土坑



155号土坑



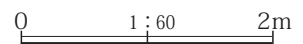
- 1 灰黄褐色土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~2mm大)・炭化粒子(φ 1~3mm大)・焼土粒子(φ 1mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色土 微量の円礫(φ 30~200mm大)を含む。(10YR4/2)

148号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 2~10mm大)、焼土粒子・炭化粒子(φ 1~3mm大)を含む。
- 2 にぶい黄褐色シルト質土 微量の焼土粒子・炭化粒子(φ 1~2mm大)を含む。(10YR6/4)

153号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~10mm大)・炭化粒子(φ 1~2mm大)を含む。締りやや弱。(10YR5/2)



第675図 VII区号142~146・148・150・153~155号土坑と142・155土坑の出土遺物

新旧関係 169号土坑が旧。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。

長辺は0.96m、短辺は0.60m、深さは0.72mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

169号土坑(第676図、PL.362・444)

グリッド 13-2区R9

長軸方位 N73°E

新旧関係 147・167号土坑が新。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状はU字形を呈する。長辺は1.00m+、短辺は0.82m、深さは0.58mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

遺物 埋土から須恵器の椀(2)や杯(3)が出土した。

時代 平安時代10世紀後半。

170号土坑(第677図、PL.362・444)

グリッド 13-3区B10

長軸方位 N75°W

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は1.20m、短径は1.04m、深さは0.77mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

遺物 埋土から鉄釘(1)が出土した。

時代 古墳時代以降である。

171号土坑(第677図、PL.362)

グリッド 13-2区R9

長軸方位 N78°E

新旧関係 60号住居が新。

形状と規模 長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.37m、短辺は1.07m+、深さは0.33mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 11世紀より旧。

172号土坑(第677図、PL.362)

グリッド 13-3区B11

長軸方位 N26°W

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は半月形を呈する。

長辺は0.65m、短辺は0.63m、深さは0.31mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

173号土坑(第677図、PL.362)

グリッド 13-2区O13

長軸方位 N41°E

新旧関係 11号溝が旧。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長辺は1.37m、短辺は0.69m、深さは0.31mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

174号土坑(第677図、PL.362)

グリッド 13-2区T9

長軸方位 N11°E

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は0.58m、短径は0.50m、深さは0.34mである。

埋土 黒褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

175号土坑(第677図、PL.362・444)

グリッド 13-3区A9

長軸方位 N5°E

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は半月形を呈する。長辺は1.23m、短辺は0.80m、深さは0.29mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

遺物 埋土から須恵器の椀(2)、皿(3)、杯(4)が出土した。

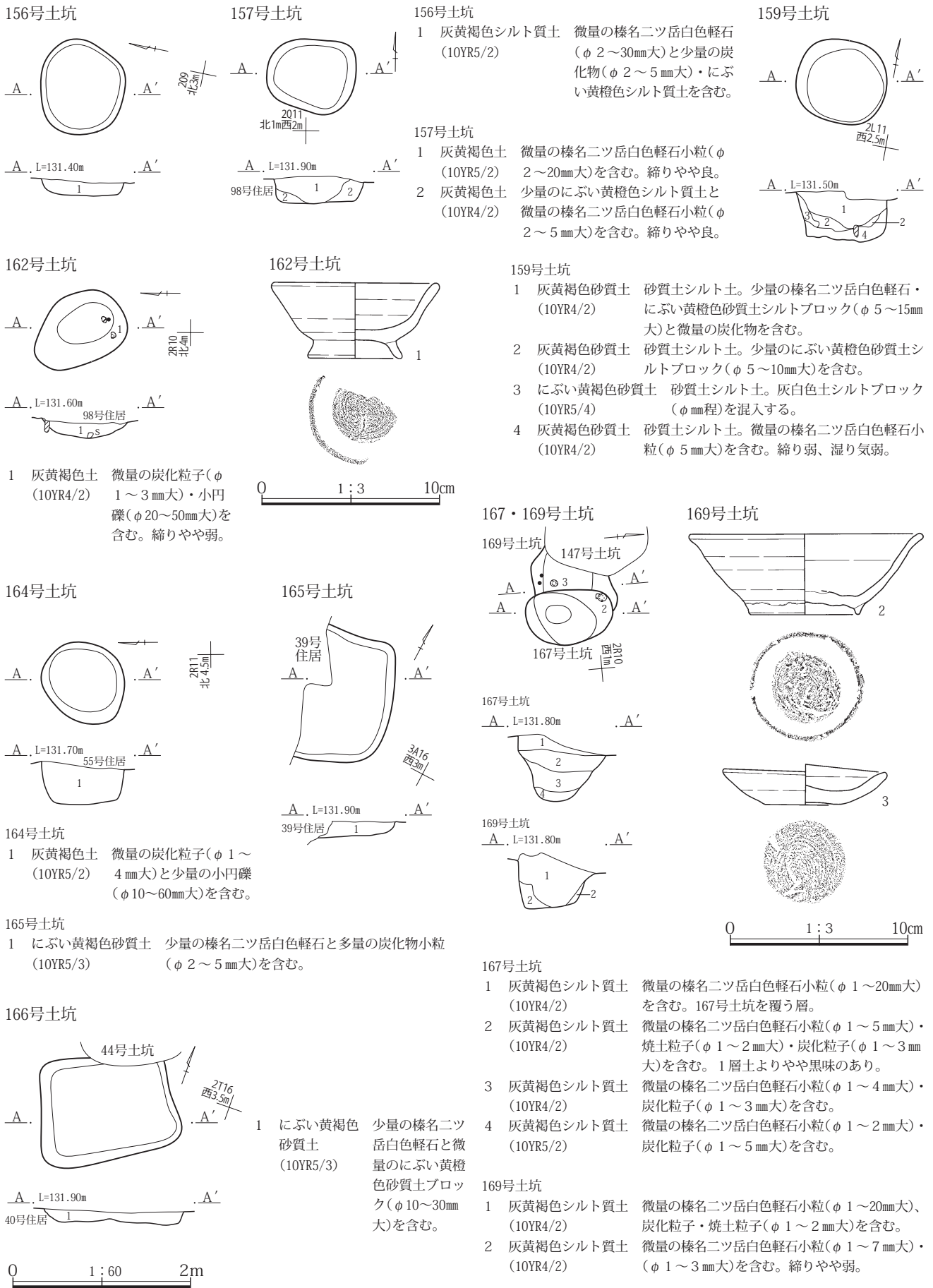
時代 古墳時代以降である。

176号土坑(第677図、PL.362)

グリッド 13-3区A9

長軸方位 N7°W

新旧関係 なし。



第676図 VII区号156・157・159・162・164~167・169号土坑と162・169号土坑の出土遺物

形状と規模 円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。
長径は0.82m、短径は0.70m、深さは0.17mである。
埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。
時代 古墳時代以降である。

177号土坑(第677図、PL.362)

グリッド 13-3区A9

長軸方位 N26°E

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は半月形を呈する。
長径は1.05m、短径は0.84m、深さは0.44mである。
埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。
時代 古墳時代以降である。

178号土坑(第677図、PL.362)

グリッド 13-3区A8

長軸方位 N54°W

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。
長辺は0.91m、短辺は0.53m、深さは0.32mである。
埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。
時代 古墳時代以降である。

179・180号土坑(第678図、PL.362)

グリッド 13-3区A8

長軸方位 N7°W

新旧関係 181号土坑が新。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は箱形を呈する。
長径は1.88m+、短径は1.80m+、深さは0.28mである。
埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。
時代 古墳時代以降である。

181号土坑(第678図、PL.362)

グリッド 13-3区A8

長軸方位 N7°W

新旧関係 180号土坑が旧。

形状と規模 楕円形を呈し、断面形状は箱形を呈する。
長径は2.06m、短径は1.39m、深さは0.40mである。
埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。
時代 古墳時代以降である。

182号土坑(第678図、PL.362・363)

グリッド 13-3区B18

長軸方位 N3°W

新旧関係 31号住居が新。192号土坑が旧。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。
長辺は1.49m、短辺は1.20m、深さは0.41mである。
埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。
時代 10世紀前半より旧。

183号土坑(第678図、PL.362)

グリッド 13-3区B11

長軸方位 N87°E

新旧関係 106号住居が新。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状はU字形を呈する。
長辺は0.79m、短辺は0.76m、深さは0.62mで、柱穴の可能性はある。
埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。
時代 10世紀後半より旧。

184号土坑(第678図、PL.363)

グリッド 13-2区T12

長軸方位 N37°W

新旧関係 39号ピットが新。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は半月形を呈する。
長径は0.56m、短径は0.55m、深さは0.32mである。
埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。
時代 古墳時代以降である。

185号土坑(第678図、PL.363)

グリッド 13-2区T12

長軸方位 N50°W

新旧関係 なし。

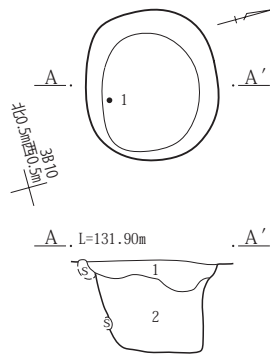
形状と規模 円形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は0.60m、短径は0.53m、深さは0.33mである。
埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。
時代 古墳時代以降である。

186号土坑(第678図、PL.363)

グリッド 13-2区T13

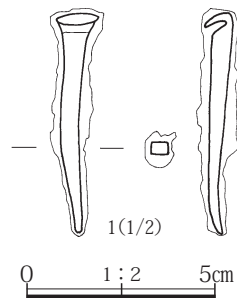
長軸方位 N67°E

170号土坑



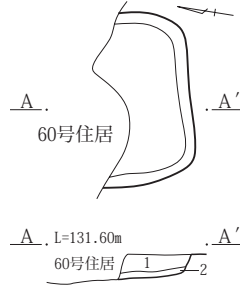
- 1 灰黄褐色シルト質土+砂質土少 (10YR4/2)
- 2 灰黄褐色砂質土+シルト質土 (10YR5/2)

170号土坑



- 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1~10mm大)・炭化粒子(φ 1~2mm大)・小円礫(φ 10~30mm大)を含む。
- 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1~5mm大)・小円礫(φ 10~50mm大)を含む。

171号土坑



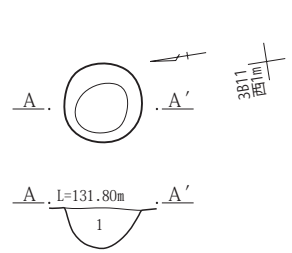
171号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1~10mm大)・小円礫(φ 20~30mm大)を含む。
- 2 にぶい黄褐色シルト質土 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 2~3mm大)を含む。

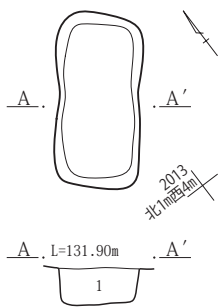
172号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1~8mm大)・炭化粒子(φ 1~2mm大)を含む。

172号土坑



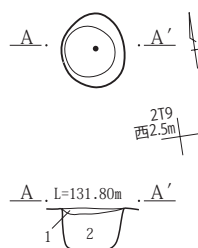
173号土坑



173号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土 少量の榛名ニツ岳白色軽石小粒とにぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ 5~10mm大)を含む。

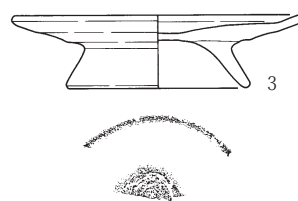
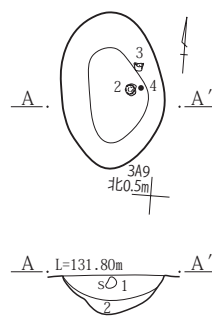
174号土坑



174号土坑

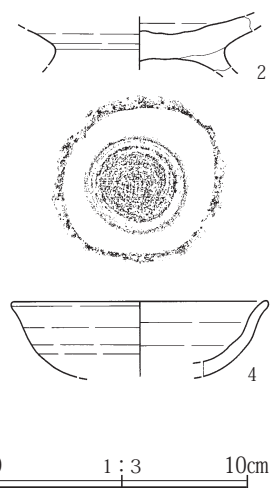
- 1 黒褐色シルト質土 炭化粒子(φ 1~3mm大)・焼土粒子(φ 1~2mm大)を含む。締りやや弱。
- 2 黒褐色シルト質土+砂質土 小円礫(φ 10~40mm大)を含む。締りやや弱。

175号土坑

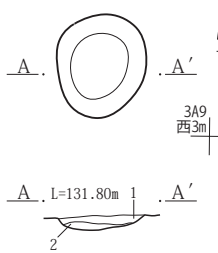


- 1 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の炭化粒子(φ 1~3mm大)・小円礫(φ 10~70mm大)を含む。締りやや弱。
- 2 暗灰黄色土(2.5Y4/2) 小円礫(φ 20~30mm大)を含む。締りやや弱。

175号土坑



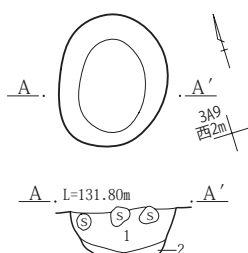
176号土坑



176号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の小円礫(φ 10~50mm大)を含む。締りやや弱。
- 2 暗灰黄色砂質土(2.5Y4/2) 円礫(φ 30~70mm大)を含む。締りやや弱。

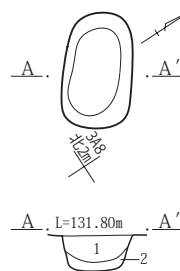
177号土坑



177号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の円礫(φ 70~200mm大)を含む。締りやや弱。
- 2 黒褐色砂質土(10YR3/2)中心層 締りやや弱。

178号土坑



- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の焼土粒子(φ 1~5mm大)・小円礫(φ 10~40mm大)を含む。締りやや弱。
- 2 灰黄褐色砂質土(10YR5/2)

第677図 VII区号170~178号土坑と170・175号土坑の出土遺物

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は半月形を呈する。
長径は0.62m、短径は0.57m、深さは0.37mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

187号土坑(第678図、PL.363)

グリッド 13-2区S13

長軸方位 N33°E

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状はU字形を呈する。
長径は0.56m、短径は0.48m、深さは0.41mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

188号土坑(第678図)

グリッド 13-2区R14

長軸方位 N53°E

新旧関係 49号住居が旧。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.36m、短辺は1.03m、深さは0.23mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 10世紀前半より新。

189号土坑(第679図、PL.363・444)

グリッド 13-2区S10

長軸方位 N23°E

新旧関係 74号土坑が新。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.42m、短辺は1.11m、深さは0.12mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなり、底面に焼土ブロックがみられる。

遺物 埋土から須恵器の杯(1)、鉄釘(2)が出土した。

時代 古墳時代以降である。

190号土坑(第679図、PL.363)

グリッド 13-2区S9

長軸方位 N78°W

新旧関係 97号住居が旧。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状はV字形を呈する。長辺は0.60m、短辺は0.55m、深さは0.35mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 10世紀後半より新。

191号土坑(第679図、PL.363)

グリッド 13-2区T13

長軸方位 N30°W

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は半月形を呈する。
長径は0.64m、短径は0.59m、深さは0.37mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

192号土坑(第679図、PL.363)

グリッド 13-3区B18

長軸方位 N82°E

新旧関係 182号土坑が新。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.42m、短辺は1.03m、深さは0.27mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

193号土坑(第679図、PL.363)

グリッド 13-2区T13

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は皿形を呈する。直径は0.62m、深さは0.20mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

194号土坑(第679図、PL.363)

グリッド 13-3区B15

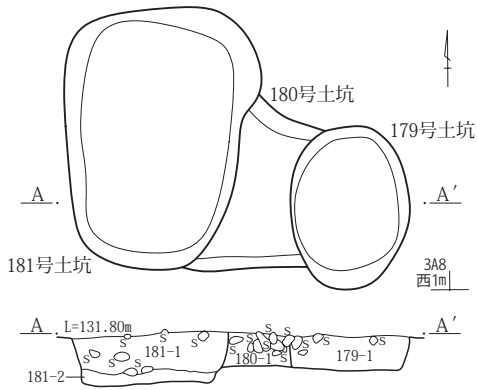
長軸方位 N27°W

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長辺は1.07m、短辺は0.81m、深さは0.27mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

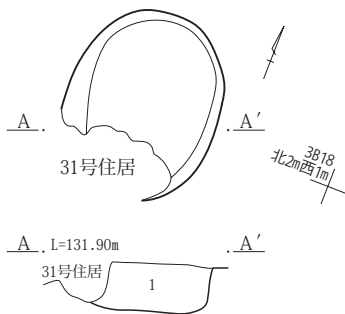
179～181号土坑



179～181号土坑

- 179-1 灰黄褐色土砂質土中心 シルト質土・炭化粒子(φ 1～3mm大)・円礫(φ 10～200mm大)を含む。(10YR4/2)
- 180-1 灰黄褐色シルト質土+砂質土 円礫(φ 10～200mm大)を含む。(10YR4/2)
- 181-1 黒褐色シルト質土+砂質土 炭化粒子(φ 1～2mm大)・円礫(φ 10～100mm大)を含む。(10YR3/2)
- 181-2 暗灰黄色土砂質土 円礫(φ 10～100mm大)を含む。(2.5Y5/2)

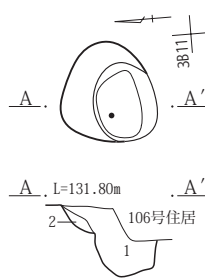
182号土坑



182号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土 少量の榛名二ツ岳白色軽石小粒とにぶい黄橙色砂質土シルト小ブロック(φ 5～15mm大)と炭化物粒を含む。(10YR5/2)

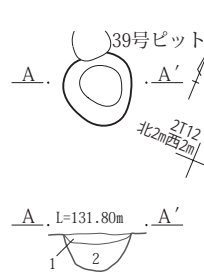
183号土坑



183号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土 榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1～20mm大)・炭化粒子(φ 1～3mm大)を含む。(10YR4/2)
- 2 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1～2mm大)・炭化粒子(φ 1mm大)を含む。(10YR5/2)

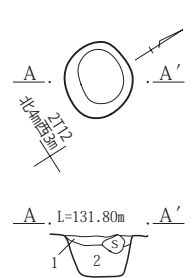
184号土坑



184号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1～10mm大)・炭化粒子(φ 1～5mm大)・焼土粒子(φ 1mm大)を含む。(10YR4/2)
- 2 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1～5mm大)・炭化粒子(φ 1～2mm大)を含む。(10YR4/2)

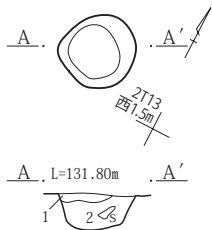
185号土坑



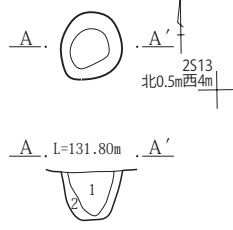
185号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1～10mm大)・炭化粒子(φ 1～5mm大)・焼土粒子(φ 1～2mm大)・円礫(φ 20～150mm大)を含む。(10YR4/2)
- 2 黒褐色シルト質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1～5mm大)・炭化粒子(φ 1～3mm大)・小円礫(φ 20～30mm大)を含む。締りやや弱。(10YR3/2)

186号土坑



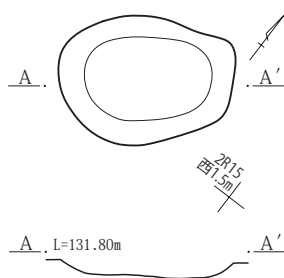
187号土坑



186号土坑

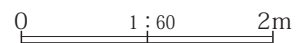
- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1～20mm大)・炭化粒子・焼土粒子(φ 1～3mm大)を含む。(10YR5/2)
- 2 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石・炭化粒子(φ 1～3mm大)を含む。(10YR5/2)

188号土坑



187号土坑

- 1 灰黄褐色土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1～3mm大)・焼土粒子(φ 1mm大)を含む。(10YR5/2)
- 2 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1～5mm大)とにぶい黄褐色シルト質土を含む。(10YR4/2)



第678図 VII区号179～188号土坑

時代 古墳時代以降である。

198号土坑(第679図)

グリッド 13-2区S13

長軸方位 N88°E

新旧関係 197号土坑が新。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は不明である。

長辺は1.33m+、短辺は0.70m、深さは0.23mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

199号土坑(第679図)

グリッド 13-2区M13

長軸方位 N30°W

新旧関係 201号土坑が旧。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は浅い皿形である。

長径は1.88m、短径は0.84m、深さは0.28mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

201号土坑(第679図)

グリッド 13-2区M12

長軸方位 N52°W

新旧関係 199・202号土坑が新。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は1.62m、短径は1.36m+、深さは0.20mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

200号土坑(第679図)

グリッド 13-2区M13

長軸方位 N17°E

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.92m、短辺は1.40m、深さは0.28mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

202号土坑(第679図)

グリッド 13-2区M12

長軸方位 N57°W

新旧関係 201号土坑が旧。

形状と規模 楕円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は0.88m、短径は0.72m、深さは0.20mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

203号土坑(第679図)

グリッド 13-2区M12

長軸方位 N12°W

新旧関係 204号土坑が旧。

形状と規模 長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は2.12m、短辺は1.33m、深さは0.31mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

遺物 203・204号土坑埋土から須恵器の椀(3)が出土した。

時代 平安時代10世紀前半。

204号土坑(第679図)

グリッド 13-2区M12

長軸方位 N10°E

新旧関係 203号土坑が新。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長径は1.88m、短径は0.72m、深さは0.50mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

遺物 203号土坑と同。

時代 平安時代10世紀前半。

205号土坑(第680図)

グリッド 13-2区M12

長軸方位 N40°E

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長辺は1.38m、短辺は0.68m、深さは0.32mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

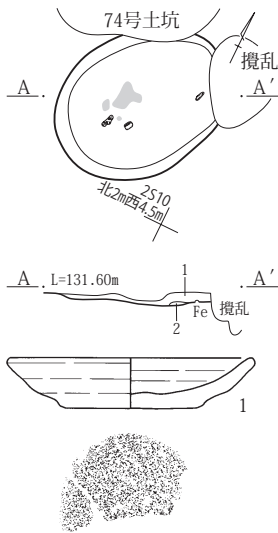
時代 古墳時代以降である。

206号土坑(第680図)

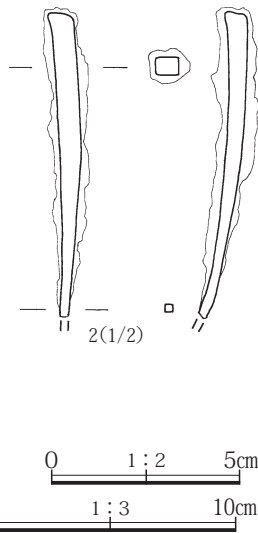
グリッド 13-2区M11

長軸方位 N10°W

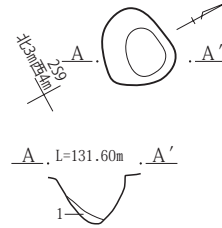
189号土坑



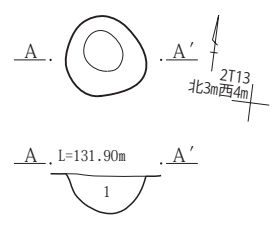
189号土坑



190号土坑



191号土坑



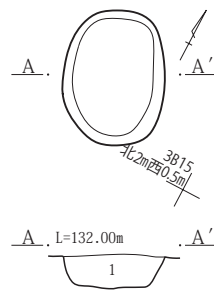
190号土坑

1 灰黄褐色土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 2~10mm大)・小円礫(φ 30mm)を含む。

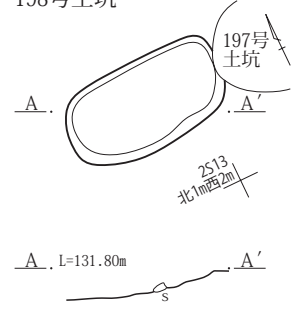
191号土坑

1 灰黄褐色土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~10mm大)・炭化粒子(φ 1~7mm大)・焼土粒子(φ 1~3mm大)・小円礫(φ 20~50mm大)を含む。

194号土坑

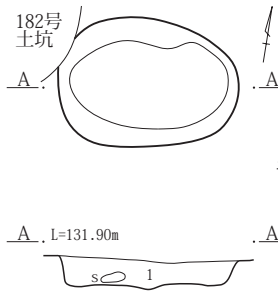


198号土坑

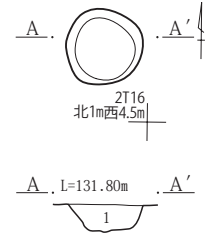


- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒・炭化物・焼土(10YR4/2) 粒子(φ 1~2mm大)、焼土を含む。
- 2 黒褐色シルト質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~3mm大)・炭化粒子(φ 1~2mm大)を含む。

192号土坑



193号土坑



194号土坑

1 灰黄褐色砂質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石・炭化物粒と少量のにぶい黄橙色砂質土シルトブロック(φ 5~30mm大)を含む。

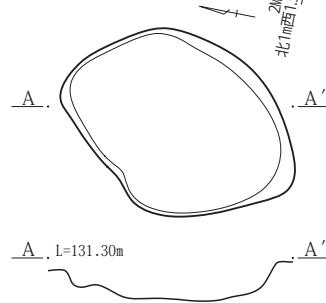
192号土坑

1 灰黄褐色砂質土 少量の榛名二ツ岳白色軽石小粒とにぶい黄橙色砂質土シルトブロック(φ 5~15mm大)と炭化物粒子を含む。

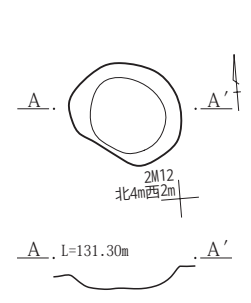
193号土坑

1 灰黄褐色土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒・炭化粒子(φ 1~3mm大)、焼土粒子(φ 1~2mm大)を含む。

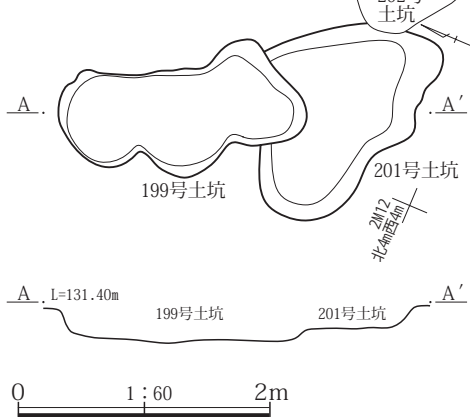
200号土坑



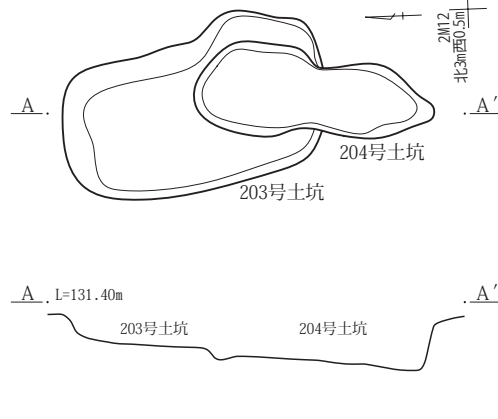
202号土坑



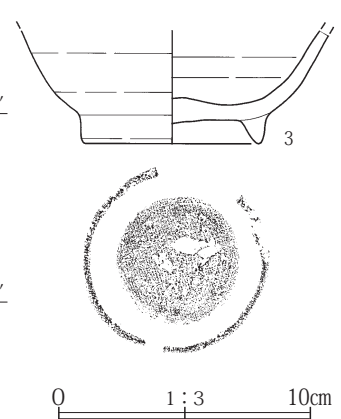
199・201号土坑



203・204号土坑



203・204号土坑



第679図 VII区189~194・198~204号土坑と189・203・204号土坑の出土遺物

新旧関係 115号住居が旧。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状はU字形を呈する。長辺は1.42m、短辺は0.42m、深さは0.46mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

遺物 埋土から須恵器の杯(1)が出土した。

時代 平安時代11世紀前半。

207号土坑(第680図)

グリッド 13-2区N15

長軸方位 N67°W

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長径は0.79m、短径は0.75m、深さは0.17mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

208号土坑(第680図、PL.363)

グリッド 13-2区P11

長軸方位 N13°E

新旧関係 9号溝、209号土坑が旧。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は2.31m、短辺は1.64m、深さは0.26mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

遺物 埋土から須恵器の椀(2)が出土した。

時代 平安時代10世紀。

209号土坑(第680図、PL.363)

グリッド 13-2区P11

長軸方位 N9°E

新旧関係 9号溝が旧。208号土坑、55号ピットが新。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.47m+、短辺は0.82m、深さは0.26mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

210号土坑(第680図)

グリッド 13-2区L9

長軸方位 N69°E

新旧関係 77号住居が新。

形状と規模 楕円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は1.12m、短径は0.82m+、深さは0.28mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

遺物 埋土から須恵器の杯(3)が出土した。

時代 平安時代10世紀。

211号土坑(第680図)

グリッド 13-2区M9

長軸方位 N85°E

新旧関係 78号住居が新。

形状と規模 楕円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は0.65m、短径は0.50m+、深さは0.14mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀第1四半期より旧。

212号土坑(第680図、PL.363)

グリッド 13-2区K7

長軸方位 N67°W

新旧関係 117号住居が新。

形状と規模 楕円形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長径は1.16m、短径は0.82m、深さは0.40mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀後半より旧。

213号土坑(第680図、PL.363)

グリッド 13-2区K6

長軸方位 N33°E

新旧関係 119号住居が旧。

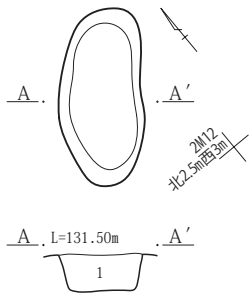
形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長辺は1.15m+、短辺は1.23m、深さは0.32mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

遺物 埋土から須恵器の羽釜(4)が出土した。

時代 平安時代10世紀後半。

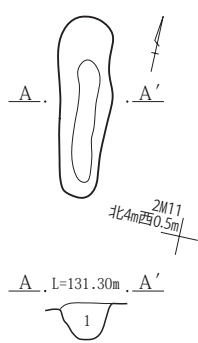
205号土坑



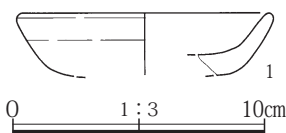
205・206号土坑

1 灰黄褐色砂質土 少量の榛名二ツ岳白色軽石と多量の淡黄〜にぶい黄褐色砂質土シルトブロック(φ 5〜20mm大)を含む。

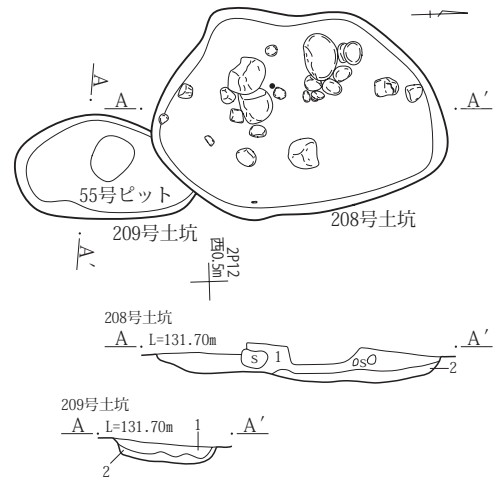
206号土坑



206号土坑



208・209号土坑



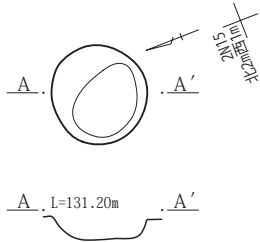
208号土坑

1 灰黄褐色土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1〜20mm大)・炭化粒子(φ 1〜3mm大)・小円礫(φ 20〜100mm大)を含む。微量の鉄滓出土。
2 にぶい黄褐色土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1〜5mm大)・炭化粒子(φ 1〜3mm大)を含む。

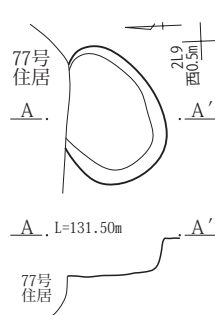
209号土坑

1 灰黄褐色土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1〜15mm大)と炭化粒子(φ 1mm大)を含む。
2 にぶい黄褐色土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1〜20mm大)・炭化粒子(φ 1mm大)を含む。

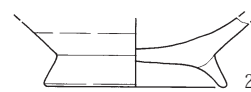
207号土坑



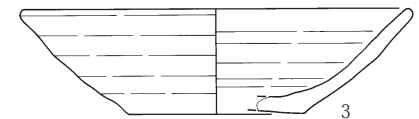
210号土坑



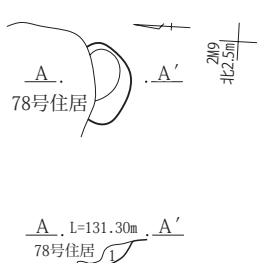
208号土坑



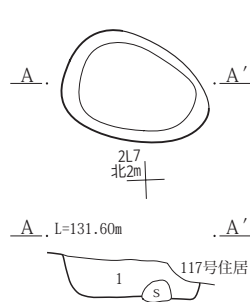
210号土坑



211号土坑



212号土坑



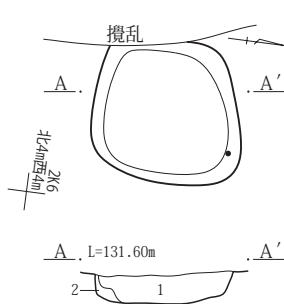
211号土坑

1 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 多量の炭化物を含む。

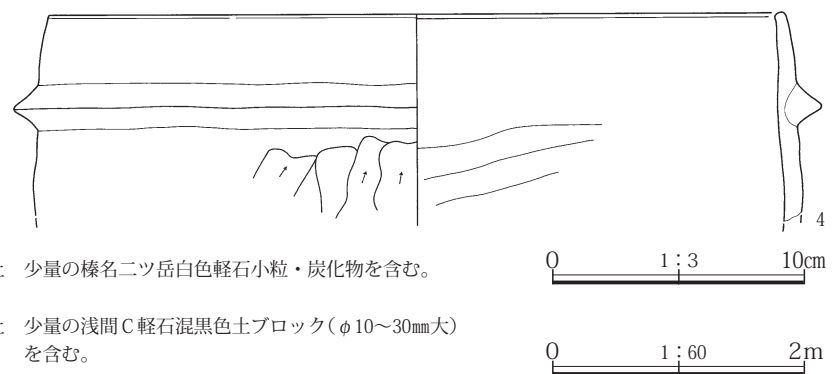
212号土坑

1 灰黄褐色砂質土 少量の榛名二ツ岳白色軽石小粒・炭化物を含む。(10YR4/2)

213号土坑



213号土坑



1 灰黄褐色砂質土 少量の榛名二ツ岳白色軽石小粒・炭化物を含む。(10YR4/2)
2 灰黄褐色砂質土 少量の浅間C軽石混黒色土ブロック(φ 10〜30mm大)を含む。(10YR5/2)

第680図 VII区205〜213号土坑と206・208・210・213号土坑の出土遺物

5. VIII区

2号土坑(第681図、PL.364)

グリッド 13-2区L13

長軸方位 N14°W

新旧関係 なし。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長径は0.76m、短径は0.27m+、深さは0.14mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

3号土坑(第681図、PL.364)

グリッド 13-2区K13

長軸方位 N77°E

新旧関係 4号住居が旧。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.14m、短辺は1.12m、深さは0.13mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

遺物 埋土から灰釉陶器の皿(1)、須恵器の羽釜(2)が出土した。

時代 平安時代10世紀前半。

5号土坑(第681図、PL.364)

グリッド 13-2区K9

長軸方位 N17°E

新旧関係 3号住居が旧。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長辺は0.65m、短辺は0.46m、深さは0.28mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 10世紀第2四半期より新。

6号土坑(第681図、PL.364)

グリッド 13-2区J9

長軸方位 N14°W

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長辺は0.73m、短辺は0.50m、深さは0.28mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

7号土坑(第681図、PL.364)

グリッド 13-2区J9

長軸方位 N4°W

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長辺は1.32m、短辺は1.14m、深さは0.48mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

8号土坑(第681図、PL.364)

グリッド 13-2区L14

長軸方位 N20°W

新旧関係 1号住居が旧。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は歪んだV字形を呈する。長辺は1.25m、短辺は0.87m+、深さは0.35mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

9号土坑(第681図、PL.364・444)

グリッド 13-2区J7

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は箱形を呈する。直径は1.12m、深さは0.48mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

遺物 埋土から鉄釘(3)が出土した。

時代 古墳時代以降である。

10号土坑(第682図、PL.364)

グリッド 13-2区J7

長軸方位 N37°W

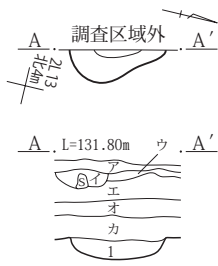
新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状はV字形を呈する。長辺は0.91m+、短辺は0.85m+、深さは0.26mである。

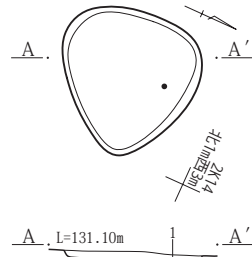
埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

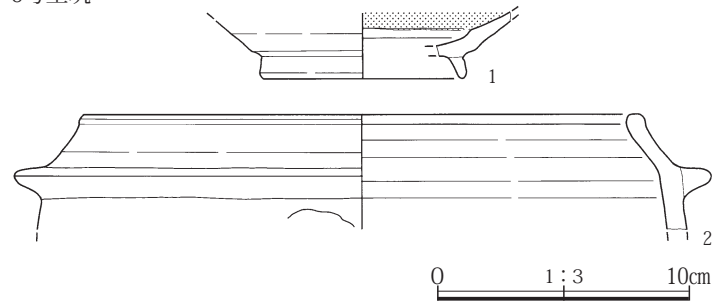
2号土坑



3号土坑



3号土坑



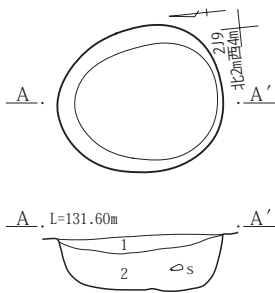
2号土坑

- ア にぶい黄褐色シルト質土 酸化層。鉄分沈着層。締りやや良。(10YR5/3)
- イ 褐灰色シルト質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石(φ 2~30mm大)・浅間泥流石(φ 10~80mm大)を含む。(10YR5/1)
- ウ にぶい黄褐色シルト質土 ア層土より酸化の部分が弱い層。締りやや良。(10YR5/3)
- エ 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 2~10mm大)・小円礫(φ 20~30mm大)を含む。締りやや良。(10YR5/2)
- オ 明黄褐色シルト質土 酸化・鉄分沈着著しい層。締りやや良。(10YR6/8)
- カ 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 2~20mm大)・炭化粒子(φ 2~10mm大)を含む。締りやや弱。(10YR5/2)
- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~3mm大)・炭化粒子(φ 1~2mm大)を含む。締りやや弱。(10YR4/2)

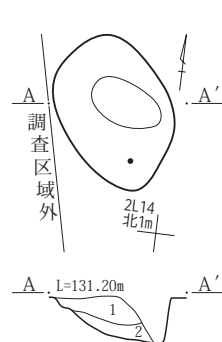
3号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 2~20mm大)・炭化粒子(φ 1~3mm大)・焼土粒子(φ 1mm大)を含む。(10YR4/2)

7号土坑



8号土坑

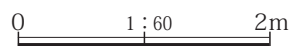


7号土坑

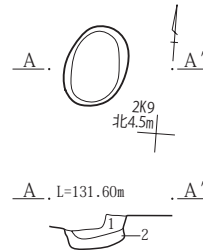
- 1 灰黄褐色土(10YR4/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~3mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2) 1層土よりやや黒味あり。微量の榛名二ツ岳白色軽石大粒(φ 10~80mm大)を含む。

8号土坑

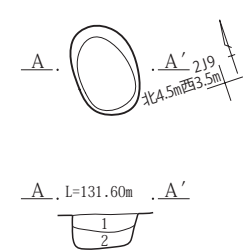
- 1 黒褐色シルト質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 2~20mm大)・炭化粒子(φ 1~5mm大)・小円礫(φ 20~50mm大)を含む。(10YR2/2)
- 2 灰黄褐色シルト質土 微量の炭化粒子(φ 1~3mm大)を含む。(10YR4/2)



5号土坑



6号土坑



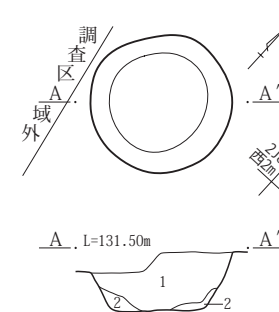
5号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~10mm大)を含む。(10YR5/2)
- 2 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~3mm大)を含む。(10YR4/2)

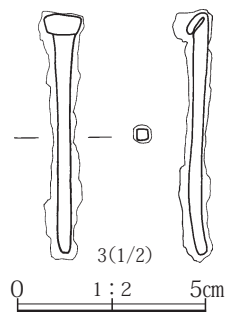
6号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土 榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~10mm大)を含む。(10YR5/2)
- 2 にぶい黄褐色シルト質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~5mm大)を含む。(10YR5/3)

9号土坑



9号土坑



9号土坑

- 1 灰黄褐色土(10YR5/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~5mm大)を含む。締りやや弱。
- 2 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) にぶい黄褐色シルト質土を含む。締りやや弱。

第681図 VIII区 2・3・5~9号土坑と3・9号土坑の出土遺物

11号土坑(第682図、PL.364)

グリッド 13-2区J7

長軸方位 N9°E

新旧関係 なし。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は0.75m、短径は0.46m+、深さは0.19mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

12号土坑(第682図、PL.364・365)

グリッド 13-2区J6

長軸方位 N41°E

新旧関係 19号土坑が旧。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は0.88m+、短径は0.71m、深さは0.27mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

19号土坑(第682図、PL.365)

グリッド 13-2区J6

長軸方位 N13°W

新旧関係 12号土坑が新。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長辺は0.56m、短辺は0.17m+、深さは0.22mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

13号土坑(第682図、PL.364)

グリッド 13-2区I5

長軸方位 N22°W

新旧関係 17号土坑が旧。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は半月形を呈する。長辺は1.41m、短辺は0.96m、深さは0.34mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

14号土坑(第682図、PL.364)

グリッド 13-2区I5

長軸方位 N81°E

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.11m、短辺は0.88m、深さは0.20mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

15号土坑(第682図、PL.365)

グリッド 13-2区I4

長軸方位 N54°E

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長辺は1.32m、短辺は0.96m、深さは0.28mである。

埋土 浅間Bテフラを含む黒褐色土からなる。

時代 12世紀初頭以降である。

16号土坑(第682図、PL.365)

グリッド 13-2区J6

長軸方位 N75°E

新旧関係 なし。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は2.00m+、短径は1.60m、深さは0.41mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

17号土坑(第683図、PL.365)

グリッド 13-2区I6

長軸方位 N46°W

新旧関係 13号土坑が新。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は2.12m、短径は1.43m+、深さは0.17mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

18号土坑(第683図、PL.365・444)

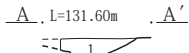
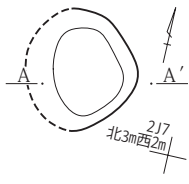
グリッド 13-2区I3

長軸方位 N73°E

新旧関係 14号住居が新。

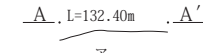
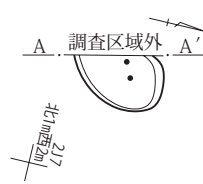
形状と規模 不定形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は1.71m+、短径は0.82m、深さは0.44mである。

10号土坑



1 灰黄褐色土(10YR5/2)

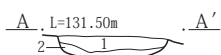
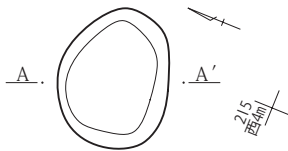
11号土坑



11号土坑

- ア 灰黄褐色土(10YR6/2) 榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 2~10mm大)・小円礫(φ 10~100mm大)を含む。
- イ にぶい黄褐色土(10YR4/3) 酸化鉄・鉄分沈着。ビニールを含む。
- ウ 灰黄褐色土(10YR5/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~3mm大)を含む。
- エ にぶい黄褐色土(10YR4/3) 酸化。微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~2mm大)を含む。
- オ 灰黄褐色土(10YR5/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~2mm大)を含む。
- カ にぶい黄褐色シルト質土(10YR4/3) 酸化。微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~5mm大)を含む。
- キ 灰黄褐色土(10YR5/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~10mm大)を含む。
- 1 灰黄褐色土(10YR5/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~3mm大)を含む。

14号土坑

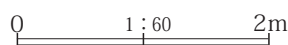


14号土坑

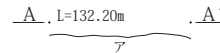
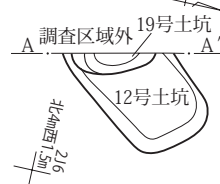
- 1 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~4mm大)を含む。
- 2 にぶい黄褐色シルト質土(10YR5/4) 微量の炭化粒子(φ 1mm大)を含む。

15号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/2) 微量の浅間B軽石混じり。微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~4mm大)を含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/1) 微量の浅間B軽石混じり。1層土より黒味強い。微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~5mm大)・焼土粒子(φ 1mm大)を含む。
- 3 灰黄褐色砂質土(10YR4/2)



12・19号土坑



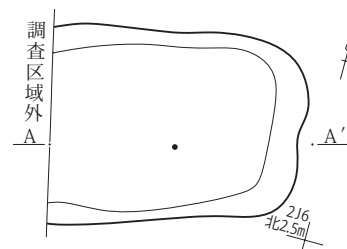
12・19号土坑

- ア 灰黄褐色土(10YR6/2) 榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 2~10mm大)・小円礫(φ 10~100mm大)を含む。
- イ にぶい黄褐色土(10YR4/3) 酸化鉄・鉄分沈着。ビニールを含む。
- ウ 灰黄褐色土(10YR5/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~3mm大)を含む。
- エ にぶい黄褐色土(10YR4/3) 酸化。微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~2mm大)を含む。
- オ 灰黄褐色土(10YR5/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~2mm大)を含む。
- 12-1 灰黄褐色シルト質土(10YR5/2)+砂質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~7mm大)を含む。
- 12-2 灰黄褐色シルト質土(10YR6/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~3mm大)・炭化粒子(φ 1mm大)を含む。
- 19-1 灰黄褐色シルト質土(10YR5/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~2mm大)・炭化粒子(φ 1mm大)を含む。
- 19-2 にぶい黄褐色シルト質土(10YR5/3) 締りやや弱。

13号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土(10YR5/2) 榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~5mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 1層土に比べやや暗い色調。微量のFA泥流土を含む。

16号土坑



- 1 灰黄褐色土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~10mm大)・炭化粒子(φ 1~3mm大)を含む。締りやや弱。
- 2 灰黄褐色土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~10mm大)・炭化粒子(φ 1~3mm大)を含む。締りやや弱。

第682図 VIII区10~16・19号土坑

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

遺物 埋土から紡錘車の軸の可能性のある鉄製品(1・2)が出土した。

時代 10世紀前半より旧。

20号土坑(第683図、PL.365)

グリッド 13-2区K13

長軸方位 N35°E

新旧関係 1号土坑が新。21号土坑が旧。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は1.42m+、短径は0.94m+、深さは0.16mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

21号土坑(第683図、PL.365)

グリッド 13-2区K13

長軸方位 N55°W

新旧関係 6・7号住居が旧。1号土坑が新。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は0.75m+、短辺は0.50m、深さは0.07mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 10世紀後半より新。

22号土坑(第683図、PL.365・444)

グリッド 13-2区K12

長軸方位 N8°E

新旧関係 7号住居が新。23号土坑が旧。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.67m、短辺は1.23m、深さは0.27mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

遺物 埋土から鉄鏃(3)が出土した。

時代 10世紀後半より旧。

23号土坑(第683図、PL.365)

グリッド 13-2区K12

長軸方位 N88°E

新旧関係 7号住居が新。22号土坑が新。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。

長辺は0.95m、短辺は0.91m、深さは0.46mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

遺物 埋土から須恵器の杯(4)が出土した。

時代 平安時代11世紀。

24号土坑(第684図、PL.365)

グリッド 13-2区K13

長軸方位 N66°E

新旧関係 4号住居が旧。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は0.82m、短辺は0.75m、深さは0.07mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 10世紀第1四半期より新。

25号土坑(第684図、PL.365)

グリッド 13-2区K13

長軸方位 N38°E

新旧関係 4号住居が旧。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。

長径は0.68m+、短径は0.32m+、深さは0.08mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 10世紀第1四半期より新。

26号土坑(第684図、PL.365)

グリッド 13-2区K12

長軸方位 N57°E

新旧関係 7号住居が旧。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長

径は0.82m、短径は0.78m、深さは0.33mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 10世紀後半より新。

28号土坑(第684図、PL.365)

グリッド 13-2区I4

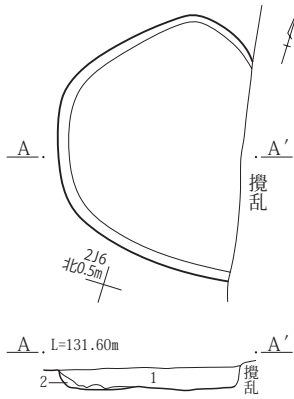
長軸方位 N85°E

新旧関係 12・23号住居、56号土坑が旧。

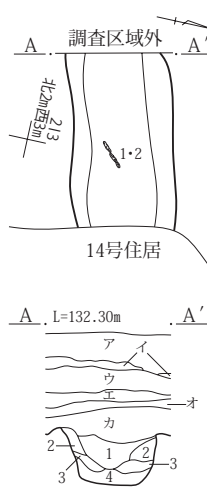
形状と規模 不定形を呈し、断面形状は箱形を呈する。

長径は1.15m+、短径は1.13m、深さは0.33mである。

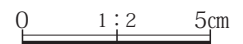
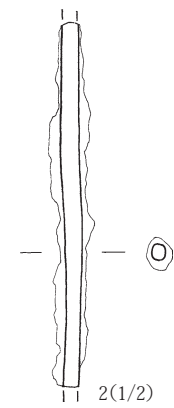
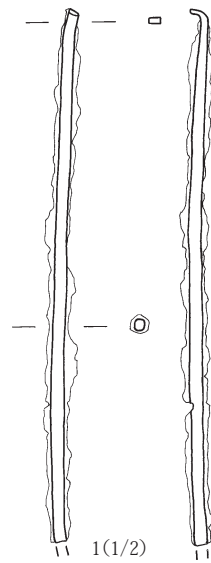
17号土坑



18号土坑



18号土坑



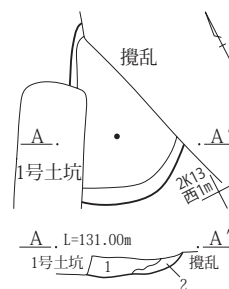
17号土坑

- 1 灰黄褐色土(10YR5/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~10mm大)を含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/2) 微量の浅間C軽石小粒(φ 1~2mm大)を含む。

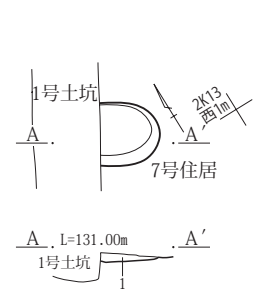
18号土坑

- ア 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 現耕土。
 イ にぶい黄褐色土(10YR5/4) 天地返しにシルト質土が混入する。FP泥流土。
 ウ 灰黄褐色シルト質土(10YR5/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~3mm大)を含む。
 エ にぶい黄褐色シルト質土(10YR4/3) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~10mm大)を含む。
 オ にぶい黄褐色シルト質土(10YR5/4) エ層土よりさらに酸化度強い。
 カ 灰黄褐色土(10YR5/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~20mm大)を含む。
- 1 灰黄褐色土(10YR5/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~2mm大)を含む。締りやや弱。
 - 2 にぶい黄褐色シルト質土(10YR5/3) 1層土にFP泥流シルト質土を含む。締りやや弱。
 - 3 にぶい黄褐色シルト質土(10YR5/3) 2層土より少量のFP泥流土を混入。締りやや弱。
 - 4 にぶい黄褐色シルト質土(10YR5/4) 2層土より多量のFP泥流土を混入。締りやや弱。

20号土坑



21号土坑

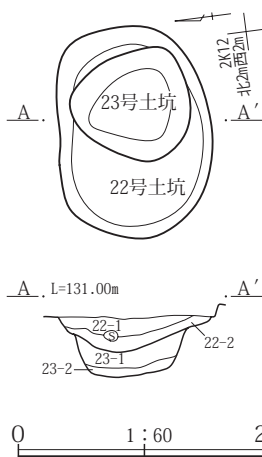


- 1 灰黄褐色砂質土(10YR5/1)

20号土坑

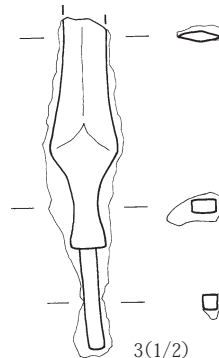
- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~10mm大)・炭化粒子(φ 1~2mm大)・焼土粒子(φ 1mm大)を含む。
- 2 にぶい黄褐色シルト質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石(φ 1~30mm大)・炭化粒子(φ 1~2mm大)を含む。

22・23号土坑

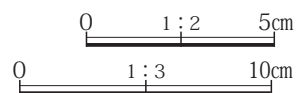
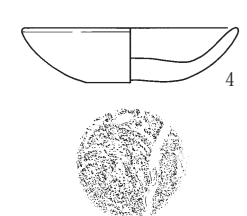


- 22-1 褐灰色砂質土(10YR4/1)
- 22-2 灰黄褐色砂質土(10YR4/2)
- 23-1 褐灰色砂質土(10YR4/1)
- 23-2 灰黄褐色砂質土(10YR4/2)

22号土坑



23号土坑



第683図 VIII区17・18・20~23号土坑と18・22・23号土坑の出土遺物

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 10世紀後半より新。

29号土坑(第684図、PL.365)

グリッド 13-2区K12

長軸方位 N21°W

新旧関係 6号住居、23号土坑が新。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は半月形を呈する。長辺は0.96m+、短辺は0.77m、深さは0.35mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 10世紀前半より旧。

30号土坑(第684図、PL.365)

グリッド 13-2区K12

長軸方位 N42°W

新旧関係 6号住居が旧。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は半月形を呈する。長径は0.68m、短径は0.66m+、深さは0.25mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 10世紀前半より新。

31号土坑(第684図、PL.366)

グリッド 13-2区I5

長軸方位 N42°E

新旧関係 12号住居が旧。

形状と規模 円形を呈し、断面形状はU字形を呈する。長径は0.67m、短径は0.62m、深さは0.38mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 10世紀前半より新。

32号土坑(第684図、PL.366)

グリッド 13-2区I4

長軸方位 N39°W

新旧関係 12号住居が旧。

形状と規模 円形を呈し、断面形状はU字形を呈する。長径は0.58m、短径は0.54m、深さは0.41mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 10世紀前半より新。

33号土坑(第685図、PL.366・445)

グリッド 13-2区I4

長軸方位 N16°W

新旧関係 12号住居が旧。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は1.95m、短径は0.93m+、深さは0.29mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

遺物 埋土から鉄製品(1)が出土した。

時代 10世紀前半より新。

35号土坑(第685図、PL.366・445)

グリッド 13-2区I5

長軸方位 N11°E

新旧関係 1号溝が旧。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は0.73m+、短径は1.05m、深さは0.44mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

遺物 埋土から鉄製品(2)が出土した。

時代 古墳時代以降である。

37号土坑(第685図、PL.366)

グリッド 13-2区H2

長軸方位 N34°E

新旧関係 10号住居が旧。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は0.73m+、短径は0.92m、深さは0.25mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 10世紀第4四半期より新。

38号土坑(第685図、PL.366)

グリッド 13-2区H2

長軸方位 N19°W

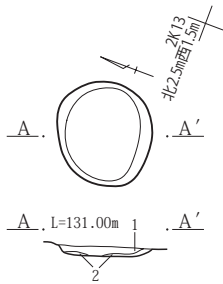
新旧関係 なし。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長径は0.98m+、短径は1.27m、深さは0.14mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 浅間Bテフラを含む褐灰色土に覆われるので、古墳時代以降で12世紀以前の古代に帰属する。

24号土坑

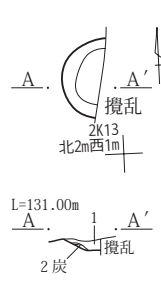


24号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1～5 mm大)・炭化粒子(φ 1～3 mm大)を含む。
- 2 にぶい黄褐色シルト質土(10YR6/3) 地山土と覆土の混土。

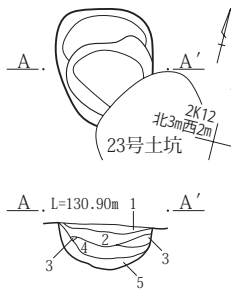
25号土坑

25号土坑



- 1 灰黄褐色土(10YR4/2) 微量の炭化粒子(φ 1～3 mm大)・焼土粒子(φ 1～2 mm大)を含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/2) 炭化物中心層。

29号土坑



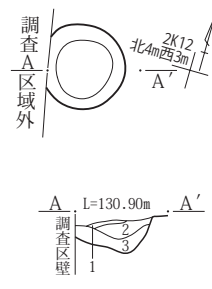
29号土坑

- 1 灰黄褐色土(10YR5/2) 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1～3 mm大)・炭化粒子(φ 1～2 mm大)を含む。締りやや弱。
- 2 にぶい黄褐色土(10YR7/2) 微量の炭化粒子(φ 1 mm大)を含む。締りやや弱。
- 3 灰黄褐色土(10YR5/2) 微量の炭化粒子(φ 1 mm大)を含む。締りやや弱。
- 4 にぶい黄褐色土(10YR5/3) 微量の炭化粒子(φ 1 mm大)を含む。締りやや弱。
- 5 褐灰色シルト質土(10YR5/1)と砂質土の混土 微量の炭化粒子(φ 1～2 mm大)を含む。締りやや弱。

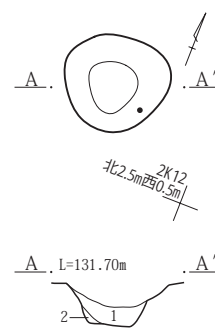
30号土坑

- 1 にぶい黄褐色土 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1～2 mm大)・炭化粒子(φ 1 mm大)を含む。締りやや弱。
- 2 灰黄褐色土 微量の炭化粒子(φ 1～2 mm大)を含む。締りやや弱。(10YR6/2)
- 3 灰黄褐色土 微量の炭化粒子(φ 1～5 mm大)・小円礫(φ 20mm大)を含む。(10YR5/2) 締りやや弱。

30号土坑



26号土坑



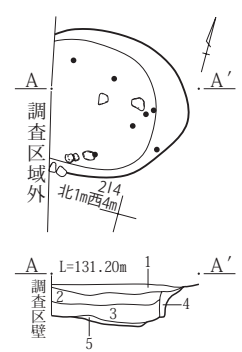
26号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土(10YR5/2) 微量の炭化粒子(φ 1～2 mm大)・小円礫(φ 20～30 mm大)を含む。
- 2 褐灰色シルト質土(10YR5/1)

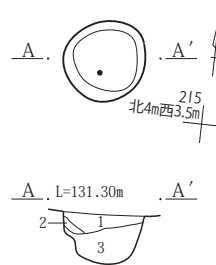
28号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1～17 mm大)・炭化粒子(φ 1～3 mm大)を含む。
- 2 黒褐色シルト質土(10YR3/2) 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1～3 mm大)・小円礫(φ 50 mm大)を含む。
- 3 褐灰色シルト質土(10YR4/1) 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1～2 mm大)を含む。
- 4 にぶい黄褐色シルト質土(10YR4/3) 微量の明黄褐色シルト質土を含む。
- 5 褐灰色砂質土(10YR4/1)

28号土坑



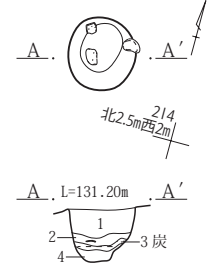
31号土坑



31号土坑

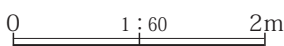
- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1～3 mm大)・炭化粒子(φ 1～5 mm大)を含む。締りやや弱。
- 2 にぶい黄褐色シルト質土 微量の炭化粒子(φ 1～2 mm大)を含む。締りやや弱。(10YR6/3)
- 3 灰黄褐色シルト質土 微量の炭化粒子(φ 1～3 mm大)・小円礫(φ 10～50 mm大)を含む。締りやや弱。(10YR4/2)

32号土坑



32号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒・炭化粒子(φ 1～5 mm大)を含む。締りやや弱。
- 2 灰黄褐色シルト質土(10YR5/2) 微量の炭化粒子(φ 1～2 mm大)を含む。締りやや弱。
- 3 黒褐色シルト質土(10YR3/1) 炭化物中心層。締りやや弱。
- 4 灰黄褐色シルト質土(10YR5/2) 微量の炭化粒子(φ 1 mm大)を含む。締りやや弱。



第684図 VIII区24～26・28～32号土坑

39号土坑(第685図、PL.366)

グリッド 13-2区H2

長軸方位 N42°E

新旧関係 51号土坑が旧。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長径は1.16m+、短径は1.00m、深さは0.14mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

40号土坑(第685図、PL.366)

グリッド 13-2区G2

長軸方位 N32°E

新旧関係 53号土坑が旧。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長辺は1.37m、短辺は1.05m、深さは0.13mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

41号土坑(第686図、PL.366)

グリッド 13-2区F1

長軸方位 N65°E

新旧関係 16号住居が旧。42号土坑が新。

形状と規模 楕円形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長径は1.03m+、短径は0.84m、深さは0.27mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 10世紀後半より新。

42号土坑(第686図、PL.366)

グリッド 13-2区F1

長軸方位 N88°E

新旧関係 43号土坑が新。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は1.15m+、短径は1.11m+、深さは0.34mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

43号土坑(第686図、PL.366)

グリッド 12-92区F20

長軸方位 N22°W

新旧関係 42・44~46号土坑が旧。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は皿形を呈する。

長径は0.92m+、短径は1.27m+、深さは0.38mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

45号土坑(第686図、PL.366)

グリッド 12-92区E20

長軸方位 N60°W

新旧関係 43号土坑が新。44号土坑が旧。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は皿形を呈する。

長径は1.14m+、短径は0.45m+、深さは0.34mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

46号土坑(第686図、PL.366・367)

グリッド 12-92区F20

長軸方位 N60°W

新旧関係 42・43号土坑が新。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は皿形を呈する。

長径は0.96m、短径は0.28m、深さは0.19mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

44号土坑(第686図、PL.366)

グリッド 12-92区E20

長軸方位 N57°W

新旧関係 43・45号土坑が新。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は半月形を呈する。

長径は1.55m+、短径は0.85m+、深さは0.34mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

47号土坑(第686図、PL.367)

グリッド 12-92区C19

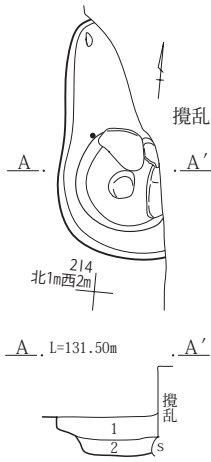
長軸方位 N36°E

新旧関係 48号土坑が旧。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状はU字形を呈する。長辺は1.00m、短辺は0.95m、深さは0.38mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

33号土坑

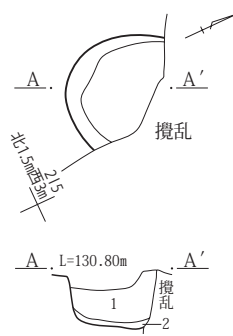


33号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土 (10YR4/2) 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1~5mm大)・炭化粒子(φ 1~4mm大)を含む。縮りやや弱。
- 2 灰黄褐色シルト質土 (10YR4/2) 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1~7mm大)・炭化粒子(φ 1~3mm大)を含む。縮りやや弱。

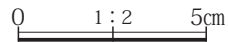
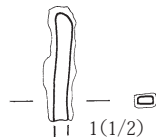
35号土坑

35号土坑

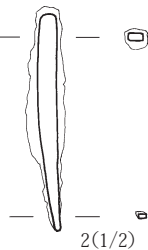


- 1 にぶい黄褐色土(10YR5/3) 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1~5mm大)・炭化粒子(φ 1~2mm大)を含む。
- 2 にぶい黄褐色土(10YR5/4) 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1~3mm大)を含む。

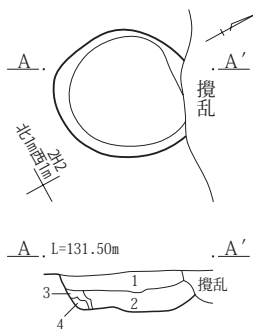
33号土坑



35号土坑

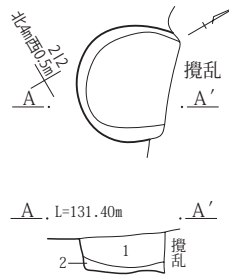


39号土坑



- 1 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1~20mm大)・炭化粒子(φ 1~2mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1~10mm大)を含む。
- 3 にぶい黄褐色シルト質土(10YR7/4)ブロックを含む。
- 4 灰黄褐色シルト質土(10YR5/2) 少量のにぶい黄褐色シルト質土を含む。

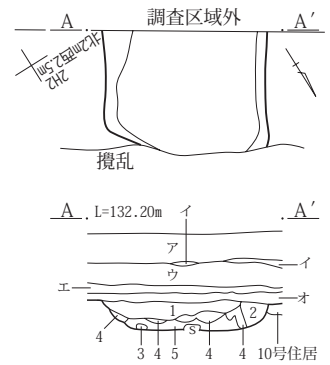
37号土坑



37号土坑

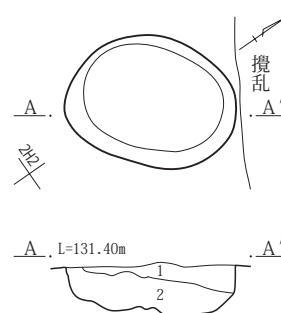
- 1 灰黄褐色土 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1~3mm大)・炭化粒子(φ 1~2mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色シルト質土 (10YR5/2) 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1mm大)と少量のにぶい黄褐色砂質土を下層に含む。

38号土坑

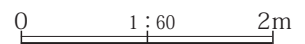


- ア 灰黄褐色シルト質土(10YR5/2) 現耕土。
- イ 褐灰色シルト質土(10YR5/1) 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1~10mm大)を含む。
- ウ にぶい黄褐色シルト質土(10YR4/3) 床土。微量の榛名ニツ岳白色軽石(φ 10~30mm大)を含む。
- エ 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1~5mm大)を含む。
- オ 褐灰色土(10YR4/1) 少量の浅間B軽石を含む。微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1~10mm大)を含む。
- 1 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1~10mm大)・炭化粒子(φ 1~2mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1~5mm大)を含む。
- 3 にぶい黄褐色シルト質土(10YR7/2)ブロック
- 4 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) にぶい黄褐色土ブロックを混入。
- 5 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 2~10mm大)・円礫(φ 150mm大)を含む。

40号土坑



- 1 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1~10mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 微量の榛名ニツ岳白色軽石(φ 1~30mm大)を含む。



第685図 VIII区33・35・37~40号土坑と33・35号土坑の出土遺物

時代 古墳時代以降である。

51号土坑(第686図、PL.367)

グリッド 13-2区H2

長軸方位 N38°E

新旧関係 39・50号土坑が新。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は浅い箱形を呈する。長径は1.31m+、短径は0.72m+、深さは0.19mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

53号土坑(第686図、PL.367)

グリッド 13-2区H2

長軸方位 N74°E

新旧関係 54号土坑が旧。

形状と規模 楕円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は0.93m+、短径は0.64m+、深さは0.16mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

55号土坑(第686図、PL.367)

グリッド 13-2区G1

長軸方位 N47°E

新旧関係 15号住居が旧。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は1.07m+、短径は1.05m+、深さは0.38mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 10世紀第4四半期より新。

48号土坑(第687図、PL.367)

グリッド 12-92区C19

長軸方位 N33°E

新旧関係 47号土坑が新。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は半月形を呈する。長径は3.62m+、短径は0.88m+、深さは0.79mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土が成層して坑を埋める。

時代 古墳時代以降である。

50号土坑(第687図、PL.367)

グリッド 13-2区H2

長軸方位 N58°W

新旧関係 51・52号土坑が旧。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は1.24m+、短径は0.54m+、深さは0.28mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 浅間Bテフラを含む褐灰色土に覆われるので、古墳時代以降で12世紀以前の古代に帰属する。

52号土坑(第687図、PL.367)

グリッド 13-2区H2

長軸方位 N67°W

新旧関係 50号土坑が新。54号土坑が旧。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は0.93m+、短径は0.37m+、深さは0.11mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 浅間Bテフラを含む褐灰色土に覆われるので、古墳時代以降で12世紀以前の古代に帰属する。

54号土坑(第687図、PL.367)

グリッド 13-2区H2

長軸方位 N58°W

新旧関係 52・53号土坑が新。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は1.23m+、短径は0.42m+、深さは0.08mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 浅間Bテフラを含む褐灰色土に覆われるので、古墳時代以降で12世紀以前の古代に帰属する。

57号土坑(第687図、PL.367・445)

グリッド 13-2区J10

長軸方位 N77°W

新旧関係 3号復旧痕、3号住居が新。

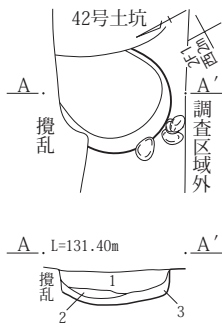
形状と規模 不定形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長径は2.50m+、短径は1.90m+、深さは0.47mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

遺物 埋土から灰釉陶器の皿(1)が出土した。

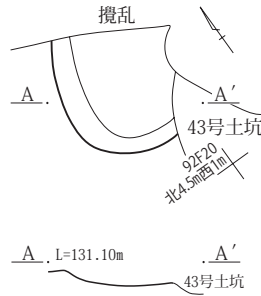
時代 平安時代10世紀前半。

41号土坑

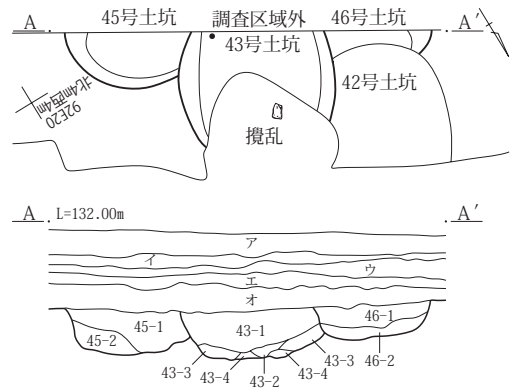


- 1 灰黄褐色土(10YR4/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1～3mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色土(10YR6/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1～4mm大)を含む。
- 3 にぶい黄褐色土(10YR5/4) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1～3mm大)を含む。

42号土坑

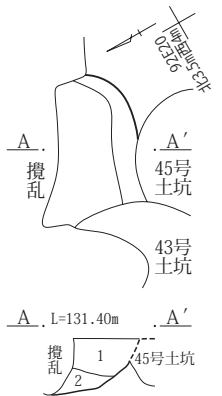


43・45・46号土坑

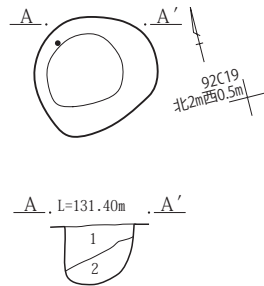


- ア 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 現耕土。締り弱。
- イ にぶい黄褐色シルト質土(10YR4/3) 酸化床土。微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1～2mm大)を含む。
- ウ 灰黄褐色シルト質土(10YR5/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1～5mm大)を含む。
- エ にぶい黄褐色シルト質土(10YR5/3) 酸化床土。微量の榛名二ツ岳白色軽石(φ 1～30mm大)を含む。
- オ 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1～20mm大)を含む。
- 43-1 灰黄褐色土(10YR4/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石(φ 1～40mm大)・炭化粒子(φ 1～2mm大)を含む。
- 43-2 にぶい黄褐色土(10YR6/3) 微量のFP泥流シルト質土を含む。
- 43-3 灰黄褐色土(10YR5/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石(φ 1～40mm大)を含む。
- 43-4 灰黄褐色土(10YR4/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1～5mm大)を含む。
- 45-1 灰黄褐色土(10YR5/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1～20mm大)・炭化粒子(φ 1～2mm大)を含む。
- 45-2 灰黄褐色土(10YR6/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 2～10mm大)を含む。
- 46-1 褐灰色土(10YR4/1) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1～20mm大)・炭化粒子(φ 1～5mm大)を含む。
- 46-2 灰黄褐色土(10YR5/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石(φ 1～30mm大)を含む。

44号土坑



47号土坑



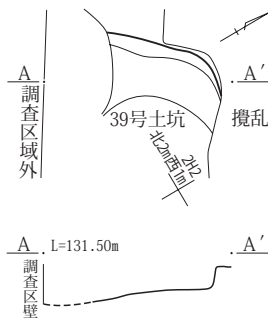
44号土坑

- 1 灰黄褐色土(10YR5/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石(φ 1～30mm大)を含む。締りやや弱。
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 2～20mm大)を含む。締りやや弱。

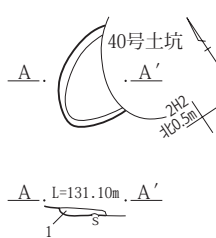
47号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石大粒(φ 10～100mm大)を含む。FP粒を多く含む層。
- 2 黒褐色土(10YR3/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石大粒(φ 10～60mm大)を含む。FP粒を多く含む層。

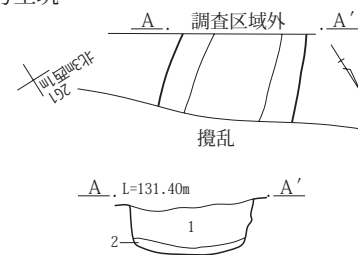
51号土坑



53号土坑



55号土坑

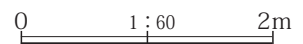


55号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1～20mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石(φ 1～30mm大)を含む。

53号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石(φ 1～30mm大)・炭化粒子(φ 1～2mm大)を含む。



第686図 VIII区41～47・51・53・55号土坑

58号土坑(第687図、PL.367)

グリッド 13-2区K11

長軸方位 N77°W

新旧関係 3号住居、57号土坑が新。

形状と規模 楕円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は0.44m+、短径は0.71m+、深さは0.22mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

56号土坑(第688図、PL.367)

グリッド 13-2区I4

長軸方位 N13°W

新旧関係 23号住居が旧。

形状と規模 楕円形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は1.67m、短径は0.40m+、深さは0.58mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 10世紀後半より新。

59号土坑(第688図、PL.367)

グリッド 13-2区K10

長軸方位 N86°E

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は0.76m、短辺は0.59m、深さは0.20mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

60号土坑(第688図、PL.367)

グリッド 13-2区J7

長軸方位 N5°E

新旧関係 なし。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は0.98m、短径は0.35m+、深さは0.14mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

61号土坑(第688図、PL.368)

グリッド 13-2区I7

長軸方位 N14°W

新旧関係 8号ピットが新。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は1.32m、短径は0.32m+、深さは0.25mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

62号土坑(第688図、PL.368)

グリッド 13-2区I6

長軸方位 N11°E

新旧関係 なし。

形状と規模 楕円形を呈し、断面形状はV字形を呈する。長径は0.83m、短径は0.70m、深さは0.54mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

63号土坑(第688図、PL.368)

グリッド 13-2区J6

長軸方位 N78°W

新旧関係 なし。

形状と規模 楕円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は1.07m、短径は0.93m、深さは0.26mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

64号土坑(第688図、PL.368)

グリッド 13-2区I5

長軸方位 N42°W

新旧関係 なし。

形状と規模 楕円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は0.93m+、短径は0.37m+、深さは0.20mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

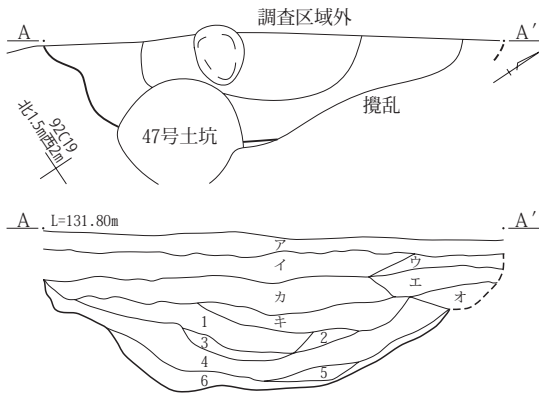
65号土坑(第688図、PL.368)

グリッド 13-2区I3

長軸方位 N29°E

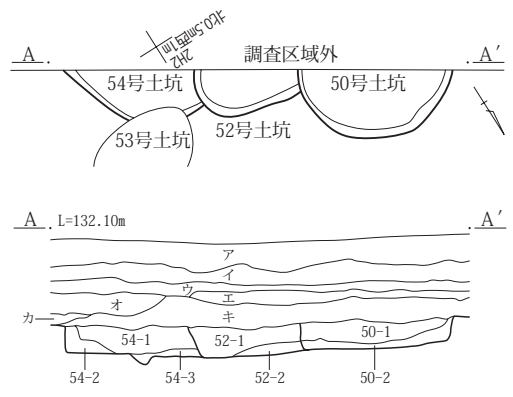
新旧関係 なし。

48号土坑



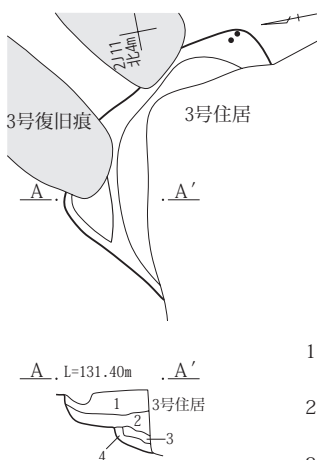
- ア 灰黄褐色シルト質土(10YR6/2) 水田耕土。現耕土の下の層。他の場所のイ層土に当たる。
- イ にぶい黄褐色土(10YR5/3) 床土。微量の榛名二ツ岳白色軽石大粒(φ 1~50mm大)を含む。
- ウ 褐灰色シルト質土(10YR5/1) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~20mm大)を含む。
- エ 灰黄褐色シルト質土(10YR5/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~10mm)を含む。
- オ にぶい黄褐色シルト質土(10YR5/3) 微量の榛名二ツ岳白色軽石粒(φ 1~30mm大)を含む。
- カ 灰黄褐色シルト質土(10YR5/2) 砂質土中心層。微量の榛名二ツ岳白色軽石大粒(φ 1~80mm大)を含む。
- キ 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~20mm)を含む。
- 1 にぶい黄褐色シルト質土(10YR5/4) 微量の榛名二ツ岳白色軽石粒(φ 1~30mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~3mm)を含む。
- 3 にぶい黄色土(2.5Y6/4) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~5mm)を含む。
- 4 灰黄褐色シルト質土(10YR5/2) 砂質土中心層。微量の榛名二ツ岳白色軽石粒(φ 2~30mm)を含む。
- 5 黄褐色シルト質土(2.5Y5/3) 砂質土中心層。微量の榛名二ツ岳白色軽石粒(φ 1~30mm)を含む。
- 6 にぶい黄色シルト質土(2.5Y6/3) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~5mm大)を含む。

50・52・54号土坑

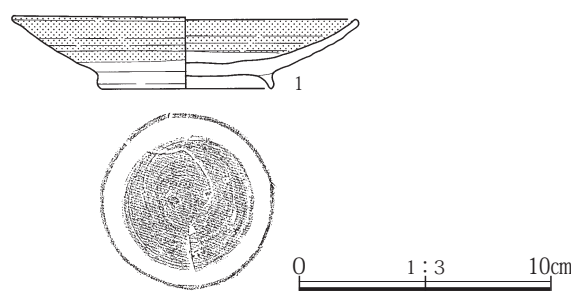


- ア 灰黄褐色シルト質土(10YR5/2) 現耕土。
- イ 褐灰色シルト質土(10YR5/1) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~10mm大)を含む。
- ウ にぶい黄褐色シルト質土(10YR4/3) 床土。微量の榛名二ツ岳白色軽石(φ 10~30mm大)を含む。
- エ 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~5mm大)を含む。
- オ 褐灰色土(10YR4/1) 少量の浅間B軽石を含む。微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~10mm大)を含む。
- カ 灰黄褐色土(10YR6/2) 少量のFA・FP泥流シルト質土を含む。
- キ にぶい黄褐色シルト質土(10YR4/3) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~10mm大)を含む。
- 50-1 灰黄褐色土(10YR5/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~10mm大)・炭化粒子(φ 1~3mm大)を含む。
- 50-2 にぶい黄褐色シルト質土(10YR6/3) 少量のFPシルト質土を含む。
- 52-1 灰黄褐色土(10YR5/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~7mm大)を含む。
- 52-2 にぶい黄褐色シルト質土(10YR6/4) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~5mm大)、少量のFPシルト質土を含む。
- 54-1 灰黄褐色土(10YR5/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~10mm大)を含む。
- 54-2 灰黄褐色シルト質土(10YR6/2) 微量の炭化粒子(φ 1~2mm大)を含む。
- 54-3 にぶい黄褐色シルト質土(10YR7/2) 多量のFPシルト質土を含む。

57号土坑

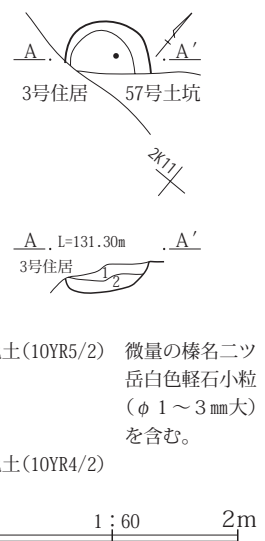


57号土坑



- 1 灰黄褐色土(10YR5/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~7mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~15mm大)を含む。
- 3 灰黄褐色土(10YR6/2) FP泥流シルト質土。
- 4 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~2mm大)を含む。

58号土坑



- 1 灰黄褐色土(10YR5/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~3mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2)

第687図 VIII区48・50・52・54・57・58号土坑と57号土坑の出土遺物

形状と規模 円形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長径は0.51m、短径は0.50m、深さは0.27mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

66号土坑(第689図、PL.368)

グリッド 12-92区C19

長軸方位 N47°W

新旧関係 67号土坑が新。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は0.68m、短径は0.33m+、深さは0.17mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

67号土坑(第689図、PL.368)

グリッド 12-92区C19

長軸方位 N61°W

新旧関係 66号土坑が旧。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状はT字形を呈する。長径は0.84m+、短径は0.20m+、深さは0.73mで、柱痕を有する柱穴の形状を呈する。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

68号土坑(第689図、PL.368)

グリッド 12-91区P14

長軸方位 N59°W

新旧関係 20号住居が旧。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は1.29m、短径は0.32m+、深さは0.25mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

69号土坑(第689図、PL.368)

グリッド 12-91区O13

長軸方位 N32°W

新旧関係 なし。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は皿形を呈する。

長径は1.28m、短径は1.02m+、深さは0.25mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

70号土坑(第689図、PL.368)

グリッド 12-91区L12

長軸方位 N28°E

新旧関係 なし。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は箱形を呈する。

長径は1.54m+、短径は0.63m、深さは0.19mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

71号土坑(第689図、PL.368)

グリッド 12-91区K11

長軸方位 N16°E

新旧関係 なし。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は箱形を呈する。

長径は1.64m+、短径は0.63m、深さは0.20mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

72号土坑(第689図、PL.368)

グリッド 12-92区D19

長軸方位 N54°W

新旧関係 73号土坑が旧。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は皿形を呈する。

長径は1.87m+、短径は0.67m+、深さは0.48mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

73号土坑(第689図)

グリッド 12-92区D19

長軸方位 N54°W

新旧関係 72号土坑が新。

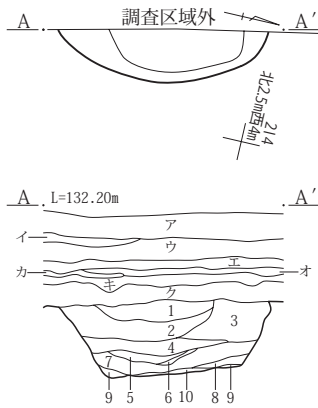
形状と規模 不定形を呈し、断面形状は箱形を呈する。

長径は2.58m+、短径は0.53m+、深さは0.64mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

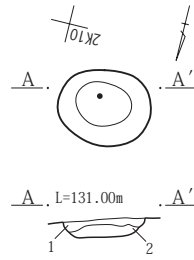
時代 古墳時代以降である。

56号土坑

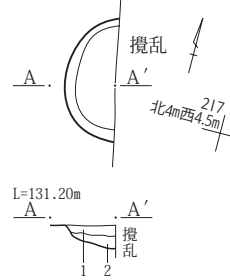


- ア 黄褐色シルト質土(2.5Y5/4) 少量の榛名二ツ岳白色軽石大粒(φ 10~200mm大)を含む。FP泥流B層土。
- イ 灰黄褐色シルト質土(10YR5/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~4mm大)を含む。
- ウ 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~10mm大)を含む。
- エ 灰黄褐色シルト質土(10YR5/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~10mm大)を含む。
- オ 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~2mm大)を含む。
- カ 黒褐色シルト質土(10YR3/2) 微量の炭化物を含む。
- キ 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 榛名二ツ岳白色軽石を含む。
- ク 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量のにぶい黄橙色土・炭化粒子(φ 1~4mm大)を含む。
- 1 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~2mm大)を含む。
- 2 にぶい黄褐色シルト質土(10YR5/4) 微量の炭化粒子(φ 1~2mm大)を含む。
- 3 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~10mm大)を含む。
- 4 灰黄褐色シルト質土(10YR5/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~10mm大)を含む。
- 5 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~2mm大)を含む。
- 6 黒褐色シルト質土(10YR3/2) 微量の炭化物を含む。
- 7 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 榛名二ツ岳白色軽石粒を含む。
- 8 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) にぶい黄橙色土と微量の炭化粒子(φ 1~4mm大)を含む。
- 9 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~2mm大)を含む。
- 10 にぶい黄褐色シルト質土(10YR5/4) 微量の炭化粒子(φ 1~2mm大)を含む。

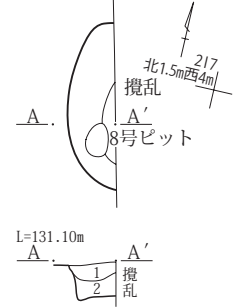
59号土坑



60号土坑



61号土坑



59号土坑

- 1 にぶい黄橙色土(10YR7/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 2~10mm大)を含む。縮りやや弱。
- 2 灰黄褐色土(10YR5/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒・炭化粒子(φ 2~5mm大)を含む。縮りやや弱。

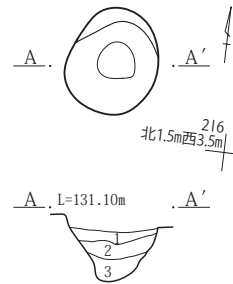
60号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土(10YR5/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~5mm大)・浅間C軽石小粒(φ 1~8mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の浅間C軽石小粒(φ 1~3mm大)を含む。

61号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土(10YR5/2) 微量の浅間C軽石小粒(φ 1~3mm大)・炭化粒子(φ 2~5mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2) 微量の浅間C軽石小粒(φ 1~2mm大)を含む。

62号土坑



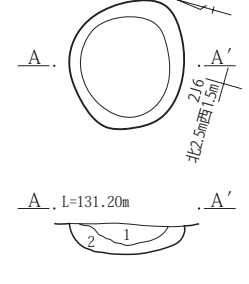
62号土坑

- 1 灰黄褐色土(10YR5/2) 炭化粒子(φ 1~2mm大)を含む。
- 2 にぶい黄褐色土(10YR5/3) にぶい黄褐色シルト混じり。
- 3 灰黄褐色土(10YR4/2) 微量の浅間C軽石小粒・炭化粒子(φ 1~2mm大)を含む。

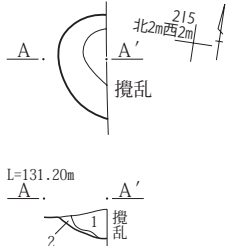
63号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 浅間C軽石小粒(φ 1~3mm大)を含む。
- 2 にぶい黄褐色シルト質土(10YR5/3)

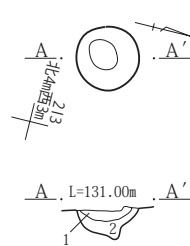
63号土坑



64号土坑



65号土坑

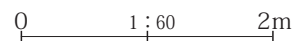


64号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土(10YR5/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~10mm大)を含む。
- 2 にぶい黄褐色シルト質土(10YR6/3) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 2~3mm大)を含む。

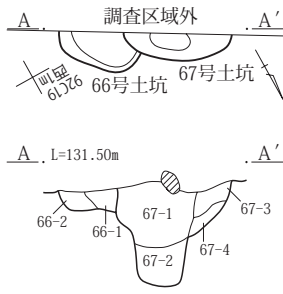
65号土坑

- 1 灰黄褐色土(10YR5/2) 微量の炭化物を含む。
- 2 灰黄褐色土(10YR6/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒・炭化粒子(φ 1~2mm大)を含む。



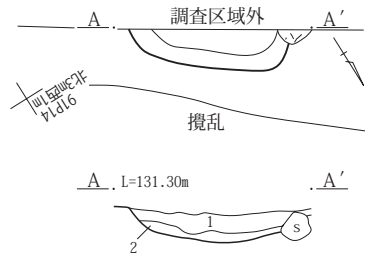
第688図 VIII区56・59~64号土坑

66・67号土坑



- 66-1 にぶい黄褐色シルト質土(10YR5/3) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~10mm大)を含む。締りやや良。
- 66-2 灰黄色シルト質土(2.5YR6/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~20mm大)を含む。締りやや良。
- 67-1 暗褐色シルト質土(10YR3/3) 微量の榛名二ツ岳白色軽石大粒(φ 1~50mm大)を含む。締りやや良。
- 67-2 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~20mm大)を含む。締りやや良。
- 67-3 にぶい黄橙色シルト質土(10YR6/3) 微量の榛名二ツ岳白色軽石(φ 1~30mm大)を含む。締りやや良。
- 67-4 灰黄褐色シルト質土(10YR5/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~20mm大)を含む。締りやや良。

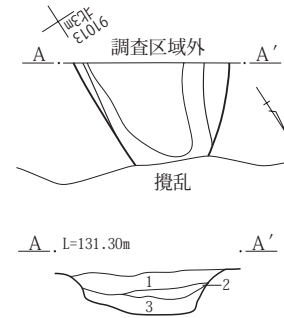
68号土坑



68号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~20mm大)・炭化粒子(φ 1~2mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒・炭化粒子(φ 1~3mm大)を含む。

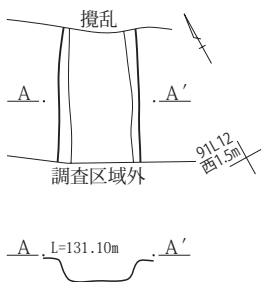
69号土坑



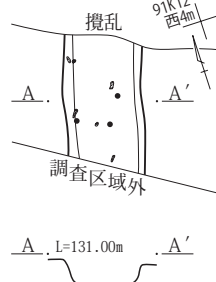
69号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石(φ 1~40mm大)・小円礫(φ 20~50mm大)を含む。
- 2 にぶい黄橙色シルト質土(10YR6/3) 少量のFP泥流シルト土を含む。締りやや弱。
- 3 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~10mm大)・炭化粒子(φ 1mm大)を含む。締りやや弱。

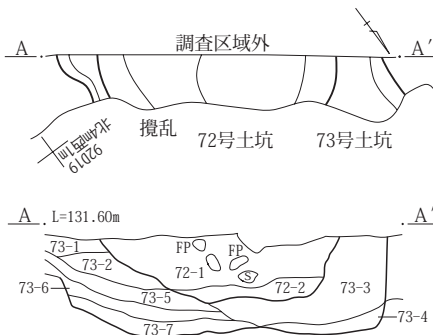
70号土坑



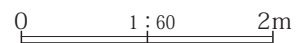
71号土坑



72・73号土坑



- 72-1 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~20mm大)・小礫(φ 2~20mm大)を含む。
- 72-2 灰黄褐色シルト質土(10YR5/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~10mm大)を含む。
- 73-1 にぶい黄褐色シルト質土(10YR4/3) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~10mm大)を含む。
- 73-2 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石(φ 1~30mm大)を含む。
- 73-3 灰黄褐色シルト質土(10YR5/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~20mm大)・小円礫(φ 20~50mm大)を含む。
- 73-4 灰黄褐色シルト質土(10YR5/2) 少量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~20mm大)を含む。
- 73-5 灰黄褐色シルト質土(10YR5/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石(φ 1~30mm大)・炭化粒子(φ 1~3mm大)を含む。
- 73-6 灰黄褐色シルト質土(10YR5/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石大粒(φ 1~50mm大)を含む。
- 73-7 にぶい黄橙色シルト質土(10YR6/3) 少量の榛名二ツ岳白色軽石大粒(φ 1~80mm大)を含む。



第689図 VIII区66~73号土坑

6. IX区

1号土坑(第690図、PL.369)

グリッド 13-2区A1

長軸方位 N60°E

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は0.95m、短辺は0.78m、深さは0.08mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

2号土坑(第690図、PL.369)

グリッド 12-92区H20

長軸方位 N27°W

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は0.98m、短辺は0.70m、深さは0.10mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

遺物 埋土から須恵器の椀(1)が出土した。

時代 平安時代9世紀後半。

3号土坑(第690図、PL.369)

グリッド 12-92区H20

長軸方位 N28°W

新旧関係 なし。

形状と規模 長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.57m、短辺は0.65m、深さは0.05mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

4号土坑(第690図、PL.369)

グリッド 12-92区H20

長軸方位 N2°E

新旧関係 なし。

形状と規模 長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は2.39m、短辺は1.33m、深さは0.27mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

5号土坑(第690図、PL.369)

グリッド 12-92区H20

長軸方位 N4°W

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は半月形を呈する。長辺は0.68m、短辺は0.52m、深さは0.20mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

6号土坑(第690図、PL.369)

グリッド 12-92区H19

長軸方位 N73°W

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は半月形を呈する。長辺は0.78m、短辺は0.75m、深さは0.31mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

7号土坑(第690図、PL.369)

グリッド 12-92区H19

長軸方位 N16°W

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は0.60m、短辺は0.53m、深さは0.12mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

8号土坑(第690図、PL.369)

グリッド 12-92区H20

長軸方位 N73°W

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は半月形を呈する。長辺は0.70m、短辺は0.56m、深さは0.26mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

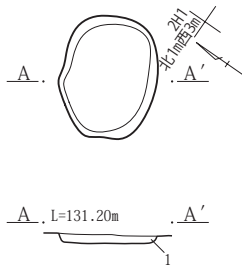
時代 古墳時代以降である。

9号土坑(第691図、PL.369)

グリッド 12-92区G20

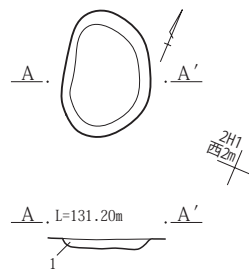
第4章 第2面の遺構と出土遺物

1号土坑



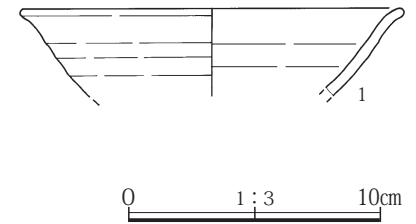
1 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒・炭化粒子(φ 1~3mm大)を含む。締りやや弱。

2号土坑

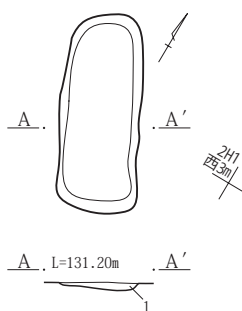


1 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~20mm大)・炭化粒子(φ 1~2mm大)を含む。

2号土坑

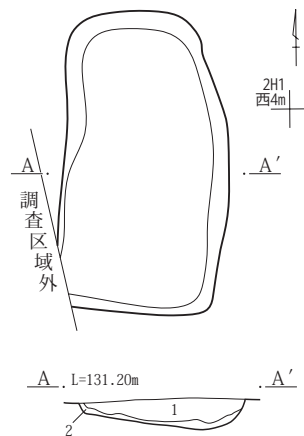


3号土坑



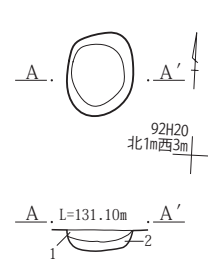
1 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~10mm大)・炭化粒子(φ 1~2mm大)を含む。

4号土坑



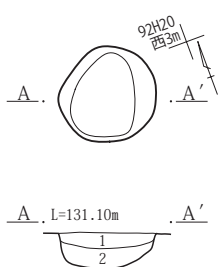
1 灰黄褐色土(10YR5/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石大粒(φ 1~60mm大)・炭化粒子(φ 1~2mm大)を含む。
2 にぶい黄橙色土(10YR6/3) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~5mm大)を含む。

5号土坑



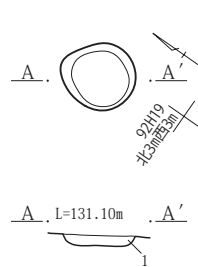
1 灰黄褐色砂質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~5mm大)を含む。
2 にぶい黄褐色砂質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~3mm大)を含む。

6号土坑



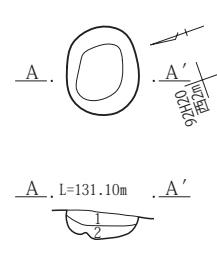
1 灰黄褐色砂質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~5mm大)・小円礫(φ 10~20mm大)を含む。
2 黒褐色砂質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~5mm大)・小円礫(φ 10~30mm大)を含む。

7号土坑

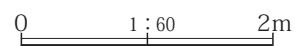


1 灰黄褐色砂質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~5mm大)を含む。

8号土坑



1 灰黄褐色砂質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~5mm大)を含む。
2 黒褐色砂質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~5mm大)を含む。



第690図 IX区 1~8号土坑と2号土坑の出土遺物

長軸方位 N59°W

新旧関係 10号土坑が旧。

形状と規模 長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は2.00m、短辺は0.75m、深さは0.08mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

10号土坑(第691図、PL.369)

グリッド 12-92区G20

長軸方位 N65°W

新旧関係 9号土坑が新。

形状と規模 長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.49m、短辺は1.20m、深さは0.13mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

11号土坑(第691図、PL.369)

グリッド 12-92区F20

長軸方位 N58°W

新旧関係 8号住居が新。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は半月形を呈する。長径は0.87m、短径は0.37m+、深さは0.33mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

12号土坑(第691図、PL.369)

グリッド 12-92区E19

長軸方位 N6°E

新旧関係 なし。

形状と規模 楕円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は0.73m、短径は0.68m、深さは0.10mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

遺物 埋土から須恵器の杯(1)が出土した。

時代 古墳時代以降である。

13号土坑(第691図、PL.370)

グリッド 12-92区E19

長軸方位 N34°E

新旧関係 22号住居が旧。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は皿形を呈する。

長辺は0.82m、短辺は0.75m、深さは0.11mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀第3四半期より新。

14号土坑(第691図、PL.370)

グリッド 12-92区D19

長軸方位 N12°W

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状はT字形を呈する。長辺は1.31m、短辺は0.89m、深さは0.51mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

16号土坑(第691図、PL.370)

グリッド 12-92区C18

長軸方位 N41°W

新旧関係 17号土坑が新。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は0.98m、短径は0.60m+、深さは0.23mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

17号土坑(第691図、PL.370)

グリッド 12-92区C18

長軸方位 N53°W

新旧関係 16号土坑が旧。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状はU字形を呈する。長径は0.67m、短径は0.20m+、深さは0.39mで、柱穴の形状を呈する。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

18号土坑(第692図、PL.370)

グリッド 12-92区C18

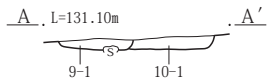
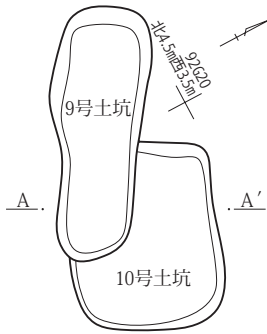
長軸方位 N44°W

新旧関係 なし。

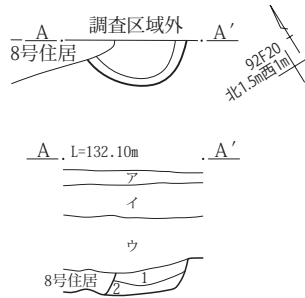
形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は0.84m、短辺は0.42m、深さは0.17mで

第4章 第2面の遺構と出土遺物

9・10号土坑



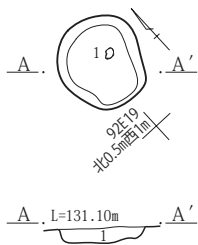
11号土坑



- 9-1 灰黄褐色砂質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ1~5mm大)・小円礫(φ20~50mm大)を含む。縮りやや良。
- 10-1 にぶい黄褐色砂質土 少量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ1~5mm大)を含む。

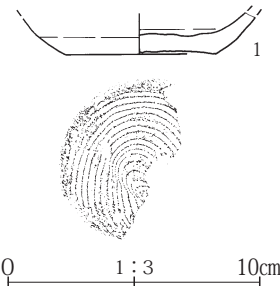
- ア 灰黄褐色土(10YR6/2) 置土。
- イ 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 現耕土。微量の榛名二ツ岳白色軽石(φ1~40mm大)を含む。
- ウ 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ1~5mm大)・炭化粒子(φ1~3mm大)を含む。
- 1 にぶい黄褐色砂質土(10YR5/3) 微量の榛名二ツ岳白色軽石(φ1~30mm大)・炭化粒子(φ1~2mm大)を含む。
- 2 にぶい黄褐色土(10YR5/3) シルト・砂質土混じり。微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ1~5mm大)・炭化粒子(φ1~2mm大)を含む。

12号土坑

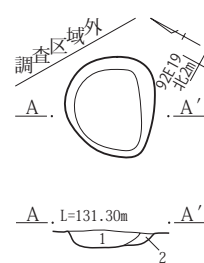


- 1 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ1~10mm大)・炭化粒子(φ1~2mm大)を含む。

12号土坑

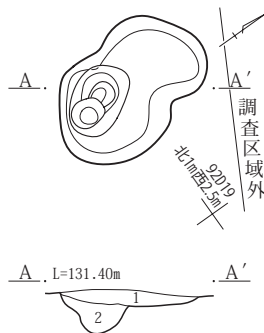


13号土坑

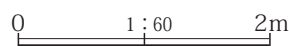


- 1 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ2~10mm大)を含む。
- 2 にぶい黄褐色砂質土(10YR5/4) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ2~20mm大)を含む。

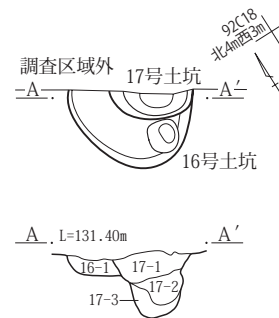
14号土坑



- 1 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ2~10mm大)・炭化粒子(φ1~2mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ1~7mm大)・炭化粒子(φ1~2mm大)を含む。



16・17号土坑



- 16-1 灰黄褐色土(10YR5/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石とFP泥流を含む。
- 17-1 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石(φ1~30mm大)を含む。
- 17-2 暗灰黄色土(2.5Y5/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ1~10mm大)とにぶい黄色シルト質土ブロックを含む。
- 17-3 暗灰黄色土(2.5Y5/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ1~5mm大)と少量のにぶい黄色シルト質土を含む。

第691図 IX区9~14・16・17号土坑と12号土坑の出土遺物

ある。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

19号土坑(第692図、PL.370)

グリッド 12-92区D18

長軸方位 N33°W

新旧関係 53号土坑が新。6号住居が旧。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は皿形を呈する。

長辺は1.27m+、短辺は1.22m+、深さは0.34mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 11世紀前半より新。

53号土坑(第692図、PL.370)

グリッド 12-92区D18

長軸方位 N44°E

新旧関係 6号住居、19号土坑が旧。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は半月形を呈す

る。長辺は0.98m、短辺は0.91m、深さは0.35mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 11世紀前半より新。

20号土坑(第692図、PL.370)

グリッド 12-92区H19

長軸方位 N84°E

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は半月形を呈

する。長辺は0.65m、短辺は0.47m、深さは0.22mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

遺物 埋土から黒色土器の椀(1)が出土した。

時代 平安時代10世紀後半。

21号土坑(第692図、PL.370)

グリッド 12-92区H20

長軸方位 N14°W

新旧関係 なし。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は皿形を呈する。

長径は1.28m、短径は0.41m+、深さは0.14mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

22号土坑(第692図、PL.370)

グリッド 12-92区B17

長軸方位 N3°W

新旧関係 なし。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈す

る。長径は1.62m、短径は0.79m、深さは0.23mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

23号土坑(第692図、PL.370)

グリッド 12-92区B17

長軸方位 N27°W

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を

呈する。長辺は1.25m、短辺は0.80m、深さは0.28mで

ある。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

24号土坑(第692図、PL.370)

グリッド 12-92区B16

長軸方位 N82°E

新旧関係 なし。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は皿形を呈する。

長径は1.26m+、短径は0.77m+、深さは0.47mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

25号土坑(第693図、PL.370)

グリッド 13-2区G1

長軸方位 N74°W

新旧関係 3号住居が新。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は不明である。長

径は1.38m、短径は0.58m+、深さは0.08mである。

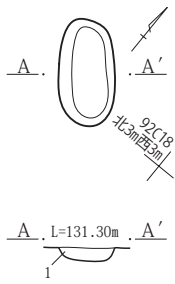
埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

遺物 埋土から須恵器の杯(1)が出土した。

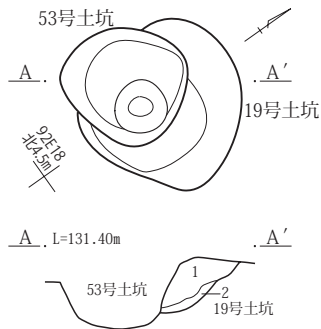
時代 平安時代10世紀後半。

第4章 第2面の遺構と出土遺物

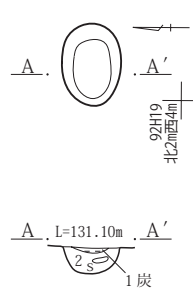
18号土坑



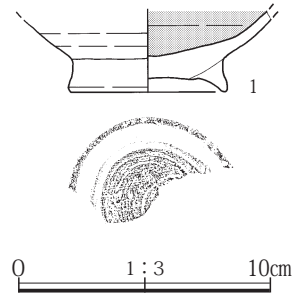
19・53号土坑



20号土坑



20号土坑



18号土坑

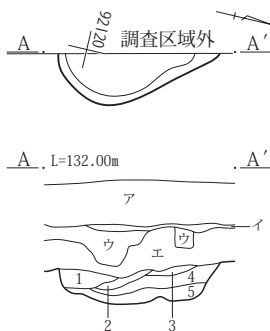
- 1 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1～10mm大)を含む。

- 1 黒褐色シルト質土(10YR3/2) 炭化物中心層。
2 にぶい黄橙色シルト質土(10YR6/4) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 2～4mm大)を含む。

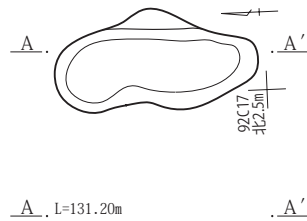
19号土坑

- 1 灰黄褐色土(10YR5/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石大粒(φ 2～100mm大)・炭化粒子(φ 1～2mm大)を含む。
2 にぶい黄橙色土(10YR6/4) 微量の榛名二ツ岳白色軽石大粒(φ 2～50mm大)を含む。

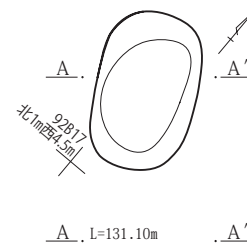
21号土坑



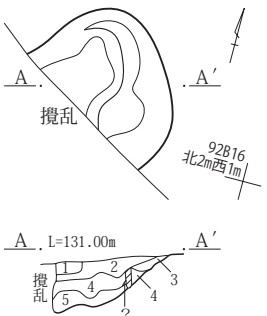
22号土坑



23号土坑



24号土坑



21号土坑

- ア 灰黄褐色砂質土(10YR6/2) 盛土。
イ にぶい黄橙色土(10YR6/4) 盛土。ローム混じり土。
ウ 明黄褐色土(10YR7/6) 盛土。ローム土。
エ 灰黄褐色砂質土(10YR6/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石(φ 1～30mm大)を含む。縮りやや弱。
1 灰黄褐色砂質土(10YR6/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1～5mm大)を含む。縮りやや弱。
2 灰黄褐色砂質土(10YR6/2) 縮りやや弱い。
3 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1～10mm大)を含む。縮りやや弱。
4 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1～20mm大)を含む。縮りやや弱。
5 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1～5mm大)を含む。縮りやや弱。

23号土坑

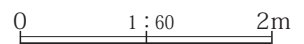
- 1 にぶい黄褐色砂質土(10YR3/4) 少量の榛名二ツ岳白色軽石大粒(φ 2～50mm大)を含む。
2 灰黄色砂質土(2.5Y6/2) 多量の榛名二ツ岳白色軽石大粒(φ 1～80mm大)を含む。

24号土坑

- 1 浅黄色シルト質土(2.5Y7/3)+砂質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1～5mm大)を含む。
2 褐灰色砂質土(10YR4/1) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1～10mm大)を含む。
3 灰黄色シルト質土(2.5Y6/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1～10mm大)を含む。
4 暗灰黄色砂質土(2.5Y5/2) 少量の榛名二ツ岳白色軽石大粒(φ 1～70mm大)を含む。
5 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 少量の榛名二ツ岳白色軽石大粒(φ 1～50mm大)を含む。

22号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 少量の榛名二ツ岳白色軽石(φ 2～30mm大)を含む。
2 灰黄色シルト質土(2.5Y6/2)+砂質土 少量の榛名二ツ岳白色軽石大粒(φ 2～50mm大)を含む。



第692図 IX区18～24・53号土坑と20号土坑の出土遺物

26号土坑(第693図、PL.370)

グリッド 12-91区N12

長軸方位 N52°W

新旧関係 8号溝が旧。

形状と規模 長方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。
長辺は1.41m、短辺は0.68m、深さは0.23mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

27号土坑(第693図、PL.370)

グリッド 12-92区A16

長軸方位 N64°W

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は半月形を呈する。
長径は0.98m、短径は0.90m、深さは0.20mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

28号土坑(第693図、PL.371)

グリッド 12-92区B17

長軸方位 N30°W

新旧関係 32号土坑が旧。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は歪んだ箱形を呈する。
長径は2.37m、短径は1.41m+、深さは0.76mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

遺物 埋土から須恵器の椀(2)が出土した。

時代 平安時代9世紀後半。

29号土坑(第693図、PL.371)

グリッド 12-92区C18

長軸方位 N47°W

新旧関係 32号土坑が新。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は半月形を呈する。
長径は0.78m+、短径は0.54m+、深さは0.50mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

32号土坑(第693図、PL.371)

グリッド 12-92区B18

長軸方位 N55°W

新旧関係 28号土坑が新。29号土坑が旧。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は箱形を呈する。
長径は2.81m+、短径は1.13m+、深さは0.75mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

30号土坑(第693図、PL.371)

グリッド 12-91区I9

長軸方位 N42°E

新旧関係 17号住居が旧。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は皿形を呈する。
長径は0.77m、短径は0.60m、深さは0.31mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀より新。

31号土坑(第694図、PL.371)

グリッド 12-91区P14

長軸方位 N57°W

新旧関係 なし。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は箱形を呈する。
長径は1.12m、短径は0.58m+、深さは0.23mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

遺物 埋土から灰釉陶器の椀(1)が出土した。

時代 平安時代10世紀前半。

33号土坑(第694図、PL.371)

グリッド 12-92区A16

長軸方位 N45°E

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。
長辺は1.83m、短辺は0.65m、深さは0.28mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

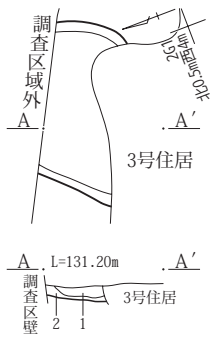
34号土坑(第694図、PL.371)

グリッド 12-92区A16

長軸方位 N35°W

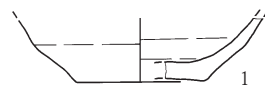
新旧関係 なし。

25号土坑

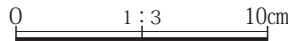


- 1 灰黄褐色土 (10YR4/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1～5mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色土 (10YR5/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1～5mm大)・炭化粒子(φ 1～2mm大)・小円礫(φ 20～40mm大)を含む。

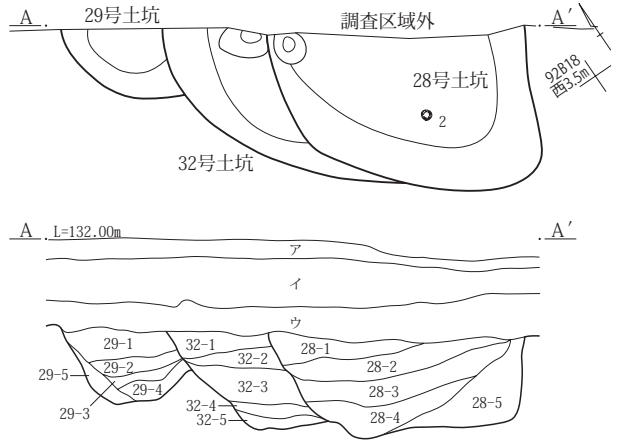
25号土坑



28号土坑

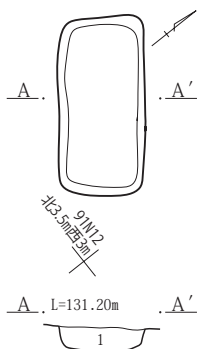


28・29・32号土坑



- ア 褐灰色砂質土(10YR6/1) 盛土。
 イ 灰黄褐色砂質土(10YR6/2) 耕土。微量の榛名二ツ岳白色軽石大粒(φ 1～50mm大)を含む。
 ウ にぶい黄褐色砂質土(10YR5/3) 床土。微量の榛名二ツ岳白色軽石大粒(φ 1～70mm大)を含む。
- 28-1 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 少量の榛名二ツ岳白色軽石(φ 1～40mm大)を含む。
 28-2 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1～10mm大)・炭化粒子(φ 1～3mm大)を含む。
 28-3 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石(φ 1～40mm大)を含む。
 28-4 にぶい黄褐色砂質土(10YR5/4) 微量の榛名二ツ岳白色軽石(φ 1～30mm大)を含む。
 28-5 にぶい黄色砂質土(2.5Y6/3) 微量の榛名二ツ岳白色軽石大粒(φ 1～50mm大)を含む。
- 32-1 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石大粒(φ 1～50mm大)を含む。
 32-2 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石(φ 1～30mm大)を含む。
 32-3 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石(φ 1～30mm大)を含む。
 32-4 黄褐色砂質土(2.5Y5/3) 微量の榛名二ツ岳白色軽石(φ 1～30mm大)を含む。
 32-5 黄褐色土(2.5Y5/4) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1～5mm大)を含む。
- 29-1 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石大粒(φ 1～100mm大)を含む。
 29-2 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石(φ 1～40mm大)を含む。
 29-3 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 少量の榛名二ツ岳白色軽石(φ 1～30mm大)を含む。
 29-4 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 少量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1～20mm大)を含む。
 29-5 暗灰黄色シルト質土(2.5Y5/2) 少量の榛名二ツ岳白色軽石(φ 1～30mm大)を含む。

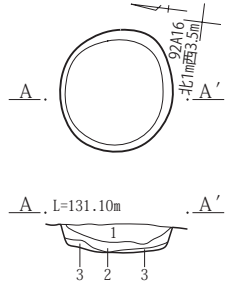
26号土坑



26号土坑

- 1 灰黄褐色土(10YR5/2) 榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1～5mm大)を含む。

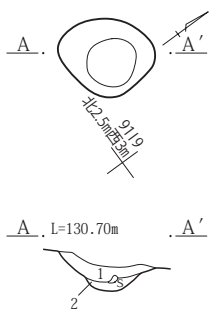
27号土坑



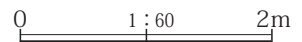
27号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 少量の榛名二ツ岳白色軽石大粒(φ 1～50mm大)を含む。
- 2 暗灰黄色砂質土(2.5Y4/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石(φ 1～30mm大)を含む。
- 3 にぶい黄色シルト質土(2.5Y6/4)

30号土坑



- 1 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1～2mm大)・角礫(φ 70mm大)を1個含む。
- 2 黒褐色砂質土(10YR3/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石(φ 1～30mm大)・炭化粒子(φ 1～2mm大)を含む。



第693図 IX区25～30・32号土坑と25・28号土坑の出土遺物

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は0.94m、短辺は0.75m、深さは0.26mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

遺物 底直上から黒色土器の椀(2)、埋土から須恵器の平瓶(3)が出土した。

時代 平安時代10世紀。

35号土坑(第694図、PL.371)

グリッド 12-91区 T 16

長軸方位 N15°E

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は皿形を呈する。

長辺は0.65m、短辺は0.53m、深さは0.38mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

36号土坑(第694図、PL.371)

グリッド 12-92区 E 18

長軸方位 N18°E

新旧関係 7号住居廃絶後に構築。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は0.82m、短辺は0.77m、深さは0.46mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 平安時代10世紀後半。

37号土坑(第694図、PL.371)

グリッド 12-92区 E 18

長軸方位 N4°W

新旧関係 6・7号住居が新。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は半月形を呈する。長辺は0.97m、短辺は0.77m、深さは0.25mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀後半より旧。

38号土坑(第694図、PL.371)

グリッド 12-92区 E 19

長軸方位 N83°E

新旧関係 18・22号住居が旧。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は半月形を呈する。長辺は1.20m、短辺は0.91m、深さは0.29mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

遺物 埋土から灰釉陶器の椀(4)が出土した。

時代 平安時代10世紀前半。

39号土坑(第695図、PL.371)

グリッド 12-92区 A 16

長軸方位 N48°W

新旧関係 12号住居が旧。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長辺は1.37m、短辺は0.76m、深さは0.42mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀前半より新。

40号土坑(第695図、PL.371)

グリッド 12-92区 E 19

長軸方位 N85°W

新旧関係 4号住居、42号土坑が旧。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は半月形を呈する。

長径は0.65m、短径は0.55m、深さは0.40mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀後半より新。

41号土坑(第695図、PL.371)

グリッド 12-92区 E 19

長軸方位 N19°W

新旧関係 44号土坑が旧。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。

長径は0.78m、短径は0.68m、深さは0.29mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

42号土坑(第695図、PL.372・445)

グリッド 12-92区 E 19

長軸方位 N75°E

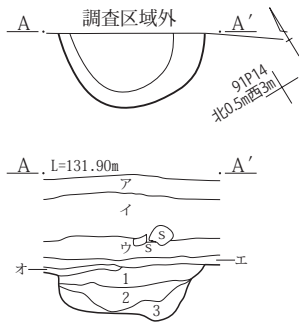
新旧関係 4・5号住居、40号土坑が旧。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。

長辺は1.03m、短辺は0.73m、深さは0.58mである。

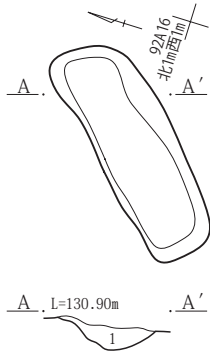
埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

31号土坑



- ア 褐灰色砂質土(10YR5/1) 盛土。微量の角礫+小円礫(φ 1~20mm大)を含む。
- イ 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 盛土。微量の榛名二ツ岳白色軽石大粒(φ 1~200mm大)・小円礫(φ 30~50mm大)を含む。
- ウ 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 耕土。微量の榛名二ツ岳白色軽石(φ 1~30mm大)を含む。
- エ にぶい黄褐色砂質土(10YR4/3) 床土。微量の榛名二ツ岳白色軽石(φ 2~30mm大)を含む。
- オ 褐色砂質土(10YR4/6) 微量の榛名二ツ岳白色軽石(φ 1~30mm大)を含む。
- 1 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石(φ 2~30mm大)を含む。
- 2 黒褐色砂質土(10YR3/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~5mm大)を含む。
- 3 にぶい黄褐色シルト質土(10YR5/4) 微量の黒褐色土を含む。

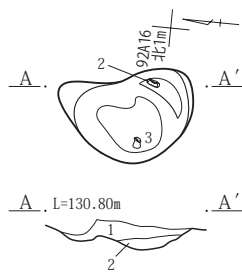
33号土坑



33号土坑

- 1 灰黄褐色土(10YR4/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~20mm大)・にぶい黄褐色シルト質土を含む。締り強。

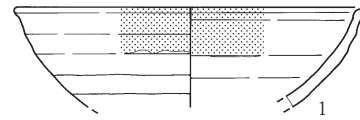
34号土坑



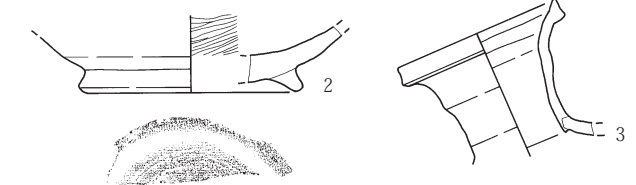
34号土坑

- 1 黒褐色砂質土(10YR3/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石(φ 1~30mm大)・(φ 1~10mm)を含む。締り強。
- 2 灰黄色砂質土(2.5Y7/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒・炭化粒子(φ 1~5mm大)を含む。締り強。

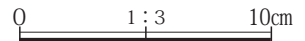
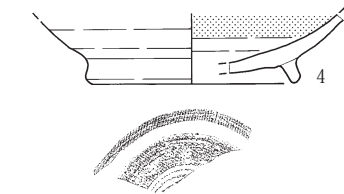
31号土坑



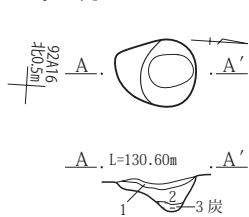
34号土坑



38号土坑



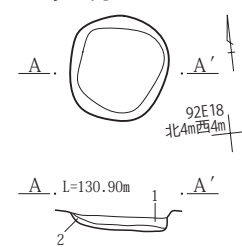
35号土坑



35号土坑

- 1 褐灰色土(10YR4/1) 少量の炭化物を含む。
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石(φ 1~30mm大)を含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/1) 炭化物中心層。

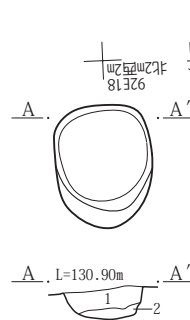
36号土坑



36号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~3mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~20mm大)を含む。締りやや弱。

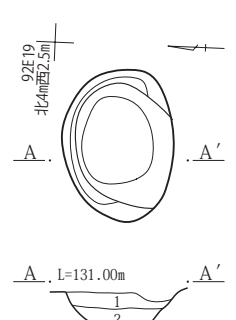
37号土坑



37号土坑

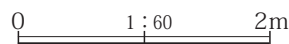
- 1 にぶい黄褐色砂質土(10YR5/3) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~20mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~20mm大)を含む。

38号土坑



38号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~20mm大)・炭化粒子(φ 1~8mm大)を含む。締りやや弱。
- 2 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~20mm大)を含む。締りやや弱。



第694図 IX区31・33~38号土坑と31・34・38号土坑の出土遺物

遺物 底直上から須恵器の杯(1)、埋土から杯(2)が出土した。

時代 平安時代10世紀後半。

44号土坑(第695図、PL.372)

グリッド 12-92区E19

長軸方位 N67°E

新旧関係 41号土坑が新。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は皿形を呈する。

長辺は1.18m、短辺は0.96m、深さは0.32mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

48号土坑(第695図、PL.372)

グリッド 12-92区D18

長軸方位 N8°E

新旧関係 11号住居が旧。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は0.69m、短辺は0.63m、深さは0.14mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀第4四半期より新。

49号土坑(第695図、PL.372)

グリッド 12-92区D17

長軸方位 N72°W

新旧関係 25号住居が旧。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は0.79m+、短径は0.46m+、深さは0.20mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀第3四半期より新。

43号土坑(第696・697図、PL.372・445)

グリッド 12-92区D18

長軸方位 N77°W

新旧関係 45号土坑が旧。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は3.85m、短辺は2.70m、深さは0.52mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなりレンズ状に成層する。

遺物 埋土から須恵器の杯(1~11)、椀(12~16)、脚付鉢(17)、灰釉陶器の皿(18)、土師器の甕(19)、須恵器の羽釜(20)、土錘(21)が出土した。

時代 平安時代10世紀後半。

45号土坑(第696・697図、PL.372)

グリッド 12-92区C18

長軸方位 N17°W

新旧関係 9・10号住居、43号土坑が新。

形状と規模 長方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。

長辺は4.67m+、短辺は1.33m+、深さは0.59mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

遺物 埋土から須恵器の甕(22)が出土した。

時代 平安時代9~10世紀。

46号土坑(第698図、PL.372)

グリッド 12-92区D19

長軸方位 N77°E

新旧関係 47号土坑が旧。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は半月形を呈する。長辺は2.35m、短辺は1.46m、深さは0.46mである。

埋土 灰黄褐色砂質土が成層する。

遺物 埋土から須恵器の杯(1・2)、椀(3)、灰釉陶器の皿(4)、壺(5)、須恵器の羽釜(6)が出土した。

時代 平安時代10世紀後半。

47号土坑(第698図、PL.372)

グリッド 12-92区D19

長軸方位 N5°E

新旧関係 46号土坑が新。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状はU字形を呈する。長辺は0.72m+、短辺は0.81m、深さは0.57mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

50号土坑(第698図、PL.372)

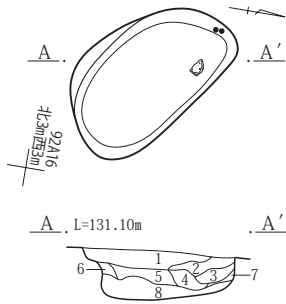
グリッド 12-92区D17

長軸方位 N48°W

新旧関係 52号土坑が新。

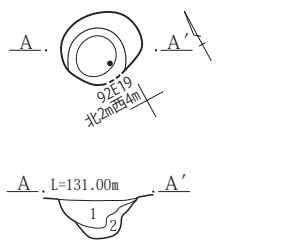
形状と規模 円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。

39号土坑

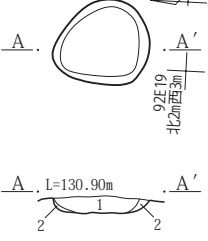


- 1 にぶい黄褐色砂質土(10YR5/4) 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1~20mm大)・炭化粒子(φ 1~5mm大)を含む。
- 2 黒褐色砂質土(10YR3/2) 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1~3mm大)を含む。
- 3 にぶい黄橙色土(10YR7/3) FP泥流シルト質土(崩落土)。
- 4 灰黄褐色土(10YR4/2) 少量のFP泥流シルト質土を含む。
- 5 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1~20mm大)を含む。
- 6 にぶい黄橙色土(10YR6/4) 3層土とは異なるシルト質土。FA泥流土(崩落土)。
- 7 にぶい黄褐色砂質土(10YR5/4)
- 8 にぶい黄褐色シルト質土(10YR5/3) 微量のFA泥流土を含む。

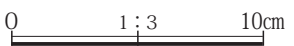
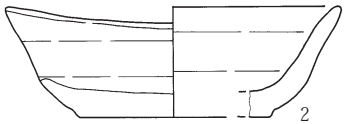
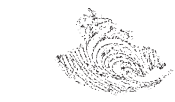
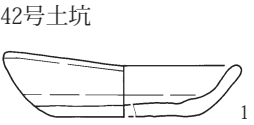
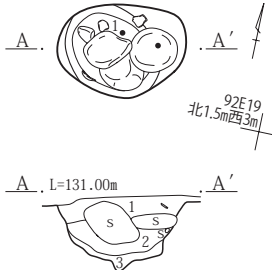
40号土坑



41号土坑



42号土坑



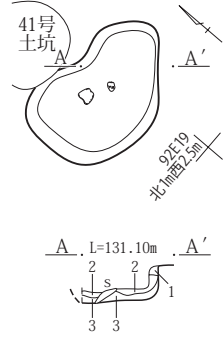
40号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1~10mm大)・小円礫(φ 10~30mm大)を含む。
- 2 にぶい黄褐色砂質土(10YR5/3) 微量のにぶい黄褐色シルト質土(FA泥流土)を含む。

41号土坑

- 1 にぶい黄褐色砂質土(10YR5/3) 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1~20mm大)を含む。
- 2 にぶい黄褐色シルト質土(10YR6/4) FA泥流シルト質土を含む。

44号土坑



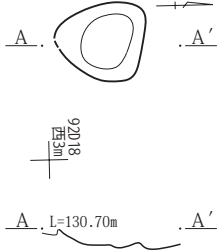
44号土坑

- 1 浅黄橙色シルト質土(10YR8/3) 崩壊土。FP泥流シルト質土。
- 2 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1~5mm大)・炭化物を含む。
- 3 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 榛名ニツ岳白色軽石、炭化物粒子(φ 1~30mm大)を含む。

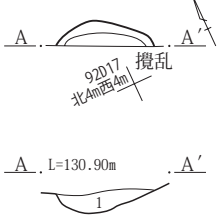
42号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1~10mm大)・炭化粒子(φ 2~5mm大)を含む。
- 2 黒褐色砂質土(10YR3/2) 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1~20mm大)を含む。
- 3 にぶい黄褐色シルト質土(10YR5/3)+砂質土

48号土坑

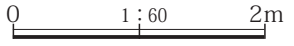


49号土坑

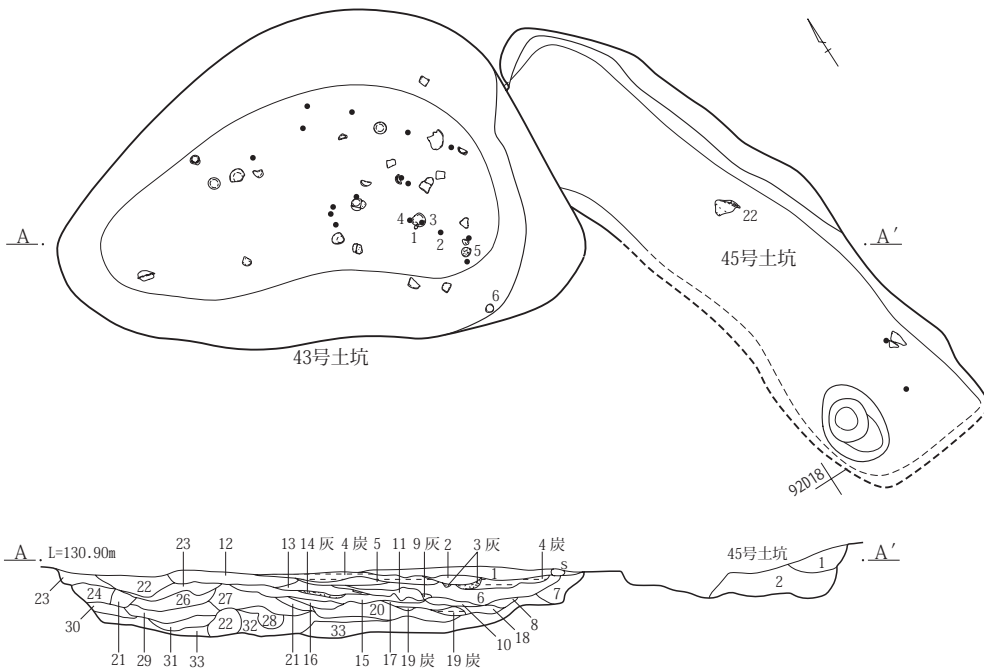


49号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土 榛名ニツ岳白色軽石(φ 1~30mm大)・小円礫(φ 10~30mm大)を含む。縮りやや弱。



第695図 IX区39~42・44・48・49号土坑と42号土坑の出土遺物

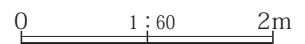


43号土坑

- 1 暗灰黄色砂質土(2.5Y4/2) 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1～10mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 微量の焼土粒子(φ 1mm大)と炭を含む。
- 3 灰褐色砂質土(10YR6/2) 灰層中心層。締り弱。
- 4 黒褐色砂質土(10YR3/1) 炭中心層。多量の炭を含む。
- 5 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1～10mm大)・焼土粒子(φ 1mm大)・炭化粒子(φ 1～2mm大)を含む。
- 6 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 微量の榛名ニツ岳白色軽石(φ 1～30mm大)・焼土粒子(φ 2mm大)・炭化粒子(φ 1mm大)と少量の灰(ブロック)を含む。
- 7 暗灰黄色砂質土(2.5Y5/2) 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1～10mm大)を含む。
- 8 暗灰黄色砂質土(2.5Y4/2) 炭化物中心層。微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1～5mm大)を含む。
- 9 灰白色砂質土(10YR8/2) 灰中心層。
- 10 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 少量の炭化物を含む。
- 11 にぶい黄橙色土(10YR7/2) 多量の灰、微量の炭化物を含む。微量の焼土ブロックを混入する。
- 12 灰黄褐色土(10YR6/2) 少量の灰が層状に混入する。
- 13 灰黄褐色土(10YR4/2) 微量の炭化物を含む。
- 14 灰白色土(10YR8/1) 灰中心層。
- 15 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 少量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1～5mm大)を含む。
- 16 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1～20mm大)を含む。
- 17 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の灰と炭化物を含む。
- 18 にぶい黄褐色砂質土(10YR5/3) 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 10～20mm大)を含む。
- 19 黒褐色砂質土(10YR3/2) 炭化物中心。
- 20 にぶい黄褐色砂質土(10YR5/3) 少量の榛名ニツ岳白色軽石(φ 1～30mm大)を含む。
- 21 にぶい黄橙色砂質土(10YR6/3) 榛名ニツ岳白色軽石(φ 1～30mm大)を含む。

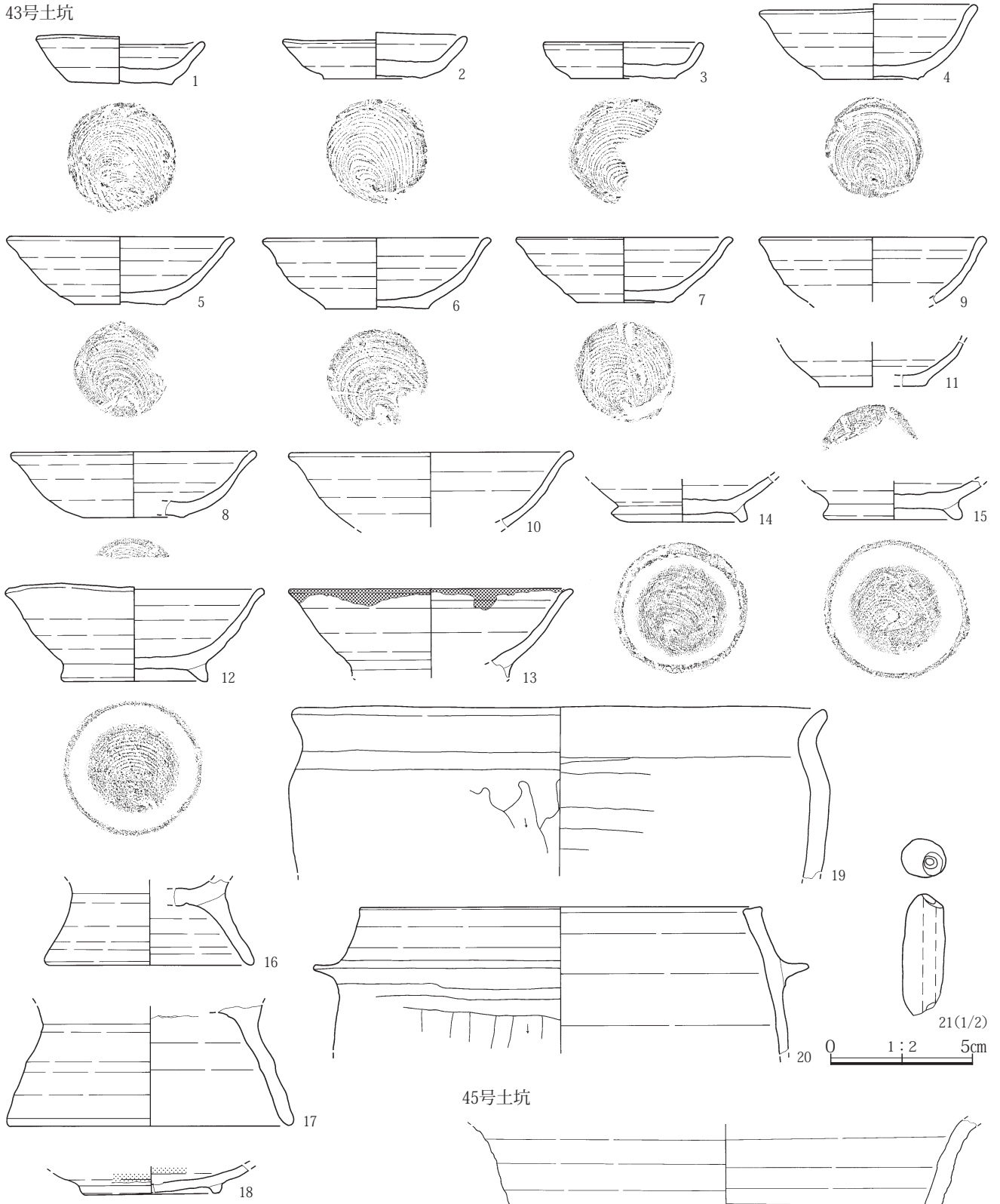
45号土坑

- 1 暗灰黄色砂質土(2.5Y5/2) 少量の浅黄橙色土・FP泥流土と微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1～3mm大)を含む。
- 2 暗灰黄色砂質土(2.5Y5/2) 少量の榛名ニツ岳白色軽石(φ 1～30mm大)を含む。
- 22 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1～20mm大)を含む。
- 23 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 微量の榛名ニツ岳白色軽石(φ 1～40mm大)を含む。
- 24 にぶい黄橙色シルト質土(10YR6/3) 微量の浅黄橙色土を含む。微量のFP泥流シルト質土混じり。
- 25 浅黄橙色シルト質土(10YR8/3) FP泥流シルト質土。
- 26 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 微量の榛名ニツ岳白色軽石(φ 1～40mm大)を含む。
- 27 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の榛名ニツ岳白色軽石(φ 1～40mm大)を含む。
- 28 浅黄橙色シルト質土(10YR8/3) FP泥流シルト質土。
- 29 にぶい黄褐色砂質土(10YR6/3) 微量の榛名ニツ岳白色軽石(φ 1～30mm大)を含む。
- 30 にぶい黄褐色シルト質土(10YR6/3) 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1～5mm大)と浅黄橙色土・FPシルト質土ブロックを含む。
- 31 暗灰黄色砂質土(2.5Y4/2) 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1～3mm大)と少量の浅黄橙色土・FPシルト質土泥流土ブロックを含む。
- 32 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 少量の榛名ニツ岳白色軽石大粒(φ 1～70mm大)を含む。
- 33 黄褐色砂質土(2.5Y5/3)+シルト質土 やや黄味がかかる。微量の榛名ニツ岳白色軽石(φ 1～30mm大)を含む。

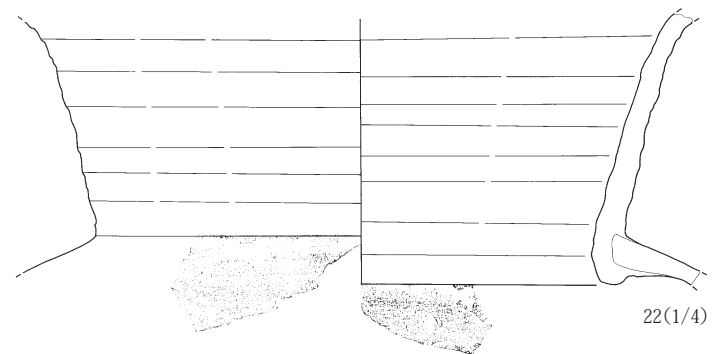


第696図 IX区43・45号土坑

43号土坑



45号土坑



第697図 IX区43・45号土坑の出土遺物

長径は0.68m、短径は0.66m+、深さは0.17mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

遺物 埋土から須恵器の杯(7)が出土した。

時代 平安時代11世紀前半。

51号土坑(第698図、PL.372)

グリッド 12-92区C17

長軸方位 N10°W

新旧関係 52号土坑が旧。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は2.77m+、短径は2.02m+、深さは0.34mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

52号土坑(第698図、PL.372)

グリッド 12-92区C17

長軸方位 N18°W

新旧関係 50号土坑が旧。51号土坑が新。

形状と規模 楕円形を呈し、断面形状は半月形を呈する。長径は2.14m+、短径は1.30m、深さは0.63mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

7. X区

1号土坑(第699図、PL.373)

グリッド 13-2区Q20

長軸方位 N79°E

新旧関係 なし。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は半月形を呈する。長径は0.57m、短径は0.32m+、深さは0.25mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

2号土坑(第699図、PL.373)

グリッド 13-12区T1

長軸方位 N40°E

新旧関係 6号溝が旧。

形状と規模 方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は0.56m、短辺は0.48m、深さは0.07mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

3号土坑(第699図、PL.373)

グリッド 13-13区A1

長軸方位 N37°W

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は0.85m、短径は0.83m、深さは0.17mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

4号土坑(第699図、PL.373)

グリッド 13-13区A1

長軸方位 N1°W

新旧関係 34号土坑が旧。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は0.93m、短径は0.85m、深さは0.26mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

33号土坑(第699図、PL.373)

グリッド 13-3区A20

長軸方位 N44°W

新旧関係 16・34号土坑が新。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は1.75m+、短径は1.18m+、深さは0.44mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

34号土坑(第699図、PL.373)

グリッド 13-3区A20

長軸方位 N80°E

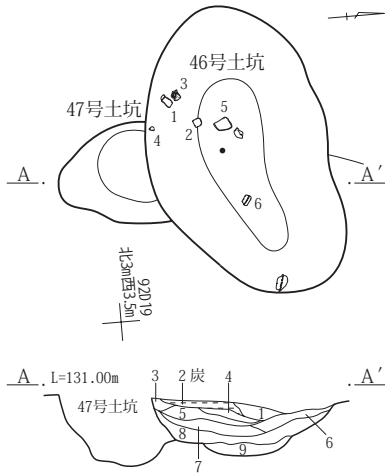
新旧関係 4号土坑が新。16・33号土坑が旧。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は1.08m、短径は1.00m、深さは0.28mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

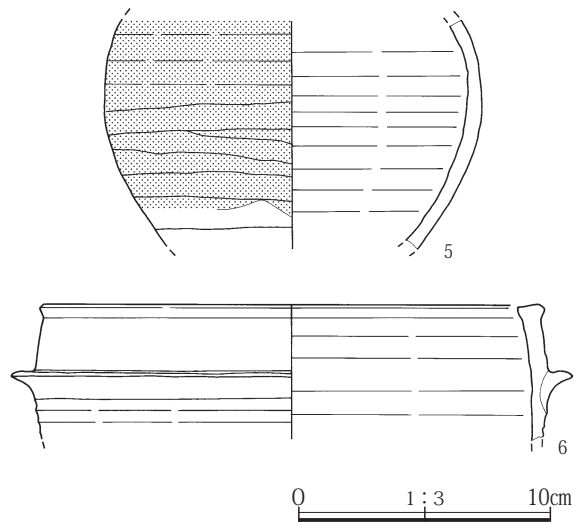
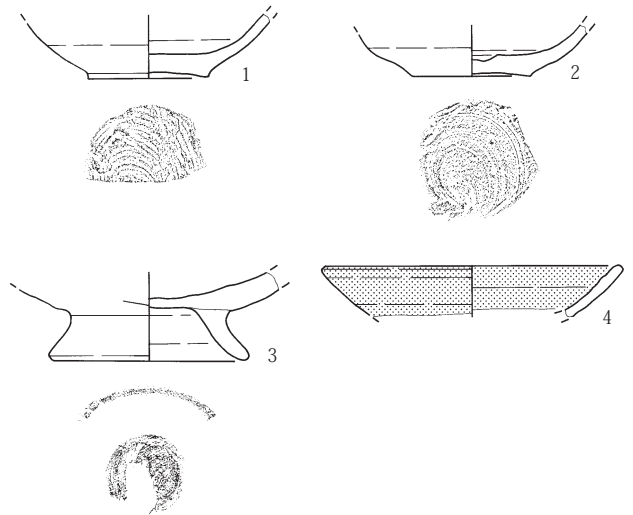
時代 古墳時代以降である。

46・47号土坑

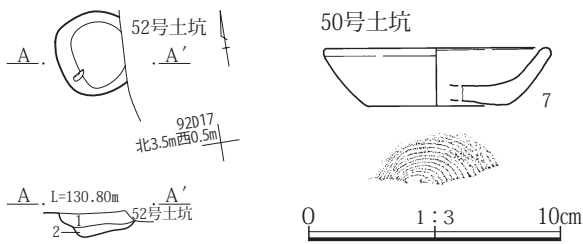


- 1 にぶい黄褐色砂質土(10YR5/3) 榛名二ツ岳白色軽石大粒(φ 1~50mm大)・炭化粒子(φ 1~20mm大)を含む。
- 2 褐灰色砂質土(10YR4/1) 炭化物中心層。榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~20mm大)を含む。
- 3 褐灰色砂質土(10YR4/1) にぶい黄褐色土・少量の炭化物を含む。
- 4 暗灰黄色砂質土(2.5Y5/2) 榛名二ツ岳白色軽石大粒(φ 1~50mm大)を含む。
- 5 にぶい黄色砂質土(2.5Y6/3) 榛名二ツ岳白色軽石(φ 1~30mm大)を含む。
- 6 灰黄色砂質土(2.5Y6/2) 榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~20mm大)を含む。
- 7 褐灰色砂質土(10YR4/1) 榛名二ツ岳白色軽石大粒(φ 1~100mm大)を含む。
- 8 暗灰黄色砂質土(2.5Y7/2) 少量の榛名二ツ岳白色軽石大粒(φ 1~70mm大)を含む。
- 9 にぶい黄色シルト質土(2.5Y6/3) 榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~20mm大)・灰白色土・FP泥流シルト質土を含む。

46号土坑



50号土坑

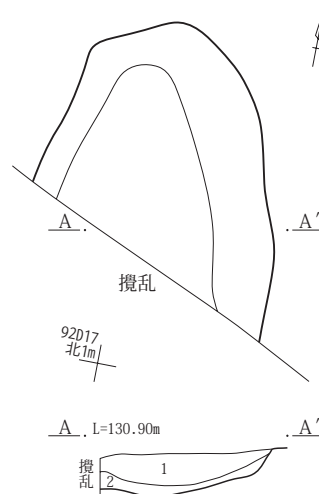


- 1 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~5mm大)・炭化粒子(φ 1~10mm大)を含む。
- 2 にぶい黄褐色砂質土(10YR5/3) 榛名二ツ岳白色軽石を含む。

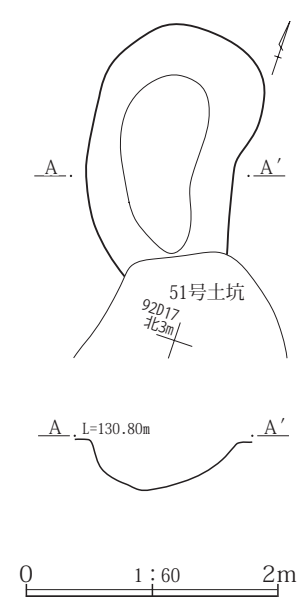
51号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 少量の榛名二ツ岳白色軽石大粒(φ 1~50mm大)を含む。
- 2 暗灰黄色砂質土(2.5Y4/2) 榛名二ツ岳白色軽石(φ 1~30mm大)を含む。

51号土坑



52号土坑



第698図 IX区46・47・50~52号土坑と46・50号土坑の出土遺物

5号土坑(第699図、PL.373)

グリッド 13-3区B20

長軸方位 N32°W

新旧関係 11号溝が旧。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は1.00m、短径は0.58m、深さは0.17mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

7号土坑(第699図、PL.373)

グリッド 13-3区B20

長軸方位 N32°W

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は0.89m、短径は0.81m、深さは0.17mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

8号土坑(第699図、PL.373)

グリッド 13-13区B1

長軸方位 N38°E

新旧関係 11号溝が旧。

形状と規模 楕円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は0.58m、短径は0.46m、深さは0.14mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

9号土坑(第699図、PL.373)

グリッド 13-13区B1

長軸方位 N50°W

新旧関係 11号溝が旧。

形状と規模 楕円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は0.65m、短径は0.54m、深さは0.10mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

10号土坑(第700図、PL.373・445)

グリッド 13-13区B1

長軸方位 N60°W

新旧関係 11号溝が旧。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は0.42m、短辺は0.40m、深さは0.11mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

遺物 埋土から須恵器の皿(1)が出土した。

時代 平安時代10世紀前半。

11号土坑(第700図、PL.373)

グリッド 13-13区C2

長軸方位 N17°E

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は0.68m、短径は0.60m、深さは0.07mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

12号土坑(第700図、PL.373)

グリッド 13-13区C2

長軸方位 N72°W

新旧関係 なし。

形状と規模 楕円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は0.47m、短径は0.34m、深さは0.08mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

13号土坑(第700図、PL.373)

グリッド 13-13区B2

長軸方位 N56°W

新旧関係 なし。

形状と規模 楕円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は0.37m、短径は0.31m、深さは0.05mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

14号土坑(第700図、PL.373)

グリッド 13-2区R20

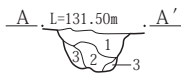
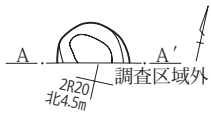
長軸方位 N78°E

新旧関係 6号溝が旧。

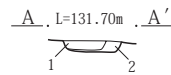
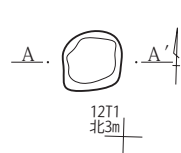
形状と規模 不定形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は0.53m、短径は0.10m+、深さは0.12mであ

第4章 第2面の遺構と出土遺物

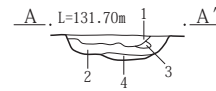
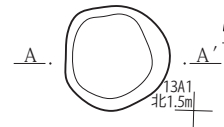
1号土坑



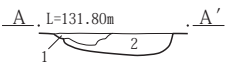
2号土坑



3号土坑



5号土坑



1号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/4) 少量のローム土・榛名二ツ岳白色軽石を含む。硬く締り強。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) 微量のローム土を混入する。締りやや強。粘性有。
- 3 にぶい黄褐色シルト質土(10YR4/3) 少量の2層土が混入する。締りやや弱。

2号土坑

- 1 暗褐色土 灰褐色土ブロックを含む。硬く締る。
- 2 暗褐色土 黄褐色土粒子を含む。硬く締る。粘性有。

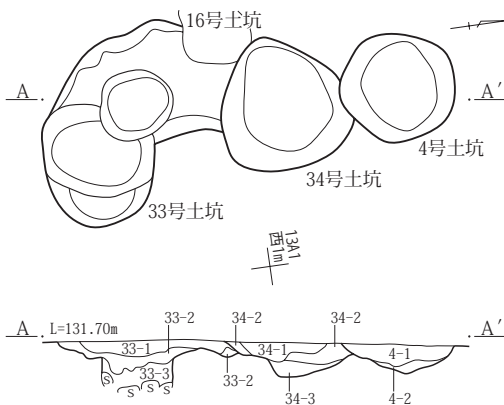
3号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/2) 柔らかい。粘性非常に有。締りやや弱。
- 2 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 少量の1層土が混入する。締り弱。粘性非常に有。
- 3 黒褐色土(10YR2/3) 土質均一。締りやや強。粘性やや有。
- 4 褐色土(10YR4/6) 粗い砂を混入する。締りやや強。

5号土坑

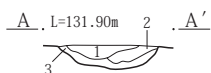
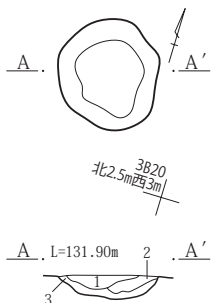
- 1 黒褐色土(10YR3/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石粒を含む。締り強。粘性有。
- 2 灰褐色土(10YR4/2) くすんだローム土。少量の榛名二ツ岳白色軽石が混入する。締り強。粘性やや有。

4・33・34号土坑

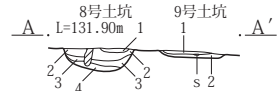
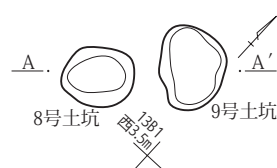


- 4-1 暗褐色土(10YR3/3) 少量の榛名二ツ岳白色軽石・ローム土を含む。締り強。
- 4-2 褐色土(10YR4/4) 粘性あるローム主体。少量の1層土が混入する。締りやや弱。
- 33-1 暗褐色土 少量の榛名二ツ岳白色軽石と黄白色土ブロックを含む。やや硬く締る。
- 33-2 暗褐色土 多量の黄白色土ブロックを含む。やや硬く締る。
- 33-3 暗褐色土 少量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 34-1 暗褐色土 少量の榛名二ツ岳白色軽石と黄白色土ブロックを含む。やや硬く締る。
- 34-2 暗褐色土 少量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。
- 34-3 暗褐色土 多量の黄白色土ブロックを含む。やや硬く締る。

7号土坑



8・9号土坑



8号土坑

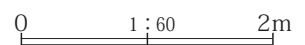
- 1 黒褐色土(10YR2/1) 炭化物層と2層土の互層。締りやや強。粘性有。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) 少量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。締りやや強。粘性有。
- 3 灰褐色土(10YR4/2) 締り強。粘性有。
- 4 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 粗い砂混じり。土質もろい。

9号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 少量のローム土が混入する。締りやや弱。
- 2 褐色土(10YR4/4)

7号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 少量のローム土が混入する。締りやや強。粘性非常に有。
- 2 黒褐色土(10YR2/2) 締りやや弱。柔らかい。粘性有。
- 3 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 粘性のあるローム土に少量の1層土が混入する。締りやや強。



第699図 X区 1～5・7～9・33・34号土坑

る。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

15号土坑(第700図、PL.373)

グリッド 13-12区T 1

長軸方位 N64°W

新旧関係 8号溝が新。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は0.82m、短辺は0.56m、深さは0.12mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

16号土坑(第700図、PL.373)

グリッド 13-3区A20

長軸方位 N42°E

新旧関係 なし。

形状と規模 楕円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は0.64m、短径は0.53m、深さは0.16mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

17号土坑(第700図)

グリッド 13-13区D 3

長軸方位 N60°W

新旧関係 9号ピットが旧。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は0.51m、短辺は0.50m、深さは0.12mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

18号土坑(第700図)

グリッド 13-13区D 2

長軸方位 N29°W

新旧関係 11号溝が旧。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は0.54m、短辺は0.48m、深さは0.07mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

19号土坑(第700図)

グリッド 13-13区C 2

長軸方位 N12°W

新旧関係 9号住居が旧。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は半月形を呈する。長辺は0.82m、短辺は0.71m、深さは0.23mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

20号土坑(第700図)

グリッド 13-13区C 2

長軸方位 N14°E

新旧関係 16号住居、11号溝が旧。

形状と規模 楕円形を呈し、断面形状はU字形を呈する。長径は0.62m、短径は0.45m、深さは0.23mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀第1四半期より新。

21号土坑(第701図)

グリッド 13-13区C 1

長軸方位 N20°W

新旧関係 なし。

形状と規模 楕円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は1.04m、短径は0.81m、深さは0.25mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

22号土坑(第701図)

グリッド 13-13区B 2

長軸方位 N27°W

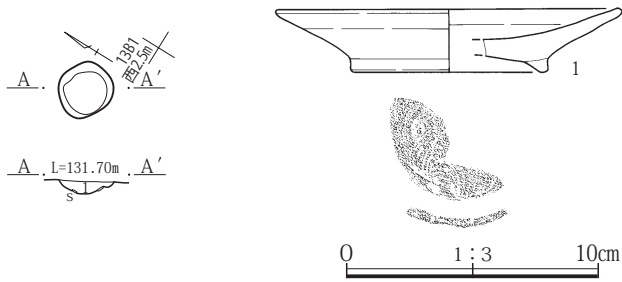
新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は0.69m、短辺は0.68m、深さは0.10mである。

埋土 浅間Bテフラを含む暗褐色砂質土からなる。

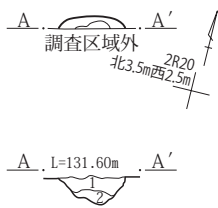
時代 12世紀初頭以降である。

10号土坑



- 1 暗褐色土(10YR3/3) 少量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。締り強。粘性やや有。

14号土坑

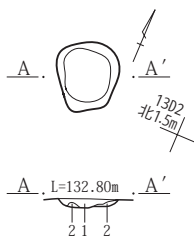


- 14号土坑
1 黒褐色土(10YR3/2) 榛名二ツ岳白色軽石を含む。少量のローム土を混入する。硬く締り強。
2 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 微量の軽石を含む。締り強。粘性やや有。

15号土坑

- 1 暗褐色土 硬く締る。
2 暗褐色土 灰黄褐色土ブロックを含む。やや硬く締る。粘性有。

18号土坑

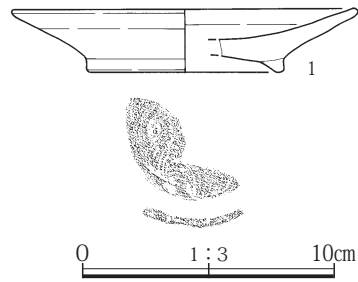


- 18号土坑
1 暗褐色土 黄褐色土ブロック・榛名二ツ岳白色軽石・炭化物粒子を含む。硬く締る。
2 灰褐色土 やや硬く締る。

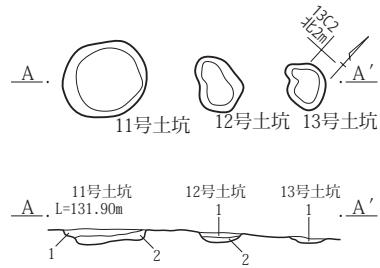
19号土坑

- 1 暗褐色土 榛名二ツ岳白色軽石・炭化物粒子・黄褐色土ブロックを含む。やや硬く締る。粘性有。
2 暗褐色土 灰褐色土ブロックを含む。やや硬く締る。粘性有。

10号土坑



11・12・13号土坑



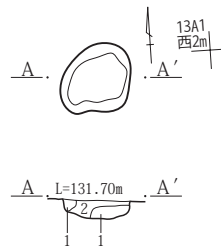
11・13号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/2) 鉄分沈着したロームブロックを含む。締り強。
2 明褐色土(7.5YR5/8) 鉄分沈着したローム土主体。土質粗い。締り強。

12号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/2) 少量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。締り強。
2 灰褐色土(10YR4/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。締りやや強。粘性やや有。

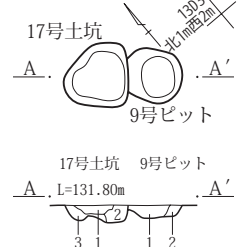
16号土坑



16号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 微量のローム土を混入する。締りやや強。粘性有。
2 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 粘性のあるローム土と1層土の混土。締りやや強。

17号土坑・9号ピット



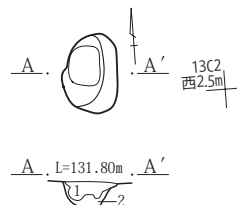
17号土坑

- 17号土坑
1 暗褐色土 榛名二ツ岳白色軽石・黄褐色土ブロックを含む。硬く締る。粘性有。
2 灰褐色土 少量の榛名二ツ岳白色軽石と灰褐色土ブロックを含む。やや硬く締る。
3 灰褐色土 榛名二ツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。

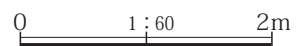
9号ピット

- 1 暗褐色土 灰褐色土ブロック・榛名二ツ岳白色軽石・炭化物粒子を含む。やや硬く締る。粘性有。
2 暗褐色土 多量の灰褐色土ブロックを含む。やや硬く締る。粘性有。

20号土坑



- 1 暗褐色土 榛名二ツ岳白色軽石・黄褐色土ブロックを含む。やや硬く締る。
2 暗褐色土 やや多く黄褐色土ブロックを含む。柔らかい。粘性有。



第700図 X区10~20号土坑と10号土坑の出土遺物

23号土坑(第701図、PL.373)

グリッド 13-12区T 2

長軸方位 N24°E

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は2.46m、短辺は1.42m、深さは0.14mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

24号土坑(第701図)

グリッド 13-13区E 3

長軸方位 N57°W

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は0.51m、短径は0.46m、深さは0.13mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

25号土坑(第701図、PL.373)

グリッド 13-13区G 3

長軸方位 N9°W

新旧関係 なし。

形状と規模 楕円形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長径は0.46m、短径は0.37m、深さは0.14mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

26号土坑(第701図、PL.373)

グリッド 13-13区G 3

長軸方位 N10°E

新旧関係 20・24号住居が旧。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長径は0.88m、短径は0.81m、深さは0.28mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 8世紀第3四半期より新。

27号土坑(第701図、PL.374・445)

グリッド 13-13区G 4

長軸方位 N56°W

新旧関係 なし。

形状と規模 楕円形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長径は1.28m、短径は1.10m、深さは0.32mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

遺物 埋土から緑釉陶器の皿か椀(1)が出土した。

時代 平安時代9世紀後半。

28号土坑(第701図、PL.374)

グリッド 13-13区G 5

長軸方位 N3°W

新旧関係 63号土坑が新。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は1.11m、短径は0.77m、深さは0.19mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

29号土坑(第701図)

グリッド 13-13区G 4

長軸方位 N25°E

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長辺は0.55m、短辺は0.50m、深さは0.29mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

30号土坑(第701図、PL.374)

グリッド 13-13区G 3

長軸方位 N83°W

新旧関係 24号住居が旧。

形状と規模 楕円形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長径は1.12m、短径は0.93m、深さは0.22mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 8世紀第3四半期より新。

31号土坑(第702図、PL.374)

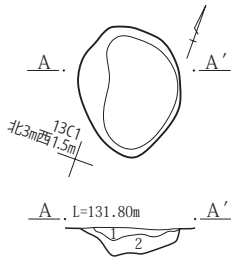
グリッド 13-13区F 2

長軸方位 N85°E

新旧関係 23号住居が旧。

第4章 第2面の遺構と出土遺物

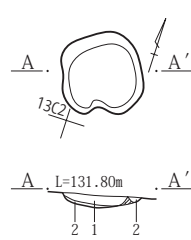
21号土坑



21号土坑

- 1 暗褐色土 榛名二ツ岳白色軽石・炭化物・黄褐色土ブロックを含む。やや硬く締る。
- 2 暗褐色土 榛名二ツ岳白色軽石・炭化物・黄褐色土ブロックを含む。やや硬く締る。粘性有。

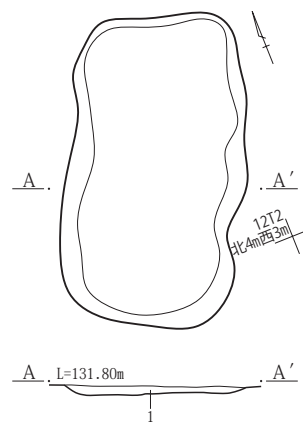
22号土坑



22号土坑

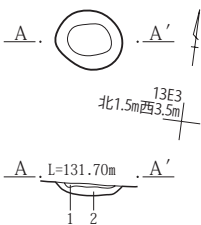
- 1 暗褐色土 浅間B軽石・黄褐色土ブロック・炭化物粒子を含む。硬く締る。
- 2 暗褐色土 やや多く黄褐色土ブロックを含む。やや硬く締る。

23号土坑



- 1 暗褐色土 多量の黄白色土ブロックと少量の榛名二ツ岳白色軽石・炭化物粒子を含む。やや硬く締る。

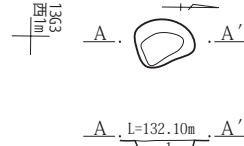
24号土坑



24号土坑

- 1 暗褐色土 黄褐色土粒子・榛名二ツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。
- 2 暗褐色土 黄褐色土ブロック・榛名二ツ岳白色軽石を含む。硬く締る。

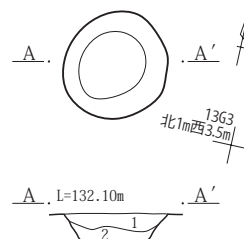
25号土坑



25号土坑

- 1 暗褐色土 榛名二ツ岳白色軽石・炭化物粒子を含む。やや硬く締る。

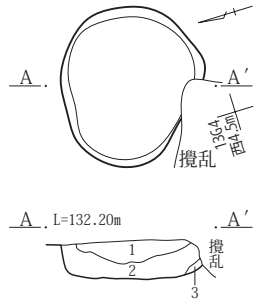
26号土坑



26号土坑

- 1 暗褐色土 榛名二ツ岳白色軽石・炭化物粒子を含む。やや硬く締る。
- 2 暗褐色土 少量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。硬くて締り良い。

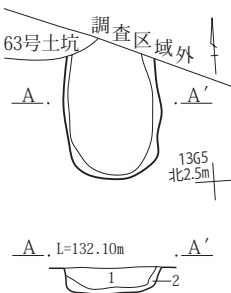
27号土坑



27号土坑

- 1 暗褐色土 多量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。
- 2 暗褐色土 榛名二ツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 3 暗褐色土 硬くて締り良い。

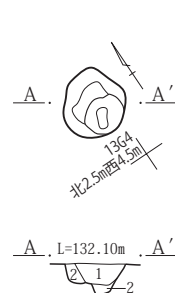
28号土坑



28号土坑

- 1 暗褐色土 やや多く榛名二ツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。
- 2 暗褐色土 1層土より軽石少ない。やや硬く締る。

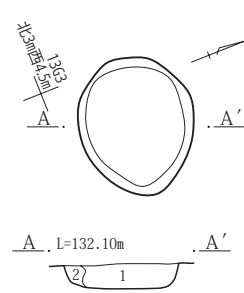
29号土坑



29号土坑

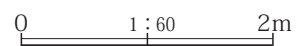
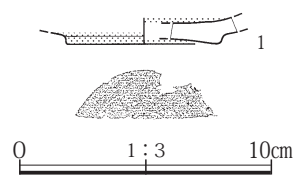
- 1 暗褐色土 18号ピットー1層土より榛名二ツ岳白色軽石を多く含む。やや硬く締る。
- 2 暗褐色土 少量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。粘性有。

30号土坑



- 1 暗褐色土 多量の榛名二ツ岳白色軽石と少量の炭化物を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 2 暗褐色土 1層土より明るい色調。少量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。粘性有。

27号土坑



第701図 X区21～30号土坑と27号土坑の出土遺物

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は皿形を呈する。
長辺は0.84m、短辺は0.65m、深さは0.14mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 9世紀第4四半期より新。

32号土坑(第702図、PL.374)

グリッド 13-12区R 1

長軸方位 N42°W

新旧関係 なし。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は2.23m、短径は1.08m、深さは0.22mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

35号土坑(第702図)

グリッド 13-12区T 1

長軸方位 N63°W

新旧関係 8号溝、5号ピットが新。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は1.56m、短径は1.08m、深さは0.23mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

36号土坑(第702図、PL.374)

グリッド 13-13区E 1

長軸方位 N86°E

新旧関係 46号土坑が旧。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は0.72m、短径は0.66m、深さは0.12mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

37号土坑(第702図、PL.374)

グリッド 13-13区D 1

長軸方位 N71°W

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長径は0.40m、短径は0.38m、深さは0.13mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

38号土坑(第702図、PL.374)

グリッド 13-13区D 1

長軸方位 N71°E

新旧関係 10号溝が旧。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.92m、短辺は1.50m、深さは0.42mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

39号土坑(第702図、PL.374)

グリッド 13-3区D20

長軸方位 N7°W

新旧関係 13号住居が旧。

形状と規模 円形を呈し、断面形状はU字形を呈する。長径は0.63m、短径は0.58m、深さは0.35mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀第1四半期より新。

41号土坑(第702図、PL.374)

グリッド 13-3区G20

長軸方位 N33°W

新旧関係 27号住居が新。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は0.69m、短径は0.66m、深さは0.10mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀後半より旧。

42号土坑(第703図、PL.374)

グリッド 13-13区H 4

長軸方位 N32°W

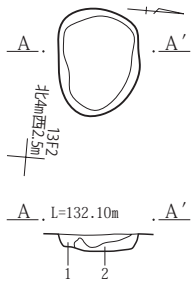
新旧関係 なし。

形状と規模 楕円形を呈し、断面形状は半月形を呈する。長径は0.47m、短径は0.40m、深さは0.32mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

31号土坑



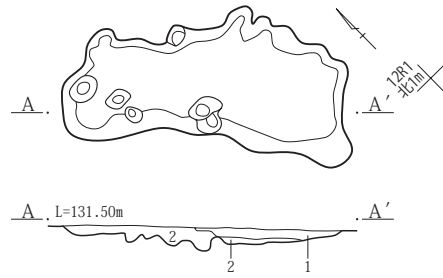
31号土坑

- 1 暗褐色土 榛名二ツ岳白色軽石と少量の炭化物粒子を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 2 灰褐色土 やや硬く締る。

32号土坑

- 1 黄褐色土 砂利を含む。やや硬く締る。
- 2 暗褐色土 黄褐色土ブロック・砂利を含む。やや硬く締る。

32号土坑



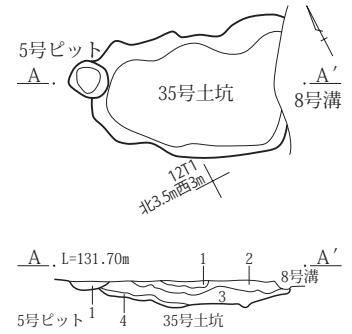
35号土坑

- 1 暗褐色土 少量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。
- 2 灰褐色土 黄褐色土ブロックを含む。やや硬く締る。粘性有。
- 3 暗褐色土 やや硬く締る。粘性有。
- 4 暗褐色土 灰褐色土ブロックを含む。やや硬く締る。

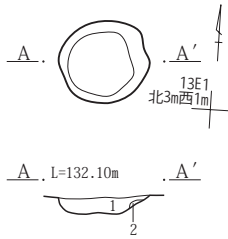
5号ピット

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 土質均一。締り強。粘性やや有。

35号土坑・5号ピット



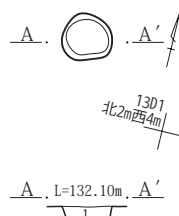
36号土坑



36号土坑

- 1 灰褐色土 少量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 2 暗褐色土 柔らかい。粘性有。

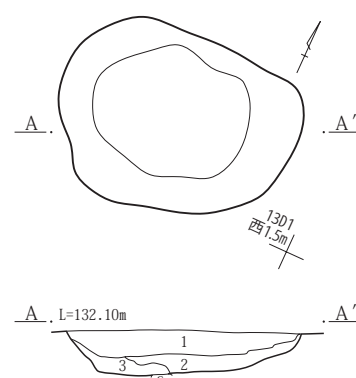
37号土坑



37号土坑

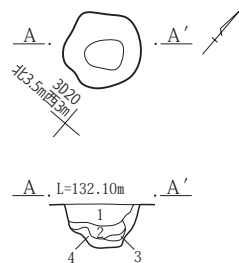
- 1 灰褐色土 少量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。粘性有。

38号土坑



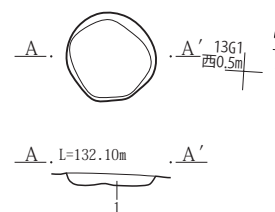
- 1 暗褐色土 榛名二ツ岳白色軽石・炭化物粒子を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 2 灰褐色土 少量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。やや硬い。粘性有。
- 3 暗褐色土 灰褐色土ブロック・ローム粒子を含む。やや硬く締る。粘性有。

39号土坑

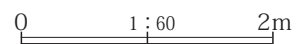


- 1 暗褐色土 榛名二ツ岳白色軽石・炭化物粒子を含む。やや硬く締る。
- 2 暗褐色土 炭化物を含む。硬くて締り良い。
- 3 灰褐色土 柔らかい。
- 4 灰褐色土 少量の炭化物粒子を含む。柔らかくてサラサラしている。

41号土坑



- 1 暗褐色土 少量の榛名二ツ岳白色軽石・炭化物粒子を含む。やや硬い。粘性有。



第702図 X区31・32・35～39・41号土坑

43号土坑(第703図、PL.374)

グリッド 13-13区G 4

長軸方位 N59°W

新旧関係 なし。

形状と規模 楕円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は1.67m、短径は1.29m、深さは0.14mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

44号土坑(第703図、PL.374)

グリッド 13-13区G 5

長軸方位 N36°E

新旧関係 19号住居が新。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。

長径は1.01m、短径は0.89m、深さは0.13mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀前半より旧。

45号土坑(第703図、PL.374)

グリッド 13-13区H 5

長軸方位 N35°E

新旧関係 31号住居が旧。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は皿形を呈する。

長辺は0.69m、短辺は0.58m、深さは0.20mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 9世紀後半より新。

47号土坑(第703図、PL.375)

グリッド 13-2区T 20

長軸方位 N61°W

新旧関係 なし。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は皿形を呈する。

長径は3.10m+、短径は1.82m、深さは0.31mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

48号土坑(第703図、PL.375)

グリッド 13-13区E 1

長軸方位 N79°E

新旧関係 なし。

形状と規模 楕円形を呈し、断面形状は半月形を呈する。

長径は1.12m、短径は0.70m、深さは0.29mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

49号土坑(第703図、PL.375)

グリッド 13-13区G 5

長軸方位 N3°E

新旧関係 なし。

形状と規模 楕円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は1.17m、短径は1.02m、深さは0.16mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

50号土坑(第703図、PL.375・445)

グリッド 13-13区E 1

長軸方位 N81°E

新旧関係 なし。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は皿形を呈する。

長径は1.12m+、短径は0.89m、深さは0.23mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

遺物 埋土から須恵器の杯(1)が出土した。

時代 平安時代9世紀後半。

51号土坑(第704図)

グリッド 13-13区D 3

長軸方位 N81°E

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は半月形を呈する。長辺は0.48m、短辺は0.37m、深さは0.14mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

52号土坑(第704図)

グリッド 13-13区D 2

長軸方位 N84°E

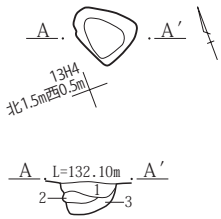
新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。

長径は0.77m、短径は0.69m、深さは0.08mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

42号土坑

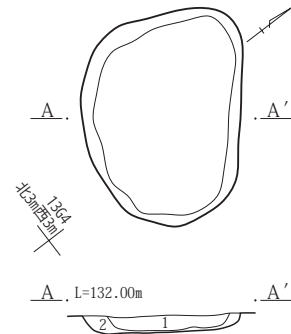


42号土坑

- 1 暗褐色土 少量の榛名二ツ岳白色軽石・炭化物粒子を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 2 灰褐色土 少量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。硬くて締り良い。
- 3 暗褐色土 硬くて締り良い。粘性有。

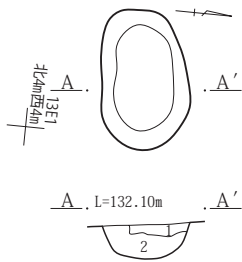
43号土坑

43号土坑



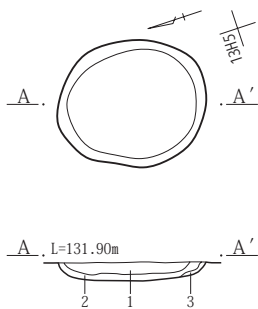
- 1 暗褐色土 榛名二ツ岳白色軽石・炭化物を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 2 暗褐色土 灰褐色土ブロックを含む。やや硬く締る。粘性有。

48号土坑



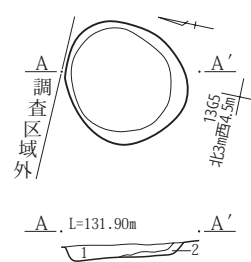
- 1 暗褐色土 少量の榛名二ツ岳白色軽石・灰褐色土ブロックを含む。やや硬く締る。
- 2 暗褐色土 1層土より明るい色調。少量の榛名二ツ岳白色軽石・灰褐色土ブロック・炭化物粒子を含む。やや硬く締る。

49号土坑



- 1 暗褐色土 多量の榛名二ツ岳白色軽石と少量の炭化物粒子を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 2 暗褐色土 少量の榛名二ツ岳白色軽石・炭化物粒子を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 3 暗褐色土 明るい色調。柔らかい。粘性有。

44号土坑



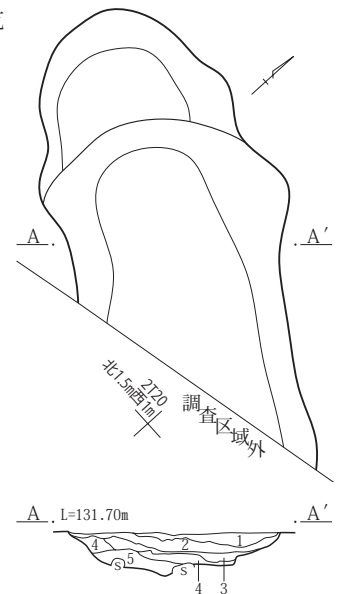
44号土坑

- 1 暗褐色土 榛名二ツ岳白色軽石・炭化物を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 2 暗褐色土 やや硬く締る。粘性有。

45号土坑

- 1 暗褐色土 少量の榛名二ツ岳白色軽石・炭化物を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 2 灰褐色土 やや硬く締る。粘性有。
- 3 黄褐色土 硬くて締り良い。粘性有。

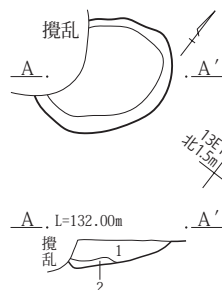
47号土坑



47号土坑

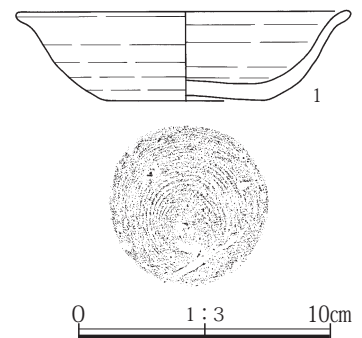
- 1 にぶい黄橙色土(10YR6/4) 粗い砂混じりのシルト質土。鉄分沈着有り。締り強。
 - 2 にぶい黄褐色シルト質土(10YR5/3) 鉄分沈着有り。硬く締り強。
 - 3 暗褐色土(10YR3/4) 少量の黄褐色土を混入する。締りやや強。
 - 4 黄褐色土(10YR5/8) 少量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。締り強。
 - 5 褐色土(10YR4/4) 微量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。締り強。粘性やや有。
- 土坑というよりは溝になるものと思われる。

50号土坑



- 1 暗褐色土 榛名二ツ岳白色軽石・炭化物粒子を含む。やや硬く締る。
- 2 黄褐色土 硬くて締り良い。粘性有。

50号土坑



0 1:60 2m

第703図 X区42~45・47~50号土坑と50号土坑の出土遺物

時代 古墳時代以降である。

53号土坑(第704図)

グリッド 13-13区D 3

長軸方位 N35°E

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は0.69m、短辺は0.62m、深さは0.11mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

54号土坑(第704図)

グリッド 13-13区D 2

長軸方位 N39°W

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は0.75m、短径は0.68m、深さは0.10mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

56号土坑(第704図)

グリッド 13-13区E 1

長軸方位 N3°W

新旧関係 14号住居が旧。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は0.64m、短辺は0.54m、深さは0.22mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀第4四半期より新。

57号土坑(第704図)

グリッド 13-13区G 3

長軸方位 N7°W

新旧関係 24号住居、30号土坑が新。

形状と規模 楕円形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長径は1.12m、短径は0.90m、深さは0.28mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 8世紀第3四半期より旧。

58号土坑(第704図、PL.375)

グリッド 13-13区D 2

長軸方位 N55°W

新旧関係 24号ピットが旧。

形状と規模 楕円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は0.68m、短径は0.46m、深さは0.14mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

59号土坑(第704図、PL.375)

グリッド 13-3区C 20

長軸方位 N10°E

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長辺は1.74m、短辺は1.62m、深さは0.35mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

60号土坑(第704図、PL.375)

グリッド 13-13区G 1

長軸方位 N33°W

新旧関係 なし。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状はV字形を呈する。長径は1.78m、短径は1.64m、深さは0.56mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

61号土坑(第705図、PL.375)

グリッド 13-13区H 4

長軸方位 N11°W

新旧関係 なし。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は1.01m、短径は0.33m+、深さは0.26mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

62号土坑(第705図)

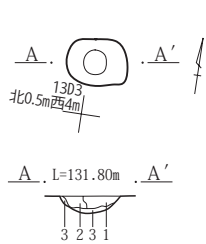
グリッド 13-13区H 5

長軸方位 N13°W

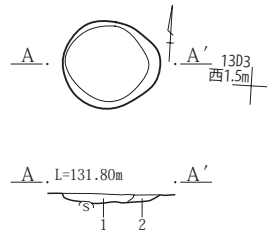
新旧関係 31号住居が旧。

第4章 第2面の遺構と出土遺物

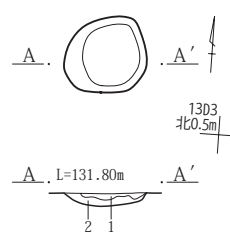
51号土坑



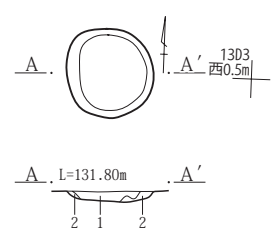
52号土坑



53号土坑



54号土坑



51号土坑

- 1 暗褐色土 少量の榛名二ツ岳白色軽石・炭化物粒子を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 2 灰褐色土 少量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。粘性非常に有。
- 3 灰褐色土 硬くて締り良い。粘性非常に有。

53号土坑

- 1 暗褐色土 榛名二ツ岳白色軽石を含む。硬く締る。粘性有。
- 2 灰褐色土 少量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。粘性有。

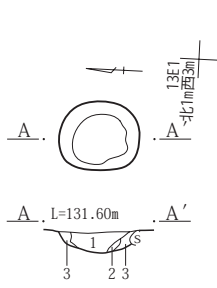
52号土坑

- 1 灰褐色土 榛名二ツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 2 暗褐色土 榛名二ツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。粘性有。

54号土坑

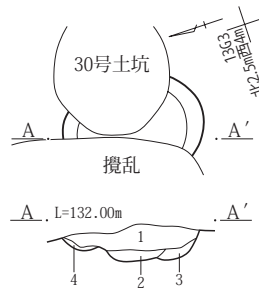
- 1 暗褐色土 榛名二ツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 2 灰褐色土 榛名二ツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。粘性有。

56号土坑



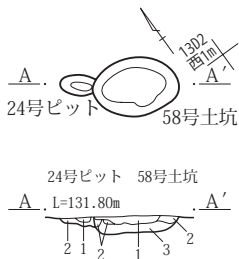
- 1 暗褐色土 榛名二ツ岳白色軽石・炭化物を含む。硬くて締り良い。粘性有。
- 2 暗褐色土 柔らかい。粘性非常に有。
- 3 暗褐色土 少量のローム粒子・黄褐色土粒子を含む。硬くて締り良い。粘性非常に有。

57号土坑



- 1 暗褐色土 榛名二ツ岳白色軽石・炭化物を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 2 暗褐色土 1・3層土より明るい色調。少量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 3 暗褐色土 やや硬く締る。粘性有。
- 4 暗褐色土 黄褐色土ブロックを含む。やや硬く締る。粘性有。

58号土坑・24号ピット



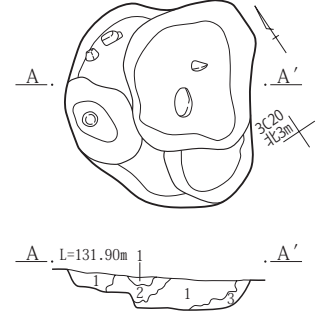
58号土坑

- 1 暗褐色土 榛名二ツ岳白色軽石・炭化物粒子を含む。やや硬く締る。
- 2 黄褐色土 少量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。
- 3 灰褐色土 少量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。

24号ピット

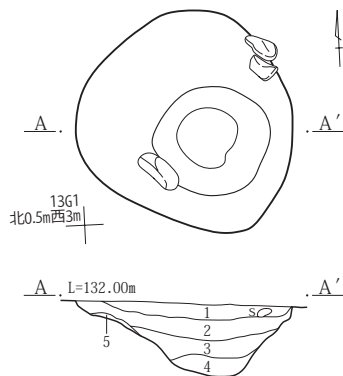
- 1 暗褐色土 少量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。
- 2 黄褐色土 少量の炭化物粒子を含む。やや硬く締る。

59号土坑

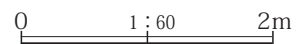


- 1 暗褐色土 榛名二ツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 2 黄褐色土 少量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。柔らかい。粘性有。
- 3 黄褐色土 硬くて締り良い。粘性有。

60号土坑



- 1 暗褐色土 榛名二ツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。
- 2 暗褐色土 少量の炭化物を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 3 暗褐色土 少量の榛名二ツ岳白色軽石・炭化物粒子を含む。硬くて締り良い。粘性有。
- 4 暗褐色土 多量の炭化物を含む。柔らかい。粘性非常に有。
- 5 黄褐色土 やや硬く締る。



第704図 X区51～54・56～60号土坑

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は皿形を呈する。
長径は1.15m、短径は0.28m+、深さは0.05mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 9世紀後半より新。

63号土坑(第705図、PL.375)

グリッド 13-13区G 5

長軸方位 N71°W

新旧関係 28号土坑が旧。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は箱形を呈する。
長径は1.83m、短径は0.40m+、深さは0.78mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

64号土坑(第705図、PL.375)

グリッド 13-13区C 1

長軸方位 N60°E

新旧関係 16号住居が新。11号溝が旧。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は皿形を呈する。
長径は1.47m、短径は0.77m+、深さは0.32mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀第1四半期より新。

65号土坑(第705図)

グリッド 13-2区T 20

長軸方位 N54°E

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は3.22m、短辺は1.25m、深さは0.16mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

66号土坑(第705図、PL.375)

グリッド 13-12区Q 1

長軸方位 N25°E

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。
長径は0.56m、短径は0.52m、深さは0.10mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

67号土坑(第705図、PL.375)

グリッド 13-12区T 2

長軸方位 N17°W

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は皿形を呈する。
長辺は0.56m、短辺は0.53m、深さは0.14mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

68号土坑(第705図、PL.375)

グリッド 13-13区A 2

長軸方位 N44°E

新旧関係 なし。

形状と規模 長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.06m、短辺は0.37m、深さは0.10mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

69号土坑(第705図、PL.375)

グリッド 13-13区F 4

長軸方位 N75°W

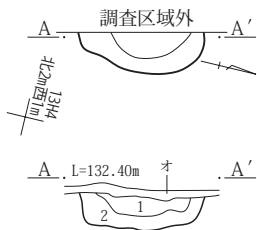
新旧関係 なし。

形状と規模 楕円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は0.78m、短径は0.62m、深さは0.23mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

61号土坑



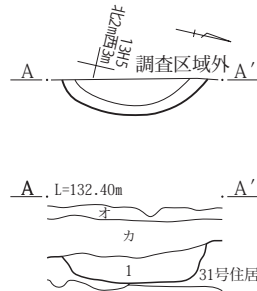
61号土坑

- オ 酸化鉄分層 榛名二ツ岳白色軽石を含む。
- 1 茶褐色土 多量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。
 - 2 暗褐色土 榛名二ツ岳白色軽石・黄褐色土ブロック・炭化物粒子を含む。やや硬く締る。粘性有。

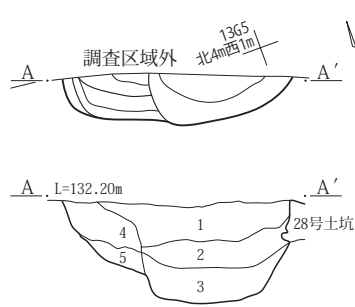
62号土坑

- オ 酸化鉄分層 榛名二ツ岳白色軽石を含む。
- カ 暗褐色土 多量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。
- 1 暗褐色土 31住1・2層土よりも暗い色調。少量の榛名二ツ岳白色軽石・炭化物粒子を含む。やや硬く締る。粘性有。

62号土坑



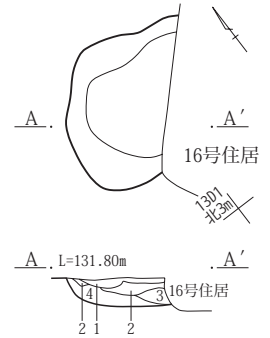
63号土坑



63号土坑

- 1 暗褐色土 やや多く榛名二ツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。
- 2 暗褐色土 少量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 3 暗褐色土 硬くて締り良い。粘性有。
- 4 褐色土 多量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。
- 5 暗褐色土 少量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。

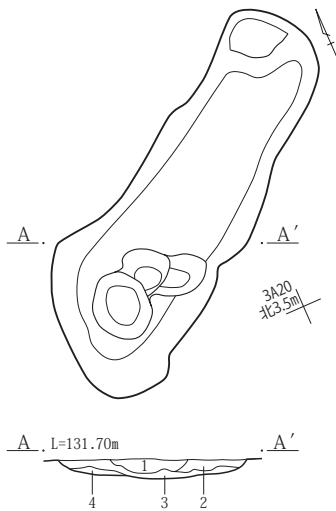
64号土坑



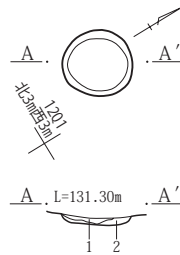
64号土坑

- 1 茶褐色土 榛名二ツ岳白色軽石・炭化物を含む。やや硬く締る。
- 2 灰褐色土 少量の榛名二ツ岳白色軽石・炭化物粒子・焼土粒子を含む。硬くて締り良い。
- 3 褐色土 やや多く焼土ブロックを含む。硬くて締り良い。粘性有。
- 4 灰褐色土 少量の焼土粒子・炭化物粒子を含む。硬くて締り良い。粘性非常に有。

65号土坑



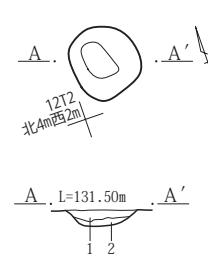
66号土坑



65号土坑

- 1 暗褐色土 少量の榛名二ツ岳白色軽石・焼土粒子を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 2 灰褐色土 榛名二ツ岳白色軽石・黄褐色土ブロックを含む。やや硬く締る。粘性有。
- 3 灰褐色土 少量の榛名二ツ岳白色軽石・炭化物粒子を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 4 灰褐色土 やや硬い。

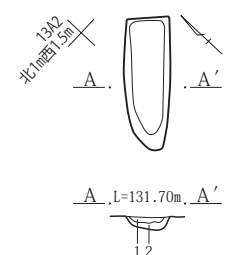
67号土坑



67号土坑

- 1 灰褐色土 少量の榛名二ツ岳白色軽石・炭化物粒子を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 2 灰褐色土 やや硬く締る。粘性有。

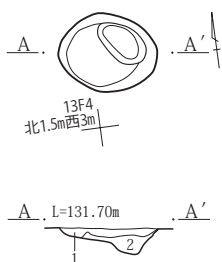
68号土坑



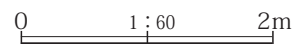
68号土坑

- 1 暗褐色土 少量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。硬く締る。
- 2 灰褐色土 やや硬く締る。粘性有。

69号土坑



- 1 茶褐色土 やや多く榛名二ツ岳白色軽石と少量の炭化物粒子を含む。やや硬く締る。
- 2 灰褐色土 やや硬く締る。粘性有。



第705図 X区61~69号土坑

8. XII区

1号土坑(第706図、PL.376)

グリッド 13-2区O1

長軸方位 N65°W

新旧関係 2号土坑が旧。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は箱形を呈する。

長径は1.26m、短径は0.56m+、深さは0.60mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

2号土坑(第706図、PL.376)

グリッド 13-2区N1

長軸方位 N46°W

新旧関係 1・3号土坑が新。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.88m、短辺は1.41m、深さは0.17mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

3号土坑(第706図、PL.376)

グリッド 13-2区N1

長軸方位 N18°E

新旧関係 2号土坑が旧。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.04m、短辺は0.98m、深さは0.19mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

4号土坑(第706図、PL.376)

グリッド 13-2区N1

長軸方位 N39°E

新旧関係 2号住居、10号土坑が旧。

形状と規模 方形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長辺は1.85m、短辺は1.79m、深さは0.28mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀第1四半期より新。

10号土坑(第706図)

グリッド 13-2区N1

長軸方位 N78°E

新旧関係 2号住居が旧。4号土坑が新。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は箱形を呈する。

長径は1.26m、短径は0.68m+、深さは0.38mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀第1四半期より新。

5号土坑(第706図、PL.376)

グリッド 13-2区N1

長軸方位 N60°W

新旧関係 6号土坑が新。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は0.80m、短径は0.72m、深さは0.08mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

6号土坑(第706図、PL.376)

グリッド 13-2区N1

長軸方位 N70°W

新旧関係 5号土坑が旧。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。

長径は0.91m、短径は0.83m、深さは0.16mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

7号土坑(第706図、PL.376)

グリッド 13-2区N1

長軸方位 N20°E

新旧関係 1号ピットが新。6号ピットが旧。

形状と規模 円形を呈し、断面形状はT字形を呈する。長径は0.91m、短径は0.82m、深さは0.23mで、6号ピットを柱痕とする柱穴の形状を呈する。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

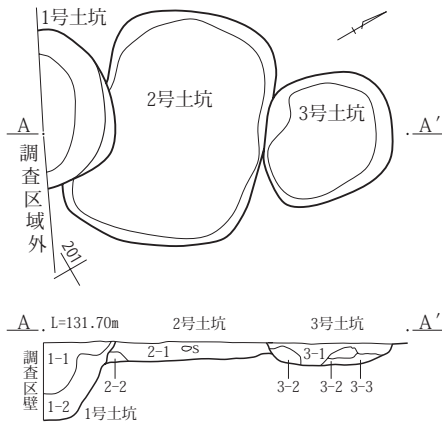
8号土坑(第706図、PL.377・445)

グリッド 12-92区M20

長軸方位 N73°E

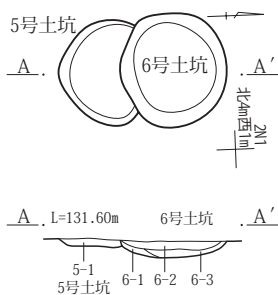
新旧関係 17号土坑、21号ピットが旧。

1~3号土坑

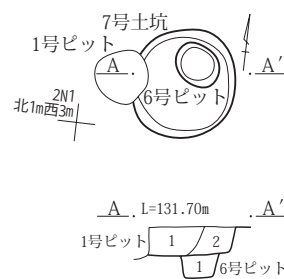


- 1-1 暗褐色土(10YR3/4) 少量の榛名ニツ岳白色軽石・ロームブロックを含む。締り強。
- 1-2 黒褐色土(10YR3/2) 土質均一。粗い砂質土。締りやや弱。
- 2-1 黒褐色土(10YR3/2) 微量のロームブロック・榛名ニツ岳白色軽石を含む。やや粗い砂状。締りやや弱。
- 2-2 暗褐色土(10YR3/4) 2-1層土に少量のローム土を含む。
- 3-1 暗褐色土(10YR3/3) 粗い砂質。微量の榛名ニツ岳白色軽石を含む。締り強。
- 3-2 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 微量のロームブロック・榛名ニツ岳白色軽石を含む。締り強。
- 3-3 褐色土(10YR4/4) 土質ほぼ均一。微量のロームブロックを含む。

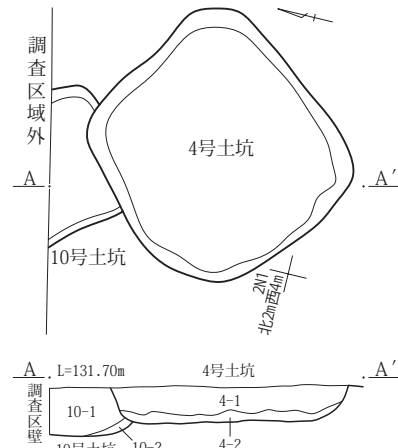
5・6号土坑



7号土坑・6号ピット



4・10号土坑



- 4-1 黒褐色土(10YR3/2) 微量のロームブロック・榛名ニツ岳白色軽石を含む。締りやや弱。
- 4-2 灰黄褐色土(10YR4/2) 4-1層土とローム土の混土。ややシルト質。締りやや強。
- 10-1 暗褐色土(10YR3/3) 土質ほぼ均一。微量のローム粒を含む。締りやや弱。
- 10-2 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム土と10-1層土との混土。締りやや弱。

5・6号土坑

- 5-1 暗褐色土(10YR3/3) 微量の榛名ニツ岳白色軽石を含む。締りやや強。
- 5-2 暗褐色土(10YR3/4) 土質均一。締りやや強。
- 5-3 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 5-1層土とローム土との混土。粘性やや有。
- 6-1 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 微量の榛名ニツ岳白色軽石粒を含む。締りやや強。

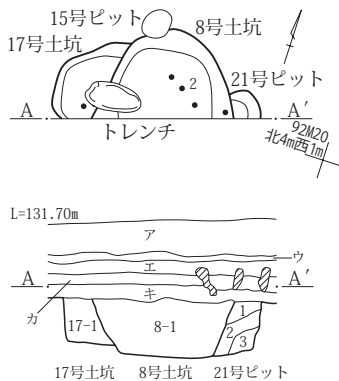
7号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/4) 土質ほぼ均一。微量のローム土を混入する。締り強。
- 2 暗褐色土(10YR3/4) ローム土混じり。1層土よりやや暗い。締り強。

6号ピット

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 硬い砂質土。締り強。

8・17号土坑・21号ピット



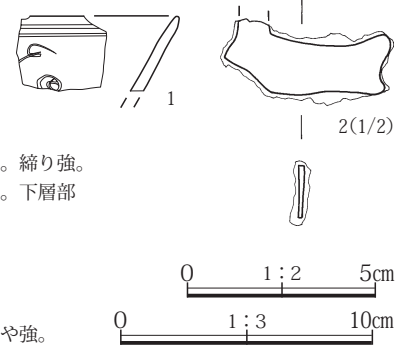
8・17号土坑

- ア 暗褐色土 現代耕作土。
- ウ 明褐色土 水田下部層。
- エ 褐灰色土
- カ 暗褐色土(7.5YR3/4) 粗い砂質土。鉄分沈着有り。
- キ 暗褐色土(10YR3/4) 酸化鉄分沈着少し有り。
- 8-1 暗褐色土(10YR3/3) 少量の榛名ニツ岳白色軽石を含む。締り強。
- 17-1 暗褐色土(10YR3/3) 微量の榛名ニツ岳白色軽石を含む。下層部にローム土混じる。締り強。

21号ピット

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 土質ほぼ均一。締りとても強。
- 2 褐色土(10YR4/4) ローム主体。1層土を混入する。締りやや強。
- 3 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 1層土と2層土との混土。締りやや強。

8号土坑



第706図 XII区 1~8・10・17号土坑と8号土坑の出土遺物

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は1.12m、短径は0.70m+、深さは0.46mである。
埋土 灰黄褐色砂質土からなる。
遺物 埋土から輸入陶磁器の青磁碗(1)や鉄製品(2)が出土した。
時代 平安時代12世紀後半。

17号土坑(第706図、PL.377)

グリッド 12-92区M20
長軸方位 N26°E
新旧関係 8号土坑が新。
形状と規模 不定形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は0.81m+、短径は0.41m+、深さは0.31mである。
埋土 灰黄褐色砂質土からなる。
時代 古墳時代以降である。

9号土坑(第707図、PL.377)

グリッド 12-92区N20
長軸方位 N77°E
新旧関係 22号住居が旧。
形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長辺は1.56m、短辺は1.07m、深さは0.34mである。
埋土 灰黄褐色砂質土からなる。
時代 古墳時代以降である。

11号土坑(第707図、PL.376)

グリッド 13-2区N1
長軸方位 N9°E
新旧関係 4号掘立柱建物が新。
形状と規模 方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長辺は1.11m、短辺は1.05m、深さは0.34mで、柱穴の形状を呈し、47号ピットが柱痕の可能性がある。
埋土 灰黄褐色砂質土からなる。
時代 古墳時代以降である。

12号土坑(第707図)

グリッド 13-2区M1
長軸方位 N34°E
新旧関係 なし。
形状と規模 円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。

長径は1.08m、短径は1.06m、深さは0.07mである。
埋土 灰黄褐色砂質土からなる。
時代 古墳時代以降である。

13号土坑(第707図、PL.377)

グリッド 13-2区M1
長軸方位 N29°W
新旧関係 14号ピットが新。
形状と規模 円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は0.69m、短径は0.68m、深さは0.17mである。
埋土 灰黄褐色砂質土からなる。
時代 古墳時代以降である。

14号土坑(第707図)

グリッド 12-92区N20
長軸方位 N64°E
新旧関係 3号住居が旧。
形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長辺は0.68m、短辺は0.62m、深さは0.28mである。
埋土 灰黄褐色砂質土からなる。
時代 古墳時代以降である。

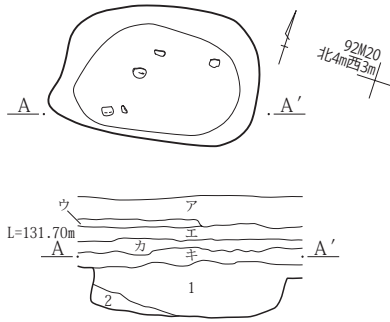
15号土坑(第707図)

グリッド 12-92区N20
長軸方位 N44°E
新旧関係 3号住居が旧。
形状と規模 楕円形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長径は0.78m、短径は0.67m、深さは0.20mである。
埋土 灰黄褐色砂質土からなる。
時代 古墳時代以降である。

16号土坑(第707図)

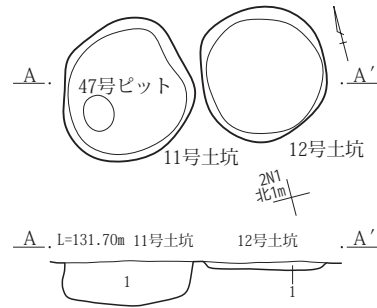
グリッド 13-2区N1
長軸方位 N4°W
新旧関係 7号土坑が新。
形状と規模 不定形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は1.06m+、短径は0.63m、深さは0.12mである。
埋土 灰黄褐色砂質土からなる。
時代 古墳時代以降である。

9号土坑



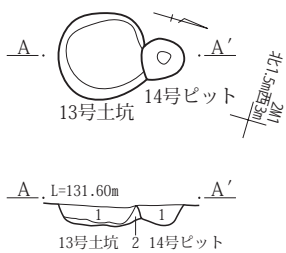
- ア 暗褐色土 現代耕作土。
- ウ 明褐色土 水田下部層。
- エ 褐灰色土
- カ 暗褐色土(7.5YR3/4) 粗い砂質土。鉄分沈着有り。
- キ 暗褐色土(10YR3/4) 酸化鉄分沈着少し有り。
- 1 灰黄褐色土(10YR4/2) 少量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。ややシト質土。締り強。
- 2 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム土混じり。締りやや弱。

11・12号土坑



- 1 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 少量のローム粒と微量の榛名二ツ岳軽石ブロックを含む。締り強。

13号土坑・14号ピット



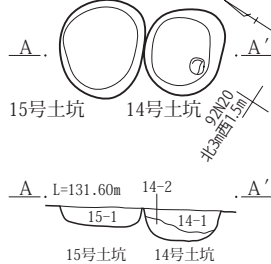
- 13号土坑
- 1 暗褐色土(10YR3/3) 少量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。締り強。
- 2 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム土と1層土との混土。

14号ピット

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 少量のローム粒を含む。締り強。

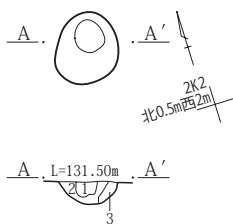
14・15号土坑

14・15号土坑



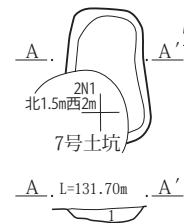
- 14-1 灰褐色土(10YR4/2) 少量のロームブロック・黒褐色土ブロックを含む。締り強。
- 14-2 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム土と14-1層土との混土。締り強。
- 15-1 褐色土(10YR4/4) 微量のローム粒・榛名二ツ岳軽石粒を含む。締りやや強。

24号土坑



- 1 黒褐色土 微量の榛名二ツ岳白色軽石(10YR3/2)を含む。締り強。
- 2 灰黄褐色土 少量のローム土を混入する。硬く締り強。
- 3 黒褐色土 1層土より軽石やや多い。締りやや弱。

16号土坑



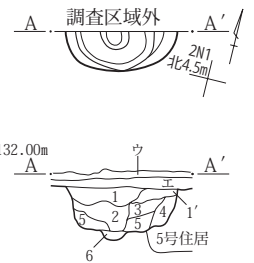
16号土坑

- 1 灰黄褐色土(10YR4/2) 少量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。締り強。

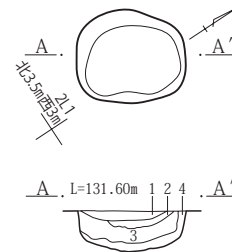
18号土坑

- ウ 明褐色土 水田下部層。
- エ 褐灰色土
- 1 暗褐色土(7.5YR3/3) 粗い砂・榛名二ツ岳白色軽石混じり。鉄分沈着有り。締り強。
- 1' 暗褐色土(7.5YR3/3) 1層土よりやや暗く軽石小さ目。
- 2 黒褐色土(10YR3/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石・ローム粒を含む。締りやや弱。
- 3 黒褐色土(10YR3/2) 粗い砂混じり。硬く締り強。
- 4 褐色土(10YR4/4) 3層土と5層土との混土。締りやや強。
- 5 灰黄褐色土(10YR4/2) やや粗い砂を含む。締りやや強。
- 6 黄褐色シルト質土(2.5YR5/4)

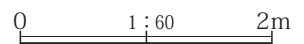
18号土坑



19号土坑



- 1 褐灰色土 微量の榛名二ツ岳白色軽石(10YR4/1)を含む。締り強。
- 2 黒褐色土 粗い砂混じり。締り強。(10YR3/2)
- 3 暗褐色土 2層土を混入する。微量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。締り強。
- 4 暗褐色土 土質均一。締り強。粘性や(10YR3/3)や有。



第707図 XII区9・11~16・18・19・24号土坑

18号土坑(第707図)

グリッド 13-2区N1

長軸方位 N77°E

新旧関係 5号住居が旧。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は0.89m、短径は0.32m+、深さは0.41mで柱穴の形状を呈する。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

19号土坑(第707図、PL.377)

グリッド 13-2区L1

長軸方位 N35°E

新旧関係 8号住居が旧。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は半月形を呈する。長辺は0.85m、短辺は0.72m、深さは0.26mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 9世紀第4四半期より新。

24号土坑(第707図、PL.376)

グリッド 13-2区K2

長軸方位 N19°E

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は半月形を呈する。長径は0.57m、短径は0.48m、深さは0.22mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

20号土坑(第708図、PL.376・377)

グリッド 13-2区K2

長軸方位 N8°E

新旧関係 21号土坑が旧。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は半月形を呈する。長径は1.08m、短径は1.03m、深さは0.38mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

21号土坑(第708図、PL.376)

グリッド 13-2区K2

長軸方位 N81°W

新旧関係 20号土坑が新。22号土坑が旧。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長辺は1.37m、短辺は0.96m、深さは0.14mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

22号土坑(第708図、PL.376・377)

グリッド 13-2区K2

長軸方位 N80°W

新旧関係 21・23号土坑が新。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は不明である。長径は1.71m、短径は0.51m+、深さは0.08mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

23号土坑(第708図、PL.376・377)

グリッド 13-2区K2

長軸方位 N79°E

新旧関係 22号土坑が旧。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は1.43m、短径は0.62m+、深さは0.56mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

25号土坑(第708図、PL.377)

グリッド 13-2区K2

長軸方位 N78°E

新旧関係 36号土坑が旧。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長辺は1.57m、短辺は1.30m、深さは0.48mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

36号土坑(第708図、PL.377)

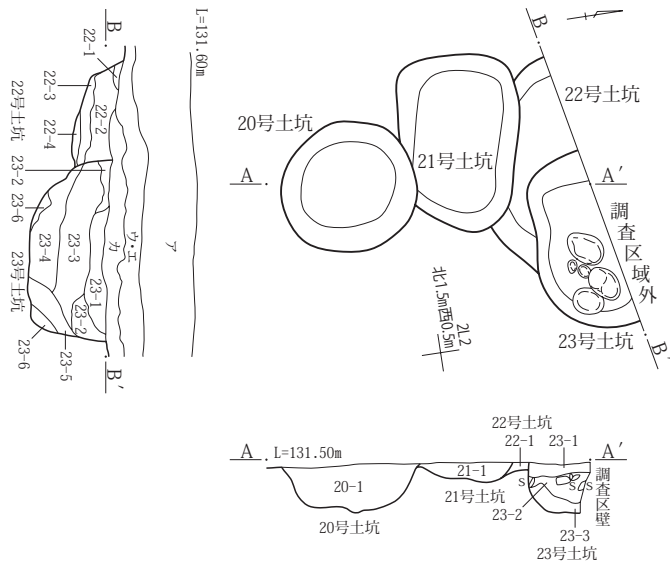
グリッド 13-2区K1

長軸方位 N71°E

新旧関係 12号住居が旧。25号土坑が新。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は1.07m、短径は0.41m+、深さは0.40mである。

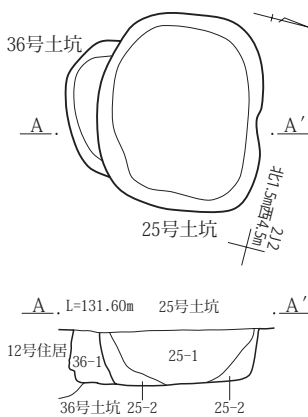
20～23号土坑



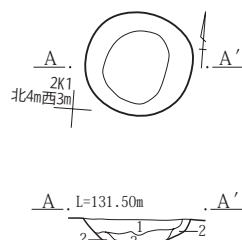
- 20～23号土坑
- 20-1 暗褐色土(10YR3/3) 榛名二ツ岳白色軽石を含む。少量のローム土を混入する。締り強。
 - 21-1 暗褐色土(10YR3/3) 少量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。ローム土混じり。締り強。
 - 22-1 暗褐色土(7.5YR3/3) 土質均一。鉄分沈着有り。締りやや弱。
 - 23-1 黒褐色土(10YR3/2) 少量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。締りやや強。
 - 23-2 暗褐色土(10YR3/3) 微量の軽石を含む。締りやや弱。
 - 23-3 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム土と23-2層土との混土。締り強。粘性やや有。

- 22・23号土坑
- ア 暗褐色土 現代耕作土。
 - ウ 明褐色土 水田下部層。
 - エ 褐灰色土
 - カ 暗褐色土(7.5YR3/4) 粗い砂質土。鉄分沈着有り。
 - 22-1 暗褐色土(7.5YR3/3) 土質均一。鉄分沈着有り。締りやや弱。
 - 22-2 暗褐色土(10YR3/3) 少量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。締り強。
 - 22-3 黒褐色土(10YR3/2) 榛名二ツ岳白色軽石を含む。締りやや弱。
 - 22-4 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム土混じり。少量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。
 - 23-1 暗褐色土(10YR3/4) 榛名二ツ岳白色軽石を含む。締り強。
 - 23-2 暗褐色土(10YR3/4) 多量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。鉄分沈着少し有り。締り強。
 - 23-3 暗褐色土(10YR3/4) 少量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。締り強。
 - 23-4 暗褐色土(10YR3/3) 微量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。土質もろい。締りやや弱。
 - 23-5 黒褐色土(10YR3/2) 土質ほぼ均一。締りやや強。
 - 23-6 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 締りやや弱。柔らかい。粘性有。

25・36号土坑



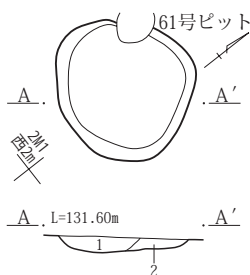
26号土坑



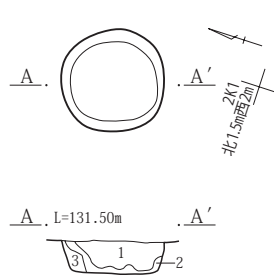
- 25-1 暗褐色土(10YR3/3) 榛名二ツ岳白色軽石を含む。締りやや強。
- 25-2 暗褐色土(10YR3/4) 少量の黄褐色土を混入する。締りやや弱。
- 36-1 暗褐色土(10YR3/3) 微量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。締りやや強。

- 1 暗褐色土(10YR3/4) 少量の榛名二ツ岳白色軽石・ロームブロックを含む。締り強。
- 2 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム土と1層土との混土。締り強。
- 3 暗褐色土(10YR3/4) 1層土よりやや明るい。締りやや強。

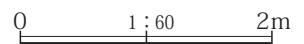
27号土坑



28号土坑



- 27号土坑
- 1 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 少量のローム粒子・ロームブロックを含む。締り強。
 - 2 褐色土(10YR4/4) ローム土混じり。微量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。締り強。
- 28号土坑
- 1 暗褐色土(10YR3/4) 少量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。締りやや強。
 - 2 褐色土(10YR4/4) くすんだローム土主体。暗褐色土を混入する。締りやや強。
 - 3 暗褐色土(10YR3/3) 微量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。締りやや強。粘性有。



第708図 XIII区20～23・25～28・36号土坑

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀第1四半期より新。

26号土坑(第708図、PL.377)

グリッド 13-2区K1

長軸方位 N68°E

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長径は0.87m、短径は0.83m、深さは0.23mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

27号土坑(第708図)

グリッド 13-2区M1

長軸方位 N76°E

新旧関係 61号ピットが新。

形状と規模 方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.14m、短辺は1.08m、深さは0.14mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

28号土坑(第708図、PL.377)

グリッド 13-2区K1

長軸方位 N22°W

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は0.81m、短径は0.80m、深さは0.31mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

29号土坑(第709図、PL.377)

グリッド 13-2区L1

長軸方位 N89°E

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は1.33m、短径は1.20m、深さは0.48mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

30号土坑(第709図、PL.377)

グリッド 13-2区L1

長軸方位 N68°W

新旧関係 10号住居が旧。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状はU字形を呈する。長辺は0.78m、短辺は0.70m、深さは0.78mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀第2四半期より新。

31号土坑(第709図)

グリッド 13-2区K1

長軸方位 N10°E

新旧関係 10号住居が新。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は1.01m、短径は0.56m+、深さは0.34mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀第2四半期より旧。

34号土坑(第709図)

グリッド 13-2区J1

長軸方位 N4°W

新旧関係 13号住居が旧。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は1.56m、短径は1.05m+、深さは0.56mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

35号土坑(第709図、PL.377)

グリッド 13-2区K2

長軸方位 N83°W

新旧関係 10号住居が新。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は1.49m、短径は0.79m+、深さは0.40mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

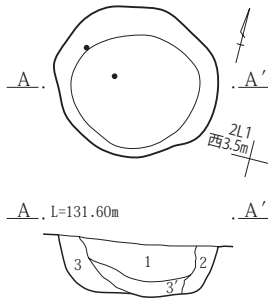
遺物 底から0.21m上から炉壁(1)、底直上から流動滓(2)が出土した。

時代 10世紀第2四半期より旧。

37号土坑(第709図、PL.377)

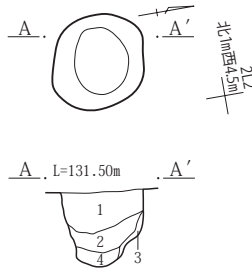
グリッド 13-2区L1

29号土坑



- 1 暗褐色土(10YR3/3) 少量の榛名二ツ岳白色軽石と微量の炭化物を含む。締り強。
- 2 黒褐色土(10YR3/2) 黄褐色土ブロックを含む。締り強。粘性やや有。
- 3 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 少量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。少量の黄褐色土を混入する。締り強。
- 3' にぶい黄褐色土(10YR4/3) 3層土よりやや明るく土質ほぼ均質。締り強。

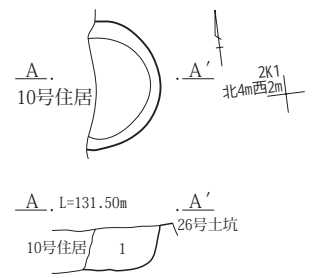
30号土坑



30号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 少量の榛名二ツ岳白色軽石と微量の黄褐色土粒子を含む。硬く締り強。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) 1層土より軽石少ない。締り強。粘性やや有。
- 3 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 多量の黄褐色シルトブロックを含む。締りやや強。粘性有。
- 4 暗褐色土(10YR3/4) 少量のくすんだローム土を含む。締りやや強。粘性やや有。

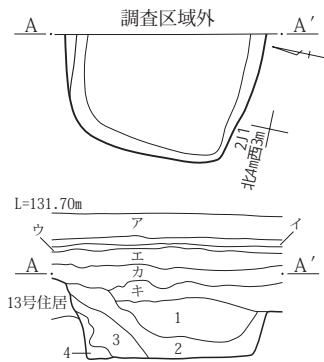
31号土坑



31号土坑

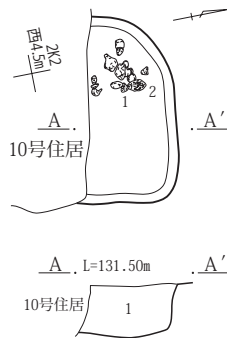
- 1 黒褐色土(10YR3/2) 少量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。微量のくすんだローム土を混入する。締り強。

34号土坑

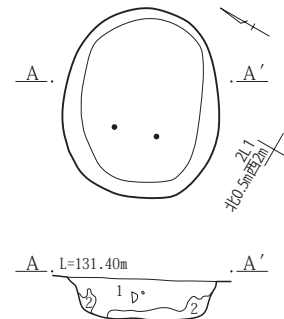


- ア 暗褐色土 現代耕作土。
- イ 灰色土 水田耕作土。
- ウ 明褐色土 水田下部層。
- エ 褐灰色土
- カ 暗褐色土(7.5YR3/4) 粗い砂質土。鉄分沈着有り。
- キ 暗褐色土(10YR3/4) 酸化鉄分沈着少し有り。
- 1 暗褐色土(10YR3/4) 榛名二ツ岳白色軽石と少量の黄褐色土粒子を含む。柔らかく締りやや弱。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) 榛名二ツ岳白色軽石と少量の黄褐色土粒子を含む。やや硬く締りやや強。
- 3 暗褐色土(10YR3/4) 微量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。柔らかく締りやや弱。
- 4 褐色土(10YR4/4) ローム土混じり。締りやや弱。粘性有。

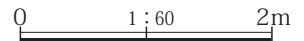
35号土坑



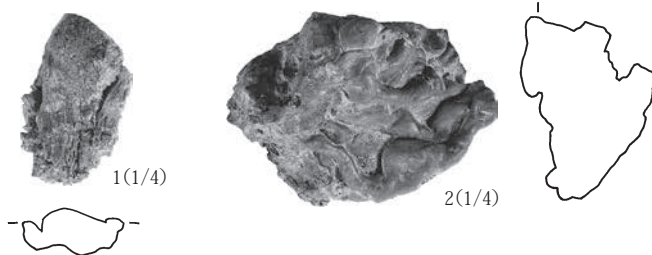
37号土坑



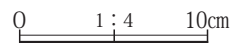
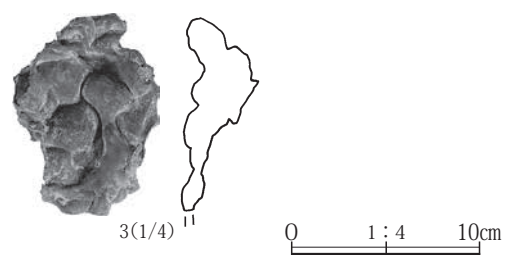
- 1 暗褐色土(10YR3/3) 榛名二ツ岳白色軽石と微量の炭化物を含む。中段・底部に鉄滓出土。締り強。
- 1 暗褐色土(10YR3/4) 榛名二ツ岳白色軽石を含む。黄褐色土粒子・ブロック混じり。硬く締り強。
- 2 にぶい黄褐色シルト質土(10YR4/3) 少量の1層土を混入する。締り強。



35号土坑



37号土坑



第709図 XII区29~31・34・35・37号土坑と35・37号土坑の出土遺物

長軸方位 N60°E

新旧関係 11号住居が旧。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。

長辺は1.50m、短辺は1.26m、深さは0.34mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

遺物 埋土から流動滓(3)が出土した。

時代 10世紀後半より新。

38号土坑(第710図、PL.377)

グリッド 13-2区J1

長軸方位 N68°W

新旧関係 12号住居が旧。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は0.85m、短辺は0.81m、深さは0.07mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀第1四半期より新。

39号土坑(第710図、PL.378)

グリッド 13-2区K1

長軸方位 N10°E

新旧関係 11号住居が旧。

形状と規模 楕円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は0.97m、短径は0.72m、深さは0.17mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀後半より新。

40号土坑(第710図、PL.378)

グリッド 12-92区I18

長軸方位 N9°E

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は0.94m、短径は0.84m、深さは0.20mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

41号土坑(第710図、PL.378)

グリッド 12-92区J19

長軸方位 N32°W

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は半月形を呈する。

長径は0.77m、短径は0.76m、深さは0.32mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

42号土坑(第710図、PL.378)

グリッド 12-92区J19

長軸方位 N3°W

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は1.10m、短径は0.95m、深さは0.31mで柱穴の形状を呈する。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

43号土坑(第710図、PL.378)

グリッド 12-92区J19

長軸方位 N26°W

新旧関係 84号土坑が旧。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は箱形を呈する。

長径は1.35m、短径1.07m+、深さは0.42mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

84号土坑(第710図、PL.379)

グリッド 12-92区J20

長軸方位 N82°E

新旧関係 43号土坑が新。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は不明である。長径は0.60m、短径は0.32m+、深さは0.27mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

44号土坑(第710図、PL.378)

グリッド 12-92区J20

長軸方位 N10°E

新旧関係 17号住居が旧。

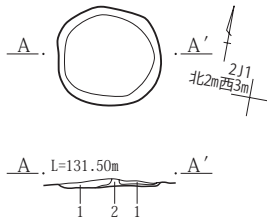
形状と規模 楕円形を呈し、断面形状は箱形を呈する。

長径は1.46m、短径は1.14m、深さは0.31mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

第4章 第2面の遺構と出土遺物

38号土坑



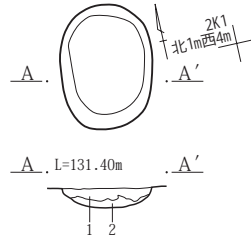
38号土坑

- 1 黒褐色土(10YR2/2) 炭化物混じり。締りやや弱。
- 2 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 微量の黄褐色土粒子を含む。締りやや弱。

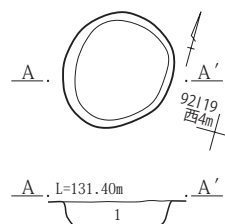
39号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 土質ほぼ均一。微量の黄褐色土粒子を含む。柔らかく締り弱。
- 2 褐色土(10YR4/4) 微量の1層土を混入する。締りやや弱。

39号土坑



40号土坑



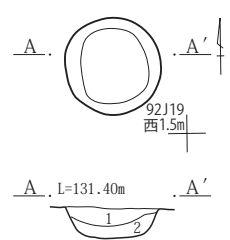
40号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 少量の黄褐色土ブロックを含む。硬く締り強。

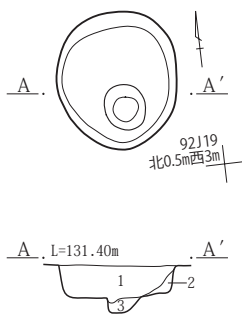
41号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 土質均一。締りやや強。粘性有。
- 2 灰褐色土(10YR4/2) ややシルト質土。締りやや弱。粘性やや有。

41号土坑



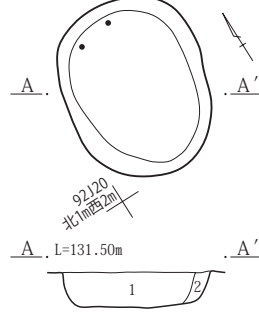
42号土坑



42号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/2) 少量のロームブロックを含む。締りやや強。粘性やや有。
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2) 1層土との混土。締り弱。
- 3 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム土混じり。締り弱。粘性やや有。

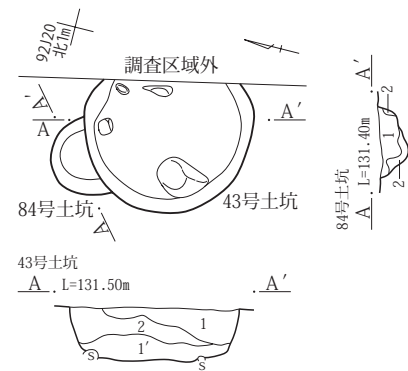
44号土坑



44号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石・ローム粒子を含む。締りやや弱。
- 2 暗褐色土(10YR3/4) ローム土混じり。柔らかく締り弱。

43・84号土坑



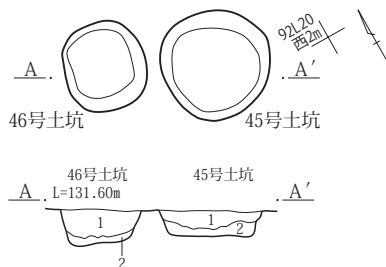
43号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 黄褐色土小ブロックを含む。締り強。粘性やや有。
- 1' 暗褐色土(10YR3/3) 1層土より黄褐色土ブロックやや少ない。締りやや強。粘性やや有。
- 2 黒褐色土(10YR2/2) やや砂質土。少量の黄褐色土小ブロックを含む。締りやや強。

84号土坑

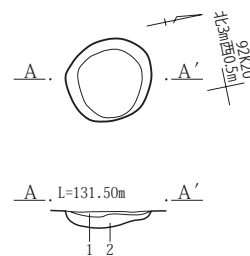
- 1 暗褐色土(10YR3/3) 微量の榛名二ツ岳白色軽石・黄褐色土粒子・炭化物を含む。締りやや強。
- 2 褐色土(10YR4/4) 少量の1層土を含む。締り強。

45・46号土坑

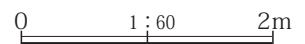


- 1 暗褐色土(10YR3/3) 少量の榛名二ツ岳白色軽石・ロームブロックを含む。締り強。
- 2 褐色土(10YR4/4) 少量の1層土を混入する。締り強。粘性やや有。

47号土坑



- 1 暗褐色土(10YR3/3) 微量の灰を含む。締り強。
- 2 黒褐色土(10YR2/2) 1層土に少量の灰・焼土を混入する。締り弱。



第710図 XII区38~47・84号土坑

時代 古墳時代以降である。

45号土坑(第710図、PL.378)

グリッド 12-92区L19

長軸方位 N32°W

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は0.89m、短径は0.87m、深さは0.20mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

46号土坑(第710図、PL.378)

グリッド 12-92区L20

長軸方位 N10°E

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は皿形を呈する。

長辺は0.69m、短辺は0.65m、深さは0.31mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

47号土坑(第710図、PL.378)

グリッド 12-92区K20

長軸方位 N19°W

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は0.69m、短辺は0.64m、深さは0.14mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

48号土坑(第711図、PL.378)

グリッド 12-92区J20

長軸方位 N40°W

新旧関係 なし。

形状と規模 楕円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は1.23m、短径は1.07m、深さは0.14mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

49号土坑(第711図、PL.378)

グリッド 12-92区J20

長軸方位 N23°E

新旧関係 50号土坑が新。

形状と規模 楕円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は1.11m、短径は0.96m、深さは0.16mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

50号土坑(第711図、PL.378)

グリッド 12-92区J20

長軸方位 N17°E

新旧関係 49号土坑、80号ピットが旧。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は半月形を呈する。長辺は0.68m、短辺は0.55m、深さは0.26mで柱穴の形状を呈する。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

51号土坑(第711図、PL.378)

グリッド 12-92区J19

長軸方位 N64°E

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は皿形を呈する。

長辺は1.13m、短辺は1.05m、深さは0.23mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

53号土坑(第711図、PL.378)

グリッド 12-92区K20

長軸方位 N14°W

新旧関係 16号住居、58号土坑が旧。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。

長辺は1.99m、短辺は1.66m、深さは0.39mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

遺物 埋土から炉内滓(1)が出土した。

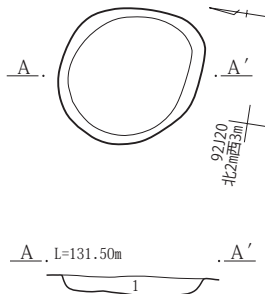
時代 10世紀より新。

54号土坑(第711図、PL.378)

グリッド 12-92区L20

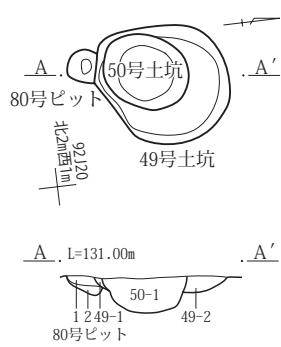
第4章 第2面の遺構と出土遺物

48号土坑



- 1 黒褐色土(10YR3/2) 少量の黄褐色土シルト大ブロックを含む。締りやや弱。

49・50号土坑・80号ピット



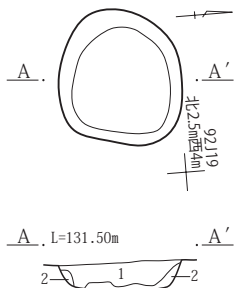
49・50号土坑

- 49-1 黒褐色土(10YR3/2) 微量のローム粒子を含む。締りやや弱。粘性やや有。
 49-2 暗褐色土(10YR3/3) ローム土との混土。締りやや弱。粘性有。
 50-1 黒褐色土(10YR3/2) 少量のロームブロック・榛名二ツ岳白色軽石を含む。締りやや弱。

80号ピット

- 1 黒褐色土(10YR3/2) 微量のローム粒子を含む。締りやや弱。粘性やや有。
 2 暗褐色土(10YR3/3) ローム土との混土。締りやや弱。粘性有。

51号土坑



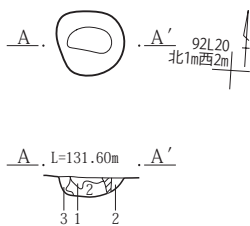
51号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 微量の榛名二ツ岳白色軽石・ロームブロックを含む。締りやや強。粘性有。
 2 褐色土(10YR4/4) ローム土と1層土との混土。締り強。

54号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 少量の黄褐色土シルトブロックを含む。締り強。
 2 暗褐色土(10YR3/3) 土質ほぼ均一。微量の黄褐色シルト土を混入する。締りやや強。
 3 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 土質均一。締りやや強。粘性有。

55号土坑

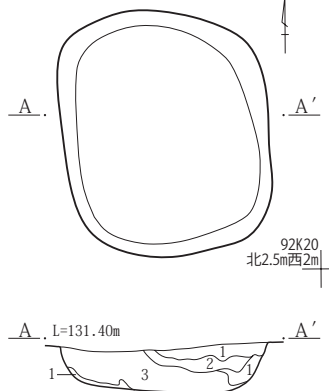


- 1 にぶい黄褐色土 少量のローム粒子(10YR4/3)を含む。締り強。
 2 オリーブ褐色シルト質土(2.5Y4/4) にぶい黄色シルトブロックを含む。締りやや強。
 3 暗褐色土 硬く締り強。(10YR3/4)

56・57号土坑

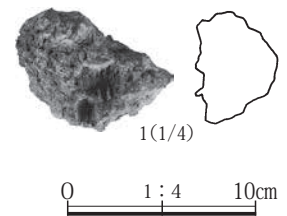
- 1 暗褐色土(10YR3/3) 微量の榛名二ツ岳白色軽石・ローム粒子を含む。締り強。
 2 灰黄褐色土(10YR4/2) 少量のローム粒子を含む。締りやや強。粘性やや有。
 3 暗褐色土(10YR3/3) 少量の黄褐色シルト土を混入する。締りやや弱。粘性やや有。
 4 褐色土(10YR4/4) ローム土主体。にぶい黄色シルトブロックを含む。締り強。

53号土坑

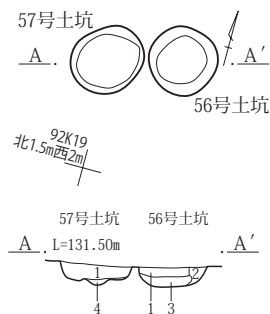


- 1 褐色土(10YR4/4) 少量の榛名二ツ岳白色軽石・ローム粒子を含む。締りやや強。粘性有。
 2 暗褐色土(10YR3/3) 少量の1層土を含む。硬く締り強。
 3 黒褐色土(10YR3/2) 少量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。硬く締り強。

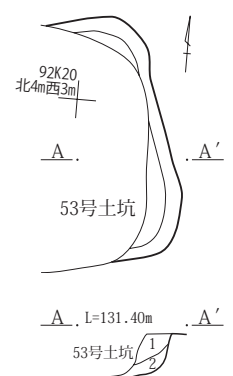
53号土坑



56・57号土坑

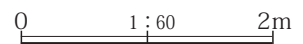


58号土坑



58号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/4) 微量の榛名二ツ岳白色軽石と少量の黄褐色土シルトブロックを含む。締り強。
 2 灰黄褐色土(10YR4/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石と黄褐色土シルトブロックを含む。締りやや強。粘性やや有。



第711図 XII区48～51・53～58号土坑と53号土坑の出土遺物

長軸方位 N78°W

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は皿形を呈する。

長辺は0.45m、短辺は0.47m、深さは0.17mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

55号土坑(第711図)

グリッド 12-92区L20

長軸方位 N60°W

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は皿形を呈する。

長辺は0.56m、短辺は0.53m、深さは0.17mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

56号土坑(第711図、PL.378)

グリッド 12-92区K19

長軸方位 N23°W

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長

径は0.56m、短径は0.55m、深さは0.19mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

57号土坑(第711図、PL.378)

グリッド 12-92区K19

長軸方位 N45°E

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長

径は0.58m、短径は0.50m、深さは0.20mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

58号土坑(第711図、PL.379)

グリッド 12-92区K20

長軸方位 N20°W

新旧関係 53号土坑が新。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は箱形を呈する。

長径は1.95m、短径は0.70m+、深さは0.35mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

59号土坑(第712図、PL.379)

グリッド 12-92区J20

長軸方位 N86°W

新旧関係 20号住居が旧。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。

長辺は1.37m、短辺は1.29m、深さは0.46mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀第2四半期より新。

60号土坑(第712図、PL.379)

グリッド 13-2区K1

長軸方位 N3°E

新旧関係 18号住居、67号土坑が旧。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈

する。長辺は1.55m、短辺は1.37m、深さは0.20mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

遺物 埋土から鉄製品(1)が出土した。

時代 10世紀第4四半期より新。

61号土坑(第712図、PL.379)

グリッド 12-92区J18

長軸方位 N16°W

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状はU字形を呈する。

長径は0.57m、短径は0.55m、深さは0.44mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

62号土坑(第712図、PL.379)

グリッド 12-92区K20

長軸方位 N58°E

新旧関係 20号住居が旧。82号ピットが新。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。

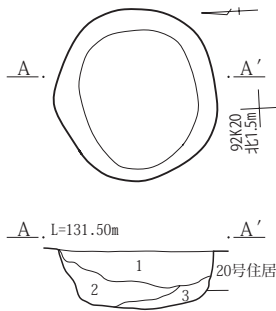
長径は1.12m、短径は1.09m、深さは0.17mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

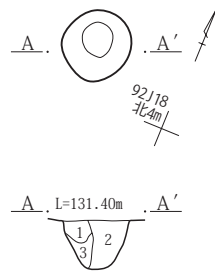
時代 10世紀第2四半期より新。

第4章 第2面の遺構と出土遺物

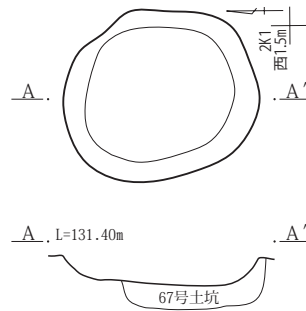
59号土坑



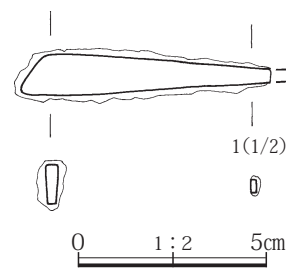
61号土坑



60号土坑



60号土坑



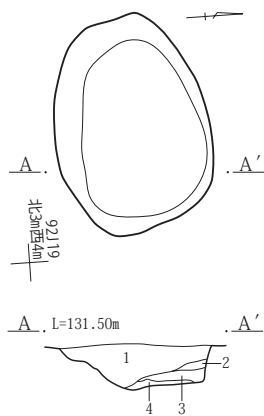
59号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 少量の榛名二ツ岳白色軽石・黄褐色土粒子を含む。締り強。
- 2 暗褐色土(10YR3/4) 微量の榛名二ツ岳白色軽石と黄褐色土ブロックを含む。締り強。
- 3 黒褐色土(10YR3/2) 微量の黄褐色土ブロックを含む。締り強。粘性やや有。

61号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/4) 微量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。締り強。粘性有。
- 2 褐色シルト質土(10YR4/4) 締りやや強。粘性有。
- 3 暗褐色土(10YR3/4) 2層土との混土。締り強。粘性やや有。

64号土坑



64号土坑

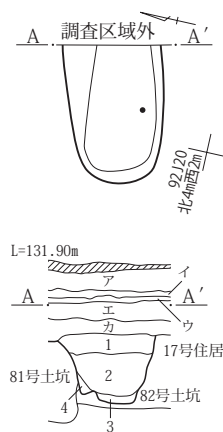
- 1 暗褐色土(10YR3/3) 少量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。硬く締り強。
- 2 黒褐色土(10YR3/2) 土質均一。硬く締り強。
- 3 黒褐色土(10YR2/3) 少量の黄褐色土ブロックを含む。締り強。
- 4 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 締りやや弱。粘性やや有。

65号土坑

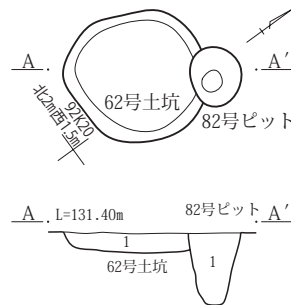
- ア 暗褐色土 現代耕作土。
- イ 灰色土 水田耕作土。
- ウ 明褐色土 水田下部層。
- エ 褐灰色土

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 少量の榛名二ツ岳白色軽石と微量の黄褐色土粒子を含む。締り強。
- 2 黒褐色土(10YR3/2) 少量の榛名二ツ岳白色軽石と微量の炭化物を含む。締り強。
- 3 暗褐色土(10YR3/3) 少量の黄褐色土粒子を含む。締りやや強。粘性やや有。
- 4 暗褐色土(10YR3/3) 少量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。締りやや強。

65号土坑



62号土坑・82号ピット



62号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 少量の榛名二ツ岳白色軽石と微量の黄褐色土粒子を含む。締り強。

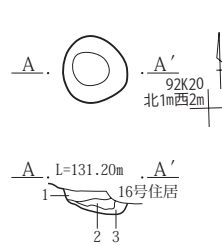
82号ピット

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 微量の榛名二ツ岳白色軽石と黄褐色土大ブロックを含む。締り強。

63号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 微量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。締りやや強。
- 2 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 黄褐色シルト質土を含む。締りやや強。

66号土坑



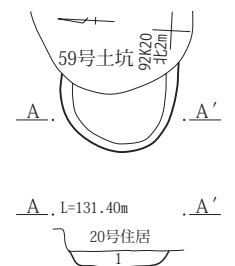
66号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 微量の黄褐色土粒子を含む。締りやや強。
- 2 黒褐色土(10YR3/2) 少量の黄褐色土を含む。締り強。
- 3 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 2層土と黄褐色シルト質土との混土。締りやや強。

69号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 少量の榛名二ツ岳白色軽石・黄褐色シルトブロックを含む。締り強。

69号土坑



第712図 XII区59～66・69号土坑と60号土坑の出土遺物

63号土坑(第712図)

グリッド 13-2区J1

長軸方位 N3°E

新旧関係 12号住居が旧。

形状と規模 楕円形を呈し、断面形状は皿形を呈する。

長径は0.73m、短径は0.52m、深さは0.16mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀第1四半期より新。

64号土坑(第712図)

グリッド 12-92区J19

長軸方位 N78°E

新旧関係 20・21号住居が旧。83号土坑が新。

形状と規模 楕円形を呈し、断面形状は箱形を呈する。

長径は1.65m、短径は1.24m、深さは0.38mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀第2四半期より新。

65号土坑(第712図、PL.379)

グリッド 12-92区J20

長軸方位 N75°E

新旧関係 17号住居、81号土坑が旧。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は箱形を呈する。

長径は1.10m、短径は0.77m、深さは0.54mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

66号土坑(第712図)

グリッド 12-92区K20

長軸方位 N18°W

新旧関係 16号住居が新。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長

径は0.52m、短径は0.50m、深さは0.22mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀より旧。

69号土坑(第712図、PL.379)

グリッド 12-92区K20

長軸方位 N32°W

新旧関係 20号住居、59号土坑が新。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は0.98m、短径は0.65m、深さは0.12mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀第2四半期より旧。

67号土坑(第713図、PL.379)

グリッド 13-2区K1

長軸方位 N84°W

新旧関係 60号土坑が新。68号土坑が旧。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長径は1.22m、短径は1.15m、深さは0.26mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

68号土坑(第713図、PL.379)

グリッド 12-92区K20

長軸方位 N30°E

新旧関係 60・67号土坑が新。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は1.70m、短径は1.67m、深さは0.31mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

70号土坑(第713図、PL.379)

グリッド 12-92区J20

長軸方位 N84°E

新旧関係 20号住居が新。

形状と規模 楕円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は1.43m、短径は0.88m、深さは0.17mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀第2四半期より旧。

71号土坑(第713図)

グリッド 12-92区J20

長軸方位 N87°W

新旧関係 なし。

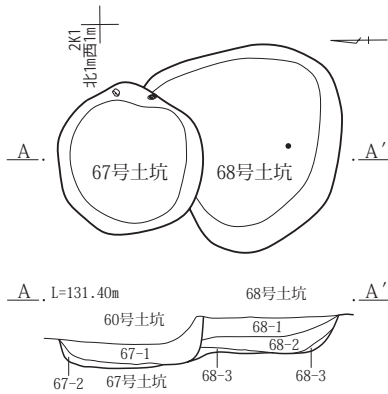
形状と規模 円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は0.82m、短径は0.69m、深さは0.17mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

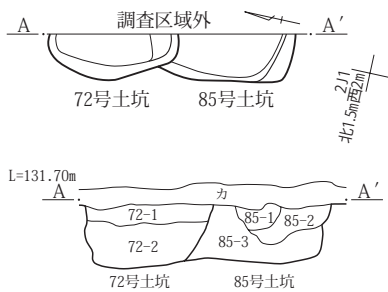
第4章 第2面の遺構と出土遺物

67・68号土坑



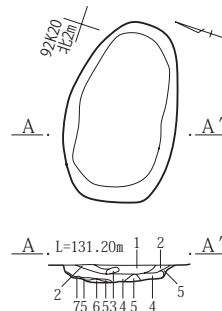
- 67-1 黒褐色土(10YR3/2) 微量の榛名ニツ岳白色軽石・黄褐色土粒子・炭化物を含む。締りやや強。
- 67-2 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 黄褐色シルト質土と1層土との混土。締りやや強。
- 68-1 暗褐色土(10YR3/4) 少量の榛名ニツ岳白色軽石・黄褐色土粒子を含む。締り強。
- 68-2 暗褐色土(10YR3/3) 微量の榛名ニツ岳白色軽石・炭化物と少量の黄褐色土粒子を含む。締り強。
- 68-3 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 黄褐色シルトと2層土との混土。締りやや強。粘性やや有。

72・85号土坑



- カ 暗褐色土(7.5YR3/4) 粗い砂質土。鉄分沈着有り。
- 72-1 黒褐色土(10YR2/3) カ層土の粗い砂と微量の榛名ニツ岳白色軽石を含む。締り強。
- 72-2 黒褐色土(10YR3/2) 少量の榛名ニツ岳白色軽石・黄褐色土ブロックを含む。締りやや強。粘性有。
- 85-1 黒褐色土(10YR3/2) 少量の榛名ニツ岳白色軽石を含む。締りやや強。
- 85-2 暗褐色土(10YR3/3) 少量の榛名ニツ岳白色軽石・黄褐色土粒子を含む。締りやや強。
- 85-3 暗褐色土(10YR3/4) 榛名ニツ岳白色軽石・黄褐色土粒子を含む。締りやや強。

70号土坑

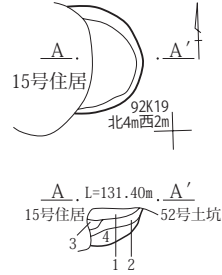


- 70号土坑
- 1 暗褐色土(10YR3/4) 微量の榛名ニツ岳白色軽石・黄褐色土粒子を含む。締り強。
- 2 褐灰色土(7.5YR4/2) 灰白色灰・黒色灰を含む。締りやや強。
- 3 黒褐色土(10YR2/2) 灰主体。締り弱。
- 4 黒褐色土(10YR2/3) 少量の黄褐色土粒子を含む。
- 5 黄褐色シルト質土(2.5Y5/4) 締り強。
- 6 黒褐色土(10YR2/2) 少量の炭化物・黄褐色シルト質土を含む。締り弱。
- 7 黒褐色土(10YR2/1) 多量の灰を含む。締り弱。

71号土坑

- 71号土坑
- 1 暗褐色土(10YR3/3) 少量の榛名ニツ岳白色軽石・黄褐色土粒子を含む。硬く締り強。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) 微量の榛名ニツ岳白色軽石・黄褐色土粒子を含む。締り強。

73号土坑

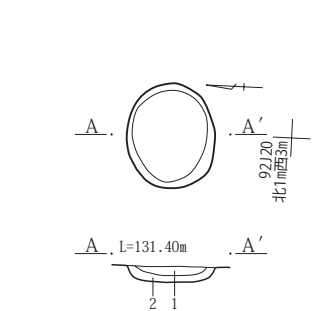


- 73号土坑
- 1 暗褐色土(7.5YR3/4) 少量の榛名ニツ岳白色軽石を含む。硬く締り強。
- 2 黒褐色土(10YR3/2) 微量の榛名ニツ岳白色軽石を含む。締り強。
- 3 暗褐色土(10YR3/3) 土質均一。硬く締り強。
- 4 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 黄褐色土を含む。締りやや弱。粘性有。

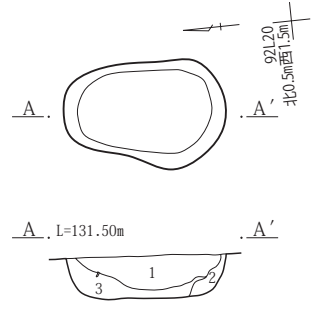
74号土坑

- 74号土坑
- 1 灰黄褐色土(10YR4/2) ややシルト質土。微量の榛名ニツ岳白色軽石を含む。締りやや強。
- 2 にぶい黄褐色シルト質土(10YR4/3) 締り強。
- 3 灰黄褐色土(10YR4/2) 少量の黄褐色シルト質土を含む。締りやや弱。粘性有。

71号土坑



74号土坑



第713図 XIII区67・68・70～74・85号土坑

72号土坑(第713図、PL.379)

グリッド 13-2区J1

長軸方位 N12°W

新旧関係 85号土坑が旧。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は箱形を呈する。

長径は1.02m、短径は0.37m+、深さは0.48mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

85号土坑(第713図、PL.379)

グリッド 13-2区J1

長軸方位 N12°W

新旧関係 19号住居、72号土坑が新。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は箱形を呈する。

長径は1.08m+、短径は0.38m+、深さは0.46mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

73号土坑(第713図)

グリッド 12-92区K19

長軸方位 N30°W

新旧関係 15号住居、52号土坑が新。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は皿形を呈する。

長径は0.87m、短径は0.42m+、深さは0.28mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

74号土坑(第713図、PL.379)

グリッド 12-92区L20

長軸方位 N8°E

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は半月形を呈する。長辺は1.28m、短辺は0.87m、深さは0.42mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

75号土坑(第714図、PL.376)

グリッド 12-92区L20

長軸方位 N25°W

新旧関係 76号土坑が新。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は皿形を呈する。

長径は1.01m、短径は0.93m+、深さは0.31mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

76号土坑(第714図、PL.376・445)

グリッド 12-92区M20

長軸方位 N82°W

新旧関係 75・77号土坑が旧。

形状と規模 楕円形を呈し、断面形状は皿形を呈する。

長径は1.75m、短径は1.34m、深さは0.40mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

遺物 埋土から鉄製品(1)が出土した。

時代 古墳時代以降である。

77号土坑(第714図、PL.376)

グリッド 12-92区M20

長軸方位 N40°W

新旧関係 76号土坑が旧。78号土坑が新。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は皿形を呈する。

長径は0.94m、短径は0.31m+、深さは0.29mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

78号土坑(第714図、PL.376)

グリッド 12-92区M20

長軸方位 N37°E

新旧関係 77号土坑、95号ピットが新。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は皿形を呈する。

長辺は0.90m+、短辺は0.81m、深さは0.28mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

79号土坑(第714図、PL.376)

グリッド 12-92区M20

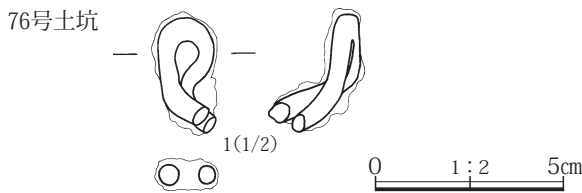
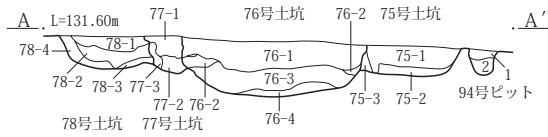
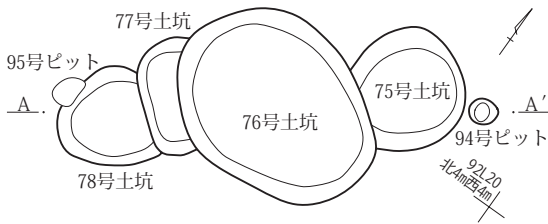
長軸方位 N70°E

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は皿形を呈する。

長辺は0.71m、短辺は0.67m、深さは0.14mである。

75～78号土坑・94号ピット



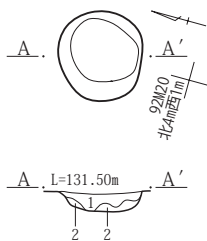
75～78号土坑

- 75-1 暗褐色土 多量の榛名二ツ岳白色軽石と少量の炭化物粒子を含む。やや硬く締る。
- 75-2 暗褐色土 少量の黄褐色土ブロックを含む。やや硬く締る。
- 75-3 暗褐色土 硬く締る。
- 76-1 暗褐色土 多量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。
- 76-2 暗褐色土 やや硬く締る。
- 76-3 茶褐色土 多量の黄褐色土ブロックと少量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 76-4 黄褐色土 硬く締る。粘性非常に有。
- 77-1 暗褐色土 榛名二ツ岳白色軽石を含む。やや硬い。
- 77-2 暗褐色土 やや硬い。粘性有。
- 77-3 黄褐色土 やや硬い。粘性有。
- 78-1 暗褐色土 榛名二ツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。
- 78-2 暗褐色土 少量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。
- 78-3 暗褐色土 柔らかくて締り悪い。
- 78-4 茶褐色土 黄褐色土ブロックを含む。柔らかくて締り良。粘性有。

94号ピット

- 1 暗褐色土 少量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。
- 2 茶褐色土 やや硬く締る。

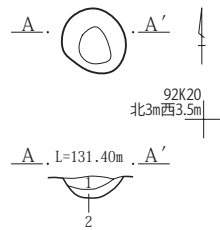
79号土坑



79号土坑

- 1 暗褐色土 榛名二ツ岳白色軽石を含む。締り悪い。
- 2 黄褐色土 硬く締る。粘性有。

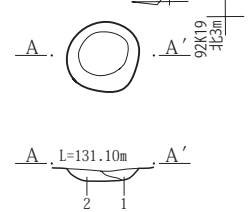
80号土坑



80号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/4) 微量の榛名二ツ岳白色軽石と少量の黄褐色土ブロックを含む。硬く締り強。
- 2 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 1層土よりやや多く黄褐色土ブロックを含む。硬く締り強。

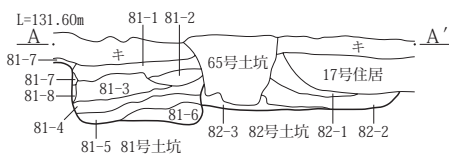
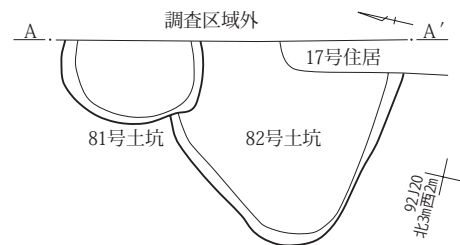
83号土坑



83号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 少量の黄褐色土ブロックを含む。締り強。
- 2 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 1層土よりも多く黄褐色土ブロックを含む。締り強。

81・82号土坑



81・82号土坑

- キ 暗褐色土(10YR3/4) 酸化鉄分沈着少し有り。
- 81-1 灰黄褐色土(10YR4/2) 少量の榛名二ツ岳白色軽石・炭化物を含む。締り強。
- 81-2 灰黄褐色土(10YR4/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石・黄褐色土粒子を含む。締り強。
- 81-3 暗褐色土(10YR3/3) 少量の榛名二ツ岳白色軽石・黄褐色土ブロックを含む。締り強。
- 81-4 暗褐色土(10YR3/4) 少量の黄褐色土粒子を含む。締り強。
- 81-5 黒褐色土(10YR3/2) 少量の黄褐色土粒子と微量の炭化物を含む。締りやや強。
- 81-6 暗褐色土(10YR3/4) 微量の榛名二ツ岳白色軽石・黄褐色土ブロック・炭化物を含む。締りやや強。
- 81-7 褐色土(10YR4/4) 黄褐色シルト質土に榛名二ツ岳白色軽石を含む。締りやや強。
- 81-8 にぶい黄褐色粘質土(10YR4/3) 締りやや弱。
- 82-1 黒褐色土(10YR3/2) 少量の榛名二ツ岳白色軽石・黄褐色土ブロック・炭化物を含む。締り強。
- 82-2 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 少量の黄褐色土ブロック・炭化物と微量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。
- 82-3 褐色土(10YR4/4) 砂質土と粘質土との混土。締りやや強。

第714図 XII区75～83号土坑と76号土坑の出土遺物

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

80号土坑(第714図、PL.379)

グリッド 12-92区K20

長軸方位 N33°W

新旧関係 16号住居が旧。

形状と規模 楕円形を呈し、断面形状は半月形を呈する。

長径は0.55m、短径は0.48m、深さは0.28mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀より新。

81号土坑(第714図、PL.379)

グリッド 13-2区J1

長軸方位 N12°W

新旧関係 65号土坑が新。82号土坑が旧。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は箱形を呈する。

長径は1.12m、短径は0.65m+、深さは0.52mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

82号土坑(第714図、PL.379)

グリッド 12-92区J20

長軸方位 N47°W

新旧関係 17号住居、65・81号土坑が新。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は箱形を呈する。

長径は1.87m+、短径は1.83m+、深さは0.42mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

83号土坑(第714図)

グリッド 12-92区K19

長軸方位 N31°W

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。

長径は0.58m、短径は0.56m、深さは0.10mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

第7節 鍛冶

1. VI区

1号鍛冶・27号住居(第715～724図、PL.106・380・445～447)

グリッド 13-3区F8

主軸方位 N89°W

重複 19号溝に切られる。5号竪穴に近接する。

形状と規模 東西方向に長軸を有し、長方形を呈する竪穴住居である。長辺は5.03m、短辺は4.20m、深さは0.41m、面積は18.87㎡である。埋土を切って1号鍛冶遺構が重複する。

埋土 ニツ岳の白色軽石を含む灰黄褐色砂質土からなる。

床面 ニツ岳の白色軽石を含む灰黄褐色砂質土を0.12mほど貼って、床面を構築している。

掘方 XII・XIII層の黄褐色砂質土を掘り込んで構築している。

カマドと貯蔵穴 東壁の中央南寄りに位置する。カマドの燃焼部は東壁から奥を掘り込んで壁の外側に構築している。燃焼部底は緩やかに傾いて立ち上がる。燃焼部底は左側に焼土ブロックが広がり、焚口の右側には炭化物を検出した。カマド埋土は炭化物や焼土を含む灰黄褐色砂質土である。カマドは長さ0.91m、幅0.83m、深さ0.13mである。貯蔵穴は検出されなかった。

1号鍛冶

形状と規模 27号住居内に存在する土坑群と焼土帯からなる。

土坑1は歪んだ楕円形を呈し、長径は0.88m、短径は0.60m、深さは0.23mである。

土坑2は楕円形を呈し、長径は1.13m、短径は0.85m、深さは0.15mである。

土坑3は歪んだ隅の丸い方形を呈し、長辺は1.05m、短辺は0.62m、深さは0.03mである。

土坑4は隅の丸い長方形を呈し、長辺は1.18m、短辺は0.98m、深さは0.11mである。

土坑5は方形の窪みを歪んだ円形土坑が切っている。方形の窪みの長辺は2.58m、短辺は0.84m、円形土坑の長径は1.52m、短径は1.28m、深さは0.40mである。

土坑6は楕円形を呈し、長径は1.17m、短径は0.94m、

深さは0.05mである。

土坑7は歪んだ楕円形を呈し、長径は1.03m、短径は0.76m、深さは0.10mである。

土坑5から溝が竪穴の外に向かって延伸し19号溝に接続する。溝の幅は0.43m、深さ0.30mで、外延溝の可能性はある。

土坑埋土 ニツ岳の白色軽石を含み炭化物やにぶい黄褐色砂質土ブロックを含む灰黄褐色砂質土が傾きながら成層し、土坑を埋める。

焼土帯 土坑3・4の上位0.21mに長径2.42m、短径1.14mの粘土や長径0.74m、短径0.52mの焼土の広がり、灰などを確認し、これは鍛冶炉の痕跡である可能性がある。焼土や灰は土坑埋土の上部にある。埋土は長径0.20mの垂円～垂角礫を多く含み、一部には赤く酸化した被熱礫も認められる。なお、竪穴掘方では土坑7の南側に直径0.50mほどの焼土帯が認められる。これは掘り込まれた鍛冶炉の炉底付近の焼土の可能性はある。

遺物 土器や羽口などの土製品、鉄製品や石製品などの遺物、鉄滓や礫など約700点が出土した。礫は垂円～垂角礫からなり長径は0.14～0.38mに及び、竪穴の西縁から7点がまとまって出土した。1号鍛冶は埋土から土師器の杯(1)、須恵器の杯(3～6)、椀(7)、黒色土器の椀(2)、羽口(8～58)、埴埴(59～61)、銅椀(62)、鉄製鑊子(71)、鉄製品(63～91・116)、鉄滓(92～115)、金床石(117)が出土し、出土遺物は8世紀後半から10世紀後半の年代幅を有する。

時代 主要な遺物から平安時代10世紀と想定される。

2. VII区

1号鍛冶(第725～731図、PL.381～383・447・448)

グリッド 13-2区P11

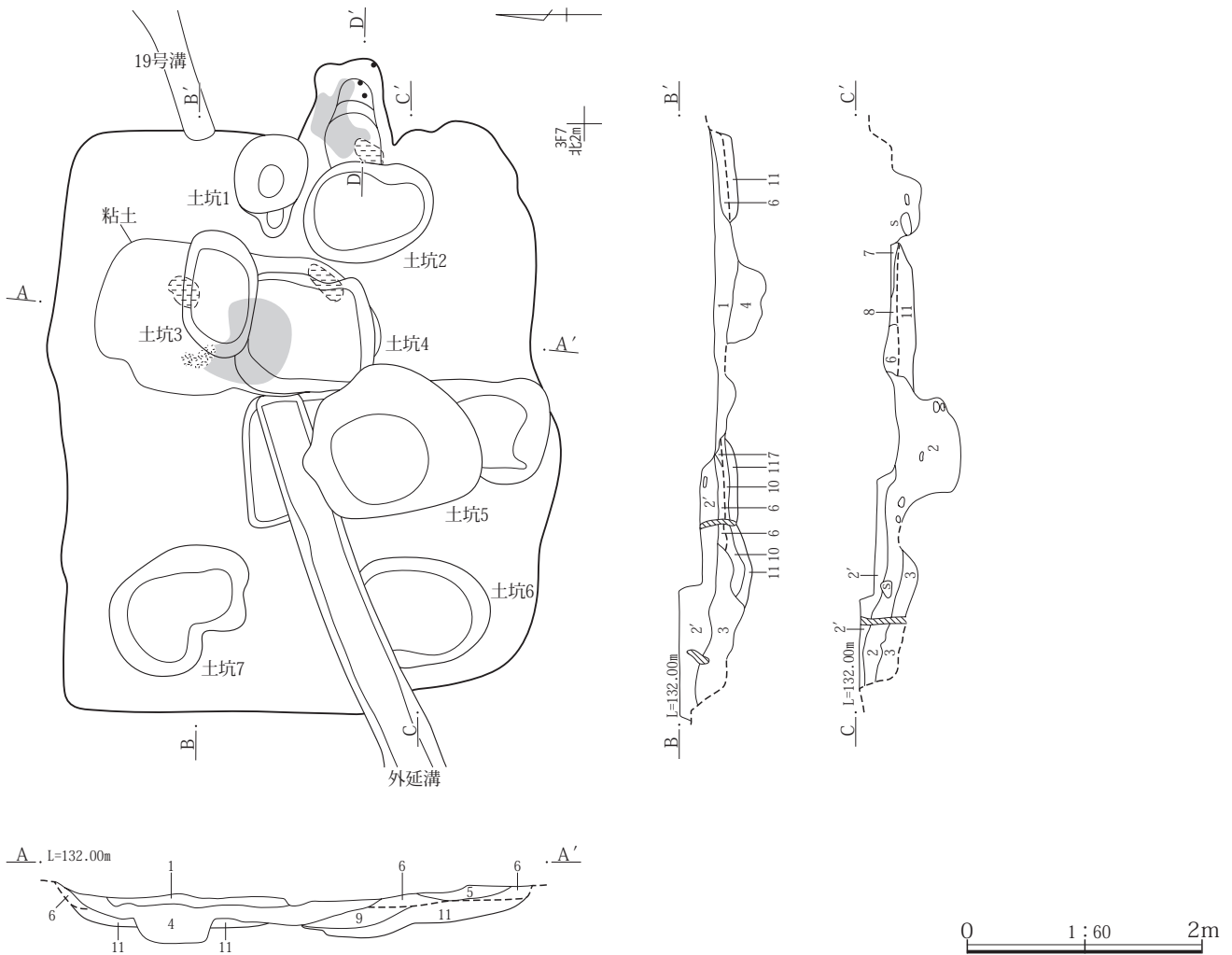
形状と規模 86・105号住居の北東～東の南北9m、東西6mの範囲に存在する土坑群と焼土帯からなる。

土坑1は歪んだ楕円形を呈し、長径は1.18m、短径は0.92m、深さは0.29mである。

土坑2は歪んだ楕円形を呈し、土坑1を切る。長径は0.65m、短径は0.47m、深さは0.40mである。

土坑3は歪んだ円形を呈し、長径は1.08m、短径は0.93m、深さは0.23mである。

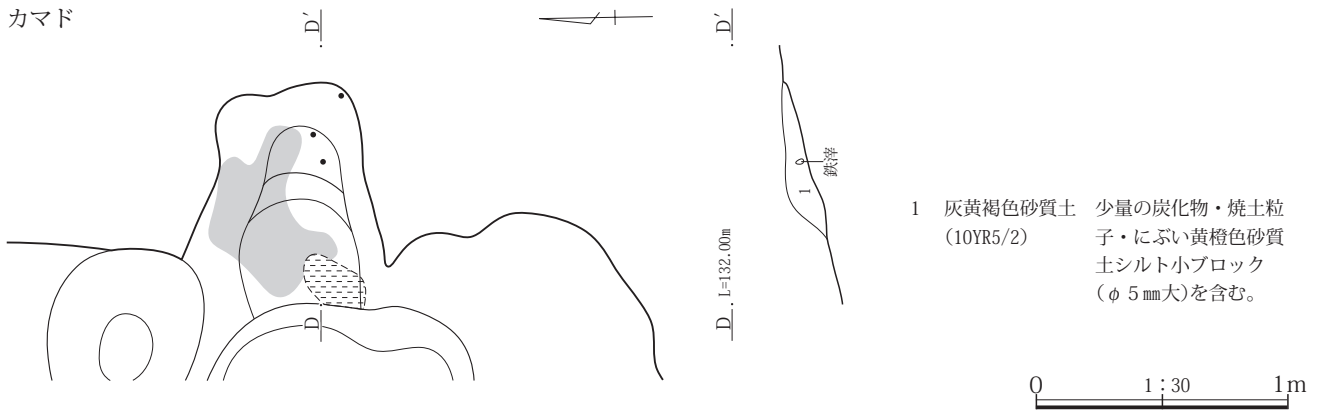
土坑4は歪な隅の丸い長方形を呈し、土坑3を切る。長



- 1 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 多量の焼土ブロック(φ 5~40mm大)・炭化物・にぶい黄橙色砂質土シルトブロック(φ 5~30mm大)・鉄滓・羽口を含む。= 1号鍛冶
- 2 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 少量の榛名ニツ岳白色軽石小粒・炭化物粒・にぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ 5~10mm大)を含む。= 1号鍛冶
- 2' 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 2層土より炭化物・シルトブロックの混入少ない。= 1号鍛冶
- 3 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒と多量の炭化物と少量のにぶい黄褐色砂質土シルトブロック(φ 10~30mm大)・焼土小ブロック(φ 5~15mm大)を含む。= 1号鍛冶
- 4 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒と少量の炭化物粒と多量のにぶい黄褐~にぶい黄橙色砂質土シルトブロック(φ 10~30mm大)を含む。= 1号鍛冶
- 5 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒・多量のにぶい黄褐~黄橙色砂質土シルト小ブロック(φ 5~15mm大)を含む。= 27号住居(5~8は埋土、9~11は掘方埋土)
- 6 にぶい黄橙色砂質土シルト(10YR7/4) 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒と少量の黄褐色砂質土ブロック(φ 10~30mm大)を含む。= 27号住居
- 7 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 少量の灰・炭化物・焼土粒子を含む。= 27号住居
- 8 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 多量の灰と少量の炭化物・焼土粒子を含む。= 27号住居
- 9 にぶい黄橙色砂質土シルト(10YR7/4) 微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒と少量の黄褐色砂質土ブロック(φ 10~30mm大)を含む。= 27号住居
- 10 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 少量の灰・炭化物・焼土粒子を含む。= 27号住居
- 11 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 多量のにぶい黄橙色砂質土シルト大ブロック(φ 10~50mm大)を含む。= 27号住居

第715図 VI区27号住居(1)

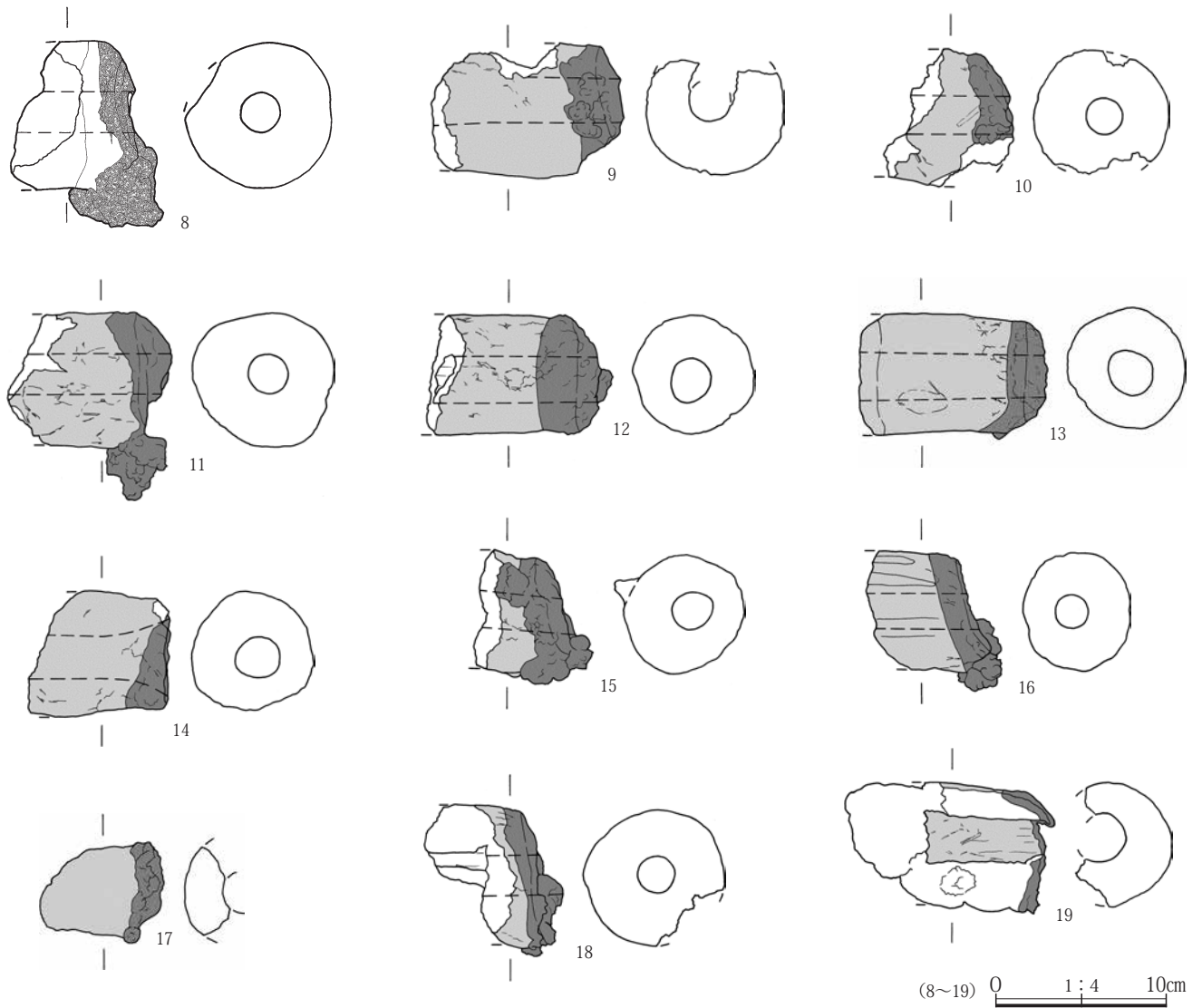
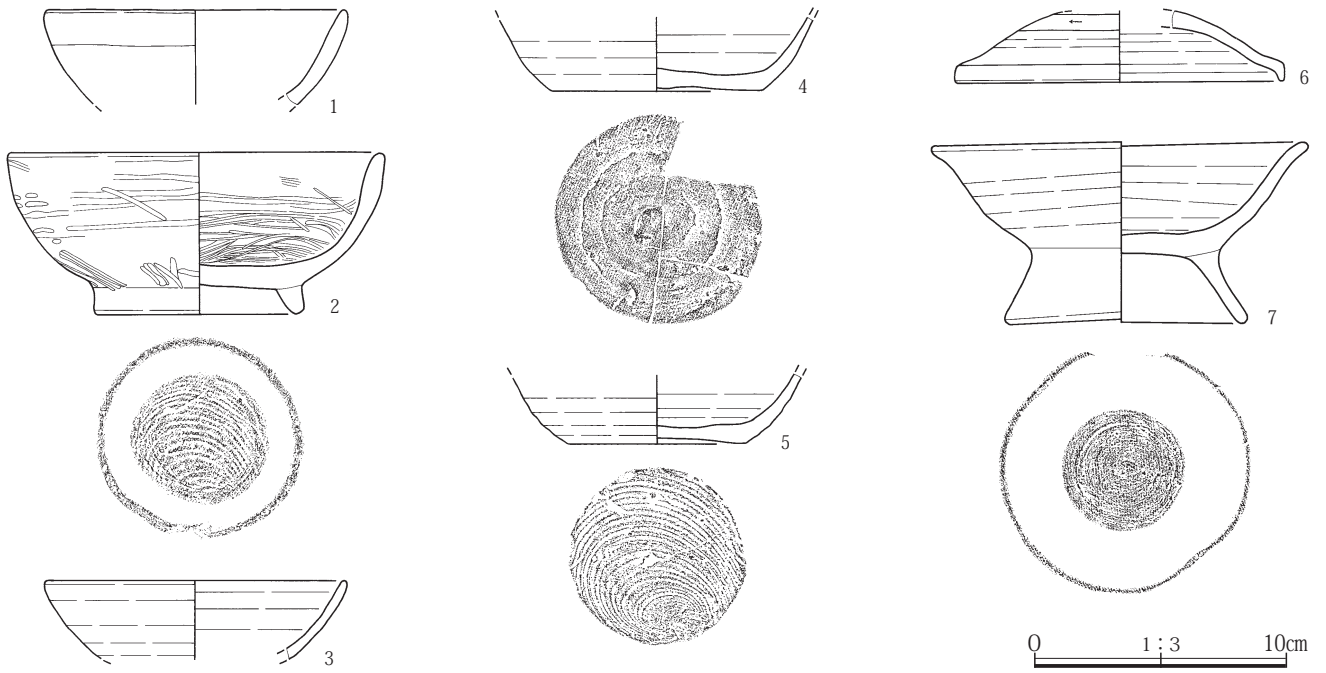
カマド



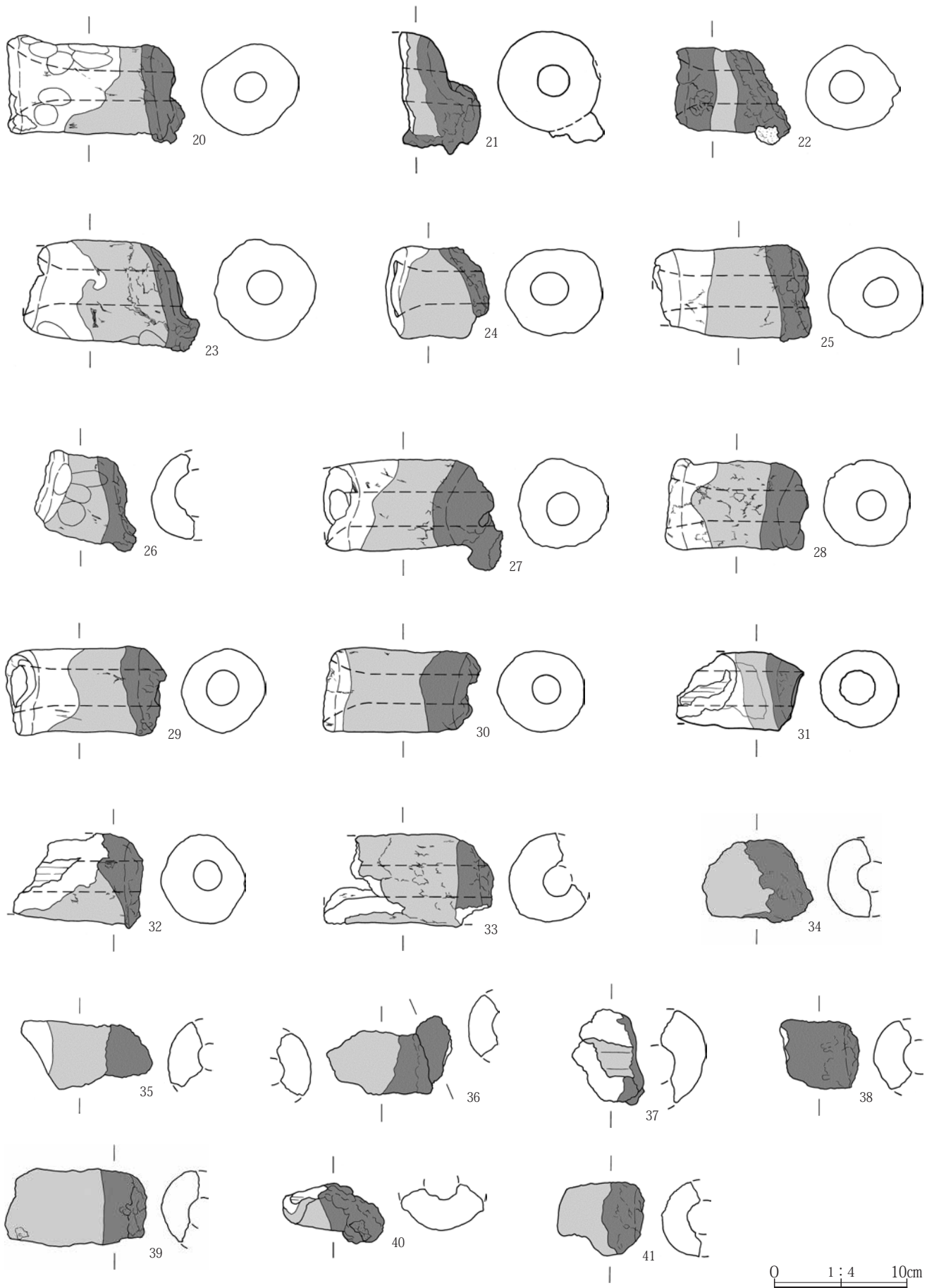
第716図 VI区27号住居(2)



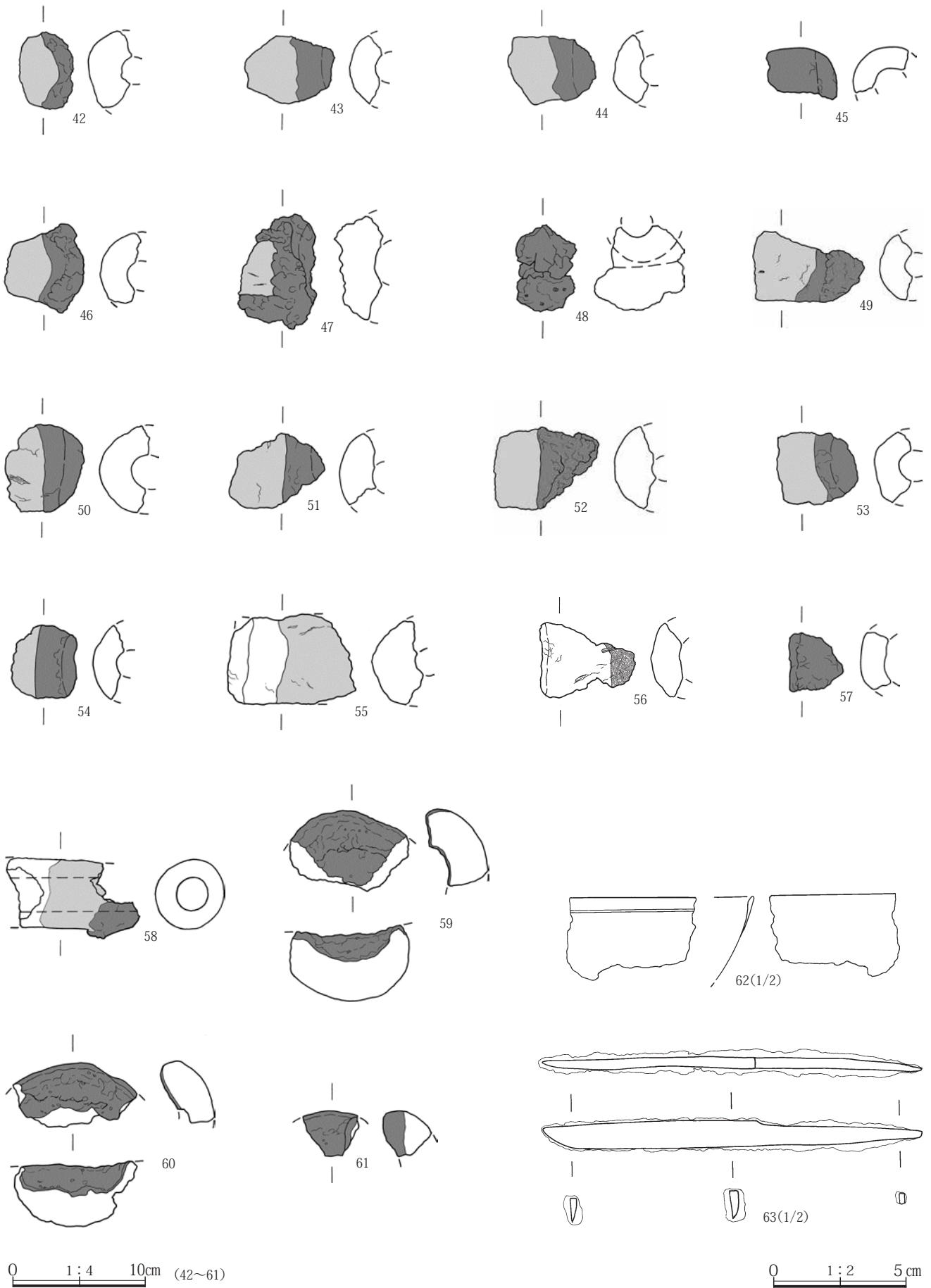
第717図 VI区1号鍛冶



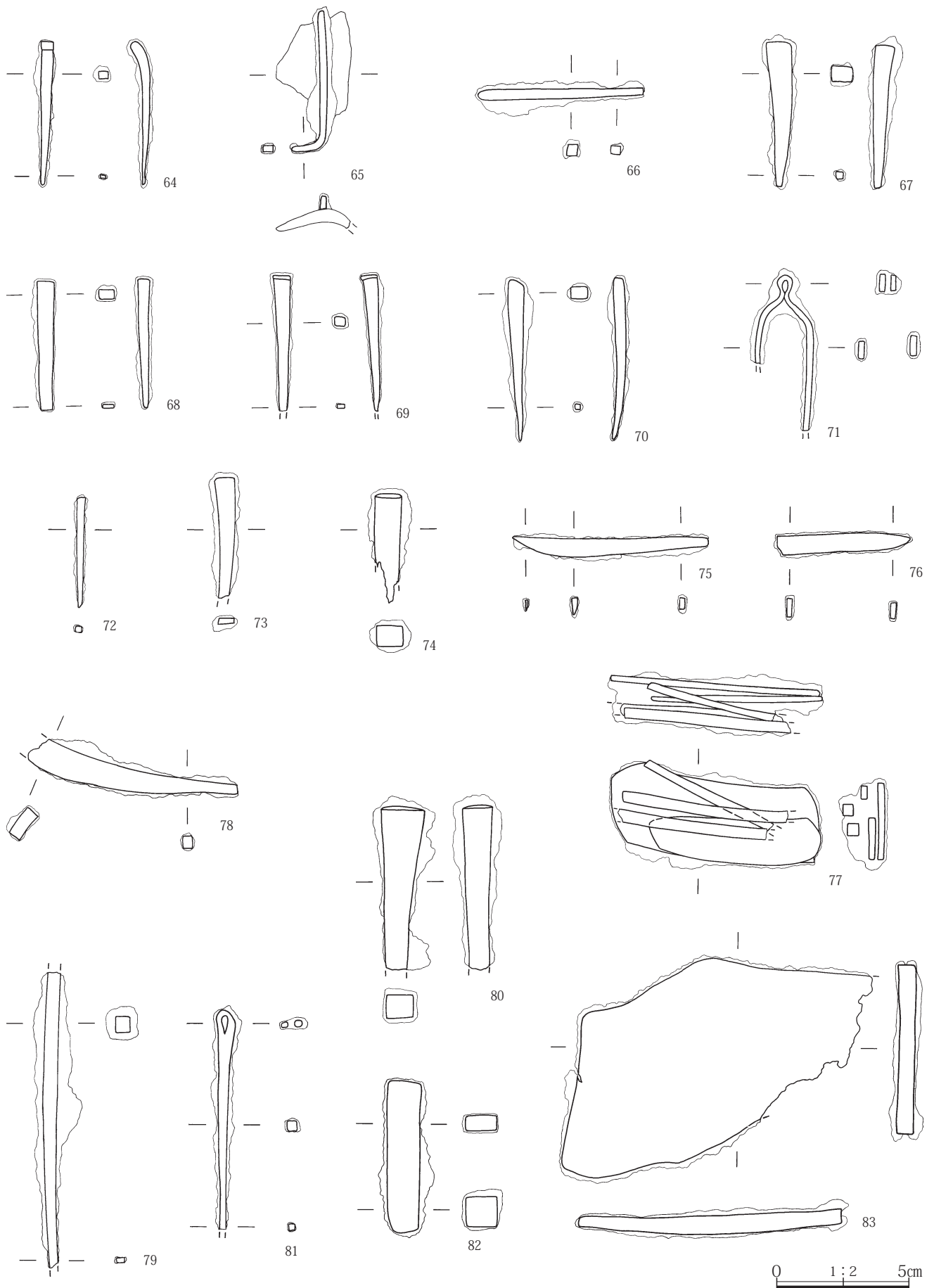
第718図 VI区1号鍛冶の出土遺物(1)



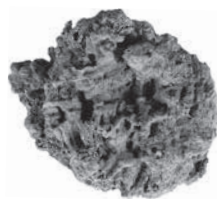
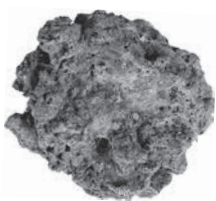
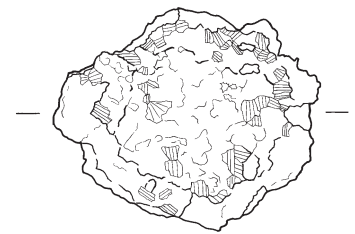
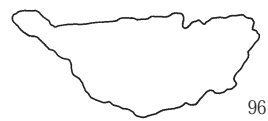
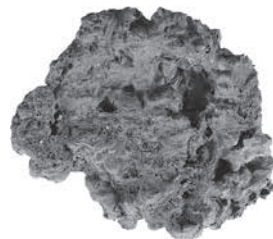
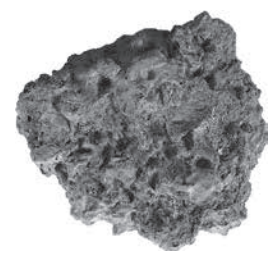
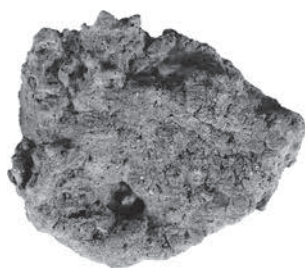
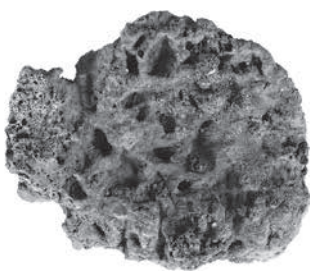
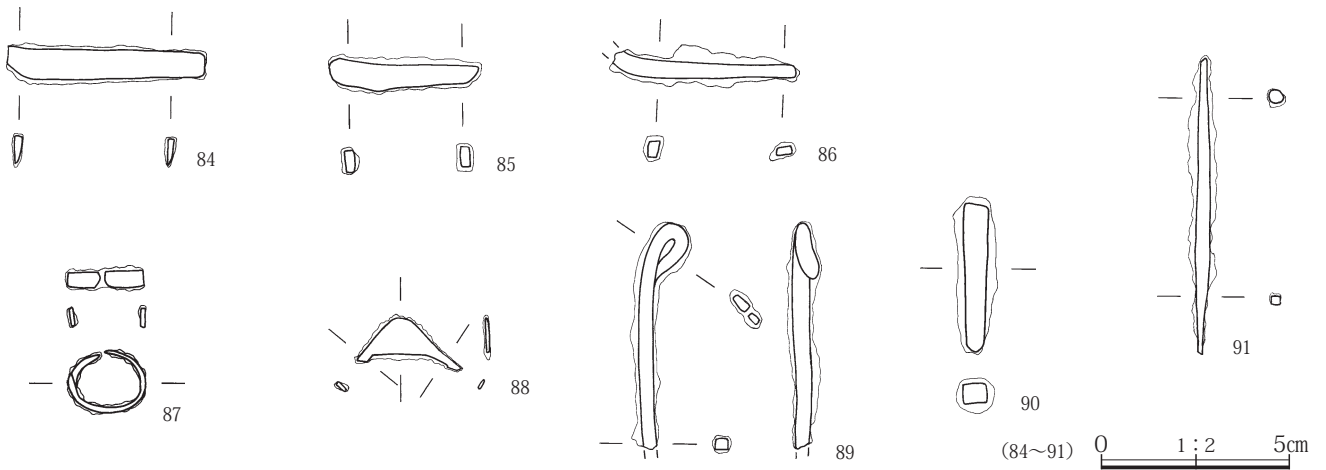
第719図 VI区1号鍛冶の出土遺物(2)



第720図 VI区1号鍛冶の出土遺物(3)

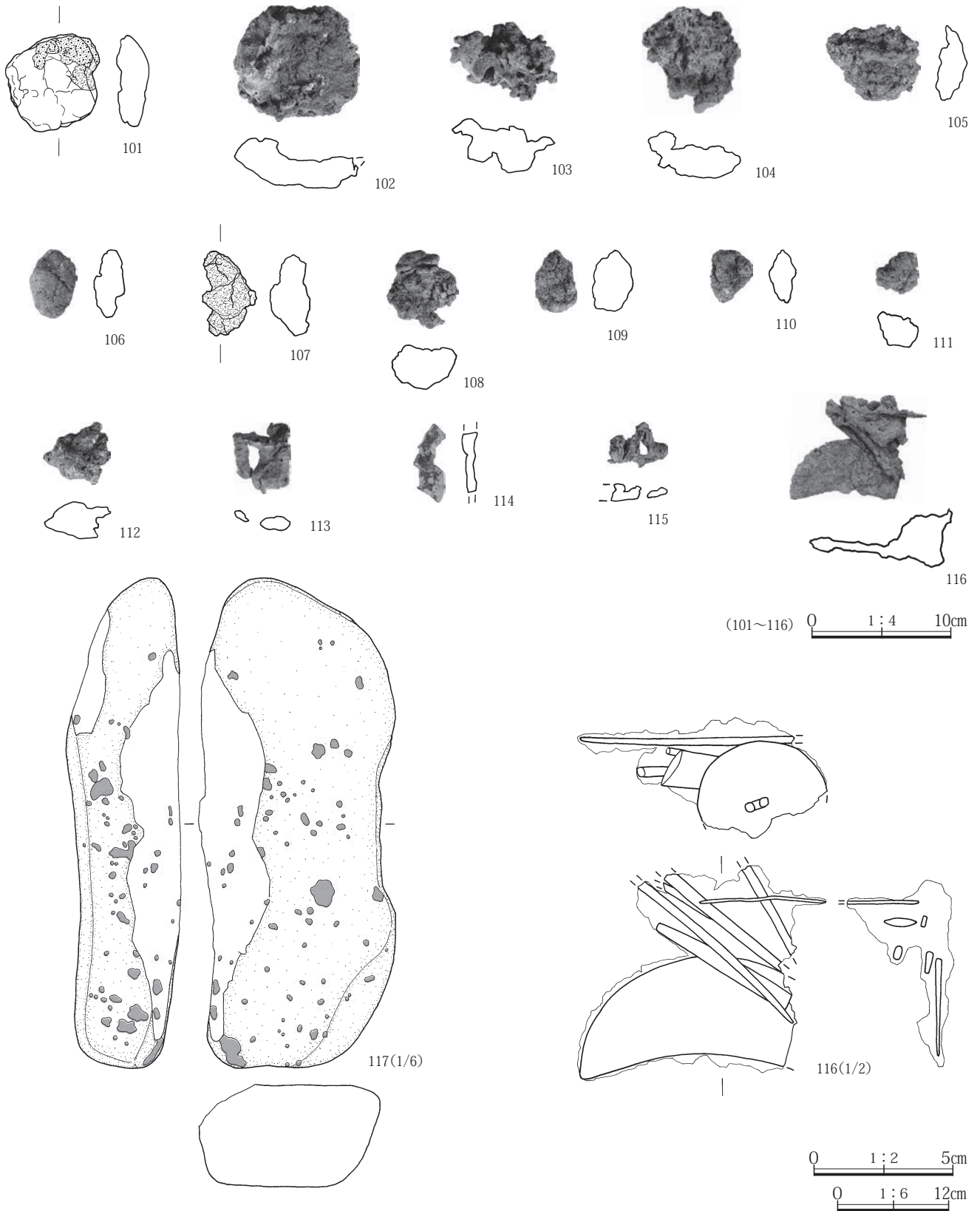


第721図 VI区1号鍛冶の出土遺物(4)



(92~100) 0 1:4 10cm

第722図 VI区1号鍛冶の出土遺物(5)



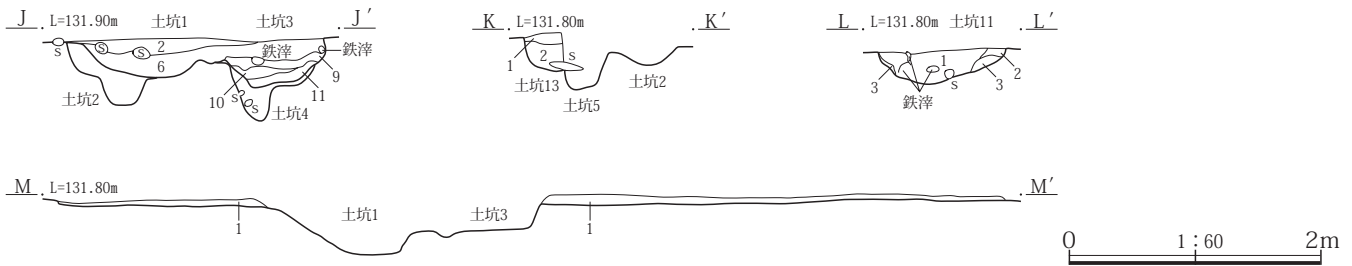
第723図 VI区1号鍛冶の出土遺物(6)

VI区 1号 鍛冶		銅関連	
楕形鍛冶滓(特大)	95 	楕形鍛冶滓(中)	101
	96 		102
	97 	楕形鍛冶滓(小)	103
楕形鍛冶滓(大)	98 	楕形鍛冶滓(極小)	104
	99 		105
	100 (分析資料 No.8)		106
分析	1	鉄塊系遺物	1
		107 (分析資料 No.5)	107
		108 	108
		109 	109
		110 	110
		111 	111
		112 	112
		粘土質溶解物(ガラス化)	113
		小型の流動滓	114
			115
		滓再結合滓(鉄片付き)	116
			117
楕形鍛冶滓(大)	158 	羽口第1グループ(精錬鍛冶か)	1
	159 	(分析資料 No.10)	118
	160 	119 	119
	161 	120 	120
	162 	121 	121
	163 	122 	122
	164 	123 	123
		124 	124
		125 	125
		126 	126
		127 	127
		128 	128
		129 	129
楕形鍛冶滓(小)	143 	羽口第2グループ(精錬鍛冶か)	2
	144 	(分析資料 No.11)	130
		羽口先端部	131
		145 	132
		146 	133
		147 	134
		148 	135
		149 	136
		150 	羽口第3グループ(鍛錬鍛冶か)
		151 	137
		152 	138
		153 	139
		154 	140
		155 	(分析資料 No.12)
		156 	141
		157 	142
羽口		羽口基部	165
			166
			167
微細遺物		VI区流動滓	175
			176
分析	2		

第724図 VI区 1号鍛冶構成図



第725図 VII区1号鍛冶(1)



A-A'

土坑8

- 1 灰黄褐色シルト質土(10YR5/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~5mm大)・炭化粒子(φ 3~10mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色シルト質土(10YR5/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~2mm大)・鉄滓を含む。多量の炭化物を含む。
- 3 灰黄褐色シルト質土(10YR6/2) 上層にFP二次堆積土あり。

B-B' 土坑12

- 1 にぶい黄褐色土(10YR5/3) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~8mm大)・炭化粒子(φ 1~3mm大)を含む。
- 2 にぶい黄褐色土(10YR6/3) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~7mm大)・炭化粒子(φ 1~2mm大)を含む。

D-D' 土坑7

- 1 灰黄褐色土(10YR4/2) 多量の円礫(φ 30~200mm)が上部中央に集中して分布(1層土中に含む)。微量の炭化粒子(φ 1~5mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色土(10YR5/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~5mm大)・小円礫(φ 20~40mm大)を含む。締りやや弱い。
- 3 炭化物の焼土が多い地点。締りやや弱い。
- 4 灰黄褐色土(10YR5/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~2mm大)・炭化粒子(φ 1~3mm大)・焼土粒子(φ 1mm大)を含む。
- 5 にぶい黄褐色シルト質土(10YR7/3) FP泥流。
- 6 灰黄褐色土(10YR4/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒・炭化粒子(φ 1~4mm大)を含む。

F-F' 土坑15

- 1 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~5mm大)・炭化粒子(φ 1~2mm大)、鉄滓を含む。
- 2 浅黄色シルト質土(2.5Y6/3) 微量の炭化粒子(φ 1mm大)を含む。
- 3 にぶい黄褐色シルト質土(10YR6/4) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~2mm大)・炭化粒子(φ 1~3mm大)、鉄滓を含む。

J-J' 土坑1~4

- 2 鉄滓の混じりが多い層 多量の礫(φ 5~30mm大)・鉄滓を含む。
- 6 灰黄褐色土(10YR4/2) 微量の炭化粒(φ 2~20mm大)・鉄滓混じり(φ 2~30mm大)を含む。
- 9 灰黄褐色土(10YR4/2) 微量の小礫(φ 2~20mm大)を含む。
- 10 灰黄褐色土(10YR4/2) フイゴの羽口出土。微量の小礫(φ 5~30mm大)・鉄滓(φ 5~40mm大)を含む。
- 11 灰黄褐色土(10YR4/2) 微量の礫(φ 10~40mm大)・鉄滓(φ 5~10mm大)を含む。

L-L' 土坑11

- 1 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~8mm大)・炭化粒子(φ 1~7mm大)・鉄滓を含む。締り良。
- 2 にぶい黄褐色土(10YR5/4) 少量の炭化物を含む。
- 3 にぶい黄褐色土(10YR6/4) 微量の炭化粒子(φ 1mm大)を含む。

土坑9

- 1 灰黄褐色シルト質土(10YR5/2) 少量の炭化粒子(φ 1~5mm大)・炭化物を含む。上層に多量の炭化物を含む。
- 2 にぶい黄褐色シルト質土(10YR4/3) 榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~5mm大)を含む。
- 3 灰黄褐色シルト質土(10YR5/2) 微量の炭化粒子(φ 1~2mm大)を含む。
- 4 にぶい黄褐色シルト質土(10YR4/3) 榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~5mm大)・炭化粒子(φ 1~3mm大)を含む。

C-C' 土坑16

- 1 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~5mm大)・炭化粒子(φ 1~3mm大)を含む。
- 2 黒褐色シルト質土(10YR3/2) 多量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~2mm大)を含む。鍛造剥片を認められる。締りやや弱。

E-E' 土坑14

- 1 灰黄褐色シルト質土(10YR5/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~10mm大)・炭化物(φ 1~4mm大)・鉄滓を含む。
- 2 にぶい黄褐色シルト質土(10YR6/4) 壁の崩落土。微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~10mm大)を含む。
- 3 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~3mm大)・炭化物(φ 1~2mm大)を含む。
- 4 にぶい黄褐色シルト質土(10YR6/4) 微量の炭化粒子(φ 1~3mm大)・小円礫(φ 30mm大)を含む。

I-I' 土坑1

- 1 鉄滓(再統合鉄滓) 極めて鉄の密度濃い。石(φ 5~50mm大)を混入。
- 2 鉄滓の混じり多い層 多量の礫(φ 5~30mm大)・鉄滓を含む。
- 3 灰黄褐色土(10YR4/2) 微量の炭化粒(φ 2~15mm大)・鉄滓(φ 10~40mm大)を含む。
- 4 灰黄褐色土(10YR4/2) 微量の炭化粒(φ 3~10mm大)を含む。
- 5 灰黄褐色土(10YR4/2) 3層土に比べ、鉄滓を含む量が少ない。炭化粒を含まない。
- 6 灰黄褐色土(10YR4/2) 微量の炭化粒(φ 2~20mm大)・鉄滓混じり(φ 2~30mm大)を含む。
- 7 灰黄褐色土(10YR4/2) 微量の焼土粒(φ 2~3mm大)・炭化粒(φ 2~20mm大)を含む。
- 8 灰黄褐色シルト質土(10YR5/2)中心層

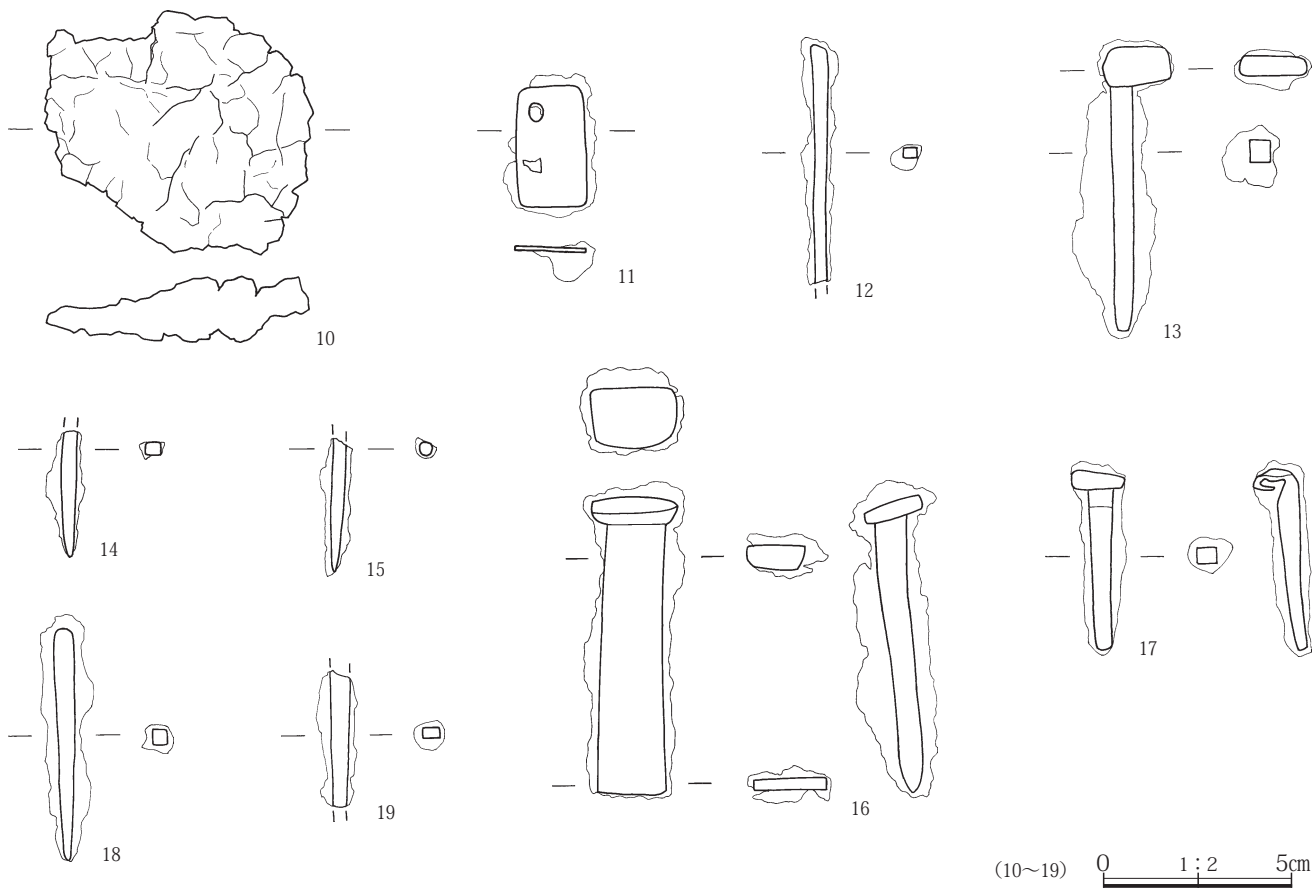
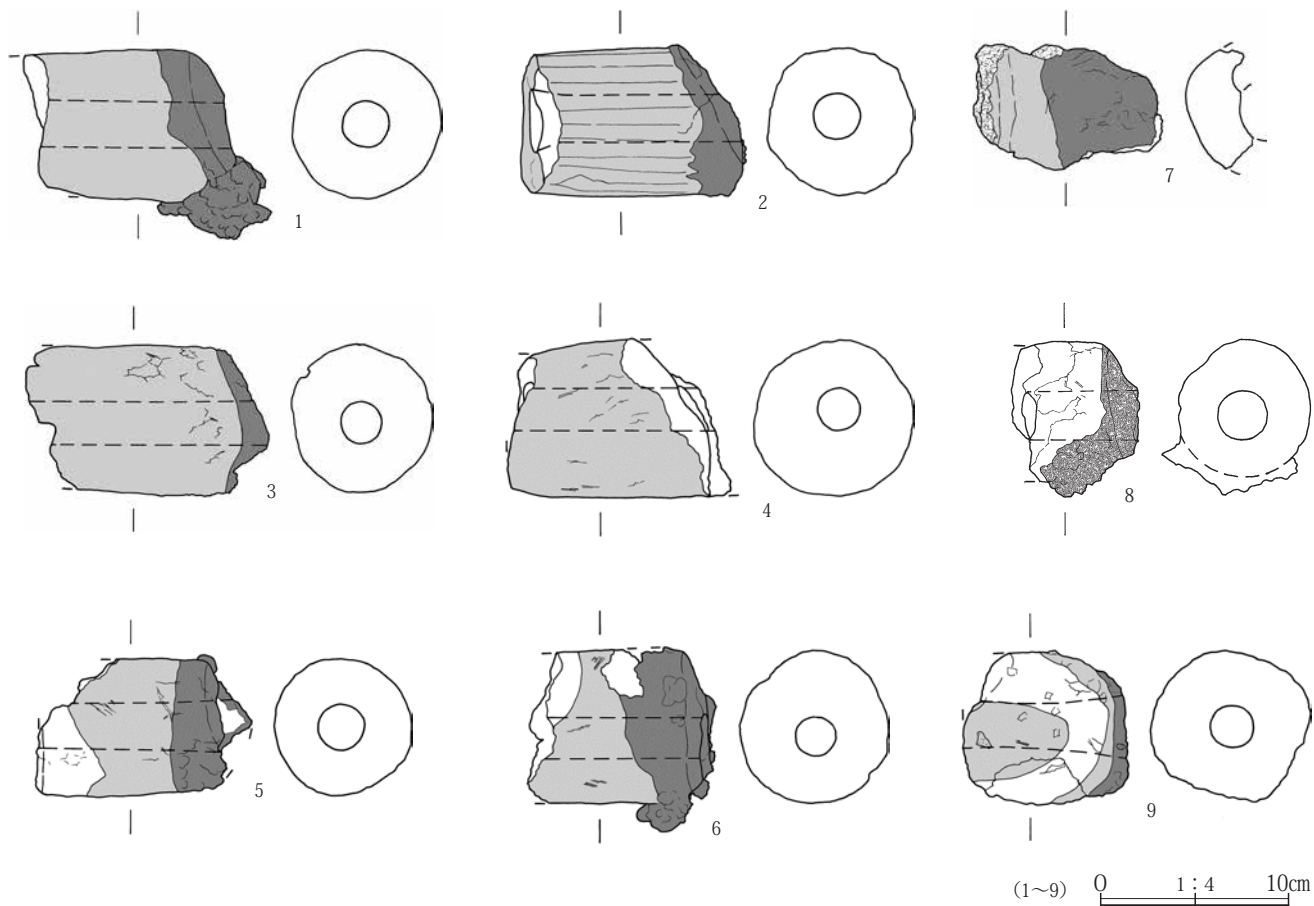
K-K' 土坑13

- 1 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~10mm大)・炭化粒子(φ 1~2mm大)を含む。他に羽口等、微量の鍛造剥片含む。
- 2 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~8mm大)・炭化粒子(φ 1~3mm大)・鉄滓・鍛造剥片?を含む。

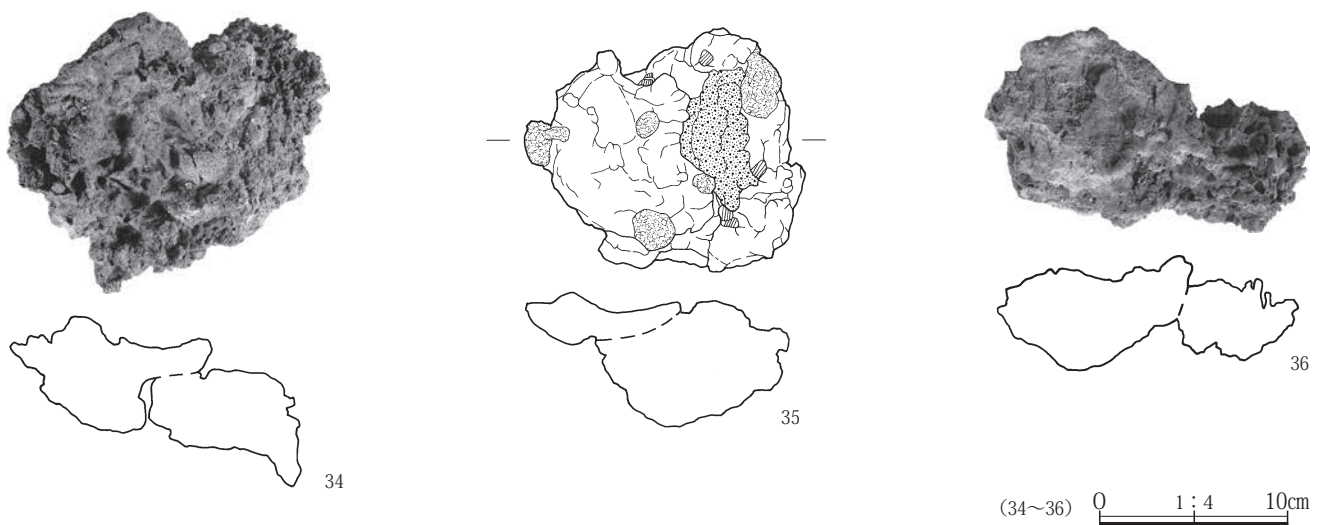
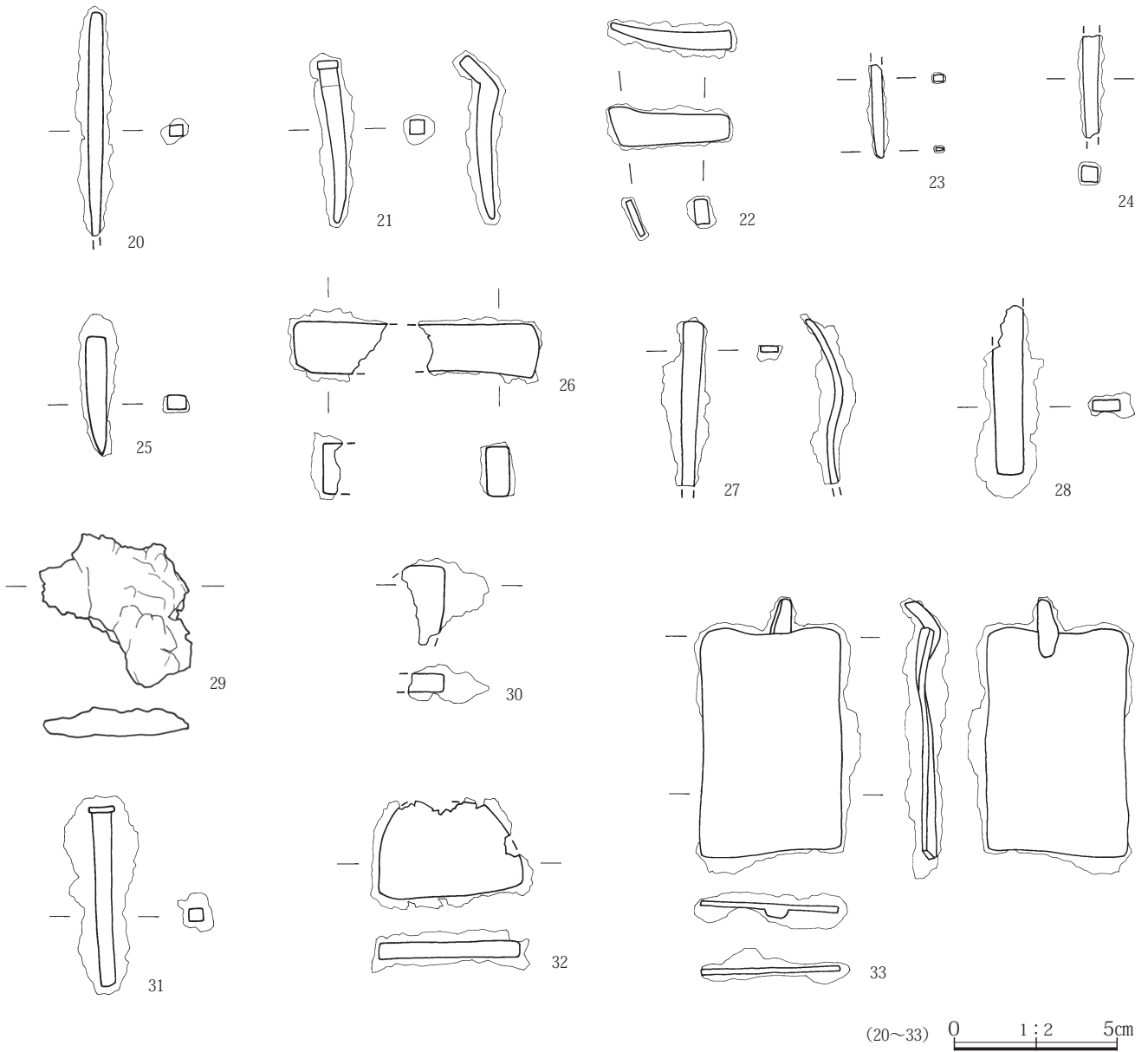
M-M' 土坑1・3

- 1 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ 1~10mm大)・炭化粒子(φ 1~2mm大)を含む。他に羽口等、微量の鍛造剥片を含む。

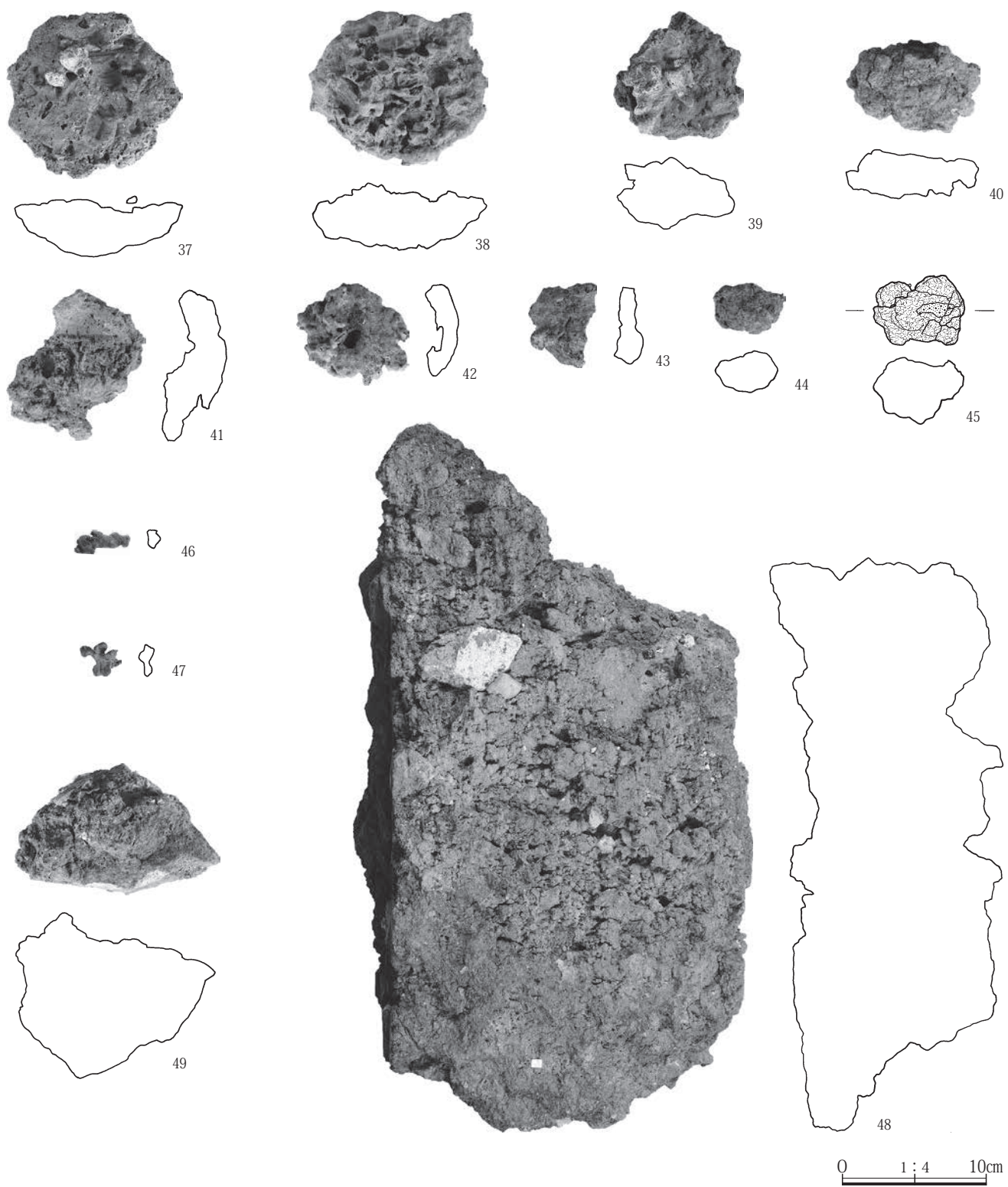
第726図 VII区1号鍛冶(2)



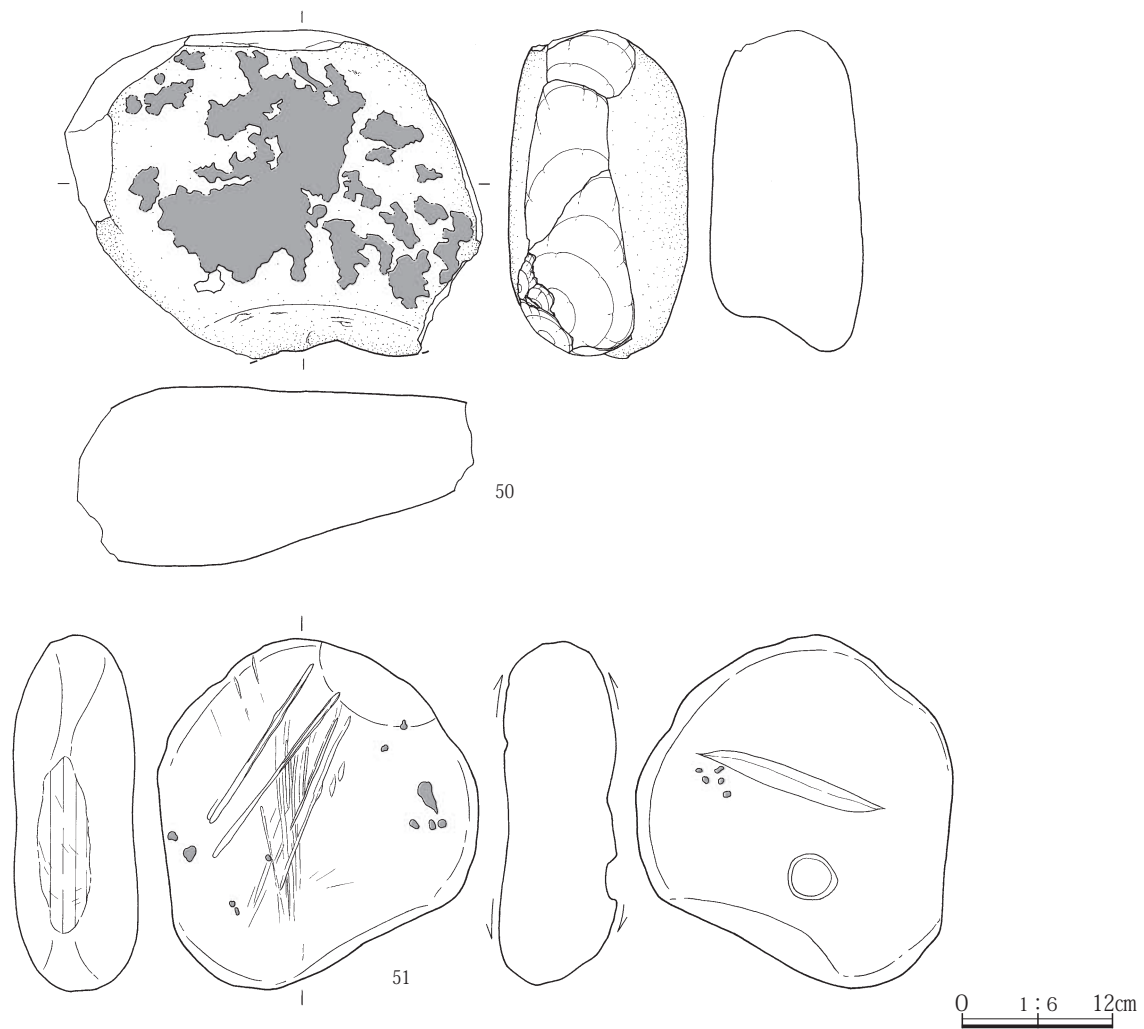
第727図 VII区1号鍛冶の出土遺物(1)



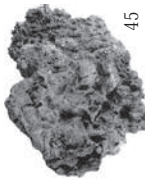
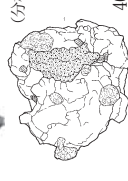
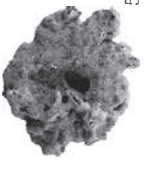
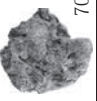
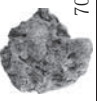
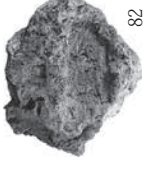







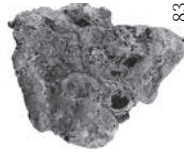



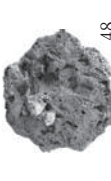







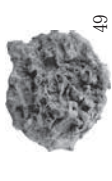







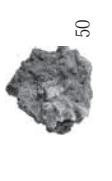












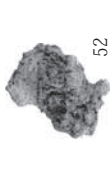




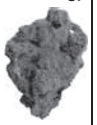
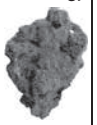
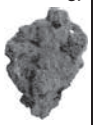




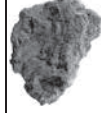
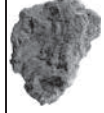
























































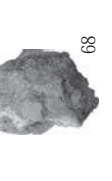
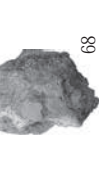




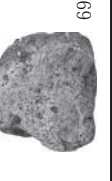
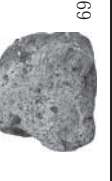








第728図 VII区1号鍛冶の出土遺物(2)



第729図 VII区1号鍛冶の出土遺物(3)



第730図 VII区1号鍛冶の出土遺物(4)

VII区 1号鍛冶		VII区 Bグループ		VII区 18号住居		VII区 29号住居	
楕形鍛冶滓(特大)	楕形鍛冶滓(小)	楕形鍛冶滓(中)	楕形鍛冶滓(中)	楕形鍛冶滓(中)	楕形鍛冶滓(小)	楕形鍛冶滓(小)	楕形鍛冶滓(小)
45  (分析資料 No.5) 46 	53 	70 	70 	82 	87 	87 	87 
楕形鍛冶滓(大)	楕形鍛冶滓(極小)	鉄塊系遺物	鉄塊系遺物	楕形鍛冶滓(小)	羽	羽	羽
47 	54 	71 	71 	83 	88 	88 	88 
楕形鍛冶滓(中)	鉄塊系遺物	流動滓	流動滓	鉄塊系遺物	VII区 Aグループ		楕形鍛冶滓(大)
48 	55 	72 	72 	84 	89 	89 	89 
楕形鍛冶滓(中)	粘土質溶解物	VII区 Cグループ	VII区 Cグループ	粘土質溶解物	楕形鍛冶滓(小)		楕形鍛冶滓(小)
49 	56 	73 	73 	85 	90 	90 	90 
50 	57 	74 	74 	86 	91 	91 	91 
51 	58 	75 	75 	86 	楕形鍛冶滓(極小)	楕形鍛冶滓(極小)	楕形鍛冶滓(極小)
52 	59 	76 	76 	86 	92 	92 	92 
1	60 	77 	77 	86 	羽	羽	羽
分析	1	78 	78 	86 	80 	80 	80 
		79 	79 	86 	81 	81 	81 
		羽	羽	86 	81 	81 	81 
		61 	61 	86 	81 	81 	81 
		62 	62 	86 	81 	81 	81 
		63 	63 	86 	81 	81 	81 
		64 	64 	86 	81 	81 	81 
		65 	65 	86 	81 	81 	81 
		66 	66 	86 	81 	81 	81 
		67 	67 	86 	81 	81 	81 
		68 	68 	86 	81 	81 	81 
		69 	69 	86 	81 	81 	81 
		1	1	86 	81 	81 	81 

第731図 VII区1号鍛冶構成図

辺は0.52m、短辺は0.36m、深さは0.51mである。

土坑5は楕円形を呈し、長径は0.54m、短径は0.49m、深さは0.40mである。

土坑6は歪んだ楕円形を呈し、長径は0.59m、短径は0.38m、深さは0.43mである。

土坑7は歪んだ隅の丸い長方形を呈し、長辺は2.32m、短辺は1.56m、深さは0.48mである。

土坑8は歪んだ長方形を呈し、長辺は1.00m、短辺は0.58m、深さは0.14mである。底面は炭化物が広がる。

土坑9は歪んだ隅の丸い長方形を呈し、長辺は1.48m、短辺は9.20m、深さは0.14mである。底面には炭化物と窪み状に焼土が広がる。

土坑11は歪んだ隅の丸い長方形を呈し、長辺は2.26m、短辺は1.04m、深さは0.26mである。土坑からは鉄滓が13点出土した。

土坑12は楕円形を呈し、長径は0.40m、短径は0.35m、深さは0.31mである。

土坑13は歪んだ円形を呈し、土坑5を切る。長径は0.41m、短径は0.35m、深さは0.19mである。

土坑14は歪んだ円形を呈し、長径は0.43m、短径は0.38m、深さは0.25mである。

土坑15は歪んだ楕円形を呈し、長径は0.68m、短径は0.40m、深さは0.22mである。

土坑埋土 ニツ岳の白色軽石を含み炭化物やにぶい黄褐色砂質土ブロックを含む灰黄褐色砂質土が傾きながら成層し、土坑を埋める。

遺物 土器や羽口などの土製品、鉄製品や石製品などの遺物、鉄滓や礫など約700点が出土した。礫は垂円～垂角礫からなり長径は0.20～0.35mである。1号鍛冶からは羽口(1～9)、鉄製品(10～33)、鉄滓(34～49)金床石(50)、砥石(51)が出土した。

時代 1号鍛冶を構成する遺物包含層は10世紀前半の住居を覆うことから10世紀後半以降と考えられる。

3. XIII区

1号鍛冶(第732～734図、PL.384・448)

グリッド 13-2区M1

形状と規模 7号住居の埋土を切って存在する窪みと4号住居の埋土上位から出土した遺物の広がりをもつ1号鍛冶と呼ぶ。窪みは隅の丸い方形を呈し、長辺は0.69m、短

辺は0.57m、深さは0.13mである。4号住居上位から検出された遺物は、窪みの西側で南北2.70m、東西3.00mの広がりを持ち、その分布は4号住居の範囲内に収まる。

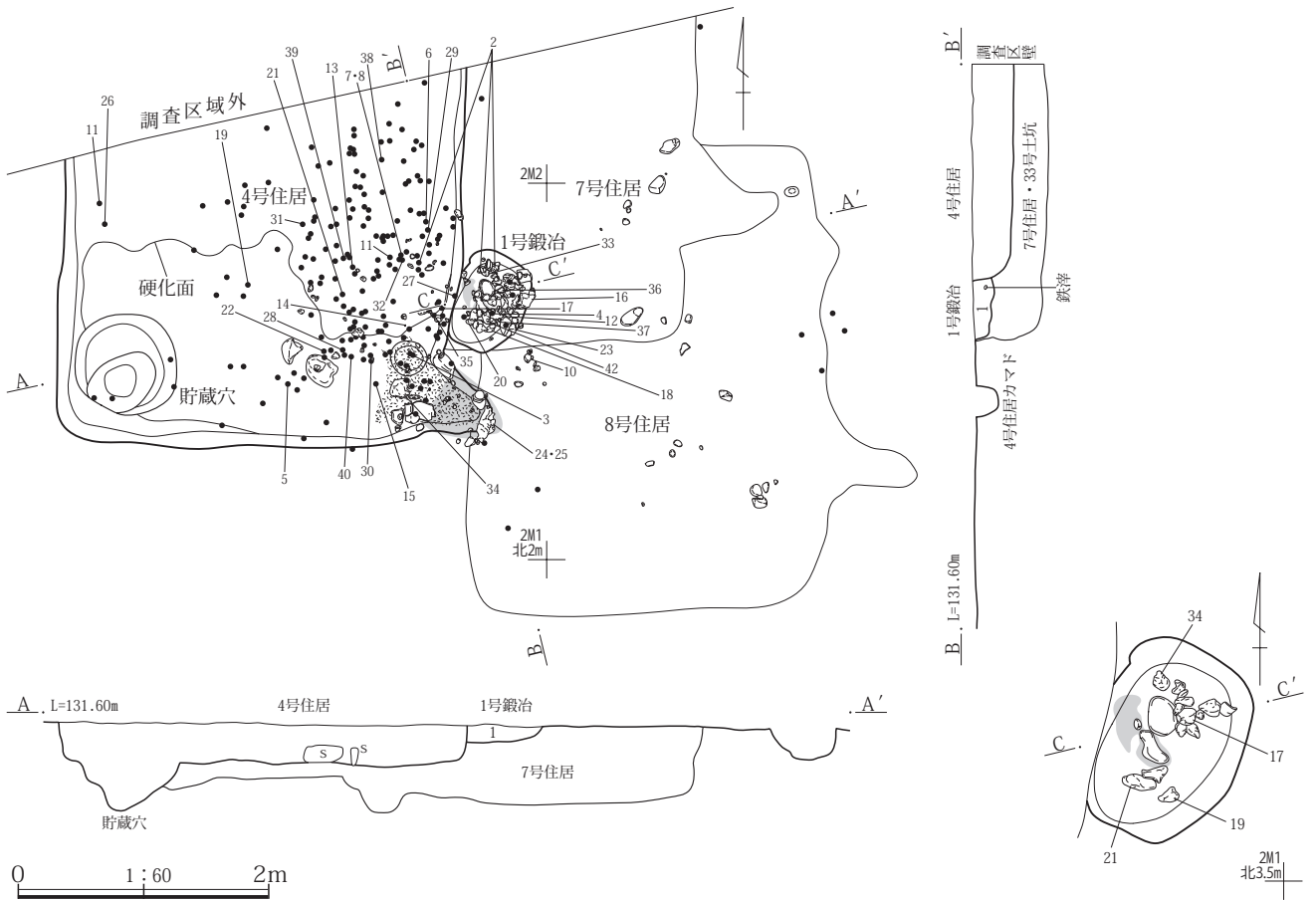
重複 窪みは4号住居に切られ、7・8号住居埋土を切る。4号住居の上位で検出された遺物を含む層の下底と4号住居埋土に明瞭な境界は認められない。このことから窪み周辺の遺物群は4号住居埋土の上位から検出され、住居埋土を覆うというより埋土の上部を構成するものと考えられる。

埋土 窪みをうめる埋土は、炭化物や焼土ブロックを多く含む暗灰色土である。

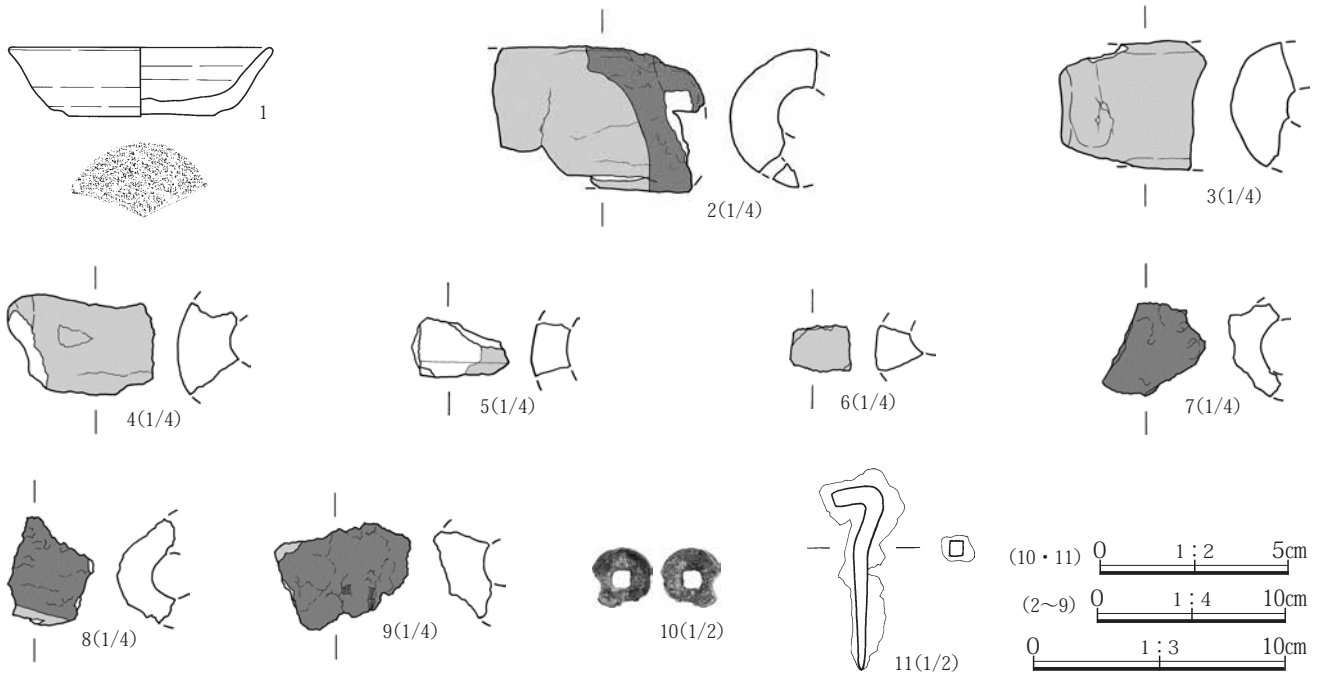
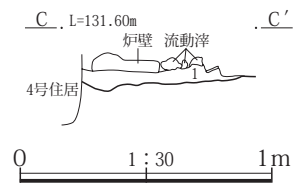
遺物 窪みと4号住居の埋土上位からは、須恵器の杯(1)、銅銭(10)、鉄製品(11)、土製品の送風管(2～9)、炉壁(12～24)、炉底塊(25・26)、鉄滓(27～42)、礫など約300点が出土した。炉底塊は4号住居カマドの煙道壁から出土し、煙道の構築材として使用された可能性が極めて高い。礫は垂円～垂角礫からなり長径は0.05～0.30mである。

時代 窪みは10世紀前半の7号住居を切り、10世紀後半の4号住居に切られることから、平安時代10世紀中頃と考えられる。

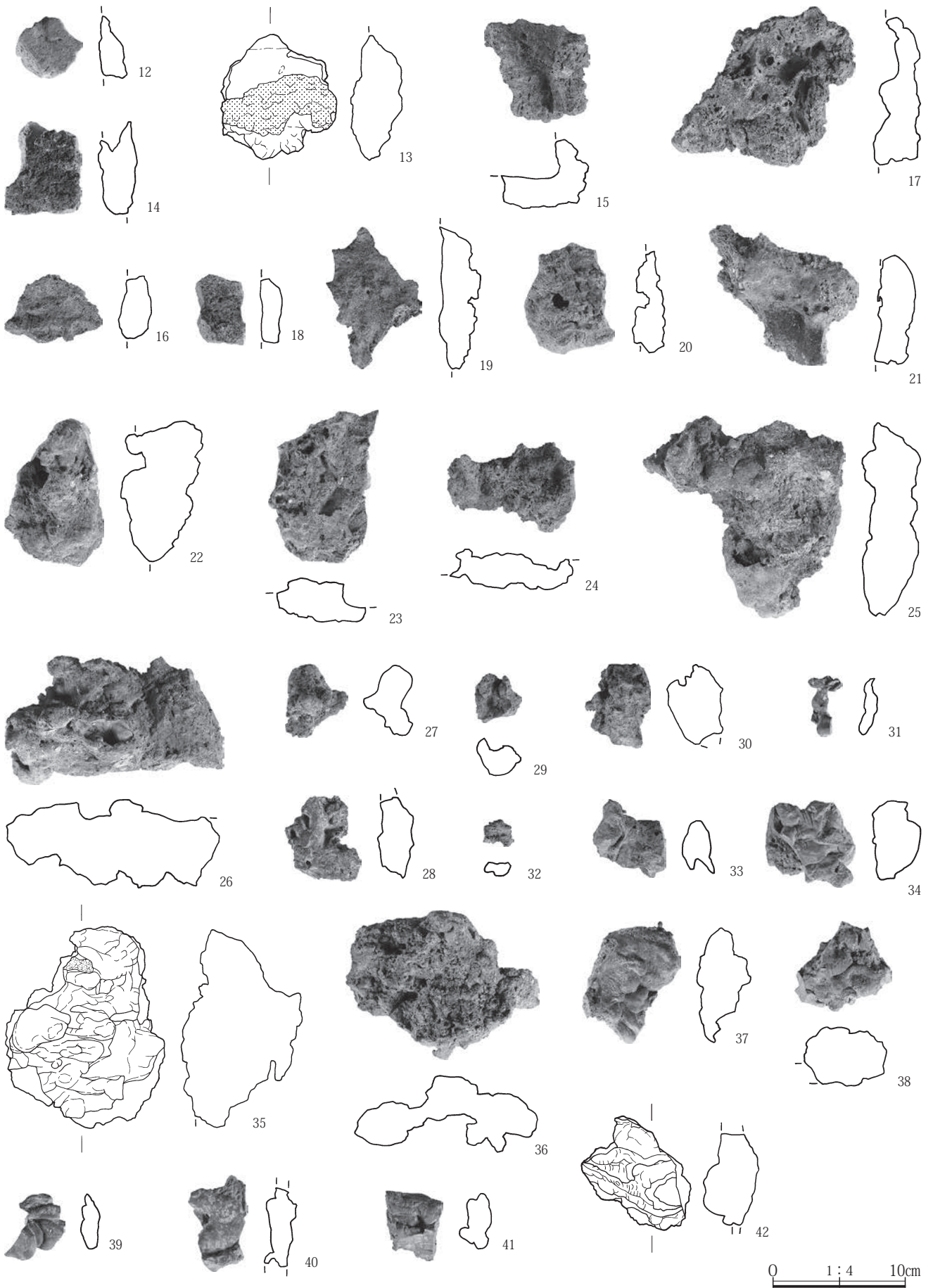
所見 1号鍛冶から出土した遺物群からは、炉壁、炉底、土製の送風管が出土しており、これらは平安時代の製鉄炉を構成する遺物である。7号住居を切る窪みは、炭化物や焼土ブロックを多く含み、上位から鉄滓が出土した。窪みの底部を構成する埋土は炭化物を含む還元帯、その上位にブロック化した焼土帯が成層する可能性もあるが、鉄滓や礫が上位から乱雑に多く出土しており、焼土帯が窪みを覆って検出されなかったため、窪みは製鉄炉の炉底と断定できる証拠が十分に得られなかった。これらは製鉄炉から廃棄された土壌や部材が窪み状の土坑底に堆積し、検出された可能性が指摘される。また出土した炉底は4号住居のカマド構築材として転用されており、遺構の構築順は7号住居・製鉄炉の廃棄土坑または製鉄炉・4号住居の順番になると考えられる。4号住居の上位から検出された遺物は、4号住居埋土から出土したと考えられる。遺物が住居の東半分に遍在して出土するのは住居構築時に破壊した遺物の供給源が4号住居東側の周堤などに保存され、住居の廃棄によって東側から供給された土壌とともに住居内に堆積したものと考えられる。



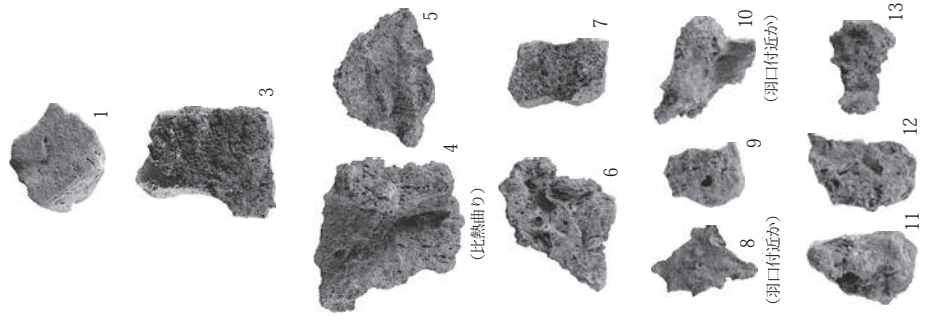



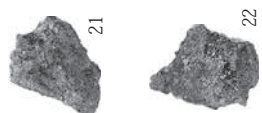
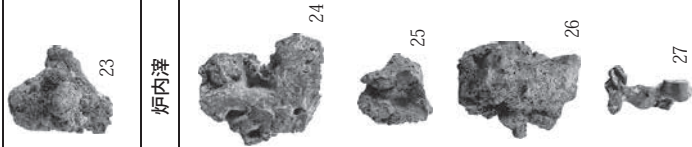



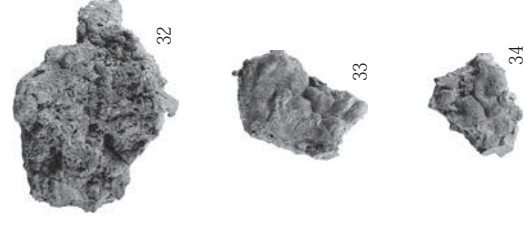



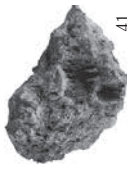

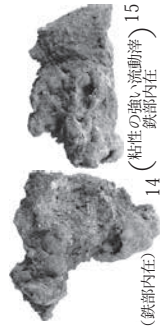
1 黒褐色土(10YR3/2) 炭化物・焼土ブロックと微量の榛名ニツ岳白色軽石を含む。縮り強。



第732図 XII区1号鍛冶と出土遺物



第733図 XII区1号鍛冶の出土遺物

XII区 1号鍛冶		XII区			
炉壁	 <p>1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13</p> <p>(比熱曲り) (羽口付近か) (羽口付近か)</p>	<p>製鉄炉 送風管</p>  <p>16</p> <p>製鉄炉 送風管基部</p>  <p>17 18</p> <p>製鉄炉 送風管体部</p>  <p>20</p> <p>製鉄炉 送風管先端部</p>  <p>21 22</p>	<p>炉内滓含鉄</p>  <p>23 24 25 26 27</p> <p>マグネタイト系遺物</p>  <p>28</p> <p>流出孔滓</p>  <p>29</p> <p>流出溝滓</p>  <p>30</p>	<p>粘性の強い流動滓</p>  <p>32 33 34</p> <p>流動性の強い流動滓</p>  <p>36 37 38 (分析資料 No.4)</p>	<p>炉壁</p>  <p>39</p> <p>送風管</p>  <p>40</p> <p>炉内滓</p>  <p>41</p> <p>流動滓</p>  <p>42 43 44</p>
上段上半					
上段下半					
中段上半					
中段下半					
下段上半					
下段下半					
炉底付近	<p>炉底塊</p>  <p>14 15</p> <p>(鉄部内任) (粘性の強い流動滓) (鉄部内任)</p>				
分析	1	1	2	—	

第734図 XII区 1号鍛冶構成図

第8節 集石

1. V区

1号集石(第735図)

グリッド 13-13区 I 3

形状と規模 長径0.14~0.33mの垂円礫が面的に多く出土し、コの字形を呈する。長径は1.30m、短径は0.70m、面積は0.66㎡である。

長軸方位 N55° E

重複 なし。

埋土 VII層を起源とする土壌から検出された。

遺物 なし。

所見 周辺の10mの範囲から、2~4号集石が検出されており、一連の遺構群と考えられる。1・2号集石は1.50mの距離で接する。発掘調査では不明遺構とし、建物の礎石など根石の可能性が指摘されたが、柱列を示すような規則性に乏しい。

2号集石(第735図)

グリッド 13-13区 I 2

形状と規模 長径0.06~0.20mの垂円礫が面的に多く出土し、楕円形を呈する。長径は0.60m、短径は0.50m、面積は0.30㎡である。

長軸方位 N60° E

重複 なし。

埋土 VII層を起源とする土壌から検出された。

遺物 なし。

所見 周辺の10mの範囲から、1・3・4号集石が検出されており、一連の遺構群と考えられる。1・2号集石は1.50mの距離で接する。発掘調査では不明遺構とし、建物の礎石など根石の可能性が指摘されたが、柱列を示すような規則性に乏しい。

3号集石(第735図)

グリッド 13-13区 I 1

形状と規模 長径0.10~0.28mの円~垂円礫が9点出土し、ハの字形を呈する。長径は0.80m、短径は0.60m、面積は0.33㎡である。

長軸方位 E W

重複 なし。

埋土 VII層を起源とする土壌から検出された。

遺物 なし。

所見 周辺の10mの範囲から、2~4号集石が検出されており、一連の遺構群と考えられる。発掘調査では不明遺構とし、建物の礎石など根石の可能性が指摘されたが、柱列を示すような規則性に乏しい。

4号集石(第735図)

グリッド 13-13区 K 1

形状と規模 長径0.08~0.22m、最大径0.44mの円~垂円礫が多く出土し、大きな円礫を囲んで半月形を呈する。長径は1.35m、短径は1.00m、面積は1.00㎡である。

長軸方位 N15° E

重複 なし。

埋土 VII層を起源とする土壌から検出された。

遺物 なし。

所見 周辺の10mの範囲から、1~3号集石が検出されており、一連の遺構群と考えられる。4号集石は他の集石とやや離れて位置する。大きな扁平礫が礎石で小さな礫がそれを取り巻く根石のように観察されるが、このような形態の集石は単独で存在する。発掘調査では不明遺構とし、建物の礎石などの可能性が指摘されたが、柱列を示すような規則性に乏しい。

2. VI区

1号集石(第736図)

グリッド 13-3区 G 9

形状と規模 長径0.12~0.22m、最大径0.58mの円~垂円礫が多く出土し、大きな円礫と円形を呈する窪みに礫を検出した。長径は0.84m、短径は0.63m、深さは0.28mである。

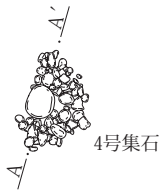
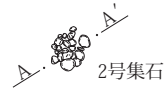
長軸方位 N31° E

重複 18号溝を切る。

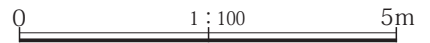
埋土 二ツ岳の白色軽石を含む灰黄褐色砂質土からなる。

遺物 なし。

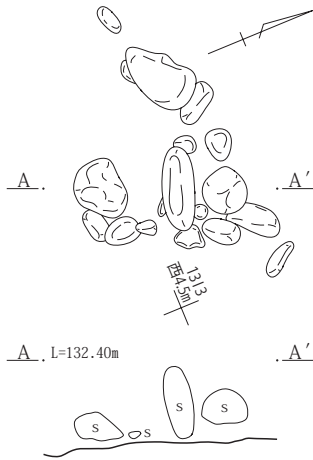
所見 周辺の15mの範囲から、N29° Wの方向に2~3号集石が検出されており、一連の遺構群と考えられる。大きな円礫は、窪みを埋めた小さな礫の上位に埋められ



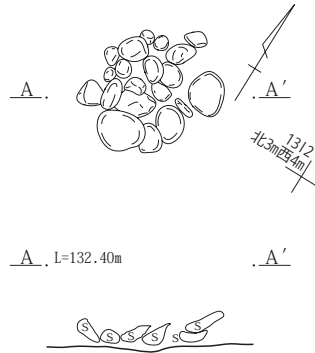
1311
北1m西2m



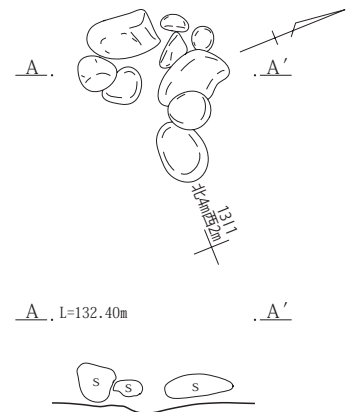
1号集石



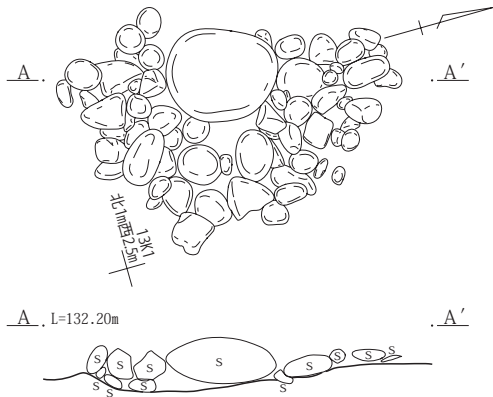
2号集石



3号集石



4号集石



第735図 V区1～4号集石

ている。発掘調査では不明遺構とし、柵などの可能性が指摘されたが、柱間を示すような規則性に乏しい。

2号集石(第736図)

グリッド 13-3区F9

形状と規模 長径0.10~0.22mの円~垂円礫が多く出土し、歪んだ円形の窪みに礫を検出した。長径は0.63m、短径は0.58m、深さは0.22mである。

長軸方位 N67°E

重複 18号溝を切る。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

遺物 なし。

所見 周辺の15mの範囲から、N29°Wの方向に1・3・4号集石が検出されており、一連の遺構群と考えられる。発掘調査では不明遺構とし、柵などの可能性が指摘されたが、柱間を示すような規則性に乏しい。

3号集石(第736図)

グリッド 13-3区F8

形状と規模 長径0.08~0.20mの垂円礫が多く出土し、歪んだ楕円形を呈する。長径は0.92m、短径は0.86mである。

長軸方位 N14°W

重複 27号住居を切る。

遺物 なし。

所見 周辺の15mの範囲から、N29°Wの方向に1・2・4号集石が検出されており、一連の遺構群と考えられるが、3号集石はやや離れて位置する。発掘調査では不明遺構とし、柵などの可能性が指摘されたが、柱間を示すような規則性に乏しい。

4号集石(第736図)

グリッド 13-3区E7

形状と規模 長径0.06~0.20m、最大径0.41mの円~垂円礫が多く出土し、楕円形を呈する。長径は0.77m、短径は0.65mである。

長軸方位 N20°W

重複 44号住居を切る。

遺物 なし。

所見 周辺の15mの範囲から、N29°Wの方向に1~3号集石が検出されており、一連の遺構群と考えられる。

発掘調査では不明遺構とし、柵などの可能性が指摘されたが、柱間を示すような規則性に乏しい。

3. XII区

1号集石(第737図、PL.385・448)

グリッド 13-2区K・L2

形状と規模 北西~南北に長軸を有する隅丸長方形の浅い窪みから径0.04~0.15mの垂角~垂円礫が多く出土した。窪みの北部は調査区外に存在し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.92m、短辺は1.64m、深さは0.03mである。

長軸方位 N50°W

重複 なし。

埋土 ニツ岳の白色軽石を含む暗褐~黒褐色土からなる。

遺物 埋土から粗粒輝石安山岩の石製品(1)が出土した。

所見 周辺の遺構検出面から、XII層に帰属する0.05~0.30m大の垂円礫がXII層中に散在している。これらは地層中に密集せずに散在しており、明らかに1号集石の礫の出土状況とは異なっている。1号集石は、土坑に分類されるほど明瞭な遺構に埋積されていない。このことから遺構は畠などの耕作によって掘削された礫を集めて、浅い窪みに埋積したものである可能性が高い。

第9節 墓坑

1. VI区

1号墓坑(第738図、PL.386)

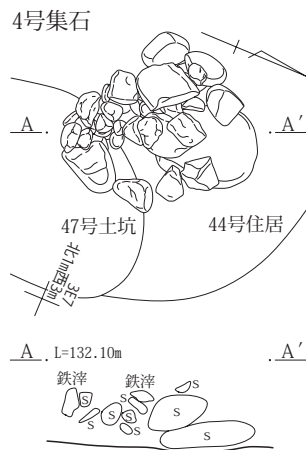
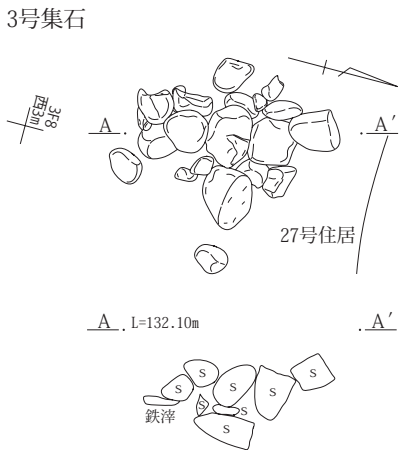
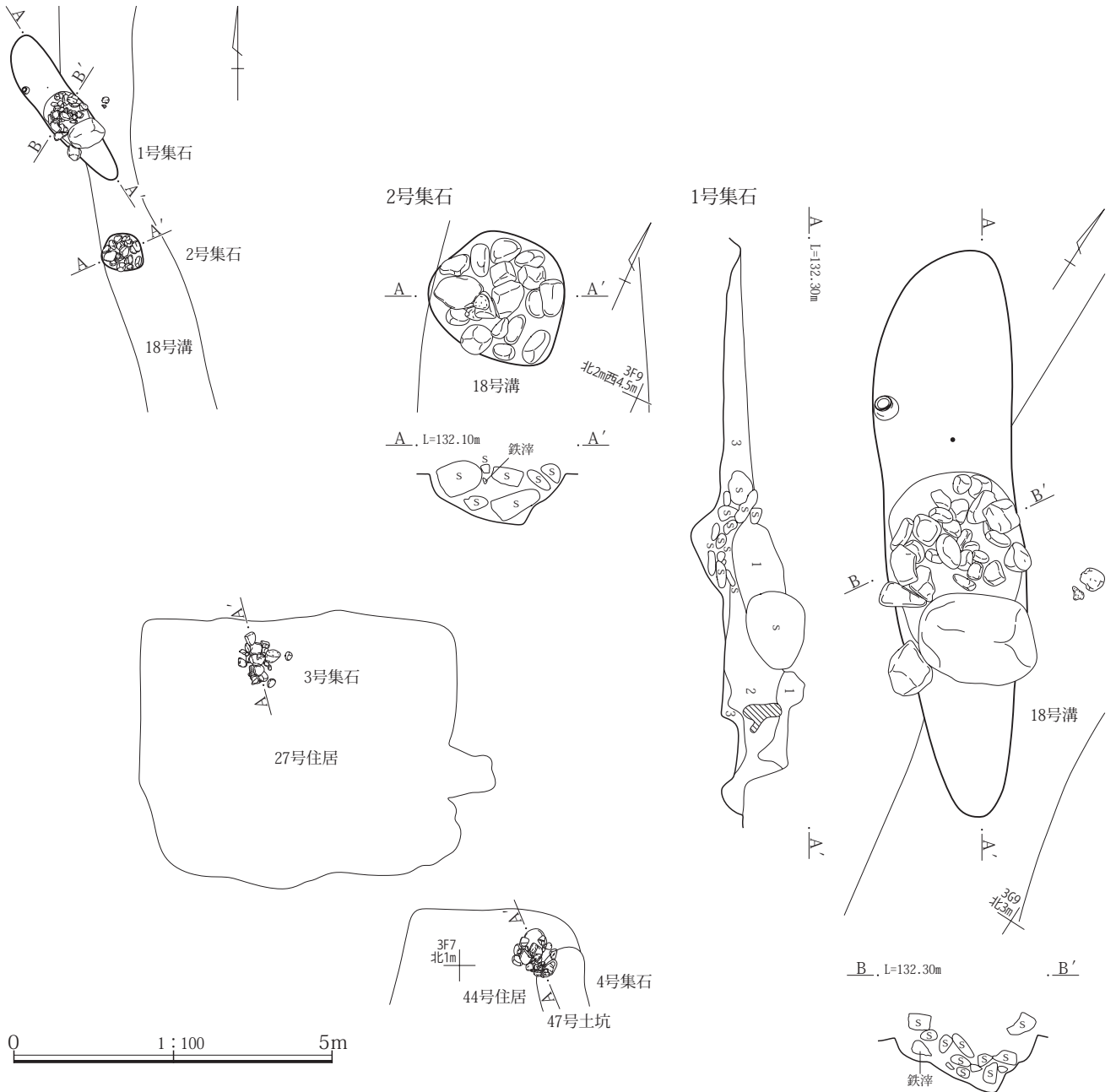
グリッド 13-3区J10

形状と規模 南北に長軸を有す歪んだ楕円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は2.04m、短径は1.10m、深さは0.26mである。ウマ1個体の動物遺存体が土坑の底面から出土した。ウマの骨格は頭部を北に、尾を南にして出土し、四肢は東に背を向けて西に横たわっている。前肢の中手骨と後肢の中足骨は、前肢部で平行に重なり合う。このような出土状態からウマは、四肢を前肢部で縛って運搬・埋葬された可能性がある。

長軸方位 N2°W

重複 なし。16・17号住居に近接する。

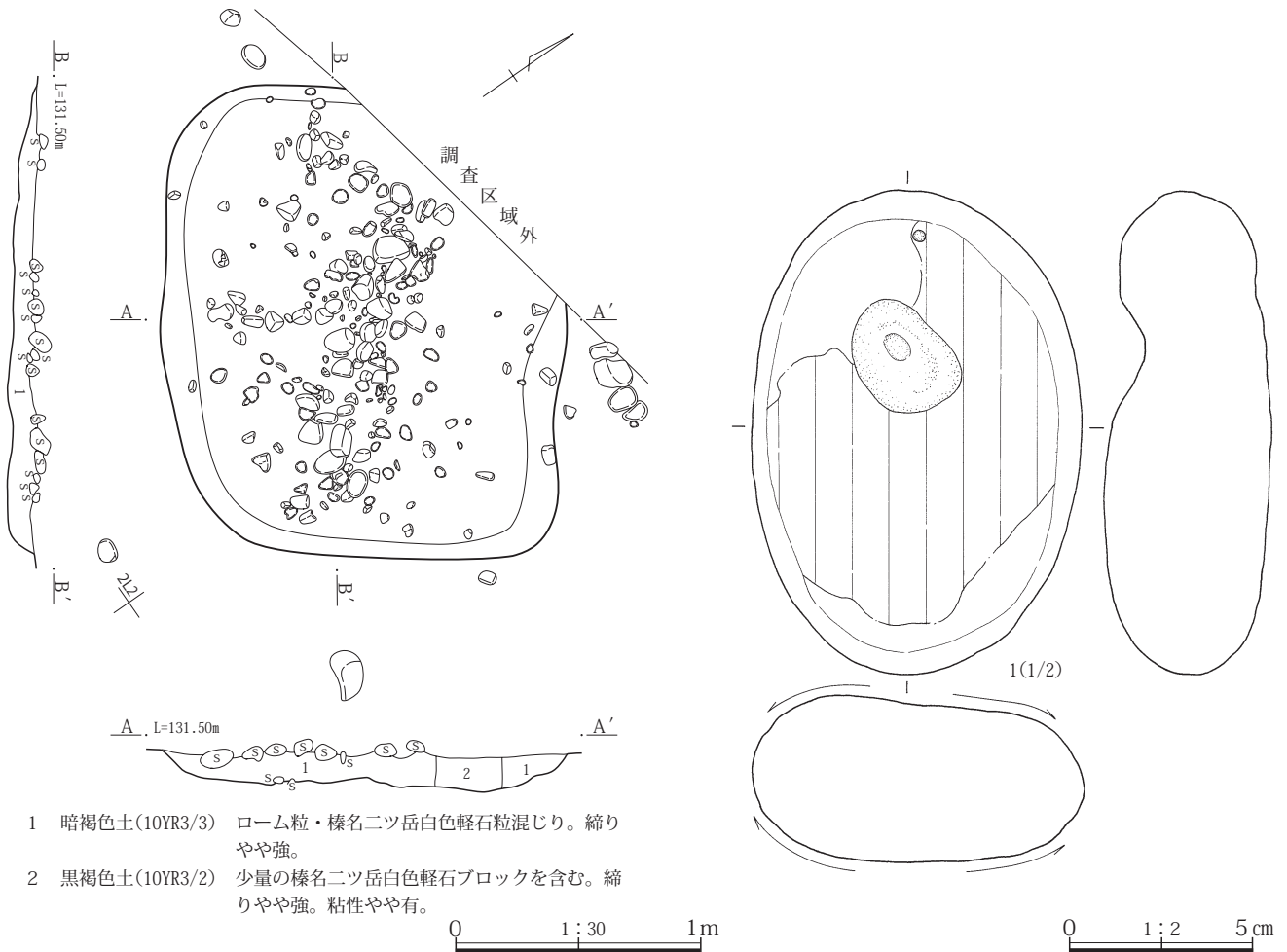
埋土 灰黄褐色砂質土からなり、明るい火山灰質の色調からなる土はVII層を起源とする埋土の可能性が高い。



- 1 明赤褐色砂質土 2層土の鉄分酸化凝固。(5YR5/8)
- 2 灰黄褐色砂質土 少量の榛名ニツ岳白色軽石・にぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ 5~15mm大)を含む。
- 3 灰黄褐色砂質土 多量のにぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ 5~15mm大)を含む。



第736図 VI区 1~4号集石



第737図 XII区1号集石と出土遺物

遺物 なし。

所見 周辺の土坑の埋土の状況などから、中世から近世に属する可能性がある。

2. VII区

1号墓坑(第738図、PL.386・449)

グリッド 13-3区C12

形状と規模 隅丸方形を呈し、ドーナツ状の溝からなる特異な形状の土坑である、調査では16号住居として記録されたが墓坑に変更した。溝の断面形状は浅い皿形を呈する。長径は3.30m、短径は2.95m、溝の深さは0.34mである。

長軸方位 N15°E

重複 なし。

埋土 炭化物を含む黒褐色土からなる。

遺物 底0.15m上から小型甕(1)が出土した。

年代 遺物から10世紀代と考えられる。

3. X区

55号土坑(第738図、PL.387)

グリッド 13-13区G5

形状と規模 南西～北東方向に長軸を有す楕円形を呈し、ドーナツ状の溝からなる特異な形状の土坑である。溝の断面形状は箱形～半月形を呈する。長径は3.35m、短径は2.91m、溝の深さは0.42mである。

長軸方位 N35°W

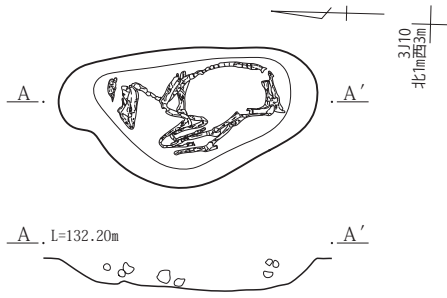
重複 44・49号土坑に切られる。19号住居を切る。

埋土 ニツ岳の白色軽石と炭化物を含む暗褐色土からなり、長径0.05～0.60mの垂円～円礫を多く含み、一部の礫の表面は赤褐色の焼土化を受けている。溝の下底にはにぶい黄褐色土が底を覆うように堆積する。

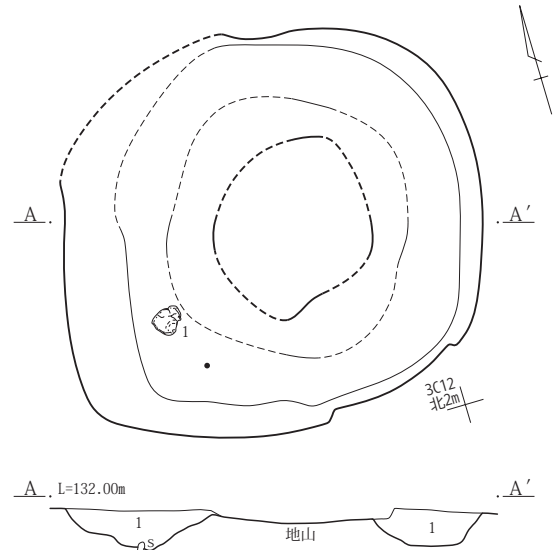
遺物 埋土から黒色土器の椀(2)が出土した。

年代 10世紀前半に帰属する19号住居よりも新しく、埋土に浅間Bテフラを含まないため10世紀後半～11世紀と考えられる。

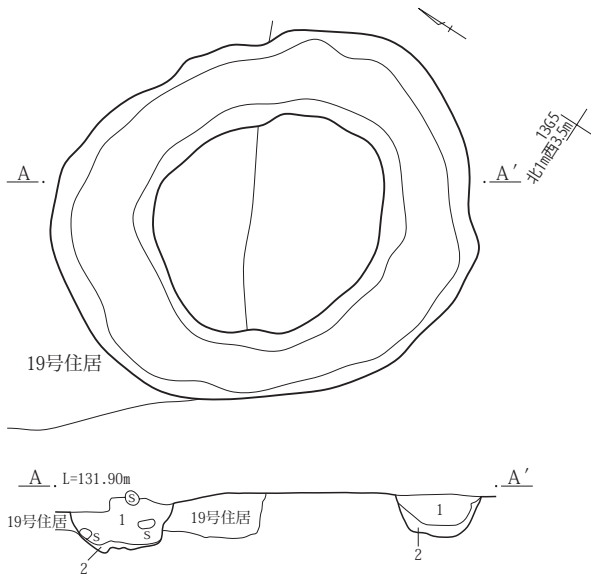
VI区1号墓坑



VII区1号墓坑

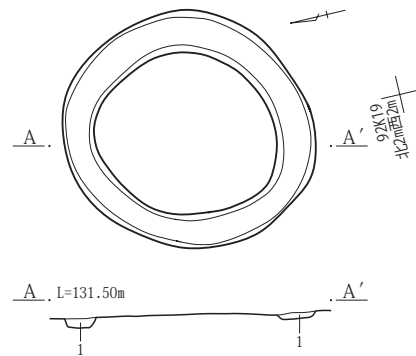


X区55号土坑



- 1 暗褐色土(10YR3/3) 榛名二ツ岳白色軽石と少量の炭化物小ブロックを含む。締り強。粘性やや有。
- 2 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 1層土と黄褐色土の混土。微量の軽石を含む。締り強。粘性やや有。

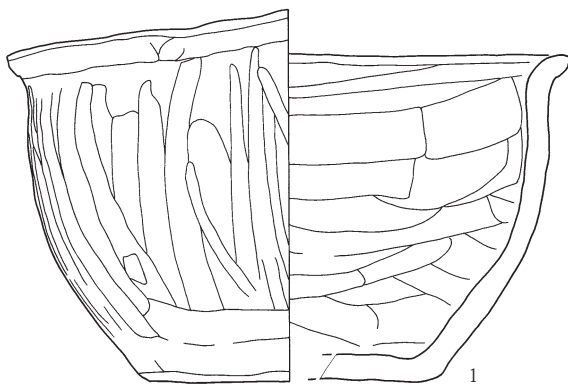
XII区52号土坑



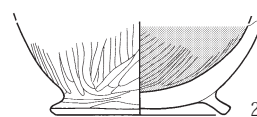
- 1 暗褐色土(10YR3/3) 少量のローム粒子を含む。締りやや強。粘性やや有。

0 1:60 2m

VI区1号墓坑



X区55号土坑



0 1:3 10cm

第738図 VI区1号墓坑・VII区1号墓坑・X区55号土坑・XII区52号土坑とVII区1号墓坑・X区55号土坑の出土遺物

所見 VII区1号墓坑、XII区の52号土坑とともに円形の周溝を有する溝からなり、調査時に土坑として分類されたため、それを踏襲した。西側に隣接する田口下田尻遺跡の調査区でも同様の遺構が346号土坑として検出されており、本遺跡で4基の検出例となっている。同様の遺構は前橋・高崎台地とその周辺の遺跡で検出されており、これらは鳥羽遺跡のB332号土坑、日高遺跡の52号土坑、徳丸仲田遺跡1区1号塚、二之宮宮下遺跡6号墓などで、特に鳥羽遺跡と徳丸仲田遺跡の土坑及び346号土坑は長径が3m前後を呈し55号土坑の規模と同様である。これらの遺構からは平安時代後半の遺物が出土しており、溝の埋土に炭化物や焼土を伴うことから古代の茶毘所と想定されている。

4. XII区

52号土坑(第738図、PL.387)

グリッド 12-92区K19

形状と規模 円形を呈し、ドーナツ状の溝からなる特異な形状の土坑である。溝の断面形状は浅い皿形を呈する。長径は2.00m、短径は1.90m、溝の深さは0.16mである。

長軸方位 N13° E

重複 73号土坑を切る。

埋土 暗褐色土からなる。

遺物 なし。

年代 埋土に浅間Bテフラを含まないため11世紀以前の古代と考えられる。

第10節 畠・耕作痕

1. V区

1号耕作痕(第739図)

グリッド 13-13区O1

区画の規模 調査区の南西部に連なる東西方向の耕作痕群である。区画の長さは9.20m、幅は2.30m、面積は11.83㎡である。

規模 耕作痕の形状は半月形で幅は0.22m、深さ0.12mである。

走行方位 N60° E

埋土 暗褐色土である。

遺物 なし。

所見 古代の集落遺構の検出面で認められた耕作痕群で奈良～平安時代の遺構群よりも新しい。

2号耕作痕(第739図)

グリッド 13-13区P19

区画の規模 調査区の南西部に連なる東西方向の耕作痕群である。区画の長さは5.20m、幅は4.30m、面積は11.83㎡である。

規模 耕作痕の形状は半月形で幅は0.22m、深さ0.15mである。

走行方位 N55° E

埋土 暗褐色土である。

遺物 なし。

所見 古代の集落遺構の検出面で認められた耕作痕群で奈良～平安時代の遺構群よりも新しい。

3号耕作痕(第739図)

グリッド 13-13区O17

区画の規模 調査区の南西部に連なる東西方向の耕作痕群である。区画の長さは10.60m、幅は1.90m、面積は11.65㎡である。

規模 耕作痕の形状は半月形で幅は0.20m、深さ0.04mである。

走行方位 N85° E

埋土 暗褐色土である。

遺物 なし。

所見 古代の集落遺構の検出面で認められた耕作痕群で奈良～平安時代の遺構群よりも新しい。

2. VI区

1号畠(第740図)

グリッド 13-3区I9

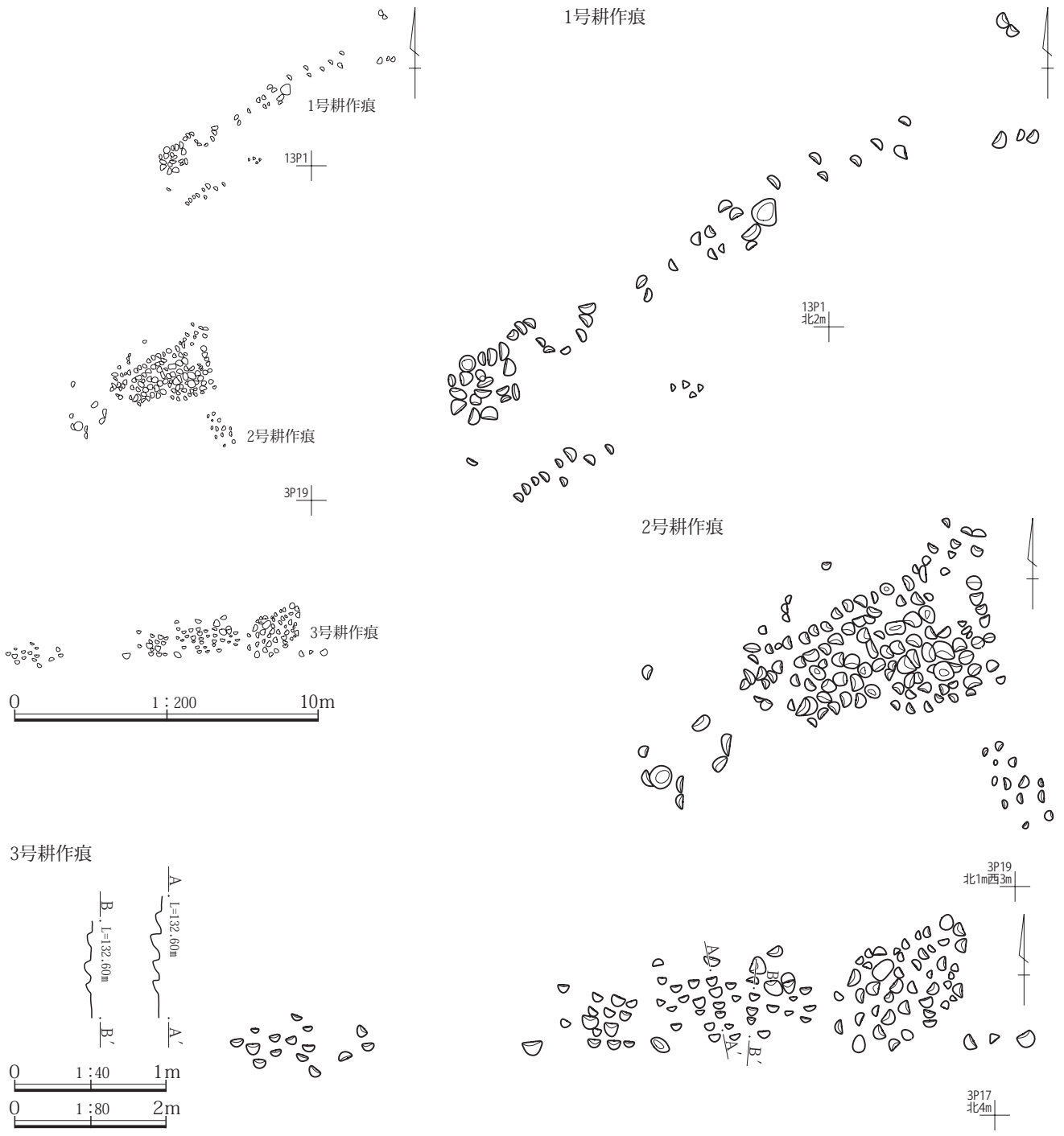
区画の規模 調査区中央の南部に連なる東西方向の溝状遺構群である。区画の長さは6.80m、幅は2.90mである。

規模 溝は幅0.32m、深さ0.04～0.13mで6条であり、2条に切れ目がある。

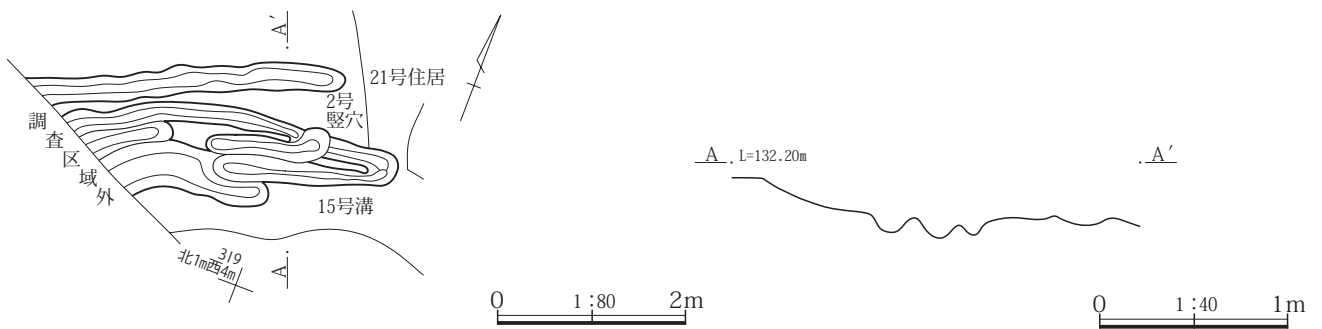
走行方位 N70° E

遺物 なし。

所見 古代の集落遺構の検出面で認められた畠の畝に伴う溝状遺構で奈良～平安時代の遺構群よりも新しい。



第739図 V区1～3号耕作痕



第740図 VI区1号冢

第11節 遺構外から出土した遺物

1. V区(第741・742図、PL.449)

本節で述べるのは調査区ごとの遺構以外から出土した遺物で、住居や竪穴、土坑に分類されない不定形の窪みなどから出土している遺物などである。

V区は2面から遺物が出土し、土師器の杯(1・2)、須恵器の皿(3)、杯(4～13)、椀(14～16)、灰釉陶器の皿(17・18)や椀(19・20)、緑釉陶器の椀(21・22)、須恵器の甕(23)、土錘(24～27)、土製紡錘車(28)、鉄釘(29～33)、刀子(34～36)、鉄鎌(37)が出土した。出土した遺物はおおむね古代の時期に属するものと考えられる。

2. VI区(第743・744図、PL.450)

VI区は2面から遺物が出土し、土師器の杯(1)、須恵器の杯(2・3)や椀(4～6)、灰釉陶器の椀(7・8)、壺(9)、須恵器の壺(10)、土師器の甕(11・12)、土錘(13～19)古瀬戸陶器(20)や在地系土器の鉢(21・22)、鉄釘(23)、石臼(29)が出土した。出土した遺物はおおむね古代～中世の時期に属するものと考えられる。

3. VII区(第745～748図、PL.450・451)

VII区は2面を主体とし調査区一括の遺物も含まれる。弥生土器の壺(1・2)や土師器の杯(3・4)、須恵器の杯(5～9・11～20)、椀(21～28)、灰釉陶器の皿(29～32)、椀(33～40)、土師器の甕(41)、須恵器の甕(42)、羽釜(43・44)、かわらけ(10)、鉄鉢(45)、蹄鉄(47)、鉄釘(48)、銅製の丸軀(46)、土製羽口(53・54)、石鎌(55)が出土した。出土した遺物はおおむね古代～中世の時期に属するものと考えられ、弥生土器はや弥生時代後期に帰属する。

4. VIII区(第749・750図、PL.451)

VIII区は2面を主体とし調査区一括の遺物も含まれる。須恵器の椀(1)、緑釉陶器の椀(2)、皿(3)、須恵器の羽釜(4)、土錘(5)、肥前陶器(6)、益子陶器(7)、鉄釘(8～12)、鉄鎌(13)が出土した。出土した遺物は古代～近現代の時期に属するものと考えられる。

5. IX区(第751図、PL.451)

IX区は2面を主体とし、1面出土の遺物も含まれる。黒色土器の椀(1)、須恵器の杯(2)、椀(3～5)、灰釉陶器の皿(6)、椀(7～9)、須恵器の壺(10)、土師器の甕(11)、鉄釘(12)、鉄鎌(13)、鉄製紡錘車(14)が出土した。出土した遺物はおおむね古代の時期に属するものと考えられる。

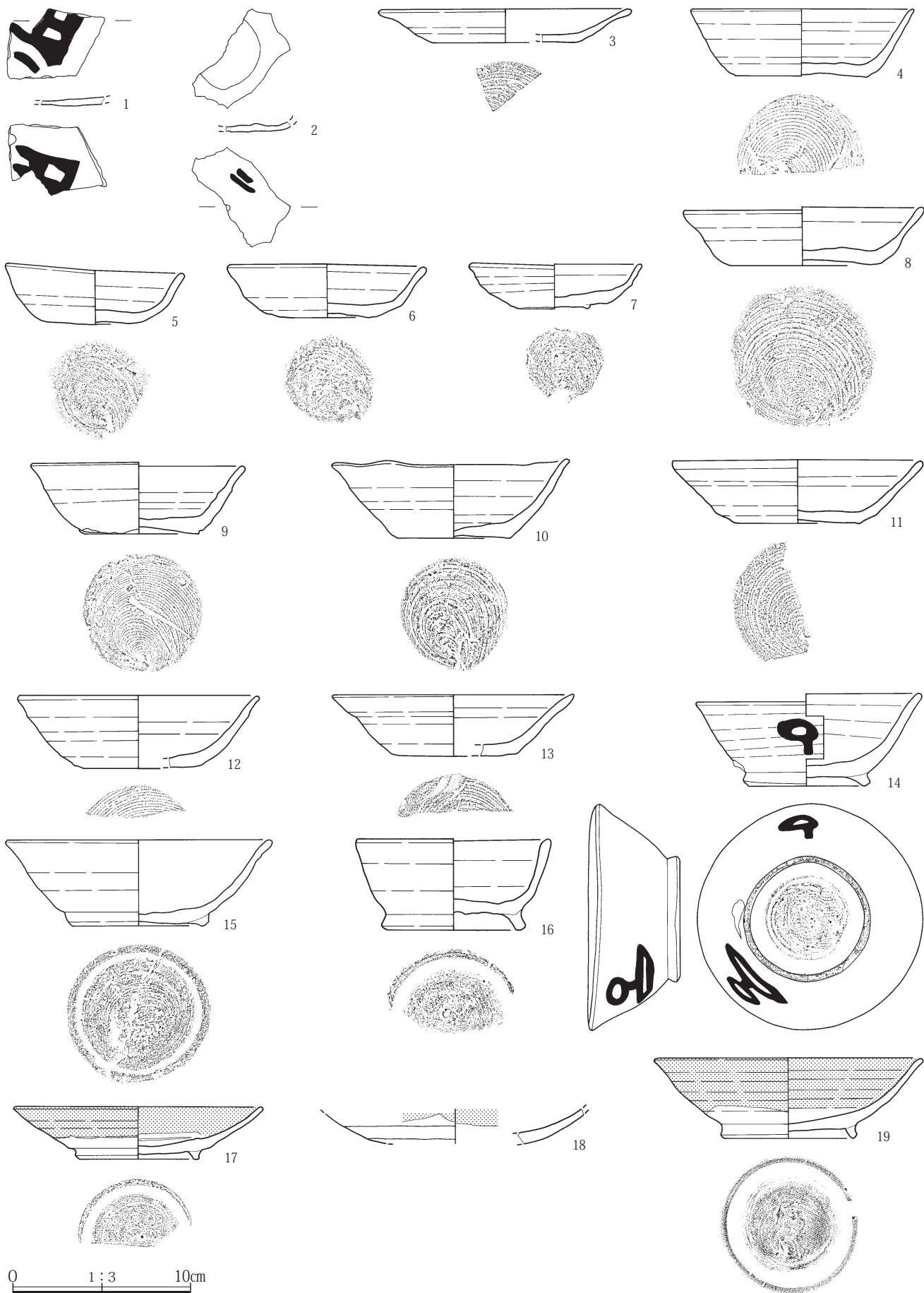
6. X区(第752図、PL.452)

X区は1・2面から出土した遺物からなる。土師器の杯(1)、灰釉陶器の椀(2)、緑釉陶器の皿(3)、土師器の甕(4)、須恵器の羽釜(5・6)、鉄釘(7～9)が出土した。出土した遺物はおおむね古代の時期に属するものと考えられる。

7. XII区(第753図、PL.452)

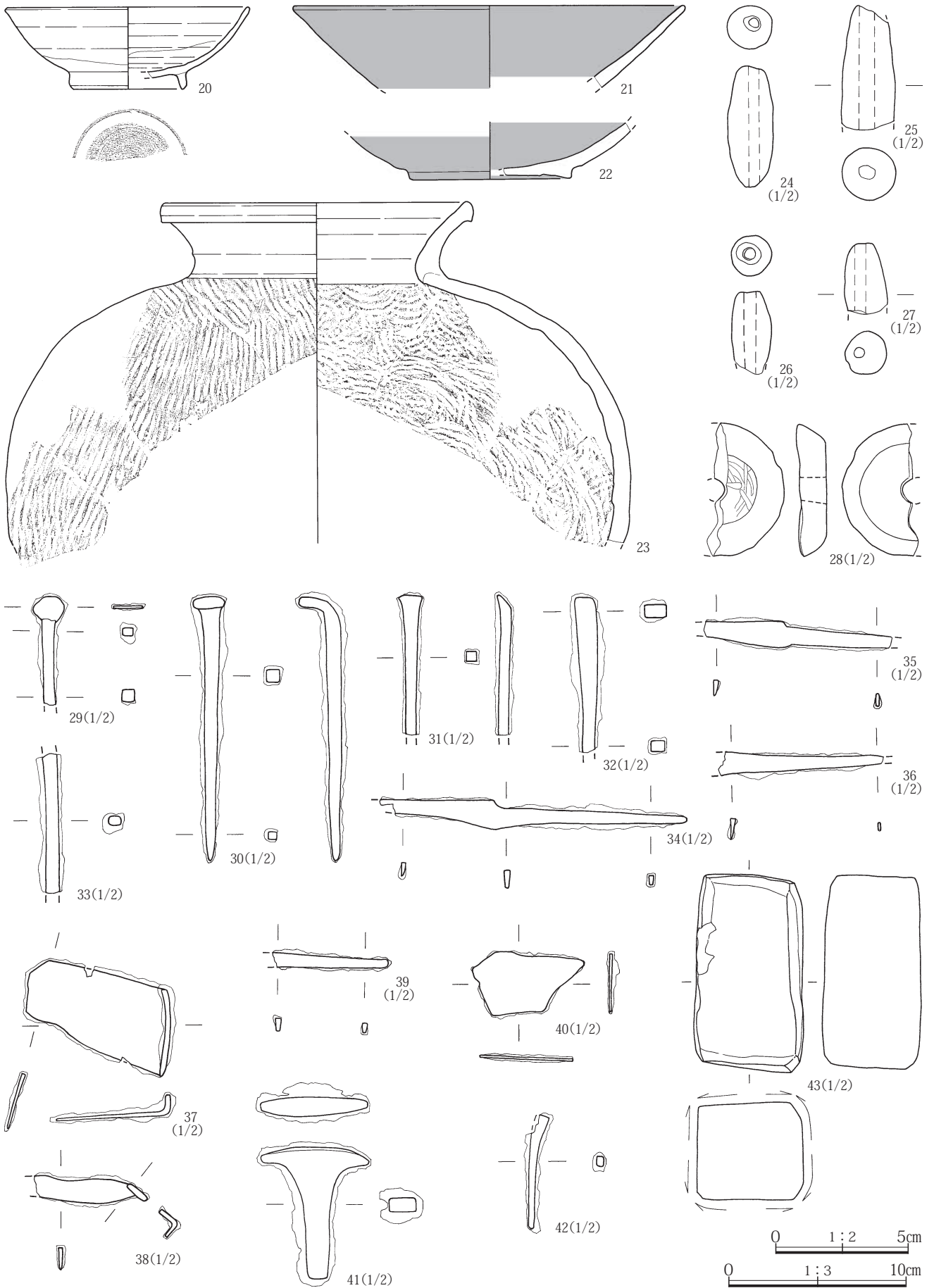
XII区は2面を主体とし調査区一括の遺物も含まれる。須恵器の杯(1・2)、灰釉陶器の椀(3)、土錘(4・5)、京・信楽系陶器の碗(6)、鉄釘(7)が出土した。出土した遺物はおおむね古代の時期に属し、江戸時代の陶器が含まれる。

なお、報告書の本文や図に記載しなかった出土遺物は遺構別に巻末の第17表に掲載した。

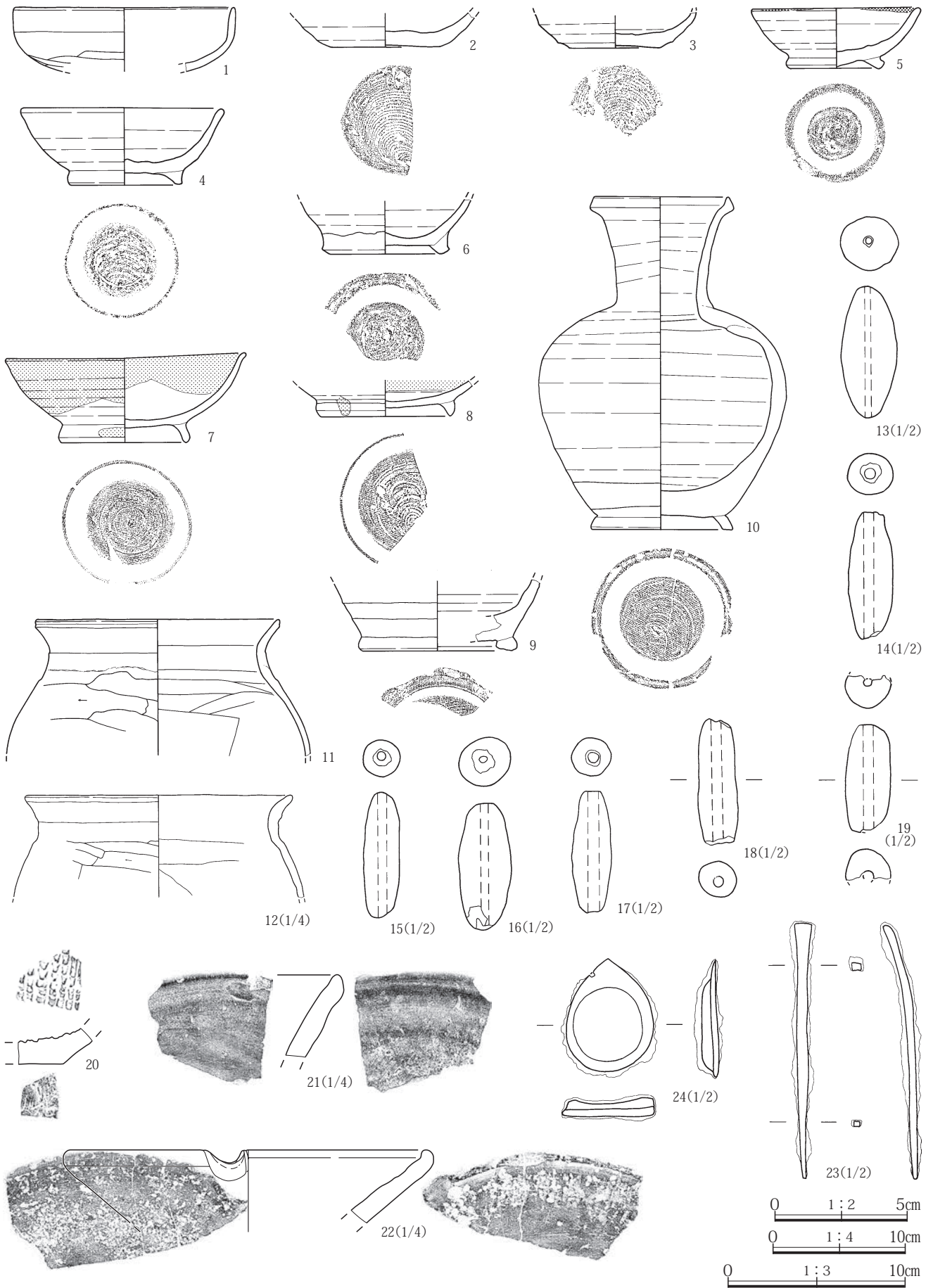


第741図 V区遺構外の出土遺物(1)

第11節 遺構外から出土した遺物

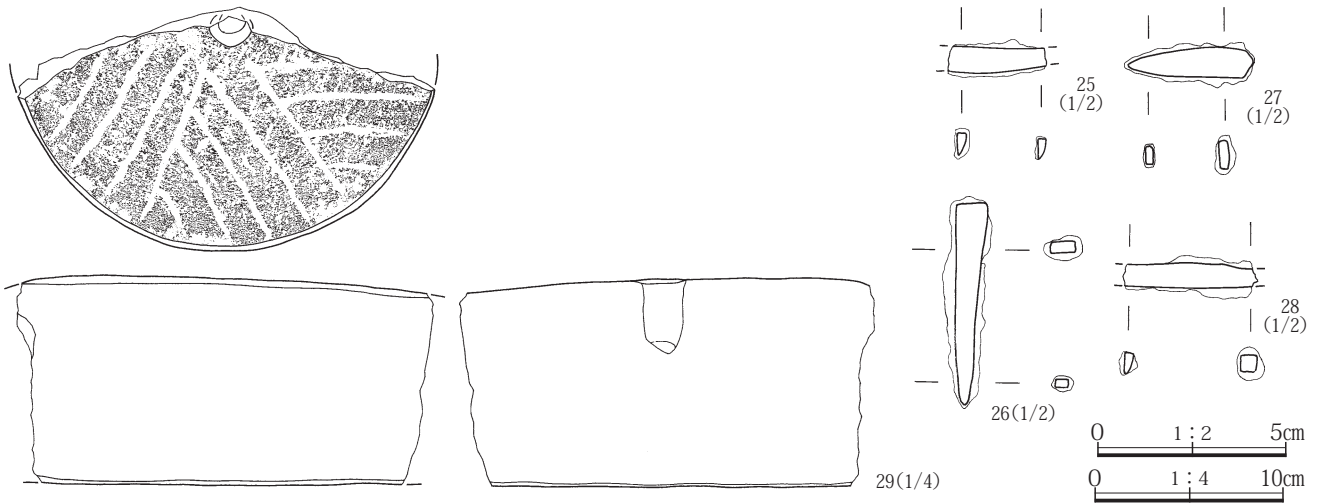


第742図 V区遺構外の出土遺物(2)

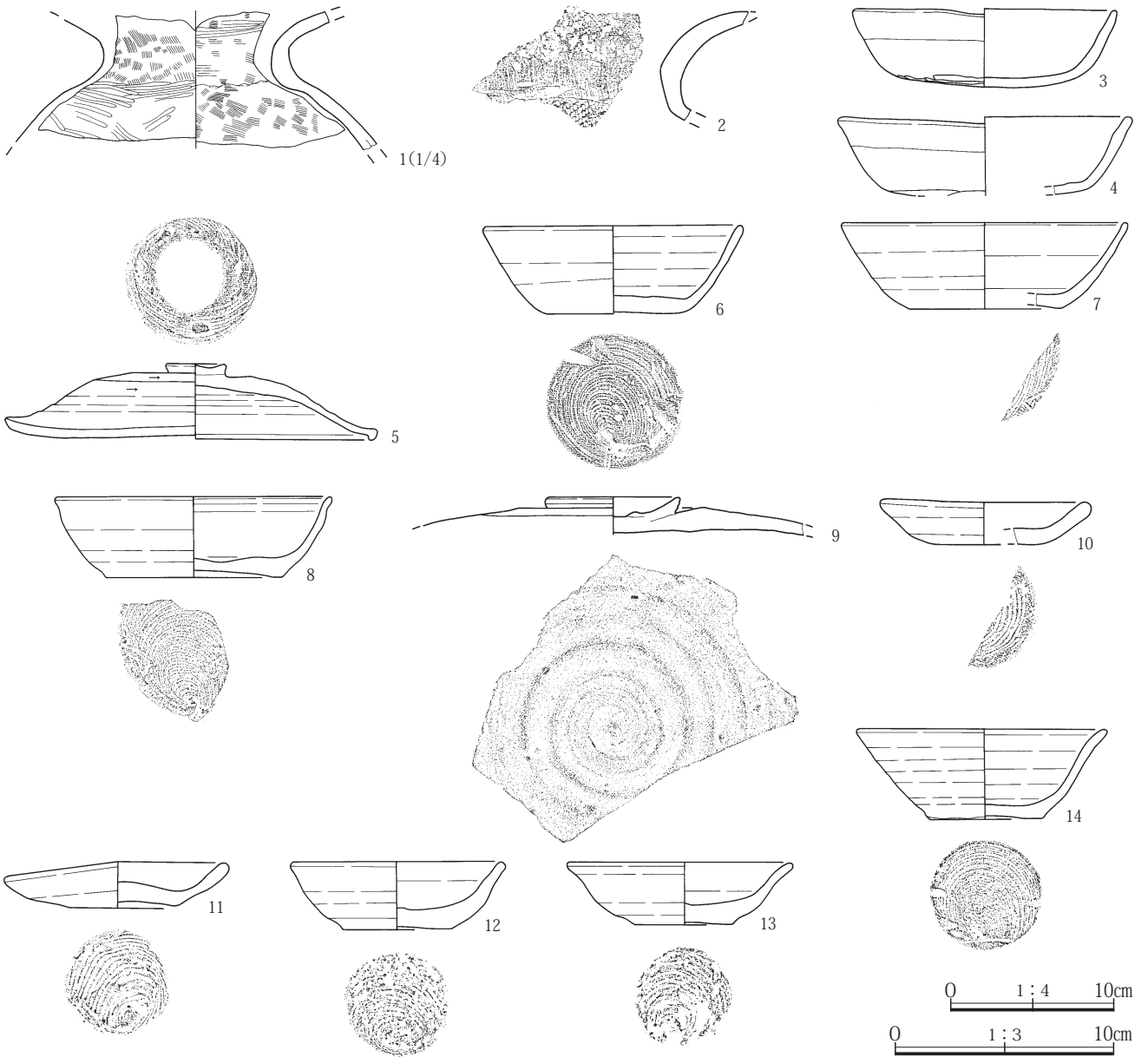


第743図 VI区遺構外の出土遺物(1)

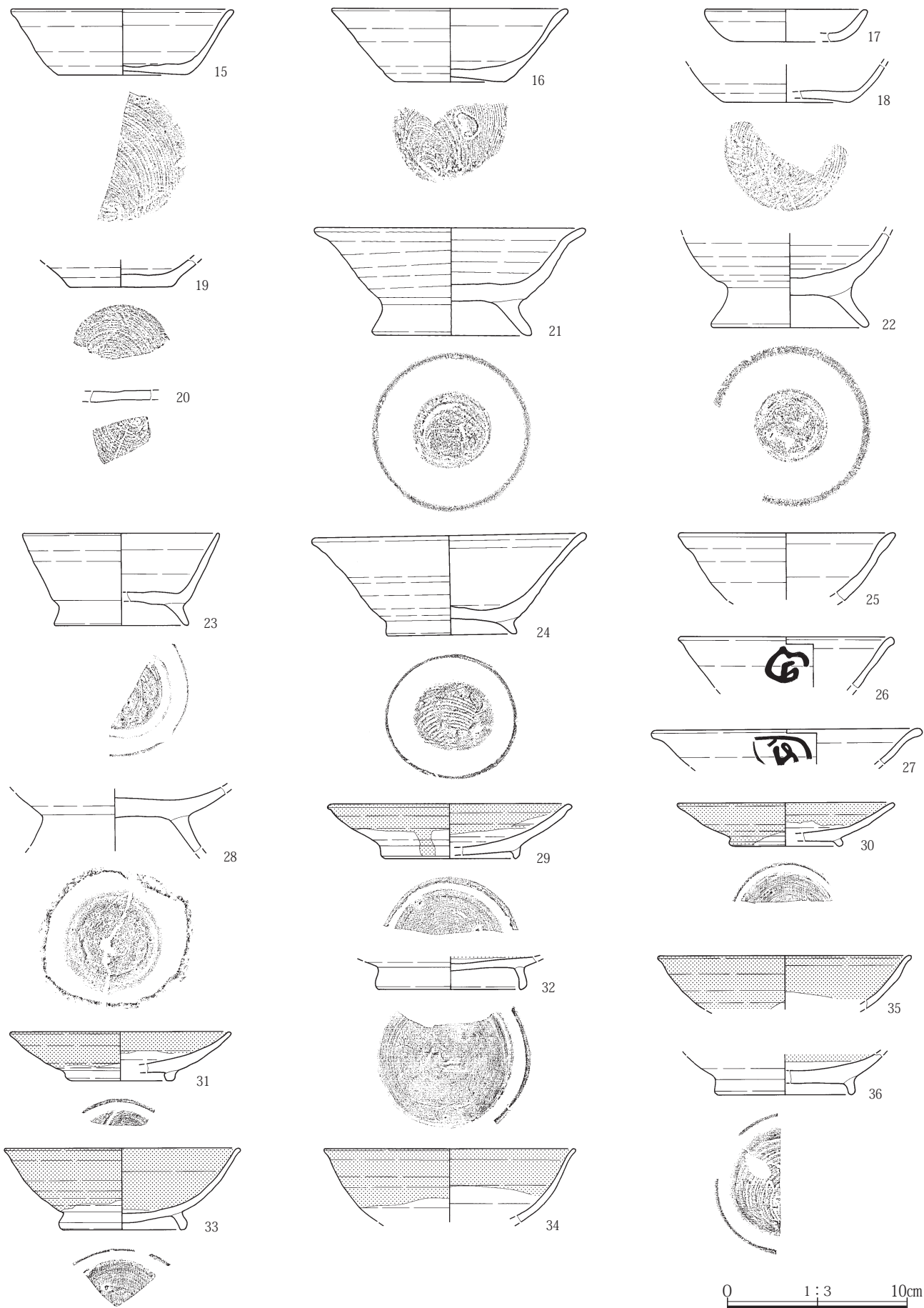
第11節 遺構外から出土した遺物



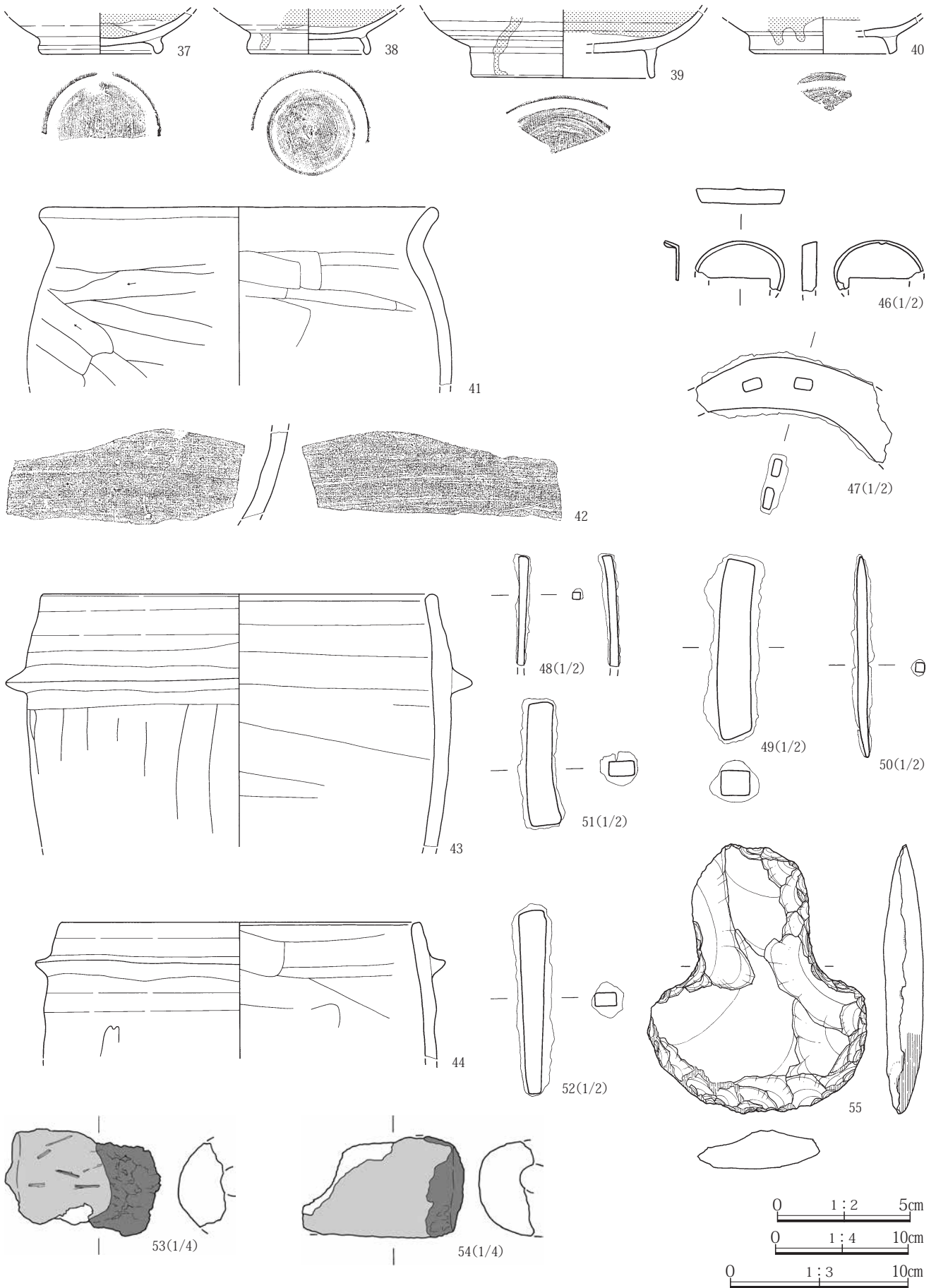
第744図 VI区遺構外の出土遺物(2)



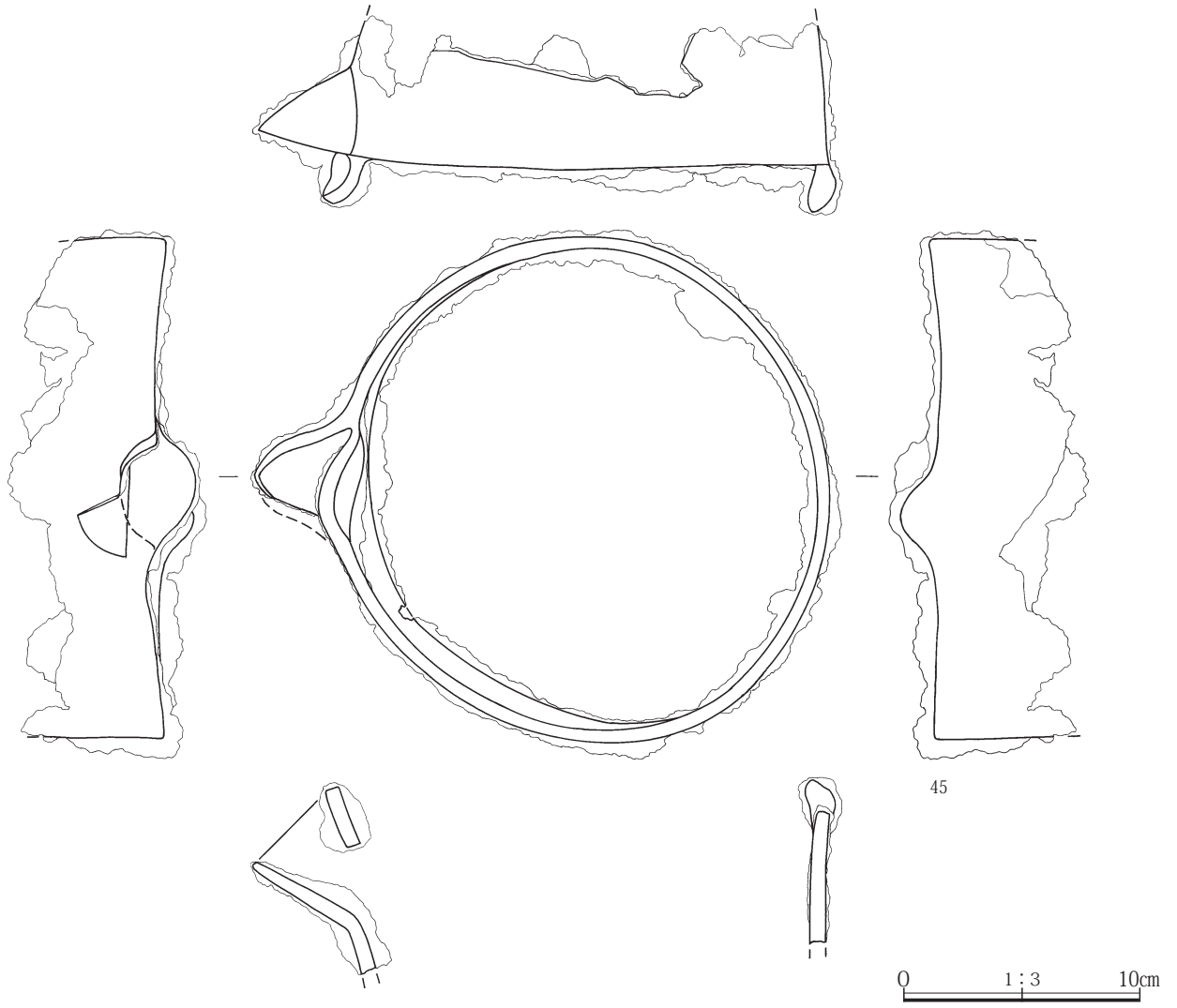
第745図 VII区遺構外の出土遺物(1)



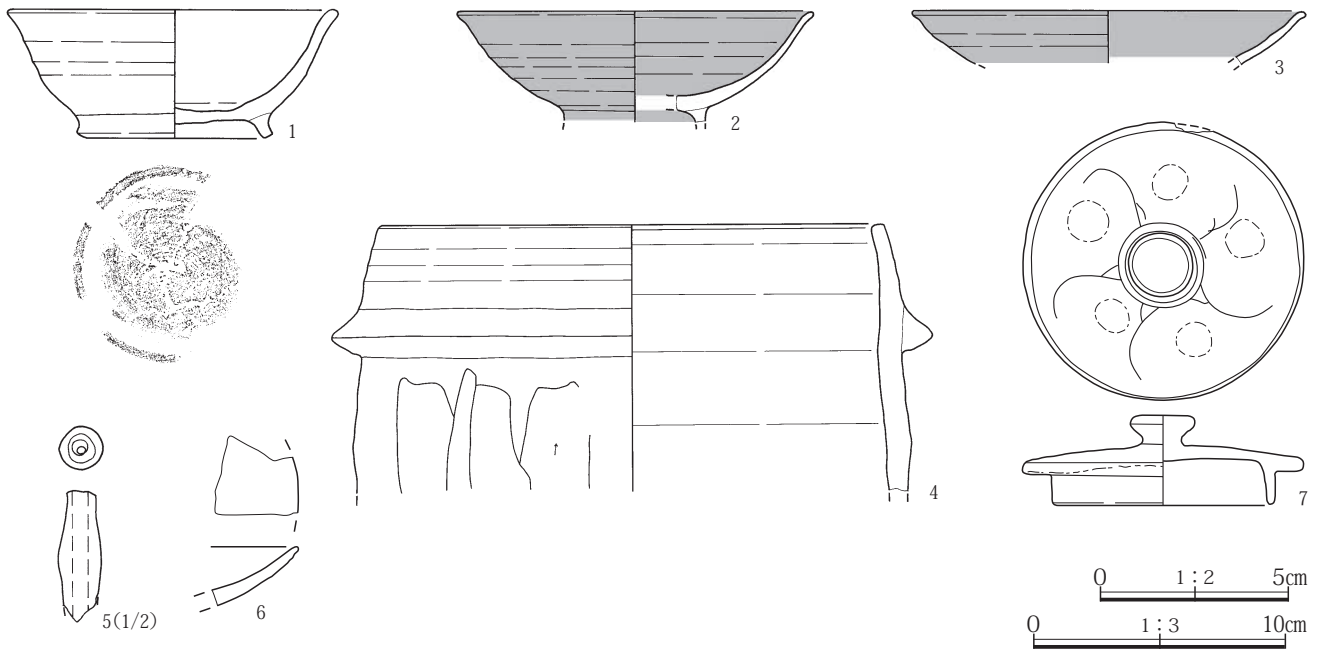
第746図 VII区遺構外の出土遺物(2)



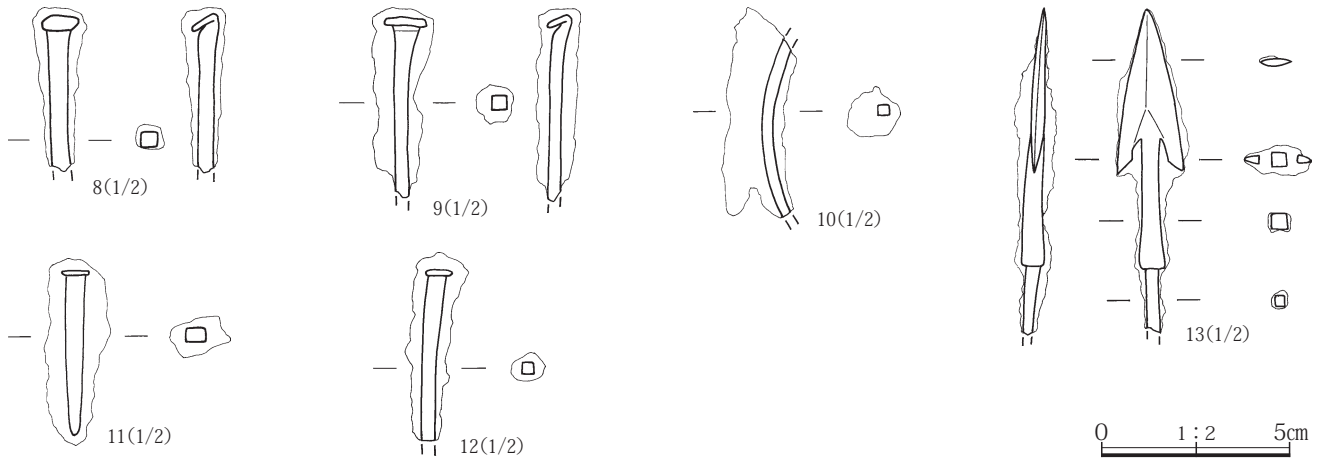
第747図 VII区遺構外の出土遺物(3)



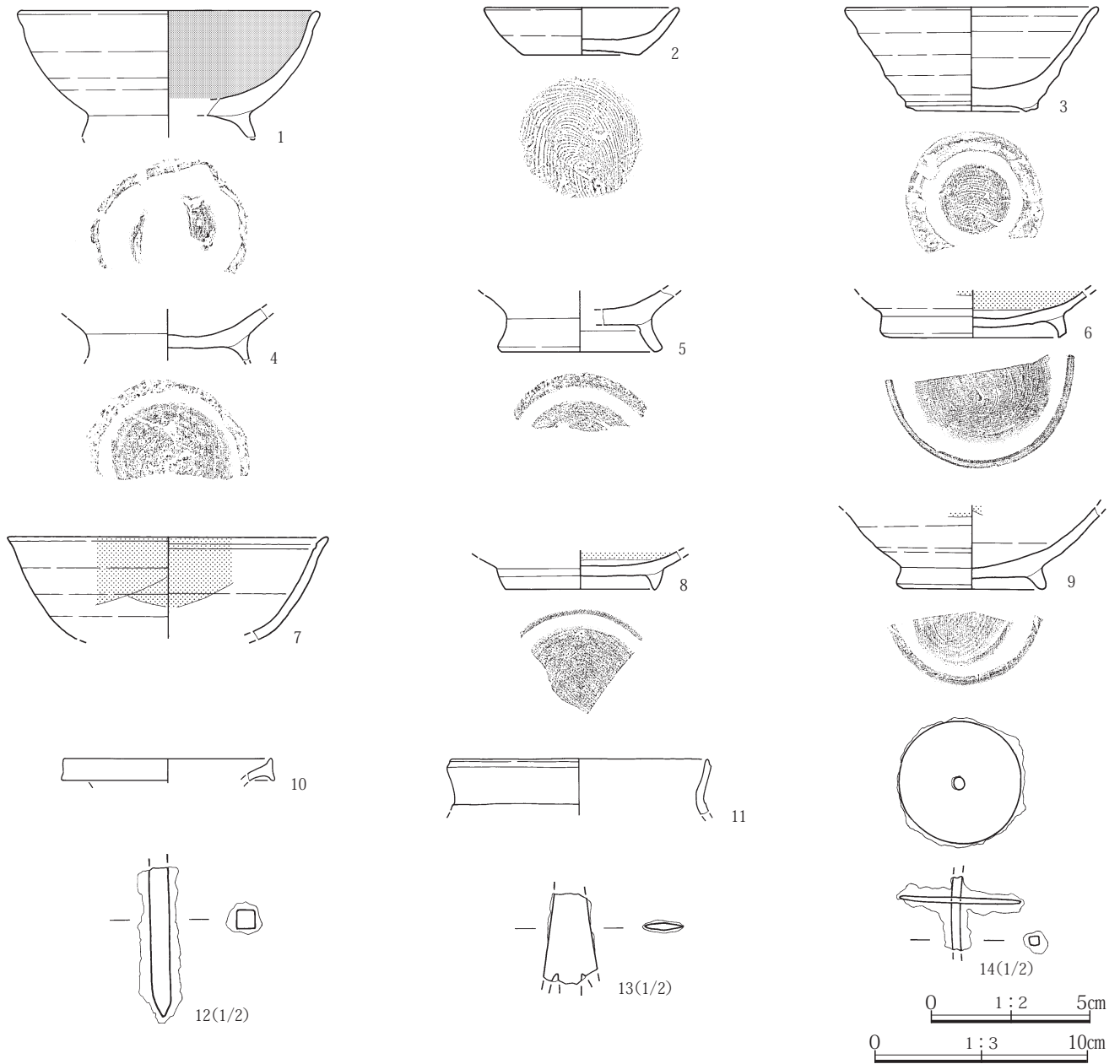
第748図 VII区遺構外の出土遺物(4)



第749図 VIII区遺構外の出土遺物(1)

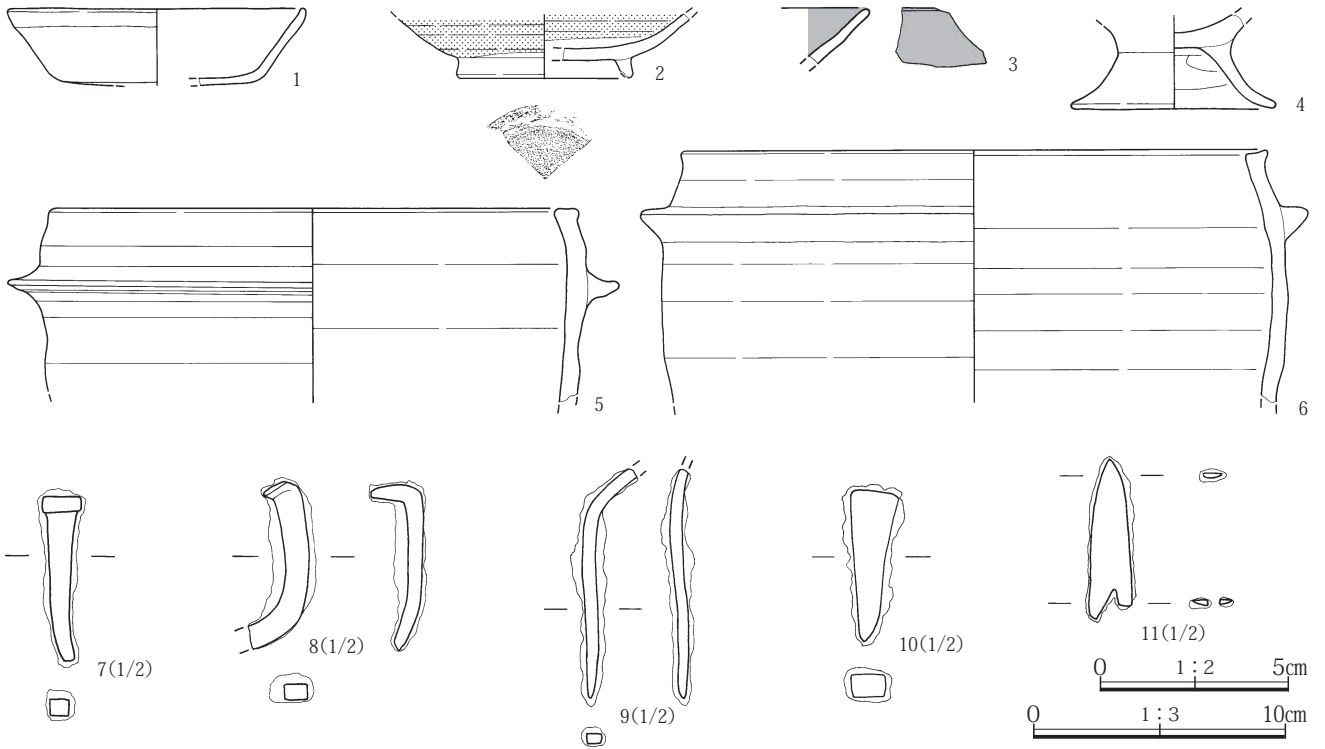


第750図 VIII区遺構外の出土遺物(2)

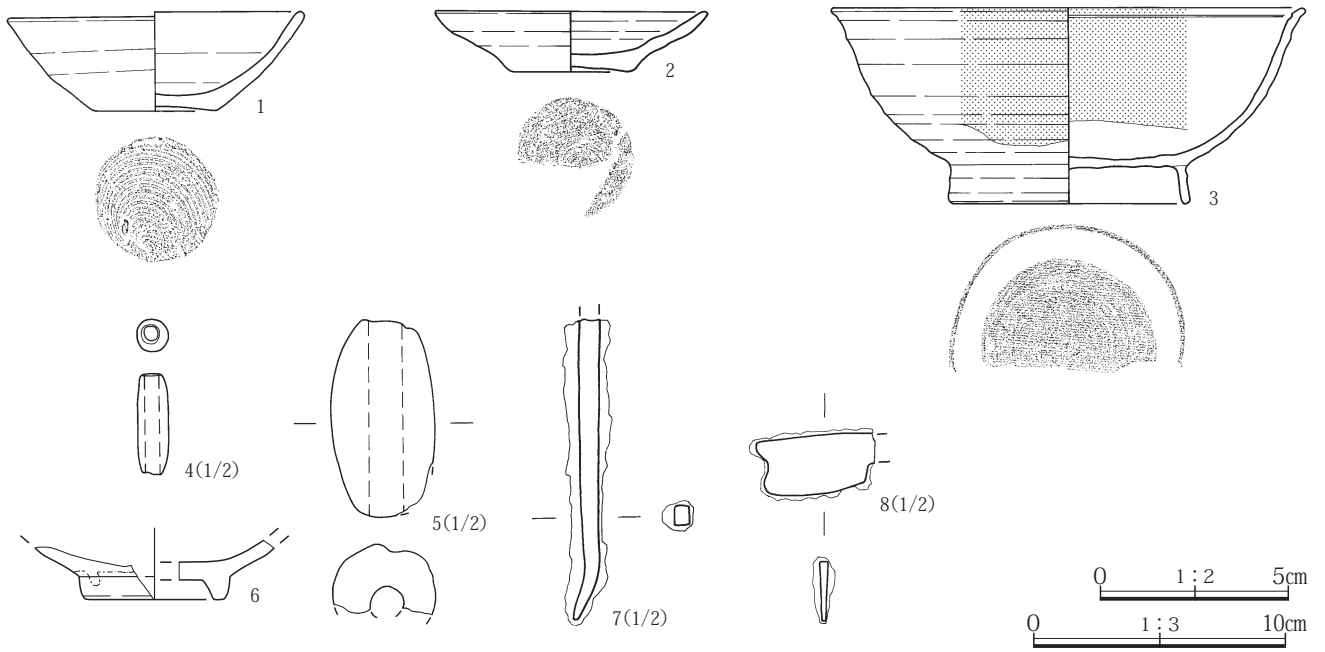


第751図 IX区遺構外の出土遺物

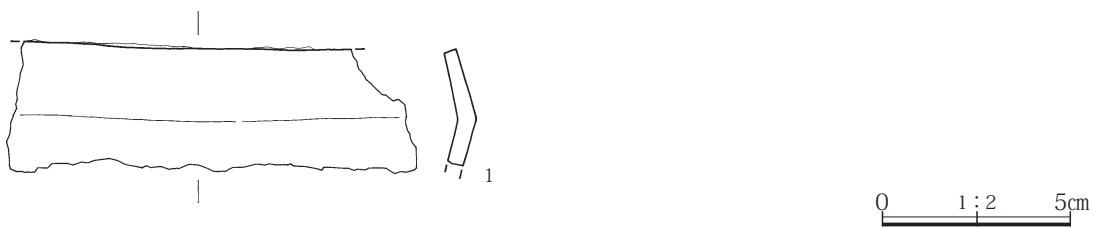
第4章 第2面の遺構と出土遺物



第752図 X区遺構外の出土遺物



第753図 XII区遺構外の出土遺物



第754図 2面遺構外の出土遺物

第5章 自然科学分析による遺跡の理解

第1節 VIII区の地層とテフラ

1.はじめに

前橋市田口下田尻遺跡VIII区における発掘調査では、広瀬川低地帯西部の良好な土層断面が認められた。そこで、地質調査を行って堆積物の層序を記載するとともに、断面で認められたテフラについて、テフラ検出分析を実施して、指標テフラとの同定を実施した。調査分析の対象は、VIII区A地点の西壁、西壁南部、北壁の3点である(第5・755～757図)。

2.土層の層序

(1)西壁

西壁では、亜円礫からなる礫層(層厚5cm以上、礫の最大径19.6mm)を基盤とする溝状の凹地が検出された(第755図)。それを埋める堆積物は、下位より黒泥層(層厚6cm)、亜円礫まじりで黄色がかかった灰色砂礫層(層厚6cm、礫の最大径16mm)、層理が発達した褐灰色砂層(層厚11cm)、青灰色細粒火山灰層(層厚0.6cm)、かすかに成層した黄灰色軽石質砂層(層厚17cm)、青灰色細粒火山灰層(層厚2cm)、層理が発達した灰色砂層(層厚7cm)、黄灰色砂層(層厚7cm)、暗灰色泥層(層厚6cm)、層理が発達した黄灰色砂層(層厚12cm)、成層した暗灰色腐植質シルト層(層厚4cm)、灰白色シルト層(層厚3cm)、成層した黄灰色砂層(層厚31cm)、黄灰色シルトブロックを含む暗灰褐色砂質土(層厚20cm)、白色軽石混じりで若干色調が暗い灰褐色土(層厚15cm、軽石の最大径8mm)、白色軽石混じり灰褐色土(層厚8cm、軽石の最大径34mm)、白色軽石を含む砂まじり灰色土(層厚19cm、軽石の最大径18mm)、鉄分をやや多く含む黄灰色土(層厚3cm)、円磨された比較的粗粒の軽石を含む灰色土(層厚9cm、軽石の最大径48mm)、灰褐色土(層厚7cm)、灰色土(層厚9cm)、円磨された白色軽石や角礫を含む灰褐色土(層厚8cm、軽石の最大径28mm、角礫の最大径28mm)、円磨された白色軽石混じり灰色土(層厚16cm、軽石の最大径21mm)、白色軽

石混じり灰褐色土(層厚6cm、軽石の最大径16mm)、灰色表土(層厚19cm、上部15cmが耕作土)が認められる。

(2)西壁南部

西壁で覆土の断面が認められた凹地の外側に位置する西壁南部では、下位より白色軽石混じりで若干褐色がかかった灰色土(層厚7cm、軽石の最大径6mm)、灰色砂質シルト層(層厚0.8cm)、灰色がかかった褐色土(層厚7cm)、黄色細粒火山灰層(層厚0.8cm)、褐色土(層厚0.1cm)、淘汰の良い若干桃色がかかった灰色の砂層(層厚5cm)、褐色砂層(層厚3cm)、粗粒の白色軽石に富む褐灰色砂層(層厚18cm、軽石の最大径91mm)が認められる(第756図)。これらの土層は、西壁南部の凹地の基盤に相当する。

(3)北壁

北壁では、下位より灰色土(層厚15cm)、白色粗粒火山灰層(層厚0.2cm)、暗灰色砂礫層(層厚2cm、礫の最大径8mm)、黄灰色砂層(層厚2cm)、暗灰色砂礫層(層厚3cm、礫の最大径18mm)が認められる(第757図)。

3.テフラ検出分析

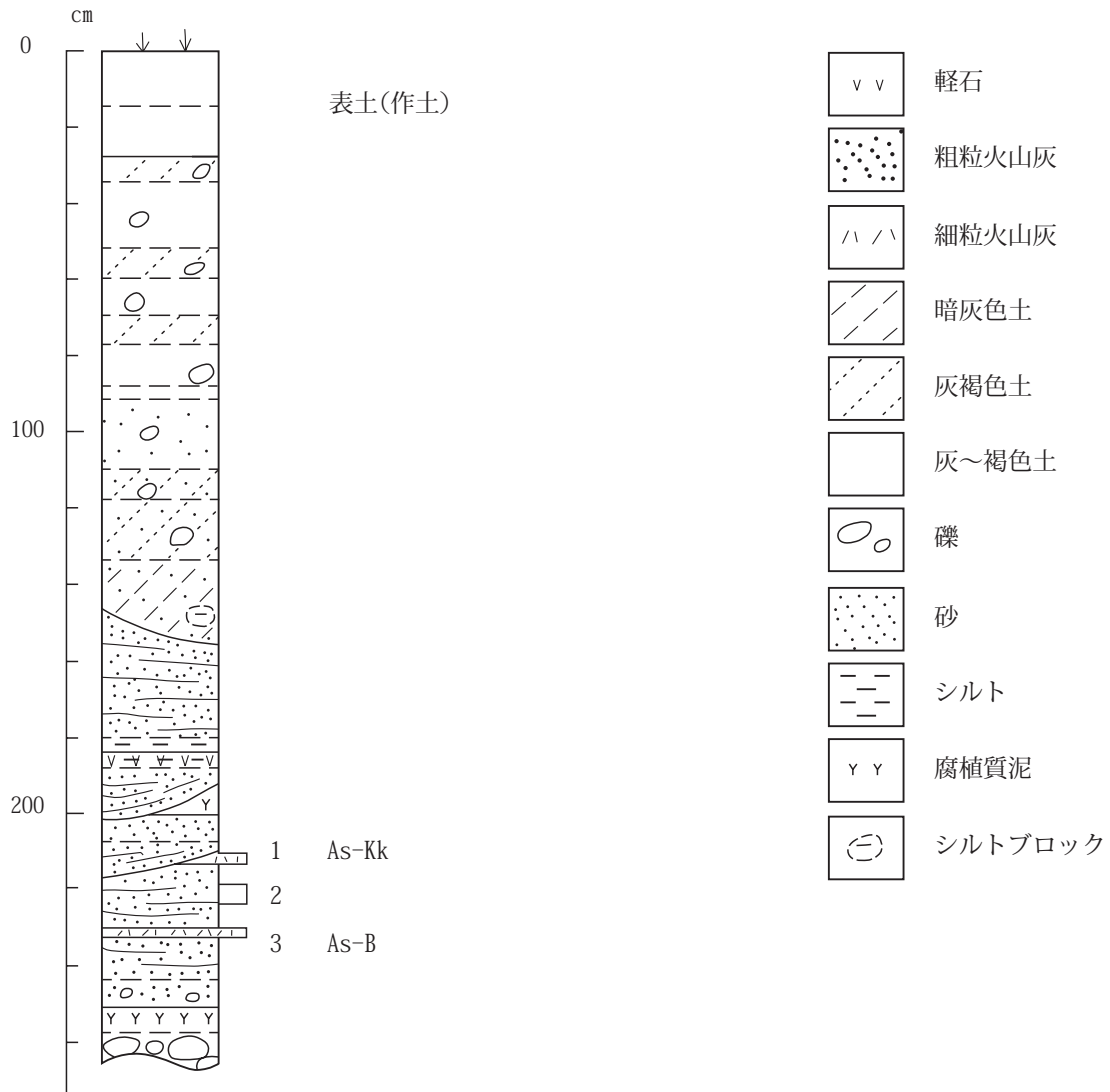
(1)分析試料と分析方法

西壁、西壁南部、北壁で認められた土層のうち、テフラ層や特徴的なテフラ粒子を含む可能性が考えられた試料4点について、含まれるテフラ粒子の特徴を定性的に把握するテフラ検出分析を行った。分析対象試料は、土層断面から採取された試料のうち西壁の試料3および試料2、西壁南部の試料2、北壁の試料1の合計4試料である。テフラ検出分析の手順は次のとおりである。

- 1) 試料を適量(5g)秤量。
- 2) 超音波洗浄装置により泥分を除去。
- 3) 恒温乾燥器により80℃で恒温乾燥。
- 4) 実体顕微鏡下でテフラ粒子の量や特徴を把握。

(2)分析結果(第5表)

西壁の試料3には、スポンジ状に細かく発泡した白色の軽石(最大径3.0mm)や、スポンジ状に良く発泡した灰白色の軽石(最大径2.2mm)が少量含まれている。斑晶鉱物としては、前者に角閃石や斜方輝石、後者に斜方輝石



第755図 A地点西壁の土層柱状図
数字はテフラの試料番号

や単斜輝石が特徴的に含まれている。また、ほかにこれらの細粒物である白色や灰白色のスポンジ状軽石型火山ガラスも少量認められる。

西壁の試料2には、淡褐色の軽石(最大径4.8mm)や軽石型ガラスが多く含まれている。軽石の斑晶には、斜方輝石や単斜輝石が認められる。

西壁南部の試料2には、軽石は認められないものの、白色のスポンジ状軽石型ガラスが少量含まれている。全体として細粒の結晶に富み、重鉱物に角閃石や斜方輝石が認められる。

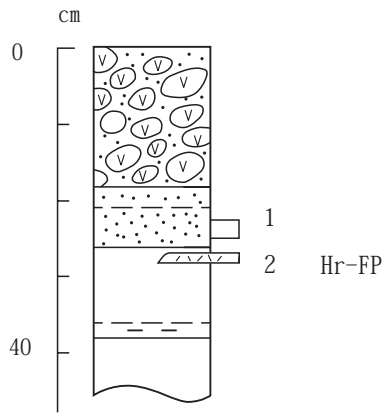
北壁の試料1には、斑晶に角閃石や斜方輝石をもち、スポンジ状に細かく発泡した白色の軽石(最大径2.6mm)が少量含まれている。火山ガラスとしては、この軽石の細粒物である白色のスポンジ状軽石型ガラスのほかに、

繊維状に細かく発泡し光沢をもつ白色の軽石型ガラス、淡褐色の軽石型ガラス、灰白色のスポンジ状軽石型火山ガラスが比較的多く認められる。なお、本試料については、層厚が非常に薄いために純度は高くない。

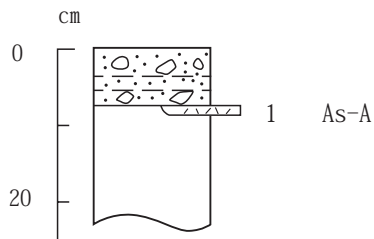
4. 考察

テフラ検出分析で認められたテフラ粒子のうち、灰白色の軽石や軽石型ガラスは、色調、発泡様式、重鉱物の組み合わせなどから、3世紀後半に浅間火山から噴出した浅間C軽石(As-C, 荒牧, 1968, 新井, 1979, 坂口, 2010)に由来すると考えられる。

また、白色の軽石や軽石型ガラスについては、その色調、発泡様式、重鉱物の組み合わせなどから、6世紀初頭に榛名火山から噴出した榛名二ツ岳渋川テフラ(Hr



第756図 A地点西壁南部の土層柱状図
数字はテフラの試料番号



第757図 A地点北壁の土層柱状図

第5表 テフラ検出分析結果

地点	試料	軽石・スコリア			火山ガラス		
		量	色調	最大径	量	形態	色調
西壁	2	***	淡褐	4.8	***	pm	淡褐
	3	*	白, 灰白	3.0, 2.2	*	pm	白, 灰白
西壁南部	2				*	pm	白
北壁	1	*	白	2.6	**	pm	白, 淡褐, 灰白

****: とくに多い, ***: 多い, **: 中程度, *: 少ない. 最大径の単位は, mm.
bw: バブル型, pm: 軽石型.

-FA, 新井, 1979, 坂口, 1986, 早田, 1989, 町田・新井, 1992, 2003)や、6世紀中葉に榛名火山から噴出した榛名二ツ岳伊香保テフラ(Hr-FP, 新井, 1976 2, 坂口, 1986, 早田, 1989, 町田・新井, 1992, 2003)、さらにそれらに由来する火山泥流堆積物などに由来する可能性が

高い。

淡褐色の軽石や軽石型ガラスと、細かく繊維束状に発泡し光沢をもつ白色軽石型ガラスは、それらの色調、発泡様式、重鉱物の組み合わせなどから、それぞれ1108(天仁元)年に浅間火山から噴出した浅間Bテフラ(As-B,

荒牧, 1968, 新井, 1979)と、1783(天明3)年に浅間火山から噴出した浅間A軽石(As-A, 荒牧, 1968, 新井, 1979)に由来すると考えられる。

以上のことから、西壁では、試料3と試料2の間に層位のある青灰色細粒火山灰層が、層相とその直上の砂層に含まれるテフラ粒子の特徴から、本遺跡とその周辺でのAs-Bの基底部、そして試料2が採取された砂層が比較的高純度のAs-Bの再堆積層と考えられる。また、試料1が採取された青灰色細粒火山灰層は、その層位や層相などから、1128(大治3)年に浅間火山から噴出した浅間粕川テフラ(As-Kk, 早田, 1990, 2004など)に同定される。

西壁南部の試料2が採取された黄色細粒火山灰層は、下位にHr-FAやHr-FPなどに由来する可能性のあるテフラ粒子が認められること、そしてその層相から、Hr-FPの最上部(I 19, Soda, 1996, 早田, 2006)に同定される。したがって、そのすぐ上位にある水成堆積物は、Hr-FPの噴火に関して発生した火山泥流堆積物(早田, 1989など)と考えられる。したがって、溝状の凹地の基盤には、少なくともHr-FPの火山泥流以前の堆積物が存在することになる。

北壁の試料1が採取された白色粗粒火山灰層には、特徴的にAs-Aに由来するテフラ粒子が含まれる。もともと層厚が薄いため試料自体の純度が低いこと、また層位や層相などを合わせると、白色の粗粒火山灰層は、As-Aと考えられる。したがって、そのすぐ上位の成層した水成堆積物は、As-Aの降灰直後に本遺跡周辺に到達したいわゆる浅間天明泥流堆積物の再堆積層と思われる。

5.まとめ

田口下田尻遺跡Ⅷ区において、地質調査とテフラ検出分析を行った。その結果、下位より浅間C軽石(As-C, 3世紀後半)、榛名二ツ岳渋川テフラ(Hr-FA, 6世紀初頭)、榛名二ツ岳伊香保テフラ(Hr-FP, 6世紀中葉)、Hr-FPの噴火に関して発生した火山泥流堆積物、浅間Bテフラ(As-B, 1108年)、浅間粕川テフラ(As-Kk, 1128年)、浅間A軽石(As-A, 1783年)、浅間天明泥流の再堆積層などを検出することができた。

文献

- 新井房夫(1962)関東盆地北西部地域の第四紀編年. 群馬大学紀要自然科学編, 10, p. 1-79.
 新井房夫(1979)関東地方北西部の縄文時代以降の示標テフラ層. 考古学ジャーナル, no.53, p. 41-52.
 荒牧重雄(1968)浅間火山の地質. 地研専報, no.14, p. 1-45.
 町田 洋・新井房夫(1992)「火山灰アトラス-日本列島とその周辺」, 東京大学出版会, 276 p.
 町田 洋・新井房夫(2003)「新編火山灰アトラス-日本列島とその周辺」, 東京大学出版会, 336 p.
 坂口 一(1986)榛名二ツ岳起源FA・FP層下の土師器と須恵器. 群馬県教育委員会編「荒砥北原遺跡・今井神社古墳群・荒砥青柳遺跡」, p. 103-119.
 坂口 一(2010)高崎市・中居町一丁目遺跡周辺集落の動向-中居町一丁目遺跡H22の水田耕作地と周辺集落との関係-. 群馬県埋蔵文化財調査事業団編「中居町一丁目遺跡3」, p. 17-22.
 早田 勉(1989)6世紀における榛名火山の2回の噴火とその災害. 第四紀研究, 27, p. 297-312.
 早田 勉(1990)浅間火山の生い立ち. 佐久考古通信, no.53, p. 2-7.
 Soda, T. (1996) Explosive activities of Haruna Volcano and their impacts on human life in the 6th century A.D. Geogr.Rept. Tokyo Metropol. Univ., no.31, p. 37-52.
 早田 勉(2004)火山灰編年学からみた浅間火山の噴火史-とくに平安時代の噴火について-. かみつけの里博物館編「1108-浅間火山-中世への胎動」, p. 45-56.
 早田 勉(2006)古墳時代の榛名大噴火-火山灰からさぐる噴火のうつりかわり. かみつけの里博物館編「はるな30年物語」, p. 54-66.

第2節 VII・Ⅷ区の地層とテフラ

1.はじめに

関東地方北西部に位置する前橋市とその周辺には、榛名、赤城、浅間など北関東地方に位置する火山のほか、中部地方や中国地方、さらには九州地方の火山に由来するテフラ(tephra, いわゆる火山灰)が分布している。それらの中には、すでに年代や岩石記載の特徴が明らかにされているものがあり、それらとの層位関係を把握することで、地形や地層の形成年代のみならず、遺構や遺物包含層の層位や年代などについても明らかにできるようになっている。

前橋市田口下田尻遺跡の発掘調査でも、層位や起源が不明なテフラ層や火山泥流堆積物が検出されたことから、火山灰編年学の手法をもちいて土層の調査分析を行うことになった。最初に地質調査を実施して、土層の特徴と層序の記載を行い、高純度の室内分析用試料の採取を実施した。その後、室内でテフラ組成分析を実施してテフラ粒子の特徴把握を行った。さらに、火山ガラス、斜方輝石、角閃石の屈折率測定を実施して、指標テフラとの同定を行った。調査分析の対象となった地点は、Ⅶ区B地点およびⅧ区C地点の2地点である(第5・758・759図)。

2. 地層の層序

(1) VII区B地点

VII区B地点では、最下位に発泡が比較的良好な灰白色軽石(最大径4mm)をわずかに含む灰色砂層(層厚20cm以上、軽石の最大径4mm)、淘汰の良い黄灰色砂層(層厚3cm)、暗灰褐色砂質土(層厚2cm)、成層したテフラ層(層厚8cm)、基底に礫を含み淘汰の良い暗灰色砂層(層厚5cm、礫の最大径11mm)、若干黄色がかかった灰色砂層(層厚5cm)、褐灰色シルト層(層厚5cm)、黄灰色シルト質砂層(層厚2cm)、褐灰色土(層厚5cm)、緑灰色砂質シルト層(層厚0.5cm)、円磨された白色軽石を少量含む桃灰色シルト層(層厚2cm、軽石の最大径8mm)、灰褐色土(層厚2cm)、かすかに成層した黄灰色砂質細粒火山灰層(層厚0.9cm)、層理の発達した桃白色砂質シルト層(層厚6cm)、淘汰が良く若干黄色がかかった灰色砂層(層厚3cm)、白色軽石に富みわずかに灰色がかかった褐色泥流堆積物(層厚7cm、軽石の最大径41mm)、白色軽石や灰色岩片混じり黄色砂層(層厚18cm、軽石の最大径57mm、岩片の最大径104mm)が認められる(第758図)。

(2) VIII区C地点

VIII区C地点では、下位より淘汰の良い灰色砂層(層厚10cm以上)、褐色砂質土(層厚2cm)、成層したテフラ層(層厚3.3cm)、逆級化構造をもつ若干桃色がかかった暗灰色砂層(層厚4cm)、灰色砂層(層厚6cm)、褐色土(層厚2cm)、白色軽石に富む桃灰色砂層(層厚14cm、軽石の最大径11mm)、暗灰褐色土(層厚7cm)、桃白色シルト層(層厚3cm)、暗褐色土(層厚3cm)、かすかに成層した黄色砂質細粒火山灰層(層厚2cm)、桃白色砂質シルト層(層厚3cm)、白色軽石を少量含み黄色がかかった灰色シルト質砂層(層厚8cm、軽石の最大径21mm)、白色軽石や桃白色軽石を多く含む暗灰褐色土(層厚13cm、軽石の最大径136mm)、白色軽石を少し含む黒灰褐色土(層厚4cm、軽石の最大径23mm)が認められる(第759図)。

3. テフラ検出分析

(1) 分析試料と分析方法

テフラ層や火山泥流堆積物中などのテフラ粒子の特徴を定性的に明らかにするために、8試料を対象にテフラ検出分析を実施した。テフラ検出分析の手順は次のとお

りである。

- 1) 試料8gを秤量。
 - 2) 超音波洗浄装置を用いながら、ていねいに泥分を除去。
 - 3) 80℃で恒温乾燥。
 - 4) 実体顕微鏡下で、テフラ粒子の量や色調などを観察。
- (2) 分析結果

テフラ検出分析の結果を、第6表に示す。試料11から軽石やスコリアさらに火山ガラスはほとんど検出されなかった。試料10には、細粒の白色軽石(最大径2.3mm)や、その細粒物の白色の軽石型ガラスが比較的多く含まれている。試料6では、比較的粗粒の白色軽石(最大径13.6mm)や、その細粒物の白色の軽石型ガラスが少量認められる。さらに試料4では白色の軽石型ガラスが比較的多く、また試料1には比較的粗粒の白色軽石(最大径11.2mm)や、白色の軽石型ガラスが多く含まれている。

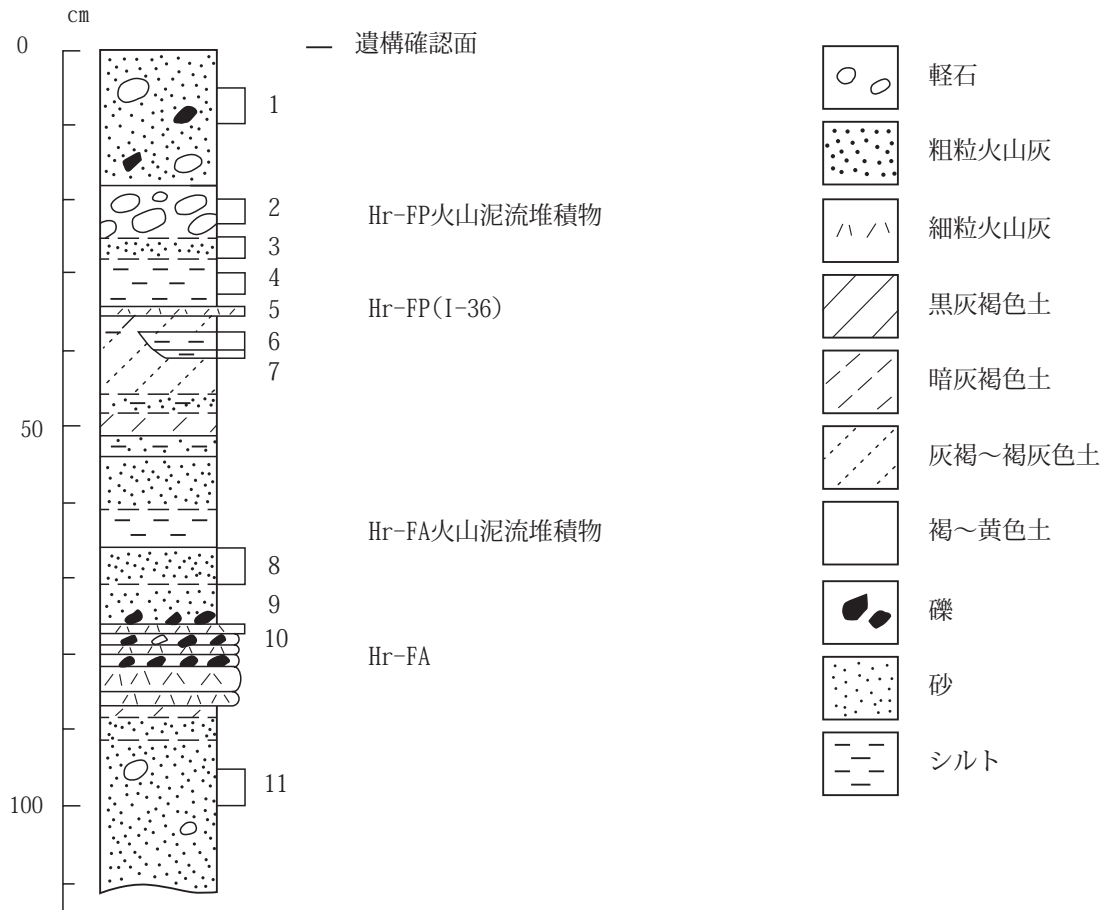
C地点の試料1には、白色の細粒軽石(最大径4.9mm)や、その細粒物の白色の軽石型ガラスが多く含まれている。

4. テフラ組成分析

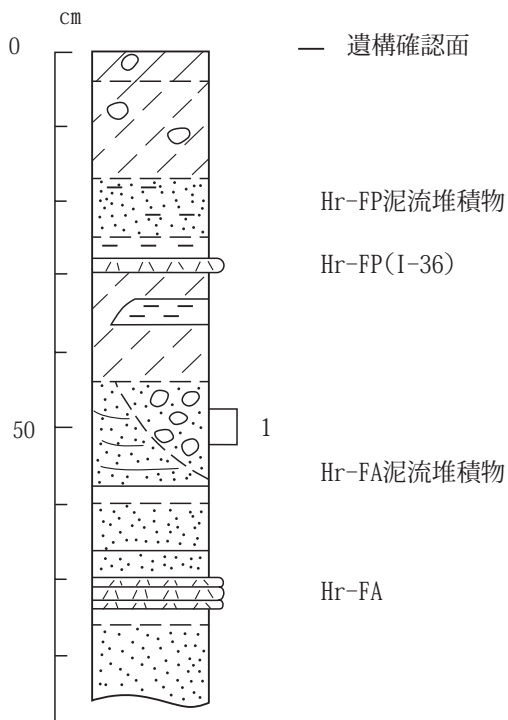
(1) 分析試料と分析方法

テフラ層や火山泥流堆積物中などのテフラ粒子の火山ガラスの含有率や重鉍物組成を明らかにするために、7試料を対象にテフラ組成分析を実施した。なお、VII区B地点の試料6については軽石を粉砕したもの、また試料1については全体試料のほかに軽石を粉砕したものも分析対象とした。テフラ組成分析の手順は次のとおりである。

- 1) 軽石粒子について軽く粉砕し10gを秤量。
- 2) 超音波洗浄装置を用いて泥分を除去。
- 3) 80℃で恒温乾燥。
- 4) 軽石2試料と、テフラ検出分析済みの試料のうち5試料について、分析篩で1/4-1/8mmおよび1/8-1/16mmの粒子を篩別。
- 5) 偏光顕微鏡下で250粒子を観察し、火山ガラス(形態色調別)、軽鉍物、重鉍物の含有率を求める(火山ガラス比分析)。
- 6) 偏光顕微鏡下で重鉍物250粒子を観察し、重鉍物組成を求める(重鉍物組成分析)。



第758図 B地点の土層柱状図
数字はテフラの試料番号



第759図 C地点の土層柱状図
数字はテフラの試料番号

第6表 テフラ検出分析結果

地点	試料	軽石・スコリア			火山ガラス		
		量	色調	最大径	量	形態	色調
B地点	1	***	白	11.2	***	pm	白
	4				**	pm	白
	5						
	6	*	白	13.6	*	pm	白
	7						
	10	*	白	2.3	**	pm	白
	11						
C地点	1	***	白	4.9	***	pm	白

****：とくに多い，***：多い，**：中程度，*：少ない.最大径の単位は，mm.

bw：バブル型，pm：軽石型，md：中間型.

(2)分析結果

1)火山ガラス比

テフラ組成分析の結果を第7表と第8表に示す。軽石試料では、当然のことながら火山ガラスの含有率が高い(36.8～37.6%)。その一方で、成層したテフラ層の細粒降下テフラ層(試料10)で、その他のもの(岩片や風化物)の含有率が高い傾向にある(53.6%)。いずれの試料でも、含まれる火山ガラスのほとんどは、スポンジ状軽石型ガラスである。また試料の多くで、軽鉱物の含有率が高いものの、試料1や試料1の軽石でやや重鉱物の含有率が高い。

2)重鉱物組成

試料に含まれる重鉱物としては、不透明鉱物(黒色で光沢をもつもの：おもに磁鉄鉱)のほかでは、角閃石や斜方輝石が多い。また、試料によっては、単斜輝石も少量含まれている。試料の中では、試料7や試料5で、斜方輝石の含有率がやや高い傾向にある。

5.屈折率測定

(1)測定試料と測定方法

B地点の試料6(軽石)とC地点の試料1の火山ガラス、斜方輝石、角閃石、B地点の試料5の火山ガラス、さらにB地点の試料1の斜方輝石と角閃石を対象として屈折率測定を実施した。測定に際しては、火山ガラスについては1/8-1/16mm粒径、斜方輝石および角閃石については1/4mmより大きい鉱物を実体顕微鏡下でピックアップし軽く粉碎して測定対象とした。また、測定には、温度変

化型屈折率測定装置(京都フィッショントラック社RIMS2000)を利用した。

(2)測定結果

屈折率測定の結果を第9表示す。B地点の試料6(軽石)に含まれる火山ガラス(nd, 39粒子)、斜方輝石(γ , 34粒子)、角閃石(n 2, 29粒子)の屈折率は、それぞれ1.504-1.508、1.708-1.712、1.672-1.679である。試料5に含まれる火山ガラス(nd, 17粒子)の屈折率は、1.503-1.507である。また、試料1(軽石)に含まれる斜方輝石(γ , 31粒子)および角閃石(n 2, 31粒子)の屈折率は、それぞれ1.707-1.711と1.675-1.682である。

さらに、C地点の試料1に含まれる火山ガラス(nd, 31粒子)、斜方輝石(γ , 30粒子)、角閃石(n 2, 30粒子)は、順に1.499-1.505、1.707-1.711、1.672-1.679である。

6.考察

(1)指標テフラとの同定

調査分析対象の2地点で認められた成層した比較的厚いテフラ層(B地点・試料10のユニットを含む)については、層相から6世紀初頭に榛名火山から噴出した榛名二ツ岳渋川テフラ(Hr-FA, 新井, 1979, 坂口, 1986, 早田, 1989, 町田・新井, 1992)に同定される。

B地点において試料5が採取された。かすかに成層した黄灰色砂質細粒火山灰層は、その層相から6世紀中葉に榛名火山から噴出した榛名二ツ岳伊香保テフラ(Hr-FP, 新井, 1962, 坂口, 1986, 早田, 1989, 町田・新井, 1992)の降下テフラ層のうち、最上部にある成層したテ

第7表 火山ガラスの分析結果

地点	試料	bw (cl)	bw (pb)	bw (br)	md	pm (sp)	pm (fb)	軽鉱物	重鉱物	その他	合計
B地点	1	0	0	0	0	17	0	135	44	54	250
	1 (軽石)	0	0	0	0	92	0	90	67	1	250
	5	0	0	0	1	1	0	118	21	109	250
	6 (軽石)	0	0	0	0	94	0	113	42	1	250
	7	0	0	0	0	1	0	146	14	89	250
	10	0	0	0	0	6	0	84	26	134	250
C地点	1	0	0	0	2	11	0	145	26	66	250

bw：バブル型，pm：軽石型，md：中間型，pm：軽石型，cl：無色透明，pb：淡褐色，br：褐色，sp：スポンジ状，fb：繊維束状。数字は粒子数。

第8表 重鉱物組成分析結果

地点	試料	ol	opx	cpx	am (oxy.ho)	bi	opq	その他	合計
B地点	1	0	51	3	114 (0)	0	78	4	250
	1 (軽石)	0	49	2	156 (0)	0	42	1	250
	5	0	73	2	110 (7)	0	60	5	250
	6 (軽石)	0	29	0	175 (0)	0	45	1	250
	7	0	70	0	112 (2)	0	63	5	250
	10	0	37	2	99 (9)	0	107	5	250
C地点	1	0	44	2	115 (1)	0	83	6	250

ol：カンラン石，opx：斜方輝石，cpx：単斜輝石，am：角閃石，oxy.ho：酸化角閃石，bi：黒雲母，opq：不透明鉱物(おもに磁鉄鉱)。数字は粒子数。*：1/8-1/16mm.ほかは1/4-1/8mm.

第9表 屈折率測定結果

地点名	試料・テフラ	火山ガラス		斜方輝石		角閃石	
		屈折率(n)	測定点数	屈折率(γ)	測定点数	屈折率(n2)	測定点数
B地点	試料1 (軽石)			1.707-1.711	31	1.675-1.682	31
	試料5	1.503-1.507	17				
	試料6 (軽石)	1.504-1.508	39	1.708-1.712	34	1.672-1.679	29
C地点	試料1	1.499-1.505	31	1.707-1.711	30	1.672-1.679	30
指標テフラ	浅間A (As-A)	1.507-1.512		1.707-1.712			
	浅間B (As-B)	1.524-1.532		1.708-1.710			
	榛名二ツ岳伊香保(Hr-FP)	1.501-1.504		1.707-1.711		1.672-1.677	
	榛名二ツ岳渋川(Hr-FA)	1.500-1.502		1.707-1.711		1.671-1.695	
	榛名有馬(Hr-AA)	1.500-1.502		1.709-1.712		1.671-1.677	
	浅間C (As-C)	1.514-1.520		1.706-1.711			

屈折率測定は、温度変化型屈折率測定装置(RIMS2000)による。Hr-AAの屈折率特性は町田ほか(1984)、ほかは町田・新井(2003)。

テフラ層(I-36, 早田, 1993)に同定される。このテフラ層に関しては、これまでに火山ガラスや鉱物の屈折率特性の測定は行われていないように思われるが、今回の測定結果をみると、従来報告されたHr-FPの火山ガラスの屈折率よりやや高い傾向にある。

(2)火山泥流堆積物の起源

C地点において、Hr-FAのすぐ上位にある軽石質の泥流堆積物(試料1)も、火山ガラスの屈折率特性が、Hr-FAと比較してやや広い傾向にあるものの、層位、重鉱物の含有率、斜方輝石や角閃石の含有率なども含める

と、やはりHr-FAの噴火に関係する火山泥流堆積物(早田, 1989, 1993など)と考えられる。また、B地点においてI-36のすぐ上位にある泥流堆積物(試料1)は、層位や層相さらに含まれる軽石の岩相などから、Hr-FPの噴火に関係した火山泥流堆積物(早田, 1989, 1993など)と考えられる。この火山泥流堆積物の発生時はすでに火砕流は発生していない段階と思われることから、上流域でのHr-FP火砕流(FPF-2, 新井, 1979)による河川のせき止めとその崩壊が火山泥流を引き起こした可能性がある。

一方、I-36のすぐ下位にある成層したシルト質堆積物(軽石:試料6)の起源に関しては、まだ不明な点が多い。この火山泥流堆積物の起源としては、二通りが考えられる。ひとつは、Hr-FAに関係する火山泥流堆積物と解釈する考え方である。Hr-FAやその直上の火山泥流堆積物との間に時間間隙が認められるものの、Hr-FAの噴火の最後に白色の軽石を多く含む火砕流(S-12)が発生している(早田, 1993など)。それまでの石質岩片を多く噴出する火砕流のタイプから、軽石を多く含む火砕流の発生までにいくらかの時間を要した可能性がある。

もう一つは、Hr-FPの噴火に関係した火山泥流堆積物と解釈する考え方である。やはり、I-36との間にも時間間隙があるものの、少なくとも試料6(軽石)の火山ガラスの屈折率特性はI-36とよく似ている(Hr-FAの最後の火砕流堆積物に含まれる軽石の岩石記載的特徴は不明)。とくに火山泥流堆積物を構成する碎屑物の起源となったと考えられるプリニー式噴火の噴煙柱の崩壊に伴う火砕流堆積物の発生(早田, 2006など)から、I-36の噴出の要因となった溶岩ドームの成長までの時間間隙の存在が推定されることによる。

従来、Hr-FAやHr-FPに関して、比較的遠隔地での火山灰編年学に有効な火山ガラスや鉱物の屈折率特性は明らかにされているものの、降下単層ごと、また火砕流堆積物や火山泥流堆積物さらにそれらに含まれる重鉱物の組成や軽石の屈折率特性などについては、ほとんど不明なままとなっている。とくに、北関東地方では、古墳の石室の構築材として利用された角閃石安山岩は、一般的に榛名火山の古墳時代の噴火で噴出したものと考えられているが、その正確な起源については不明なままである。このような地域の重要な考古学上の問題の解決のために、今回のような分析測定を実施してデータを収集する

必要がある。

なお、B地点の最下位の試料11採取層準で認められた軽石については、岩相から3世紀後に浅間火山から噴出した浅間C軽石(As-C, 荒牧, 1968, 新井, 1979, 坂口, 2010)と考えられる。

7.まとめ

前橋市田口下田尻遺跡において、地質調査とテフラ分析(テフラ検出分析, テフラ組成分析, 火山ガラスと鉱物の屈折率測定)を実施した。その結果、下位より榛名二ツ岳沢川テフラ(Hr-FA, 6世紀初頭)およびその噴火に関係した火山泥流堆積物、さらに榛名二ツ岳伊香保テフラ(Hr-FP, 6世紀中葉)およびその噴火に関係した火山泥流堆積物など検出することができた。

文献

- 新井房夫(1962)関東盆地北西部地域の第四紀編年.群馬大学紀要自然科学編, 10, p.1-79.
 新井房夫(1979)関東地方北西部の縄文時代以降の示標テフラ層.考古学ジャーナル, no.157, p.41-52.
 荒牧重雄(1968)浅間火山の地質.地研専報, no.45, 65 p.
 町田 洋・新井房夫(1992)火山灰アトラス.東京大学出版会, 276 p.
 町田 洋・新井房夫(2003)新編火山灰アトラス.東京大学出版会, 336 p.
 坂口 一(1986)榛名二ツ岳起源FA・FP層下の土師器と須恵器.群馬県教育委員会編「荒砥北原遺跡・今井神社古墳群・荒砥青柳遺跡」, p.103-119.
 坂口 一(2010)高崎市・中居町一丁目遺跡周辺集落の動向-中居町一丁目遺跡H22の水田耕作地と周辺集落との関係-.群馬県埋蔵文化財調査事業団編「中居町一丁目遺跡3」, p.17-22.
 早田 勉(1989)6世紀における榛名火山の2回の噴火とその災害.第四紀研究, 27, p.297-312.
 早田 勉(1993)古墳時代におこった榛名山二ツ岳の噴火.新井房夫編「火山灰考古学」, 古今書院, p.128-150.
 早田 勉(2006)古墳時代の榛名大噴火-火山灰からさぐる噴火のうつりかわり.かみつけの里博物館編「はるな30年物語。-古墳時代に榛名山が大噴火した。災害と向き合うヒト、そして復興へ」, p.54-66.

第3節 炭化材の樹種同定

1. はじめに

前橋市田口町に所在する田口下田尻遺跡で平安時代の住居跡から出土した炭化材について、樹種同定を行った。

2. 試料と方法

試料は、X区1号住居から出土した住居構築材と考えられる炭化材が15点(No. 1～15)、XII区4号住居のカマドから出土した燃料材と考えられる炭化材が2点(No. 16、17)の、合計17点である。考古学的な所見から、いずれも10世紀頃と推定されている。

試料の形状と径は、現場で採取した際に記録した。観察用の試料は、カミソリまたは手で3断面(横断面・接線断面・放射断面)を割り出し、直径1cmの真鍮製試料台に試料を両面テープで固定した。その後、イオンスパッタで金コーティングを施し、走査型電子顕微鏡(KEYENCE社製 VE-9800)を用いて樹種の同定と写真撮影を行った。

3. 結果

樹種同定の結果、針葉樹はスギ1分類群、広葉樹はヤナギ属、クリ、コナラ属クヌギ節、クワ属、モモ、キハダの6分類群、その他にイネ科の草本があり、合計8分類群が確認された。X区1号住居では、針葉樹のスギ、広葉樹のヤナギ属とクリ、モモ、キハダ、イネ科の草本が確認された。XII区4号住居では、クヌギ節とクワ属が確認された。結果の一覧を第10表に示す。

以下に、同定根拠となった木材組織の特徴を記載し、走査型電子顕微鏡写真を図版に示す。

(1)スギ *Cryptomeria japonica* (L.f.) D. Don スギ科 図版1 1 a-1 c (No. 2)、2 c (No. 12)、3 c (No. 14)

仮道管と放射組織、樹脂細胞からなる針葉樹である。早材から晩材への移行はやや急である。分野壁孔は大型のスギ型で、1分野に通常2個並ぶ。

スギは暖帯から温帯下部に生育する常緑高木である。材は比較的軽軟で、切削加工は容易であり、割裂性は大きい。

(2)ヤナギ属 *Salix* ヤナギ科 図版1 4 a-4 c (No. 1)、5 a-5 c (No. 13)

やや小型の道管が、単独もしくは数個複合してやや密に分布する散孔材である。道管の穿孔は単一となる。放射組織は単列で、異性である。

ヤナギ属は暖帯、温帯、寒帯に広く生育する落葉高木または低木で、ケショウヤナギ、コゴメヤナギ、シダレヤナギなど日本では90種程ある。材は全般に軽軟で強度は低い、韌性があり、切削加工は容易である。

(3)クリ *Castanea crenata* Siebold et Zucc. ブナ科 図版1 6 a-6 c (No. 4)

大型の道管が年輪のはじめに数列並び、晩材部では薄壁で角張った小道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で、主に単列である。

クリは温帯下部から暖帯に分布する落葉高木である。材は重硬で、耐朽性および耐湿性に優れ、保存性が高い。

(4)コナラ属クヌギ節 *Quercus* sect. *Aegilops* ブナ科 図版1・2 7 a-7 c (No. 16)

大型の道管が年輪のはじめに数列並び、晩材部では急に径を減じた円形で厚壁の小道管が単独で放射方向に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は単列同性と広放射組織がある。

クヌギ節は暖帯に生育する落葉高木で、クヌギとアヤマキがある。材は重硬および強韌で、加工困難である。

(5)クワ属 *Morus* クワ科 図版2 8 a-8 c (No. 17)

大型で丸い道管が年輪のはじめに配列し、晩材では徐々に径を減じた小道管が単独もしくは数個複合して斜線方向に配列する半環孔材である。道管の穿孔は単一である。軸方向柔組織は周囲状から翼状となる。放射組織は3～5列幅で、上下端の1～2細胞が直立もしくは方形細胞である異性である。

クワ属は温帯から暖帯、亜熱帯に分布する落葉高木で、ケグワ、マグワ、ヤマグワなどがある。材は堅硬で、韌性に富む。

(6)モモ *Prunus persica* Betschiバラ科 図版2 9 a-9 c (No. 8)

半環孔性の散孔材で、年輪のはじめにやや大きな道管が1～3列程度並ぶ。晩材部では道管が単独で散在する。道管の穿孔は単一である。放射組織は異性で、1～7列幅である。

第10表 樹種同定結果

試料No.	地区	遺構	出土位置	器種(推定部位)	樹種	形状・径
No. 1	10区	1号住居跡	北側	建築部材(垂木)	ヤナギ属	割材、長径9cm
No. 2				建築部材(垂木)	スギ	割材、長径12cm
No. 3				建築部材(桁)	キハダ	芯持丸木、直径10cm
No. 4				建築部材(不明: No. 3の脇)	クリ	半割?、直径11cm
No. 5				建築部材(桁)	キハダ	半割~丸木、直径10cm
No. 6			西側	建築部材(梁)	ヤナギ属	丸木、直径10cm
No. 7				建築部材(垂木)	モモ	丸木、直径8.5cm
No. 8				建築部材(不明)	モモ	不明、7cm
No. 9				建築部材(不明)	ヤナギ属	丸木、直径6.5cm
No. 10				建築部材(不明)	ヤナギ属	丸木、直径6.5cm
No. 11			南側	建築部材(垂木)	ヤナギ属	不明、8cm
No. 12				建築部材(垂木)	スギ	不明、9cm
No. 13				建築部材(不明)	ヤナギ属	不明、7cm
No. 14			中央	建築部材(不明)	スギ	不明、4cm
No. 15			北側	建築部材(壁材)	イネ科草本	丸~割れ、直径0.5cm
No. 16	12区	4号住居跡	カマド	燃料材	コナラ属クヌギ節	破片、3.5cm
No. 17			カマド	燃料材	クワ属	破片、3.5cm

モモは温帯に分布する落葉高木である。材は重硬である。

(7)キハダ *Phellodendron amurense* Pupr. ミカン科 図版2 10a-10c (No. 3)、11a-11c (No. 5)

大型で丸い道管が早材部に配列し、晩材部ではごく小型で薄壁の小道管が集団をなして帯状~斜線状に配列する環孔材である。道管の穿孔は単一である。放射組織はほぼ同性で、1~6列幅のきれいな紡錘形となる。

キハダは温帯に分布する落葉高木である。材はやや軽軟で加工容易だが、水湿に強い。

(8)イネ科 Gramineae 図版2 12a-12c (No.15)

柔細胞と維管束で構成される単子葉類で、維管束が柔細胞中に散在する不斉中心柱である。稈の形状は丸く、直径5mmの中空で明瞭な節がみられるため、イネ科の草本と思われる。

4. 考察

遺構別の樹種構成を第11表に示す。X区の1号住居から出土した建築部材と、XII区の4号住居の燃料材では異なる樹種が確認された。

X区1号住居の建築部材では、桁はキハダ、梁はヤナギ属、垂木はスギとヤナギ属、モモ、部位不明の材はスギ、ヤナギ属、クリ、モモであった。垂木と部位不明で確認されたスギと、梁と垂木、部位不明で確認されたヤナギ属は、軽軟で加工容易な材である。垂木と部位不明で確認されたモモとクリは、重硬および割裂困難で、耐朽性のある材である。桁に利用されていたキハダは、材

第11表 遺構別の樹種構成

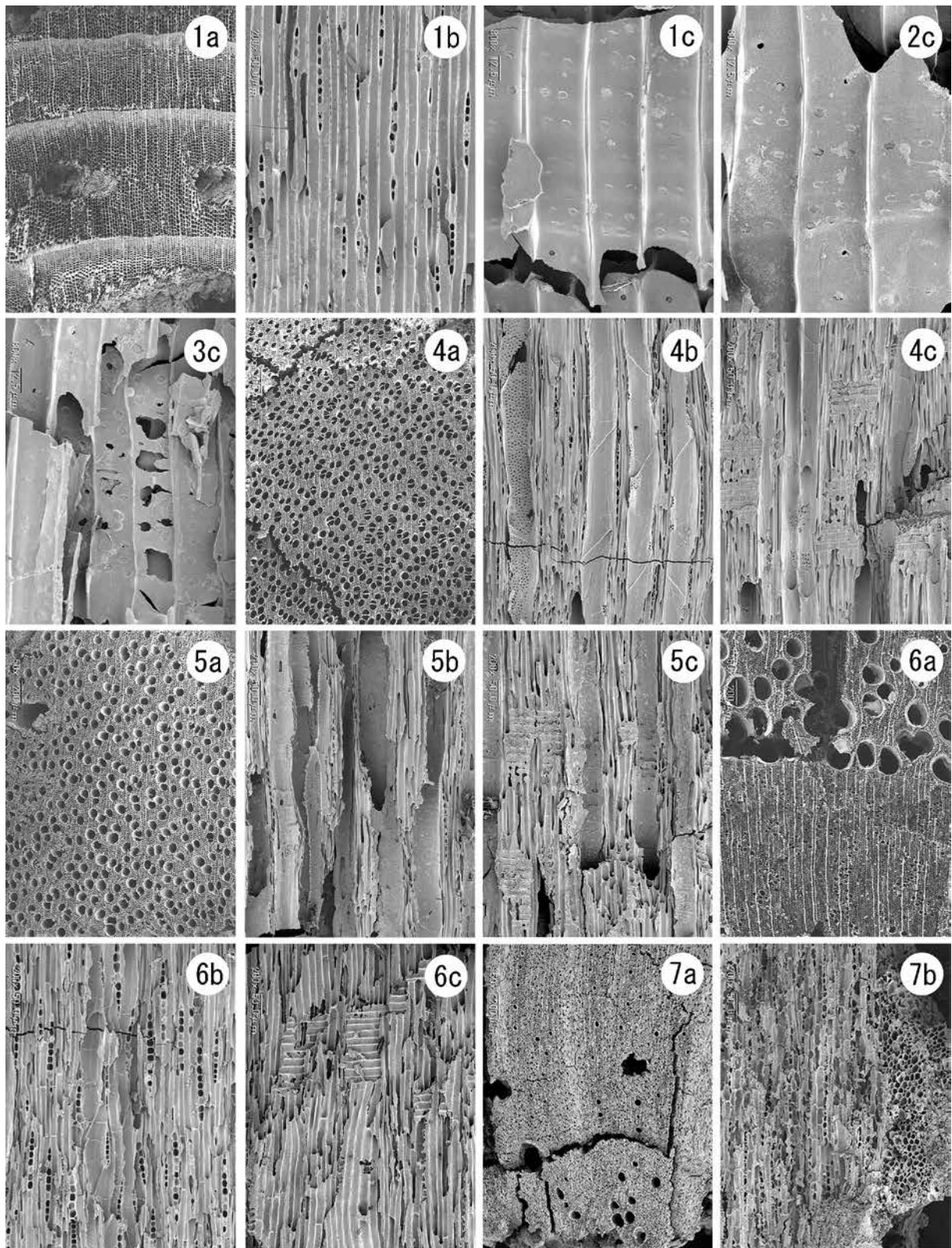
分類群	地区 遺構 器種 推定部位	10区 1号住居跡 建築部材					12区 4号住居跡 燃料材		計
		桁	梁	垂木	不明	壁材			
スギ				2	1			3	
ヤナギ属			1	2	3			6	
クリ					1			1	
コナラ属クヌギ節							1	1	
クワ属							1	1	
モモ				1	1			2	
キハダ		2						2	
イネ科草本						1		1	
計		2	1	5	5	1	2	17	

はやや軽軟で加工容易であるが、水湿に強い性質を持つ。

また、壁材はイネ科の草本であった。残存状態から土壁の内側の素材と考えられ、編組であった可能性がある。

北関東で建築材に利用される樹種は、縄文時代はクリが圧倒的に多い。弥生時代以降は、平安時代までクヌギ節やコナラ節を主体とした落葉広葉樹の利用が多いが、古墳時代末期から平安時代初期はクリがやや増加する傾向が確認されている(伊東・山田, 2012)。田口下田尻遺跡の1号住居の建築材でもクリが1点確認されたが、ヤナギ属やキハダ、モモなどの広葉樹や針葉樹のスギなど多種類の樹種が使用されていた。したがって、特定の樹種を選択して利用したのではなく、多種類の木材を組み合わせて使用していたと推測される。

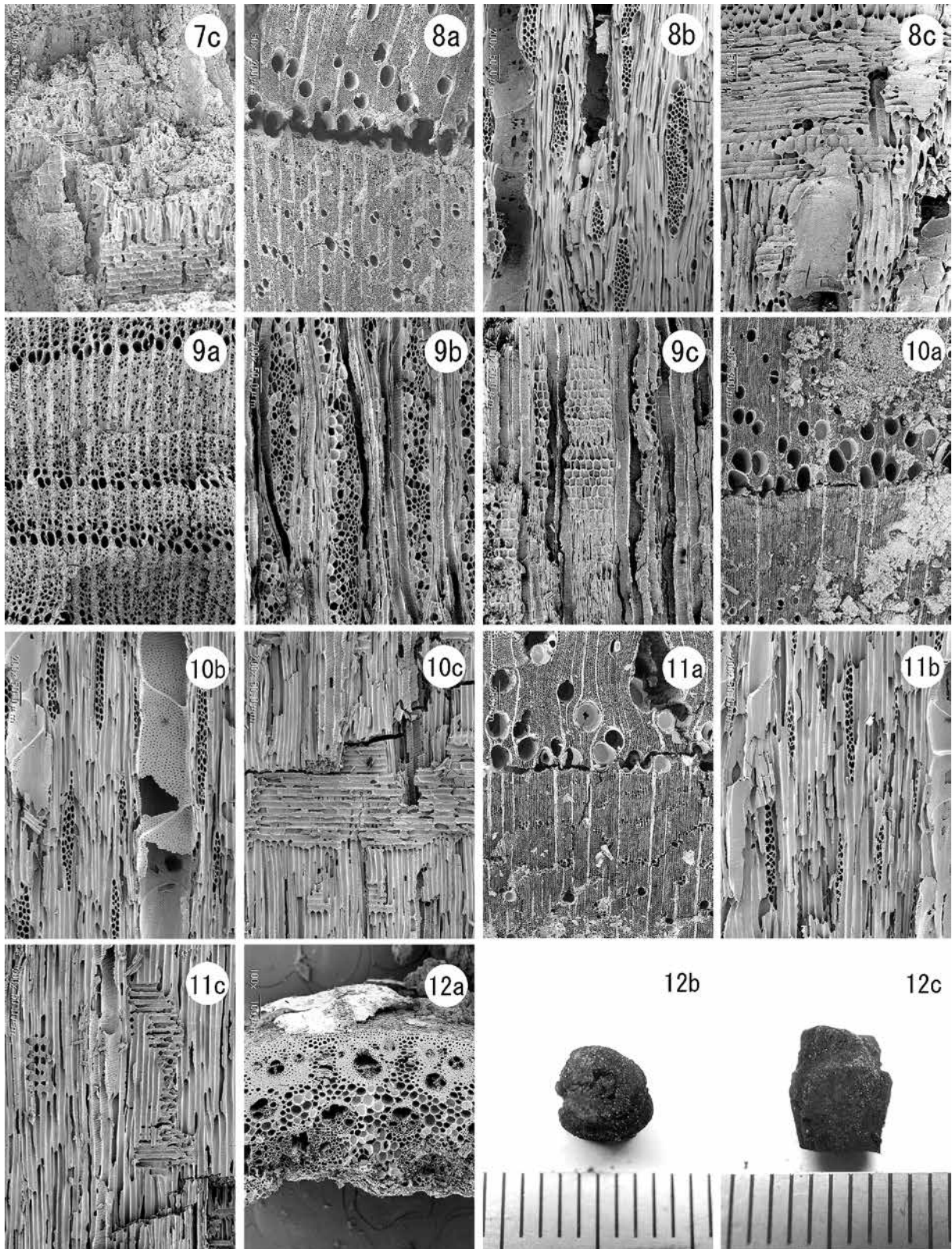
XII区4号住居のカマドから出土した炭化材は、クヌギ節とクワ属であった。いずれも重厚な材で、燃料材としても適している。特にクヌギ節は、群馬県内では窯跡や製鉄などで燃料材として多用される傾向がある(伊東・



図版1 田口下田尻遺跡出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真(1)

1 a-1 c. スギ(No. 2)、2 c. スギ(No. 12)、3 c. スギ(No. 14)、4 a-4 c. ヤナギ属(No. 1)、5 a-5 c. ヤナギ属(No. 13)、6 a-6 c. クリ(No. 4)、7 a-7 b. コナラ属クヌギ節(No. 16)

a : 横断面、b : 接線断面、c : 放射断面



図版2 田口下田尻遺跡出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真(2)

7c .コナラ属クヌギ節(No.16)、8a-8c .クワ属(No.17)、9a-9c .モモ(No. 8)、10a-10c .キハダ(No. 3)、
11a-11c .キハダ(No. 5)、12a-12c .イネ科(No.15)

a : 横断面、b : 接線断面、c : 放射断面[12 (No.15) = a : 横断面、b : 全体写真(上)、c : 全体写真(横)]

山田, 2012)。分析点数が少ないため利用傾向までは把握できないが、周辺遺跡の木材利用の傾向と類似している可能性がある。

文献

伊東隆夫・山田昌久編(2012)木の考古学-出土木製品用材データベース-, 449p, 海青社。

第4節 遺跡から出土した獣骨

1. VI区1号墓坑

ウマ

1頭分がほぼ完存状態で、楕円形に近い形の土壌中に埋存していた。頭部を北に尾部を南に、四肢を西に背を東に向け横たわり、前肢・後肢は折り曲げられていた。前肢の中手骨と後肢の中足骨はほぼ平行に重なり合い、この部分が縛られて運び込まれた可能性も考えられる。

時代 中世～近世初頭

馬格 小型在来馬相当

出土時はほぼ完存状態であったが、現状では破損がはなはだしく、体高推定に役立つ計測値はほとんど得られなかった。

そこで、出土時の写真と実測図から比較的骨端部の保存状態良好な左上腕骨、左中手骨、左中足骨の全長を求め、林田・山内(1957)の体高推定法に従って、体高を算出すると、それぞれ119.7cm、121.4cm、107.2cmとの結果となった。3者の単純平均は116.1cmであり、本馬が日本の小型在来馬・トカラ馬相当の馬格であったことを示唆している。

現存する出土骨で、有効な計測値が得られたのはごくわずかで、右橈骨の中央骨体幅31.8mm、右中手骨の中央骨体幅22.6mmなどである。

年齢 老齡馬

歯の咬耗度が極端に進んで、どの歯も歯冠高が極めて低い。

上顎白歯では、ほとんどの歯が過度の咬耗により咬耗面のエナメル質が外周に残るだけとなっている。下顎白歯でも、咬耗が極端に進んだことで、ほとんどの歯でエナメル質が前葉と後葉に分離し、歯冠部をわずかに残すだけとなっている。

切歯でも咬耗が著しく、咬耗面中心部エナメル質は小

さくなり、第3切歯ではすでに消失したものが3本、消失直前のものが1本である。

このような咬耗の状況からみると、本馬は20歳前後のきわめて高齢な老齡馬と推定される。

性別 雌馬

出土時の写真・実測図ともに犬歯が該当部に見当たらない。切歯は上顎切歯、下顎切歯ともに12本がすべて現存馬歯の中に確認できるが、犬歯は検出されない。このことから雌馬と判断される。

異常咬耗 全体的に咬耗が著しいが、なかでも異常に咬耗が進んでいるのが、上顎白歯では左第2前白歯、右第2前白歯、右第2後白歯、下顎では左第3前白歯、右第3前白歯、右第4前白歯である。このため白歯列咬合面での凹凸がはなはだしい。この異常咬耗がどのような原因で発生したかについてははっきりしない。

また、上顎右第2後白歯では歯冠幅(頬舌径)が際立って大きく、舌側へ大きく張り出している。咬耗が極度に進むにつれて、舌側にセメント質が新たに生成付加され歯冠幅が増していったものと思われる。

死因：これほど過度に咬耗が進むと、咀嚼も十分に行うことができず、胃腸への負担もまして、時には消化不良を起こしたり、胃腸を壊すこともあったろう。慢性的栄養失調状態にあったことも考えられる。

直接的死因を知ることはできないが、いずれにしても、この個体の死因は老衰が根源にあったということは容易に想像できる。天寿を全うするまで面倒を見てきた飼い主のこの馬に対する愛情が伺える。

2. V区7号溝

ウマ

ウマの左上顎白歯で、歯冠長22.6+mm、歯冠幅17.0+mm、頬側歯冠高38.0+mmである。歯根は分岐している。壯齡馬である。

ニホンシカ

ニホンシカの白歯片で、数10片に分離している。歯冠高13.1mmである。

3. VII区18号住居

ウマ

ウマの右上顎白歯で、10数片に分離している。歯の後

臼歯咬合面の状態

上顎臼歯

第2前臼歯	左	咬耗は過度に進み、エナメル襞は外周にごくわずか残存するのみ
	右	エナメル襞は外周にのみ残り、遠心頬側根、遠心内側根の歯髓腔が開口
第3前臼歯	左	エナメル襞は外周にのみ残り、前小窩・後小窩では消失
	右	エナメル襞は外周と後小窩でごくわずか残り、前小窩では消失
第4前臼歯	左	エナメル襞は外周にのみ残り、前小窩・後小窩では消失。遠心舌側根の歯髓腔開口
	右	エナメル襞は外周にのみ残り、前小窩・後小窩では消失
第1後臼歯	左	エナメル襞は外周にのみ残り、前小窩・後小窩では消失
	右	エナメル襞は外周にのみ残り、前小窩・後小窩では消失
第2後臼歯	左	不明
	右	エナメル襞は頬側の外周のみ残存。歯冠幅が異常に大きい。頬側遠心根の歯髓腔開口
第3後臼歯	左	エナメル襞は外周と前小窩と後小窩にごく僅かに残存するのみ
	右	エナメル襞は外周と前小窩と後小窩にごく僅かに残存するのみ

下顎臼歯

第2前臼歯	左	エナメル襞は咬合面のほぼ外周だけに残存。前葉と後葉は分離には至らず
	右	エナメル襞は咬合面のほぼ外周だけに残存。前葉と後葉は分離には至らず
第3前臼歯	左	過度の咬耗によりエナメル襞は前葉と後葉が大きく分離。近心根の歯髓腔は開口
	右	過度の咬耗によりエナメル襞は前葉と後葉が大きく分離。近心根、遠心根の歯髓腔は開口
第4前臼歯	左	エナメル襞は前葉と後葉が大きく分離
	右	過度の咬耗によりエナメル襞は後葉の外周のみに残存
第1後臼歯	左	エナメル襞は前葉と後葉が大きく分離
	右	エナメル襞は前葉と後葉が分離。前根の歯髓腔は開口
第2後臼歯	左	エナメル襞は前葉と後葉が分離
	右	エナメル襞は前葉と後葉で分離直前
第3後臼歯	左	エナメル襞は外周とわずかに中央部に残存。前葉と後葉は分離には至らず
	右	エナメル襞は外周と中央部に円形に残るだけである。前葉と後葉は分離には至らず

上顎臼歯計測値

	第2前臼歯		第3前臼歯		第4前臼歯		第1後臼歯		第2後臼歯		第3後臼歯	
	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右
歯冠近遠心径	26.0+	26.0±	23.3	23.1	22.6	21.3	19.8	19.2		18.6	27.0	26.3+
歯冠頬舌径	23.2	15.9	23.8	24.4	23.3	25.4	22.5	22.5		31.4	20.0	19.3
原錘幅			10.0	10.3	9.3	10.4		11.5				13.3
頬側歯冠高	12.5	10.8※	7.2	19.6※	8.7	16.5※	5.3	16.2※		14.4※	8.1	14.5※
舌側歯冠高	6.4	19.4※	20.1※	27.0※	18.8+※	26.2※	17.7※	22.4※		11.2※	9.4	15.4+※
咬合面の傾斜		120°	100°	100°	92°	95°	90°	93°			70°	70°
中附錘幅			3.8	4.1	4.1	4.2	4.1	4.3		5.0	4.7	4.7

単位：mm

下顎臼歯計測値

	第2前臼歯		第3前臼歯		第4前臼歯		第1後臼歯		第2後臼歯		第3後臼歯	
	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右
歯冠近遠心径	27.2	28.6	24.0	24.8	21.5	21.7	20.6	19.8	20.5	19.6	29.7	28.5
歯冠頬舌径	12.6	12.4	13.7	13.4		12.6	13.0	11.9	12.1	10.9	10.9	9.9
頬側歯冠高		18.0※	7.8※	3.6※	2.0※	12.8※	6.4※	15.2※	12.4※	13.3※	20.3※	19.0※
舌側歯冠高		17.0※	11.7※	10.4※	6.6※	16.0※	10.6※	18.8※	12.7※	18.0※	24.5※	22.1※
咬合面の傾斜	107°	105°				95°	85°	80°	65°	68°	70°	70°
下内錘幅												
歯根の様子												

単位：mm

※印：セメント質部を計測

右上顎全臼歯列長：140.0±mm

左下顎全臼歯列長：138.2±mm

右下顎全臼歯列長：135.8±mm

切歯計測値

上顎

	左			右		
	第3切歯	第2切歯	第1切歯	第1切歯	第2切歯	第3切歯
歯冠長	12.3	11.7	11.6	11.6	11.8	11.6
歯冠幅	9.5	9.4	8.9	9.1	9.6	9.9
歯冠高	33.5+	39.9+	42.4+	44.7+	47.0+	47.3+

下顎

	左			右		
	第3切歯	第2切歯	第1切歯	第1切歯	第2切歯	第3切歯
歯冠長	12.8	13.7	12.9	12.6	13.0	14.5
歯冠幅	10.5	10.5	10.4	10.4	10.6	8.7
歯冠高	29.0+	39.4+	38.1+	35.4+	40.3+	35.2+

単位：mm

第760図 VI区1号墓坑臼歯計測

方への湾曲度の合いや、咬合面の傾斜が60°と小さいことから、第3後臼歯と判断される。歯冠長24.3+mm、歯冠高46.5mm、中附錘幅4.1mmである。壮齡馬と思われる。

4.VII区18号住居

ウマ

ウマの右上顎臼歯で、10数片に分離している。第2後臼歯の可能性が高い。頰側歯冠高49.6mm、中附錘幅3.6mm、咬合面の傾斜80°である。壮齡馬と思われる。

5.VII区79・112号住居

ウマ

ウマの上顎臼歯片で、10数片に分離している。歯冠高36.0±mmである。

6.VII区1号畠

ウマ

動物骨ではない。

7.V区36号住居No.16

ウマ?

ウマのものと思われる数10片に分離した微細歯片である。歯冠高は27.3+mmである。

8.VI区1号鍛冶

ウマ

ウマの下顎臼歯で、歯の湾曲の度合いや、咬合面の傾斜が60°と小さいことから、第3後臼歯と判断される。歯冠高は44.5+mmあり、壮齡馬と思われる。

9.VI区1号鍛冶

ウマ

ウマの右下顎臼歯で、10数片に分離している。咬耗はすでに始まっていて、歯冠高は58.9+mmあり、幼齡馬と思われる。

10.VI区1号鍛冶

ウマ

ウマの右下顎臼歯で、10数片に分離している。歯の後方への湾曲の度合いが強いことから、第3後臼歯の可能

性が高い。歯冠高は64.7mmと高く、幼齡馬と思われる。

11.X区11号溝No.5

ウシカウマのものと思われる歯片であるが、いずれかの判断は困難である。

12.X区8号溝No.1

ウシ

ウシの左上顎第3後臼歯で、10数片に分離している。歯冠長32.8mm、歯冠幅18.6+mm、頰側歯冠高34.6mmである。壮齡牛である。

13.X区1面一括

ウマ

ウマの上顎臼歯で、20数片に分離した細片である。歯冠高は56.9+mmあり、幼齡馬と思われる。

14.X区6号溝

ウシ

ウシの臼歯片で、保存長25.3×11.2mmである。

15.X区13号住居No.1

ウシ又はウマ

ウシカウマのものと思われる歯片であるが、いずれかの判断は困難である。保存長36.6×15.1mm。

16.XII区67号土坑

ウマ

ウマの右上顎臼歯で、数10片に分離している。歯冠幅22.6+(2.0±)mm、歯冠高52.9(±1.0)mmで、壮齡馬と思われる。

文献

林田重幸・山内忠平(1957) 馬における骨長より体高の推定法。鹿児島大学農学部学術報告, 6, 146-156

西中川駿・松元光春(1991) 遺跡出土骨同定のための基礎研究—特に在来種および現代種の骨、歯の計測値の比較 「古代遺跡から見たわが国の牛、馬の渡来時期とその経路に関する研究」平成2年度文部省科学研究費補助金(一般研究B)研究成果報告書, 164-188.

野村晋一(1977) 「概説馬学」西川書店

須川章夫・月瀬 東(1977) 「牛の解剖学—骨学編—」文永堂

第5節 遺跡から出土した鉄関連遺物他の金属学的調査

VI・VII・XII区の製鉄・鍛冶関連遺物の分析調査を行なった。分析を行った対象遺構は、VI区1号鍛冶、VII区1号鍛冶、VII区18号住居、XII区1号鍛冶である。以下に調査結果の概要を述べる。

製鉄は火山岩起源の中チタン砂鉄を原料とする。生成鉄塊は除滓や成分調整を目的とした精錬鍛冶を施す。鍛冶素材は製鉄一貫体制からの半製品と共に、廃鉄器を再利用した故鉄(iron scrap)処理調達も確認できた。鍛冶素材の炭素含有量は、亜共析鋼(<0.77% C)から共析・過共析鋼(>0.77% C)まであって、硬・軟組合せ素材からの高靱性を保つ鋭利・刃物の製作が推測された。一方、炉材胎土(炉壁、送風管、羽口)は、化学組成から在地の安山岩質火山岩起源表土の充当が指摘できた。塩基性成分(CaO+MgO)の多寡から耐火度は1190℃と<1120℃に分かれている。

1.はじめに

田口下田尻遺跡は前橋市田口町地内に所在する。前橋台地北部の沖積地に立地した拠点的な集落遺跡である。当該地は古代より鍛冶活動の活発な土地柄であって、2012年に6点の椀形鍛冶滓の分析調査を済ませている。(注1) しかし、その後に製鉄炉の可能性のあるXII区1号鍛冶の検出もあって、鉄生産の実態をより深く探るため、炉材胎土や鉄塊系遺物を加えて分析調査を行った。

2.調査方法

試料の概要を第12表に示す。調査項目は以下のとおりである。

(1)肉眼観察

分析調査を実施する遺物の外観の特徴など、調査前の観察所見を記載した。

(2)マクロ組織

本来は肉眼またはルーペで観察した組織であるが、本稿では顕微鏡埋込み試料の断面全体像を、投影機の5倍で撮影したものを指す。当調査は、顕微鏡検査によるよりも広い範囲にわたって、組織の分布状態、形状、大きさなどの観察ができる利点がある。

(3)顕微鏡組織

鉄滓の鉱物組成や金属部の組織観察、非金属介在物の調査などを目的とする。

試料観察面を設定・切り出し後、試験片は樹脂に埋込み、エメリー研磨紙の#150、#240、#320、#600、#1000、及びダイヤモンド粒子の3μmと1μmで鏡面研磨した。また観察には金属反射顕微鏡を用い、特徴的・代表的な視野を選択して写真撮影を行った。

(4)ビッカース断面硬度

鉄滓中の鉱物と、金属鉄の組織同定を目的として、ビッカース断面硬度計(Vickers Hardness Tester)を用いて硬さの測定を行った。試験は鏡面研磨した試料に136°の頂角をもったダイヤモンドを押し込み、その時に生じた窪みの面積をもって、その荷重を除いた商を硬度値としている。試料は顕微鏡用を併用した。

(5)化学組成分析

出土鉄滓の性状を調査するため、構成成分の定量分析を実施した。試料の化学組成を第13表に示す。全鉄分(Total Fe)、金属鉄(Metallic Fe)、酸化第一鉄(FeO)は容量法で行った。

炭素(C)、硫黄(S)は燃焼容量法、燃焼赤外吸収法で、二酸化硅素(SiO₂)、酸化アルミニウム(Al₂O₃)、酸化カルシウム(CaO)、酸化マグネシウム(MgO)、酸化カリウム(K₂O)、酸化ナトリウム(Na₂O)、酸化マンガン(MnO)、二酸化チタン(TiO₂)、酸化クロム(Cr₂O₃)、五酸化燐(P₂O₅)、バナジウム(V)、銅(Cu)、二酸化ジルコニウム(ZrO₂)はICP(Inductively Coupled Plasma Emission Spectrometer)法及び誘導結合プラズマ発光分光分析で行った。

(6)耐火度

耐火度の加熱に耐える温度とは、溶融現象が進行の途上で軟化変形を起こす状態の温度で表示することを定め、これを耐火度と呼んでいる。胎土をゼーゲルコーンという三角錐の試験片に作り、1分間当たり10℃の速度で1000℃まで温度上昇させ、それ以降は4℃に昇温速度をおとし、試験片が荷重なしに自重だけで軟化し崩れる温度を示している。

(7)X線回折

X線回折(XRD)は、井澤英二九州大学名誉教授に依頼し、九州大学地球資源工学部門のX線回折装置 理学U1timaIVを使用した。回折分析の結果を第14表に示す。X

線はCu K α_1 (40Kv、20mA)を用い、全自動モノクロメーター、発散スリット2/3°、受光スリット0.3mm、データ取得幅0.02° (2 θ)、走査速度2°/minの条件で2-65° (2 θ)を走査範囲とした。

(8) 試料の履歴と調査項目

遺物種類 金属学的な分析を行う以前に、考古学的な観察によって判定した遺物の種類である。

法量 資料の残存する最大長、最大幅、最大厚、重量を計測したものである。

磁着度 鉄滓分類用の「標準磁石」を用いて資料との反応単位を1から順に数字で表現したもので、数値が大きいほど磁性が強い。(歴博報告書第58・59集「日本・韓国の鉄製産技術」資料編国立歴史民俗博物館1994に準じた)

遺存度 資料が破片の場合、破面がいくつあるかを記す。

メタル度 特殊金属探知機によって判定された金属鉄の残留度を示すもので、最も金属鉄が依存しないものから遺存するものまで6段階に分け、「なし」、「錆化(△)」、「H(○)」、「M(◎)」、「L(●)」、「特L(☆)」と表示した。

分析 分析実施項目を○印で示す。

所見 分析前の外形や破面・断面の状況、木炭痕や気孔の有無、及び付着物やその他の状況について詳細に記す。

分析個所 資料をどのように調査・分析するか記す。

3. 調査結果

XII区1号鍛冶

TAG-19 炉壁

(1) 肉眼観察

内面上半に砂鉄焼結部の残る炉壁片である。内面の下半2/3は砂鉄焼結部より滓化が進み、小さな垂れが生じ始める。外面はやや青色に還元し、胎土にスサを大量に含む。

(2) マクロ組織

Photo. 1の①に示す。左側の白色地に黒点発生が滓化部で、右手黒褐色部が砂鉄焼結部である。

(3) 顕微鏡組織

Photo. 1の②～⑤に示す。②は製鉄原料の投入砂鉄粒子の形態を示す。0.2～0.4mm径の半還元砂鉄は、磁鉄鉱(Magnetite: Fe₂O₃・FeO)と格子組織のチタン鉄鉱(Ilmenite: FeO・TiO₂)の混在で、火山岩起源砂鉄に分類される。各砂鉄粒子の外周は還元によりウルボスピネル

(Ulvöspinel: 2FeO・TiO₂)が晶出し始める。④は胎土である。微細な鱗片状粘土鉱物のセリサイト(sericite)と0.2mm以下の石英破片が微量存在する。石英に高温クラックの痕跡が無いので、この部分の被熱は軽度である。1000℃を超えたであろうか。

(4) ビッカース断面硬度

Photo. 1の③は磁鉄鉱砂鉄粒子の硬度測定の際の圧痕を示す。値は530Hv・300gfであった。磁鉄鉱の文献硬度値は542～592Hvであり(2)、僅かに下限値を切るが磁鉄鉱粒子で大過ない。⑤は溶融ガラスの圧痕で、588Hv・500gfが得られた。ガラスの文献硬度値は639～884Hvである。軟質傾向は風化の影響であろうか。

(5) 化学組成分析

滓化部分を避けた胎土側の分析である。試料の強熱減量(Ig loss)は、4.23%と熱影響を受けて結晶構造水がかなり飛散したものであった。鉄分(Fe₂O₃)は3.58%と高値でなく、軟化性は適度に保つ。57.18% SiO₂は花崗岩起源の土壌に比べて少なく、20.07% Al₂O₃が高い値で、かつ2.20% MgO、3.05% CaO、3.08% Na₂Oも高く、0.89% K₂Oは低い。当胎土の性格は、安山岩質の火山岩が起源の表土の様である(井澤英二先生コメント)。塩基性成分(CaO+MgO)は5.25%と高く、製鉄炉壁としては溶剤働きが見込まれて有利な選択と考えられる。ただし耐火度は若干低下するだろう。

(6) 耐火度

1120℃以下の数値である。小型自立炉(西浦北型)の炉壁として使用に耐えうる性状と見做される。

(7) X線回折

石英(SiO₂)、クリストバライト(SiO₂)、斜長石[(Na, Ca)(Si, Al)AlSi₂O₈]、カリ長石[KAlSi₃O₈]と微量の磁鉄鉱からなる。ガラスは少量生成している。被熱の状況は、クリストバライトが生成していることから、1000℃を超えたと推測される。

TAG-20 送風管

(1) 肉眼観察

平面が不整形形状の小型自立炉(西浦北型)の送風管(羽口)の破片の可能性をもつ。外面長軸方向にナデ整形。厚さ1.9cmとやや薄手。胎土はきめ細かく、石英質の白色粒を含む。

(2)マクロ組織

Photo. 1 の⑥に示す。断面の全体が素地を構成する微細な鱗片状粘土鉱物に0.05mm以下の石英破片が微量点状に散在する。比較的低温で焼成されている。胎土の溶融滓化の傾向は全く認められない。

(3)顕微鏡組織

Photo. 1 の⑦⑧に示す。粘土鉱物セリサイトや石英片に加熱変化を残さない。後述X線回折によりクリストバライト(cristobarite: SiO_2)の挙動が明らかになり焼成温度の予測も詳らかになる。

(4)化学組成分析

試料の強熱減量(Ig loss)は10.43%と高く、結晶構造水の飛散は認められない。鉄分(Fe_2O_3) 3.96%は特別多くはなく軟化性は確保される。54.58% SiO_2 は少なく、20.83% Al_2O_3 は高い。また、2.29% CaO 、1.68% MgO 、1.91% Na_2O も多く、0.69% K_2O は少ない。前述炉壁胎土に近似した組成から安山岩質火山岩起源土壌と共通する。塩基性成分($\text{CaO}+\text{MgO}$)は3.97%と炉壁胎土(5.25%)より低下する。耐火度に対して有利な成分組成である。意識した成分配合であろうか。

(5)耐火度

1190℃と炉壁胎土の1120℃以下よりも僅かながら高温側に移る。塩基性成分の寄与するところであろうか。

(6)X線回折

クリストバライト、石英、斜長石、カリ長石からなる。ガラスが生成している。石英は残存しているものの、大部分はクリストバライトに転移している。

TAG-21 流動滓

(1)肉眼観察

2段流動滓である。上段が厚手で下段は薄い。上下側面は生きており、左側面が欠けている。表皮の色調は暗紫紅色で、部分的に黒褐色となる。上段の上面に流れ皺があるが、狭い間隔で重層しており、上段に乗る流動滓はやや粘性が高い。下段の下面は左右方向に向かう浅い桶状を呈する。破面に見られる滓質は緻密で、光沢のある灰褐色である。内面には部分的に気孔が散在する。

(2)マクロ組織

断面全体像をPhoto. 2 の①に示す。滓質はほぼ均等で上・下面の性状差は認められない。

(3)顕微鏡組織

Photo. 2 の②～⑤に示す。②は平均的な鉱物相である。淡茶褐色多角形結晶のウルボスピネル(Ulvöspinel: $2\text{FeO}\cdot\text{TiO}_2$)と白色粒状結晶のウスタイト(wüstite: FeO)、こちらは粒内に微小ウルボスピネルを析出。これらの間隙に淡灰色盤状結晶のファヤライト(fayalite: $2\text{FeO}\cdot\text{SiO}_2$)が埋める。火山岩砂鉄起源の製錬滓の典型的な晶癖である。③は上段流動滓表皮に付着した磁鉄鉱砂鉄である。未溶解0.15mm径の粒子が計測された。

(4)ビッカース断面硬度

Photo. 2 の③は付着砂鉄の硬度測定の際の圧痕である。硬度値は557Hv・200gfであった。磁鉄鉱(マグネタイト)の文献硬度値は505～592Hvであり、この範疇に収まる。④は代表鉱物相の淡茶褐色多角形結晶で、値は729Hv・300gfを呈する。文献にはウルボスピネルの硬度値範囲の明記がないがマグネタイト地にチタン(Ti)を固溶するので、600Hv以上ならばウルボスピネルで大過ない。経験則でもある。⑤は白色粒状結晶の硬度圧痕である。520Hv・100gfが得られた。ウスタイト文献硬度値の446～503Hvの上限を僅かに超えるが、チタン固溶結晶なので妥当な値と考える。

(5)化学組成分析

流動滓は7.07% TiO_2 、0.25% Vと砂鉄特有成分のチタン、バナジウムに富む。34.43%全鉄分(Total Fe)は低値寄り、造滓成分($\text{SiO}_2+\text{Al}_2\text{O}_3+\text{CaO}+\text{MgO}+\text{K}_2\text{O}+\text{Na}_2\text{O}$)の42.93%台は火山岩起源砂鉄原料の製錬滓分類ではない。顕微鏡観察のウルボスピネル鉱物相の対応もとれた。

(6)X線回折

構成鉱物は主に磁鉄鉱とキルシュスタイナイト[CaFeSiO_4]からなり、微量の石英が存在する。磁鉄鉱はウルボスピネルとの中間組成に相当するチタン磁鉄鉱である。キルシュスタイナイトはファヤライト[Fe_2SiO_4]: $2\text{FeO}\cdot\text{SiO}_2$ 成分を25%ほど含んでいる。ガラスは少量である。

TAG-22 流動滓

(1)肉眼観察

流れの良い重層流動滓の破片である。上下面及び下側面が生きており、表皮は平滑で、部分的に流れ皺の痕跡

を残す。表皮色調は暗紫紅色で、部分的な黒褐色を呈する。下面表面には灰褐色の炉壁粉が薄く固着。破面滓質は緻密で内面上部に気孔が散在する。

(2)マクロ組織

Photo. 2の⑥に示す。断面は均等な鉍物相を有し、偏析は殆んど認められない。

(3)顕微鏡組織

Photo. 2の⑦⑧に示す。主要鉍物はウルボスピネルとウスタイト、これにファヤライトが加わる。前述TAG-21流動滓と同系鉍物であるが、こちらの各結晶は小型で炉内滞留時間が短く十分に成長しきっていない。火山岩砂鉄起源の製錬滓である。

(4)ピッカース断面硬度

Photo. 2の⑧に淡茶褐色多角形結晶の2点の硬度測定印痕を示す。値は742Hv・200gfと708Hv・200gfであった。ウルボスピネルに同定できる。

(5)化学組成分析

38.05%全鉄分(Total Fe) -7.24% TiO₂-0.25% V組成は火山岩砂鉄起源の製錬滓に分類できる。前述TAG-21流動滓と同系は顕微鏡組織の鉍物相と共通する。

小結

小型自立炉の炉壁胎土は、安山岩質火山岩起源の表土が使用される。57.18% SiO₂は花崗岩起源の土壌に比べて少なく、アルミナが20.07%と高く、かつ2.20% MgO、3.05% CaOも高値で、0.89% K₂Oは低い。溶剤効果の塩基性成分(CaO+MgO)は多めの5.23%で耐火度は<1120℃を保つ。一方通風管は同系土壌ながら塩基性成分(CaO+MgO)は3.97%と低下し、耐火度は1190℃と僅かに上昇する。経験則による技術力か。流動滓はウルボスピネル+ウスタイトの鉍物相で、7.0%台TiO₂-0.25% Vの中チタン火山岩起源砂鉄原料の製錬滓に分類できた。

VII区1号鍛冶

TAG-23 椀形鍛冶滓

(1)肉眼観察

平面が不整円形をした大型(1219.1g)のほぼ完形椀形鍛冶滓である。上面は二段気味で、中央部にひと回り小さな薄手の椀形鍛冶滓が乗ったような形状である。内部から錆が滲み出ており、全体に鉄部を含有している。中央やや左の上面に比較的金属鉄が多く残存している。滓

全体が酸化土砂に覆われている。滓質は密で比重は高い。表面に細かい木炭痕が確認できる。顕微鏡観察は滓部(S)と金属鉄部(M)の2ヶ所より採取した。

TAG-23- (S)滓部分

(2)マクロ組織

Photo. 3の①に示す。滓部断面は気孔少なく緻密で鉍物相の偏析も少ない均等質であった。

(3)顕微鏡組織

Photo. 3の②③に示す。鉍物相は白色粒状結晶のウスタイトで粒内に微細ウルボスピネルを析出する。これに淡灰色盤状結晶のファヤライトで構成される。荒鉄の除滓処理を目的とした精錬鍛冶滓の晶癖である。

(4)ピッカース断面硬度

Photo. 3の③に白色楕円状結晶の硬度測定印痕を示す。硬度値は366Hv・100gfと低値である。鉍物結晶構造はウスタイトに想定できるが、文献硬度値の446Hv～503Hvの下限値を大きく外れる。風化起因の異常値であろう。

TAG-23- (M) 金属鉄部分

(2)マクロ組織

Photo. 3の④に示す。滓断面には除滓処理に際して残留した4～5mmの金属鉄(銀白色)が2ヶ所に隣接して認められる。

(3)顕微鏡組織

Photo. 3の⑤～⑧にナイトル(5%硝酸アルコール液)で腐食(etch)した組織を示す。⑤⑧はフェライト(ferrite: α鉄、純鉄)地に黒色層状のパーライト(Pearlite)を少量析出した亜共析鋼(<0.77% C)である。⑥⑦は炭素(C)を殆んど含有しないフェライト単相に近い極低炭素鋼(<0.005% C)で、軟質鉄素材の確保が推定される。

(4)ピッカース断面硬度

Photo. 3の⑥～⑧に示す。⑥はフェライト単相部の硬度印痕である。値は82.9Hv・200gfは組織に見合った妥当な数値であろう。⑦は微量パーライト部の印痕で104Hv・100gfが得られた。⑧は2点の硬度値を示す。左側はフェライト・パーライト組織で103Hv・200gfで左程問題はない。右側はパーライト狙いで、印痕が若干フェライトに食い出す。値は165Hv・100gfと低値傾向にある。パーライトの正常経験則は230Hv前後である。フェライト側への食い出しと風化による誤差と推定される。

(5)化学組成分析

滓と金属鉄を込みにした定量分析値である。製鍊滓に比べると全鉄分(Total Fe) 48.63%と多く、金属鉄(metallic Fe)も1.0%を含む。脈石成分は鍛冶滓の除滓反応から2.08% TiO₂、0.11% Vと低減する。同じくマンガンも0.50%から0.14% MnOと変化をみる。成分値からも精鍊鍛冶への分類は支障ない。

TAG-24 鉄塊系遺物

(1)肉眼観察

平面が不整楕円形をした小塊状(186.6g)の鉄塊系遺物である。表面は赤褐色土砂に覆われ、放射割れを発生。比重は高い。

(2)マクロ組織

Photo. 4の①に示す。断面の大部分は銀白色の金属鉄ながら、外周部と中核部の一部は茶褐色で錆化が進む。小割鉄塊の可能性をもち、表皮スラグは残さない。

(3)顕微鏡組織

Photo. 4の②～⑨に示す。②③は外周部の錆化層である。錆化淡褐色はパーライト地で白色網目状初析セメントタイト痕跡を残す。過共析鋼(>0.77% C)である。④～⑨は金属鉄部をナイトル腐食した組織を示す。こちらも黒色層状パーライトと白色板状初析セメントタイトで構成される。局部組織として⑤の中央に約5μm径の黄褐色非金属介在物の硫化鉄(FeS)を検出。この硫化鉄の周囲には点状相のFe-Fe₃C-Fe₃P共晶であるステダイト(steadite)が白くみえる。ともかくもほぼ断面全体が過共析鋼の刃である。農工具類は軟鉄(TAG-23含鉄部分)と当刃の組合せで、鋭利鉄器の製作があった事が推定される。

(4)ビッカース断面硬度

⑧⑨は硬度測定の前痕跡を示す。⑧は2点の測定結果である。左側の黒色層状部は318Hv・200gfと硬い。右側の白黒斑部は247Hv・200gfで軟らかい。単層でなく、フェライト混りの影響と読める。⑨は3点の硬度値を示す。左側と上部の黒色層状部は、前者で221Hv・300gfと後者の187Hv・300gfとバラツキをもちパーライト地である。中央の白色板状組織は硬質で449Hv・300gfで初析セメントタイトである。ここでは硬度値の相対的な比較検討ができた。

(5)化学組成分析

鉄塊系遺物の中央部は金属鉄を残すが、全体的には錆化が進む。分析は酸化物定量に頼らざるを得ない。45.05%全鉄分(Total Fe)に対して金属鉄(metallic Fe)は3.71%、酸化第2鉄(Fe₂O₃)が増加して52.29%を占める。砂鉄特有成分は0.31% TiO₂-0.02% Vと低減傾向が著しい。

小結

Ⅶ区1号鍛冶は除滓や鉄素材の成分調整を目的とした精鍊鍛冶工房の可能性をもち、鍛冶滓の含鉄部分や鉄塊系遺物の炭素含有量からみて、軟・硬組合せの鋭利鉄器の製作が肯定できる。

Ⅶ区18号住居

TAG-25 鉄塊系遺物

(1)肉眼観察

平面が不整楕円形をした小塊状(168.8g)の鉄塊系遺物である。表面は茶褐色酸化土砂に覆われている。比重が高く放射割れが発生し、金属鉄の遺存が予測される。

(2)マクロ組織

Photo. 5の①に示す。厚く酸化土砂に覆われた内部は銀白色の金属鉄が点蝕を受けつつも残存する。なお鉄塊表皮には、僅かに滓や砂鉄粒の付着が認められる。製鍊系鉄塊の搬入の可能性が指摘できる。

(3)顕微鏡組織

Photo. 5の②～⑨に示す。②③は付着砂鉄である。③は格子状組織をもちチタン鉄鉱粒子(Ilmenite: FeO・TiO₂)で0.15mm径と観察できる。④は鉄塊の表皮スラグで、微小結晶のウルボスピネルがデンドライト状に晶出する。灰白色卵状結晶は錆化鉄粒である。前述TAG-21、22の流動滓の鉱物相に近似する。⑤はFe-Fe₃C-Fe₃P共晶ステダイトで、⑥は燐偏析を伴う過共析鋼(>0.77% C)域であり、⑦の燐偏析である。金属鉄はパーライト地にフェライトを伴う亜共析鋼(<0.77% C)に分類される。

(4)ビッカース断面硬度

Photo. 5の⑧の硬度測定箇所は黒色層状組織のパーライト地で、値は156HV・200gfと若干軟質傾向を呈した。⑨はフェライト地でパーライト析出の少ない箇所ながら、硬度値は195HV・500gfと硬質であった。風化による材質変調が起きたのだろうか。

(5)化学組成分析

該品も酸化物定量分析を実施した。全鉄分(Total Fe)は47.60%に対して、金属鉄(metallic Fe)が1.48%、酸化第2鉄(Fe₂O₃)は多くて54.28%を占める。砂鉄特有成分の二酸化チタン(TiO₂)は僅かに高めの0.58%は表皮スラグや付着砂鉄の影響であろう。

小結

18号住居は9世紀第1～3四半期と他の10世紀以降の遺構より若干推定年代の遡る遺構である。床面直上出土の当鉄塊系物は、製錬系鉄塊が鍛冶原料として搬入された証になろう。炭素含有量はバラツキをもつ亜共析～過共析鋼であった。

VI区1号鍛冶

TAG-26 椀形鍛冶滓(大)

(1)肉眼観察

平面は不整楕円形をした大型椀形鍛冶滓(922g)のほぼ完形品である。全体に鉄分が多く、内部より錆が滲みでる。上面中央に比較的金属を多く残存する。滓の一部は酸化土砂に覆われている。滓質は密で比重は高い。表面に細かい木炭痕が多く確認できる。

(2)マクロ組織

Photo. 6の①に示す。断面は小気孔を発生した滓部に錆化鉄が点在する。滓には特別大きな偏析は認められない。

(3)顕微鏡組織

Photo. 6の②③に示す。主要鉱物相はウスタイトとその粒内に茶褐色微細Ti析出物を含む結晶と、淡灰色盤状結晶のファヤライトである。表層には白色粒状ウスタイトと淡褐色多角形結晶のヘルシナイト(鉄スピネル:FeO・Al₂O₃)が晶出する。当椀形鍛冶滓は除滓や成分調整を目的とした精錬鍛冶滓に分類される。

(4)ビッカース断面硬度

Photo. 6の③に白色デンドライト状結晶の硬度測定の影響を示す。硬度値は463Hv・100gfが得られた。文献硬度からみてウスタイトに同定できる。

(5)化学組成分析

肉眼観察では含鉄椀形滓の可能性を提示したが、検鏡結果と化学組成からはメタルの存在は不明瞭となる。全鉄分(Total Fe)は48.88%に対して、金属鉄(metallic Fe)は0.30%と低値で、酸化第2鉄(Fe₂O₃)も27.55%と多く

ない。砂鉄特有成分の1.74% TiO₂、0.12% Vは精錬鍛冶滓レベルを保持する。

TAG-27 鉄塊系遺物

(1)肉眼観察

平面は不整三角形の鉄塊遺物である。表面は赤褐色の酸化土砂に覆われ、大きな放射割れを発生。比重は高く金属鉄を残す。

(2)マクロ組織

Photo. 6の④に示す。断面は厚く酸化土砂に覆われた内部に大部分は錆化するが、左上部に僅かに金属鉄が遺存する。少量の表皮スラグを付着。

(3)顕微鏡組織

Photo. 6の⑤～⑧に示す。⑤は表層付着の鍛造剥片(注3)である。表層白色へマタイト(Fe₂O₃)、中間色淡灰白色のマグネタイト(Magnetite: Fe₃O₄)、内層は非晶質ウスタイト(FeO)の三層分離剥片が辛うじて読み取れる。⑥⑧はナイトル腐食後の金属組織を示す。⑥は白色針状結晶の初析セメントイトで、素地は黒色層状パーライトから過共析鋼(>0.77% C)、⑧は全面パーライトの共析鋼(0.77% C)と炭素(C)に若干のバラツキをもつ鋼であった。⑦は表皮スラグのウスタイトであり、当鉄塊は鍛冶系に分類できる。

(4)ビッカース断面硬度

⑦は表皮スラグの白色粒状結晶の硬度測定の影響を示す。値は453Hv・100gfでウスタイトに同定できる。⑧は全面パーライト晶出の金属鉄で、硬度値は273Hv・200gfを得た。組織に見合った妥当な数値である。

(5)化学組成分析

酸化物定量である。全鉄分(Total Fe) 53.30%に対して、金属鉄(metallic Fe) 2.59%、大部分は酸化第2鉄(Fe₂O₃)で49.86%を占める。砂鉄特有成分二酸化チタン(TiO₂) 0.30%、バナジウム(V) 0.02%と低値である。鉄塊系遺物の分類で大過ない。

TAG-28 羽口

(1)肉眼観察

鍛冶羽口の先端部片。内径2.2cm、厚さ2.6～3.4cmと厚手。胎土はややきめ細かい。先端部は平坦に溶損。

(2)マクロ組織

Photo. 7の①に示す。断面素地は溶化・侵食なしの粘土鉱物に石英破片と砂鉄粒子が極めて微量で存在する。

(3)顕微鏡組織

Photo. 7の②③に示す。微細な鱗片状粘土鉱物セリサイトに白色石英片(0.1mm径以下)と淡灰白色砂鉄(0.2～0.5mm径)が混在する。

(4)化学組成分析

胎土分析である。強熱減量(Ig loss)は7.79%を確保しているが、一部の結晶構造水の飛散は免れない。しかし、20.94% Al_2O_3 -1.37% Na_2O 組成は前述炉壁(TAG-19)や送風管(TAG-20)に近似して、安山岩質火山岩起源表土と類推できる。また砂鉄粒子の混入は0.8% TiO_2 の成分値から裏付けられる。なお、塩基性成分($CaO+MgO$)は6.40%と高値で高耐火度は望めない。

(5)耐火度：1120℃以下である。前述炉壁(TAG-1)と大差なく、在地炉材の充当と考えられる。

(6)X線回折：図4に示す。構成鉱物はクリストバライトと斜長石からなる。ガラスが生成している。石英はすべてクリストバライトに転移している。1000℃を超える被熱と推測される。

TAG-29 羽口

(1)肉眼観察

鍛冶羽口の先端部片。内径2.3cm、厚さ2.5～2.9cmとやや厚手。胎土は粗粒で、石英質の白色粒を多く含む。先端部が水平に溶損する。

(2)マクロ組織

Photo. 7の④に示す。断面胎土は溶損先端に隣接して滓化はないが、高温の影響から焼結層となる。

(3)顕微鏡組織

Photo. 7の⑤～⑧に示す。胎土と滓の2個所を撮影対象とした。⑤は滓に付着した木炭片である。木材組織は研磨面が無作為から樹種同定は難しい。大方の見当では、環孔材の黒炭までは発言できようか。⑥は胎土の粘土鉱物セリサイトで、高温被熱から非晶質化に向う。これに0.1mm径未満の砂鉄：磁鉄鉱が点在する。⑦⑧は羽口先端溶着スラグの鉱物相を示す。淡茶褐色多角形結晶のウルボスピネル、白色粒状結晶のウスタイト(粒内析出Ti酸化物)が晶出する。前述流動滓(TAG-21、22)に酷似組織であり、製錬滓とも判別されそうである。品位の低い

鉄塊の除滓処理を施した羽口と分類すべきであろう。

(4)ビッカース断面硬度

Photo. 7の⑦⑧に滓鉱物相の硬度測定の影響を示す。⑦の淡茶褐色多角形結晶は692Hv・200gfからウルボスピネル、⑧の白色デンドライト結晶は517Hv・100gfからウスタイトに同定される。

(5)化学組成分析

強熱減量(Ig loss)は1.69%と少なく、結晶構造水の大部分が飛散した胎土分析である。53.12% SiO_2 と21.11% Al_2O_3 組成は安山岩質火山岩起源表土と見做され、塩基性成分($CaO+MgO$)は6.12%も多く、かつ1.13% TiO_2 と胎土に砂鉄を含むところは、前述羽口(TAG-28)の化学組成に近似する。炉材産地は共通する可能性大と考えられる。

(6)耐火度

化学組成に対応した<1120℃であった。

(7)X線回折

構成鉱物はクリストバライトと石英、斜長石、カリ長石からなる。ムライト(mullite： $3Al_2O_3 \cdot 2SiO_2$)と少量のガラスも生成している。

TAG-30 羽口

(1)肉眼観察

鍛冶羽口の先端部破片。内径2.7cmとやや大きめ。厚さ1.2～1.3cmと薄め。胎土は粗粒。先端部が凸状に溶損している。

(2)マクロ組織

Photo. 8の①に示す。断面の大部分は熱影響を殆んど受けていない原質層である。胎土は黒点砂鉄粒子と微細白色石英破片が認められる。

(3)顕微鏡組織

Photo. 8の②③に示す。②は微細な鱗片状粘土鉱物セリサイト素地で、これに0.2～0.4mm砂鉄(写真中央白色粒)と0.02mm前後の石英破片で構成される。③はセリサイトに大粒石英破片構成の視野である。

(4)化学組成分析：熱影響が殆んど無い胎土で、強熱減量(Ig loss)は10.06%と大きい。47.67% SiO_2 の低値と19.97% Al_2O_3 高値から安山岩質火山岩起源表土で、塩基性成分($CaO+MgO$)は8.17%を含む。0.92% TiO_2 は砂鉄含みで前述(TAG-28、29)の化学組成に近似する。三者は同

系炉材と認定できる。

(5)耐火度

化学組成と齟齬はなく耐火度は $<1120^{\circ}\text{C}$ であった。

(6)X線回折

構成鉱物はクリストバライトと石英、斜長石、カリ長石からなる。ガラスも生成している。

TAG-31 椀形鍛冶滓(小)

(1)肉眼観察

平面は不整楕円形をした小型(148.6g)のほぼ完形の椀形鍛冶滓である。上面左半は羽口頸部起源の粘土質溶解物が付着している。上面左端部の欠損面は羽口頸部との溶着の痕跡か。欠損部からは内部の気泡が多く観察されるが、滓の比重は高く、滓質は密である。上面下半と下面に酸化土砂が付着している。上面右上の破面に光沢のある緑色の微細遺物がある。

(2)マクロ組織

Photo. 9の①に示す。該品は故鉄(iron scrap)処理滓の可能性が高い。故鉄はゲーサイト(goethite: $\alpha\text{-FeO}(\text{OH})$)からなる棒状鉄器断面輪郭(内部空洞化)が②③と④⑤では約幅5.5mm、厚み3mm、⑥⑦は約7mm角として痕跡を残存する。鉄膨れ起因で断面形状は乱れをもつ。3点の鉄器片は低炭素材にて高融点(純鉄 1536°C →铸铁4.3%で 1153°C)のため溶融しきれなかったと考えられる。故鉄の外周の鉱物相は酸化第1鉄のウスタイト(wüstite: FeO)晶出から鍛冶滓と認定できる。

(3)顕微鏡組織

Photo. 9の②～⑨に示す。3点の鉄器はゲーサイトの断面輪郭を残して内部空洞化が観察できる。鉄器表層は酸化雰囲気曝されてウスタイトを晶出している。故鉄(iron scrap)溶融まともから熱不足で外れた未消化鉄器断面痕跡が検出できた。肉眼観察で上面右上の破面に光沢のある緑色の微細遺物があると指摘したのは、銅・鉄組合せ品の溶融物の可能性があるかも知れぬ。⑧は付着木炭片の木材組織を示す。割断面(木口、柁目、板目)の方向が定かでなく、樹種同定は控えておく。⑨は白色粒状ウスタイトの拡大組織である。

(4)ビッカース断面硬度

Photo. 9の⑨にウスタイト結晶粒の2点の硬度測定の際の圧痕を示す。値は505、508Hv・100gfである。当鉱物は

ウスタイトに同定できて鍛冶滓の裏付けになる。

(5)化学組成分析

全鉄分(Total Fe)は50.15%と高く、かつ砂鉄脈石成分の0.24% TiO_2 、0.01% V、0.02% MnO 等の低減化が著しい。前述椀形滓TAG-23、26は1.74～2.08% TiO_2 、0.11～0.12% V、0.14～0.16% MnO となり、その差異は明瞭で、故鉄の高純度成分が表われる。また、0.02% Cuは従来品の0.01% Cuより僅かに上昇し、鉄・銅製品の溶融の反映を推測できよう。

(6)X線回折

構成鉱物はウスタイトとファヤライト、磁鉄鉱と微量の石英からなる。

TAG-32 羽口

(1)肉眼観察

鍛冶羽口の先端部片。内径2.7cmとやや大きめ。厚さ1.2～1.3cmと薄め。胎土は粗粒。ややきめ細かい。先端部が凸状に溶損。

(2)マクロ組織

Photo. 8の④に示す。胎土側の試料採取指示である。原質層には素焼き胎土に黒色砂鉄粒子混入と白色石英破片が目につく。当然ガラス化侵蝕層や焼結層の生成はない。

(3)顕微鏡組織

Photo. 8の⑤～⑧に示す。⑤は胎土素地を構成する微細な鱗片状粘土鉱物セリサイトに囲まれた混入生砂鉄である。その周囲には細かい石英破片が散在する。⑥は⑤の拡大組織を示す。⑦⑧はセリサイトと石英破片で、これらに高温クラック・溶融組織の痕跡は認められない。溶損部から離れた試料採取であって、この滓化なしの位置からは銅関連の羽口か否かの判別は無理である。

(4)化学組成分析

胎土の強熱減量(Ig loss)は、7.95%と比較的大きく、結晶構造水の飛散は低めの試料である。鉄分(Fe_2O_3)3.86%は軟化性に有利で、塩基性成分($\text{CaO}+\text{MgO}$)4.17%の少なさは耐火性に寄与しよう。砂鉄由来の二酸化チタン(TiO_2)の0.95%は検鏡結果に矛盾しない。該品も炉壁や送風管、更には既述羽口3点と同系の54.94% SiO_2 、21.24% Al_2O_3 組成の安山岩質火山岩起源表土に分類できる。

(5)耐火度

1190℃を確保した。前述送風管(TAG-20)に近似する。化学組成の低塩基性組成も共通項となる。

(6)X線回折

クリストバライトと石英、斜長石、カリ長石からなる。少量のガラスも生成している。微量の磁鉄鉱が認められる。

小結

VI区1号鍛冶は、微細な粒状銅滓や銅関連の坩堝が出土しており、銅・鉄複合工房と想定されている。今回の分析調査で以下に示す3点の項目から鉄鍛冶操業が認定できた。

(1) TAG-26大型椀形鍛冶滓(922g)は、鉱物相に微細ウルボスピネル含みのウスタイト(FeO)晶出、1.74% TiO₂、0.12% V組成は除滓と成分調整を目論んだ精錬鍛冶滓である。

(2) TAG-3小型椀形滓(146g)は、マクロ・ミクロ組織で、ウスタイト共に棒状鉄器断面(幅5.5mm、厚み3mmや7mm角)の痕跡を留め、故鉄(iron scrap)処理滓に分類できる。該品の緑色付着物(緑青)は銅細工を伴う廃鉄器原料に起因する可能性をもつ。通常椀形鍛冶滓は0.01% Cuが、こちらは0.02% Cuと微量増加が認められた。

(3)羽口4点の胎土組成は、12区1号製鉄炉の炉壁や送風管に近似して、安山岩質の火山岩起源の表土の使用であった。耐火度も<1120℃と1190℃で差異がない。一方、TAG-29羽口の先端溶融付着滓の鉱物相は、ウスタイト(FeO)とウルボスピネル(2FeO・TiO₂)の共存で精錬鍛冶滓を裏付けた。

まとめ

田口下田尻遺跡(VI・VII・XII区)出土の製鉄・鍛冶関連遺物の個々のまとめを第14表に示す。

(1)XII区1号鍛冶(製鉄炉)は火山岩起源中チタン砂鉄を原料とした小型自立炉(西浦北型)の操業である。流動滓の鉱物相はウルボスピネル(2FeO・TiO₂)とウスタイト(粒内微細Ti酸化物含み)を晶出し、化学組成は7.0%台TiO₂、0.25% Vレベルである。製鉄炉壁と送風管胎土は、安山岩質火山岩起源の表土で、化学組成は54.58～57.18% SiO₂と花崗岩起源の土壌(>60%)に比べて少ない。20.07～20.83% Al₂O₃は高い値を示し、MgOとCaO、

Na₂Oの値は高く、K₂Oは低い等の特徴を有す。一方、炉壁は塩基性成分(CaO+MgO)は5.25%と高く、送風管は3.97%と低下する。耐火度は前者で<1120℃。後者は1190℃であって、溶け易い炉壁は製錬時の溶剤(Flax)効果の狙いからの選択かも知れぬ。

(2)VII区1号鍛冶出土大型椀形滓(1219.1g)とVI区1号鍛冶出土滓(922.1g)の鉱物相は、微細Ti酸化物含みのウスタイトで、1.74%～2.08% TiO₂、0.11～0.12% V組成は流動滓(製錬滓)からの傾向で、両者の繋がり現われである。

(3)VI区1号鍛冶出土の小型椀形鍛冶滓(148.6g)は、マクロ・ミクロ組織で5×3mm長方形や7mm方形断面棒状鉄器の痕跡を留め、廃鉄器を原料とした故鉄(iron scrap)処理滓に認定できた。(2012年調査時でも検出している)(注4)。鉄滓表面付着の緑色(緑青)は銅・鉄組合せ廃鉄器充当の名残であろう。

(4)鍛冶原料鉄の鉄塊系遺物はVII区18号住居出土が表皮スラグに製錬鉱物ウルボスピネルを固着した垂共析鋼(<0.77% C)であった。VII区1号鍛冶の鉄塊系遺物は共析鋼～過共析鋼(>0.77% C)の釧である。この差は小型自立炉の操業改善の効果か否か興味を呼ぶ。いずれにしろ、当遺跡内の鍛冶製品は、高・低炭素量の相違ある素材の組合せから高韌性鋭利刃物の製作が窺われて、高度の鍛冶技術を擁したものと考えられる。

(5)VI区1号鍛冶は製鉄炉の炉材と同系胎土を用いた羽口であった。こちらも安山岩質火山岩起源表土の使用で、耐火度に差異はなかった。

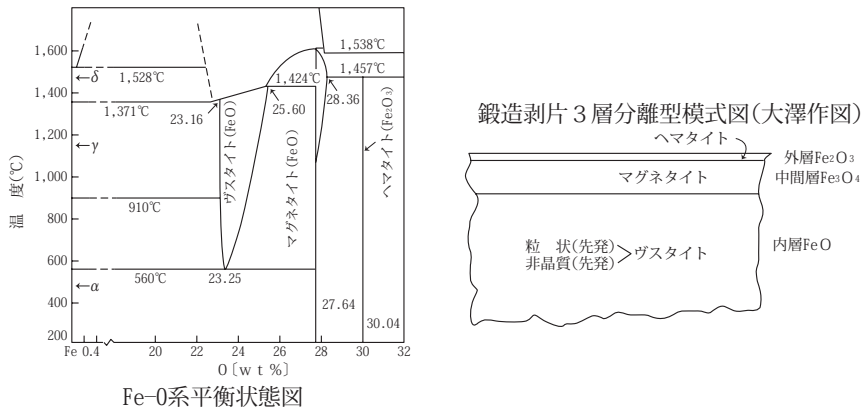
注

(1)大澤正己2012「田口上田尻遺跡出土鍛冶関連遺物の金属学的調査」『田口上田尻遺跡・下田尻遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

(2)日本学術振興会製鉄第54委員会(1968)『焼結鉄組織写真および識別法』日本工業新聞社 ウスタイトは446～503Hv、マグネタイトは505～592Hv、ファイヤライトは655～713Hvの範囲が提示されている。また、ウルボスピネルの硬度値範囲の明記がないが、マグネタイトにチタン(Ti)を固溶するので、600Hv以上であればウルボスピネルと同定している。それにアルミナ(Al)が加わり、ウルボスピネルとヘーシナイトを端成分とする固溶体となると更に硬度値は上昇する。このため700Hvを超える値では、ウルボスピネルとヘーシナイトの固溶体の可能性が考えられる。

(3)鍛造剥片とは鉄素材を大気中で加熱、鍛打したとき、表面酸化膜が剥離、飛散したものを指す。俗に鉄肌(金肌)やスケールとも呼ばれる。鍛造剥片の酸化膜相は、外層は微厚のヘマタイト(Hematite: Fe₂O₃)、中間層マグネタイト(Magnetite: Fe₃O₄)、大部分は内層ウスタイト(Wüstite: FeO)の3層から構成される。このうちのヘマタイト相は1450℃を越えると存在しなく、ウスタイト相は570℃以上で生成されるのはFe-O系平衡状態図から説明される。

第5章 自然科学分析による遺跡の理解



- (4) -①大澤正己 2012「田口上田尻・下田尻遺跡出土鍛冶関連遺物の金属学的調査」『田口上田尻遺跡・下田尻遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- (4) -②大澤正己 2014「松木田遺跡4次調査6区出土製鉄・鍛冶関連遺物の金属学的調査」『松木田5』福岡市埋蔵文化財調査報告書 第1242集 福岡市教育委員会
- (4) -③大澤正己2015「カワラケ田遺跡出土鍛冶関連遺物分析調査」『東九州自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告』-17-若見大塚古墳カワラケ田遺跡2次調査3(IV区)九州歴史資料館
- (4) -④大澤正己2016「金武古墳群第8次発掘調査出土鑄銅及び製鉄・鍛冶関連遺物の分析調査」『金武古墳群2』-第8次調査報告-福岡市埋蔵文化財調査報告書第1280集

第12表 試料の履歴と調査項目

試料番号	調査区	遺構	遺物番号	構成図No.	名称	計測値		磁着度	メタル度	調査項目							備考
						大きさ(mm)	重量(g)			マクロ組織	顕微鏡組織	ビッカース断面硬度	X線回折	EPMA	化学分析	耐火度	
TAG-19	XII	1号鍛冶	13	2	炉壁	94×87×39	185.8	-	-	○	○				○		胎土
TAG-20	XII	1号鍛冶	5	19	送風管	51×32×19	23.2	-	-	○	○				○		胎土
TAG-21	XII	1号鍛冶	35	31	流動滓	119×151×94	1787.9	-	-	○	○				○		滓
TAG-22	XII	1号鍛冶	42	38	流動滓	83×86×44	236.3	-	-	○	○				○		滓
TAG-23	VII	1号鍛冶	35	46	椀形鍛冶滓・メタル	148×130×79	1219.1	-	-	○○	○○				○○		滓、メタル断面樹脂
TAG-24	VII	1号鍛冶	45	56	鉄塊系遺物	63×48×49	186.6	-	-	○	○				○		メタル断面樹脂
TAG-25	VII	18号住居	38	84	鉄塊系遺物	57×50×37	168.8	-	-	○	○				○		メタル断面樹脂
TAG-26	VI	1号鍛冶	97	100	椀形鍛冶滓	140×117×58	922.1	-	-	○	○				○		滓
TAG-27	VI	1号鍛冶	107	108	鉄塊系遺物	39×60×35	72.8	-	-	○	○				○		メタル断面樹脂
TAG-28	VI	1号鍛冶	8	121	羽口	89×86×108	528.3	-	-	○	○				○		胎土
TAG-29	VI	1号鍛冶	21	134	羽口	60×90×86	275.8	-	-	○	○				○		胎土
TAG-30	VI	1号鍛冶	31	144	羽口	96×58×58	192.9	-	-	○	○				○		胎土
TAG-31	VI	1号鍛冶	101	175	椀形鍛冶滓	66×70×28	148.6	-	-	○	○				○		滓
TAG-32	VI	1号鍛冶	58	176	羽口	100×61×50	160.6	-	-	○	○				○		胎土

第13表 試料の組成

試料番号	調査区	遺構	名称	全鉄分 (Total Fe)	金属鉄 (Metallic Fe)	酸化第1鉄 (FeO)	酸化第2鉄 (Fe ₂ O ₃)	二酸化珪素 (SiO ₂)	酸化アルミニウム (Al ₂ O ₃)	酸化カルシウム (CaO)	酸化マグネシウム (MgO)	酸化カリウム (K ₂ O)	酸化ナトリウム (Na ₂ O)	酸化マンガン (MnO)	二酸化チタン (TiO ₂)	酸化クロム (Cr ₂ O ₃)	硫黄 (S)	五酸化燐 (P ₂ O ₅)	炭素 (C)	I _{gloss}	バナジウム (V)	銅 (Cu)	二酸化ジルコニウム (ZrO ₂)	耐火度 (°C)	造滓成分	造滓成分	TiO ₂	注
TAG-19	XII	1号鍛冶	炉壁	5.30	0.05	3.53	3.58	57.18	20.07	3.05	2.20	0.89	2.08	0.07	0.77	0.03	0.027	0.20	1.22	4.24	0.02	0.02	0.02	<1120	85.47	16.126	0.145	
TAG-20	XII	1号鍛冶	送風管	4.02	0.02	1.58	3.96	54.58	20.83	2.29	1.68	0.69	1.91	0.09	0.68	<0.01	0.027	0.28	0.41	10.43	0.01	0.01	0.01	1190	81.98	20.393	0.169	
TAG-21	XII	1号鍛冶	流動滓	34.43	0.37	34.04	10.34	22.93	7.85	6.69	3.77	0.95	0.74	0.50	7.07	0.04	0.060	0.63	0.28	-	0.25	<0.01	<0.01	-	42.93	1.247	0.205	
TAG-22	XII	1号鍛冶	流動滓	38.05	0.30	39.64	9.37	18.41	6.52	7.89	3.86	0.87	0.49	0.52	7.24	0.04	0.055	0.59	0.21	-	0.25	<0.01	<0.01	-	38.04	1.000	0.190	
TAG-23	VII	1号鍛冶	楕形鍛冶滓	48.63	1.00	39.67	24.01	16.26	5.93	2.31	1.51	0.70	0.40	0.14	2.08	0.03	0.12	0.16	0.44	-	0.11	<0.01	<0.01	-	27.11	0.557	0.043	
TAG-24	VII	1号鍛冶	鉄塊系遺物	48.05	3.71	9.98	52.29	14.72	3.95	0.69	0.64	0.31	0.39	0.06	0.31	0.02	0.27	0.13	1.65	-	0.02	0.01	<0.01	-	20.70	0.431	0.006	
TAG-25	VII	18号住居	鉄塊系遺物	47.60	1.48	10.49	54.28	14.75	3.52	0.73	1.53	0.27	0.39	0.05	0.58	0.02	0.02	0.30	0.75	-	0.02	0.01	<0.01	-	21.19	0.445	0.012	
TAG-26	VI	1号鍛冶	楕形鍛冶滓	48.88	0.30	37.06	27.55	15.74	6.09	2.00	2.30	0.41	0.27	0.16	1.74	0.04	0.055	0.29	0.32	-	0.12	0.01	<0.01	-	26.81	0.548	0.036	
TAG-27	VI	1号鍛冶	鉄塊系遺物	53.39	2.59	20.49	49.86	9.98	2.75	0.62	0.50	0.43	0.24	<0.01	0.30	0.02	0.17	0.25	0.76	-	0.02	0.02	<0.01	-	14.52	0.272	0.006	
TAG-28	VI	1号鍛冶	羽口	7.10	0.04	3.30	6.42	50.87	20.94	2.71	3.69	0.24	1.37	0.14	0.80	<0.01	0.011	0.18	0.26	7.79	0.02	<0.01	<0.01	<1120	79.82	11.242	0.113	
TAG-29	VI	1号鍛冶	羽口	8.23	0.06	3.45	7.84	53.12	21.11	3.16	2.96	0.90	1.87	0.14	1.13	0.03	0.011	0.14	0.55	1.69	0.03	0.02	0.02	<1120	83.12	10.100	0.137	
TAG-30	VI	1号鍛冶	羽口	6.77	0.04	3.16	6.10	47.67	19.97	4.00	4.17	0.51	1.39	0.13	0.92	0.01	0.028	0.12	0.62	10.06	0.02	0.02	0.01	<1120	77.71	11.479	0.136	
TAG-31	VI	1号鍛冶	楕形鍛冶滓	50.15	0.09	34.76	32.93	15.62	4.34	1.61	0.88	0.81	0.42	0.02	0.24	0.02	0.044	0.15	0.47	-	0.01	0.02	<0.01	-	23.68	0.472	0.005	
TAG-32	VI	1号鍛冶	羽口	4.28	0.08	1.94	3.86	54.94	21.24	2.33	1.84	1.36	2.07	0.05	0.95	0.03	0.022	0.16	0.24	7.95	0.02	0.01	0.01	1190	83.78	19.575	0.222	

第14表 出土遺物の調査結果

試料番号	調査区	遺構	名称	顕微鏡組織・X線回折	化学組成(%)						所見		
					TotalFe	Fe ₂ O ₃	塩基性成分	TiO ₂	V	MnO		ガラス質成分	Cu
TAG-19	XII	1号鍛冶	炉壁	is, se, g, q, C, Pl, Kf, mt	5.30	3.58	5.25	0.77	0.02	0.07	85.47	0.02	炉壁胎土は安山岩質火山岩起源の表土、火山岩起源砂鉄原料の製鉄炉、耐火度1120℃
TAG-20	XII	1号鍛冶	送風管	g, ab, Pl, se, c, q, Pl, kf	4.02	3.96	3.97	0.68	0.01	0.09	81.98	<0.01	安山岩質火山岩起源の表土、1の炉壁胎土と同系、耐火度1190℃
TAG-21	XII	1号鍛冶	流動滓	U, W(含Ti), f, mt, k, q	34.43	10.34	10.46	7.07	0.25	0.50	42.93	<0.01	火山岩起源砂鉄原料の製錬滓
TAG-22	XII	1号鍛冶	流動滓	U, W(含Ti), f	38.05	9.37	11.75	7.24	0.25	0.52	38.04	<0.01	火山岩起源砂鉄原料の製錬滓
TAG-23	VII	1号鍛冶	椀形鍛冶滓	W(含Ti), f, fe	48.63	24.01	3.82	2.08	0.11	0.14	27.11	<0.01	精錬鍛冶滓
TAG-24	VII	1号鍛冶	鉄塊系遺物	fe・P、Pec	48.05	52.29	1.33	0.31	0.02	0.06	20.70	0.01	共析組成～過共析鋼(>0.77% C)
TAG-25	VII	18号住居	鉄塊系遺物	is, fe, P, st, 滓: U, W	47.60	54.28	2.26	0.58	0.02	0.05	21.19	0.01	表皮スラグにウルボスピネルを晶出した製錬系亜共析鋼
TAG-26	VI	1号鍛冶	椀形鍛冶滓	W(含Ti)+f	48.88	27.55	4.30	1.74	0.12	0.16	26.81	0.01	精錬鍛冶滓
TAG-27	VI	1号鍛冶	鉄塊系遺物	P・C、Pec、滓: W	53.39	49.86	1.12	0.30	0.02	<0.01	14.52	0.02	鍛冶系高炭鉄塊(>0.77% C)
TAG-28	VI	1号鍛冶	羽口	is, se, c, Pl	7.10	6.42	6.40	0.80	0.02	0.14	79.82	<0.01	安山岩質火山岩起源の表土、1, 2と同系胎土、耐火度1120℃
TAG-29	VI	1号鍛冶	羽口	ms: U+W, ch, se, c, q, Pl, kf, ml	8.23	7.84	6.12	1.13	0.03	0.14	83.12	0.02	精錬鍛冶系羽口?胎土は1, 2, 10と同系、耐火度<1120℃
TAG-30	VI	1号鍛冶	羽口	is, ce, c, q, Pl, kf	6.77	6.10	8.17	0.92	0.02	0.13	77.71	0.02	胎土は1, 2, 10, 11と同系、耐火度<1120℃
TAG-31	VI	1号鍛冶	椀形鍛冶滓	gt, W, f, mt, q, 7mm角幅55×厚3mm、断面鉄器片	50.15	32.93	2.49	0.24	0.01	0.02	23.68	0.02	故鉄(廃鉄器)処理滓
TAG-32	VI	1号鍛冶	羽口	ce, c, q, Pl, kf, mt	4.28	3.86	4.17	0.95	0.02	0.05	83.78	0.01	胎土は1, 2, 10, 11, 30と同系、耐火度1190℃

is: iron sand (砂鉄)、se: sericite (微細な鱗片状粘土鉱物)、g: glass (SiO₂・Al₂O₃・CaO・MgO・Na₂O・K₂O)、q: quartz、石英(SiO₂)、
 Pl: Plagioclase、斜長石[(Na,Ca)(Si,Al)AlSi₃O₈]、U: UivöspineI (2FeO・TiO₂)、W: Wüstite (FeO)、f: fayalite (FeO・SiO₂)、fe: ferrite (純鉄、α鉄)、P: Pearlite (フェライトとセメンタイトの共析)、pec: pro-eutectoid cementite (初析セメンタイト)、
 st: steadite (Fe-Fe₃C-Fe₃P三元共晶)、C: Cementite (Fe₃C)、ms: molten slag (UlvöspineI, Wüstite)、ch: charcoal (木炭)、gt: goethite (α-FeO (OH))
 c: cristobalite (SiO₂)、クリストバライト、kf: k-feldsparカリ長石(KAlSi₃O₈)、mt: magnetite 磁鉄鉱(Fe₃O₄)、k: kirschnsteiniteキルシュスタナイト [CaFeSiO₄]、
 ml: mullite ムライト(Al₆Si₂O₁₃)

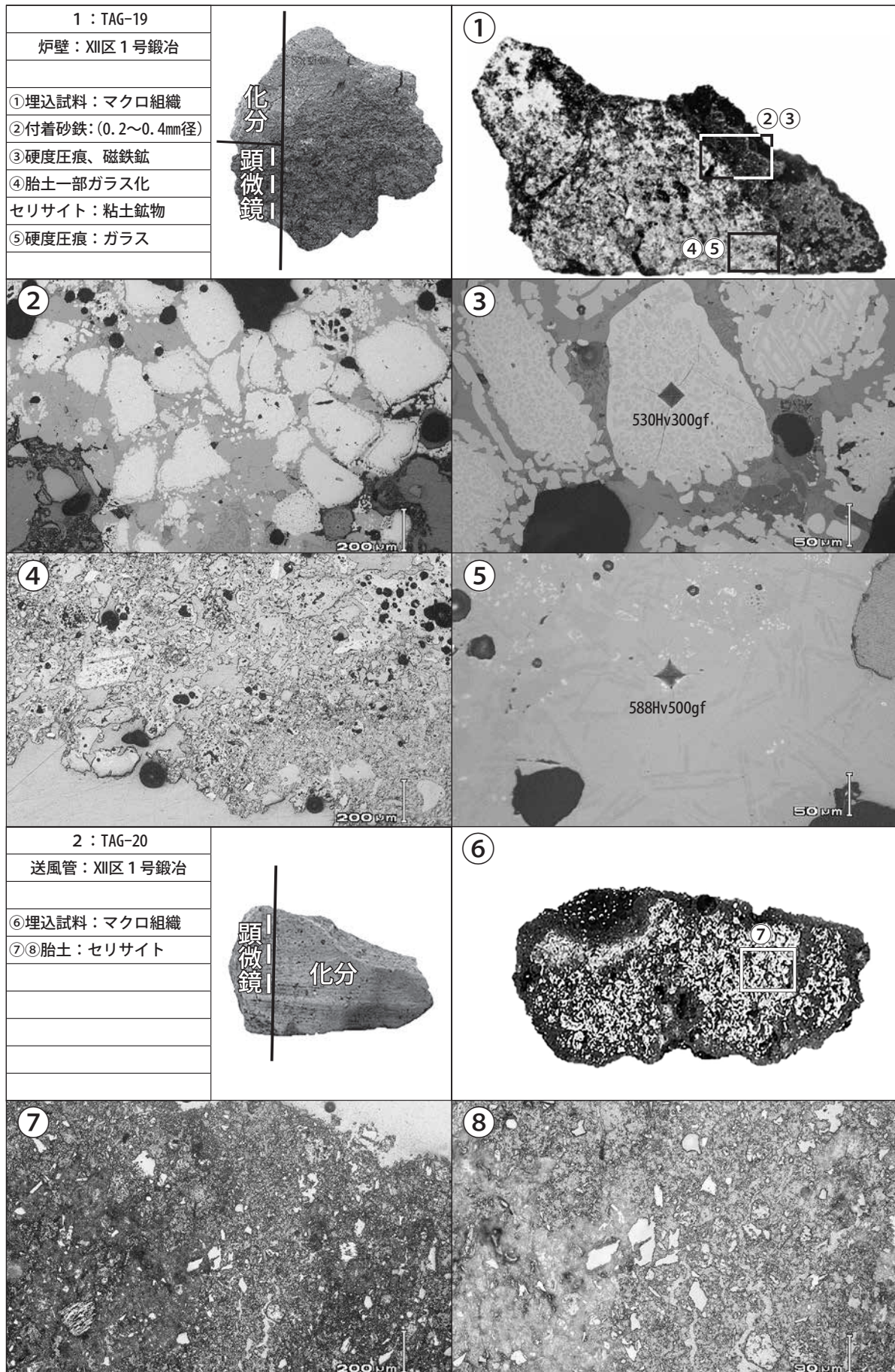


Photo. 1

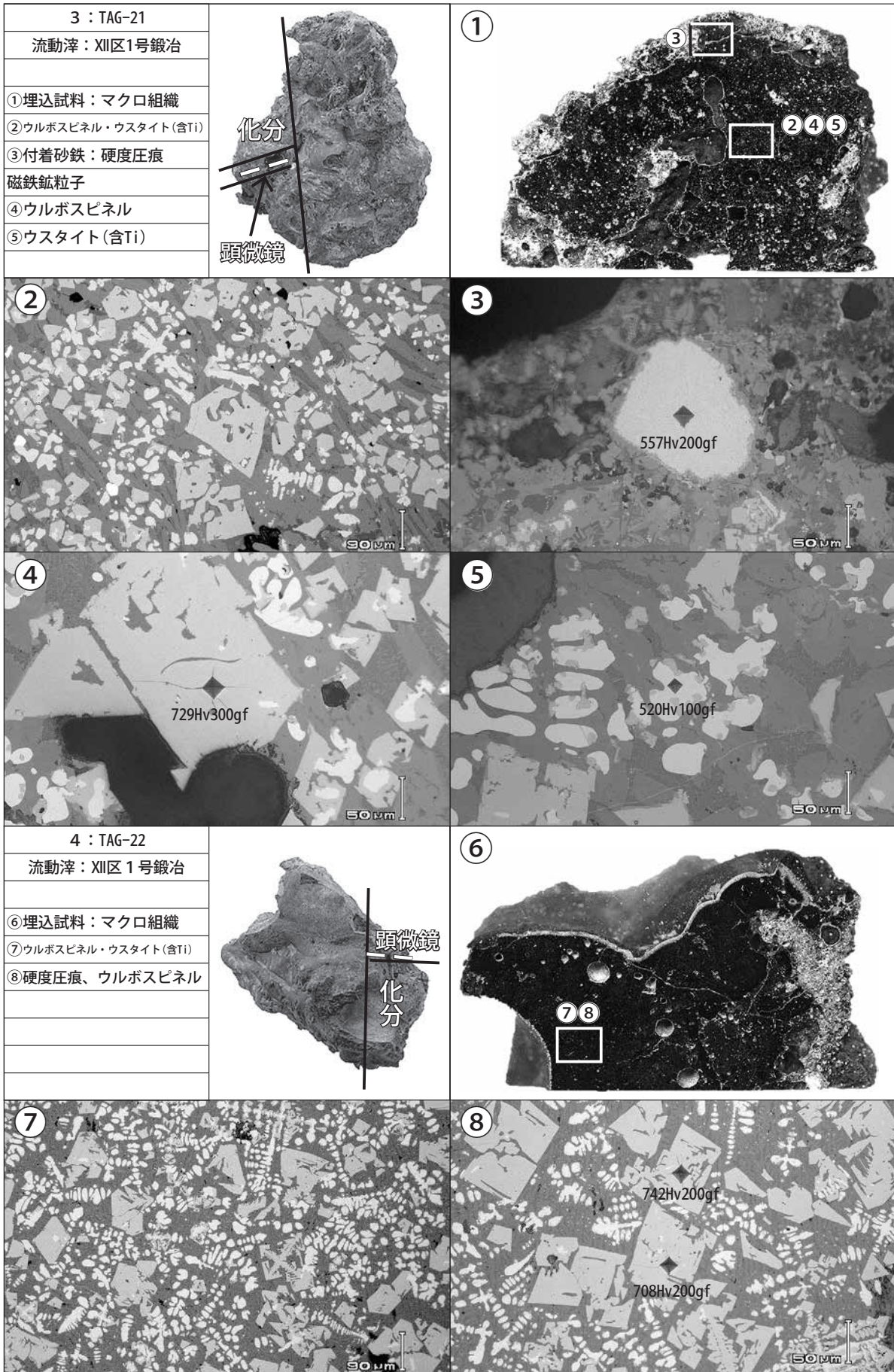


Photo. 2

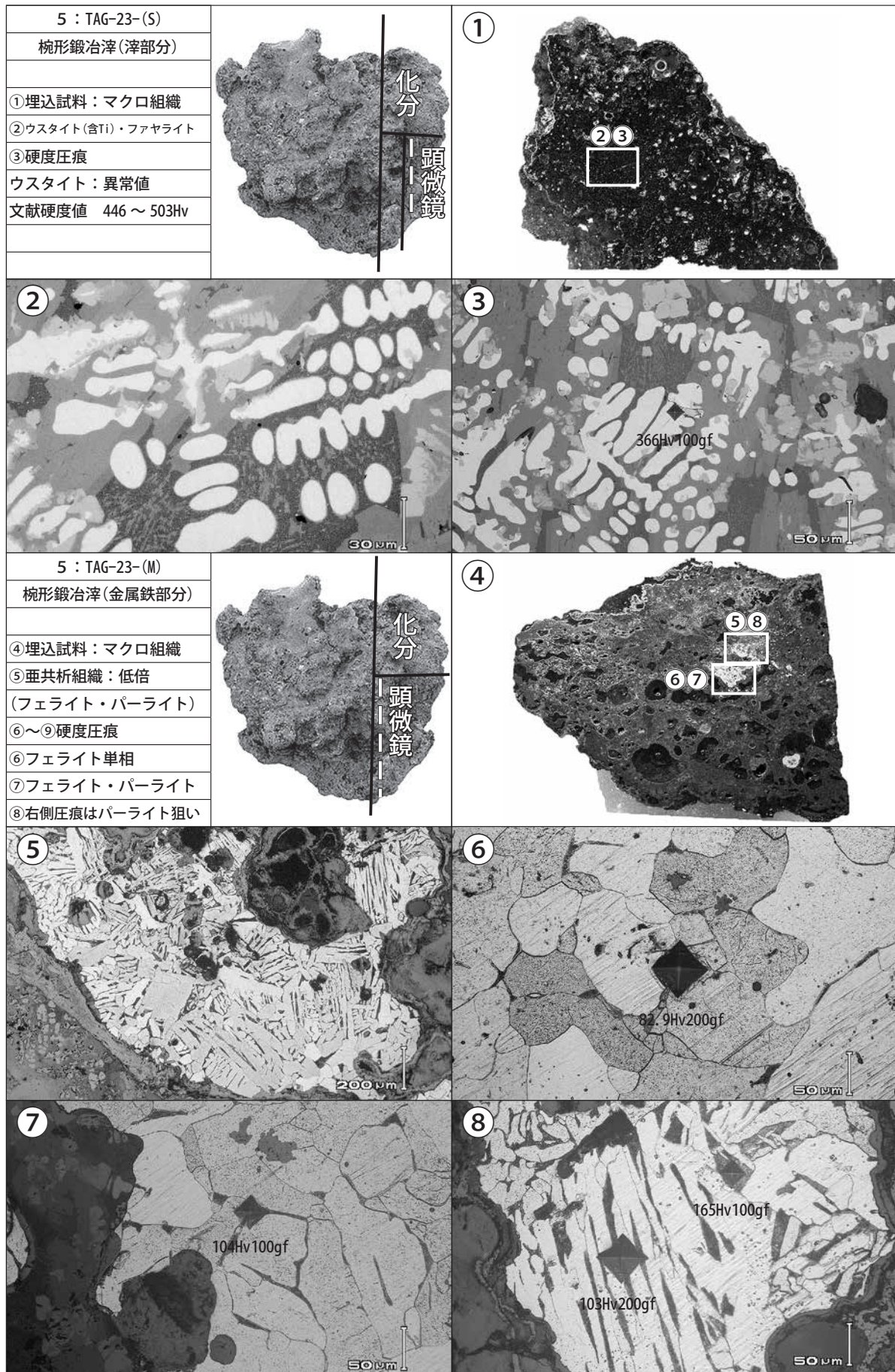


Photo. 3

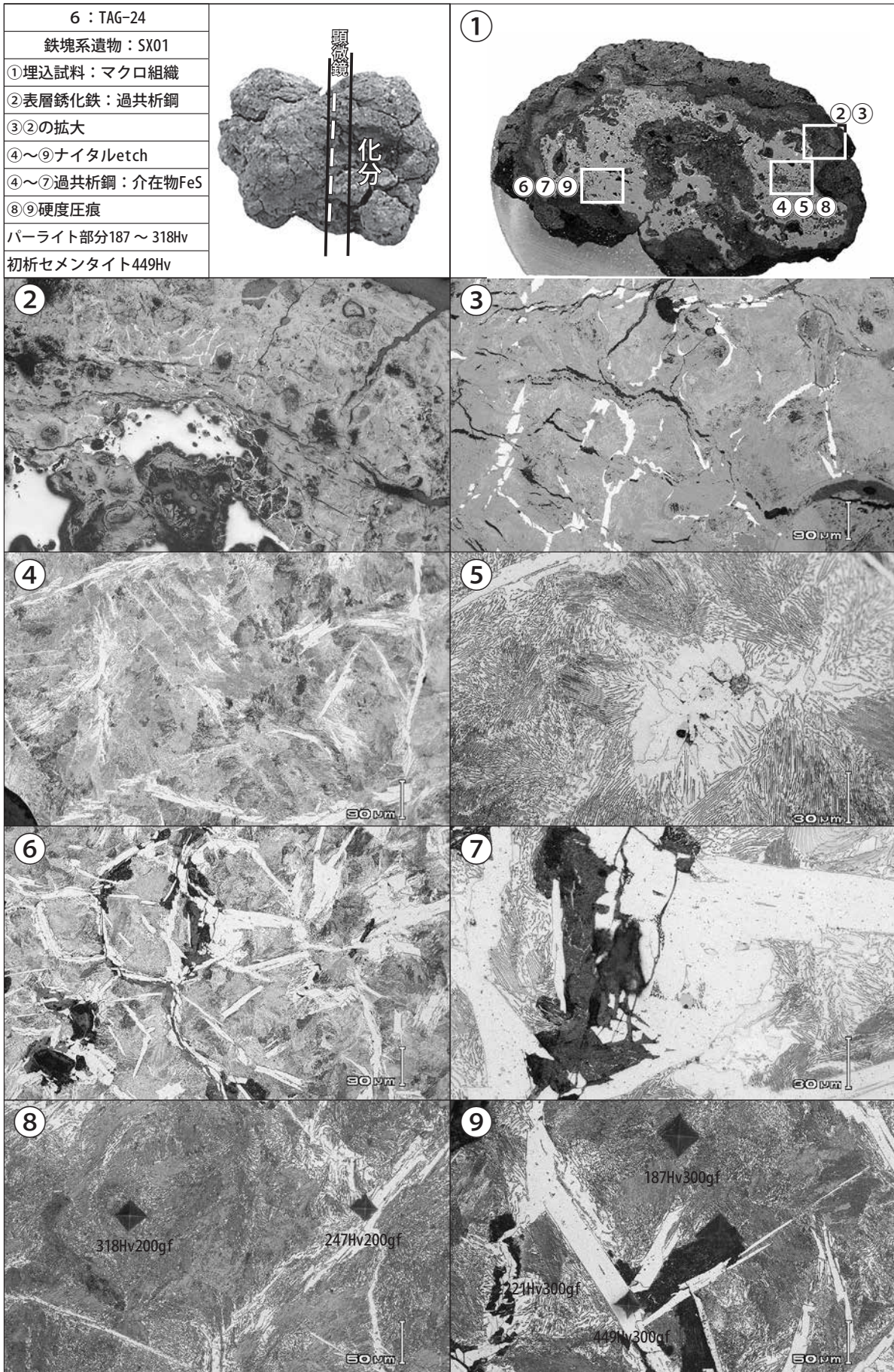


Photo. 4

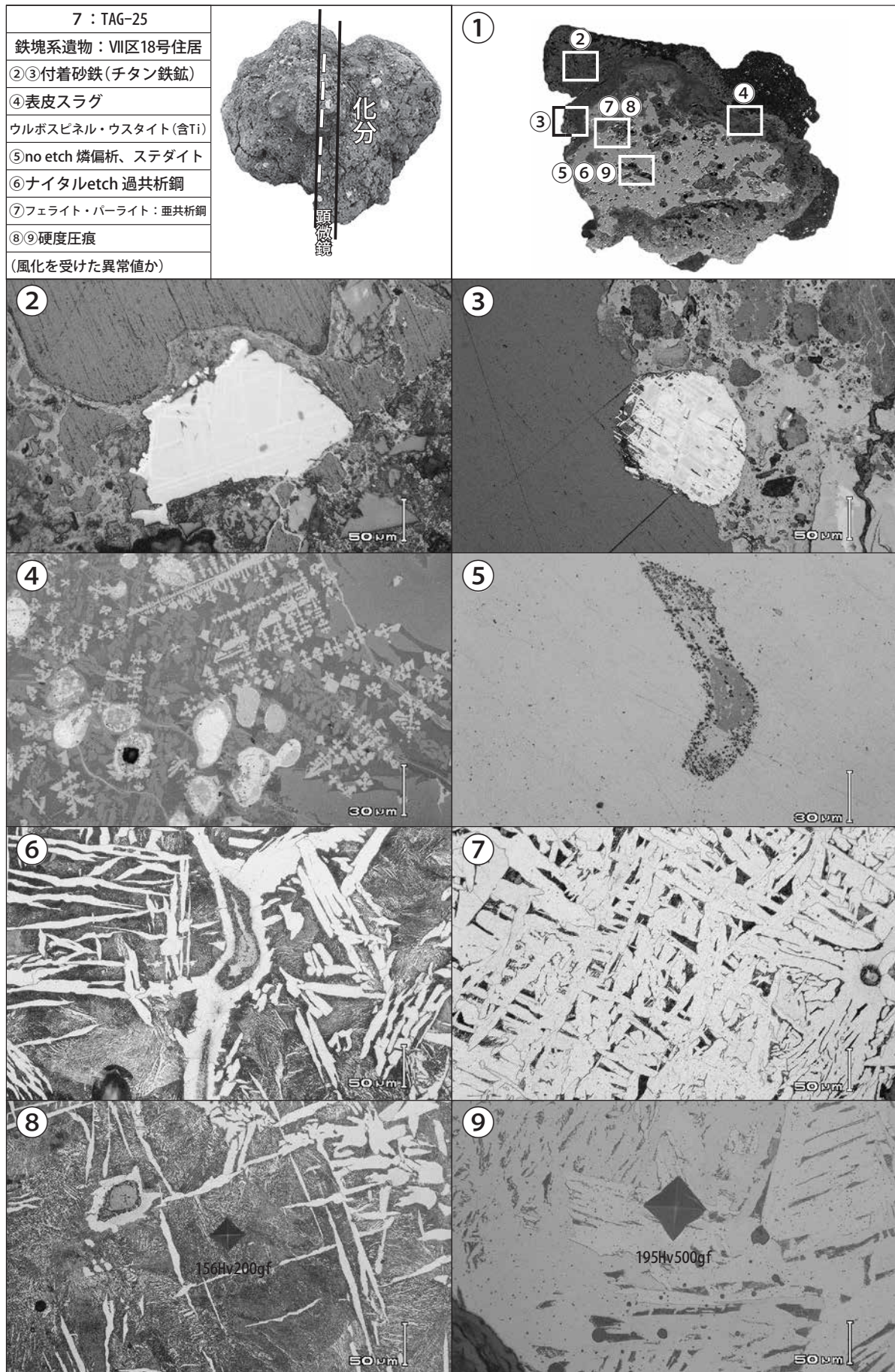


Photo. 5

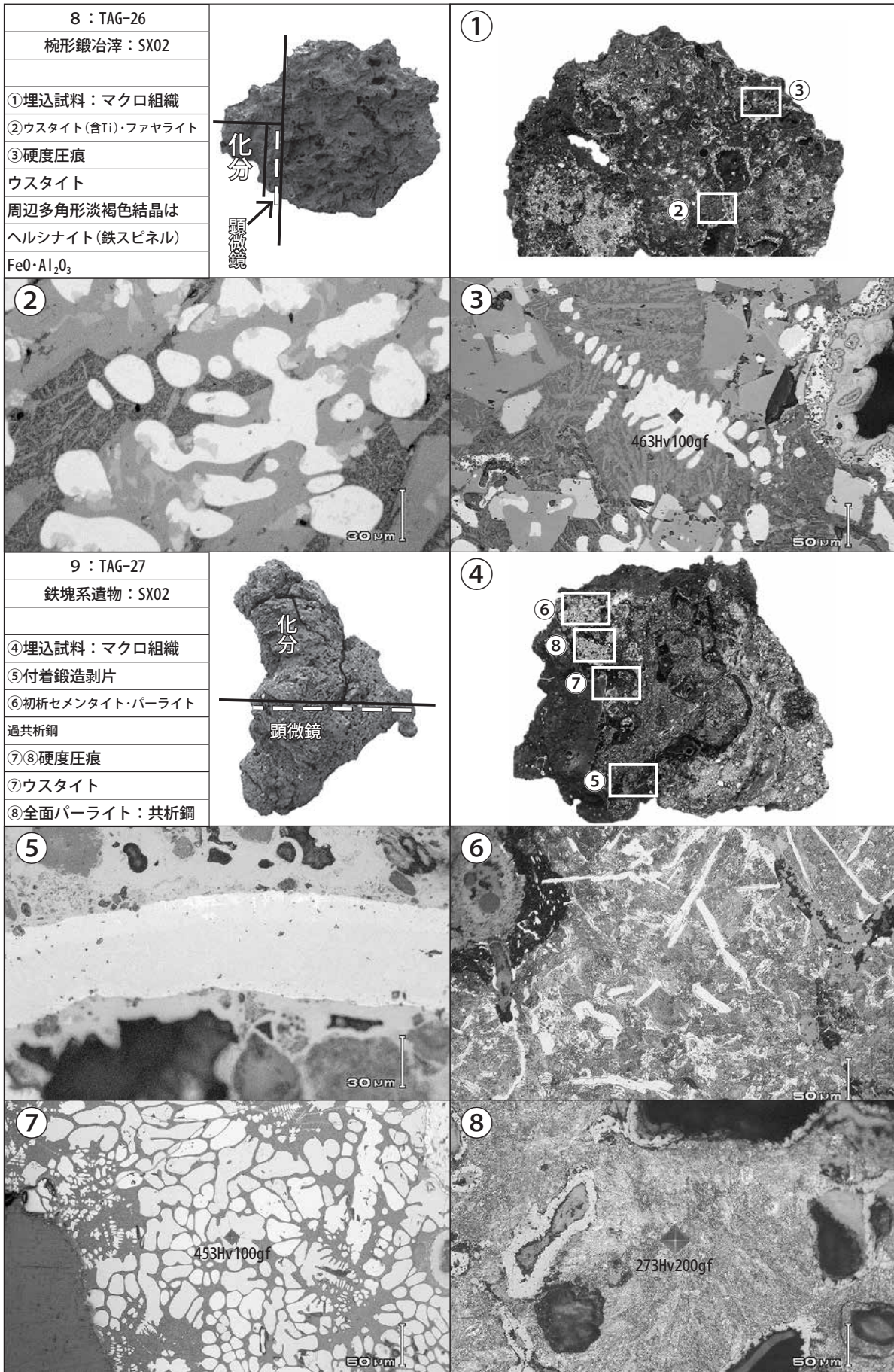


Photo. 6

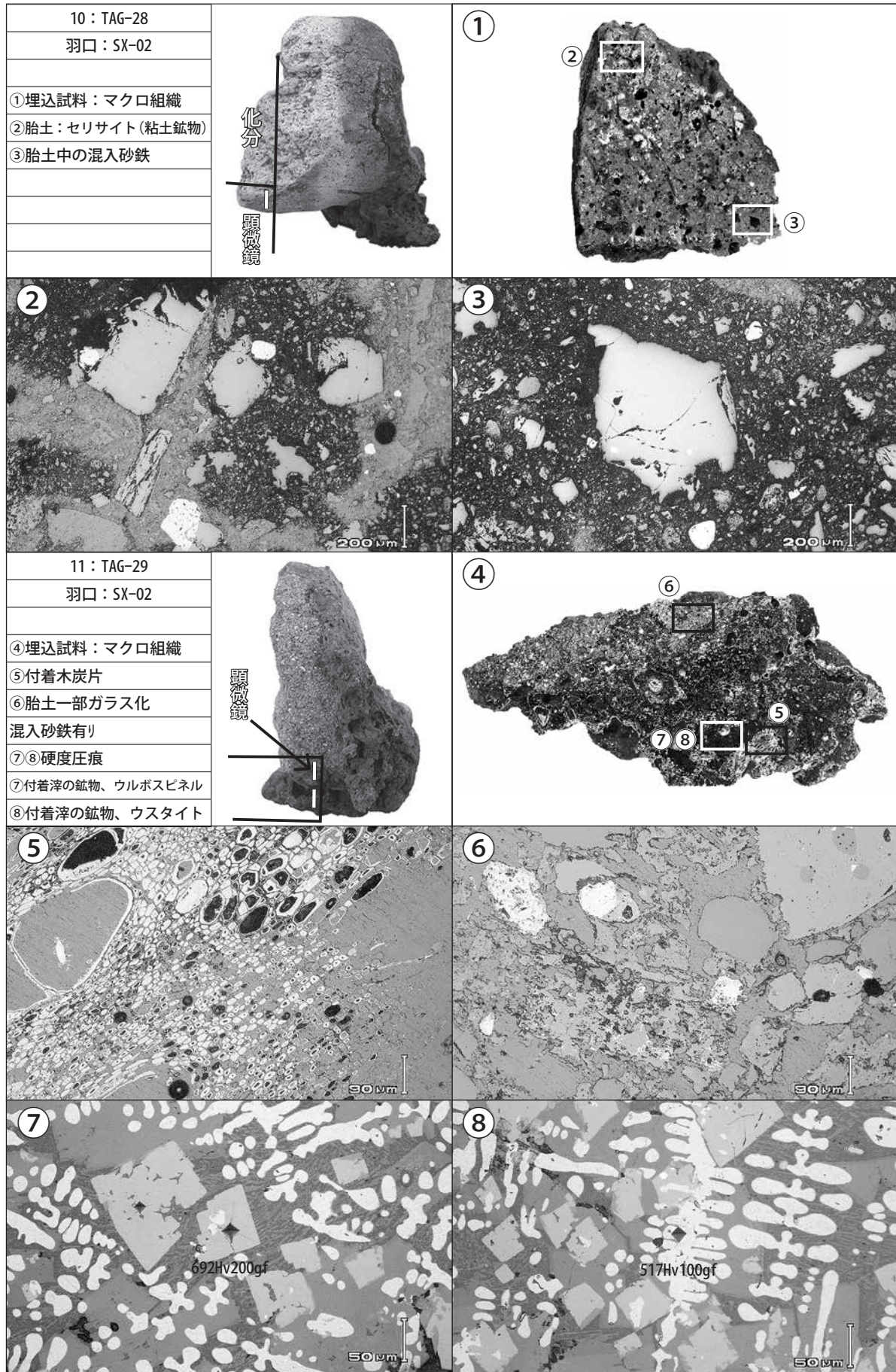


Photo. 7

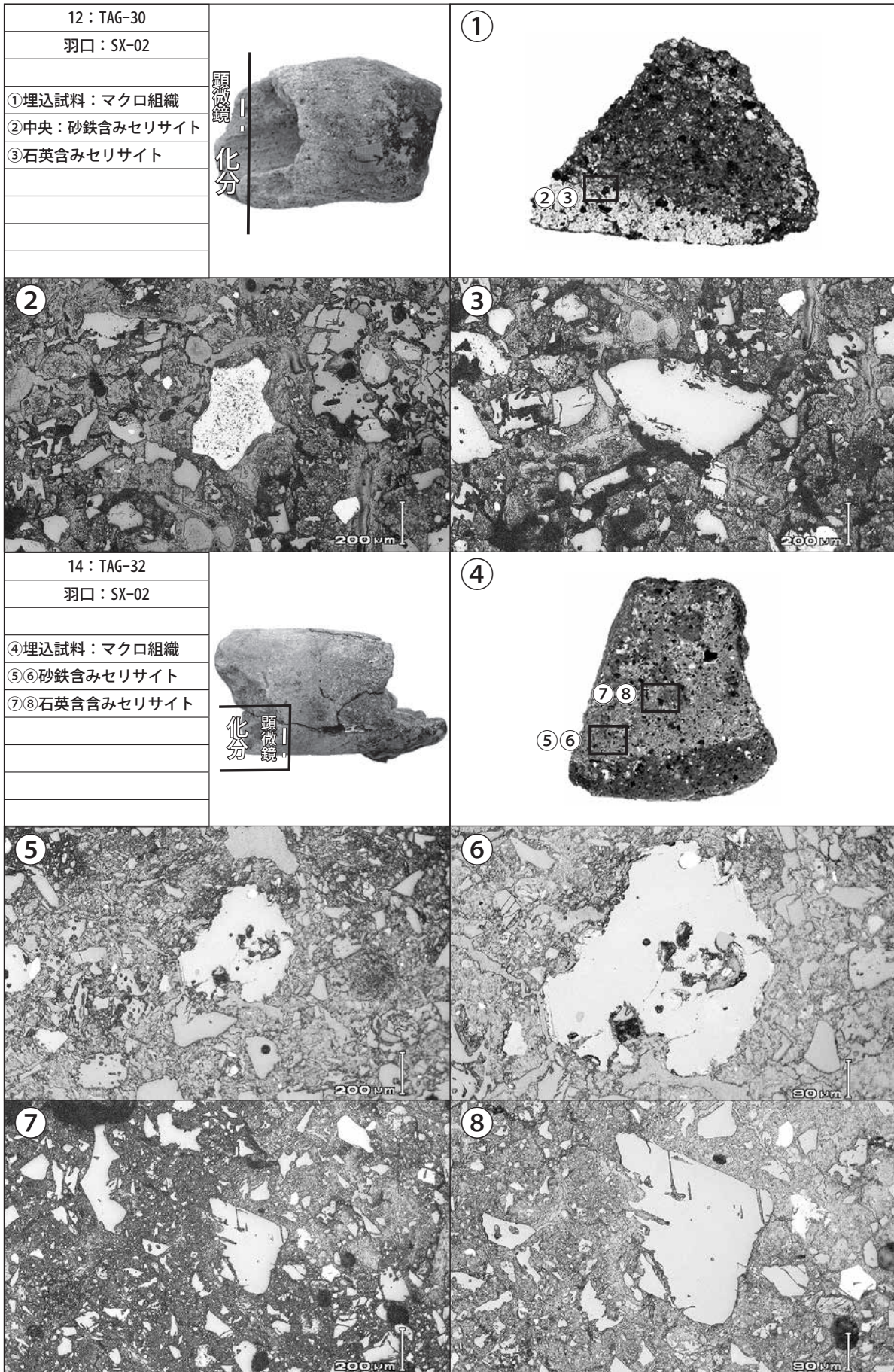


Photo. 8

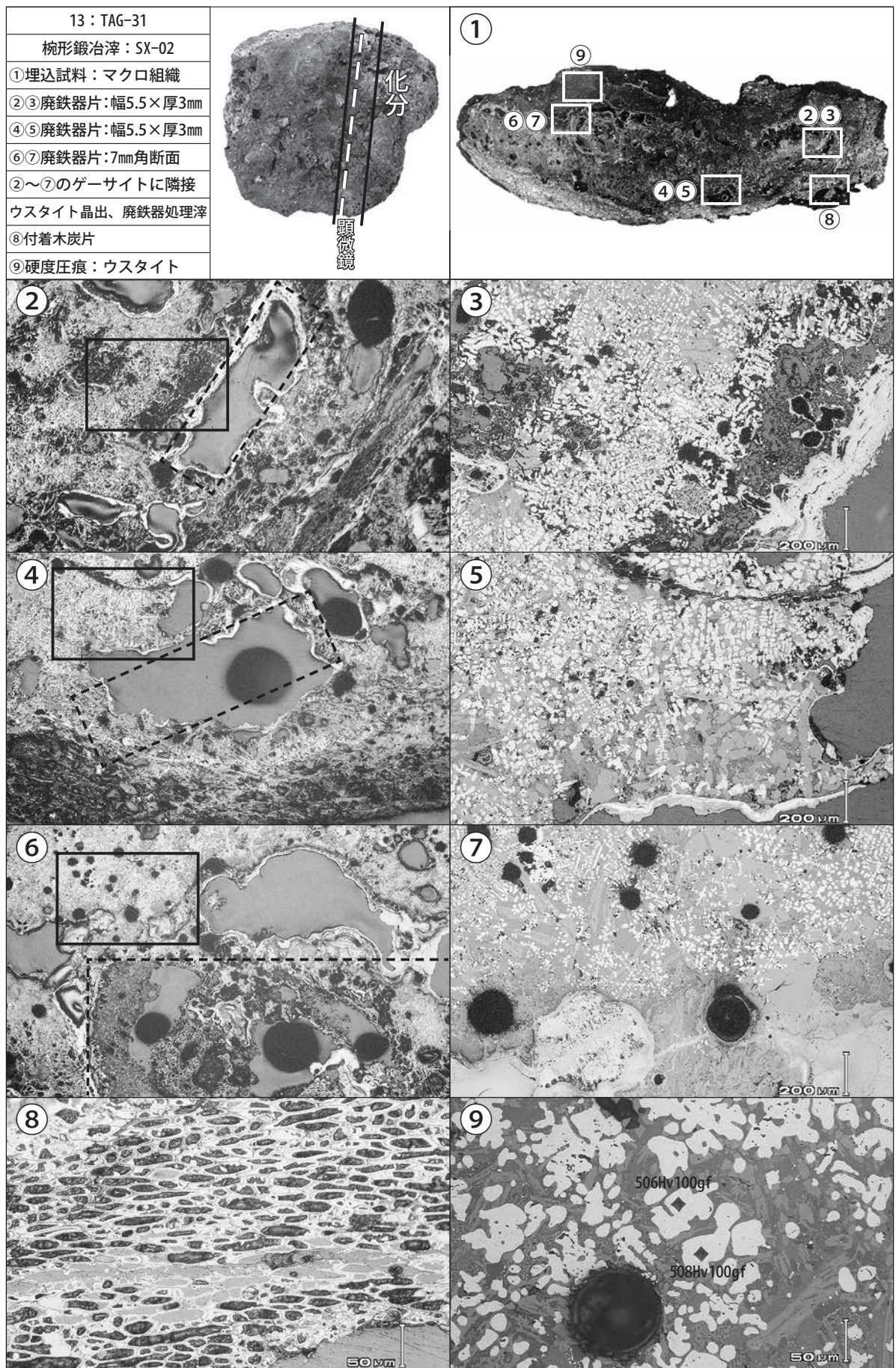


Photo. 9

第6節 自然科学分析の成果とまとめ

1. 地層とテフラ

Ⅶ・Ⅷ区から検出した地層の観察を行い、テフラを同定・対比して遺跡に分布する堆積物の年代を決定した。分析は株式会社火山灰考古学研究所に委託して実施した。

Ⅶ区からⅧ区の遺構検出面下の堆積物について、地層の観察を行い下位より榛名二ツ岳渋川テフラ(Hr-FA)、Hr-FA火山泥流堆積物、榛名二ツ岳伊香保テフラ(Hr-FP(I-36))、Hr-FP泥流堆積物を検出した。これらの堆積物は、遺構群が立地する自然堤防からなる微高地を刻む小さな谷を埋める堆積物で、火山泥流は遺跡の北側に位置する利根川旧流路の谷を埋めた泥流堆積物の本体よりもたらされた縁辺部の流下堆積物である。

また、Ⅷ区では遺構検出面の上位に見られる堆積物から下位より浅間Bテフラ(As-B)、浅間粕川テフラ(As-Kk)、浅間Aテフラ(As-A)が検出された。これによって田口下田尻遺跡の調査区外で検出された浅間Cテフラ(As-C)以降の主要な指標テフラが調査区より検出され、調査区で検出された古墳時代から近世に至る遺構群と遺構検出面が火山灰層序との関わりの中で位置づけることが可能となった。

2. 炭化材の樹種同定

X区1号住居から出土した住居構築材と考えられる炭化材の観察を行い、樹種の同定を行った。分析は株式会社パレオ・ラボに委託して実施した。

炭化材が出土した1号住居は平安時代10世紀第4四半期に属する竪穴住居で、長辺は5.28m、短辺は4.85m、深さは0.44m、面積は18.75㎡であり、調査区で検出された住居の中では比較的規模の大きなものに相当する。埋土は二ツ岳の白色軽石を含む黄褐～暗褐色土が竪穴の中央に向かって緩く傾きながら成層し、床面付近が炭化物を多く含む暗褐色土からなる。炭化物は床上0.03～0.05mに暗褐色土を挟んで層厚0.02～0.05mが覆っており、一定の方向性を有して分布していることから垂木や部材などが炭化したものと考えられた。

分析結果は針葉樹のスギ、広葉樹のヤナギ属、クリ、モモ、キハダ、イネ科の草本が確認された。竪穴住居を構成する

部材との関係では、桁はキハダ、梁はヤナギ属、垂木はスギとヤナギ属、モモが使用されており多種類の木材を使用して竪穴住居の構築材を形成したことが明らかとなった。

3. 遺跡から出土した獣骨

Ⅵ区1号墓坑から出土したウマの動物遺存体は、調査現場での所見では、埋葬の方位が頭部を北にしていることから、まるで「北頭西顔」を意識しているようでもあり、また、前後の脚先が重なっていたことから、この部分が縛られて搬送されたものと推察された。また、体格が現存する木曾馬等の在来馬より小さく感じられたため、幼齢馬の埋葬と考えられ、幼くして死去したために手厚く葬られたものと推測した。

しかし鑑定の結果は、トカラ馬相当の小型在来馬で20歳前後の老齢の雌馬、消化不良を引き起こすであろう程の臼歯列咬合面の異常咬耗を含む著しい歯列の摩耗。死因は天授を全うしたであろう老衰、との見解が示された。

遺構の年代は、中世～近世初頭と判断される。この時期にあつて馬は、神社奉納の神馬などの特別な例を除き、農耕の使役や合戦の騎馬などの有益な労働源であったことが推察される。では、逆に戦乱が続く乱世にあつて、使役に耐えられなくなった老齢馬の扱いは如何様なものであつたろうか。本例が物語るものは、中世の馬の在り方を考える上で、極めて重要な事例となるものと考えられる。

4. 遺跡から出土した鉄関連遺物他の金属学的調査

Ⅵ・Ⅶ・Ⅷ区の鍛冶遺構及びⅧ区18号住居から出土した鉄関連遺物の観察を行い、金属学的な分析・調査を実施した。分析は日鉄住金テクノロジー株式会社(報告者は大澤正巳)に委託して実施した。

Ⅷ区の1号鍛冶(製鉄炉)で行われた製鉄は、火山岩起源の中チタン砂鉄を原料とした小型自立炉での操業である。生成した鉄塊は除滓や成分調整を目的とした精錬鍛冶を施している。

Ⅵ区1号鍛冶の鍛冶素材は製鉄から得られた半製品と共に、廃鉄器を再利用した故鉄の処理調達が確認できた。

Ⅷ区の18号住居と1号鍛冶では鍛冶素材の炭素含有量は、亜共析鋼から共析・過共析鋼までが存在し、硬鉄・軟鉄の組合せ素材からの高靱性を保つ鋭利・刃物の製作が推測され、この時代における集落の鉄生産を考えるうえで興味深い。

第6章 調査成果のまとめ

第1節 古代集落の変遷

1. 古墳時代～平安時代

今回の発掘調査で検出された建物は、竪穴住居が304棟、竪穴が15棟、掘立柱建物は6棟の合計325棟に及んでいる。遺構から出土した遺物や遺構の重複関係から明らかになった新旧関係から構築年代(100年間)ごとの竪穴住居の推定分布を第761～766図に示す。

本遺跡に集落が形成されるのは古墳時代前期の4世紀代である。すでに調査が行われた田口上田尻遺跡と田口下田尻遺跡Ⅰ～Ⅳ区では古墳時代3世紀後半から5世紀後半の集落が存在することが明らかになっており、今回の調査で検出された古墳時代前期に属する竪穴住居5棟はいずれもⅤ区とⅥ区に分布し、調査区の西側に遍在している。これらの住居はすでに発掘された田口上田尻遺跡と田口下田尻遺跡Ⅰ～Ⅳ区の4世紀の集落域の東側縁辺の一部を構成するものと考えられ、あわせて両遺跡からは4世紀代の竪穴住居が57棟検出されたことになる。

今回の調査では5～6世紀の遺構が検出されていないことから、田口上田尻遺跡から田口下田尻遺跡にまたがる両遺跡の集落は、古墳時代前期の3世紀後半に集落の形成が始まり、4世紀をピークにして5世紀後半には集落が途絶え、その後7世紀から再び集落が形成されることが明らかとなった。

この間の集落空白期に関して、直接の要因を求めることは周辺地域の遺跡との遺構数の動向を調べる必要があるが予察的には以下の事柄が想定できる。

5世紀代の前橋台地周辺の利根川流域では各地で大規模な氾濫が起き、田口下田尻遺跡の周辺遺跡である川端根岸遺跡などで洪水堆積物が低地や水路を覆っている。また、5世紀第4四半期頃から榛名火山の活動が開始され、有馬・渋川・伊香保噴火による火山災害が周辺各地に及んでいる。これらの火山活動によって生じた火山泥流堆積物は当時の利根川流路に達して、自然堤防を乗り越えた一部の堆積物は旧利根川流路である広瀬川低地帯にも及んだと考えられる。

これらの河川災害によって広瀬川低地を開発した水田の大部分が被災し、集落の生産基盤となっていた地域が壊滅したことで集落の存続に長時間の空白期間を与えたことが想像される。

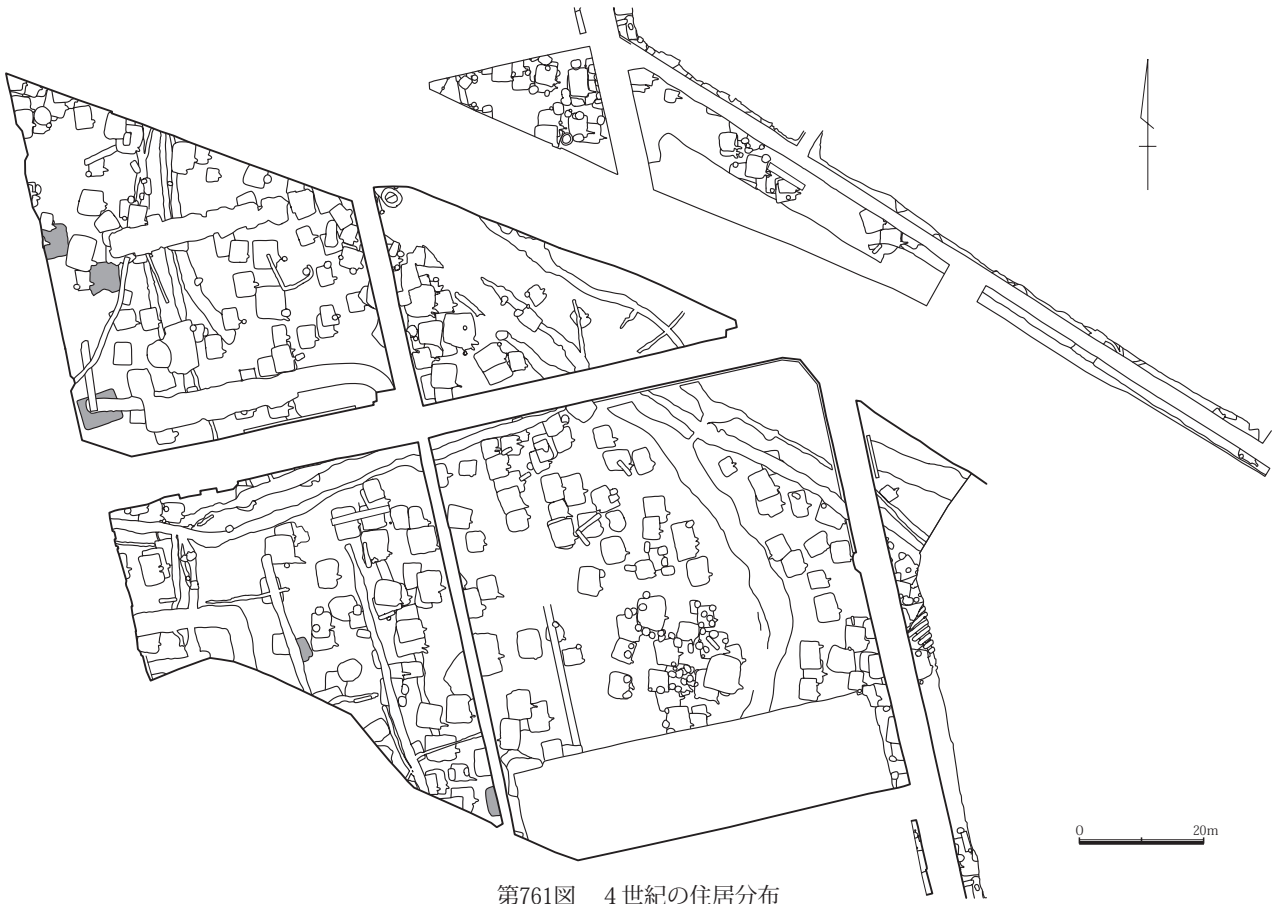
古墳時代後半の集落空白期を経て、再び遺跡に集落が形成されるのは飛鳥時代に入ってからである。7世紀後半に3棟、奈良時代8世紀の前半が5棟、後半が9棟と7～8世紀にかけて住居は微増の傾向にある。特に7世紀代の住居は規模の大きなものが認められ、大家族による積極的な再開発の姿が見てとれる。

8世紀の集落は調査区のⅤ区を中心に調査区の中央から北西に遍在して存在し、竪穴住居は規模の小さなものが多く、まとまって住居が分布するといった特徴がある。9世紀になると前半が17棟、後半が50棟に急増し、竪穴住居の分布も調査区全体に満遍なく広がりをもつ。9世紀から規模の大きな竪穴住居が調査区に点在するようになり、小～中規模の住居とともに大きさが混在しながら調査区全体に広がりをもつ。

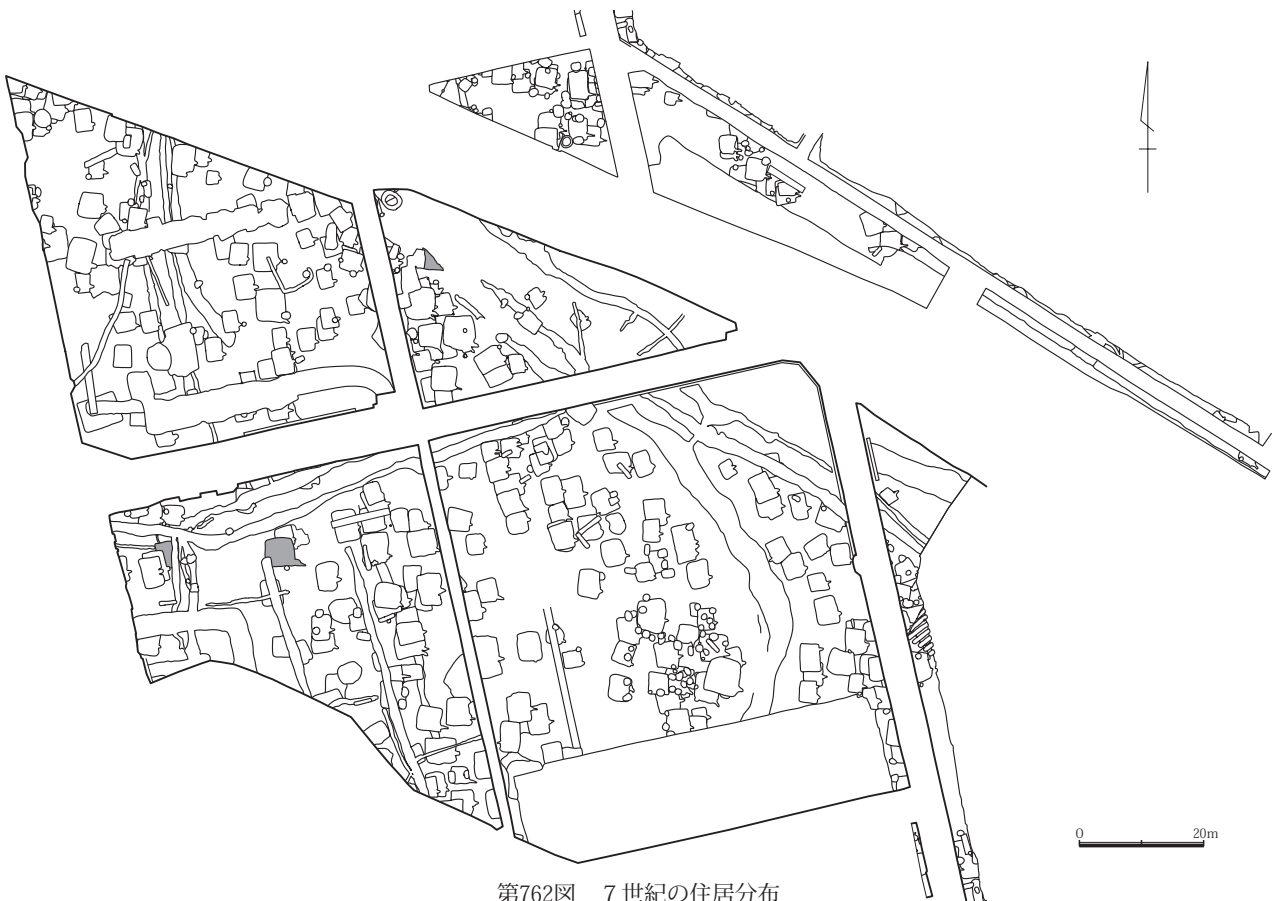
10世紀代は集落内の竪穴住居の増加が著しく、住居数のピークとなっている。特にⅨ区からⅦ区にかけての溝周辺には微高地に所狭しと、住居が並んで分布する。10世紀前半は87棟、後半が88棟となっている。10世紀のそれは9世紀前半の住居数に対して5倍以上の住居数であり、規模の大きな竪穴住居が重複して、一定の場所を確保しながら林立する様相を呈する。

10世紀の住居急増期から一転して11世紀は竪穴住居が急激に数を減らしている。11世紀前半が12棟、後半は1棟のみとなり竪穴住居に限っては7世紀の住居数と同じ規模まで数を減らしている。11世紀に残された住居はⅥ・Ⅶ区を中心に分散して存在し、比較的規模の大きなものが認められるといった特徴を有する。

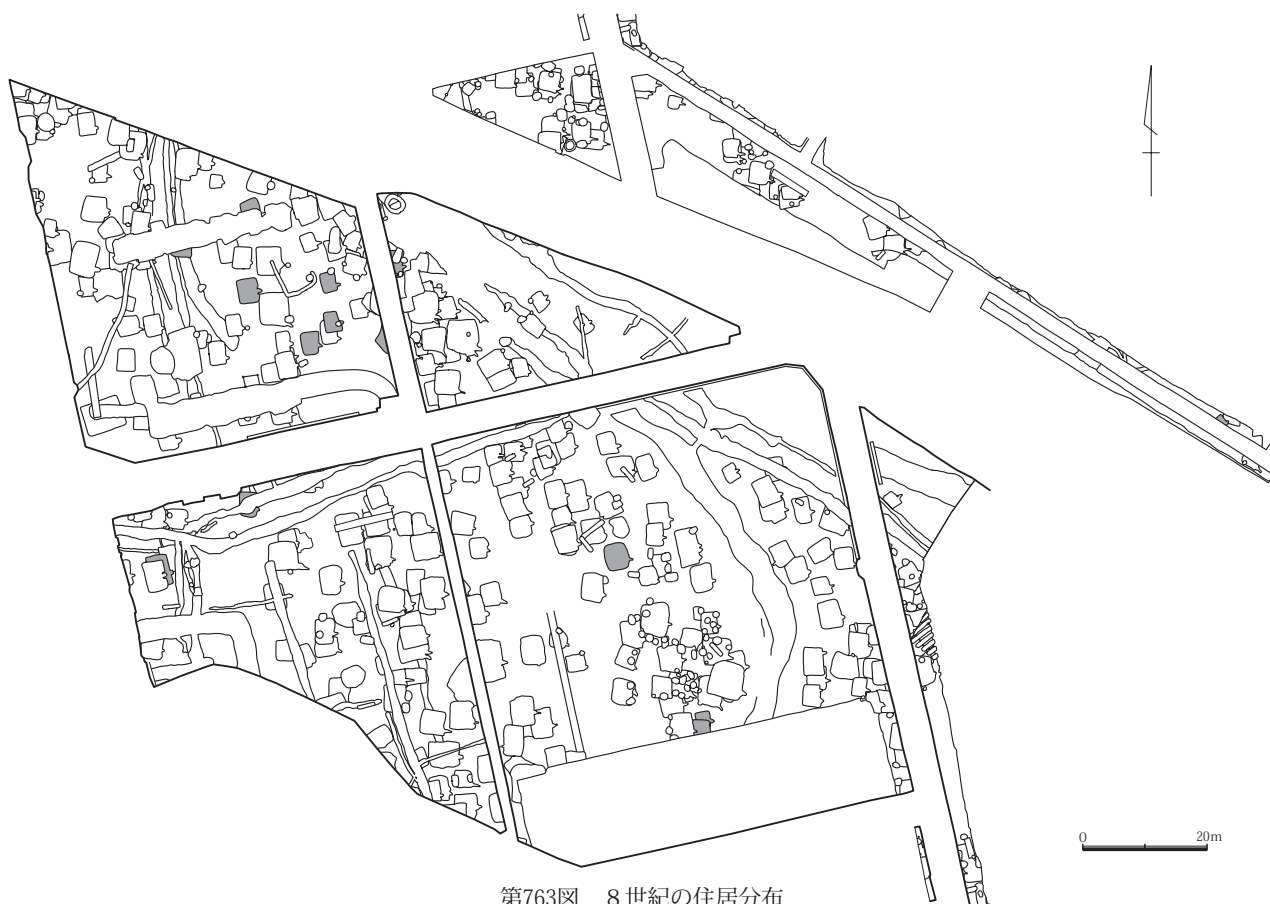
田口下田尻遺跡の集落内には鍛冶遺構の存在が認められ、Ⅵ区1号鍛冶は27号住居の廃屋を利用した鍛冶工房で10世紀代と想定される。Ⅶ区の1号鍛冶は10世紀後半の鍛冶工房と考えられる。Ⅸ区の1号鍛冶は小型自立炉の製鉄炉であった可能性が高く、9世紀中頃と考えられ



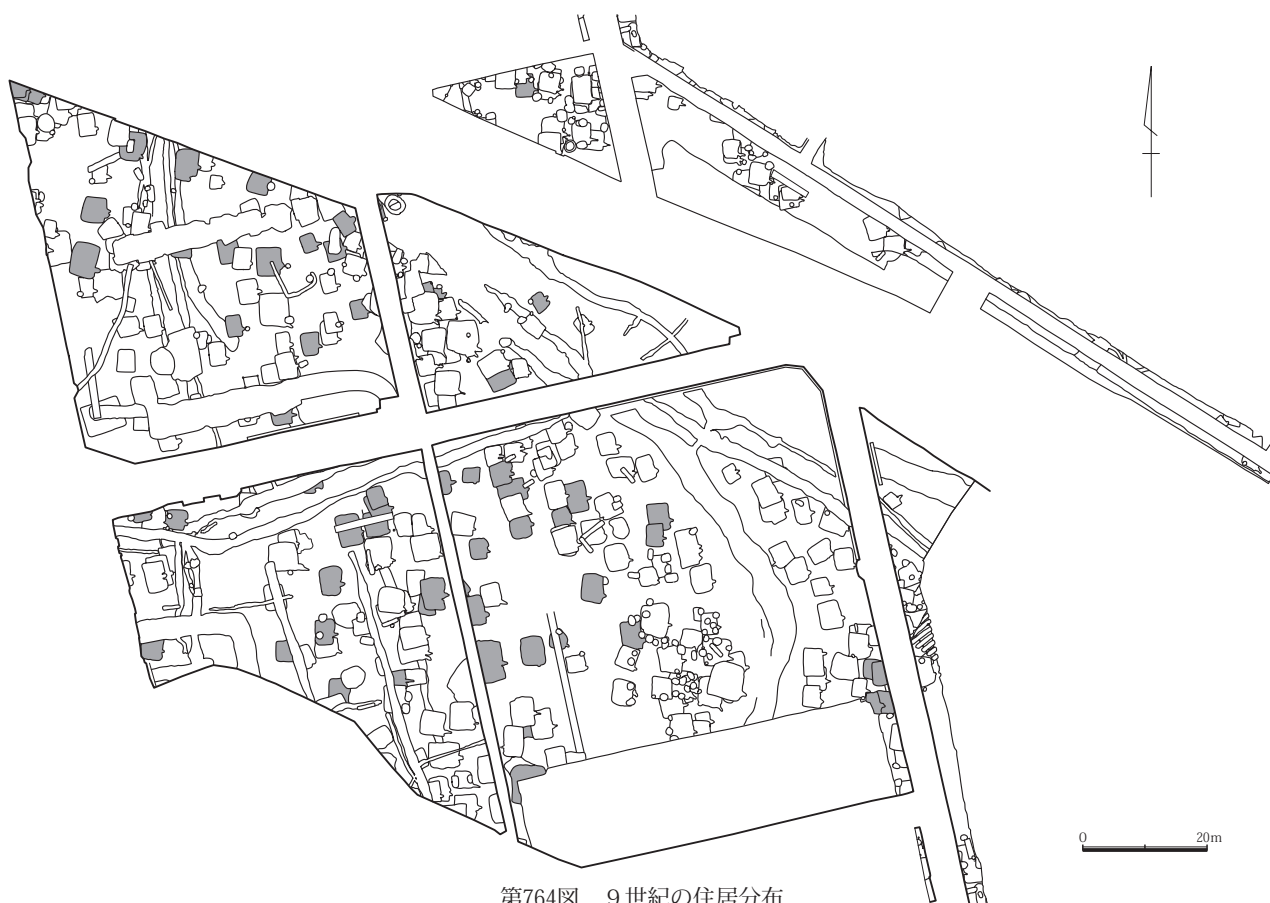
第761図 4世紀の住居分布



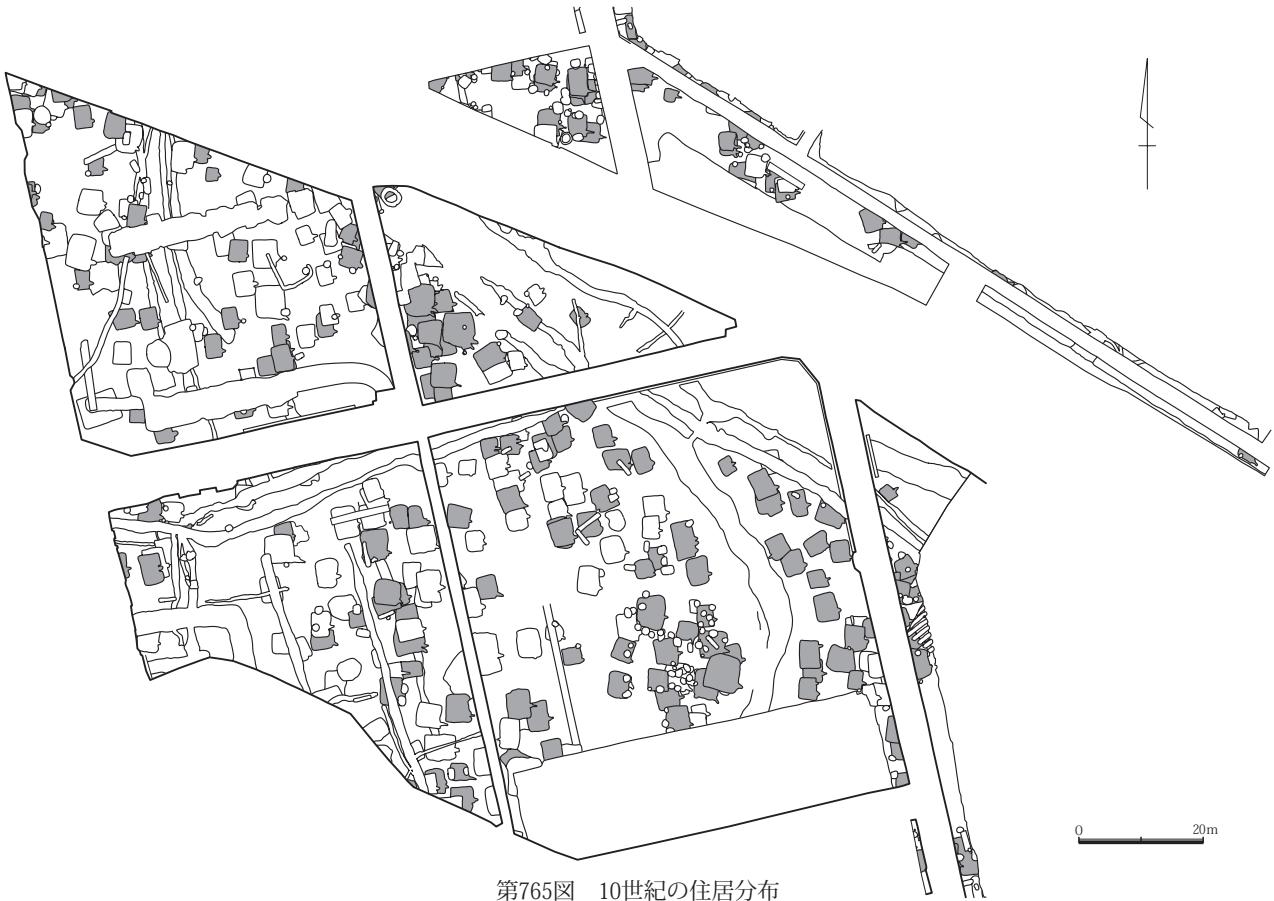
第762図 7世紀の住居分布



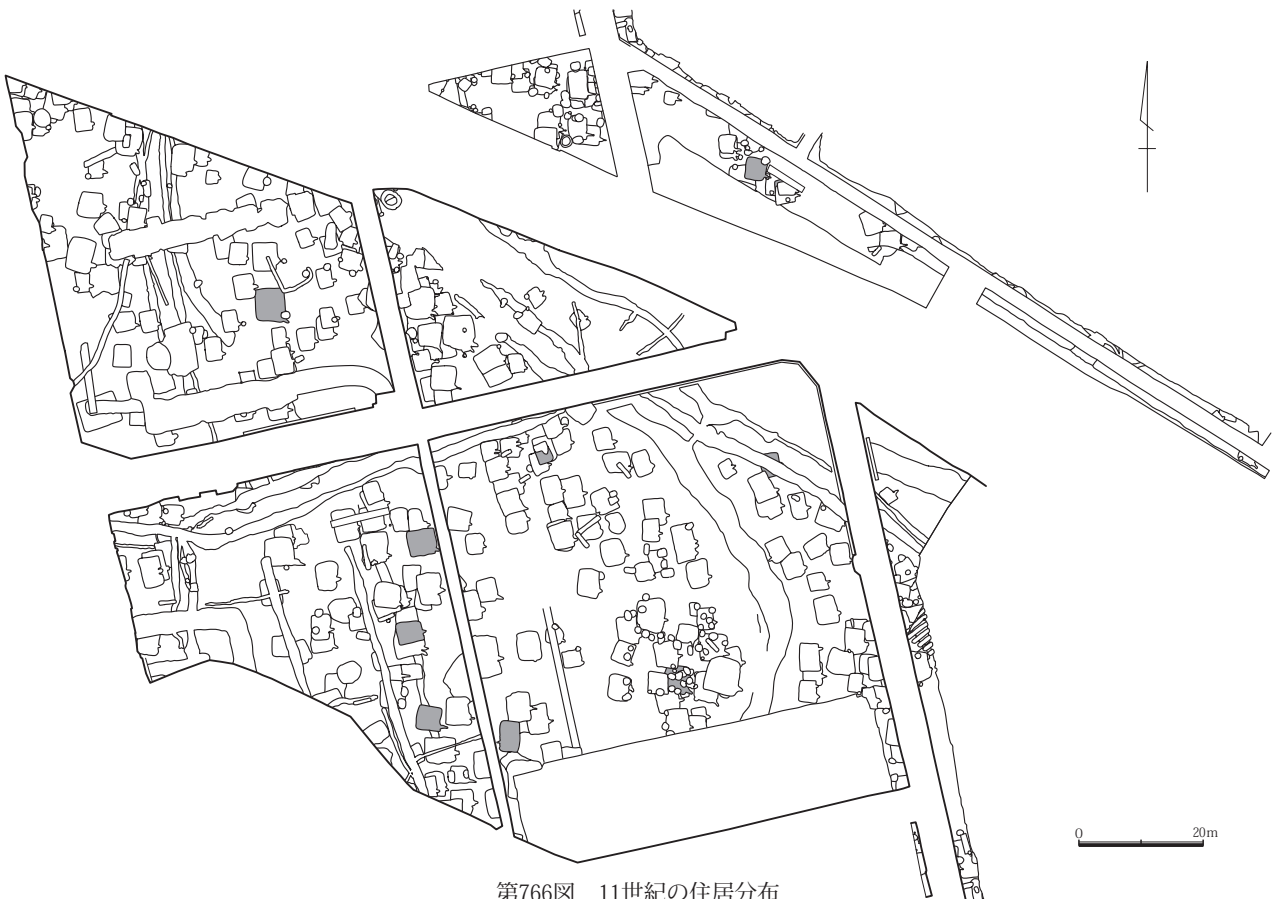
第763図 8世紀の住居分布



第764図 9世紀の住居分布



第765図 10世紀の住居分布



第766図 11世紀の住居分布

る。このように調査区の竪穴住居急増期に調査区内では3地点の鍛冶関連遺構が認められることから、集落内で人口増を伴って行われた生業の一部は製鉄から鍛冶工房といった鉄生産にかかわる産業が行われた可能性が高いものと考えられる。

2. 田口上田尻遺跡・田口下田尻遺跡の飛鳥時代以降の集落変遷

2012年に刊行された田口上田尻遺跡、田口下田尻遺跡I～IV区は、調査区の西側に位置する。今回の発掘調査によって旧利根川流路の右岸に位置する微高地上に形成された古代集落は、東西にわけて二度の調査が行われ、集落のおおよその全貌を捉えたことになる。両遺跡から検出された竪穴住居は619棟に及んでいる。両遺跡の飛鳥時代から平安時代にわたる半世紀(50年間)ごとの竪穴住居の推定分布を図に示す。

古墳時代後半の集落空白期から、再び遺跡に集落が形成されるのは飛鳥時代に入ってからである。7世紀前半に17棟、後半に32棟の竪穴住居が構築された(第767・768図)。7世紀の集落分布は前半から後半にかけて集落域が西から東へ拡大し、後半では遺跡西部に規模の大きな住居を中核として複数のまとまりからなる住居の分布が認められる。

奈良時代8世紀は前半が15棟、後半が21棟と7世紀よりも一旦は減少し、後半は微増の傾向にある(第769・770図)。8世紀の集落は調査区の中心から周辺にかけて拡大し、竪穴住居は規模の小さなものが幾つかのまとまりをもって東西に分散して存在する。

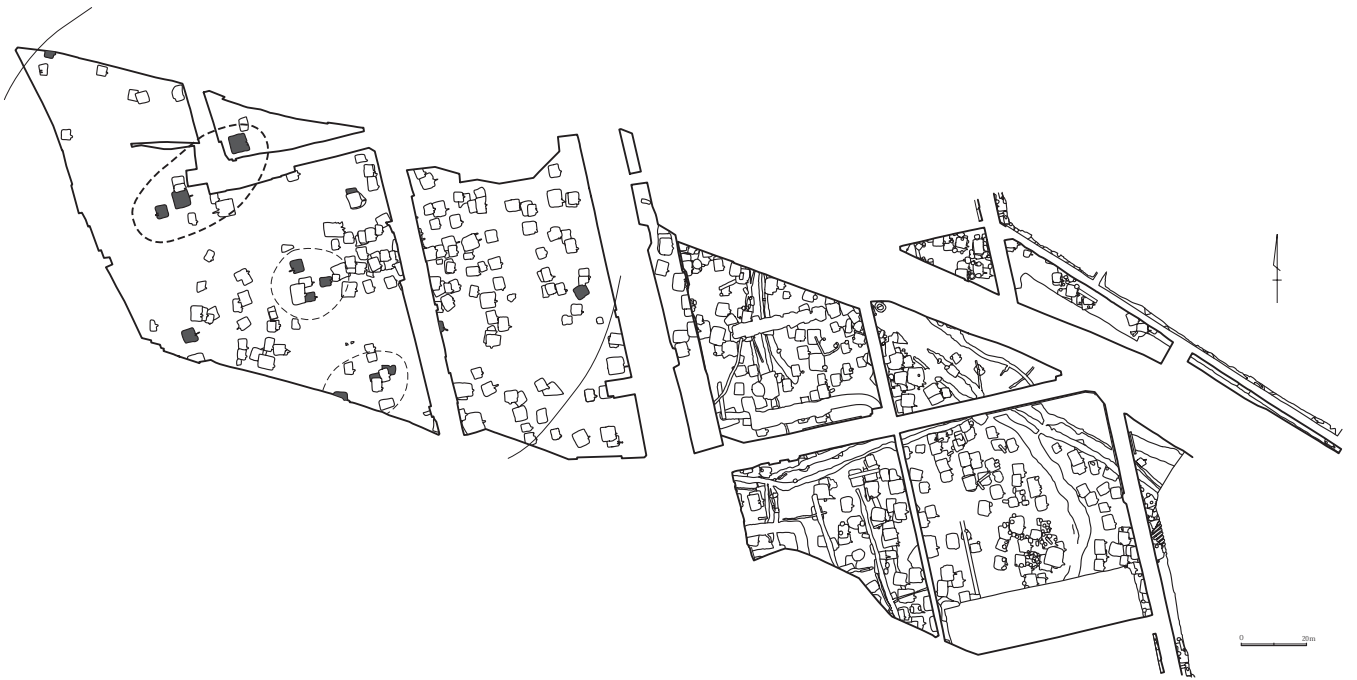
平安時代9世紀になると前半が23棟で8世紀後半から微増であるが、後半は74棟に急増し、竪穴住居の分布も西から東に拡大している(第771・772図)。9世紀は規模の大きな竪穴住居が遺跡の東部にブロックをなして位置しており、7世紀にはじまった西側の集落の形成は、中心部が遺跡の東側に移動する。このような変化は、8世紀の集落減少とともに東西に分散した住居分布を経てなされたものであり、7世紀後半の集落形成と9世紀後半のそれは別々の要因でなされたもので、これには律令制の導入や弘仁地震からの震災復興などといった外的な政治的要因が想定される。

10世紀代は集落内の竪穴住居の増加が著しく、住居数

のピークとなっている。これは10世紀前半が127棟、後半が146棟となっている(第773・774図)。10世紀の竪穴住居は9世紀後半の住居数に対して倍近くに増加し、規模の大きな竪穴住居が重複して林立する様相を呈する。前半は遺跡の東部に住居のブロックが溝を隔てて存在するが、後半は遺跡の西側にも同様の住居分布が認められ、10世紀後半に集落域の中心は東から西に拡大して、そのピークを迎えている。これらの住居急増の要因としてはⅫ区で検出された鍛冶遺構(製鉄炉)や排滓場と考えられるⅥ・Ⅶ区の鍛冶遺構の存在が上げられる。10世紀は製鉄とその材料加工を主にした生業の場として集落が拡大したものと考えられる。

11世紀は、10世紀にピークを迎えた集落が規模の大きな竪穴住居を残して急激に数を減らす(第775・776図)。11世紀前半が12棟、後半は4棟のみとなる。11世紀に残存する住居は10世紀に集落の中心を構成した遺跡東側の溝群右岸の微高地に存在し、比較的規模の大きな住居が特徴的に認められる。

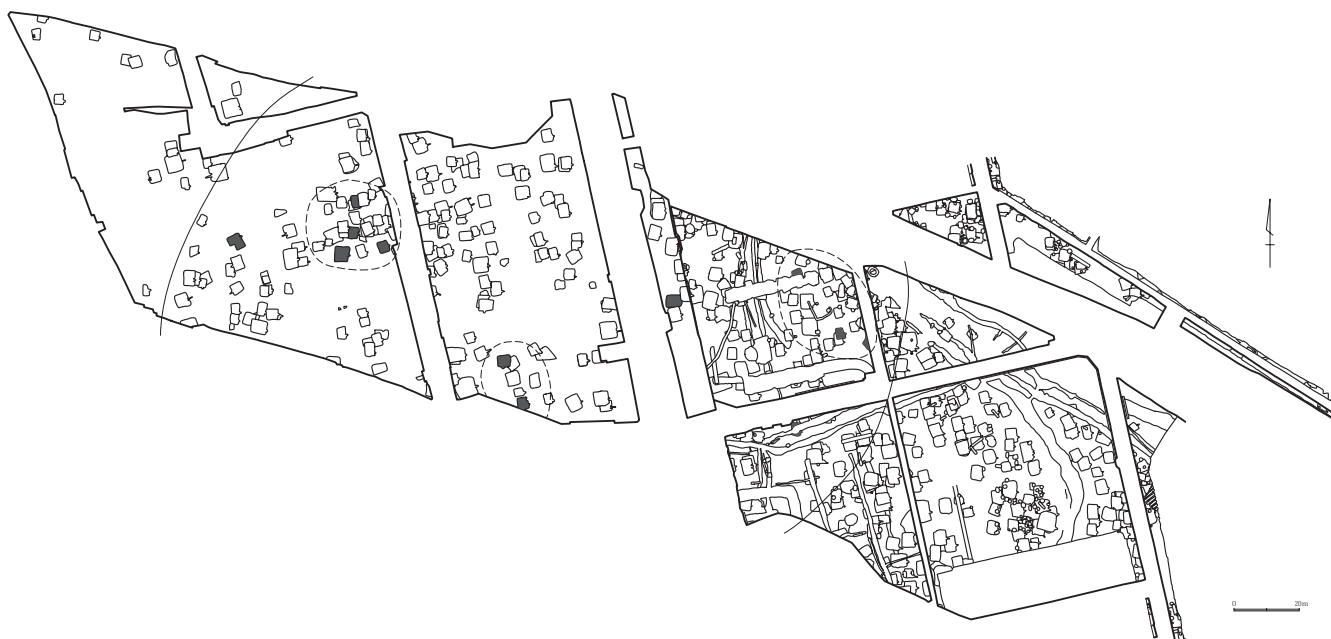
田口上田尻遺跡と田口下田尻遺跡の集落は、7世紀の集落形成から11世紀の竪穴住居消失に至るまでの約500年間に遺跡の東西で集落の中心が移動し、集落域が東へ拡大するなどの変遷が明らかとなった。このような集落域の変化は集落内部の人口増加や生業の変化などとともに政治的な外的要因が考えられる。また、田口下田尻遺跡と同様に利根川流路の右岸の微高地に位置する関根赤城遺跡や関根細ヶ沢遺跡でも本遺跡と同様に10世紀代に急激な集落の拡大が認められる。このような集落拡大の要因の一つには本遺跡や関根細ヶ沢遺跡で検出された製鉄関連遺構の存在に求められ、集落周辺域での製鉄業が10世紀の遺跡拡大をもたらした要因の一つである可能性は極めて高いものと思われる。



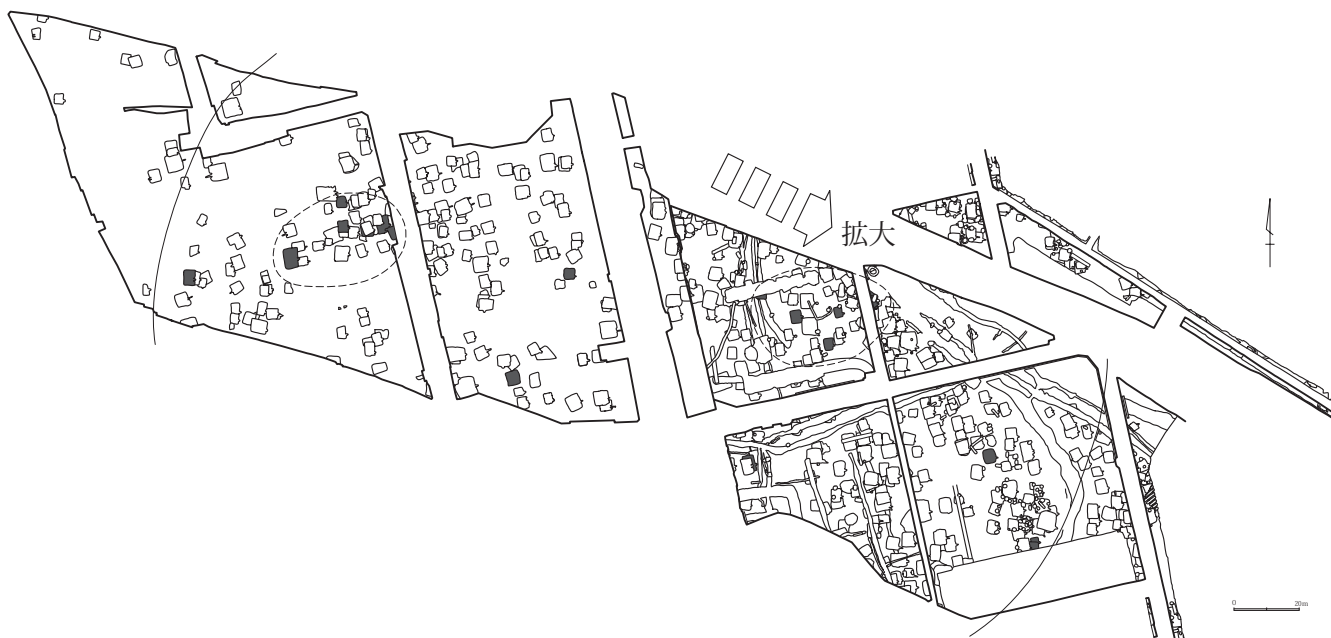
第767図 7世紀前半の住居分布



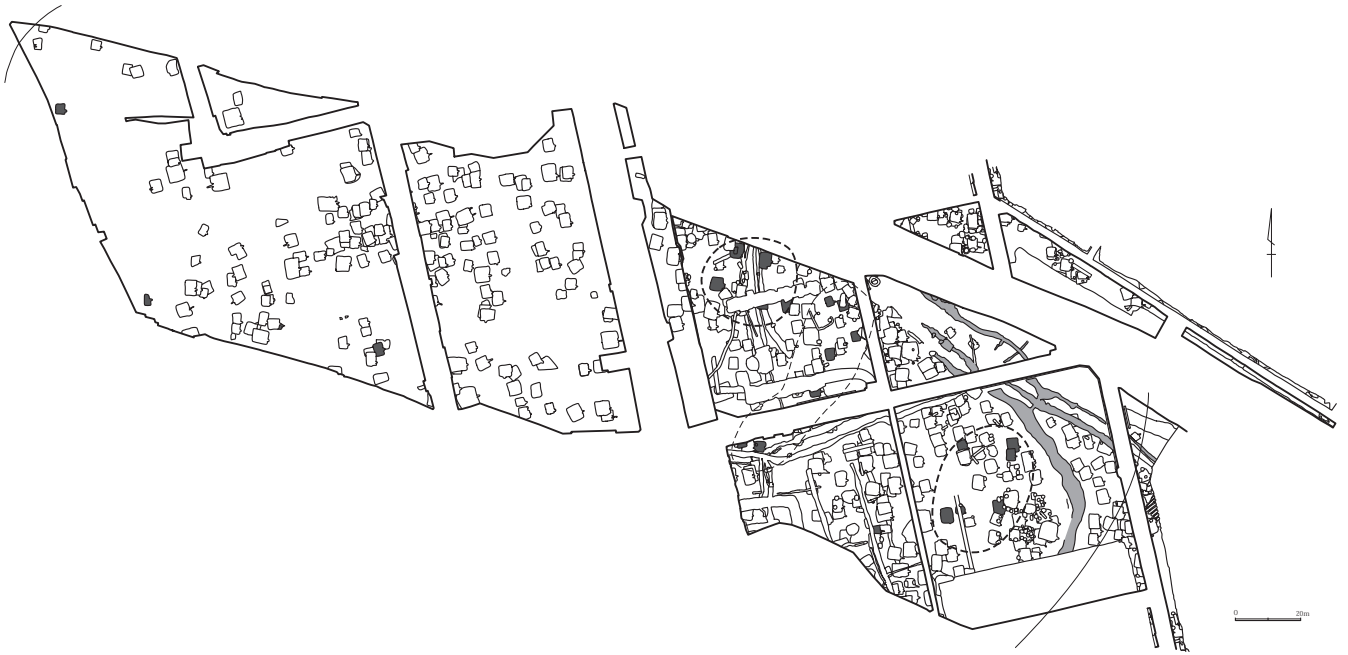
第768図 7世紀後半の住居分布



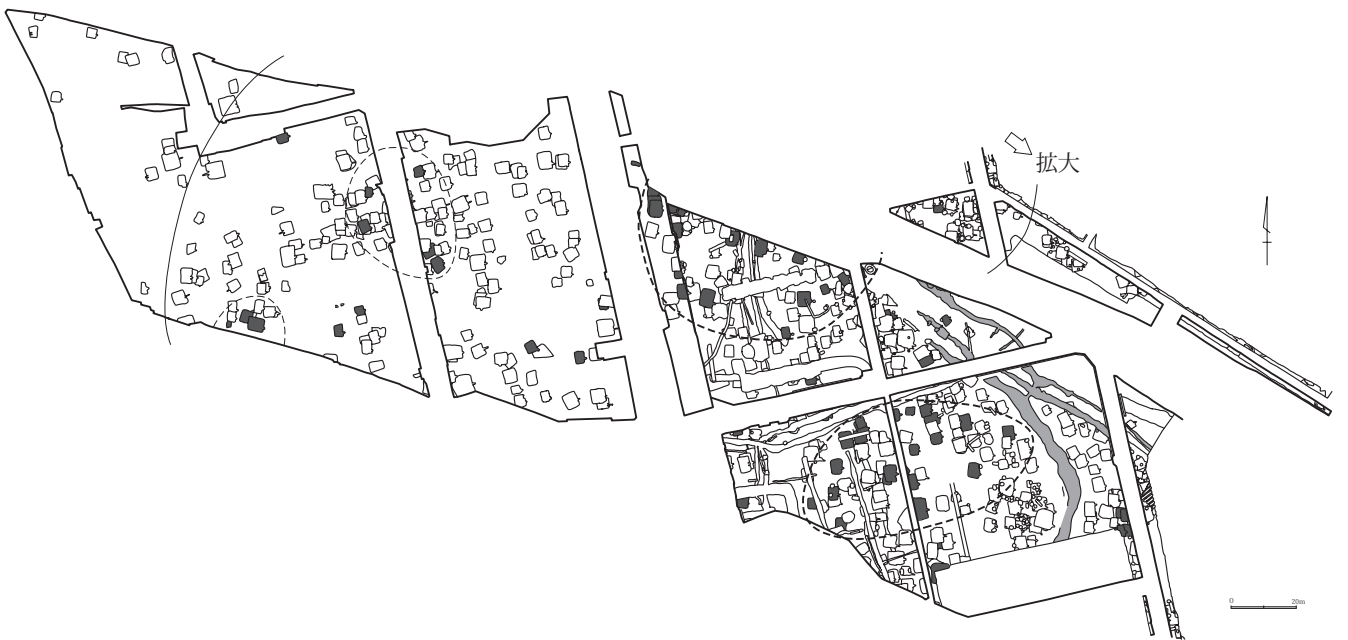
第769図 8世紀前半の住居分布



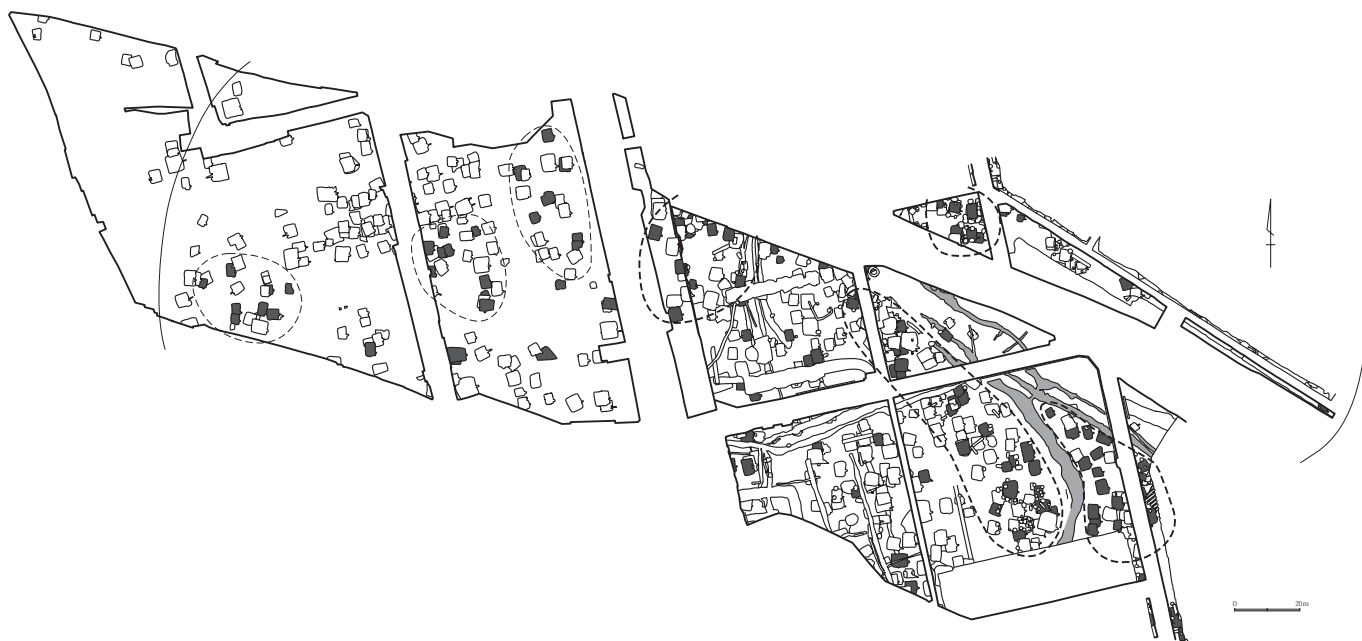
第770図 8世紀後半の住居分布



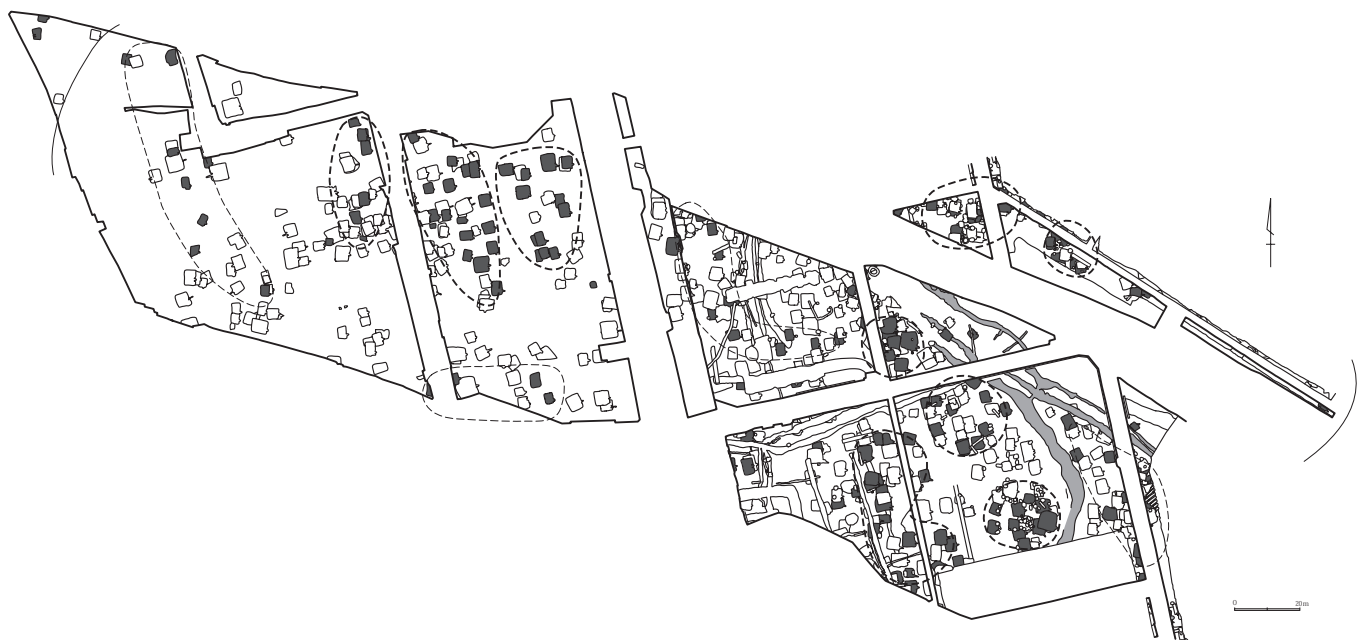
第771図 9世紀前半の住居分布



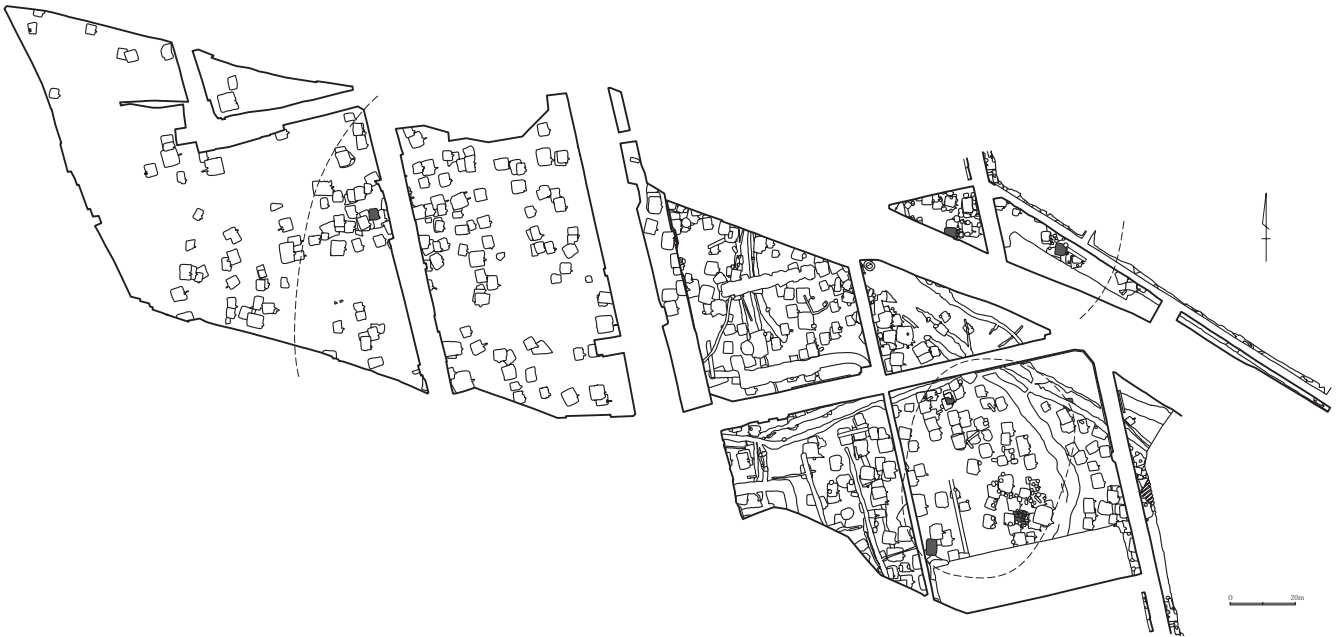
第772図 9世紀後半の住居分布



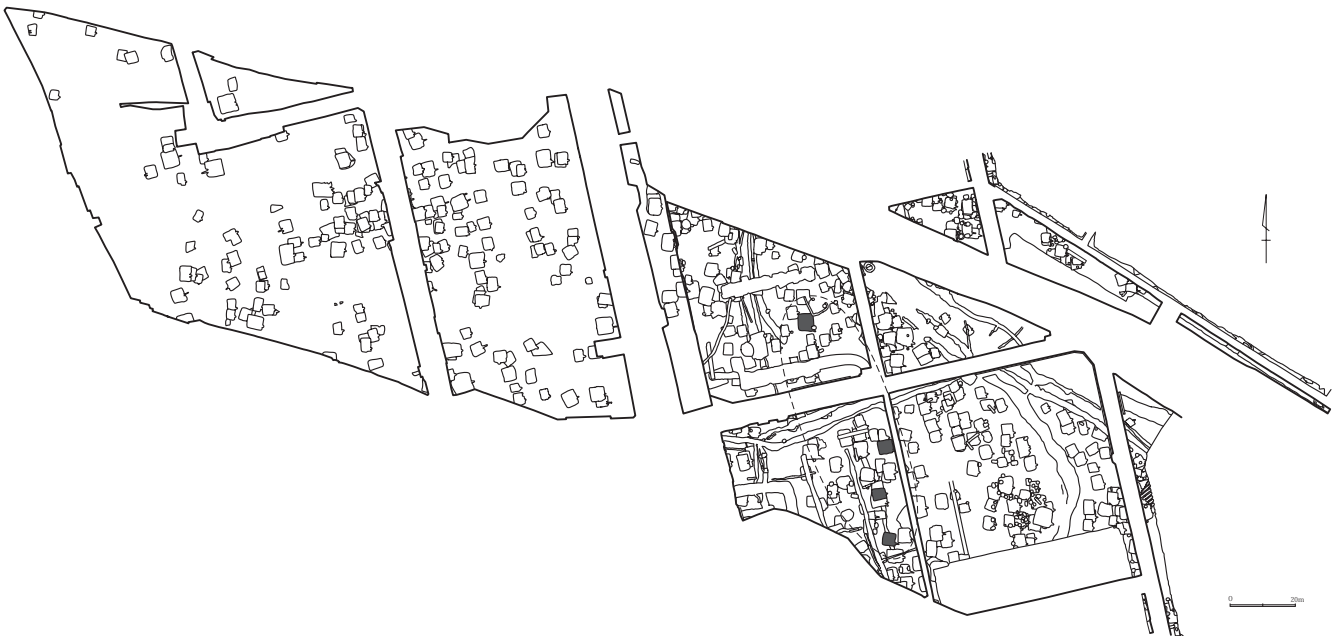
第773図 10世紀前半の住居分布



第774図 10世紀後半の住居分布



第775図 11世紀前半の住居分布



第776図 11世紀後半の住居分布

第2節 田口下田尻遺跡出土の施釉陶器について

1. はじめに

前橋市田口下田尻遺跡は、赤城山南西麓に位置する集落遺跡である。遺跡地は2005年～2009年にかけて発掘調査が実施された田口上田尻遺跡・田口下田尻遺跡^{註1}の東側に隣接しており、同一の遺跡である。発掘調査は対象面積15,630.4㎡に及び、東側の発掘調査と併せると31,115㎡になる。田口下田尻遺跡では竪穴住居304棟、掘立柱建物6棟、鍛冶遺構3基、土坑611基、溝59条など多くの遺構が検出され、これに伴う遺物が出土している。

検出した遺構は古墳時代前期から中期、飛鳥・奈良・平安時代から中近世に比定され、竪穴住居の多くは飛鳥・奈良・平安時代に比定される。飛鳥・奈良・平安時代に比定される竪穴住居の多くはさらに9世紀後半～10世紀代に位置づけられ、以前に発掘調査が行われ『田口上田尻遺跡・田口下田尻遺跡』(以後、「田口上田尻・下田尻遺跡」と称する)として報告された調査範囲と同様な変遷を見ることが出来る。田口上田尻・下田尻遺跡では多くの施釉陶器、特に緑釉陶器は113点と群馬県内の出土例としては5番目の数量があり、注目を集めている。今回、報告する『田口下田尻遺跡』でも多くの緑釉陶器・灰釉陶器の出土を見ることができた。

こうした状況から施釉陶器については第4章で図示していない未掲載の施釉陶器についても観察し、周辺遺跡などとの比較検討を行うこととした。なお、緑釉陶器については田口上田尻・下田尻遺跡と併せて検討を行う必要があるとみられるので、再度この項で未掲載のものについても図示と観察を行うことにした。数量については同一個体とみられるものでも接合しないものはそれぞれを1点として点数に数えている。

2. 出土した施釉陶器について

出土した施釉陶器は図示できなかった未掲載のものも含めて2159点である。内訳は灰釉陶器が2077点、緑釉陶器が82点である。そのうち、図示したものは灰釉陶器218点、緑釉陶器は本文中に20点が掲載してある。なお、

前記のように本項を執筆するにあたり残りの62点についても図示するとともに本文中に掲載したものについても集成のため第777図に再掲載してある。

灰釉陶器の器種は椀、深椀、輪花椀、皿、段皿、折縁皿、耳皿、小瓶、長頸壺、広口壺、平瓶がある。また、小破片のため器種の判断ができなかった器種不明も多く存在するが、これらも上記の器種に該当するとみられ、特殊な器種が存在する可能性は低い。大まかな比率では椀・皿などの供膳具が9割、小瓶や長頸壺などの貯蔵具が1割である。貯蔵具は全体的に小型の製品が多くみられたが、その中であってⅧ区8号住居から出土した長頸壺は底部から胴部下位の破片ではあるが底径15cm前後を測るやや大型品である。

椀・皿などの供膳具では圧倒的に一般的にみることが出来る椀・皿が多く、この他では小椀、輪花椀、段皿、折縁皿、耳皿が存在していた。これらの器種は実測個体では1～5点とわずかな点数しかなく、未掲載のものの中でもほとんどみることができなかった。

緑釉陶器は82点が出土しているが、残存状態はⅥ区25号住居から出土している第209図5・6の段皿が一部欠損状態の他は4分の1以下の残存率か小破片である。その中でも第778・779図の追加掲載分として掲載したものは体部などの小破片が多い。

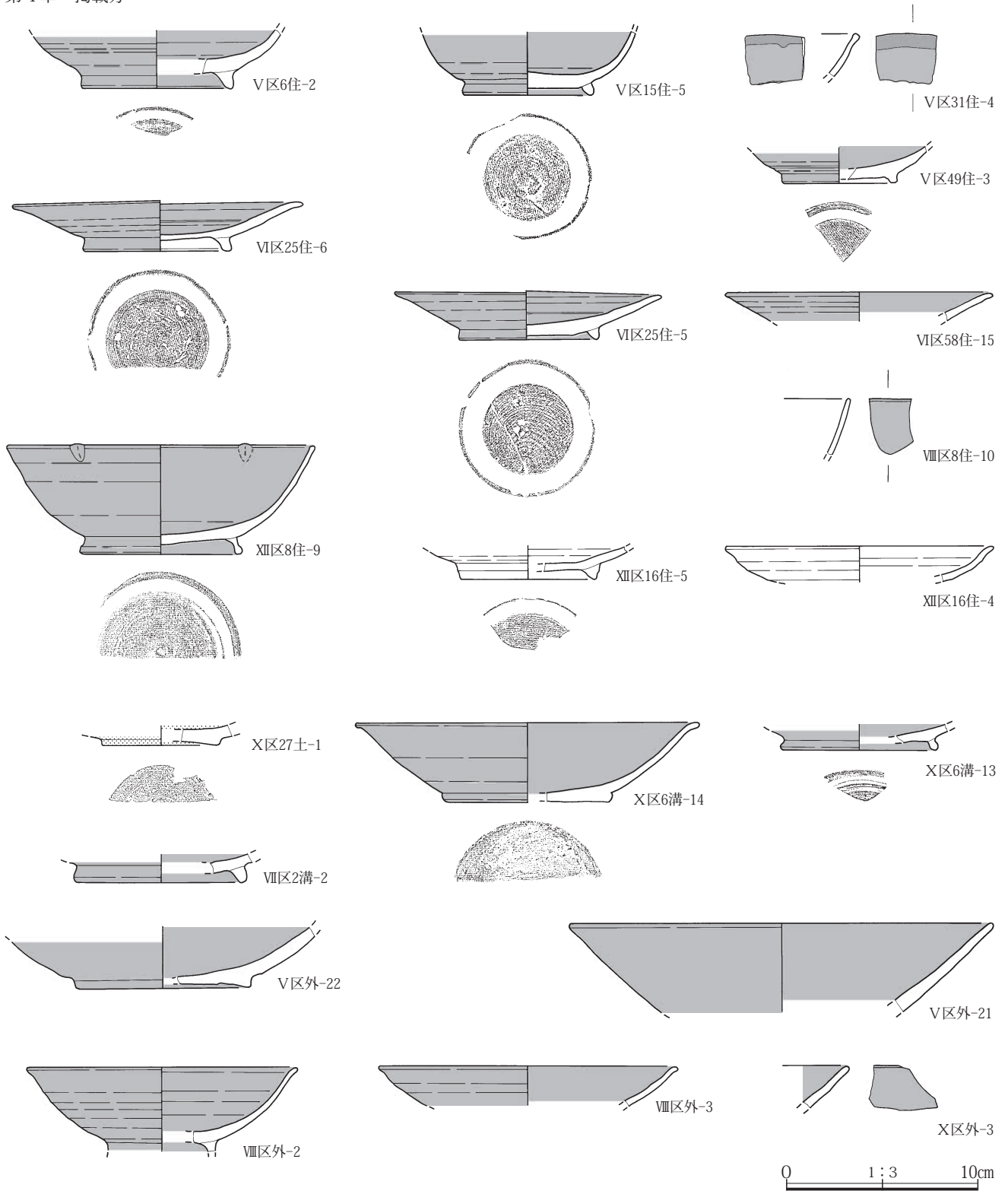
緑釉陶器の器種は椀67点、稜椀、輪花椀各1点、皿9点、段皿3点、器種が明確でないものが1点で、長頸壺や小瓶などの瓶類などはみられない。

施釉陶器を出土している遺構は竪穴住居、竪穴、土坑、溝など多く見られるが、その大部分は未掲載のものを含めても10点前後で一遺構からの出土した量はあまり多くない。なお、X区6号溝からは未掲載分として第778図に示したように11点の緑釉陶器が出土しているが、第637図14の椀と同様な胎土が観察できることから11点のうち数点は同一個体とみられる。

3. 施釉陶器の生産地・時期

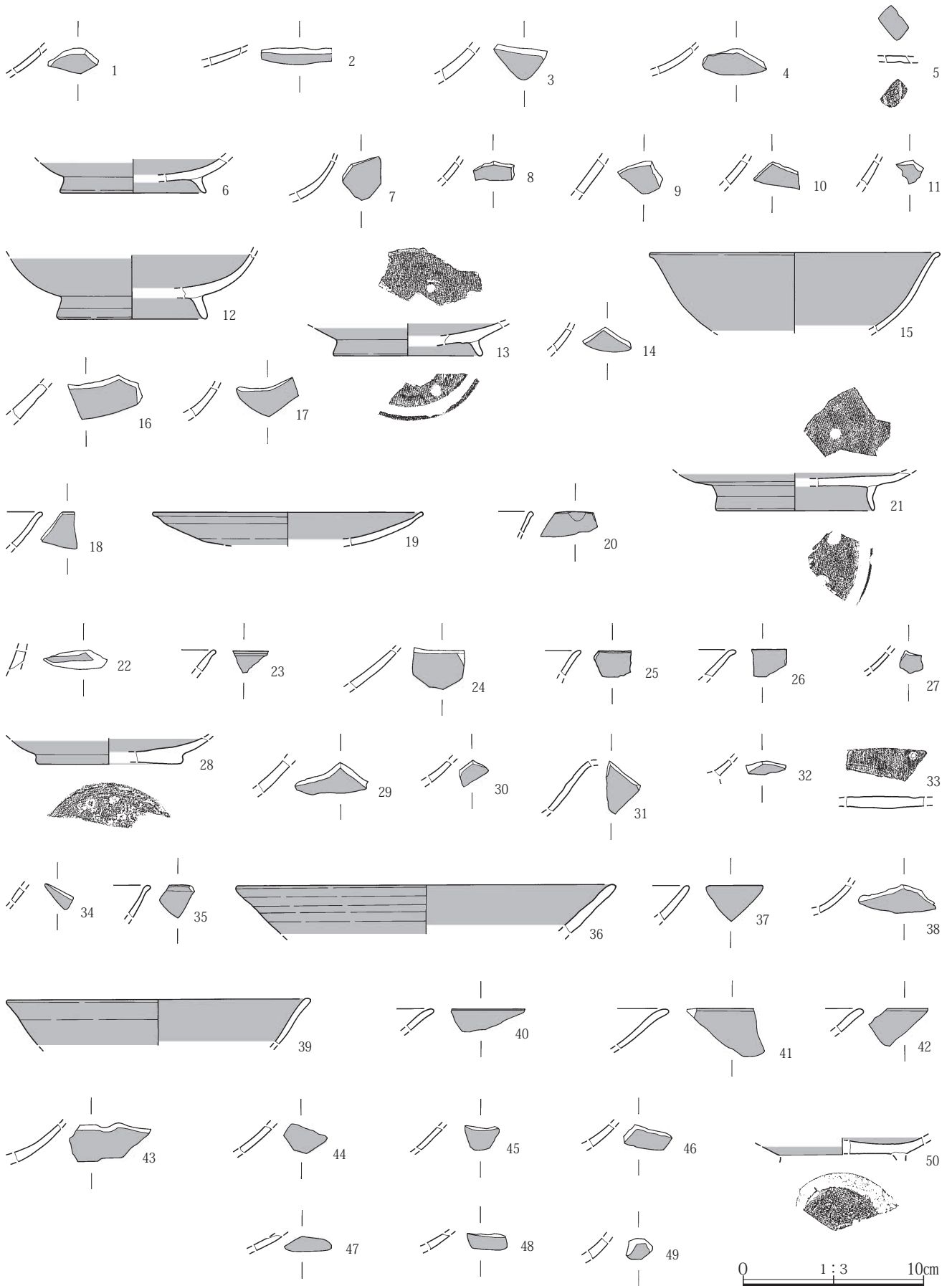
今回、灰釉陶器で掲載できなかったものについては数量が多いため全点の詳細な観察を行うことができなかったが、概観すると前記のように椀・皿類が大部分を占めている。また、口縁部や底部など時期の判断が可能な部位を見ると口縁部の外反が弱く、高台が明瞭な稜をもた

第4章 掲載分

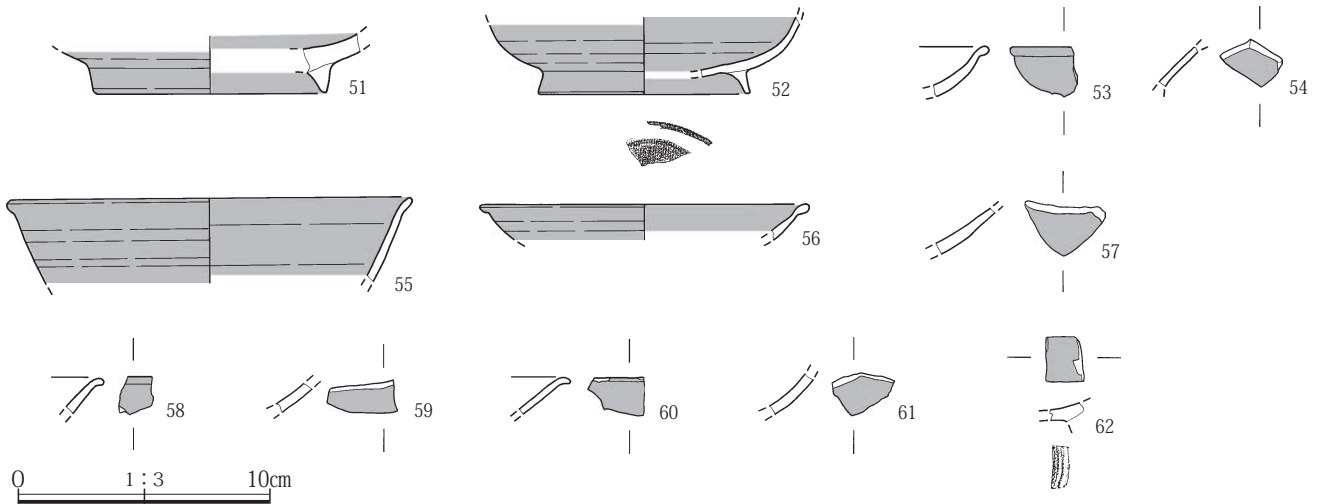


第777図 田口下田尻遺跡出土緑釉陶器集成(1)

追加 掲載分



第778図 田口下田尻遺跡出土緑釉陶器集成(2)



第779図 田口下田尻遺跡出土緑釉陶器集成(3)

ない三日月形を呈するものが多くみられ、胎土・色調も緻密で灰白色のものが多いことから東濃地方で生産された大原2号窯式期の製品が大部分を占めるとみられる。この概観した様相については図示した灰釉陶器からも裏付けることができる。灰釉陶器の生産地では猿投山西南麓古窯跡群とみられる製品はV区6号住居から出土した小型長頸壺(第76図3)、VI区54号住居から出土した平瓶(第256図5)、VI区29号住居から出土した皿(第216図7)、V区42号住居から出土した椀(第127図2)、X区13号住居から出土した椀(第534図10)など5点に対して残りは東濃地方の製品である。

生産の時期は猿投山西南麓古窯跡群^{注2}の製品が原始灰釉と呼称される折戸10号窯式期から本格的な灰釉陶器としての黒笹14号窯式期、黒笹90号窯式期である。東濃地方の製品は光ヶ丘1号窯式期～丸石2号窯式期まで出土しているが、時期の判断ができない32点を除くと光ヶ丘1号窯式期が30点、大原2号窯式期が117点、虎溪山1号窯式期が32点、丸石2号窯式期が2点である。未掲載のものについても概観すると同様な状態である。また、この結果は当然なことではあるが竪穴住居の棟数推移に近い状態である。

緑釉陶器は82点が出土しているが、この点数は接合関係がみられない個体をすべて1点として数えているため前記のようにX区6号溝から出土した小破片の中には第637図14と胎土等が同様とみられるものが存在しており、実際の個体数は若干少ないとみられる。なお、82点のうち、平安京近郊産とみられる製品は21点で残り61点

は近江を含む東海地方産とみられる。

平安京近郊産^{注3}の製品では9世紀前半から10世紀前半までの段階のものが確認されている。その中でも9世紀前半代は16点と多く、次いで9世紀末から10世紀前半代が3点、9世紀後半代は2点である。なお、9世紀後半代の2点はともにV区の低地から出土した椀(遺構外扱い第742図21・22)の2個体である。この2個体は胎土も近似していることから同一個体の可能性も窺える。なお、第742図22は高台が円盤状に近い形態であるが、中央部が大きく窪むことから9世紀前半ではなく9世紀後半の製品と判断した。

東海地方産は胎土等から判断したがほとんどが小破片のため時期などの判断が難しく時期不明としたものが35点存在した。時期の比定が可能なものでは9世紀後半代が7点、10世紀前半代が15点、10世紀後半代が3点、10世紀代とみられるが、詳細な判断がつかないものが1点である。なお、高台が残存しているものでは高台端部の内側に段を有する個体は確認されなかったことから近江産または三河二川産は存在していないとみられる。

4. 特出される灰釉陶器

灰釉陶器の多くは検出された竪穴住居の存続時期による棟数と同様に10世紀前半代の大原2号窯式期に比定されるものが圧倒的に多くみられた。その中において、V区6号住居から出土した小型長頸壺(第76図3)とVI区54号住居から出土した平瓶(第256図5)は8世紀後半代、猿投山西南麓古窯跡群の須恵器・灰釉陶器の編年^{注4}に

おける折戸10号窯式期に比定される原始灰釉と呼称される製品である。なお、原始灰釉を出土したV区6号竪穴住居は9世紀代、VI区54号竪穴住居は9世紀第3四半期に比定される住居である。

この原始灰釉と呼称される製品は県内に搬入された量は少なく、今までの出土量もわずかである。ちなみに田口上田尻・下田尻遺跡からの出土は確認されていない。

原始灰釉については筆者らによって前橋市中之沢室沢遺跡^{注5}から出土したものについての検討を行う中で記載してあるように中之沢室沢遺跡から出土した小型長頸壺や浄瓶、短頸壺蓋の他に、県内からの出土例は高崎市矢田遺跡から小型長頸壺、前橋市時沢紺屋谷戸遺跡から短頸壺蓋、伊勢崎市十三宝塚遺跡から浄瓶や水瓶などわずかな出土例しか見られない。

田口下田尻遺跡から出土した原始灰釉はV区6号住居が床面から21cm、VI区54号竪穴住居が埋没土中からの出土で混入の可能性もあるが、中之沢室沢遺跡や矢田遺跡の例をみると伝世された可能性も窺える。この原始灰釉陶器の用途については平城京でも浄瓶や水瓶、長頸壺とともにミニチュアの横瓶や長頸壺が興福寺一乗院宸殿下層下土坑からまとめて出土しており、原始灰釉陶器自体が仏具として発注されたことが知られている。県内でも十三宝塚遺跡^{注6}から出土したものは遺跡の性格や浄瓶や水瓶などの器種から仏具として用いられているものと考えられる。また、中之沢室沢遺跡では竪穴住居からの出土であるが伝世品であることや遺跡内から浄瓶や仏鉢の出土がみられることなどから僧侶の居住を指摘し、原始灰釉も仏具として使用されていたことを指摘した。田口下田尻遺跡の場合、出土位置から住居に伴うとは断定できないが、集落内に堂宇などの施設や僧侶の存在が窺える資料と言えるのではないだろうか。

5. 緑釉陶器について

緑釉陶器については前記のように残存率が悪く、ほとんど小破片の状態でも出土している。この状態は田口上田尻・下田尻遺跡においても同様な状態であった。また、器種も田口上田尻・下田尻遺跡と同様に椀や皿など供膳具だけで多くの面で田口上田尻・下田尻遺跡の調査成果と同様である。

田口上田尻・下田尻遺跡の出土状況をみると多くは竪

穴住居から出土しているが、その出土量は多くても5～6点で、ほとんどは1～3点である。また、その分布は第780図のように田口上田尻・下田尻遺跡では遺跡の南側に集中して出土し、さらに南側では遺構に伴わないものも多くみることができた。田口下田尻遺跡でも竪穴住居からの出土は1～2点で同様である。出土状況はVII区の竪穴住居から多く出土しており、遺構外からはまとまった出土をみることはできなかった。このことは田口上田尻・下田尻遺跡の集落を運営していた富豪層が入手した緑釉陶器を再分配した結果と考えられるが、田口上田尻・下田尻遺跡の南側からは遺構に伴わない緑釉陶器が多く出土していることから調査対象外の南に富豪層の居宅などが存在していた可能性も窺える。

田口上田尻・下田尻遺跡と田口下田尻遺跡では出土した緑釉陶器について多くの共通点がみられるが、生産地では田口上田尻・下田尻遺跡から平安京近郊産がみられなかったのに対して、田口下田尻遺跡の中では22点の平安京近郊産の緑釉陶器が出土している点が異なっていた。

田口下田尻遺跡から出土した平安京近郊産の緑釉陶器は9世紀前半代から10世紀前半代にかけての製品である。出土した緑釉陶器の中には体部の小破片もあるが、X区6号溝から出土した椀(第637図14)のように確実に平安京近郊産の9世紀前半代の製品に比定できるものと胎土や釉薬の色調が同一であることから判断したものも存在する。このような胎土等から判断したものを含め、9世紀前半代が16点、9世紀後半が2点、9世紀末から10世紀前半が3点であった。この平安京近郊産が集落に搬入された経緯としては税物を平安京に輸送した帰路に平安京の市で入手したか、国司などから賜ったものかはわからない。また、竪穴住居への分配された要因については読み取ることはできないが、田口下田尻遺跡だけから出土していることは何らかの背景があったと考えられる。なお、X区6号溝からの出土は緑釉陶器の性格を考えると単なる廃棄だけでなく祭祀などに使用された可能性も想定される。

また、10世紀前半代のものの中には緑釉陶器素地がみられた。この製品は器形が在地の須恵器と異なることと器面に丁寧なヘラ磨きが施され、高台と底部の間の断面観察で接合した形跡が観察できないことから、高台が削



第780図 田口上田尻・下田尻遺跡緑釉陶器出土位置図

第15表 施釉陶器出土についての比較

遺跡名	所在地	性 格	時代	調査面積 ㎡	緑釉陶器		灰釉陶器	
					出土点数	100㎡あたりの出土点数	出土点数	100㎡あたりの出土点数
田口下田尻遺跡遺跡	前橋市田口町	集落	古墳時代、飛鳥～平安時代	15,630	82	0.5	2,077	13.3
田口上田尻・下田尻遺跡	前橋市田口町	集落	古墳時代、飛鳥～平安時代	15,485	113	0.73	1,211	7.8
上記2調査の合計				31,115	195	0.63	3,288	10.6
関根細ヶ沢遺跡	前橋市関根町	集落	平安時代	9,303	20	0.215	109	1.2
日輪寺観音前遺跡	前橋市日輪寺町	集落	平安時代	9,207	7	0.076	568	6.2
元総社寺田遺跡	前橋市元総社町	国府域の祭祀	古墳時代～平安時代	4,550	11	0.24	547	12.0
天神遺跡(Ⅱ・Ⅲを含む)	前橋市元総社町	国府域の祭祀集落	古墳時代～平安時代	2,722	178	6.54	1,965	72.2
稲荷塚塚東遺跡	前橋市総社町	国府周縁の集落	平安時代	6,500	0	0	223	3.4
山王廃寺	前橋市総社町	寺院	飛鳥時代創建	1,431	36	2.5		
下東西清水上遺跡	前橋市青梨子町	集落・富豪層の居宅	飛鳥～平安時代	8,225	51	0.6	1,162	14.1
清里陣馬遺跡	吉岡町陣馬	空閑地開発の拠点集落	平安時代	4,130	168	4.1	1,234	29.9
十日市遺跡	吉岡町南下	空閑地開発の集落	平安時代	13,170	0	0	36	0.003
三ツ寺大下IV遺跡	高崎市三ツ寺	拠点集落	平安時代	3,700	116	3.1	82	2.2
下芝五反田遺跡	高崎市下芝町	空閑地開発の集落	平安時代	9,050	24	0.27	5,436	60.1
関遺跡・上西根遺跡	伊勢崎市本関町他	集落	古墳時代～平安時代	5,669	0	0	16	0.003
波志江中野面遺跡	伊勢崎市波子江末	空閑地開発の集落	平安時代	20,954	4	0.0002	24	0.001
波志江西屋敷遺跡	伊勢崎市波子江末	空閑地開発の集落	平安時代	18,215	0	0	25	0.001
福島曲戸遺跡	玉村町福島	集落・富豪層の居宅	平安時代	11,399	117	1.03	2,011	17.6
下原遺跡	長野原町林	山間地開発の集落・交通路の祭祀	平安時代	15,495	0	0	144	0.9
楡木Ⅱ遺跡	長野原町林	山間地開発の集落	平安時代	13,000	0	0	183	1.4

斜数字は報告書に掲載されている個体のみ、未掲載分を含まない。

り出しによる緑釉陶器素地と判断され、高台の形状が輪高台であることなどから時期の判断材料にしている。

緑釉陶器素地については2016年8月1日に当事業団ホームページに掲載したように県内での公表事例としては初出とみられるが、関東地方では相模国府域から出土^{注7}が知られているだけで、他の出土例はみられないようである。また、生産地でも窯跡や灰原などからの出土は知られているが、消費遺跡から出土例はほとんど知られていない。そうした中で平安京近郊では京都府乙訓地域の消費遺跡からまとまった出土例が知られている他、京都府長岡京内の一部や京都府一乗寺向畑遺跡から出土していることが知られている。

この様相について高橋照彦氏は緑釉陶器が平安京内で集中的に消費されたのに対して乙訓地域では緑釉陶器より質の劣る緑釉陶器素地がまとめて消費された図式が捉えられるとしている^{注8}。しかし、地方ではまとめて緑釉陶器素地が出土することは少なく、緑釉陶器素地自体も極まれな出土例であることから、田口下田尻遺跡に緑釉陶器素地が搬入された経緯としては平安京の市に流通していた緑釉陶器を購入した中に紛れていたか、または珍しさなどで入手した可能性が想定される。

6. 他の遺跡との比較

今回の田口下田尻遺跡と田口上田尻・下田尻遺跡からは前記のように多くの施釉陶器が出土している。この数量は第15表に示したように周辺遺跡だけでなく県内の発掘調査の事例でも突出した数量を示している。特に緑釉陶器は195点と前橋市天神遺跡の178点を超して県内では最も多い数量を出土している。

しかし、他遺跡との比較するにあたっては遺跡によって条件が異なるため単純に比較しても「多い・少ない」の比較にしかならないため高橋照彦氏が提示した100㎡当たりの出土点数による比較を試みた^{注9}。筆者は今までにいくつかの発掘調査された遺跡で施釉陶器の観察及び分析を実施している。こうした遺跡と施釉陶器を多く出土している遺跡を取り上げて作成したものが第15表である。

この表から、灰釉陶器の比率は上野国府域の元総社寺田遺跡、下東西・清水上遺跡、日輪寺観音前遺跡に近い値である。緑釉陶器は数量的に近い天神遺跡や清里陣馬

遺跡、三ツ寺大下IV遺跡とは比率の値でやや差がみられるが、福島曲戸遺跡や下東西・清水上遺跡とは近い値が示された。また、緑釉陶器では埼玉県中堀遺跡から328点、北島遺跡から434点と大量に出土している。中堀遺跡は多くの掘立柱建物が検出され勅旨田・親王賜田の管理施設とされている。北島遺跡は溝で区画された内部に四面庇をもつ大型の掘立柱建物をはじめ区画溝外ではあるが同時期に三面庇をもつ大型の掘立柱建物が検出され富豪層の居宅とされている。両遺跡とも100㎡当たりの値は中堀遺跡が1.2点、北島遺跡が4.34点の値を示しており、田口上田尻・下田尻遺跡の値0.63点が出土量としては決して少ない値ではないことがわかる。

こうした施釉陶器を多く出土し、100㎡当たりの比率も高い遺跡については国府域では国司館^{注10}が想定されることや中堀遺跡のような公的施設、北島遺跡、清里陣馬遺跡、三ツ寺大下IV遺跡、福島曲戸遺跡、日輪寺観音前遺跡のように富豪層の居宅が存在したとみられる遺跡である。

7. まとめ

今回、田口下田尻遺跡から出土した施釉陶器について検討した結果、施釉陶器は一般的な集落より数量、比率の面でかなり多いことが示された。こうした背景には日輪寺観音前遺跡のような富豪層の居宅とみられる区画溝や掘立柱建物群などの遺構の存在は確認されないが、近隣に富豪層が存在した可能性が高い。また、緑釉陶器をみると遺構外から小破片が多く出土している。これは産地から輸送してきた緑釉陶器が途中で破損したため破棄した可能性がある。このことは当時運送を担っていた「倭馬党」の存在が窺え、田口上田尻・下田尻遺跡が倭馬党の拠点集落であった可能性がある。

この地域では日輪寺観音前遺跡、関根細ヶ沢遺跡の成果から、集落は9世紀後半から拡大していることがわかっている。この集落の拡大は当時の社会情勢からみると富豪層による空閑地開発が行われる中で形成されたと考えられ、施釉陶器は富豪層によって「非日常の供膳具」^{注11}として導入されたものが竪穴住居の庶民に再配分された結果と想定される。

注

- 注1 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2012『田口上田尻遺跡・田口下田尻遺跡』、
 緑釉陶器については編集者の桜岡正信氏によって「緑釉陶器と灰釉陶器の素地補修」のなかで総括している。
- 注2 猿投山古窯跡群産の灰釉陶器の編年については城ヶ谷和広「編年論」『愛知県史 別編 古代猿投系 窯業1』を参照した。
- 注3 京都近郊産の緑釉陶器の編年については高橋照彦2003「平安京近郊の緑釉陶器生産」『古代の土器研究会第7回シンポジウム 古代の土器研究 平安時代の緑釉陶器一生産地の様相を中心に』古代の土器研究会を参照した。
- 注4 注2と同じ
- 注5 神谷佳明・桜岡正信・梅澤克典2016「中之沢室沢遺跡群出土の原始灰釉陶器について」『群馬文化』第327号による。
- 注6 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1992『史跡十三宝塚遺跡』による。
- 注7 相模国府域の平塚市坂戸B遺跡や金目遺跡群などからの出土例が知られている。
 平塚市博物館市史編さん担当2001『平塚市内出土の緑釉陶器 平塚市史別編考古 基礎資料集2』他
- 注8 緑釉陶器素地の平安京周辺の出土状況については次の文献を参照した。高橋照彦1999「土器の流通・消費からみた平安京とその周辺」『国立歴史民俗博物館研究報告』第78集国立歴史民俗博物館
- 注9 高橋照彦氏は官衙における施釉陶器を検討する際に種々の差異が存在することから各遺跡の出土比較を同格にするために100㎡当たりの出土量で比較している。高橋照彦2015「都と地方の土器」『第18回古代官衙・集落研究会報告書 官衙・集落と土器1—宮都・官衙と土器—』独立行政法人 奈良文化財研究所
- 注10 前橋市天神遺跡からは掘立柱建物などは検出されていないが、第15表に示した豊富な施釉陶器の他に白磁や青磁、銅鏡や鉈尾等の金属製品が出土している。こうした遺物の出土状況は下野国府における推定国司館に近い。こうしたことから天神遺跡の近接地に国司館が存在していたことが窺える。なお、下野国府の国司館については次の文献を参照した。高橋照彦2001「地方官衙出土の平安時代の緑釉陶器」『月刊考古学ジャーナル』N0.475ニューサイエンス社
- 注11 施釉陶器が非日常のものであることは筆者らによって指摘した。綿貫邦男・神谷佳明・桜岡正信1992「群馬における施釉陶器の様相について(1)」『研究紀要』9(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

引用・参考文献

- 古代の土器研究会1994『古代の土器研究—律令的土器様式の東・西3施釉陶器—』
- 東海土器研究会2015『第3回東海土器研究会 灰釉陶器生産における地方窯の成立と展開』
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1981『清里陣馬遺跡』
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1996『元総社寺田遺跡Ⅲ』
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1998『下東西清水上遺跡』
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1999『下芝五反田遺跡—奈良・平安時代以降編—』
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2001『波志江中野面遺跡(1)』
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2001『波志江西屋敷遺跡』
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団『福島曲戸遺跡・上福島遺跡』
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2003『稲荷塚道東遺跡』
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2007『下原遺跡Ⅱ』
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2008『楡木Ⅱ遺跡(1)』
- 前橋市教育委員会2012『山王廃寺—平成22年度調査報告—』
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2012『田口上田尻遺跡・田口下田尻遺跡』
- (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2013『新屋敷遺跡・上西根遺跡・関遺跡(1)』
- (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2013『十日市遺跡・住遺跡・千代開南遺跡・千代開北遺跡』
- (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2015『関根細ヶ沢遺跡』
- (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2017『日輪寺観音前遺跡』
- 高崎市教育委員会2001『保渡田徳昌寺遺跡・三ツ寺大下IV遺跡』
- 前橋市教育委員会・前橋市埋蔵文化財発掘調査団1987『天神遺跡』、1989『天神Ⅱ遺跡』
- 前橋市教育委員会2008『天神Ⅲ遺跡』
- 前橋市教育委員会2012『山王廃寺』
- (財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団1997『中堀遺跡』
- (財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団2002『北島遺跡V』

第16表 遺構の対照

区	調査時の遺構名		変更後の遺構名		備考	
V	21	住居	9	住居	統合	
	25	住居		欠番	変更	
	50	住居		欠番	変更	
	51	住居		欠番	削除	
	54	住居	35	住居	統合	
	55	住居	34	住居	統合	
	57	住居	30	住居	統合	
	60	住居	61	住居	統合	
	62	住居	70	住居	統合	
	75	住居		欠番	削除	
	77	住居		欠番	削除	
	78	住居		欠番	削除	
	13	溝	6	溝	統合	
	30	土坑		欠番	変更	
	32	土坑		欠番	変更	
	38	土坑		欠番	変更	
	42	土坑		欠番	変更	
	45	土坑		欠番	削除	
	53	土坑	52	土坑	統合	
	57	土坑		欠番	変更	
	90	土坑		欠番	変更	
	91	土坑		欠番	変更	
	92	土坑		欠番	変更	
	93	土坑		欠番	変更	
	95	土坑		欠番	変更	
	97	土坑		欠番	変更	
	105	土坑		欠番	変更	
	1	SX	1	集石	変更	
	2	SX	2	集石	変更	
	3	SX	3	集石	変更	
	4	SX	4	集石	変更	
	5	畠耕作痕		欠番	削除	
	6	畠耕作痕		欠番	削除	
7	畠耕作痕		欠番	削除		
8	畠耕作痕		欠番	削除		
9	畠耕作痕		欠番	削除		
10	畠耕作痕		欠番	削除		
11	畠耕作痕		欠番	削除		
12	畠耕作痕		欠番	削除		
13	畠耕作痕		欠番	削除		
14	畠耕作痕		欠番	削除		
15	畠耕作痕		欠番	削除		
16	畠耕作痕		欠番	削除		
17	畠耕作痕		欠番	削除		
18	畠耕作痕		欠番	削除		
19	畠耕作痕		欠番	削除		
VI	3	住居		欠番	欠番	
	13	住居		欠番	削除	
	35	住居	34	住居	統合	
	36	住居		欠番	削除	
	50	住居	51	住居	統合	
	12	住居	50	土坑	変更	
	18	溝		欠番	削除	
	12	土坑		欠番	削除	
	33	土坑		欠番	削除	
	50	土坑		欠番	変更	
	51	土坑		欠番	変更	
	3	SX	1	集石	変更	
	3	SX	2	集石	変更	
	3	SX	3	集石	変更	
	4	SX	4	集石	変更	
VII	11	住居		欠番	削除	
	15	住居		欠番	変更	
VII	16	住居	1	墓坑	変更	
	17	住居		欠番	欠番	
	41	住居		欠番	削除	
	46	住居		欠番	欠番	
	50	住居	49	住居	統合	
	58	住居	54	住居	統合	
	61	住居		欠番	欠番	
	69	住居		欠番	欠番	
	80	住居		欠番	欠番	
	81	住居		欠番	欠番	
	83	住居		欠番	欠番	
	88	住居	45	住居	統合	
	93	住居	49	住居	統合	
	99	住居	86	住居	統合	
	107	住居		欠番	削除	
	108	住居	64	住居	統合	
	109	住居		欠番	削除	
	113	住居	79	住居	統合	
	114	住居		欠番	削除	
	118	住居		欠番	削除	
	120	住居		欠番	削除	
	1	溝	13	溝	統合	
	113	土坑		欠番	変更	
	124	土坑		欠番	変更	
	125	土坑		欠番	変更	
	136	土坑		欠番	変更	
	140	土坑		欠番	変更	
	149	土坑		欠番	変更	
	151	土坑		欠番	変更	
	152	土坑		欠番	変更	
	161	土坑		欠番	変更	
	1	SX	1	鍛冶	変更	
	1	畠耕作痕		欠番	削除	
			1	畠	新規	
	VIII	9	住居		欠番	削除
		11	住居	3	住居	統合
		13	住居	12	住居	統合
		26	住居		欠番	削除
		4	土坑		欠番	削除
	IX	34	土坑		欠番	変更
		13	住居		欠番	削除
		16	住居	19	住居	統合
		21	住居		欠番	削除
		23	住居	14	住居	統合
	X	24	住居	22	住居	統合
		25	住居		欠番	削除
		27	住居		欠番	削除
25		住居		欠番	削除	
28		住居		欠番	欠番	
29		住居		欠番	削除	
32		住居		欠番	削除	
3		溝		欠番	削除	
4		溝		欠番	削除	
5		溝		欠番	削除	
9		溝		欠番	削除	
40		土坑		欠番	削除	
XI	1	住居		欠番	変更	
	2	住居		欠番	変更	
	3	住居		欠番	削除	
	5	住居		欠番	削除	
	1	配石		欠番	削除	
XII	6	住居		欠番	削除	
	1	SX	1	鍛冶	変更	

未掲載遺物一覧

第17表 田口下田尻遺跡 未掲載遺物一覧

区	遺構NO.	遺構種		土師器			須恵器				黒色土器		灰釉陶器		緑釉陶器			瓦	不明	その他	合計
				杯・碗類	甃	不明	杯・碗	長頸壺 他	甃	羽釜・甌	不明	杯・碗類	壺	碗・皿	瓶類	不明	碗・皿				
V	1	住居	点数	20	32		17		1	6			5							81	
			重量	72	665		580		165	270			64							1816	
V	2	住居	点数	85	22		37			7			1							152	
			重量	270	250		270			405			11							1206	
V	3	住居	点数	45	5		15			3										68	
			重量	133	125		100			168										526	
V	4	住居	点数	18	15		7		1	6										47	
			重量	38	55		32		225	270										620	
V	5	住居	点数	105	246		79		3				6							439	
			重量	282	990		635		25				33							1965	
V	6	住居	点数	40	54		25		10	1			1							131	
			重量	116	770		351		163	27			3							1430	
V	6・7	住居	点数										1							1	
			重量										2							2	
V	7	住居	点数		12		6		5	1			4							28	
			重量		204		45		580	42			17							888	
V	8	住居	点数	2	6		6													14	
			重量	14	168		72													254	
V	9	住居	点数	17	35		15		4											71	
			重量	65	100		100		220											485	
V	9・10	住居	点数	86	118		77		17											298	
			重量	235	575		520		470											1800	
V	10	住居	点数	9	31		8		3	8			3							62	
			重量	24	400		43		39	407			70							983	
V	11	住居	点数		12		10			7										29	
			重量		290		49			170										509	
V	12	住居	点数	16	185		26		3	1			2							233	
			重量	95	1089		218		35	30			33							1500	
V	13	住居	点数	13	20		9		2	2			3							49	
			重量	28	925		265		390	80			29							1717	
V	13・14	住居	点数	37	231		76		4	28			12			1				389	
			重量	181	1188		570		74	696			76			4				2789	
V	14	住居	点数	9	28		7		1											45	
			重量	22	473		147		27											669	
V	15	住居	点数		41		13			4		3								61	
			重量		1480		382			258		50								2170	
V	15・16	住居	点数	3	23		10			1			1							38	
			重量	6	127		46			29			10							218	
V	16	住居	点数		16		3													19	
			重量		138		15													153	
V	16・17	住居	点数										1							1	
			重量										2							2	
V	15・16・17	住居	点数	28	64		22		2	31										147	
			重量	122	447		115		53	516										1253	
V	17	住居	点数				2			2										4	
			重量				209			223										432	
V	18	住居	点数	12			3			2										17	
			重量	30			24			10										64	
V	19	住居	点数	3	82		6		10											101	
			重量	4	1396		56		357											1813	
V	20	住居	点数	14	45		11						1							71	
			重量	56	375		114						19							564	
V	22	住居	点数	26	51		17		3	2			3					1		103	
			重量	106	403		227		232	47			22					16		1053	
V	23	住居	点数	15	20		6		5											46	
			重量	34	90		27		91											242	
V	24	住居	点数	1	1		1													3	
			重量	6	19		7													32	
V	25	住居	点数				2													2	
			重量				22													22	
V	27	住居	点数	12	92		8			14										126	
			重量	37	635		219			367										1258	
V	28	住居	点数	168	588		98		10			5		1					1	871	
			重量	515	2690		666		488		71		6					5		4441	
V	29	住居	点数	2	23		10		1	30										66	
			重量	15	954		176		29	1536										2710	
V	30	住居	点数	20	181		28		15	32		1		6	5					288	
			重量	65	1100		303		850	1120		95		334	75					3942	

区	遺構NO.	遺構種		土師器			須恵器				黒色土器		灰釉陶器		緑釉陶器			瓦	不明	その他	合計	
				杯・碗類	甗	不明	杯・碗	長頸壺他	甗	羽釜・甑	不明	杯・碗類	壺	碗・皿	瓶類	不明	碗・皿					
V	31	住居	点数	14	36		29		10	1	3	4								97		
			重量	40	607		292		212	30	90	13								1284		
V	32	住居	点数	9	16		5		1	13										44		
			重量	36	148		30		18	475										707		
V	33	住居	点数	26	36		20		7	8		4								101		
			重量	60	201		154		120	280		15								830		
V	34	住居	点数	114	47		18		12			4								195		
			重量	308	601		201		252			16								1378		
V	35		点数	202	525		40					1								768		
			重量	828	2680		316					2								3826		
V	36	住居	点数	16	36		24		4	1		3							1	85	陶器	
			重量	43	539		199		375	26		9							3	1194		
V	37	住居	点数	4	1		2													7		
			重量	32	3		5													40		
V	38	住居	点数	18	25		1													44		
			重量	85	270		3													358		
V	39		点数	39	54		4	1				1								99		
			重量	133	488		23	79				2								725		
V	40	住居	点数	64	125		73	1	20	2		4								289		
			重量	170	2360		667	59	340	59		34								3689		
V	41		点数	28	233		6		1											268		
			重量	186	1680		77		56											1999		
V	42		点数	9	60		22	2	12	16		6								127		
			重量	31	465		244	34	852	850		117								2593		
V	43	住居	点数	36	52		8		2	1										99		
			重量	216	363		76		49	98										802		
V	44		点数	37	45		10		6											98		
			重量	145	274		50		156											625		
V	45		点数	5	53		10		1	7		1								77		
			重量	22	1765		152		13	650		3								2605		
V	46	住居	点数	46	310		35		5											396		
			重量	148	2020		249		606											3023		
V	47	住居	点数	4	8		2		3											17		
			重量	18	98		73		755											944		
V	48	住居	点数	23	103		28	1	10	1										166		
			重量	67	968		419	7	258	27										1746		
V	49	住居	点数		16		23		2											41		
			重量		105		490		323											918		
V	49・50	住居	点数	19	60		31		2			3								115		
			重量	68	235		290		106			18								717		
V	50	住居	点数	4	2															6		
			重量	20	34															54		
V	52	住居	点数	22	50		16		1											89		
			重量	74	252		310		64											700		
V	53	住居	点数	31	275		18		2	11										337		
			重量	130	3730		242		33	452										4587		
V	54	住居	点数		10															10		
			重量		65															65		
V	55	住居	点数	6	10		8		99											123		
			重量	21	65		48		687											821		
V	56	住居	点数	95	222		72		18			3								410		
			重量	203	2180		1100		404			54								3941		
V	57	住居	点数	12	24		4					1								41		
			重量	33	121		34					6								194		
V	58	住居	点数	11	115		5		1	2		2								136		
			重量	111	3435		21		21	205		13								3806		
V	59	住居	点数	10	58		17		10	8		2			1					106		
			重量	22	628		109		661	381		26			4					1831		
V	60	住居	点数	9	64		32			6		1								112		
			重量	29	581		371			453		7								1441		
V	60・61	住居	点数	57	65		15		7			2							3	149		
			重量	229	401		96		270			11						10	1017			
V	61	住居	点数	31	52		15		1	35		2								136		
			重量	77	153		165		104	1350		27								1876		
V	62	住居	点数	239	354		141		15	1		9								759		
			重量	585	2750		1160		470	146		120								5231		
V	63	住居	点数	32	13		9		4	18		1								77		
			重量	166	118		184		139	1705		1								2313		

凡例 重量はグラム。遺構の番号は調査時のものを使用。

未掲載遺物一覧

区	遺構NO.	遺構種		土師器			須恵器				黒色土器		灰釉陶器			緑釉陶器			瓦	不明	その他	合計	
				杯・碗類	甕	不明	杯・碗	長頸壺他	甕	羽釜・甑	不明	杯・碗類	壺	碗・皿	瓶類	不明	碗・皿	瓶類					
V	64	住居	点数	6	50		1		2	1											60		
			重量	90	339		10		184	62											685		
V	65	住居	点数	8	13		7		1	21											50		
			重量	39	117		72		11	2418											2657		
V	65・66	住居	点数	42	113		14		4												173		
			重量	135	654		73		77												939		
V	66	住居	点数	16	74		6														96		
			重量	73	855		69														997		
V	67	住居	点数	70	112		31		8				3								224		
			重量	246	1320		181		186			13									1946		
V	68	住居	点数	7	3																10		
			重量	18	3																21		
V	69	住居	点数	9	15		3		1	1											2	31	縄文あり
			重量	81	87		38		10	68											6	290	
V	71	住居	点数	34	50		33	2	10	1			1									131	
			重量	132	600		500	159	442	67			3									1903	
V	72	住居	点数	11	63		5		1				5									85	
			重量	83	559		36		12			132										822	
V	73	住居	点数		30		6	1	3													40	
			重量		148		269	175	441													1033	
V	74	住居	点数		16		3		12	8				1								40	
			重量		74		22		1400	1140				156								2792	
V	76	住居	点数		9		1		1				1									12	
			重量		60		10		18				6									94	
VI	1	住居	点数	107	107		40		5	2			4	1								266	
			重量	370	595		39		121	150			8	15								1298	
VI	1・10	住居	点数	21	64		6		2	18												111	
			重量	148	729		180		25	536												1618	
VI	2	住居	点数	79	181		39		13				2								2	316	縄文あり
			重量	331	876		476		317				14								15	2029	
VI	3	住居	点数	22	46		15		4	2			2									91	
			重量	50	274		107		100	53			7									591	
VI	4	住居	点数	122	202		54	1	11	8			1	3								402	
			重量	316	1575		428	14	377	215			6	44								2975	
VI	5	住居	点数	10	43		17		16				4									90	
			重量	79	597		52		430				21									1179	
VI	6	住居	点数	97	149		30		7	13			11									307	
			重量	461	1049		278		120	323			49									2280	
VI	7	住居	点数	43	88		43		3	5			1									183	
			重量	298	615		301		136	302			8									1660	
VI	8	住居	点数	46	61		20		5													132	
			重量	224	442		125		78													869	
VI	6・7・8	住居	点数	75	218		61		17	5			12									388	
			重量	406	1012		517		277	102			60									2374	
VI	9	住居	点数	104	304		107		7				1									523	
			重量	487	1385		727		532				1									3132	
VI	10	住居	点数	20	55		3		1													79	
			重量	69	221		13		10													313	
VI	11	住居	点数	2	30		8		4													44	
			重量	6	265		28		42													341	
VI	12	住居	点数	9	2		3		19													33	
			重量	27	145		7		75													254	
VI	13	住居	点数	1					3													4	
			重量	27					92													119	
VI	14	住居	点数	12	22		6															40	
			重量	42	229		44															315	
VI	15	住居	点数	5	179		27		6	2												219	
			重量	53	1303		221		139	73												1789	
VI	16	住居	点数	15	232		48		9													304	
			重量	115	928		350		203													1596	
VI	17	住居	点数	26	108		33		6	10			1									184	
			重量	73	470		226		77	661			4									1511	
VI	18	住居	点数	6	65		3	1					1									76	
			重量	37	436		5	12					1									491	
VI	19	住居	点数	45	192		26		9	25												297	
			重量	247	1057		247		203	239												1993	
VI	20	住居	点数	89	83		41		9	17			1									240	
			重量	300	706		265		351	734			15									2371	

未掲載遺物一覧

区	遺構 NO.	遺構種		土師器			須恵器				黒色土器		灰釉陶器			緑釉陶器			瓦	不明	その他	合計	
				杯・ 碗類	甗	不明	杯・碗	長頸 壺 他	甗	羽釜・ 甗	不明	杯・ 碗類	壺	碗・皿	瓶類	不明	碗・皿	瓶類					
VI	21	住居	点数	23	26		12			25			1								87		
			重量	108	238		159			775			1								1281		
VI	22	住居	点数	34			58		8												100		
			重量	106			583		260												949		
VI	23	住居	点数		2																2		
			重量		44																44		
VI	24	住居	点数	35	33			1	3	23											95		
			重量	100	111			33	91	631											966		
VI	25	住居	点数	59	90		25		12	32			6								224		
			重量	158	996		462		177	1322			46								3161		
VI	26	住居	点数	2	12																14		
			重量	7	366																373		
VI	27	住居	点数		12		1														13		
			重量		45		2														47		
VI	28	住居	点数	12	105		35		38	4			2								196		
			重量	40	344		303		1398	307			10								2402		
VI	29	住居	点数	73	397		103	5	17				1								596		
			重量	223	2159		1001	51	719				10								4163		
VI	30	住居	点数	56	183		60		27				2								328		
			重量	164	893		510		423				4								1994		
VI	31	住居	点数	9	37		22		6				1								75		
			重量	27	304		218		163				48								760		
VI	32	住居	点数	13	48		28		17	2			4								112		
			重量	55	493		326		473	58			18								1423		
VI	33	住居	点数	9	59		18		7												93		
			重量	23	412		248		391												1074		
VI	34	住居	点数	23	192		39		8												262		
			重量	151	1098		440		824												2513		
VI	35	住居	点数	60	132		58		14	6											270		
			重量	378	975		543		621	72											2589		
VI	36	住居	点数		2		1		2												5		
			重量		19		11		23												53		
VI	37	住居	点数	79	327		139		29	74			5								653		
			重量	230	1618		1039		832	1686			27								5432		
VI	38	住居	点数	22	38		26	2	11	15			2								116		
			重量	56	739		182	67	333	411			9								1797		
VI	39	住居	点数	6	43		31		10						1						91		
			重量	14	240		195		212					12							673		
VI	40	住居	点数				1		2	1											4		
			重量				23		158	85											266		
VI	39・40	住居	点数	27	69		45		10	3			1	1						1	157	弥生あり	
			重量	97	380		323		665	88			11	5						21	1590		
VI	41	住居	点数	7	2		1														10		
			重量	27	52		3														82		
VI	42	住居	点数	3	8				1	9											21		
			重量	16	84				15	215											330		
VI	41・42	住居	点数				48		4	48			1								101		
			重量				368		769	2296			10								3443		
VI	43	住居	点数	13	73		16		3				1								106		
			重量	45	366		183		116				2								712		
VI	44	住居	点数	48	52		24		2	9											135		
			重量	98	376		184		51	513											1222		
VI	45	住居	点数	9	72		18		4												103		
			重量	43	404		161		61												669		
VI	46	住居	点数	7	147		63		47	4			4	1						4	277	陶器・縄文・1羽口2	
			重量	35	550		400		1580	313			35	27							153	3093	
VI	47	住居	点数	1	8		6		12	1			1								29		
			重量	2	19		24		427	10			1								483		
VI	48	住居	点数	276	95		94		14	31			8								518		
			重量	684	886		1088		361	1229			18								4266		
VI	49	住居	点数	45	99		37		17				3								201		
			重量	146	474		258		757				23								1658		
VI	50	住居	点数	34	36		9		3				1								83		
			重量	68	306		159		108				2								643		
VI	51	住居	点数	3	34		9	1	10	2											59		
			重量	15	174		83	7	381	101											761		
VI	52	住居	点数	19	23		17		11												70		
			重量	61	89		71		487												708		

未掲載遺物一覧

区	遺構NO.	遺構種		土師器			須恵器				黒色土器		灰釉陶器			緑釉陶器			瓦	不明	その他	合計
				杯・碗類	甕	不明	杯・碗	長頸壺他	甕	羽釜・甑	不明	杯・碗類	壺	碗・皿	瓶類	不明	碗・皿	瓶類				
VI	53	住居	点数	125	320		103	6	77	4			5	2							642	
			重量	521	1219		1144	77	2188	99			23	44								5315
VI	54	住居	点数	90	252		66	8	20												436	
			重量	420	1260		622	167	813													3282
VI	53・54	住居	点数	3	17		9		12												41	
			重量	17	174		189		1298													1678
VI	55	住居	点数	35	86		15		14	3			1	1							155	
			重量	161	503		102		396	121			4	12								1299
VI	56	住居	点数		5		2		2												9	
			重量		21		16		16													53
VI	57	住居	点数	13	5		3		2												23	
			重量	35	139		41		182													397
VI	58	住居	点数		15		1		1	11											28	
			重量		202		6		26	169												403
VII	1	住居	点数	3	82		4									1					90	
			重量	8	518		24										3					553
VII	2	住居	点数	12	17		12		2				2								45	
			重量	44	61		108		106				1									320
VII	3	住居	点数	11	65		21		3				6	3							109	
			重量	39	443		120		130				18	139								889
VII	4	住居	点数	18	54		25		11	1			2								111	
			重量	68	486		200		1832	16			4									2606
VII	5	住居	点数	38	264		83		7				2	1		1					396	
			重量	111	1910		895		280				8	20		3						3227
VII	6	住居	点数	40	104		23		7				2								176	
			重量	147	549		117		99				4									916
VII	7	住居	点数	21	214		34		15	1			2			1					288	
			重量	86	1552		272		188	22			6			1						2127
VII	8	住居	点数	40	353		89	1	10				2								495	
			重量	167	2015		543	7	211				6									2949
VII	9	住居	点数	8	15				2				1								26	
			重量	45	314				78				3									440
VII	10	住居	点数	69	99		37		10												215	
			重量	204	469		327		335													1335
VII	11	住居	点数	13	6		1						4								24	
			重量	30	40		11						10									91
VII	12	住居	点数	7	5		3														15	
			重量	12	28		28															68
VII	13	住居	点数	33	71		22		11	1			1								139	
			重量	98	372		176		417	38			2									1103
VII	14	住居	点数	60	215		50	1	15				1								342	
			重量	357	1081		484	77	627				5									2631
VII	15	住居	点数	7	28		18		5	1											59	
			重量	68	695		148		402	30												1343
VII	16	住居	点数	10	35		7						3								55	
			重量	44	1849		44						12									1949
VII	17	住居	点数	20	90		29	4	18	1			5								167	
			重量	70	512		292	87	744	41			19									1765
VII	18	住居	点数	344	511		160		36				5								1056	
			重量	1713	2983		1709		2045				26									8476
VII	19	住居	点数	57	168		73		39				9	1		5					352	
			重量	208	881		780		1471				39	9		17						3405
VII	20	住居	点数	2	7		3		16							1					29	
			重量	20	37		60		417							1						535
VII	21	住居	点数	50	98		97	3	37	30			9								324	
			重量	372	853		923	62	776	1147			40									4173
VII	22	住居	点数	28	64		21	6	6	2			5								132	
			重量	140	703		199	180	173	116			29									1540
VII	23	住居	点数	21	19		21		3	29			3			2					98	
			重量	67	103		291		667	1045			37			33						2243
VII	24	住居	点数				1		1												2	
			重量				5		37													42
VII	25	住居	点数				1							1							2	
			重量				45							7								52
VII	26	住居	点数	2	4		1		1												8	
			重量	27	31		15		39													112
VII	27	住居	点数		45		10						1								56	
			重量		171		62						7									240

未掲載遺物一覧

区	遺構NO.	遺構種		土師器			須恵器				黒色土器		灰釉陶器			緑釉陶器			瓦	不明	その他	合計
				杯・碗類	甗	不明	杯・碗	長頸壺他	甗	羽釜・甑	不明	杯・碗類	壺	碗・皿	瓶類	不明	碗・皿	瓶類				
VII	28	住居	点数	15	33		15		3	1			2								69	
			重量	35	147		88		189	19			9								487	
VII	29	住居	点数	29	90		54		4	2			4	1							184	
			重量	100	470		438		62	22			17	19							1128	
VII	30	住居	点数	7	9		9		2	13			1								41	
			重量	26	60		134		330	480			5								1035	
VII	31	住居	点数		26		42	8	1	20			2								99	
			重量		683		208	435	38	968			17								2349	
VII	32	住居	点数	19	33		20		8				4			1					85	
			重量	51	627		199		746				23			1					1647	
VII	33	住居	点数		5		2														7	
			重量		140		32														172	
VII	34	住居	点数	45	120		90		10	6			5			1					277	
			重量	100	865		718		306	190			31			18					2228	
VII	35	住居	点数	11	48		21		4				2								86	
			重量	49	178		110		70				5								412	
VII	36	住居	点数	89	244		115		16	1			15			2					482	
			重量	254	2500		854		386	65			93			10					4162	
VII	37	住居	点数		98		35		16	13						1					163	
			重量		1006		224		682	557						2					2471	
VII	38	住居	点数	21	37		44		4	18			6								130	
			重量	68	362		49		291	947			31								1748	
VII	39	住居	点数	57	163		52		8	1											281	
			重量	175	1232		425		453	17											2302	
VII	40	住居	点数		69		54		9	18						1					151	
			重量		1154		375		456	611						9					2605	
VII	41	住居	点数	22	2		9		5	1			1								40	
			重量	78	78		73		53	15			4								301	
VII	42	住居	点数	35	50		28		10	18				1							142	
			重量	80	561		231		245	660				8							1785	
VII	43	住居	点数	113	253		38	2	3	1											410	
			重量	490	1658		342	40	188	62											2780	
VII	44	住居	点数	130	253		116	3	14	2			1								519	
			重量	498	1451		1064	144	342	72			9								3580	
VII	45	住居	点数	10	100		54	3	9	23			11								210	
			重量	99	1124		620	78	149	971			59								3100	
VII	47	住居	点数	30	29		31			13						9					112	
			重量	116	364		176			392			38								1086	
VII	48	住居	点数	7			9		11	5											32	
			重量	59			122		119	149											449	
VII	49	住居	点数		21		8		5	2											36	
			重量		428		75		185	51											739	
VII	50	住居	点数	1	37		9		6										7		60	
			重量	5	633		71		130										50		889	
VII	51	住居	点数	7	35		32		2	3			4						1		84	
			重量	19	538		409		185	37			13						27		1228	
VII	52	住居	点数	25	18		11		2	4						1					61	
			重量	98	294		85		51	144						1					673	
VII	53	住居	点数	19	18		10		3	4											54	
			重量	51	241		94		126	97											609	
VII	54	住居	点数	33	89		26			37			3								188	
			重量	97	960		187			904			9								2157	
VII	55	住居	点数	13	16		4		16	2											51	
			重量	32	393		30		393	323											1171	
VII	56	住居	点数	26	50		21		5	4			6						1		113	
			重量	84	870		207		101	120			34						80		1496	
VII	57	住居	点数	87	112		84		19	22			14								338	
			重量	297	1024		910		1429	723			71								4454	
VII	58	住居	点数	12	68		11		4				2								97	
			重量	66	619		71		126				11								893	
VII	59	住居	点数	68	92		44		65	8			16								293	
			重量	245	1882		303		1202	218			87								3937	
VII	60	住居	点数	72	180		55		16	18			11								352	
			重量	196	1624		621		438	444			28								3351	
VII	61	住居	点数		23		5		6				1								35	
			重量		195		13		82				4								294	
VII	62	住居	点数	9	7		11			8			2								37	
			重量	17	62		12			315			4								410	

未掲載遺物一覧

区	遺構NO.	遺構種	土師器			須恵器				黒色土器		灰釉陶器			緑釉陶器			瓦	不明	その他	合計
			杯・碗類	甗	不明	杯・碗	長頸壺他	甗	羽釜・甗	不明	杯・碗類	壺	碗・皿	瓶類	不明	碗・皿	瓶類				
VII	63	住居	点数 重量	30 989		15 186		2 42	3 66			5 41								55 1324	
VII	64	住居	点数 重量	3 14		46 426		14 242	18 434			14 56						1 10		96 1182	
VII	64・108	住居	点数 重量	3 66	14 708		11 367	1 14	4 391	7 427										40 1973	
VII	65	住居	点数 重量	1 7	17 405		10 39		3 376	3 164										34 991	
VII	66	住居	点数 重量	12 88	34 682		20 302		8 249	10 495		1 19								85 1835	
VII	67	住居	点数 重量	1 8	14 488		3 29		3 46											21 571	
VII	68	住居	点数 重量		59 1191		3 39		5 160	15 605		1 14		1 8						84 2027	
VII	69	住居	点数 重量				3 27													3 27	
VII	70	住居	点数 重量	8 64	34 369		6 60		4 317			4 48								56 858	
VII	71	住居	点数 重量	13 73	23 616		26 255	1 59	11 547	22 975				1 2						97 2527	
VII	72	住居	点数 重量	31 175	55 526		32 270		2 60	15 493		2 13					1 91			138 1628	
VII	73	住居	点数 重量		3 71		14 117		7 428			1 10								25 626	
VII	74	住居	点数 重量	7 35	101 767		66 534		19 458	38 1345		9 70	1 3	1 1						242 3213	
VII	75	住居	点数 重量	39 183	73 1470		47 490		14 434	24 1104		8 48								205 3729	
VII	76	住居	点数 重量	14 49	32 256		8 173		5 223	1 66		2 23								62 790	
VII	77	住居	点数 重量	5 33	35 200		21 185		4 92	6 118		2 7								73 635	
VII	77・112	住居	点数 重量		85 1800		74 713	1 3	28 2249	12 342		2 15	2 20							204 5142	
VII	78	住居	点数 重量	3 10	14 69		7 67		2 43	2 82										28 271	
VII	79	住居	点数 重量	15 53	20 131		49 237		8 183	4 148		4 28								100 780	
VII	80	住居	点数 重量		1 3		1 3													2 6	
VII	82	住居	点数 重量	29 129	67 853		18 245		9 198	5 337		12 41		1 5						141 1808	
VII	84	住居	点数 重量	12 26	15 162		13 82		14 412			2 4								56 686	
VII	85	住居	点数 重量	2 6	28 370		5 57			2 45		1 3		1 2						39 483	
VII	86	住居	点数 重量	49 133	22 831		119 982		15 450	64 1838		13 93								282 4327	
VII	87	住居	点数 重量	38 105	54 471		46 512		15 499	38 1064		11 48								202 2699	
VII	88	住居	点数 重量		1 4															1 4	
VII	89	住居	点数 重量	98 360	132 765		69 515		20 721	4 84		7 25	1 14							331 2483	
VII	90	住居	点数 重量				1 7	1 114												2 121	
VII	25・90	住居	点数 重量	10 34	39 346		13 129		6 153	2 100		5 46	1 9							76 817	
VII	91	住居	点数 重量	25 115	75 543		30 234		17 371	9 256		2 7								158 1526	
VII	92	住居	点数 重量		35 283		9 69													44 352	
VII	93	住居	点数 重量	1 3	8 17		2 7		1 41	5 223										17 291	
VII	94	住居	点数 重量	4 35	19 90		15 100		1 93	1 92		1 8								41 418	
VII	95	住居	点数 重量	47 215	90 642		25 331		6 127											168 1315	

未掲載遺物一覧

区	遺構 NO.	遺構種		土師器			須恵器				黒色土器		灰釉陶器			緑釉陶器			瓦	不明	その他	合計
				杯・ 碗類	甗	不明	杯・碗	長頸壺 他	甗	羽釜・ 甑	不明	杯・ 碗類	壺	碗・皿	瓶類	不明	碗・皿	瓶類				
VII	96	住居	点数	22	36				3	6						1					68	
			重量	85	429				30	150							2					696
VII	97	住居	点数	51	63		38		4	49				3							208	
			重量	120	352		200		51	921				13								1657
VII	98	住居	点数	4	14		10		10	24				4							66	
			重量	22	169		88		524	656				24								1483
VII	99	住居	点数	1	1		3														5	
			重量	6	3		30															39
VII	100	住居	点数	14	5		3			5											27	
			重量	98	61		16			125												300
VII	101	住居	点数	2			1						1								4	
			重量	5			13						19									37
VII	102	住居	点数		33		13		12	10											68	
			重量		213		160		469	345												1187
VII	103	住居	点数	31	93		35		10				1								170	
			重量	80	834		507		481					2								1904
VII	104	住居	点数	7	20		4		1				1								33	
			重量	28	326		36		5					3								398
VII	105	住居	点数	7	5		3		1												16	
			重量	97	16		16		84													213
VII	106	住居	点数	36	28		25		20				4		1						114	
			重量	84	164		153		675				41		1							1118
VII	108	住居	点数		2		2						1								5	
			重量		38		9							3								50
VII	109	住居	点数	1			1			2											4	
			重量	6			3			57												66
VII	110	住居	点数	1	39		9		4				2								55	
			重量	5	195		59		183					11								453
VII	111	住居	点数	3	23		4			4			1								35	
			重量	8	614		56			83				5								766
VII	112	住居	点数	5	12				2												19	
			重量	18	38				29													85
VII	113	住居	点数	1									1								2	
			重量	13										6								19
VII	116	住居	点数		16		5		2	14											37	
			重量		132		28		105	369												634
VII	117	住居	点数		15				3												18	
			重量		619				361													980
VII	118	住居	点数							1			1								2	
			重量							75				1								76
VII	119	住居	点数		5		7		1	10			2								25	
			重量		66		66		12	375				6								525
VII	116・117・ 118	住居	点数	2			15		2	44			6								69	
			重量	6			108		17	699			43									873
VIII	1	住居	点数		2																2	
			重量		10																	10
VIII	2	住居	点数	3	10		3						2								18	
			重量	30	398		67							20								515
VIII	3	住居	点数	3	32		70		12	38		1	16	10							182	
			重量	5	760		740		288	1500		34		195	127							3649
VIII	4	住居	点数	9	21		6		4	5			2						1		48	
			重量	38	201		196		80	480				8						66		1069
VIII	5	住居	点数		2		1														3	
			重量		9		6															15
VIII	6	住居	点数		12		7			5			2								26	
			重量		322		88			73				8								491
VIII	7	住居	点数	2	23		6			6			2								39	
			重量	10	660		74			147				6								897
VIII	8	住居	点数	2	5		7		1	3											18	
			重量	10	144		53		262	254												723
VIII	9	住居	点数		5		1						1								7	
			重量		82		24							4								110
VIII	10	住居	点数		40		13		1				1								55	
			重量		1390		81		23					2								1496
VIII	11	住居	点数		1		2		1	1											5	
			重量		18		29		25	36												108
VIII	12	住居	点数	9	28		13		7	14			1								72	
			重量	20	326		193		119	476				2								1136

未掲載遺物一覧

区	遺構NO.	遺構種		土師器			須恵器				黒色土器		灰釉陶器			緑釉陶器			瓦	不明	その他	合計
				杯・碗類	甗	不明	杯・碗	長頸壺他	甗	羽釜・甗	不明	杯・碗類	壺	碗・皿	瓶類	不明	碗・皿	瓶類				
VIII	13	住居	点数	12	120		16		10	15				8							181	
			重量	84	1180		116		249	383					61							2073
VIII	14	住居	点数	6	3		6		3	1				2							21	
			重量	23	77		59		28	19					20							226
VIII	15	住居	点数		10		10	1	4												25	
			重量		70		160	57	49													336
VIII	16	住居	点数		15		5		2	1											23	
			重量		129		57		14	26												226
VIII	17	住居	点数		8		4		3	3											18	
			重量		365		55		51	73												544
VIII	18	住居	点数		7																7	
			重量		43																	43
VIII	19	住居	点数	2	8				2												12	
			重量	12	66				40													118
VIII	20	住居	点数		11			1													12	
			重量		53			16														69
VIII	21	住居	点数		9				2												11	
			重量		103				70													173
VIII	22	住居	点数		4		7		2												13	
			重量		38		55		73													166
VIII	23	住居	点数		1																1	
			重量		79																	79
VIII	25	住居	点数		1		1		1												3	
			重量		3		31		194													228
IX	1	住居	点数	14	45		33		8	4		3		6							113	
			重量	52	1480		495		240	169		21		39								2496
IX	2	住居	点数		9		5		1	3				2							20	
			重量		189		59		18	45				6								317
IX	3	住居	点数	1			2		1												4	
			重量	3			7		26													36
IX	4	住居	点数	3	9		11		10	25											58	
			重量	10	49		85		136	476												756
IX	5	住居	点数		1		1			6											8	
			重量		23		4			99												126
IX	6	住居	点数	8	22		31		7				1								69	
			重量	25	464		199		407					4								1099
IX	7	住居	点数	2	2		6			8											18	
			重量	30	13		28			201												272
IX	9	住居	点数		12		72		6	20				7	1						118	
			重量		53		376		141	326					29	26						951
IX	9・10	住居	点数	15	6		20		3												44	
			重量	46	76		137		71													330
IX	10	住居	点数	20	14		47		4				11								96	
			重量	63	400		327		161					50								1001
IX	11	住居	点数		49		55		12	18			3	1							138	
			重量		311		288		542	533				5	14							1693
IX	12	住居	点数	7	27		7		9	7		1		3							61	
			重量	22	486		74		400	361		2		7								1352
IX	13	住居	点数		21		13			8										1	43	
			重量		186		91			118										8	403	羽口
IX	14	住居	点数		1		17		2	9			3								32	
			重量		14		79		85	248				7								433
IX	15	住居	点数		27		4		4	9											44	
			重量		990		80		160	682												1912
IX	16	住居	点数	1	3		2														6	
			重量	3	31		3															37
IX	17	住居	点数	7	17		12		2	2											40	
			重量	18	272		122		40	139												591
IX	18	住居	点数	10	30		15		3	4			1								63	
			重量	46	550		123		37	163				4								923
IX	20	住居	点数				2		1	2											5	
			重量				5		22	49												76
IX	22	住居	点数	4	24		20		4	9		1									62	
			重量	10	640		147		118	292		4										1211
IX	23	住居	点数	1			1														2	
			重量	3			13															16
IX	24	住居	点数	2	2		21		2												27	
			重量	9	92		177		52													330

未掲載遺物一覧

区	遺構NO.	遺構種	土師器			須恵器				黒色土器		灰釉陶器				緑釉陶器			瓦	不明	その他	合計
			杯・碗類	甗	不明	杯・碗	長頸壺他	甗	羽釜・甑	不明	杯・碗類	壺	碗・皿	瓶類	不明	碗・皿	瓶類	不明				
IX	25	住居	点数	7	4		7		1	1												24
			重量	16	24		15		20	28					4							
IX	26	住居	点数	4	8		17		1	5												35
			重量	15	247		132		50	374												
IX	27	住居	点数	1	5		4			1												11
			重量	5	43		30			20												
X	1	住居	点数	228	274		106		7	15				8								638
			重量	510	2723		750		180	920					53							
X	2	住居	点数	17	77		26		7	20				3	1							151
			重量	50	567		195		115	1154					26	10						
X	3	住居	点数	115	65		60		6	11				9	1							267
			重量	510	990		258		112	635					72	7						
X	4	住居	点数	21	13		9								3							46
			重量	46	51		60									14						
X	5	住居	点数	5	27		2		1													37
			重量	13	384		10		30							2						
X	6	住居	点数	19	26		3															48
			重量	70	296		25															
X	7	住居	点数	11	41		10							2								64
			重量	78	328		102								115							
X	8	住居	点数	6	10		13															29
			重量	10	20		154															
X	9	住居	点数	154	88		100		19					5		1						367
			重量	503	592		1030		695						20		22					
X	10	住居	点数	143	73		33		6					2								257
			重量	452	620		176		876						8							
X	11	住居	点数	85	12		24	3	7					5								136
			重量	205	344		127	113	391						12							
X	12	住居	点数	42	70		30			5				4	1							153
			重量	124	530		254			121		15			12	7						
X	13	住居	点数	107	67		36		20					2	1							233
			重量	363	520		400		963						9	9						
X	14	住居	点数	200	63		109		17	42			2								1	445
			重量	562	408		898		671	1235		8			55							16
X	15	住居	点数	41	58		38		7					2	3							149
			重量	134	324		422		198						8	20						
X	16	住居	点数	63	32		61		5					1	1							163
			重量	254	168		456		159						9	99						
X	17	住居	点数	7	9		5		1	3				1								26
			重量	23	61		120		35	97					1							
X	18	住居	点数	16	130		48		13	16				8								231
			重量	63	532		358		530	678					31							
X	19	住居	点数	3	27					11				1								42
			重量	12	500						725				10							
X	20	住居	点数		2		1															3
			重量		10		2															
X	21	住居	点数		11		3			16												30
			重量		22		11				282											
X	22	住居	点数	13	16		7		2	1												41
			重量	61	125		80		390	43						2						
X	23	住居	点数	2	25		2		1													30
			重量	22	132		15		35							10						
X	24	住居	点数	37	51		3			3												94
			重量	82	482		21		393													
X	25	住居	点数	2	17																	19
			重量	9	163																	
X	26	住居	点数	5	13		3															21
			重量	17	38		9															
X	27	住居	点数	1	1					2				1			1					6
			重量	1	138						71				7			7				
X	28	住居	点数	43	19		11							1								74
			重量	93	111		121								2							
X	29	住居	点数	19	46		14		2					1								85
			重量	74	219		153		75		9				55							
X	30	住居	点数	2	73		19		1					3								98
			重量	29	377		122		87						15							
X	31	住居	点数	2																		2
			重量	18																		

未掲載遺物一覧

区	遺構NO.	遺構種		土師器			須恵器				黒色土器		灰釉陶器			緑釉陶器			瓦	不明	その他	合計
				杯・碗類	甗	不明	杯・碗	長頸壺他	甗	羽釜・甑	不明	杯・碗類	壺	碗・皿	瓶類	不明	碗・皿	瓶類				
X	32	住居	点数	2	1		1		1												5	
			重量	4	5		4		29												42	
XI	1	住居	点数		1																1	
			重量		1																1	
XI	2	住居	点数		3																3	
			重量		24																24	
XI	4	住居	点数	8			15			8			2								33	
			重量	15			183			480			7								685	
XII	1	住居	点数	10	1		5		2	26				2							46	
			重量	21	6		77		64	523				7							698	
XII	2	住居	点数	2	43		1		4												50	
			重量	4	300		13		59												376	
XII	3	住居	点数		6		1		2				1								10	
			重量		18		1		13				2								34	
XII	4	住居	点数		20		6		14	19			3	1							63	
			重量		275		54		240	708			17	7							1301	
XII	5	住居	点数		1		1														2	
			重量		10		7														17	
XII	6	住居	点数				1		1												2	
			重量				26		45												71	
XII	7	住居	点数	4	20		18		7	20										1	70	
			重量	16	78		164		203	1169										35	1665	
XII	8	住居	点数	17	74		37		17	28			12			1					186	
			重量	68	622		410		890	1265			126			1					3382	
XII	11	住居	点数	5			20		8	60		6	2								101	
			重量	17			622		185	1413		276	41								2554	
XII	12	住居	点数	9	40		53		12	74			10								198	
			重量	16	301		485		393	928			47								2170	
XII	13	住居	点数	3	1		1			1											6	
			重量	5	7		4			6											22	
XII	14	住居	点数	10	69		12	1	23	115			21			1					252	
			重量	36	421		82	26	239	2595			120			3					3522	
XII	15	住居	点数				7		5	10			1								23	
			重量				81		170	343			2								596	
XII	15・16	住居	点数	6	18		2			8			3								37	
			重量	15	126		42			170			30								383	
XII	16	住居	点数	33	4		46		22	95		4	15								219	
			重量	64	75		616		259	3740		26	168								4948	
XII	18	住居	点数				37			12				1							50	
			重量				475			382				2							859	
XII	19	住居	点数	11	8		53			21		7	6								106	
			重量	31	51		541			1150		91	35								1899	
XII	20	住居	点数	11	15		17		4	3		2	6								58	
			重量	43	135		92		50	46		7	16								389	
XII	21	住居	点数		18		20		7	16			4								65	
			重量		125		353		76	569			25								1148	
XII	22	住居	点数							5											5	
			重量							264											264	
XII	9	住居	点数									1									1	
			重量									6									6	
XII	10	住居	点数	4			72		12	159			8	2							257	
			重量	15			909		632	5620			41	57							7274	
		住居不明	点数												1						1	
			重量												1						1	
V	2	竪穴	点数	2	5				1												8	
			重量	6	37				39												82	
V	3	竪穴	点数		1																1	
			重量		14																14	
V	5	竪穴	点数	39	38		10		7												94	
			重量	124	167		48		72												411	
V	6	竪穴	点数	15	13		13						1								42	
			重量	43	154		121						4								322	
VII	3	竪穴	点数	1	13		3		20	7											44	
			重量	4	33		5		1044	174											1260	
VI	1	竪穴	点数		2		1		1												4	
			重量		10		1		65												76	
VI	2	竪穴	点数		1																1	
			重量		66																66	

未掲載遺物一覧

区	遺構NO.	遺構種		土師器			須恵器				黒色土器		灰釉陶器			緑釉陶器			瓦	不明	その他	合計
				杯・碗類	甗	不明	杯・碗	長頸壺他	甗	羽釜・甑	不明	杯・碗類	壺	碗・皿	瓶類	不明	碗・皿	瓶類				
VI	3	竪穴	点数	28	78		69	2	41	6											226	
			重量	139	300		531	6	853	100				2							1934	
VI	4	竪穴	点数	2	11				3												16	
			重量	17	41				23												81	
VI	5	竪穴	点数		1																1	
			重量		3																3	
VI	6	竪穴	点数	2	11		5		2												20	
			重量	6	132		66		36												240	
VII	1	竪穴	点数	1	59		1														61	
			重量	5	267		8														280	
IX	1	竪穴	点数	1	2				1					1							5	
			重量	4	42				14					4							64	
XII	1	鍛冶	点数	30	72		70		23	13				8							216	
			重量	59	640		388		362	322				67							1838	
VII	1	鍛冶 周辺	点数	5	13		4														22	
			重量	12	33		15														60	
V	1	土坑	点数	2	4		4							1							11	
			重量	5	15		19							8							47	
V	2	土坑	点数		3		1														4	
			重量		11		3														14	
V	3	土坑	点数				5		2												7	
			重量				33		134												167	
V	4	土坑	点数		5		1		1												7	
			重量		40		14		16												70	
V	5	土坑	点数	6	13		11	1	5												36	
			重量	35	43		94	237	44												453	
V	7	土坑	点数	1			1														2	
			重量	4			3														7	
V	8	土坑	点数	1																	1	
			重量	7																	7	
V	10	土坑	点数	4	6				2												12	
			重量	10	24				20												54	
V	11	土坑	点数				1														1	
			重量				22														22	
V	12	土坑	点数		1																1	
			重量		9																9	
V	15	土坑	点数	3	4		4														11	
			重量	22	28		22														72	
V	16	土坑	点数	1																	1	
			重量	20																	20	
V	17	土坑	点数		1																1	
			重量		11																11	
V	18	土坑	点数		3																3	
			重量		15																15	
V	20	土坑	点数				1														1	
			重量				24														24	
V	21	土坑	点数	6																	6	
			重量	11																	11	
V	22	土坑	点数	3	3																6	
			重量	8	16																24	
V	23	土坑	点数	3	6																9	
			重量	19	46																65	
V	29	土坑	点数	18	56		24	2	10					1							111	
			重量	138	498		495	101	755					27							2014	
V	30	土坑	点数		3		2														5	
			重量		18		25														43	
V	31	土坑	点数	3	8																11	
			重量	6	34																40	
V	32	土坑	点数		4																4	
			重量		50																50	
V	34	土坑	点数		1																1	
			重量		15																15	
V	35	土坑	点数		2		5		3	3											13	
			重量		15		52		38	85											190	
V	36	土坑	点数	7	12		4		3												26	
			重量	24	99		35		58												216	
V	38	土坑	点数		2				1												3	
			重量		70				46												116	

未掲載遺物一覧

区	遺構NO.	遺構種		土師器			須恵器				黒色土器		灰釉陶器			緑釉陶器			瓦	不明	その他	合計
				杯・碗類	甗	不明	杯・碗	長頸壺 他	甗	羽釜・甑	不明	杯・碗類	壺	碗・皿	瓶類	不明	碗・皿	瓶類				
V	40	土坑	点数	4																	4	
			重量	8																	8	
V	41	土坑	点数		1																1	
			重量		21																21	
V	42	土坑	点数	1					1												2	
			重量	79					25												104	
V	43	土坑	点数	2	7					1									1		11	
			重量	7	303					154									14		478	
V	46	土坑	点数	3			2			2			1								8	
			重量	15			24			51			12								102	
V	47	土坑	点数		3					1			1								5	
			重量		16					26			2								44	
V	48	土坑	点数	3	3																6	
			重量	6	6																12	
V	49	土坑	点数	1	2		1														4	
			重量	3	31		9														43	
V	50	土坑	点数	2	2		4		1												9	
			重量	18	9		128		56												211	
V	51	土坑	点数	15	17		6		1												39	
			重量	80	100		88		32												300	
V	54	土坑	点数	1																	1	
			重量	35																	35	
V	58	土坑	点数	12	12				1												25	
			重量	82	34				62												178	
V	59	土坑	点数		16		7														23	
			重量		69		47														116	
V	60	土坑	点数	2	7		4		2												15	
			重量	9	20		12		20												61	
V	61	土坑	点数	4			1														5	
			重量	14			5														19	
V	62	土坑	点数		2																2	
			重量		5																5	
V	67	土坑	点数		1																1	
			重量		23																23	
V	71	土坑	点数	2	14		5		1												22	
			重量	13	107		72		13												205	
V	73	土坑	点数	3	8		2														13	
			重量	45	45		102														192	
V	76	土坑	点数	3	6																9	
			重量	5	26																31	
V	78	土坑	点数		1																1	
			重量		8																8	
V	79	土坑	点数		5																5	
			重量		12																12	
V	80	土坑	点数	5			2					1									8	
			重量	14			71					2									87	
V	82	土坑	点数		2		1		1												4	
			重量		8		8		15												31	
V	84	土坑	点数	3	1		3														7	
			重量	6	6		21														33	
V	92	土坑	点数		2																2	
			重量		34																34	
V	93	土坑	点数	32	15		1														48	
			重量	82	63		1														146	
V	94	土坑	点数	4			1														5	
			重量	11			3														14	
V	95	土坑	点数	4	5		1														10	
			重量	11	46		24														81	
V	96	土坑	点数	5	1		2														8	
			重量	36	7		38														81	
V	101	土坑	点数		1																1	
			重量		37																37	
V	104	土坑	点数	1			1		2	1											5	
			重量	5			5		39	43											92	
V	106	土坑	点数										1								1	
			重量										19								19	
V	115	土坑	点数				10		1												11	
			重量				127		100												227	

未掲載遺物一覧

区	遺構 NO.	遺構種		土師器			須恵器				黒色土器		灰釉陶器				緑釉陶器			瓦	不明	その他	合計	
				杯・ 碗類	甕	不明	杯・碗	長頸壺 他	甕	羽釜・ 甑	不明	杯・ 碗類	壺	碗・皿	瓶類	不明	碗・皿	瓶類	不明					
V	116	土坑	点数	8	10		2																	20
			重量	23	87		28																	138
V	107	土坑	点数	13	7					1				1										22
			重量	44	42					66				1										153
V	108	土坑	点数	6	7		2																	15
			重量	39	137		122																	298
VI	1	土坑	点数	4																				4
			重量	12																				12
VI	2	土坑	点数				1																	1
			重量				7																	7
VI	4	土坑	点数	1			2																	3
			重量	4			10																	14
VI	5	土坑	点数	2																				2
			重量	3																				3
VI	8	土坑	点数	6			1																	7
			重量	17			5																	22
VI	9	土坑	点数	3			1																	4
			重量	10			17																	27
VI	11	土坑	点数				1																	1
			重量				10																	10
VI	12	土坑	点数	11																				11
			重量	24																				24
VI	13・14・ 15	土坑	点数	9	41		9			3				1										63
			重量	45	64		26			14				4										153
VI	13	土坑	点数	8	9		3																	20
			重量	15	88		21																	124
VI	14	土坑	点数	1			1																	2
			重量	6			8																	14
VI	15	土坑	点数	9			3																	12
			重量	28			46																	74
VI	16	土坑	点数	8	7		3			3				1										22
			重量	22	23		13			16				6										80
VI	18	土坑	点数		9		3																	12
			重量		430		26																	456
VI	19・20	土坑	点数		4		3																	7
			重量		36		16																	52
VI	20	土坑	点数		5		1																	6
			重量		20		2																	22
VI	22	土坑	点数	1	2																			3
			重量	19	140																			159
VI	23	土坑	点数		37																			37
			重量		427																			427
VI	24	土坑	点数		1																			1
			重量		6																			6
VI	26	土坑	点数	1	1		2																	4
			重量	4	2		13																	19
VI	28	土坑	点数		11		2																	13
			重量		37		15																	52
VI	29	土坑	点数	4	6		3			2														15
			重量	7	20		47			22														96
VI	30	土坑	点数	9	23					1														33
			重量	20	159					42														221
VI	31	土坑	点数		1																			1
			重量		26																			26
VI	31・32	土坑	点数		16					1														17
			重量		90					14														104
VI	33	土坑	点数	2	3		2			1														8
			重量	4	12		30			31														77
VI	34	土坑	点数	2	6																			8
			重量	6	106																			112
VI	36	土坑	点数	3	11		5																	19
			重量	12	79		51																	142
VI	37	土坑	点数	9	21		3			1				1										35
			重量	24	76		16			11				3										130
VI	39	土坑	点数	3	8		1			5														17
			重量	12	20		5			95														132
VI	44	土坑	点数		2																			2
			重量		9																			9

未掲載遺物一覧

区	遺構 NO.	遺構種	土師器			須恵器				黒色土器		灰釉陶器			緑釉陶器			瓦	不明	その他	合計
			杯・ 椀類	甗	不明	杯・椀	長頸壺 他	甗	羽釜・ 甑	不明	杯・ 椀類	壺	椀・皿	瓶類	不明	椀・皿	瓶類				
VI	49	土坑	点数	2																2	
			重量	15																15	
VII	1	土坑	点数	5	1				4				1							11	
			重量	38	8				10			2								58	
VII	2	土坑	点数	10	9		3		4			1								27	
			重量	19	146		7		24			2								198	
VII	3	土坑	点数	1																1	
			重量	3																3	
VII	4	土坑	点数	1	2		1		2											6	
			重量	3	42		8		24											77	
VII	5	土坑	点数		4		4		2											10	
			重量		29		17		8											54	
VII	6	土坑	点数	5	5		3		2			1								16	
			重量	13	55		8		61			8								145	
VII	7	土坑	点数	9	4		10													23	
			重量	33	66		83													182	
VII	8	土坑	点数		1					1										2	
			重量		1					22										23	
VII	9	土坑	点数							1										1	
			重量							14										14	
VII	10	土坑	点数									1								1	
			重量									7								7	
VII	12	土坑	点数						1											1	
			重量						4											4	
VII	14	土坑	点数	3	5							2								10	
			重量	9	17							7								33	
VII	15	土坑	点数	3			1		1											5	
			重量	24			5		18											47	
VII	17	土坑	点数	1			1		1											3	
			重量	5			22		15											42	
VII	18	土坑	点数	3																3	
			重量	8																8	
VII	19	土坑	点数	9	2				2	2		1								16	
			重量	66	11				30	88		1								196	
VII	20	土坑	点数	1																1	
			重量	1																1	
VII	21	土坑	点数	7			1		1	2										11	
			重量	26			3		41	24										94	
VII	23	土坑	点数	2			1		1											4	
			重量	2			1		14											17	
VII	24	土坑	点数	7			1		1											9	
			重量	30			5		28											63	
VII	25	土坑	点数	5								1								6	
			重量	11								1								12	
VII	26	土坑	点数	1	3		3													7	
			重量	4	14		12													30	
VII	27	土坑	点数		5															5	
			重量		260															260	
VII	28	土坑	点数	3	2		3		1											9	
			重量	7	12		15		40											74	
VII	30	土坑	点数		1															1	
			重量		3															3	
VII	31	土坑	点数	1	5		1		1											8	
			重量	2	105		5		202											314	
VII	34	土坑	点数	6	3		2													11	
			重量	9	39		12													60	
VII	35	土坑	点数	3			1													4	
			重量	8			24													32	
VII	36	土坑	点数		1							1								2	
			重量		13							9								22	
VII	37	土坑	点数				1													1	
			重量				10													10	
VII	38	土坑	点数	1	1		1													3	
			重量	2	13		4													19	
VII	39	土坑	点数	2																2	
			重量	20																20	
VII	40	土坑	点数	2	1		4													7	
			重量	3	7		12													22	

未掲載遺物一覧

区	遺構 NO.	遺構種		土師器			須恵器				黒色土器		灰釉陶器				緑釉陶器			瓦	不明	その他	合計		
				杯・ 碗類	甗	不明	杯・碗	長頸 壺 他	甗	羽釜・ 甑	不明	杯・ 碗類	壺	碗・皿	瓶類	不明	碗・皿	瓶類	不明						
VII	41	土坑	点数	2	2		4																		8
			重量	5	33		47																		85
VII	42	土坑	点数				1																		1
			重量				17																		17
VII	46	土坑	点数				1																		1
			重量				5																		5
VII	47	土坑	点数	3	2																				5
			重量	21	21																				42
VII	48	土坑	点数	2										1											3
			重量	5									4												9
VII	49	土坑	点数	7	3		5		2																17
			重量	21	26		31		70																148
VII	50	土坑	点数	1	2		1																		4
			重量	2	7		5																		14
VII	51	土坑	点数		2		1	1	2																6
			重量		7		5	5	46																63
VII	52	土坑	点数						1																1
			重量						9																9
VII	53	土坑	点数	2	4			1																	7
			重量	10	15			10																	35
VII	55	土坑	点数	11	5		2		4	3															25
			重量	40	43		24		187	83															377
VII	56	土坑	点数	8	7			1						1											17
			重量	18	64			50					18												150
VII	57	土坑	点数	9	3		4		3																19
			重量	23	16		32		49																120
VII	58	土坑	点数	13	6		3		3				3												28
			重量	27	71		63		27				6												194
VII	59・71	土坑	点数	4	3		2		3	3			1												16
			重量	12	14		46		14	48			8												142
VII	60	土坑	点数	1	2		2						1												6
			重量	4	65		51						2												122
VII	61	土坑	点数	2	3																				5
			重量	8	57																				65
VII	64	土坑	点数	6	3		2																		11
			重量	20	33		25																		78
VII	65	土坑	点数	2	4		1	2	16				4												29
			重量	5	38		4	14	428				20												509
VII	66	土坑	点数		3				3	2															8
			重量		22				21	38															81
VII	67	土坑	点数	6	23		16		38	2			10				1								96
			重量	57	130		93		762	116			50			6									1214
VII	68	土坑	点数		5		9		5																19
			重量		13		62		97																172
VII	69	土坑	点数		1		5		7																13
			重量		2		41		343																386
VII	70	土坑	点数	7	3		4		4				1												19
			重量	31	24		59		106				2												222
VII	72	土坑	点数	8	8		8			3			1												28
			重量	27	81		78			95			19												300
VII	73	土坑	点数	1			2		1																4
			重量	2			15		72																89
VII	74	土坑	点数	2	5		3		3	2															15
			重量	6	43		27		41	26															143
VII	76	土坑	点数	1																					1
			重量	36																					36
VII	77	土坑	点数		1		1			2															4
			重量		13		5			51															69
VII	78	土坑	点数	4	5				1	9															19
			重量	7	53				44	223															327
VII	79	土坑	点数	2					2	2															6
			重量	4					70	54															128
VII	80	土坑	点数	5	2		4		1																12
			重量	10	12		32		35																89
VII	81	土坑	点数	2	5		5		1				3												16
			重量	4	23		20		20				9												76
VII	82	土坑	点数		4		2																		6
			重量		11		9																		20

未掲載遺物一覧

区	遺構NO.	遺構種		土師器			須恵器				黒色土器		灰釉陶器				緑釉陶器			瓦	不明	その他	合計	
				杯・碗類	甗	不明	杯・碗	長頸壺他	甗	羽釜・甑	不明	杯・碗類	壺	碗・皿	瓶類	不明	碗・皿	瓶類	不明					
VII	83	土坑	点数	3	1																			4
			重量	12	3																			15
VII	84	土坑	点数	7	7		5		2					3										24
			重量	9	30		30		110				20											199
VII	85	土坑	点数						3															3
			重量						722															722
VII	86	土坑	点数		1																			1
			重量		34																			34
VII	88	土坑	点数				1																	1
			重量				40																	40
VII	89	土坑	点数	4			1																	5
			重量	8			13																	21
VII	91	土坑	点数		1																			1
			重量		71																			71
VII	92	土坑	点数	3	9		4		5	1			2											24
			重量	11	103		29		115	23		22												303
VII	93	土坑	点数		1																			1
			重量		3																			3
VII	94	土坑	点数		3																			3
			重量		14																			14
VII	95	土坑	点数	8	4		1		2															15
			重量	21	18		6		68															113
VII	96	土坑	点数	1																				1
			重量	7																				7
VII	97	土坑	点数	5			1		4															10
			重量	11			2		102															115
VII	98	土坑	点数				1																	1
			重量				14																	14
VII	100	土坑	点数	1					7	6			1											15
			重量	6					19	94		7												126
VII	101	土坑	点数	2						1														3
			重量	3						22														25
VII	104	土坑	点数		1					1														2
			重量		13					33														46
VII	105	土坑	点数		1				3	1														5
			重量		8				123	28														159
VII	106	土坑	点数	1	3		1		1															6
			重量	3	35		3		37															78
VII	107	土坑	点数		2				1															3
			重量		10				101															111
VII	111	土坑	点数	7	11		4		8				3											33
			重量	17	56		33		207			8												321
VII	112	土坑	点数	2	7		5		4				2											20
			重量	3	43		28		121			4												199
VII	113	土坑	点数	1			6		9	1														17
			重量	4			56		178	41														279
VII	114	土坑	点数		8		3		2															13
			重量		37		19		30															86
VII	116	土坑	点数		1		2																	3
			重量		1		14																	15
VII	117	土坑	点数		2		3		3															8
			重量		4		40		46															90
VII	119	土坑	点数		5				1															6
			重量		38				10															48
VII	124	土坑	点数				2		1															3
			重量				8		16															24
VII	125	土坑	点数	2			4																	6
			重量	4			20																	24
VII	127	土坑	点数		2				3															5
			重量		30				82															112
VII	128	土坑	点数		1																			1
			重量		14																			14
VII	133	土坑	点数	1	11		1			1			1											15
			重量	5	77		6			19		2												109
VII	134	土坑	点数		2					1														3
			重量		7					8														15
VII	135	土坑	点数				1						1											2
			重量				4					3												7

区	遺構 NO.	遺構種	土師器			須恵器				黒色土器		灰釉陶器			緑釉陶器			瓦	不明	その他	合計
			杯・ 碗類	甗	不明	杯・碗	長頸 壺 他	甗	羽釜・ 甑	不明	杯・ 碗類	壺	碗・皿	瓶類	不明	碗・皿	瓶類				
VII	138	土坑	点数					1												1	
			重量					35												35	
VII	141	土坑	点数		3			4	1				1							9	
			重量		60			106	15				6							187	
VII	142	土坑	点数		4															4	
			重量		15															15	
VII	143	土坑	点数	2																2	
			重量	3																3	
VII	144	土坑	点数		1															1	
			重量		3															3	
VII	145	土坑	点数					1												1	
			重量					84												84	
VII	146	土坑	点数					1												1	
			重量					48												48	
VII	147	土坑	点数				2			5										7	
			重量				27			157										184	
VII	148	土坑	点数		4															4	
			重量		25															25	
VII	149	土坑	点数		1					1										2	
			重量		4					80										84	
VII	155	土坑	点数					1												1	
			重量					52												52	
VII	156	土坑	点数		3															3	
			重量		21															21	
VII	158	土坑	点数		1															1	
			重量		32															32	
VII	161	土坑	点数		2															2	
			重量		21															21	
VII	162	土坑	点数	1	1		1													3	
			重量	3	35		4													42	
VII	163	土坑	点数		1			2												3	
			重量		9			70												79	
VII	164	土坑	点数		1															1	
			重量		9															9	
VII	165	土坑	点数		2			2												4	
			重量		17			75												92	
VII	169	土坑	点数	3			4													7	
			重量	9			16													25	
VII	170	土坑	点数		2			2	1											5	
			重量		4			56	57											117	
VII	171	土坑	点数		1		2													3	
			重量		6		18													24	
VII	173	土坑	点数	1	8		2													11	
			重量	5	50		8													63	
VII	174	土坑	点数	1			1			1										3	
			重量	4			13			126										143	
VII	175	土坑	点数	2			4	2												8	
			重量	7			39	30												76	
VII	178	土坑	点数				1						1							2	
			重量				9						30							39	
VII	179	土坑	点数		1			2												3	
			重量		7			23												30	
VII	181	土坑	点数	1	6		2	3	4											16	
			重量	5	35		11	32	33											116	
VII	182	土坑	点数	2	2			2				1								7	
			重量	12	28			46				7								93	
VII	183	土坑	点数	5	3		1													9	
			重量	19	26		3													48	
VII	185	土坑	点数	5	3															8	
			重量	27	14															41	
VII	186	土坑	点数	4	4		2													10	
			重量	10	16		10													36	
VII	187	土坑	点数	2	6															8	
			重量	7	8															15	
VII	189	土坑	点数							1										1	
			重量							44										44	
VII	192	土坑	点数					2												2	
			重量					67												67	

未掲載遺物一覧

区	遺構NO.	遺構種	土師器			須恵器				黒色土器		灰釉陶器				緑釉陶器			瓦	不明	その他	合計
			杯・碗類	甗	不明	杯・碗	長頸壺他	甗	羽釜・甑	不明	杯・碗類	壺	碗・皿	瓶類	不明	碗・皿	瓶類	不明				
VII	194	土坑	点数	1																	1	
			重量	14																	14	
VII	203・204	土坑	点数	2		1		3	1				5								12	
			重量	21		3		65	7			31									127	
VII	206	土坑	点数			4															4	
			重量			6															6	
VII	208	土坑	点数	5	4	4		2	2												17	
			重量	20	62	72		74	26												254	
VII	209	土坑	点数			2															2	
			重量			12															12	
VII	210	土坑	点数	1		1															2	
			重量	1		3															4	
VII	212	土坑	点数	1	6	1						1									9	
			重量	1	109	30						2									142	
VIII	1	土坑	点数	1		1															2	
			重量	8		26															34	
VIII	2	土坑	点数					1				1									2	
			重量					232				14									246	
VIII	3	土坑	点数	4				2	1				1								8	
			重量	66				24	35				7								132	
VIII	4	土坑	点数	7		3		1													11	
			重量	256		12		11													279	
VIII	7	土坑	点数	1								1	1								3	
			重量	13								3	21								37	
VIII	8	土坑	点数			1															1	
			重量			11			1												12	
VIII	9	土坑	点数	2		1			24												27	
			重量	27		8															35	
VIII	10	土坑	点数	1																	1	
			重量	9																	9	
VIII	11	土坑	点数			1		1													2	
			重量			18		31													49	
VIII	15	土坑	点数	1	4																5	
			重量	2	29																31	
VIII	16	土坑	点数	4				5													9	
			重量	12				61													73	
VIII	17	土坑	点数	9				1													10	
			重量	14				3													17	
VIII	20	土坑	点数	1					1												2	
			重量	6					29												35	
VIII	22	土坑	点数	2																	2	
			重量	56																	56	
VIII	23	土坑	点数	2	9	1			1												13	
			重量	22	126	16			23												187	
VIII	24	土坑	点数	2		1															3	
			重量	6		9															15	
VIII	25	土坑	点数	1		1															2	
			重量	7		11															18	
VIII	26	土坑	点数			1															1	
			重量			54															54	
VIII	27	土坑	点数	3		4			1												8	
			重量	90		21			63												174	
VIII	28	土坑	点数			2			14												16	
			重量			46			738												784	
VIII	30	土坑	点数	1		3															4	
			重量	8		13															21	
VIII	31	土坑	点数	2																	2	
			重量	24																	24	
VIII	32	土坑	点数	11					3			1									15	
			重量	222					136			5									363	
VIII	33	土坑	点数	1		3			4												8	
			重量	3		43			31												77	
VIII	35	土坑	点数			1			6			1									8	
			重量			10			100			4									114	
VIII	37	土坑	点数	1	7																8	
			重量	1	64																65	
VIII	38	土坑	点数			1															1	
			重量			11															11	

未掲載遺物一覧

区	遺構 NO.	遺構種	土師器			須恵器				黒色土器		灰釉陶器			緑釉陶器			瓦	不明	その他	合計
			杯・ 碗類	甗	不明	杯・碗	長頸 壺 他	甗	羽釜・ 甑	不明	杯・ 碗類	壺	碗・皿	瓶類	不明	碗・皿	瓶類				
VIII	41	土坑	点数	2		1		1				1								5	
			重量	42		18		24				5								89	
VIII	43	土坑	点数	1		1				1										3	
			重量	14		3				106										123	
VIII	44	土坑	点数	3				1												4	
			重量	25				7												32	
VIII	45	土坑	点数	3	1	2		2	7											15	
			重量	14	6	3		11	93											127	
VIII	47	土坑	点数			3		1	1											5	
			重量			96		26	34											156	
VIII	57	土坑	点数			3														3	
			重量			34														34	
VIII	58	土坑	点数					2												2	
			重量					40												40	
VIII	59	土坑	点数														1			1	
			重量													58				58	
VIII	61	土坑	点数	1	5	2														8	
			重量	3	16	4														23	
VIII	62	土坑	点数	3		2														5	
			重量	8		8														16	
VIII	63	土坑	点数	2		2														4	
			重量	2		9														11	
VIII	64	土坑	点数	1		1														2	
			重量	14		60														74	
VIII	65	土坑	点数			1														1	
			重量			4														4	
VIII	69	土坑	点数	1																1	
			重量	4																4	
IX	1	土坑	点数					1												1	
			重量					19												19	
IX	2	土坑	点数	1																1	
			重量	6																6	
IX	4	土坑	点数								2									2	
			重量								10									10	
IX	6	土坑	点数	3																3	
			重量	60																60	
IX	7	土坑	点数									1								1	
			重量									2								2	
IX	8	土坑	点数			1		1												2	
			重量			6		5												11	
IX	10	土坑	点数	2					1											3	
			重量	5					28											33	
IX	11	土坑	点数			1														1	
			重量			9														9	
IX	12	土坑	点数	1	1	2														4	
			重量	4	6	12														22	
IX	15	土坑	点数					1												1	
			重量					9												9	
IX	19	土坑	点数	4		1		2												7	
			重量	13		3		36												52	
IX	26	土坑	点数					1												1	
			重量					9												9	
IX	27	土坑	点数	9																9	
			重量	25																25	
IX	28	土坑	点数			8		2												10	
			重量			41		61												102	
IX	34	土坑	点数	1						1		1								3	
			重量	2						2		1								5	
IX	38	土坑	点数	1		1		1												3	
			重量	5		2		41												48	
IX	39	土坑	点数						1											1	
			重量						16											16	
IX	40	土坑	点数	2		1														3	
			重量	19		24														43	
IX	42	土坑	点数	2	3	2			1		1									9	
			重量	7	153	13			93		45									311	
IX	43	土坑	点数													1				1	
			重量													1				1	

未掲載遺物一覧

区	遺構NO.	遺構種		土師器			須恵器				黒色土器		灰釉陶器		緑釉陶器			瓦	不明	その他	合計
				杯・碗類	甗	不明	杯・碗	長頸壺他	甗	羽釜・甑	不明	杯・碗類	壺	碗・皿	瓶類	不明	碗・皿				
IX	46	土坑	点数	4			10		2				1							17	
			重量	9			68		89				4							170	
IX	43	土坑	点数		24		92		14				4						134		
			重量		332		467		325				14						1138		
IX	44	土坑	点数		1		1			2									4		
			重量		8		11			166									185		
IX	45	土坑	点数				8		3										11		
			重量				35		221										256		
IX	50	土坑	点数		1		1												2		
			重量		50		4												54		
IX	51	土坑	点数		2		1		1										4		
			重量		8		3		15										26		
X	8	土坑	点数				1		1										2		
			重量				41		5										46		
X	9	土坑	点数				1												1		
			重量				36												36		
X	11	土坑	点数	2															2		
			重量	7															7		
X	16	土坑	点数	1			1												2		
			重量	1			1												2		
X	17	土坑	点数	2															2		
			重量	4															4		
X	18	土坑	点数				2												2		
			重量				37												37		
X	19	土坑	点数				2												2		
			重量				19												19		
X	20	土坑	点数	1			2												3		
			重量	1			6												7		
X	21	土坑	点数		2														2		
			重量		15														15		
X	23	土坑	点数	1															1		
			重量	9															9		
X	26	土坑	点数	5															5		
			重量	24															24		
X	27	土坑	点数				1												1		
			重量				32												32		
X	30	土坑	点数	5															5		
			重量	16															16		
X	32	土坑	点数				1												1		
			重量				5												5		
X	33	土坑	点数				3												3		
			重量				7												7		
X	35	土坑	点数		2		1												3		
			重量		12		2												14		
X	36	土坑	点数		5		1												6		
			重量		8		2												10		
X	38	土坑	点数	11			8												19		
			重量	36			35												71		
X	41	土坑	点数				3												3		
			重量				8												8		
X	45	土坑	点数	6			1												7		
			重量	12			6												18		
X	46	土坑	点数				1		2										3		
			重量				6		55										61		
X	47	土坑	点数				3												3		
			重量				40												40		
X	49	土坑	点数	5			2												7		
			重量	11			7												18		
X	50	土坑	点数				2												2		
			重量				16												16		
X	55	土坑	点数	3	15		1		2										21		
			重量	8	482		13		17										520		
X	57	土坑	点数	5			3												8		
			重量	9			44												53		
X	59	土坑	点数				1												1		
			重量				42												42		
X	60	土坑	点数	27	5		15					1							48		
			重量	72	166		75					2							315		

区	遺構 NO.	遺構種	土師器			須恵器				黒色土器		灰釉陶器		緑釉陶器			瓦	不明	その他	合計
			杯・ 碗類	甗	不明	杯・碗	長頸壺 他	甗	羽釜・ 甑	不明	杯・ 碗類	壺	碗・皿	瓶類	不明	碗・皿				
X	68	土坑	点数	1															1	
			重量	7															7	
XI	1	土坑	点数			1				1									2	
			重量			6				8									14	
XII	1	土坑	点数										1						1	
			重量										7						7	
XII	2	土坑	点数	3		1													4	
			重量	30		6													36	
XII	6	土坑	点数	1															1	
			重量	3															3	
XII	7	土坑	点数	1															1	
			重量	28															28	
XII	8	土坑	点数	8	13	3		3	6										33	
			重量	20	60	25		35	125										265	
XII	9	土坑	点数	8		2		7	23				1						41	
			重量	20		10		57	765				7						859	
XII	11	土坑	点数					2											2	
			重量					33											33	
XII	14	土坑	点数			1		1											2	
			重量			4		10											14	
XII	15	土坑	点数	1					1										2	
			重量	3					34										37	
XII	19	土坑	点数		1	3													4	
			重量		11	19													30	
XII	20	土坑	点数																0	
			重量																0	
XII	21	土坑	点数	1		2													3	
			重量	3		78													81	
XII	23	土坑	点数		2														2	
			重量		30														30	
XII	25	土坑	点数	3	2	1		2				2							10	
			重量	9	14	4		40				12							79	
XII	28	土坑	点数	1		1													2	
			重量	3		37													40	
XII	29	土坑	点数	3		3			13			1							20	
			重量	4		20			181			3							208	
XII	30	土坑	点数									1							1	
			重量									18							18	
XII	31	土坑	点数	2					10										12	
			重量	8					88										96	
XII	35	土坑	点数					2											2	
			重量					46											46	
XII	36	土坑	点数	1															1	
			重量	31															31	
XII	37	土坑	点数	4	9	7		10											30	
			重量	17	104	53		276											450	
XII	38	土坑	点数			5													5	
			重量			11													11	
XII	39	土坑	点数	1		1													2	
			重量	10		10													20	
XII	41	土坑	点数	2		2		1	3										8	
			重量	18		4		15	15										52	
XII	42	土坑	点数	2	2	3			3										10	
			重量	11	17	58			58										144	
XII	43	土坑	点数	4		4			4										12	
			重量	25		40			60										125	
XII	44	土坑	点数	2	11	7													20	
			重量	7	76	152													235	
XII	46	土坑	点数	1		2											1		4	
			重量	2		13										7			22	
XII	47	土坑	点数	1		4		1	2										8	
			重量	2		32		9	16										59	
XII	48	土坑	点数	2	3							3							8	
			重量	4	30							33							67	
XII	49・50	土坑	点数					1	2			1							4	
			重量					24	31			5							60	
XII	51	土坑	点数	10		3						1							14	
			重量	35		23						3							61	

未掲載遺物一覧

区	遺構NO.	遺構種		土師器			須恵器				黒色土器		灰釉陶器			緑釉陶器			瓦	不明	その他	合計		
				杯・碗類	甗	不明	杯・碗	長頸壺 他	甗	羽釜・甑	不明	杯・碗類	壺	碗・皿	瓶類	不明	碗・皿	瓶類						不明
XII	52	土坑	点数		4		3									1						8		
			重量		10		17									1							28	
XII	53	土坑	点数		7		10			13				1									31	
			重量		22		63			147			4										236	
XII	57	土坑	点数		1		1																2	
			重量		5		2																7	
XII	59	土坑	点数	4			2			7				1									14	
			重量	5			6			85			24										120	
XII	60	土坑	点数				2		3														5	
			重量				13		68														81	
XII	61	土坑	点数	5			1																6	
			重量	35			7																42	
XII	62	土坑	点数						1	3													4	
			重量						12	22													34	
XII	65	土坑	点数				4			1													5	
			重量				20			38													58	
XII	67	土坑	点数		1		4						1										6	
			重量		4		42						3										49	
XII	68	土坑	点数		4		3		1														8	
			重量		24		31		5														60	
XII	69	土坑	点数				1			1			1										3	
			重量				14			22			5										41	
XII	70	土坑	点数				3			3												1	7	軟質陶器
			重量				20			40												3	63	
XII	71	土坑	点数		1		1			1													3	
			重量		2		8			52													62	
XII	73	土坑	点数							2													2	
			重量							211													211	
XII	74	土坑	点数		2					2													4	
			重量		11					89													100	
XII	75	土坑	点数							1													1	
			重量							42													42	
XII	76	土坑	点数		2		3		2	2													9	
			重量		16		31		39	57													143	
XII	77	土坑	点数				1																1	
			重量				8																8	
XII	80	土坑	点数		2		1			1													4	
			重量		18		18			36													72	
XII	81	土坑	点数							2			1										3	
			重量							36			5										41	
XII	85	土坑	点数				10					4	1										15	
			重量				19				13	3											35	
V	4	ピット	点数						7														7	
			重量						250														250	
V	10	ピット	点数				1																1	
			重量				5																5	
VI	12	ピット	点数	1					1														2	
			重量	3					3														6	
VI	14	ピット	点数				1																1	
			重量				12																12	
VI	20	ピット	点数		1																		1	
			重量		3																		3	
VI	31	ピット	点数		1																		1	
			重量		12																		12	
VI	37	ピット	点数		1																		1	
			重量		5																		5	
VII	3	ピット	点数	3										1									4	
			重量	12										11									23	
VII	5	ピット	点数		1		1																2	
			重量		3		4																7	
VII	6	ピット	点数	2																			2	
			重量	4																			4	
VII	7	ピット	点数	10	7																		17	
			重量	63	71																		134	
VII	8	ピット	点数		1		2																3	
			重量		16		7																23	
VII	9	ピット	点数	2	2																		4	
			重量	7	17																		24	

区	遺構NO.	遺構種		土師器			須恵器				黒色土器		灰釉陶器				緑釉陶器			瓦	不明	その他	合計	
				杯・碗類	甗	不明	杯・碗	長頸壺他	甗	羽釜・甑	不明	杯・碗類	壺	碗・皿	瓶類	不明	碗・皿	瓶類	不明					
VII	11	ピット	点数	1			2																	3
			重量	4			70																	74
VII	13	ピット	点数				1																	1
			重量				8																	8
VII	14	ピット	点数			2																		2
			重量			7																		7
VII	15	ピット	点数				3																	3
			重量				15																	15
VII	17	ピット	点数	1			5																	6
			重量	4			28																	32
VII	22	ピット	点数	1																				1
			重量	5																				5
VII	31	ピット	点数	1																				1
			重量	3																				3
VIII	2	ピット	点数		1		2																	3
			重量		21		7																	28
VIII	7	ピット	点数		2																			2
			重量		59																			59
IX	8	ピット	点数		2		1																	3
			重量		28		2																	30
IX	9	ピット	点数	1																				1
			重量	11																				11
X	4	ピット	点数	2			1																	3
			重量	5			4																	9
X	9	ピット	点数				1																	1
			重量				10																	10
XII	7	ピット	点数	3						1														4
			重量	13						23														36
XII	9	ピット	点数		3																			3
			重量		9																			9
XII	16	ピット	点数				1																	1
			重量				16																	16
XII	19	ピット	点数	1						2														3
			重量	2						75														77
XII	20	ピット	点数	1																				1
			重量	3																				3
XII	25	ピット	点数							2														2
			重量							43														43
XII	27	ピット	点数		1						1													2
			重量		5						1													6
XII	28	ピット	点数	1																				1
			重量	13																				13
XII	32	ピット	点数	2						1														3
			重量	11						26														37
XII	38	ピット	点数							1														1
			重量							25														25
XII	39	ピット	点数	1	1																			2
			重量	2	6																			8
XII	42	ピット	点数		1																			1
			重量		2																			2
XII	43	ピット	点数		1								1											2
			重量		43								4											47
XII	45	ピット	点数	1					2															3
			重量	8					9															17
XII	46	ピット	点数										1											1
			重量										6											6
XII	48	ピット	点数							1														1
			重量							24														24
XII	50	ピット	点数	1	1																			3
			重量	6	7						5													18
XII	51	ピット	点数		1																			1
			重量		11																			11
XII	52	ピット	点数				1			1														2
			重量				2			36														38
XII	53	ピット	点数							1														1
			重量							8														8
XII	54	ピット	点数				1																	1
			重量				5																	5

未掲載遺物一覧

区	遺構NO.	遺構種	土師器			須恵器				黒色土器		灰釉陶器			緑釉陶器			瓦	不明	その他	合計
			杯・碗類	甗	不明	杯・碗	長頸壺他	甗	羽釜・甑	不明	杯・碗類	壺	碗・皿	瓶類	不明	碗・皿	瓶類				
XII	55	ピット	点数			1		1												2	
			重量			5		5												10	
XII	56	ピット	点数		2															2	
			重量		11															11	
XII	59	ピット	点数					2												2	
			重量					32												32	
XII	65	ピット	点数		1															1	
			重量		15															15	
XII	66	ピット	点数		1															1	
			重量		96															96	
XII	67	ピット	点数									1								1	
			重量								3									3	
XII	81	ピット	点数		1															1	
			重量		17															17	
XII	82	ピット	点数		1															1	
			重量		47															47	
XII	89	ピット	点数							2			1							3	
			重量							26			6							32	
XII	92	ピット	点数			1														1	
			重量			5														5	
XII	110	ピット	点数			2		1												3	
			重量			19		27												46	
XII	111	ピット	点数		1															1	
			重量		6															6	
XII	116	ピット	点数	1																1	
			重量	4																4	
V	1	溝	点数		7		1	1	2											11	
			重量		38		17	71	17											143	
V	2	溝	点数	4	6		3		6			2	2							23	
			重量	15	30		17		113			6	18							199	
V	5	溝	点数		2		2			1										6	
			重量		9		24			35		1								69	
V	6	溝	点数	1	9		1		1											12	
			重量	2	44		3		32											81	
V	7	溝	点数	9	17		9	1												36	
			重量	59	194		66	28												347	
V	7・8	溝	点数	95	50		24	2	14				1							186	
			重量	300	253		220	34	432				2							1241	
V	10	溝	点数	9	44		7		1	1			1							63	
			重量	50	406		41		30	10			3							540	
V	10・11	溝	点数	4	21		1													26	
			重量	13	332		2													347	
V	11	溝	点数	2	3		3		1											9	
			重量	6	13		57		117											193	
V	12	溝	点数				1		1											2	
			重量				26		53											79	
V	13	溝	点数				1		1											2	
			重量				16		71											87	
VI	1	溝	点数	33	206		74		17				6							336	
			重量	127	806		429		478				21							1861	
VI	2	溝	点数	23	64		23		14				3							127	
			重量	91	302		182		492				13							1080	
VI	3	溝	点数	7	36		6													49	
			重量	18	105		41													164	
VI	4	溝	点数		5		3													8	
			重量		21		35													56	
VI	5	溝	点数	1	6				1											8	
			重量	1	12				8											21	
VI	6	溝	点数	63	64		29		6				1							163	
			重量	159	250		177		227				3							816	
VI	7	溝	点数	1	2		2													5	
			重量	4	6		6													16	
VI	8	溝	点数	1			1													2	
			重量	5			15													20	
VI	9	溝	点数	41	139		43	3	29	5			7					2	269	縄文	
			重量	195	890		496	130	1253	112			77					33	3186		
VI	10	溝	点数	7	2		3		1											13	
			重量	35	10		36		33											114	

未掲載遺物一覧

区	遺構 NO.	遺構種	土師器			須恵器				黒色土器		灰釉陶器			緑釉陶器			瓦	不明	その他	合計		
			杯・ 碗類	甕	不明	杯・碗	長頸壺 他	甕	羽釜・ 甌	不明	杯・ 碗類	壺	碗・皿	瓶類	不明	碗・皿	瓶類						不明
VI	12	溝	点数					1												1			
			重量					4												4			
VI	13	溝	点数	74	35		21		8	1										1	140	陶器	
			重量	370	278		116		191	9										79	1043		
VI	14	溝	点数	19	141		11	1	12	1											185		
			重量	57	938		159	6	254	8											1422		
VI	15・35	溝・ 土坑	点数		10		2		1											1	14	陶器	
			重量		53		35		11											17	116		
VI	16	溝	点数		2																2		
			重量		24																24		
VI	17	溝	点数	27	116		33		27	3			3								209		
			重量	125	878		389		601	85			19								2097		
VI	18	溝	点数	4	8		3		4												19		
			重量	15	31		36		61												143		
VI	19	溝	点数	3																	3		
			重量	13																	13		
VI	42	溝	点数	1	5		2		3												11		
			重量	6	47		21		25												99		
VII	1	溝	点数	46	17		43		12				5			2					125		
			重量	137	224		409		476				24			6					1276		
VII	2	溝	点数	16	17		17		6	1			5								62		
			重量	40	212		148		360	48			16								824		
VII	3	溝	点数	70	146		58	1	32	2			23								332		
			重量	182	1179		311	17	565	54			88								2396		
VII	4	溝	点数		16		6		2	1											25		
			重量		53		32		80	24											189		
VII	5	溝	点数		35		14	1	12	2			2	1							67		
			重量		233		110	24	231	61			9	6							674		
VII	6	溝	点数	2	3				3												8		
			重量	9	14				49												72		
VII	8	溝	点数	32	35		11		2	1			2	1							84		
			重量	83	380		86		22	15			5	8							599		
VII	9	溝	点数	22	112		47		34	2			16	1							234		
			重量	110	1569		560		1436	72			160	43							3950		
VII	10	溝	点数	24	21		20	2	8	5			9								89		
			重量	293	520		177	41	422	472			48								1973		
VII	11	溝	点数	78	33		39		23	4			12								189		
			重量	221	559		278		1056	130			66								2310		
VII	12	溝	点数	14	1		11		38	1			3	5							73		
			重量	78	54		173		1257	39			38	128							1767		
VIII	1	溝	点数	9	23		12		6	10			8								68		
			重量	25	80		67		72	105			59								408		
VIII	2	溝	点数	5	16		11		2	14			1								49		
			重量	10	161		205		274	420			2								1072		
VIII	3	溝	点数		1		3														4		
			重量		23		45														68		
VIII	7	溝	点数						1												1		
			重量						43												43		
IX	11	溝	点数										1	1							2		
			重量										3	20							23		
X	1	溝	点数	6	9		7														22		
			重量	14	157		20														191		
X	2	溝	点数	29	18		8						1								1	57	埴輪
			重量	82	84		89						2								35	292	
X	3	溝	点数	22	30		5		3	2											62		
			重量	36	170		15		17	37											275		
X	4	溝	点数	5	27		11		1	8			1								53		
			重量	22	75		117		81	157			2								454		
X	5	溝	点数	17	13		14		2				1								47		
			重量	38	56		65		23				1								183		
X	6	溝	点数	417	160		411		61				37	6		10					1102		
			重量	1955	1418		3227		2000				221	78		29					530	9458	土師器片
X	7	溝	点数	17	16		25		3				1								62		
			重量	58	85		112		37				2								71	365	土師器片
X	8	溝	点数	16	7		41		10				6			1					81		
			重量	41	45		361		274				11			1					84	817	土師器片
X	9	溝	点数				2		5	3			2								12		
			重量				25		88	84			8								27	232	土師器片

未掲載遺物一覧

区	遺構NO.	遺構種		土師器			須恵器				黒色土器		灰釉陶器			緑釉陶器			瓦	不明	その他	合計	
				杯・碗類	甗	不明	杯・碗	長頸壺他	甗	羽釜・甑	不明	杯・碗類	壺	碗・皿	瓶類	不明	碗・皿	瓶類					
X	10	溝	点数	72	52		67	2	6												199		
			重量	197	355		790	149	304													1795	
X	11	溝	点数	48	56		117		41					7							269		
			重量	184	570		1480		1880						79							51	4244
XI	1	溝	点数		2																2		
			重量		11																	11	
VII		河道北	点数	1	5		10		11					1							28		
			重量	8	38		66		660						3							775	
VII		北東谷	点数				1														1		
			重量				21															21	
V	1	低地	点数	157	273		143	1	14	27				2							617		
			重量	625	1830		1420	16	780	1150					10							5831	
XI	1	配石	点数	2					26	10				1	1						40		
			重量	6					1510	104					3	18						1641	
VII		遺物集中	点数	1	16				2	9											28		
			重量	1	138				29	529												697	
VII	1	畠	点数	3	54	67	21		15	5				5	1						171		
			重量	17	416	112	141		308	89					23	9						1115	
VII	2	畠	点数	9	57		11		15	2				4							98		
			重量	37	365		98		226	56					21							803	
V		南耕作痕	点数	3	2																5		
			重量	15	25																	40	
V	1	復旧	点数	11	18		3			1				5							38		
			重量	41	56		18			9					20							144	
V	3	復旧痕一括	点数	7	11					1				1	1						21		
			重量	47	186					101					1	32						367	
VII		復旧痕	点数		24		10		11	3				5	5						58		
			重量		185		155		308	85					24	100						857	
X	1	復旧溝	点数	2			1														1	4	陶器
			重量	2			4															4	10
VI	1	不明遺構	点数	38	69		26		4	9				1							147		
			重量	98	588		147		105	199					1							1138	
VI	2	不明遺構	点数	48	126		76		35	2					1						3	291	羽口
			重量	246	655		678		1140	57					7							40	2823
VI	2	不明遺構A-2	点数		8		1														9		
			重量		13		1															14	
VI	2	不明遺構A-3	点数		2		1														3		
			重量		3		3															6	
VI	2	不明遺構A-4	点数	1																	1		
			重量	10																		10	
VI	2	不明遺構A-5	点数	1	3																4		
			重量	1	5																	6	
VI	2	不明遺構B-1	点数		2		1														3		
			重量		5		1															6	
VI	2	不明遺構B-2	点数		5																5		
			重量		5																	5	
VI	2	不明遺構B-3	点数		9		1														10		
			重量		10		1															11	
VI	2	不明遺構B-4	点数		2																2		
			重量		8																	8	
VI	2	不明遺構B-5	点数		2				1												3		
			重量		2				1													3	
VI	2	不明遺構C-2	点数	4	19		2														25		
			重量	7	16		8															31	
VI	2	不明遺構C-3	点数	4	11		5														20		
			重量	7	17		11															35	
VI	2	不明遺構C-4	点数	3	9		2														14		
			重量	12	18		3															33	
VI	2	不明遺構C-5	点数		2																2		
			重量		3																	3	
VI	2	不明遺構D-1	点数	2	15		2														19		
			重量	9	54		7															70	
VI	2	不明遺構D-2	点数	20	71		8							2							101		
			重量	131	165		34								7							337	
VI	2	不明遺構D-3	点数	27	70		22														119		
			重量	93	121		173															387	
VI	2	不明遺構D-4	点数	6	18		1														25		
			重量	27	61		6															94	

区	遺構NO.	遺構種		土師器			須恵器				黒色土器		灰釉陶器			緑釉陶器			瓦	不明	その他	合計		
				杯・碗類	甗	不明	杯・碗	長頸壺他	甗	羽釜・甑	不明	杯・碗類	壺	碗・皿	瓶類	不明	碗・皿	瓶類						不明
VI	2	不明遺構D-5	点数	3	9																12			
			重量	8	29																	37		
VI	2	不明遺構E-1	点数		4				1												5			
			重量		18				13													31		
VI	2	不明遺構E-2	点数	23	17		16		1												57			
			重量	43	40		76		13													172		
VI	2	不明遺構E-3	点数	35	42		19		4												100			
			重量	81	132		92		83													388		
VI	2	不明遺構E-4	点数	20	30		16		2												68			
			重量	39	76		76		41													232		
VI	2	不明遺構E-5	点数	14	15		1														30			
			重量	43	25		14															82		
VI	2	不明遺構F-1	点数		8		1														9			
			重量		13		1															14		
VI	2	不明遺構F-2	点数	17	23		10														50			
			重量	39	49		61															149		
VI	2	不明遺構F-3	点数	11	49		22														82			
			重量	36	119		111															266		
VI	2	不明遺構F-4	点数	8	22		9	1													40			
			重量	34	67		54	16														171		
VI	2	不明遺構F-5	点数		14		4	1													19			
			重量		29		26	90														145		
VI	2	不明遺構G-1	点数	7	6		2	1													16			
			重量	6	21		5	13														45		
VI	2	不明遺構G-2	点数	11	28		5														44			
			重量	26	77		15															118		
VI	2	不明遺構G-3	点数	13	33		9		3	2											60			
			重量	35	203		40		44	38												360		
VI	2	不明遺構G-4	点数	8	19		17		2												46			
			重量	26	195		97		26													344		
VI	2	不明遺構G-5	点数	5	10		5		2												22			
			重量	8	70		22		11													111		
VI	2	不明遺構H-1	点数	3	2																5			
			重量	4	11																	15		
VI	2	不明遺構H-2	点数	4	8		2		1												15			
			重量	5	46		3		24													78		
VI	2	不明遺構H-3	点数	7	18		12		1					1							39			
			重量	8	178		67		69						18							340		
VI	2	不明遺構H-4	点数	7	15		1		1												24			
			重量	56	78		6		30													170		
VI	2	不明遺構H-5	点数		3		3														6			
			重量		20		43															63		
VI	3	不明遺構	点数	1	2																3			
			重量	3	14																	17		
VI	4	不明遺構	点数	1	4				1												6			
			重量	2	17				23													42		
VII		不明遺構	点数	192	149		71		40	30				1							483			
			重量	585	841		792		1135	576					5							3934		
VI	D-2	グリッド	点数		11																11			
			重量		16																	16		
V	2	面	点数	1366	1450		684	4	69	281		1		60	14		1				2	3932	埴輪	
			重量	4237	8464		7285	88	2015	5710		15			350	159		18				137	28478	
VI	2	面	点数	238	1846		428	10	209	16				24	7							17	2795	弥生・中世・羽口
			重量	1413	12866		4067	113	4914	354					199	72						373	24371	
VII	1	面	点数	1					2													3		
			重量	1					21														22	
VIII	1	面	点数	10	28		8		8	1				12								67		
			重量	28	341		114		153	43					48								727	
IX	1	面	点数	1	2		1		7					1						1		13		
			重量	3	28		2		463						5					28			529	
IX	2	面	点数	10	30		19		10	6		2		6	8							91		
			重量	36	432		215		408	279		20			21	94							1505	
X	1	面	点数	62	141		51		35						2							291		
			重量	170	1036		321		607							30							2164	
X	2	面	点数	309	860		561	2	118	272				61	8							2191		
			重量	1370	5090		4857	33	4140	4753					322	213						1648	22426	土師・須恵破片
XII	1	面	点数		16		23		13	69				6								127		
			重量		50		84		199	744					20								1097	

未掲載遺物一覧

区	遺構NO.	遺構種		土師器			須恵器				黒色土器		灰釉陶器			緑釉陶器			瓦	不明	その他	合計			
				杯・碗類	甕	不明	杯・碗	長頸壺他	甕	羽釜・甗	不明	杯・碗類	壺	碗・皿	瓶類	不明	碗・皿	瓶類						不明	
XII	2	面	点数	266	425		326		111	195		11		87	1						1	1423	陶器		
			重量	650	3430		2179		1972	3198		99		295	2						11	11836			
V	1面	一括	点数	86	81		52		31	31				8								289			
			重量	192	413		311		720	439				26								2101			
VI		一括	点数		1		1															2			
			重量		19		6															25			
VII	2面	一括	点数	352	680	141	363	3	167	140				93	14							1953			
			重量	1218	5678	211	3064	56	4843	4122				649	154							19995			
VIII	1面	一括	点数						2	7												9			
			重量						98	144												242			
VIII	2面	一括	点数	10	134		58		31	22				1								2	258	陶器	
			重量	32	1935		675		795	790				15								48	4290		
VIII	3面	一括	点数	1	2		4		1	2													10		
			重量	37	211		81		18	85													432		
IX		一括	点数		1																		1		
			重量		25																		25		
X	くぼみ	一括	点数				3		1														4		
			重量				24		43														67		
VI		確認面	点数	8	35		15		18	2				6									84		
			重量	18	193		80		379	42				51									763		
VI	2面	確認面	点数	3	22		6																31		
			重量	9	217		40																266		
VII		確認面	点数	33	52		29		9	14				4									141		
			重量	117	318		215		193	290				18									1151		
VII	1面	確認面	点数	588			549	10	234	79				77	3		5			2			1547		
			重量	1656			4873	152	7919	2184				554	46		32			115			17531		
VII	2面	確認面	点数	278	793		365	1	247	64				78	9		3			2			1840		
			重量	970	3283		3985	10	7591	1545				592	93		14			105			18188		
VIII	2面	確認面	点数	2	6		3							2									13		
			重量	8	156		62							19									245		
IX	2面	確認面	点数		42		9		19	1				2	2								75		
			重量		535		135		687	20				36	36								1449		
VI		表土	点数	5	2		2																9		
			重量	103	17		75																195		
XII		表土	点数		41		34		19	4				6			1						105		
			重量		433		254		354	58				57			1						1157		
VII		表採	点数	1										1									2		
			重量	2										20									22		
VII	1面	表採	点数	5			2							1									8		
			重量	26			25							20									71		
VII	2面	表採	点数	59	151		62		31	9				5									317		
			重量	264	794		415		480	259				29									2241		
VIII		表採	点数	3					1	1													5		
			重量	14					31	8													53		
IX		表採	点数	1	3				3														7		
			重量	2	35				127														164		
XI		表採	点数		2				5					1									8		
			重量		8				140					6									154		
V		東壁トレンチ	点数	113	141		61		12	4				8									339		
			重量	257	1265		414		237	172				31									2376		
VI		東側トレンチ	点数	93	148				29							1							271		
			重量	316	932				1027							4							2279		
VII	1面	トレンチ	点数	8	56		23		34	13				4	1								139		
			重量	38	303		290		1021	505				30	28								2215		
VII	2面	トレンチ	点数		13		4		15					2	1								35		
			重量		83		32		394					10	13								532		
VIII		トレンチ	点数		9		3		4	5				1									1	23	すり鉢
			重量		113		130		133	170				11									17	574	
VII	1面	攪乱南	点数							1				3			2						6		
			重量							49				16			4						69		
VIII		攪乱	点数	2	5		1			5				1									1	15	羽口
			重量	32	38		18			297				2									32	419	
IX		攪乱	点数		1		1																	2	
			重量		18		19																	37	
X		攪乱	点数	4	2		1		1	4				2										14	
			重量	20	12		9		28	28				12										109	
V		3区	点数	1																				1	
			重量	11																				11	

抄 録

書名ふりがな	たぐちしもたじりいせき
書 名	田口下田尻遺跡
副 書 名	一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査(その3)報告書
巻 次	
シリーズ名	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	第625集
編著者名	新倉明彦・矢口裕之
編集機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20170317
作成法人 I D	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住 所	群馬県渋川市北橋町下箱田784番地2
遺跡名ふりがな	たぐちしもたじりいせき
遺 跡 名	田口下田尻遺跡(前橋市0008遺跡)
所在地ふりがな	ぐんまけんまえばししたぐちまち・せきねまち
遺跡所在地	群馬県前橋市田口町・関根町
市町村コード	10201
遺跡番号	0008
北緯(世界測地系)	362632
東経(世界測地系)	1390249
調査期間	20110501-20120331/20130401-20130831
調査面積	15630
調査原因	道路建設
種 別	田畑
主な時代	古墳/飛鳥/奈良/平安/中・近世
遺跡概要	集落-古墳-住居5+飛鳥-住居3+奈良-住居12+平安-住居260+古代-住居24+古代- 竪穴15+古代-掘立柱建物6+土師器・須恵器・灰釉陶器・緑釉陶器/溝-古代-44+中・近 世-15/土坑-古代-592+中・近世-19/鍛冶-平安-3+製鉄関連遺物/集石-古代7/配石 -中・近世-2/墓坑-平安-3+中世-1/畠・耕作痕-古代-5+中・近世-2/復旧痕- 近世-12
特記事項	浅間山の天明噴火災害の復旧作業に伴う遺構、奈良～平安時代の大規模な集落と平安時代の 製鉄炉を含む鍛冶遺構、集落からは丸軋・権衡が出土し、緑釉陶器が多数出土した。
要 約	旧利根川の自然堤防上から見つかった古代集落で、隣接する過年度の調査区と合わせて、最 盛期の10世紀には約270棟の竪穴住居が検出された。調査区内では集落は古墳時代3世紀後半 にはじまり、古墳時代後半の集落空白期を経て、平安時代に急激に拡大した。

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第625集

田口下田尻遺跡 本文編

一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査(その3)報告書

平成29(2017)年3月10日 印刷

平成29(2017)年3月17日 発行

編集・発行／公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県渋川市北橘町下箱田784番地2

電話(0279)52-2511(代表)

ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

印刷／松本印刷工業株式会社



田口下田尻遺跡

一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査(その3)報告書

遺物観察表・写真図版編

2017.3

国 土 交 通 省

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

田口下田尻遺跡

一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査(その3)報告書

遺物観察表・写真図版編

2017.3

国 土 交 通 省
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

遺物觀察表

V区3号復旧痕

挿図 PL.No.	No.	種類 種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高	厚			
第25図 PL.388	1	瀬戸・美濃 陶器 すり鉢	埋土 底部片	口底 —	高 —	—	礫微量含む。/灰 白/	底部回転糸切無調整。底部内面すり目。内外面錆釉施釉後、 外面を拭う。	江戸時代。
第25図 PL.388	2	在地系土器 焙烙	埋土 口縁部1/8	口底 —	高 —	—	白色、黒色鈳物粒 含む。/灰白/	断面灰白色、器表黒色。体部内面下位器表のみ灰白色。内 面に1箇所内耳貼り付け痕残る。体部外面下端篋削り。	江戸時代。
第25図 PL.388	3	鉄製品 不詳	埋土 一部欠損	長 幅	10.9 1.5	厚 重	1.3 19.02	断面正方形の角棒状で一端に向かい細くなりやや尖る。角 釘破片とみられるが頭側は劣化破損し詳細は不明。	

V区1面2号溝

第32図 PL.388	1	肥前磁器 碗	埋土 体部から底部 1/5	口底 —	(4.2)	高 —	—	夾雑物含まない。 /白/	外面染付。内面無文。高台内1重圏線。	17世紀後葉～ 18世紀中葉。
第32図 PL.388	2	瀬戸・美濃 陶器 菊皿か	埋土 底部1/2	口底 —	(6.6)	高 —	—	夾雑物含まない。 /灰白/	底部内面周縁の素地に波状の凹凸がある。内面から高台内 周縁厚い長石釉。貫入入る。底部内面と高台内に円錐ピン 痕2ヶ所。	17世紀前葉～ 中葉。
第32図 PL.388	3	丹波陶器 すり鉢	埋土 口縁部片	口底 —	—	高 —	—	礫含む。/淡黄/	口縁部上方に屈曲し、玉縁状を呈する。内外面錆釉。	17世紀後半～ 18世紀前半。
第32図 PL.388	4	常滑陶器 甕か	埋土 体部片	口底 —	—	高 —	—	鈳物粒少量含む。 /灰/	断面灰色、器表にぶい褐色。外面刷毛状工具による斜位撫 で。内面横位断面。	
第32図 PL.388	5	在地系土器 片口鉢か	埋土 口縁部片	口底 —	—	高 —	—	白色鈳物粒含む。 /橙/	断面橙色、器表黒褐色。口縁端部上面平坦、口縁端部内外 面小さく突き出る。	中世。
第32図 PL.388	6	在地系土器 内耳鍋	埋土 口縁部片	口底 —	—	高 —	—	鈳物粒少量含む。 /灰/	器壁やや厚く、口縁部短い。内耳は粘土紐を器壁に通して いる可能性高い。口縁部は実測図より開く可能性高い。	14世紀後半～ 15世紀中葉。

VII区1面2号溝

第34図	1	須恵器 椀	埋土 口縁部下位～底 部1/4	底	6.0			細砂粒/酸化焰/淡 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ナデ、高台は貼付。	
第34図	2	緑釉陶器 皿	埋土 底部片	底 台	8.6 8.4			微砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形。高台は貼付。全面的に施釉。	
第34図	3	須恵器 長頸壺	埋土 口縁部片	口	10.5			細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形。	

VII区1面3号溝

第35図	1	須恵器 杯	埋土 口縁部下位～底 部1/4	底	6.8			細砂粒/還元焰/褐 灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第35図	2	須恵器 鉢	埋土 口縁部片					細砂粒/還元焰/浅 黄	ロクロ整形。	
第35図	3	灰釉陶器 椀	埋土 口縁部下位～高 台部	底 台	7.5 6.9			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ナデ、高台は貼付。 施釉方法不明。	大原2号窯式 期。
第35図	4	灰釉陶器 小瓶	埋土 底部片	底	5.8			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。施釉 方法不明。	
第35図	5	土師器 甕	埋土 口縁部～胴部上 位片	口	20.4			細砂粒・粗砂粒/ 良好/灰黄褐	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	

VII区1面5号溝

第36図	1	須恵器 椀	埋土 高台部	底 台	6.1 6.3			細砂粒/酸化焰/橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第36図	2	灰釉陶器 椀	埋土 口縁部上位～高 台部1/2	底 台	7.2 6.8			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ナデ、高台は貼付。 施釉方法不明。	大原2号窯式 期。
第36図	3	須恵器 甕	埋土 口縁部片					細砂粒/還元焰/赤 灰	ロクロ整形。	

VII区1面8号溝

第38図	1	須恵器 杯蓋	埋土 高台部	摘	5.8			細砂粒/酸化焰/明 黄褐	ロクロ整形、回転右回り。摘みは貼付。	
第38図 PL.388	2	瀬戸・美濃 陶器 尾呂碗	埋土 口縁部片	口底 —	—	高 —	—	白色鈳物粒少量含 む。/灰/	胎釉施釉後、口縁部に灰釉施釉。	17世紀後葉～ 18世紀前葉。

X区1面2号溝

第41図	1	須恵器 杯	底直上 底部片	底	5.8			細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第41図	2	灰釉陶器 皿	埋土 底部片	底 台	6.7 6.0			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ナデ、高台は貼付。	光ヶ丘1号窯 式期か。
第41図 PL.388	3	鉄製品 不詳	埋土	長 幅	4.7 0.8	厚 重	0.6 3.25		断面円形の丸棒状鉄製品。端部は丸く反対側は劣化破損す る。	

VII区1号畠

第42図 PL.388	1	土製品 土錘	埋土 完形	長 径	3.3 1.3	孔 重	0.4 4.4	微砂粒/良好/にぶ い黄橙	外面はナデ。	
第42図 PL.388	2	土製品 土錘	埋土 破片	径 孔	1.5 0.6			細砂粒/良好/赤褐	外面はナデ。	

VII区5号土坑

第44図 PL.388	1	石製品 砥石	埋土 2/3	長 幅	(5.6) (2.6)	厚 重	(1.4) 31.0	砥沢石	砥面は1面認められる。裏面、両側面、上面には櫛歯タガ ネ痕が明瞭に認められる。下部欠損。	
----------------	---	-----------	-----------	--------	----------------	--------	---------------	-----	---	--

Ⅶ区6号土坑

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第44図 PL.388	2	銅製品 不詳	埋土 一部欠損	長 幅	1.6 1.3	厚 重	0.1 0.32		厚さ0.5mmほどの薄い板で周囲は凸凹するが円形に近い。 全体に劣化が著しく破損し詳細は不明。

Ⅶ区13号土坑

第45図	1	須恵器 羽釜	底から11cm上 口縁部～胴部上 位片	口 罫	17.6 21.8			細砂粒/酸化焰/暗 灰黄	ロクロ整形、罫は貼付。胴部に凹線が巡る。	
------	---	-----------	---------------------------	--------	--------------	--	--	-----------------	----------------------	--

Ⅶ区17号土坑

第45図	2	土師器 甕	埋土 口縁部片	口	13.6			細砂粒/良好/灰黄 褐	口唇部はナデ、胴部はヘラナデ。内面はヘラナデ。	
------	---	----------	------------	---	------	--	--	----------------	-------------------------	--

Ⅶ・Ⅷ・Ⅹ区1面 遺構外

第46図 PL.388	1	肥前陶器 呉器手碗	Ⅶ区1面一括 体部以下1/4	口 底	— (4.8)	高	—	夾雑物ほとんど含 まない。/灰黄/	高台端部を除き透明釉。貫入入る。高台内の挟り浅い。	17世紀末～ 18世紀前葉。
第46図	2	瀬戸・美濃 陶器 碗	Ⅶ区1面一括 体部1/3、底部 1/2	口 底	— (4.7)	高	—	白色鉱物粒少量含 む。/灰-浅黄/	内面から高台脇鉛釉。	江戸時代。
第46図 PL.388	3	龍泉窯系 青磁碗	Ⅶ区1面一括 口縁部片	口 底	— —	高	—	黒色粒少量含む。 /灰白/	器壁やや厚く、端部丸みを帯びる。	15・16世紀。
第46図 PL.388	4	瀬戸・美濃 陶器 皿	Ⅷ区1面一括 底部1/4	口 底	— —	高	—	夾雑物ほとんど含 まない。/灰白/	内外面灰釉。貫入入る。丸皿か。	大窯期。
第46図 PL.388	5	瀬戸・美濃 陶器 鉢	Ⅹ区1面一括 口縁部片	口 底	— —	高	—	夾雑物含まない。 /淡黄/	口縁部外反して非厚。内外面黄瀬戸釉。内面銅緑釉流す。	17世紀中葉～ 後葉。
第46図 PL.388	6	龍泉窯系 青磁碗	Ⅹ区1面一括 体部片	口 底	— —	高	—	夾雑物ほとんど含 まない。/褐灰/	外面片彫りによる籩蓮弁文。内外面青磁釉。	13世紀。

V区1号住居

第65図 PL.388	1	土師器 碗	カマド使用面か ら5cmと7cm上が 接合 3/4	口 底	11.0 5.7	台 高	7.1 5.5	細砂粒・褐粒/良 好/橙	高台は貼付。口縁部は横ナデ、体部はヘラ削り、底部は高 台貼付時のナデのため整形不明。	
第65図 PL.001	2	土師器 碗	床面直上と7cm 上が接合 3/4	口 底	14.8 7.2	台 高	6.7 5.1	細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	高台は貼付。口縁部は横ナデ、体部はヘラ削り、底部は高 台貼付時のナデのため整形不明。	
第65図 PL.388	3	須恵器 杯	床面から7cm上 3/4	口 底	9.5 5.0	高	3.3	細砂粒・褐粒/酸 化焰/にぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第65図 PL.388	4	須恵器 碗	床面から7cmと9 cm上が接合 口縁部一部欠	口 底	10.6 6.0	台 高	6.9 4.9	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第65図 PL.389	5	須恵器 碗	カマド使用面直 上と7cm上が接 合 3/4	口 底	10.9 6.7	台 高	6.8 5.2	細砂粒・褐粒/酸 化焰/にぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第65図 PL.389	6	須恵器 碗	床面直上 3/4、台部・口縁 部一部欠	口 底	14.7 7.6	台 高	8 5.8	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/浅黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は高台貼付時のナデで不明。	
第65図 PL.389	7	灰釉陶器 輪花皿	床面から8cm上 口縁部一部欠	口 底	12.7 6.8	台 高	6.8 2.8	微砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。	
第66図 PL.388	8	土師器 甕	カマド使用面 5cmと6cmと10cm 上が接合 3/4	口 底	25.5 6.0	高 胴	25 26.3	細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部と底部はヘラ削り。内面は 底部から胴部がヘラナデ。	
第66図 PL.388	9	須恵器 羽釜	床面直上と5cm と7cm上が接合 3/4、底部欠	口 罫	20.4 25.2			細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。 施釉方法は漬け掛けか。	輪花4カ所。 大原2号窯式 期。

V区2号住居

第68図 PL.389	1	須恵器 碗	カマド使用面か ら8cm上 3/4	口 底	10.9 5.5	台 高	6.4 5.2	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は高台貼付時のナデで不明。	
第68図 PL.389	2	須恵器 碗	床面直上 口縁部一部欠	口 底	11.1 7.2	台 高	7.8 5.2	細砂粒/酸化焰/浅 黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は高台貼付時のナデで不明。	体部に焼成後 の穿孔あり。
第68図	3	須恵器 碗	埋土 1/4	底	5.3			細砂粒/酸化焰/浅 黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第68図	4	須恵器 羽釜	床面から22cm上 口縁部片	口 罫	17.1 21.8			細砂粒/酸化焰/に ぶい橙	ロクロ整形、回転右回りか。罫は貼付。	
第68図 PL.389	5	須恵器 羽釜	カマド使用面直 上と7cmと8cm上 が接合 口縁部～胴部上 位片	口 罫	20.9 26.0			細砂粒・粗砂粒・ 褐粒/酸化焰/橙	ロクロ整形、回転右回りか。罫は貼付。	
第68図 PL.389	6	須恵器 羽釜	カマド使用面直 上と7cm上が接 合 口縁部～胴部上 位1/4	口 罫	25.0 28.4			細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/橙	ロクロ整形？回転不明。罫は貼付、胴部はヘラ削り。内面 はヘラナデ。	

V区3号住居

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口 罎	24.8 28.8					
第69図 PL.389	1	須恵器 羽釜	カマド使用面直上 口縁部片	口 罎	24.8 28.8			細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 橙	ロクロ整形、回転右回りか。罎は貼付。	

V区4号住居

第71図 PL.389	1	須恵器 椀	床面直上 3/4	口 底	13.2 7.0	台 高	5.9 5.0	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰・内面燻/ にぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第71図 PL.389	2	須恵器 羽釜	カマド使用面直上と6cmと13cm 上が接合 口縁部～胴部中 位1/4	口 罎	17.8 21.6			細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/黄橙	ロクロ整形、回転右回りか。罎は貼付、胴部下半にヘラ削り。	
第71図 PL.389	3	鉄製品 鉄鏝	床面から14cm上 破片	長 幅	2.2 2.1	厚 重	0.4 1.69		無茎鏝の破片で先端および腸刳の両端とも劣化破損する。中央部に0.3cm程の円孔を持つが周囲に木質等の痕跡は見られない。	

V区5号住居

第74図 PL.389	1	土師器 杯	埋土 1/4	口	12.0			細砂粒/良好/明褐	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第74図 PL.389	2	須恵器 杯	貯蔵穴底から19 cm上 3/4	口 底	12.7 5.8	高	3.8	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第74図 PL.389	3	須恵器 杯	貯蔵穴底直上と 掘方埋土が接合 3/4	口 底	13.3 6.0	高	4.6	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第74図 PL.389	4	須恵器 杯	埋土 1/3	口 底	12.9 5.2	高	3.9	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰・燻/褐灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第74図	5	土師器 甕	床面直上と15cm 上が接合 口縁部片	口	19.8			細砂粒/良好/赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第74図 PL.389	6	鉄製品 刀子	床面直上 破片	長 幅	3.7 1.3	厚 重	2.1 5.90		断面狭三角形でくの字に曲がった刀子破片で、両端は破損後錆化する。	
第74図 PL.389	7	鉄製品 釘	床面から6cm上 ほぼ完形	長 幅	5.7 2.8	厚 重	2.7 24.44		先部分で折れ曲がる角釘で、頭部は丸形の傘状だが全体に厚く硬い錆に覆われ木質等の痕跡は確認できない。	
第74図 PL.389	8	鉄製品 釘	床面から10cm上 ほぼ完形	長 幅	4.8 2.5	厚 重	2.3 11.94		先端が細く尖る角釘で、頭部は丸形の傘状だが全体に厚く硬い錆に覆われ木質等の痕跡は確認できない。	
第74図 PL.389	9	石製品 砥石	埋土 1/3	長 幅	(5.2) 3.1	厚 重	3.2 62.4	砥沢石	砥面は4面認められる。正面は、下方に向かい研ぎ減りする。下部欠損。	

V区12号住居

第74図 PL.389	10	須恵器 杯	掘方直上 1/4	口 底	12.7 6.0	高	4.1	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第74図 PL.389	11	鉄製品 不詳	床面直上 一部欠損	長 幅	16.9 1.6	厚 重	1.2 39.81		断面ほぼ正方形で、両端に向かい細くなり片方は劣化破損もう一方は鋭利に尖る。	

V区6号住居

第76図	1	須恵器 杯	掘方直上 口縁部片	口 底	13.0 5.8	高	4.7	細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転糸切り無調整。	
第76図 PL.390	2	緑釉陶器 椀	カマド使用面直上 底部片	底 台	7.9 7.8			夾雑物見られない/ 還元焰/素地/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。高台は貼付。釉薬は透明感のある淡緑色。	東海産9C.代 か。
第76図 PL.390	3	灰釉陶器 小型長頸壺	床面から28cm上 口縁部片	底 台	4.8 4.7			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部はナデ、高台は貼付。施釉方法は不明。	井ヶ谷78号窯 式期～黒笹14 号窯式期。
第76図 PL.390	4	土製品 羽口	床面直上	長 幅	8.4 8.6	厚 重	8.3 546.41		基部片。内径約2.5cm、厚さ約2～3cm。指頭圧痕あり。胎土は細砂粒。	構成No.176
第76図 PL.390	5	鉄製品 不詳	床面から10cm上 ほぼ完形	長 幅	6.6 3.1	厚 重	2.1 55.16		全体に厚く硬い錆に覆われる鉄製品で、放射割れが多数発生し鑄造とみられる。錆化が著しく詳細形状等不明。	

V区7号住居

第76図 PL.390	6	須恵器 椀	貯蔵穴底から11 cmと13cmが接合 口縁部。底部一 部欠	口 底	13.2 6.6	高	6.1	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰黄	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転糸切り無調整。	
第76図 PL.390	7	灰釉陶器 小瓶	床面直上 口縁部欠	底	6.1			細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転糸切り無調整。施釉方法は漬け掛け。	大原2号窯式 期。
第76図 PL.390	8	鉄製品 不詳	掘方直上 ほぼ完形	長 幅	5.7 1.2	厚 重	1.0 9.05		全体に厚く硬い錆に覆われる鉄製品で、錆化が著しく内部は脆弱化し詳細形状等不明。	

V区8号住居

第78図 PL.390	1	土師器 杯	カマド使用面直上と17cm上 が接合 1/3	口 底	12.0 6.5	高	4.3	細砂粒・粗砂粒/ 良好/明赤褐	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半は手持ちヘラ削り、底部は砂底か。	
----------------	---	----------	------------------------------	--------	-------------	---	-----	--------------------	-------------------------------------	--

V区9号住居

第81図 PL.390	1	土師器 杯	カマド掘方直上 1/4	口 底	11.8 7.6	高	3.0	細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第81図	2	須恵器 蓋	埋土 摘み部～天井中 ほど	摘	4.0			細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。摘みは貼付、天井部中ほどは回転ヘラ削り。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第81図 PL.390	3	須恵器 椀	床面から6cm下 1/2	口 底	14.0 5.8		細砂粒/還元焰・ 燻/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切りがかすかに残る、高台は貼付が剥落。	
第81図	4	土師器 台付甕	床面から7cm上 胴部中位～底部 1/4	脚	8.1		細砂粒/良好/橙	胴部と脚部は接合。胴部はへら削り、脚部は横ナデ。内面は胴部がへらナデ、脚部は横ナデ。	外面と脚部内面にスス？付着。
第81図	5	土師器 甕	床面から17cm上 口縁部～胴部上 位片	口 胴	13.8 15.8		細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへら削り。内面は胴部がへらナデ。	

V区10号住居

第81図 PL.390	6	須恵器 杯	床面から5cm下 1/4	口 底	11.2 7.0	高 3.3	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。口縁部や底部に重ね焼き痕が残る。	
第81図	7	須恵器 杯	貯蔵穴底から53 cm上と貯蔵穴の 床から23cm上が 接合 口縁部～底部片	口 底	12.2 4.8	高 3.1	細砂粒/酸化焰/浅 黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第81図	8	須恵器 椀	カマド使用面から 5cm上 1/4	口 底	13.6 6.2	台 高 5.8 4.6	細砂粒/酸化焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第81図	9	須恵器 羽釜	床面直上と貯蔵 穴底から25cmと 30cm上が接合 口縁部片	口 鏝	23.6 27.3		細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。鏝は貼付。	

V区11号住居

第83図	1	土師器 杯	床面直上 1/4	口 底	13.6 7.0	高 4.4	細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい赤褐	口縁部は横ナデ、体部と底部はへら削り、口縁部下にナデ部分が残る。。	
第83図	2	土師器 羽釜	床面直上 口縁部片	口 鏝	20 23.7		細砂粒/酸化焰/橙	ロクロ整形、回転右回りか。鏝は貼付。	

V区13号住居

第86図	1	須恵器 杯	床面から5cm下 と掘方埋土が接 合 1/3	口 底	12.4 7.2	高 3.4	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。内外面に降灰付着。	
第86図 PL.390	2	須恵器 杯	床面から24cm上 1/3	口 底	9.3 5.2	高 2.8	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第86図 PL.390	3	須恵器 椀	床面直上 完形	口 底	11.0 4.8	高 4.0	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第86図 PL.390	4	須恵器 椀	貯蔵穴底から20 cm上 3/4	口 底	12.8 5.7	台 高 6.7 5.1	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第86図	5	須恵器 椀	床面から23cm上 1/3	口 底	12.8 7.3	台 高 6.9 5.4	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第86図 PL.390	6	須恵器 椀	貯蔵穴底から18 cm上 1/2.台部欠	口 底	15.8 6.6		細砂粒/酸化焰/浅 黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部の整形は全面ナデのため不明、高台は貼付が剥落。	
第86図	7	灰釉陶器 椀	床面から12cm上 底部1/2	底 台	7.8 8.0		微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。施釉方法は不明。	大原2号窯式期。

V区20号住居

第86図	8	灰釉陶器 椀	埋土 底部片	底 台	8.0 7.5		微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ナデ、高台は貼付。施釉方法は漬け掛け。	虎溪山1号窯式期。
第86図	9	土師器 甕	埋土 口縁部片	口	21.8		細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへら削り。内面は胴部がへらナデ。	

V区14号住居

第88図 PL.390	1	須恵器 椀	床面から7cm上 1/2	口 底	11.8 6.7	台 高 7.0 6.0	細砂粒/酸化焰・ 燻/にぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部の整形は不明、高台は貼付。	
第88図 PL.390	2	灰釉陶器 皿	床面から7cm下 1/2	口 底	13.6 6.6	台 高 6.5 2.8	夾雑物無/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ナデ、高台は貼付。施釉方法は漬け掛け。	大原2号窯式期。
第88図	3	土師器 甕	床面直上と5cm 上が接合 口縁部～胴部 1/4	口 胴	19.2 19.6		細砂粒・粗砂粒/ 良好/浅黄橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへら削り。内面は胴部がへらナデ。	

V区38号住居

第88図	4	土師器 甕	床面直上 口縁部～胴部上 位片	口	19.8		細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへら削り。内面は胴部がへらナデ。	
第88図 PL.390	5	鉄製品 釘	埋土 一部欠損	長 幅	8.3 1.0	厚 重 0.8 8.45		断面ほぼ正方形の角釘で、先端は鑿状に細くなり頭側は劣化破損し不明。木質等の痕跡は見られない。	
第88図 PL.390	6	鉄製品 釘	床面から14cm上 一部欠損	長 幅	7.8 1.1	厚 重 1.0 10.60		断面ほぼ正方形の角釘で、先側は細くなるが頭端部は劣化破損する。頭は厚く伸ばし折り曲げる。木質等の痕跡は見られない。	
第88図 PL.390	7	石製品 紡輪	床面直上 完形	長 幅	4.0 —	厚 重 0.9 25.5	蛇紋岩	表裏面ともよく研磨されている。表面はほぼ平坦であるが、裏面はやや凸状である。側面には、部分的に刀子状工具による加工痕が残る。径約7mmの軸孔が穿孔されている。	逆台形状 (薄型)

V区15号住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第91図 PL.391	1	黒色土器 椀	掘方埋土 1/2	口 底	13.0 7.0	台 高	6.6 5.6	細砂粒/酸化焰/に ぶい橙	内面黒色処理。ロクロ整形、回転右回りか。高台は貼付。 内面はヘラ磨き。	
第91図 PL.391	2	須恵器 杯	掘方埋土 完形	口 底	9.5 5.3	高	3.2	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第91図 PL.391	3	須恵器 杯	カマド使用面か ら15cm上 口縁部一部欠	口 底	9.3 4.7	高	3.5	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第91図 PL.391	4	須恵器 杯	床面直上 3/4	口 底	9.7 5.5	高	2.8	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第91図 PL.391	5	緑釉陶器 椀	床面から26cm上 3/4	底 台	6.6 6.6			夾雑物無/還元焰/ 灰オリーブ	ロクロ整形、回転右回りか。高台は貼付。内外面ともロク ロ痕等をナデ消している。	二次被熱を受け ている。東 海10世紀前半 代か。
第91図 PL.391	6	灰釉陶器 皿	埋土 1/2	口 底	11.8 6.6	台 高	6.4 2.3	夾雑物無/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転ナデ、高台は貼付。 施釉方法は漬け掛け。	虎溪山1号窯 式期
第91図 PL.391	7	須恵器 羽釜	床面直上 口縁部～胴部下 位1/3	口 鏝	23.6 27.8			細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 橙	ロクロ整形、回転右回りか。鏝は貼付、胴部下半はヘラ削 り。内面は胴部下半にヘラナデ。	

V区16号住居

第91図 PL.391	8	鉄製品 刀子	床面直上 破片	長 幅	8.3 2.1	厚 重	0.7 13.28		刀子の関から茎破片で、棟側には明瞭な関を持つが刃側は 破損痕跡があり関の有無は不明。刃は関から3cm程で破損・ 錆化する。
----------------	---	-----------	------------	--------	------------	--------	--------------	--	---

V区17号住居

第91図	9	灰釉陶器 椀	貯蔵穴底から13 cm上 口縁部片	口 底	12.9 5.0			夾雑物無/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転方向不明。施釉方法は漬け掛け。	大原2号窯式 期。
第91図	10	須恵器 羽釜	貯蔵穴底から18 cm上 口縁部片	口 鏝	20.9 25.4			細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい橙	ロクロ整形、回転右回りか。鏝は貼付。	

V区18号住居

第93図	1	須恵器 杯	埋土 1/4	口 底	12.2 5.9	高	3.3	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転糸切り無調整。	
第93図	2	須恵器 羽釜	掘方直上 口縁部片	口 鏝	21.8 21.2			細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回りか。鏝は貼付、胴部はヘラ削り。	

V区19号住居

第95図	1	土師器 高杯	貯蔵穴底から12 cm上 杯部1/2	口 底	19.4 6.6			細砂粒・粗砂粒/ 良好/明赤褐	杯身部と脚部は接合。杯身は口縁部がヘラ削り後ヘラ磨き、 底部から脚部はヘラ削り。内面杯身部はハケ目後ヘラ磨き。	
第95図	2	土師器 高杯	床面直上 脚部					細砂粒・粗砂粒/ 良好/明赤褐	杯身部と脚部は接合。	
第95図 PL.391	3	土師器 小型甕	床面直上と6cm 上が接合 1/2	口 底	12.1 4.1	高 胴	13.7 12.1	細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい赤褐	口縁部は横ナデ、胴部は上位がハケ目、中位以下と底部は ヘラ削り。内面胴部は木口状工具によるヘラナデ。	
第95図 PL.391	4	土師器 小型甕	床面直上と8cm 上が接合 口縁部～胴部上 位1/2	口 胴	10.6 10.2			細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部横ナデ、胴部は上位がヘラ削り、中位にハケ目。内 面胴部は木口状工具によるヘラナデ。	

V区22号住居

第96図 PL.391	1	須恵器 椀	カマド使用面直 上と6cm上が接 合 1/3	口 底	14.0 6.0	高	4.7	細砂粒/酸化焰/に ぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第96図 PL.391	2	灰釉陶器 椀	カマド使用面直 上と7cm上と掘 方埋土が接合 1/3	口 底	17.4 7.3	台 高	7.0 5.5	微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。 施釉方法は刷毛塗りか。	光ヶ丘1号窯 式期。
第96図	3	須恵器 羽釜	カマド使用面直 上 口縁部片	口 鏝	19.0 23.0			細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回りか。鏝は貼付。	

V区23号住居

第96図 PL.391	4	銅製品 丸軋	床面から7cm上 破片	長 幅	3.5 2.1	厚 重	0.4 1.96		銅製の丸軋破片で、全体に錆化するが一部表面には平滑な 面が残るが鍍金等の痕跡は確認できない。裏面は凸凹が顕 著で成型の痕跡とみられる。足金は基部から欠損する。
----------------	---	-----------	----------------	--------	------------	--------	-------------	--	---

V区24号住居

第100図	1	土師器 甕	カマド掘方直上 口縁部片	口	20.7			細砂粒/良好/にぶ い赤褐	内外面に土砂が付着しているため整形不明。	
第100図	2	須恵器 羽釜	カマド使用面か ら11cm上 口縁部～胴部片	口 鏝	22.9 26.8			細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰黄褐	ロクロ整形、回転右回りか。鏝は貼付、胴部下位にヘラ削り。	
第100図 PL.391	3	須恵器 羽釜	カマド使用面直 上と7cmと8cm上 が接合 口縁部～胴部 1/4	口 鏝	23.7 27.8			細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回りか。鏝は貼付、胴部下半にヘラ削 り。内面は胴部がヘラナデ。	

V区27号住居

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	底	高			
第100図	4	土師器 甕	貯蔵穴上の床面 直上 口縁部3/4	口	19.4		細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	

V区28号住居

第104図	1	土師器 杯	かマド埋土 1/4	口	12.0 9.2	高	3.5	細砂粒/良好/褐	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第104図 PL.391	2	須恵器 椀	床面から10cm下 1/3	口	13.5 7.2	台	6.9 6.3	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第104図	3	土師器 甕	掘方から7cm下 口縁部～胴部上 位1/2	口	19.4			細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第104図	4	土師器 甕	床面直上 口縁部片	口	19.4			細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	

V区29号住居

第104図 PL.391	5	須恵器 椀	カマド使用面から 6cm上 3/4	口	12.0 7.0	台	7.0 5.6	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/灰黄褐	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第104図 PL.391	6	須恵器 椀	床面直上 3/4	口	12.6 7.0	台	7.6 5.9	細砂粒・粗砂粒・ 褐粒/酸化焰/浅黄 橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ナデ、高台は貼付。	
第104図 PL.391	7	須恵器 椀	埋土 2/3	口	11.0 6.2	台	6.4 4.6	細砂粒/酸化焰・ 燻/灰黄褐	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。	土坑1
第104図 PL.391	8	須恵器 羽釜	カマド使用面直 上と5cmと6cmと 7cm上が接合 口縁部～胴部下 位1/3	口	21.9 25.7			細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 橙	ロクロ整形、回転方向不明。外面胴部に輪積痕が残る。鏝は貼付、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	

V区30号住居

第106図 PL.392	1	土師器 椀	床面直上 口縁部一部欠	口	13.0 7.6	台	8.8 5.7	細砂粒・粗砂粒/ 褐粒・石英/良好/ にぶい黄橙	高台は貼付。口縁部と高台は横ナデ、体部は上半がナデ、下半がヘラ削り。底部はナデか。内面は底部と脚部にヘラナデ。	
第106図 PL.392	2	土師器 椀	床面直上 3/4	口	14.8 7.6	台	9.2 7	細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい橙	高台は貼付。口縁部と高台は横ナデ、体部はナデ、底部はナデか。内面底部はヘラナデ。	
第106図 PL.392	3	須恵器 椀	床面直上 1/3	口	11.6 6.2	台	6.4 4.2	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第106図 PL.392	4	土師器 小型甕	床面から9cmと 19cm上とカマド 使用面直上と 12cmと14cm上が 接合 底部欠.1/3	口	13.8 16.0			細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	ロクロ整形、回転方向不明。口縁部から頸部は横ナデ、胴部下位はヘラ削り。	
第106図 PL.392	5	須恵器 長頸壺	床面直上と7cm と15cm上が接合 口縁部～胴部下 位1/3	口	12.4 20.2			細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転方向不明。頸部と胴部は接合、内面にナデが残る。胴部下半に回転ヘラ削り。	内面の一部に漆付着か。
第106図 PL.392	6	須恵器 羽釜	床面から9cmと 12cmと15cmと19 cm上が接合 口縁部～胴部下 位1/3	口	21.4 26.4			細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転方向不明。内面胴部に輪積痕が残る。鏝は貼付、胴部下半はヘラ削り、内面胴部はヘラナデ。	
第106図 PL.392	7	鉄製品 不詳	掘方から7cm上 破片	長	13.7 1.1	厚	0.9 13.61		断面ほぼ円形で、端に向かい細くなるが端部は丸み持ち、反対側は劣化破損する。形状から紡錘車の棒軸と考えられるが詳細は不明。	
第106図 PL.392	8	石製品 砥石	床面直上 1/2	長	(15.6) (6.4)	厚	(5.2) 483.3	砥沢石	砥面は3面認められる。正面は、下方にむかい研ぎ減りする。右側面には刃慣らし傷が認められる。裏面全体から下部にかけて欠損。	

V区31号住居

第108図 PL.392	1	土師器 椀	貯蔵穴底から17 cm上 3/4	口	13.9 7.0	台	6.9 5.7	細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい黄橙	高台は貼付。口縁部と高台は横ナデ、体部は上半がナデ、下半にヘラ削り、底部はナデ。内面は底部から口唇部下にかけてヘラ磨き。	
第108図	2	黒色土器 椀	床面直上 1/4	口	14.2 7.0	台	6.6 5.6	細砂粒/酸化焰/浅 黄	内面黒色処理か。ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。内面はヘラ磨き。	二次被熱を受けている。
第108図 PL.392	3	灰釉陶器 小瓶	床面直上 胴部～底部3/4	底	5.3 7.0			夾雑物無/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。胴部の一部にナデ。施釉方法不明。	大原2号窯式期か。
第108図	4	緑釉陶器 椀	埋土 口縁部片					微砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形。口唇部に濃い釉薬、口縁部は口唇部よりやや淡い釉薬が施釉されている。	緑釉緑彩か。
第108図	5	土師器 甕	貯蔵穴上の床面 直上 口縁部片	口	19.0 18.6			細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第108図	6	須恵器 羽釜	床面から16cm上 と貯蔵穴底から 28cm上が接合 口縁部片	口	20.0 24.3			細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回りか。鏝は貼付。胴部はロクロ痕をナデ消している。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第108図	7	須恵器 羽釜	床面直上と10cmと12cm上とカマド使用面から5cmと9cm上と貯蔵穴底から19cmと20cmと22cm上が接合 胴部～底部3/4				細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰黄	ロクロ整形、回転右回りか。底部はナデ、胴部下位にヘラ削り。	

V区32号住居

第109図	1	須恵器 椀	床面直上 口縁部～底部片	口底	11.8 5.0	高	4.0	細砂粒/酸化焰/に ぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
-------	---	----------	-----------------	----	-------------	---	-----	------------------	--------------------------	--

V区33号住居

第111図	1	土師器 小型甕	埋土 口縁部～胴部 1/4	口 胴	12.6 14.2			細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ、胴部は上位にナデ、中位はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第111図	2	須恵器 羽釜	カマド使用面から17cm上 口縁部～胴部片	口 鏝	18.6 22.9			細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄橙	ロクロ整形、回転方向不明。鏝は貼付、胴部下位にヘラ削り。	
第111図 PL.392	3	鉄製品 不詳	床面直上 ほぼ完形	長 幅	6.7 2.2	厚 重	1.4 37.66		全体に厚く硬い錆に覆われる鉄製品で、断面長方形の角棒状の鉄製品で全体に厚く硬い錆に覆われ詳細形状等不明。	

V区34号住居

第112図	1	須恵器 椀	床面から14cmと20cm上が接合 1/3	口 底	13.6 7.7	台 高	8.6 5.9	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/橙	ロクロ整形、回転右回り。底部の整形技法は不明。高台は貼付。	
第112図	2	須恵器 椀	埋土 底部～体部	底 台	6.2 5.3			細砂粒/還元焰・ 内外燻/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第112図	3	須恵器 椀	埋土 底部～体部下位	底 台	6.0 5.4			細砂粒/還元焰・ 外燻/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第112図	4	灰釉陶器 椀	埋土 口縁部～体部片	口	18.0			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。施釉方法不明。	光ヶ丘1号窯 式期～大原2 号窯式期。
第112図	5	灰釉陶器 長頸壺	埋土 胴部片	胴	19.2			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形。胴部下半回転ヘラ削り。施釉方法不明。	
第112図	6	須恵器 羽釜	掘方から6cm上と掘方埋土が接合 口縁部～胴部上位片	口 鏝	19.4 22.0	胴	22.0	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰黄	ロクロ整形、回転右回りか。鏝は貼付。	

V区35号住居

第114図 PL.392	1	土師器 杯	床面から29cm上 1/3	口 底	11.8 8.0	高	2.9	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第114図	2	土師器 杯	埋土 1/4	口 底	12.2 9.8			細砂粒/良好/褐	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第114図	3	須恵器 杯	床面から40cm上 1/4	口 底	13.0 6.8	高	4.1	細砂粒/酸化焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第114図	4	須恵器 椀	掘方埋土 1/4	口 底	12.2 5.6	高	3.3	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第114図	5	土師器 甕	床面から10cmと12cmと30cm上 が接合 口縁部～胴部上位 1/2	口	19.8			細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第114図 PL.392	6	土製品 土錘	カマド1使用面 から40cm上 完形	長 幅	4.6 1.8	孔 重	0.5 11.2	細砂粒/良好/灰黄	外面はナデ。	
第114図 PL.392	7	石製品 砥石	埋土 完形	長 幅	29.0 17.0	厚 重	10.4 5200.0	粗粒輝石安山岩	砥面は3面認められる。正面と裏面は中央がやや窪んだ形態を呈し、正面には浅い断面U字状の線条痕が集中する。左側面は著しく内湾した形態である。	荒砥

V区36号住居

第117図	1	土師器 杯	埋土 口縁部～底部 1/3	口 底	11.4 6.0	高	5.0	細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半がヘラ削り、底部はナデ。	
第117図 PL.393	2	須恵器 椀	床面直上 3/4	口 底	12.8 6.8	台 高	5.4 4.9	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰・燻/暗灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第117図 PL.393	3	須恵器 椀	床面直上と7cm 上が接合 1/3	口 底	13.3 6.4	台 高	7.0 5.2	細砂粒/還元焰・ 燻/黄灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第117図 PL.393	4	須恵器 椀	床面直上 3/4	口 底	14.0 6.9	台 高	7.7 6.0	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第117図 PL.393	5	須恵器 椀	床面直上 1/3	口 底	13.5 7.2	台 高	6.8 4.8	細砂粒/還元焰・ 燻/暗灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ナデ、高台は貼付。	
第117図 PL.393	6	須恵器 椀	床面直上 1/3	口 底	15.9 7.0			細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付しているが、高台は剥落。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第117図	7	須恵器 羽釜	貯蔵穴底から15cm上 口縁部1/3	口 鏝	19.0 23.6		細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	ロクロ整形、回転方向不明。鏝は貼付。	

V区37号住居

第118図 PL.393	1	土師器 杯	床面から13cm上 1/3	口 稜	15.3 11.5		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	外面の口縁部と体部の一部にススが付着。
第118図	2	土師器 甕	カマド使用面から16cm上 口縁部～胴部上位1/3	口	23.8		細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	

V区39号住居

第119図	1	土師器 杯	カマド埋土 1/4	口 底	12.0 8.2		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第119図 PL.393	2	須恵器 杯	埋土 1/4	口 底	11.9 7.8	高 3.7	細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第119図	3	土師器 甕	掘方埋土 口縁部片	口	19.0		細砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第119図	4	土師器 甕	床面直上 口縁部片	口	22.0		細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	

V区40号住居

第122図 PL.393	1	須恵器 杯	床面直上 完形	口 底	9.1 5.6	高 2.2	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/灰黄褐	ロクロ整形、回転左回り。底部は回転糸切り無調整。	
第122図	2	須恵器 耳皿	掘方埋土 1/2	底 台	5.3 5.8		細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転糸切り後高台を貼付。	
第122図 PL.393	3	土師器 甕	カマド使用面から6cmと10cm上 が接合 口縁部～胴部下 位1/3	口 胴	23.4 25.8		細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第122図	4	土師器 甕	床面直上 口縁部～胴部下 位1/4	口 胴	26.2 27.0		細砂粒・粗砂粒/ 良好/明赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部は上半がナデ、下半はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第122図	5	土師器 甕	カマド使用面直上と5cmと6cm上 が接合 口縁部～胴部 1/4	口 胴	23.6 23.4		細砂粒・粗砂粒/ 良好/明赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第122図 PL.393	6	鉄製品 鏃	埋土 破片	長 幅	3.6 2.1	厚 0.8 8.10		鉄鏃破片。全体に厚く錆に覆われ本体は脆弱化する。片方の腸剣は基部から破損錆化、茎側は劣化破損する。	
第122図 PL.393	7	鉄製品 刀子	床面から6cm上 完形	長 幅	13.9 1.7	厚 0.7 17.16		棟・刃側ともに明瞭な関を持つ刀子。鞘および茎とも木質等の痕跡は見られない。	
第122図 PL.393	8	鉄製品 不詳	床面直上 ほぼ完形	長 幅	4.1 4.5	厚 1.7 30.09		両端に円形の穴を持つU字形の鉄製品で、錆の状況から長い棒状の鉄製品を両端部でループ状に折り返し作成したとみられる。	
第122図 PL.393	9	鉄製品 不詳	埋土 ほぼ完形	長 幅	4.1 3.6	厚 2.5 19.03		扁平な断面を持つ輪状鉄製品で、側面に扁平な突出部を持つ。全体に厚い錆に覆われ本体は脆弱なため詳細は不明。	
第122図 PL.393	10	鉄製品 不詳	埋土 一部欠損	長 幅	2.7 1.1	厚 0.9 2.63		断面狭長方形の鉄製品破片、一端は丸みを持ち終わり反対側は劣化破損する。	
第123図 PL.393	11	鉄製品 不詳	埋土 ほぼ完形	長 幅	4.1 2.3	厚 1.1 5.44		木の葉形の鉄製品、厚さ1mmほどで刃部等の形状は見られない。	
第123図 PL.393	12	鉄製品 鎌	床面直上 破片	長 幅	7.6 6.7	厚 1.2 23.88		刃に対して大きく傾けて柄装着部を折り曲げた鎌破片。刃は柄から8cm程で劣化破損、柄装着部分に木質の痕跡は確認できない。	
第123図 PL.393	13	石製品 砥石	床面から14cm上 1/2	長 幅	(4.9) (3.1)	厚 (2.0) 43.6	砥沢石	砥面は4面認められる。両側面はほぼ平坦であるが、表面及び裏面は内湾した形態である。上面は滑面であり、器軸に対して斜めで研ぎ減りとも判断されることから、上面も砥面として利用された可能性がある。下部欠損。	
第123図 PL.393	14	石製品 砥石	床面から12cm上 4/5	長 幅	(7.3) (3.3)	厚 2.1 55.9	砥沢石	砥面は4面認められる。表面及び裏面は下方にむかい著しく研ぎ減りする。正面の上部に、小さな短冊状の平坦な研面が折り重なるように認められる。下部欠損。	

V区41号住居

第125図 PL.393	1	土師器 杯	床面から30cmと32cm上 が接合 1/4	口 底	11.8 9.0	高 3.1	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第125図	2	須恵器 杯	埋土 破片	口 底	12.0 7.0	高 3.3	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転糸切り無調整。	
第125図 PL.393	3	須恵器 杯	埋土 1/3	口 底	9.6 6.2	高 4.1	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後周囲を回転ヘラ削り。	
第125図	4	土師器 台付甕	カマド使用面から32cm上 胴部下位～底部	底	4.0		細砂粒/良好/赤褐	脚部は貼付。胴部は外面がヘラ削り、内面はヘラナデ。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第125図	5	土師器 甕	カマド使用面から28cm上とカマド掘方埋土が接合 口縁部～胴部上位3/4	口 胴	13.8 16.2			細砂粒/良好/にぶい赤褐	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	

V区42号住居

第127図 PL.393	1	須恵器 椀	床面直上 1/2	口 底	13.3 5.0	高 3.9		細砂粒/酸化焰/浅黄橙	ロクロ整形、回転方向不明。底部の整形は磨滅のため不明。	
第127図 PL.393	2	灰釉陶器 椀	床面直上 1/3	口 底	15.6 8.4	台 高	8.0 4.8	細砂粒/還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ナデ、高台は貼付。施釉方法は刷毛塗りか。	9世紀後半代、産地不明。
第127図	3	須恵器 羽釜	床面直上 口縁部～胴部上位片	口 鏝	20.0 19.8			細砂粒/酸化焰/橙	ロクロ整形、回転方向不明。鏝は貼付。	

V区43号住居

第129図 PL.394	1	土師器 杯	床面直上 完形	口 底	11.5 9.7	高 3.4		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第129図 PL.394	2	土師器 杯	床面直上 3/4	口 底	12.2 10.0	高 3.2		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第129図 PL.394	3	土師器 杯	床面直上 3/4	口 底	12.0 10.0	高 3.2		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第129図 PL.394	4	土師器 杯	床面直上 3/4	口 底	12.6 10.8	高 3.2		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第129図 PL.394	5	土師器 杯	床面から9cmと12cm上が接合 1/3	口 底	12.8 10.0	高 3.3		細砂粒/良好/明褐	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第129図	6	土師器 杯	カマド埋土 1/3	口 底	11.8 9.2	高 3.1		細砂粒/良好/にぶい褐	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第129図 PL.394	7	須恵器 杯	床面直上 口縁部一部欠	口 底	12.1 6.8	高 3.3		細砂粒/還元焰/にぶい黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後周囲を回転ヘラ削り。	
第129図 PL.394	8	須恵器 杯	床面直上 3/4	口 底	13.0 8	高 3.8		細砂粒/還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後周囲を回転ヘラ削り。	
第129図 PL.394	9	須恵器 杯	床面から9cm上 1/3	口 底	12.7 8.0	高 3.5		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第129図 PL.394	10	須恵器 杯	床面直上 1/3	口 底	11.8 6.8	高 3.7		細砂粒/還元焰/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第129図	11	須恵器 杯	床面から10cm上 1/4	口 底	12.0 7.2	高 3.9		細砂粒/還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第129図	12	須恵器 杯	埋土 1/4	口 底	12.2 7.0	高 3.6		細砂粒/還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第129図 PL.394	13	須恵器 椀	床面直上 口縁部一部欠	口 底	15.6 8.6	台 高	8.3 8.3	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第129図 PL.394	14	須恵器 椀	床面直上 1/2	口 底	16.2 8.6	台 高	8.2 8.1	細砂粒/還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第129図	15	須恵器 羽釜	床面から14cm上 口縁部～胴部上位片	口 鏝	19.6 23.8	胴	25.0	細砂粒・粗砂粒/還元焰/にぶい黄	ロクロ整形、回転右回りか。	
第129図 PL.394	16	鉄製品 刀子	埋土 破片	長 幅	7.2 1.2	厚 重	0.5 6.20		刀子破片。棟側には関を持ち、関から2.5cm程で劣化破損する、茎は端部を劣化破損する。木質等の痕跡は見られない。	16は同一個体
第129図 PL.394	16	鉄製品 刀子	埋土 破片	長 幅	2.6 0.7	厚 重	0.3 0.78		刀子刃部分の破片。同一個体とみられるが直接は接合しない。	16は同一個体

V区44号住居

第130図	1	土師器 杯	埋土 口縁部～底部片	口 底	10.8 7.4	高 3.4		細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第130図 PL.394	2	土師器 杯	埋土 3/4	口 底	11.8 8.4	高 3.6		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第130図 PL.394	3	須恵器 杯	掘方直上と掘方埋土が接合 1/4	口 底	12.1 7.4	高 3.8		細砂粒/還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	

V区45号住居

第132図 PL.394	1	黒色土器 椀	床面から9cm上 口縁部一部欠	口 台	10.6 5.7	高 4.5		細砂粒/酸化焰/にぶい黄橙	内面黒色処理。ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。内面はヘラ磨き。	
第132図	2	須恵器 椀	掘方直上 1/3	底 台	8.3 8.8			細砂粒/還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第132図	3	土師器 甕	床面直上と8cm上 が接合 口縁部～胴部上位片	口	22.4			細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第132図	4	土師器 羽釜	カマド使用面直上と掘方埋土が接合 口縁部～胴部上位片	口 鏝	18.6 20.6			細砂粒/良好/にぶい黄橙	鏝は貼付。口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	

V区46号住居

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				底台	長	厚				
第133図	1	須恵器 椀	埋土 底部～体部片	底台	8.0 7.8			細砂粒/酸化焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第133図	2	須恵器 壺	埋土 底部～体部片	底台	11.6 10.8			細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り後高台を貼付。	
第133図	3	土師器 甕	埋土 口縁部～胴部上 位片	口	20.2			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第133図 PL.394	4	鉄製品 刀子	床面から7cm上 破片	長幅	7.6 1.1	厚重	0.7 5.92		細身の刀子破片。茎側でくの字形に折れ曲がり破損錆化する。	
第133図 PL.394	5	鉄製品 不詳	埋土 破片	長幅	4.0 0.6	厚重	0.7 2.26		断面やや丸みを持つ正方形で、両端とも破損・錆化する。木質等の痕跡は見られない。	
第133図 PL.394	6	鉄製品 刀子	埋土 破片	長幅	4.6 1.5	厚重	0.7 6.12		刀子破片、棟側に鬚を持ち間から2cm程で破損・錆化する、茎には木質等の痕跡は見られず端部は劣化破損する。	

V区47号住居

第135図	1	土師器 杯	床面から7cm上 1/4	口底	10.8 7.5	高	3.0	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	内面にススが 付着。
第135図 PL.394	2	鉄製品 不詳	床面から20cm上 ほぼ完形	長幅	3.4 0.8	厚重	0.6 1.51		断面四角の角棒状で一端に向かいやや細くなるが尖らない、全体に厚く錆に覆われ本体脆弱なため詳細は不明であるが両端とも破損・錆化の可能性あり。	
第135図 PL.394	3	鉄製品 不詳	床面から20cm上 一部欠損	長幅	6.5 1.5	厚重	1.2 17.24		断面四角の角棒状鉄製品。端部は角型で釘頭のような明瞭な形状は持たない、他の端部は劣化破損する。木質等の痕跡は見られない。	

V区48号住居

第136図	1	土師器 杯	埋土 1/3	口底	12.8 9.6	高	3.5	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、体部と底部はヘラ削り。	
第136図 PL.394	2	黒色土器 椀	掘方直上 台部のみ	底台	8.0 7.8			細砂粒/酸化焰/に ぶい黄褐	内面黒色処理。底部回転糸切り後高台を貼付。内面はヘラ磨き。	外面底部に 「大」の墨書。
第136図	3	須恵器 椀	床面直上 1/4	口底	15.2 6.0	高	4.8	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第136図 PL.394	4	須恵器 羽釜	床面直上と6cm と8cm上が接合 口縁部～胴部 1/4	口 鏝	22.6 24.6			細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/橙	ロクロ整形、回転方向不明。鏝は貼付、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第136図 PL.394	5	鉄製品 かこ	埋土 ほぼ完形	長幅	6.6 5.7	厚重	1.6 56.31		U字形の輪金とT字形の刺金を組み合わせたかこで、全体に厚く錆に覆われ内部は脆弱なため詳細は不明。	

V区49号住居

第138図 PL.394	1	須恵器 杯	カマド使用面直 上 完形	口底	12.9 6.0	高	3.9	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第138図 PL.394	2	須恵器 杯	埋土 3/4	口底	12.9 6.0	高	3.6	細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第138図 PL.394	3	緑釉陶器 椀	埋土 底部片	底台	6.0 5.8			微砂粒/還元焰/褐 灰	ロクロ整形、回転方向不明。高台は削りだし。底部外面と高台内面を除き施釉。	畿内10C.前 半。

V区52号住居

第139図 PL.394	1	土製品 土錘	床面直上 完形	長幅	4.2 1.8	孔重	0.5 10.6	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	外面はナデ。	
第139図 PL.394	2	鉄製品 鉄板	床面直上 一部欠損	長幅	6.9 5.4	厚重	1.2 28.06		長方形の鉄板で中央部に0.8cmの隅丸方形の穴を持つ。穴周辺部分の鉄板は片側に凹み、反対面にはイネ科植物の幹とみられる植物痕跡が付着するが、やや浮いた位置に見られ鉄板に付随するものかは不明。	

V区53号住居

第141図 PL.395	1	器台	床面から8cm上 1/2	口脚	8.8 9.5	高	8.1	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	受け部と脚部は接合か。外面はほぼ全面ヘラ磨き、内面は受け部がナデ、脚部はヘラナデ。	脚部に透孔が 3カ所。
第141図 PL.395	2	器台	床面直上 脚部一部欠	口脚	8.8 9.9	高	8.5	細砂粒/良好/灰黄	受け部と脚部は接合か。外面はほぼ全面ヘラ磨き、内面は受け部が横ナデ、脚部はヘラナデ。	
第141図 PL.395	3	土師器 鉢	床面から6cm上 口縁部一部欠	口底	10.8 5.2	高胴	7.4 9.7	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ、体部はハケ目、底部はヘラ削り。内面は口縁部がハケ目後横ナデ、体部はヘラナデ。	
第141図 PL.395	4	土師器 罎	床面直上と6cm 上が接合 1/4.底部欠	口胴	13.7 19.6			細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部と胴部の上位・中位はヘラ磨き、胴部下位はヘラ削り。内面は口縁部がヘラ磨き、胴部はヘラナデ。	
第141図 PL.395	5	土師器 壺	床面から8cm上 3/4	底頸	7.6 14.5	胴	20.9	細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい黄橙	頸部に凸帯貼付。胴部はヘラ削り後ヘラ磨き、底部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	
第142図 PL.396	6	土師器 壺	床面直上 胴部一部欠	口底	13.4 6.0	高胴	25.4 24.4	細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り後ヘラ磨き、底部はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。	
第142図 PL.395	7	土師器 壺	床面直上と7cm 上が接合 3/4.口縁部欠	底胴	8.7 34.7	頸	13.6	細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい橙	頸部に凸帯が貼付。口縁部下半は縦位のナデ、頸部凸帯に刺突文、胴部は器面磨滅のため不鮮明、底部はヘラ削り。	
第142図 PL.395	8	土師器 小型甕	床面直上と7cm と8cm上が接合 口縁部～胴部 1/2	口胴	11.8 11.8			細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部から胴部上半はハケ目(1cmあたり6本)、下半はナデ。内面は口縁部が横ナデ、胴部はヘラナデ。	
第142図 PL.395	9	土師器 小型甕	床面直上と6cm 上が接合 3/4	口底	13.1 5.4	高胴	14.5 15.0	細砂粒/良好/橙	器面磨滅のため整形不鮮明であるが、口縁部から胴部は部分的にハケ目が残る。底部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第142図	10	土師器 甕	埋土 底部～胴部下	底	5.0			細砂粒/良好/にぶ い橙	底部はヘラ削り、胴部はハケ目(1cmあたり7本)。内面はヘ ラナデ。
第142図	11	土師器 甕	埋土 底部～胴部	胴	21.4			細砂粒/良好/にぶ い黄橙	底部から胴部はヘラ削り、一部にハケ目が残る。内面はハ ケ目後ナデ。
第142図	12	土師器 台付甕	埋土 口縁部～胴部上 位片	口	19.6			細砂粒/良好/浅黄 橙	口縁部は横ナデ、胴部はハケ目(1cmあたり7～8本)。内面 胴部はナデ。
第142図	13	土師器 台付甕	床面から19cm上 口縁部片	口	19.8			細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ、胴部はハケ目(1cmあたり7本)。内面胴部 はヘラナデと一部ナデ。
第143図 PL.396	14	土師器 甕	床面直上と5cm と8cmと9cm上が 接合 3/4	口 底	14.4 6.0	高 胴	29.5 24.5	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り後ヘラナデ・ヘラ磨き、 底部はヘラ削り。内面は口縁部がハケ目後横ナデ、胴部は ヘラナデ。

V区56号住居

第144図	1	土師器 杯	貯蔵穴底から6 cm上 1/2	口 底	13.2 7.8	高	4.6	細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第144図 PL.396	2	須恵器 杯	貯蔵穴底から 20cm上で床面の 高さと同じ 1/2	口 底	11.8 6.4	高	3.5	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第144図 PL.396	3	須恵器 椀	床面から21cm上 と貯蔵穴底から 9cm上が接合 口縁部一部欠	口 底	12.2 6.2	高	4.5	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第144図 PL.396	4	須恵器 椀	床面から8cm上 1/2	口 底	13.8 7.0	台 高	6.0 5.1	細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第145図	5	須恵器 椀	埋土 1/2	口 底	13.2 6.4	高	3.4	細砂粒/酸化焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。器面 磨滅。	
第145図	6	須恵器 椀	貯蔵穴底から13 cm上 1/3	口 底	13.8 7.2	台 高	6.8 5.5	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第145図 PL.396	7	須恵器 椀	床面直上 1/2	口 底	14.1 6.0	台 高	5.9 4.8	細砂粒/還元焰・ 燻/黄灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第145図	8	土師器 甕	床面直上と8cm 上が接合 口縁部～胴部下 位1/3	口 胴	17.6 19.4			細砂粒/良好/明褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部が ヘラナデ、上位は木口が残る。	胴部下位に焼 成前の穿孔あり。
第145図 PL.396	9	鉄製品 紡錘車	床面直上 破片	長 幅	5.0 0.4	厚 重	0.4 1.77		紡錘車の紡軸端部破片。断面はほぼ円形で端部は鈎状に曲 がる。他の破片とは直接接合しないが同一個体と考えられる。	9は同一個体
第145図 PL.396	9	鉄製品 紡錘車	床面直上 破片	長 幅	4.8 0.5	厚 重	0.5 2.44		紡錘車の紡軸破片。断面はほぼ円形で両端とも劣化破損す る。他の破片とは直接接合しないが同一個体と考えられる。	9は同一個体
第145図 PL.396	9	鉄製品 紡錘車	床面直上 一部欠損	長 幅	16.1 4.8	厚 重	4.6 71.82		蛇紋岩製の紡輪と両端が劣化破損する紡軸が組み合わさる 紡錘車。紡輪の平坦面には六角形の一部とも見られる線刻 が刻まれる。	9は同一個体。 石製紡輪は蛇 紋岩。長4.8 幅4.6 厚1.7

V区58号住居

第148図 PL.397	1	土師器 高杯	床面直上 3/4	口 底	11.3 5.7	脚 高	16.4 11.2	細砂粒/良好/明赤 褐	杯身部と脚部は接合。杯身部・脚部ともヘラ磨き、脚部は 器面剥落のため不鮮明。内面は杯身部がヘラ磨き、脚部は ヘラナデ。	脚部に上下一 対の透孔が3 カ所。
第148図	2	土師器 高杯	床面から5cm上 杯部3/4	口	11.6			細砂粒/良好/にぶ い褐	杯身部と脚部は接合。杯身部は内外面ともヘラ磨き。	
第148図	3	土師器 高杯	床面から5cm上 杯部底部	底	6.0			細砂粒/良好/橙	杯身部と脚部は接合。杯身部・脚部ともヘラ磨き。内面は 杯身部がヘラ磨き、脚部はヘラナデ。	脚部に透孔あり。
第148図	4	土師器 小型壺	床面から10cm上 口縁部欠	底 底	3.6 10.6			細砂粒/良好/褐	内外面とも器面磨滅のため整形は不鮮明、胴部は外面がヘ ラ削り、内面がヘラナデか。	
第148図	5	土師器 甕	床面直上 胴上位1/2	頸 胴	11.0 19.4			細砂粒・粗砂粒/ 良好/明赤褐	口縁部は横ナデ、胴部はハケ目(1cmあたり4～5本)、中位 は器面磨滅のため不明。内面はハケ目。	
第148図 PL.397	6	土師器 甕	床面直上 口縁部～胴部下 位1/3	口 胴	24.8 30.4			細砂粒/良好/橙	口唇部は横ナデ、口縁部から胴部はヘラ削り、内面は口縁 部から胴部にかけてヘラ磨き、内外面ともい器面磨滅部分 があり、整形が不鮮明なカ所あり。	
第148図	7	須恵器 羽釜	床面直上 口縁部片	口 鏝	19.5 22.2			細砂粒/酸化焰/に ぶい赤褐	ロクロ整形、回転方向不明。鏝は貼付、胴部はヘラ削り。 内面はヘラナデ。	

V区59号住居

第150図 PL.397	1	黒色土器 椀	床面直上 完形	口 底	14.7 7.0	台 高	6.9 6.3	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 橙	内面黒色処理。ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り 後高台を貼付。内面はヘラ磨き。	
第150図 PL.397	2	須恵器 椀	貯蔵穴底から16 cm上で床面の高 さ 完形	口 底	11.9 6.4	台 高	6.0 4.9	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第150図 PL.397	3	須恵器 椀	床面直上 台部欠	口 底	15.6 8.8			細砂粒・粗砂粒・ 長石粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ナデ、高台は貼付。 高台は打ち欠 きによる二次 調整か。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第150図 PL.397	4	須恵器 椀	床面直上 3/4	口底 7.6	台高 8.7	8.7 5.6	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/褐	ロクロ整形、回転右回りか。底部切り離し技法不明、高台は貼付、体部上位に回転へら削り。	
第150図 PL.397	5	須恵器 椀	床面直上 3/4	口底 6.3	台高 13.4	8.6 7.2	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第150図 PL.397	6	須恵器 椀	床面直上 3/4	口底 6.2	台高 11.2	6.0 4.7	細砂粒/還元焰/に ぶい黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第150図	7	須恵器 椀	床面直上 1/3	口底 7.4	台高 13.8	6.6 5.8	細砂粒・粗砂粒・ 片岩/酸化焰/にぶ い黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第150図	8	須恵器 椀	床面直上 1/3	口底 6.0	台高 11.6	6.2 5.1	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転ナデ、高台は貼付。	
第150図	9	須恵器 椀	カマド使用面直 上と6cm上が接 合 1/3	口底 6.0	台高 12.2	5.4 5.0	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/灰黄	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転ナデ、高台は貼付。	
第151図 PL.397	10	灰釉陶器 皿	埋土 1/4	口底 7.4	台高 12.8	7.0 2.8	微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転ナデ、高台は貼付。施釉方法は漬け掛け。	大原2号窯式 期。
第151図	11	須恵器 羽釜	カマド使用面直 上と6cm上が接 合 1/4	口 鏝 25.2	21.2		細砂粒/酸化焰/に ぶい黄褐	ロクロ整形、回転方向不明。鏝は貼付、胴部はへら削り。内面胴部はへらナデ。	
第151図 PL.397	12	鉄製品 刀子	埋土 一部欠損	長 幅 2.3	10.0	厚 重 0.7 9.73		棟側に関を持つ刀子破片。刃は研ぎ減りのためか茎より細く関から2.5cm程で破損する。茎部は長く完形で木質等の付着は見られない。	
第151図 PL.397	13	鉄製品 不詳	床面直上 一部欠損	長 幅 1.1	20.6	厚 重 1.0 22.63		断面丸から丸みを持つ四形の棒状で、中央部が太く両端に向かって細くなる。表面に糸・植物痕跡等は見られないが、紡錘車の棒軸の可能性はある。	

V区63号住居

第154図	1	須恵器 椀	カマド使用面直 上 1/3	口底 6.3	台高 11.4	7.7 5.6	細砂粒/酸化焰/に ぶい褐	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第154図	2	須恵器 椀	カマド使用面直 上と21cm上が接 合 1/3	口底 7.1	13.8		細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部はナデ、高台は貼付。	
第154図	3	須恵器 瓶	埋土 胴部小片				細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形。	内面に赤色塗 彩？
第154図	4	須恵器 羽釜	カマド使用面直 上と6cmと7cmと 12cm上が接合 口縁部～胴部中 位1/3	口 鏝 25.7	20.6		細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい橙	ロクロ整形、回転右回りか。鏝は貼付、胴部下半にへらナデ。	
第154図	5	須恵器 羽釜	カマド使用面直 上と61号住居カ マド使用面から 11cm上の埋土中 遺物が接合 口縁部1/3	口 鏝 26.0	21.4		細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい褐	ロクロ整形、回転右回り。鏝は貼付、胴部は中位以下にへら削り。	

V区61号住居

第155図 PL.396	1	須恵器 椀	床面から13cm上 完形	口底 5.4	高 13.0	4.2	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第155図	2	黒色土器 椀	床面直上と7cm と15cm上が接合 1/3	口底 3.5	12.5	台高 5.4 5.5	細砂粒/酸化焰/明 赤褐	内面黒色処理。ロクロ整形、回転右回りか。高台は貼付。	
第155図 PL.396	3	須恵器 羽釜	床面直上 口縁部～胴部下 位1/3	口 鏝 24.3	21.5		細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。鏝は貼付、胴部は中位以下にへら削り。内面は胴部上位にへらナデ。	
第155図 PL.396	4	土製品 土錘	床面直上 完形	長 幅 2.3	5.5	孔 重 0.4 20.8	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	外面はナデ。	
第155図 PL.396	5	鉄製品 刀子	床面直上 破片	長 幅 1.4	7.7	厚 重 0.7 8.44		両端とも劣化破損する刀子破片。棟・刃側ともに緩やかな関を持つ、表面に木質等の痕跡は見られない。	
第155図 PL.396	6	鉄製品 紡錘車	カマド使用面直 上 破片	長 幅 4.9	6.3	厚 重 5.1 29.72		紡錘車の破片。棒軸はほぼ完形で棒軸とは斜めに接続するが、埋蔵中の錆化変形とみられる。	
第155図 PL.396	7	鉄製品 不詳	埋土 一部欠損	長 幅 3.3	18.3	厚 重 0.6 12.72		断面は丸から丸みを持つ四形の棒状で、中央部が太く両端に向かって細くなる。弓状に浅く曲がり両端ともわずかに劣化破損する。表面に糸・植物痕跡等は見られないが、紡錘車の棒軸の可能性はある。	
第155図 PL.396	8	石製品 紡輪	床面から15cm上 2/3	長 幅 -	(3.9)	厚 重 1.3 24.9	砥沢石	全面が良く研磨されている。径約8mmの孔を両側穿孔する。逆台形状	

V区73号住居

第156図	1	須恵器 椀	床面から10cm上 1/2	口底 6.6	台高 13.8	6.3 5.2	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/黄灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
-------	---	----------	------------------	-----------	------------	------------	--------------------	----------------------------	--

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第156図	2	須恵器 羽釜	カマド使用面から9cm上 1/3	口 鏝	18.8 23.6			細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/明褐	ロクロ整形、回転右回り。鏝は貼付、胴部はナデか。	
第156図 PL.397	3	鉄製品 刀子	掘方から9cm上 ほぼ完形	長 幅	18.2 1.9	厚 重	0.9 17.05		細身の刀子で棟側には明瞭な関を持つ。刃側には関は見られないが刃部が弧状に曲がることと茎に対して細いことから研ぎ減りによる結果とも考えられる。	

V区70号住居

第159図	1	須恵器 椀	床面直上 1/2	口 底	12.2 6.4	高	4.3	細砂粒/酸化焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回りか。底部はナデにより切り離し技法不明。	
第159図 PL.398	2	須恵器 椀	埋土 1/3	口 底	12.8 4.6	高	5.0	細砂粒/酸化焰/橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整、体部下半はナデ。	
第159図 PL.398	3	須恵器 椀	埋土 3/4	口 底	13.8 5.6	高	4.4	細砂粒/酸化焰/浅 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整、体部下位はナデ。	外面底部に墨書。
第159図 PL.398	4	須恵器 椀	埋土 1/4	口 底	12.8 5.5	高	4.2	細砂粒/酸化焰/浅 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	外面体部と底部に墨書。
第159図 PL.398	5	須恵器 椀	埋土 口縁部片	口	12.2			細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回りか。	外面体部に墨書。
第159図 PL.398	6	灰釉陶器 椀	床面直上と13cm 上が接合 1/3	口 底	16.3 7.2	台 高	7.0 5.8	微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ナデ、高台は貼付。施釉方法は漬け掛け。	大原2号窯式期。
第159図	7	土師器 小型甕	掘方埋土 1/3	口 胴	11.6 14.2			細砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第159図 PL.398	8	鉄製品 鎌	掘方埋土 破片	長 幅	6.2 4.4	厚 重	2.1 30.90		鎌破片とみられる鉄製品で、柄装着部は端部を大きく折り曲げる、刃は柄装着部から5cm程で直角に破損劣化する。木質等の痕跡は見られない。	
第159図 PL.398	9	鉄製品 刀子	床面直上 破片	長 幅	9.5 3.9	厚 重	1.5 28.02		刀子の刃から茎の破片。棟側にはなだらかな関を持ち刃はすぐに大きく折れ曲がり破損錆化する。茎は全体を柄材とみられる針葉樹材に覆われる。	
第159図 PL.398	10	鉄製品 鏃	埋土 ほぼ完形	長 幅	5.7 2.5	厚 重	0.6 10.55		鑿形の鉄鏃で先端角は劣化破損、茎は断面長方形で短く木質等の痕跡は見られない。	
第159図 PL.398	11	鉄製品 紡錘車	床面から5cm上 一部欠損	長 幅	14.1 5.1	厚 重	5.0 25.17		ほぼ円形の棒軸と断面やや角ばった円形の棒軸からなる紡錘車で棒軸の一方は棒輪近くで劣化破損する。繊維等の痕跡は見られない。	
第159図 PL.398	12	鉄製品 不詳	埋土 ほぼ完形	長 幅	6.3 1.1	厚 重	0.9 6.60		断面長方形で一端は角型他の端部に向かい細くなるが鋭利には尖らない。木質等の痕跡は見られない。	
第159図 PL.398	13	鉄製品 不詳	埋土 破片	長 幅	5.7 1.1	厚 重	0.6 6.05		棒状の鉄製品破片で。一端は断面長方形の板状で破損錆化、他の端部に向かい細くなり断面も正方形に近くなる。木質等の痕跡は見られない。	
第159図 PL.398	14	鉄製品 不詳	床面から10cm上 ほぼ完形	長 幅	11.7 2.0	厚 重	1.1 34.70		断面長方形で細い板状鉄製品。一端はやや丸みのある角形で他の端部は細くなるが尖らない。1/3ほどの位置で浅くくの字に折れ曲がる。	

V区64号住居

第160図 PL.398	1	土師器 杯	床面直上 完形	口 高	12.2 3.4			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部と底部は手持ちヘラ削り。	
第160図	2	須恵器 杯	床面直上 1/4	口 底	13.0 8.0	高	3.8	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切無調整。	
第160図 PL.398	3	須恵器 杯	床面直上と9cm 上が接合 3/4	口 底	12.0 8.1	高	3.6	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り、やや磨滅している。	
第160図	4	須恵器 高杯	床面から14cm上 脚部					細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。杯身部と脚部は接合。脚部中に2条の凹線が巡る。	
第160図 PL.398	5	石製品 砥石	床面から5cm上 完形	長 幅	9.8 4.3	厚 重	3.8 200.0	砥沢石	砥面は4面認められる。正面及び裏面は研ぎ減りにより内湾した形態である。左側面全体には刃ならし傷が認められる。上面は研面ではないが、刃ならし傷と想定される線条痕が認められる。	

V区65号住居

第162図 PL.398	1	須恵器 杯	床面直上 3/4	口 底	10.4 4.0	高	3.3	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切無調整。	
第162図	2	土師器 甕	床面から10cm上 口縁部～胴部片	口 胴	23.8 25.6			細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい褐	外面胴部に輪積痕が残る。口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第162図	3	須恵器 羽釜	カマド使用面直 上 口縁部～胴部 1/4	口 鏝	22.9 26.6			細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 橙	ロクロ整形、回転方向不明。鏝は貼付、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	

V区66号住居

第162図	4	土師器 杯	床面直上 1/4	口	12.0			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部と底部はヘラ削り。	
第162図	5	須恵器 短頸壺蓋	掘方直上 口縁部端部欠	摘	3.4			細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。摘みは貼付、天井部は回転ヘラ削り。	

V区67号住居

第166図 PL.398	1	須恵器 杯	カマド使用面から7cm上 1/4	口 底	13.8 8.2	高	4.2	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後周縁部を回転ヘラ削り。	
-----------------	---	----------	---------------------	--------	-------------	---	-----	-----------	----------------------------------	--

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第166図	2	土師器 甕	カマド使用面直上 口縁部～胴部 1/4	口 胴	19.0 20.0			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部が ヘラナデ。	
第166図	3	灰釉陶器 瓶	埋土 胴部片	胴	27.8			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形。胴部下半は回転ヘラ削り。施釉方法不明。	大原2号窯式 期～虎溪山1 号窯式期。
第166図 PL.398	4	鉄製品 不詳	埋土 破片	長 幅	4.8 0.8	厚 重	0.7 2.83		断面長方形の板状で端部に向かいやや細くなり端部は円形 に終わるが表面に木質等の痕跡は確認できない。他端は劣 化破損で刀子茎の破片の可能性あり。	
V区69号住居										
第166図 PL.398	5	須恵器 椀	床面から9cm上 3/4	口 底	15.9 7.2	台 高	7.4 6.7	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部はナデ、高台は貼付。	
第166図 PL.398	6	鉄製品 小刀	床面から12cm上 破片	長 幅	12.8 2.4	厚 重	1.3 47.64		断面狭三角形で小刀の破片とみられる。棟側に関を持つが 茎との境で破損錆化する。	
V区68号住居										
第167図 PL.398	1	土師器 杯	床面から16cm上 3/4	口 高	14.2 4.6			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半がヘラ削り、底 部は手持ちヘラ削り。	
V区71号住居										
第169図 PL.398	1	灰釉陶器 瓶	埋土 把手片					微砂粒/還元焰/灰 黄	手付瓶の把手部分。施釉方法不明。	
第169図 PL.398	2	土製品 土錘	埋土 完形	長 幅	4.2 1.2	孔 重	0.4 5.2	微砂粒/良好/浅黄 橙	外面はナデ。	
V区72号住居										
第171図	1	土師器 杯	床面から24cm上 1/4	口 底	12.0 10.8			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第171図 PL.398	2	須恵器 杯	床面直上 3/4	口 底	11.8 6.7	高	3.9	細砂粒・粗砂粒・ 長石粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第171図	3	須恵器 椀	床面から29cm上 1/4	底 台	6.4 6.8			細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第171図	4	土師器 小型甕	床面直上 口縁部～胴部 1/3	口 胴	13.6 15.6			細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部が ヘラナデ。	
第171図 PL.398	5	石製品 砥石	床面から31cm上 2/3	長 幅	(8.5) 4.2	厚 重	2.7 139.1	砥沢石	砥面は4面認められる。正面は下方にむかいやや研ぎ減り している。右側面及び裏面はやや外湾した形態である。下 部欠損。	
V区74号住居										
第174図	1	黒色土器 椀	カマド使用面から 18cm上 1/3	口 底	13.5 5.6	台 高	7.1 5.8	細砂粒/酸化焰/灰 黄	内面黒色処理。ロクロ整形、回転右回り。底部はナデ、高 台は貼付。内面は底部から口縁部までヘラ磨き。	
第174図 PL.399	2	黒色土器 椀	貯蔵穴から26cm 上で床面の高さ 口縁部。台部一 部欠	口 底	12.4 5.4	台 高	6.9 5.8	細砂粒/酸化焰/淡 黄	内面黒色処理。ロクロ整形、回転右回り。底部はナデ、高 台は貼付。内面は底部から口縁部までヘラ磨き。	
第174図 PL.399	3	須恵器 椀	床面直上 3/4	口 底	13.8 7.8	台 高	8.8 5.4	細砂粒/酸化焰・ 燻/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部切り離し技法は不明、高台 は貼付。	
第174図 PL.399	4	須恵器 杯	貯蔵穴底から22 cm上 完形	口 底	10.3 5.9	高	3.1	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第174図 PL.399	5	須恵器 羽釜	カマド使用面直上 と7cm上が接 合 口縁部～胴部下 位3/4	口 鏝	18.4 22.0			細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 橙	ロクロ整形、回転方向不明。鏝は貼付、胴部はヘラ削り。 内面はヘラナデ。	外面の一部に ススが付着。
第174図 PL.399	6	鉄製品 不詳	床面から6cm下 破片	長 幅	5.3 1.0	厚 重	0.7 4.07		断面四角で端部は劣化破損、他の端部はやや細くなり丸く 終わる。木質等の痕跡は見られない。	
V区76号住居										
第174図	7	須恵器 杯	カマド掘方埋土 1/4	口 底	10.9 6.2	高	3.7	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第174図	8	土師器 甕	カマド使用面から 5cmと8cm上が接 合 口縁部～胴部片	口 胴	22.8 24.0			細砂粒/良好/灰黄 褐	外面頸部に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部 はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第174図 PL.399	9	土師器 甕	カマド使用面直上 とカマド掘方 埋土が接合 口縁部～胴部 3/4	口 胴	20.6 22.1			細砂粒/良好/橙	外面頸部に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部 はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第174図 PL.399	10	石製品 砥石	床面から13cm上 完形	長 幅	(9.7) (4.7)	厚 重	2.8 127.7	砥沢石	砥面は4面認められる。正面及び裏面は研ぎ減りにより内 湾した形態である。上部は欠損するが上方右隅に径約3mm の孔が認められることから、欠損後に穿孔し継続利用した ものと考えられる。	

Ⅵ区1号住居

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	底	高			
第177図	1	灰釉陶器 椀	床面から8cm上 口縁部片	口	13.8		微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。施釉方法は刷毛塗りか。	光ヶ丘1号窯 式期。
第177図	2	灰釉陶器 椀	埋土 口縁部中位～高 台部1/3	底 台	7.1 7.0		夾雑物無/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部はナデ、高台は貼付。施釉 方法は漬け掛けか。	大原2号窯式 期。
第177図	3	須恵器 羽釜	堀方から6cm上 口縁部～胴部上 位片	口 罅	20.7 25.2		細砂粒・褐色粒/ 酸化焰/橙	ロクロ整形、回転方向不明。罅は貼付。	
第177図	4	須恵器 羽釜	カマド使用面か ら7cm上と床面 から17cm上が接 合 口縁部片	口 罅	21.6 26.5		細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 橙	ロクロ整形、回転方向不明。罅は貼付。内面胴部はヘラナデ。	
第177図 PL.399	5	土製品 土錘	カマド堀方埋土 完形	長 幅	3.6 1.3	孔 重	0.4 5.3 微砂粒/良好/浅黄 橙	外面はナデ。	

Ⅵ区10号住居

第178図	1	土師器 小型甕	カマド使用面直 上 口縁部片	口	11.8		細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部が ヘラナデ。	台付甕か。
第178図 PL.399	2	土師器 甕	カマド使用面直 上 口縁～底部1/2	口 底	22.5 5.8	高 胴	30.1 20.8 細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部と底部はヘラ削り。内面は 底部から胴部がヘラナデ。	
第178図	3	土師器 甕	カマド使用面か ら11cmと15cm上 が接合 口縁部片	口	17.8		細砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部が ヘラナデ。	
第178図	4	土師器 甕	床面から4cm上 口縁部片	口	20.8		細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部が ヘラナデ。	
第178図	5	土師器 甕	カマド使用面直 上 胴部～底部片	底 胴	6.4 23.4		細砂粒/良好/明赤 褐	底部と胴部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	

Ⅵ区2号住居

第180図	1	須恵器 蓋	埋土 口縁部片	口	15.0		細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。天井部中央部は回転へら削り。	
第180図	2	須恵器 椀	埋土 口縁部片	口	16.6		細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。	
第180図	3	須恵器 椀(コップ 形)	埋土 口縁部片	口	11.8		細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。	
第180図 PL.399	4	土師器 甕	床面直上とカマ ド使用面直上が 接合 口縁～胴部1/2	口 胴	18.7 20.0		細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部が ヘラナデ。	
第180図 PL.399	5	鉄製品 鉄鏃	床面から18cm上 一部欠損	長 幅	11.3 3.4	厚 重	1.1 28.10	幅広で先端は丸みを持つ、腸割りは両端とも欠く。茎は細 く長いが厚く錆に覆われ矢柄等の痕跡は確認できない。	
第180図 PL.399	6	鉄製品 不詳	床面から17cm上 破片	長 幅	6.7 1.4	厚 重	1.5 17.82	両端とも劣化破損する角棒状鉄製品。一端は断面ほぼ正 方形で、一方は薄く長方形となる、表面は厚く錆に覆われ木 質等の痕跡は確認できない。	

Ⅵ区4号住居

第182図	1	須恵器 蓋	カマド使用面か ら10cm上 口縁部片	口	17.4		細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。天井部中央部は回転へら削り。 内面にカエリを有す。	
第182図 PL.399	2	土師器 甕	床面直上とカマ ド使用面直上が 接合 口縁～底部1/2	口 底	22.4 5.6	高 胴	32.5 20.0 細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、胴部と底部はヘラ削り。内面は底部から 胴部がヘラナデ。	
第182図 PL.399	3	土師器 甕	床面から22cm上 口縁～胴部1/3	口	18.2		細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部が ヘラナデ。	

Ⅵ区5号住居

第183図	1	須恵器 杯	カマド堀方埋土 口縁部片	口	11.2		細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。	
第183図	2	須恵器 羽釜	床面直上 口縁部～胴部上 位片	口 罅	20.0 24.0		細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転方向不明。罅は貼付。	

Ⅵ区6号住居

第186図 PL.400	1	土師器 杯	床面直上 2/3	口 底	12.4 6.7	高	4.8 細砂粒・粗砂粒/ 良好/暗赤褐	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半がヘラ削り、底 部は手持ちヘラ削り。	内面に付着物 あり。
第186図	2	須恵器 椀	土坑1の底から 6cm上 1/3	口 底	12.3 6.3	台 高	5.7 4.0 細砂粒/酸化焰/に ぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第186図	3	須恵器 椀	床面から21cm上 口縁～底部1/3	口 底	14.8 7.4	台 高	7.0 5.3 細砂粒・粗砂粒・ 長石粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	

挿図 PL.No.	No.	種 器 種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考	
第186図	4	須恵器 椀	埋土 口縁部片	口	13.6		細砂粒/酸化焰/黒 褐	内外面とも黒色処理。ロクロ整形、回転右回りか。		
第186図	5	須恵器 椀	カマド使用面から 7cm上 底部～体部1/2	底 台	6.4 6.0		細砂粒/酸化焰/に ぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。		
第186図 PL.400	6	灰釉陶器 皿	床面から29cm上 口縁～底部1/2	口 底	12.2 6.2	台 高	6.2 3.0	微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部はナデ、高台は貼付。施釉 方法は漬け掛け。	大原2号窯式 期。
第186図	7	灰釉陶器 椀	床面から22cm上 口縁部片	口	15.8		微砂粒/還元焰/灰 オリーブ	ロクロ整形、回転右回り。施釉方法は漬け掛けか。	大原2号窯式 期。	
第186図	8	須恵器 甕	カマド使用面直 上 口縁～胴部下位 1/4	底	15.6		細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい橙	ロクロ整形、回転右回りか。底部は手持ちへら削り、胴部 下位は回転へら削り。内面底部はナデ。		
第186図 PL.400	9	須恵器 羽釜	床面直上 口縁～胴部1/3	口 鏝	19.0 22.0		細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。鏝は貼付。		
第186図 PL.400	10	須恵器 羽釜	土坑1の底と5cm と9cmと14cm上 が接合 口縁～胴部1/3	口 鏝	19.6 24.0	胴	23.6	細砂粒/酸化焰/に ぶい橙	ロクロ整形、回転右回りか。鏝は貼付、胴部上半はナデ、 下半はへら削り。	
第186図 PL.400	11	須恵器 羽釜	土坑1の底と6cm と7cmとカマド 堀方直上が接合 口縁～胴部1/2	口 鏝	19.6 24.4	胴	24.0	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/黄灰	ロクロ整形、回転右回りか。鏝は貼付、胴部上半はナデ、 下半はへら削り。	
第186図 PL.400	12	土製品 土錘	埋土 完形	長 幅	4.2 1.2	孔 重	0.3 6.7	微細粒/良好/にぶ い褐	外面はナデ。	
第186図 PL.400	13	鉄製品 鏃	カマド使用面から 16cm上 ほぼ完形	長 幅	6.5 3.8	厚 重	1.0 14.71		撥形の鉄鏃で両端は横に広がり尖る。茎との境を回る形の 段を持つ。茎は断面正方形で短く木質等の痕跡は確認でき ない。	
第186図 PL.400	14	鉄製品 刀子	床面直上 破片	長 幅	4.0 1.6	厚 重	0.9 4.85		刃の大部分を劣化破損により欠く刀子。棟側には明瞭な関 を持ち茎全体を覆う形で広葉樹散孔材の木質痕跡が残る。	
第186図 PL.400	15	鉄製品 刀子	床面直上 ほぼ完形	長 幅	25.8 2.0	厚 重	0.9 35.83		細く長い刀子で棟側に明瞭な関を持つ、刃側には見られな いが、刃は細くゆるくカーブを持ち研ぎ減りの可能性がある 。茎には木質の痕跡は確認できない。	
第186図 PL.400	16	鉄製品 不詳	床面から17cm上 一部欠損	長 幅	3.3 2.4	厚 重	0.8 3.85		しの字形に曲がる断面ほぼ正方形の鉄製品。一端は尖り反 対側は細くなりながらわずかに曲がり破損する。	

VI区7号住居

第189図	1	土師器 杯	床面から20cm上 口縁～底部1/2	口 高	11.8 3.4			細砂粒/良好/明褐	口縁部は横ナデ、体部と底部は手持ちへら削り。	
第189図 PL.400	2	須恵器 蓋	床面から5cm上 と掘方埋土が接 合 口縁部一部欠	口 摘	15.7 3.3	高	2.8	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。摘みは貼付、天井部中央部は回 転へら削り。	
第189図 PL.400	3	土師器 甕	床面直上と5cm と6cm上が接合 口縁～胴部片	口 胴	22.9 21.2			細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ、胴部はへら削り。内面は胴部がへらナデ。	
第189図	4	土師器 甕	床面直上 口縁部片	口	23.6			細砂粒/良好/暗赤 褐	口縁部は横ナデ、胴部はへら削り。内面は胴部がへらナデ。	

VI区8号住居

第189図 PL.400	5	土師器 杯	床面直上と7cm と10cm上が接合 底部1/2欠	口 稜	12.8 12.4	高	4.2	細砂粒/やや軟質/ 橙	口縁部は横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちへら削り。	
第189図 PL.400	6	鉄製品 釘	床面から29cm上 一部欠損	長 幅	4.3 1.1	厚 重	1.1 6.10		断面ほぼ正方形の角釘で、頭は薄く広げ大きく折り曲げる。 先端側は劣化破損する。	

VI区9号住居

第190図 PL.400	1	土師器 杯	掘方から12cm上 口縁～底部1/2	口 底	12.5 8.0	高	3.4	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちへら削り。	
第190図	2	須恵器 椀	カマド使用面から 14cm上 口縁部片	口	12.8			細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回りか。	
第190図 PL.400	3	須恵器 椀	埋土 底部1/3	底	5.5			細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	外面底部に墨 書、判読不能。
第190図 PL.400	4	須恵器 椀	埋土 底部片	底	5.5			細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	内面底部に 「日」?の墨 書。
第190図	5	須恵器 長頸壺	掘方から4cm上 口縁部片	口	11.2			細砂粒/還元焰/褐 灰	ロクロ整形、回転右回りか。	
第190図	6	土師器 甕	カマド使用面から 10cmと掘方から 15cm上が接合 口縁～肩部1/3	口	18.8			細砂粒/良好/明赤 褐	外面頸部に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部 はへら削り。内面は胴部がへらナデ。	
第190図 PL.400	7	土師器 甕	床面から7cm上 口縁～肩部片	口	20.5			細砂粒/良好/にぶ い褐	外面頸部に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部 はへら削り。内面は胴部がへらナデ。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第190図 PL.400	8	鉄製品 鎌	床面から14cm上 破片	長 幅	6.1 6.7	厚 重	1.6 40.78	柄装着部分をほぼ直角に折り曲げた鉄鎌。柄装着部端から8cm程で破損錆化しその先端側2.5cm程でヘヤピン状に折れ曲がる。		
VI区11号住居										
第191図	1	須恵器 椀	カマド堀方埋土 口縁部片	口	14.8			細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰黄褐	ロクロ整形、回転右回りか。	
第191図 PL.401	2	灰釉陶器 椀	カマド堀方直上 口縁～底部1/3	口 底	13.2 6.5	台 高	6.4 4.6	微砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ナデ、高台は貼付。施釉方法は漬け掛けか。	大原2号窯式 期。
第191図 PL.401	3	須恵器 把手付壺	カマド堀方から 20cm上 胴部片	胴	27.0			細砂粒/酸化焰/明 黄褐	ロクロ整形、回転方向不明。把手は貼付。	
第191図	4	土師器 甕	カマド堀方から 8cmと15cm上 口縁～肩部1/3	口	18.6			細砂粒/良好/赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
VI区14号住居										
第192図	1	須恵器 壺	埋土 破片	底 台	11.0 13.0			細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ナデ。	
VI区15号住居										
第193図 PL.401	1	須恵器 椀	床面直上 2/3	口 底	14.2 6.5	台 高	6.4 5.0	細砂粒/酸化焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第193図 PL.401	2	須恵器 椀	床面直上 3/4	口 底	14.1 5.3	台 高	5.3 5.6	細砂粒/酸化焰/に ぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第193図 PL.401	3	須恵器 椀	埋土 口縁～底部1/3	口 底	14.0 6.8	台 高	5.8 5.4	細砂粒/酸化焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第193図	4	須恵器 椀	床面から7cm上 底部片	底 台	6.5 5.4			細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第193図 PL.401	5	鉄製品 刀子	床面直上 破片	長 幅	7.2 1.6	厚 重	0.6 7.37		両端破損錆化する刀子とみられる鉄製品破片。木質等の痕跡は見られない。	
第193図 PL.401	6	鉄製品 不詳	埋土 ほぼ完形	長 幅	2.9 0.9	厚 重	0.6 3.60		断面長方形の角棒状で片側は細くなりやや尖る。反対側の端部は角形。	
第194図 PL.401	7	礫石器 敲石	床面直上 完形	長 幅	19.6 5.9	厚 重	4.4 914.0	輝緑岩	棒状の亜円礫を利用している。上下端部に敲打痕が集中しともに平坦面が形成されている。表面と裏面において、上方及び下方の二箇所敲打が集中する部分が認められる。	
VI区16号住居										
第196図 PL.401	1	土師器 杯	床面から9cm上 完形	口 底	11.6 7.7	高	3.3	細砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第196図	2	黒色土器 椀	床面から8cm上 と13溝埋土が接 合 口縁部～口縁部 下位片	口	14.4			細砂粒/酸化焰/オ リーブ黒	内外面とも黒色処理。ロクロ整形、回転方向不明。	
第196図 PL.401	3	鉄製品 釘	掘方から15cm上 破片	長 幅	5.0 1.3	厚 重	1.2 14.14		断面正から長方形の角釘とみられる鉄製品。頭部は角型で先端側は劣化破損する。木質等の痕跡は見られない。	
第196図 PL.401	4	鉄製品 不詳	埋土 破片	長 幅	5.8 0.9	厚 重	0.8 6.40		断面長方形の棒状鉄製品で一端は劣化破損。表面は硬い錆に覆われ詳細は不明。	
VI区17号住居										
第196図 PL.401	5	須恵器 椀	床面直上 2/3	口 底	11.4 6.5	台 高	6.9 5.5	細砂粒・粗砂粒・ 褐粒/酸化焰/にぶ い褐	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ナデ、高台は貼付。	
第196図	6	須恵器 椀	床面から9cm上 高台のみ	底 台	8.0 9.2			細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ナデ、高台は貼付。	
第196図 PL.401	7	土師器 甕	カマド使用面直上 口縁～胴部1/3	口 胴	23.0 24.6			細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
VI区18号住居										
第198図	1	土師器 高杯	床面から18cm上 脚部片					細砂粒/良好/橙	脚部は外面が縦位のヘラ磨き、内面はヘラナデ。脚部中に透孔を有す。	
第198図	2	土師器 甕	埋土 底部片	底	5.6			細砂粒/良好/にぶ い褐	底部は木葉痕が残る。胴部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	
第198図	3	土師器 甕	床面から9cm上 底部片	底	6.0			細砂粒/良好/灰褐	底部と胴部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	
第198図	4	瀬戸・美濃 陶器 碗	埋土 底部1/2	口 底	— —	高	—	白色鉱物微量含 む。/淡黄/	内面から高台脇胎釉。高台脇以下鉄化粧。	江戸時代。
VI区19号住居										
第201図	1	土師器 杯	埋土 口縁部片	口	10.8			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半がヘラ削り、底部は手持ちヘラ削り。	
第201図	2	須恵器 椀	床面から29cm上 口縁～底部片	口 底	15.9 12.0	台 高	11.6 3.9	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部の整形は不明、高台は貼付。	
第201図	3	土師器 甕	床面直上 口縁～胴部片	口	19.6			細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい褐	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	

VI区20号住居

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				底台	口底	台高	胴高			
第202図	4	須恵器 椀	床面直上とカマ ド使用面から 13cm上が接合 底部片	底台	7.0 6.4			細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第202図	5	灰釉陶器 椀	カマド使用面か ら14cm上 1/4	口底	13.2 6.0	台高	5.9 3.4	微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部はナデ、高台は貼付。施釉 方法は漬け掛け。	光ヶ丘1号窯 式期。
第202図 PL.401	6	灰釉陶器 椀	床面直上 3/4	口底	15.0 6.2	台高	6.0 5.0	微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部はナデ、高台は貼付。施釉 方法は漬け掛け。	大原2号窯式 期。
第202図 PL.401	7	灰釉陶器 輪花椀	床面直上 2/3	口底	16.8 7.5	台高	7.3 5.5	微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部はナデ、高台は貼付。施釉 方法は漬け掛け。口縁部の輪花については1カ所のみ残存。	大原2号窯式 期。
第202図 PL.401	8	須恵器 羽釜	床面直上 口縁～胴部1/3	口 鏝	19.0 24.0	胴	23.2	細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回りか。鏝は貼付。	

VI区21号住居

第203図	1	須恵器 椀	床面から16cm上 底部片	底	7.0			細砂粒/酸化焰/に ぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ナデ、高台は貼付。	
第203図	2	須恵器 甌	床面直上と5cm 上が接合 脚部	底	23.6			細砂粒/酸化焰/に ぶい橙	ロクロ整形、回転方向不明。胴部はへら削り。内面胴部は へらナデ。	
第203図	3	須恵器 甌	床面直上 脚部	底	22.8			細砂粒/酸化焰/に ぶい橙	ロクロ整形、回転方向不明。底部は横ナデ。内面胴部はへ らナデ。	

VI区22号住居

第205図 PL.401	1	須恵器 椀	床面直上 3/4	口底	13.0 7.1	台高	6.7 4.8	細砂粒/酸化焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第205図	2	須恵器 椀	床面から6cmと 9cm上が接合 底部～体部1/3	底台	67.3 6.6			細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/暗灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第205図 PL.401	3	土師器 甕	カマド使用面と 7～12cm上の遺 物群が接合 口縁～胴部1/2	口 胴	18.9 21.3			細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへら削り。内面は胴部が へらナデ。	
第205図 PL.401	4	土師器 甕	床面直上と5cm 上が接合 口縁～肩部1/2	口	19.3			細砂粒/良好/橙	外面口縁部に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴 部はへら削り。内面は胴部がへらナデ。	
第205図	5	土師器 甕	床面から14cm上 口縁部1/4	口	19.7			細砂粒/良好/橙	外面頸部に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部 はへら削り。内面は胴部がへらナデ。	

VI区24号住居

第208図	1	須恵器 杯	堀方埋土 底部片	底	5.4			細砂粒/酸化焰・ 燻/黒褐	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第208図 PL.401	2	灰釉陶器 耳杯	埋土 1/2	底	5.0			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。施釉 方法不明。	
第208図	3	灰釉陶器 椀	床面から7cm上 口縁～底部1/3	口底	16.2 9.0	台高	8.8 6.1	微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部はナデ、高台は貼付。施釉 方法は漬け掛け。	虎溪山1号窯 式期。
第208図	4	灰釉陶器 椀	床面から7cm上 底部1/3	底台	6.6 6.1			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部はナデ、高台は貼付。施釉 方法は刷毛塗りか。	光ヶ丘1号窯 式期か。
第208図	5	灰釉陶器 長頸壺	床面直上 頸部～体部1/4					細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転右回り。胴部中位に回転へら削り。	6と同一個体 か。
第208図	6	灰釉陶器 長頸壺	埋土 底部～体部1/3	底台	9.0 9.0			細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。 胴部下位に回転へら削り。自然釉か。	折戸10号窯式 期か。
第208図	7	須恵器 羽釜	床面から4cm下 口縁部片	口 鏝	21.8 26.4			細砂粒/還元焰/浅 黄	ロクロ整形、回転方向不明。鏝は貼付。	
第208図 PL.401	8	石製品 砥石	床面直上 1/2	長 幅	(8.0) 6.3	厚 重	(4.4) 251.2	砥沢石	砥面は4面認められる。正面は下方にむかい著しく研ぎ減 りする。下部欠損。	

VI区25号住居

第209図 PL.402	1	須恵器 杯	床面から20cm上 口縁部一部欠	口底	10.2 5.3	高	3.4	細砂粒・粗砂粒・ 褐粒/酸化焰/橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第209図	2	須恵器 杯	埋土 1/3	口底	10.6 5.9	高	2.7	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第209図 PL.402	3	須恵器 椀	床面直上 3/4	口底	11.5 6.1	台高	6.1 4.8	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第209図 PL.402	4	灰釉陶器 皿	床面直上 1/2	口底	12.8 7.4	台高	7.0 2.5	微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転へらナデ、高台は貼 付。施釉方法は漬け掛け。	虎溪山1号窯 式期。
第209図 PL.402	5	緑釉陶器 段皿	床面から32cmと 34cm上が接合 口縁部一部欠	口底	13.6 7.4	台高	7.0 2.5	細砂粒/還元焰/浅 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。 施釉は全面。	東海10C.前半 代か。
第209図 PL.402	6	緑釉陶器 段皿	床面から27cmと 36cmと38cm上が 接合 2/3	口底	14.8 7.4	台高	7.5 2.6	細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転へらナデ、高台は貼 付。施釉は高台内部は施釉されていない。	東海10C.前半 代か。
第209図	7	須恵器 盤	床面から20cmと 35cm上が接合 1/2	口底	20.0 13.6	台高	11.8 4.3	細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転へら削り、高台は貼付。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第210図 PL.402	8	須恵器 羽釜	床面直上と4cm 上が接合 口縁~胴部1/3	口 鏝	21.8 26.2		細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 橙	ロクロ整形、回転方向不明。鏝は貼付、胴部はヘラ削り。 内面はヘラナデ。	
第210図	9	須恵器 羽釜	床面から11cm上 口縁部片	口 鏝	19.8 28.5		細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転方向不明。鏝は貼付、胴部はヘラ削り。 内面はヘラナデ。	
VI区26号住居									
第212図 PL.402	1	土師器 鉢	床面から18cm上 口縁~底部1/3	口 底	13.6 5.2	高 6.8	細砂粒/良好/浅黄 橙	口縁部は横ナデ、体部はヘラ削り後最下部を残しヘラ磨き、 単位などは磨滅のため不鮮明。内面は底部から体部はヘラ ナデ。	
第212図	2	土師器 甕	床面から5cm上 口縁~胴部1/4	口	11.6		細砂粒/良好/暗褐	口縁部から胴部はハケ目。内面胴部はヘラナデ。	
VI区28号住居									
第214図 PL.402	1	須恵器 杯	掘方直上 3/4	口 底	8.4 5.3	高 1.6	細砂粒・粗砂粒・ 褐粒/酸化焰/にぶ い橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第214図 PL.402	2	須恵器 杯	床面から39cm上 1/2	口 底	9.2 4.8	高 1.9	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第214図	3	灰釉陶器 皿	床面直上 口縁部片	口 底	13.9 7.8	台 高 7.2 2.1	微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部切り離し技法は不明、高台 は貼付。施釉方法は漬け掛け。	虎溪山1号窯 式期。
第214図 PL.402	4	鉄製品 不詳	埋土 ほぼ完形	長 幅	3.9 1.5	厚 重 10.01		断面長方形で一端に向かい細く楔状に薄くなるが、やや弧 状に曲る。	
第214図 PL.402	5	石製品 砥石	床面から5cm上 1/2	長 幅	(7.8) 7.0	厚 重 4.5 213.0	砥沢石	砥面は2面認められる。正面は研ぎ減りによりやや内湾す る。左側面には刃ならし傷が認められる。上面は砥面では ないが細かな線条痕が認められる。右側面及び下部欠損。	
VI区29号住居									
第216図 PL.402	1	須恵器 皿	貯蔵穴底から 25cm上 3/4	口 底	13.1 6.9	台 高 6.6 3.4	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第216図	2	須恵器 皿	埋土 口縁~底部1/3	口 底	13.2 8.1	台 高 8.4 2.7	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第216図 PL.402	3	須恵器 皿	貯蔵穴底22cm と掘方直上と掘 方から4cmと5cm 上が接合 3/4	口 底	15.0 6.5		細砂粒・粗砂粒・ 片岩/還元焰/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付、 高台は剥落。	
第216図 PL.402	4	須恵器 杯	貯蔵穴底22cmと 24cm上が接合 3/4	口 底	12.5 6.2	高 3.8	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第216図 PL.402	5	須恵器 椀	貯蔵穴底から 28cm上の床面付 近 3/4	口 底	14.8 6.0	台 高 5.0 5.5	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい褐	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第216図	6	須恵器 椀	掘方埋土 口縁部片	口	13.8		細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい橙	ロクロ整形、回転右回りか。	
第216図 PL.402	7	灰釉陶器 皿?	埋土 底部片	底 台	7.2 6.6		微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ナデ、高台は貼付。 施釉は内面のみに刷毛塗り。	黒笹14号窯式 期。
第217図 PL.402	8	須恵器 把手付壺	床面直上と5cm と9cmと12cm上 と貯蔵穴底から 27cm上が接合 口縁~胴部片	口	16.7		細砂粒/還元焰/灰	胴部と頸部はロクロ整形、回転右回り。把手はナデ、胴部 に貼付。	
第217図 PL.402	9	土師器 台付甕	貯蔵穴底から 21cmと23cmと 25cm上が接合 口縁~脚部1/2	口 底	11.8 3.8	胴 14.1	細砂粒/良好/橙	胴部と脚部は接合。口唇部は横ナデ、口縁部から頸部はナ デ、胴部はヘラ削り、底部から脚部は横ナデ。内面は口縁 部が横ナデ、頸部はナデ、胴部はヘラナデ。	
第217図 PL.402	10	土師器 甕	床面直上と掘方 埋土が接合 口縁~底部3/4	口 底	19.3 3.0	高 胴 26.7 26.3	細砂粒/良好/橙	外面頸部と内面胴部に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横 ナデ、胴部と底部はヘラ削り。内面は底部から胴部がヘラ ナデ。	
第217図 PL.402	11	土師器 甕	貯蔵穴から19cm と21cm上が接合 口縁~肩部	口	19.7		細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部が ヘラナデ。	
VI区30号住居									
第220図	1	須恵器 椀	埋土 口縁~底部1/3	口 底	12.0 6.6		細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰白	ロクロ整形、回転方向不明。底部の整形も不明。	
第220図 PL.403	2	鉄製品 釘	埋土 破片	長 幅	3.7 0.8	厚 重 0.9 2.79		断面丸みを持つ棒状の鉄製品でわずかに曲がる。両端とも 劣化破損し詳細は不明。	
VI区31号住居									
第220図	3	須恵器 椀	床面直上 口縁~底部1/2	口 底	14.0 7.6	台 高 7.0 5.3	細砂粒・褐粒/酸 化焰/にぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第220図	4	須恵器 椀	床面から14cm上 底部~体部1/2	底 台	7.0 6.2		細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第220図 PL.403	5	鉄製品 不詳	床面から9cm上 破片	長 幅	5.6 1.2	厚 重 0.8 6.13		断面長方形から狭三角で端部は破損錆化他の端部は細くな るが尖らない。刀子等の茎とみられるが全体に錆に覆われ 本体脆弱なため詳細は不詳。	

VI区33号住居

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				底台	口	長	厚			
第220図	6	須恵器 椀	床面から20cm上 底部～体部片	口底 6.8 6.4				細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転方向不明。底部切り離し技法不明、高台は貼付。	
第220図	7	土師器 甕	堀方から15cm上 口縁部片	口	19.4			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、頸部はナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第220図 PL.403	8	石製品 砥石	床面から33cm上 4/5	長幅 (7.5) (5.3)		厚重 (1.9) 103.3		砥沢石	砥面は3面認められる。正面及び裏面はほぼ平坦である。左側面は研ぎ減りにより内湾する。上部及び下部の一部欠損。	

VI区32号住居

第222図	1	土師器 杯	埋土 1/3	口底	8.0 5.2	高	2.1	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部横ナデ、体部はヘラ削り、底部は器面磨滅のため不整形か。	平面形態は矩形か。
第222図 PL.403	2	黒色土器 椀	カマド使用面直上 2/3	口底	14.5 6.5	台高	6.7 5.7	細砂粒/酸化焰/橙	本来は内面黒色処理か。ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ナデ、高台は貼付。内面は全面にヘラ磨き。	
第222図 PL.403	3	須恵器 杯	床面から14cm上 完形	口底	9.7 4.8	高	2.1	細砂粒/酸化焰/淡 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	二次被熱を受けている。
第222図	4	灰釉陶器 椀	埋土 口縁部片	口	14.6			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。施釉方法は漬け掛けか。	丸石2号窯時期。
第222図 PL.403	5	石製品 石製品	埋土 完形	長幅	5.1 6.4	厚重	5.4 263.7	粗粒輝石安山岩	丁寧な研磨によって極円に整形している。	

VI区34号住居

第225図	1	土師器 杯	堀方から17cm上 口縁～底部1/2	口高	11.6 3.1			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第225図	2	土師器 鉢	床面から28cm上 口縁部片	口	22.8			細砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半がヘラ削り、底部は手持ちヘラ削り。	
第225図	3	須恵器 杯	床面から32cmと 33cm上が接合 口縁～底部1/3	口底	12.3 7.9	高	3.7	細砂粒/酸化焰/灰 褐	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。底部疑似高台状を呈す。	
第225図 PL.403	4	須恵器 杯	床面から22cm上 2/3	口底	11.7 7.0	高	3.9	細砂粒/還元焰/褐 灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第225図 PL.403	5	須恵器 杯	埋土 口縁部片	口底	12.2 8.0	高	3.2	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削りか。	
第225図	6	須恵器 杯	埋土 底部片	底	7.0			細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	
第225図	7	須恵器 椀	堀方から14cm 上 3/4	口底	13.0 5.3	高	4.9	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第225図	8	土師器 甕	床面から7cm下 口縁～胴部片	口	19.8			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第225図	9	土師器 甕	堀方埋土 口縁部片	口	17.0			細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第225図 PL.403	10	鉄製品 釘	埋土 一部欠損	長幅	5.2 0.8	厚重	0.8 6.14		断面ほぼ正方形の角釘。頭は薄く延ばし直角に曲げる、先端側は劣化破損する。	
第225図 PL.403	11	鉄製品 鎌	床面から20cm上 ほぼ完形	長幅	14.5 6.9	厚重	1.5 38.66		柄装着部を大きく曲げた鉄鎌。刃は柄装着部より3cm付近から細くなり先端は角ばった形となり研ぎ減りの可能性がある。木質等の痕跡は見られない。	
第225図 PL.403	12	鉄製品 不詳	埋土 一部欠損	長幅	3.6 2.2	厚重	1.4 11.18		幅2cm長さ6cmの楕円形の鉄製品で中央付近からU字形に折れ曲がる。両端に3～4mmほどの穴を持ち片方には長さ2cm程の釘が残り一方の穴は端部が破損する。	

VI区43号住居

第226図 PL.403	13	須恵器 椀	カマド使用面から 22cm上 口縁～底部2/3	口底	14.8 6.1	高	5.4	細砂粒/酸化焰/灰 褐	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第226図 PL.403	14	須恵器 椀	カマド使用面から 12cm上 口縁～底部1/3	口底	14.3 6.6	台高	7.8 6.6	細砂粒/酸化焰/橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第226図 PL.403	15	須恵器 椀	カマド使用面から 20cm上 口縁～底部1/3	口底	14.8 7.0	台高	8.0 6.8	細砂粒/酸化焰/橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ナデ、高台を貼付。	
第226図	16	須恵器 椀	床面から18cm上 口縁～底部1/4	口底	13.7 7.0			細砂粒/酸化焰/橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ナデ、高台を貼付が剥落。	
第226図	17	灰釉陶器 椀	埋土 口縁部片	口	16.2			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転方向不明。施釉方法は漬け掛け。	大原2号窯時期。
第226図	18	灰釉陶器 椀	床面から13cm上 底部1/4	底台	8.2 8.0			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転ナデ、高台は貼付。施釉方法は不明。	大原2号窯時期。
第226図 PL.403	19	鉄製品 不詳	堀方から9cm上 ほぼ完形	長幅	10.3 1.2	厚重	1.0 11.96		断面やや丸みを持つ正方形で、両端に向かい細くなり断面は丸みを持つ。一方端は折り返しループ状で他の端部は細くなるが端部は1.5mmほどの角形。木質等の痕跡は見られない。	

VI区37号住居

第228図 PL.403	1	須恵器 杯	堀方埋土 ほぼ完形	口底	9.4 4.6	高	3.2	細砂粒/酸化焰/浅 黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第228図	2	須恵器 椀	床面から4cm下 口縁～底部1/4	口底	13.0 6.4	高	3.6	細砂粒/酸化焰/浅 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第228図	3	須恵器 椀	堀方埋土 口縁～底部1/3	口底	14.2 6.0	高	3.6	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第228図	4	土師器 甗	堀方埋土 底部1/2	底	9.0			細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	底部と胴部はへら削り。内面はへらナデ。	
第228図 PL.403	5	鉄製品 刀子	埋土 破片	長幅	3.1 1.3	厚重	0.5 3.92		棟・刃側ともに明瞭な間を持つ刀子破片。両端とも破損錆化する。	
第228図 PL.403	6	鉄製品 不詳	埋土 破片	長幅	3.2 2.3	厚重	0.2 2.60		五角形をした薄い板状の鉄製品で一角は劣化破損し反対側の端部はやや曲がり破損後の錆化の可能性もある。	

VI区38号住居

第230図 PL.403	7	須恵器 椀	床面から9cm上 2/3	口底	15.2 7.5	高	4.0	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転左回り。底部は回転糸切り無調整。	
第230図	8	須恵器 椀	堀方埋土 口縁～底部1/3	口底	15.2 8.0	高	4.1	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整か。	
第230図 PL.403	9	土師器 甗	堀方埋土 口縁～胴部1/4	口	28.6			細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ、胴部はへら削り。内面は口縁部から胴部がへらナデ。	
第230図	10	須恵器 甗	カマド使用面から 8cm上 底部～胴部下位 片1/4	底	9.3			細砂粒/酸化焰/に ぶい褐	ロクロ整形、回転右回りか。底部と胴部はへら削り。	
第230図 PL.403	11	土製品 土錘	埋土 ほぼ完形	長幅	4.5 2.0	孔重	0.4 17.2	細砂粒/良好/黒褐	外面はナデ。	

VI区57号住居

第230図 PL.403	12	須恵器 椀	床面から16cm上 口縁～底部1/2	口底	11.2 5.3	台高	6.4 4.5	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/明黄褐	ロクロ整形、回転右回り。底部はナデ、高台は貼付。	
第230図 PL.403	13	土製品 土錘	堀方埋土 完形	長幅	5.6 2.2	孔重	0.3 20.1	微砂粒/良好/にぶ い褐	外面はナデ、両端部は平坦面をつくる。	

VI区39号住居

第232図 PL.404	1	黒色土器 椀	床面から6cm上 口縁～底部1/3	口底	14.0 7.4	高	5.6	細砂粒/酸化焰/暗 灰黄	内外面黒色処理。ロクロ整形、回転右回り。底部は回転へら削り。	
第232図	2	須恵器 杯	堀方から9cm上 底部1/2	底台	10.6 10.8			細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転へら削り。	
第232図 PL.404	3	須恵器 杯	床面直上 口縁～底部1/2	口底	11.8 6.0	高	4.1	細砂粒/酸化焰/に ぶい褐	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	外面体部と内面底部に墨書。
第232図 PL.404	4	須恵器 椀	床面直上 1/2	口底	13.8 7.4	台高	7.0 5.3	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後周囲をナデ、高台は貼付。	
第232図	5	須恵器 椀	カマド堀方から 21cm上 口縁～底部1/4	口底	11.0 5.0	高	3.9	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第232図	6	須恵器 椀	床面から5cm上 口縁部片	口	22.8			細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回りか。	
第232図	7	灰釉陶器 椀	床面から15cm上 口縁部片	口	16.0			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。施釉方法は漬け掛けか。	大原2号窯式期。
第233図	8	須恵器 羽釜	床面から29cm上 口縁部片	口鏝	19.8 23.5			細砂粒/酸化焰/に ぶい褐	ロクロ整形、回転右回りか。鏝は貼付。	
第233図	9	須恵器 羽釜	床面から32cm上 口縁部片	口鏝	19.8 23.0			細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰白	ロクロ整形、回転方向不明。鏝は貼付、胴部はへら削り。	
第233図	10	須恵器 羽釜	床面から21cm上 口縁部～胴部上 位片	口鏝	19.0 23.3			細砂粒/酸化焰/に ぶい橙	ロクロ整形、回転右回りか。鏝は貼付。	
第233図 PL.404	11	須恵器 羽釜	床面から9cmと 23cm上が接合 口縁～胴部片	口鏝	19.8 23.5			細砂粒/酸化焰/に ぶい橙	ロクロ整形、回転右回りか。鏝は貼付。	
第233図 PL.404	12	鉄製品 鏝	埋土 破片	長幅	3.3 3.4	厚重	1.1 7.61		雁又の鉄鏝と見られる破片。先端は両側に大きく開き茎側は細く断面は正方形で破損錆化と見られるが、全体に厚い錆に覆われ本体脆弱なため詳細は不明。	
第233図 PL.404	13	鉄製品 釘	埋土 ほぼ完形	長幅	3.8 0.6	厚重	0.5 1.67		断面ほぼ正方形の角釘。頭は角型で折り返し等は見られない、先端は細くなり尖る。木質等の痕跡は見られない。	
第233図	14	鉄滓 流動滓	床面直上	長短	9.3 8.3	厚重	4.8 454.56		外面が紫黒色の流動性の高い流動滓。滓質密。比重が高い。上面流れ皺が生じている。気泡が多く内在している。	構成No.175

VI区41号住居

第236図 PL.404	1	黒色土器 椀	床面直上 2/3	口底	14.9 7.3	高	4.4	細砂粒・褐粒/酸 化焰/にぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。口縁部から体部はへら磨き。内面は全面へら磨き。	本来は内外面とも黒色処理か。二次被熱を受けている。
第236図 PL.404	2	黒色土器 椀	カマド使用面直 上 3/4	口底	14.6 7.1	高	4.7	細砂粒/酸化焰/に ぶい橙	内外面とも黒色処理。ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。外面は口縁部から体部はへら磨き、器面磨滅のため単位不鮮明。内面は全面へら磨き。	
第236図 PL.404	3	黒色土器 椀	床面直上 口縁部一部欠	口底	14.0 6.4	台高	8.0 6.5	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 橙	内外面とも黒色処理。ロクロ整形、回転右回り。底部ナデ、高台は貼付。口縁部から体部はへら磨き。内面はへらナデか。	
第236図 PL.404	4	須恵器 杯	床面直上 3/4	口底	9.3 6.4	高	2.0	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高	厚			
第236図 PL.404	5	須恵器 杯	床面直上 完形	口底 9.2 6.0	高 2.3		細砂粒/酸化焰/浅 黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第236図 PL.404	6	須恵器 杯	堀方から20cm上 完形	口底 9.6 5.8	高 2.6		細砂粒/酸化焰/に ぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第236図 PL.404	7	須恵器 杯	床面直上 3/4	口底 8.5 5.4	高 2.3		細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第236図 PL.404	8	須恵器 杯	床面直上 3/4	口底 9.4 6.2	高 2.3		細砂粒/酸化焰/浅 黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第236図 PL.404	9	須恵器 杯	床面直上 3/4	口底 10.3 6.5	高 2.7		細砂粒/酸化焰/浅 黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第236図	10	須恵器 杯	堀方から16cm上 口縁～底部1/2	口底 12.0 6.6	高 3.8		細砂粒/酸化焰/浅 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第236図 PL.404	11	須恵器 椀	床面直上 3/4	口底 10.9 6.7	台高 6.5 4.9		細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。底部はナデ、高台は貼付。	
第236図 PL.404	12	須恵器 椀	床面直上 3/5	口底 13.6 7.5	台高 8.4 5.3		細砂粒・粗砂粒/ 褐粒/酸化焰/浅黄 橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台は貼付。	
第236図 PL.404	13	須恵器 椀	掘方直上 高台部一部欠	口底 14.5 7.3	台高 8.0 5.7		細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/浅黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部はナデ、高台は貼付。	
第236図 PL.404	14	須恵器 椀	床面直上 高台部一部欠	口底 14.1 6.7	台高 8.5 5.4		細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/浅黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台は貼付。	
第236図 PL.404	15	須恵器 椀	堀方から14cm上 脚部3/4欠	口底 14.6 7.0	台高 8.4 6.0		細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台は貼付。	
第236図 PL.404	16	灰釉陶器 椀	カマド使用面直 上 1/2	口底 15.6 8.0	台高 7.8 6.8		微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ナデ、高台は貼付。 施釉方法は漬け掛け。	虎溪山1号窯 式期。
第237図	17	土師器 羽釜	カマド使用面か ら11cm上 口縁部片	口 鏝 22.0 24.8			細砂粒・粗砂粒/ 良好/明赤褐	鏝は貼付。口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面はヘラ ナデ。	
第237図 PL.404	18	鉄製品 鏃	床面直上 一部欠損	長 幅 13.2 5.4	厚 重 1.4 30.14			雁又の鉄鏃で、片方の先端は劣化破損する。茎との境では 急に広がり段を持つ。茎は断面正方形で劣化破損する。	
第237図 PL.404	19	鉄製品 不詳	埋土 破片	長 幅 3.4 0.9	厚 重 0.5 2.34			断面正から長方形の棒状鉄製品。中央から捻じれるように 曲がり、一端はさらにしの字に強く曲がる。	
第237図 PL.404	20	石製品 砥石	床面直上 ほぼ完形	長 幅 7.9 6.0	厚 重 2.8 128.5		砥沢石	砥面は4面認められる。正面及び裏面は下方にむかい著し く研ぎ減りする。両側面も下方にむかい研ぎ減りする。下 部の一部欠損。	

Ⅵ区42号住居

第238図 PL.405	1	須恵器 杯	41号住居床面直 上と床面直上が 接合 3/4	口底 9.5 6.4	高 2.6		細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第238図	2	須恵器 杯	床面直上 口縁～底部1/3	口底 10.0 4.8	高 2.7		細砂粒/酸化焰/浅 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	内面体部にス スが付着。
第238図 PL.405	3	須恵器 椀	カマド使用面か ら5cm下 脚部1/4欠	口底 14.4 7.6	台高 8.2 5.9		細砂粒・粗砂粒・ 褐粒/酸化焰/にぶ い黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台は貼付。	
第238図	4	須恵器 椀	床面から12cm上 口縁部下位～高 台部	底台 6.1 6.2			細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ナデ、高台は貼付。	
第238図 PL.405	5	土師器 甕	カマド使用面直 上 口縁～胴部下位 1/3	口 胴 23.2 24.0			細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部が ヘラナデ。	
第238図 PL.405	6	須恵器 羽釜	カマド使用面直 上 口縁～胴部下位 1/3	口 鏝 22.8 28.0			細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい橙	ロクロ整形、回転方向不明。鏝は貼付、胴部はヘラ削り。 内面胴部は下半にヘラナデ。	
第238図	7	須恵器 羽釜	カマド使用面直 上 口縁部～胴部上 位片	口 鏝 22.2 26.0			細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい橙	ロクロ整形、回転方向不明。鏝は貼付。胴部はヘラ削り、 内面胴部はヘラナデ。	
第238図 PL.405	8	鉄製品 釘	床面から10cm上 ほぼ完形	長 幅 4.3 0.7	厚 重 0.5 2.01			断面ほぼ正方形の角釘。頭は角形で先端は細くなり尖る。 木質等の痕跡は見られない。	

Ⅵ区44号住居

第239図	1	須恵器 椀	カマド堀方から 4cm上 底部片	底台 6.5 5.6			細砂粒/酸化焰/橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第239図	2	須恵器 羽釜	カマド堀方から 6cm上 口縁～胴部上位 片	口 鏝 23.6 27.0			細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい橙	ロクロ整形、回転方向不明。鏝は貼付、胴部はヘラ削り。	

Ⅵ区45号住居

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				底	幅	厚	孔重			
第240図 PL.405	1	須恵器 杯	埋土 底部片	底	6.0			細砂粒/酸化焰/に ぶい黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第240図	2	須恵器 椀	埋土 底部片	底 台	8.4 8.0			細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第240図	3	土師器 甕	床面直上 口縁部片	口	18.0			細砂粒/良好/明褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへら削り。内面は胴部がへらナデ。	
第240図	4	須恵器 甕	床面から29cm上 胴部片					細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	頸部に補強帯が貼付。外面には平行叩き痕、内面には同心円状アテ具痕が残る。	
第240図 PL.405	5	土製品 土錘	床面から28cm上 完形	長 幅	3.8 2.0	孔 重	4.0 13.7	細砂粒/良好/黒褐	外面はナデ。	
第240図 PL.405	6	鉄製品 釘	埋土 破片	長 幅	4.7 1.0	厚 重	0.9 6.07		断面長方形の角釘とみられる鉄製品破片。両端とも破損錆化し詳細は不明。	
第240図 PL.405	7	鉄製品 不詳	床面から15cm上 一部欠損	長 幅	7.1 0.9	厚 重	1.0 7.50		断面ほぼ正方形の角棒状の鉄製品破片。頭は劣化破損、先端は急に細くなり尖る。角釘破片とも見られるが先端部は断面円形で他の機種の可能性もある。	

Ⅵ区46号住居

第242図 PL.405	1	黒色土器 椀	床面から16cm上 1/2	口 底	15.5 7.4			細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	内外面とも黒色処理。ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ナデ、高台は貼付。口縁部から体部はへら磨き。内面は全面へら磨き。	
第242図	2	黒色土器 椀	掘方埋土 1/4	口 底	14.4 6.6	台 高	6.6 5.5	細砂粒/酸化焰/灰 黄褐	内外面とも黒色処理。底部回転糸切り後高台を貼付。内面は放射状にへら磨き、器面一部磨滅のため不鮮明。	
第242図	3	須恵器 杯	床面直上 1/2	口 底	14.6 6.8	高	3.8	細砂粒/酸化焰/黄 灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第242図	4	須恵器 椀	埋土 口縁部1/4	口 底	10.8 6.3			細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回りか。高台が貼付か。	
第242図	5	土師器 甕	カマド使用面から 7cm上 口縁部～胴部上 位片	口	24.0			細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい黄褐	口縁部は横ナデ、頸部はナデ、胴部はへら削り。内面は胴部がへらナデ。	
第242図	6	土師器 甕	カマド使用面から 11cm上 口縁部～胴部上 位片	口	23.6			細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへら削り。内面は胴部がへらナデ。	

Ⅵ区47号住居

第244図	1	黒色土器 椀	床面直上 1/2	口 底	11.2 6.9	台 高	6.9 4.5	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/灰黄褐	内外面とも黒色処理。ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第244図	2	黒色土器 椀	床面直上 口縁部下位～底 部1/2	底 台	6.0 6.4			細砂粒/酸化焰/明 黄褐	内外面とも黒色処理。ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第244図 PL.405	3	須恵器 杯	床面直上 口縁部一部欠	口 底	9.2 4.7	高	3.0	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい褐	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第244図 PL.405	4	須恵器 椀	床面直上 2/3	口 底	10.6 5.8	台 高	6.0 5.1	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第244図 PL.405	5	須恵器 椀	床面直上 完形	口 底	11.0 6.1	台 高	6.2 4.4	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第244図 PL.405	6	須恵器 椀	床面直上 2/3	口 底	10.8 6.5	台 高	5.9 4.8	細砂粒・粗砂粒・ 褐粒/酸化焰/にぶ い橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ナデ、高台を貼付。	
第244図	7	灰釉陶器 椀	床面から32cm上 口縁部片	口	15.8			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。施釉方法は漬け掛け。	大原2号窯式 期。
第244図 PL.405	8	須恵器 甕	床面直上 底部～胴部片	底	16.4			細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/浅黄	ロクロ整形、回転右回り。底部はへら削り、胴部最下部もへら削り。内面底部から胴部下位はへらナデ。	
第244図	9	須恵器 羽釜	床面直上 口縁部～胴部上 位片	口 鏝	25.0 28.0			細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/明赤褐	ロクロ整形、回転方向不明。鏝は貼付、胴部はへら削り。	
第244図	10	須恵器 羽釜	床面から10cm上 口縁部～胴部上 位片	口	22.8			細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転方向不明。鏝は貼付が剥落。	
第244図 PL.405	11	須恵器 羽釜	床面から5cm上 口縁～胴部上 位片1/4	口 鏝	24.2 27.8			細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい褐	ロクロ整形、回転方向不明。鏝は貼付、胴部はへら削り。内面はへらナデ、器面剥離のため不鮮明。	
第244図	12	須恵器 羽釜	床面から6cmと 10cmと28cm上が 接合 口縁～胴部上 位片	口 鏝	21.8 25.4			細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回りか。鏝は貼付、胴部下位にへら削り。	

Ⅵ区58号住居

第244図	13	須恵器 杯	床面から23cm上 口縁部下位～底 部片	底	4.2			細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。底部は疑似高台状を呈す。	
第244図 PL.405	14	灰釉陶器 皿	カマド使用面直 上 口縁～底部1/2	口 底	12.0 6.4	台 高	6.0 2.2	微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ナデ、高台は貼付。施釉方法不明。	大原2号窯式 期。
第244図	15	緑釉陶器 皿	床面から8cm上 口縁部片	口	13.6			微細流/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。	東海10C.前、 段皿か。

VI区48号住居

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高	厚	重			
第246図 PL.406	1	須恵器 杯	床面直上 3/4	口底 10.0 4.0	高 3.2			細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。 底部は疑似高台状を呈す。	
第246図 PL.406	2	須恵器 杯	床面から7cm上 3/4	口底 9.3 4.4	高 3.1			細砂粒・粗砂粒・ 褐粒/酸化焰/にぶ い黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。 底部は疑似高台状を呈す。	
第246図	3	須恵器 椀	床面から17cm上 口縁～底部1/2	口底 10.6 5.5	台 高 5.6 4.4			細砂粒/酸化焰/明 黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第246図 PL.406	4	須恵器 椀	床面から15cm上 3/5	口底 11.2 6.3	台 高 5.9 4.3			細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第246図 PL.406	5	須恵器 椀	埋土 1/2	口底 13.4 5.3				細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。底部はナデ、高台は貼付。	
第246図	6	須恵器 羽釜	床面直上と16cm と25cm上が接合 口縁～胴部中位	口 鏝 24.8 30.0				細砂粒/酸化焰/に ぶい黄褐	ロクロ整形、回転右回りか。外面胴部に輪積み痕が残る。 鏝は貼付、胴部はヘラ削り。	
第247図	7	須恵器 羽釜	床面から13cm上 口縁～胴部中位	口 鏝 24.0 28.0				細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/橙	ロクロ整形、回転右回りか。鏝は貼付、胴部はヘラ削り。 鏝の内面にヘラナデ。	
第247図	8	須恵器 羽釜	床面直上 口縁～胴部中位 1/4	口 鏝 24.0 28.4				細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/橙	ロクロ整形、回転右回りか。外面胴部に輪積み痕が残る。 鏝は貼付、胴部はヘラ削り。	
第247図 PL.406	9	須恵器 羽釜	床面直上と11cm 上が接合 口縁～胴部1/4	口 鏝 23.2 27.2				細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい橙	ロクロ整形、回転右回りか。鏝は貼付、胴部はヘラ削り。 内面はヘラナデ。	
第247図 PL.406	10	鉄製品 紡錘車	掘方埋土 一部欠損	長 幅 4.7 4.3	厚 重 0.4 9.06				紡錘車の棒輪破片。中央には4mmほどの円穴を持つ、穴の 縁は片側にめくられるように折れ曲がる。	
第247図 PL.406	11	鉄製品 不詳	埋土 破片	長 幅 6.5 2.6	厚 重 0.9 12.87				断面細い長方形で撥形の鉄製品。撥形の端部は尖らず他の 端部は劣化破損する。	
第247図 PL.406	12	石製品 砥石	埋土 完形	長 幅 7.3 2.9	厚 重 2.5 76.5			砥沢石	砥面は4面認められる。正面は下方にむかい研ぎ減りする。 裏面及び両側面はほぼ平坦である。上方の両側面から径約 5mmの孔を両側穿孔する。上面及び下面は研面ではないが、 細かな線条痕が認められる。	

VI区49号住居

第251図	1	須恵器 椀	掘方埋土 口縁部片	口 14.6				細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回りか。	
第251図	2	須恵器 椀	掘方埋土 口縁部下位～高 台部1/2	底 台 6.2 6.0				細砂粒/酸化焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第251図 PL.406	3	灰釉陶器 皿	床面から25cm上 底部～体部片	底 台 7.4 7.0				微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ナデ、高台は貼付。 施釉方法は漬け掛け。	大原2号窯式 期。
第251図 PL.406	4	須恵器 小瓶	床面直上 口縁部欠	底 胴 8.2 10.0				細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り、高台はつま み出ししか。	
第251図 PL.406	5	鉄製品 紡錘車	埋土 破片	長 幅 4.3 4.0	厚 重 0.6 7.94				紡錘車の紡輪破片。円形の紡輪と見られるが縁は破損によ り凹凸がありさらに劣化破損により2/3を欠く。紡軸の穴 は錆により塞がり紡軸も残存しない。	
第251図 PL.406	6	鉄製品 釘	埋土 破片	長 幅 4.2 1.1	厚 重 1.1 9.24				断面正方形の角釘とみられる鉄製品破片で、両端とも破損 錆化し詳細は不明。	
第251図 PL.406	7	鉄製品 釘	埋土 破片	長 幅 4.2 1.0	厚 重 1.0 4.01				断面正方形の角釘とみられる鉄製品破片で、頭部は破損錆 化し先端は細くなり尖る。表面は硬い錆に覆われ本体脆弱 なため詳細は不明。	
第251図 PL.406	8	鉄製品 不詳	埋土 破片	長 幅 6.6 4.0	厚 重 2.0 71.05				厚さ1cm程の鑄造鉄製品の破片。	

VI区51号住居

第251図	9	須恵器 杯	掘方埋土 口縁～底部片	口 底 8.6 6.4	高 1.8			細砂粒/酸化焰/淡 黄	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転糸切り無調整。	
第251図	10	須恵器 椀	掘方直上 高台部片	底 7.5				細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ナデ、切り離し技法 は不明、高台は貼付。	
第251図 PL.406	11	土師器 甕	カマド使用面直 上と掘方から 5cm上が接合 口縁～底部1/4	口 底 31.6 14.2	高 26.0			細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい赤褐	口唇部は横ナデ、口縁部から胴部はヘラ削り、底部もヘラ 削り。内面は口縁部がナデ、胴部はヘラナデ。	
第251図	12	須恵器 羽釜	床面直上 口縁～胴部上位 片	口 鏝 22.6 26.0				細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 褐	ロクロ整形、回転方向不明。外面胴部に輪積み痕が残る。鏝 は貼付、胴部はヘラ削り。	
第251図 PL.406	13	鉄製品 不詳	床面から20cm上 破片	長 幅 13.6 1.4	厚 重 1.0 9.37				断面円形でわずかに曲がる棒状の鉄製品破片。紡錘車の棒 軸の可能性はあるが両端とも劣化破損し詳細不明。	

VI区55号住居

第251図 PL.406	14	土師器 杯	埋土 底部片					細砂粒/良好/橙	底部は手持ちヘラ削り。	底部の内外面 に墨書。
第251図	15	須恵器 杯	埋土 底部～体部片	底 6.0				細砂粒/酸化焰/黄 灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第251図	16	須恵器 椀	埋土 底部片	底 台 6.0 5.6				細砂粒/酸化焰/に ぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第251図	17	灰釉陶器 皿	埋土 口縁部片	口 12.0				微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。施釉方法は漬け掛け。	大原2号窯式 期。

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第252図 PL.406	18	鉄製品 不詳	埋土 破片	長 幅	14.3 8.8	厚 重	1.8 255.60		鑄造鉄製品破片。全体的に破損錆化し本来形状は不明。	
第252図 PL.406	19	石製品 石製品	掘方から12cm上 完形	長 幅	17.5 15.4	厚 重	10.5 3788.5	粗粒輝石安山岩	漏斗状の孔が認められ、上端部径約5cm、底部径約2cm、深さ約2cmを測る。孔の底部付近は比較的滑らかであるが、孔の側面は曲面であるが細かい凹凸が認められる。円盤を利用している。	

VI区52号住居

第254図 PL.405	1	鉄製品 不詳	床面から11cm上 破片	長 幅	14.4 0.9	厚 重	0.6 13.16		断面長方形の角棒状鉄製品。両端に向かい細くなるが端部は角形で別の角棒状鉄製品が錆化付着する。	
-----------------	---	-----------	-----------------	--------	-------------	--------	--------------	--	--	--

VI区53号住居

第255図 PL.407	1	土師器 杯	床面直上 ほぼ完形	口 底	11.7 8.2	高	3.3	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第255図	2	須恵器 杯蓋	埋土 1/4	口 摘	15.8 6.2	高	2.1	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。摘みは貼付、天井部は中程まで回転へら削り。内面のカエリ内側にカキ目。	
第255図	3	須恵器 杯	堀方埋土 口縁～底部1/3	口 底	12.6 6.4	高	3.9	細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第255図	4	須恵器 杯	床面から10cm上 口縁～底部1/4	口 底	12.6 7.0	高	3.5	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第255図	5	須恵器 杯	床面から23cm上 口縁部下位～底 部	底	5.6			細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第255図	6	須恵器 杯	床面直上 口縁部下位～底 部	底	5.8			細砂粒・黒色粒/ 還元焰/黄灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第255図 PL.407	7	須恵器 椀	掘方直上 3/4	口 底	14.3 7.7	台 高	7.3 6.1	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/にぶい褐	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	内面底部に墨 書、「束」か。
第256図 PL.407	8	須恵器 椀	床面から30cm上 口縁～底部1/3	口 底	15.0 8.0	台 高	7.6 6.2	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第256図	9	須恵器 椀	堀方埋土 口縁～底部1/3	口 底	14.0 6.7	台 高	6.8 6.8	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部はナデ、高台は貼付。	
第256図	10	須恵器 椀	床面から51cm上 1/4	口 底	14.4 8.4			細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転右回りか。底部切り離し技法不明、高台は貼付、高台は欠損後研磨して再利用か。	
第256図	11	灰釉陶器 長頸壺	埋土 口縁部片	口	10.2			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形。	
第256図	12	土師器 台付甕	埋土 脚部片	脚	9.0			細砂粒/良好/明赤 褐	脚部は内外面とも横ナデ。	
第256図	13	須恵器 壺	床面から34cm上 胴部下位～底部 片	底 台	14.2 14.4			細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/にぶい褐	ロクロ整形、回転方向不明。底部はナデ、高台は貼付。	
第256図	14	須恵器 甕	床面直上と掘方 から5cm上が接 合 頸部～胴部片	頸	15.0			細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転方向不明。内面は胴部下位にアテ具痕が残る。	
第256図 PL.407	15	鉄製品 ヤリガンナ	埋土 一部欠損	長 幅	7.5 1.5	厚 重	0.8 9.77		ヤリガンナとみられる鉄製品で、先端は反り返り尖らず丸みを持つ。全体に硬い錆に覆われ本体脆弱なため詳細は不明。	
第256図 PL.407	16	鉄製品 刀子	床面直上 一部欠損	長 幅	20.7 2.0	厚 重	0.9 46.16		棟・刃側ともに明瞭な関を持つ刀子。刃の先端側は劣化破損する。茎は長く端部付近に一部に広葉樹材の木質痕跡が残存する。	
第256図 PL.407	17	鉄製品 釘	埋土 破片	長 幅	5.2 1.5	厚 重	1.2 17.15		断面長方形の角棒状鉄製品。頭側は角形で先端側は破損する。	
第256図 PL.407	18	鉄製品 不詳	埋土 破片	長 幅	4.1 0.8	厚 重	0.5 2.46		断面長方形で端部はやや薄くなり角形で終わる。他の端部は破損錆化する。	
第256図 PL.407	19	鉄製品 不詳	埋土 破片	長 幅	5.3 2.2	厚 重	2.0 22.36		断面丸みのある四角で端部は傘形の形状を持ち、3cmほど離れた位置にも傘形から円盤状の突起をもち端部は角形。	

VI区54号住居

第256図	1	須恵器 椀	埋土 口縁部片	口	14.8			細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転方向不明。	
第256図	2	須恵器 椀	埋土 口縁部片	口	13.8			細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転方向不明。	
第256図	3	須恵器 椀	埋土 口縁部片	口	15.0			細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回りか。	
第256図	4	須恵器 椀	埋土 口縁部片	口	18.0			細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回りか。	
第256図 PL.406	5	灰釉陶器 平瓶	埋土 肩部～胴部上位	稜	19.0			微砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。降灰が付着か。	折戸10号窯式 期～黒笹14号 窯式期。
第257図 PL.406	6	土師器 甕	床面直上 口縁～胴部1/4	口 胴	22.4 24.1			細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第257図	7	土師器 甕	埋土 口縁部片	口	19.4			細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第257図	8	須恵器 甕	床面から13cm上 口縁部片	口	25.0			細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				長 幅	厚 重				
第257図 PL.406	9	鉄製品 ヤリガンナ	掘方から4cm上 ほぼ完形	11.5	0.8	17.24		ヤリガンナとみられる鉄製品で、先端は反り返るが刃部は直線的。先端は尖るが使用によるものかやや非対称的な形状を持つ。刃近くの茎は断面正方形で端に向かい薄くなり断面長方形になる。端部から4cm程にハバキ?の痕跡が見られるが部分的で確定はできない。木質等の痕跡は確認できない。	
Ⅵ区56号住居									
第258図 PL.406	1	須恵器 杯	床面直上 3/4	口底 12.3 6.9	高	4.1	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第258図	2	須恵器 杯	床面から5cm上 口縁部片	口	14.0		細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。	
第258図	3	須恵器 椀	床面から8cm上 口縁部片	口	13.8		細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。内面の体部下位に重ね焼き痕が残る。	
Ⅶ区1号住居									
第262図	1	須恵器 椀	カマド埋土 口縁部片	口	13.0		細砂粒/酸化焰/浅 黄	ロクロ整形。	
第262図 PL.407	2	土師器 甗	床面直上 口縁部～胴部下 位1/3	口	20.6		細砂粒/良好/浅黄	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
Ⅶ区2号住居									
第263図	1	須恵器 椀	床面直上 口縁部～底部 1/3	口底 14.6 6.8	台 高	6.0 5.2	細砂粒/酸化焰/に ぶい褐	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第263図 PL.407	2	鉄製品 紡錘車	埋土 完形	長 幅	23.5 6.9	厚 重	6.8 76.00		完形の紡錘車。紡輪はほぼ円形で紡軸は中央部の断面は円形に近く上端に向かい徐々に細くなり端部は薄く延ばし捻じれながら?状に曲がる。下端に向かい細くなり端部はやや傘型に丸くなる。
Ⅶ区3号住居									
第266図	1	須恵器 杯	埋土 口縁部片	口	10.7		細砂粒/酸化焰/灰 白	ロクロ整形。	
第266図	2	須恵器 杯	埋土 底部片	底	5.0		細砂粒/酸化焰/淡 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第266図 PL.407	3	須恵器 椀	床面直上 口縁部～底部 1/3	口底 14.7 7.0	台 高	8.2 6.5	細砂粒/酸化焰/に ぶい褐	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。	
第266図 PL.407	4	須恵器 椀	カマド使用面から5cmと27cm上 が接合 口縁部～底部 2/3台部欠	口底 14.0 6.0			細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。高台が欠損後端部を擦り磨き使用か。	
第266図	5	須恵器 椀	埋土 底部片	底	6.0		細砂粒/酸化焰/燻 /淡黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第266図 PL.407	6	灰釉陶器 皿	カマド使用面から13cm上 口縁部～底部 1/3	口底 13.6 7.2	台 高	6.6 3.1	微砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法は漬け掛け。	大原2号窯式期。
第266図	7	灰釉陶器 皿	埋土 口縁部片	口	14.0		微砂粒/還元焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転方向不明。施釉方法は漬け掛け。	大原2号窯式期。
第266図	8	須恵器 甗	埋土 口縁部片	口	18.8		細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰白	ロクロ整形。	
Ⅶ区5号住居									
第266図 PL.408	9	須恵器 杯	カマド使用面から6cmと20cm上 が接合 3/4	口底 13.6 5.6	高	3.9	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第266図	10	須恵器 杯	貯蔵穴直上 1/2	口底 13.6 6.6	高	4.7	細砂粒/酸化焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第266図	11	須恵器 椀	カマド使用面から14cm上 口縁部～底部 1/4	口底 13.8 6.8	台 高	7.2 5.1	細砂粒/酸化焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第266図	12	須恵器 椀	床面直上 胴部中位～底部 1/3	底台 6.6 6.0			細砂粒/酸化焰/浅 黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第266図	13	須恵器 椀	カマド使用面から35cm上 体部下位～底部	底台 7.4 6.4			細砂粒/酸化焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第266図	14	灰釉陶器 椀	床面から7cm上 底部1/2	底台 7.4 6.4			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法は刷毛塗り、内面底部にも一筆施釉。	光ヶ丘1号窯式期。
第266図	15	土師器 甗	カマド使用面から5cmと6cm上 口縁部片	口	17.2		細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部から頸部は横ナデ、頸部下はナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第266図 PL.408	16	灰釉陶器 長頸壺	床面から13cm上 胴部下位～底部 片	底台 7.5 7.6			細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法不明。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第266図 PL.408	17	石製品 紡輪	床面から25cm上 完形	長 幅	5.4 —	厚 重	1.4 50.0	変質デイスайト	表裏面ともよく研磨されておりほぼ平坦である。径約6mmの軸穴孔が両側穿孔されている。	逆台形状 (薄型)
Ⅶ区4号住居										
第269図	1	灰釉陶器 耳杯	埋土 破片					微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形。施釉方法不明。	
第269図	2	須恵器 鉢	カマド1使用面 直上 口縁部片	口	28.6			細砂粒/酸化焰/淡 黄	ロクロ整形、回転右回りか。	
第269図	3	土師器 甕	カマド2使用面 直上 口縁部～胴部中 位1/4	口	20.2			細砂粒・粗砂粒/ 良好/黄灰	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第269図	4	須恵器 羽釜	カマド1使用面 直上と7cm上が 接合 口縁部～胴部下 位1/4	口 鏝	17.2 21.6			細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/橙	ロクロ整形、回転右回り。鏝は貼付、胴部下半にヘラ削り。	
第269図	5	須恵器 甕	床面直上 口縁部～頸部片	口	26.6			細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回りか。	
Ⅶ区28号住居										
第269図 PL.408	6	鉄製品 不詳	床面から13cm上 破片	長 幅	4.3 1.1	厚 重	0.7 6.28		断面長方形の短冊形の鉄製品で若干捻じれが見られる。両端ともやや斜めな角形だが破損錆化の可能性はある。	
Ⅶ区6号住居										
第273図 PL.408	1	土師器 杯	貯蔵穴底直上 3/4	口 底	11.9 8.8	高	3.3	細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	外面底部に 「主」の墨書。
第273図	2	須恵器 杯	埋土 1/3	口 底	11.5 6.1	高	3.0	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/オリーブ 灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
Ⅶ区7号住居										
第273図 PL.408	3	土師器 甕	カマド使用面か ら5cmと12cm上 が接合 口縁部～胴部下 位1/2	口	27.8			細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい赤褐	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第273図	4	土師器 甕(甑に転 用)	床面直上と5cm 上が接合 口縁部～胴部下 位1/3	口 底	24.8 15.4	高	22.1	細砂粒・粗砂粒/ 良好/黒褐	口縁部は横ナデ、胴部は木口の残るヘラ削り、頸部下に指頭痕が残る。内面は胴部が木口の残るヘラナデ。	
Ⅶ区8号住居										
第273図	5	須恵器 椀	床面直上と7cm と貯蔵穴底から 34cm上が接合 口縁部～底部 1/3	口 底	14.6 6.6	高	4.2	細砂粒/酸化焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第273図	6	須恵器 椀	床面直上 口縁部～底部 1/3	口	13.6			細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形。	
第273図	7	須恵器 椀	床面から15cm上 底部～体部下位	底 台	6.4 5.6			細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回りか。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第273図 PL.408	8	須恵器 椀	床面直上と20cm 上が接合 口縁部～底部 1/2	口 底	19.9 8.1	台 高	8.3 8.3	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/黄灰	ロクロ整形、回転右回りか。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第273図 PL.408	9	土師器 甕	床面直上と14cm と16cm上が接合 口縁部～胴部下 位1/2	口	19.8			細砂粒/良好/灰黄 褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第274図	10	土師器 甕	カマド使用面か ら18cm上 口縁部1/2	口	21.2			細砂粒/良好/橙	外面頸部に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第274図 PL.408	11	土師器 甕	カマド使用面直 上と8cmと17cm 上が接合 3/4	口 底	20.4 3.1	高	27.2	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部と底部はヘラ削り。内面は底部から胴部がヘラナデ。	
第273図	12	土師器 甕	カマド使用面か ら14cm上と床面 から 16cm上が接合 口縁部～胴部 1/3	口	19.6			細砂粒/良好/にぶ い赤褐	外面頸部に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第274図 PL.408	13	鉄製品 不詳	貯蔵穴底から 20cm上 ほぼ完形	長 幅	16.4 3.4	厚 重	0.8 34.74		三日月形の鉄製品で一端は両側から折り曲げ茎の様な形状を示すが、柄を取り付けたような痕跡は見られない。	
Ⅶ区9号住居										
第276図	1	土師器 甕	床面直上 口縁部片	口	32.2			細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	

Ⅶ区10号住居

挿図 Pl.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	底	高	厚			
第278図	1	灰釉陶器 皿	埋土 口縁部片	口	14.6			微砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回りか。施釉方法は刷毛塗り。	光ヶ丘1号窯 式期。
第278図	2	灰釉陶器 皿	埋土 底部～体部下 半片	底 台	7.0 6.5			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼 付。施釉方法は刷毛塗り。	光ヶ丘1号窯 式期。
第278図	3	土師器 甗	床面直上 口縁部1/2	口	19.6			細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部が ヘラナデ。	
第278図	4	土師器 甗	カマド使用面か ら6cmと8cm上 口縁部～胴部上 位1/3	口	17.8			細砂粒/良好/灰黄 褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部が ヘラナデ。	
第278図 PL.409	5	鉄製品 紡錘車・紡 輪	埋土 一部欠損	長 幅	6.1 5.9	厚 重	2.4 45.56		直径5.5cmの円形の紡錘車の紡輪。紡輪部分は錆化により 空洞化する。6の紡軸と接合する。	
第278図 PL.409	6	鉄製品 紡錘車・紡 軸	埋土 一部欠損	長 幅	13.7 1.6	厚 重	1.4 26.69		断面が丸に近い四角形の棒状鉄製品。表面は硬い錆に厚く 覆われ本体脆弱。同一住居に出土した紡錘車の紡輪5に接 合する。	
第278図 PL.409	7	鉄製品 不詳	埋土 破片	長 幅	7.5 1.1	厚 重	1.2 14.49		断面が丸に近い四角形の棒状鉄製品。表面は硬い錆に厚く 覆われ本体脆弱なため詳細は不明。	

Ⅶ区12号住居

第279図	1	土師器 甗	埋土 口縁部片	口	16.9			細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
-------	---	----------	------------	---	------	--	--	----------------	-----------------------------	--

Ⅶ区13号住居

第281図	1	須恵器 椀	埋土 底部1/2	底	6.9			細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後高台を貼付 であるが、剥落。	
第281図	2	灰釉陶器 椀	埋土 底部片	底 台	8.2 8.0			微砂粒/還元焰/に ぶい黄	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転ヘラナデ、高台は 貼付。施釉方法は不明。	

Ⅶ区14号住居

第283図 PL.409	1	土師器 杯	床面から6cm上 完形	口 底	11.8 9.2	高	3.2	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第283図 PL.409	2	須恵器 杯蓋	埋土 3/4	口 摘	18.7 4.4	高	3.5	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。天井部は中程まで回転ヘラ削り、 摘みは貼付。	
第283図 PL.409	3	須恵器 杯	床面直上と5cm 上が接合 底部一部欠	口 底	12.1 6.2	高	3.5	細砂粒・粗砂粒・ 片岩/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第283図 PL.409	4	須恵器 杯	床面直上と26cm と30cm上が接合 3/4	口 底	13.2 6.6	高	3.8	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/黄灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第283図 PL.409	5	須恵器 杯	カマド使用面と 9cmと11cm上 が接合 3/4	口 底	12.7 7.6	高	4.0	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第283図 PL.409	6	須恵器 短頸壺	床面から24cm上 1/3	口	6.0			細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回りか。底部から胴部下位は回転ヘラ 削り。	
第283図 PL.409	7	須恵器 広口壺	床面から29cm上 口縁部片	口	14.4			細砂粒/還元焰/に ぶい黄褐	ロクロ整形、回転右回りか。	
第284図 PL.409	8	土師器 甗	床面直上と8cm と11cm上が接合 口縁部～胴部中 位1/2	口	21.0			細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部が ヘラナデ。	
第284図	9	土師器 甗	カマド使用面か ら35cm上 口縁部～胴部上 位1/3	口	21.0			細砂粒/良好/赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部が ヘラナデ。	
第284図 PL.409	10	土師器 甗	床面直上と6cm と7cmと9cm上 が接合 口縁部～胴部 1/2	口	20.8			細砂粒/良好/橙	内面胴部に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部 はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第284図	11	須恵器 甗	Ⅶ区2面一括 胴部片					細砂粒/還元焰/灰	外面は平行叩き痕をヘラナデでナデ消している。内面には 同心円状アテ具痕が残る。	
第284図 PL.409	12	鉄製品 鎌?	坑底から25cm上 破片	長 幅	9.5 3.6	厚 重	0.6 100.00		断面薄い板状で片側は尖る、鉄鎌の破片と考えられるが両 端とも劣化破損し詳細は不明。	
第284図 PL.409	13	製作地不詳 青磁碗か	埋土 体部下位片	口 底	—	高	—	夾雑物ほとんど含 まない。	内面篋による施文。外面の釉に粗い貫入。肥前磁器か。	江戸時代か。

Ⅶ区18号住居

第286図 PL.410	1	土師器 杯	貯蔵穴底から12 cm上 口縁部一部欠	口 底	14.0 9.2	高	4.3	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、体部と底部はヘラ削り。内面口縁部に放 射状暗文。	
第286図 PL.410	2	土師器 杯	床面直上と5cm 上が接合 3/4	口	11.7			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半がヘラ削り、底 部は手持ちヘラ削り。	
第286図 PL.410	3	土師器 杯	床面から11cm上 口縁部一部欠	口 底	12.1 9.1	高	3.1	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口 底	高	3.1			
第286図	4	土師器 杯	床面直上 3/4	口底 11.7 8.4	高	3.1	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第286図 PL.410	5	土師器 杯	床面から10cmと 15cm上が接合 3/4	口底 10.9 9.0			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、指頭痕が残る。底部は手持ちヘラ削り。	
第286図 PL.410	6	土師器 杯	掘方直上 1/2	口底 12.2 8.7	高	2.9	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第286図	7	土師器 杯	埋土 1/2	口底 12.0 9.4	高	3.6	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第286図 PL.410	8	土師器 杯	貯蔵穴底から12 cm上 1/3	口底 11.5 8.0			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第286図	9	土師器 杯	掘方埋土 1/3	口底 12.3 8.4			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第286図	10	土師器 杯	床面から10cm上 1/4	口底 12.2 9.0	高	3.2	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第286図	11	土師器 杯	埋土 1/4	口底 11.8 8.6	高	3.1	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第286図	12	須恵器 杯蓋	埋土 1/2	口 15.2			細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/黄灰	ロクロ整形、回転右回り。天井部は中程まで回転ヘラ削り、 摘みは貼付であるが、剥落。	
第286図	13	須恵器 杯蓋	貯蔵穴底直上と 19cm上が接合 1/3				細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。天井部は中程まで回転ヘラ削り。	
第286図 PL.410	14	須恵器 杯	床面直上と29cm 上が接合 3/4	口底 11.8 7.4	高	3.1	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は糸切り後周囲をナデ。	
第286図 PL.410	15	須恵器 杯	掘方直上 1/2	口底 12.6 8.6	高	3.0	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第286図 PL.410	16	須恵器 杯	カマド使用面直 上 1/3	口底 13.0 7.0	高	3.4	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第286図 PL.410	17	須恵器 杯	掘方から8cm上 1/3	口底 11.9 6.8	高	3.3	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第286図	18	須恵器 杯	カマド使用面直 上 1/3	口底 12.7 7.8	高	2.9	細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第286図 PL.410	19	須恵器 椀	床面直上 1/2	口底 13.5 7.3	高	4.0	細砂粒/酸化焰/浅 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第288図 PL.410	20	須恵器 椀	床面から23cm上 1/2	口底 10.6 6.4	台 高	6.4 4.9	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第288図	21	須恵器 椀	床面から24cm上 底部～体部1/2	底 8.6 8.2			細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第288図	22	須恵器 椀	床面直上 底部片	底 8.0 7.6			細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第288図 PL.410	23	須恵器 広口壺	埋土 口縁部片	口 15.4			細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形。	
第288図	24	土師器 甗	埋土 口縁部片	口 13.8			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部が ヘラナデ。	
第288図	25	土師器 甗	貯蔵穴底から12 cm上 口縁部1/2	口 18.5			細砂粒/良好/明赤 褐	外面頸部に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部 はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第288図	26	須恵器 甗	床面直上 口縁部片				細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転方向不明。口縁部は凹線による区画、内 部に波状文が施文。	
第288図	27	須恵器 甗	カマド使用面直 上 胴部片				細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	内外面ともヘラナデ、外面にはかすかに叩き痕が残る、内 面もアテ具痕がかすかに残る。	
第288図	28	須恵器 甗	床面から17cm上 胴部片				細砂粒/還元焰/灰	外面には平行叩き痕、内面には同心円状アテ具痕が残る。	
第288図 PL.410	29	土製品 羽口	床面直上	長 幅 11.0 8.4	厚 重	4.5 274.73		先端部から体部片。厚さ約3cm。指頭圧痕あり。胎土は粗 砂粒。先端部は凸状に溶損。	構成No.86
第288図 PL.410	30	鉄製品 刀子	掘方から12cm上 ほぼ完形	長 幅 16.4 1.9	厚 重	1.5 39.97		棟側には明瞭な関を持つ刀子。刃側はなだらかに茎に移行 する、茎は端部から1.5cm付近でくの字形に折れ曲がる。	
第288図 PL.410	31	鉄製品 刀子	埋土 破片	長 幅 5.9 1.6	厚 重	0.5 9.77		棟側にわずかな関を持つ刀子。刃側は劣化破損し刃側なだ らかに茎に移行する、茎は関から0.5cm付近で破損錆化す る。	
第288図 PL.410	32	鉄製品 楔?	埋土 ほぼ完形	長 幅 7.6 2.3	厚 重	1.6 39.47		断面長方形の撥形鉄製品で一端に向かい広がりながら薄く なり尖る。他の端部は厚く角形で反り返り等は見られない が楔と考えられる。	
第288図 PL.410	33	鉄製品 釘	埋土 破片	長 幅 8.4 1.6	厚 重	1.4 19.68		断面長方形の角棒状で弧状に曲がる。先端は細く尖り他の 端部は劣化破損するが角釘の破片と考えられる。	
第288図 PL.410	34	鉄製品 不詳	埋土 破片	長 幅 6.0 1.3	厚 重	1.2 7.67		断面ほぼ正方形に近い角棒状で端部に向かい細くなりルー プ状に曲がり端部は本体とクロスする。他の端部は劣化破 損する。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第288図 PL.410	35	鉄製品 不詳	埋土 破片	長 幅	8.9 0.8	厚 重	0.8 8.21		断面円形の棒状鉄製品で端部に向かい細くなり断面は角張る。他の端部は劣化破損、紡錘車の紡軸の可能性があると断定はできない。	
第289図 PL.410	36	鉄製品 不詳	埋土 一部欠損	長 幅	8.6 4.1	厚 重	2.2 40.41		断面狭三角形でやや弧を描く長方形の鉄製品。一方の端部の角が耳状に伸びるが1cm程で丸く終わる。この端部は破損の可能性があると全体に厚く錆に覆われており詳細は不明。	
第289図 PL.410	37	鉄製品 不詳	埋土 破片	長 幅	6.6 4.1	厚 重	3.5 91.84		三角形の板状鉄製品。中央でU字形に深く折れ曲がる。	
第289図	38	鉄滓 鉄塊系遺物	埋土	長 短	5.7 5.0	厚 重	3.7 168.81		分析資料No7参照	構成No84・分 析資料No7
第289図	39	鉄滓 粘土質溶解 物	埋土	長 短	4.5 4.0	厚 重	1.9 31.47		気泡が内在し、滓質粗。	構成No85
第289図	40	鉄滓 椀形鍛冶滓 (中)	埋土	長 短	8.1 7.0	厚 重	3.8 255.22		平面不整形円形。側面欠損。上面左方向から工具痕有。	構成No82
第289図	41	鉄滓 椀形鍛冶滓 (小)	床面直上	長 短	7.3 8.9	厚 重	3.8 240.33		平面ほぼ円形。右側部欠損。錆が滲み出ており、色調は黒褐色。滓質は密で、比重が高い。	構成No83
第289図 PL.410	42	石製品 砥石	カマド埋土 2/3	長 幅	(9.5) 4.5	厚 重	(4.3) 200.2	流紋岩	砥面は3面認められる。表面及び裏面は下方にむかい研ぎ減りする。下部欠損。	

Ⅶ区19号住居

第291図	1	須恵器 杯	埋土 底部1/2	底	6.2			細砂粒/酸化焰/浅 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第291図	2	須恵器 杯	埋土 底部1/2	底	6.6			細砂粒/酸化焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第291図	3	須恵器 椀	床面から6cm上 高台部	台	9.5			細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/明赤褐	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ナデ、高台は貼付。	
第291図	4	灰釉陶器 皿	埋土 底部片	底 台	6.6 6.4			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施軸方法は漬け掛け。	大原2号窯式 期。
第291図 PL.409	5	灰釉陶器 長頸壺	床面直上 1/2底部欠	口	11.2			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。頸部は胴部に接合、胴部下半は回転ヘラ削り。施軸方法は刷毛塗りか。	光ヶ丘1号窯 式期。
第291図 PL.409	6	石製品 丸軋	床面から51cm上 完形	長 幅	2.4 3.3	厚 重	0.6 6.4	斜長岩?	正面及び側面は研磨され光沢が著しい。裏面には線条痕として研磨痕が残る。裏面側3ヶ所に潜り穴を穿つ。	

Ⅶ区20号住居

第292図	1	須恵器 杯	床面から17cm上 1/3	口 底	11.8 7.0	高	3.4	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
-------	---	----------	------------------	--------	-------------	---	-----	--------------------	--------------------------	--

Ⅶ区21号住居

第296図 PL.410	1	須恵器 杯	埋土 3/4	口 底	9.3 5.2	高	2.9	細砂粒・粗砂粒・ 褐粒/酸化焰/にぶ い橙	ロクロ整形、回転右回り。底部整形は器面不良のため不明。	
第296図 PL.410	2	須恵器 杯	床面から6cm上 3/4	口 底	9.8 4.9	高	2.7	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第296図	3	須恵器 杯	カマド掘方直上 1/3	口 底	11.4 5.8	高	3.2	細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第296図 PL.410	4	須恵器 椀	床面直上 3/4	底 台	7.3 7.4			細砂粒/酸化焰/橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。	
第296図	5	灰釉陶器 椀	埋土 底部	底 台	7.0 6.0			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施軸方法は不明。	大原2号窯式 期。
第296図	6	灰釉陶器 椀	カマド掘方直上 底部1/2	底 台	8.6 8.6			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施軸方法は不明。	虎溪山1号窯 式期。
第296図 PL.410	7	土師器 費	カマド使用面直 上と5cmと6cmと 7cm上が接合 3/4底部欠	口	22.1			細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ、胴部は上位から中位がヘラナデ、下位はヘラ削り。内面はヘラナデ。	
第296図 PL.410	8	鉄製品 紡錘車・紡 輪	埋土 ほぼ完形	長 幅	6.3 6.3	厚 重	1.5 45.23		ほぼ円形の紡輪で。紡軸は遺存せず中央の穴は錆化により塞がる。	
第296図 PL.410	9	鉄製品 釘	埋土 一部欠損	長 幅	4.6 1.2	厚 重	0.9 5.26		断面四角の角釘、頭側では広がり端部は斜めに曲がる。先端側に向かい徐々に細くなるが端部は鋭利には尖らない。	
第296図	10	鉄滓 椀形鍛冶滓 (大)	埋土	長 短	11.1 12.1	厚 重	6.6 692.97		平面円形。やや二段気味。左側部欠損。酸化土砂に覆われている。錆が滲み出ており、色調は黒褐色。滓質は密で、比重が高い。	構成No90
第296図 PL.410	11	石製品 丸軋	床面から10cm上 1/2	長 幅	(2.4) (2.0)	厚 重	0.5 3.2	斜長岩?	正面及び側面は研磨され光沢が著しい。裏面には線条痕として研磨痕が残る。裏面側に2ヶ所の潜り穴が残る。	

Ⅶ区22号住居

第296図	12	須恵器 椀	貯蔵穴底直上 1/4	口 底	12.9 7.2	台 高	6.2 4.6	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。	
第296図 PL.411	13	須恵器 長頸壺か	カマド使用面直 上と12cm上が接 合 底部	底 台	9.5 9.5			細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/黄灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付、胴部下に回転ヘラ削り。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第296図 PL.411	14	灰釉陶器 皿	床面から9cmと 40cm上が接合 3/4	口 底	14.3 7.2	台 高	6.8 3.2	微砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法は刷毛塗り。	光ヶ丘1号窯 式期。
第296図	15	灰釉陶器 皿	貯蔵穴底から15 cm上の床面付近 1/3	口 底	13.4 6.6	台 高	6.4 3.2	微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法は漬け掛け。	大原2号窯式 期。
第296図	16	土師器 甕	床面直上 口縁部片	口	15.9			細砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第296図	17	須恵器 羽釜	貯蔵穴底から19 cm上 口縁部片	口 罫	17.2 22.2			細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 橙	ロクロ整形、回転方向不明。罫は貼付。	
第297図 PL.411	18	鉄製品 鏃	埋土 一部欠損	長 幅	9.5 1.8	厚 重	1.4 24.58		三角形の先端を持つ鉄鏃。茎との境には段を持ち、茎は0.5cm程で破損錆化する。全体に厚く錆に覆われ本体は脆弱で詳細は不明。	
第297図 PL.411	19	鉄製品 釘	埋土 破片	長 幅	6.1 3.7	厚 重	0.9 10.64		断面ほぼ正方形の角棒状でし字状に曲がる鉄製品。全体に硬い錆に覆われ本体脆弱で詳細は不明。	
第297図 PL.411	20	鉄製品 刀子	床面直上 ほぼ完形	長 幅	15.8 1.9	厚 重	1.3 21.51		棟側に明瞭な閃を持つ刀子。刃側は直線的に茎に移行するが、刃は茎に比し細く研ぎ減りによる形状と考えられる。全体に厚く錆に覆われ木質等の痕跡は確認できない。	
第297図 PL.411	21	鉄製品 不詳	埋土 破片	長 幅	11.4 3.7	厚 重	1.8 79.56		断面長方形で三角形の鉄製品。鑄造鉄製品の破片とみられるが全体に放射割れが著しく詳細は不明。	
Ⅶ区92号住居										
第298図 PL.411	1	須恵器 皿	埋土 口縁部一部欠	口 底	13.0 7.0	台 高	7.0 3.1	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。内面底部は擦り磨かれ手織り、転用硯として使用か。	
第298図 PL.411	2	須恵器 椀	貯蔵穴埋土 口縁部一部欠	口 底	14.5 6.1	台 高	6 5.9	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/黄灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第298図 PL.411	3	須恵器 椀	床面から23cm上 口縁部片	口	14.8			細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回りか。	
第298図	4	須恵器 椀	床面から20cm上 1/4	底 台	7.1 6.8			細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
Ⅶ区23号住居										
第301図 PL.411	1	黒色土器 椀	カマド使用面直 上 完形	口 底	11.4 5.4	台 高	5.8 4.5	細砂粒/酸化焰/明 赤褐	内面黒色処理。ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。内面へラ磨き。	内外面の口唇 部にスガが付 着。
第301図 PL.411	2	須恵器 杯	カマド使用面か ら6cm上 完形	口 底	9.6 6.4	高	2.6	細砂粒/酸化焰/浅 黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第301図 PL.411	3	須恵器 杯	床面から18cm上 完形	口 底	9.1 6.3	高	2.7	細砂粒/酸化焰/浅 黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第301図 PL.411	4	須恵器 杯	床面直上 完形	口 底	9.1 5	高	2.8	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第301図 PL.411	5	須恵器 杯	床面直上 完形	口 底	8.9 5.5	高	2.0	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/浅黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第301図 PL.411	6	須恵器 杯	床面直上 完形	口 底	9.4 6.0	高	2.2	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第301図 PL.411	7	須恵器 杯	床面直上 口縁部一部欠	口 底	9.0 5.9	高	2.6	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整、体部下位に回転ヘラナデ。	
第301図 PL.411	8	須恵器 杯	床面から32cm上 3/4	口 底	9.0 6.0	高	2.4	細砂粒/酸化焰/浅 黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第301図 PL.411	9	須恵器 杯	床面から11cm上 3/4	口 底	8.9 6.2	高	2.1	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/浅黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第301図 PL.411	10	須恵器 杯	床面から13cm上 3/4	口 底	8.9 5.7	高	2.3	細砂粒/酸化焰/浅 黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第301図	11	須恵器 椀	埋土 底部	底 台	6.0 7.8			細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。高台は小型の杯状のものを椀身に貼付。	
第301図	12	灰釉陶器 段皿	床面から17cm上 口縁部片	口	12.4			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。施釉方法は不明。	虎溪山1号窯 式期。
第301図	13	灰釉陶器 椀	カマド使用面直 上と8cm上が接 合 3/4	底 台	7.0 7.0			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法は漬け掛け。	虎溪山1号窯 式期。
第301図 PL.411	14	土師器 羽釜	カマド使用面か ら32cm上 口縁部～胴部 1/2	口 罫	23.0 26.5			細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい黄褐	罫は貼付、口縁部は横ナデ、胴部は下から罫へ向けてのヘラ削り。内面はヘラナデ。	
第301図	15	土師器 羽釜	床面から19cm上 口縁部片	口 罫	18.3 22.8			細砂粒/良好/にぶ い黄橙	罫は貼付、口縁部は横ナデ、胴部は下から罫へ向けてのヘラ削り。内面はヘラナデ。	
第301図	16	土師器 羽釜	カマド使用面直 上と6cm上が接 合 口縁部片	口 罫	23.9 27.5			細砂粒/良好/にぶ い褐	罫は貼付、口縁部は横ナデ、胴部は下から罫へ向けてのヘラ削り。内面はヘラナデ。	
第301図	17	土師器 羽釜	カマド使用面直 上 口縁部片	口 罫	22.5 26.6			細砂粒/良好/にぶ い褐	罫は貼付、口縁部は横ナデ、胴部は下から罫へ向けてのヘラ削り。内面はヘラナデ。	

挿図 PL.No.	No.	種 器 種	出土位置 残 存 率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第301図	18	須恵器 甕	床面直上と7cm 上が接合 底部片					細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	底部から胴部下位はヘラナデ。内面もヘラナデ、アテ具痕 がかすかに残る。	
第301図	19	鉄滓 椀形鍛冶滓 (極小)	検出面	長 短	8.5 6.2	厚 重	2.5 111.54		平面不整形円形。錆が滲み出ており、色調は黒褐色。滓質 は密で、比重が高い。上下面に微細な木炭痕がみられる。	構成No92

Ⅶ区24号住居

第301図	20	灰釉陶器 皿	床面から14cm上 破片	口	13.6			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。施釉方法は漬け掛け。	虎渓山1号窯 式期。
-------	----	-----------	-----------------	---	------	--	--	----------------	------------------------	---------------

Ⅶ区25号住居

第303図	1	須恵器 椀	埋土 破片	口	12.6			細砂粒/酸化焰/橙	ロクロ整形、回転右回りか。	
第303図	2	灰釉陶器 椀	埋土 1/3	口 底	13.4 6.8	台 高	6.0 4.0	微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼 付。施釉方法は漬け掛けか。	大原2号窯 式期。
第303図	3	灰釉陶器 皿	床面直上 底部～体部1/4	底 台	7.2 6.8			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼 付。施釉方法は漬け掛けか。	大原2号窯 式期。
第303図	4	灰釉陶器 長頸壺か	床面直上 底部	底 台	9.0 8.7			細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼 付。	
第303図	5	須恵器 羽釜	床面直上 口縁部片	口 鏝	21.7 26.0			細砂粒/還元焰/に ぶい褐	ロクロ整形、回転方向不明。鏝は貼付。	
第303図 PL.411	6	鉄製品 刀子	埋土 一部欠損	長 幅	11.7 1.5	厚 重	0.8 17.91		棟側に明瞭な関を持つ刀子。刃側は直線的に茎に移りし関 は見られないが、研ぎ減りによる結果の可能性もある。茎 は1.5cm程で破損し全体に厚く錆に覆われる。	
第303図 PL.411	7	石製品 砥石	埋土 1/2	長 幅	(5.4) 3.7	厚 重	2.0 59.0	砥沢石	砥面は4面認められる。正面は研ぎ減りにより内湾する。 両側面もやや内湾する。上部欠損。	

Ⅶ区29号住居

第307図 PL.412	1	須恵器 杯	カマド使用面か ら5cm上 1/3	口 底	9.1 5.0	高	2.4	細砂粒/酸化焰/淡 赤褐	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	焼成時の歪み 大。
第307図 PL.412	2	須恵器 杯	カマド使用面直 上 1/2	口 底	9.0 5.0	高	2.0	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転左回り。底部は回転糸切り無調整。	
第307図	3	須恵器 杯	カマド使用面直 上 1/3	口 底	9.0 5.6	高	2.0	細砂粒/酸化焰/浅 黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第307図 PL.412	4	須恵器 椀	埋土 1/4	口	11.6			細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形。	埴塙に転用 か。
第307図 PL.412	5	鉄製品 刀子	床面直上 破片	長 幅	11.5 1.4	厚 重	0.8 13.87		棟・刃側ともに明瞭な関を持つ刀子。刃の先端側は劣化破 損する。茎は長く錆に覆われるため木質痕跡は確認できな い。	
第307図 PL.412	6	鉄製品 鏃	掘方埋土 破片	長 幅	7.4 2.2	厚 重	1.0 16.04		断面狭菱形の鉄鏃破片。錆化が著しく茎側は劣化破損する。	
第307図 PL.412	7	鉄製品 鏃	床面直上 ほぼ完形	長 幅	11.3 5.8	厚 重	1.4 34.75		雁股の鉄鏃。茎との境近くで広がり、境を一周する形で段 を持つ。茎は断面ほぼ正方形でやや細くなるが角形で終わ る。	
第307図 PL.412	8	鉄製品 釘	カマド使用面直 上 ほぼ完形	長 幅	8.3 1.1	厚 重	0.8 8.93		断面ほぼ正方形の角釘とみられる鉄製品。頭は角形で先端 に向かい徐々に細くなるが先端は尖らない。	
第307図 PL.412	9	鉄製品 不詳	床面から10cm上 破片	長 幅	5.4 4.0	厚 重	1.1 29.45		断面長方形の鉄製品。全体に放射割れが多く鑄造鉄製品の 破片とみられる。	
第307図 PL.412	10	鉄製品 不詳	カマド掘方から 11cm上 破片	長 幅	5.2 1.7	厚 重	1.3 20.86		断面長方形の鉄製品で全体に厚く硬い錆に覆われ詳細は不 明。	
第307図 PL.412	11	鉄製品 不詳	床面から14cm上 破片	長 幅	4.8 1.1	厚 重	1.0 6.59		断面ほぼ正方形の鉄製品。全体に厚い錆に覆われ本体脆弱 なため詳細は不明。	
第307図 PL.412	12	鉄製品 不詳	床面から16cm上 ほぼ完形	長 幅	7.6 1.8	厚 重	1.2 38.08		断面長方形の角棒状鉄製品。両端は角形で終わる。	
第307図 PL.412	13	土製品 羽口	カマド掘方から 9cm上	長 幅	6.6 5.4	厚 重	3.6 78.63		先端部片。厚さ約3cm。胎土は粗砂粒。	構成No88
第307図 PL.412	14	土製品 羽口	カマド掘方から 6cm上	長 幅	6.3 5.3	厚 重	3.7 89.84		先端部片。厚さ約3cm。胎土は粗砂粒。先端部は凸状に溶損。	構成No89
第307図	15	鉄滓 椀形鍛冶滓 (小)	カマド掘方直上	長 短	8.0 6.3	厚 重	2.5 125.33		平面楕円形。下側部欠損。薄手。錆が滲み出ており、色調 は黒褐色。滓質は密で、比重が高い。	構成No87

Ⅶ区94号住居

第308図	16	須恵器 椀	堀方直上 口縁部片	口	12.1			細砂粒/酸化焰/明 黄褐	ロクロ整形。	
第308図 PL.412	17	須恵器 椀	堀方から9cm上 底部～体部下 半片	底 台	6.8 6.1			細砂粒/酸化焰/黄 灰	ロクロ整形、高台は貼付。	

Ⅶ区100号住居

第308図	18	須恵器 椀	床面直上 口縁部片	口	17.0			細砂粒/良好/灰黄	ロクロ整形、回転右回りか。	
-------	----	----------	--------------	---	------	--	--	-----------	---------------	--

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第308図	19	灰釉陶器 小瓶	床面から12cm上 と堀方から6cm 上が接合 胴部片					微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、胴部下位に回転ヘラ削り。	
第308図	20	土師器 甕	床面直上と6cm 上が接合 口縁部片	口	18.0			細砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部が ヘラナデ。	
第308図 PL.412	21	銅製品 鏡	床面直上 破片	長 幅	5.9 3.5	厚 重	1.0 33.84		高さ約1cmでやや内側に傾く縁を持つ銅鏡破片で鏡面に メッキ等の痕跡は見られない。鏡背面には模様が刻まれる が破片のため全貌は不明。	銅鏡直径8.6
第308図 PL.412	22	鉄製品 不詳	床面直上 破片	長 幅	5.1 3.7	厚 重	1.6 42.21		厚さ0.4cm程の湾曲する板状鉄製品破片。全体に放射割れ が入り鑄造鉄製品の破片と見られる。	

Ⅶ区30号住居

第310図	1	須恵器 椀	床面から14cm上 底部	底 台	5.7 5.0			細砂粒/酸化焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第310図	2	須恵器 椀	床面直上 1/3	底 台	6.6 6.0			細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第310図 PL.411	3	灰釉陶器 長頸壺	床面直上 頸部のみ					微砂粒/還元焰/灰 オリーブ	ロクロ整形、回転右回りか。頸部は胴部に接合。	

Ⅶ区101号住居

第310図	4	灰釉陶器 椀	埋土 口縁部片	口	11.6			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。施釉方法不明。	大原2号窯式 期。
第310図 PL.412	5	鉄製品 鎌	掘方埋土 破片	長 幅	11.9 6.0	厚 重	1.2 36.12		鎌破片。先端は破損錆化し柄装着部は劣化破損により残存 しない。	

Ⅶ区31号住居

第312図 PL.412	1	須恵器 椀	床面直上 完形	口 底	11.3 5.6	高	4.0	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第312図	2	須恵器 椀	掘方埋土 口縁部片	口	15.7			細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回りか。	
第312図	3	須恵器 椀	埋土 高台片	底 台	7.6 9.0			細砂粒/酸化焰/灰 黄	ロクロ整形。	
第312図	4	灰釉陶器 椀	埋土 底部1/2	底 台	6.6 6.0			細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。 施釉方法は漬け掛けか。	大原2号窯式 期。
第312図	5	灰釉陶器 壺	床面から12cm上 底部のみ	底 台	9.7 9.8			細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。	
第312図 PL.412	6	須恵器 羽釜	カマド使用面直 上と床面から12 cm上が接合 口縁部～胴部 1/4	口 鏝	22.9 25.6			細砂粒/酸化焰/に ぶい橙	ロクロ整形、回転右回りか。鏝は貼付。	
第313図 PL.412	7	須恵器 羽釜	床面直上 口縁部～胴部 1/3	口 鏝	20.4 23.4			細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回りか。鏝は貼付、胴部にヘラ削り。 内面はヘラナデ。	
第313図	8	須恵器 羽釜	カマド使用面直 上 口縁部～胴部 1/4	口 鏝	18.2 21.4			細砂粒/酸化焰/灰 黄褐	ロクロ整形、回転右回りか。胴部は下位から上位にかけて のヘラ削り。	
第313図	9	須恵器 羽釜	カマド使用面直 上 胴部片	底	7.4			細砂粒/酸化焰/灰 黄褐	ロクロ整形、回転右回り。胴部下半と底部は手持ちヘラ削 り。	
第313図 PL.412	10	鉄製品 鎌	埋土 ほぼ完形	長 幅	11.7 1.9	厚 重	1.4 27.61		先端は断面狭菱形の鉄鎌。茎との境で両側に段を持つ。茎 は断面ほぼ正方形で徐々に細くなりやや尖る。錆により木 質等の痕跡は確認できない。	

Ⅶ区32号住居

第314図	1	須恵器 椀	床面直上 底部	底 台	7.6 8.6			細砂粒/酸化焰/に ぶい褐	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転ヘラナデ、高台は 貼付。	
第314図	2	灰釉陶器 皿	掘方埋土 底部片	底 台	8.0 8.0			微砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転ヘラナデ、高台は 貼付。内面底部は研磨か。	大原2号窯式 期。
第314図 PL.411	3	鉄製品 不詳	埋土 破片	長 幅	9.0 6.9	厚 重	2.1 141.86		厚さ0.4cm程の湾曲する板状鉄製品破片。全体に放射割れ が入り鑄造鉄製品の破片と見られる。	

Ⅶ区33号住居

第317図	1	灰釉陶器 椀	カマド埋土 底部片	底 台	8.6 8.0			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼 付。施釉方法不明。	
第317図	2	土師器 甕	埋土 口縁部片	口	23.8			細砂粒・粗砂粒・ 褐粒/良好/にぶい 橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第317図	3	須恵器 羽釜	埋土 口縁部片	口 鏝	19.2 20.4			細砂粒/酸化焰/に ぶい橙	ロクロ整形、回転方向不明。鏝は貼付、胴部はヘラ削り。	

Ⅶ区36号住居

第317図	4	黒色土器 杯	掘方直上 1/4	口 底	14.2 8.3	高	4.3	細砂粒/酸化焰/明 褐	内面黒色処理。ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ 削り。内面ヘラ磨き。	
第317図 PL.412	5	須恵器 杯	埋土 3/4	口 底	9.8 5.0	高	3.1	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第317図	6	須恵器 椀	床面から6cm上 底部～体部下位 片	底 台	6.2 5.0			細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第317図	7	須恵器 椀	床面から15cm上 底部～体部下位 片	底	8.6			細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付。	
第317図	8	須恵器 椀	土坑2底直上 底部	底	8.4			細砂粒/酸化焰/浅 黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。	
第317図 PL.412	9	須恵器 高杯	床面から9cm上 脚部片					細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。杯身と脚部は接合。	
第317図	10	灰釉陶器 皿	床面から22cm上 口縁部1/3	口	14.0			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。施釉方法は不明。	大原2号窯式 期。
第317図	11	灰釉陶器 椀	床面直上 底部～体部下 半片	底 高	9.4 9.0			微砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付、体部下位に回転ヘラ削り。施釉方法不明	虎溪山1号窯 式期。
第317図	12	灰釉陶器 椀	床面から6cm上 底部1/2	底 高	7.2 7.0			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法は漬け掛けか。	大原2号窯式 期。
第317図	13	土師器 羽釜	土坑2底直上 口縁部片	口 鏝	21.5 26.4			細砂粒/良好/にぶ い褐	鏝は貼付、口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り、内面はヘラナデ。	
第317図	14	須恵器 羽釜	床面直上 口縁部片	口 鏝	21.6 26.8			細砂粒/酸化焰/橙	ロクロ整形、回転方向不明。鏝は貼付。	
第318図 PL.412	15	鉄製品 刀子	床面から25cm上 一部欠損	長 幅	14.2 1.8	厚 重	1.2 24.50		棟側に明瞭な関を持つ刀子。刃は非常に細く茎は0.8cm程で破損、全体に錆に覆われる。	
第318図 PL.412	16	鉄製品 刀子	床面から16cm上 一部欠損	長 幅	16.9 1.8	厚 重	1.6 34.24		棟・刃側ともに明瞭な関を持つ刀子。全体に硬い錆に覆われ本体は脆弱なため詳細は不明。	
第318図 PL.412	17	鉄製品 釘	床面から15cm上 ほぼ完形	長 幅	6.2 3.0	厚 重	0.8 8.07		断面四角でくの字状に折れ曲がる角釘。頭は角形で先端に向かい細くなる。木質等の痕跡は確認できない。	
第318図	18	鉄滓 椀形鍛冶滓 (小)	埋土	長 短	9.6 8.1	厚 重	3.0 243.97		平面楕円形。錆が滲み出ており、色調は黒褐色。滓質は密で、比重が高い。	構成No91
第318図 PL.412	19	石製品 砥石	床面直上 ほぼ完形	長 幅	42.2 21.2	厚 重	14.8 13950.0	粗粒輝石安山岩	裏面の上方から上面にかけては棒状の工具痕が認められ、加工時の痕跡と考えられる。左側砥面は3つの面で構成されるが、いずれも著しく内湾した形態である。右側砥面は1つの面で構成されやや内湾する。	荒砥

Ⅶ区34号住居

第320図 PL.413	1	須恵器 杯	床面から8cmと 10cm上が接合 3/4	口 底	11.0 7.0	高	2.9	細砂粒/酸化焰/に ぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第320図 PL.413	2	須恵器 杯	埋土 口縁部片					細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形。	外面口縁部に 「車」の墨書。
第320図	3	須恵器 椀	カマド使用面か ら11cm上 1/3	口	16.8			細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形。	
第320図	4	須恵器 椀	埋土 脚部片	台	10.8			細砂粒/酸化焰/灰 黄	ロクロ整形。	
第320図 PL.413	5	灰釉陶器 皿	床面から13cm上 完形	口 底	11.6 6.4	台 高	6.1 2.4	微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法は漬け掛け。	大原2号窯式 期。
第320図	6	灰釉陶器 椀	埋土 底部1/4	底 台	8.0 7.6			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法不明。	大原2号窯式 期。
第320図	7	灰釉陶器 長頸壺	埋土 口縁部片	口	17.0			微砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形。施釉方法不明。	
第320図 PL.413	8	鉄製品 刀子	床面直上 一部欠損	長 幅	19.7 1.7	厚 重	1.0 35.09		棟側になだらかな関を持つ刀子。刃側はなだらかに茎に移行するが、茎に比し刃の幅は狭く研ぎ減りの可能性も考えられる。厚く錆に覆われ本体は空洞化するため木質等の痕跡は確認できない。	
第320図 PL.413	9	鉄製品 不詳	床面から22cm上 一部欠損	長 幅	4.6 2.7	厚 重	1.1 9.22		木の葉形をした薄板状鉄製品。一端はU字形に折れ曲がり他の端部は劣化破損する。	
第320図 PL.413	10	鉄製品 不詳	埋土 一部欠損	長 幅	7.1 2.4	厚 重	1.2 17.05		薄い板状の鉄製品で、扁平な筒状に折り曲げられた形状。	
第320図 PL.413	11	鉄製品 不詳	床面から11cm上 破片	長 幅	5.9 1.8	厚 重	0.7 9.57		撥形をした薄い板状の鉄製品。全体に錆に覆われ本体は空洞化するため詳細は不明。	

Ⅶ区35号住居

第321図	1	須恵器 杯	カマド使用面直 上 1/4	口 12 底 7.0	高	3.2	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。		
第321図	2	灰釉陶器 皿	埋土 口縁部片	口	13.0			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法は漬け掛け。	大原2号窯式 期。

Ⅶ区37号住居

第323図 PL.413	1	須恵器 杯	床面直上 3/4	口 底	10.0 5.2	高	2.9	細砂粒/酸化焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第323図 PL.413	2	須恵器 杯	床面直上 3/4	口 底	10.9 5.4	高	2.9	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第323図	3	須恵器 杯	床面直上 1/3	口 底	10.6 5.8	高	2.8	細砂粒/酸化焰/浅 黄	ロクロ整形、回転右回りか。底部はヘラ削り。	

挿図 PL.No.	No.	種 類 種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第323図	4	須恵器 杯	床面直上 1/3	口 底	12.4 6.0	高 3.7	細砂粒/酸化焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第323図	5	須恵器 杯	床面から14cm上 3/4	底	5.6		細砂粒/酸化焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第323図	6	須恵器 杯	貯蔵穴底から12 cm上 1/4	口 底	12.0 5.0	高 3.3	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第323図 PL.413	7	須恵器 椀	床面直上と掘方 埋土が接合 1/3	口 底	14.5 7.6	台 高 7.3 5.5	細砂粒/酸化焰/橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。	
第323図	8	須恵器 椀	床面から9cm上 台部1/2	底 台	7.0 9.0		細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。	
第323図 PL.413	9	灰釉陶器 皿	カマド使用面直 上 1/2	口 底	12.7 7.0	台 高 6.8 2.4	微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法は漬け掛け。	虎溪山1号窯 式期。
第324図 PL.413	10	灰釉陶器 椀	床面から12cm上 1/2	口 底	12.4 6.4	台 高 6.0 3.9	微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法は漬け掛け。	大原2号窯 式期。
第324図 PL.413	11	須恵器 長頸壺	床面から7cm上 口縁部～頸部	口	11.5		細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。口縁部上位と下位に各2条の凹線が巡る。	
第324図 PL.413	12	土師器 甕	カマド使用面直 上と床面から16 cm上が接合 口縁部～胴部 1/3	口	25.6		細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第324図	13	須恵器 羽釜	床面から7cm上 口縁部片	口 鏝	21.8 25.0		細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転方向不明。鏝は貼付。	
第324図	14	須恵器 羽釜	床面から6cm下 と掘方直上が接 合 口縁部片	口 鏝	17.8 20.6		細砂粒/酸化焰/に ぶい橙	ロクロ整形、回転方向不明。鏝は貼付、胴部中位にヘラ削り。	
第324図 PL.413	15	石製品 石製品	埋土 完形	長 幅	8.2 7.8	厚 重 3.3 256.1	粗粒輝石安山岩	正面には漏斗状の孔が認められ、上端部径約5cm、底部径約2cm、深さ約2cmを測る。孔は全体的に滑らかである。裏面には浅い皿状の孔が認められ、上端部径約3cm、底部径約1cm、深さ約1cmを測る。孔は曲面であるが細かい凹凸が認められる。	

Ⅶ区38号住居

第326図 PL.413	1	須恵器 杯	床面から8cm上 1/2	口 底	11.8 6.5	高 3.6	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は疑似高台状を呈し、回転糸切り無調整。円柱づくり、円柱径5.0cm	
第326図	2	須恵器 椀	床面から9cm上 1/3	口 底	10.6 5.0	高 3.9	細砂粒/酸化焰/橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第326図	3	須恵器 椀	床面から6cmと9 cm上が接合 1/3	口 底	13.7 8.5	台 高 8.0 6.2	細砂粒/酸化焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。	
第326図 PL.413	4	須恵器 椀	床面直上と9cm 上が接合 3/4	口 底	11.8 6.2	台 高 5.9 4.7	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄褐	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第326図	5	須恵器 椀	埋土 口縁部片	口	13.8		細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回りか。	
第326図	6	須恵器 椀	床面直上と6cm 上が接合 底部3/4	底 台	8.2 8.5		細砂粒/酸化焰/黄 灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。	
第327図	7	灰釉陶器 椀	床面から14cm上 底部1/2	底 台	6.6 6.0		微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。	大原2号窯 式期～虎溪山1 号窯式期。
第326図 PL.413	8	灰釉陶器 長頸壺	床面から18cm上 口縁部片	口	12.8		細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。	
第327図 PL.413	9	須恵器 羽釜	床面直上と12cm と17cmと18cm上 が接合 口縁部～胴部下 位1/2	口 鏝	20.0 24.9		細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/橙	ロクロ整形、回転方向不明。鏝は貼付、胴部中位から下位にヘラ削り。	
第327図	10	須恵器 羽釜	床面直上と13cm 上が接合 口縁部～胴部中 位1/4	口 鏝	19.5 24.6		細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。鏝は貼付、胴部にヘラ削り痕が残る。	
第327図	11	須恵器 羽釜	床面直上 口縁部片	口 鏝	20.8 19.8		細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転方向不明。鏝は貼付。	
第327図 PL.413	12	須恵器 羽釜	埋土 口縁部～胴部中 位1/3	口 鏝	20.7 25.4		細砂粒/酸化焰/橙	ロクロ整形、回転方向不明。鏝は貼付、胴部中位から下位にヘラ削り。	
第327図	13	須恵器 甕	床面直上と9cm 上が接合 口縁部片				細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。	

Ⅶ区39号住居

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高	台高			
第329図 PL.414	1	須恵器 杯	床面直上 3/4	12.8 6.2	3.7		細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第329図 PL.414	2	須恵器 椀	床面直上と10cm 上が接合 1/4	15.3 9.0	9.2 5.5		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第329図 PL.414	3	須恵器 椀	床面から8cmと 12cm上が接合 口縁部1/2	14.2			細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回りか。	
第329図 PL.414	4	灰釉陶器 長頸壺	カマド使用面直 上と5cm上と床 面直上と6cmと 10cm上が接合 3/4	9.8 7.0			微砂粒・黒色粒/ 還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。 施釉方法は降灰が全面的に付着しているため不明。	黒笹90号窯式 期。
第329図	5	土師器 甕	カマド使用面直 上と10cm上と床 面から8cm上が 接合 口縁部1/2	19.0			細砂粒/良好/橙	外面頸部に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部 はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第329図	6	土師器 甕	カマド使用面直 上 口縁部片	18.4			細砂粒/良好/橙	外面頸部に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部 はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	

Ⅶ区40号住居

第331図 PL.414	1	須恵器 耳杯	床面から18cm上 2/3	底台 5.8 5.4			細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。	
第331図 PL.414	2	須恵器 杯	カマド使用面か ら14cm上 3/4	口底 11.3 6.1	高 3.8		細砂粒/酸化焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第331図 PL.414	3	須恵器 杯	床面から9cm上 3/4	口底 11.3 5.5	高 3.8		細砂粒/酸化焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第331図	4	須恵器 椀	床面直上 口縁部片	口 13.0			細砂粒/酸化焰/灰 黄褐	ロクロ整形、回転右回りか。	
第331図	5	須恵器 椀	床面直上 1/3	底 5.4			細砂粒/酸化焰/明 赤褐	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第331図	6	須恵器 椀	カマド使用面か ら10cm上 1/4	口底 12.6 7.0	台高 7.2 4.4		細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第332図	7	須恵器 椀	カマド使用面か ら8cm上 底部	底台 7.5 8.4			細砂粒/酸化焰/に ぶい褐	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。	
第332図 PL.414	8	灰釉陶器 椀	床面直上と16cm 上が接合 2/3	口底 13.2 6.8	台高 6.9 4.5		微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼 付。施釉方法は漬け掛け。	大原2号窯式 期。
第331図	9	灰釉陶器 椀	床面直上 口縁部片	口 12.8			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形。施釉方法は不明。	
第332図 PL.414	10	須恵器 鉢	カマド使用面直 上 3/4	口底 9.0 5.3	高 5.6		細砂粒/酸化焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、胴部下位 はヘラナデ。	
第332図	11	須恵器 長頸壺	カマド使用面か ら13cm上 口縁部片	口 19.4			細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰黄	ロクロ整形。	
第332図	12	須恵器 甕	床面から9cm上 底部片	底 27.8			細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 橙	ロクロ整形、回転方向不明。内外面ともヘラナデ。	
第332図	13	土師器 羽釜	カマド使用面か ら20cm上 口縁部片	口 鏝 24 21.0			細砂粒/酸化焰/灰 黄	ロクロ整形、回転方向不明。鏝は貼付、胴部はヘラ削り。 内面胴部はヘラナデ。	
第332図 PL.414	14	須恵器 羽釜	カマド使用面か ら11cmと17cm上 が接合 口縁部～胴部中 位1/2	口 鏝 24.4 19.0			細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/灰褐	ロクロ整形、回転右回りか。鏝は貼付、胴部はヘラ削り。	
第332図 PL.414	15	鉄製品 鋤	床面から9cm上 ほぼ完形	長幅 23.1 17.0	厚重 3.2 506.89			U字形の鋤・鎌先。先端は三角形で柄装着部分に木質等の 痕跡は見られない。	
第332図 PL.414	16	石製品 砥石	埋土 完形	長幅 5.0 3.0	厚重 1.4 25.2		流紋岩?	低面は6面認められる。上面は三つの作出面で構成される。 下面は二つの作出面で構成される。正面には多方向の細か な線条痕が認められる。	

Ⅶ区42号住居

第334図	1	須恵器 杯	カマド使用面か ら9cm上 1/4	口底 9.4 5.5	高 3.0		細砂粒/酸化焰/に ぶい褐	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第334図	2	須恵器 椀	カマド使用面直 上と6cm上 1/4	口底 15.5 7.8			細砂粒/酸化焰/橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第334図	3	灰釉陶器 椀	埋土 1/4	口 13.8			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。底部周囲は回転ヘラ削り。内 面口唇部に1条の凹線が巡る。施釉方法は漬け掛け。	虎溪山1号窯 式期。

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第334図	4	灰釉陶器 椀	埋土 1/4	口	13.8			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。内面口唇部に1条の凹線が巡る。 施釉方法は漬け掛け。	虎溪山1号窯 式期。
第334図	5	灰釉陶器 椀	床面から6cm上 1/4	底 台	7.0 6.8			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼 付。施釉方法は不明。	虎溪山1号窯 式期。
第334図	6	土師器 甕	床面直上 口縁部片	口	21.6			細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第334図	7	須恵器 甕	埋土 破片	口	20.8			細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形。	
第334図	8	須恵器 羽釜	カマド使用面から 8cm上と床面 から5cm上が接 合 胴部中位～底部 片	底	6.0			細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。底部はヘラナデ、胴部はヘラ削 り。内面は底部と底部周囲はヘラナデ。	
第334図 PL.414	9	鉄製品 不詳	床面から12cm上 破片	長 幅	5.5 1.5	厚 重	1.4 10.76		断面長方形で狭三角形をした鉄製品。全体に硬い錆に厚く 覆われ本体脆弱なため詳細は不明。	

Ⅶ区43号住居

第336図 PL.414	1	土師器 杯	床面から11cm上 完形	口 高	12.7 3.8			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半がヘラ削り、底 部は手持ちヘラ削り。	
第336図 PL.414	2	土師器 杯	床面直上 完形	口 高	12.1 3.3			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、体部と底部は手持ちヘラ削り。	
第336図 PL.414	3	土師器 杯	カマド使用面直 上と10cmと22cm と25cmと26cm上 が接合 3/4	口 高	12.4 3.6			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半がヘラ削り、底 部は手持ちヘラ削り。	
第336図 PL.415	4	土師器 杯	床面直上 3/4	口 高	14.2 4.1			細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半がヘラ削り、底 部は手持ちヘラ削り。	
第336図	5	須恵器 杯	埋土 1/4	口 底	12.0 6.8	高	4.2	細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第336図	6	須恵器 椀	床面から39cm上 が接合 1/3	底	7.2			細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	内面は酸化 焰。
第336図	7	須恵器 長頸壺	埋土 1/4					細砂粒/還元焰/褐 灰	ロクロ整形、回転右回り。胴部天井部は風船技法がみられ る。	
第336図	8	土師器 甕	カマド使用面から 37cm上 口縁部～胴部中 位1/4	口	14.8			細砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部が ヘラナデ。	
第336図	9	土師器 甕	床面直上 口縁部片	口	15.7			細砂粒/良好/にぶ い褐	外面口縁部に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴 部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第337図 PL.415	10	土師器 甕	床面直上と5cm ～12cmの遺物 群が接合 3/4・底部欠	口	21.4			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第337図	11	土師器 甕	床面から7cm上 とカマド使用面 から19cm上が接 合 口縁部片	口	21.6			細砂粒/良好/にぶ い黄褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部が ヘラナデ。	
第337図	12	土師器 甕	床面直上 口縁部～胴部 1/4	口	27.8			細砂粒/良好/にぶ い黄橙	外面胴部に輪積痕が残る。口縁部は横ナデ、一部に指頭痕 が残る、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第337図	13	須恵器 甕	埋土 胴部片					細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	外面は平行叩き痕、内面は同心円状アテ具痕が残る。	
第337図 PL.415	14	銅製品 不詳	埋土 破片	長 幅	2.2 2.0	厚 重	1.0 8.17		不定形な形状の銅製品。製品と判断できる形状は見られず 鑄掛修理の材料の可能性が有る。	

Ⅶ区44号住居

第339図	1	土師器 杯	床面から10cm上 1/4	口 底	12.6 10.0	高	3.1	細砂粒/良好/にぶ い黄褐	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第339図 PL.415	2	須恵器 皿	床面から12cmと 15cm上が接合 1/2	口 底	14.4 7.8	台 高	7.8 3.4	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第339図	3	須恵器 皿	床面から7cm上 底部	底 台	7.0 6.6			細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第339図	4	須恵器 杯	埋土 底部1/2	底	7.0			細砂粒/酸化焰/に ぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第339図	5	須恵器 椀	埋土 1/4	口 底	13.8 6.0	高	3.6	細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転方向不明。底部は回転糸切り無調整。	
第339図	6	須恵器 椀	床面から16cm上 3/4	底	6.0			細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第339図 PL.415	7	須恵器 椀	床面直上 1/2	口 底	14.4 7.2	台 高	7.6 5.3	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第339図	8	須恵器 椀	床面から35cm上 口縁部～底部片	口 底	16.0 8.0	台 高	6.8 6.2	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	

挿図 PL.No.	No.	種 器 種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第339図	9	須恵器 椀	床面から13cmと 42cm上が接合 1/3	底 台	6.6 6.0		細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第339図	10	須恵器 椀	埋土 底部～体部片	底	5.5		細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第340図	11	須恵器 椀	床面から13cm上 1/3	口 底	14.4 7.4	台 高	7.0 6.2	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。
第340図	12	須恵器 椀	床面から19cmと 22cm上が接合 底部片	底 台	8.8 9.0		細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰オリ ブ	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第340図	13	土師器 小型甕	埋土 口縁部～胴部上 位1/2	口	11.6		細砂粒/良好/にぶ い褐	外面頸部に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへら削り。内面は胴部がへらナデ。	
第340図	14	土師器 甕	床面から26cm上 口縁部片	口	18.6		細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへら削り。内面は胴部がへらナデ。	
第340図 PL.415	15	土師器 甕	カマド使用面直 上と床面から30 cm上が接合 口縁部～胴部上 位	口	19.4		細砂粒/良好/にぶ い橙	外面頸部に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへら削り。内面は胴部がへらナデ。	
第340図	16	土師器 甕	カマド使用面直 上 口縁部片	口	21.3		細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへら削り。内面は胴部がへらナデ。	
第340図	17	須恵器 甕	埋土 口縁部片	口	23.0		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形。	
第340図 PL.415	18	鉄製品 刀子	埋土 一部欠損	長 幅	7.3 1.4	厚 重	0.8 7.51		棟側に明瞭な関を持ち、刃側はくの字状に茎に移行する茎は1cm程で劣化破損する。

Ⅶ区45号住居

第342図	1	須恵器 杯	埋土 1/3	口 底	12.1 6.6	高	4.2	細砂粒/酸化焰/浅 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第342図 PL.415	2	須恵器 椀	床面直上 3/4	口 底	13.6 7.7	台 高	7.8 6.1	細砂粒/酸化焰/淡 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後へら削り、高台は貼付。	
第342図	3	須恵器 椀	埋土 口縁部片	口	15.7			細砂粒/酸化焰/黄 灰	ロクロ整形。	
第342図	4	須恵器 椀	床面直上 底部	底 台	5.7 5.7			細砂粒/酸化焰/橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後へらナデ、高台は貼付。	
第342図	5	須恵器 椀	床面から30cm上 底部	底 台	6.6 6.6			細砂粒/酸化焰/浅 黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転へらナデ、高台貼付。	
第342図	6	須恵器 椀	床面直上 底部	底 台	6.4 6.0			細砂粒/酸化焰/に ぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転へらナデか、高台貼付。	
第342図	7	須恵器 椀	床面から29cm上 底部	底 台	7.4 8.4			細砂粒/酸化焰/橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転へらナデ、高台貼付。	
第342図	8	灰釉陶器 皿	床面から34cm上 1/4	口 底	12.6 7.2	台 高	6.8 1.9	微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転へらナデ、高台は貼付。施釉方法は漬け掛け。	大原2号窯式 期。
第342図 PL.415	9	灰釉陶器 椀	カマド使用面直 上 1/4	口 底	15.2 8.0	台 高	7.5 5.0	微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転へらナデ、高台は貼付。施釉方法は漬け掛けか。	大原2号窯式 期。
第342図	10	灰釉陶器 椀	床面から22cm上 口縁部片	口	16.2			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。施釉方法は漬け掛け。	大原2号窯式 期。
第342図	11	灰釉陶器 椀	埋土 底部片	底 台	7.0 6.6			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転へらナデ、高台は貼付。施釉方法は漬け掛け。	大原2号窯式 期。
第342図	12	土師器 甕	床面から5cm上 口縁部～胴部片	口	15.6			細砂粒/良好/にぶ い黄橙	外面口縁部に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへら削り。内面は胴部がへらナデ。	
第342図	13	須恵器 羽釜	床面から16cm上 口縁部片	口 鏝	20.0 25.2			細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/橙	ロクロ整形、回転方向不明。鏝は貼付。	
第342図	14	須恵器 羽釜	カマド使用面直 上 口縁部片	口 鏝	19.8 24.4			細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/橙	ロクロ整形、回転方向不明。鏝は貼付。	
第343図	15	須恵器 羽釜	カマド使用面直 上と10cmと13cm 上が接合 胴部下位～底部 片	底	5.8			細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/橙	ロクロ整形、回転方向不明。底部と胴部はへら削り。	
第343図 PL.415	16	鉄製品 釘	埋土 ほぼ完形	長 幅	8.2 1.5	厚 重	1.1 13.66		断面長方形から正方形の角釘。頭部分で幅が広がるが折り返しは見られない。先端に向かい細くなり尖る。	

Ⅶ区47号住居

第346図 PL.415	1	黒色土器 椀	床面直上 3/4	口 底	10.9 6.6	台 高	6.5 4.6	細砂粒/酸化焰/に ぶい橙	内外面とも黒色処理。ロクロ整形、回転方向不明。底部はへら削り後高台を貼付。外面口縁部は横位のへら磨き。内面は全面へら磨き後口縁部に放射状へら磨き。	
第346図	2	黒色土器 椀	床面直上 底部	底 台	7.0 7.4			細砂粒/酸化焰/明 黄褐	内面黒色処理。ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。内面はへら磨き。	
第346図	3	須恵器 椀	埋土 口縁部1/2	口	12.8			細砂粒/酸化焰/灰 黄褐	ロクロ整形。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第346図	4	須恵器 椀	カマド使用面から7cm上 口縁部片	口	13.8		細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形。	
第346図	5	灰釉陶器 小椀	掘方直上 口縁部片	口	11.2		微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。施釉方法は漬け掛けか。	大原2号窯式 期。
第346図 PL.415	6	鉄製品 鏝	床面から18cm上 ほぼ完形	長 幅	11.7 1.4	厚 重	1.1 11.05	細身の鉄鏝。片側の腸割り先端は劣化破損する。茎との境を一周する形で段を持つ。先端から茎にかけて緩く波を打つように変形する。	

Ⅶ区48号住居

第346図 PL.416	7	土師器 杯	床面から9cm上 1/2	口 高	11.8 3.1			細砂粒/良好/明褐	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	外面底部に墨 書。
第346図 PL.416	8	土師器 杯	床面から11cm上 1/4	口 底	12.3 9.6	高	3.3	細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第346図	9	土師器 杯	埋土 1/3	口 高	12.2 3.0			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半がヘラ削り、底部は手持ちヘラ削り。	
第347図 PL.416	10	須恵器 杯	床面直上 完形	口 底	12.4 7.2	高	3.9	細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り。	
第347図 PL.416	11	須恵器 杯	床面直上 3/4	口 底	11.2 7.0	高	4.2	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第347図 PL.416	12	須恵器 杯	埋土 2/3	口 底	11.0 4.8	高	3.5	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。底部は疑似高台状を呈す。	
第347図 PL.416	13	須恵器 杯	床面から13cm上 1/2	口 底	12.6 7.2	高	3.6	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第347図	14	須恵器 杯	カマド使用面から9cm上 1/4	口 底	11.8 6.4	高	3.7	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。底部は疑似高台状を呈す。	

Ⅶ区49号住居

第350図	1	黒色土器 椀	カマド2使用面 から9cm上 底部	底 台	7.0 7.2			細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	内面黒色処理。ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。内面はヘラ磨き。	
第350図 PL.416	2	須恵器 椀	カマド1の使用 面から8cm上 3/4	口 底	14.8 6.8	台 高	7.2 7.1	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。	
第350図	3	須恵器 椀	カマド1の使用 面から9cm上 口縁部片	口	13.7			細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形。	
第350図	4	須恵器 椀	床面から16cm上 底部	底 台	7.2 6.8			細砂粒/酸化焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。	
第350図	5	須恵器 羽釜	床面から21cm上 口縁部片	口	16.9			細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/橙	ロクロ整形、回転方向不明。鏝は貼付。	
第350図	6	須恵器 羽釜	床面直上 口縁部片	口 鏝	19.6 24.4			細砂粒/酸化焰/橙	ロクロ整形、回転方向不明。鏝は貼付。	
第350図	7	須恵器 甕	埋土 口縁部片					細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、波状文を3段施文、降灰が付着し詳細不明。	

Ⅶ区51号住居

第352図	1	須恵器 杯	床面から7cm上 底部～体部下位 片	底	5.0			細砂粒/酸化焰/に ぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第352図 PL.416	2	須恵器 椀	埋土 1/2	口 底	13.8 6.6	高	5.1	細砂粒/酸化焰/浅 黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部切り離し技法は器面磨滅のため不明。	
第352図	3	須恵器 椀	床面から5cm上 底部～体部下位 片	底	5.4			細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第352図	4	須恵器 椀	床面から5cm上 底部	底 台	7.0 7.1			細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。	
第352図 PL.416	5	鉄製品 鉄椀	床面直上 一部欠損	長 幅	10.1 9.8	厚 重	3.7 90.88		直径9.5cm、高さ3.2cm程の浅い半球形の鉄製椀。内容物の痕跡および外面の煤付着等は見られない。	
第352図 PL.416	6	鉄製品 鉄鐸	床面直上 ほぼ完形	長 幅	8.8 2.3	厚 重	2.2 48.42		薄い鉄板を筒状に折り曲げた鉄鐸。上部には別づくりの釣り手とみられる穴の開いた鉄片入れている。	

Ⅶ区52号住居

第353図	1	灰釉陶器 皿	床面直上 底部1/2	底 台	7.0 6.4			微砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法不明。	高台の形態 は、光ヶ丘1 号窯式期か。
第353図	2	須恵器 羽釜	床面直上 口縁部片	口 鏝	19.8 25.6			細砂粒/酸化焰/に ぶい橙	ロクロ整形、回転方向不明。鏝は貼付。	

Ⅶ区53号住居

第354図	1	須恵器 椀	埋土 底部1/2	底 台	6.6 6.0			細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
-------	---	----------	-------------	--------	------------	--	--	-----------	----------------------------	--

Ⅶ区54号住居

第357図	1	須恵器 椀	貯蔵穴底から34 cm上 底部1/2	底 台	7.2 7.3			細砂粒・黒色粒/ 還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。	
第357図	2	灰釉陶器 椀	埋土 口縁部片	口	12.8			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。施釉方法不明。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第357図	3	土師器 小型甕	床面直上と6cm 上が接合 口縁部～胴部中 位1/3	口	10.8			細砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は口縁部 から胴部がヘラナデ。
第357図	4	土師器 甕	貯蔵穴底から3 cm上 口縁部～胴部片	口	17.8			細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。
第357図	5	土師器 甕	貯蔵穴底から38 cm 口縁部片	口	24.5			細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。
第357図	6	土師器 甕	底から2cmと6cm が接合 底部片	底	7.9			細砂粒/良好/橙	底部は砂底、胴部はヘラ削り。内面はヘラナデ。
第357図	7	土師器 甕	床面から14cm上 底部～胴部片	底	11.4			細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい黄褐	底部はヘラ削りか、胴部はヘラ削り。内面はヘラナデ。
第357図 PL.416	8	鉄製品 不詳	埋土 ほぼ完形	長 幅	6.8 1.1	厚 重	1.1 7.44		断面長方形の棒状鉄製品。両端に向かい細くなり釘の頭的 な形状を持たない。
第357図 PL.416	9	鉄製品 不詳	床面直上 破片	長 幅	4.3 2.5	厚 重	0.9 10.13		薄い板状の鉄製品。やや捻じれるように折れ曲がるが、全 体に錆に覆われ本体脆弱なため詳細は不明。

Ⅶ区55号住居

第359図 PL.416	1	黒色土器 椀	床面から7cm上 台部欠	口 底	10.3 5.4			細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	内面黒色処理。ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り 後高台を貼付。内面はヘラ磨き。
第359図 PL.416	2	土師器 甕	掘方直上 口縁部～胴部中 位片	口	22.2			細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい褐	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。
第359図 PL.416	3	須恵器 羽釜	床面直上と掘方 直上が接合 口縁部～胴部上 位1/2	口 鏝	21.2 26.6			細砂粒・粗砂粒・ 褐粒/酸化焰/橙	ロクロ整形、回転右回りか。外面胴部に輪積痕が残る。鏝 は貼付、胴部にヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。
第359図	4	須恵器 羽釜	カマド使用面直 上 口縁部片	口 鏝	22.6 25.9			細砂粒・粗砂粒・ 褐粒/酸化焰/橙	ロクロ整形、回転右回りか。鏝は貼付、胴部にヘラ削り。 内面胴部はヘラナデ。
第360図 PL.416	5	須恵器 羽釜	カマド使用面直 上と床面から8 cm下が接合 口縁部～胴部上 位1/3	口 鏝	21.0 24.8			細砂粒・粗砂粒・ 褐粒/酸化焰/橙	ロクロ整形、回転右回りか。外面胴部に輪積痕が残る。鏝 は貼付、胴部にヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。
第360図 PL.416	6	鉄製品 鏃	床面から15cm上 一部欠損	長 幅	9.9 1.3	厚 重	1.1 18.03		三角形の先端を持つ鉄鏃。茎との境では両側になだらかな 段を持つ。茎は緩く曲がり端部は劣化破損する。

Ⅶ区56号住居

第362図	1	黒色土器 椀	床面から6cm上 底部	底 台	6.0 6.0			細砂粒/酸化焰/に ぶい橙	内面黒色処理。ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ ナデ、高台は貼付。内面はヘラ磨き。
第362図 PL.417	2	須恵器 小型椀	床面から18cm上 口縁部一部欠	口 底	8.0 4.2	台 高	4.5 4.1	細砂粒/酸化焰/淡 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。
第362図 PL.417	3	須恵器 小型椀	床面から17cm上 1/2	口 底	7.8 4.6	台 高	4.4 4.1	細砂粒/酸化焰/淡 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。
第362図	4	須恵器 小型椀	床面から10cm上 1/4	口 底	8.7 5.0	台 高	5.0 4.7	細砂粒/酸化焰/淡 黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。
第362図 PL.417	5	須恵器 小型椀	埋土 1/4	口 底	8.5 5.0	台 高	5.0 4.5	細砂粒/酸化焰/淡 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。
第362図	6	須恵器 小型椀	床面から23cm上 1/4	口 底	8.2 4.4	台 高	4.6 3.9	細砂粒/酸化焰/淡 黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。
第362図 PL.417	7	灰釉陶器 椀	埋土 1/4	口 底	15.2 8.4	台 高	8.0 5.1	微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼 付。施釉方法は漬け掛け。
第362図 PL.417	8	土師器 甕	カマド使用面直 上と7cm～25cm 上の遺物群が接 合 口縁部～胴部下 位1/2	口 底	23.8 10.4			細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ、胴部と底部はヘラ削り。内面は底部から 胴部がヘラナデ。
第362図 PL.417	9	鉄製品 釘?	床面直上 破片	長 幅	4.2 1.0	厚 重	0.9 5.42		断面ほぼ正方形の角釘と見られる鉄製品破片。両端とも角 形で破損の可能性があるが、全体に厚い錆に覆われ詳細は 不明。
第362図 PL.417	10	鉄製品 釘	床面直上 ほぼ完形	長 幅	8.8 1.7	厚 重	1.5 25.69		断面ほぼ正方形の角釘と見られる鉄製品。頭は三角形で先 端側に向かい細くなりやや尖る。厚い錆に覆われ木質等の 痕跡は確認できない。
第362図 PL.417	11	鉄製品 不詳	床面直上 一部欠損	長 幅	15.5 1.5	厚 重	1.3 38.72		断面ほぼ正方形の角棒状で両端に向かい細くなりやや尖る が一端は劣化破損する。

Ⅶ区57号住居

第364図 PL.417	1	須恵器 皿	掘方直上 3/4	口 底	13.8 7.4	台 高	7.1 3.0	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。
第364図 PL.417	2	須恵器 杯	カマド使用面か ら28cm上 3/4	口 底	10.8 5.1	高	3.3	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい褐	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第364図 PL.417	3	須恵器 椀	掘方直上 口縁一部・高台 欠	口 底	14.1 7.0		細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。 高台が欠損後研磨して高さを揃えて使用している。	
第364図 PL.417	4	須恵器 椀	カマド使用面から 20cmと23cm上 が接合 3/4	底 台	8.1 10.2		細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第365図	5	須恵器 椀	床面直上 口縁部片	口	13.6		細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 橙	ロクロ整形。	
第365図	6	須恵器 椀	床面から20cm上 底部	底 台	8.4 10.0		細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。	
第365図	7	灰釉陶器 椀	掘方埋土 口縁部片	口	14.2		微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、施釉方法不明。	大原2号窯式 期。
第365図	8	灰釉陶器 椀	床面から7cm上 底部片	底 台	7.4 7.0		微砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。 施釉方法不明。	大原2号窯式 期。
第365図	9	灰釉陶器 椀	埋土 底部片	底 台	6.4 6.0		微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。 施釉方法不明。	大原2号窯式 期。
第365図	10	灰釉陶器 長頸壺	貯蔵穴底から9 cm上 底部	底 台	9.0 8.7		微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。 施釉方法不明。	光ヶ丘1号窯 式期。
第365図	11	須恵器 甌	埋土 口縁部片	底	19.0		細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形。	
第365図 PL.417	12	須恵器 羽釜	カマド使用面から 6cmと19cmと 20cm上が接合 口縁部～胴部下 位1/2	口 鏝	20.0 25.0		細砂粒/酸化焰/に ぶい橙	ロクロ整形、回転右回りか。外面胴部に輪積痕が残る。鏝 は貼付、胴部にヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第365図	13	須恵器 羽釜	カマド使用面から 19cm上 口縁部片	口 鏝	17.0 21.4		細砂粒/酸化焰/に ぶい橙	ロクロ整形、回転方向不明。鏝は貼付、胴部にヘラ削り。	
第365図 PL.418	14	須恵器 甕	カマド使用面直 上 口縁部片				細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	ロクロ整形、回転方向不明。口縁部には3～4条1単位の波 状文が3段以上巡る。内面に降灰が厚く付着。	
第365図 PL.417	15	鉄製品 釘?	掘方から6cm上 破片	長 幅	8.1 1.2	厚 重	0.8 8.55	断面長方形の角棒状で一端に向かい細くなるが端部は劣化 破損する。他の端部も劣化破損するため全体形状は不明。	
第365図 PL.417	16	鉄製品 釘	カマド埋土 ほぼ完形	長 幅	3.7 0.8	厚 重	0.9 2.82	断面ほぼ正方形の角釘。頭は角形で先端に向かい細くなり 尖る。木質等の痕跡は確認できない。	
第365図 PL.417	17	鉄製品 鉸具	埋土 ほぼ完形	長 幅	4.7 5.4	厚 重	2.4 57.50	先端側が広く膨らんだ形状の輪金にT字形の刺金を持つ鉸 具。全体に錆に覆われ帯本体の残存は確認できない。	
第365図 PL.417	18	鉄製品 紡錘車・紡 輪	埋土 ほぼ完形	長 幅	4.0 3.9	厚 重	1.4 17.56	ほぼ円形の紡輪で。紡軸は遺存せず中央の穴は錆化により 塞がる。	
第365図 PL.417	19	鉄製品 不詳	埋土 ほぼ完形	長 幅	4.1 0.9	厚 重	0.7 2.95	断面長方形の角棒状鉄製品。両端ともやや丸みを持ち終わ る。	
第366図 PL.418	20	石製品 石製品	床面から10cm上 完形	長 幅	25.4 23.9	厚 重	8.1 7130.0	粗粒輝石安山岩 表面及び裏面は全体的に非常に滑らかである。表面の3ヶ 所に浅い皿状の孔が認められる。孔の内部は比較的滑らか である。扁平な円盤を利用している。	

Ⅶ区59号住居

第367図	1	土師器 杯	埋土 底部～体部下 半	底	4.5		細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第367図	2	灰釉陶器 皿	埋土 口縁部片	口	14.8		微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。施釉方法は漬け掛け。	大原2号窯式 期。
第367図	3	灰釉陶器 段皿	床面から19cm上 口縁部片	口	17.0		微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。施釉方法は不明。	光ヶ丘1号窯 式期。
第367図	4	灰釉陶器 椀	埋土 底部片	底 台	7.2 7.0		微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。 施釉方法不明。	大原2号窯式 期。
第367図 PL.418	5	白磁器 椀	埋土 口縁部片				夾雑物無/還元焰/ 灰白	口唇部は玉縁状を呈す。	
第367図	6	須恵器 羽釜	床面から28cm上 口縁部～胴部 中位片	口 鏝	21.1 25.0		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転方向不明。鏝は貼付。	
第367図 PL.418	7	須恵器 甕	底から25cm上 口縁部片				細砂粒/酸化焰/に ぶい褐	ロクロ整形。口唇部下に凸帯が貼付。	
第367図	8	鉄製品 釘	床面から26cm上 破片	長 幅	4.5 2.8	厚 重	0.7 6.45	断面正方形の角釘。頭部分は劣化破損、先端から2.5cm程 で直角に曲がる。木質等の痕跡は見られない。	
第367図 PL.418	9	鉄製品 釘	床面から26cm上 ほぼ完形	長 幅	3.5 1.0	厚 重	1.2 8.31	断面長方形の角釘と見られる鉄製品。頭は薄く広げコの字 に折り曲げる。先端に向かい急に細くなりやや尖る。	

Ⅶ区60号住居

第370図 PL.418	1	須恵器 杯	埋土 完形	口 底	8.0 5.5	高	1.5	細砂粒/酸化焰/淡 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第370図	2	灰釉陶器 椀	埋土 底部片	底	8.0			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。 高台端部に重ね焼き痕が残る。	大原2号窯式 期。

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第370図 PL.418	3	灰釉陶器 段皿	掘方埋土 口縁部片	口	13.6		微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。施釉方法不明。	虎溪山1号窯 式期～丸石2 号窯式期。	
第370図 PL.418	4	灰釉陶器 椀	埋土 口縁部片	口	13.88		微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。施釉方法は漬け掛け。	大原2号窯式 期。	
第370図	5	土師器 甕	床面直上 口縁部片	口	24.4		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。		
Ⅶ区97号住居										
第370図	6	灰釉陶器 皿	埋土 底部1/3	底 台	6.6 6.5		微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼 付。施釉方法不明。	大原2号窯式 期。	
第370図	7	灰釉陶器 段皿	埋土 口縁部片	口	14.6		微砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回りか。体部下位は回転ヘラ削り。施 釉方法不明。	虎溪山1号窯 式期。	
第370図 PL.418	8	鉄製品 不詳	床面直上 破片	長 幅	4.3 3.5	厚 重	0.7 11.70	薄い板状鉄製品破片。一部端部は折り返したように肥厚す る。		
Ⅶ区62号住居										
第371図	1	須恵器 椀	カマド掘方埋土 口縁部～底部片	口	11.8		細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形。		
第371図	2	灰釉陶器 椀	埋土 口縁部～底部片	口 底	11.8 6.4	台 高	5.9 2.2	微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。 丸石2号窯式 期。	
第371図	3	須恵器 羽釜	埋土 口縁部片	口 鏝	23.6 25.4			細砂粒/酸化焰/黄 灰	ロクロ整形、回転方向不明。鏝は貼付。	
Ⅶ区63号住居										
第374図 PL.418	1	黒色土器 椀	カマド使用面から 9cm上 口縁部2/3欠	口 底	13.7 7.0	台 高	7.0 6.0	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	内面黒色処理が、二次被熱を受ける。ロクロ整形、回転右 回り。底部回転糸切り後高台を貼付。内面は全面ヘラ磨き。	
第374図	2	黒色土器 椀	床面から6cm上 口縁部片	口	13.6			細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	内面黒色処理が、二次被熱を受ける。ロクロ整形、回転右 回り。内面は全面ヘラ磨き。	
第374図 PL.418	3	須恵器 杯	カマド使用面から 9cm上 1/3	口 底	13.7 6.6	高	5.1	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第374図 PL.418	4	須恵器 椀	カマド使用面から 13cm上 1/3	口 底	15.0 7.4	台 高	10.0 7.2	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。	
第374図	5	灰釉陶器 皿	床面直上 破片	口 底	11.8 7.0	台 高	6.4 2.1	微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼 付。施釉方法は漬け掛けか。	虎溪山1号窯 式期。
第374図 PL.418	6	土師器 甕	カマド使用面直 上と6cmと18cm 上が接合 口縁部～胴部上 位1/3	口	23.8			細砂粒/良好/浅黄 橙	ロクロ整形、回転方向不明。内面はヘラナデ。 北陸系ロクロ 甕。	
Ⅶ区64号住居										
第375図 PL.418	7	黒色土器 椀	床面直上 3/4	口 底	13.5 7.8	台 高	7.5 5.1	細砂粒/酸化焰/浅 黄	内面黒色処理。ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り 後高台を貼付。内面はヘラ磨き、口縁部は剥離のため不鮮 明。	
第375図 PL.418	8	黒色土器 椀	カマド使用面から 25cm上 3/4	口 底	13.7 7.0	台 高	7.3 5.6	細砂粒/酸化焰/浅 黄	内面黒色処理。ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り 後高台を貼付。内面はヘラ磨き。	
第375図	9	須恵器 杯	床面直上 底部～体部片	底	8.0			細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。右底部は回転糸切り無調整。	
第375図 PL.418	10	須恵器 椀	床面から21cm上 口縁部一部欠	口 底	9.4 4.1	高	3.6	細砂粒/酸化焰/浅 黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。底部 は疑似高台状を呈す。	
第375図 PL.418	11	須恵器 椀	床面直上 1/3	口 底	14.1 6.7	台 高	6.1 5.2	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部の切り離し技法は器面磨滅 のため不明、高台は貼付。	
第375図 PL.418	12	須恵器 椀	カマド使用面直 上 口縁部一部欠	口 底	12.2 7.6	台 高	7.9 4.8	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第375図 PL.418	13	須恵器 椀	床面から11cm上 1/3	口 底	14.8 7.4	台 高	6.6 5.3	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第375図	14	須恵器 椀	カマド埋土 口縁部片	口	12.4			細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回りか。体部下位に回転ヘラ削り。	
第375図	15	須恵器 椀	床面から13cm上 1/3	底 台	7.0 10.0			細砂粒/酸化焰/に ぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。	
第375図	16	灰釉陶器 椀	床面から20cm上 1/3	口 底	13.5 7.3	台 高	7.2 4.1	微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼 付。施釉方法は漬け掛け。	大原2号窯式 期。
第375図	17	灰釉陶器 椀	埋土 破片	口	12.1			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。施釉方法は漬け掛けか。	大原2号窯式 期。
第375図	18	灰釉陶器 椀	床面から26cm上 底部	底 台	6.1 5.8			微砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後周囲をヘラ ナデ、高台は貼付。施釉方法は漬け掛けか。	大原2号窯式 期～虎溪山1 号窯式期。
第375図	19	須恵器 甕	床面直上 胴部下位～底部 1/3	底	18.4			細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/橙	ロクロ整形、回転方向不明。底部と胴部下位は回転ヘラ削 り。内面はアテ具痕がかすかに残る。	
第375図	20	土師器 甕	床面から10cm上 口縁部～胴部上 位1/3	口	18.6			細砂粒・粗砂粒/ 良好/明赤褐	外面胴部に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部 はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	

Ⅶ区65号住居

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				底台						
第377図	1	黒色土器 椀	カマド使用面6cm上 底部～体部	底台	7.0 7.4			細砂粒/酸化焰/にぶい黄橙	内面黒色処理。ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。内面はヘラ磨き。	
第377図 PL.418	2	須恵器 椀	カマド使用面直上 口縁部一部欠	口底	13.6 7.4	台高	7.2 6.2	細砂粒/酸化焰/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第377図	3	須恵器 椀	カマド使用面直上 1/4	口底	13.4 7.2	台高	7.2 5.3	細砂粒/酸化焰/浅黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第377図	4	須恵器 甗	床面から23cm上 底部～体部	底	3.9			細砂粒/酸化焰/にぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第377図	5	須恵器 甗	カマド使用面8cm上 口縁部片	底	23.8			細砂粒/酸化焰/にぶい橙	ロクロ整形。	
第377図 PL.418	6	土製品 土錘	埋土 完形	長幅	4.0 1.2	孔重	0.4 5.3	微砂粒/良好/灰黄褐	外面はナデ。	
第377図 PL.418	7	鉄製品 刀子	床面直上 破片	長幅	8.9 1.6	厚重	1.2 12.27		棟・刃側ともに明瞭な間を持つ刀子。刃の先端劣化破損し、刃は間近くで大きくカーブし研ぎ減りとみられる。茎は1cm程で劣化破損する。	

Ⅶ区66号住居

第379図 PL.419	1	須恵器 椀	床面直上 3/4	底	6.9			細砂粒/酸化焰/にぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。	
第379図	2	須恵器 椀	床面直上 底部1/2	底台	7.0 8.6			細砂粒/酸化焰/にぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。	
第379図	3	灰釉陶器 皿	床面から7cm上 1/6	口底	11.8 6.0	台高	5.6 2.7	微砂粒/還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法は漬け掛け。	大原2号窯式期。
第379図 PL.419	4	灰釉陶器 椀	床面直上と11cm上 が接合 1/2	口底	12.8 7.4	台高	7.0 4.0	微砂粒/還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法は漬け掛け。	大原2号窯式期。
第379図 PL.419	5	灰釉陶器 椀	床面から5cm上 底部～体部	底台	8.4 8.2			微砂粒/還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法は漬け掛け。	大原2号窯式期。
第379図	6	土師器 甗	カマド使用面直上 口縁部片	口	24.0			細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第379図	7	土師器 羽釜	掘方直上 口縁部片	口鏝	25.8 27.6			細砂粒/良好/にぶい黄橙	鏝は貼付、胴部は横位のヘラ削り。内面は口縁部が横ナデ、胴部はヘラナデ。	
第379図 PL.419	8	須恵器 羽釜	カマド使用面直上と8cmと12cm上 が接合 口縁部～胴部中位1/2	口鏝	20.2 23.8			細砂粒/酸化焰/明褐	ロクロ整形、回転方向不明。鏝は貼付、胴部は上から下へのヘラ削り。内面はヘラナデ。	
第379図	9	須恵器 羽釜	床面直上 口縁部～胴部上位片	口鏝	24.8 27.3			細砂粒/酸化焰/にぶい黄橙	ロクロ整形、回転方向不明。鏝は貼付、胴部は上から下へのヘラ削り。内面はヘラナデ。	
第379図	10	須恵器 羽釜	床面直上 口縁部片	口鏝	25.6 30.0			細砂粒/酸化焰/灰黄褐	ロクロ整形、回転方向不明。鏝は貼付、胴部は上から下へのヘラ削り。内面はヘラナデ。	

Ⅶ区67号住居

第381図 PL.418	1	須恵器 杯	床面から13cm上 底部～体部	底	4.0			細砂粒・粗砂粒/酸化焰/にぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。底部は疑似高台状を呈す。	
第381図	2	須恵器 椀	埋土 底部1/2	底台	7.4 8.6			細砂粒/酸化焰/橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。	
第381図	3	土師器 羽釜	カマド使用面直上 口縁部～胴部上位	口鏝	25.6 30.4			細砂粒/良好/にぶい黄橙	鏝は貼付、胴部は横位のヘラ削り。内面は口縁部が横ナデ、胴部はヘラナデ。	

Ⅶ区68号住居

第383図 PL.419	1	須恵器 杯	床面から6cm上 完形	口底	8.2 5.0	高	2.2	細砂粒/酸化焰/浅黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第383図 PL.419	2	灰釉陶器 椀	床面直上 底部下位～高台部1/3	底台	7.4 7.0			微砂粒/還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法は漬け掛けか。	大原2号窯式期。
第383図 PL.419	3	土師器 小型甗	床面直上 口縁部～胴部下位1/2	口	14.9			細砂粒・粗砂粒/良好/灰褐	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第383図 PL.419	4	土師器 甗	床面直上 口縁部～胴部上位1/3	口	20.4			細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい褐	口縁部は横ナデ、胴部上位はナデ、中位はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第383図 PL.419	5	土師器 甗	床面から5cm上 口縁部～胴部中位片	口	25.5			細砂粒/良好/明赤褐	外面頸部に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第383図	6	土師器 甗	床面直上 口縁部片	口	20.2			細砂粒・粗砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第383図	7	土師器 甗	床面から5cm上 口縁部片	口	26.0			細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい橙	外面頸部に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	

Ⅶ区70号住居

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				底台	口底	台高			
第385図	1	須恵器 椀	床面直上 3/4	口底 6.0 6.4	台高		細砂粒/酸化焰/に ぶい褐	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第385図	2	灰釉陶器 皿	埋土 1/3	口底 14.1 6.8	台高 6.2 3.0		微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法は漬け掛けか。	大原2号窯式 期。
第385図 PL.419	3	灰釉陶器 椀	床面直上 1/2	口底 13.2 6.6	台高 6.5 4.5		微砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付、体部下位に回転ヘラ削り。施釉方法は漬け掛け。	大原2号窯式 期。
第385図 PL.419	4	土師器 甕	床面直上と6cm 上が接合 口縁部～胴部中 位1/2	口 17.8			細砂粒/良好/橙	外面に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第385図 PL.419	5	須恵器 羽釜	床面から5cm上 口縁部片	口 19.0 鏝 24.4			細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい橙	ロクロ整形、回転方向不明。鏝は貼付。	
第385図	6	不明 羽釜	床面直上と7cm 上が接合 口縁部片	口 21.8 鏝 27.0			細砂粒/酸化焰/に ぶい橙	ロクロ整形、回転方向不明。鏝は貼付、胴部はヘラ削り。	

Ⅶ区71号住居

第388図 PL.420	1	須恵器 杯	床面直上 3/4	口底 10.0 4.6	高 3.8		細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第388図 PL.420	2	須恵器 椀	床面から5cm上 1/3	口底 14.6 6.6			細砂粒/酸化焰/橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付、高台は剥落。口縁部から体部は器面磨滅。	
第388図	3	須恵器 杯	床面から8cm上 口縁部片	口 13.8			細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回りか。	
第388図 PL.420	4	須恵器 長頸壺	床面から8cm上 頸部1/2				細砂粒/酸化焰/黄 灰	ロクロ整形、回転右回りか。頸部下位にヘラナデ。	
第388図	5	須恵器 長頸壺	床面直上 底部	底台 12.0 11.6			細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい橙	ロクロ整形、回転右回りか。底部の整形は器面磨滅のため不明、高台は貼付、胴部下位にヘラ削り。	
第388図	6	須恵器 羽釜	貯蔵穴底から 6cm上 口縁部片	口 19.9 鏝 23.0			細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転方向不明。鏝は貼付。	
第388図	7	須恵器 羽釜	埋土 口縁部～胴部上 位片	口 21.8 鏝 24.8			細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回りか。鏝は貼付、胴部はヘラナデ、内面胴部もヘラナデ。	
第389図	8	須恵器 羽釜	床面直上と土坑 2底から14cm上 が接合 口縁部片	口 23.8 鏝 27.3			細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転方向不明。鏝は貼付。	
第389図 PL.420	9	須恵器 甕	床面直上と5cm と6cmと10cm上 が接合 胴部上位～底部 3/4	底 12.2			細砂粒/酸化焰/黄 灰	ロクロ整形、回転右回り。底部と胴部下半は手持ちヘラ削り、胴部上半は回転ヘラナデ。	
第389図 PL.420	10	石製品 砥石	床面直上 完形	長 幅 7.2 2.6	厚 重 2.1 70.6		砥沢石	砥面は4面認められる。上方に径約4mmの孔が認められ両側穿孔されている。上下面に小さな漏斗状の孔が集中する。左右側面には、上方と下方に一つずつ漏斗状の孔が認められる。正裏面には、下方に一つの漏斗状の孔が認められる。孔の内面はいずれも滑らかであり、工具を回転させることで形成されたと考えられる。	

Ⅶ区91号住居

第389図 PL.419	11	須恵器 椀	床面から17cm上 2/3	口底 14.5 6.1	台高 6.6 5.6		細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第389図 PL.419	12	須恵器 椀	カマド使用面直 上 2/3	口底 13.8 6.0	台高 6.2 5.8		細砂粒/酸化焰/黄 灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。	
第389図 PL.419	13	須恵器 椀	床面から34cm上 1/3	口 13.4			細砂粒/酸化焰/灰 白	ロクロ整形。	外面に「加主」 の墨書。
第389図	14	須恵器 椀	床面から25cm上 1/4	底台 6.0 6.4			細砂粒/酸化焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第389図	15	土師器 甕	床面直上 口縁部片	口 18.0			細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	

Ⅶ区72号住居

第391図 PL.420	1	須恵器 椀	床面から5cm上 完形	口底 14.2 6.8	台高 6.2 5.7		細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	内外面の口唇 部にスガが付 着。
第391図	2	須恵器 椀	床面から29cm上 1/3	口底 13.6 6.4	台高 6.0 5.3		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第391図	3	須恵器 椀	貯蔵穴底から 16cm上 1/3	口底 13.8 7.3	台高 7.4 5.7		細砂粒/酸化焰/に ぶい黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第391図	4	須恵器 羽釜	床面から12cmと 18cm上が接合 口縁部～胴部上 位片	口 17.2 鏝 22.4			細砂粒/酸化焰/灰 黄	ロクロ整形、回転方向不明。鏝は貼付。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第391図	5	須恵器 羽釜	埋土 口縁部～胴部上 位片	口 鏝	22.8 25.2			細砂粒・褐粒/酸化 焰/にぶい黄橙	ロクロ整形、回転方向不明。鏝は貼付、胴部はヘラナデ、 内面胴部もヘラナデ。	
第391図 PL.420	6	鉄製品 刀子	床面直上 破片	長 幅	7.3 1.1	厚 重	0.8 8.25		断面細い台形状で刀子の茎と見られる。刃側は破損錆化し 茎尻は劣化破損する。木質等の痕跡は見られない。	
Ⅶ区73号住居										
第393図 PL.420	1	土師器 小型甕	床面直上 口縁部～胴部中 位	口	10.5			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部が ヘラナデ。	
第393図	2	須恵器 瓶	床面直上 脚部片	脚	22.4			細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/黄灰	ロクロ整形。	
第393図	3	須恵器 甕	床面直上 胴部片					細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/褐灰	外面はヘラナデ、内面はアテ具痕の痕跡が残る。	
第393図 PL.420	4	鉄製品 鎌	床面直上 ほぼ完形	長 幅	14.8 8.2	厚 重	2.0 58.58		幅広の鉄鎌。柄装着部は小さくコの字状に折り曲げる。柄 装着部分に木質等の痕跡は見られない。	
第393図 PL.420	5	鉄製品 刀子	床面直上 ほぼ完形	長 幅	18.8 2.5	厚 重	1.3 32.34		棟側に明瞭な関を持つ刀子。茎は長く柄と見られる広葉樹 散孔材の木質痕が残る。	
第393図 PL.420	6	鉄製品 釘	床面直上 ほぼ完形	長 幅	4.0 1.1	厚 重	1.1 4.61		断面ほぼ正方形に近い角釘。頭は薄く幅広く広げくの字に 折り曲げる。本体に直行する板目材の痕跡が見られるが不明 瞭。	
第393図 PL.420	7	鉄製品 刀子	床面直上 破片	長 幅	5.5 1.2	厚 重	0.8 4.43		棟・刃側ともに明瞭な関を持つ刀子破片とこれと同一個体 と見られる茎破片だが直接接合はしない。木質等の痕跡は 見られない。	7は同一個体
第393図 PL.420	7	鉄製品 刀子	床面直上	長 幅	2.5 0.6	厚 重	0.5 0.66			7は同一個体
第393図 PL.420	8	鉄製品 刀子	床面直上 破片	長 幅	7.1 1.2	厚 重	1.1 7.02		棟側に関を持つ刀子。刃は0.5cm程で破損する、茎は全体 を柄材と見られる広葉樹散光材の木質痕跡に覆われる。柄 は丸木で中心部分に茎を挿入する。	
第393図 PL.420	9	鉄製品 不詳	床面直上 一部欠損	長 幅	9.0 1.3	厚 重	1.3 14.15		断面ほぼ正方形の角棒状の鉄製品。一端に向かい徐々に細 くなるが端部は角形で終わる。他の端部は劣化破損する。	
第393図 PL.420	10	鉄製品 不詳	床面から5cm上 破片	長 幅	4.9 4.7	厚 重	1.5 27.76		厚さ0.4cm程の湾曲する板状鉄製品破片。全体に放射割れ が入り鑄造鉄製品の破片と見られる。	
Ⅶ区74号住居										
第398図 PL.420	1	須恵器 椀	カマド1掘方から 12cm上 口縁部一部欠	口 底	12.3 5.8	高	4.2	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第398図	2	須恵器 椀	床面から29cm上 口縁部片	口	11.6			細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回りか。	
第398図	3	須恵器 椀	床面から17cm上 口縁部片	口	13.0			細砂粒/酸化焰/浅 黄橙	ロクロ整形、回転右回りか。	
第398図 PL.420	4	須恵器 椀	床面から12cm上 1/2	口 底	12.4 5.6	台 高	5.1 4.9	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第398図 PL.420	5	須恵器 椀	床面から22cm上 1/3	口	16.6			細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/浅黄	ロクロ整形、回転右回りか。	
第398図 PL.420	6	須恵器 椀	床面から33cm上 1/3	底 台	6.2 5.7			細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第398図	7	須恵器 椀	埋土 底部～体部	底 台	7.2 6.7			細砂粒/酸化焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第398図	8	灰釉陶器 皿	埋土 1/6	口 底	12.7 7.4	台 高	7.0 2.9	微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。体部下位に回転ヘラ削り。施 釉方法は漬け掛け。	大原2号窯式 期。
第398図 PL.420	9	灰釉陶器 椀	床面から14cm上 1/3	口 底	14.2 7.4	台 高	7.0 4.0	微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼 付。施釉方法は刷毛塗り。	光ヶ丘1号窯 式期。
第398図	10	灰釉陶器 椀	床面から18cm上 口縁部片	口	15.0			微砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回りか。施釉方法は漬け掛け。	大原2号窯式 期。
第398図	11	灰釉陶器 椀	カマド埋土 口縁部片	口	16.0			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。体部下位に回転ヘラ削り。施 釉方法は漬け掛け。	大原2号窯式 期。
第398図 PL.420	12	須恵器 把手付瓶	カマド2使用面 から45cm上 胴部片					細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。把手は貼付。	
第398図	13	土師器 甕	埋土 口縁部片	口	16.8			細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ。	
第398図	14	土師器 甕	カマド2使用面 から20cmと24cm と26cm上が接合 口縁部～胴部上 位1/3	口	21.6			細砂粒・粗砂粒/ 良好/明赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部が ヘラナデ。	
第398図 PL.421	15	土師器 甕	カマド使用面から 33cmと36cm上 口縁部～胴部中 位3/4	口	19.2			細砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部が ヘラナデ。	
第398図 PL.421	16	須恵器 羽釜	カマド2使用面 直上と17cm～ 48cmの遺物群が 接合 口縁部～胴部下 位1/2	口 鏝	18.0 23.4			細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 橙	ロクロ整形、回転右回り。鏝は貼付、胴部は中位から下位 にヘラ削り。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第398図 PL.421	17	須恵器 甕	カマド2使用面 直上と5cm～ 47cmの遺物群が 接合 胴部上位～底部 1/3	底	7.0			細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい橙	ロクロ整形。底部はへら削りか、胴部は横位と縦位のへら 削り。内面はへらナデ。
第398図 PL.421	18	鉄製品 鏝	掘方埋土 一部欠損	長 幅	6.6 4.0	厚 重	1.3 21.58		雁又の鉄鏝。茎との境は両側に段を持ち茎は短く角形で終 わり破損の可能性が有るが、全体に厚く鏝に覆われ詳細は 不明。

Ⅶ区102号住居

第399図	1	須恵器 椀	カマド1の掘方 から16cm上 口縁部片	口	14.0			細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回りか。
第399図	2	灰釉陶器 椀	埋土 口縁部片	口	14.8			微砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回りか。施釉方法は漬け掛け。口唇端 部にスガが付着。
第399図	3	土師器 台付甕	床面から20cm上 底部～脚部片	脚	10.6			細砂粒/良好/浅黄 橙	脚部は貼付、胴部はへら削りか、脚部は横ナデ。内面胴部 はへらナデ。
第399図 PL.421	4	須恵器 羽釜	床面直上と15cm ～30cm上の遺 物群が接合 口縁～胴部中位 1/3	口 鏝	20.2 24.0			細砂粒/酸化焰/浅 黄橙	ロクロ整形、回転方向不明。鏝は貼付。
第399図	5	須恵器 羽釜	カマド1使用面 から5cm上 口縁部片	口 鏝	21.2 21.2			細砂粒/酸化焰/に ぶい橙	ロクロ整形、回転方向不明。鏝は貼付。

Ⅶ区103号住居

第401図	1	須恵器 杯	貯蔵穴底から 18cm上 1/4	口 底	14.2 8.4	高	3.4	細砂粒・黒色粒/ 還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後回転へら削 りか。
第401図 PL.421	2	須恵器 椀	床面直上 3/4	口 底	15.6 7.7	台 高	7.3 5.4	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。
第401図	3	須恵器 椀	床面直上 1/4	口 底	13.4 7.4	台 高	7.0 5.0	細砂粒/酸化焰/に ぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。
第401図 PL.421	4	須恵器 長頸壺	床面から46cm上 口縁部～頸部片	口	16.2			細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。口唇部に凹線が1条巡る。
第401図 PL.421	5	鉄製品 紡錘車	床面直上 破片	長 幅	7.7 5.3	厚 重	5.3 48.07		ほぼ円形の紡輪と紡軸が残る紡錘車。紡軸中央は断面丸み を持つ四角形で端部に向かい細くなるとともに断面は丸く なる。端部から3cm程でくの字に折れ曲がる。

Ⅶ区75号住居

第404図	1	須恵器 椀	堀方から5cm上 口縁部～体部片	口	15.7			細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄	内面黒色処理。ロクロ整形。
第404図	2	須恵器 椀	カマド使用面直 上 底部	底 台	6.5 6.6			細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。
第404図	3	灰釉陶器 皿	埋土 底部片	底 台	7.2 7.0			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転へらナデ、高台は 貼付。施釉方法不明。
第404図 PL.422	4	土師器 羽釜	床面直上 底部一部欠	口 鏝	14.8 19.7	高	13.1	細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい黄橙	鏝は貼付、口唇端部は平坦面を作る。口縁部は横ナデ、胴 部と底部は手持ちへら削り。内面は底部から胴部がへらナ デ。
第404図 PL.422	5	須恵器 羽釜	床面直上 口縁部～胴部下 位1/3	口 鏝	22.6 29.2			細砂粒・粗砂粒・ 褐粒/酸化焰/明褐	ロクロ整形、回転方向不明。鏝は貼付、胴部は下位から上 位へのへら削り。内面はへらナデ。
第404図	6	須恵器 羽釜	床面直上 口縁部～胴部上 位	口 鏝	24.0 28.6			細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転方向不明。鏝は貼付、胴部は上位から下 位へのへら削り。
第404図	7	須恵器 羽釜	床面から10cm上 口縁部片	口 鏝	23.4 26.8			細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい赤 褐	ロクロ整形、回転方向不明。鏝は貼付、胴部は下位から上 位へのへら削り。内面はへらナデ。
第404図	8	須恵器 羽釜	カマド使用面直 上 口縁部片	口 鏝	22.4 27.2			細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/灰黄褐	ロクロ整形、回転方向不明。鏝は貼付、胴部は下位から上 位へのへら削り。内面はへらナデ。

Ⅶ区111号住居

第404図	9	須恵器 杯	堀方から9cm上 1/4	口 底	10.0 7.0	高	1.4	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。
第404図	10	須恵器 椀	床面直上 1/3	口 底	15.0 7.0	台 高	9.0 6.9	細砂粒/酸化焰/燻 /にぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。
第404図	11	土師器 甕	床面直上 口縁部～胴部上 位片	口	21.8			細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへら削り。内面は胴部が へらナデ。
第404図 PL.421	12	須恵器 羽釜	掘方埋土 口縁～胴部中位	口 鏝	24.8 28.8			細砂粒・褐粒/酸 化焰/明黄褐	胴部外面に輪積痕が残る。ロクロ整形、回転右回りか。鏝 は貼付。胴部はへら削り。内面胴部はへらナデ。
第404図 PL.421	13	石製品 砥石	埋土 不明	長 幅	(4.1) (3.4)	厚 重	(1.4) 22.5	砥沢石	砥面は2面認められる。正面及び左側面はほぼ平坦である。 上下面及び右側面から裏面に欠損。

Ⅶ区76号住居

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	口高	台高	厚重			
第406図 PL.422	1	須恵器 杯	床面から21cm上 口縁部一部欠	口底 11.6 5.5	口高 3.8			細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第406図 PL.422	2	須恵器 椀	埋土 3/4	口底 12.8 7.2	口高 4.6			細砂粒/酸化焰/に ぶい橙	ロクロ整形、回転方向不明。器面磨滅のため詳細不明。	
第406図 PL.422	3	須恵器 椀	床面から12cm上	口底 13.2 6.2	口高 6.6 6.0			細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第406図	4	灰釉陶器 椀	床面から11cm上 底部片	口底 6.0 5.8	口高			細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法不明。	大原2号窯式 期。
第406図	5	須恵器 長頸壺	埋土 底部片	口底 9.8 9.8	口高			細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。胴部下位に回転ヘラ削り。	
第406図	6	須恵器 長頸壺	埋土 底部片	口底 13.8 13.0	口高			細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。胴部下位に回転ヘラ削り。	
第406図	7	土師器 小型甕	床面から8cm上 口縁部片	口底 14.8	口高			細砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第406図	8	土師器 甕	床面から7cm上 口縁部片	口底 21.6	口高			細砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第406図 PL.422	9	鉄製品 刀子	床面から12cm上 破片	長幅 4.9 1.9	厚重 0.7 6.22				棟・刃側ともに明瞭な関を持つ刀子。刃は0.5cm程で破損し錆に覆われる。茎の一部表面には広葉樹材の木質痕跡が残る。	
第406図 PL.422	10	鉄製品 紡錘車	埋土 一部欠損	長幅 16.2 5.5	厚重 5.2 38.33				やや歪な円形の紡輪に対しやや斜めに貫通する紡軸からなる紡錘車。紡輪は紡輪付近では断面は角張両端に向かい細くなるとともに断面は丸くなる。一方の端部は完存丸みを持つ他の端部は劣化破損する。	

Ⅶ区110号住居

第406図	11	須恵器 椀	埋土 口縁部片	口底 14.0	口高			細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。	
第406図	12	土師器 小型甕	埋土 口縁部片	口底 14.2	口高			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部から頸部は横ナデ。	

Ⅶ区77号住居

第409図	1	黒色土器 椀	埋土 1/3	口底 6.6	口高			細砂粒/酸化焰/黒 褐	内外面黒色処理。ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付、高台は剥落。	
第409図	2	須恵器 皿	床面から21cm上 1/3	口底 13.6 7.6	口高 7.2 2.3			細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。	
第409図 PL.422	3	須恵器 杯	床面から11cm上 3/4	口底 13.1 6.2	口高 3.4			細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第409図	4	須恵器 杯	貯蔵穴底から 12cm上 3/4	口底 13.5 5.7	口高 3.9			細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第409図	5	須恵器 杯	床面から10cm上 1/3	口底 6.4	口高			細砂粒/還元焰/褐 灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第409図 PL.422	6	須恵器 椀	床面から9cm上 3/4	口底 13.3 6.8	口高 6.3 4.7			細砂粒/還元焰/浅 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第409図 PL.422	7	須恵器 椀	床面直上 1/4	口底 14.2 6.8	口高 7.3 5.3			細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第409図	8	須恵器 椀	堀方から13cm上 1/4	口底 12.6 6.0	口高 3.6			細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第409図	9	須恵器 椀	床面直上 1/4	口底 14.0 6.8	口高 6.0 5.3			細砂粒/還元焰/に ぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第409図	10	須恵器 椀	埋土 口縁部片	口底 13.4	口高			細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。	
第409図	11	須恵器 椀	床面から22cm上 口縁部片	口底 15.0	口高			細砂粒/還元焰/に ぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。	
第409図	12	須恵器 椀	床面直上 底部片	口底 6.9 6.3	口高			細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/黄灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第409図	13	須恵器 椀	堀方から9cm上 底部1/2	口底 6.4 6.0	口高			細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。	
第409図	14	土師器 小型甕	床面直上 口縁部片	口底 12.0	口高			細砂粒/良好/にぶ い赤褐	外面頸部に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第409図	15	土師器 小型甕	カマド堀方から 10cm上 口縁部～胴部中 位1/3	口底 11.6	口高			細砂粒/良好/にぶ い黄褐	外面口縁部と頸部に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は口縁部下半から胴部にヘラナデ。	
第409図	16	土師器 甕	堀方直上 口縁部片	口底 18.3	口高			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第409図	17	土師器 甕	床面から11cm上 口縁部片	口底 20.0	口高			細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第409図 PL.422	18	鉄製品 釘?	床面直上 破片	長幅 6.4 2.2	厚重 1.2 13.42				断面ほぼ正方形の角釘と見られる鉄製品。しの子形に曲がるが全体に厚く錆に覆われ詳細は不明。	

Ⅶ区112号住居

第410図 PL.422	19	須恵器 椀	カマド使用面か ら10cm上 3/4	口底 13.9 6.4	口高 5.6 5.0			細砂粒/還元焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
-----------------	----	----------	--------------------------	-------------------	------------------	--	--	-------------------	----------------------------	--

挿図 PL.No.	No.	種 器 種	出土位置 残 存 率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第410図	20	須恵器 椀	カマド使用面から6cm上 1/2	底 台	8.2 6.2			細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。	
第410図	21	須恵器 椀	掘方埋土 底部片	底 台	6.8 6.0			細砂粒/酸化焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	

Ⅶ区78号住居

第412図 PL.422	1	須恵器 椀	カマド使用面直 上 1/2	口 底	13.7 6.5	高	5.6	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。底部と体部下位は回転ヘラ削り。底部に焼成後の穿孔、再利用か。	
第412図 PL.422	2	須恵器 椀	カマド使用面直 上 1/2	口 底	13.0 6.3	台 高	5.7 4.9	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第412図 PL.422	3	須恵器 椀	床面直上 1/3	口 底	12.3 6.8	台 高	6.8 5.9	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第412図 PL.422	4	須恵器 椀	埋土 1/4	口 底	18.4 8.0			細砂粒・粗砂粒・ 片岩/酸化焰/にぶ い黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。高台を打ち欠き端部を研磨して再使用か。	
第412図	5	灰釉陶器 輪花椀	カマド使用面から5cm上 口縁～体部片	口	19.8			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。口唇部に輪花。施釉方法は漬け掛け。二次被熱を受けている。	大原2号窯式期。
第412図	6	須恵器 羽釜	埋土 口縁部～胴部下 位1/3	口 鏝	18.1 22.1			細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。鏝は貼付。	
第412図 PL.422	7	鉄製品 釘?	床面から23cm上 破片	長 幅	3.4 1.3	厚 重	1.1 3.34		断面ほぼ正方形の角釘と見られる鉄製品。わずかに曲がり両端は破損と見られるが全体に厚く錆に覆われ詳細は不明。	

Ⅶ区79号住居

第414図	1	須恵器 杯	埋土 底部片	底	5.6			細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第414図	2	須恵器 杯	床面から9cm上 底部片	底	5.6			細砂粒/酸化焰/燻 /黒褐	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第414図	3	須恵器 椀	掘方から21cmと 22cm上が接合 1/3	口 底	13.6 7.4	台 高	7.8 6.6	細砂粒/酸化焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、かすかに糸切痕が残る、高台は貼付。内面底部に強いロクロ痕。	
第414図	4	須恵器 椀	埋土 口縁部片	口	12.8			細砂粒/酸化焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回りか。	
第414図	5	須恵器 椀	掘方から30cm上 底部	底 台	6.6 6.4			細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第414図	6	須恵器 椀	掘方から26cm上 底部	底 台	6.0 5.7			細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第414図	7	須恵器 椀	掘方から18cm上 底部	底 台	6.6 5.9			細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第414図	8	灰釉陶器 椀	掘方から28cm上 口縁部下位～高 台部片	口 底	8.2 7.8			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法不明。	大原2号窯式期。
第414図 PL.423	9	鉄製品 釘?	埋土 破片	長 幅	3.3 1.1	厚 重	1.0 4.43		断面ほぼ正方形の角釘と見られる鉄製品。両端は破損と見られるが全体に厚く錆に覆われ詳細は不明。	

Ⅶ区82号住居

第416図	1	須恵器 杯	床面から51cm上 1/3	口 底	8.7 5.0	高	2.3	細砂粒/酸化焰/に ぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第416図	2	須恵器 杯	埋土 1/3	口 底	8.6 5.0	高	1.7	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第416図 PL.423	3	須恵器 椀	床面から5cm上 3/4	口 底	9.9 6.0	台 高	5.8 4.1	細砂粒/酸化焰/に ぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第416図	4	須恵器 椀	床面から7cm上 底部	底 台	7.2 8.2			細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。	
第416図	5	須恵器 椀	埋土 口縁部片	口	11.8			細砂粒/酸化焰/浅 黄橙	ロクロ整形、回転右回りか。	
第416図	6	須恵器 羽釜	カマド使用面直 上 口縁部～胴部上 位片	口 鏝	20.2 25.0			細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転方向不明。鏝は貼付、胴部にヘラ削り。	

Ⅶ区85号住居

第417図 PL.423	7	土師器 杯	掘方直上 完形	口 高	12.5 3.3			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半がヘラ削り、底部は手持ちヘラ削り。	
-----------------	---	----------	------------	--------	-------------	--	--	----------	--------------------------------------	--

Ⅶ区84号住居

第418図	1	灰釉陶器 椀	埋土 口縁部片	口	13.0			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。施釉方法不明。	大原2号窯式期。
第418図 PL.423	2	鉄製品 鎌	埋土 ほぼ完形	長 幅	14.4 1.8	厚 重	1.4 21.80		先端は細く尖る鉄鎌。断面は薄い片丸形で茎との境を一周する形で段を持つ。茎は断面正方形で端部は細く尖りぎみ。	
第418図 PL.423	3	鉄製品 釘	床面から11cm上 一部欠損	長 幅	8.4 1.5	厚 重	1.0 8.79		断面ほぼ正方形の角釘と見られる鉄製品。頭は角形で破損の可能性もある。先端側で浅くしの字に曲がる。	
第418図 PL.423	4	鉄製品 釘	埋土 ほぼ完形	長 幅	5.7 0.9	厚 重	0.8 4.64		断面ほぼ正方形の角釘。頭はやや斜めに角張る。木質等の痕跡は確認できない。	

Ⅶ区86号住居

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高	厚	重			
第423図 PL.423	1	須恵器 杯	床面から8cmと 12cm上が接合 3/4	口底 9.0 4.9	高	2.0	細砂粒/酸化焰/浅 黄橙	ロクロ整形、回転左回り。底部は回転糸切り無調整。		
第423図 PL.423	2	須恵器 杯	床面直上 3/4	口底 9.0 4.5	高	2.0	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転左回り。底部は回転糸切り無調整。		
第423図 PL.423	3	須恵器 杯	掘方直上 1/3	口底 8.7 5.1	高	1.8	細砂粒/酸化焰/に ぶい橙	ロクロ整形、回転左回り。底部は回転糸切り無調整。		
第423図 PL.423	4	須恵器 杯	床面直上と5cm と6cmと11cm上 が接合 口縁部一部欠	口底 9.2 4.2	高	2.2	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/浅黄	ロクロ整形、回転左回り。底部は回転糸切り無調整。		
第423図 PL.423	5	須恵器 杯	埋土 3/4	口底 9.0 4.9	高	2.1	細砂粒/酸化焰/灰 白	ロクロ整形、回転左回り。底部は回転糸切り無調整。		
第423図 PL.423	6	須恵器 杯	床面から8cm上 3/4	口底 8.5 4.6	高	2.3	細砂粒/酸化焰/浅 黄橙	ロクロ整形、回転左回り。底部は回転糸切り無調整。		
第423図	7	須恵器 杯	床面から11cm上 1/3	口底 9.4 4.8			細砂粒/酸化焰/灰 黄	ロクロ整形、回転方向不明。底部は回転糸切り無調整。		
第423図	8	須恵器 椀	床面から11cm上 口縁部片	口底 12.8			細砂粒/酸化焰/灰 黄	ロクロ整形。		
第423図 PL.423	9	須恵器 椀	床面直上 1/4	口底 16.3 7.4	高	4.9	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/褐灰	ロクロ整形、回転左回り。底部は回転糸切り無調整。		
第423図 PL.423	10	須恵器 椀	床面直上と11cm と15cm上が接合 1/3	口底 20.6 9.3	台高	10.4 7.2	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。		
第423図	11	灰釉陶器 皿	埋土 口縁部片	口底 12.8			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。体部下半は回転ヘラ削り。施釉方法不明。	大原2号窯式 期。	
第423図	12	灰釉陶器 椀	床面直上 口縁部下位～高 台部	底台 7.0 6.5			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。施釉方法不明。	大原2号窯式 期。	
第423図 PL.423	13	須恵器 甗	床面から8cm～ 17cm上の遺物群 とカマド使用面 から15cm上が接 合 1/3	口底 31.0 37.0			細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい赤 褐	ロクロ整形、回転方向不明。鏝は貼付、胴部はヘラ削り。内面はヘラナデ。鏝に2孔一対の穿孔あり。		
第423図	14	土師器 甗	床面直上と7cm と11cm上が接合 口縁～胴部中位 1/4	口底 30.0			細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	焼成時の歪み が口縁部にみ られる。	
第424図 PL.423	15	鉄製品 鏃	床面から18cm上 破片	長幅 9.6 3.4	厚重	1.3 25.85		雁又の鉄鏃。先端は両側とも破損と見られる。茎に向かい幅を広げ茎との境を一周する段を持つ。茎は断面正方形で長く端部は劣化破損する。		
第424図 PL.423	16	鉄製品 釘	床面直上 破片	長幅 8.6 1.4	厚重	1.4 12.63		断面ほぼ正方形の角釘と見られる鉄製品。全体に厚く錆に覆われ詳細は不明。		
第424図 PL.423	17	鉄製品 刀子	床面直上 一部欠損	長幅 18.0 2.5	厚重	1.6 52.82		棟・刃側ともに明瞭な間を持つ刀子。刃の先端および茎尻は劣化破損する。厚く錆に覆われ木質等の痕跡は確認できない。		
第424図 PL.423	18	鉄製品 鏃	埋土 破片	長幅 5.9 1.9	厚重	1.1 9.86		先端三角形に尖る鉄鏃。断面は狭い菱形で茎側は劣化破損する。		
第424図 PL.423	19	鉄製品 不詳	床面から10cm上 破片	長幅 5.1 3.9	厚重	2.0 43.72		厚さ0.7cm程の菱形をした鉄製品破片。多数の放射割れが入り鑄造鉄製品の破片と見られる。		
第424図 PL.423	20	鉄製品？ 不詳	掘方埋土 破片	長幅 3.6 1.4	厚重	1.2 6.42		薄い鉄板を筒状に丸めた鉄製品。中央部は開くが錆化に伴うものと考えられる。		
第424図 PL.423	21	鉄製品？ 不詳	掘方埋土 破片	長幅 3.9 1.5	厚重	1.3 9.38		薄い鉄板を筒状に丸めた鉄製品。		
第424図	22	鉄滓 椀形鍛冶滓 (中)	床面から8cm上	長短 8.7 9.1	厚重	4.0 295.38		平面不整形。左側部欠損。錆が滲み出ており、色調は黒褐色。滓質は密で、比重が高い。上下面に微細な木炭痕がみられる。	構成No.70	
第424図 PL.423	23	石製品 権衡	床面直上 ほぼ完形	長幅 6.1 4.9	厚重	2.9 98.8	砥沢石	全面よく研磨され整形されている。正面上方から上面にかけてL字状に径約6mmの孔が両側穿孔される。		

Ⅶ区87号住居

第427図 PL.424	1	黒色土器 椀	床面直上 口縁部一部欠	口底 9.6 4.7	台高	4.8 3.6	細砂粒/酸化焰/黒 褐	内外面黒色処理。ロクロ整形、回転右回りか。内外面ともほぼ全面ヘラ磨き。	内面口縁部に 付着物あり。
第427図	2	須恵器 椀	床面から10cm上 底部-体部下位	底台 6.6 6.8			細砂粒/酸化焰/淡 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。	
第427図	3	灰釉陶器 椀	掘方直上 底部1/4	底台 7.0 7.0			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法は漬け掛け。内面底部に重ね焼き痕が残る。	大原2号窯式 期。
第427図	4	灰釉陶器 椀	埋土 底部片	底台 7.0 6.8			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法不明。	光ヶ丘1号窯 式期～大原2 号窯式期。
第427図	5	土師器 甗	床面から5cmと 7cm上が接合 口縁部～胴部中 位片	口底 20.1			細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい赤褐	口縁部は横ナデ、胴部は上位がナデ、中位はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第427図 PL.424	6	鉄製品 釘	床面直上 一部欠損	長 幅	4.9 0.9	厚 重	0.8 3.77		断面ほぼ正方形の角釘。頭は薄く広げつぶれるほどに強く折り曲げる。先端は劣化破損する。
第427図 PL.424	7	石製品 砥石	埋土 完形	長 幅	4.5 2.5	厚 重	1.4 23.7	砥沢石	砥面は4面認められる。正面及び裏面は研ぎ減りによりやや内湾する。

Ⅶ区89号住居

第429図 PL.424	1	須恵器 杯	床面から11cm上 口縁部一部欠	口 底	12.6 6.2	高	3.4	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第429図	2	須恵器 杯	床面から15cm上 底部～体部	底 台	6.4			細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第429図	3	須恵器 椀	埋土 底部1/2	底 台	9.0 9.0			細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第429図	4	土師器 台付甕	床面から12cm上 底部	脚	8.4			細砂粒/良好/橙	脚部は貼付。胴部はヘラ削り、脚部は横ナデ。内面は胴部がヘラナデ、脚部はナデ。	
第429図	5	須恵器 甕	埋土 口縁部片					細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	ロクロ整形。	
第429図	6	灰釉陶器 瓶	埋土 胴部片					微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、把手は貼付。降灰により施釉方法は不明。	
第429図 PL.424	7	鉄製品 不詳	埋土 一部欠損	長 幅	6.8 1.4	厚 重	1.3 12.60		断面ほぼ正方形の角棒状の鉄製品。端部は丸みを持ち他端は劣化破損する。	

Ⅶ区95号住居

第431図 PL.424	1	須恵器 杯	カマド使用面直 上と6cmと12cm 上が接合 口縁部一部欠	口 底	12.4 7.2	高	3.5	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	外面口縁部に 墨書。
第431図	2	須恵器 椀	床面から8cm上 底部～体部中位	底 台	8.2 8.0			細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第431図 PL.424	3	土師器 甕	床面直上 口縁～胴部中位	口	18.4			細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第431図	4	土師器 甕	カマド使用面直 上と8cmと9cm上 と堀方から22cm 上が接合 胴部下位～底部	底	4.0			細砂粒/良好/暗赤 褐	底部と胴部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	
第431図 PL.424	5	鉄製品 刀子	カマド堀方から 11cm上 一部欠損	長 幅	9.7 1.6	厚 重	0.7 8.49		棟側に明瞭な関を持つ刀子。刃は細くやや弧を描きカーブする。茎は0.6cm程で破損錆化する。	

Ⅶ区96号住居

第433図 PL.424	1	土師器 杯	床面直上と堀方 から10cmと11cm が接合 3/4	口 高	13.7 3.6			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、体部と底部はヘラ削り。	内面底部に線 刻。
第433図	2	土師器 杯	床面から13cm上 1/3	口	12.2			細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半がヘラ削り、底部は手持ちヘラ削り。	
第433図	3	黒色土器 椀	床面直上 口縁部片	口	16.2			細砂粒・雲母/酸 化焰/にぶい橙	ロクロ整形、回転右回りか。内面はヘラ磨き。二次被熱で吸炭が消滅。	
第433図 PL.424	4	須恵器 杯蓋	床面直上と堀方 から6cmと9cm上 が接合 3/4	口 摘	13.9 3.4	高	2.9	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。摘みは貼付、天井部は中程が回転ヘラ削り。	
第433図 PL.424	5	土師器 台付甕	カマド使用面直 上と19cm上とカ マド堀方から 7cmと10cm上 が接合 胴部下位～脚部	脚	11.8			細砂粒/良好/にぶ い褐	脚部は貼付。胴部はヘラ削り、脚部は横ナデ。内面は胴部がヘラナデ。	

Ⅶ区98号住居

第435図	1	須恵器 椀	堀方から5cm上 3/4	底 台	7.2 6.8			細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第435図	2	土師器 甕	カマド使用面直 上 口縁～胴部中位 片	口	21.4			細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい褐	口縁部は横ナデ、頸部に指頭痕が残る。胴部はヘラナデ。内面は胴部がヘラナデ。	
第435図	3	土師器 羽釜	埋土 口縁部～胴部上 位片	口 罎	15.6 20.6			細砂粒/良好/灰褐	罎は貼付、口縁部は横ナデ、内面はヘラナデ。	
第435図	4	須恵器 甕	床面から17cm上 口縁部片					細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転方向不明。	
第436図 PL.424	5	鉄製品 鎌	埋土 一部欠損	長 幅	10.5 2.3	厚 重	1.9 7.65		先端は片刃形の長頸鎌。両側に棘を持ち茎は0.5cm程で破損錆化する。中央付近で浅くくの字に折れ曲がる。	
第436図 PL.424	6	鉄製品 鎌	埋土 一部欠損	長 幅	9.2 1.8	厚 重	1.1 13.98		先端三形の鉄鎌。断面は薄い二等辺三角形で腸削りは浅い。茎までは直線的で茎との境を一周する段を持つ。茎は1cm程で劣化破損する。	
第436図 PL.424	7	鉄製品 刀子	床面直上 破片	長 幅	3.8 1.1	厚 重	0.6 2.78		刀子の破片。一片は刃部分の破片でもう一片は棟側に明瞭な関を持つ刃から茎の破片で二片は直接接合しないが同一個体と考えられる。それぞれの端部は劣化破損する。	7は同一個体

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第436図 PL.424	7	鉄製品 刀子	床面直上	長 幅	7.5 2.0	厚 重	0.7 10.53		7は同一個体

Ⅶ区104号住居

第438図 PL.424	1	土師器 杯	床面直上 完形	口 稜	15.1 12.3	高	3.5	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第438図 PL.424	2	土師器 杯	床面直上 完形	口 稜	14.8 12.3	高	3.5	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第438図 PL.424	3	土師器 杯	床面直上 完形	口 稜	14.8 13.0	高	3.4	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第438図 PL.425	4	土師器 杯	床面直上 完形	口 高	12.2 3.2			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半がヘラ削り、底部は手持ちヘラ削り。	
第438図 PL.425	5	土師器 杯	床面直上 ほぼ完形	口 高	14.3 4.1			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半がヘラ削り、底部は手持ちヘラ削り。	
第438図 PL.425	6	土師器 杯	床面から5cm上 ほぼ完形	口 高	12.6 3.3			細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半がヘラ削り、底部は手持ちヘラ削り。	
第438図	7	土師器 杯	床面から22cm上 口縁部片	口 高	12.7			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半がヘラ削り、底部は手持ちヘラ削り。	
第438図 PL.425	8	須恵器 杯	床面から14cm上 口縁部一部欠	口 底	9.0 4.7	高	2.9	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第438図	9	須恵器 椀	掘方埋土 底部1/2	底 台	8.3 8.0			細砂粒/酸化焰/浅 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。	
第438図 PL.425	10	礫石器 棒状礫	床面直上 完形	長 幅	16.7 6.4	厚 重	4.3 648.1	黒色頁岩	棒状の亜円礫である。両側縁のほぼ中央に集中した敲打痕が認められ縁辺がつぶれた状態である。特に右側縁は敲打により内湾した形態となる。	敲打痕あり
第438図 PL.425	11	礫石器 棒状礫	床面直上 完形	長 幅	16.6 6.9	厚 重	4.7 776.6	粗粒輝石安山岩	棒状の円礫である。両側縁のほぼ中央に集中した敲打痕が認められ縁辺がつぶれた状態である。両側縁は敲打により内湾した形態となる。	敲打痕あり

Ⅶ区105号住居

第440図	1	須恵器 杯	カマド使用面から6cm上 口縁部片	口	15.0			細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回りか。	
第440図	2	須恵器 杯	床面から24cm上 体部～底部片	底	6.5			細砂粒/酸化焰/淡 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第440図 PL.425	3	須恵器 椀	カマド使用面から8cm上 底部～体部下位	底 台	6.2 6.3			細砂粒/酸化焰/橙	ロクロ整形、回転右回り。高台は円盤状の粘土板を貼付し、端部をつまみあげている。高台も回転糸切り。	
第440図 PL.425	4	灰釉陶器 輪花皿	カマド使用面から13cm上 3/4	口 底	12.5 6.8	台 高	6.8 2.3	微砂粒/還元焰/灰 白	輪花は4カ所。ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後周囲をヘラナデし、高台を貼付。施釉方法は漬け掛け。	虎溪山1号窯式期。
第440図 PL.425	5	土製品 羽口	埋土	長 幅	8.1 7.7	厚 重	7.5 222.02		先端部片。内径約2.5cm、厚さ2～2.5cm。胎土は粗砂粒。先端部はほぼ平坦に溶損。	構成No.72
第440図 PL.425	6	土製品 羽口	カマド使用面から10cm上	長 幅	9.3 7.0	厚 重	4.0 151.76		体部片。厚さ約3.5cm。指頭圧痕あり。胎土は粗砂粒。	構成No.74
第440図 PL.425	7	土製品 羽口	掘方から6cm上	長 幅	7.8 5.8	厚 重	2.5 91.86		体部から基部片。基底部欠損。厚さ約2.5cm。指頭圧痕あり。基部は押圧痕あり、ラッパ状に整形。胎土は粗砂粒。	構成No.75
第440図 PL.425	8	土製品 羽口	埋土	長 幅	4.5 7.7	厚 重	4.3 116.20		先端部片。厚さ約3.5cm。胎土は粗砂粒。先端部は平坦に溶損。送風角度は約5°。	構成No.73
第440図	9	鉄滓 鉄塊系遺物	埋土	長 短	2.8 3.2	厚 重	2.4 26.49		表面に酸化土砂が付着。放射割れ激しい。僅かに金属鉄が残存か。	構成No.71

Ⅶ区106号住居

第442図 PL.425	1	黒色土器 椀	床面直上 3/4	口 底	13.6 5.8			細砂粒/酸化焰/に ぶい橙	内面黒色処理が二次被熱で酸化。ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付、高台欠損後再調整。	
第442図 PL.425	2	須恵器 杯	床面から7cm上 口縁部一部欠	口 底	10.0 5.6	高	3.6	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第442図 PL.425	3	須恵器 杯	床面直上 口縁部一部欠	口 底	11.3 5.6	高	3.4	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第442図 PL.425	4	灰釉陶器 椀	床面直上 底部下位～高台部	底 台	8.4 8.0			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付、胴部下位は回転ヘラ削り。施釉方法不明。	虎溪山1号窯式期。
第442図 PL.425	5	須恵器 羽釜	カマド使用面直上と5cm～16cm 上の遺物群が接合 口縁～胴部1/4	口 鏝	18.9 24.2			細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。鏝は貼付、胴部下半に上から下へのヘラ削り。	
第442図 PL.425	6	鉄製品 刀子	床面直上 破片	長 幅	7.3 2.2	厚 重	1.2 18.08		棟・刃側ともになだらかな関を持つ刀子破片。両端とも劣化破損する。厚い錆に覆われ木質等の痕跡は確認できない。	

Ⅶ区116号住居

第444図	1	灰釉陶器 段皿	埋土 口縁部片	口	12.8			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。	
第444図	2	灰釉陶器 椀	床面から5cm上 底部片	底 台	8.0 7.9			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法不明。	虎溪山1号窯式期。
第444図	3	灰釉陶器 椀	埋土 高台部片	底 台	7.2 6.8			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法不明。	大原2号窯式期。

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第444図	4	灰釉陶器 椀	埋土 口縁部下位～高 台部片	底 台	7.6 7.0			微砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法は刷毛塗り、内面底部にも施釉。	光ヶ丘1号窯 式期。
第444図	5	灰釉陶器 瓶	埋土 口縁部下位～高 台部片	底 台	8.0 8.2			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付、胴部下位は回転ヘラ削り。施釉方法不明。	
第444図	6	土師器 甕	床面直上 口縁～胴部片	口	23.0			細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部は上位がヘラナデ、中位はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	

Ⅶ区117号住居

第444図 PL.425	7	須恵器 杯	床面から17cm上 3/4	口 底	9.0 4.8	台	2.8	細砂粒/還元焰/に ぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第444図	8	須恵器 椀	床面から5cm上 口縁部片	口	13.8			細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回りか。	
第444図 PL.425	9	灰釉陶器 皿	床面から9cm上 完形	口 底	14.0 5.4	台 高	7.2 3.1	微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後回転ヘラナデ、高台は貼付するが、底部突出。施釉方法は漬け掛け。	内面底部に凹 線が巡る、陰 刻か。
第444図 PL.425	10	灰釉陶器 瓶	床面から10cm上 底部～胴部下位 片	底 台	9.6 9.7			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付、胴部下位は回転ヘラ削り。施釉方法は刷毛塗りか。	
第444図	11	土師器 甕	床面直上 口縁部片	口	21.2			細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	

Ⅶ区119号住居

第445図	1	須恵器 羽釜	埋土 口縁部片	口	18.2			細砂粒/酸化焰/橙	外面口縁部に輪積痕が残る。ロクロ整形、鏝は貼付。	
-------	---	-----------	------------	---	------	--	--	-----------	--------------------------	--

Ⅶ区2号住居

第448図 PL.426	1	灰釉陶器 椀	埋土 口縁部片	口	12.4			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。施釉方法は漬け掛け。	
第448図 PL.426	2	土師器 甕	カマド使用面直 上 口縁部～胴部下 位片	口	15.8			細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラナデ。内面体部はヘラナデ。	
第448図 PL.426	3	須恵器 羽釜	床面直上 口縁部～胴部上 位片	口	19.8			細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/淡黄	ロクロ整形。鏝は貼付。	

Ⅶ区3号住居

第451図 PL.426	1	黒色土器 椀	掘方から6cm上 1/3.底部欠	口 底	13.6 7.2			細砂粒/酸化焰/灰 黄褐	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付。内面はヘラ磨き。	二次被熱を受 け、吸炭が消 滅。
第451図 PL.426	2	黒色土器 椀	床面直上 1/4	口 底	13.7 7.1	台 高	7.2 6.0	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付。内面はヘラ磨き。	二次被熱を受 け、吸炭が消 滅。
第451図 PL.426	3	須恵器 杯	床面から31cm上 1/3	口 底	12.5 5.8	高	3.8	細砂粒/酸化焰/に ぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第451図 PL.426	4	須恵器 杯	床面直上 完形	口 底	11.2 5.5	高	4.6	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第451図 PL.426	5	須恵器 杯	床面直上 口縁部一部欠	口 底	11.0 5.2	高	4.3	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第451図 PL.426	6	須恵器 椀	床面直上と8cm 上が接合 口縁部一部欠	口 底	12.8 7.0	台 高	7.5 6.1	細砂粒/酸化焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第451図 PL.426	7	土師器 甕	床面から5cm上 口縁部～胴部中 位1/4	口	12.2			細砂粒・粗砂粒/ 良好/明褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第451図 PL.426	8	須恵器 羽釜	床面から18cmと 28cm上が接合 口縁部片	口 鏝	20.0 24.4			細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 橙	ロクロ整形。鏝は貼付。	
第451図 PL.426	9	鉄製品 刀子	床面から23cm上 一部欠損	長 幅	15.5 2.1	厚 重	1.3 34.18		棟・刃側ともに明瞭な関を持つ刀子。茎は1.5cm程で劣化破損する。刃は茎に比して細く先端も丸みを持つが研ぎ減りの可能性が有る。	
第451図 PL.426	10	鉄製品 刀子	床面から28cm上 ほぼ完形	長 幅	13.6 2.0	厚 重	1.1 17.50		棟・刃側ともに関を持つ刀子。茎は全長の半分以上をしめるほど長い、刃は短く細身で研ぎ減りの可能性が有る。	
第451図 PL.426	11	鉄製品 不詳	床面から40cm上 破片	長 幅	11.0 1.5	厚 重	1.4 1849.0		断面丸から四角の棒状の鉄製品。一端に向かい細くなりやや尖る。他の端部は劣化破損する。	
第451図 PL.426	12	在地系土器 不詳	床面から28cm上 体部片	口 底	— —	高	—	白色鉄物粒含む。 /灰白/	断面灰白色、外面器表暗褐色、内面器表黒色。外面丁寧な撫で調整。内面轆轤調整。内面調整前の指圧痕状成形痕残る。	中世以降。

Ⅶ区4号住居

第453図 PL.426	1	須恵器 椀	床面から7cm上 2/3	口 底	14.0 6.8	台 高	7.0 6.4	細砂粒多/酸化焰/ にぶい橙	内面黒色処理。ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。内面はヘラ磨き、器面磨滅のため単位不明。	
第453図 PL.426	2	須恵器 羽釜	床面から9cm上 口縁部～胴部中 位片	口 鏝	21.0 24.8			細砂粒・粗砂粒・ 褐粒/酸化焰/にぶ い橙	ロクロ整形、鏝は貼付。胴部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	
第453図 PL.426	3	鉄製品 不詳	掘方直上 破片	長 幅	6.2 3.4	厚 重	1.1 11.24		断面正方形から長方形の角棒状鉄製品でコの字状に曲がり両端とも劣化破損する。	

VIII区5号住居

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第454図	4	須恵器 杯	床面直上 1/2	口底	16.8 6.7	高	4.3	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。

VIII区6号住居

第454図	5	須恵器 羽釜	床面直上 口縁部～鏝部片	口 鏝	20.8 26.6			細砂粒・粗砂粒・ 褐粒/酸化焰/にぶ い黄橙	ロクロ整形。鏝は貼付。
第454図 PL.426	6	鉄製品 不詳	掘方直上 ほぼ完形	長 幅	5.3 4.1	厚 重	1.1 15.41		断面狭長方形でしの字状に曲がる鉄製品。全体に厚く錆に覆われるため詳細は不明。

VIII区7号住居

第454図	7	須恵器 椀	床面から6cm上 底部～高台部片	底 台	6.5 7.8			細砂粒・粗砂粒・ 褐粒/酸化焰/にぶ い黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。
第454図 PL.426	8	石製品 砥石	床面から17cm上 完形	長 幅	5.8 2.9	厚 重	4.1 105.0	砥沢石	砥面は4面認められる。正面及び裏面は下部にむかい研ぎ減りする。上面と下面は砥面ではないが、細かな線条痕が認められる。

VIII区8号住居

第455図	1	黒色土器 椀	床面直上 口縁部下位～高 台部	底 台	6.9 7.5			細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 橙	内面黒色処理、二次被熱のため一部のみ残存。ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。内面は放射状ヘラ磨き。
第455図	2	須恵器 椀	床面直上 口縁部～体部片	口	12.8			細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 橙	ロクロ整形、回転右回りか。
第455図 PL.427	3	灰釉陶器 瓶	床面直上 底部	底 台	14.4 14.5			細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付、胴部下位は回転ヘラ削り。内面底部はナデ。
第455図 PL.427	4	土師器 羽釜	床面直上 口縁部～胴部中 位1/4	口 鏝	20.0 24.4			細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/褐	ロクロ整形。鏝は貼付、胴部は下位へ向けてのヘラ削り。内面はヘラナデ。

VIII区10号住居

第456図 PL.427	1	須恵器 皿	床面直上と6cm 上が接合 口縁部一部欠	口 底	11.2 6.3	高	1.8	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。内面の一部に煤が付着。
-----------------	---	----------	----------------------------	--------	-------------	---	-----	-------------------	-------------------------------------

VIII区12号住居

第459図	1	須恵器 椀	VIII区2面一括 底部～高台部	底 台	8.3 8.6			細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。
第459図	2	須恵器 羽釜	床面直上 口縁部～胴部上 位片	口 鏝	20.6 25.2			細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形。外面に輪積痕が残る。
第459図 PL.427	3	鉄製品 不詳	埋土 破片	長 幅	5.0 1.2	厚 重	1.0 5.90		断面丸みを角形の棒状鉄製品破片。両端とも劣化破損する。

VIII区23号住居

第459図	4	土師器 把手付鍋	カマド使用面か ら9cm上 口縁部～胴部上 位片	口	25.8			細砂粒・粗砂粒/ 良好/褐	口縁部下に幅7cmほどの把手が一對貼付か。口縁部は横ナデ、把手はナデ、胴部はヘラ削り。内面は口縁部がナデ、胴部はヘラナデ。
-------	---	-------------	-----------------------------------	---	------	--	--	------------------	---

VIII区14号住居

第460図 PL.427	1	灰釉陶器 椀	床面から20cm上 1/4	口 底	12.5 7.4	台 高	7.0 4.1	微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ナデ、高台は貼付。施釉方法不明。大原2号窯式期。
-----------------	---	-----------	------------------	--------	-------------	--------	------------	----------------	---

VIII区15号住居

第462図 PL.427	1	須恵器 椀	床面直上 完形	口 底	14.9 6.8	台 高	8.5 6.3	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。
第462図 PL.427	2	須恵器 椀	床面直上 口縁部一部欠	口 底	13.6 7.1	台 高	7.5 6.1	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。
第462図 PL.427	3	須恵器 椀	床面から7cm上 1/2	口 底	15.6 7.0	台 高	8.1 6.3	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/灰褐	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。
第462図	4	須恵器 羽釜	床面直上 口縁部～胴部上 位片	口 鏝	21.6 25.4			細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形。鏝は貼付。

VIII区16号住居

第463図 PL.427	1	灰釉陶器 椀	埋土 体部下位～高台 部1/3	底 台	7.1 6.8			微砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法不明。光ヶ丘1号窯式期。
第463図	2	須恵器 羽釜	カマド使用面直 上 口縁部～胴部上 位1/2	口 鏝	19.2 24.8			細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形。鏝は貼付。
第463図 PL.427	3	鉄製品 鏃	床面から8cm上 一部欠損	長 幅	8.2 1.6	厚 重	1.2 14.39		先端三角形の鉄鏃。茎近くで幅広くなり茎との境を一周する段を持つ。茎はわずかに曲がり1cm程で劣化破損する。
第463図 PL.427	4	鉄製品 不詳	床面から8cm上 破片	長 幅	4.2 1.7	厚 重	0.7 2.78		断面ほぼ正方形の角棒状鉄製品破片。Jの字状に曲がり両端とも劣化破損する。

VIII区17号住居

第464図	1	土師器 甕	床面から30cm上 口縁部～胴部中 位片	口	20.6			細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。
-------	---	----------	----------------------------	---	------	--	--	---------------------	---------------------------------

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第464図 PL.427	2	土師器 羽釜	床面から31cm上 口縁部～胴部上 位1/3	口 鏝	35.5 38.9			細砂粒・粗砂粒/ 良好/褐	外面胴部に輪積痕が残る。鏝は貼付。口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	
Ⅷ区18号住居										
第465図	1	須恵器 台付甕	埋土 台部1/4	脚	8.6			細砂粒/良好/にぶ い褐	脚部は貼付。脚部は横ナデ。	
Ⅷ区19号住居										
第466図	1	土師器 杯	カマド使用面か ら10cm上 1/4	口 底	13.0 5.2	高	3.4	細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半がヘラ削り、底部は砂底。	
第466図 PL.427	2	黒色土器 椀	床面直上 体部下位～底部	底 台	6.0 5.5			細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	内面黒色処理。ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	外面体部に墨書。
Ⅷ区21号住居										
第469図 PL.427	1	土師器 杯	床面直上 ほぼ完成	口 高	12.8 3.0			細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半がヘラ削り、底部は手持ちヘラ削り。	
第469図 PL.427	2	土師器 杯	床面直上 口縁部一部欠	口 高	13.0 3.2			細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半がヘラ削り、底部は手持ちヘラ削り。	
第469図 PL.427	3	土師器 杯	床面直上 3/4	口 高	12.6 3.1			細砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第469図	4	須恵器 杯	床面から10cmと 11cm上が接合 1/3	口 底	11.6 5.8	高	3.5	細砂粒/酸化焰/暗 灰黄	内面黒色処理。ロクロ整形、回転右回り。底部はナデ。	
第469図 PL.427	5	須恵器 杯	床面直上 口縁部一部欠	口 底	13.3 7.1	高	3.9	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整、体部下位に回転ヘラ削り。	
第469図	6	土師器 甕	床面から8cm上 口縁部～胴部上 位片	口 鏝	19.8			細砂粒/良好/灰黄 褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第469図 PL.427	7	石製品 砥石	床面直上 1/2	長 幅	(6.6) 4.9	厚 重	2.9 116.9	砥沢石	砥面は4面認められる。正面及び裏面は下部にむかい研ぎ減りする。右側面には断面V字状の線条痕が集中する。下部欠損。	
Ⅷ区24号住居										
第471図	1	黒色土器 椀	カマド掘方埋土 口縁部下位～底 部1/4	底	7.2			細砂粒/酸化焰/に ぶい黄褐	内面黒色処理。ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転ナデ、高台は貼付。内面はヘラ磨き。	
第471図 PL.428	2	須恵器 杯	床面直上 3/4	口 底	9.3 4.9	高	2.5	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第471図 PL.428	3	須恵器 椀	床面直上 口縁部～底部	口 底	13.8 6.6	台 高	8.0 8.0	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。	内面に銅粒付着。埴埴に使用か。
第471図 PL.428	4	須恵器 椀	カマド使用面か ら7cm上 1/3	口 底	14.2 6.6	台 高	7.3 5.0	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第471図 PL.428	5	須恵器 椀	掘方から2cm上 1/3	口 底	15.3 6.8	台 高	7.3 5.3	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。	内面に銅粒付着。
第472図	6	須恵器 椀	床面直上 1/3	口 底	10.5 5.6	台 高	5.7 4.9	細砂粒/酸化焰/橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。	
第472図 PL.428	7	須恵器 椀	掘方から7cm上 口縁部欠・口縁 部下位～底部 1/2	底 台	7.8 8.3			細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。	
第472図	8	土師器 羽釜	カマド使用面直 上 口縁部～胴部上 位片	口 鏝	25.8 29.6			細砂粒/酸化焰/褐 灰	ロクロ整形。鏝は貼付。内面はヘラナデ。	
第472図 PL.428	9	須恵器 羽釜	床面直上とカマ ド使用面直上が 接合 口縁部～胴部下 位3/4	口 鏝	23.4 28.2			細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 橙	ロクロ整形。外面胴部に輪積痕が残る。鏝は貼付。胴部はヘラ削り。	外面口縁部に刻書。
第472図 PL.428	10	鉄製品 刀子	床面直上 破片	長 幅	2.1 0.9	厚 重	0.6 1.40		刀子刃部分の破片。同一個体と見られるが直接接合はしない。	10は同一個体
第472図 PL.428	10	鉄製品 刀子	床面直上 破片	長 幅	4.2 1.4	厚 重	0.9 5.54		刀子破片、棟側に明瞭な鬚を持ち刃側はなだらかに莖に移行する。刃先端側および莖尻を劣化破損する。同一個体と見られるが直接接合はしない。	10は同一個体
第472図 PL.428	10	鉄製品 刀子	床面直上 破片	長 幅	3.6 0.8	厚 重	0.5 1.54		刀子莖の破片。同一個体と見られるが直接接合はしない。木質等の痕跡は見られない。	10は同一個体
Ⅸ区1号住居										
第477図	1	須恵器 杯	床面から20cm上 1/3	口 底	14.8 6.6	高	3.6	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第477図	2	須恵器 杯	床面から7cm上 口縁部～体部 1/3	口	9.0			細砂粒・粗砂粒・ 褐粒/酸化焰/にぶ い黄橙	ロクロ整形、回転方向不明。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第477図	3	須恵器 杯	埋土 口縁部～体部下 位1/3	口	14.2		細砂粒/酸化焰/褐 灰	ロクロ整形、回転右回り。	
第477図	4	須恵器 杯	床面から8cm上 底部1/4	底	10.5		細砂粒/酸化焰/に ぶい橙	ロクロ整形、回転方向不明。高台は剥落か。	
第477図 PL.428	5	須恵器 椀	掘方から5cm～ 8cm上の遺物群 が接合 2/3	口 底	13.0 6.5	台 高	8.0 7.1	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 橙	内面黒色処理か。ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘ ラナデ、高台は貼付。
第477図	6	土師器 甕	カマド使用面直 上 口縁部～胴部中 位片	口	25.8		細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい赤褐	口縁部は横ナデ、胴部には大量の指頭痕が残る。内面胴部 はヘラナデ。	
第477図	7	土師器 甕	カマド使用面直 上 口縁部～胴部中 位片	口	29.6		細砂粒・粗砂粒/ 良好/灰褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラナデ。内面は胴部が ヘラナデ。	
第477図 PL.428	8	須恵器 甕	カマド堀方から 6cm上 口縁部片	口	44.3		細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/黄灰	ロクロ整形。口縁部上位にナデがみられる。	
第477図 PL.428	9	土製品 土錘	床面から14cm上 完形	長 幅	3.1 0.8	孔 重	0.3 3.0	微砂粒/良好/黒褐	外面はナデ。
第477図 PL.428	10	鉄製品 不詳	埋土 一部欠損	長 幅	3.3 3.0	厚 重	3.3 11.19		やや三角形の輪状の鉄製品の側面に断面長方形の角棒状 の鉄製品が接続する。端部は破損の可能性もあるが全体に 厚く錆に覆われ詳細は不明。

IX区2号住居

第477図	11	灰釉陶器 椀	埋土 底部1/4	底 台	7.6 7.6			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。内面底部に重ね焼き痕が残る。大原2号窯式 期。底部は回転ナデ、高台は貼付。施釉方法は不明。
第477図	12	土師器 甕	堀方埋土 口縁部～胴部上 位片	口	20.6			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラナデ。内面は胴部に木口の残 るヘラナデ。

IX区3号住居

第478図	1	灰釉陶器 椀	埋土 底部小片	底 台	7.7 7.8			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形。底部はヘラナデ、高台は貼付。施釉方法不明。大原2号窯式 期。
-------	---	-----------	------------	--------	------------	--	--	----------------	---

IX区4号住居

第482図 PL.428	1	須恵器 杯	埋土 1/2	口 底	14.2 6.6	高	3.6	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。
第482図	2	須恵器 杯	埋土 口縁部～底部片	口 底	8.4 6.0	高	2.4	細砂粒/酸化焰/に ぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。
第482図	3	土師器 甕	床面から6cm上 口縁部～胴部片	口	24.7			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラナデ。内面は胴部がヘラナデ。
第482図	4	土師器 甕	床面直上 胴部下位～底部 片	底	15.2			細砂粒・粗砂粒/ 良好/暗褐	底部と胴部はヘラナデ。内面はヘラナデ。
第482図 PL.428	5	鉄製品 不詳	床面直上 ほぼ完形	長 幅	12.0 5.1	厚 重	2.1 70.56		断面丸みのある正方形。？状に曲がり先端は細く尖り気味。 釘の一形態とも見られるが全体に厚く錆に覆われ詳細は不明。

IX区5号住居

第482図	6	須恵器 椀	カマド埋土 口縁部～体部下 位片	口	12.4			細砂粒/酸化焰/黄 橙	ロクロ整形。
第482図 PL.428	7	土師器 羽釜	カマド使用面直 上と6cm上が接 合 口縁部～胴部 1/2	口 罅	23.0 26.5			細砂粒・粗砂粒/ 良好/褐	罅は貼付。口縁部は横ナデ、胴部は縦方向のナデ、下半に 横方向のヘラナデ。内面はヘラナデ。
第482図 PL.428	8	土師器 羽釜	カマド使用面直 上と12cm上が接 合 口縁部～胴部 1/2	口 罅	22.8 28.0			細砂粒・粗砂粒/ 良好/明赤褐	罅は貼付。口縁部は横ナデ、胴部は縦方向のナデ、中位か ら下位にヘラナデ。内面はヘラナデ。

IX区6号住居

第485図 PL.429	1	須恵器 杯	カマド使用面直 上 完形	口 底	8.2 5.2	高	2.3	細砂粒/酸化焰/に ぶい橙	ロクロ整形、回転左回り。底部は回転糸切り無調整。内外面の一部 に煤が付着。
第485図 PL.429	2	須恵器 杯	床面から12cm上 口縁部～底部 3/4	口 底	8.9 6.1	高	2.6	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。
第485図 PL.429	3	須恵器 杯	床面直上 口縁部～底部 3/4	口 底	8.4 5.8	高	2.4	細砂粒/酸化焰/に ぶい橙	ロクロ整形、回転左回り。底部は回転糸切り無調整。
第485図	4	須恵器 杯	堀方埋土 口縁部～底部片 1/4	口 底	9.0 5.8	高	1.6	細砂粒/酸化焰/浅 黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第485図 PL.429	5	須恵器 杯	カマド使用面直上 口縁部～底部 1/3	口底	15.5 6.0	高	4.7	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第485図	6	須恵器 椀	埋土 口縁部～体部下 位片	口	10.8			細砂粒/酸化焰/灰 黄	ロクロ整形。	
第485図	7	灰釉陶器 椀	埋土 口縁部～体部下 位片	口	15.2			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形。施釉方法不明。	光ヶ丘1号窯 式期～大原2 号窯式期。
第485図	8	灰釉陶器 壺	床面直上 胴部片					微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。胴部下位は回転ヘラ削り施釉 方法は刷毛塗りか。	
第485図 PL.429	9	石製品 砥石	床面直上 1/2	長 幅	(6.6) 4.9	厚 重	2.9 116.9	砥沢石	砥面は4面認められる。正面及び裏面は下部にむかい研ぎ 減りする。右側面には断面V字状の線条痕が集中する。下 部欠損。	

IX区7号住居

第485図	10	須恵器 椀	埋土 高台部片	底台	8.5 9.6			細砂粒/酸化焰/に ぶい橙	ロクロ整形。底部は回転ナデ、高台は貼付。	
第485図 PL.429	11	鉄製品 刀子	埋土 破片	長 幅	5.5 2.0	厚 重	0.9 7.56		棟・刃側ともに明瞭な間を持つ刀子破片。両端とも破損錆 化する。	

IX区9号住居

第489図 PL.429	1	黒色土器 椀	カマド使用面直上 口縁部～底部 1/2	口底	10.0 4.5	台 高	5.1 5.1	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。内面黒色処理、底部は回転ナデ、 高台は貼付。内面はヘラ磨き。	
第489図 PL.429	2	須恵器 皿	カマド使用面直上 口縁部～底部 3/4	口底	10.8 4.9	台 高	6.8 3.6	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 橙	ロクロ整形。底部は回転ナデ、高台は貼付。	
第489図 PL.429	3	須恵器 杯	カマド使用面直上 完形	口底	9.7 5.6	高	2.6	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第489図 PL.429	4	須恵器 杯	床面直上とカマド使用面直上が 接合 口縁部～底部 3/4	口底	9.5 4.5	高	3.0	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後一部ヘラ削 りか。	
第489図 PL.429	5	須恵器 杯	カマド使用面直上 口縁部～底部 1/2	口底	9.8 6.1	高	2.6	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第490図 PL.429	6	須恵器 杯	埋土 口縁部～底部 1/2	口底	9.4 6.0	高	2.5	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第490図	7	須恵器 杯	カマド使用面直上 口縁部～底部片	口底	8.8 5.2	高	2.1	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第490図	8	須恵器 杯	埋土 口縁部～底部片	口底	9.2 6.8	高	2.0	細砂粒/酸化焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第490図 PL.429	9	灰釉陶器 椀	埋土 底部～高台部	口台	7.2 7.0			細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。 施釉方法は刷毛塗り。	虎溪山1号窯 式期。
第490図	10	土師器 甕	カマド使用面直上と7cmと13cm 上が接合 口縁部～胴部上 位	口	26.2			細砂粒・粗砂粒/ 良好/灰黄褐	外面胴部に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部 はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第490図	11	土師器 甕	カマド使用面から17cm上 口縁部～胴部上 位	口	21.5			細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい黄橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部が ヘラナデ。	
第490図 PL.429	12	鉄製品 不詳	埋土 破片	長 幅	5.5 2.8	厚 重	2.4 40.70		断面長四角形鉄製品破片。一方端部は劣化破損する。全体 に厚く錆に覆われ木質等は確認できない。	
第490図 PL.429	13	鉄製品 不詳	埋土 破片	長 幅	4.8 1.1	厚 重	1.1 6.13		丸い断面を持つ棒状鉄製品破片。両端とも劣化破損する。	

IX区10号住居

第491図 PL.429	1	須恵器 杯	掘方直上 ほぼ完形	口底	8.7 5.0	高	2.5	細砂粒/酸化焰/に ぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第491図 PL.429	2	須恵器 杯	床面直上 口縁部～底部 3/4	口底	10.5 6.3	高	2.5	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第491図	3	須恵器 杯	床面から7cm上 口縁部～底部	口底	9.5 6.2	高	2.3	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第491図	4	須恵器 杯	床面直上 口縁部～底部 1/3	口底	12.4 5.8	高	3.7	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	

挿図 PL.No.	No.	種 器 種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考	
第491図	5	須恵器 杯	床面直上 口縁部～底部片	口 底	9.6 5.8	高	2.1	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第491図	6	須恵器 杯	床面直上 口縁部～底部片	口 底	9.8 6.4	高	2.7	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第491図	7	須恵器 椀	床面直上 底部	底 台	6.8 8.1			細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ナデ、高台は貼付。	
第491図	8	灰釉陶器 皿	掘方から11cm上 体部下位～高台 部片	底 台	5.8 6.4			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ナデ、高台は貼付。施釉方法不明。	大原2号窯式 期。
第491図	9	灰釉陶器 椀	埋土 口縁部片	口	15.0			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形。施釉方法不明。	大原2号窯式 期。
第491図	10	灰釉陶器 椀	埋土 口縁部～体部下 位片	口	14.4			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形。内面口唇部下に凹線が1条巡る。施釉方法不明。	虎溪山1号窯 式期。
第491図 PL.429	11	黒色土器 広口壺	床面直上と9号 住居カマド使用 面直上が接合 口縁部～頸部	口	16.0			細砂粒/酸化焰/浅 黄橙	ロクロ整形、吸炭は二次焼成を受けたためか消失。外面頸部はへら磨き。内面は口縁部がへら磨き、頸部はへらナデ。	
第491図	12	鉄製品 不詳	床面から13cm上 ほぼ完形	長 幅	4.3 1.4	厚 重	1.3 13.97		断面ほぼ正方形の鉄製品。両端ともやや丸みを持つ角形。	

IX区11号住居

第492図 PL.429	1	須恵器 杯	掘方から21cm上 口縁部～底部 3/4	口 底	8.5 5.0	高	1.9	細砂粒/酸化焰/浅 黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第492図 PL.429	2	須恵器 杯	掘方から7cmと 23cm上が接合 3/4	口 底	8.9 6.7	高	2.2	細砂粒・粗砂粒・ 褐粒/酸化焰/橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第492図	3	須恵器 杯	床面直上 口縁部～底部片	口 底	9.6 7.0	高	2.6	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第492図	4	須恵器 皿	掘方から14cm上 口縁部～高台部 片	口 底	11.0 4.7			細砂粒/酸化焰/に ぶい橙	ロクロ整形。底部はナデ、高台は貼付。	
第492図 PL.429	5	須恵器 椀	床面直上 高台部一部欠	口 底	12.1 6.7	台 高	7.9 6.0	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/浅黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第492図	6	須恵器 椀	床面直上 口縁部～底部 1/3	口 底	14.3 7.5			細砂粒/酸化焰・ 燻/黒褐	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第492図	7	須恵器 椀	床面直上 口縁部上位～高 台部3/4	底 台	7.4 7.9			細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/浅黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第492図	8	須恵器 椀	埋土 口縁部下位～高 台部1/3	底 台	6.0 6.0			細砂粒/酸化焰/灰 黄褐	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第492図	9	須恵器 椀	埋土 口縁部下位～高 台部1/4	底 台	7.0 7.0			細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第492図	10	灰釉陶器 椀	掘方から29cm上 口縁中位～高台 部片	底 台	7.5 7.0			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転へらナデ、高台は貼付。施釉方法不明。	虎溪山1号窯 式期。
第492図 PL.429	11	灰釉陶器 長頸壺	床面から8cm上 口縁部上位～胴 部上位1/2	頸	6.4			微砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。頸部は胴部に接合。施釉方法不明。	虎溪山1号窯 式期か。
第492図	12	土師器 甕	掘方直上と23cm 上が接合 口縁部～胴部上 位	口	21.4			細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい黄橙	外面胴部に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへら削り。内面は胴部がへらナデ。	
第492図 PL.430	13	須恵器 甕	床面直上と9cm 上が接合 2/3	口 底	22.6 16.6	高 胴	40.3 33.3	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰黄褐	ロクロ整形、回転右回り。底部と胴部下半はへら削り。	
第492図 PL.429	14	鉄製品 釘	床面直上 破片	長 幅	2.6 0.6	厚 重	0.6 0.99		断面ほぼ正方形の角釘と見られる鉄製品。一端に向かい細くなるが両端とも劣化破損する。一部表面にわずかな木質痕が見られる。	14は同一個体
第492図 PL.429	14	鉄製品 釘	床面直上 破片	長 幅	2.2 0.3	厚 重	0.2 0.20		断面ほぼ正方形の角釘と見られる鉄製品破片。先端に向かい細くなり尖る。頭側は劣化破損する。	14は同一個体
第492図 PL.429	15	鉄製品 釘	床面直上 破片	長 幅	3.1 1.1	厚 重	1.0 3.90		断面ほぼ正方形の角釘と見られる鉄製品。頭部分は角形で先端側は劣化破損する。	
第492図 PL.429	16	鉄製品 釘	床面直上 ほぼ完形	長 幅	7.6 3.7	厚 重	1.8 19.68		断面ほぼ正方形の角釘と見られる鉄製品。頭はやや幅広に延ばし短く折り曲げる。頭から6cm程で先端部2.5cmを直角に曲げる。	
第492図 PL.429	17	鉄製品 釘	床面直上 破片	長 幅	7.5 3.0	厚 重	1.4 12.74		断面ほぼ正方形の角釘と見られる鉄製品。頭側は劣化破損し先端から2.5cm程で直角に曲がる。	
第493図 PL.430	18	鉄製品 釘	床面直上 ほぼ完形	長 幅	8.1 3.4	厚 重	1.3 15.85		断面ほぼ正方形の角釘と見られる鉄製品。頭部分は中央から2つに割り両側に広げた形状を持つ。先端に向かい徐々に細くなるが尖らない。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第493図 PL.430	19	鉄製品 釘	床面直上 ほぼ完形	長 幅	7.9 4.0	厚 重	1.5 18.00		断面ほぼ正方形の角釘と見られる鉄製品。頭はやや幅広に延ばし短く直角に曲げる。頭から7cm程で直角に曲げ、その先3cm程で先端部分を内側に折り曲げる。	
第493図 PL.430	20	鉄製品 鏃	床面直上 破片	長 幅	7.0 1.1	厚 重	0.9 7.20		先端部分が破損錆化する鉄鏃。茎近くでわずかに幅を広げ、茎との境を一周する段を持つ。茎は断面ほぼ正方形で先端近くでわずかに曲がる。	
第493図 PL.430	21	鉄製品 鏃	掘方から25cm上 一部欠損	長 幅	10.9 2.2	厚 重	1.0 16.20		先端はやや丸みを持つ柳葉形をした鉄鏃。断面は薄い紡錘形、茎の境で広がり、境を一周する段を持つ。茎は2cm程で曲がり端部は劣化破損する。	21は同一個体
第493図 PL.430	21	鉄製品 鏃	掘方から25cm上 一部欠損	長 幅	3.3 1.0	厚 重	0.3 1.05		鉄族の茎破片。断面は長方形で両端とも劣化破損するが破片と考えられる。	21は同一個体
第493図 PL.430	22	石製品 砥石	掘方直上 不明	長 幅	(7.4) (6.9)	厚 重	5.1 298.3	砥沢石	砥面は3面認められる。各砥面はいずれもほぼ平坦である。	

IX区12号住居

第494図	1	灰釉陶器 皿	埋土 底部～高台部片	底 台	9.4 9.0			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ナデ、高台は貼付。施釉方法不明。	大原2号窯式 期。
第494図 PL.430	2	須恵器 甗	カマド使用面から14cmと17cm上 が接合 口縁部～胴部中 位	口 胴	14.1 20.0			細砂粒/酸化焰/灰 白	ロクロ整形。	

IX区14号住居

第497図 PL.430	1	黒色土器 椀	床面直上 1/3	口 底	15.0 7.7	台 高	7.6 5.9	細砂粒/酸化焰/橙	内面黒色処理が二次被熱により吸炭が消失。ロクロ整形、回転右回りか。底部切り離し不明、高台は貼付。内面はヘラ磨き、器面磨滅のため単位不明。	
第497図	2	須恵器 椀	床面直上 口縁部～体部下 位片	口	16.5			細砂粒/酸化焰/橙	ロクロ整形。	
第497図	3	土師器 甗	カマド使用面直 上 口縁部～胴部上 位片	口	24.3			細砂粒・粗砂粒/ 良好/明赤褐	口縁部はナデ、胴部はヘラナデ、一部に指頭痕が残る。内面胴部はヘラナデ。	

IX区15号住居

第499図 PL.430	1	須恵器 杯	床面直上 ほぼ完形	口 底	10.9 6.0	高	3.1	細砂粒/酸化焰/灰 白	ロクロ整形、回転左回り。底部は回転糸切り無調整。	
第499図	2	須恵器 杯	カマド使用面から7cm上 1/4	底	6.4			細砂粒/酸化焰/黄 灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第499図	3	須恵器 椀	床面から5cm上 底部	底 台	7.7 7.4			細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第499図	4	土師器 台付甗	埋土 胴部下位片	底	7.0			細砂粒/良好/黄灰	脚部は貼付が剥落。胴部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	
第499図	5	土師器 甗	カマド使用面直 上 口縁部～胴部中 位1/4	口	13.0			細砂粒/良好/灰褐	外面胴部に輪積痕が残る。口縁部は横ナデ、胴部はヘラ磨き。内面胴部はヘラナデ。	
第499図 PL.430	6	土師器 甗	カマド使用面から11cm上 口縁部～胴部 下位片	口 胴	19.0 20.8			細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ、一部に木口が残る。	
第499図	7	土師器 甗	カマド使用面直 上とから14cm上 が接合 口縁部～胴部中 位片	口	18.6			細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第499図	8	土師器 甗	カマド使用面直 上 口縁部～胴部下 位片	口 胴	15.0 16.3			細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第499図	9	須恵器 羽釜	カマド使用面直 上と6cm上が接 合 口縁部～胴部中 位片	口 鏝	22.6 27.0			細砂粒/還元焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形。鏝は貼付。	
第499図	10	須恵器 羽釜	カマド使用面から21cm上 口縁部～胴部中 位片	口 鏝	21.7 26.6			細砂粒/還元焰/に ぶい橙	ロクロ整形。鏝は貼付。	

IX区17号住居

第501図	1	土師器 鉢	床面直上と11cm 上が接合 口縁部～胴部上 位片	口	22.0			細砂粒/良好/黒褐	口縁部は横ナデ、体部はヘラ削り。内面はナデ。	
第501図	2	須恵器 椀	カマド使用面から6cm上 口縁部片	口	12.8			細砂粒/酸化焰/灰 黄褐	ロクロ整形。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第501図	3	灰釉陶器 皿	カマド使用面直上 体部～底部片	底 台	9.1 8.6			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ナデ、高台は貼付。 施釉方法は漬け掛けか。	大原2号窯式 期。
IX区18号住居										
第504図 PL.430	1	須恵器 杯	堀方から6cm上 口縁部一部欠	口 底	8.6 5.1	高 2.1		細砂粒・褐粒/酸 化焰/浅黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第504図	2	須恵器 杯	埋土 1/4	口 底	9.0 5.0	高 2.0		細砂粒・粗砂粒・ 褐粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第504図	3	須恵器 杯	埋土 口縁部～底部片	口 底	7.9 5.0	高 1.9		細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第504図	4	灰釉陶器 輪花椀	埋土 口縁部片	口	8.8			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形。かすかに口唇部を内側に押し て輪花にした痕跡が残る。施釉方法は漬 け掛けか。	虎溪山1号窯 式期。
第504図 PL.430	5	鉄製品 不詳	埋土 ほぼ完形	長 幅	4.3 1.6	厚 重	0.6 4.37		三角形をした薄い板状の鉄製品。全体に わずかに捻じれるように曲がる。	
第504図 PL.430	6	鉄製品 不詳	埋土 一部欠損	長 幅	4.1 1.7	厚 重	1.1 6.54		舌状をした薄い鉄製品。全体に弧状に曲 がり一方の端部では強く曲がり破損す る。厚い錆に覆われ刃部等確認できな い。	
IX区22号住居										
第504図 PL.430	7	須恵器 杯	堀方から10cm上 口縁部～底部 1/2	口 底	11.0 5.1	高 3.4		細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第504図	8	須恵器 杯	埋土 体部～底部片	底	5.8			細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第504図	9	須恵器 杯	堀方から12cm上 底部	底	4.4			細砂粒/酸化焰/橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第504図	10	須恵器 椀	堀方埋土 1/3	口 底	11.6 5.2	高 3.8		細砂粒/酸化焰/暗 灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第504図 PL.430	11	須恵器 椀	埋土 口縁部～底部 1/4	口 底	13.2 6.0	台 高	6.0 5.4	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切 り後高台を貼付。	
第504図 PL.430	12	須恵器 椀	堀方から30cm上 底部下位～高台 部	底 台	7.4 7.4			細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切 り後高台を貼付。	外面体部に墨 書。
第504図	13	須恵器 椀	埋土 口縁部中位～底 部片	底	5.6			細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第504図	14	須恵器 甕	埋土 胴部片					細砂粒/還元焰/褐 灰	外面は平行叩き痕が残る。上部に3条の 凹線が巡る。内面は同心円状アテ具痕 が残る。	
IX区26号住居										
第506図 PL.431	1	黒色土器 椀	床面直上 1/2	口 底	10.8 5.6	台 高	5.8 4.4	細砂粒/酸化焰/浅 黄	内面黒色処理。ロクロ整形、回転右回 り。底部は回転ナデ、高台は貼付。内 面はへら磨き。	
第506図 PL.431	2	須恵器 杯	床面直上 完形	口 底	9.0 5.6	高 2.7		細砂粒・粗砂粒・ 褐粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第506図 PL.431	3	須恵器 杯	床面から10cm上 3/4	口 底	8.9 6.6	高 2.7		細砂粒/酸化焰/明 黄褐	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第506図 PL.431	4	須恵器 杯	カマド使用面直 上 3/4	口 底	9.0 5.8	高 2.2		細砂粒・粗砂粒・ 褐粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第506図 PL.431	5	須恵器 杯	床面から8cm上 3/4	口 底	8.5 5.9	高 2.4		細砂粒/酸化焰/橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第506図 PL.431	6	須恵器 杯	カマド使用面か ら6cm上 3/4	口 底	8.8 5.2	高 2.0		細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第506図 PL.431	7	須恵器 杯	床面から6cm上 1/2	口 底	8.6 5.4	高 2.5		細砂粒・褐粒/酸 化焰/にぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第506図	8	灰釉陶器 椀	堀方から13cm上 口縁部～体部下 位片	口	14.8			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。施釉方法 不明。	大原2号窯式 期。
第506図	9	土師器 甕	カマド使用面直 上 胴部～底部片	底	8.6			細砂粒・粗砂粒/ 良好/灰褐	底部と胴部はへら削り。内面はへらナ デ。	
第506図 PL.431	10	土師器 羽釜	堀方から6cmと 15cmと17cm上か が 接合 口縁部～胴部 1/3	口 鏝	23.6 27.7			細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい黄 橙	鏝は貼付。口縁部は横ナデ、胴部は へら削り。内面はへらナデ、器面磨 減のため単位不明。	
第506図	11	土師器 羽釜	堀方直上 口縁部片	口 鏝	18.2 23.6			細砂粒/良好/明赤 褐	外面口縁部に輪積痕が残る。鏝は貼 付。外面の整形は器面磨減のため不 明。内面はへらナデか。	
X区1号住居										
第509図 PL.431	1	黒色土器 椀	床面から8cm上 1/3	口 底	13.8 8.0	台 高	7.5 5.8	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄褐	内面黒色処理。ロクロ整形、回転右回 り。底部は回転糸切り後周囲のみ回 転ナデ、高台は貼付。内面はへら磨 き、器面磨減のため単位不明。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第509図 PL.431	2	須恵器 杯	床面から9cm上 完形	口 底	9.5 4.7	高 2.3	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第509図 PL.431	3	須恵器 杯	床面から11cm上 口縁部一部欠	口 底	9.0 5.4	高 2.6	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転左回り。底部は回転糸切り無調整。	
第509図 PL.431	4	須恵器 杯	床面直上 3/4	口 底	9.4 4.7	高 3.3	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第509図 PL.431	5	須恵器 杯	床面直上 2/3	口 底	10.9 5.5	高 2.9	細砂粒/酸化焰/灰 黄褐	ロクロ整形、回転左回り。底部は回転糸切り無調整。内面 底部は使用時の磨滅がみられる。	
第509図	6	灰釉陶器 皿	埋土 口縁部下位～高 台部片	底 台	8.3 8.0		微砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法 不明。	大原2号窯式 期。
第511図	7	灰釉陶器 皿	床面直上 口縁部下位～高 台部片	底 台	7.0 6.9		微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法 不明。	大原2号窯式 期。
第511図	8	灰釉陶器 椀	床面から20cm上 口縁部片	口	16.0		微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。施釉方法は漬け掛け。	虎溪山1号窯 式期。
第511図	9	灰釉陶器 椀	埋土 口縁部下位～高 台部片	底 台	8.0 7.6		微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形。高台は貼付。施釉方法不明。	虎溪山1号窯 式期。
第511図	10	須恵器 壺	床面直上 胴部下位～底部	底	6.6		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第511図	11	土師器 小型甕	堀方から1cm上 口縁部～胴部中 位1/4	口	12.2		細砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部が ヘラナデ。	
第511図 PL.431	12	土師器 甕	カマド2使用面 直上と23cm上が 接合 1/4	口 底	28.0 17.6	高 22.6	細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい赤褐	鏝は貼付。口縁部上位はナデ、中位・下位はナデ。胴部は ナデ後ヘラ削り。内面はヘラナデ。	
第511図 PL.431	13	須恵器 羽釜	カマド1使用面 から14cmと17cm 上が接合 口縁部～胴部中 位1/3	口 鏝	19.6 25.0		細砂粒/酸化焰/灰 黄	ロクロ整形。鏝は貼付。胴部にヘラナデ。	
第511図 PL.431	14	鉄製品 鏝	堀方から24cm上 破片	長 幅	6.7 1.6	厚 重	1.1 12.23	鉄鏝破片。先端は斜め三角形だが全体に厚く錆に覆われて いるため詳細は不明。茎との境を一周する形ので段を持つ。 茎は劣化破損する。	
第511図 PL.431	15	鉄製品 紡錘車	カマド埋土 破片	長 幅	3.9 2.5	厚 重	0.6 4.54	紡錘の破片。波打つように曲がり破損錆化する、紡錘の一方 は劣化破損した痕跡をとどめる。	
第511図 PL.431	16	鉄製品 のこぎり	床面直上 破片	長 幅	10.1 2.1	厚 重	0.6 14.80	先端側を劣化破損するのこぎり破片。刃の平面形状から横 引きのこぎりの可能性が有るが、各刃の先端は破損しあさ りの形状も確認できない。茎は端部2cm付近でくの字に曲 がり木質等の痕跡は見られない。	
第511図 PL.431	17	鉄製品 不詳	床面から11cm上 ほぼ完形	長 幅	4.9 3.5	厚 重	3.2 32.60	長方形の鉄板二枚を貫通する形で棒状の鉄製品が接続す る。二枚の鉄板は湾曲し3cm程の距離を持つが内側の表面 には木質等の痕跡は見られない。	
第511図 PL.431	18	鉄製品 不詳	床面から7cm上 破片	長 幅	8.6 3.1	厚 重	1.2 30.26	2×5cm程の鉄板側面に長さ8cm直径5mmほどの丸棒状鉄製品 が接続する。蝶番の様な形状を持つが穴等は見られない。	
第511図 PL.431	19	鉄製品 不詳	埋土 破片	長 幅	8.3 1.0	厚 重	0.8 6.66	断面丸みのある四角の鉄製品。本体は劣化空洞化するが、 周囲を二枚の割竹形の木質痕が覆う。茎および柄の錆化し たものと考えられるが詳細不明。	
第511図 PL.431	20	鉄製品 不詳	床面直上 破片	長 幅	3.5 0.8	厚 重	0.9 8.10	断面長方形の狭い板状の鉄製品でつづの字状に曲がり端部は 破損の可能性が有る。	

X区2号住居

第513図	1	土師器 甕	床面から26cm上 口縁部～胴部上 位片	口	25.4		細砂粒/良好/褐	口縁部は縦位のヘラナデ、胴部もヘラナデ後一部にヘラ磨 き。内面は口縁部が横ナデ、胴部はヘラナデ。	
第513図 PL.432	2	鉄製品 茎	堀方直上 破片	長 幅	5.6 1.8	厚 重	0.6 7.53	撥形の鉄製品。はば広の端部は捻じれるように折れ曲がり、 茎の破損したものと考えられる。	
第513図 PL.432	3	鉄製品 釘	床面直上 ほぼ完形	長 幅	3.9 2.2	厚 重	1.1 5.73	断面丸みのある正方形の角釘と見られる鉄製品。頭はわず かに張り出すように折り曲げ、先端はやや細くなるが尖ら ない。	
第513図 PL.432	4	鉄製品 不詳	床面から19cm上 破片	長 幅	6.3 0.9	厚 重	0.9 5.77	断面円形の丸棒状鉄製品で両端とも劣化破損する。	

X区3号住居

第516図	1	須恵器 椀(高足)	床面から16cm上 脚部	台	14.8		細砂粒・粗砂粒・ 長石/酸化焰/橙	ロクロ整形、回転右回り。台部は貼付。	
第516図	2	灰釉陶器 椀	カマド使用面か ら23cm上 底部～体部片	底 台	8.3 8.0		微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。高台は貼付。施釉方法不明。	大原2号窯式 期。
第516図 PL.432	3	鉄製品 刀子	堀方から3cm上 一部欠損	長 幅	16.6 2.0	厚 重	1.2 37.41	棟・刃側ともに明瞭な関を持つ刀子。茎尻は劣化破損する。	
第516図 PL.432	4	鉄製品 不詳	埋土 破片	長 幅	9.4 1.6	厚 重	1.6 8.90	断面ほぼ正方形の棒状鉄製品。先端は細くなり尖る、他の 端部は劣化破損する。	
第516図 PL.432	5	鉄製品 不詳	床面から14cm上 破片	長 幅	11.5 1.4	厚 重	1.1 14.8	断面丸から四角の棒状の鉄製品。一端に向かい細くなりや や尖る。他の端部は劣化破損する。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第516図 PL.432	6	鉄製品 不詳	床面から18cm上 ほぼ完形	長 幅	18.8 1.3	厚 重	1.3 28.84		断面やや丸みのある正方形、両端に向かい細くなるが丸みを持って終わる。
X区11号住居									
第518図	1	灰釉陶器 椀	貯蔵穴底面直上と 9cm上が接合 口縁部～胴部中 位1/3	口	15.8			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。施釉方法は漬け掛けか。 大原2号窯式 期。
X区12号住居									
第518図	2	土師器 椀(高足)	床面から19cm上 台部1/2	台	12.9			細砂粒/酸化焰/橙	ロクロ整形。
第518図	3	須恵器 羽釜	床面直上 口縁部～鏝部片	口 鏝	22.8 26.4			細砂粒/酸化焰/灰 黄	ロクロ整形。鏝は貼付。
X区4号住居									
第519図 PL.432	1	土師器 甗	床面直上～ 11cm上の遺物群 が接合 口縁部～胴部下 位1/3	口	31.6			細砂粒・粗砂粒・ 片岩/良好/黒褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部が ヘラナデ。
第519図 PL.432	2	鉄製品 不詳	床面から4cm上 ほぼ完形	長 幅	5.1 1.5	厚 重	1.1 9.63		断面長方形の鉄製品で平面形は？形だが全体に厚く錆に覆 われオリジナル形状か破損によるかは不明。
X区5号住居									
第522図	1	鉄製品 不詳	埋土 ほぼ完形	長 幅	11.9 1.1	厚 重	0.9 13.31		断面長方形の角棒状の鉄製品。一端は角形で反対側に向かい 徐々に細くなり尖る。
X区6号住居									
第524図 PL.432	1	土師器 杯	床面直上と堀方 埋土が接合 完形	口 底	12.8 8.0	高	3.6	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。
第524図 PL.432	2	土師器 杯	床面直上 1/2	口 底	12.2 9.0	高	2.9	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。
第524図 PL.432	3	須恵器 蓋	床面直上 口縁部一部欠	口 天井	17.3 8.4	高	2.5	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい褐	ロクロ整形、回転右回り。天井部に回転糸切り痕が残る。
第524図 PL.432	4	須恵器 杯	床面直上 3/4	口 底	12.7 6.5	高	3.5	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。
X区7号住居									
第525図	1	土師器 杯	床面から23cm上 口縁部～底部片	口 高	13.0 3.5			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半がヘラ削り、底 部は手持ちヘラ削り。
第525図	2	土師器 杯	掘方から7cm上 口縁部～体部中 位1/3	口	14.8			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半がヘラ削り、底 部は手持ちヘラ削り。
第525図 PL.433	3	灰釉陶器 椀	掘方から7cm上 底部～高台部 1/2	底 台	7.4 7.1			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼 付。施釉方法不明。 大原2号窯式 期。
X区24号住居									
第528図 PL.433	1	土師器 甗	カマド使用面と 16cm上が接合 口縁部～胴部下 位1/3	口 胴	20.4 22.0			細砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部が ヘラナデ。
第528図 PL.433	2	鉄製品 鋤・鋤先	埋土 破片	長 幅	11.5 3.3	厚 重	1.9 81.52		U字形の鋤または鋤先と見られる鉄製品。断面は大きく開 いたY字状で一端は破損錆化する。
第528図 PL.433	3	鉄製品 不詳	埋土 ほぼ完形	長 幅	9.7 6.9	厚 重	3.4 125.16		断面長方形の撥形鉄製品と頭が大きく曲がる釘状の鉄製 品2点が斜めに交差し錆化癒着する。
第528図 PL.433	4	鉄製品 刀子	埋土 一部欠損	長 幅	13.8 1.4	厚 重	0.8 17.51		棟・刃側ともに明瞭な間を持つ刀子。刃の先端側は劣化破 損する。茎に木質等の痕跡は見られない。
X区9号住居									
第529図	1	土師器 杯	埋土 口縁部片	口 高	9.8 3.0			細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。
第529図 PL.433	2	須恵器 皿	埋土 口縁部～高台部 片	口 底	11.6 6.6	台 高	7.0 1.7	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。
第529図 PL.433	3	須恵器 杯	埋土(6溝埋 土?) 3/4	口 底	12.5 7.6	高	3.1	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。
X区10号住居									
第531図 PL.433	1	土師器 杯	床面から9cm上 3/4	口 高	11.7 3.5			細砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り、体 部に指頭痕が残る。
第531図	2	土師器 杯	床面直上 口縁部片	口 底	12.0 9.0			細砂粒/良好/明褐	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。
第531図 PL.433	3	須恵器 皿	床面から8cm上 1/2	口 底	12.8 6.5	台 高	6.2 2.8	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切りか、高台は貼付。
第531図	4	須恵器 皿	床面直上 底部のみ	底 台	7.0 7.4			細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。 口縁部を打ち欠き、転用硯として二次利用か。

挿図 PL.No.	No.	種 器 種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考	
第531図 PL.433	5	須恵器 杯	床面直上と11cm 上が接合 1/3	口 底	11.8 6.0	高	3.8	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第531図 PL.433	6	須恵器 椀	床面直上と16cm 上が接合 1/4	口 底	15.3 7.0	台 高	6.5 5.4	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後回転ナデ、高台は貼付。	
第531図	7	土師器 小型甕	床面直上 口縁部～胴部上 位片	口	11.6			細砂粒/良好/明赤 褐	内面頸部に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第531図 PL.433	8	鉄製品 刀子	床面から9cm上 一部欠損	長 幅	25.6 1.9	厚 重	1.1 45.00		棟・刃側ともに明瞭な間を持つ刀子。先端は破損錆化する、茎尻付近には広葉樹散孔材の木質痕が付着する。	
第531図 PL.433	9	鉄製品 不詳	床面直上 破片	長 幅	8.6 1.0	厚 重	1.0 12.46		断面丸みのある四角形で棒状の鉄製品一端は劣化破損し反対側は端部は丸みを持つ。	

X区13号住居

第533図	1	土師器 杯	埋土 1/3	口 底	11.8 8.0	高	2.9	細砂粒/良好/明褐	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第533図	2	土師器 杯	堀方埋土 口縁部～底部 1/4	口 底	11.8 8.3			細砂粒/良好/明褐	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第533図 PL.433	3	黒色土器 耳皿	床面直上 1/2	底 台	4.2 4.1			細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄	内面黒色処理、一部二次被熱により吸炭が消失。ロクロ整形、回転右回りか。底部回転糸切り後高台を貼付。内面はヘラ磨き。	外面底部に墨書。
第533図 PL.433	4	須恵器 皿	堀方から3cm上 2/3	口 底	13.6 5.8	台 高	6.2 2.4	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第533図 PL.433	5	須恵器 杯	床面直上 完形	口 底	12.0 6.1	高	3.3	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第533図 PL.433	6	須恵器 椀	カマド使用面直 上 完形	口 底	12.2 5.6	台 高	5.5 5.1	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付後、回転ナデ。	内外面口唇部の一部に煤が付着。
第533図 PL.434	7	須恵器 椀	カマド使用面直 上 口縁部一部欠	口 底	13.1 6.5	高	4.4	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰・燻/にぶ い黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第533図 PL.434	8	須恵器 椀	床面から6cm上 1/3	口 底	13.4 6.9	台 高	6.3 5.7	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ナデ、高台は貼付。	
第533図 PL.434	9	須恵器 椀	カマド使用面直 上 1/3	口 底	12.8 6.0			細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付、高台は剥落。	
第534図 PL.434	10	灰釉陶器 椀	カマド使用面直 上 1/2	口 底	16.8 8.8	台 高	9.0 4.9	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法は刷毛塗りか。	東海産9C。後半代か。
第534図 PL.434	11	灰釉陶器 長頸壺	カマド使用面直 上 胴部上位～底部 1/3	底	8.2			細砂粒/還元焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。胴部下位は2段の回転ヘラ削り。施釉方法は刷毛塗り。	光ヶ丘1号窯式期。
第534図 PL.434	12	土師器 小型壺	カマド使用面直 上 完形	口 底	14.0 6.6	高	14.0	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。底部と胴部下位は手持ちヘラ削り。	北陸系ロクロ甕。
第534図	13	土師器 甕	床面直上 口縁部～胴部上 位片	口	18.0			細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第534図 PL.434	14	須恵器 羽釜	カマド使用面直 上 口縁部～胴部下 位3/4	口 鏝	20.4 24.1			細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 橙	ロクロ整形、回転右回り。鏝は貼付。胴部下位はヘラ削り。内面は一部にヘラナデ。	
第534図 PL.434	15	須恵器 羽釜	カマド使用面直 上 口縁部～胴部下 位	口 鏝	19.0 23.5			細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 褐	ロクロ整形、回転右回り。胴部下位に手持ちヘラ削り。	
第534図 PL.434	16	須恵器 羽釜	カマド使用面直 上 胴部下位～底部 1/2	底	12.5			細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/灰黄褐	ロクロ整形、回転右回り。底部と胴部下位は手持ちヘラ削り。内面底部はヘラナデ。	
第534図 PL.434	17	須恵器 甕	カマド使用面直 上 胴部下位～底部	底	16.4			細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/橙	ロクロ整形、回転右回り。底部と胴部下位は手持ちヘラ削り。内面はヘラナデ。	
第535図 PL.433	18	鉄製品 鎌	掘方から10cm上 ほぼ完形	長 幅	23.9 5.6	厚 重	2.5 395.64		柄装着部を大きく斜めに折り曲げた鉄鎌。刃は直線的だが柄装着部端から7cm程でわずかにカーブする。柄装着部分に木質等の痕跡は見られない。	
第535図 PL.433	19	鉄製品 不詳	掘方埋土 破片	長 幅	2.7 2.5	厚 重	0.7 6.31		短冊形をした薄い板状の鉄製品。表面に穴等は確認できない。	

X区14号住居

第539図 PL.435	1	黒色土器 椀	床面から15cm上 完形	口 底	10.8 5.3	台 高	5.5 3.9	細砂粒/酸化焰/黒	内外面とも黒色処理。ロクロ整形。底部はナデ、高台は貼付。体部から口縁部は内外面ともヘラ磨き。	内外面の口唇部に付着物あり。
-----------------	---	-----------	-----------------	--------	-------------	--------	------------	-----------	--	----------------

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第539図 PL.435	2	須恵器 杯	床面から26cm上 ほぼ完形	口底 8.8 5.3	高	2.0	細砂粒/酸化焰/浅 黄橙	ロクロ整形、回転左回り。底部は回転糸切り無調整。	
第539図 PL.435	3	須恵器 杯	床面から9cm上 1/2	口底 9.6 4.7	高	2.1	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第539図 PL.435	4	土師器 羽釜	カマド3掘方から 9cm上 口縁部～胴部中 位片	口 鏝 24.6 29.8			細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい褐	鏝は貼付。口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は木口 残るヘラナデ。	
第540図 PL.435	5	鉄製品 釘	床面から13cm上 ほぼ完形	長 幅 8.1 0.9	厚 重	1.0 13.56		断面長方形の角釘。頭側は幅を広げながら緩やかに曲がる。 先端付近で細くなり尖る。	
第540図 PL.435	6	鉄製品 釘?	床面直上 ほぼ完形	長 幅 12.9 2.0	厚 重	1.5 32.71		断面四角形の角釘と見られる鉄製品。頭側では徐々に広がる が角型に終わる。先端に向かい細くなるが鋭利には尖ら ない。	
第540図 PL.435	7	鉄製品 刀子	床面から32cm上 破片	長 幅 7.8 1.3	厚 重	0.6 6.46		棟・刃側ともなだらかに茎に移行する刀子。刃側は0.5cm 程で劣化破損する。茎は細長く木質等の痕跡は見られない。	
第540図 PL.435	8	鉄製品 刀子	埋土 破片	長 幅 6.1 2.0	厚 重	0.4 6.49		断面狭三角形の刀子と見られる鉄製品破片。茎側は劣化破 損する。	
第540図 PL.435	9	鉄製品 鏝	埋土 一部欠損	長 幅 11.2 2.0	厚 重	1.1 21.48		先端は狭三角の鉄鏝。先端断面はやや丸みを持つ菱形。茎 との境では両端に段を持つ。茎は2.5cm程で劣化破損する。	
第540図 PL.435	10	鉄製品 不詳	床面から14cm上 破片	長 幅 17.1 2.0	厚 重	1.7 32.53		断面円形の丸棒状の鉄製品。端部はやや細くなるが丸み を持つ。反対側は劣化破損する。	
第540図 PL.435	11	鉄製品 不詳	埋土 破片	長 幅 5.9 0.7	厚 重	0.5 3.27		断面は丸みを持つ角形の棒状鉄製品。一端に向かい細くな り、反対側は劣化破損する。	

X区15号住居

第543図 PL.435	1	黒色土器 杯	カマド使用面から 24cm上 1/3	口底 11.8 5.8	高	3.8	細砂粒/酸化焰/黒 褐	内外面とも黒色処理。ロクロ整形、回転右回り。底部は回 転糸切り無調整。	
第543図 PL.435	2	須恵器 杯	床面直上 完形	口底 10.7 4.9	高	3.6	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第543図 PL.435	3	須恵器 杯	カマド使用面から 33cm上 3/4	口底 10.2 4.4	高	2.9	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第544図 PL.435	4	須恵器 椀	床面直上 1/2	口底 15.1 7.8			細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。	
第544図 PL.435	5	須恵器 椀	床面直上 高台部	底台 7.8 8.6			細砂粒/酸化焰/に ぶい赤褐	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。	
第544図 PL.435	6	灰釉陶器 皿	埋土 口縁部一部欠	口底 11.7 7.3	台 高	6.8 2.6	微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼 付。施釉方法は漬け掛けか。	大原2号窯式 期、折縁皿。
第544図 PL.435	7	須恵器 羽釜	カマド使用面直 上 口縁部～胴部上 位片	口 鏝 25.8 30.2			細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 褐	ロクロ整形。鏝は貼付。胴部はヘラ削り。	
第544図 PL.435	8	鉄製品 刀子	埋土 破片	長 幅 6.9 1.7	厚 重	1.0 13.42		断面狭三角形の刀子と見られる鉄製品破片。茎側は劣化破 損する。	

X区17号住居

第544図 PL.435	9	須恵器 椀	床面直上 3/4	口底 12.4 5.9	台 高	5.5 4.8	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
-----------------	---	----------	-------------	-------------------	--------	------------	-------------------	----------------------------	--

X区26号住居

第544図	10	須恵器 羽釜	床面から5cm上 口縁部～胴部上 位片	口 鏝 21.2 24.4			細砂粒/酸化焰/橙	ロクロ整形、鏝は貼付。	
-------	----	-----------	---------------------------	------------------------	--	--	-----------	-------------	--

X区16号住居

第545図 PL.435	1	土師器 杯	床面から9cm上 1/4	口底 12.6 9.0			細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第545図 PL.435	2	須恵器 皿	床面から15cm上 3/4	口底 13.6 6.1	台 高	5.9 3.3	細砂粒/酸化焰/橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第545図 PL.435	3	須恵器 杯	床面から18cmと 23cm上が接合 1/2	口底 13.1 5.3	高	4.2	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第545図 PL.435	4	須恵器 椀	床面から16cm上 3/4	口底 14.5 6.1	台 高	5.4 5.5	細砂粒/酸化焰/灰 黄褐	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第545図 PL.435	5	須恵器 椀	床面直上と12cm 上が接合 3/4	口底 14.8 7.0	台 高	6.8 6.1	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第545図 PL.435	6	須恵器 椀	床面から8cm上 3/4	口底 14.0 7.2	台 高	6.6 5.7	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/黄灰	ロクロ整形、回転右回り。底部切り離し技法不明、高台は 貼付。	
第545図 PL.436	7	須恵器 椀	床面直上と6cm 上が接合 口縁部一部欠	口底 21.4 11.6	台 高	11.7 10.9	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	外面体部に火 禰が残る。
第546図	8	須恵器 椀	床面直上 1/3	口底 13.8 7.4	台 高	7.2 4.9	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部切り離し技法不明、高台は 貼付。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第546図 PL.436	9	須恵器 椀	床面から11cm上 1/3	口 底	13.8 6.2	台 高	5.6 5.8	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。
第546図	10	須恵器 椀	床面から19cm上 1/3	口 底	14.8 6.2	台 高	6.0 5.3	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部切り離し技法不明、高台は貼付。
第546図	11	土師器 小型甕	床面から21cm上 口縁部～胴部上 位片	口	12.6			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。
第546図 PL.436	12	鉄製品 刀子	埋土 破片	長 幅	8.0 1.5	厚 重	0.7 7.87		棟・刃側ともに関を持つ刀子。茎は細長く端部は劣化破損する。柄表面にわずかに広葉樹材の木質痕が付着する。

X区18号住居

第549図	1	須恵器 皿	堀方から10cm上 口縁部～底部片	口 底	12.6 8.0	台 高	7.6 2.2	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。
第549図 PL.436	2	須恵器 杯	床面から21cm上 3/4	口 底	9.3 5.4	高	2.4	細砂粒/酸化焰/橙	ロクロ整形、回転左回り。底部は回転糸切り無調整。
第549図 PL.436	3	須恵器 椀	堀方から9cmと 11cm上が接合 完形	口 底	14.2 6.6	台 高	5.9 5.1	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。
第549図 PL.436	4	須恵器 椀	堀方から7cm上 3/4	口 底	14.4 6.3	台 高	6.0 5.2	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。
第549図	5	須恵器 椀	堀方から4cm上 口縁部～底部片	口 底	15.6 8.1	台 高	7.2 4.8	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰ワブ	ロクロ整形、回転右回り。底部切り離し技法不明、高台は貼付。
第549図	6	須恵器 椀	堀方から9cm上 口縁部～体部下 位片	口	21.0			細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形。
第549図	7	須恵器 羽釜	カマド使用面直 上と24cm上が接 合 口縁部～胴部上 位片	口 鏝	18.0 21.4			細砂粒/酸化焰/に ぶい橙	ロクロ整形。鏝は貼付。
第549図 PL.436	8	鉄製品 不詳	埋土 破片	長 幅	5.0 0.5	厚 重	0.4 1.17		幅0.4cmほどの幅の狭い板状の鉄製品で両端は同じ方向に曲がり破損錆化と見られる。

X区22号住居

第550図	9	土師器 杯	床面直上 1/4	口 底	10.7 6.4	高	2.7	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。
第550図	10	須恵器 皿	堀方から1cm上 口縁部片	口 底	14.4 7.0			細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。底部回転糸切り後高台を貼付。

X区23号住居

第550図	11	土師器 甕	カマド使用面直 上 口縁部～胴部上 位片	口	19.4			細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。
-------	----	----------	-------------------------------	---	------	--	--	----------------	---------------------------------

X区19号住居

第552図 PL.436	1	須恵器 羽釜	床面から23cm上 口縁部～胴部 中位1/4	口 鏝	23.2 27.8			細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/暗褐	ロクロ整形。鏝は貼付。胴部はヘラ削り。
-----------------	---	-----------	------------------------------	--------	--------------	--	--	--------------------	---------------------

X区31号住居

第552図	2	土師器 杯	埋土 1/4	口 底	10.8 6.8	高	3.3	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。
-------	---	----------	-----------	--------	-------------	---	-----	----------	---------------------------

X区21号住居

第554図	1	須恵器 羽釜	カマド使用面直 上 口縁部～胴部 中位片	口 鏝	21.8 26.0			細砂粒/酸化焰/に ぶい橙	ロクロ整形。鏝は貼付。胴部はヘラ削り。
-------	---	-----------	-------------------------------	--------	--------------	--	--	------------------	---------------------

X区27号住居

第556図	1	土師器 甕	床面直上 口縁部～胴部 中位片	口 胴	20.4 22.0			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。
第556図 PL.436	2	鉄製品 不詳	埋土 破片	長 幅	5.5 0.9	厚 重	0.9 4.72		断面ほぼ正方形の角棒状鉄製品で端部から2cm程でくの字に曲がり、先端は尖らない。反対側は劣化破損する。

XI区4号住居

第558図	1	須恵器 羽釜	床面直上 口縁部～胴部 中位片	口 鏝	18.0 21.4			細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形。鏝は貼付。
-------	---	-----------	-----------------------	--------	--------------	--	--	-------------------	-------------

XII区1号住居

第559図	1	須恵器 椀	床面から12cm上 高台部1/2	底 台	7.6 8.4			細砂粒/酸化焰/淡 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。
第559図	2	須恵器 甕	床面から26cm上 胴部片					細砂粒/還元焰/灰	内外面ともヘラナデ。

XII区2号住居

第561図 PL.436	1	須恵器 杯	カマド使用面直 上 3/4	口 底	12.0 6.0	高	4.0	細砂粒/酸化焰/に ぶい赤褐	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。
-----------------	---	----------	---------------------	--------	-------------	---	-----	-------------------	--------------------------

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第561図 PL.436	2	須恵器 椀	カマド使用面から16cm上 ほぼ完形	口底	13.7 6.1	台高	6.2 5.3	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第561図 PL.436	3	須恵器 椀	カマド使用面から16cm上 口縁部一部欠	口底	14.6 7.6	高	5.8	細砂粒/酸化焰・ 燻/灰黄褐	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	内面体部に刻書。
第561図	4	土師器 甕	カマド使用面から14cm上 口縁部～胴部上位片	口	15.8			細砂粒/良好/褐	外面胴部に輪積痕が残る。口縁部は横ナデ、胴部はへら削り。内面は胴部がへらナデ。	
第561図 PL.436	5	鉄製品 釘	掘方から5cm上 一部欠損	長幅	5.0 1.3	厚重	1.0 6.39		断面長方形の角釘。頭部分やや幅を広げるが厚変わらず折り返しもない。先端に向かい細くなり斜めに劣化破損する。	

XII区4号住居

第564図 PL.436	1	土師器 甕	床面から10cm上とカマド使用面から6cm上が接合 1/2	口底	25.5 11.0	高胴	30.9 26.0	細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部と底部はへら削り。内面は底部から胴部がへらナデ。	
-----------------	---	----------	----------------------------------	----	--------------	----	--------------	------------------	--	--

XII区7号住居

第567図 PL.437	1	灰釉陶器 椀	カマド使用面直上 1/4	口底	14.8 8.0			細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転へらナデ、高台は貼付、体部下位に2段の回転へら削り。施釉方法は漬け掛け。	大原2号窯式期。
第567図	2	灰釉陶器 椀	埋土高台部1/2	底台	6.8 6.6			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転へらナデ、高台は貼付。施釉方法は刷毛塗りか。	大原2号窯式期。
第567図	3	須恵器 甕	カマド使用面直上と29cmと39cm上が接合 胴部上位～胴部下位片	鏝	31.5			細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 橙	ロクロ整形。胴部下位の頸付近はへらナデ。内面に小穴が2カ所。	
第567図 PL.437	4	須恵器 羽釜	カマド使用面直上と床面から6cm上が接合 口縁部～胴部下位1/4	口鏝	20.0 25.8			細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 褐	ロクロ整形。鏝は貼付。胴部下半はへら削り。	
第567図 PL.437	5	鉄製品 釘	埋土 ほぼ完形	長幅	6.4 1.2	厚重	1.7 9.06		断面ほぼ正方形の角釘。頭は幅を広げ短く直角に折り曲げる。先端はやや細くなるが尖らない。	

XII区8号住居

第567図 PL.437	6	土師器 杯	土坑1底直上 3/4	口底	13.0 6.5	高	4.5	細砂粒/良好/赤褐	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部はへらナデか。	
第567図 PL.437	7	須恵器 椀	床面直上 3/4	口底	11.9 5.5	台高	5.6 4.5	細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第567図	8	須恵器 椀	埋土 底部-胴部下位片	底台	6.4 5.6			細砂粒/還元焰・ 燻/オリープ灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	内面底部に刻書。
第567図 PL.437	9	緑釉陶器 輪花椀	床面から20cm上 1/3	口底	16.0 7.8	台高	8.4 5.6	微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転へらナデ、高台は貼付、体部から口縁部にロクロ痕が残る。内面底部にトチン痕が残る。釉薬に濃淡がみられる。	東海産9C.後半代。
第567図 PL.437	10	緑釉陶器 椀	床面から8cm上 口縁部片					微砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形。内外面とも施釉。	稜椀か。
第567図	11	土師器 甕	土坑2底直上 口縁部～胴部上位1/3	口胴	18.2 20.8			細砂粒/良好/灰褐	口縁部は横ナデ、頸部に指頭痕が残る、胴部はへら削り。内面胴部はへらナデ。	
第567図 PL.437	12	鉄製品 不詳	埋土 ほぼ完形	長幅	6.4 1.5	厚重	1.3 20.30		断面正方形に近い角棒状の鉄製品。一端は角形だが、反対側は丸みを持つ。厚く硬い錆に覆われ本体脆弱なため詳細は不明。	
第567図 PL.437	13	石製品 石製品	床面から26cm上 1/2	長幅	(6.9) (4.1)	厚重	(2.3) 29.6	二ツ岳軽石	外面全体に部分的な研磨が認められ整形されている。中心に径約10mmの孔が認められ、内面は滑らかである。	

XII区10号住居

第570図 PL.437	1	須恵器 杯	土坑3底直上 完形	口底	9.0 4.6	高	2.7	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。口縁部は2カ所を押しあげられたため歪みがみられる。	
第570図 PL.437	2	須恵器 杯	床面から7cm上 1/4	口底	9.6 4.8	高	3.6	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は砂底か、器面磨滅のため不鮮明。	
第570図 PL.437	3	須恵器 椀	床面直上 2/3	口底	10.0 5.4	台高	5.3 3.9	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第570図	4	須恵器 椀	カマド使用面から18cm上 口縁部下位～底部1/2	口底	5.3 5.4			細砂粒/酸化焰/に ぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第570図 PL.437	5	須恵器 羽釜	床面直上とカマド使用面直上が接合 口縁部～胴部下位1/4	口鏝	24.2 27.4			細砂粒/酸化焰/浅 黄橙	ロクロ整形。鏝は貼付。胴部はへら削り。内面はへらナデ。	

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第570図	6	須恵器 羽釜	カマド使用面直上と17cm上が接合 口縁部～胴部中位片	口 鏝	21.4 25.4			細砂粒/酸化焰/明赤褐	ロクロ整形。鏝は貼付。胴部は下位へ向けてのヘラ削り。
第570図 PL.437	7	鉄製品 刀子?	埋土 破片	長 幅	4.9 1.7	厚 重	0.8 8.44		断面薄い三角形で刀子先端破片と見られる鉄製品。端部は破損錆化する。
第570図 PL.437	8	鉄製品 鉸具	床面直上 破片	長 幅	5.5 3.9	厚 重	1.0 18.21		コの字形の輪金とT字形の刺金からなる鉸具。輪金は両端とも劣化破損する。刺金は長く輪金よりも1cm以上突出する。
第570図	9	鉄滓 流動滓	床面から28cm上	長 短	12.5 11.8	厚 重	5.2 924.75		外面が紫黒色の流動性の高い流動滓。滓質密。比重が高い。上面は流れ皺が生じている。断面は光沢がある灰褐色。底面に炉壁片を含む土砂が付着。

XII区11号住居

第572図 PL.438	1	黒色土器 椀	埋土 2/3	口 底	15.8 8.0			細砂粒/酸化焰/黒	内外面とも黒色処理。ロクロ整形。底部切り離し技法不明、高台は貼付。縁部から体部はヘラ磨き、器面磨滅のため単位不鮮明。内面は蓮華文状にヘラ磨きか施されている。	高台一部欠損後擦り磨き再使用。
第572図 PL.438	2	須恵器 杯	カマド使用面から5cm上 口縁部一部欠	口 底	9.0 4.6	高	3.0	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第572図 PL.438	3	須恵器 杯	床面直上 3/4	口 底	9.3 5.0	高	3.1	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第572図 PL.438	4	須恵器 椀	カマド使用面直上 1/3	口 底	14.1 6.0	台 高	7.4 5.4	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	

XII区12号住居

第574図 PL.438	1	須恵器 杯	床面直上 3/4	口 底	9.8 4.4	高	2.9	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第574図 PL.438	2	須恵器 杯	床面直上 1/2	口 底	9.8 5.0	高	2.8	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第574図	3	須恵器 羽釜	床面直上 口縁部～胴部中位1/4	口 鏝	22.6 25.7			細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄橙	ロクロ整形。鏝は貼付。胴部は下位へ向けてのヘラ削り。	
第574図 PL.438	4	鉄製品 不詳	埋土 破片	長 幅	5.1 2.7	厚 重	1.2 16.76		三角形をした鉄製品破片。全体に放射割れが著しく鑄造鉄製品の破片と見られる。	
第574図 PL.438	5	鉄製品 不詳	埋土 破片	長 幅	3.8 0.9	厚 重	0.7 2.53		断面長方形の鉄製品破片。両端とも破損錆化する。	
第574図 PL.438	6	鉄製品 不詳	埋土 破片	長 幅	4.2 0.9	厚 重	0.5 2.53		断面長方形の鉄製品破片。一端は破損錆化もう一方は劣化破損する。	
第574図 PL.438	7	鉄製品 不詳	埋土 破片	長 幅	5.3 0.8	厚 重	0.8 3.19		断面長方形の鉄製品破片。両端とも破損錆化する。	

XII区14号住居

第576図 PL.438	1	土師器 甕	カマド使用面から6cm～26cm上の遺物群が接合 口縁部～胴部下位1/2	口 胴	26.4 28.3			細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい赤褐	口縁部横ナデ、胴部はヘラ削り、一部にハケ目がみられる。内面胴部はヘラナデ。	
第576図 PL.438	2	鉄製品 不詳	埋土 ほぼ完形	長 幅	7.5 3.6	厚 重	1.3 26.32		薄い板状の鉄製品で弧状の平面形を持つ。表面全体に厚い錆に覆われ詳細は不明。	
第576図 PL.438	3	鉄製品 不詳	カマド埋土 ほぼ完形	長 幅	5.0 1.7	厚 重	1.8 26.37		断面正方形に近い角棒状の鉄製品で両端とも角形。	

XII区15号住居

第576図 PL.438	4	土製品 紡輪	埋土 完形	縦 横	6.9 7.6	厚 孔	1.3 0.8	細砂粒/酸化焰/に ぶい橙	ロクロ整形、回転左回り。下面は回転糸切り無調整。ほぼ中央に焼成前の穿孔あり。	須恵器杯の製作技法にて作成。
-----------------	---	-----------	----------	--------	------------	--------	------------	------------------	--	----------------

XII区16号住居

第578図 PL.438	1	須恵器 杯	床面から16cm上 3/4	口 底	9.8 4.6	高	3.3	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第578図 PL.438	2	須恵器 杯	床面から8cm上 3/4	口 底	9.4 5.3	高	2.8	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第578図	3	須恵器 椀	埋土 口縁部～体部下位1/2	口 底	12.0			細砂粒/酸化焰/に ぶい橙	ロクロ整形。	
第578図 PL.438	4	緑釉陶器素 地皿	埋土 口縁部片	口 底	14.8			微砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形。内外面ともヘラ磨きか。	
第578図 PL.438	5	緑釉陶器素 地皿	埋土 底部下位～高台部片	底 台	7.5 7.0			微砂粒/還元焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形。高台は削り出し。内外面ともヘラ磨きか。	京都産9C.末～10C.初頭。
第578図	6	土師器 甕	埋土 底部	底	9.9			細砂粒/良好/黒褐	底部は木口の残るヘラナデか。内面はナデ。	
第578図	7	須恵器 羽釜	埋土 口縁部～胴部中位片	口 鏝	23.6 27.9			細砂粒/酸化焰/灰 黄褐	ロクロ整形。鏝は貼付。胴部はヘラ削り。	

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第578図 PL.438	8	不明 羽釜	埋土 鏝部片				細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形。鏝は貼付。胴部はヘラ削りか。	外面口縁部に 刻書。
第578図 PL.438	9	鉄製品 不詳	床面から27cm上 ほぼ完形	長 幅	3.9 1.9	厚 重	1.0 7.15		木の葉形をした薄い板状の鉄製品で、断面は湾曲する。
第578図 PL.438	10	鉄製品 不詳	床面から8cm上 破片	長 幅	6.5 1.1	厚 重	0.6 5.41		断面細い台形状の鉄製品。幅の狭い舌状で一端は劣化破損 他の端部はやや丸みを持つ角形でやや薄くなる。
第578図 PL.438	11	鉄製品 不詳	埋土 ほぼ完形	長 幅	13.3 1.8	厚 重	1.6 22.25		断面丸みを持つ棒状の鉄製品。一端は丸く他端部に向かい 細くなるが尖らず丸みを持ち終わる。

XII区18号住居

第583図 PL.438	1	須恵器 杯	床面直上 3/4	口 底	10.1 4.5	高	3.1	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第583図	2	灰釉陶器 広口瓶	埋土 底部～胴部下位 片	底 台	12.6 12.6			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転ヘラナデ、高台は 貼付、胴部は回転ヘラ削り。外面底部の中ほどにも施釉。	
第583図	3	灰釉陶器 長頸壺	埋土 底部～胴部下位 片	底 台	9.0 9.0			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転ヘラナデ、高台は 貼付、胴部は回転ヘラ削り。	
第583図	4	土師器 甕	床面から22cm上 口縁部～胴部中 位片	口 胴	31.6 31.7			細砂粒・粗砂粒/ 良好/暗赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部が ヘラナデ。	
第583図 PL.438	5	石製品 砥石	床面から10cm上 完形	長 幅	7.6 4.4	厚 重	3.5 124.8	砥沢石	砥面は4面認められる。正面及び裏面は下部にむかい研ぎ 減りする。正面と裏面の下端部分に断面V字状の細かな線 条痕が集中する。	

XII区19号住居

第583図 PL.439	6	黒色土器 椀	床面直上 2/3	口 底	14.8 6.9	台 高	6.6 5.6	細砂粒/酸化焰/灰 褐	内面黒色処理、二次被熱により吸炭はほとんど消失。ロクロ 整形。底部はナデ、高台は貼付。内面は横位後放射状へ ら磨き。	
第583図 PL.439	7	須恵器 杯	床面直上 3/4	口 底	10.3 6.1	高	2.9	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。底部 は疑似高台状を呈す、糸切り痕径5.0cm前後。	
第583図 PL.439	8	須恵器 杯	床面直上 2/3	口 底	10.2 4.5	高	2.7	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第583図	9	須恵器 羽釜	床面直上 口縁部～胴部中 位片	口 鏝	21.4 25.4			細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい橙	ロクロ整形。鏝は貼付。外面口縁部に輪積痕が残る。胴部 はヘラ削り。内面はヘラナデ。	
第583図 PL.439	10	石製品 石製品	床面直上 完形	長 幅	3.6 3.6	厚 重	3.4 64.0	粗粒輝石安山岩	丁寧な研磨によって極円に整形している。	

XII区20号住居

第585図 PL.439	1	須恵器 杯	床面から8cm上 3/4	口 底	14.3 6.0	高	4.1	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/燻/黒褐	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第585図 PL.439	2	鉄製品 刀子?	床面から6cm上 破片	長 幅	5.1 1.8	厚 重	1.6 11.14		棟・刃側ともに関を持つ刀子破片。先端から3cm程で折り 返すように曲がり、茎は1cm程で破損錆化する。	

XII区21号住居

第586図 PL.439	1	須恵器 椀	カマド使用面直 上 1/3	口 底	15.8 7.3			細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ナデ、高台は貼付。	
第586図	2	土師器 甕	カマド使用面直 上と9cm上が接 合 口縁部～胴部中 位片	口 胴	25.7 25.5			細砂粒・粗砂粒/ 良好/明赤褐	内面胴部に輪積痕が残る。口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削 り。内面は胴部がヘラナデ。	
第586図 PL.439	3	須恵器 羽釜	カマド使用面直 上と9cm上が接 合 口縁部～胴部下 位1/2	口 鏝	20.4 24.2			細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/灰褐	ロクロ整形。鏝は貼付。胴部は下位へ向けてのヘラ削り。	
第586図 PL.439	4	鉄製品 紡錘車	床面直上 一部欠損	長 幅	12.2 4.7	厚 重	4.9 33.41		ほぼ円形の紡輪とそれと直行する紡軸からなる紡錘車。紡 軸はやや丸みのある四角形で両端とも劣化破損する。	

V区5号竪穴

第596図	1	土師器 杯	底面直上 1/3	口 高	11.8 3.2			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第596図	2	鉄製品 不詳	埋土 ほぼ完形	長 幅	5.0 1.0	厚 重	0.9 4.18		一端は断面正方形で中央部は断面長方形他の端部に向かい 細くなり尖る。	

V区6号竪穴

第597図 PL.439	1	須恵器 椀	底面から23cm上 3/4	口 底	14.0 6.8	台 高	6.2 5.1	細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第597図 PL.439	2	須恵器 椀	底面から11cm上 完形	口 底	14.2 7.5	台 高	7.9 6.3	細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	

VI区3号竪穴

第599図 PL.439	1	須恵器 杯	底面直上 3/4	口 底	12.1 5.8	高	4.0	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整、底部 磨滅のため不鮮明。	
第599図	2	土師器 壺	埋土 口縁部片	口	20.8			細砂粒/良好/に ぶい橙	口縁部は折り返し、口縁部上半は横ナデ、下半はナデ。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第599図 PL.439	3	土師器 甕	底面直上 口縁部～胴部上 位片	口 幅	18.8			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部が ヘラナデ。	
第599図 PL.439	4	鉄製品 不詳	埋土 破片	長 幅	5.5 1.7	厚 重	0.8 8.48		断面狭長方形の短冊形の鉄製品。端部は角形で他の端部は 劣化破損する。表面全体に硬い錆に覆われ本体脆弱なため 詳細は不明。	
第599図 PL.439	5	鉄製品 不詳	埋土 破片	長 幅	4.1 2.3	厚 重	0.9 7.93		断面円形の丸棒状の鉄製品。Jの字状に曲がり、端部は破 損錆化の可能性もある。	
VII区3号竪穴										
第601図 PL.439	1	鉄製品 斧	埋土 完形	長 幅	8.7 5.3	厚 重	2.9 177.38		袋状鉄斧。袋部は角の明瞭な長方形で内部に木質等の痕跡 は見られない。刃はやや片側に傾く。	
V区2面7・8号溝										
第604図 PL.440	1	須恵器 椀	埋土 1/3	口 底	14.0 7.3	台 高	6.4 5.3	細砂粒/酸化焰/黄 灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	内外面に墨痕 がみられる。
第604図 PL.440	2	灰釉陶器 椀	埋土 1/3	口 底	12.6 7.3	台 高	7 3.3	微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ナデ、高台は貼付。 施釉方法は漬け掛け。	虎溪山1号窯 式期。
第604図	3	灰釉陶器 瓶	埋土 胴部小片					微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形。	外面に刻書？
V区2面12号溝										
第607図 PL.440	1	鉄製品 鎌	底から10cm上 ほぼ完形	長 幅	11.2 2.4	厚 重	0.9 14.63		先端がやや丸みを帯びる鉄鎌で根部の断面は薄い菱形、茎 との境を一周する段を持つ。茎は断面正方形で錆に覆われ 植物痕等確認できない。	
VI区2面1号溝										
第609図	1	須恵器 椀	埋土 口縁部片	口 底	12.4			細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形。	
第609図 PL.440	2	須恵器 横瓶か	底から7cm上 胴部中位～底部	胴 底	12.2			細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。胴部中ほどに凹線による区画、 区画内に波状文が巡る。	
第609図 PL.440	3	常滑陶器 費	埋土 底部片	口 底	—	高 —	—	鉍物粒少量含む。 /灰白/	外面器表にぶい橙色、内面器表自然釉薄くかかり、斑状に 白濁する。	中世。
第609図 PL.440	4	常滑陶器 費か	埋土 体部片	口 底	—	高 —	—	鉍物粒少量含む。 /灰/	器表暗赤褐色。湾曲があり、肩部片か。	中世。
第609図 PL.440	5	石製品 勾玉	埋土 完形	長 幅	3.1 2.2	厚 重	1.1 8.7	葉ろう石	全面が丁寧に研磨されている。孔の平面形は楕円であるが 中央部がややくびれた形状であることから、二つの孔が穿 孔時に連結したことにより楕円形を呈するものと考えられ る。	孔の長径約 6mm
VII区2面1号溝										
第610図	1	須恵器 椀	埋土 口縁部中位～高 台部	底 台	5.5 5.2			細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	内面底部に付 着物。
第610図	2	須恵器 椀	埋土 口縁部下位～高 台部	底 台	6.0 5.8			細砂粒/酸化焰/に ぶい褐	ロクロ整形、回転方向不明。底部は回転ナデ、高台は貼付。	
第610図	3	須恵器 椀	埋土 口縁部下位～高 台部	底 台	6.5 7.8			細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第610図	4	灰釉陶器 耳皿	埋土 1/4	口 底	10.8 4.4	高 1.6		微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。施釉 方法不明。	東濃産10C。
第610図	5	灰釉陶器 皿	底から19cm上 口縁部下位～高 台部	底 台	7.5 7.0			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ナデ、高台は貼付。 施釉方法不明。	光ヶ丘1号窯 式期か。
VI区2面2号溝										
第611図	1	須恵器 蓋	埋土 1/4	口 高	16.2 2.5			細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰白-ア	ロクロ整形、回転右回り。天井部中ほどに回転糸切り痕が 残る。	
第611図	2	須恵器 費	埋土 口縁部片	口 底	15.0			細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形。	
第611図 PL.440	3	在地系土器 焙烙	埋土 口縁部から体部 片	口 底	—	高 5.5	—	鉍物粒含む。/灰 白/	口縁部断面中央灰色、口縁部器表付近と体部断面灰白色、 器表黒色。体部下端から底部器表灰白色。口縁部上面凹 線状にくぼむ。体部外面下位縮緬状の型作り痕。	江戸時代。
第611図 PL.440	4	常滑陶器 費か	埋土 体部小片	口 底	—	高 —	—	鉍物粒含む。/黒 褐/	断面中央黒褐色、器表付近浅黄褐色、内面器表暗赤褐色、 外面器表にぶい橙色。内外面撫で。	中世。
VI区2面6号溝										
第614図 PL.440	1	手捏ね土器 椀形	埋土 口縁部一部欠	口 底	4.9 3.2	高 3.8		細砂粒/良好/橙	口縁部はナデ、底部はヘラ削り。内面はナデ。	
第614図 PL.440	2	須恵器 皿	埋土 2/3	口 底	13.3 6.4	台 高	5.6 3.0	細砂粒/酸化焰・ 燻/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第614図	3	須恵器 杯	埋土 口縁～底部1/4	口 底	14.2 7.0	高 3.8		細砂粒/良好/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第614図	4	須恵器 小椀	埋土 口縁部片	口 底	9.2			細砂粒/酸化焰/浅 黄橙	ロクロ整形。	
第614図 PL.440	5	鉄製品 鎌	底から4cm上 ほぼ完形	長 幅	18.0 3.2	厚 重	1.0 99.84		柄装着部を斜めに折り曲げた鉄鎌。沿うように断面狭三角 形で端部が三角形をした板状鉄製品が錆化付着する。二点 は密着する。柄装着部分に木質等痕跡は確認できない。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第614図 PL.440	6	鉄製品 不詳	埋土 破片	長 幅	3.8 3.8	厚 重	1.1 12.29		断面正から長方形のU字形をした鉄製品。両端に向かい細くなり一方は尖り他の端部は丸みを持ち終わる。全体に硬い錆に覆われ本体は脆弱なため詳細は不明。
第614図 PL.440	7	鉄製品 不詳	埋土 破片	長 幅	3.9 1.4	厚 重	0.7 6.84		断面長方形の厚い板状の鉄製品。一端は三角形だが厚くて尖らない、他の端部は角形。
第614図 PL.440	8	鉄製品 釘	埋土 ほぼ完形	長 幅	1.6 0.8	厚 重	0.5 0.86		断面ほぼ正方形角釘。頭は薄く大きく広げ押し曲げる、先端側は破損し錆に覆われる。
第614図 PL.440	9	鉄製品 釘	埋土 破片	長 幅	3.9 0.7	厚 重	0.6 3.41		断面やや長方形の角釘。頭短く直角に曲げる、先端側は破損し錆に覆われる。

Ⅵ区2面9号溝

第617図 PL.441	1	瀬戸・美濃 陶器 折縁皿	埋土 口縁部から体部 1/6	口 底	(12.4) —	高 —	—	夾雑物含まない。 /灰白/	口縁部外反し、端部は上方に立ち上がる。内面から体部外面灰釉。灰釉はやや白濁する。	16世紀末～ 17世紀初頭。
第617図 PL.441	2	古瀬戸陶器 盤類	埋土 底部片	口 底	—	高 —	—	鉍物粒少量含む。 /明褐灰/	底部外面回転へら削りの後、体部外面回転篋削り。残存部内面灰釉刷毛塗り。	14世紀中葉～ 15世紀前葉。
第617図 PL.441	3	瀬戸・美濃 陶器 鉢	埋土 底部1/4	口 底	(13.8) —	高 —	—	鉍物粒微量含む。 /灰白/	底部内面5本の沈線内に印花文か。内面から高台内灰釉。高台端部無釉。底部内面団子状の目痕1ヶ所。	17世紀か。
第617図 PL.441	4	瀬戸・美濃 陶器 白天目	埋土 体部片	口 底	—	高 —	—	白色鉍物粒微量含む。 /灰白/	内面から残存部外面下位長石釉。貫入入る。	17世紀。
第617図 PL.441	5	在地系土器 内耳鍋	埋土 口縁部片	口 底	—	高 —	—	透明、黒色鉍物粒 含む。/灰白/	断面から内面器表灰白色、外面器表黒褐色。口縁部下で屈曲し、口縁部は内湾気味に立ち上がる。	15世紀後葉か。
第617図 PL.441	6	瀬戸・美濃 陶器 すり鉢	埋土 体部上位片	口 底	—	高 —	—	夾雑物含まない。 /灰白/	内面10本+αのすり目。内外面錆釉。	江戸時代。
第617図 PL.441	7	常滑陶器 甕か	埋土 肩部片か	口 底	—	高 —	—	鉍物粒少量含む。 /灰から灰白/	断面灰色から灰白色、内面器表にぶい黄褐色、外面器表にぶい赤褐色。外面器表自然釉斑状にかかる。内面指圧痕残る。	中世。
第617図 PL.441	8	在地系土器 焙烙	埋土 口縁部から底部 片	口 底	—	高 5.8	—	透明、黒色鉍物粒 含む。/黒/	断面中央黒色、器表付近灰白色、器表黒色。底部内面器表灰白色、底部外面器表にぶい橙色。体部内面中位に緩い段を有する。体部外面下位以下、縮緬状の型作り痕。	江戸時代。
第617図	9	土製品 土錘	埋土 完形	長 径	3.4 1.6	孔 重	0.3 9.1	微砂粒/良好/にぶ い黄橙	外面はナデ。	
第617図 PL.441	10	石製品 石製品	埋土 2/3	長 幅	26.2 25.2	厚 重	16.2 7700.0	二ツ岳石	正面の中央に、直径約18cm、深さ約8cmの円筒状の孔が認められる。孔の底部は中央部がわずかに凹んでおり、凹凸面で構成され棒状工具痕の可能性がある。側面には、直径約6cmの半円状の加工痕があり、加工内部は比較的滑らかである。五輪塔(水輪)の再利用の可能性がある。	
第617図 PL.441	11	石製品 砥石	埋土 2/3	長 幅	(10.1) 5.6	厚 重	3.5 220.4	砥沢石	砥面は4面認められる。表面及び裏面は下方にむかい著しく研ぎ減りする。右側面には刃ならし傷が集中する。下部欠損。	
第617図 PL.441	12	石製品 石製品	埋土 1/6	長 幅	(16.7) (12.9)	厚 重	(16.5) 2608.2	二ツ岳石	孔が認められるがその形態は不明である。孔の側面は比較的滑らかである。外面部には部分的に棒状の工具痕が残り丁寧に整形されている。底部は平坦に整形されている。	
第618図 PL.441	13	石製品 石臼(下)	埋土 1/8	長 短	(18.1) (10.4)	厚 重	(11.5) 2500.9	粗粒輝石安山岩	上面(内面)は縁辺部が特に滑らかである。側面には棒状の工具痕がわずかに認められ加工時の痕跡と考えられる。	

Ⅵ区2面11号溝

第619図	1	炉壁	埋土	長 短	5.5 5.1	厚 重	3.5 57.21		平坦な被熱面をもつ粘土塊。被熱面は赤色酸化している。	構成No.77 炉壁か。
-------	---	----	----	--------	------------	--------	--------------	--	----------------------------	-----------------

Ⅵ区2面13号溝

第620図	1	土師器 甕	埋土 口縁部～胴部上 位片	口	21.8			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへら削り。内面は胴部がへらナデ。	
-------	---	----------	---------------------	---	------	--	--	-----------------	---------------------------------	--

Ⅵ区2面14号溝

第621図	1	肥前陶器 呉器手碗	埋土 底部1/2	口 底	— 5.0	高 —	—	夾雑物含まない。 /灰白/	高台内の挟りは浅い。内外面透明釉。貫入入る。高台端部のみ無釉。	17世紀末～ 18世紀前葉。
-------	---	--------------	-------------	--------	----------	--------	---	------------------	---------------------------------	-------------------

Ⅵ区2面17号溝

第622図	1	須恵器 椀	埋土 1/4	口 底	12.0 6.8	台 高	6.2 4.8	細砂粒/酸化焰/橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切りか、高台は貼付。	
第622図	2	土師器 羽釜	埋土 口縁～胴部上位 片	口 罅	23.8 26.8			細砂粒/良好/灰黄 褐	外面胴部に輪積痕が残る。罅は貼付。口縁部横ナデ、胴部はへら削り。内面はへらナデ。	

Ⅶ区2面9号溝

第626図	1	須恵器 杯	埋土 1/2	口 底	8.8 5.8	高	2.1	細砂粒/酸化焰/に ぶい橙	ロクロ整形、回転左回り。底部は回転糸切り無調整。	
第626図	2	須恵器 杯	埋土 口縁部片	口	8.3			細砂粒/酸化焰/に ぶい橙	ロクロ整形。	
第626図	3	須恵器 杯	埋土 1/4	口 底	14.9 7.9	高	3.7	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/褐	ロクロ整形、回転方向不明。底部は静止糸切りか。	
第626図	4	須恵器 椀	埋土 口縁部上位～高 台部1/2	底 台	6.3 6.4			細砂粒/酸化焰/に ぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第626図	5	須恵器 椀	埋土 口唇部欠1/4					細砂粒/酸化焰/淡 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部切り離し技法不明、高台は貼付。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第626図	6	土師器 甗	埋土 口縁部片	口 底	17.5		細砂粒・粗砂粒/ 良好/灰黄褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第626図	7	須恵器 甗	埋土 口縁部片				細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	口縁部に2段以上の波状文が巡る。	
第626図	8	須恵器 甗	埋土 口縁部片				細砂粒/還元焰/灰 黄褐	口縁部に3段以上の波状文が巡る。	
第626図 PL.441	9	鉄製品 不詳	埋土 破片	長 幅	4.7 1.8	厚 重	1.4 10.32	断面長方形の鉄製品で破損錆化したものと見られるが、表面は厚く錆に覆われるため詳細は不明。	

Ⅶ区2面11号溝

第627図 PL.441	1	須恵器 椀	埋土 口縁部～底部 2/3	口 底	14.4 6.6			細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付、高台は剥落。	
第627図 PL.441	2	須恵器 椀	埋土 1/4	口 底	14.3 6.6			細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付、高台は欠損後全体を擦り磨いている。	
第627図	3	灰釉陶器 皿	埋土 体部～高台部 2/3	底 台	6.6 6.3			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法不明。	大原2号窯式 期。
第627図	4	灰釉陶器 椀	埋土 口縁部～体部片	口 底	12.7			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形。施釉方法は漬け掛け。	大原2号窯式 期。

Ⅶ区2面10号溝

第629図	1	須恵器 杯	埋土 1/4	口 底	12.1 8.2	高	3.5	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第629図	2	須恵器 杯	埋土 1/2	口 底	13.0 7.1	高	3.2	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。底部は疑似高台状を呈す。	
第629図 PL.441	3	須恵器 椀	埋土 3/4	口 底	13.3 6.8	台 高	7.6 5.5	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ナデか、高台は貼付。	
第629図	4	須恵器 椀	埋土 体部～高台部 1/3	底 台	6.8 6.7			細砂粒/酸化焰/橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ナデか、高台は貼付。	
第629図	5	灰釉陶器 椀	埋土 口縁部～体部片	口 底	15.0			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。施釉方法は漬け掛け。	大原2号窯式 期。
第629図	6	須恵器 羽釜	埋土 口縁部～胴部片	口 鏝	19.6 22.0			細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形。鏝は貼付。	

Ⅶ区2面12号溝

第630図	1	土師器 杯	底から11cm上 1/4	口 底	11.6 9.1	高	3.0	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第630図 PL.441	2	須恵器 杯	埋土 2/3	口 底	12.6 5.0	高	3.8	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第630図	3	須恵器 椀	埋土 口縁部～体部 1/3	口 底	13.4			細砂粒/酸化焰・ 燻/灰黄褐	ロクロ整形。	
第630図	4	須恵器 椀	底直上 体部～高台部 1/2	底 台	6.3 6.4			細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第630図	5	須恵器 短頸壺	埋土 口縁部～肩部	口 底	11.1			細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形。	

Ⅶ区2面2号溝

第632図 PL.441	1	灰釉陶器 皿	埋土 底部1/2	底 台	7.6 7.2			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法は刷毛塗り。	光ヶ丘1号窯 式期古段階。
第632図 PL.441	2	須恵器 埴塼	埋土 口縁部片	口 底	16.0			不明/不明/灰黄	埴塼に転用。	
第632図 PL.441	3	灰釉陶器 瓶	埋土 胴部片					細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形。胴部は回転ヘラ削り。	

Ⅷ区2面6号溝

第636図 PL.442	1	土師器 杯	埋土 3/4	口 底	12.0 9.0	高	3.3	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、体部はナデで一部に指頭痕が残る、底部は手持ちヘラ削り。	
第636図 PL.442	2	土師器 杯	埋土 3/4	口 底	12.1 8.0	高	3.6	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第636図 PL.442	3	土師器 杯	埋土 3/4	口 底	12.4 7.0	高	3.5	細砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部は横ナデ、体部は指頭痕が残る、底部は手持ちヘラ削り。	
第636図 PL.442	4	土師器 杯	埋土 1/3	口 底	12.0 8.6			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第636図	5	土師器 杯	埋土 1/3	口 底	12.4 6.6	高	3.3	細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第636図	6	土師器 鉢	埋土 口縁部片	口 底	19.0			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はヘラ削りか。	
第636図 PL.442	7	須恵器 杯	埋土 3/4	口 底	13.5 5.7	高	4.0	細砂粒/酸化焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第636図 PL.442	8	須恵器 杯	埋土 1/3	口 底	13.0 7.4	高	3.2	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第636図 PL.442	9	須恵器 杯	埋土 1/3	口 底	13.4 6.6	高	4.1	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第637図 PL.442	10	須恵器 椀	埋土 1/2	口 底	15.3 7.0			細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ナデ、高台は貼付が剥落。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第637図 PL.442	11	須恵器 椀	埋土 1/2	口 底	12.6 6.6	高	4.2	細砂粒/酸化焰/灰 黄褐	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第637図	12	須恵器 椀	埋土 1/3	口 底	16.4 8.2	台 高	7.6 5.1	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形。高台は貼付。	
第637図 PL.442	13	緑釉陶器 皿	埋土 底部片	底 台	7.8 8.0			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転方向不明。底部は回転ナデ、高台は貼付。	東海産10C.前半。
第637図 PL.442	14	緑釉陶器 椀	埋土 1/3	口 底	17.6 8.8	高	4.1	微砂粒/還元焰/浅 黄橙	ロクロ整形、回転方向不明。高台は削り出し。内外面とも全面施釉。	京都洛北。
第637図 PL.442	15	鉄製品 鎌	埋土 破片	長 幅	14.6 4.3	厚 重	0.8 39.08		柄装着部が細く斜めに折り曲げる鉄鎌。柄装着部から10cm程で刃は大きく広がり曲がりその先は劣化破損する。錆表面には大小不定形な木質痕が錆化し埋もれている。	

X区2面10号溝

第640図 PL.442	1	須恵器 椀	埋土 3/4	口 底	13.0 6.0	高	4.3	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第640図 PL.442	2	須恵器 椀	埋土 1/3	口 底	13.0 6.0	高	4.4	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	

X区2面11号溝

第640図 PL.442	3	黒色土器 椀	埋土 底部のみ	底 台	5.2 5.0			細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	内面黒色処理。ロクロ整形。底部回転糸切り後高台を貼付。内面はへら磨き。	外面底部に墨書。
第640図 PL.442	4	須恵器 皿	埋土 3/4	口 底	14.6 7.4	台 高	7.2 3.5	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第640図 PL.442	5	須恵器 杯	埋土 1/3	口 底	13.6 6.4	高	3.5	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第640図 PL.442	6	灰釉陶器 長頸壺	埋土 口縁部～肩部 3/4	口	10.6			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。頸部と胴部は接合。施釉方法不明。	
第640図	7	灰釉陶器 長頸壺	埋土 口縁部-頸部	口	9.6			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。頸部と胴部は接合。施釉方法不明。	

V区3号土坑

第641図 PL.442	1	鉄製品 釘	底から14cm上 一部欠損	長 幅	6.0 1.4	厚 重	0.9 6.78		断面長方形の角釘で頭は薄くして広げるが折り曲げは見られない。先端に向かい細くなり端部は劣化破損する。	
-----------------	---	----------	------------------	--------	------------	--------	-------------	--	--	--

V区5号土坑

第642図 PL.442	1	須恵器 杯	底から40cm上 完形	口 底	12.4 6.2	高	3.4	細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。内外面に火漉がみられる。	
第642図	2	須恵器 杯	底から27cm上 1/4	口 底	14.0 8.2	高	3.1	細砂粒/酸化焰・ 燻/黄灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	

V区16号土坑

第643図 PL.443	1	鉄製品 釘	底から19cm上 一部欠損	長 幅	11.8 2.2	厚 重	2.0 18.54		断面ほぼ正方形の角釘で、先端に向かい細くなり尖る。頭は大きく丸い傘型。先端から5.5cm付近までの範囲に広葉樹材板目痕跡が点々とみられる。	
第643図 PL.443	2	鉄製品 釘	底から5cm上 一部欠損	長 幅	4.9 1.4	厚 重	1.3 8.34		断面長方形の角釘で頭は薄くして広げわずかに折り曲がる。先端に向かい細くなるが端部は劣化破損する。	
第643図 PL.443	3	鉄製品 釘	底から25cm上 一部欠損	長 幅	10.2 2.6	厚 重	2.9 28.90		断面ほぼ正方形の角釘で、先端に向かい細くなり先端は劣化破損する。頭は大きく丸い傘型。	
第643図 PL.443	4	鉄製品 釘	底から25cm上 一部欠損	長 幅	4.4 1.0	厚 重	0.9 4.92		断面ほぼ正方形の角釘で、頭はやや広がるが折り曲げ等は見られない。先端側は劣化破損する。	
第643図 PL.443	5	鉄製品 釘	底から14cm上 ほぼ完形	長 幅	4.0 1.4	厚 重	1.4 7.04		断面ほぼ正方形の角釘で、頭はやや広がるが折り曲げ等は見られない。頭から2cm程で浅くくの字に曲がる。先端に向かい細くなり尖る。先端から5.5cmの範囲に広葉樹材目材の木質痕跡が残る。	
第643図 PL.443	6	鉄製品 釘	底から17cm上 一部欠損	長 幅	4.9 1.3	厚 重	1.0 3.60		断面長方形の角釘、頭は薄く丸く広げ深く折り曲げる。頭から3cmの付近に釘に直行する木質痕跡が見られる。先端側は劣化破損する。	
第643図 PL.443	7	鉄製品 釘	底から27cm上 一部欠損	長 幅	5.3 1.2	厚 重	1.0 6.94		断面長方形の角釘、頭は薄く広げ深く折り曲げる。頭から4cm付近までに釘に直行する木質痕跡が見られるが不明瞭。	
第643図 PL.443	8	鉄製品 釘	底から13cm上 ほぼ完形	長 幅	6.7 2.3	厚 重	4.0 18.18		断面ほぼ正方形の角釘で、頭はTの字形で頭から3cm付近でくの字に折れ曲がる。全体に厚く錆に覆われ本体は脆弱なため詳細は不明。	
第643図 PL.443	9	鉄製品 釘	底から24cm上 破片	長 幅	1.9 2.2	厚 重	2.2 7.91		断面ほぼ正方形の角釘とみられる鉄製品破片。頭は大きく丸い傘型で頭から1.5cm程で劣化破損する。	
第643図 PL.443	10	石製品 石製品	底から10cm上 完形	長 幅	29.6 19.2	厚 重	14.4 1056.0	二ツ岳石	角柱状に丁寧に整形されている。部分的に平ノミ状の工具痕が認められる。6面全てが整形されており、古墳の壁石とは異なると考えられる。	

V区29号土坑

第645図 PL.433	1	土師器 杯	底から46cm上 完形	口	13.6			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半がへら削り、底部は手持ちへら削り。	
第645図 PL.443	2	土師器 杯	底から45cm上 ほぼ完形	口 底	12.0 8.8	高	3.4	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、指頭痕が残る、底部は手持ちへら削り。	
第645図 PL.443	3	土師器 杯	底から39cm上 口縁部一部欠	口 底	12.3 8.0	高	3.4	細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちへら削り。	内外面底部に「庄」の墨書。
第645図 PL.443	4	土師器 杯	埋土 口縁部～体部下 位片	口	11.8			細砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちへら削り。	外面口縁部に墨書。

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第645図	5	黒色土器 杯	埋土 1/2	口 底	12.1 6.3	高	3.8	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	内面黒色処理。ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。内面は口唇部を除きへら磨き。	
第645図	6	灰釉陶器 椀	埋土 高台部片	底 台	6.5 6.0			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形。高台は貼付。施釉方法は漬け掛け。	大原2号窯式 期。
V区34号土坑										
第646図	1	土師器 椀	底から17cm上 1/2	口 底	10.4 6.0	台 高	6.2 3.8	細砂粒/良好/にぶ い赤褐	高台は貼付。口縁部は横ナデ、体部はへら削り、底部は砂底。	
V区43号土坑										
第646図	2	須恵器 椀	埋土 3/4	口 底	12.4 7.0	台 高	6.4 4.3	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切りか、高台は貼付。	
V区59号土坑										
第648図 PL.443	1	鉄製品 釘	埋土 ほぼ完形	長 幅	3.8 1.0	厚 重	0.6 4.08		断面ほぼ正方形の角釘とみられ頭から1cm付近で緩やかに曲がる。全体に厚く錆に覆われ本体は脆弱なため詳細は不明。	
V区79号土坑										
第650図 PL.443	1	鉄製品 不詳	埋土 一部欠損	長 幅	4.8 0.8	厚 重	0.6 2.84		断面ほぼ正方形で、端部はやや丸みを持ち終わる。反対側は劣化破損する。木質等の痕跡は確認できない。	
V区94号土坑										
第651図 PL.443	1	鉄製品 不詳	底から17cm上 一部欠損	長 幅	13.1 2.4	厚 重	2.3 17.75		断面長方形の板状で両端に向かい細くし90度角度を変えてそれぞれループ状に曲げる。	
V区104号土坑										
第652図	1	須恵器 杯	底直上 1/3	口 底	12.0 6.4	高	3.7	細砂粒/酸化焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第652図 PL.443	2	石製品 砥石	底直上 完形	長 幅	6.9 4.9	厚 重	2.6 86.3	二ツ岳軽石	6面全てに丁寧な研磨が認められ左右対称な矩形に整形されている。正面及び裏面を砥面とする砥石と判断した。	
VI区16号土坑										
第655図 PL.443	1	古瀬戸陶器 卸皿	埋土 底部片	口 底	— —	高	—		内面へらによる卸し目。	
VI区18号土坑										
第655図	2	須恵器 椀	底直上 口縁部～体部下 位片	口	15.0			細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形。	
VI区25号土坑										
第656図 PL.443	1	須恵器 杯	底直上 1/2	口 底	8.4 4.2	高	1.7	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回りか。底部は手持ちへら削り。	
VII区20号土坑										
第659図	1	須恵器 椀	底から13cm上 口縁部下位～高 台部1/2	底 台	7.7 7.2			細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転方向不明。底部切り離し技法は不明、高台は貼付。	
VII区70号土坑										
第659図 PL.443	2	須恵器 椀	底から28cm上 3/4	口 底	13.6 7.2	台 高	6.8 5.4	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
VII区26号土坑										
第659図	3	須恵器 椀	底から8cm上 1/3	底 台	6.8 6.4			細砂粒/酸化焰/灰 黄褐	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。内面のロクロ痕が明瞭に残る。	
VII区27号土坑										
第660図	1	土師器 甕	底から21cm上 口縁部～胴部上 位片	口 胴	25.0 24.5			細砂粒・粗砂粒/ 良好/灰黄褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへら削り。内面は胴部がへらナデ。	
VII区28号土坑										
第660図 PL.444	2	鉄製品 不詳	埋土 破片	長 幅	3.7 1.2	厚 重	0.6 3.05		断面台形に近い長方形の鉄製品で刀子の刃または茎とも考えられるが錆が著しく詳細は不明。	
VII区32号土坑										
第660図	3	須恵器 甕	底から12cm上 口縁部片					細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	ロクロ整形。外面は降灰が厚く付着、内面はへらナデ。	
VII区39号土坑										
第661図	1	須恵器 羽釜	埋土 胴部下位～底部 片	底	9.2			細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 橙	ロクロ整形。胴部と底部はへら削り。内面はへらナデ。	
VII区40号土坑										
第661図 PL.444	2	須恵器 椀	底から12cm上 2/3	口 底	13.6 7.0	台 高	6.0 5.4	細砂粒/酸化焰/に ぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
VII区41号土坑										
第661図	3	灰釉陶器 椀	埋土 口縁部片	口	14.4			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形。施釉方法は漬け掛け。	大原2号窯式 期。
VII区49号土坑										
第662図	1	須恵器 杯	埋土 口縁部下位～底 部片	底	6.4			細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
VII区51号土坑										
第663図	1	須恵器 甕	埋土 口縁部片					細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	ロクロ整形。外面には波状文、内面はへらナデ。	2と同一個体 か。

Ⅶ区55号土坑

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第663図	2	須恵器 甕	埋土 口縁部片				細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/黄灰	ロクロ整形。外面には波状文、内面はヘラナデ。	1と同一個体か。
第663図	3	須恵器 椀	埋土 口縁部中位～高 台部3/4	底 台	5.8 5.4		細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	

Ⅶ区56号土坑

第664図	1	須恵器 杯	埋土 底部片	底	7.2		細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
-------	---	----------	-----------	---	-----	--	----------------	--------------------------	--

Ⅶ区58号土坑

第664図	2	須恵器 甕	底から9cm上 胴部片				細砂粒/還元焰/灰	外面には叩き痕がかすかに残る。内面はヘラナデ。	
-------	---	----------	----------------	--	--	--	-----------	-------------------------	--

Ⅶ区63号土坑

第665図 PL.444	1	鉄製品 刀子	底から19cm上 ほぼ完形	長 幅	16.7 2.1	厚 重	1.5 53.38	棟・刃側ともになだらかな間を持つ刀子。全体に厚く錆に覆われ本体は脆弱なため詳細は不明。	
-----------------	---	-----------	------------------	--------	-------------	--------	--------------	---	--

Ⅶ区65号土坑

第665図	2	須恵器 甕	埋土 頸部～胴部上位 片				細砂粒/還元焰/灰	頸部はナデ、胴部はカキ目。内面胴部は同心円状アテ具痕が残る。	
-------	---	----------	--------------------	--	--	--	-----------	--------------------------------	--

Ⅶ区67号土坑

第666図 PL.444	1	土製品 土錘	底から33cm上 完形	長 幅	4.5 2.4	厚 重	2.2 17.5	微砂粒/良好/にぶ い黄橙	外面はナデ。
第666図	2	土師器 杯	底から26cm上 口縁部～底部片	口 底	12.5 8.4			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、指頭痕が残る、底部は手持ちヘラ削り。

Ⅶ区68号土坑

第666図	3	須恵器 杯	底から25cm上 1/4	口 底	9.6 4.8	高	2.8	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。
第666図 PL.444	4	鉄製品 鎌	埋土 一部欠損	長 幅	10.1 3.7	厚 重	1.4 26.41		雁又の鉄鎌。片方の先端は劣化破損、茎との境に向かいわずかに幅を広げ段を持つ。茎は2cm程で劣化破損する。

Ⅶ区69号土坑

第666図	5	須恵器 甕	底から19cm上 口縁部片	口	26.4			細砂粒/酸化焰/に ぶい橙	ロクロ整形。鏝は貼付。
-------	---	----------	------------------	---	------	--	--	------------------	-------------

Ⅶ区74号土坑

第667図 PL.444	1	須恵器 椀	底から22cm上 1/3	口 底	14.0 6.2	高	5.4	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/明黄褐	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。
第667図 PL.444	2	鉄製品 刀子	底から18cm上 一部欠損	長 幅	10.1 1.5	厚 重	2.0 10.70		棟・刃側ともに明瞭な間を持つ刀子。先端は劣化破損、刃は大きく弧を描くように曲がる。茎は厚く錆に覆われるため木質等の痕跡は確認できない。
第667図 PL.444	3	土製品 羽口	底から8cm上	長 幅	9.3 8.4	厚 重	4.8 259.76		先端部片。内径約2.5cm、厚さ2.5～3.5cm。長方向に撫で整形。胎土は粗砂粒。先端部は平坦に溶損。
第667図 PL.444	4	土製品 羽口	底直上	長 幅	8.5 8.4	厚 重	4.8 190.98		体部片。内径約2.5cm、厚さ約2.5cm。長方向に撫で整形。胎土は粗砂粒。

Ⅶ区75号土坑

第667図	5	須恵器 羽釜	底から5cm上 口縁部～鏝部片	口 鏝	22.0 27.0			細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/橙	ロクロ整形。鏝は貼付。
-------	---	-----------	--------------------	--------	--------------	--	--	-------------------	-------------

Ⅶ区81号土坑

第668図	1	灰釉陶器 椀	埋土 口縁部～体部下 位片	口	14.8			微砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形。施釉方法は漬け掛け。	大原2号窯式期。
第668図	2	須恵器 椀	埋土 底部～高台部	底 台	5.8 5.8			細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ナデ、高台は貼付。	

Ⅶ区84号土坑

第669図	1	須恵器 甕	調査区一括 甕足片					細砂粒/酸化焰/橙	脚部はヘラ削りにて面取りが行われている。端部は簡略化されている。
-------	---	----------	--------------	--	--	--	--	-----------	----------------------------------

Ⅶ区89号土坑

第669図 PL.444	2	土師器 杯	埋土 完形	口 底	11.8 8.4	高	3.3	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。
-----------------	---	----------	----------	--------	-------------	---	-----	----------	---------------------------

Ⅶ区92号土坑

第669図 PL.444	3	鉄製品 不詳	底から35cm上 破片	長 幅	6.1 0.9	厚 重	0.9 5.60		断面ほぼ正方形の角棒状鉄製品で端部は破損と考えられるが、厚く錆に覆われるため不明。
-----------------	---	-----------	----------------	--------	------------	--------	-------------	--	---

Ⅶ区104号土坑

第671図	1	須恵器 椀	底から27cm上 口縁部下位～底 部	底 台	6.7 6.0			細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ナデ、高台は貼付。
-------	---	----------	--------------------------	--------	------------	--	--	----------------	----------------------------

Ⅶ区134号土坑

第674図 PL.444	1	鉄製品 釘	底直上 ほぼ完形	長 幅	6.3 1.4	厚 重	1.1 14.05		断面ほぼ正方形の角釘。頭は角形で先端に向い細くなり尖る。錆に覆われるため木質等の痕跡は確認できない。
-----------------	---	----------	-------------	--------	------------	--------	--------------	--	--

Ⅶ区141号土坑

第674図	2	須恵器 羽釜	底から7cm上 口縁部～鏝部片	口 鏝	21.8 25.4			細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形。鏝は貼付。
-------	---	-----------	--------------------	--------	--------------	--	--	-------------------	-------------

Ⅶ区163号土坑

第674図	3	鉄滓 流動滓	埋土	長 短	6.5 5.5	厚 重	3.5 116.80		外面は紫黒色。下面に炉壁片が付着。流動性の高い流動滓。構成No76
-------	---	-----------	----	--------	------------	--------	---------------	--	-----------------------------------

挿図 PL.No.	No.	種 器 種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第674図	4	須恵器 杯	埋土 口縁部下位～底 部1/2	底	7.0		細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
Ⅶ区142号土坑									
第675図	1	須恵器 杯	埋土 口縁部～体部下 位片	口	6.2		細砂粒/酸化焰/に ぶい赤褐	ロクロ整形か。	
Ⅶ区155号土坑									
第675図 PL.444	2	須恵器 杯	底直上 口縁部一部欠	口 底	9.6 4.7	高 3.2	細砂粒/酸化焰/明 黄褐	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
Ⅶ区162号土坑									
第676図 PL.444	1	須恵器 椀	底から8cm上 1/3	口 底	9.0 4.6	台 高 5.0 4.2	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。	
Ⅶ区169号土坑									
第676図	2	須恵器 椀	底から60cm上 1/3	口 底	12.9 6.7	台 高 6.0 4.5	細砂粒・粗砂粒・ 褐粒/酸化焰/にぶ い褐	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第676図 PL.444	3	須恵器 杯	底から40cm上 完形	口 底	8.8 4.6	高 2.3	細砂粒/酸化焰/浅 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
Ⅶ区170号土坑									
第677図 PL.444	1	鉄製品 釘	底から51cm上 ほぼ完形	長 幅	6.0 1.4	厚 重 1.1 10.07		断面ほぼ正方形の角釘。頭は幅広く広げ折り曲げる。先端 に向い細くなり尖る、先端付近で曲がる。錆に覆われ木質 等の痕跡は確認できない。	
Ⅶ区175号土坑									
第677図	2	須恵器 椀	底から23cm上 底部～高台部	底	6.6		細砂粒/酸化焰/灰 黄褐	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。	
第677図	3	須恵器 皿	底から20cm上 1/4	口 底	11.2 5.8	台 高 7.1 2.9	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部はナデ、高台は貼付。	
第677図 PL.444	4	須恵器 杯	底から10cm上 口縁部～体部下 位1/3	口	10.0		細砂粒/酸化焰/に ぶい橙	ロクロ整形。	
Ⅶ区189号土坑									
第679図	1	須恵器 杯	埋土 1/3	口 底	9.4 5.1	高 2.0	細砂粒/酸化焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部切り離し技法は不明。	
第679図 PL.444	2	鉄製品 釘	底直上 一部欠損	長 幅	8.2 1.3	厚 重 1.6 12.13		断面ほぼ正方形の角釘。頭は角形で先端に向い細くなり端 部は劣化破損する。木質等の痕跡は見られない。	
Ⅶ区203・204号土坑									
第679図	3	須恵器 椀	埋土 口縁部中位～底 部1/3	底 台	7.5 6.9		細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
Ⅶ区206号土坑									
第680図	1	須恵器 杯	埋土 口縁部～底部1/2	口	9.7		細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
Ⅶ区208号土坑									
第680図	2	須恵器 椀	底から28cm上 口縁部下位～高 台部	底 台	6.2 7.0		細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい橙	ロクロ整形、回転右回りか。底部切り離し技法は不明、高 台は貼付。	
Ⅶ区210号土坑									
第680図	3	須恵器 杯	埋土 口縁部～底部片	口 底	15.2 7.0	高 4.1	細砂粒/酸化焰/に ぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
Ⅶ区213号土坑									
第680図	4	須恵器 羽釜	底から19cm上 口縁部～胴部上 位片	口 鏝	29.0 32.0		細砂粒/酸化焰/明 赤褐	ロクロ整形。鏝は貼付。胴部はへら削り。内面胴部はへら ナデ。	
Ⅶ区3号土坑									
第681図	1	灰釉陶器 段皿	埋土 体部中位～高台 部片	底 台	8.0 7.8		微砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形。高台は貼付。施釉方法不明。	大原2号窯式 期。
第681図	2	須恵器 羽釜	埋土 口縁部～胴部上 位片	口 鏝	22.0 27.6		細砂粒/酸化焰/灰 黄	ロクロ整形。鏝は貼付。胴部はへら削りか。	
Ⅶ区9号土坑									
第681図 PL.444	3	鉄製品 釘	埋土 ほぼ完形	長 幅	6.5 1.2	厚 重 1.0 8.41		断面ほぼ正方形の角釘。頭は薄く広く延ばし深く折り曲げ る。先端近くでわずかに曲がる。先端は破損の可能性が有 るが表面は硬い錆に覆われ不明。	
Ⅶ区18号土坑									
第683図 PL.444	1	鉄製品 不詳	底から27cm上 一部欠損	長 幅	14.1 0.9	厚 重 0.9 9.11		断面やや丸みを持つ角形の棒状鉄製品。端部に向かいやや 厚を減じ端部は薄くくの字に折れ曲がる。他の端部は劣化 破損する。	
第683図 PL.444	2	鉄製品 不詳	底から27cm上 破片	長 幅	9.6 1.2	厚 重 1.1 12.22		断面やや丸みを持つ角形の棒状鉄製品。両端とも劣化破損 する。	

VIII区22号土坑

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				長	幅	厚	重			
第683図 PL.444	3	鉄製品 鎌	埋土 一部欠損	長 幅	8.9 2.1	厚 重	0.6 23.65		先端が劣化破損する鉄鎌。先端の断面は薄い菱形、茎に向かい急に広がり茎を一周する段を持つ。茎は2.5cm程で角形で終わり破損の可能性が有るが表面は厚く錆に覆われ不明。	

VIII区23号土坑

第683図	4	須恵器 杯	埋土 1/4	口 底	8.3 3.9	高	2.1	細砂粒/酸化焰/浅 黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
-------	---	----------	-----------	--------	------------	---	-----	-----------------	--------------------------	--

VIII区33号土坑

第685図 PL.445	1	鉄製品 不詳	底直上 破片	長 幅	3.0 0.9	厚 重	0.6 2.22		断面長方形の鉄製品破片。錆化により本体は空洞化し脆弱なため詳細は不明。	
-----------------	---	-----------	-----------	--------	------------	--------	-------------	--	-------------------------------------	--

VIII区35号土坑

第685図 PL.445	2	鉄製品 釘	埋土 ほぼ完形	長 幅	5.9 1.0	厚 重	0.9 5.76		断面長方形の角釘と見られる鉄製品。木質等の痕跡は見られない。	
-----------------	---	----------	------------	--------	------------	--------	-------------	--	--------------------------------	--

VIII区57号土坑

第687図 PL.445	1	灰釉陶器 皿	埋土 口縁部一部欠	口 底	13.5 7.0	台 高	6.6 2.9	微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法は漬け掛け。	大原2号窯式期。
-----------------	---	-----------	--------------	--------	-------------	--------	------------	----------------	--	----------

IX区2号土坑

第690図	1	須恵器 椀	埋土 口縁部～体部下 位片	口	15.0			細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰黄	ロクロ整形。	
-------	---	----------	---------------------	---	------	--	--	--------------------	--------	--

IX区12号土坑

第691図	1	須恵器 杯	底から9cm上 底部片	底	6.0			細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
-------	---	----------	----------------	---	-----	--	--	-------------------	--------------------------	--

IX区20号土坑

第692図	1	黒色土器 椀	埋土 口縁部下位～高 台部片	底 台	6.0 6.2			細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	内面黒色処理。ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
-------	---	-----------	----------------------	--------	------------	--	--	-------------------	-----------------------------------	--

IX区25号土坑

第693図	1	須恵器 杯	埋土 口縁部下位～底 部片	底	5.0			細砂粒/酸化焰/浅 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
-------	---	----------	---------------------	---	-----	--	--	----------------	--------------------------	--

IX区28号土坑

第693図	2	須恵器 椀	底から5cm上 底部片	底 台	6.2 6.1			細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
-------	---	----------	----------------	--------	------------	--	--	-----------	----------------------------	--

IX区31号土坑

第694図	1	灰釉陶器 椀	埋土 口縁部片	口	13.8			微砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形。体部下位は回転ヘラ削り。施釉方法不明。	大原2号窯式期。
-------	---	-----------	------------	---	------	--	--	-----------	---------------------------	----------

IX区34号土坑

第694図	2	黒色土器 椀	底直上 体部～底部片	底 台	8.4 8.4			細砂粒/酸化焰/橙	内面黒色処理か、二次被熱により吸炭が消失。ロクロ整形、回転右回りか。底部はナデ、高台は貼付。内面はヘラ磨き。	
第694図	3	須恵器 平瓶	底から6cm上 口縁部片	口	6.8			細砂粒・粗砂粒・ 長石粒/還元焰/灰	口縁部は胴部に貼付。ロクロ整形、回転右回り。	

IX区38号土坑

第694図	4	灰釉陶器 椀	埋土 口縁部下位～高 台部片	底 台	8.4 8.0			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法不明。	大原2号窯式期。
-------	---	-----------	----------------------	--------	------------	--	--	----------------	-------------------------------------	----------

IX区42号土坑

第695図	1	須恵器 杯	底直上 口縁部～底部 1/4	口 底	9.1 6.2	高	2.5	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第695図 PL.445	2	須恵器 杯	埋土 1/2	口 底	13.2 7.8	高	4.3	細砂粒・粗砂粒・ 褐粒/酸化焰/橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	

IX区43号土坑

第697図 PL.445	1	須恵器 杯	埋土 完形	口 底	8.5 5.6	高	2.5	細砂粒・褐粒/酸 化焰/浅黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第697図 PL.445	2	須恵器 杯	埋土 口縁部一部欠	口 底	9.4 5.4	高	2.4	細砂粒・褐粒/酸 化焰/にぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第697図 PL.445	3	須恵器 杯	埋土 1/2	口 底	8.2 5.6	高	1.9	細砂粒/酸化焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第697図 PL.445	4	須恵器 杯	埋土 3/4	口 底	11.1 5.2	高	3.9	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第697図 PL.445	5	須恵器 杯	埋土 1/3	口 底	11.6 4.8	高	3.5	細砂粒/酸化焰/浅 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第697図	6	須恵器 杯	埋土 1/3	口 底	11.6 5.4	高	3.7	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第697図	7	須恵器 杯	埋土 1/4	口 底	11.0 5.0	高	3.4	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第697図	8	須恵器 杯	埋土 口縁部～底部片	口 底	12.6 5.2	高	3.4	細砂粒/酸化焰/黄 灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第697図	9	須恵器 杯	埋土 口縁部～体部下 位	口	11.6			細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形。	

挿図 PL.No.	No.	種 器 種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考	
第697図	10	須恵器 杯	埋土 口縁部～体部中 位1/4	口	14.6			細砂粒/酸化焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。	
第697図	11	須恵器 杯	埋土 体部中位～底部 1/2	底	5.6			細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転糸切り無調整。	
第697図 PL.445	12	須恵器 椀	埋土 2/3	口 底	13.2 7.4	台 高	7.4 5.1	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第697図	13	須恵器 椀	埋土 口縁部～体部下 位片	口 底	14.8 8.4			細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形。高台は貼付。	内外面の口唇 部に付着部 有。
第697図	14	須恵器 椀	埋土 体部下位～高台 部片	底 台	6.6 6.2			細砂粒/酸化焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第697図	15	須恵器 椀	埋土 体部下位～高台 部片	底 台	6.8 6.9			細砂粒/酸化焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第697図	16	須恵器 椀	埋土 脚部1/4	脚	10.6			細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。	
第697図	17	須恵器 脚付鉢	埋土 脚部片	脚	14.6			細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰白	ロクロ整形。脚部は貼付。	
第697図	18	灰釉陶器 皿	埋土 体部下位～高台 部1/2	底 台	7.5 6.6			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼 付。施釉方法不明。	大原2号窯式 期。
第697図	19	土師器 甕	埋土 口縁部～胴部上 位片	口	27.7			細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい黄橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部が ヘラナデ。	
第697図	20	須恵器 羽釜	埋土 口縁部～胴部上 位片	口 鏝	20.8 26.0			細砂粒/酸化焰/灰 黄	ロクロ整形。鏝は貼付。胴部はヘラ削り。	
第697図 PL.445	21	土製品 土錘	埋土 端部一部欠	長 幅	4.2 1.5	孔 重	0.4 9.2	微砂粒/良好/橙	外面はナデ。	

IX区45号土坑

第697図	22	須恵器 甕	底から25cm上 口縁部上位～頸 部	頸	28.0			細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	頸部にて胴部と口縁部を接合。口縁部はロクロ整形。胴部 整形は不明。	
-------	----	----------	--------------------------	---	------	--	--	-------------------	--------------------------------------	--

IX区46号土坑

第698図	1	須恵器 杯	底から49cm上 口縁部中位～底 部1/2	底	4.8			細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第698図	2	須恵器 杯	底から41cm上 口縁部中位～底 部	底	4.8			細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第698図	3	須恵器 椀	底から46cm上 体部下位～高台 部片	底 台	6.2 7.6			細砂粒/酸化焰/橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ナデ、高台は貼付。	
第698図	4	灰釉陶器 皿	底から46cm上 口縁部片	口	11.6			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形。施釉方法不明。	虎溪山1号窯 式期か。
第698図	5	灰釉陶器 長頸壺	底から47cm上 胴部片	胴	15.0			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形。胴部下半は回転ヘラ削り。	東濃産10C. 代。
第698図	6	須恵器 羽釜	底から60cm上 口縁部片	口 鏝	19.6 22.2			細砂粒/酸化焰/灰 黄褐	ロクロ整形。鏝は貼付。	

IX区50号土坑

第698図	7	須恵器 杯	埋土 口縁部～底部 1/4	口 底	8.8 5.6	高	2.3	細砂粒/酸化焰/に ぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
-------	---	----------	---------------------	--------	------------	---	-----	------------------	--------------------------	--

X区10号土坑

第700図 PL.445	1	須恵器 皿	埋土 1/3	口 底	13.6 7.8	台 高	7.6 2.5	細砂粒/酸化焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
-----------------	---	----------	-----------	--------	-------------	--------	------------	----------------	----------------------------	--

X区27号土坑

第701図 PL.445	1	緑釉陶器 皿か椀	埋土 底部片	底	6.0			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形。底部は回転ヘラナデ、高台は削り出し。施釉 は内外面すべてに行われている。	京都洛北産。
-----------------	---	-------------	-----------	---	-----	--	--	----------------	---	--------

X区50号土坑

第703図 PL.445	1	須恵器 杯	埋土 3/4	口 底	13.0 6.2	高	3.5	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
-----------------	---	----------	-----------	--------	-------------	---	-----	--------------------	--------------------------	--

XII区8号土坑

第706図 PL.445	1	龍泉窯系 青磁碗	埋土 口縁部片	口 底	— —	高	—	夾雑物ほとんど含 まない。/灰白/	外面無文。口縁部内面片彫りによる2条の横線。体部内面 篋による施文。青磁釉に粗い貫入。口縁部に輪花ない。	12世紀中葉～ 後葉。
第706図 PL.445	2	鉄製品 不詳	底から24cm上 破片	長 幅	4.5 2.3	厚 重	0.7 7.84		不定形をした薄い板状の鉄製品。周囲は波打つように曲が り破損後錆化の可能性が有る。	

XIII区35号土坑

第709図	1	炉壁	底から21cm上	長 短	8.9 5.7	厚 重	2.8 76.28		内面はガラス質に滓化。外面は還元色。胎土はスサを大量 に含む。	構成No.39
-------	---	----	----------	--------	------------	--------	--------------	--	------------------------------------	---------

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第709図	2	鉄滓 流動滓	底直上	長短	13.4 9.8	厚重	7.2 1151.50	外面が紫黒色の流動性の高い流動滓。滓質密。比重が高い。上面は流れ皺が生じている。断面は光沢がある灰褐色。底面が弧状。	構成No.42	
ⅩⅨ区37号土坑										
第709図	3	鉄滓 流動滓	埋土	長短	7.6 10.4	厚重	5.3 267.29	外面が紫黒色の流動性の高い流動滓。滓質密。比重が高い。上面は流れ皺が生じている。断面は光沢がある灰褐色。底面に炉壁片を含む土砂が付着。	構成No.44	
ⅩⅨ区53号土坑										
第711図	1	鉄滓 炉内滓	埋土	長短	7.8 6.4	厚重	4.7 243.01	滓質は密で、錆化した小鉄塊が内在する。木炭跡あり。	構成No.41	
ⅩⅨ区60号土坑										
第712図	1	鉄製品 茎?	埋土 破片	長幅	6.7 1.4	厚重	0.8 11.43	断面長方形で茎に似た形状の鉄製品。木質等の痕跡は確認できないが破損した茎の可能性が有る。		
ⅩⅨ区76号土坑										
第714図 PL.445	1	鉄製品 不詳	埋土 破片	長幅	3.3 1.8	厚重	2.5 10.19	断面丸形の棒状鉄製品をねじりながらループ状に曲げられている。両端とも劣化破損する。		
Ⅵ区1号鍛冶										
第718図	1	土師器 杯	底から36cm上 口縁部片	口	11.8			細砂粒/軟質/橙	口縁部は横ナデ、体部は器面磨滅のため不明。	
第718図 PL.445	2	黒色土器 椀	検出面から8cm 上 2/3	口底	14.6 8.0	台高	8.2 6.4	細砂粒/酸化焰/に ぶい赤褐	内外面とも黒色処理か、二次被熱により吸炭が消失。ロクロ整形。底部回転糸切り後高台を貼付。口縁部から体部はヘラ磨き。	
第718図	3	須恵器 杯	埋土 口縁部1/2	口	11.8			細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。	
第718図	4	須恵器 杯	埋土 口縁部下位～底 部	底	8.2			細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ起こし。	
第718図	5	須恵器 杯	底から33cmと 44cm上が接合 口縁部下位～底 部	底	7.0			細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第718図	6	須恵器 杯蓋	底直上 口縁部～口縁部 中位片	口	12.8			細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。天井部は中程まで回転ヘラ削り。	
第718図 PL.445	7	須恵器 椀	底から9cm上 口縁部一部欠	口底	14.6 7.5	台高	9.2 7.2	細砂粒/酸化焰/浅 黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ナデ、高台は貼付。	
第718図 PL.445	8	土製品 羽口	底から10cm上	長幅	8.9 8.6	厚重	10.8 528.31		分析資料No.10参照	構成No.118 分析資料No.10
第718図 PL.445	9	土製品 羽口	底から30cm上	長幅	11.1 7.8	厚重	8.6 551.86		先端部から基部片。先端部下半、体部上半、基部が欠損。内径約2.5cm。指頭圧痕あり。胎土は粗砂粒。先端部は平坦に溶損。	構成No.119
第718図 PL.445	10	土製品 羽口	底から21cm上	長幅	7.6 8.0	厚重	9.3 281.29		先端部片。下半は欠損。内径約2～2.5cm、厚さ約2～3cm。胎土は粗砂粒。先端部は平坦に溶損。	構成No.120
第718図 PL.445	11	土製品 羽口	底から23cm上	長幅	9.6 11.0	厚重	8.2 489.55		先端部から体部片。内径約2～2.5、厚さ約2～3cm。長方向に撫で整形。送風角度はほぼ水平。先端部は平坦に溶損。	構成No.121
第718図 PL.445	12	土製品 羽口	底直上	長幅	11.0 6.8	厚重	7.2 419.21		先端部から体部片。内径約2.5cm、厚さ約2cm。長方向に撫で整形。送風角度は約15°。先端部は凸状に溶損。	構成No.122
第718図 PL.445	13	土製品 羽口	底から23cm上	長幅	11.0 7.0	厚重	6.9 490.36		先端部から体部。基部欠損。内径約2～2.5cm、厚さ約2～2.5cm。長方向に撫で整形。指頭圧痕あり。胎土は粗砂粒。先端部は凸状に溶損。	構成No.123
第718図 PL.445	14	土製品 羽口	検出面から16cm 上	長幅	8.3 7.3	厚重	7.4 338.70		基部片。内径約2.5cm、厚さ約2～3cm。基部は押圧痕あり。ラッパ状に成形。胎土は粗砂粒。基部を先端部として使用か。	構成No.124
第718図 PL.445	15	土製品 羽口	底から64cm上	長幅	6.9 7.9	厚重	7.5 226.01		先端部片。内径約2cm、厚さ約2～3cm。胎土は粗砂粒。送風角度は約5°。先端部は平坦に溶損。	構成No.125
第718図 PL.445	16	土製品 羽口	底から12cm上	長幅	7.9 8.2	厚重	6.3 286.70		先端部片。内径約2cm、厚さ約2～2.5cm。長方向に撫で整形。胎土は粗砂粒。送風角度は約15°。先端部は平坦に溶損。	構成No.126
第718図 PL.445	17	土製品 羽口	底から34cm上	長幅	7.2 5.9	厚重	3.7 79.04		先端部片。厚さ約2cm。先端部は平坦に溶損。	構成No.127
第718図 PL.445	18	土製品 羽口	検出面から14cm 上	長幅	8.0 8.8	厚重	8.3 274.81		先端部片。内径約2cm、厚さ約2～3cm。長方向に撫で整形。胎土は粗砂粒。送風角度は約5°。先端部は平坦に溶損。	構成No.128
第718図 PL.445	19	土製品 羽口	検出面から14cm 上	長幅	12.3 7.7	厚重	5.7 263.70		先端部から体部片。内径約2.5cm、厚さ約1.5～3cm。長方向に撫で整形。胎土は粗砂粒。先端部はほぼ水平。	構成No.129
第719図 PL.446	20	土製品 羽口	底から12cm上	長幅	13.4 7.5	厚重	8.1 544.06		ほぼ完形。内径約2cm、厚さ約2～2.5cm。体部に指頭圧痕あり。基部に押圧痕あり。ラッパ状に成形。胎土は粗粒。送風角度はほぼ水平。先端部は平坦に溶損。	構成No.130
第719図 PL.446	21	土製品 羽口	検出面から6cm 上	長幅	6.0 9.0	厚重	8.6 275.82		分析資料No.11参照	構成No.131 分析資料No.11
第719図 PL.446	22	土製品 羽口	底直上	長幅	8.7 7.5	厚重	7.3 259.05		ほぼ完形。内径約3cm、厚さ約1～2cm。指頭圧痕あり。胎土は粗砂粒。送風角度は約5°。先端部は平坦に溶損。基部側も先端部として使用。	構成No.132

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				長 幅	厚 重	厚 重			
第719図 PL.446	23	土製品 羽口	底直上	長 幅 13.2 8.3	厚 重 7.5 526.50		ほぼ完形。内径約2.5cm、厚さ約2cm。体部に指頭圧痕あり。基部に押圧痕あり。内径を保ったまま器厚を薄く成形。送風角度は約30°。先端部は平坦に溶損。	構成No.133	
第719図 PL.446	24	土製品 羽口	底から20cm上	長 幅 7.8 7.0	厚 重 8.5 315.07		ほぼ完形。先端部下半が欠損。内径約2.5cm、厚さ約1.5～2cm。基部に押圧痕あり。ややラッパ状に開く形状。胎土は粗粒。先端部は凸状に溶損。	構成No.134	
第719図 PL.446	25	土製品 羽口	底から8cm上	長 幅 11.9 7.3	厚 重 7.0 445.02		ほぼ完形。内径約2.5cm、厚さ約1.5～2cm。長方向に撫で整形。指頭圧痕あり。基部に押圧痕あり。内径を保ったまま器厚を薄く成形。胎土は粗粒。送風角度はほぼ水平。先端部は平坦に溶損。	構成No.135	
第719図 PL.446	26	土製品 羽口	底から25cm上	長 幅 7.6 7.6	厚 重 3.2 120.86		先端部から基部片。基底部は押圧痕あり。内径約3cm、厚さ約1.5。ラッパ状に成形。胎土は粗粒。送風角度は約15°。水平に溶損。	構成No.136	
第719図 PL.446	27	土製品 羽口	底から6cm上	長 幅 13.5 8.4	厚 重 6.7 434.90		先端部から基部。基底部欠損。内径約2.5cm、厚さ約1～2cm。体部に指頭圧痕あり。基部に押圧痕あり。ややラッパ状に成形。胎土は粗粒。先端部は凸状に溶損。	構成No.137	
第719図 PL.446	28	土製品 羽口	底直上	長 幅 10.6 6.9	厚 重 6.6 341.14		ほぼ完形。内径約2.5cm、厚さ約1.5～2cm。指頭圧痕あり。基部に押圧痕あり。ややラッパ状に成形。胎土は粗粒。先端部は凸状に溶損。	構成No.138	
第719図 PL.446	29	土製品 羽口	底から16cm上	長 幅 11.9 6.7	厚 重 6.5 391.00		ほぼ完形。内径約2.5cm、厚さ約1～2cm。指頭圧痕あり。胎土は粗砂粒。基部に押圧痕あり。ややラッパ状に成形。先端部は凸状に溶損。	構成No.139	
第719図 PL.446	30	土製品 羽口	底から8cm上	長 幅 11.9 6.4	厚 重 6.5 386.85		ほぼ完形。内径約2cm、厚さ約1～2cm。指頭圧痕あり。胎土は粗砂粒。基部に押圧痕あり。ややラッパ状に成形。先端部は凸状に溶損。	構成No.140	
第719図 PL.446	31	土製品 羽口	底直上	長 幅 9.6 5.8	厚 重 5.8 192.88		分析資料No.12参照	構成No.141 分析資料No.12	
第719図 PL.446	32	土製品 羽口	底直上	長 幅 9.8 6.8	厚 重 6.5 254.02		先端部片。内径約2～2.5cm、厚さ約1.5～2cm。指頭圧痕あり。胎土は粗砂粒。基部に押圧痕あり。ややラッパ状に成形。先端部は凸状に溶損。	構成No.142	
第719図 PL.446	33	土製品 羽口	検出面から8cm 上	長 幅 12.6 6.9	厚 重 5.8 315.25		先端部から基部片。内径約2.5cm、厚さ約1.5～2cm。指頭圧痕あり。胎土は粗砂粒。基部に押圧痕あり。ラッパ状に成形。	構成No.143	
第719図 PL.446	34	土製品 羽口	底から17cm上	長 幅 8.3 6.2	厚 重 3.2 129.86		先端部片。厚さ約2cm。指頭圧痕あり。胎土は粗砂粒。	構成No.144	
第719図 PL.446	35	土製品 羽口	底から19cm上	長 幅 9.8 5.2	厚 重 3.2 82.72		先端部片。厚さ約1.5～2cm。指頭圧痕あり。胎土は粗砂粒。先端部は凸状に溶損。	構成No.145	
第719図 PL.446	36	土製品 羽口	底から24cm上	長 幅 9.3 5.9	厚 重 2.7 97.00		羽口2個体の先端部どうしが融着している。厚さ約1.5～2cm。胎土は粗砂粒。	構成No.146	
第719図 PL.446	37	土製品 羽口	底から27cm上	長 幅 5.3 7.1	厚 重 3.4 78.18		先端部片。内径約2～3cm、厚さ約2cm。胎土は粗粒。先端部は平坦に溶損。	構成No.147	
第719図 PL.446	38	土製品 羽口	底から25cm上	長 幅 5.8 5.0	厚 重 2.8 74.18		先端部片。厚さ約2cm。胎土は粗砂粒。	構成No.148	
第719図 PL.446	39	土製品 羽口	底直上	長 幅 10.6 5.7	厚 重 2.8 149.13		先端部片。厚さ約2cm。胎土は粗砂粒。	構成No.149	
第719図 PL.446	40	土製品 羽口	底から70cm上	長 幅 7.6 4.5	厚 重 6.3 133.86		先端の頸部。内径約2cm、厚さ約1.5cm。胎土は粗砂粒。椀形鍛冶滓が付着している。	構成No.150	
第719図 PL.446	41	土製品 羽口	底から11cm上	長 幅 6.5 5.6	厚 重 2.8 67.40		先端部片。厚さ約1.5cm。胎土は粗砂粒。	構成No.151	
第720図 PL.446	42	土製品 羽口	底から82cm上	長 幅 4.1 5.8	厚 重 3.7 63.43		先端部片。厚さ約2cm。胎土は粗砂粒。基部側を先端部として使用か。	構成No.152	
第720図 PL.446	43	土製品 羽口	底から77cm上	長 幅 6.6 5.1	厚 重 2.4 58.10		先端部片。厚さ約1.5cm。長方向に撫で整形。胎土は粗砂粒。	構成No.153	
第720図 PL.446	44	土製品 羽口	底から40cm上	長 幅 6.7 5.2	厚 重 2.7 62.97		先端部片。厚さ約1.5cm。指頭圧痕あり。先端部は凸状に溶損。	構成No.154	
第720図 PL.446	45	土製品 羽口	底から41cm上	長 幅 5.3 3.8	厚 重 4.3 52.24		先端部片。厚さ約1.5cm。胎土は粗砂粒。先端部は凸状に溶損。	構成No.155	
第720図 PL.446	46	土製品 羽口	底直上	長 幅 5.9 6.8	厚 重 3.0 82.23		先端部片。厚さ約2cm。胎土は粗砂粒。錆が滲み出た小鉄塊が付着。	構成No.156	
第720図 PL.446	47	土製品 羽口	底から32cm上	長 幅 6.0 8.6	厚 重 3.2 137.04		先端部片。厚さ約2cm。胎土は粗砂粒。椀形鍛冶滓の一部が付着している。	構成No.157	
第720図 PL.446	48	土製品 羽口	底直上	長 幅 4.7 6.5	厚 重 6.8 129.28		先端の頸部。厚さ約1.5cm。胎土は粗砂粒。椀形鍛冶滓が付着している。	構成No.158	
第720図 PL.446	49	土製品 羽口	底から25cm上	長 幅 8.4 5.2	厚 重 2.5 69.70		先端部片。厚さ約1.5cm。指頭圧痕あり。胎土は粗砂粒。先端部は凸状に溶損。	構成No.159	
第720図 PL.446	50	土製品 羽口	底から11cm上	長 幅 6.0 6.5	厚 重 3.6 91.14		先端部片。内径約2.5cm、厚さ約2cm。胎土は粗砂粒。先端部は凸状に溶損。	構成No.160	
第720図 PL.446	51	土製品 羽口	底から6cm上	長 幅 7.2 5.7	厚 重 2.7 72.50		先端部片。厚さ約2～2.5cm。指頭圧痕あり。胎土は粗砂粒。先端部は凸状に溶損。	構成No.161	
第720図 PL.446	52	土製品 羽口	底から18cm上	長 幅 7.8 6.2	厚 重 3.2 107.90		先端部片。厚さ約2.5cm。長方向に撫で整形。胎土は粗粒。椀形鍛冶滓が付着。	構成No.162	
第720図 PL.446	53	土製品 羽口	底から5cm上	長 幅 5.1 5.5	厚 重 2.8 63.85		先端部片。厚さ約1.5cm。胎土は粗砂粒。先端部は凸状に溶損。	構成No.163	
第720図 PL.446	54	土製品 羽口	底から29cm上	長 幅 5.0 5.5	厚 重 2.2 49.89		先端部片。厚さ約1.5cm。胎土は粗砂粒。先端部は凸状に溶損。	構成No.164	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				長	幅	厚重			
第720図 PL.446	55	土製品 羽口	底から7cm上	長幅 9.5 6.9	厚重 3.9 170.65		基部片。厚さ約2.5cm。体部は長方向に撫で整形。基部に押圧痕あり。ややラッパ状に開く。胎土は粗砂粒。	構成No.165	
第720図 PL.446	56	土製品 羽口	底から5cm上	長幅 7.2 5.8	厚重 2.4 61.05		先端部から基部片。厚さ約1.5cm。基部側も先端部として使用か。	構成No.166	
第720図 PL.446	57	土製品 羽口	底から5cm上	長幅 4.2 4.4	厚重 2.2 32.79		基部片。基底部がややラッパ状に開く。基底部を先端部として使用か。	構成No.167	
第720図 PL.446	58	土製品 羽口	底直上	長幅 10.0 6.1	厚重 5.0 160.64		分析資料No.14参照	構成No.173 分析資料No.14	
第720図 PL.446	59	土製品 埴塼	底から15cm上	長幅 9.0 6.2	厚重 4.7 180.59		内面が滓化。長径約1～2mmほどの緑青が点在。器厚約2～2.5cm。胎土は粗砂。外面指頭圧痕あり。	構成No.168	
第720図 PL.446	60	土製品 埴塼	底から5cm上	長幅 9.2 5.0	厚重 4.0 106.43		内面が滓化。長径約2mmほどの緑青が点在。器厚約2cm。胎土は粗砂。	構成No.169	
第720図 PL.446	61	土製品 埴塼	埋土	長幅 4.2 3.5	厚重 3.6 46.69		内面が滓化。長径約1～2mmほどの緑青が点在。器厚約3cm。胎土は粗砂。構成No.168と同一個体か。	構成No.170	
第720図 PL.446	62	銅製品 銅椀	VI区2面一括 破片	長幅 4.8 3.0	厚重 1.0 7.58		銅椀破片。口唇は肥厚し内側に沈線を持つ。表面にはデンドロイと構造が見られ鋳造後成型と考えられる。推定口径は17.6cm。		
第720図 PL.446	63	鉄製品 刀子	底から10cm上 ほぼ完形	長幅 14.3 1.1	厚重 0.8 28.59		棟側に明瞭な関を持つ刀子。刃側は直線的で茎と刃の幅は差が少なく研ぎ減りの可能性が有る。		
第721図 PL.446	64	鉄製品 釘	底から18cm上 ほぼ完形	長幅 5.5 0.8	厚重 0.6 3.45		断面長方形の角釘と見られる鉄製品。頭側は角形で緩やかに曲がる。先端は徐々に細くなり尖る。		
第721図 PL.446	65	鉄製品 釘	埋土 ほぼ完形	長幅 5.5 2.8	厚重 1.5 12.62		断面長方形の角釘と見られる鉄製品で土師器破片に錆付。頭側は角形で先端は徐々に細くなりくの字に曲がる。		
第721図 PL.446	66	鉄製品 釘	底から17cm上 破片	長幅 6.3 1.3	厚重 0.7 7.42		断面ほぼ正方形の角棒状の鉄製品。角釘の破片と見られるが厚く錆に覆われ詳細は不明。		
第721図 PL.446	67	鉄製品 釘	埋土 一部欠損	長幅 5.8 1.3	厚重 1.1 10.60		断面やや長方形から正方形の角釘。頭は角形で先端に向かい細くなる端部は角ばるが破損錆化の可能性あり。		
第721図 PL.446	68	鉄製品 釘	底から13cm上 一部欠損	長幅 5.0 0.9	厚重 0.6 6.04		断面長方形の角釘。頭は角形で先端に向かい薄くなるが端部は尖らない。		
第721図 PL.446	69	鉄製品 釘	埋土 一部欠損	長幅 5.2 0.8	厚重 0.6 5.56		断面ほぼ正方形の角釘。頭は角形でわずかによこに広がる。先端に向かい厚さを減ずるか端部は尖らない。		
第721図 PL.446	70	鉄製品 釘	底から20cm上 ほぼ完形	長幅 6.2 1.2	厚重 0.6 5.98		断面正から長方形の角釘。頭はやや傾いた角形、先端に向かい細くなり尖る。錆に覆われ木質等の痕跡は確認できない。		
第721図 PL.446	71	鉄製品 釣り手金具	埋土 破片	長幅 6.1 2.5	厚重 1.0 9.04		7×2mmの帯状鉄製品をループ状に加工する。両端とも劣化破損で全体に錆に覆われるため木質・紐等の痕跡は確認できない。		
第721図 PL.447	72	鉄製品 不詳	埋土 破片	長幅 4.2 0.5	厚重 0.3 1.11		断面円形の丸棒状鉄製品。表面の錆中には錆化した微小な木質痕が点在。一部錆上にチップスケール状の黒色薄板状の錆が付着する。		
第721図 PL.447	73	鉄製品 不詳	底から11cm上 破片	長幅 5.2 1.1	厚重 0.6 5.66		細い板状の鉄製品破片。端部は角形で反対側は劣化破損する。		
第721図 PL.447	74	鉄製品 不詳	底から11cm上 破片	長幅 4.3 1.6	厚重 1.1 11.22		厚い板状の鉄製品破片。端部は角形で反対側は劣化破損する。		
第721図 PL.447	75	鉄製品 不詳	埋土 破片	長幅 7.3 1.0	厚重 0.5 5.46		茎形した鉄製品で一端は三角形で反対側は茎尻的な形状を持つ。刀子の破片とも考えられる三角側は薄く刃の断面とは考えにくく詳細は不明。		
第721図 PL.447	76	鉄製品 不詳	底から20cm上 破片	長幅 5.1 0.9	厚重 0.5 4.76		茎形をした鉄製品で一端は破損錆化、反対側は茎尻的な形状を持つ。刀子の茎と考えられるが破損により詳細は不明。		
第721図 PL.447	77	鉄製品 不詳	底から16cm上 破片	長幅 8.0 3.8	厚重 2.3 7013		鉄製品破片5点が錆化癒着して出土。1点は板状で鎌の破片と見られるが両端とも破損。その棟側に並ぶように1.5×6.5cmの薄い板状の鉄製品が癒着する。その上に断面丸形で両端とも劣化破損する棒状鉄製品2点が錆を介して癒着する。さらに鎌状の鉄製品の刃側から斜めに断面丸形の棒状鉄製品が癒着、一端に向かい徐々に細くなり端部は丸く反対側はそこに癒着する2点とともに劣化破損する。		
第721図 PL.447	78	鉄製品 不詳	底から23cm上 一部欠損	長幅 8.0 1.1	厚重 0.9 13.38		断面長方形の厚板状の鉄製品。弧を描くように曲がりながら徐々に細くなり端部は角形で終わる。反対側は劣化破損する。		
第721図 PL.447	79	鉄製品 不詳	底から20cm上 破片	長幅 10.8 1.7	厚重 1.6 30.02		断面正方形の角棒状鉄製品。一端に向かい細くなり断面は長方形になるが端部は劣化破損する。反対側も劣化破損する。		
第721図 PL.447	80	鉄製品 不詳	埋土 ほぼ完形	長幅 6.5 2.3	厚重 1.8 43.61		断面正方形の角棒状で一方の端部に向かい細くなる。両端とも角形。表面の錆の中に多孔質の鉄滓片が付着する。		
第721図 PL.447	81	鉄製品 不詳	埋土 一部欠損	長幅 8.4 1.0	厚重 0.7 7.50		断面正方形の角棒状鉄製品。一端ではループ状の構造を持ち、反対側では徐々に細くなるが端部は劣化破損するため全体形状は不明。		
第721図 PL.447	82	鉄製品 不詳	埋土 ほぼ完形	長幅 6.0 2.1	厚重 1.5 32.31		断面正方形の角棒状鉄製品。一端に向かい細くなり断面は長方形になるが端部でも尖ることはない。		
第721図 PL.447	83	鉄製品 不詳	底から12cm上 破片	長幅 8.6 11.7	厚重 1.2 146.31		厚さ0.5から0.7cmで一部は層状に錆化し厚さを増す。脆弱で破損するため詳細は不明。		
第722図 PL.447	84	鉄製品 不詳	埋土 破片	長幅 5.2 1.1	厚重 0.3 4.26		断面狭三角形の短冊形鉄製品で両端とも角形、刀子の茎破片とも考えられるが、端部は破損錆化し詳細は不明。		
第722図 PL.447	85	鉄製品 不詳	埋土 破片	長幅 4.0 1.0	厚重 0.7 4.41		表面は硬い錆に覆われ本体脆弱なため詳細は不明。		

挿図 PL.No.	No.	種 類 種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第722図 PL.447	86	鉄製品 不詳	埋土 破片	長 幅	5.0 1.0	厚 重	0.7 5.26	断面三角から長方形の鉄製品。両端とも破損錆化とみられ詳細形状は不明。	
第722図 PL.447	87	鉄製品 不詳	埋土 ほぼ完形	長 幅	1.8 2.1	厚 重	0.7 1.40	細い板状の鉄製品を輪状に曲げるが両端部間には隙間が存在する。	
第722図 PL.447	88	鉄製品 不詳	埋土 一部欠損	長 幅	1.5 2.9	厚 重	0.2 1.15	三角形の薄い板状鉄製品。両底辺は細く伸びるが片方は破損する。	
第722図 PL.447	89	鉄製品 不詳	埋土 破片	長 幅	6.1 1.2	厚 重	0.9 7.48	断面やや長方形の角棒状鉄製品で端部でループ状に曲がる。他の端部は劣化破損する。	
第722図 PL.447	90	鉄製品 不詳	埋土 破片	長 幅	4.2 1.2	厚 重	1.1 7.50	断面ほぼ正方形の角棒状鉄製品。全体に硬い錆に覆われ本体脆弱なため詳細は不明。	
第722図 PL.447	91	鉄製品 不詳	底から19cm上 ほぼ完形	長 幅	7.8 0.8	厚 重	0.8 5.18	棒状の鉄製品で一端側は断面円形で端部も丸い、反対側は細くなり断面ほぼ正方形で端部は尖る。	
第722図	92	鉄滓 椀形鍛冶滓 (特大)	底から40cm上	長 短	15.9 13.5	厚 重	5.4 1078.07	平面楕円形。左側部に羽口頸部が付着。錆が滲み出ており、色調は黒褐色。滓質は密で、比重が高い。	構成No.95
第722図	93	鉄滓 椀形鍛冶滓 (特大)	検出面から11cm 上	長 短	15.5 13.2	厚 重	6.3 1388.30	平面不整形円形。酸化土砂が表面に付着している。錆が滲み出ており、色調は黒褐色。滓質は密で、比重が高い。	構成No.96
第722図	94	鉄滓 椀形鍛冶滓 (特大)	検出面から13cm 上	長 短	13.1 12.3	厚 重	5.7 1039.41	平面不整形円形。やや二段気味。錆が滲み出ており、色調は黒褐色。滓質は密で、比重が高い。上下面に微細な木炭痕あり。	構成No.97
第722図	95	鉄滓 椀形鍛冶滓 (大)	底から20cm上	長 短	14.1 9.9	厚 重	5.0 971.65	平面円形。やや二段気味。上面左側部の粘土質溶解物は羽口頸部の溶損か。錆が滲み出ており、色調は黒褐色。滓質は密で、比重が高い。上下面に微細な木炭痕あり。	構成No.98
第722図	96	鉄滓 椀形鍛冶滓 (大)	底から34cm上	長 短	13.8 11.8	厚 重	6.2 852.59	平面不整形円形。左側部の羽口頸部の欠損か。錆が滲み出ており、色調は黒褐色。滓質は密で、比重が高い。上下面に微細な木炭痕あり。	構成No.99
第722図	97	鉄滓 椀形鍛冶滓 (大)	検出面から9cm 上	長 短	14.0 11.7	厚 重	5.8 922.14	分析資料No.8参照	構成No.100・ 分析資料No.8
第722図	98	鉄滓 椀形鍛冶滓 (大)	底から8cm上	長 短	10.9 9.9	厚 重	5.3 557.06	平面円形。錆が滲み出ており、色調は黒褐色。滓質は密で、比重が高い。	構成No.171
第722図	99	鉄滓 椀形鍛冶滓 (中)	底から32cm上	長 短	11.3 9.9	厚 重	5.0 483.16	平面不整形円形。やや二段気味。錆が滲み出ており、色調は黒褐色。滓質は密で、比重が高い。上下面に微細な木炭痕あり。	構成No.101
第722図	100	鉄滓 椀形鍛冶滓 (中)	底から6cm上	長 短	11.3 6.1	厚 重	6.5 333.57	平面不整形円形。上面から左側部が欠損。錆が滲み出ており、色調は黒褐色。滓質は密で、比重が高い。下面全面に炉床土が付着している。	構成No.102
第723図	101	鉄滓 椀形鍛冶滓 (中)	底から28cm上	長 短	6.6 7.0	厚 重	2.8 148.64	分析資料No.13参照	構成No.172 分 析資料No.13
第723図	102	鉄滓 椀形鍛冶滓 (小)	底から29cm上	長 短	8.7 8.1	厚 重	4.1 218.43	平面円形。側面が一部欠損。上面左側部の羽口頸部の溶損か。錆が滲み出ており、色調は黒褐色。滓質は密で、比重が高い。	構成No.103
第723図	103	鉄滓 椀形鍛冶滓 (極小)	底から46cm上	長 短	7.7 5.8	厚 重	3.8 87.60	平面不整形円形。錆が滲み出ており、色調は黒褐色。内面に多くの木炭痕。	構成No.104
第723図	104	鉄滓 椀形鍛冶滓 (極小)	底から47cm上	長 短	6.9 7.4	厚 重	3.3 121.25	平面不整形円形。上面左側部に羽口頸部の粘土質溶解物あり。下面全面に炉床土が付着。	構成No.105
第723図	105	鉄滓 椀形鍛冶滓 (極小)	底直上	長 短	6.5 5.4	厚 重	2.4 98.48	平面不整形円形。錆が滲み出ており、色調は黒褐色。	構成No.106
第723図	106	鉄滓 鉄塊系遺物	埋土	長 短	3.3 4.9	厚 重	2.2 43.21	表面に酸化土砂が付着。一部放射割れ。	構成No.107
第723図	107	鉄滓 鉄塊系遺物	検出面から9cm 上	長 短	3.9 6.0	厚 重	3.5 72.75	分析資料No.9参照	構成No.108・ 分析資料No.9
第723図	108	鉄滓 鉄塊系遺物	埋土	長 短	4.8 5.4	厚 重	3.0 78.81	表面に酸化土砂が付着。放射割れ激しい。	構成No.109
第723図	109	鉄滓 鉄塊系遺物	埋土	長 短	2.9 4.2	厚 重	2.9 54.49	表面に酸化土砂が付着。放射割れ激しい。	構成No.110
第723図	110	鉄滓 鉄塊系遺物	埋土	長 短	2.8 3.7	厚 重	2.4 31.58	表面に酸化土砂が付着。放射割れ激しい。	構成No.111
第723図	111	鉄滓 鉄塊系遺物	埋土	長 短	2.9 3.1	厚 重	2.5 27.71	表面に酸化土砂が付着。放射割れ激しい。	構成No.112
第723図	112	鉄滓 粘土質溶解物(ガラス 化)	埋土	長 短	4.5 3.8	厚 重	2.8 26.47	滓質粗。	構成No.113
第723図	113	鉄滓 小型の流動滓	埋土	長 短	4.1 4.8	厚 重	2.1 17.61	表面紫黒色。気泡が内在し、滓質粗。	構成No.114

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第723図	114	鉄滓 小型の流動滓	埋土	長短	2.2 5.4	厚重	1.1 12.27		表面紫黒色。流動性が高く滓質は密。	構成No.115
第723図	115	鉄滓 小型の流動滓	埋土	長短	4.2 3.1	厚重	1.0 8.83		表面紫黒色。気泡が内在し、滓質粗。	構成No.116
第723図 PL.447	116	鉄製品 不詳	破片	長幅	7.9 7.2	厚重	4.3 105.72		合計6点の鉄製品が錆付き一体化する。ほぼ円形の紡輪に斜めに破損した紡軸が入る紡錘車・先端側のみで柄装着部を劣化破損により欠く鎌・刀子破片? 2点・棒状鉄製品破片2点が認められるが個々の詳細は癒着のため不明。	
第723図 PL.447	117	石製品 金床石	底から9cm上 完形	長幅	54.2 21.0	厚重	12.2 20900.0	粗粒輝石安山岩	円礫を利用する。正面及び左側面の全体に、鉄製品を鍛造する際に付着したと想定される滓が認められる。また、正面の左側縁辺部及び左側面の左側縁辺部には、鍛造時の衝撃で剥落したと想定される剥離痕が認められる。	
Ⅷ区1号鍛冶										
第727図 PL.447	1	土製品 羽口	底から4cm上	長幅	13.0 10.0	厚重	8.0 708.51		先端部から体部片。内径約3cm、厚さ約2.5cm。器面は粗く、整形痕不明。指頭圧痕あり。胎土は粗砂粒。送風角度約5°。先端部は平坦に溶損。顎部に錆化した椀形鍛冶滓が付着。	構成No.61
第727図 PL.447	2	土製品 羽口	底直上	長幅	11.8 8.0	厚重	8.3 719.92		先端部から基部片。基部欠損。内径約2.5cm、厚さ約2cm。長方向に撫で整形。胎土は粗砂粒。送風角度約15°。先端部は平坦に溶損。	構成No.62
第727図 PL.447	3	土製品 羽口	底直上	長幅	12.9 8.0	厚重	7.8 558.64		先端部から基部片。基部欠損。内径約2cm、厚さ約2cm。指頭圧痕あり。胎土は粗砂粒。送風角度はほぼ水平。先端部は凹状に溶損。	構成No.63
第727図 PL.447	4	土製品 羽口	底から6cm上	長幅	11.7 8.4	厚重	8.8 700.14		先端部から基底部。先端部欠損。基部から先端部へ広がる形状。内径約2～2.5cm、厚さ2～3cm。長方向に撫で整形。	構成No.64
第727図 PL.447	5	土製品 羽口	底直上	長幅	11.2 7.5	厚重	7.3 416.29		先端部から基部片。先端部下半と基底部欠損。内径2.5～3cm。厚さ約2cm。指頭圧痕あり。胎土は粗砂粒。先端部は凸状に溶損。	構成No.65
第727図 PL.447	6	土製品 羽口	底から16cm上	長幅	10.0 9.8	厚重	7.9 522.06		先端部から体部。内径約2cm、厚さ約2～3cm。指頭圧痕あり。胎土は粗砂粒。先端部は平坦に溶損。顎部に椀形鍛冶滓の一部が付着。	構成No.66
第727図 PL.447	7	土製品 羽口	底から46cm上	長幅	9.9 6.7	厚重	2.9 166.10		先端部から基部片。厚さ約2.5cm。長方向に撫で整形。基部は押圧痕あり。ラッパ状に整形。	構成No.67
第727図 PL.447	8	土製品 羽口	底から10cm上	長幅	6.8 8.2	厚重	7.2 283.76		先端部片。内径約3cm、厚さ約2～2.5cm。先端部は凸状に溶損。	構成No.68
第727図 PL.447	9	土製品 羽口	埋土	長幅	8.6 8.1	厚重	8.5 428.44		先端部片。内径約2～3cm。基部側を使用か。胎土は粗粒。	構成No.69
第727図 PL.447	10	鉄製品 不詳	埋土 破片	長幅	7.1 6.5	厚重	1.9 85.97		全体に放射割れの著しい铸造と見られる鉄製品の破片。	
第727図 PL.447	11	鉄製品 不詳	埋土 一部欠損	長幅	3.3 2.5	厚重	1.4 7.53		2×3cm程の方形の小札形の鉄製品。角近くの一か所に3mmほどの穴を持つが他の部分は錆化が著しく穴の有無は不明。	
第727図 PL.448	12	鉄製品 釘	埋土 一部欠損	長幅	6.5 1.0	厚重	0.8 6.56		断面ほぼ正方形の角釘。頭はやや傾いた角形で先端側は劣化破損する。錆に覆われ木質等は確認できない。	
第727図 PL.448	13	鉄製品 不詳	埋土 ほぼ完形	長幅	7.9 2.7	厚重	2.3 45.17		断面ほぼ正方形の棒状鉄製品で端部に直角に突き出るように張り出し構造を持つ。全体に厚く錆に覆われ詳細は不明。	
第727図	14	鉄製品 釘	埋土 破片	長幅	3.3 1.0	厚重	0.6 2.92		断面四角形の角釘破片。頭は劣化破損により形状不明。先端に向かい緩やかに細くなる。	
第727図 PL.448	15	鉄製品 釘	埋土 破片	長幅	3.6 0.8	厚重	0.5 2.65		断面は丸みを持つ釘破片。頭は劣化破損により形状不明。先端に向かい緩やかに細くなり尖る。	
第727図 PL.448	16	鉄製品 鑿	埋土 ほぼ完形	長幅	8.4 2.3	厚重	2.3 81.49		断面長方形で先端でやや広がる楔。頭は丸みを持つ角形で本体に対しやや傾く。現状では劣化クラックのため厚を増しているが先端は尖る。	
第727図 PL.448	17	鉄製品 釘	埋土 破片	長幅	5.1 1.4	厚重	1.5 11.56		断面は正方形に近い四角の角釘。頭は大きく薄く広げ折り返すように折り曲げる。先端側は角形だが破損錆化の可能性が有る。	
第727図 PL.448	18	鉄製品 釘	埋土 ほぼ完形	長幅	6.5 1.5	厚重	1.4 12.02		断面ほぼ正方形の角釘と見られる鉄製品。頭は角形で先端に向かい細くなり尖る。全体に厚く錆に覆われ詳細は不明。	
第727図 PL.448	19	鉄製品 釘	埋土 破片	長幅	3.6 1.1	厚重	0.9 5.90		断面長方形の角釘と見られる鉄製品破片。両端とも劣化破損する。	
第728図 PL.448	20	鉄製品 釘?	埋土 一部欠損	長幅	7.0 1.1	厚重	1.0 9.22		断面長方形の角釘と見られる鉄製品。頭は角形で先端に向かい細くなり端部は劣化破損する。	
第728図 PL.448	21	鉄製品 釘	埋土 ほぼ完形	長幅	5.3 1.4	厚重	1.6 8.44		断面ほぼ正方形で頭付近でやや薄くなりくの字に曲がる。先端に向かい細くなるが鋭利には尖らない。	
第728図 PL.448	22	鉄製品 不詳	埋土 破片	長幅	3.9 1.5	厚重	0.6 9.16		断面長方形の鉄製品。一端に向かい幅を広げ薄くなるが端部で折れ曲がり破損錆化する。反対側は角形。	
第728図 PL.448	23	鉄製品 不詳	埋土 破片	長幅	2.8 0.6	厚重	0.7 1.37		断面長方形の角棒状の鉄製品。一端に向かい薄くなるが端部は尖らない。反対側は劣化破損する。	
第728図 PL.448	24	鉄製品 不詳	埋土 破片	長幅	3.1 0.6	厚重	0.7 2.99		断面ほぼ正方形の角棒状鉄製品。全体に硬い錆に覆われ本体脆弱なため詳細は不明。一端に向かいやや細くなるが両端とも劣化破損する。	
第728図 PL.448	25	鉄製品 不詳	埋土 ほぼ完形	長幅	4.3 1.2	厚重	1.0 5.30		断面長方形の角棒状鉄製品。一端は角形で反対側に向かい細くなり尖る。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第728図 PL.448	26	鉄製品 不詳	埋土 破片	長幅 3.0 2.3	厚 0.8 6.27		断面長方形の厚板状の鉄製品。端部は角形で反対側は剥落するように破損する。	26は同一個体	
第728図 PL.448	26	鉄製品 不詳	埋土 破片	長幅 3.8 2.0	厚 1.3 21.66		断面長方形の厚板状の鉄製品。端部は角形で反対側は劣化破損する。	26は同一個体	
第728図 PL.448	27	鉄製品 不詳	埋土 破片	長幅 5.1 1.5	厚 1.6 6.13		断面薄い長方形の板状鉄製品でS字状になだらかにカーブする。一端は角形で反対側は劣化破損する。		
第728図 PL.448	28	鉄製品 不詳	埋土 破片	長幅 5.8 2.1	厚 1.6 18.69		断面長方形の厚板状の鉄製品。端部は角形で反対側は劣化破損する。錆表面には不定形な小木片が不規則に付着錆化する。		
第728図 PL.448	29	鉄製品 不詳	埋土 破片	長幅 5.1 4.1	厚 1.0 26.67		断面長方形の厚板状の鉄製品。両端とも劣化破損する。錆表面には不定形な小木片が不規則に付着錆化する。		
第728図 PL.448	30	鉄製品 不詳	埋土 破片	長幅 2.6 2.7	厚 1.3 10.28		断面長方形の厚板状の鉄製品。一部には放射割れが発生し表面は滓化する。表面に潜り込む様に不定形な小木片が不規則に付着錆化する。		
第728図 PL.448	31	鉄製品 不詳	埋土 破片	長幅 6.1 2.3	厚 2.2 21.16		断面ほぼ正方形の角釘が一部滓化した硬い錆に覆われる。頭はわずかに張り出すように広がり、先端は斜め角形だが破損の可能性もある。		
第728図 PL.448	32	鉄製品 不詳	埋土 破片	長幅 5.0 3.4	厚 1.6 29.28		厚さ0.5cm程の厚い板状の鉄製品破片。全体に細かい放射割れが有り鑄造鉄製品の破片と見られる。		
第728図 PL.448	33	鉄製品 不詳	埋土 一部欠損	長幅 8.4 5.1	厚 1.5 54.76		長方形の板状鉄製品の短片中央に棒状の突起を持つ。突起は断面長方形で端部で細くなり曲がる。		
第728図	34	鉄滓 椀形鍛冶滓 (特大)	底から46cm上	長短 16.7 14.2	厚 9.0 1218.92		底面どうしが融着した2個体の椀形鍛冶滓。錆が滲み出ており、色調は黒褐色。滓質は密で、比重が高い。直径1cm程の木炭痕が全面にあり。	構成No.45	
第728図	35	鉄滓 椀形鍛冶滓 (特大)	底から47cm上	長短 14.8 13.0	厚 7.9 1219.02		分析資料No.5参照	構成No.46・分析資料No.5	
第728図	36	鉄滓 椀形鍛冶滓 (大)	埋土	長短 16.8 10.3	厚 6.5 758.37		側面どうしが融着した2個体の椀形鍛冶滓。錆が滲み出ており、色調は黒褐色。滓質は密で、比重が高い。左側の大型の椀形鍛冶滓は上面平滑で下面に炉床土が付着している。右側の小型の椀形鍛冶滓は直径1cmほどの木炭痕が全面にあり。	構成No.47	
第729図	37	鉄滓 椀形鍛冶滓 (大)	埋土	長短 12.0 11.5	厚 5.6 563.62		平面ほぼ円形。錆が滲み出ており、色調は黒褐色。滓質は密で、比重が高い。上面左側部に羽口頸部の溶損が付着。下面に炉床土が付着。上面の木炭痕は直径約3cmとやや大型。	構成No.48	
第729図	38	鉄滓 椀形鍛冶滓 (中)	底から44cm上	長短 12.0 10.4	厚 5.1 425.86		平面楕円形。錆が滲み出ており、色調は黒褐色。滓質は密で、比重が高い。上面に直径1cm程の木炭痕が見られる。下面は微細な鍛冶遺物を含む酸化土砂が付着。	構成No.49	
第729図	39	鉄滓 椀形鍛冶滓 (中)	埋土	長短 8.8 8.6	厚 5.1 278.14		平面不整形円形。錆が滲み出ており、色調は黒褐色。滓質は密で、比重が高い。上面左半に羽口頸部の溶損が付着。下面は酸化土砂が付着。	構成No.50	
第729図	40	鉄滓 椀形鍛冶滓 (中)	埋土	長短 9.1 6.3	厚 4.0 255.21		平面不整形円形。錆が滲み出ており、色調は黒褐色。滓質は密で、比重が高い。放射割れが見られ、磁着強。上下面に酸化土砂が付着。	構成No.51	
第729図	41	鉄滓 椀形鍛冶滓 (中)	埋土	長短 9.5 10.3	厚 5.0 254.53		平面不整形円形。左右両面欠損。錆が滲み出ており、色調は黒褐色。滓質は密で、比重が高い。上面上側に工具痕あり。下面に炉床土付着。	構成No.52	
第729図	42	鉄滓 椀形鍛冶滓 (小)	埋土	長短 7.6 6.9	厚 2.9 149.26		平面楕円形。錆が滲み出ており、色調は黒褐色。滓質は密で、比重が高い。	構成No.53	
第729図	43	鉄滓 椀形鍛冶滓 (極小)	埋土	長短 4.5 5.1	厚 2.2 53.69		平面楕円形。右側面欠損。錆が滲み出ており、色調は黒褐色。滓質は密で、比重が高い。	構成No.54	
第729図	44	鉄滓 鉄塊系遺物	埋土	長短 4.7 3.2	厚 3.2 75.91		表面に酸化土砂が付着。上側の一部に滓が付着している。	構成No.55	
第729図	45	鉄滓 鉄塊系遺物	埋土	長短 6.3 4.8	厚 4.9 186.55		分析資料No.6参照	構成No.56・分析資料No.6	
第729図	46	鉄滓 粘土質溶解物	埋土	長短 1.7 3.8	厚 1.2 6.18		気泡が内在し、滓質粗。	構成No.57	
第729図	47	鉄滓 粘土質溶解物	埋土	長短 2.7 2.3	厚 1.2 4.69		気泡が内在し、滓質粗。	構成No.58	
第729図	48	鉄滓 再結合滓	埋土	長短 44.4 24.5	厚 18.5 19181		鍛造剥片や粒状滓など鍛冶系の微細遺物が層状に堆積した再結合滓。金属鉄が内在し、赤錆が生じている。	構成No.59	
第729図	49	鉄滓 再結合滓	埋土	長短 13.8 9.2	厚 11.8 1326.40		鍛造剥片や粒状滓など鍛冶系の微細遺物が角礫に付着している。	構成No.60	
第730図 PL.448	50	石製品 金床石	包含層 完形	長幅 (26.2) (33.4)	厚 14.3 17700.0	細粒輝石安山岩	円礫を利用する。正面全体に、鉄製品を鍛造する際に付着したと想定される滓が認められる。また、側面には鍛造時の衝撃で剥落したと想定される剥離痕が認められる。		

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				長 幅	厚 重	高 度			
第730図 PL.448	51	石製品 砥石	底から12cm上 完形	長 幅 29.2 25.8	厚 重 9.8 7980.0		粗粒輝石安山岩	円礫を利用する。正面は中央付近が非常に滑らかであり、断面V字形の大きな線条痕が集中する。裏面も中央付近が滑らかであり、直径約35mm、深さ約5mmの円柱状の孔が認められる。孔の底部は中央付近がやや窪んでいて、底部全体に滑らかである。側面には、非常に滑らかな一つの平坦面が認められる。表裏面には部分的に鉄滓が付着し、金床石として分類される可能性もある。	

ⅩⅩ区1号鍛冶

第732図 PL.448	1	須恵器 杯	埋土 1/3	口 底 10.2 5.8	高 度 2.7		細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/明黄褐	ロクロ整形、回転右回りか。底部は手持ちへら削りか。	
第732図 PL.448	2	土製品 送風管	窪み底から14cm と15cm上が接合	長 幅 11.2 7.8	厚 重 4.7 280.08			西浦北型製鉄炉の送風管の先端部から体部。基部と先端部から体部の一部は欠損。内径約3cm、厚さ約2cm。先端部上半はガラス化し、砂鉄焼結塊が付着している。送風角度は約60°か。胎土は細砂粒。体部の整形は長方向に撫で。外面還元、内面先端部酸化。	構成No16
第732図 PL.448	3	土製品 送風管	包含層	長 幅 7.7 6.8	厚 重 3.4 144.77			西浦北型製鉄炉の送風管の体部から基部片。体部は長方向に撫で整形。基部は押圧痕あり。ラッパ状に成形。基底部に布目の圧痕あり。胎土は細砂粒。厚さ2.5～3cm。	構成No17
第732図 PL.448	4	土製品 送風管	窪み底から14cm 上	長 幅 7.8 5.3	厚 重 3.1 101.61			西浦北型製鉄炉の送風管の体部から基部片。長方向に撫で整形。基部は押圧痕有。胎土は細砂粒。厚さ約2.5cm。	構成No18
第732図 PL.448	5	土製品 送風管	包含層	長 幅 5.1 3.2	厚 重 1.9 23.17			分析資料No2参照	構成No19 分 析No2
第732図 PL.448	6	土製品 送風管	包含層	長 幅 3.2 2.5	厚 重 2.5 14.75			西浦北型製鉄炉の送風管の体部片。長方向に撫で整形。厚さ約2cm。	構成No20
第732図 PL.448	7	土製品 送風管	包含層	長 幅 5.4 5.0	厚 重 2.7 47.67			西浦北型製鉄炉の送風管の先端部片。内径約3cm、厚さ約2cm。内外面ともガラス化。外面上半には錆化した砂鉄焼結塊が付着。	構成No21
第732図 PL.448	8	土製品 送風管	包含層	長 幅 4.5 5.7	厚 重 3.0 39.84			西浦北型製鉄炉の送風管の先端部片。内面はガラス化し、上半に砂鉄焼結塊が付着している。	構成No22
第732図 PL.448	9	土製品 送風管	埋土	長 幅 7.2 5.7	厚 重 3.7 76.49			西浦北型製鉄炉の送風管の先端部片か。厚さ約2cm。送風管の先端部に粘土カバーを施しており、カバー一部がガラス化している。表面に錆化した酸化土砂が付着している。	構成No40
第732図	10	銅製品 銭貨	包含層 破片	長 幅 1.8 1.7	厚 重 0.2 0.95			劣化が著しく外縁・文字・郭とも不明瞭で銭種不明。外縁は劣化破損のため凹凸する、径は小さく厚は非常に厚い。	
第732図 PL.448	11	鉄製品 釘	包含層 ほぼ完形	長 幅 5.3 2.3	厚 重 1.3 9.38			断面ほぼ正方形の角釘と見られる鉄製品。頭は角形でての字状に曲がる。先端に向かい細くなり尖る。	
第733図	12	炉壁 上段上半	包含層	長 短 4.7 5.5	厚 重 2.8 32.83			断面はやや弧状。内面は赤色に酸化。胎土はスサを大量に含む。	構成No1
第733図	13	炉壁 上段下半	窪み底から10cm 上	長 短 9.4 8.7	厚 重 3.9 185.84			分析資料No1参照	構成No2・分 析資料No1
第733図	14	炉壁 上段下半	包含層	長 短 7.1 5.7	厚 重 2.9 91.88			断面はやや弧状。内面に酸化した砂鉄焼結塊が付着。胎土はスサを大量に含む。外面はやや還元色。	構成No3
第733図	15	炉壁 中段上半 (被熱曲り)	包含層	長 短 7.6 7.8	厚 重 5.3 126.55			断面はやや弧状。右半は被熱曲り。内面は滓化。下半は垂れが生じている。外面は還元色が主体であるが、一部赤色酸化。胎土はスサを大量に含む。	構成No4
第733図	16	炉壁 中段上半	包含層	長 短 5.2 7.0	厚 重 3.0 49.37			断面は直線状。内面は滓化し、下半は垂れが生じている。直径1cmほどの小鉄塊が付着している。内面は還元が主体であるが、一部酸化。胎土はスサを大量に含む。	構成No5
第733図	17	炉壁 中段下半	窪み底から17cm 上	長 短 11.8 13.5	厚 重 4.1 204.51			断面は直線状。内面は激しく滓化し、全面に垂れが生じている。断面は約1cmは発泡。外面は還元色。胎土はスサを大量に含む。	構成No6
第733図	18	炉壁 中段下半	包含層	長 短 5.2 3.5	厚 重 1.5 25.21			断面は直線状。内面は滓化。外面は還元色。胎土はスサを大量に含む。	構成No7
第733図	19	炉壁 下段上半	窪み底から10cm 上	長 短 10.5 7.2	厚 重 3.2 106.22			断面は直線状。内面はガラス質に滓化。断面は約1cmは発泡。外面は赤色酸化し、送風孔付近か。胎土はスサを大量に含む。	構成No8
第733図	20	炉壁 下段上半	包含層	長 短 8.2 6.6	厚 重 2.7 87.84			断面は直線状。内面はガラス質に滓化。外面は還元色。内面の一部に小鉄塊が付着。胎土はスサを大量に含む。	構成No9
第733図	21	炉壁 下段上半	窪み底から7cm 上	長 短 9.9 11.0	厚 重 3.3 199.29			断面はやや弧状。内面はガラス質に滓化。外面は還元が主体であるが、一部赤色酸化し送風孔付近か。胎土はスサを大量に含む。	構成No10
第733図	22	炉壁 下段下半	包含層	長 短 11.0 7.2	厚 重 6.2 390.67			内面はガラス質に厚く滓化。外面は還元色。内面には小鉄塊が大量に付着。胎土はスサを大量に含む。	構成No11
第733図	23	炉壁 下段下半	包含層	長 短 11.1 7.4	厚 重 4.0 172.57			断面は直線状。内面はガラス質に滓化。外面は還元色。内面に錆化した粒状の小鉄塊が付着。胎土はスサを大量に含む。	構成No12
第733図	24	炉壁 下段下半	窪み底から14cm 上	長 短 6.7 9.6	厚 重 3.6 108.30			内面はガラス質に滓化。外面は還元色。内面に錆化した粒状の小鉄塊が付着。胎土はスサを多量に含む。	構成No13
第733図	25	炉底塊 炉底付近	包含層	長 短 14.9 14.9	厚 重 5.9 1051.57			滓質は密で、錆化した小鉄塊が内在する。	構成No14
第733図	26	炉底塊 炉底付近	包含層	長 短 9.8 16.3	厚 重 7.2 894.60			滓質は密で、錆化した小鉄塊が内在する。	構成No15

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第733図	27	鉄滓 炉内滓含鉄	包含層	長短	4.4 5.3	厚重	4.1 70.50	黒褐色。滓混りの銹化した金属鉄。一部砂鉄焼結塊あり。酸化土砂付着。	構成No.23
第733図	28	鉄滓 炉内滓	窪み底から1cm 上	長短	5.5 6.3	厚重	3.0 72.49	紫黒色の流動性の高い滓であるが、裏面にスサ多量に含む炉壁があり、炉内滓とした。	構成No.24
第733図	29	鉄滓 炉内滓	包含層	長短	3.4 3.7	厚重	3.1 34.21	紫黒色の流動性の高い滓であるが、裏面にスサ多量に含む炉壁があり、炉内滓とした。	構成No.25
第733図	30	鉄滓 炉内滓	包含層	長短	5.0 6.2	厚重	4.7 123.56	断面は光沢のある灰褐色で、滓質が密な滓であるが、裏面にスサを多量に含む炉壁があり、炉内滓とした。小鉄塊が一部に内在する。	構成No.26
第733図	31	鉄滓 炉内滓	包含層	長短	2.6 4.5	厚重	1.7 11.69	外面が紫黒色の流動性の高い単位流動滓。	構成No.27
第733図	32	鉄滓 マグネタイト	包含層	長短	2.1 1.7	厚重	1.7 6.40	外面が紫黒色で一部砂鉄焼結塊を含むマグネタイト系。磁着強。	構成No.28
第733図	33	鉄滓 流出孔滓	包含層	長短	5.2 5.2	厚重	4.2 92.35	上面紫黒色。下面に炉壁片を含む土砂が付着した流出孔滓。直径約3.5cm。	構成No.29
第733図	34	鉄滓 流出溝滓	窪み底から9cm 上	長短	6.8 6.4	厚重	4.0 233.41	上面紫黒色。下面に炉壁片を含む土砂が付着した流出溝滓。巾約5cm。	構成No.30
第733図	35	鉄滓 粘性の強い 流動滓	包含層	長短	11.9 15.1	厚重	9.4 1787.85	分析資料No.3参照	構成No.31・分 析資料No.3
第733図	36	鉄滓 粘性の強い 流動滓	包含層	長短	14.2 11.0	厚重	7.0 706.03	外面が紫黒色の粘性の強い流動滓。炉壁片を含む土砂が部分的に付着している。	構成No.32
第733図	37	鉄滓 粘性の強い 流動滓	窪み底から8cm 上	長短	7.3 8.8	厚重	4.5 273.40	外面が紫黒色のやや粘性の強い流動滓。下面に炉壁片を含む土砂が付着している。	構成No.33
第733図	38	鉄滓 粘性の強い 流動滓	窪み底から14cm 上	長短	6.8 6.3	厚重	4.4 200.13	外面が紫黒色のやや粘性の強い流動滓。炉壁片を含む土砂を咬みこんでいる。	構成No.34
第733図	39	鉄滓 流動性の高い 流動滓	包含層	長短	4.5 4.6	厚重	1.7 39.54	外面が紫黒色の流動性の高い流動滓。滓質密。比重が高い。上面は流れ皺が生じている。断面は光沢がある灰褐色を呈す。	構成No.35
第733図	40	鉄滓 流動性の高い 流動滓	包含層	長短	4.4 7.1	厚重	2.3 86.07	外面が紫黒色の流動性の高い流動滓。滓質密。比重が高い。上面は平滑で流れ皺が生じている。断面は光沢がある灰褐色を呈す。	構成No.36
第733図	41	鉄滓 流動性の高い 流動滓	窪み底から17cm 上	長短	5.1 4.3	厚重	2.5 72.51	外面が紫黒色の流動性の高い流動滓。滓質密。比重が高い。上面は流れ皺が生じている。断面は光沢がある灰褐色を呈す。	構成No.37
第733図	42	鉄滓 流動性の高い 流動滓	包含層	長短	8.3 8.6	厚重	4.4 236.25	分析資料No.4参照	構成No.38・分 析資料No.4

Ⅶ区1号集石

第737図 PL.448	1	石製品 石製品	埋土 完形	長幅	13.1 9.0	厚重	4.7 755.3	粗粒輝石安山岩	円礫を利用している。表裏面は全体的に滑らかである。表面の中央やや上方に、上端部径25mm、底部径約5mm、深さ約5mmの漏斗状の孔が認められる。孔の内面は細かな凹凸で構成されている。
-----------------	---	------------	----------	----	-------------	----	--------------	---------	---

Ⅶ区1号墓坑

第738図 PL.449	1	土師器 小型甕	底から15cm上 口縁部～底部 1/2	口底	22.0 12.0	高	14.6	細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい褐	口縁部は横ナデ、胴部は上位・中位がヘラナデ、下位にヘラ削り、底部は器面磨滅のため不明。内面は底部から胴部がヘラナデ。
-----------------	---	------------	---------------------------	----	--------------	---	------	---------------------	--

X区55号土坑

第738図	2	黒色土器 椀	埋土 体部下位～高台 部	底台	5.9 6.7			細砂粒/酸化焰/明 赤褐	内面は黒色処理か。高台は貼付。内外面ともすべてヘラ磨き。
-------	---	-----------	--------------------	----	------------	--	--	-----------------	------------------------------

V区遺構外

第741図 PL.449	1	土師器 杯	V区2面一括 底部片					細砂粒/良好/にぶ い褐	底部はヘラ削り。	内外面に墨 書。
第741図	2	土師器 杯	V区2面一括 底部片					細砂粒/良好/橙	底部はヘラ削り。	外面に墨書。
第741図	3	須恵器 皿	V区2面一括 1/5	口底	13.8 8.0	高	1.8	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第741図 PL.449	4	須恵器 杯	V区2面一括 1/2	口底	12.3 7.4	高	3.7	細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第741図 PL.449	5	須恵器 杯	V区2面一括 完形	口底	9.7 5.0	高	3.5	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第741図 PL.449	6	須恵器 杯	V区2面一括 完形	口底	10.8 5.0	高	3.0	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第741図 PL.449	7	須恵器 杯	V区2面一括 口縁部一部欠	口底	9.5 5.2	高	2.6	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第741図 PL.449	8	須恵器 杯	V区2面一括 口縁部一部欠	口 底	13.2 8.1	高	3.3	細砂粒/還元焰/褐 灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第741図 PL.449	9	須恵器 杯	V区2面一括 3/4	口 底	11.7 6.5	高	4.0	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	内面口縁部の 一部に煤が付 着。
第741図 PL.449	10	須恵器 杯	V区2面一括 3/4	口 底	13.0 6.4	高	4.4	細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第741図	11	須恵器 杯	V区2面一括 1/3	口 底	14.0 7.0	高	3.5	細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第741図	12	須恵器 杯	V区2面一括 1/3	口 底	13.2 6.2	高	4.1	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第741図	13	須恵器 杯	V区2面一括 1/4	口 底	13.4 7.0	高	3.5	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第741図 PL.449	14	須恵器 椀	V区2面一括 ほぼ完形	口 底	12.5 6.9	台 高	6.4 5.1	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	外面体部に墨 書2カ所。
第741図	15	須恵器 椀	V区2面一括 3/4	口 底	14.5 8.2	台 高	7.2 4.8	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい褐	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第741図 PL.449	16	須恵器 椀	V区2面一括 1/2	口 底	10.6 7.5	台 高	7.2 4.1	細砂粒/酸化焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。	
第741図 PL.449	17	灰釉陶器 皿	V区2面一括 1/4	口 底	13.8 7.0	台 高	6.8 2.9	微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法は漬け掛け。内面底部と高台端部に重ね焼き痕が残る。	大原2号窯式 期。
第741図 PL.449	18	灰釉陶器 皿	V区2面一括 胴部片					微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形。体部下位は回転ヘラ削り。施釉方法は漬け掛け。	大原2号窯式 期。
第741図 PL.449	19	灰釉陶器 椀	V区2面一括 1/3	口 底	14.8 7.5	台 高	7.2 4.5	微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法不明。	大原2号窯式 期。
第742図 PL.449	20	灰釉陶器 椀	V区2面一括 1/4	口 底	13.6 6.6	台 高	6.2 4.6	微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法は漬け掛け。	大原2号窯式 期。
第742図 PL.449	21	緑釉陶器 椀	V区2面一括 口縁部片	口	21.6			微砂粒/還元焰(軟 質)/灰白	ロクロ整形。内外面とも施釉。	京都産9C。後 半か。
第742図 PL.449	22	緑釉陶器 椀	V区2面一括 底部片	底	9.0			微砂粒/還元焰(軟 質)/灰白	ロクロ整形。高台は削り出し。内外面とも施釉。	京都洛北産。
第742図	23	須恵器 甕	V区2面一括 口縁部～胴部片	口 胴	17.0 35.0			細砂粒/還元焰/灰	口縁部はロクロ整形。胴部は外面に平行叩き痕、内面に同心円状アテ具痕が残る。	
第742図 PL.449	24	土製品 土錘	V区2面一括 完形	長 径	4.6 1.7	孔 重	0.4 10.4	微砂粒/良好/灰黄 褐	外面はナデ。	
第742図 PL.449	25	土製品 土錘	V区2面一括 2/3	径 孔	2.0 0.6			微砂粒/良好/にぶ い黄橙	外面はナデ。	
第742図 PL.449	26	土製品 土錘	V区2面一括 2/3	径 孔	1.5 0.5			微砂粒/良好/黒褐	外面はナデ。	
第742図 PL.449	27	土製品 土錘	V区2面一括 1/2	径 孔	1.6 0.4			微砂粒/良好/にぶ い赤褐	外面はナデ。	
第742図 PL.449	28	土製品 紡錘車	V区2面一括 1/2	径 厚	5.1 1.1	孔 重	1.0 14.4	微砂粒/良好/にぶ い橙	上下側面はナデ、上面中ほどはヘラ磨き。	
第742図 PL.449	29	鉄製品 釘	V区2面一括 破片	長 幅	4.2 1.4	厚 重	0.8 4.54		断面ほぼ正方形の角釘破片。頭部は薄く延ばし広げるが折り曲げられていない。先端側は劣化破損する。	
第742図 PL.449	30	鉄製品 釘	V区2面一括 ほぼ完形	長 幅	10.1 1.4	厚 重	1.9 19.12		断面ほぼ正方形の角釘。頭はやや幅広く広げられより1cm付近で緩やかに曲げる。木質等の痕跡は確認できない。	
第742図 PL.449	31	鉄製品 釘	V区2面一括 一部欠損	長 幅	5.3 1.0	厚 重	0.7 6.68		断面ほぼ正方形の角釘。頭はやや広げ斜めになるが折り曲げ等は見られない。先端側は劣化破損する。木質等の痕跡は見られない。	
第742図 PL.449	32	鉄製品 釘	V区2面一括 破片	長 幅	5.9 1.3	厚 重	1.1 12.94		断面長方形の角釘とみられる鉄製品破片。先端側は劣化破損する。	
第742図 PL.449	33	鉄製品 釘	V区2面一括 破片	長 幅	5.2 1.1	厚 重	1.0 7.04		断面長方形の角釘とみられる鉄製品破片。両端とも劣化破損する。	
第742図 PL.449	34	鉄製品 刀子	V区2面一括 破片	長 幅	11.6 1.3	厚 重	0.8 9.97		棟側に明瞭な関を持つ刀子破片。刃先は破損し刃は細く痩せ関を持たず、研ぎ減りによる形状と考えられる。茎は細長く表面には木質等の痕跡は見られない。	
第742図 PL.449	35	鉄製品 刀子	V区2面一括 破片	長 幅	7.1 1.3	厚 重	0.6 6.59		棟・刃側ともに関を持つ刀子破片。刃先側・茎尻側ともに劣化破損する。茎に並行する広葉樹板目材の痕跡が残る。	
第742図 PL.449	36	鉄製品 刀子	V区2面一括 破片	長 幅	6.1 1.1	厚 重	0.7 4.79		断面狭長方形の板状で、端に向かい細くなり端部は劣化破損する。反対側も劣化破損し関等は確認できないが刀子の茎とみられる。	
第742図 PL.449	37	鉄製品 鎌	V区2面一括 破片	長 幅	5.7 4.5	厚 重	1.4 22.23		柄装着部を斜めに浅く折り曲げた鎌。刃は柄装着部から5cm程で破損錆化する。柄装着部に木質等の痕跡は見られない。	
第742図 PL.449	38	鉄製品 不詳	V区2面一括 一部欠損	長 幅	4.3 1.3	厚 重	1.3 3.06		断面狭長方形の板状鉄製品。一端は細くなりねじれるように折れ曲がる。他端は劣化破損する。	
第742図 PL.449	39	鉄製品 不詳	V区2面一括 破片	長 幅	4.5 0.8	厚 重	0.5 2.71		断面狭長方形の板状でやや細くなり端部は丸みを持つ、茎の破片とみられるが反対側は劣化破損するため詳細は不明。	
第742図 PL.449	40	鉄製品 不詳	V区2面一括	長 幅	4.3 2.5	厚 重	0.5 5.38		薄い板状五角形の鉄製品。本体脆弱で詳細は不明。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第742図 PL.449	41	鉄製品 不詳	V区2面一括 ほぼ完形	長幅 4.3	5.4 厚 4.3	1.5 重 41.93		T字形の鉄製品。断面長方形で角釘の一種とも考えられるが端部は角形で尖らない。	
第742図 PL.449	42	鉄製品 不詳	V区2面一括 破片	長幅 1.1	4.5 厚 1.1	0.8 重 2.88		断面長方形の角棒状で端部に向かい細くなり尖らずに終わる。反対側は角型に終わる。	
第742図 PL.449	43	石製品 砥石	V区2面一括 完形	長幅 4.1	7.5 厚 4.1	3.7 重 92.6	二ツ岳軽石	6面全てに丁寧な研磨が認められ、ほぼ左右対称な矩形に整形されている。正面、裏面及び左右側面を砥面とする砥石と判断した。	
VI区遺構外									
第743図	1	土師器 杯	VI区2面一括 口縁部片	口 12.3			細砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第743図	2	須恵器 杯	VI区2面一括 底部片	底 6.2			細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第743図	3	須恵器 杯	VI区2面一括 底部片	底 5.0			細砂粒/酸化焰/に ぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第743図 PL.450	4	須恵器 椀	VI区2面一括 3/4	口底 11.1 6.4	台高 6.3 4.3		細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第743図 PL.450	5	須恵器 椀	VI区2面一括 1/2	口底 9.3 5.1	台高 5.0 3.4		細砂粒/酸化焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ナデ、高台は貼付。	口唇部に煤が付着。
第743図	6	須恵器 椀	VI区2面一括 底部片	口底 7.0 6.0			細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第743図 PL.450	7	灰釉陶器 椀	VI区2面一括 口縁～底部1/2	口底 13.2 7.0	台高 6.8 5.0		微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ナデ、高台は貼付。施釉方法は漬け掛け。	大原2号窯式期。
第743図	8	灰釉陶器 椀	VI区2面一括 底部片	口底 7.5 7.3			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後周囲を回転ナデ、高台は貼付。施釉方法は漬け掛けか。	大原2号窯式期。
第743図	9	灰釉陶器 長頸壺	VI区2面一括 底部～胴部下位	口底 8.4 8.4			細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転方向不明。底部は回転ナデ、高台は貼付、胴部は回転ヘラ削り。	
第743図 PL.450	10	須恵器 長頸壺	VI区表土一括 3/4	口底 7.4 7.1	台高 7.8 18.7		細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。胴部下位は回転ヘラ削り。胴部は風船つくり技法がみられる。	
第743図	11	土師器 甃	VI区2面一括 口縁～肩部片	口 13.4			細砂粒/良好/にぶ い橙	外面頸部に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第743図	12	土師器 甃	VI区2面一括 口縁部片	口 19.6			細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第743図 PL.450	13	土製品 土錘	VI区2面一括 完形	長径 5.0 2.0	孔重 0.3 16.7		微砂粒/良好/浅黄 橙	外面はナデ。	
第743図 PL.450	14	土製品 土錘	VI区2面一括 完形	長径 4.8 1.6	孔重 0.4 11.2		微砂粒/良好/浅黄 橙	外面はナデ。	
第743図 PL.450	15	土製品 土錘	VI区2面一括 完形	長径 4.8 1.3	孔重 0.3 9.4		微砂粒/良好/にぶ い褐	外面はナデ。	
第743図 PL.450	16	土製品 土錘	VI区2面一括 完形	長径 4.8 2.0	孔重 0.3 15.5		微砂粒/良好/にぶ い黄橙	外面はナデ。	
第743図 PL.450	17	土製品 土錘	VI区2面一括 完形	長径 4.6 1.5	孔重 0.4 8.6		微砂粒/良好/灰白	外面はナデ。	
第743図 PL.450	18	土製品 土錘	VI区2面一括 ほぼ完形	長径 4.8 1.5	孔重 0.4 9.5		微砂粒/良好/にぶ い褐	外面はナデ。	
第743図 PL.450	19	土製品 土錘	VI区2面一括 1/2	長径 4.1 1.7	孔重 0.4 6.7		微砂粒/良好/にぶ い橙	外面はナデ。	
第743図 PL.450	20	古瀬戸陶器 卸皿	VI区2面一括 底部片	口底 —	高 —		夾雑物含まない。 /灰白/	内面篋で卸目を刻む。残存部無釉。	13世紀～15世紀。
第743図 PL.450	21	在地系土器 片口鉢	VI区一括 口縁部片	口底 —	高 —		白色鈹物粒少量含 む。/灰/	体部内面丁寧な撫で。体部外面成形痕残る。口縁部回転横撫で。口縁部薄い玉縁状。	14世紀中葉～後葉。
第743図 PL.450	22	在地系土器 片口鉢	VI区2面一括 口縁部1/9、体 部一部	口底 (26.6) —	高 —		鈹物粒少量と赤色 粒少量含む。/に ぶい橙/	断面にぶい橙色、器表黒色。口縁部内湾するように尖る部分が内面上方を向く。内面下半の器表、使用により平滑。片口1箇所。器表剥離部分多い。	14世紀後半頃。
第743図 PL.450	23	鉄製品 釘	VI区2面一括 ほぼ完形	長幅 9.7 1.0	厚重 0.7 7.51			断面長方形の角釘。頭はやや幅広くなるが角形。先端に向かい徐々に細くなり尖る。	
第743図 PL.450	24	鉄製品 不詳	VI区2面一括 ほぼ完形	長幅 4.4 3.6	厚重 1.0 19.87			厚さ0.6cm程の滴形の鉄製品で中央は円形に肥厚する。放射割れが多く鑄造とみられる。	
第744図 PL.450	25	鉄製品 不詳	VI区2面一括 破片	長幅 2.7 0.9	厚重 0.3 1.96			断面狭三角形の鉄製品破片。両端とも破損し詳細形状不明。	
第744図 PL.450	26	鉄製品 不詳	VI区2面一括 ほぼ完形	長幅 5.6 1.2	厚重 0.8 6.78			断面長方形の鉄製品。端部は角形で徐々に細くなりやや尖る。	
第744図 PL.450	27	鉄製品 不詳	VI区2面一括 破片	長幅 3.5 1.1	厚重 0.5 3.22			断面長方形の狭三角形の鉄製品。全体に厚く錆に覆われ本体脆弱なため詳細は不明。	
第744図 PL.450	28	鉄製品 不詳	VI区2面一括	長幅 3.5 1.0	厚重 0.8 3.64			両端とも劣化破損する鉄製品。一端は断面狭三角形他端は長方形で刀子破片とも考えられるが、本体脆弱なため詳細は不明。	
第744図 PL.450	29	石製品 石臼(下)	VI区2面一括 1/2	長短 (22.1) (12.8)	厚重 (11.0) 3618.3		粗粒輝石安山岩	上面(内面)は滑らかであり挽目の痕跡が明瞭に残る。側面には平ノミ状の工具痕が明瞭に認められ丁寧に整形されている。中央部に軸受孔の一部が残存する。	

Ⅶ区遺構外

挿図 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第745図 PL.450	1	弥生土器 壺	Ⅶ区2面一括 頸部～胴部上半 1/6					外面頸部縦位刷毛目、肩部縦・横位篋磨き。内面頸部横位 篋磨き、肩部横・斜位刷毛目。	弥生後期
第745図 PL.450	2	弥生土器 壺	Ⅶ区2面一括 頸部破片					外面頸部縦位刷毛目、肩部LR縄文の横位施文。内面丁寧な 横位篋磨き。	弥生後期
第745図	3	土師器 杯	Ⅶ区2面一括 1/2	口 底	11.9 8.0	高	3.5	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。
第745図	4	土師器 杯	Ⅶ区一括 1/3	口 底	13.4 9.0			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。
第745図 PL.450	5	須恵器 杯蓋	Ⅶ区2面一括 3/4	口 摘	16.6 2.5	高	3.4	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。摘みは貼付、天井部中ほどに回 転糸切りが残り、その周囲は回転ヘラ削り。
第745図 PL.450	6	須恵器 杯	Ⅶ区2面一括 2/3	口 底	11.7 6.3	高	4.0	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後周縁部を回 転ナデ。
第745図	7	須恵器 杯	Ⅶ区2面一括 1/3	口 底	12.8 7.0	高	3.9	細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。
第745図	8	須恵器 杯	Ⅶ区一括 1/4	口 底	12.4 8.0	高	3.7	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。
第745図	9	須恵器 杯蓋	Ⅶ区2面一括 天井部	摘	6.0			細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。天井部は回転ヘラ削り、摘みは 貼付。
第745図	10	かわらけ 皿	Ⅶ区一括 1/3	口 底	9.3 5.0	高	2.1	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄褐	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。
第745図 PL.450	11	須恵器 杯	Ⅶ区2面一括 口縁部一部欠	口 底	10.0 4.7	高	2.1	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転左回り。底部は回転糸切り無調整。
第745図 PL.450	12	須恵器 杯	Ⅶ区2面一括 3/4	口 底	9.4 4.9	高	3.0	細砂粒/酸化焰/橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。
第745図	13	須恵器 杯	Ⅶ区2面一括 3/4	口 底	10.1 4.5	高	1.8	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。
第745図	14	須恵器 杯	Ⅶ区2面一括 3/4	口 底	11.2 5.2	高	4.1	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。
第746図	15	須恵器 杯	Ⅶ区2面一括 1/3	口 底	12.1 7.2	高	3.7	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。
第746図	16	須恵器 杯	Ⅶ区2面一括 1/4	口 底	12.7 6.2	高	4.0	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。
第746図	17	須恵器 杯	Ⅶ区一括 口縁部片	口 底	8.8 5.2			細砂粒/良好/にぶ い黄橙	ロクロ整形。
第746図	18	須恵器 杯	Ⅶ区一括 底部～体部下 半片	底	7.0			細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り、一部にヘラ ナデ。
第746図	19	須恵器 杯	Ⅶ区2面一括 底部片	底	5.7			細砂粒/酸化焰/燻 /黒褐	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。
第746図	20	須恵器 杯	Ⅶ区2面一括 底部小片					細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、底部は回転糸切り無調整。
第746図 PL.450	21	須恵器 椀	Ⅶ区2面一括 完形	口 底	14.6 7.5	台 高	8.4 6.0	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。
第746図 PL.450	22	須恵器 椀	Ⅶ区2面一括 3/4	底 台	6.9 8.3			細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ナデ、高台は貼付。
第746図	23	須恵器 椀	Ⅶ区一括 1/3	口 底	10.7 7.0	台 高	7.2 5.1	細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ナデ、高台は貼付。
第746図	24	須恵器 椀	Ⅶ区2面一括 1/3	口 底	14.8 7.2	台 高	7.0 5.5	細砂粒/酸化焰・ 燻/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。
第746図	25	須恵器 椀	Ⅶ区2面一括 口縁部片	口	11.6			細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回りか。
第746図	26	須恵器 椀	Ⅶ区2面一括 口縁部片	口	11.6			細砂粒/酸化焰/に ぶい黄褐	ロクロ整形。
第746図	27	須恵器 椀	Ⅶ区一括 口縁部片	口	14.4			細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転方向不明。
第746図	28	須恵器 椀	Ⅶ区1面一括 底部	底	8.0			細砂粒/還元焰/浅 黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ナデ、高台は貼付。
第746図 PL.450	29	灰釉陶器 皿	Ⅶ区2面一括 1/2	口 底	13.2 7.7	台 高	7.2 3.0	微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼 付。施釉方法は刷毛塗り。
第746図	30	灰釉陶器 皿	Ⅶ区2面一括 1/4	口 底	11.9 6.2	台 高	5.9 2.9	微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼 付。施釉方法は漬け掛け。
第746図	31	灰釉陶器 皿	Ⅶ区2面一括 1/6	口 底	12.1 6.5	台 高	5.5 2.7	微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼 付。施釉方法は漬け掛け。
第746図	32	灰釉陶器 皿？	Ⅶ区2面一括 底部1/2	底 台	8.1 7.8			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼 付。施釉方法は不明。
第746図	33	灰釉陶器 椀	Ⅶ区2面一括 1/4	口 底	12.9 6.6	台 高	6.7 4.5	微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形。施釉方法は漬け掛け。
第746図	34	灰釉陶器 椀	Ⅶ区2面一括 口縁部1/3	口	13.8			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形。施釉方法は漬け掛け。
第746図	35	灰釉陶器 椀	Ⅶ区1面一括 口縁部片	口	13.7			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼 付。施釉方法は刷毛塗り。

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第746図	36	灰釉陶器 椀	Ⅶ区1面一括 底部1/2	底台	7.8 7.2		微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後高台は貼付。施釉方法は漬け掛け。	大原2号窯式 期。
第747図	37	灰釉陶器 椀	Ⅶ区1面一括 1/2	底台	6.8 6.2		微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法は刷毛塗り、内面底部にも一筆。	光ヶ丘1号窯 式期。
第747図	38	灰釉陶器 椀	Ⅶ区2面一括 底部	底台	6.5 6.5		微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法は漬け掛け。	大原2号窯式 期。
第747図	39	灰釉陶器 椀	Ⅶ区2面一括 底部1/4	底台	10.4 9.9		微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法は漬け掛け。	虎溪山1号窯 式期。
第747図	40	灰釉陶器 椀	Ⅶ区2面一括 底部片	底	7.4		微砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。	光ヶ丘1号窯 式期。
第747図	41	土師器 費	Ⅶ区2面一括 口縁～胴部片	口	21.8		細砂粒・褐粒/良 好/にぶい黄褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部に木口に残るヘラナデ。	
第747図 PL.450	42	須恵器 費	Ⅶ区2面一括 胴部片				細砂粒/還元焰/浅 黄	ロクロ整形。	
第747図 PL.450	43	須恵器 羽釜	Ⅶ区2面一括 口縁～胴部中位 1/2	口 鏝	22.0 26.0		細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい橙	ロクロ整形。鏝は貼付。胴部はヘラ削り。	
第747図	44	須恵器 羽釜	Ⅶ区2面一括 口縁部片	口 鏝	20.0 23.0		細砂粒/酸化焰/浅 黄	ロクロ整形、回転方向不明。鏝は貼付、胴部にヘラ削り。内面はヘラナデ。	
第748図 PL.451	45	鉄製品 鉄鉢	Ⅶ区2面一括 一部欠損	長 幅	22.0 24.5	厚 重	8.3 691.77	鑄造の鉄鍋上端部破片。上端部はほぼ垂直に立ち上がる。正対する二箇所山形の大小の隆起を設ける。大型の隆起したに穴を設けその外側に広げるように注ぎ口を付ける。大小の隆起にツルを取り付ける構造と考えられるがツルは残存せず、小隆起側の取り付け穴は確認できない。	
第747図 PL.450	46	銅製品 丸軛	Ⅶ区1面一括 破片	長 幅	3.4 1.9	厚 重	0.6 3.90	丸軛破片。全体に錆化が進むが表側の一部には平滑面が遺存、その表面には鍍金・漆膜等は確認できない。錆の状況から銅製と見られる。裏側は凹凸が顕著で仕上げ加工等は見られない。	
第747図 PL.450	47	鉄製品 蹄鉄	Ⅶ区2面一括 破片	長 幅	7.2 4.2	厚 重	1.2 37.87	蹄鉄で長方形の穴に箇所が残る破片。	
第747図 PL.451	48	鉄製品 釘	Ⅶ区2面一括 破片	長 幅	4.1 0.7	厚 重	0.8 2.81	断面ほぼ正方形の角釘と見られる破片。頭は角形で先端側は破損錆化する。木質等の痕跡は見られない。	
第747図 PL.451	49	鉄製品 不詳	Ⅶ区2面一括 ほぼ完形	長 幅	7.1 2.2	厚 重	1.9 486.60	断面正方形に近い角棒状の鉄製品両端とも角形だが、一方は細くなり刃とも考えられるが厚く硬い錆に覆われ詳細は不明。	
第747図 PL.451	50	鉄製品 不詳	Ⅶ区2面一括 ほぼ完形	長 幅	7.7 0.9	厚 重	0.8 5.58	断面ほぼ正方形の角棒状の鉄製品。両端に向かい細くなりやや尖る。	
第747図 PL.451	51	鉄製品 不詳	Ⅶ区2面一括 ほぼ完形	長 幅	4.9 1.2	厚 重	1.4 18.23	断面長方形の厚い短冊形の鉄製品。硬い錆に厚く覆われ詳細は不明。	
第747図 PL.451	52	鉄製品 不詳	Ⅶ区2面一括 ほぼ完形	長 幅	7.2 1.1	厚 重	1.7 24.44	断面長方形の厚い短冊状の鉄製品。全体に厚く錆に覆われ詳細は不明。	
第747図 PL.451	53	土製品 羽口	Ⅶ区2面一括	長 幅	11.5 8.0	厚 重	3.7 226.51	先端部から基部片。先端部欠損。厚さ約2.5cm。胎土は粗砂粒。	構成No80
第747図 PL.451	54	土製品 羽口	Ⅶ区2面一括	長 幅	12.0 7.6	厚 重	4.0 284.32	先端部から基部片。厚さ約2.5cm。長方向に撫で整形。胎土は粗砂粒。先端部は平坦に溶損。	構成No81
第747図 PL.451	55	剥片石器 石鏃	Ⅶ区2面一括 完形	長 幅	15.0 12.3	厚 重	2.2 432.8	細粒輝石安山岩 裏面に大きく自然面を残す。円礫を利用している。表面には素材剥片段階と考えられる大きな剥離面が残り、大形剥片素材と想定される。刃部付近は表裏面ともに摩擦が著しく使用痕と考えられる。	

Ⅶ区遺構外

第749図 PL.451	1	須恵器 椀	Ⅶ区2面一括 3/4	口 底	12.7 7.0	台 高	7.5 5.1	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第749図 PL.451	2	緑釉陶器 椀	Ⅶ区2面一括 1/4	口 底	13.8 5.7			微砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回りか。高台は貼付、体部下位は回転ヘラ削り。内外面とも施釉。	東海産9C。後 半か。
第749図 PL.451	3	緑釉陶器 皿	Ⅶ区2面一括 口縁部片	口	15.2			微砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形。内外面施釉。	東海産。
第749図	4	須恵器 羽釜	Ⅶ区2面一括 口縁部～胴部片	口 鏝	19.8 23.8			細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 橙	ロクロ整形。鏝は貼付、胴部はヘラ削り。	
第749図 PL.451	5	土製品 土錘	Ⅶ区2面一括	径 孔	1.2 0.4			微砂粒/良好/黒褐	外面ナデ。	
第749図 PL.541	6	肥前陶器 青緑釉皿	Ⅶ区一括 口縁部片	口 底	— —	高 —	— —	夾雑物ほとんど含 まない。/灰/	焼成不良。内面の青緑釉と外面の透明釉違いが少なく、貫入する。	17世紀後葉～ 18世紀前葉。
第749図 PL.541	7	益子陶器か 土瓶蓋	Ⅶ区一括 完形	口 天井 径	8.6 11.2	高 —	3.5	夾雑物ほとんど含 まない。/にぶい 褐/	天井部外面鉄絵具で細線を描き、透明釉施釉後に緑釉で円文。透明釉に貫入する。全体に油付着。油は機械油か。	近現代。
第750図 PL.451	8	鉄製品 釘	Ⅶ区2面一括 破片	長 幅	4.3 1.4	厚 重	1.2 4.70		断面ほぼ正方形の角釘破片。頭は薄く広く延ばし折り曲げる。先端側は劣化破損する。	
第750図 PL.451	9	鉄製品 釘	Ⅶ区2面一括 破片	長 幅	5.0 1.6	厚 重	1.1 8.63		断面ほぼ正方形の角釘破片。頭は薄く広く延ばし折り曲げる。先端側は劣化破損する。	
第750図 PL.451	10	鉄製品 釘	Ⅶ区2面一括 破片	長 幅	5.6 2.0	厚 重	1.5 11.32		断面ほぼ正方形の角釘と見られる全体に曲がり両端は劣化破損する。錆表面には釘本体と直行する方向に板目材の痕跡が見られるが錆化が著しく詳細は不明。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第750図 PL.451	11	鉄製品 釘	Ⅷ区2面一括 ほぼ完形	長 幅	4.9 1.7	厚 重	1.2 8.10		断面ほぼ正方形の角釘。頭は薄く延ばし折り曲げたと見られるが劣化が著しく詳細は不明。
第750図 PL.451	12	鉄製品 釘	Ⅷ区2面一括 破片	長 幅	4.9 1.7	厚 重	1.3 7.21		断面ほぼ正方形の角釘。頭は薄く延ばし折り曲げたと見られるが劣化が著しく詳細は不明。先端側は劣化破損する。
第750図 PL.451	13	鉄製品 鎌	Ⅷ区2面一括 一部欠損	長 幅	8.6 1.9	厚 重	1.1 11.40		先端狭三角形の鉄鎌。断面は薄い菱形で腸割りは深い。茎との境でやや膨らみ、境を一周する段差を持つ。茎は1.7cm程で劣化破損する。

IX区遺構外

第751図	1	黒色土器 椀	IX区2面一括 口縁部～底部 1/2	口 底	13.8 7.6			細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	内面黒色処理が二次被熱によりほとんど消失。ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ナデ、高台は貼付。内面はヘラ磨き、器面磨滅のため単位不明。	
第751図	2	須恵器 杯	IX区2面一括 口縁部～底部	口 底	9.0 5.6	高	2.2	細砂粒/酸化焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第751図 PL.451	3	須恵器 椀	IX区2面一括 口縁部～底部 1/2・高台欠	口 底	11.5 6.2	台 高	5.0 4.8	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第751図	4	須恵器 椀	IX区2面一括 底部～高台部 1/2	底	7.6			細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第751図	5	須恵器 椀	IX区2面一括 底部～高台部片	底 台	6.7 7.0			細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転右回りか。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第751図	6	灰釉陶器 椀	IX区2面一括 底部1/2	底 台	8.6 8.6			微砂粒/還元焰/褐 灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ナデ、高台は貼付。施釉方法不明。	光ヶ丘1号窯式期。
第751図	7	灰釉陶器 椀	IX区2面一括 口縁部片	口	14.9			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形。内面口唇部に凹線が巡る。施釉方法は漬け掛け。	虎溪山1号窯式期。
第751図	8	灰釉陶器 椀	IX区2面一括 底部～高台部 1/4	底 台	7.7 7.0			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ナデ、高台は貼付施釉方法不明。	大原2号窯式期。
第751図	9	灰釉陶器 椀	IX区1面一括 底部片	底 台	6.5 6.6			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。施釉方法は漬け掛け。	大原2号窯式期。
第751図	10	須恵器 長頸壺	IX区2面一括 口縁部片	口	9.7			細砂粒/還元焰/褐 灰	ロクロ整形。	
第751図	11	土師器 費	IX区2面一括 口縁部片	口	12.0			細砂粒/良好/赤褐	口縁部は横ナデ。	
第751図 PL.451	12	鉄製品 釘	IX区2面一括 破片	長 幅	4.9 1.4	厚 重	1.3 14.24		断面ほぼ正方形の角釘と見られる鉄製品破片。両端とも角形で破損の可能性はあるが、全体に厚い錆に覆われ詳細は不明。頭側は劣化破損、先端側は急に細くなり尖る。	
第751図 PL.451	13	鉄製品 鎌	IX区2面一括 破片	長 幅	2.9 1.7	厚 重	0.5 4.75		鉄鎌破片。先端および腸割り両端を劣化破損する。断面は薄い菱形で茎側は劣化破損する。	
第751図 PL.451	14	鉄製品 紡錘車	IX区2面一括 破片	長 幅	2.3 4.0	厚 重	4.1 11.76		ほぼ円形の紡輪にやや斜めに紡軸破片が接続する。紡軸は両端とも劣化破損する。	

X区遺構外

第752図	1	土師器 杯	X区2面一括 1/4	口 底	11.6 7.0			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第752図	2	灰釉陶器 椀	X区2面一括 体部～底部片	底 台	6.9 6.6			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法不明。	大原2号窯式期。
第752図 PL.452	3	緑釉陶器 皿	X区2面一括 口縁部片					微砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形。内外面とも施釉。	東海産10C.か。
第752図	4	土師器 台付費	X区2面一括 脚部1/2	脚	7.8			細砂粒/良好/にぶ い褐	脚部は貼付か。脚部内外面は横ナデ。	
第752図	5	須恵器 羽釜	X区2面一括 口縁部～胴部上 位片	口 鏝	19.8 20.2			細砂粒/酸化焰/明 褐	ロクロ整形、鏝は貼付。	
第752図	6	須恵器 羽釜	X区2面一括 口縁部～胴部上 位片	口 鏝	23.0 26.4			細砂粒/酸化焰/橙	ロクロ整形、鏝は貼付。	
第752図 PL.452	7	鉄製品 釘	X区1面一括 ほぼ完形	長 幅	4.7 1.2	厚 重	0.9 7.71		断面四角形の角釘。頭はわずかに広がりながら短く直角に曲がる。先端はやや細くなるが尖らない。	
第752図 PL.452	8	鉄製品 釘	X区1面一括 一部欠損	長 幅	4.4 1.2	厚 重	0.9 7.73		断面四角形の角釘。頭はやや薄く延ばし直角に曲げる。先端は横に曲がり端部は劣化破損する。	
第752図 PL.452	9	鉄製品 釘	X区1面一括 破片	長 幅	6.2 0.8	厚 重	0.7 4.11		断面四角形の角釘。頭はくの字に曲げる。先端はやや細くなるが尖らない。	
第752図 PL.452	10	鉄製品 不詳	X区2面一括 破片	長 幅	4.3 1.6	厚 重	0.9 8.46		厚さ0.6cm程の鉄製品。全体に放射割れが入り鑄造鉄製品の破片と考えられる。	
第752図 PL.452	11	鉄製品 不詳	X区2面一括 一部欠損	長 幅	4.3 1.8	厚 重	0.7 4.07		先の尖った柳葉形の鉄製品で反対側は腸割り状に尖るが、左右形状から鎌とも断定できない。	

XI区遺構外

第753図 PL.452	1	須恵器 杯	XI区2面一括 3/4	口 底	11.6 5.0	高	3.9	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第753図 PL.452	2	須恵器 杯	XI区一括 1/4	口 底	10.6 5.0	高	2.4	細砂粒/酸化焰/橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第753図 PL.452	3	灰釉陶器 椀	XI区一括 1/4	口 底	18.5 9.3	台 高	9.2 7.7	微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。内面口唇部に凹線が巡る。施釉方法は漬け掛け。	虎溪山1号窯式期。

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第753図 PL.452	4	土製品 土錘	XII区2面一括 完形	長径 0.8	孔径 0.4	厚重 1.6	微砂粒/良好/明赤 褐	外面はナデ。	
第753図 PL.452	5	土製品 土錘	XII区2面一括 2/3	長径 2.8	孔径 0.8	厚重 26.8	微砂粒/良好/にぶ い橙	外面はナデ。	
第753図 PL.452	6	京・信楽系 碗	XII区2面一括 底部1/8	口径 (5.6)	高さ —	—	夾雑物含まない。 /灰白～浅黄橙/	内面から高台脇灰釉。細かい貫入入る。	江戸時代。
第753図 PL.452	7	鉄製品 釘	XII区2面一括 破片	長幅 1.3	厚重 1.4	15.75	—	断面ほぼ正方形の角釘と見られる鉄製品。頭側は劣化破損、先端近くで急に細くなりくの字に曲がる。	
第753図 PL.452	8	鉄製品 不詳	XII区2面一括 破片	長幅 1.9	厚重 0.7	5.17	—	薄い板状の鉄製品で平面形状は不定形。表面は厚く錆に覆われ本体は空洞化し脆弱なため詳細は不明。	

2面遺構外

第754図 PL.452	1	鉄製品 鉄釜	調査区2面一括 破片	長幅 3.5	厚重 1.5	132.35	—	鑄造鉄製品小破片で大きく弧を描く釜?口縁部分で直径は1m程度と推定される。	
-----------------	---	-----------	---------------	-----------	-----------	--------	---	---------------------------------------	--

第6章第2節

第778図	1	緑釉陶器 碗	V区13・14号住居 体部小片				微砂粒/還元焰・ 硬質/灰	ロクロ整形、施釉は内外面、釉調は濃緑色を呈す。	東海産。
第778図	2	緑釉陶器 皿	V区59号住居 体部小片				微砂粒/還元焰/灰 黄褐	ロクロ整形、施釉は内外面、釉調は濃緑色を呈す。	東海産。
第778図	3	緑釉陶器 碗	VII区1号住居 体部小片				微砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、外面体部に回転ヘラ削り痕がみられる。施釉は内外面、釉調はやや淡い緑色を呈す。	東海産。
第778図	4	緑釉陶器 碗	VII区5号住居 体部小片				微砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、内外面の体部にヘラ磨き痕がみられる。釉調は濃緑色を呈す。	東海産か。
第778図	5	緑釉陶器 不明	VII区7号住居 底部小片				微砂粒/還元焰・ 軟質/灰白	ロクロ整形、外面は施釉を施していない。釉調はやや淡い緑色を呈す。	不明。
第778図	6	緑釉陶器 碗	VII区19号住居 底部～体部下位 片	底台 7.6 8.0			微砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転方向不明。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉は内外面、釉調は透明感のある緑色を呈す。	東海10C.前 半。
第778図	7	緑釉陶器 碗	VII区19号住居 体部小片				微砂粒/還元焰・ 硬質/灰	ロクロ整形、内外面ともヘラ磨きか。施釉は内外面、釉調はやや黄色味を帯びた緑色を呈す。	東海産。
第778図	8	緑釉陶器 碗	VII区19号住居 体部小片				微砂粒/還元焰・ 硬質/灰	ロクロ整形。施釉は内外面、釉調は透明感のある緑色を呈す。	東海産。
第778図	9	緑釉陶器 碗	VII区19号住居 体部小片				微砂粒/酸化焰き み/にぶい橙	ロクロ整形。施釉は内外面、釉調はやや淡い緑色を呈す。	東海産か。
第778図	10	緑釉陶器 碗	VII区19号住居 体部小片				微砂粒/還元焰・ 硬質/灰	ロクロ整形、内外面ともヘラ磨きか。施釉は内外面、釉調は濃緑色を呈す。	東海産。
第778図	11	緑釉陶器 碗	VII区20号住居 体部小片				微砂粒/還元焰・ 硬質/灰	ロクロ整形、内外面ともヘラ磨きか。施釉は内外面、釉調はやや黄色味を帯びた緑色を呈す。	東海産。
第778図	12	緑釉陶器 碗	VII区23号住居 底部～体部下位 片	底台 7.8 8.0			微砂粒/還元焰・ 硬質/灰	ロクロ整形、回転右回りか。高台は貼付。施釉は内外面、釉調は濃淡にややムラがみられる濃緑色を呈す。	東海産10C.後 半。
第778図	13	緑釉陶器 皿	VII区23号住居 底部～体部下位 片	底台 7.8 8.0			微砂粒/酸化焰き み/黄灰	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。内外面の底部にトチン痕が残る。施釉は内外面、釉調は透明感のある緑色を呈す。	東海産10C. 代。
第778図	14	緑釉陶器 碗	VII区32号住居 体部小片				微砂粒/還元焰・ 硬質/灰	ロクロ整形、内外面ともヘラ磨きか。施釉は内外面、釉調はやや黄色味を帯びた緑色を呈す。	東海産。
第778図	15	緑釉陶器 碗	VII区34号住居 口縁部～体部片	口径 15.8			微砂粒/還元焰・ 硬質/灰	ロクロ整形、内外面ともヘラ磨きか。口唇端部は外反。施釉は内外面、釉調は濃緑色を呈す。	東海産9C.後 半か。
第778図	16	緑釉陶器 碗	VII区36号住居 体部片				微砂粒/還元焰・ 軟質/灰白	ロクロ整形、器面はヘラ磨きか。施釉は内外面、釉調は淡い黄緑色を呈す。	畿内産か。V 区遺構外出土 の742図21と 22に類似。
第778図	17	緑釉陶器 碗	VII区36号住居 体部片				微砂粒/還元焰・ 硬質/灰	ロクロ整形。施釉は内外面、釉調は透明感のない緑色を呈す。	東海産。割れ 口にスガが付 着。
第778図	18	緑釉陶器素 地 碗	VII区37号住居 口縁部片				微砂粒/還元焰・ 硬質/灰	ロクロ整形。口唇部はわずかに外反。施釉は内外面、釉調は濃緑色を呈す。	東海産10C.前 半
第778図	19	緑釉陶器素 地 皿	VII区40号住居 口縁部～体部片	口径 14.8			微砂粒/酸化焰き み/にぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回りか、口縁部は外反。施釉は内外面、釉調は口縁部がやや濃く、体部はやや淡い緑色で緑釉緑彩を呈す。	東海産9C.後 半か。
第778図	20	緑釉陶器 輪花碗	VII区52号住居 口縁部片				微砂粒/還元焰・ 硬質/黄灰	ロクロ整形。施釉は内外面、釉調はやや淡い緑色を呈す。	東海産。
第778図	21	緑釉陶器 碗か	VII区68号住居 底部片	底台 9.0 8.6			微砂粒/還元焰・ 硬質/灰	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。内外面の底部にトチン痕が残る。施釉は内外面、釉調はムラがある薄い緑色を呈す。	東海産10C.後 半。
第778図	22	緑釉陶器 碗	VII区71号住居 体部小片				微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形。施釉は内外面、釉調はやや淡い緑色を呈す。	東海産か。
第778図	23	緑釉陶器 碗	VII区74号住居 口縁部小片				微砂粒/酸化焰き み/にぶい橙	ロクロ整形、口縁部はわずかに外反。施釉は内外面、釉調は透明感のない緑色を呈す。	東海産10C.前 半。
第778図	24	緑釉陶器 碗	VII区82号住居 体部片				微砂粒/酸化焰き み/にぶい黄橙	ロクロ整形。施釉は内外面、釉調は透明感のない緑色を呈す。	東海産。
第778図	25	緑釉陶器 碗	VII区85号住居 口縁部小片				微砂粒/酸化焰き み/にぶい黄橙	ロクロ整形。施釉は内外面、釉調はやや淡い緑色を呈す。	東海産か。

挿図 PL.No.	No.	種 器 種	出土位置 残 存 率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第778図	26	緑釉陶器 椀	Ⅶ区96号住居 口縁部小片			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、口唇部はわずかに外反。施釉は内外面、釉調はやや濃い緑色を呈す、口唇部の釉葉は剥落。	東海産か。
第778図	27	緑釉陶器 椀	Ⅶ区106号住居 体部小片			微砂粒/還元焰/褐 灰	ロクロ整形。施釉は内外面、釉調は透明感のない緑色を呈す。	東海産。
第778図	28	緑釉陶器 椀	X区9号住居 底部片	底	8.0	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰・軟質/灰 白	ロクロ整形、底部は削り出しによるベタ高台、底面はヘラナデ。施釉は内外面、釉調は褐色を帯びた色調。	畿内産9C.前 半か。X区6 溝14に類似。
第778図	29	緑釉陶器 椀	X区27号住居 体部下位小片			微砂粒/還元焰/褐 灰	ロクロ整形。施釉は内外面、釉調はやや淡い緑色を呈す。	東海産。
第778図	30	緑釉陶器 椀	Ⅱ区8号住居 体部小片			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形。施釉は内外面、釉調はやや淡い緑色を呈す。	東海産。
第778図	31	緑釉陶器 椀	Ⅱ区14号住居 口縁部下位～体 部片			微砂粒/還元焰/褐 灰	ロクロ整形、口縁部は外反。施釉は内外面、釉調は透明感のない緑色を呈す。	東海産10C.前 半。
第778図	32	緑釉陶器 椀	V区1号住居 体部小片			微砂粒/還元焰/明 褐灰	ロクロ整形。施釉は内外面、釉調は透明感のない緑色を呈す。	東海産。
第778図	33	緑釉陶器 皿	Ⅶ区67号土坑 底部片			微砂粒/還元焰/灰 黄褐	ロクロ整形、内面にトチン痕が残る。施釉は内外面、釉調は濃緑色を呈す。	東海産か。
第778図	34	緑釉陶器 椀	Ⅸ区43号土坑 体部片			微砂粒/還元焰・ 硬質/灰	ロクロ整形。施釉は内外面、釉調は透明感のない緑色を呈す。	東海産。
第778図	35	緑釉陶器 椀	Ⅱ区52号土坑 口縁部片			微砂粒/還元焰・ 硬質/灰	ロクロ整形、口縁部はわずかに外反。施釉は内外面、釉調は透明感のない緑色を呈す。	東海産10C.前 半。
第778図	36	緑釉陶器 椀	Ⅶ区3号ピット 口縁部片			微砂粒/還元焰・ 軟質/灰白	ロクロ整形、内面はヘラ磨きか。施釉は内外面、釉調は淡い黄緑色を呈す。	畿内産か。V 区遺構外出土 の742図21と 22に類似。
第778図	37	緑釉陶器 椀	Ⅶ区1号溝 口縁部片			微砂粒/還元焰・ 硬質/灰白	ロクロ整形、口縁部は直線的に開く。施釉は内外面、釉調はやや淡い緑色を呈す。	東海産。
第778図	38	緑釉陶器 椀	Ⅶ区1号溝 体部片			微砂粒/還元焰・ 硬質/灰白	ロクロ整形。施釉は内外面、釉調は透明感のない緑色を呈す。	東海産か。
第778図	39	緑釉陶器 椀	X区6号溝 口縁部片	口	16.6	微砂粒/還元焰・ 軟質/灰白	ロクロ整形、口縁部はわずかに外反。施釉は内外面、釉調は褐色を帯びた色調。釉葉の剥落がみられる。	畿内産9C.前 半か。X区6 溝14に類似。
第778図	40	緑釉陶器 椀	X区6号溝 口縁部小片			微砂粒/還元焰・ 軟質/灰白	ロクロ整形、口縁部はわずかに外反。施釉は内外面、釉調は褐色を帯びた色調。釉葉の剥落がみられる。	畿内産9C.前 半か。X区6 溝14に類似。
第778図	41	緑釉陶器 椀	X区6号溝 口縁部片			微砂粒/還元焰・ 軟質/灰白	ロクロ整形、口縁部はわずかに外反。施釉は内外面、釉調は褐色を帯びた色調。釉葉の剥落がみられる。	畿内産9C.前 半か。X区6 溝14に類似。
第778図	42	緑釉陶器 椀	X区6号溝 口縁部片			微砂粒/還元焰・ 軟質/灰白	ロクロ整形、口縁部はわずかに外反。施釉は内外面、釉調は褐色を帯びた色調。釉葉の剥落がみられる。	畿内産9C.前 半か。X区6 溝14に類似。
第778図	43	緑釉陶器 椀	X区6号溝 体部下位小片			微砂粒/還元焰・ 軟質/灰白	ロクロ整形。施釉は内外面、釉調は褐色を帯びた色調。釉葉の剥落がみられる。	畿内産9C.前 半か。X区6 溝14に類似。
第778図	44	緑釉陶器 椀	X区6号溝 体部片			微砂粒/還元焰・ 軟質/灰白	ロクロ整形。施釉は内外面、釉調は褐色を帯びた色調。釉葉の剥落がみられる。	畿内産9C.前 半か。X区6 溝14に類似。
第778図	45	緑釉陶器 椀	X区6号溝 体部小片			微砂粒/還元焰・ 軟質/灰白	ロクロ整形。施釉は内外面、釉調は褐色を帯びた色調。釉葉の剥落がみられる。	畿内産9C.前 半か。X区6 溝14に類似。
第778図	46	緑釉陶器 椀	X区6号溝 体部下位小片			微砂粒/還元焰・ 軟質/灰白	ロクロ整形。施釉は内外面、釉調は褐色を帯びた色調。釉葉の剥落がみられる。	畿内産9C.前 半か。X区6 溝14に類似。
第778図	47	緑釉陶器 椀	X区6号溝 体部小片			微砂粒/還元焰・ 軟質/灰白	ロクロ整形。施釉は内外面、釉調は褐色を帯びた色調。釉葉の剥落がみられる。	畿内産9C.前 半か。X区6 溝14に類似。
第778図	48	緑釉陶器 椀	X区6号溝 体部小片			微砂粒/還元焰・ 軟質/灰白	ロクロ整形。施釉は内外面、釉調は褐色を帯びた色調。釉葉の剥落がみられる。	畿内産9C.前 半か。X区6 溝14に類似。
第778図	49	緑釉陶器 椀	X区8号溝 体部小片			微砂粒/還元焰・ 硬質/灰	ロクロ整形。施釉は内外面、釉調は濃緑色を呈す。	東海産。
第778図	50	緑釉陶器 椀	V区遺構外 底部片	底	7.0	微砂粒/還元焰・ 硬質/灰褐	ロクロ整形、回転右回り。底部はヘラナデ、高台は貼付が剥落、内面はヘラ磨き。施釉は内外面、釉調は透明感がなくやや黄色味を帯びた緑色を呈す。	東海産。
第779図	51	緑釉陶器 椀	Ⅶ区遺構外 底部片	底台	9.6 9.0	微砂粒/酸化焰き み/灰白	ロクロ整形、高台は貼付。施釉は内外面、釉調は全体的に薄い、一部に釉垂れで濃緑色の部分がみられる。	東海産10C.後 半。
第779図	52	緑釉陶器 椀	Ⅶ区遺構外 底部～体部下位 片	底台	8.4 8.2	微砂粒/還元焰・ 硬質/明灰褐	ロクロ整形、底部はヘラナデ、高台は貼付。施釉は内外面、釉調は濃緑色を呈す。	東海産10C.前 半。
第779図	53	緑釉陶器 椀	Ⅶ区遺構外 口縁部片			微砂粒/還元焰・ 硬質/灰	ロクロ整形、口唇部は外反。施釉は内外面、釉調はやや濃い緑色を呈す。	東海産10C.前 半。
第779図	54	緑釉陶器 椀	Ⅶ区遺構外 体部小片			微砂粒/還元焰・ 硬質/灰	ロクロ整形。施釉は内外面、釉調はやや濃い緑色を呈す。	東海産。

挿図 PL.No.	No.	種 器 種	出土位置 残 存 率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考	
第779図	55	緑釉陶器 椀	VII区遺構外 口縁部～体部片	□	15.7		微砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、口縁部は外反。施釉は内外面、釉調は濃緑色 を呈す。	東海産10C.前 半。
第779図	56	緑釉陶器 皿	VII区遺構外 口縁部片	□	12.7		微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、口縁部は外反。施釉は内外面、釉調はやや淡 い緑色を呈す。	東海産10C.前 半。
第779図	57	緑釉陶器 椀	VII区遺構外 体部小片				微砂粒/酸化焰き み/にぶい黄橙	ロクロ整形。施釉は内外面、釉調はやや淡い緑色を呈す。	東海産。
第779図	58	緑釉陶器 椀	VII区遺構外 口縁部片				微砂粒/還元焰・ 硬質/灰	ロクロ整形、口唇端部は外反。施釉は内外面、釉調は濃緑 色を呈す。	東海産9C.後 半。
第779図	59	緑釉陶器 椀	XII区遺構外 体部小片				微砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形。施釉は内外面、釉調はやや淡い緑色を呈す。	東海産。
第779図	60	緑釉陶器 椀	VII区遺構外 口縁部片				微砂粒/還元焰/褐 灰	ロクロ整形、口縁部は外反。施釉は内外面、釉調は透明感 のない緑色を呈す。	東海産10C.前 半。
第779図	61	緑釉陶器 椀	VII区遺構外 体部小片				微砂粒/還元焰/灰 器褐	ロクロ整形。施釉は内外面、釉調は濃緑色を呈す。	東海産。
第779図	62	緑釉陶器 椀か皿	VII区2号溝 底部小片				微砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、底部はヘラナデ、高台は貼付されていたもの が剥落。残存部分では施釉が内面のみ、釉調は濃緑色を呈 す。	東海産9C.後 半。